

9.4

IBM MQ リファレンス

IBM

注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、[1429 ページの『特記事項』](#)に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM® MQ バージョン 9 リリース 4、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様が IBM に情報を送信する場合、お客様は IBM に対し、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で情報を使用または配布する非独占的な権利を付与します。

© Copyright International Business Machines Corporation 2007 年, 2024.

目次

参照	5
構成リファレンス PDF.....	5
管理リファレンス PDF.....	5
アプリケーションの開発のリファレンス PDF.....	5
MQ Telemetry リファレンス.....	5
IBM MQ Telemetry Transport のフォーマットおよびプロトコル.....	5
MQXR プロパティ.....	5
AuthCallback MQXR クラス.....	6
セキュリティに関する参照情報.....	7
API 出口.....	8
The API-crossing exit.....	9
AIX, Linux, and Windows システム上での証明書の妥当性検査およびトラスト・ポリシーの設計... 10	
Managed File Transfer セキュリティー・リファレンス.....	23
暗号ハードウェア.....	42
SSLPEER 値の IBM MQ 規則.....	43
GSKit: FIPS 140-2 に準拠するデジタル証明書署名アルゴリズム.....	44
AMS メッセージで使用される GSKit 戻りコード.....	45
モニター・リファレンス.....	49
構造データ型.....	49
イベント・データのオブジェクト属性.....	74
イベント・メッセージ参照.....	120
メッセージおよび理由コード.....	234
AMQ メッセージ (Multiplatforms).....	235
IBM MQ Console メッセージ.....	236
IBM MQ Internet Pass-Thru メッセージ.....	237
JSON 形式診断メッセージ.....	258
MFT メッセージ.....	259
REST API メッセージ.....	260
Telemetry メッセージ.....	261
IBM MQ for z/OS messages, completion, and reason codes.....	264
API 完了コードと理由コード.....	1123
PCF 理由コード.....	1335
トークン認証エラー・コード.....	1407
Transport Layer Security (TLS) の戻りコード.....	1414
WCF カスタム・チャンネル例外.....	1419
特記事項	1429
プログラミング・インターフェース情報.....	1430
商標.....	1430

IBM MQ リファレンス

このセクションにある参照情報を使用して、ビジネスの必要に対処するタスクを実行します。

構成リファレンス PDF

2021 年 5 月以降、構成参照情報は別の PDF に移動しました。

[mq93.refconfig.pdf](#) は、[mq93.reference.pdf](#) と同じディレクトリーにあります。

管理リファレンス PDF

2021 年 5 月以降、管理参照情報は別の PDF に移動しました。

[mq93.refadmin.pdf](#) は、[mq93.reference.pdf](#) と同じディレクトリーにあります。

アプリケーションの開発のリファレンス PDF

2021 年 5 月以降、開発中のアプリケーション参照情報は別の PDF に移動しました。

[mq93.refdev.pdf](#) は、[mq93.reference.pdf](#) と同じディレクトリーにあります。

Windows

Linux

AIX

MQ Telemetry リファレンス

MQTT の形式とプロトコル、MQXR プロパティー、および AuthCallback MQXR クラスに関する情報。

Windows

Linux

AIX

IBM MQ Telemetry Transport のフォーマットおよびプロトコル

IBM MQ Telemetry Transport (MQTT) は、多数のリモート・センサーと制御デバイスを接続するための、TCP/IP 上で動作する軽量のパブリッシュ/サブスクライブ・プロトコルです。MQTT は、帯域幅が低く、信頼性のない通信を許容しなければならないフットプリントの小さなデバイス上で、特殊なアプリケーションによって使用されます。ビジネス・パートナーの MQTT クライアント・アプリを使用するか、独自のクライアント・アプリを作成して公開済みプロトコルを使用することができます。Eclipse Paho プロジェクトから、サンプル・クライアント・アプリおよびサポート・ライブラリーを入手できます。

IBM MQ の MQ Telemetry は、MQTT protocol を使用するクライアント・アプリケーションをサポートします。現在、このプロトコルには次の 2 つの仕様が 있습니다。

- MQTT 3.1.1 Oasis 規格
- [mqtt.org](#) からの MQTT.org プロトコル仕様

Oasis の方が新しい規格です。この機能は、[mqtt.org](#) の仕様とほとんど同じです。MQTT 3.1.1 Oasis 規格は IBM MQ 8.0.0 Fix Pack 3 およびそれ以降のバージョンでサポートされています。

MQTT クライアントが Eclipse Paho プロジェクト、または (入手は不可) IBM Messaging Telemetry Clients SupportPac 以外のソースからのものである場合は、クライアントがサポートしている MQTT protocol のバージョンを確認してください。異なるレベルの MQTT protocol がクライアントでサポートされ、MQ Telemetry サービスでクライアントが正しく機能しない場合には、シン変換レイヤーが必要です。クライアントのソースを調べて、使用予定のクライアントに対する更新として変換レイヤーを入手可能かどうか確認してください。

Windows

Linux

AIX

MQXR プロパティー

MQXR プロパティー設定は、プラットフォーム固有のプロパティー・ファイル ([mqxr_win.properties](#) または [mqxr_unix.properties](#)) に保管されます。これらのプロパティーは通常、MQSC 管理コマンドまたは IBM MQ Explorer を使用して構成します。

キュー・マネージャーを初めて開始するときに、ご使用のプラットフォーム用の MQXR プロパティ・ファイルのテンプレート・バージョンが `mqinstall/mqxr/config` ディレクトリーから `mqinstall/qmgrs/qmgr_name/mqxr/config` ディレクトリーにコピーされます。

通常、MQXR プロパティ・ファイルを直接編集する必要はありません。1つの例外を除き、プロパティはすべて MQSC 管理コマンドまたは IBM MQ Explorer で構成できます。ファイルを直接編集する場合、変更を行う前にキュー・マネージャーを停止してください。

ファイルを直接編集することによってのみ設定できるプロパティは、**webcontentpath** です。テレメトリー・クライアント・アプリケーションが Web アプリケーションである場合は、Web アプリケーション実行可能 JavaScript をブラウザーに提供する必要もあります。この要件については、[JavaScript\(tm\) および Web アプリケーション用の MQTT メッセージング・クライアント](#)で説明されています。

webcontentpath プロパティを使用して、Web アプリケーション実行可能ファイルが提供されるディレクトリーを指定します。

- デフォルトでは、**webcontentpath** は MQXR プロパティ・ファイルに存在しません。**webcontentpath** が存在しない場合、MQ テレメトリー・サーバーは、デフォルト・ロケーション `mqinstall/qmgrs/qmgr_name/mqxr/WebContent/your_client_app` から Web アプリケーション実行可能ファイルを提供します。
- **webcontentpath** にパスが指定されている場合、MQ テレメトリー・サーバーは、その場所から Web アプリケーション実行可能ファイルを提供します。
- **webcontentpath** が存在し、ブランクの場合、MQ テレメトリー・サーバーは Web アプリケーション実行可能ファイルを提供しません。

関連概念

[遠隔測定 \(MQXR\) サービス](#)

関連資料

6 ページの『AuthCallback MQXR クラス』

AuthCallback は、パッケージ `com.ibm.mq.mqxr` 内の唯一のクラスです。これは、テレメトリー・サーバー管理者が MQXR サーバーで AuthCallback を作成するときに必要なインターフェース定義を指定します。

Windows

Linux

AIX

AuthCallback MQXR クラス

AuthCallback は、パッケージ `com.ibm.mq.mqxr` 内の唯一のクラスです。これは、テレメトリー・サーバー管理者が MQXR サーバーで AuthCallback を作成するときに必要なインターフェース定義を指定します。

クラス AuthCallback

```
java.lang.Object
└─ com.ibm.mq.mqxr.AuthCallback
```

実装されているインターフェースは次のとおりです。

```
javax.security.auth.callback.Callback
```

```
public class AuthCallback
    extends java.lang.Object
    implements javax.security.auth.callback.Callback
```

これは、JAAS ログイン・モジュール (`javax.security.auth.spi.LoginModule`) による IBM MQ Server オブジェクトへのアクセスを可能にします。

方法

getSSLSession

```
public javax.net.ssl.SSLSession getSSLSession()
```

クライアント接続に関連付けられた `javax.net.ssl.SSLSession` を返します。クライアントがプレーン・テキスト接続を使用して接続されている場合は `NULL` を返します。

setSSLSession

```
public void setSSLSession(javax.net.ssl.SSLSession sslSession)
```

sslSession パラメーターは、サーバーによってクライアント接続に関連付けられた `sslSession` に設定されます。クライアントがプレーン・テキスト接続を使用して接続されている場合は `NULL` に設定されます。

コンストラクター

```
public AuthCallback()
```

関連概念

[遠隔測定 \(MQXR\) サービス](#)

[テレメトリー・チャンネルの JAAS 構成](#)

関連タスク

[問題の解決: JAAS ログイン・モジュールがテレメトリー・サービスによって呼び出されない](#)

関連資料

5 ページの『[MQXR プロパティー](#)』

MQXR プロパティー設定は、プラットフォーム固有のプロパティー・ファイル (`mqxr_win.properties` または `mqxr_unix.properties`) に保管されます。これらのプロパティーは通常、MQSC 管理コマンドまたは IBM MQ Explorer を使用して構成します。

セキュリティーに関する参照情報

IBM MQ のセキュリティーを構成する際には、このセクションの参照情報を使用してください。

関連概念

8 ページの『[API 出口](#)』

API 出口とは、MQI 呼び出しの機能をモニターまたは変更するプログラム・モジュールです。API 出口は、複数の API 出口機能から構成されており、モジュール内の各出口は独自の入り口点を持っています。

9 ページの『[The API-crossing exit](#)』

An *API-crossing exit* is a program that monitors or modifies the function of MQI calls issued by CICS applications on z/OS.

10 ページの『[AIX, Linux, and Windows システム上での証明書の妥当性検査およびトラスト・ポリシーの設計](#)』

V9.4.0 **V9.4.0** IBM MQ は、基本、標準、およびなしの 3 つのタイプのポリシーに従って TLS 証明書を検証します。標準ポリシーの検査は、RFC 5280 に準拠して行われます。

42 ページの『[暗号ハードウェア](#)』

IBM MQ が暗号化ハードウェアをサポートする方法は、使用しているプラットフォームによって異なります。

43 ページの『[SSLPEER 値の IBM MQ 規則](#)』

SSLPEER 属性は、IBM MQ チャンネルの相手側にあるピア・キュー・マネージャーまたはピア・クライアントから送られてくる証明書の識別名 (DN) を検査するときに使用される属性です。IBM MQ は、一定の規則に基づいてその値を比較します。

[CipherSpec のミスマッチ](#)

[認証の失敗](#)

[メッセージ・チャンネルでの Advanced Message Security インターセプトの概要](#)

関連資料

44 ページの『GSKit: FIPS 140-2 に準拠するデジタル証明書署名アルゴリズム』

FIPS 140-2 に準拠した IBM Global Security Kit (GSKit) のデジタル証明書署名アルゴリズムのリスト

API 出口

API 出口とは、MQI 呼び出しの機能をモニターまたは変更するプログラム・モジュールです。API 出口は、複数の API 出口機能から構成されており、モジュール内の各出口は独自の入り口点を持っています。

注: このセクションの情報は、IBM MQ for z/OS には適用されません。

出口機能には、次の 2 つのカテゴリーがあります。

MQI 呼び出しに関連付けられている出口機能

このカテゴリーには MQI 呼び出しごとの 2 つの出口機能、および MQGMO_CONVERT オプションを指定した MQGET 呼び出し用の追加の出口機能があります。MQCONN および MQCONNX 呼び出しは、同じ出口機能を共有します。

MQI 呼び出しごとに、キュー・マネージャーが呼び出しの処理を開始する前に、2 つの出口機能の一方が起動され、キュー・マネージャーが呼び出しの処理を完了した後に、もう一方の出口機能が起動されます。MQGMO_CONVERT オプションを指定した MQGET 呼び出しの出口機能は、キュー・マネージャーによってメッセージがキューから取り出された後から、任意のデータ変換が行われる前までの間に、MQGET 呼び出し中に起動されます。例えば、これによって、データ変換前にメッセージを復号できます。

出口機能は、MQI 呼び出し上の任意のパラメーターを検査し、変更することができます。例えば、MQPUT 呼び出し時に、呼び出しの処理前に起動される出口機能は、次のことを行うことができます。

- キューに入れられるメッセージ内のアプリケーション・データのコンテンツを検査し、変更する
- メッセージ内のアプリケーション・データの長さを変更する
- メッセージ記述子構造 MQMD 内のフィールドのコンテンツを変更する
- put message options 構造 MQPMO 内のフィールドのコンテンツを変更する

MQI 呼び出しの処理が開始する前に起動される出口機能は、その呼び出しを完全に抑止することができます。MQGMO_CONVERT オプションを指定した MQGET 呼び出しの出口機能は、取り出されるメッセージのデータ変換を抑止することができます。

初期化と終了の出口機能

このカテゴリーには、初期化出口機能と終了出口機能の 2 つの出口機能があります。

アプリケーションがキュー・マネージャーに接続すると、初期化出口機能が、キュー・マネージャーによって起動されます。初期化出口機能の主な目的は、出口機能とその入り口点をキュー・マネージャーに登録し、初期化処理を実行することです。登録する必要があるのは、すべての出口機能ではなく、この接続に必要な出口機能だけです。アプリケーションがキュー・マネージャーから切り離されると、登録は自動的に削除されます。

また、初期化出口機能は、その出口によって要求されるストレージを取得し、環境変数の値を調べるのにも使用できます。

アプリケーションがキュー・マネージャーから切り離されると、終了出口機能が、キュー・マネージャーによって起動されます。終了出口機能の目的は、出口が使用するストレージを解放し、必要なクリーンアップ操作を実行することです。

API 出口は、MQI への呼び出しを発行することができますが、この呼び出しを発行すると、その API 出口は、再度繰り返して起動されることはありません。ただし、後続の出口機能は、それらの出口機能が起動される時点で正しい環境が存在しないために、MQI 呼び出しを発行できません。

- 初期化出口機能
- キュー・マネージャーが呼び出しの処理を開始する前に起動される、MQCONN および MQCONNX 呼び出しの出口機能
- キュー・マネージャーが呼び出しの処理を完了した後で起動される、MQDISC 呼び出しの出口機能

- 終了出口機能

また、API 出口は、使用可能な他の API も使用できます。例えば、Db2® に対する呼び出しを発行できます。

API 出口は、IBM MQ クライアント・アプリケーションと一緒に使用できますが、出口は、MQI チャネルのサーバー側で起動することに注意してください。詳細については、[リンク・レベル・セキュリティーとアプリケーション・レベル・セキュリティーの比較](#)を参照してください。

API 出口は、C プログラミング言語を使用して作成されます。

API 出口を使用可能にするには、その出口を構成する必要があります。IBM MQ for Multiplatforms でこれを行うには、IBM MQ の構成ファイル mqs.ini と、各キュー・マネージャーのキュー・マネージャー構成ファイル qm.ini を編集します。

クライアントの場合、mqclient.ini ファイルの ApiExitLocal スタンザを変更して、キュー・マネージャーの API 出口ルーチンを特定します。

API 出口を構成するには、次の情報を提供します。

- API 出口の記述名
- モジュールの名前とその位置。例えば、絶対パス名。
- 初期化出口機能用の入り口点の名前
- API 出口が、他の API 出口と相対的に起動される順序。1つのキュー・マネージャーには複数の API 出口を構成できます。
- オプションとして、API 出口に渡される任意のデータ

注：

- 以下への書き込みのために API 出口が呼び出されることはありません。
 1. ストリーミング・キュー。元のキューに書き込まれた API 出口変更メッセージは、関連するストリーミング・キューにも書き込まれます。
 2. サブスクリプションの宛先キューです。元のトピックへの API 出口変更メッセージ・パブリケーションは、該当するサブスクリプション宛先に書き込まれます。
- 配布リストへの書き込みの場合、API 出口は、メッセージをキューのリストに書き込む前後に 1 回だけ呼び出されます。

API 出口の構成方法の詳細については、[API 出口の構成](#)を参照してください。

API 出口の作成方法については、『[API 出口の使用と作成](#)』を参照してください。

The API-crossing exit

An *API-crossing exit* is a program that monitors or modifies the function of MQI calls issued by CICS applications on z/OS.

Note: The information in this section applies only to CICS applications on z/OS.

The API-crossing exit program is invoked by the CICS adapter and runs in the CICS address space.

The API-crossing exit is invoked for the following MQI calls only:

```
MQBUFMH
MQCB
MQCB_FUNCTION
MQCLOSE
MQCRTMH
MQCTL
MQDLTMH
MQGET
MQINQ
```

MQOPEN
MQPUT
MQPUT1
MQSET
MQSTAT
MQSUB
MQSUBRQ

For each MQI call, it is invoked once before the processing of the call has started and once after the processing of the call has been completed.

The exit program can determine the name of an MQI call and can inspect and modify any of the parameters on the call. If it is invoked before an MQI call is processed, it can suppress the call completely.

The exit program can use any of the APIs that a CICS task-related user exit can use; for example, the IMS, Db2, and CICS APIs. It can also use any of the MQI calls except MQCONN, MQCONNX, and MQDISC. However, any MQI calls issued by the exit program do not invoke the exit program a second time.

You can write an API-crossing exit in any programming language supported by IBM MQ for z/OS.

Before an API-crossing exit can be used, the exit program load module must be available when the CICS adapter connects to a queue manager. The load module is a CICS program that must be named CSQCAPX and reside in a library in the DFHRPL concatenation sequence. CSQCAPX must be defined in the CICS system definition file (CSD), and the program must be enabled.

An API-crossing exit can be managed using the CICS adapter control panels, CKQC. When CSQCAPX is loaded, a confirmation message is written to the adapter control panels or to the system console. The adapter control panels can also be used to enable or disable the exit program.

For more information about how to write and implement an API-crossing exit, see "The CICS-IBM MQ Adapter" section in the CICS Transaction Server for z/OS 4.1 product documentation. See [CICS Transaction Server for z/OS 4.1, The CICS-IBM MQ adapter](#).

ALW AIX, Linux, and Windows システム上での証明書の妥当性検査および トラスト・ポリシーの設計

V9.4.0 V9.4.0 IBM MQ は、基本、標準、およびなしの 3 つのタイプのポリシーに従って TLS 証明書を検証します。標準ポリシーの検査は、RFC 5280 に準拠して行われます。

これらのトピックの情報は、以下のシステムに適用されます。

- IBM MQ for AIX® or Linux® システム
- IBM MQ for Windows システム

このセクションでは以下の用語が使用されます。

証明書ポリシー

証明書のどのフィールドを認識し、処理するかを決定します。

OCSP ポリシー

OCSP 要求または応答のどのフィールドを認識し、処理するかを決定します。

CRL ポリシー

証明書取り消しリストのどのフィールドを認識し、処理するかを決定します。

パスの妥当性検査ポリシー

証明書チェーン(トラスト・ポイント「RootCA」からエンド・エントリー「EE」まで)が有効であるかどうかを判別するために、証明書、OCSP、および CRL の各ポリシー・タイプが相互に対話する方法を決定します。

パス妥当性検査の基本ポリシーと標準ポリシーについては、IBM MQ for UNIX、Linux、および Windows システム内での実装を反映するものであるため、別々に説明します。しかし、OCSP および CRL の標準ポリシーは基本ポリシーと同じであり、証明書の標準ポリシーは基本ポリシーの拡張バージョンなので、それらのポリシーは個別には記述しません。

IBM MQ では、デフォルトで基本妥当性検査ポリシーが最初に適用されます。基本ポリシー検証が失敗すると、IBM MQ は標準ポリシー (RFC 5280) 検証を適用します。基本ポリシー検証が成功した場合には、標準ポリシー検証は適用されません。したがって、検証の失敗とは、基本ポリシー検証と標準ポリシー検証の両方が、さまざまな理由で失敗したことを意味します。妥当性検査の成功とは、基本ポリシー検証が成功したために標準ポリシー検証が適用されなかったか、基本ポリシー検証が失敗して標準ポリシー検証が成功したかのいずれかを意味します。

RFC 5280 準拠の厳格な適用

RFC 5280 準拠を厳格に適用するには、証明書妥当性検査ポリシーの構成設定値を使用します。この設定値により、基本ポリシーを無効にして RFC 5280 の標準ポリシーのみ使用されるようにすることができます。証明書妥当性検査ポリシーの構成設定値について詳しくは、[IBM MQ における証明書妥当性検査ポリシー](#)を参照してください。

以下の例では、証明書妥当性検査の基本ポリシーでは受け入れられるものの、RFC 5280 準拠の標準ポリシーによって拒否されるデジタル証明書について示します。デジタル証明書チェーンが信頼できるものとされるためには、構成されている妥当性検査ポリシーがチェーン全体で満たされていなければなりません。

デジタル証明書の全詳細を表示するには、`runmqakm` コマンドを使用します。

```
runmqakm -cert -details -db key.kdb -pw password -label certificate_label
```

`runmqakm` の出力で証明書の信頼状況が有効になっていても、TLS ハンドシェイクで使用される場合には必ずしもトラステッドとは限りません。信頼状況が有効となっているということは、その証明書が、さらに証明書妥当性検査ポリシーのルールも満たしているなら、その証明書が他の証明書を検証するための CA 証明書として使用する上で適格であるということを示しています。RFC 5280 準拠の標準証明書妥当性検査ポリシーについては、[19 ページの『標準パスの妥当性検査ポリシー』](#)を参照してください。

証明書の例 1 - 鍵使用法が間違っている場合

この例では、鍵使用法フィールドが、CA 証明書に関する標準証明書妥当性検査ポリシーの規則に準拠していない証明書について示します。証明書が CA 証明書としての使用について有効であるための要件の 1 つは、`keyCertSign` フラグを使用して他の証明書に署名することが許可されていることが鍵使用法フィールドに示されていなければならないということです。このフラグのない証明書を CA 証明書として使用することはできません。

```
Label : root
Key Size : 1024
Version : X509 V3
Serial : 54cb6f740c7ee410
Issuer : CN=Example Root CA,O=Example,C=GB
Subject : CN=Example Root CA,O=Example,C=GB
Not Before : 9 February 2012 17:19:00 GMT
Not After : 1 October 2019 18:19:00 GMT+01:00
Public Key
 30 81 9F 30 0D 06 09 2A 86 48 86 F7 0D 01 01 01
 05 00 03 81 8D 00 30 81 89 02 81 81 00 CC 44 D9
 25 6D 26 1C 9D B9 FF DE B8 AC 44 AB E3 64 80 44
 AF BE E0 00 93 53 92 33 F8 7E BD D7 71 ED 21 52
 24 75 DF D6 EE 3C 54 97 84 29 EA 93 4C 4A D1 19
 5D C1 A0 82 F5 74 E1 AD D9 87 10 D5 6A 2B 6F 90
 04 0F 7E 6E 85 6D 32 99 33 9C D9 BB 57 86 DE 68
 23 C9 F2 6D 53 E3 F5 FF D1 0B E7 23 19 3A F6 70
 6B C8 C7 EB DB 78 8E 8C 9E 55 58 66 B6 31 DB 40
 5F 6A 97 AB 12 D7 E2 3E 2E 79 EE 78 7B 02 03 01
 00 01
Public Key Type : RSA (1.2.840.113549.1.1.1)
Fingerprint : SHA1 :
 EE 68 D4 4F 73 4F F4 21 DE 1A 01 11 5E DE B1 B8
 DF 40 AA D8
Fingerprint : MD5 :
 50 B5 E9 B2 D7 35 05 6A DC 6D 4B 1E B2 F2 DF A4
Fingerprint : SHA256 :
 B4 D7 6E C4 47 26 24 C7 4F 41 C3 83 03 6F 5C C7
 07 11 61 E0 0E 36 59 1F 1C E6 69 39 2D 18 05 D2
Extensions
  basicConstraints
    ca = true
    pathLen = 1239876
```

```

critical
key usage: encipherOnly
Signature Algorithm : SHA256WithRSASignature (1.2.840.113549.1.1.11)
Value
9D AE 54 A9 9D 68 01 68 15 B5 53 9F 96 C9 5B D1
52 40 DB CB 33 AF FD B9 26 D5 90 3F 1E 0B FC A6
D9 8C 04 90 EB AA FD A8 7A 3C AB 60 5F 20 4F 0D
7B 73 41 27 6A 2B BF 8C 99 91 B6 49 96 82 6A 24
0A E8 B9 A5 AF 69 3D 2C A3 3C C8 12 39 FB 56 58
4E 2A FE AC AC 10 89 53 B1 8F 0F C0 50 BF 5E 00
91 64 B4 A1 4C 9A 4E D5 1F 38 7C AD 32 A9 8A E1
91 16 2C 6D 1E 4A CA 99 8D CC 22 CD BF 90 49 FC
Trust Status : Enabled

```

この例の場合、鍵使用法フィールドに含まれているのは encipherOnly フラグのみです。keyCertSign フラグはセットされていないため、この証明書で他の証明書を署名することは許可されません。したがって、CA 証明書として使用することはできません。

証明書の例 2 - 基本制約拡張が欠落している場合

この例では、基本制約拡張が欠落している証明書について示します。基本制約拡張は、この証明書が CA としての使用を許可されているかどうかを示すために使用されます。また、この証明書によって署名されることが可能な証明書チェーンの最大長を示すためにも使用されます。標準証明書妥当性検査ポリシーでは、CA として使用するために証明書の基本制約拡張で isCA フラグがセットされていることが必要です。

```

Label : root
Key Size : 1024
Version : X509 V3
Serial : 1c7dfea316570bf6
Issuer : CN=Second Example Root CA,O=Example,C=GB
Subject : CN=Second Example Root CA,O=Example,C=GB
Not Before : 9 February 2012 17:18:22 GMT
Not After : 1 October 2019 18:18:22 GMT+01:00
Public Key
30 81 9F 30 0D 06 09 2A 86 48 86 F7 0D 01 01 01
05 00 03 81 8D 00 30 81 89 02 81 81 00 B2 70 49
7C AE 1B A7 B3 06 49 6C 99 19 BC A8 77 BE 86 33
21 6B C9 26 CC A6 28 52 9F 7B CF 03 A4 37 A7 4D
6B 06 AA ED 7D 58 E3 70 F3 F7 C1 06 DA E8 27 C6
3D 1B AC FA EF AA 59 7A 9A AB C1 14 4E AF 13 14
4B 71 CA 8D FE C3 F5 2F E8 AC AD EF 21 80 6D 12
89 4A 2A 84 AA 9D E0 4F C1 93 B1 3E 16 E8 3C 75
39 2A 74 1E 90 CC B1 C3 2B 1D 55 26 76 D2 65 C1
06 47 2A BF 79 96 42 76 A9 6E 65 88 5F 02 03 01
00 01
Public Key Type : RSA (1.2.840.113549.1.1.1)
Fingerprint : SHA1 :
33 9F A1 81 43 F1 43 95 48 A5 66 B4 CD 98 E8 15
9C B3 CA 90
Fingerprint : MD5 :
91 EA D9 C0 2C 05 5B E2 CD 0B F6 DD 8A 11 44 23
Fingerprint : SHA256 :
62 46 35 0B 0E A1 A7 2A D5 74 70 0F AA 47 9A 9C
6B 80 1B F1 0B 4C 81 05 85 0E 91 11 A4 21 D2 34
Extensions
key usage: digitalSignature, keyCertSign
Signature Algorithm : SHA256WithRSASignature (1.2.840.113549.1.1.11)
Value
79 34 BA 5B 6F DC 06 A3 99 24 4E 8A 2B 27 05 47
0D 4D BE 6A 77 D1 1D 5F 54 82 9D CC F6 92 D4 9A
AB 4D B6 DD 6E AD 86 C3 6A A3 32 E3 B3 ED E0 62
4A EB 51 08 AC BE 49 9E 9C D7 FE AE C8 9D 17 16
68 31 6B F4 BA 74 1E 4F 5F 05 48 9F E7 46 BA DC
17 7A 60 88 F8 5B DB 3C 51 D4 98 97 28 82 CF 36
47 DA D2 0F 47 FF 70 EA 45 3A 49 66 E6 E2 F9 67
2C C8 3E 24 A2 3B EC 76 1F D6 31 2B BD A9 B5 08
Trust Status : Enabled

```

この例では、証明書に基礎制約フィールド全体が欠落しています。したがって、この証明書を CA 証明書として使用することはできません。

証明書の例 3 - X.509 の旧バージョンによる中間 CA

この例は、X.509 バージョン 1 の中間 CA 証明書を示しています。標準の証明書妥当性検査ポリシーでは、すべての中間 CA 証明書が少なくとも X.509 バージョン 3 でなければなりません。ルート CA 証明

書は、存在する場合、一般的に使用されるバージョン 1 ルート CA 証明書が存在するため、この要件から除外されます。しかし、これは将来変更される可能性があります。

```
Label : intermediate
Key Size : 1024
Version : X509 V1
Serial : 02
Issuer : CN=Test Root CA,O=Example,C=GB
Subject : CN=Test Intermediate CA,O=Example,C=GB
Not Before : 10 February 2012 17:33:45 GMT
Not After : 11 April 2018 18:33:45 GMT+01:00
Public Key
 30 81 9F 30 0D 06 09 2A 86 48 86 F7 0D 01 01 01
 05 00 03 81 8D 00 30 81 89 02 81 81 00 C0 07 C2
 D0 9F 84 DB 7C 20 8F 51 F9 C2 1A 3F CF E2 D7 F2
 F1 56 F2 A4 8F 8F 06 B7 3B 01 31 DE 7C CC 03 63
 AA D3 2F 1C 50 15 E3 56 80 40 7D FF 75 87 D3 F3
 00 89 9A 26 F5 57 05 FA 4F ED 38 DD 93 FA F2 DF
 38 26 D4 3A 92 51 CC F3 70 27 42 7A 9F AD 51 45
 67 B7 AE 11 AD 4F 2D AB D2 CF 73 E6 F0 45 92 F0
 47 16 66 7E 01 C7 76 A3 7B EC D2 76 3F E5 15 EC
 D7 72 2C FE 14 F5 78 83 AA C4 20 AB F7 02 03 01
 00 01
Public Key Type : RSA (1.2.840.113549.1.1.1)
Fingerprint : SHA1 :
 DE BB 75 4B 14 E1 44 B9 B6 44 33 97 49 D0 82 6D
 81 F2 2F DE
Fingerprint : MD5 :
 72 49 44 42 E2 E6 89 F1 CC 37 C9 F6 B5 8F F3 AE
Fingerprint : SHA256 :
 83 A4 52 AF 49 34 F1 DC 49 E6 95 AE 93 67 80 13
 C2 64 D9 26 22 A0 E8 0A 5A A9 71 EC E8 33 E1 D1
Signature Algorithm : SHA256WithRSASignature (1.2.840.113549.1.1.11)
Value
 40 4A 09 94 A0 18 07 5E 96 D7 A6 52 6B 8D 20 50
 E8 91 F7 7E EA 76 B4 08 DF 76 66 1F FA FF 91 79
 2E E0 66 8B 9F 40 FA 14 13 79 81 DB 31 A5 55 1D
 44 67 41 F4 EA 1A F7 83 4F 21 F4 43 78 4E F8 5E
 6F B2 B8 3A F7 6B B4 F5 C6 F8 EB 4C BF 62 6F 3E
 C7 20 EC 53 B3 40 51 36 C1 0A 4E 73 ED 74 D1 93
 02 C5 FB 61 F7 87 64 A5 94 06 7D 25 7C E3 73 DD
 08 D4 07 D0 A4 3F 77 88 12 59 DB A4 DB 68 8F C1
Trust Status : Enabled
```

この例において、バージョン・フィールドは X.509 V1 となっています。この証明書は X.509 バージョン 1 の証明書であるため、中間 CA として使用することはできません。

ALW 基本および標準証明書ポリシー

基本証明書ポリシーと標準証明書ポリシーは、同じフィールドをサポートします。標準ポリシーは追加の証明書拡張をサポートします。

基本および標準ポリシーの両方でサポートされるフィールドは、以下のとおりです。

- OuterSigAlgID¹
- Signature²
- バージョン
- SerialNumber
- InnerSigAlgID³
- Issuer
- Validity
- SubjectName
- SubjectPublicKeyInfo

¹ このフィールドは、RFC 5280 では *signatureAlgorithm* と呼ばれます。

² このフィールドは、RFC 5280 では *signatureValue* と呼ばれます。

³ このフィールドは、RFC 5280 では *signature* と呼ばれます。

- IssuerUniqueID
- SubjectUniqueID

基本ポリシーでサポートされる拡張は、以下のとおりです。項目に「サポートされていない」というマークが付けられている場合、IBM MQはその特定タイプのフィールドを含む拡張の処理を試みず、同じ拡張の別のタイプを処理します。

- AuthorityKeyID
- AuthorityInfoAccess
- SubjectKeyID
- IssuerAltName
- SubjectAltName
- KeyUsage
- BasicConstraints
- PrivateKeyUsage
- CRLDistributionPoints
 - DistributionPoint
 - DistributionPointName (X.500 名および LDAP 形式の URI のみ)
 - NameRelativeToCRLIssuer (サポートされていない)
 - Reasons (無視される)
 - CRLIssuer フィールド (サポートされていない)

標準ポリシーでサポートされる拡張は、基本ポリシーについてリストされたすべての拡張、および以下のリストに含まれる拡張です。項目に「サポートされていない」というマークが付けられている場合、IBM MQはその特定タイプのフィールドを含む拡張の処理を試みず、同じ拡張の別のタイプを処理します。

- NameConstraints
- ExtendedKeyUsage
- CertificatePolicies
 - PolicyInformation
 - PolicyIdentifier
 - PolicyQualifiers (サポートされていない)
- PolicyMappings
- PolicyConstraints

基本 OCSP ポリシーと標準 OCSP ポリシー

基本 OCSP ポリシーと標準 OCSP ポリシーは、同じフィールドをサポートします。

要求でサポートされるフィールドは、以下のとおりです。項目に「サポートされていない」というマークが付けられている場合、IBM MQはその特定タイプのフィールドを含む要求の処理を試みませんが、それより高いレベルのフィールドを含む他の要求を処理します。

- Signature (オプション)
- Version (バージョン 1 のみ)
- RequesterName (オプション)
- RequestList (単一要求のみ)
 - CertID⁴
 - singleRequestExtensions (サポートされていない)

⁴ このフィールドは RFC 2560 では reqCert と呼ばれています。

- RequestExtensions
 - Nonce (使用可能になっている場合)
- 応答でサポートされるフィールドは、以下のとおりです。

- ResponseStatus
- 応答
 - responseType (id-pkix-ocsp-basic)
 - BasicOCSPResponse
 - Signature
 - Certs
 - Extensions
 - extendedKeyUsage
 - id-kp-OCSPSigning
 - id-pkix-ocsp-nocheck
 - ResponseData
 - Version (バージョン 1 のみ)
 - ResponderID (名前またはハッシュで指定)
 - ProducedAt (無視される)
 - Responses (複数応答がサポートされる)
 - SingleResponse
 - certID
 - certStatus
 - RevokedInfo (無視される)
 - thisUpdate (無視される)
 - nextUpdate
 - singleExtensions (無視される)
 - responseExtensions
 - Nonce (使用可能になっている場合)

基本および標準 CRL ポリシー

基本 CRL ポリシーと標準 CRL ポリシーは、同じフィールドおよび拡張をサポートします。これらのポリシーでサポートされるフィールドは、以下のとおりです。

- OuterSigAlgID⁵
- Signature⁶
- バージョン
- InnerSigAlgID⁷
- Issuer
- ThisUpdate
- NextUpdate
- RevokedCertificate

⁵ このフィールドは、RFC 5280 では *signatureAlgorithm* と呼ばれます。

⁶ このフィールドは、RFC 5280 では *signatureValue* と呼ばれます。

⁷ このフィールドは、RFC 5280 では *signature* と呼ばれます。

- UserCertificate
- RevocationDate

サポートされている CRLEntry 拡張はありません。

これらのポリシーでサポートされる CRL 拡張は、以下のとおりです。項目に「サポートされていない」というマークが付けられている場合、IBM MQ はその特定タイプのフィールドを含む拡張の処理を試みず、同じ拡張の別のタイプを処理します。

- AuthorityKeyID
- IssuerAltName
- CRLNumber
- IssuingDistributionPoint
 - DistributionPoint
 - DistributionPointName
 - FullName (X.500 名および LDAP 形式の URI のみ)
 - NameRelativeToCRLIssuer (サポートされていない)
 - Reasons (無視される)
 - CRLIssuer
 - OnlyContainsUserCerts (サポートされていない)
 - OnlyContainsCACerts (サポートされていない)
 - OnlySomeReasons (サポートされていない)
 - IndirectCRL⁸(拒否される)

ALW 基本パスの妥当性検査ポリシー

基本パスの妥当性検査ポリシーは、証明書チェーンが有効であるかどうかを判別するために証明書、OCSP、および CRL の各ポリシー・タイプが相互にどのように対話するのかを決定します。

チェーンの妥当性検査は、以下の方法で実行されます(ただし、必ずしも以下の順序で行われるとは限りません)。

1. 証明書の発行者の名前が以前の証明書の所有者の名前に等しいこと、およびこの証明書に空の発行者の名前、または以前の証明書所有者の名前がないことを確認します。以前の証明書がパスに存在せず、これがチェーン内の最初の証明書である場合は、発行者とサブジェクト名が同一であること、および証明書が信頼されていることを確認してください。

注: IBM MQ for UNIX, Linux and Windows システムでは、パスの前の証明書に現在の証明書と同じ所有者の名前が指定されていると、パスの妥当性検査が失敗します。

2. 証明書の発行者の署名アルゴリズム ID が署名データのアルゴリズム ID に一致することを確認して、証明書に実際に署名するのに使用される署名アルゴリズムが証明書内で示される署名アルゴリズムに一致することを確認します。
3. 証明書の署名を検証するために、パスにある以前の証明書から所有者の公開鍵を使用して、証明書が発行者によって署名済みであることを確認します。以前の証明書が存在せず、これが最初の証明書である場合は、証明書の所有者の公開鍵を使用して、その証明書の署名を検証します。IBM MQ は DSA および RSA 署名アルゴリズムをサポートしますが、DSA パラメーター継承はサポートしません。
4. 証明書が既知の X509 バージョンであり、バージョン 1 の証明書用の固有 ID が存在せず、バージョン 1 およびバージョン 2 の証明書に拡張が存在しないことを確認します。
5. 証明書の有効期限が切れていないか、まだ有効化されていないこと、および有効期間が良好であることを確認してください⁹。
6. 不明でクリティカルな拡張や重複した拡張がないことを確認します。

⁸ IndirectCRL 拡張機能により、CRL の検証が失敗します。IndirectCRL 拡張機能は、同一の証明書が拒否されない原因となるため、使用しないでください。

7. 証明書が取り消されていないことを確認します。以下の操作が適用されます。
- a. OCSP 接続が使用可能になっていて、応答側アドレスが構成されているか、または HTTP 形式の GENERALNAME_uniformResourceID が指定された有効な AuthorityInfoAccess 拡張が証明書に含まれている場合には、OCSP を使用して失効状況を確認します。
 - b. 上の 17 ページの『7.a』で調べた失効状況が不明な場合には、CRLDistributionPoints 拡張に X.500 識別名 GENERALNAME_directoryname および URI GENERALNAME_uniformResourceID のリストが含まれているかどうか検査されます。LDAP、HTTP および FILE 形式の URI のみがサポートされます。この拡張が存在しない場合、または CRLDistributionPoints 拡張を使用しても状況が不明で、この拡張がクリティカルでない場合、証明書の発行者名を使用して失効状況が照会されます。CRL データベース (LDAP) で CRL が照会されます。証明書が最後の証明書ではないか、または最後の証明書が「isCA」フラグをオンに設定した基本制約拡張を持つ場合、データベースでは代わりに ARL および CRL が照会されます。CRL 検査が有効であり、CRL データベースを照会できない場合に、証明書は取り消し済みとして扱われます。現在、X500 ディレクトリー名の形式と LDAP/HTTP/FILE URI フォームは、CRL および ARL を検索するために使用される唯一の名前形式です。¹⁰

注: RelativeDistinguishedNames はサポートされていません。
 - c. 17 ページの『7.a』と 17 ページの『7.b』のどちらにおいても失効状況が不明な場合、IBM MQ は、OCSPAuthentication 構成設定を検査して、接続を許可するかどうかを決定します。¹¹
8. issuerAltName 拡張がクリティカルにマークされた場合、名前の形式が認識されていることを確認します。現在、以下の一般的な名前の形式が認識されています。
- rfc822
 - DNS
 - directory
 - URI
 - IPAddress(v4/v6)
9. subjectAltName 拡張がクリティカルにマークされた場合、名前の形式が認識されていることを確認します。現在、以下の一般的な名前の形式が認識されています。
- rfc822
 - DNS
 - directory
 - URI
 - IPAddress(v4/v6)
10. KeyUsage 拡張が EE 以外の証明書でクリティカルである場合、keyCertSign フラグがオンになっていること、および BasicConstraints 拡張が存在する場合は、「isCA」フラグが true であることを確認します。
11. BasicConstraints 拡張が存在する場合は、次の検査が行われます。
- 「isCA」フラグが false である場合、証明書がチェーン内の最後の証明書であり、pathLength フィールドが存在しないことを確認します。
 - 「isCA」フラグが true であり、証明書がチェーン内の最後の証明書ではない場合、チェーンの最後の証明書までの証明書の数が pathLength フィールドよりも大きくないことを確認します。
12. AuthorityKeyID 拡張はパスの妥当性検査には使用されませんが、証明書チェーンを作成するときに使用されます。

⁹ 対象の妥当性が発行者の妥当性の範囲内にあることを確認するための検査は行われません。これは必須ではありませんが、一部の CA の証明書はそのような検査をパスしないことが示されています。

¹⁰ データベースから取得されると、ARL は CRL とまったく同じ方法で評価されます。多くの CA は ARL を発行しません。ただし、取り消し状況について CA 証明書を検査する場合、IBM MQ は ARL および CRL を検索します。

¹¹ OCSPAuthentication が WARN に設定されている場合、IBM MQ は不明な取り消し状況をログに記録し、接続を続行できるようにします。

13. SubjectKeyID 拡張はパスの妥当性検査には使用されませんが、証明書チェーンを作成するときに使用されます。
14. PrivateKeyUsagePeriod 拡張は、CA が証明書に実際に署名した時を判別できないので、妥当性検査エンジンによって無視されます。この拡張は常に非クリティカルなので、無視することができます。

OCSP 応答についても妥当性検査が行われ、応答自体が有効であることが確認されます。妥当性検査は、以下の方法で実行されます(ただし、必ずしも以下の順序で行われるとは限りません)。

1. 応答状況が成功で、応答タイプが PKIX_AD_OCSP_basic.r であることを確認します。
 2. 応答バージョン・データが存在すること、および応答が正しいバージョン(バージョン 1)のものであることを確認します。
 3. 応答が正しく署名されていることを確認します。署名者が以下の基準の少なくとも 1 つを満たさない場合、その署名は拒否されます。
 - 署名者は、OCSP 署名権限のローカル構成に一致します。¹²。
 - 署名者は、公開鍵が CA 証明書に含まれている CA 鍵を使用しています。つまり、CA 自体が応答に直接署名します。
 - 署名者は、失効情報が検査されている証明書に署名した CA の直接副順序であり、ExtendedKeyUsage エクステンションに id-ad-ocspSigning の値を組み込むことによって、CA によって許可されます。
- 注: id-pkix-ocsp-nocheck 拡張が存在する場合には、応答署名者証明書の失効検査は実行されません。
4. 応答のハッシュ・アルゴリズム serialNumber、issuerNameHash、および issuerKeyHash が要求のハッシュ・アルゴリズムに一致していることを確認します。
 5. 応答の有効期限が切れていないこと、つまり、nextUpdate 時刻が現行時刻よりも後になっていることを確認します。¹³
 6. 証明書の失効状況が有効になっていることを確認します。

CRL の妥当性検査も実行され、CRL 自体が有効であり、以下の方法で実行されることが確認されます(ただし、必ずしも以下の順序で行われるとは限りません)。

1. CRL の発行者の署名アルゴリズム ID が署名データのアルゴリズム ID に一致することを確認して、CRL に実際に署名するのに使用される署名アルゴリズムが CRL 内で示される署名アルゴリズムに一致することを確認します。
2. CRL が証明書発行者の鍵を使用して署名されたことを検証し、CRL が該当する証明書の発行者によって署名されたことを確認します。
3. CRL が有効期限切れでないことを確認¹⁴ または、まだアクティブにされていないこと、および有効期間内にあることを確認します。
4. バージョン・フィールドが存在している場合は、それがバージョン 2 であることを確認してください。それ以外の場合、CRL はバージョン 1 で、拡張子を持つことはできません。ただし、IBM MQ for UNIX、Linux、および Windows システムは、バージョン 1 の CRL について、クリティカルな拡張機能が存在しないことを検証するだけです。
5. 該当する証明書が revokedCertificates フィールド・リストにあり、取り消し日付が将来の日付ではないことを確認します。
6. 重複した拡張がないことを確認します。
7. クリティカルなエントリー拡張機能を含む不明な重要な拡張機能が CRL で検出された場合は、これにより、識別された証明書が取り消されたものとして扱われます。¹⁵(CRL がそれ以外のすべてのチェックにパスする場合)。

¹² これは、ユーザーがインストール済みで、トラスト状況が設定されている鍵ストア内の証明書です。

¹³ 現在の OCSP 応答がレスポンスから返されない場合、IBM MQ は、証明書の失効状況を判別する際に古い応答を使用しようとします。IBM MQ は、セキュリティーのレベルが下がらないように、有効期限切れの応答の使用を試みます。

¹⁴ 最新の CRL が見つからない場合、IBM MQ for UNIX、Linux、および Windows システムは、証明書の失効ステータスを決定するために、期限切れの CRL の使用を試みます。現行 CRL がない場合に実行するアクションは、RFC 5280 で明確に指定されていません。IBM MQ for UNIX Linux および Windows システムは、セキュリティーが低下しないように、古い CRL を使用しようとします。

8. CRL の authorityKeyID 拡張および CA 証明書の subjectKeyID が存在し、keyIdentifier フィールドが CRL の authorityKeyID 内に存在する場合、それを CACertificate の subjectKeyID に突き合わせます。
9. issuerAltName 拡張がクリティカルにマークされた場合、名前の形式が認識されていることを確認します。現在、以下の一般的な名前の形式が認識されています。
 - rfc822
 - DNS
 - directory
 - URI
 - IPAddress(v4/v6)
10. issuingDistributionPoint 拡張が CRL に存在する場合、以下のように処理します。
 - issuingDistributionPoint で InDirectCRL が指定されている場合、CRL 妥当性検査に失敗します。
 - issuingDistributionPoint が CRLDistributionPoint は存在するが DistributionPointName が見つからないことを示している場合、CRL 妥当性検査に失敗します。
 - issuingDistributionPoint で、CRLDistributionPoint が存在することが示され、DistributionPointName が指定されている場合、証明書の CRLDistributionPoint によって指定された名前または証明書の発行者の名前に一致する GeneralName または LDAP 形式の URI であることを確認します。DistributionPointName が GeneralName でない場合は、CRL 妥当性検査が失敗します。

注：RelativeDistinguishedNames はサポートされておらず、これが検出された場合には CRL 妥当性検査は失敗します。

ALW 標準パスの妥当性検査ポリシー

標準パスの妥当性検査ポリシーは、証明書チェーンが有効であるかどうかを判別するために証明書、OCSP、および CRL の各ポリシー・タイプが相互にどのように対話するのかを決定します。標準ポリシーの検査は、RFC 5280 に準拠して行われます。

パスの妥当性検査では、以下の概念が使用されます。

- 長さ n の認証パス。ここでトラスト・ポイントまたはルート証明書は証明書 1 で、EE は n です。
 - 一連の初期ポリシー ID (それぞれは一連のポリシー・エレメント ID から成る)。これは、1 つ以上の証明書ポリシー、証明書パスの処理用に受け入れ可能なポリシーのいずれか 1 つ、または特殊値「any-policy」を識別します。現在、これは「any-policy」に常に設定されています。
- 注：IBM MQ for UNIX、Linux、および Windows システムは、IBM MQ for UNIX、Linux、および Windows システムによって作成されたポリシー ID のみをサポートします。
- 受け入れ可能なポリシー・セット: ポリシー・マッピングにより同等と見なされるポリシーと共に、公開鍵ユーザーによって認識されるポリシー (複数の場合あり) からなる一連の証明書ポリシー ID。受け入れ可能なポリシー・セットの初期値は、特殊値「any-policy」です。
 - 制約されたサブツリー: 証明書パス内の後続の証明書にあるすべてのサブジェクト名が入る一連のサブツリーを定義する一連のルート名。初期値は「unbounded」です。

¹⁵ ITU X.509 および RFC 5280 は、この場合は競合しています。RFC には、クリティカルな拡張機能が不明な CRL は検証に失敗する必要があるためです。ただし、ITU X.509 では、CRL が他のすべての検査に合格した場合は、識別された証明書を取り消し済みとして扱う必要があります。IBM MQ for UNIX、Linux および Windows システムでは、セキュリティーが低下しないように、ITU X.509 ガイダンスが採用されています。

CRL を発行する CA が不明かつクリティカルな拡張を設定する場合に、それ以外のすべての妥当性検査のチェックが正常に実行されても、識別される証明書が取り消し済みとして見なされないためアプリケーションによって拒否されないことを示すという潜在的なシナリオが存在します。このシナリオでは、X.509 に従い、IBM MQ for UNIX、Linux、および Windows システムが操作のフェールセキュア (fail-secure) モードで機能します。つまり、それらは CA が拒否しようとしなかった証明書を拒否し、一部の有効なユーザーに対するサービスを否認する可能性があります。フェールインセキュア (fail-insecure) モードは、CRL には不明でクリティカルな拡張があるため CRL を無視し、CA が取り消そうとする証明書が受け入れられます。システムの管理者は、発行側 CA でこの動作を照会します。

- 除外されたサブツリー: 証明書パス内の後続の証明書にあるサブジェクト名が入らない一連のサブツリーを定義する一連のルート名。初期値は「empty」です。
- 明示的なポリシー: 明示的なポリシー ID が必要であるかどうかを示す整数。この整数は、この要件が課されるパスの最初の証明書を示します。設定されている場合、この変数を減らすことはできますが増やすことはできません。(つまり、パス内の証明書に明示的なポリシー ID が必要な場合、その後の証明書はこの要件を除外することはできません。) 初期値は $n+1$ です。
- ポリシー・マッピング: ポリシー・マッピングが許可されているかどうかを示す整数。整数は、ポリシー・マッピングが適用される可能性のある最後の証明書を示します。設定されている場合、この変数を減らすことはできますが増やすことはできません。(つまり、パス内の証明書でポリシー・マッピングを許可しないように指定されている場合、それをその後の証明書によって指定変更することはできません。) 初期値は $n+1$ です。

チェーンの妥当性検査は、以下の方法で実行されます(ただし、必ずしも以下の順序で行われるとは限りません)。

1. 次の段落の情報は、16 ページの『[基本パスの妥当性検査ポリシー](#)』で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

証明書の発行者の名前が以前の証明書の所有者の名前に等しいこと、およびこの証明書に空の発行者の名前、または以前の証明書所有者の名前がないことを確認します。以前の証明書がパスに存在せず、これがチェーン内の最初の証明書である場合は、発行者とサブジェクト名が同一であること、および証明書が信頼されていることを確認してください。

証明書に所有者の名前がない場合、subjectAltName 拡張は存在しなければならず、クリティカルである必要があります。

2. 次の段落の情報は、16 ページの『[基本パスの妥当性検査ポリシー](#)』で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

証明書の発行者の署名アルゴリズム ID が署名データのアルゴリズム ID に一致することを確認して、証明書に実際に署名するのに使用される署名アルゴリズムが証明書内で示される署名アルゴリズムに一致することを確認します。

証明書の issuersUniqueID および発行者の subjectUniqueID が存在する場合、それが一致することを確認します。

3. 次の情報は、16 ページの『[基本パスの妥当性検査ポリシー](#)』で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

証明書の署名を検証するために、パスにある以前の証明書から所有者の公開鍵を使用して、証明書が発行者によって署名済みであることを確認します。以前の証明書が存在せず、これが最初の証明書である場合は、証明書の所有者の公開鍵を使用して、その証明書の署名を検証します。

4. 次の情報は、16 ページの『[基本パスの妥当性検査ポリシー](#)』で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

証明書が既知の X509 バージョンであり、バージョン 1 の証明書用の固有 ID が存在せず、バージョン 1 およびバージョン 2 の証明書に拡張が存在しないことを確認します。

5. 次の情報は、16 ページの『[基本パスの妥当性検査ポリシー](#)』で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

証明書の有効期限が切れていないか、まだ有効化されていないこと、および有効期間が良好であることを確認してください¹⁶

6. 次の情報は、16 ページの『[基本パスの妥当性検査ポリシー](#)』で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

不明でクリティカルな拡張や重複した拡張がないことを確認します。

7. 次の情報は、16 ページの『[基本パスの妥当性検査ポリシー](#)』で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

¹⁶ 対象の妥当性が発行者の妥当性の範囲内にあることを確認するための検査は行われません。これは必須ではありません。また、一部の CA からの証明書がこのようなチェックをパスしないことが示されています。

証明書が取り消されていないことを確認します。以下の操作が適用されます。

- a. OCSP 接続が使用可能になっていて、応答側アドレスが構成されているか、または HTTP 形式の GENERALNAME_uniformResourceID が指定された有効な AuthorityInfoAccess 拡張が証明書に含まれている場合には、OCSP を使用して失効状況を確認します。
 - i) IBM MQ for UNIX および Windows システムを使用すると、OCSP 要求は、事前構成された応答側に対してオプションで署名することができますが、それ以外の場合は、OCSP 応答処理には影響がありません。
- b. 7a で調べた失効状況が不明な場合には、X.500 識別名 GENERALNAME_directoryname および URI GENERALNAME_uniformResourceID のリストに CRLDistributionPoints 拡張が含まれているかどうか検査されます。拡張が存在しない場合、証明書の発行者の名前が使用されます。CRL データベース (LDAP) で CRL が照会されます。証明書が最後の証明書ではない場合、または「isCA」フラグをオンに設定した基本制約拡張が最後の証明書に含まれる場合、データベースでは代わりに ARL および CRL が照会されます。CRL 検査が有効であり、CRL データベースを照会できない場合に、証明書は取り消し済みとして扱われます。現在、CRL および ARL の検索に使用するためにサポートされている名前形式は、X500 ディレクトリー名の形式と LDAP/HTTP/FILE の URI 形式のみです。

注: RelativeDistinguishedNames はサポートされていません。

8. 次の情報は、16 ページの『基本パスの妥当性検査ポリシー』で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

subjectAltName 拡張がクリティカルにマークされた場合、名前の形式が認識されていることを確認します。現在、以下の一般的な名前の形式が認識されています。

- rfc822
- DNS
- directory
- URI
- IPAddress(v4/v6)

9. サブジェクト名および subjectAltName エクステンション (クリティカルまたは非クリティカル) が、制約条件および除外されたサブツリーの状態変数と整合していることを確認してください。
10. EmailAddress OID が IA5 文字列として所有者名のフィールドに存在し subjectAltName 拡張がない場合、EmailAddress は、制約され、除外されたサブツリーの状態変数と整合していなければなりません。
11. ポリシー情報が初期ポリシー・セットと整合していることを確認します。
 - a. 明示的なポリシーの状態変数が現在の証明書の数値シーケンス値より小さいか等しい場合、証明書のポリシー ID は初期のポリシー設定に入れられます。
 - b. ポリシー・マッピング変数が現在の証明書の数値シーケンス値より小さいか等しい場合、ポリシー ID をマッピングすることはできません。
12. ポリシー情報が受け入れ可能なポリシー・セットと整合していることを確認します。
 - a. 証明書ポリシー拡張にクリティカルのマークが付いている場合¹⁷ ポリシー拡張と受け入れ可能なポリシー・セットの共通部分がヌル以外です。
 - b. 受け入れ可能なポリシー・セットに、結果の交点が新規の値として割り当てられます。
13. 受け入れ可能なポリシー・セットと初期のポリシー・セットの交点がヌル以外であることを確認します。anyPolicy の特殊ポリシーが存在するときには、このチェーン位置で inhibitAnyPolicy 拡張によって使用禁止にされていない場合にのみ、そのポリシーを許可します。
14. inhibitAnyPolicy 拡張が存在する場合、それに「クリティカル」のマークが付いていることを確認し、そのマークが付いている場合には、inhibitAnyPolicy 状態を設定し、チェーン位置を拡張の整数値に設定します (拡張の整数値が現行値を超えていない場合)。これは、anyPolicy ポリシーを設定して発行できる証明書の数で、この数値に達すると anyPolicy ポリシーは許可されなくなります。
15. 以下のステップは、最後のステップを除き、すべての証明書に対して実行されます。

¹⁷ これは、RFC2459 (6.1 (e)(1)) からのレガシー要件として維持されます。

- a. issuerAltName 拡張がクリティカルにマークされた場合、名前の形式が認識されていることを確認します。現在、以下の一般的な名前の形式が認識されています。
- rfc822
 - DNS
 - directory
 - URI
 - IPAddress(v4/v6)
- b. i) BasicConstraints 拡張が存在しない場合、証明書は EE 証明書としてのみ有効です。
- ii) BasicConstraints 拡張が存在する場合、「isCA」フラグが true になっていることを確認します。チェーン作成自体に含まれるよう、「isCA」が true であるかどうか常にチェックされますが、この特定のテストが依然として行われます。pathLength フィールドが存在する場合、最後の証明書までの証明書の数が pathLength フィールドよりも大きくないことを確認します。
- c. KeyUsage エクステンションがクリティカルである場合は、keyCertSign フラグがオンになっていることを確認し、BasicConstraints 拡張が存在するかどうかを確認し、「isCA」フラグが true であることを確認してください。¹⁸
- d. ポリシー制約拡張が証明書に含まれる場合、以下のように明示的なポリシーおよびポリシー・マッピング状態変数を変更します。
- i. requireExplicitPolicy が存在し、その値が r である場合、明示的なポリシー状態変数が、その現行値と、 r と i (シーケンス内の現行の証明書) の和の、いずれか小さい方の値に設定されます。
 - ii. inhibitPolicyMapping が存在し、その値が q である場合、ポリシー・マッピング状態変数が、その現行値と、 q と i (シーケンス内の現行の証明書) の和の、いずれか小さい方の値に設定されます。
- e. policyMappings 拡張が存在する場合 (12(b) を参照)、これがクリティカルではなく、ポリシー・マッピングが許容される場合、これらのマッピングが証明書のポリシーと署名者のポリシー間のマッピングを行うために使用されることを確認します。
- f. nameConstraints 拡張が の場合は、それがクリティカルであることを確認し、許可および除外されたサブツリーが、RFC 5280 セクション 6.1.4 パート (g) に記述されているアルゴリズムに従って、チェーンのサブツリーの状態を更新する前に、以下の規則に従っていることを確認してください。
- i) 最小フィールドはゼロに設定されます。
 - ii) 最大フィールドは存在しません。
 - iii) 基本フィールド名の形式は認識されています。現在、以下の一般的な名前の形式が認識されています。
- rfc822
 - DNS
 - directory
 - URI
 - IPAddress(v4/v6)

16. ExtendedKeyUsage 拡張は IBM MQ では検査されません。

17. 次の情報は、[16 ページの『基本パスの妥当性検査ポリシー』](#)で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

AuthorityKeyID 拡張はパスの妥当性検査には使用されませんが、証明書チェーンを作成するときに使用されます。

18. 次の情報は、[16 ページの『基本パスの妥当性検査ポリシー』](#)で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

SubjectKeyID 拡張はパスの妥当性検査には使用されませんが、証明書チェーンを作成するときに使用されます。

¹⁸ このチェックは、ステップ (b) のために冗長になっていますが、チェックはまだ行われています。

19. 次の情報は、16 ページの『基本パスの妥当性検査ポリシー』で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

PrivateKeyUsagePeriod 拡張は、CA が証明書に実際に署名した時を判別できないので、妥当性検査エンジンによって無視されます。この拡張は常に非クリティカルなので、無視することができます。

Managed File Transfer セキュリティー・リファレンス

Managed File Transfer のセキュリティーを構成するために役立つ参照情報。

IBM MQ での MFT のファイル・システム許可

IBM MQ の Managed File Transfer コンポーネントをインストールして構成する場合、configuration ディレクトリー、installations ディレクトリー、および logs ディレクトリーは、以下の許可を使用して作成されます。

AIX and Linux

Linux AIX

ディレクトリー	権限
/var/mqm/mqft/config	<ul style="list-style-type: none">mqm グループによる書き込みが可能すべてのユーザーが読み取り可能 mqm グループのユーザーにはこれらのディレクトリーおよびファイルに対する書き込み権限があります。ディレクトリーには、SetGroupID ビット「s」が設定されています。これは、ディレクトリー内で作成されたすべてのファイルが mqm のグループ所有権を持っていることを意味します。
/var/mqm/mqft/installations	<ul style="list-style-type: none">mqm グループによる書き込みが可能すべてのユーザーが読み取り可能 ディレクトリーには、SetGroupID ビット「s」が設定されています。これは、ディレクトリー内で作成されたすべてのファイルが mqm のグループ所有権を持っていることを意味します。
/var/mqm/mqft/logs	すべてのユーザーが読み取り可能および書き込み可能 ディレクトリーには、SetGroupID ビット「s」が設定されています。これは、ディレクトリー内で作成されたすべてのファイルが mqm のグループ所有権を持っていることを意味します。

Windows

Windows

ディレクトリー	権限
MQ_DATA_PATH\mqft\config	以下のユーザーには読み取りおよび書き込みの全アクセス権限があります。 <ul style="list-style-type: none"> • 管理者 • システム・アカウント • mqm グループ その他のユーザーには読み取り権限があります。
MQ_DATA_PATH\mqft\installations	以下のユーザーには読み取りおよび書き込みの全アクセス権限があります。 <ul style="list-style-type: none"> • 管理者 • システム・アカウント • mqm グループ その他のユーザーには読み取り権限があります。
MQ_DATA_PATH\mqft\logs	以下のユーザーには読み取りおよび書き込みの全アクセス権限があります。 <ul style="list-style-type: none"> • 管理者 • システム・アカウント • mqm グループ その他のユーザーには読み取り権限および書き込み権限があります。

z/OS



ディレクトリー	権限
DATA_PATH/mqft/config	<ul style="list-style-type: none"> • mqm グループ、または環境変数 BFG_GROUP_NAME で名前を指定されたグループは書き込み可能 • すべてのユーザーが読み取り可能 mqm グループ内のユーザー、または環境変数 BFG_GROUP_NAME の値で指定されるグループは、これらのディレクトリーおよびファイルに対する書き込み権限があります。
DATA_PATH/mqft/installations	<ul style="list-style-type: none"> • mqm グループ、または環境変数 BFG_GROUP_NAME で名前を指定されたグループは書き込み可能 • すべてのユーザーが読み取り可能
DATA_PATH/mqft/logs	すべてのユーザーが読み取り可能および書き込み可能

注: DATA_PATH は、環境変数 BFG_DATA から導出されます。

MFT 固有リソースの権限の管理

どのファイル転送要求でも、Managed File Transfer エージェント・プロセスでは、ローカル・ファイル・システムに対する一定レベルのアクセス権限が必要になります。さらに、エージェント・プロセスと関連付けられているユーザー ID と、ファイル転送操作を実行しているユーザーと関連付けられているユーザー ID の両方は、特定の IBM MQ オブジェクトを使用する権限を持つ必要があります。

コマンドは、ユーザーによって発行されます。ユーザーは操作ロールで、通常、ファイル転送を開始します。あるいは、管理ロールのユーザーであれば、エージェントの作成、開始、削除、またはクリア（つまり、すべてのエージェント・システム・キューからのメッセージ除去）などの追加管理が可能です。コマンド要求を含むメッセージは、ユーザーがコマンドを発行するときにエージェントの SYSTEM.FTE.COMMAND キューに置かれます。エージェント・プロセスは、コマンド要求を含むメッセージを SYSTEM.FTE.COMMAND キューから取り出します。また、エージェント・プロセスは、他に、以下の 4 つのシステム・キューも使用します。

- SYSTEM.FTE.DATA.agent_name
- SYSTEM.FTE.EVENT.agent_name
- SYSTEM.FTE.REPLY.agent_name
- SYSTEM.FTE.STATE.agent_name

コマンドを発行するユーザーは、上記のキューをエージェント・プロセスにおいてさまざまな方法で使用するため、ユーザー ID または各 ID に関連付けられたユーザー・グループには、異なる IBM MQ 権限を割り当てます。詳しくは、[26 ページの『MFT 固有リソースのグループ権限の制限』](#)を参照してください。

さらに、エージェントは、特定のアクションの実行権限をユーザーに付与するために使用できるキューを持っています。権限キューの使用方法については、[『31 ページの『MFT エージェント・アクションのユーザー権限の制限』』](#)を参照してください。エージェントは、これらのキューに対してメッセージの PUT または GET を行いません。ただし、エージェント・プロセスの実行に使用されるユーザー ID と、特定のアクションの実行が許可されているユーザーと関連付けられているユーザー ID の両方に、キューに対する正しい IBM MQ 権限が割り当てられていることを確認する必要があります。権限キューは以下のとおりです。

- SYSTEM.FTE.AUTHADM1.agent_name
- SYSTEM.FTE.AUTHAGT1.agent_name
- SYSTEM.FTE.AUTHMON1.agent_name
- SYSTEM.FTE.AUTHOPS1.agent_name
- SYSTEM.FTE.AUTHSCH1.agent_name
- SYSTEM.FTE.AUTHTRN1.agent_name

バージョン 7.0.2 より前のバージョンの Managed File Transfer から IBM WebSphere® MQ 7.5 以降にマイグレーションし、既存のエージェント構成を保持する場合は、権限キューを手動で作成する必要があります。このキューを作成するには以下の MQSC コマンドを使用します。

```
DEFINE QLOCAL(authority_queue_name) DEFPRTY(0) DEFSOPT(SHARED) GET(ENABLED) MAXDEPTH(0) +
  MAXMSGL(0) MSGDLVSQ(PRIORITY) PUT(ENABLED) RETINTVL(999999999) SHARE NOTRIGGER +
  USAGE(NORMAL) REPLACE
```

さらに、エージェント・プロセスは、SYSTEM.FTE キューを使用して、調整キュー・マネージャーの SYSTEM.FTE トピックにメッセージをパブリッシュします。エージェント・プロセスが、ソース・エージェントまたは宛先エージェントのいずれのロールであるかにより、エージェント・プロセスでは、ファイルの読み取り、書き込み、更新、および削除権限が必要となる可能性があります。

IBM MQ Explorer を使用して、IBM MQ オブジェクトの権限レコードを作成および変更できます。オブジェクトを右クリックして、次に「**オブジェクト権限**」>「**権限レコードの管理**」をクリックします。さらに、**setmqaut** コマンドを使用して、権限レコードを作成することもできます。これは『[setmqaut \(権限の付与または取り消し\) コマンド](#)』で説明されています。

関連資料

26 ページの『MFT 固有リソースのグループ権限の制限』

関連する可能性のあるさまざまなオブジェクトのすべてについて、個々のユーザーに権限を付与する代わりに、Managed File Transfer のアクセス制御を管理する目的で、2つのセキュリティー・グループ FTEUSER と FTEAGENT を構成します。これらのグループの作成と埋め込みは、IBM MQ 管理者が行う責任があります。管理者は、ここで説明される構成の提案を拡大または変更する選択ができます。

31 ページの『MFT エージェント・アクションのユーザー権限の制限』

グループを使用してリソースに対するアクセスを管理することに加えて、追加レベルのセキュリティーを使用可能にして、ユーザーが実行できる Managed File Transfer エージェント・アクションを制限することができます。エージェントの権限キューに対する権限をユーザーに付与して、ユーザーが特定のエージェント・アクションを実行できるようにします。

MFT ロガーの権限

MFT 固有リソースのグループ権限の制限

関連する可能性のあるさまざまなオブジェクトのすべてについて、個々のユーザーに権限を付与する代わりに、Managed File Transfer のアクセス制御を管理する目的で、2つのセキュリティー・グループ FTEUSER と FTEAGENT を構成します。これらのグループの作成と埋め込みは、IBM MQ 管理者が行う責任があります。管理者は、ここで説明される構成の提案を拡大または変更する選択ができます。

キュー・マネージャーに接続する権限

操作権限を持つユーザー、管理権限を持つユーザー、および IBM MQ エクスプローラーによって実行されるコマンドは、コマンド・キュー・マネージャーおよび調整キュー・マネージャーに接続できなければなりません。エージェント・プロセス、およびエージェントの作成、変更、または削除のために実行されるコマンドは、エージェント・キュー・マネージャーに接続できなければなりません。

- コマンド・キュー・マネージャーおよび調整キュー・マネージャーに接続する権限を FTEUSER グループに付与します。以下に例を示します。

▶ **ALW** AIX, Linux, and Windows システムの場合:

```
setmqaut -m command_queue_manager -t qmgr -g FTEUSER +connect
setmqaut -m coordination_queue_manager -t qmgr -g FTEUSER +connect
```

▶ **IBM i** IBM i の場合:

```
GRTRMQAUT OBJ('command_queue_manager') OBJTYPE(*MQM) USER(FTEUSER) AUT(*CONNECT)
GRTRMQAUT OBJ('coordination_queue_manager') OBJTYPE(*MQM) USER(FTEUSER) AUT(*CONNECT)
```

▶ **z/OS** z/OS の場合:

```
RDEFINE MQCONN command_queue_manager.BATCH UACC(NONE)
PERMIT command_queue_manager.BATCH CLASS(MQCONN) ID(FTEUSER) ACCESS(READ)
RDEFINE MQCONN coordination_queue_manager.BATCH UACC(NONE)
PERMIT coordination_queue_manager.BATCH CLASS(MQCONN) ID(FTEUSER) ACCESS(READ)
```

- エージェント・キュー・マネージャーに接続および照会する権限を FTEAGENT グループに付与します。以下に例を示します。

▶ **ALW** AIX, Linux, and Windows システムの場合:

```
setmqaut -m agent_queue_manager -t qmgr -g FTEAGENT +connect +inq +setid
```

▶ **IBM i** IBM i の場合:

```
GRTRMQAUT OBJ('agent_queue_manager') OBJTYPE(*MQM) USER(FTEAGENT) AUT(*CONNECT)
```

▶ z/OS z/OS の場合:

```
RDEFINE MQCONN agent_queue_manager.BATCH UACC(NONE)
PERMIT agent_queue_manager.BATCH CLASS(MQCONN) ID(FTEAGENT) ACCESS(READ)
```

どのコマンドがどのキュー・マネージャーに直接接続するかについては、[MFT コマンドとその接続先のキュー・マネージャー](#)を参照してください

エージェントに属する COMMAND キューにメッセージを PUT するための権限

エージェントのコマンド・キューは、エージェントによるアクションの実行を要求する権限が与えられた、すべてのユーザーが使用できる必要があります。この要件を満たすには、次のようにします。

- FTEUSER グループに SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name キューへの PUT 権限のみを付与します。以下に例を示します。

▶ ALW AIX, Linux, and Windows システムの場合:

```
setmqaut -m QM1 -n SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name -t queue -g FTEUSER +put
```

▶ IBM i IBM i の場合:

```
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(FTEUSER) AUT(*PUT)
MQMNAME('QM1')
```

▶ z/OS z/OS の場合:

```
RDEFINE MQQUEUE QM1.SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name UACC(NONE)
PERMIT QM1.SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name CLASS(MQQUEUE) ID(FTEUSER) ACCESS(UPDATE)
```

- FTEAGENT グループに、SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name キューへの PUT、GET、および setid アクセス権限を付与します。以下に例を示します。

▶ ALW AIX, Linux, and Windows システムの場合:

```
setmqaut -m QM1 -n SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name -t queue -g FTEAGENT +browse +put +get
+setid
```

▶ IBM i IBM i の場合:

```
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(FTEAGENT) AUT(*PUT)
MQMNAME('QM1')
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(FTEAGENT) AUT(*GET)
MQMNAME('QM1')
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(FTEAGENT) AUT(*SETID)
MQMNAME('QM1')
```

▶ z/OS z/OS の場合:

```
RDEFINE MQQUEUE QM1.SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name UACC(NONE)
PERMIT QM1.SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name CLASS(MQQUEUE) ID(FTEAGENT) ACCESS(UPDATE)
RDEFINE MQADMIN QM1.CONTEXT.SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name UACC(NONE)
PERMIT QM1.CONTEXT.SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name CLASS(MQADMIN) ID(FTEAGENT)
ACCESS(UPDATE)
```

エージェントには、他のエージェントのコマンド・キューにメッセージを書き込むためのアクセス権限が必要です。リモート・キュー・マネージャーに接続しているエージェントがあれば、チャンネルからそのキューにメッセージを書き込むために追加の権限を付与しなければならない場合があります。

エージェントに属する DATA、STATE、EVENT、および REPLY キューにメッセージを PUT するための権限

Managed File Transfer エージェントのみがこれらのシステム・キューを使用できるようにするため、グループ FTEAGENT に PUT、GET、および INQUIRE 権限を付与します。これらのシステム・キューの名前は以下のとおりです。

- DATA - SYSTEM.FTE.DATA.agent_name
- STATE - SYSTEM.FTE.STATE.agent_name
- EVENT - SYSTEM.FTE.EVENT.agent_name
- REPLY - SYSTEM.FTE.REPLY.agent_name

例えば、SYSTEM.FTE.DATA.agent_name キューに対して、次のようなコマンドを使用します。

ALW **AIX, Linux, and Windows システムの場合:**

```
setmqaut -m QM1 -n SYSTEM.FTE.DATA.agent_name -t queue -g FTEAGENT +put +get +inq
```

IBM i **IBM i の場合:**

```
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.FTE.DATA.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(FTEAGENT) AUT(*PUT)
MQMNAME('QM1')
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.FTE.DATA.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(FTEAGENT) AUT(*GET)
MQMNAME('QM1')
```

z/OS **z/OS の場合:**

```
RDEFINE MQQUEUE QM1.SYSTEM.FTE.DATA.agent_name UACC(NONE)
PERMIT QM1.SYSTEM.FTE.DATA.agent_name CLASS(MQQUEUE) ID(FTEAGENT) ACCESS(UPDATE)
```

エージェントには、他のエージェントのデータ・キューと応答キューにメッセージを書き込むためのアクセス権限が必要です。リモート・キュー・マネージャーに接続しているエージェントがあれば、チャンネルからそれらのキューにメッセージを書き込むために追加の権限を付与しなければならない場合があります。

エージェント・プロセスが実行される権限

エージェント・プロセスが実行される 権限は、エージェントがファイル・システムからの読み取りと書き込みができるファイルと、エージェントがアクセスできるキューおよびトピックに影響します。権限がどのように構成されるかは、システムに依存しています。エージェント・プロセスが実行されるユーザー ID を FTEAGENT グループに追加します。グループへのユーザー ID の追加の詳細については、「[セキュリティのセットアップ](#)」を参照し、ご使用のオペレーティング・システムに関する情報までナビゲートしてください。

コマンドと IBM MQ Explorer が実行される権限

fteStartAgent コマンドなどの管理コマンド、および IBM MQ Explorer の Managed File Transfer プラグインは、SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name キューに入れられ、そのキューからパブリッシュされた情報を取得します。コマンドまたは IBM MQ Explorer を実行する権限を付与されたユーザー ID を FTEUSER グループに追加します。この発信元ユーザー ID は、転送ログに記録されます。グループへのユーザー ID の追加の詳細については、「[セキュリティのセットアップ](#)」を参照し、ご使用のオペレーティング・システムに関する情報までナビゲートしてください。

SYSTEM.FTE キューおよび SYSTEM.FTE トピックにメッセージを PUT する権限

エージェント・プロセスのみが SYSTEM.FTE キューおよび SYSTEM.FTE トピックにメッセージを PUT できなければなりません。SYSTEM.FTE キューに対する PUT、GET、および INQUIRE 権限を FTEAGENT グループに付与し、SYSTEM.FTE トピックに対するパブリッシュおよびサブスクライブ権限を FTEAGENT グループに付与します。以下に例を示します。

ALW**AIX, Linux, and Windows システムの場合:**

```
setmqaut -m QM1 -n SYSTEM.FTE -t queue -g FTEAGENT +put +inq
setmqaut -m QM1 -n SYSTEM.FTE -t topic -g FTEAGENT +pub +sub +resume
```

IBM i**IBM i の場合:**

```
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.FTE') OBJTYPE(*Q) USER(FTEAGENT) AUT(*PUT) MQMNAME('QM1')
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.FTE') OBJTYPE(*TOPIC) USER(FTEAGENT) AUT(*PUB) MQMNAME('QM1')
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.FTE') OBJTYPE(*TOPIC) USER(FTEAGENT) AUT(*SUB) MQMNAME('QM1')
```

z/OS**z/OS の場合:**

```
RDEFINE MQQUEUE QM1.SYSTEM.FTE UACC(NONE)
PERMIT QM1.SYSTEM.FTE CLASS(MQQUEUE) ID(FTEAGENT) ACCESS(UPDATE)
RDEFINE MXTOPIC QM1.PUBLISH.SYSTEM.FTE UACC(NONE)
PERMIT QM1.PUBLISH.SYSTEM.FTE CLASS(MXTOPIC) ID(FTEAGENT) ACCESS(UPDATE)
```

リモート・キュー・マネージャーに接続しているエージェントがあれば、チャンネルから SYSTEM.FTE キューにメッセージを書き込むために追加の権限を付与しなければならない場合もあります。

メッセージが SYSTEM.FTE トピックにパブリッシュされるには、SYSTEM.FTE トピックの権限レコードによって、メッセージのメッセージ記述子構造 (MQMD) に含まれるユーザー ID によるパブリケーションを許可する必要があります。これについては、[39 ページの『MFT エージェント・ログ・メッセージおよび状況メッセージをパブリッシュする権限』](#)で説明されています。

z/OS

ユーザーが z/OS 上の SYSTEM.FTE トピックにパブリッシュできるようにするには、SYSTEM.FTE トピックにパブリッシュするためのアクセス権限をチャンネル・イニシエーター・ユーザー ID に付与する必要があります。RESLEVEL セキュリティー・プロファイルに基づいて、チャンネル・イニシエーター接続に関して 2 つのユーザー ID が検査される場合、メッセージのメッセージ記述子構造 (MQMD) に含まれているユーザー ID にもアクセス権限を付与する必要があります。詳しくは、[RESLEVEL セキュリティー・プロファイル](#)を参照してください。

SYSTEM.FTE トピックでパブリケーションを受信する権限

ログ・メッセージ、進行メッセージ、および状況メッセージの転送は、一般的な用途を目的としているため、FTEUSER グループに SYSTEM.FTE トピックのサブスクライブ権限を付与します。以下に例を示します。

ALW**AIX, Linux, and Windows システムの場合:**

```
setmqaut -m QM1 -n SYSTEM.FTE -t topic -g FTEUSER +sub
```

IBM i**IBM i の場合:**

```
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.FTE') OBJTYPE(*TOPIC) USER(FTEUSER) AUT(*SUB) MQMNAME('QM1')
```

z/OS**z/OS の場合:**

```
RDEFINE MXTOPIC QM1.SUBSCRIBE.SYSTEM.FTE UACC(NONE)
PERMIT QM1.SUBSCRIBE.SYSTEM.FTE CLASS(MXTOPIC) ID(FTEUSER) ACCESS(ALTER)
```

伝送キューを使用してリモート・キュー・マネージャーに接続する権限

複数キュー・マネージャーのトポロジーでは、エージェントは、リモート・キュー・マネージャーへの接続に使用する伝送キューに対して PUT 権限を必要とします。

ファイル転送のために一時応答キューを作成する権限

ファイル転送要求は、転送の完了を待機し、作成されて埋め込まれる一時応答キューに依存します。FTEUSER グループに、一時モデル・キュー定義に対する DISPLAY、PUT、GET、および BROWSE 権限を付与します。以下に例を示します。

ALW AIX, Linux, and Windows システムの場合:

```
setmqaut -m QM1 -n SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE -t queue -g FTEUSER +dsp +put +get +browse
```

IBM i IBM i の場合:

```
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE') OBJTYPE(*Q) USER(FTEUSER) AUT(*ADM DSP)
MQMNAME('QM1')
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE') OBJTYPE(*Q) USER(FTEUSER) AUT(*PUT)
MQMNAME('QM1')
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE') OBJTYPE(*Q) USER(FTEUSER) AUT(*GET)
MQMNAME('QM1')
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE') OBJTYPE(*Q) USER(FTEUSER) AUT(*BROWSE)
MQMNAME('QM1')
```

z/OS z/OS の場合:

```
RDEFINE MQQUEUE QM1.SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE UACC(NONE)
PERMIT QM1.SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE CLASS(MQQUEUE) ID(FTEUSER) ACCESS(UPDATE)
```

デフォルトでは、このキューは SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE ですが、command.properties ファイル内のプロパティ「modelQueueName」および「dynamicQueuePrefix」の値を設定することにより、名前を構成できます。

z/OS では、FTEUSER に一時キューにアクセスする権限も付与する必要があります。以下に例を示します。

```
RDEFINE MQQUEUE QM1.WMQFTE.** UACC(NONE)
PERMIT QM1.WMQFTE.** CLASS(MQQUEUE) ID(FTEUSER) ACCESS(UPDATE)
```

デフォルトでは、z/OS 上の各一時キューの名前は WMQFTE で始まります。

以下の表は、セキュリティ・スキームで説明した FTEUSER と FTEAGENT のアクセス制御構成を要約しています。

オブジェクト	オブジェクト・タイプ	FTEUSER	FTEAGENT
エージェント・キュー・マネージャー	キュー・マネージャー		CONNECT、INQ、および SETID。また、31 ページの『MFT エージェント・アクションのユーザー権限の制限』を使用可能にするために、ALT_USER が必要です。
調整キュー・マネージャー	キュー・マネージャー		
コマンド・キュー・マネージャー	キュー・マネージャー	CONNECT	CONNECT
SYSTEM.FTE	ローカル・キュー		GET および PUT

表 4. FTEUSER および FTEAGENT のアクセス制御構成の要約 (続き)			
オブジェクト	オブジェクト・タイプ	FTEUSER	FTEAGENT
SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name	ローカル・キュー	PUT	BROWSE、GET、PUT、および SETID
SYSTEM.FTE.DATA.agent_name	ローカル・キュー		GET および PUT
SYSTEM.FTE.EVENT.agent_name	ローカル・キュー		BROWSE、GET および PUT
SYSTEM.FTE.REPLY.agent_name	ローカル・キュー		GET および PUT
SYSTEM.FTE.STATE.agent_name	ローカル・キュー		BROWSE、GET、INQ、および PUT
SYSTEM.FTE	ローカル・トピック	SUBSCRIBE	PUBLISH および SUBSCRIBE
SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE (または一時応答キューを作成するために使用される Managed File Transfer で定義したモデル・キュー。)	モデル・キュー	BROWSE、DISPLAY、GET、および PUT	BROWSE、DISPLAY、GET、および PUT
リモート・キュー・マネージャーと通信するための伝送キュー	ローカル・キュー		PUT

IBM MQ Explorer を使用して転送を管理するための権限

このページで既に言及されている状況でユーザーに MFT 権限を付与することに加えて、IBM MQ Explorer を介してすべての MFT 操作を管理および実行する MFT エージェント・ユーザーに追加の権限を付与する必要があります。IBM MQ Explorer ユーザーがファイル転送の作成、キャンセル、スケジュールや、リソース・モニターの作成や削除、さらに転送テンプレートの作成などのコマンドを実行するには、以下の権限が必要です。

- 調整キュー・マネージャー: connect、inquire、display
- コマンド・キュー・マネージャー: connect、inquire、display
- SYSTEM.FTE トピック: publish、subscribe
- SYSTEM.MQEXPLORER.REPLY.MODEL: display、inquire、get、browse、put
- SYSTEM.ADMIN.COMMAND.QUEUE: inquire、put、display
- SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE: get、put、inquire、display、browse

MFT コマンドとその接続先のキュー・マネージャーも参照してください。

関連資料

31 ページの『MFT エージェント・アクションのユーザー権限の制限』

グループを使用してリソースに対するアクセスを管理することに加えて、追加レベルのセキュリティーを使用可能にして、ユーザーが実行できる Managed File Transfer エージェント・アクションを制限することができます。エージェントの権限キューに対する権限をユーザーに付与して、ユーザーが特定のエージェント・アクションを実行できるようにします。

MFT ロガーの権限

MFT エージェント・アクションのユーザー権限の制限

グループを使用してリソースに対するアクセスを管理することに加えて、追加レベルのセキュリティーを使用可能にして、ユーザーが実行できる Managed File Transfer エージェント・アクションを制限することができます。エージェントの権限キューに対する権限をユーザーに付与して、ユーザーが特定のエージェント・アクションを実行できるようにします。

ユーザー権限管理の使用可能化

エージェント・アクションに対するユーザー権限検査を有効にするには、以下のステップを実行します。

1. `agent.properties` ファイルで、`authorityChecking` 値を `true` に設定します。詳しくは、[MFT agent.properties](#) ファイルを参照してください。
2. エージェントを実行するユーザーが、エージェント・キュー・マネージャーに対して IBM MQ 代替ユーザー (ALT_USER) 権限を持っていることを確認してください。

z/OS z/OS プラットフォームでは、エージェントを実行するユーザーに、エージェント・アクションを実行する許可を要求できるユーザー ID に対する ALT_USER 権限が付与されていなければならないことに注意してください。

転送に関与する両方のエージェントで同じレベルのセキュリティーが有効になっている必要があります。つまり、両方のエージェントのプロパティ・ファイルで `authorityChecking` が同じ値に設定されている必要があります。 `authorityChecking` プロパティの値が異なるエージェント間の転送は失敗します。

エージェント権限キュー

エージェントには、どのユーザーが特定のエージェント・アクションを実行するための権限を持つのかを管理する権限キューがあります。エージェントは、これらのキューに対してメッセージの PUT または GET を行いません。エージェント権限キューは以下のとおりです。

- SYSTEM.FTE.AUTHADM1.agent_name
- SYSTEM.FTE.AUTHAGT1.agent_name
- SYSTEM.FTE.AUTHMON1.agent_name
- SYSTEM.FTE.AUTHOPS1.agent_name
- SYSTEM.FTE.AUTHSCH1.agent_name
- SYSTEM.FTE.AUTHTRN1.agent_name

エージェント・プロパティ **authorityChecking=true** を設定してユーザー権限管理を有効にすると、ユーザーがエージェント権限キューに対して持つ権限によって、ユーザーが実行を許可されるアクションが指定されます。

重要: `inquire` 許可は、すべてのエージェント権限キューに対する必須権限です。

以下の表は、ユーザーまたはグループが特定のアクションを実行するためにエージェント権限キューに対して `inquire` 権限に加えて必要とする IBM MQ アクセス権限を要約したものです。

表 5. ユーザーまたはグループがエージェントの権限キューに対して特定のアクションを実行する必要がある IBM MQ アクセス権限のレベル				
ユーザー処置	Managed File Transfer のアクセス権限	権限キュー	IBM MQ のアクセス権限 (Multiplatforms)	RACF® のアクセス・レベル (z/OS のみ)
-m オプションを指定した <code>fteStopAgent</code> コマンドによるエージェントのシャットダウン	管理	SYSTEM.FTE.AUTHADM1.agent_name	BROWSE	READ

表 5. ユーザーまたはグループがエージェントの権限キューに対して特定のアクションを実行する必要がある IBM MQ アクセス権限のレベル (続き)				
ユーザー処置	Managed File Transfer のアクセス権限	権限キュー	IBM MQ のアクセス権限 (Multiplatforms)	RACF® のアクセスレベル (z/OS のみ)
このエージェントからのファイル転送の開始	転送ソース	SYSTEM.FTE.AUTHTRN1.source_agent_name	BROWSE	READ
このエージェントで管理対象呼び出しを実行します				
同じユーザーが開始したこのエージェントからのファイル転送の取り消し				
このエージェントへのファイル転送の開始	転送宛先	SYSTEM.FTE.AUTHTRN1.destination_agent_name	PUT	UPDATE
同じユーザーが開始したこのエージェントへのファイル転送の取り消し				
リソース・モニターの作成	モニター	SYSTEM.FTE.AUTHMON1.monitor_agent_name	BROWSE	READ
同じユーザーが作成したリソース・モニターの削除				
任意のユーザーが作成したリソース・モニターの削除	モニター操作	SYSTEM.FTE.AUTHOPS1.agent_name	SET	ALTER
スケジュール済み転送の作成	スケジュール	SYSTEM.FTE.AUTHSCH1.source_agent_name	BROWSE	READ
同じユーザーによって作成されたスケジュール済み転送を削除する				
任意のユーザーまたはグループによって作成されたスケジュール済み転送の削除	スケジュール操作	SYSTEM.FTE.AUTHOPS1.agent_name	PUT	UPDATE
転送を開始したのと同じユーザーやグループ、または別のユーザーやグループによって作成された転送のキャンセル	転送操作	SYSTEM.FTE.AUTHOPS1.source_agent_name SYSTEM.FTE.AUTHOPS1.destination_agent_name	BROWSE	READ

注：ユーザーまたはグループに、転送を開始するリソース・モニターまたはスケジュール済み転送をセットアップする権限を付与するには、モニターまたはスケジュール権限と、転送ソースおよび転送宛先の両方の権限が必要です。

エージェントは、ファイル転送を取り消す要求を受け取ると、取り消しを要求しているユーザーが転送を開始したユーザーと同じかどうかをまず検査します。転送をキャンセルするユーザーと転送を要求したユーザーが同じでない場合、エージェントはキャンセルするユーザーに、SYSTEM.FTE.AUTHOPS1.agent_name キューの browse 権限があるかどうかを検査します。この順序で

権限を検査することで、ファイル転送を要求したユーザーと取り消しを要求したユーザーが同じである場合に、エージェントとキュー・マネージャーのエラー・ログ内の予期しないエラーが回避されます。

ユーザーは1つのエージェントを開始でき、そのエージェントから別のエージェントとの対話を行うことができます。2つのエージェントの対話方法は、ユーザーがもう一方のエージェント権限キューに対して持っているアクセス権限のレベルに応じて異なります。

表 6. エージェントを開始するユーザーが、エージェント間でファイルを転送できるように、別のエージェントの権限キューに対して必要な IBM MQ アクセス権限のレベル

エージェント・アクション	Managed File Transfer のアクセス権限	権限キュー	IBM MQ のアクセス権限 (Multiplatforms)	RACF のアクセス・レベル (z/OS のみ)
転送の受信 <i>source_agent</i>	エージェント・ソース	SYSTEM.FTE.AUTHAGT1. <i>source_agent_name</i>	BROWSE	READ
転送の送信先 <i>destination_agent</i>	エージェント宛先	SYSTEM.FTE.AUTHAGT1. <i>destination_agent_name</i>	PUT	UPDATE
エージェントからの管理対象呼び出しの開始	エージェント・ソース	SYSTEM.FTE.AUTHTRN1. <i>agent_name</i>	BROWSE	READ

ユーザー権限管理の構成

ユーザーにエージェントに対するアクションの実行権限を与えるには、関係する権限キューに対する適切な権限をユーザーに付与します。ユーザーに権限を付与するには、以下のステップを実行します。

1. エージェント・キュー・マネージャーがあるシステムに、エージェント・アクションの実行権限を与えるユーザーと同じ名前のユーザーを作成します。このユーザーはアクティブでなくても構いません。
2. 関係する権限キューに対する適切な権限をユーザーに付与します。AIX、Linux、または Windows を使用している場合は、`setmqaut` コマンドを使用できます。
3. キュー・マネージャーのセキュリティ構成をリフレッシュします。`REFRESH SECURITY MQSC` コマンドを使用できます。

例

z/OS `setmqaut` コマンドは、z/OS システムでは使用されません。z/OS では、代わりに RACF を使用してください。詳しくは、[z/OS でのセキュリティのセットアップ](#)を参照してください。

IBM i `setmqaut` コマンドは、IBM i システムでは使用されません。IBM i の場合は、『[IBM MQ オブジェクトに対するアクセス権限](#)』を参照してください。このトピックでは、IBM MQ オブジェクトの許可を実行する方法を説明しています。IBM i では、**Grant MQ Object Authority (GRMQMAUT)**、**Revoke MQ Object Authority (RVKMQMAUT)**、および **Refresh MQ Authority (RFRMQMAUT)** の 3 つの関連 CL コマンドを使用できます。

グループ `requestor_group` のメンバーであるユーザーが、グループ `user1_group` のメンバーであるユーザー `user1` の下で実行されている AGENT1 から、グループ `user2_group` のメンバーであるユーザー `user2` の下で実行されている AGENT2 にファイルを転送する、AGENT1 上のリソース・モニターをセットアップしようとしています。AGENT1 は QM1 に接続し、AGENT2 は QM2 に接続します。両方のエージェントで権限検査が有効になっています。これを実現するには、以下のステップを実行します。

1. `requestor` には、AGENT1 に対する **モニター** 権限が必要です。この権限を設定するには、QM1 が稼働中のシステムで次のコマンドを実行します。

```
setmqaut -m QM1 -t queue -n SYSTEM.FTE.AUTHMON1.AGENT1 -g requestor_group +browse
```

2. `requestor` には、AGENT1 に対する転送元権限が必要です。この権限を設定するには、QM1 が稼働中のシステムで次のコマンドを実行します。

```
setmqaut -m QM1 -t queue -n SYSTEM.FTE.AUTHTRN1.AGENT1 -g requestor_group +browse
```

3. `requestor` には、AGENT2 に対する転送先権限が必要です。この権限を設定するには、QM2 が稼働中のシステムで次のコマンドを実行します。

```
setmqaut -m QM2 -t queue -n SYSTEM.FTE.AUTHTRN1.AGENT2 -g requestor_group +put
```

4. `user2` には、AGENT1 に対するエージェント・ソース権限が必要です。この権限を設定するには、QM1 が稼働中のシステムで次のコマンドを実行します。

```
setmqaut -m QM1 -t queue -n SYSTEM.FTE.AUTHAGT1.AGENT1 -g user2_group +browse
```

5. `user1` には、AGENT2 に対するエージェント宛先権限が必要です。この権限を設定するには、QM2 が稼働中のシステムで次のコマンドを実行します。

```
setmqaut -m QM2 -t queue -n SYSTEM.FTE.AUTHAGT1.AGENT2 -g user1_group +put
```

ロギング

ユーザー権限検査が有効である場合、権限検査が失敗すると、非許可ログ・メッセージが調整キュー・マネージャーに対してパブリッシュされます。詳細については、[セキュリティーの MFT メッセージ・フォーマット](#)を参照してください。

ユーザー権限に関するメッセージはエージェント・イベント・ログへ書き込みます。エージェント・イベント・ログに書き込まれる情報の量を構成するには、エージェント・プロパティ・ファイルで `logAuthorityChecks` プロパティを設定します。デフォルトでは、権限検査ロギングのレベルは `None` です。また、`logAuthorityChecks` の値を `Failures` に設定することもできます。これは、失敗した許可検査のみを報告することを指定するか、または `All` 失敗した許可検査と成功した許可検査を報告することを指定します。

詳しくは、[MFT agent.properties](#) ファイルを参照してください。

関連資料

26 ページの『[MFT 固有リソースのグループ権限の制限](#)』

関連する可能性のあるさまざまなオブジェクトのすべてについて、個々のユーザーに権限を付与する代わりに、Managed File Transfer のアクセス制御を管理する目的で、2つのセキュリティー・グループ `FTEUSER` と `FTEAGENT` を構成します。これらのグループの作成と埋め込みは、IBM MQ 管理者が行う責任があります。管理者は、ここで説明される構成の提案を拡大または変更する選択ができます。

[MFT ロガーの権限](#)

[fteStopAgent](#)

機密構成情報にアクセスするための MFT アクセス権

機密構成情報を保管するために使用するファイル (つまり IBM MQ 構成ツリーから参照されるファイル) に対する読み取り権限、書き込み権限、または削除権限 (可能な場合) は、システム全体に対して付与してはなりません。この制限は、トラストストア・ファイルと鍵ストア・ファイルにも当てはまります。

構成ファイルに機密情報が含まれていて、構成ファイルが鍵ストア・ファイルまたはトラストストア・ファイルであり、構成ファイルに対する読み取り権限、書き込み権限、または削除権限がシステム全体に付与されている状態を Managed File Transfer プロセスが検出すると、プロセスは以下のいずれかのアクションを実行します。

- 状態が起動時に検出された場合は、開始に失敗する。

- 状態が実行時に検出された場合は、警告メッセージを生成し、構成ファイルの内容を無視する。これは、プロセスの実行中に構成が変更された場合に構成を再ロードする、プロトコル・ブリッジおよび Connect:Direct® ブリッジに関係します。

ファイル・システムが UNIX タイプのシステムの場合

ファイルに対して許容できないシステム全体にわたる権限が設定されているかどうかを判別するための基準は以下のとおりです。

- その他クラスに、ファイルに対する読み取り権限が付与されている
- その他クラスに、ファイルに対する書き込み権限が付与されている
- その他クラスに、ファイルが含まれているディレクトリーに対する書き込み権限が付与されている

Windows システムの場合:

ファイルに対して許容できないシステム全体にわたる権限が設定されているかどうかを判別するための基準は以下のとおりです。

- 全員グループ、ゲスト・グループ、またはユーザー・グループには以下の権限を付与できます。
 - ファイルに対するデータ読み取り権限
 - ファイルに対するデータ追加権限
 - ファイルに対するデータ書き込み権限
- 全員グループ、ゲスト・グループ、またはユーザー・グループには、ファイルが含まれているフォルダーに対するファイル作成権限が付与されており、以下の権限も付与できます。
 - ファイルが含まれているフォルダーに対するサブフォルダーおよびファイルの削除権限
 - ファイルに対する削除権限

ユーザーへの MFT 固有リソースに対する権限の付与

クライアント・トランスポート内のキュー・マネージャーに接続する際に、さまざまなオブジェクトのすべてについて、個々のユーザーに提供する必要がある権限。

以下の例では、Bob は接続しようとしているユーザーの名前であり、キュー・マネージャー MQ2 は調整、コマンド、およびエージェント・キュー・マネージャーとして機能することに注意してください。

キュー・マネージャーに接続する権限

操作権限を持つユーザー、管理権限を持つユーザー、および IBM MQ Explorer によって実行されるコマンドは、コマンド・キュー・マネージャーおよび調整キュー・マネージャーに接続できなければなりません。エージェント・プロセス、およびエージェントの作成、変更、または削除のために実行されるコマンドは、エージェント・キュー・マネージャーに接続できなければなりません。詳しくは、[どの MFT コマンドおよびプロセスがどのキュー・マネージャーに接続するか](#)を参照してください。

コマンドを実行しているユーザー、およびエージェント・プロセスを開始するユーザーには、関連するキュー・マネージャーに接続するための権限が必要です。

ALW **AIX, Linux, and Windows システムの場合:**

```
setmqaut -m MQ2 -t qmgr -p Bob +connect +inq +setid
```

IBM i **IBM i の場合:**

```
GRTRMQAUT OBJ('MQ2') OBJTYPE(*MQM) USER(Bob) AUT(*CONNECT)
GRTRMQAUT OBJ('MQ2') OBJTYPE(*MQM) USER(Bob) AUT(*INQ)
GRTRMQAUT OBJ('MQ2') OBJTYPE(*MQM) USER(Bob) AUT(*SETID)
```

z/OS の場合:

```
RDEFINE MQCONN MQ2.BATCH UACC(NONE)
PERMIT MQ2.BATCH CLASS(MQCONN) ID(Bob) ACCESS(READ)
```

エージェントに属するコマンド・キューに対する権限

エージェント・プロセスを実行しているユーザー、およびエージェントと対話するコマンドを実行しているユーザーは、SYSTEM.FTE.COMMAND。エージェント・キュー・マネージャー上の agent_name キュー。

注: 以下の例では、agent_name を、システム・キューに使用しているエージェントの実際の名前に置き換える必要があります。

ALW Aix, Linux, and Windows システムの場合:

```
setmqaut -m MQ2 -t queue -n SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name -m MQ2 -p Bob
+put +get +setid +browse
```

IBM i の場合:

```
GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(Bob)
AUT(*PUT) MQMNAME('MQ2')
GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(Bob)
AUT(*GET) MQMNAME('MQ2')
GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(Bob)
AUT(*SETID) MQMNAME('MQ2')
```

z/OS の場合:

```
RDEFINE MQQUEUE MQ2.SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name UACC(NONE)
PERMIT MQ2.SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name CLASS(MQQUEUE) ID(Bob) ACCESS(UPDATE)
RDEFINE MQADMIN MQ2.CONTEXT.SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name UACC(NONE)
PERMIT MQ2.CONTEXT.SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name CLASS(MQADMIN) ID(Bob) ACCESS(UPDATE)
```

エージェントに属する DATA、STATE、EVENT、および REPLY キューにメッセージを PUT するための権限

エージェント・キュー・マネージャーでは、状態キューに対する put、get、および inquire の各アクセス権限と、その他のキューに対する put および get の各アクセス権限が必要です。

注: 以下の例では、agent_name を、システム・キューに使用しているエージェントの実際の名前に置き換える必要があります。

ALW Aix, Linux, and Windows システムの場合:

```
setmqaut -m MQ2 -t queue -n SYSTEM.FTE.REPLY.agent_name -m MQ2 -p Bob +put +get
setmqaut -m MQ2 -t queue -n SYSTEM.FTE.EVENT.agent_name -m MQ2 -p Bob +put +get +browse
setmqaut -m MQ2 -t queue -n SYSTEM.FTE.DATA.agent_name -m MQ2 -p Bob +put +get
setmqaut -m MQ2 -t queue -n SYSTEM.FTE.STATE.agent_name -m MQ2 -p Bob +put +get +inq
```

IBM i の場合:

```
AUT(*PUT) MQMNAME('MQ2')
GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.FTE.DATA.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*GET) MQMNAME('MQ2')

GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.FTE.REPLY.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*PUT) MQMNAME('MQ2')
GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.FTE.REPLY.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*GET) MQMNAME('MQ2')

GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.FTE.EVENT.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*PUT) MQMNAME('MQ2')
```

```

GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.FTE.EVENT.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*GET) MQMNAME('MQ2')
GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.FTE.EVENT.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*BROWSE) MQMNAME('MQ2')

GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.FTE.STATE.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*PUT) MQMNAME('MQ2')
GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.FTE.STATE.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*GET) MQMNAME('MQ2')
GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.FTE.STATE.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*INQ) MQMNAME('MQ2')

```

z/OS の場合:

```

RDEFINE MQQUEUE MQ2.SYSTEM.FTE.REPLY.agent_name UACC(NONE)
PERMIT MQ2.SYSTEM.FTE.REPLY.agent_name CLASS(MQQUEUE) ID(Bob) ACCESS(UPDATE)

RDEFINE MQQUEUE MQ2.SYSTEM.FTE.DATA.agent_name UACC(NONE)
PERMIT MQ2.SYSTEM.FTE.DATA.agent_name CLASS(MQQUEUE) ID(Bob) ACCESS(UPDATE)

RDEFINE MQQUEUE MQ2.SYSTEM.FTE.EVENT.agent_name UACC(NONE)
PERMIT MQ2.SYSTEM.FTE.EVENT.agent_name CLASS(MQQUEUE) ID(Bob) ACCESS(UPDATE)

RDEFINE MQQUEUE MQ2.SYSTEM.FTE.STATE.agent_name UACC(NONE)
PERMIT MQ2.SYSTEM.FTE.STATE.agent_name CLASS(MQQUEUE) ID(Bob) ACCESS(UPDATE)

```

ファイル転送のために一時応答キューを作成する権限

コマンド・キュー・マネージャーに接続するコマンドは、そのキュー・マネージャー上に一時キューを作成します。コマンドは、その要求を実行依頼すると、応答が一時応答キューに戻されるのを待ちます。

ユーザー Bob には、一時モデル・キュー定義に対する display、put、get、および browse 権限が必要です。

ALW AIX, Linux, and Windows システムの場合:

```
setmqaut -m MQ2 -t queue -n SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE -m MQ2 -p Bob +put +dsp +get +browse
```

IBM i の場合:

```

GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*ADMSP) MQMNAME('MQ2')
GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*PUT) MQMNAME('MQ2')
GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*GET) MQMNAME('MQ2')
GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*BROWSE) MQMNAME('MQ2')

```

z/OS の場合:

```

RDEFINE MQQUEUE MQ2.SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE UACC(NONE)
PERMIT MQ2.SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE CLASS(MQQUEUE) ID(Bob) ACCESS(UPDATE)

```

SYSTEM.FTE キューおよび SYSTEM.FTE トピックにメッセージを PUT する権限

SYSTEM.FTE キューに対する Put 許可、および SYSTEM.FTE トピックに対する publish 許可と subscribe 許可 (両方とも調整キュー・マネージャーでホストされます) が必要です。

ALW AIX, Linux, and Windows システムの場合:

```

setmqaut -m MQ2 -t queue -n SYSTEM.FTE -m MQ2 -p Bob +put

setmqaut -m MQ2 -t topic -n SYSTEM.FTE -m MQ2 -p Bob +pub
setmqaut -m MQ2 -t topic -n SYSTEM.FTE -m MQ2 -p Bob +sub

```

IBM i の場合:

```
GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.FTE') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*PUT) MQMNAME('MQ2')
```

```
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.FTE') OBJTYPE(*TOPIC) USER(Bob) AUT(*PUB) MQMNAME('MQ2')
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.FTE') OBJTYPE(*TOPIC) USER(Bob) AUT(*SUB) MQMNAME('MQ2')
```

z/OS

z/OS の場合:

```
RDEFINE MQQUEUE MQ2.SYSTEM.FTE UACC(NONE)
PERMIT MQ2.SYSTEM.FTE CLASS(MQQUEUE) ID(Bob) ACCESS(UPDATE)
```

```
RDEFINE MXTOPIC MQ2.PUBLISH.SYSTEM.FTE UACC(NONE)
PERMIT MQ2.PUBLISH.SYSTEM.FTE CLASS(MXTOPIC) ID(Bob) ACCESS(UPDATE)
```

関連資料

26 ページの『MFT 固有リソースのグループ権限の制限』

関連する可能性のあるさまざまなオブジェクトのすべてについて、個々のユーザーに権限を付与する代わりに、Managed File Transfer のアクセス制御を管理する目的で、2つのセキュリティー・グループ FTEUSER と FTEAGENT を構成します。これらのグループの作成と埋め込みは、IBM MQ 管理者が行う責任があります。管理者は、ここで説明される構成の提案を拡大または変更する選択ができます。

31 ページの『MFT エージェント・アクションのユーザー権限の制限』

グループを使用してリソースに対するアクセスを管理することに加えて、追加レベルのセキュリティーを使用可能にして、ユーザーが実行できる Managed File Transfer エージェント・アクションを制限することができます。エージェントの権限キューに対する権限をユーザーに付与して、ユーザーが特定のエージェント・アクションを実行できるようにします。

MFT ロガーの権限

MFT エージェント・ログ・メッセージおよび状況メッセージをパブリッシュする権限

Managed File Transfer エージェントは、調整キュー・マネージャーにパブリッシュされるさまざまな ログ・メッセージ、進行メッセージ、および状況メッセージを発行します。これらのメッセージのパブリケーションは、IBM MQ セキュリティー・モデルの影響を受け、場合によっては、パブリケーションを可能にするために、さらに構成が必要になることがあります。

IBM MQ のセキュリティーの詳細については、[保護 IBM MQ](#) から始まるセクションを参照してください。

Managed File Transfer エージェントは、SYSTEM.FTE キュー。個々のメッセージは、メッセージ記述子 (MQMD) にユーザー ID を含みます。メッセージは SYSTEM.FTE と呼ばれるトピック・オブジェクトを使用してパブリッシュされます。指定されたメッセージのパブリケーションを実行するには、SYSTEM.FTE トピックの権限レコードが、メッセージの MQMD に含まれるユーザー ID によるパブリケーションを許可する必要があります。

z/OS

z/OS では、チャンネル・イニシエーターのユーザー ID に、SYSTEM.FTE トピック。RESLEVEL セキュリティー・プロファイルにより 2つのユーザー ID でチャンネル・イニシエーター接続の検査が行われる場合、メッセージの MQMD に含まれるユーザー ID にもこのトピックにパブリッシュするためのアクセス権限が必要になります。

当初メッセージに含まれるユーザー ID は、エージェントが自身のキュー・マネージャーにどのように接続しているかにより異なります。バインディング接続エージェントからのメッセージには、エージェントが動作する際のユーザー ID が含まれます。クライアント接続エージェントからのメッセージには、IBM MQ の内部ユーザー ID が含まれます。

メッセージ内のユーザー ID は変更することができます。クライアント接続エージェントとバインディング接続エージェントの両方について、プロパティー publicationMDUser (agent.properties ファイル内) を使用して、そのエージェントからのすべてのログおよび状況メッセージで使用されるユーザー ID を指定することができます。この代替ユーザー ID を使用するには、自身のキュー・マネージャーによってエージェントに権限が付与されなければなりません。この権限を付与するには、エージェントが動作する際のユーザー ID に setid 権限を付与します。

さらに、エージェントが自身のキュー・マネージャーに接続するために使用するチャンネルで、MCAUSER プロパティを使用して、クライアント接続エージェントからのすべてのメッセージに含まれるユーザー ID を変更することもできます。

調整キュー・マネージャーにメッセージを組み込む受信側チャンネルなどのチャンネル出口を使用して、メッセージ内のユーザー ID を変更することができます。

IBM MQ トポロジーおよびポリシーによっては、IBM MQ 管理者がこのトピックの情報を使用して、状況メッセージとログ・メッセージのパブリケーションを確実に実行する方法が数多くあります。以下に 2 つの例を示します。

- エージェントで使用されるすべてのユーザー ID をネットワークで決定します。これらの ID にそれぞれ権限レコードを明示的に付与します。
- ログ・メッセージと状況メッセージをパブリッシュするための 1 つ以上の共通ユーザー名を作成します。調整キュー・マネージャーに、これらのユーザー名の権限レコードを作成します。各エージェントの `publicationMDUser` プロパティを共通ユーザー名に設定します。各エージェントのキュー・マネージャーで、`publicationMDUser` プロパティを受け入れることができるように、エージェント実行時に使用するユーザー ID に `setid` 権限を付与します。

ファイル・システムにアクセスするための MFT 権限

どのファイル転送要求でも、Managed File Transfer エージェント・プロセスでは、ローカル・ファイル・システムに対する一定レベルのアクセス権限が必要になります。

- ソース・ファイルから転送するには、ソース・エージェントが動作する際のユーザー ID に、ソース・ファイルへの読み取り権限が必要です。さらに、ソースの後処理属性によっては、ソース・エージェントに削除または書き込み権限を付与する必要がある場合もあります。
- ファイルまたはディレクトリーへの転送では、宛先エージェントを実行するユーザー ID に、指定のパスへの書き込み権限が必要です。さらに、宛先出口属性によっては、宛先エージェントに更新権限を付与する必要がある場合もあります。
- エージェント・プロセスに付与するファイル・アクセス権限に加えて、サンドボックスを使用して、制限付きファイル・パス領域を指定してこれを実施することも可能です。詳しくは、[MFT のサンドボックス](#) を参照してください。
- 転送先または転送元のファイルが、エージェントからアクセスできる場所がない場合 (例えば、 VSAM データ・セットである場合や、サンドボックス機能によって制限されている場所にある場合) は、Managed File Transfer のユーザー出口を使用して、エージェントがアクセスできる場所にそのファイルを移動できます。詳しくは、[ユーザー出口での MFT のカスタマイズ](#) を参照してください。

commandPath MFT プロパティ

`commandPath` プロパティを使用して、Managed File Transfer がコマンドを実行できる場所を指定します。指定された `commandPath` にある任意のコマンドは、エージェントにコマンドを送信できるリモート・クライアント・システムから事実上呼び出すことができるため、このプロパティを設定するときは十分な注意を払ってください。

エージェントが実行されているシステム上で、Managed File Transfer の管理対象転送および管理対象呼び出し機能から実行するコマンドを指定できます。詳しくは、[プログラム呼び出しのネスト・エレメント](#) を参照してください。ただし、コマンドは、`commandPath` エージェント・プロパティで参照されるパス上にある必要があります。

指定されたコマンドが完全修飾されていない場合、Managed File Transfer はコマンド・パス上で一致するコマンドを見つけようとします。コマンド・パス上に一致するコマンドが 2 つ以上ある場合、最初の一致が使用されます。

デフォルトでは、`commandPath` プロパティは空であるため、エージェントはどのコマンドも呼び出すことができません。

`commandPath` エージェント・プロパティを以下のように指定します。

```
commandPath=command_directory_name
separator...command_directory_name
```

z/OS

また、z/OS の場合のみ、次のように指定します。

```
commandPath=command_directory_name_or_data_set_name_prefix
separator...command_directory_name_or_data_set_name_prefix
```

ここで、

- `command_directory_name` は、実行できるコマンドのディレクトリー・パスです。
- **z/OS** `command_directory_name_or_data_set_name_prefix` は、実行できるコマンドの z/OS UNIX System Services・ディレクトリー・パス、またはデータ・セット名接頭部です (先頭に // を付けます)。データ・セット名接頭部では、完全修飾の形式を使用するか、非修飾の形式を使用するか (つまり、// 'HLQ...' という形式にするか、//HLQ... という形式にするか) を選択できます。区分データ・セットを // 'HLQ()...' または //HLQ()... の形式で指定します。データ・セットを使用するのは、JCL スクリプト・コマンドを指定する場合のみです。
- `separator` は、プラットフォーム固有の分離文字です。

Linux

AIX

例えば、AIX and Linux システムで、ディレクトリー /home/user/cmds1 および /home/user/cmds2 にあるコマンドを実行する場合は、**commandPath** エージェント・プロパティを以下のように設定します。

```
commandPath=/home/user/cmds1:/home/user/cmds2
```

括弧、コンマ (,)、および円記号 (¥) は MFT コマンドの特殊文字であり、円記号 (¥) 文字でエスケープする必要があります。 **Windows** Windows 上のファイル・パスは、分離文字として二重の円記号 (\\) を使用するか、単一のスラッシュ (/) を使用して指定できます。

Windows

例えば、Windows システムで、ディレクトリー C:\File Transfer\commands および C:\File Transfer\agent commands にあるコマンドを実行する場合は、**commandPath** エージェント・プロパティを以下のように設定します。

```
commandPath=C:\\File Transfer\\commands;C:\\File Transfer\\agent commands
```

z/OS

例えば、z/OS で、次のようなコマンドを実行する場合、

- ディレクトリー /home/user/cmds1 および /home/user/cmds2 内
- // 'USER.CMD1' , //CMD2, で始まるデータ・セット内
- // 'USER.CMDS' という名前の完全修飾 PDS のメンバー

次のようにして、`commandPath` エージェント・プロパティを設定します。

```
commandPath=/home/user/cmds1:/home/user/cmds2:// 'USER.CMD1' ://CMD2:// 'USER.CMDS()'
```

重要: このプロパティを設定するときは細心の注意を払う必要があります。指定されたいずれかの `commandPath` にあるコマンドはどれも、エージェントにコマンドを送信できるリモート・クライアント・システムから呼び出し可能になるからです。このため、デフォルトでは、`commandPath` を指定すると、すべての `commandPath` ディレクトリー (およびそれらのサブディレクトリー) における転送のためのアクセスが自動拒否されるように、サンドボックスが構成されます。

- エージェント・サンドボックスを使用するようにエージェントが構成されている場合、エージェントの開始時に、`commandPath` ディレクトリーが拒否ディレクトリーのリストに自動的に追加されます。
- 1つ以上のユーザー・サンドボックスを使用するようにエージェントが構成されている場合、エージェントの開始時に、各ユーザー・サンドボックスの <read> エlement および <write> エlement に `commandPath` ディレクトリーが <exclude> エlement として追加されます。

- エージェントがエージェント・サンドボックスとユーザー・サンドボックスのいずれかを使用するように構成されていない場合、エージェントの開始時に、新しいエージェント・サンドボックスが作成され、その中で `commandPath` ディレクトリーが拒否ディレクトリーとして指定されます。

この動作をオーバーライドするには、以下のプロパティを `agent.properties` ファイルに追加します。

```
addCommandPathToSandbox=false
```

`addCommandPathToSandbox` プロパティが存在し、`false` に設定されている場合、以下の動作が発生します。

- エージェント・サンドボックスを使用するようにエージェントが構成されていて、サンドボックスに許可ディレクトリーが指定されていない場合、エージェントが開始すると、`commandPath` ディレクトリーが拒否ディレクトリーのリストに自動的に追加されます。
- エージェント・サンドボックスを使用するようにエージェントが構成されていて、サンドボックスに許可ディレクトリーが1つ以上指定されている場合、エージェントが開始しても、`commandPath` ディレクトリーは拒否ディレクトリーのリストに追加されません。
- エージェントが1つ以上のユーザー・サンドボックスを使用して構成されている場合、ユーザー・サンドボックスは変更されず、`commandPath` ディレクトリーは、`<exclude>` エlementとして、各ユーザー・サンドボックスの`<read>` Elementおよび`<write>` Elementに追加されません。
- エージェントがエージェント・サンドボックスとユーザー・サンドボックスのいずれかを使用するように構成されていない場合、エージェントの開始時に、新しいエージェント・サンドボックスが作成され、その中で `commandPath` ディレクトリーが拒否ディレクトリーとして指定されます。

関連資料

[MFT agent.properties ファイル](#)

暗号ハードウェア

IBM MQ が暗号化ハードウェアをサポートする方法は、使用しているプラットフォームによって異なります。

ALW AIX, Linux, and Windows システムでは、IBM MQ は、PKCS #11 インターフェースを使用するさまざまな暗号ハードウェアに対するサポートを提供します。

z/OS **IBM i** IBM i および z/OS では、オペレーティング・システムが、暗号ハードウェアのサポートを提供します。

現在サポートされている暗号化カードのリストについては、[IBM MQ 用の暗号化カードのリスト](#)を参照してください。

すべてのプラットフォーム上では、暗号ハードウェアは TLS ハンドシェイク段階および秘密鍵のリセット時に使用されます。

IBM i IBM i では、DCM を使用して証明書の作成または更新を行う場合に、コプロセッサに鍵を直接格納することも、コプロセッサのマスター鍵を使用し、秘密鍵を暗号化してから特別な鍵ストア・ファイルに格納することもできます。

z/OS z/OS では、RACF を使用して証明書を作成する場合に、ICSF (Integrated Cryptographic Service Facility) を使用して鍵を格納し、パフォーマンスを向上させ、鍵を安全に保管することができます。TLS ハンドシェイクおよび秘密鍵のネゴシエーションの際、Crypto Express カード (使用可能な場合) を使用して RSA 操作が行われます。ハンドシェイクが完了してデータが流れ始めた後、データは CPACF で暗号化解除され、Crypto Express カードは使用されません。

ALW AIX, Linux, and Windows システムでは、TLS 暗号ハードウェア対称暗号操作のための IBM MQ サポートも提供されています。TLS 暗号ハードウェア対称暗号操作を使用した場合、TLS 接続で送信されたデータは暗号ハードウェア製品によって暗号化/暗号化解除されます。

キュー・マネージャーでこの設定を使用可能にするには、`SSLCryptoHardware` キュー・マネージャー属性を適宜設定します (`ALTER QMGR` と `Change Queue Manager` を参照してください)。WebSphere MQ MQI

クライアントでは、これに相当する変数が提供されています ([クライアント構成ファイルの SSL スタンザを参照](#))。デフォルト設定はオフです。

この属性を使用可能にすると、IBM MQ は、対称暗号操作を使用しようとします。これは、現在の CipherSpec で指定されている暗号化アルゴリズムにおいて暗号ハードウェア製品が対称暗号操作をサポートしているかどうかとは無関係に行われます。暗号ハードウェア製品がこれをサポートしていない場合、IBM MQ はデータ自体の暗号化および暗号化解除を実行し、エラーは報告されません。現在の CipherSpec で指定されている暗号化アルゴリズムに対して暗号ハードウェア製品が対称暗号操作をサポートしている場合は、この機能がアクティブになり、送信されたデータの暗号化および暗号化解除が暗号ハードウェア製品によって実行されます。

プロセッサの使用量が少ない状況では、多くの場合、データをカードにコピーしてからそれを暗号化/暗号化解除して TLS プロトコル・ソフトウェアに再びコピーするよりも、ソフトウェアで暗号化/暗号化解除を実行する方が時間がかかりません。ハードウェア対称暗号操作は、プロセッサの使用量が多い場合には大変便利です。

z/OS 暗号ハードウェアを備えた z/OS では、対称暗号操作がサポートされています。つまり、ハードウェアが、選択されている CipherSpec に対してこの機能を備え、データの暗号化および暗号化解除をサポートするよう構成されている場合、ユーザーのデータはハードウェアによって暗号化および暗号化解除されます。

IBM i IBM i では、現在の CipherSpec で指定されている暗号化アルゴリズムに対してハードウェアがそのような暗号化を実行する機能を備えていても、ユーザーのデータの暗号化や暗号化解除に暗号ハードウェアは使用されません。

SSLPEER 値の IBM MQ 規則

SSLPEER 属性は、IBM MQ チャンネルの相手側にあるピア・キュー・マネージャーまたはピア・クライアントから送られてくる証明書の識別名 (DN) を検査するときを使用される属性です。IBM MQ は、一定の規則に基づいてその値を比較します。



重要: SSLPEER フィルターで使用できるピア値は、[識別名の表](#)に示されているピア値のみです。

SSLPEER 値が DN と比較されるときに、属性値を指定して突き合わせる場合の規則は、次のとおりです。

1. コンマかセミコロンのどちらかを、区切り文字として使用することができます。
2. 区切り文字の前または後のスペースは無視されます。以下に例を示します。

```
CN=John Smith, O=IBM ,OU=Test , C=GB
```

3. 属性タイプ SERIALNUMBER, MAIL, E, UID OR USERID, CN, T, OU, DC, O, STREET, L, ST, SP, S, PC, C, UNSTRUCTUREDNAME, UNSTRUCTUREDADDRESS, DNQ の値は、通常、以下のみを含むテキスト・ストリングです。

- アルファベットの A から Z まで、および a から z まで
- 数字の 0 から 9
- スペース文字
- 文字, . ; ' " () / -

異なるプラットフォーム間の変換の問題を避けるために、属性値に上記以外の文字を使用しないでください。属性タイプ (CN など) は、大文字でなければなりません。

4. 同じ英字が入っているストリングは、大文字小文字の区別なく、一致します。
5. 属性タイプと = 文字の間にスペースを使用することはできません。
6. オプションで、属性値を二重引用符で囲むことができます。例えば、CN="John Smith"などです。この引用符は、値を突き合わせるときは破棄されます。
7. ストリングの前と後のスペースは、ストリングが二重引用符で囲まれていない場合は無視されます。

8. 二重引用符で囲まれているか、円記号 (¥) のエスケープ文字が先頭に付いていると、コンマとセミコロンの属性区切り文字は、ストリングの一部と見なされます。
9. 属性タイプの名前 (例えば、CN または OU) は、二重引用符で囲まれたときにストリングの一部と見なされます。
10. 州・県名には、属性タイプ ST、SP、および S のいずれかを使用することができます。
11. 任意の属性値には、先頭、末尾、または両方の場所で、パターン・マッチング文字としてアスタリスク (*) を指定できます。このアスタリスク文字は、突き合わせるストリングの先頭または末尾の任意の数の文字の代わりに使用されます。この文字は、SSLPEER の指定が、一連の識別名と一致することができます。例えば、OU=IBM* は、IBM で始まるすべての組織単位 (例えば、「IBM Corporation) と一致します。
アスタリスク文字は、識別名の有効文字としても使用できます。ストリングの先頭または末尾にアスタリスクがある完全一致を取得するには、アスタリスクの前に円記号エスケープ文字 (\) を付ける必要があります:*。ストリングの中央にあるアスタリスクは、ストリングの一部と見なされ、エスケープ文字は必要ありません。
12. 識別名には、複数の OU 属性および複数の DC 属性を含めることができます。
13. 複数の OU 属性を指定する場合は、すべての属性が存在し、降順の階層になっている必要があります。例については、[DEFINE CHANNEL](#) を参照してください。
14. デジタル証明書の所有者の識別名には、OU および DC 以外の同じタイプの複数の属性を追加できます。ただし、これを行うことができるのは、繰り返される属性タイプで SSLPEER 値によるフィルタリングが行われない場合のみです。例えば、証明書に以下の所有者の識別名が含まれている場合を考えてみます。

```
CN=First, CN=Second, O=IBM, C=US
```

O=IBM, C=US の SSLPEER 値は CN ではフィルターに掛けられないため、この証明書に一致し、接続を許可します。証明書に複数の CN 属性が含まれているため、SSLPEER 値 CN=First, O=IBM, C=US はこの証明書との突き合わせに失敗します。複数の CN 値と突き合わせることはできません。

15. SERIALNUMBER 属性の値は、コロンで区切られたバイト (16 進数) で構成されます。例えば、A1:B2:C3 のようになります。

関連概念

識別名

[チャンネル認証レコード](#)

関連タスク

[MCAUSER ユーザー ID への TLS 識別名のマッピング](#)

Multi

GSKit: FIPS 140-2 に準拠するデジタル証明書署名アルゴリズム

FIPS 140-2 に準拠した IBM Global Security Kit (GSKit) のデジタル証明書署名アルゴリズムのリスト

注: AIX, Linux, and Windows では、IBM MQ は IBM Crypto for C (ICC) 暗号モジュールを介して FIPS 140-2 準拠を提供します。このモジュールの証明書は「履歴」ステータスに移動されました。お客様は、[IBM Crypto for C \(ICC\) 証明書](#) を表示し、NIST から提供されたアドバイスに注意する必要があります。交換用の FIPS 140-3 モジュールが現在進行中であり、その状況を表示するには、「[NIST CMVP modules in process list](#)」でそのモジュールを検索します。

IBM MQ Operator 3.2.0 およびキュー・マネージャー・コンテナ・イメージ 9.4.0.0 以降は、UBI 9 に基づいています。FIPS 140-3 準拠は現在保留中であり、その状況を表示するには、「[NIST CMVP modules in process list](#)」で「Red Hat Enterprise Linux 9- OpenSSL FIPS Provider」を検索します。

- RSA + SHA-1
- RSA + SHA-224
- RSA + SHA-256
- RSA + SHA-384

- RSA + SHA-512
- DSA + SHA-1
- ECDSA + SHA-1
- ECDSA + SHA-224
- ECDSA と SHA-256
- ECDSA と SHA-384
- ECDSA + SHA-512
- 曲線 P-192
- 曲線 P-224
- 曲線 P-256
- 曲線 P-384
- 曲線 P-521
- 曲線 K-163
- 曲線 K-233
- 曲線 K-283
- 曲線 K-409
- 曲線 K-571
- 曲線 B-163
- 曲線 B-233
- 曲線 B-283
- 曲線 B-409
- 曲線 B-571

関連概念

[IBM MQ におけるデジタル証明書と CipherSpec の互換性](#)

AMS メッセージで使用される GSKit 戻りコード

このトピックでは、一部の Advanced Message Security (AMS) メッセージに表示される IBM Global Security Kit (GSKit) 戻りコードについて説明します。

GSKit によって生成された数値の戻りコードを受け取った場合は、以下の表を参照して、メッセージ・コードまたは説明を判別してください。

10 進戻 りコ ード	メッセージ・コード	説明
0	GSS_S_MINOR_OK	OK。エラーはありません。
0	GSS_S_MINOR_SUCCESS	OK。エラーはありません。
1	GSS_S_MINOR_MEMORY_ALLOCATION_FAILU RE	汎用メモリー割り振り失敗が発生しました。
1	GSS_S_MINOR_INSUFFICIENT_STORAGE	汎用メモリー割り振り失敗が発生しました。
2	GSS_S_MINOR_NOT_MECHANISM_NAME	名前がメカニズム名ではありません。
3	GSS_S_MINOR_INVALID_NAME	指定された名前は無効です。
4	GSS_S_MINOR_GSK_ERROR	GSKit がエラーを戻しました。

表 7.10 進数の戻りコードでソートされた GSKit エラー・メッセージ (続き)

10 進戻 りコ ード	メッセージ・コード	説明
5	GSS_S_MINOR_NO_MORE_NAME	名前オブジェクトにはこれ以上解析する名前がありません。
6	GSS_S_MINOR_MEMBER_NOT_FOUND	オブジェクトが1つのセットから参照されましたが、要求されたオブジェクトは見つかりませんでした。
7	GSS_S_MINOR_BAD_QUALITY_OF_PROTECTION_ALGORITHM	保護品質アルゴリズムに誤りがあります。
8	GSS_S_MINOR_BAD_QUALITY_OF_SIGNING_ALGORITHM	署名品質アルゴリズムに誤りがあります。
9	GSS_S_MINOR_BAD_DIGEST_ENCRYPTION_ALGORITHM	ダイジェスト暗号化アルゴリズムに誤りがあります。
10	GSS_S_MINOR_BAD_INPUT	1つ以上の必須の入力パラメーターが NULL です。
11	GSS_S_MINOR_HANDLE_INVALID	オブジェクト・ハンドルが無効です。
12	GSS_S_MINOR_NO_PRIVKEY_IN_KEYRING	データベースに秘密鍵を持つエントリーがありません。
12	GSS_S_MINOR_NO_PRIVKEY_IN_DB	データベースに秘密鍵を持つエントリーがありません。
13	GSS_S_MINOR_BAD_KEYRING_TYPE	データベースのエントリー・タイプに誤りがあります。
14	GSS_S_MINOR_KEYRING_ACCESS_EXCEPTION	データベースへのアクセスで例外が発生しました。 追加情報: すべての GSKit ライブラリーがアクセス可能であり、破損していないことを確認してください。また、HP-UX 上で使用している場合は、SHLIB_PATH がプログラムに対して正しく有効化されていることを確認してください。
15	GSS_S_MINOR_API_NOT_SUPPORTED	このアプリケーション・インターフェース (API) はサポートされていません。
16	GSS_S_MINOR_CREDENTIAL_STILL_EXISTS	この資格情報はすでに存在します。
17	GSS_S_MINOR_ENV_STILL_EXISTS	環境はすでに存在しています。
18	GSS_S_MINOR_EXPIRED_CREDENTIAL	資格情報の有効期限が切れています。
19	GSS_S_MINOR_NO_SIGNER	指定された資格情報に使用できる署名者がいません。
20	GSS_S_MINOR_PIDU_HAD_INVALID_CONTENT_TYPE	この保護独立データ単位 (Protected Independent Data Unit (PIDU)) のコンテンツ・タイプが無効です。
21	GSS_S_MINOR_PIDU_HAD_INVALID_CONTENT_ENCRYPTION_ALGORITHM	この保護独立データ単位 (PIDU) のコンテンツ暗号化アルゴリズムは無効です。
22	GSS_S_MINOR_BLOB_ALREADY_EXISTS	この blob はすでに存在しています。

表 7.10 進数の戻りコードでソートされた GSKit エラー・メッセージ (続き)

10 進戻 りコ ード	メッセージ・コード	説明
23	GSS_S_MINOR_INVALID_MECH	メカニズム・タイプのオブジェクト ID が構文的に無効です。
24	GSS_S_MINOR_MECH_NOT_SUPPORTED	示されたメカニズム・タイプはこの実装環境ではサポートされていません。
25	GSS_S_MINOR_STATIC_OID	静的なオブジェクト ID (OID) を解放しようとする試みがありましたが、解放できません。
26	GSS_S_MINOR_PIDU_INVALID_SESSION_KEY	この保護独立データ単位 (PIDU) のセッション鍵は、そのデータの復号に使用できません。
27	GSS_S_MINOR_PIDU_RECIPIENT_INFO_INVALID_ID	この保護独立データ単位 (PIDU) が参照している証明書は、そのセッション鍵の復号に使用できません。
28	GSS_S_MINOR_PIDU_HAS_UNSUPPORTED_DIGEST_ALGORITHM	この保護独立データ単位 (PIDU) のダイジェスト・アルゴリズムはサポートされていません。
29	GSS_S_MINOR_PIDU_HAS_UNSUPPORTED_DIGEST_ENCRYPTION	この保護独立データ単位 (PIDU) のダイジェスト暗号化アルゴリズムはサポートされていません。
30	GSS_S_MINOR_SIGNING_NOT_ALLOWED_BY_ENV	この環境は、署名操作を実行するためにセットアップされていません。 追加情報: 証明書内のキー使用ビットが、指定された操作を許可していない可能性があります。
31	GSS_S_MINOR_ENCRYPTION_NOT_ALLOWED_BY_ENV	この環境は、暗号化操作を実行するためにセットアップされていません。 追加情報: 証明書内のキー使用ビットが、指定された操作を許可していない可能性があります。
32	GSS_S_MINOR_NO_VALID_TARGET_NAMES_IN_DATABASE	指定された名前がいずれもデータベース内で見つかりませんでした。
33	GSS_S_MINOR_NO_VALID_SIGNERS	署名済み保護独立データ単位 (PIDU) の保護解除中に、どの署名者も検証できませんでした。
34	GSS_S_MINOR_MULTIPLE_SIGNERS	署名済み保護独立データ単位 (PIDU) に複数の署名者が含まれていますが、最初の署名者だけが返されています。
35	GSS_S_MINOR_BAD_SEQUENCE	マルチバッファが正しくない順序で呼び出されました (例えば、end_unprotect が start_protect の後に呼び出されます)。
36	GSS_S_MINOR_INVALID_NAMETYPE	指定された nametype 引数は無効です。
37	GSS_S_MINOR_FAILURE	一般的な内部障害が発生しました。
38	GSS_S_MINOR_BAD_OID	指定されたオブジェクト ID は構文的に無効です。
39	GSS_S_MINOR_INVALID_CREDENTIAL	資格情報が無効です。
40	GSS_S_MINOR_INVALID_ENVIRONMENT	環境が無効です。

表 7.10 進数の戻りコードでソートされた GSKit エラー・メッセージ (続き)

10 進戻 りコ ード	メッセージ・コード	説明
41	GSS_S_MINOR_VERIFY_NOT_ALLOWED_BY_ENV	この環境は、その操作を検証するためにセットアップされていません。この環境は、その操作を検証するためにセットアップされていません。 追加情報: 証明書内のキー使用ビットが、指定された操作を許可していない可能性があります。
42	GSS_S_MINOR_DECRYPTION_NOT_ALLOWED_BY_ENV	この環境は、復号操作を実行するためにセットアップされていません。 追加情報: 証明書内のキー使用ビットが、指定された操作を許可していない可能性があります。
43	GSS_S_MINOR_UNABLE_TO_DECRYPT_PIDU	この保護独立データ単位 (PIDU) は復号できません。 追加情報: プライバシー保護されたキュー上の受信側拡張属性に、メッセージの実際の受信側の証明書 DN が含まれていることを確認してください。また、送信側がその受信側 DN 用に持っている公開鍵が、受信側の鍵ストア内の秘密鍵に対応していることを確認してください。
44	GSS_S_MINOR_INVALID_PKCS7_MESSAGE	無効な PKCS7 メッセージを受信しました。
45	GSS_S_MINOR_USAGE_VALIDATION_FAILED	アプリケーションが正しいレベルの GSKit/ACME で作成されていないか、ACME API インターフェースの使用が許可されていません。
46	GSS_S_MINOR_DIGEST_ERROR	メッセージ・ダイジェスト中にエラーが発生し、メッセージが破損している可能性があります。
47	GSS_S_MINOR_ENCRYPTION_ERROR	データ暗号化中にエラーが発生し、メッセージが破損している可能性があります。
48	GSS_S_MINOR_DECRYPTION_ERROR	データ復号中にエラーが発生し、メッセージが破損している可能性があります。
49	GSS_S_MINOR_ACCELERATOR_NOT_SUPPORTED	指定されたカードはサポートされていないか、または正しくインストールされていません。
50	GSS_S_MINOR_PKCS11_TOKEN_NOTPRESENT	PKCS #11 トークンが見つかりませんでした。
51	GSS_S_MINOR_PKCS11_TOKEN__LABEL_MISMATCH	PKCS #11 トークン・ラベルが正しく入力されませんでした。
52	GSS_S_MINOR_PKCS11_TOKEN_INVALID_PIN	PKCS #11 トークン用に入力されたユーザー PIN が無効です。
53	GSS_S_MINOR_PKCS11_LIBRARY_NOT_LOADED	システムは PKCS #11 ライブラリーをロードできませんでした。
54	GSS_S_MINOR_DECODING_ERROR	証明書または識別名のいずれかの Base 64 または ASN.1 デコード中にエラーが発生しました。
55	GSS_S_MINOR_SIGN_ERROR	署名処理中にエラーが発生しました。
56	GSS_S_MINOR_VERIFY_ERROR	署名検証プロセス中にエラーが発生しました。

表 7.10 進数の戻りコードでソートされた GSKit エラー・メッセージ (続き)

10 進戻 りコ ード	メッセージ・コード	説明
57	GSS_S_MINOR_RECIPIENT_CERT_NOT_FOUND	アプリケーションは受信側の証明書を見つけることができませんでした。
58	GSS_S_MINOR_CERT_HpAS_NO_PRIVATE_KEY	証明書に秘密暗号鍵がありません。
59	GSS_S_MINOR_CERT_HAS_BAD_VALIDITY_DATE	証明書の有効期限に誤りがあります。
60	GSS_S_MINOR_BAD_CERTIFICATE	証明書が無効です。
61	GSS_S_MINOR_FIPS_NOT_SUPPORTED	このバージョンでは FIPS モードはサポートされていません。
62	GSS_S_MINOR_SIGNER_CERT_BAD	署名者証明書が信頼されていません。
63	GSS_S_MINOR_SIGNER_CERT_BAD_DATE	署名者証明書の有効期限に誤りがあります。

モニター・リファレンス

IBM MQ をモニターするには、このセクションの参照情報を使用してください。

- [49 ページの『構造データ型』](#)
- [74 ページの『イベント・データのオブジェクト属性』](#)
- [120 ページの『イベント・メッセージ参照』](#)

関連タスク

[モニターおよびパフォーマンス](#)

構造データ型

このトピックでは、IBM MQ のモニター技法によって生成されるメッセージ・データで使用される構造データ型について知ることができます。

サブトピックでは、モニター・メッセージ・データで使用される構造データ型について、言語に依存しない形式で説明しています。

- [50 ページの『MQCFBS - バイト・ストリング・パラメーター』](#)
- [52 ページの『MQCFGR - グループ・パラメーター』](#)
- [53 ページの『MQCFH - PCF ヘッダー』](#)
- [57 ページの『MQCFIL - 整数リスト・パラメーター』](#)
- [59 ページの『MQCFIL64 - 64 ビット整数リスト・パラメーター』](#)
- [61 ページの『MQCFIN - 整数パラメーター』](#)
- [63 ページの『MQCFIN64 - 64 ビット整数パラメーター』](#)
- [65 ページの『MQCFSL - ストリング・リスト・パラメーター』](#)
- [67 ページの『MQCFST - ストリング・パラメーター』](#)
- [70 ページの『MQEPH - 組み込み PCF ヘッダー』](#)

宣言については、以下のプログラミング言語で示します。

- C
- COBOL
- PL/I

- **IBM i** RPG (ILE) (IBM i のみ)
- **z/OS** S/390 アセンブラー (z/OS のみ)
- **Windows** Visual Basic (Windows のみ)

MQCFBS - バイト・ストリング・パラメーター

このページを使用して、MQCFBS パラメーターの構造、および各プログラミング言語 (C、COBOL、PL/I、RPG/ILE、および S/390 アセンブラー) 用の宣言を確認します。

MQCFBS 構造は、バイト・ストリング・パラメーターについて記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQCFBS 構造を構成する各フィールドの説明があります。

- [C 言語](#)
- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [S/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)

Type

説明: これは、バイト・ストリング・パラメーターを記述する MQCFBS 構造であることを示します。

データ型: MQLONG

値: **MQCFT_BYTE_STRING**
バイト・ストリングを定義する構造。

StrucLength

説明: これは、MQCFBS 構造の長さ (バイト単位) で、構造の末尾にある可変長ストリングを含みます (*String* フィールド)。

データ型: MQLONG

Parameter

説明: これは、その値が構造に含まれているパラメーターを識別します。

データ型: MQLONG

StringLength

説明: これは *String* フィールド内のデータ長さ (バイト) で、値は 0 以上です。

データ型: MQLONG

String

説明: これは、*Parameter* フィールドによって識別されるパラメーターの値です。ストリングはバイト・ストリングであるため、異なるシステム間で送信されるときに文字セット変換は行われません。

注: ストリング内のヌル・バイトは通常の変換として扱われ、ストリングの区切り文字としては機能しません。

データ型: MQBYTE x *StringLength*.

C 言語宣言

```
struct tagMQCFBS {
    MQLONG  Type;          /* Structure type */
    MQLONG  StructLength; /* Structure length */
    MQLONG  Parameter;    /* Parameter identifier */
    MQLONG  StringLength; /* Length of string */
    MQBYTE  String[1];    /* String value -- first character */
} MQCFBS;
```

COBOL 言語宣言

```
** MQCFBS structure
10 MQCFBS.
** Structure type
15 MQCFBS-TYPE PIC S9(9) BINARY.
** Structure length
15 MQCFBS-STRUCLength PIC S9(9) BINARY.
** Parameter identifier
15 MQCFBS-PARAMETER PIC S9(9) BINARY.
** Length of string
15 MQCFBS-STRINGLENGTH PIC S9(9) BINARY.
```

PL/I 言語宣言 (z/OS のみ)

```
dcl
1 MQCFBS based,
3 Type fixed bin(31), /* Structure type */
3 StructLength fixed bin(31), /* Structure length */
3 Parameter fixed bin(31), /* Parameter identifier */
3 StringLength fixed bin(31); /* Length of string */
```

RPG/ILE 言語宣言 (IBM i のみ)

```
D*..1.....2.....3.....4.....5.....6.....7..
D* MQCFBS Structure
D*
D* Structure type
D BSTYP 1 4I 0 INZ(9)
D* Structure length
D BSLEN 5 8I 0 INZ(16)
D* Parameter identifier
D BSPRM 9 12I 0 INZ(0)
D* Length of string
D BSSTL 13 16I 0 INZ(0)
D* String value -- first byte
D BSSRA 17 17 INZ
```

S/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

```
MQCFBS DSECT
MQCFBS_TYPE DS F Structure type
MQCFBS_STRUCLength DS F Structure length
MQCFBS_PARAMETER DS F Parameter identifier
MQCFBS_STRINGLENGTH DS F Length of string
*
MQCFBS_LENGTH EQU *-MQCFBS
ORG MQCFBS
MQCFBS_AREA DS CL(MQCFBS_LENGTH)
```

MQCFGR - グループ・パラメーター

このページを使用して、MQCFGR パラメーターの構造、および各プログラミング言語 (C、COBOL、PL/I、RPG/ILE、S/390 アセンブラー、および Visual Basic) 用の宣言を確認します。

MQCFGR 構造は、グループ・パラメーターを記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQCFGR 構造を構成するフィールドの説明があります。

- [C 言語](#)
- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [System/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [Visual Basic 言語 \(Windows のみ\)](#)

MQCFGR 構造は、グループ・パラメーターです。このグループ・パラメーターは、後に続くパラメーター構造を、単一の論理装置としてグループ化します。組み込まれる後続の構造の数は、*ParameterCount* で指定されます。この構造と、構造に含まれるパラメーター構造は、PCF ヘッダー (MQCFH) の *ParameterCount* パラメーターおよびグループ・パラメーター (MQCFGR) 内で、1 構造としてのみカウントされます。

Type

説明:	構造タイプが、このグループにあるパラメーターについて記述する MQCFGR 構造タイプであることを示します。
データ型:	MQLONG
値:	MQCFT_GROUP パラメーターのグループを定義する構造。

StrucLength

説明:	MQCFGR 構造の長さ (バイト)。
データ型:	MQLONG
値:	MQCFGR_STRUC_LENGTH コマンド・フォーマットのグループ・パラメーター構造の長さ。

Parameter

説明:	グループ・パラメーターのタイプを識別します。
データ型:	MQLONG

ParameterCount

説明:	<i>Parameter</i> フィールドで識別されるグループ内に含まれる MQCFGR 構造の後に続くパラメーター構造の数。グループ自体に 1 つ以上のグループが含まれる場合、各グループとそのパラメーターは、1 構造としてのみカウントされます。
データ型:	MQLONG

C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFGR {
    MQLONG    Type;           /* Structure type */
    MQLONG    StrucLength;    /* Structure length */
    MQLONG    Parameter;     /* Parameter identifier */
    MQLONG    ParameterCount; /* Count of the grouped parameter structures */
} MQCFGR;
```

COBOL 言語宣言

```
** MQCFGR structure
 10 MQCFGR.
** Structure type
 15 MQCFGR-TYPE          PIC S9(9) BINARY.
** Structure length
 15 MQCFGR-STRUCLength  PIC S9(9) BINARY.
** Parameter identifier
 15 MQCFGR-PARAMETER     PIC S9(9) BINARY.
** Count of grouped parameter structures
 15 MQCFGR-PARAMETERCOUNT PIC S9(9) BINARY.
```

PL/I 言語宣言 (z/OS および Windows のみ)

```
dcl
 1 MQCFGR based,
 3 Type          fixed bin(31), /* Structure type */
 3 StrucLength   fixed bin(31), /* Structure length */
 3 Parameter      fixed bin(31), /* Parameter identifier */
 3 ParameterCount fixed bin(31), /* Count of grouped parameter structures */
```

RPG/ILE 宣言 (IBM i のみ)

```
D*..1.....2.....3.....4.....5.....6.....7..
  D* MQCFGR Structure
  D*
  D* Structure type
  D GRTYP          1      4I INZ(20)
  D* Structure length
  D GRLEN          5      8I INZ(16)
  D* Parameter identifier
  D GRPRM          9      12I INZ(0)
  D* Count of grouped parameter structures
  D GRCNT          13     16I INZ(0)
  D*
```

S/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

```
MQCFGR          DSECT
MQCFGR_TYPE     DS    F      Structure type
MQCFGR_STRUCLength DS    F      Structure length
MQCFGR_PARAMETER DS    F      Parameter identifier
MQCFGR_PARAMETERCOUNT DS    F      Count of grouped parameter structures
MQCFGR_LENGTH   EQU    *-MQCFGR Length of structure
MQCFGR          ORG    MQCFGR
MQCFGR_AREA     DS    CL(MQCFGR_LENGTH)
```

Visual Basic 言語宣言 (Windows のみ)

```
Type MQCFGR
  Type As Long          ' Structure type
  StrucLength As Long   ' Structure length
  Parameter As Long     ' Parameter identifier
  ParameterCount As Long ' Count of grouped parameter structures
End Type
```

MQCFH - PCF ヘッダー

このページを使用して、MQCFH ヘッダーの構造、および各プログラミング言語 (C、COBOL、PL/I、RPG/ILE、S/390 アセンブラー、および Visual Basic) 用の宣言を確認します。

MQCFH 構造は、モニター・メッセージのメッセージ・データの開始点に存在する情報について記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQCFH 構造を構成するフィールドの説明があります。

- [C 言語](#)
- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [S/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [Visual Basic 言語 \(Windows のみ\)](#)

Type

説明:	メッセージの内容を示す構造タイプ。
データ型:	MQLONG
値:	MQCFT_ACCOUNTING メッセージはアカウントिंग・メッセージです。
	MQCFT_EVENT メッセージは、イベントのレポートです。
	MQCFT_REPORT メッセージはアクティビティ・レポートです。
	MQCFT_RESPONSE メッセージはコマンドへの応答です。
	MQCFT_STATISTICS メッセージは統計メッセージです。
	MQCFT_TRACE_ROUTE メッセージは経路トレース・メッセージです。

StrucLength

説明:	MQCFH 構造の長さ (バイト) です。
データ型:	MQLONG
値:	MQCFH_STRUC_LENGTH コマンド・フォーマットのヘッダー構造の長さ。

Version

説明:	構造体のバージョン番号。
データ型:	MQLONG
値:	MQCFH_VERSION_1 構成イベントおよびコマンド・イベント以外のすべてのイベントのバージョン番号。
	MQCFH_VERSION_2 構成イベントのバージョン番号。
	MQCFH_VERSION_3 コマンド・イベント、アクティビティ・レポート、経路トレース・メッセージ、アカウントिंग・メッセージ、および統計メッセージのバージョン番号。

Command

説明:	メッセージのカテゴリーを指定します。
-----	--------------------

データ型: MQLONG
値: 以下の構造記述内の *Command* の値を参照してください。
• [127 ページの『イベント・メッセージ MQCFH \(PCF ヘッダー\)』](#)。
• [アクティビティ・レポート MQCFH \(PCF ヘッダー\)](#)。
• [経路トレース・メッセージ MQCFH \(PCF ヘッダー\)](#)。
• [アカウントिंग・メッセージと統計メッセージのメッセージ・データ](#)。

MsgSeqNumber

説明: メッセージ順序番号 これは、関連メッセージのセット内のメッセージの順序番号です。
データ型: MQLONG

Control

説明: 制御オプション。
データ型: MQLONG
値: **MQCFC_LAST**
セット内の最後のメッセージ。
MQCFC_NOT_LAST
セット内の最後のメッセージ以外のメッセージ。

CompCode

説明: 完了コード。
データ型: MQLONG
値: **MQCC_OK**
OK 条件、アクティビティ・レポート、経路トレース・メッセージ、アカウントिंग・メッセージ、または統計メッセージを報告するイベント。
MQCC_WARNING
イベントは警告条件をレポートします。

Reason

説明: 完了コードを修飾する理由コード。
データ型: MQLONG
値: イベント・メッセージの場合:
MQRC_*
レポートされるイベントによって異なります。
注: 理由コードが同じイベント同士の識別は、さらに、イベント・データの中での **ReasonQualifier** パラメーターを使用して行われます。
アクティビティ・レポート、経路トレース・メッセージ、アカウントिंग・メッセージ、および統計メッセージの場合:
MQRC_NONE

ParameterCount

説明: パラメーター構造のカウント。これは、MQCFH 構造に続くパラメーター構造の数です。

データ型: MQLONG
値: 0 以上。

C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFH {  
    MQLONG   Type;           /* Structure type */  
    MQLONG   StructLength;   /* Structure length */  
    MQLONG   Version;       /* Structure version number */  
    MQLONG   Command;       /* Command identifier */  
    MQLONG   MsgSeqNumber;   /* Message sequence number */  
    MQLONG   Control;       /* Control options */  
    MQLONG   CompCode;      /* Completion code */  
    MQLONG   Reason;        /* Reason code qualifying completion code */  
    MQLONG   ParameterCount; /* Count of parameter structures */  
} MQCFH;
```

COBOL 言語宣言

```
** MQCFH structure  
10 MQCFH.  
** Structure type  
15 MQCFH-TYPE PIC S9(9) BINARY.  
** Structure length  
15 MQCFH-STRUCLENGTH PIC S9(9) BINARY.  
** Structure version number  
15 MQCFH-VERSION PIC S9(9) BINARY.  
** Command identifier  
15 MQCFH-COMMAND PIC S9(9) BINARY.  
** Message sequence number  
15 MQCFH-MSGSEQNUMBER PIC S9(9) BINARY.  
** Control options  
15 MQCFH-CONTROL PIC S9(9) BINARY.  
** Completion code  
15 MQCFH-COMPCODE PIC S9(9) BINARY.  
** Reason code qualifying completion code  
15 MQCFH-REASON PIC S9(9) BINARY.  
** Count of parameter structures  
15 MQCFH-PARAMETERCOUNT PIC S9(9) BINARY.
```

PL/I 言語宣言 (z/OS および Windows)

```
dcl  
1 MQCFH based,  
3 Type fixed bin(31), /* Structure type */  
3 StructLength fixed bin(31), /* Structure length */  
3 Version fixed bin(31), /* Structure version number */  
3 Command fixed bin(31), /* Command identifier */  
3 MsgSeqNumber fixed bin(31), /* Message sequence number */  
3 Control fixed bin(31), /* Control options */  
3 CompCode fixed bin(31), /* Completion code */  
3 Reason fixed bin(31), /* Reason code qualifying completion  
code */  
3 ParameterCount fixed bin(31); /* Count of parameter structures */
```

RPG 言語宣言 (IBM i のみ)

```
D*..1....:....2....:....3....:....4....:....5....:....6....:....7..  
D* MQCFH Structure  
D*  
D* Structure type  
D FHTYP 1 4I 0 INZ(1)  
D* Structure length  
D FHLEN 5 8I 0 INZ(36)  
D* Structure version number  
D FHVER 9 12I 0 INZ(1)
```

```

D* Command identifier
D FHCMD          13      16I 0 INZ(0)
D* Message sequence number
D FHSEQ          17      20I 0 INZ(1)
D* Control options
D FHCTL          21      24I 0 INZ(1)
D* Completion code
D FHCMP          25      28I 0 INZ(0)
D* Reason code qualifying completion code
D FHREA          29      32I 0 INZ(0)
D* Count of parameter structures
D FHCNT          33      36I 0 INZ(0)
D*

```

S/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

```

MQCFH           DSECT
MQCFH_TYPE      DS F      Structure type
MQCFH_STRULENGTH DS F      Structure length
MQCFH_VERSION   DS F      Structure version number
MQCFH_COMMAND   DS F      Command identifier
MQCFH_MSGSEQUENCE DS F      Message sequence number
MQCFH_CONTROL   DS F      Control options
MQCFH_COMPCODE  DS F      Completion code
MQCFH_REASON    DS F      Reason code qualifying
                    completion code
*
MQCFH_PARAMETERCOUNT DS F      Count of parameter
                    structures
*
MQCFH_LENGTH    EQU *-MQCFH Length of structure
                    ORG MQCFH
MQCFH_AREA      DS CL(MQCFH_LENGTH)

```

Visual Basic 言語宣言 (Windows のみ)

```

Type MQCFH
  Type As Long          'Structure type
  StrucLength As Long   'Structure length
  Version As Long       'Structure version number
  Command As Long       'Command identifier
  MsgSeqNumber As Long  'Message sequence number
  Control As Long       'Control options
  CompCode As Long      'Completion code
  Reason As Long        'Reason code qualifying completion code
  ParameterCount As Long 'Count of parameter structures
End Type

```

MQCFIL - 整数リスト・パラメーター

このページを使用して、MQCFIL パラメーターの構造、および各プログラミング言語 (C、COBOL、PL/I、RPG/ILE、S/390 アセンブラー、および Visual Basic) 用の宣言を確認します。

MQCFIL 構造は、整数リスト・パラメーターを記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQCFIL 構造を構成するフィールドの説明があります。

- [C 言語](#)
- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [System/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [Visual Basic 言語 \(Windows のみ\)](#)

Type

説明: 構造タイプが MQCFIL であり、整数リスト・パラメーターについて記述していることを示します。

データ型: MQLONG
値: **MQCFT_INTEGER_LIST**
整数リストを定義する構造。

StrucLength

説明: 構造の末尾 (*values* フィールド) にある整数の配列を含む、MQCFIL 構造の長さ (バイト) です。
データ型: MQLONG

Parameter

説明: その値が構造に含まれているパラメーターを識別します。
データ型: MQLONG

Count

説明: *Values* 配列内の要素の数。
データ型: MQLONG
値: 0 以上。

Values

説明: *Parameter* フィールドで識別されたパラメーターの値の配列。
データ型: MQLONG x *Count*

このフィールドを宣言する方法は、プログラミング言語によって次のように異なります。

- C プログラミング言語では、1つの要素を含む配列としてこのフィールドを宣言します。構造のためのストレージは動的に割り振られる必要があり、構造の中のフィールドをアドレス指定するためにポインターが使用されます。
- COBOL、PL/I、RPG、および System/390 アセンブラーの各プログラミング言語では、このフィールドが構造体宣言から省略されています。構造のインスタンスを宣言するときに、より大きな構造体に MQCFIL を組み込み、MQCFIL の後に、*Values* フィールドを表す追加フィールドを必要なだけ宣言する必要があります。

C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFIL {  
    MQLONG  Type;          /* Structure type */  
    MQLONG  StrucLength;  /* Structure length */  
    MQLONG  Parameter;    /* Parameter identifier */  
    MQLONG  Count;        /* Count of parameter values */  
    MQLONG  Values[1];    /* Parameter values - first element */  
} MQCFIL;
```

COBOL 言語宣言

```
**  MQCFIL structure  
10  MQCFIL.  
**  Structure type  
15  MQCFIL-TYPE          PIC S9(9) BINARY.  
**  Structure length  
15  MQCFIL-STRUCLNGTH  PIC S9(9) BINARY.
```

```

**      Parameter identifier
**      15 MQCFIL-PARAMETER PIC S9(9) BINARY.
**      Count of parameter values
**      15 MQCFIL-COUNT      PIC S9(9) BINARY.

```

PL/I 言語宣言

```

dcl
  1 MQCFIL based,
  3 Type      fixed bin(31), /* Structure type */
  3 StrucLength fixed bin(31), /* Structure length */
  3 Parameter  fixed bin(31), /* Parameter identifier */
  3 Count     fixed bin(31); /* Count of parameter values */

```

RPG/ILE 宣言 (IBM i のみ)

```

D*..1.....2.....3.....4.....5.....6.....7..
D* MQCFIL Structure
D*
D* Structure type
D  ILTYP          1      4I 0
D* Structure length
D  ILLEN          5      8I 0
D* Parameter identifier
D  ILPRM          9     12I 0
D* Count of paramter valuee
D  ILCNT         13     16I 0

```

S/390 アセンブラー言語宣言

MQCFIL	DSECT	
MQCFIL_TYPE	DS F	Structure type
MQCFIL_STRUCLNGTH	DS F	Structure length
MQCFIL_PARAMETER	DS F	Parameter identifier
MQCFIL_COUNT	DS F	Count of parameter values
MQCFIL_LENGTH	EQU	*-MQCFIL Length of structure
	ORG	MQCFIL
MQCFIL_AREA	DS	CL(MQCFIL_LENGTH)

Visual Basic 言語宣言

```

Type MQCFIL
  Type As Long      ' Structure type
  StrucLength As Long ' Structure length
  Parameter As Long ' Parameter identifier
  Count As Long     ' Count of parameter value
End Type

```

MQCFIL64 - 64 ビット整数リスト・パラメーター

このページを使用して、MQCFIL64 パラメーターの構造、および各プログラミング言語 (C、COBOL、PL/I、RPG/ILE、および S/390 アセンブラー) 用の宣言を確認します。

MQCFIL64 構造は、64 ビット整数リスト・パラメーターを記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQCFIL64 構造を構成するフィールドの説明があります。

- [C 言語](#)
- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [System/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)

Type

説明:	構造が 64 ビット整数リスト・パラメーターを記述する MQCFIL64 構造であることを示します。
データ型:	MQLONG
値:	MQCFT_INTEGER64_LIST 64 ビット整数リストを定義する構造。

StrucLength

説明:	構造の末尾 (<i>Values</i> フィールド) にある整数の配列を含む、MQCFIL64 構造の長さ (バイト)。
データ型:	MQLONG

Parameter

説明:	その値が構造に含まれているパラメーターを識別します。
データ型:	MQLONG

Count

説明:	<i>Values</i> 配列内の要素の数。
データ型:	MQLONG
値:	0 以上。

Values

説明:	<i>Parameter</i> フィールドで識別されたパラメーターの値の配列。
データ型:	(MQINT64 x <i>Count</i>)

このフィールドを宣言する方法は、プログラミング言語によって次のように異なります。

- C プログラミング言語では、1つの要素を含む配列としてこのフィールドを宣言します。構造のためのストレージは動的に割り振られる必要があり、構造の中のフィールドをアドレス指定するためにポインターが使用されます。
- COBOL、PL/I、RPG、および System/390 アセンブラーの各プログラミング言語では、このフィールドが構造体宣言から省略されています。構造のインスタンスを宣言するとき、より大きな構造体に MQCFIL64 を組み込み、MQCFIL64 の後に、*Values* フィールドを表す追加フィールドを必要なだけ宣言する必要があります。

COBOL の場合、追加フィールドは次のように宣言します。

```
PIC S9(18)
```

PL/I の場合、追加フィールドは精度 63 の FIXED BINARY SIGNED として宣言する必要があります。

System/390 アセンブラーの場合、追加フィールドは DS 宣言に D (ダブルワード) として宣言する必要があります。

C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFIN64 {  
    MQLONG    Type;           /* Structure type */  
    MQLONG    StrucLength;    /* Structure length */  
    MQLONG    Parameter;     /* Parameter identifier */  
    MQLONG    Count;         /* Count of parameter values */  
};
```

```
MQINT64 Values[1];      /* Parameter value */
} MQCFIL64;
```

COBOL 言語宣言

```
** MQCFIL64 structure
10 MQCFIL64.
** Structure type
15 MQCFIL64-TYPE PIC S9(9) BINARY.
** Structure length
15 MQCFIL64-STRUCLENGTH PIC S9(9) BINARY.
** Parameter identifier
15 MQCFIL64-PARAMETER PIC S9(9) BINARY.
** Count of parameter values
15 MQCFIL64-COUNT PIC S9(9) BINARY.
```

PL/I 言語宣言

```
dcl
1 MQCFIL64 based,
3 Type fixed bin(31), /* Structure type */
3 StrucLength fixed bin(31), /* Structure length */
3 Parameter fixed bin(31), /* Parameter identifier */
3 Count fixed bin(31) /* Count of parameter values */
```

RPG/ILE 言語宣言 (IBM i のみ)

```
D*..1.....2.....3.....4.....5.....6.....7..
D* MQCFIL64 Structure
D*
D* Structure type
D IL64TYP 1 4I 0 INZ(25)
D* Structure length
D IL64LEN 5 8I 0 INZ(16)
D* Parameter identifier
D IL64PRM 9 12I 0 INZ(0)
D* Count of parameter values
D IL64CNT 13 16I 0 INZ(0)
D* Parameter values -- first element
D IL64VAL 17 16 INZ(0)
```

S/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

```
MQCFIL64 DSECT
MQCFIL64_TYPE DS F Structure type
MQCFIL64_STRUCLENGTH DS F Structure length
MQCFIL64_PARAMETER DS F Parameter identifier
MQCFIL64_COUNT DS F Parameter value high
MQCFIL64_LENGTH EQU *-MQCFIL64 Length of structure
MQCFIL64_ORG ORG MQCFIL64
MQCFIL64_AREA DS CL(MQCFIL64_LENGTH)
```

MQCFIN - 整数パラメーター

このページを使用して、MQCFIN パラメーターの構造、および各プログラミング言語 (C、COBOL、PL/I、RPG/ILE、S/390 アセンブラー、および Visual Basic) 用の宣言を確認します。

MQCFIN 構造は、整数パラメーターを記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQCFIN 構造を構成するフィールドの説明があります。

- [C 言語](#)
- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)

- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [S/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [Visual Basic 言語 \(Windows のみ\)](#)

Type

説明: 構造タイプが、整数パラメーターについて記述する MQCFIN 構造タイプであることを示します。

データ型: MQLONG

値: **MQCFT_INTEGER**
整数を定義する構造。

StrucLength

説明: MQCFIN 構造のバイト単位の長さ。

データ型: MQLONG

値: **MQCFIN_STRUC_LENGTH**
MQCFIN 構造体の長さ。

Parameter

説明: その値が構造に含まれているパラメーターを識別します。

データ型: MQLONG

Value

説明: *Parameter* フィールドによって識別されたパラメーターの値。

データ型: MQLONG

C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFIN {
    MQLONG Type;           /* Structure type */
    MQLONG StrucLength;    /* Structure length */
    MQLONG Parameter;     /* Parameter identifier */
    MQLONG Value;         /* Parameter value */
} MQCFIN;
```

COBOL 言語宣言

```
** MQCFIN structure
10 MQCFIN.
** Structure type
15 MQCFIN-TYPE PIC S9(9) BINARY.
** Structure length
15 MQCFIN-STRUCLNGTH PIC S9(9) BINARY.
** Parameter identifier
15 MQCFIN-PARAMETER PIC S9(9) BINARY.
** Parameter value
15 MQCFIN-VALUE PIC S9(9) BINARY.
```

PL/I 言語宣言

```
dcl
1 MQCFIN based,
```

```

3 Type          fixed bin(31), /* Structure type */
3 StructLength  fixed bin(31), /* Structure length */
3 Parameter     fixed bin(31), /* Parameter identifier */
3 Value        fixed bin(31); /* Parameter value */

```

RPG/ILE 宣言 (IBM i のみ)

```

D*..1.....2.....3.....4.....5.....6.....7..
D* MQCFIN Structure
D*
D* Structure type
D INTYP          1          4I 0
D* Structure length
D INLEN         5          8I 0
D* Parameter identifier
D INPRM        9          12I 0
D* Parameter value
D INVAL       13          16I 0

```

S/390 アセンブラー言語宣言

MQCFIN	DSECT	
MQCFIN_TYPE	DS F	Structure type
MQCFIN_STRUCLNGTH	DS F	Structure length
MQCFIN_PARAMETER	DS F	Parameter identifier
MQCFIN_VALUE	DS F	Parameter value
MQCFIN_LENGTH	EQU *-MQCFIN	Length of structure
	ORG MQCFIN	
MQCFIN_AREA	DS CL(MQCFIN_LENGTH)	

Visual Basic 言語宣言

```

Type MQCFIN
  Type As Long      ' Structure type
  StructLength As Long ' Structure length
  Parameter As Long ' Parameter identifier
  Value As Long     ' Parameter value
End Type

```

MQCFIN64 - 64 ビット整数パラメーター

このページを使用して、MQCFIN64 パラメーターの構造、および各プログラミング言語 (C、COBOL、PL/I、RPG/ILE、および S/390 アセンブラー) 用の宣言を確認します。

MQCFIN64 構造は、64 ビット整数パラメーターを記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQCFIN64 構造を構成するフィールドの説明があります。

- [C 言語](#)
- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [System/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)

Type

説明: 構造が 64 ビット整数パラメーターを記述する MQCFIN64 構造であることを示します。

データ型: MQLONG

値: **MQCFT_INTEGER64**
64 ビット整数を定義する構造。

StrucLength

説明: MQCFIN64 構造の長さ (バイト)。
データ型: MQLONG
値: **MQCFIN64_STRUC_LENGTH**
64 ビット整数パラメーター構造の長さ。

Parameter

説明: その値が構造に含まれているパラメーターを識別します。
データ型: MQLONG

Values

説明: これは、*Parameter* フィールドによって識別されるパラメーターの値です。
データ型: (MQINT64)

C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFIN64 {
    MQLONG Type;          /* Structure type */
    MQLONG StrucLength;   /* Structure length */
    MQLONG Parameter;    /* Parameter identifier */
    MQLONG Reserved;     /* Reserved */
    MQINT64 Value;       /* Parameter value */
} MQCFIN64;
```

COBOL 言語宣言

```
** MQCFIN64 structure
   10 MQCFIN64.
**   Structure type
   15 MQCFIN64-TYPE          PIC S9(9) BINARY.
**   Structure length
   15 MQCFIN64-STRUCLENGTH PIC S9(9) BINARY.
**   Parameter identifier
   15 MQCFIN64-PARAMETER   PIC S9(9) BINARY.
**   Reserved
   15 MQCFIN64-RESERVED    PIC S9(9) BINARY.
**   Parameter value
   15 MQCFIN64-VALUE       PIC S9(18) BINARY.
```

PL/I 言語宣言

```
dcl
  1 MQCFIN64 based,
  3 Type          fixed bin(31), /* Structure type */
  3 StrucLength   fixed bin(31), /* Structure length */
  3 Parameter     fixed bin(31), /* Parameter identifier */
  3 Reserved      fixed bin(31) /* Reserved */
  3 Value         fixed bin(63); /* Parameter value */
```

RPG/ILE 言語宣言 (IBM i のみ)

```
D*..1.....2.....3.....4.....5.....6.....7..
D* MQCFIN64 Structure
D*
D* Structure type
D IN64TYP                1          4I 0 INZ(23)
```

D*	Structure length			
D	IN64LEN	5	8I 0	INZ(24)
D*	Parameter identifier			
D	IN64PRM	9	12I 0	INZ(0)
D*	Reserved field			
D	IN64RSV	13	16I 0	INZ(0)
D*	Parameter value			
D	IN64VAL	17	16	INZ(0)

S/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

MQCFIN64	DSECT		
MQCFIN64_TYPE	DS	F	Structure type
MQCFIN64_STRUCLength	DS	F	Structure length
MQCFIN64_PARAMETER	DS	F	Parameter identifier
MQCFIN64_RESERVED	DS	F	Reserved
MQCFIN64_VALUE	DS	D	Parameter value
MQCFIN64_LENGTH	EQU	*	MQCFIN64 Length of structure
	ORG		MQCFIN64
MQCFIN64_AREA	DS		CL(MQCFIN64_LENGTH)

MQCFSL - スtring・リスト・パラメーター

このページを使用して、MQCFSL パラメーターの構造、および各プログラミング言語 (COBOL、PL/I、RPG/ILE、S/390 アセンブラー、および Visual Basic) 用の宣言を確認します。

MQCFSL 構造は、String・リスト・パラメーターを記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQCFSL 構造を構成するフィールドの説明があります。

- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [System/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [Visual Basic 言語 \(Windows のみ\)](#)

Type

説明: このフィールドは、構造が String・リスト・パラメーターについて記述する MQCFSL 構造であることを示します。

データ型: MQLONG

値: **MQCFT_STRING_LIST**
String・リストを定義する構造。

StrucLength

説明: 構造の末尾 (*Strings* フィールド) にある String の配列を含む、MQCFSL 構造の長さ (バイト) です。

データ型: MQLONG

Parameter

説明: これは、その値が構造に含まれているパラメーターを識別します。

データ型: MQLONG

CodedCharSetId

説明: これは、*Strings* フィールド内のデータのコード化文字セット ID を指定します。

データ型: MQLONG

Count

説明: *Strings* フィールドにあるストリングの数で、値は 0 以上です。

データ型: MQLONG

StringLength

説明: これは、1つのパラメーター値のバイト単位の長さです。つまり、*Strings* フィールドの 1 ストリングの長さです。ストリングのすべてがこの長さです。

データ型: MQLONG

String

説明: これは、*Parameter* フィールドによって識別されるパラメーターのストリング値のセットです。ストリングの数は *Count* フィールドによって指定され、各ストリングの長さは *StringLength* フィールドによって指定されます。複数のストリングが連結され、隣接するストリング相互間で 1 バイトもスキップされません。ストリングの全長は、1つのストリングの長さに、存在するストリングの数を乗算したもの (つまり、*StringLength* x *Count*) になります。

MQFMT_EVENT メッセージでは、ストリング・パラメーターから末尾空白を省略できます (つまり、定義されているパラメーターの長さより短いストリングになる場合があります)。 *StringLength* は、メッセージ内に実際に存在するストリングの長さを示します。

注: MQCFSL 構造では、ストリング内のヌル文字は通常の変換として扱われ、ストリングの区切り文字としては機能しません。つまり、受信側アプリケーションが MQFMT_EVENT メッセージを読み込むときには、送信側アプリケーションで指定したすべてのデータを受信側アプリケーションが受信します。したがって、データは (例えば、受信側アプリケーションが MQGET 呼び出し時に、MQGMO_CONVERT オプションを指定することにより) 文字セット間で変換されている場合があります。

データ型: MQCHAR x *StringLength* x *Count*

COBOL 言語宣言

```
** MQCFSL structure
10 MQCFSL.
** Structure type
15 MQCFSL-TYPE PIC S9(9) BINARY.
** Structure length
15 MQCFSL-STRUCLength PIC S9(9) BINARY.
** Parameter identifier
15 MQCFSL-PARAMETER PIC S9(9) BINARY.
** Coded character set identifier
15 MQCFSL-CODEDCHARSETID PIC S9(9) BINARY.
** Count of parameter values
15 MQCFSL-COUNT PIC S9(9) BINARY.
** Length of one string
15 MQCFSL-STRINGLENGTH PIC S9(9) BINARY.
```

PL/I 言語宣言

```
dcl
  1 MQCFSL based,
  3 Type fixed bin(31), /* Structure type */
```

```

3 StrucLength    fixed bin(31), /* Structure length */
3 Parameter      fixed bin(31), /* Parameter identifier */
3 CodedCharSetId fixed bin(31), /* Coded character set identifier */
3 Count          fixed bin(31), /* Count of parameter values */
3 StringLength   fixed bin(31); /* Length of one string */

```

RPG/ILE 宣言 (IBM i のみ)

```

D*.1....:....2....:....3....:....4....:....5....:....6....:....7..
D* MQCFSL Structure
D*
D* Structure type
D SLTYP                1      4I 0
D* Structure length
D SLEEN                5      8I 0
D* Parameter identifier
D SLPRM                9     12I 0
D* Coded character set identifier
D SLCSI               13     16I 0
D* Count of parameter values
D SLCNT              17     20I 0
D* Length of one string
D SLSTL              21     24I 0

```

S/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

```

MQCFSL          DSECT
MQCFSL_TYPE     DS    F  Structure type
MQCFSL_STRUCLNGTH DS  F  Structure length
MQCFSL_PARAMETER DS  F  Parameter identifier
MQCFSL_CODEDCHARSETID DS F  Coded character set identifier
MQCFSL_COUNT    DS  F  Count of parameter values
MQCFSL_STRINGLENGTH DS F  Length of one string
*
MQCFSL_LENGTH   EQU  *-MQCFSL
                ORG  MQCFSL
MQCFSL_AREA     DS   CL(MQCFSL_LENGTH)

```

Visual Basic 言語宣言 (Windows システムのみ)

```

Type MQCFSL
  Type      As Long 'Structure type'
  StrucLength As Long 'Structure length'
  Parameter  As Long 'Parameter identifier'
  CodedCharSetId As Long 'Coded character set identifier'
  Count      As Long 'Count of parameter values'
  StringLength As Long 'Length of one string'
End Type

```

MQCFST - スtring・パラメーター

このページを使用して、MQCFST パラメーターの構造、および各プログラミング言語 (C、COBOL、PL/I、RPG/ILE、S/390 アセンブラー、および Visual Basic) 用の宣言を確認します。

MQCFST 構造は、String・パラメーターを記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQCFST 構造を構成するフィールドの説明があります。

- [C 言語](#)
- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [System/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [Visual Basic 言語 \(Windows のみ\)](#)

MQCFST 構造は、可変長文字ストリングで終了します。詳細については、*String* フィールドの説明を参照してください。

Type

説明:	構造タイプが、ストリング・パラメーターについて記述する MQCFST 構造タイプであることを示します。
データ型:	MQLONG
値:	MQCFT_STRING ストリングを定義する構造。

StrucLength

説明:	構造の末尾 (<i>String</i> フィールド) にあるストリングを含む、MQCFST 構造の長さ (バイト) です。
データ型:	MQLONG

Parameter

説明:	その値が構造に含まれているパラメーターを識別します。
データ型:	MQLONG
値:	イベント・メッセージによって異なります。

CodedCharSetId

説明:	<i>String</i> フィールドのデータのコード化文字セット ID。
データ型:	MQLONG

StringLength

説明:	<i>String</i> フィールド内のデータの長さ (バイト) で、値は 0 以上です。
データ型:	MQLONG

String

説明:	<i>Parameter</i> フィールドで識別されたパラメーターの値。 MQFMT_EVENT メッセージでは、ストリング・パラメーターから末尾ブランクを省略できます (つまり、定義されているパラメーターの長さより短いストリングになる場合があります)。 <i>StringLength</i> は、メッセージ内に実際に存在するストリングの長さを示します。
データ型:	MQCHAR x <i>StringLength</i>
値:	ストリングには、 <i>CodedCharSetId</i> によって定義された文字セットに含まれる文字のうち、 <i>Parameter</i> によって識別されるパラメーターに有効な文字を含めることができます。

言語に関する考慮事項: このフィールドを宣言する方法は、プログラミング言語によって次のように異なります。

- C プログラミング言語では、1つの要素を含む配列としてこのフィールドを宣言します。構造のためのストレージは動的に割り振られる必要があります、構造の中のフィールドをアドレス指定するためにポインターが使用されます。
- COBOL、PL/I、System/390 アセンブラー、および Visual Basic の各プログラミング言語では、このフィールドは構造体宣言から省略されます。構造のインスタンスを宣言するときに、より大きな構造体に MQCFST を組み込み、MQCFST の後に *String* フィールドを表す追加フィールドを必要なだけ宣言する必要があります。

ストリング内のヌル文字は通常データとして扱われ、ストリングの区切り文字としては機能しません。つまり、受信側アプリケーションが MQFMT_EVENT メッセージを読み込むときには、送信側アプリケーションで指定したすべてのデータを受信側アプリケーションが受信します。したがって、データは (例えば、受信側アプリケーションが MQGET 呼び出し時に、MQGMO_CONVERT オプションを指定することにより) 文字セット間で変換されている場合があります。

C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFST {
    MQLONG  Type;           /* Structure type */
    MQLONG  StrucLength;    /* Structure length */
    MQLONG  Parameter;     /* Parameter identifier */
    MQLONG  CodedCharSetId; /* Coded character set identifier */
    MQLONG  StringLength;  /* Length of string */
    MQCHAR  String[1];    /* String value - first
                           character */
} MQCFST;
```

COBOL 言語宣言

```
** MQCFST structure
10 MQCFST.
** Structure type
15 MQCFST-TYPE PIC S9(9) BINARY.
** Structure length
15 MQCFST-STRULENGTH PIC S9(9) BINARY.
** Parameter identifier
15 MQCFST-PARAMETER PIC S9(9) BINARY.
** Coded character set identifier
15 MQCFST-CODEDCHARSETID PIC S9(9) BINARY.
** Length of string
15 MQCFST-STRINGLENGTH PIC S9(9) BINARY.
```

PL/I 言語宣言

```
dcl
1 MQCFST based,
3 Type          fixed bin(31), /* Structure type */
3 StrucLength   fixed bin(31), /* Structure length */
3 Parameter     fixed bin(31), /* Parameter identifier */
3 CodedCharSetId fixed bin(31), /* Coded character set identifier */
3 StringLength  fixed bin(31); /* Length of string */
```

RPG/ILE 宣言 (IBM i のみ)

```
D*..1.....2.....3.....4.....5.....6.....7..
D* MQCFST Structure
D*
```

```

D* Structure type
D STTYP          1      4I 0
D* Structure length
D STLEN         5      8I 0
D* Parameter identifier
D STPRM         9     12I 0
D* Coded character set identifier
D STCSI        13     16I 0
D* Length of string
D STSTL        17     20I 0

```

S/390 アセンブラー言語宣言

```

MQCFST          DSECT
MQCFST_TYPE     DS F      Structure type
MQCFST_STRUCLNGTH DS F      Structure length
MQCFST_PARAMETER DS F      Parameter identifier
MQCFST_CODEDCHARSETID DS F      Coded character set
*              identifier
MQCFST_STRINGLENGTH DS F      Length of string
MQCFST_LENGTH   EQU *-MQCFST Length of structure
                ORG MQCFST
MQCFST_AREA     DS CL(MQCFST_LENGTH)

```

Visual Basic 言語宣言

```

Type MQCFST
  Type As Long          ' Structure type
  StruLength As Long    ' Structure length
  Parameter As Long     ' Parameter identifier
  CodedCharSetId As Long ' Coded character set identifier
  StringLength As Long  ' Length of string
End Type

```

MQEPH - 組み込み PCF ヘッダー

このページを使用して、MQEPH ヘッダーの構造、および各プログラミング言語 (C、COBOL、PL/I、RPG/ILE、S/390 アセンブラー、および Visual Basic) 用の宣言を確認します。

MQEPH 構造体は、メッセージがプログラマブル・コマンド・フォーマット (PCF) メッセージである場合に、そのメッセージ内の追加データを記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQEPH 構造を構成するフィールドの説明があります。

- [C 言語](#)
- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [S/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [Visual Basic 言語 \(Windows のみ\)](#)

追加データは、MQEPH 構造と、その後続く PCF パラメーター構造の配列からなります。MQEPH 構造をメッセージに組み込むには、メッセージ記述子内の **Format** パラメーターを MQFMT_EMBEDDED に設定します。

StrucId

説明: 構造体 ID

データ型: MQCHAR4.

値: **MQEPH_STRUC_ID**
配布ヘッダー構造の ID。

Version

説明:	構造体のバージョン番号。
データ型:	MQLONG
値:	MQEPH_VERSION_1 組み込み PCF ヘッダー構造のバージョン番号。

StrucLength

説明:	構造の長さ。これは MQEPH 構造の長さ (バイト) で、次のヘッダー構造に先行するデータ量を設定します。
データ型:	MQLONG

Encoding

説明:	数値エンコード。最後の PCF パラメーター構造に続くデータの数値エンコードを指定します。
データ型:	MQLONG

CodedCharSetId

説明:	コード化文字セット ID。最後の PCF パラメーター構造に続くデータのコード化文字セット ID を指定します。
データ型:	MQLONG

Format

説明:	形式。最後の PCF パラメーター構造に続くデータの形式名を指定します。
データ型:	MQCHAR8.

Flags

説明:	フラグ。これは予約フィールドです。
データ型:	MQLONG
値:	MQEPH_NONE フラグは指定されていません。 MQEPH_CCSSID_EMBEDDED 文字データを含むパラメーターの文字セットが、各構造の CodedCharSetId フィールド内に個々に指定されています。StrucId フィールドと Format フィールドの文字セットは、MQEPH 構造の前にあるヘッダー構造内の CodedCharSetId フィールドで定義されるか、または MQEPH がメッセージの開始点である場合には MQMD 内の CodedCharSetId フィールドで定義されます。

PCFHeader

説明:	コマンド・フォーマット・ヘッダー。
データ型:	MQCFH

C 言語宣言

```

struct tagMQEPH {
    MQCHAR4 StrucId;          /* Structure identifier */
    MQLONG  Version;         /* Structure version number */
    MQLONG  StrucLength      /* Structure length */
    MQLONG  Encoding;       /* Numeric encoding */
    MQLONG  CodedCharSetId; /* Coded character set identifier */
    MQCHAR8 Format;         /* Data format */
    MQLONG  Flags;         /* Flags */
    MQCFH   PCFHeader;     /* PCF header */
} MQEPH;

```

COBOL 言語宣言

```

** MQEPH structure
10 MQEPH.
** Structure identifier
15 MQEPH-STRUCID PIC X(4).
** Structure version number
15 MQEPH-VERSION PIC S9(9) BINARY.
** Structure length
15 MQEPH-STRUCLength PIC S9(9) BINARY.
** Numeric encoding
15 MQEPH-ENCODING PIC S9(9) BINARY.
** Coded character set identifier
15 MQEPH-CODEDCHARSETID PIC S9(9) BINARY.
** Data format
15 MQEPH-FORMAT PIC X(8).
** Flags
15 MQEPH-FLAGS PIC S9(9) BINARY.
** PCF header
15 MQEPH-PCFHEADER.
** Structure type
20 MQEPH-PCFHEADER-TYPE PIC S9(9) BINARY.
** Structure length
20 MQEPH-PCFHEADER-STRUCLength PIC S9(9) BINARY.
** Structure version number
20 MQEPH-PCFHEADER-VERSION PIC S9(9) BINARY.
** Command identifier
20 MQEPH-PCFHEADER-COMMAND PIC S9(9) BINARY.
** Message sequence number
20 MQEPH-PCFHEADER-MSGSEQNUMBER PIC S9(9) BINARY.
** Control options
20 MQEPH-PCFHEADER-CONTROL PIC S9(9) BINARY.
** Completion code
20 MQEPH-PCFHEADER-COMPCODE PIC S9(9) BINARY.
** Reason code qualifying completion code
20 MQEPH-PCFHEADER-REASON PIC S9(9) BINARY.
** Count of parameter structures
20 MQEPH-PCFHEADER-PARAMETERCOUNT PIC S9(9) BINARY.

```

PL/I 言語宣言 (z/OS および Windows)

```

dcl
1 MQEPH based,
3 StrucId char(4), /* Structure identifier */
3 Version fixed bin(31), /* Structure version number */
3 StrucLength fixed bin(31), /* Structure length */
3 Encoding fixed bin(31), /* Numeric encoding */
3 CodedCharSetId fixed bin(31), /* Coded character set identifier */
3 Format char(8), /* Data format */
3 Flags fixed bin(31), /* Flags */
3 PCFHeader, /* PCF header */
5 Type fixed bin(31), /* Structure type */
5 StrucLength fixed bin(31), /* Structure length */
5 Version fixed bin(31), /* Structure version number */
5 Command fixed bin(31), /* Command identifier */
5 MsgSeqNumber fixed bin(31), /* Message sequence number */
5 Control fixed bin(31), /* Control options */
5 CompCode fixed bin(31), /* Completion code */
5 Reason fixed bin(31), /* Reason code qualifying completion
code */
5 ParameterCount fixed bin(31); /* Count of parameter structures */

```

RPG 言語宣言 (IBM i のみ)

```

D*..1....:....2.....3.....4.....5.....6.....7..
D* MQEPH Structure
D*
D* Structure identifier
D EPSID 1 4 INZ('EPH ')
D* Structure version number
D EPVER 5 8I 0 INZ(1)
D* Structure length
D EPLEN 9 12I 0 INZ(68)
D* Numeric encoding
D EPENC 13 16I 0 INZ(0)
D* Coded character set identifier
D EPCSI 17 20I 0 INZ(0)
D* Format name
D EPFMT 21 28I 0 INZ(' ')
D* Flags
D EPFLG 29 32I 0 INZ(0)
D* Programmable Command Format Header
D*
D* Structure type
D EP1TYPE 33 36I 0 INZ(0)
D* Structure length
D EP1LEN 37 40I 0 INZ(36)
D* Structure version number
D EP1VER 41 44I 0 INZ(3)
D* Command identifier
D EP1CMD 45 48I 0 INZ(0)
D* Message sequence number
D EP1SEQ 49 52I 0 INZ(1)
D* Control options
D EP1CTL 53 56I 0 INZ(1)
D* Completion code
D EP1CMP 57 60I 0 INZ(0)
D* Reason code qualifying completion code
D EP1REA 61 64I 0 INZ(0)
D* Count of parameter structures
D EP1CNT 65 68I 0 INZ(0)

```

S/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

```

MQEPH DSECT
MQEPH_STRUCID DS CL4 Structure identifier
MQEPH_VERSION DS F Structure version number
MQEPH_STRUCLNGTH DS F Structure length
MQEPH_ENCODING DS F Numeric encoding
MQEPH_CODEDCHARSETID DS F Coded character set identifier
MQEPH_FORMAT DS CL8 Data format
MQEPH_FLAGS DS F Flags
MQEPH_PCFHEADER DS 0F Force fullword alignment
MQEPH_PCFHEADER_TYPE DS F Structure type
MQEPH_PCFHEADER_STRUCLNGTH DS F Structure length
MQEPH_PCFHEADER_VERSION DS F Structure version number
MQEPH_PCFHEADER_COMMAND DS F Command identifier
MQEPH_PCFHEADER_MSGSEQNUMBER DS F Message sequence number
MQEPH_PCFHEADER_CONTROL DS F Control options
MQEPH_PCFHEADER_COMPCODE DS F Completion code
MQEPH_PCFHEADER_REASON DS F Reason code qualifying completion code
MQEPH_PCFHEADER_PARAMETERCOUNT DS F Count of parameter structures
MQEPH_PCFHEADER_LENGTH EQU *-MQEPH_PCFHEADER
ORG MQEPH_PCFHEADER
MQEPH_PCFHEADER_AREA DS CL(MQEPH_PCFHEADER_LENGTH)
*
MQEPH_LENGTH EQU *-MQEPH
ORG MQEPH
MQEPH_AREA DS CL(MQEPH_LENGTH)

```

Visual Basic 言語宣言 (Windows のみ)

```

Type MQEPH
  StrucId As String*4 'Structure identifier
  Version As Long 'Structure version number

```

StrucLength As Long	'Structure length
Encoding As Long	'Numeric encoding
CodedCharSetId As Long	'Coded characetr set identifier
Format As String*8	'Format name
Flags As Long	'Flags
Reason As Long	'Reason code qualifying completion code
PCFHeader As MQCFH	'PCF header
End Type	

イベント・データのオブジェクト属性

IBM MQ のモニター手法でイベント・メッセージ内に記録された構成イベント・データに組み込めるオブジェクト属性についての情報。 イベント・データの量は、構成イベントが関連付けられるオブジェクトのタイプによって異なります。

認証構成の属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、認証構成属性を組み込むことができます。

AuthorityRecordType (MQCFIN)

オブジェクト・タイプ (パラメーター ID: `MQIACF_AUTH_REC_TYPE`)。

プロファイルを更新する対象となるオブジェクト・タイプを記述します (例えば `MQOT_Q`)。

AuthorizationList (MQCFIL)

権限リスト (パラメーター ID: `MQIACF_AUTHORIZATION_LIST`)。

`MQAUTH_*` 値を表示します。 [Inquire Authority Records \(応答\)](#) を参照してください。

EntityName (MQCFST)

エンティティ名 (パラメーター ID: `MQCACF_ENTITY_NAME`)。

エンティティ名はプリンシパル名またはグループ名のいずれかです。

ストリングの最大長は `MQ_ENTITY_NAME_LENGTH` です。

EntityType (MQCFIN)

エンティティ・タイプ (パラメーター ID: `MQIACF_ENTITY_TYPE`)。

`MQZAET_*` 値を表示します。 [Inquire Authority Records \(応答\)](#) を参照してください。

認証情報の属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、認証情報属性を組み込むことができます。

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: `MQCA_ALTERATION_DATE`)。

情報が最後に変更された日付。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: `MQCA_ALTERATION_TIME`)。

情報が最後に変更された時刻。

AuthInfoConnName (MQCFST)

認証情報接続名 (パラメーター ID: `MQCA_AUTH_INFO_CONN_NAME`)。

ストリングの最大長は 48 です。

AuthInfoDesc (MQCFST)

認証情報記述 (パラメーター ID: `MQCA_AUTH_INFO_DESC`)。

ストリングの最大長は `MQ_AUTH_INFO_DESC_LENGTH` です。

AuthInfoType (MQCFIN)

認証情報タイプ (パラメーター ID: `MQIA_AUTH_INFO_TYPE`)。

値は `MQAIT_CRL_LDAP` です。

LDAPPassword (MQCFST)

LDAP パスワード (パラメーター ID: MQCA_LDAP_PASSWORD)。

ストリングの最大長は MQ_LDAP_PASSWORD_LENGTH です。

LDAPUserName (MQCFST)

LDAP ユーザー名 (パラメーター ID: MQCA_LDAP_USER_NAME)。

ストリングの最大長は 256 です。

CF 構造の属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、CF 構造属性を組み込むことができます。

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_DATE)。

情報が最後に変更された日付。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_TIME)。

情報が最後に変更された時刻。

CFLevel (MQCFIN)

CF レベル (パラメーター ID: MQIA_CF_LEVEL)。

CFStrucDesc (MQCFST)

CF 構造記述 (パラメーター ID: MQCA_CF_STRUC_DESC)。

ストリングの最大長は MQCA_CF_STRUC_DESC_LENGTH です。

Recovery (MQCFIN)

リカバリー (パラメーター ID: MQIA_CF_RECOVER)。

通信情報の属性**AlterationDate (MQCFST)**

変更日付 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_DATE)。

情報が最後に変更された日付 (yyyy-mm-dd の形式)。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_TIME)。

情報が最後に変更された時刻 (hh.mm.ss の形式)。

Bridge (MQCFIN)

ブリッジ (パラメーター ID: MQIA_MCAST_BRIDGE)。

マルチキャストを使用しないアプリケーションからのパブリケーションが、マルチキャストを使用するアプリケーションにブリッジされるかどうかを指定します。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMCB_DISABLED

ブリッジングは無効です。

MQMCB_ENABLED

ブリッジングは有効です。

CCSID (MQCFIN)

コード化文字セット ID (パラメーター ID: MQIA_CODED_CHAR_SET_ID)。

メッセージ送信で使用される CCSID。

CommEvent (MQCFIN)

通信イベント (パラメーター ID: MQIA_COMM_EVENT)。

この COMMINFO オブジェクトで作成されたマルチキャスト・ハンドルのイベント・メッセージを生成するかどうかを制御します。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_DISABLED

イベント・メッセージは生成されません。

MQEVR_ENABLED

イベント・メッセージが生成されます。

MQEVR_EXCEPTION

メッセージ信頼性が信頼性しきい値を下回ると、イベント・メッセージが生成されます。

ComminfoName (MQCFST)

通信情報名 (パラメーター ID: MQCA_COMM_INFO_NAME)。

返される情報の対象となる管理通信情報定義の名前。

Description (MQCFST)

説明 (パラメーター ID: MQCA_COMM_INFO_DESC)。

通信情報オブジェクトに関する記述情報を提供するプレーン・テキストのコメント。

Encoding (MQCFIN)

エンコード (パラメーター ID: MQIACF_ENCODING)。

メッセージ送信のエンコード。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQENC_AS_PUBLISHED

MQENC_NORMAL

MQENC_REVERSED

MQENC_S390

MQENC_TNS

GrpAddress (MQCFST)

グループ・アドレス (パラメーター ID: MQCACH_GROUP_ADDRESS)。

グループの IP アドレスまたは DNS 名。

MonitorInterval (MQCFIN)

モニターの頻度 (パラメーター ID: MQIA_MONITOR_INTERVAL)。

モニター情報の更新およびイベント・メッセージ生成の頻度。

MulticastHeartbeat (MQCFIN)

マルチキャスト・ハートビート (パラメーター ID: MQIACH_MC_HB_INTERVAL)。

ハートビート・インターバル (ミリ秒)。

MulticastPropControl (MQCFIN)

マルチキャスト・プロパティ制御 (パラメーター ID: MQIACH_MULTICAST_PROPERTIES)。

どれだけの MQMD プロパティおよびユーザー・プロパティが、メッセージと共に流れるかを制御します。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMCP_ALL

すべてのプロパティが送信されます。

MQMCP_REPLY

メッセージへの応答を処理するユーザー・プロパティおよび MQMD フィールドのみ送信されます。

MQMCP_USER

ユーザー・プロパティのみ送信されます。

MQMCP_NONE

プロパティは送信されません。

MQMCP_COMPAT

プロパティは、以前の IBM MQ マルチキャスト・クライアントと互換性のある形式で送信されます。

MsgHistory (MQCFIN)

メッセージ・ヒストリー (パラメーター ID: **MQIACH_MSG_HISTORY**)。

NACK の場合の再送信を処理するためにシステムで保持されるメッセージ・ヒストリーの量 (キロバイト)。

NewSubHistory (MQCFIN)

新しいサブスクライバー・ヒストリー (パラメーター ID: **MQIACH_NEW_SUBSCRIBER_HISTORY**)。

新しいサブスクライバーが受け取る履歴データの量を制御します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQNSH_NONE

サブスクリプションの時点以降のパブリケーションのみ送信されます。

MQNSH_ALL

認識されている限りのヒストリーが再送されます。

PortNumber (MQCFIN)

ポート番号 (パラメーター ID: **MQIACH_PORT**)。

送信のポート番号。

Type (MQCFIN)

タイプ (パラメーター ID: **MQIA_COMM_INFO_TYPE**)。

通信情報オブジェクトのタイプ。

チャネルの属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、チャネル属性を組み込むことができます。

該当するチャネルのタイプに適用する属性のみがイベント・データに入れます。

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: **MQCA_ALTERATION_DATE**)。

情報が最後に変更された日付。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: **MQCA_ALTERATION_TIME**)。

情報が最後に変更された時刻。

BatchHeartbeat (MQCFIN)

バッチ・ハートビートに使用される値 (パラメーター ID: **MQIACH_BATCH_HB**)。

値は 0 から 999999 の範囲で指定できます。値 0 は、ハートビートが使用中でないことを示します。

BatchInterval (MQCFIN)

バッチ間隔 (パラメーター ID: **MQIACH_BATCH_INTERVAL**)。

BatchSize (MQCFIN)

バッチ・サイズ (パラメーター ID: **MQIACH_BATCH_SIZE**)。

ChannelDesc (MQCFST)

チャネル記述 (パラメーター ID: **MQCACH_DESC**)。

ストリングの最大長は **MQ_CHANNEL_DESC_LENGTH** です。

ChannelMonitoring (MQCFIN)

チャネルのモニター・データ収集のレベル (パラメーター ID: **MQIA_MONITORING_CHANNEL**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_OFF

モニター・データ収集はオフになります。

MQMON_LOW

モニター・データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

MQMON_MEDIUM

モニター・データ収集は、中程度のデータ収集率でオンになります。

MQMON_HIGH

モニター・データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

MQMON_Q_MGR

収集されるモニター・データのレベルは、キュー・マネージャー属性 **ChannelMonitoring** に基づきます。

ChannelName (MQCFST)

チャンネル名 (パラメーター ID: **MQCACH_CHANNEL_NAME**)。

ストリングの最大長は **MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH** です。

ChannelStatistics(MQCFIN)

チャンネルの統計データ収集のレベル (パラメーター ID: **MQIA_STATISTICS_CHANNEL**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_OFF

統計データ収集はオフになります。

MQMON_LOW

統計データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

MQMON_MEDIUM

統計データ収集は、中程度のデータ収集率でオンになります。

MQMON_HIGH

統計データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

MQMON_Q_MGR

収集される統計データのレベルは、キュー・マネージャー属性 **ChannelStatistics** に基づきます。

この属性に関するプラットフォーム固有の詳細については、[ALTER QMGR](#) コマンドの **STATCHL** 属性の説明を参照してください。

ChannelType (MQCFIN)

チャンネル・タイプ (パラメーター ID: **MQIACH_CHANNEL_TYPE**)。

値は次のいずれかです。

MQCHT_SENDER

送信側。

MQCHT_SERVER

サーバー。

MQCHT_RECEIVER

受信側。

MQCHT_REQUESTER

要求側。

MQCHT_SVRCONN

サーバー接続 (クライアントが使用)。

MQCHT_CLNTCONN

クライアント接続。

MQCHT_CLUSRCVR

クラスター受信側。

MQCHT_CLUSSDR

クラスター送信側。

CipherSpec (MQCFST)

SSL 暗号仕様 (パラメーター ID: MQCACH_SSL_CIPHER_SPEC)。

ストリングの最大長は MQ_SSL_CIPHER_SPEC_LENGTH です。

ClusterName (MQCFST)

クラスター名 (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_NAME)。

ClusterNameList (MQCFST)

クラスター名前リスト (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_NAMELIST)。

CLWLChannelPriority (MQCFIN)

クラスター・ワークロード・チャンネル優先順位 (パラメーター ID:

MQIACH_CLWL_CHANNEL_PRIORITY)。

CLWLChannelRank (MQCFIN)

クラスター・ワークロード・チャンネル・ランク (パラメーター ID: MQIACH_CLWL_CHANNEL_RANK)。

CLWLChannelWeight (MQCFIN)

クラスター・ワークロード・チャンネル・ウェイト (パラメーター ID:

MQIACH_CLWL_CHANNEL_WEIGHT)。

ConnectionName (MQCFST)

接続名 (パラメーター ID: MQCACH_CONNECTION_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_CONN_NAME_LENGTH です。

DataConversion (MQCFIN)

送信側がアプリケーション・データを変換する必要があるかどうか (パラメーター ID:

MQIACH_DATA_CONVERSION)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCDC_NO_SENDER_CONVERSION

送信側による変換なし。

MQCDC_SENDER_CONVERSION

送信側による変換。

DiscInterval (MQCFIN)

切断間隔 (パラメーター ID: MQIACH_DISC_INTERVAL)。

HeaderCompression (MQCFIL)

チャンネルでサポートされるヘッダー・データ圧縮技法 (パラメーター ID:

MQIACH_HDR_COMPRESSION)。

送信側チャンネル、サーバー・チャンネル、クラスター送信側チャンネル、クラスター受信側チャンネル、およびクライアント接続チャンネルの場合、望ましい順に値が指定されます。

値は以下のいずれかです (複数可)。

MQCOMPRESS_NONE

ヘッダー・データ圧縮は実行されません。

MQCOMPRESS_SYSTEM

ヘッダー・データ圧縮が実行されます。

HeartbeatInterval (MQCFIN)

ハートビート間隔 (パラメーター ID: MQIACH_HB_INTERVAL)。

KeepAliveInterval (MQCFIN)

キープアライブ間隔 (パラメーター ID: MQIACH_KEEP_ALIVE_INTERVAL)。

LocalAddress (MQCFST)

チャンネルのローカル通信アドレス (パラメーター ID: MQCACH_LOCAL_ADDRESS)。

ストリングの最大長は MQ_LOCAL_ADDRESS_LENGTH です。

LongRetryCount (MQCFIN)

長期再試行カウント (パラメーター ID: MQIACH_LONG_RETRY)。

LongRetryInterval (MQCFIN)

長時間タイマー (パラメーター ID: MQIACH_LONG_TIMER)。

MaxMsgLength (MQCFIN)

最大メッセージ長 (パラメーター ID: MQIACH_MAX_MSG_LENGTH)。

MCAName (MQCFST)

メッセージ・チャンネル・エージェント名 (パラメーター ID: MQCACH_MCA_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_MCA_NAME_LENGTH です。

MCAType (MQCFIN)

メッセージ・チャンネル・エージェント・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_MCA_TYPE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMCAT_PROCESS

プロセス

MQMCAT_THREAD

スレッド

MCAUserIdentifier (MQCFST)

メッセージ・チャンネル・エージェントのユーザー ID (パラメーター ID: MQCACH_MCA_USER_ID)。

MCA ユーザー ID のストリングの最大長は MQ_MCA_USER_ID_LENGTH です。

MessageCompression (MQCFIL)

チャンネルでサポートされるメッセージ・データ圧縮技法 (パラメーター ID: MQIACH_MSG_COMPRESSION)。

送信側チャンネル、サーバー・チャンネル、クラスター送信側チャンネル、クラスター受信側チャンネル、およびクライアント接続チャンネルの場合、望ましい順に値が指定されます。

値は以下のいずれかです (複数可)。

MQCOMPRESS_NONE

メッセージ・データ圧縮は実行されません。これがデフォルト値です。

MQCOMPRESS_RLE

ラン・レングス・エンコードを使用してメッセージ・データ圧縮が実行されます。

MQCOMPRESS_ZLIBFAST

メッセージ・データ圧縮は、速度優先の ZLIB エンコードを使用して実行されます。

MQCOMPRESS_ZLIBHIGH

メッセージ・データ圧縮は、圧縮優先の ZLIB エンコードを使用して実行されます。

MQCOMPRESS_ANY

キュー・マネージャーでサポートされるすべての圧縮技法を使用できます。受信側、要求側、およびサーバー接続チャンネルの場合にのみ有効です。

ModeName (MQCFST)

モード名 (パラメーター ID: MQCACH_MODE_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_MODE_NAME_LENGTH です。

MsgExit (MQCFSL)

メッセージ出口名 (パラメーター ID: MQCACH_MSG_EXIT_NAME)。

リスト内の名前のは数は、MQCFSL 構造の **Count** フィールドで指定されます。これは、**MsgUserData** のカウントと同じです。これは、チャンネルに指定された出口名を超えます。この場合、余分の名前はブランクになります。最小値は 1 です。各名前の長さは、その構造内の **StringLength** フィールドによって指定されます。

出口名の最大長は MQ_EXIT_NAME_LENGTH です。

MsgRetryCount (MQCFIN)

メッセージ再試行カウント (パラメーター ID: **MQIACH_MR_COUNT**)。

失敗メッセージが再試行される回数を指定します。

このパラメーターは、受信側チャンネル、クラスター受信側チャンネル、および要求側チャンネルにのみ有効です。

MsgRetryExit (MQCFST)

メッセージ再試行出口名 (パラメーター ID: **MQCACH_MR_EXIT_NAME**)。

このパラメーターは、受信側チャンネル、クラスター受信側チャンネル、および要求側チャンネルにのみ有効です。

ストリングの最大長は **MQ_MAX_EXIT_NAME_LENGTH** です。

MsgRetryInterval (MQCFIN)

メッセージ再試行間隔 (パラメーター ID: **MQIACH_MR_INTERVAL**)。

失敗メッセージの再試行を行う最小時間間隔をミリ秒単位で指定します。

このパラメーターは、受信側チャンネル、クラスター受信側チャンネル、および要求側チャンネルにのみ有効です。

MsgRetryUserData (MQCFST)

メッセージ再試行出口ユーザー・データ (パラメーター ID: **MQCACH_MR_EXIT_USER_DATA**)。

メッセージ再試行出口に渡されるユーザー・データを指定します。

このパラメーターは、受信側チャンネル、クラスター受信側チャンネル、および要求側チャンネルにのみ有効です。

ストリングの最大長は **MQ_EXIT_DATA_LENGTH** です。

MsgUserData (MQCFSL)

メッセージ出口ユーザー・データ (パラメーター ID: **MQCACH_MSG_EXIT_USER_DATA**)。

リスト内の名前のは数は、MQCFSL 構造の **Count** フィールドで指定されます。これは、**MsgExit** のカウントと同じです。各名前の長さは、その構造内の **StringLength** フィールドによって指定されます。

ストリングの最大長は **MQ_EXIT_DATA_LENGTH** です。

NetworkPriority (MQCFIN)

ネットワーク優先順位 (パラメーター ID: **MQIACH_NETWORK_PRIORITY**)。

NonPersistentMsgSpeed (MQCFIN)

非永続メッセージが送信される速度 (パラメーター ID: **MQIACH_NPM_SPEED**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQNPMS_NORMAL

通常速度。

MQNPMS_FAST

高速。

Password (MQCFST)

パスワード (パラメーター ID: **MQCACH_PASSWORD**)。

ストリングの最大長は **MQ_PASSWORD_LENGTH** です。

PeerName (MQCFST)

SSL ピア名 (パラメーター ID: **MQCACH_SSL_PEER_NAME**)。

ストリングの最大長は 256 です。

PutAuthority (MQCFIN)

書き込み権限 (パラメーター ID: **MQIACH_PUT_AUTHORITY**)。

値は次のいずれかです。

MQPA_DEFAULT

デフォルト・ユーザー ID が使用されます。

MQPA_CONTEXT

コンテキスト・ユーザー ID が使用されます。

MQPA_ALTERNATE_OR_MCA

代替または MCA ユーザー ID が使用されます。

MQPA_ONLY_MCA

MCA ユーザー ID だけが使用されます。

QMgrName (MQCFST)

キュー・マネージャー名 (パラメーター ID: **MQCA_Q_MGR_NAME**)。

ストリングの最大長は **MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH** です。

ReceiveExit (MQCFSL)

受信出口名 (パラメーター ID: **MQCACH_RCV_EXIT_NAME**)。

リスト内の名前のは、MQCFSL 構造の **Count** フィールドで指定されます。これは、**ReceiveUserData** のカウントと同じです。これは、チャンネルに指定された出口名を超える場合があります。この場合、余分の名前はブランクになります。最小値は 1 です。各名前の長さは、その構造内の **StringLength** フィールドによって指定されます。

クライアント接続チャンネルの場合、出口名の最大長は **MQ_MAX_EXIT_NAME_LENGTH** です。その他すべてのチャンネルの場合、出口名の最大長は **MQ_EXIT_NAME_LENGTH** です。

ReceiveUserData (MQCFSL)

受信出口ユーザー・データ (パラメーター ID: **MQCACH_RCV_EXIT_USER_DATA**)。

リスト内の名前のは、MQCFSL 構造の **Count** フィールドで指定されます。これは、**ReceiveExit** のカウントと同じです。各名前の長さは、その構造内の **StringLength** フィールドによって指定されます。

ストリングの最大長は **MQ_EXIT_DATA_LENGTH** です。

SecurityExit (MQCFST)

セキュリティ出口名 (パラメーター ID: **MQCACH_SEC_EXIT_NAME**)。

クライアント接続チャンネルの場合、出口名の最大長は **MQ_MAX_EXIT_NAME_LENGTH** です。その他すべてのチャンネルの場合、出口名の最大長は **MQ_EXIT_NAME_LENGTH** です。

SecurityUserData (MQCFST)

セキュリティ出口ユーザー・データ (パラメーター ID: **MQCACH_SEC_EXIT_USER_DATA**)。

ストリングの最大長は **MQ_EXIT_DATA_LENGTH** です。

SendExit (MQCFSL)

送信出口名 (パラメーター ID: **MQCACH_SEND_EXIT_NAME**)。

リスト内の名前のは、MQCFSL 構造の **Count** フィールドで指定されます。これは、**SendUserData** のカウントと同じです。これは、チャンネルに指定された出口名を超える場合があります。この場合、余分の名前はブランクになります。最小値は 1 です。各名前の長さは、その構造内の **StringLength** フィールドによって指定されます。

クライアント接続チャンネルの場合、出口名の最大長は **MQ_MAX_EXIT_NAME_LENGTH** です。その他すべてのチャンネルの場合、出口名の最大長は **MQ_EXIT_NAME_LENGTH** です。

SendUserData (MQCFSL)

送信出口ユーザー・データ (パラメーター ID: **MQCACH_SEND_EXIT_USER_DATA**)。

リスト内の名前のは、MQCFSL 構造の **Count** フィールドで指定されます。これは、**SendExit** のカウントと同じです。各名前の長さは、その構造内の **StringLength** フィールドによって指定されます。

ストリングの最大長は MQ_EXIT_DATA_LENGTH です。

SeqNumberWrap (MQCFIN)

シーケンス折り返し番号 (パラメーター ID: MQIACH_SEQUENCE_NUMBER_WRAP)。

ShortRetryCount (MQCFIN)

短期再試行カウント (パラメーター ID: MQIACH_SHORT_RETRY)。

ShortRetryInterval (MQCFIN)

ショート・タイマー (パラメーター ID: MQIACH_SHORT_TIMER)。

SSLClientAuthentication (MQCFIN)

SSL クライアント認証 (パラメーター ID: MQIACH_SSL_CLIENT_AUTH)。

値は次のいずれかです。

MQSCA_REQUIRED

認証は必須です。

MQSCA_OPTIONAL

認証はオプションです。

TpName (MQCFST)

トランザクション・プログラム名 (パラメーター ID: MQCACH_TP_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_TP_NAME_LENGTH です。

TransportType (MQCFIN)

伝送プロトコル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_XMIT_PROTOCOL_TYPE)。

値は以下のとおりです。

MQXPT_LU62

LU 6.2。

MQXPT_TCP

TCP。

MQXPT_NETBIOS

NetBIOS。

MQXPT_SPX

SPX。

UserIdentifier (MQCFST)

タスク・ユーザー ID (パラメーター ID: MQCACH_USER_ID)。

ストリングの最大長は MQ_USER_ID_LENGTH です。

XmitQName (MQCFST)

伝送キュー名 (パラメーター ID: MQCACH_XMIT_Q_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

チャンネル認証属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、チャンネル認証属性を組み込むことができます。該当するチャンネルのタイプに適用する属性のみがイベント・データに入れます。

ChannelProfile (MQCFST)

チャンネル・プロファイル (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。

最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

戻り: 常時。

ChannelAuthType (MQCFIN)

チャンネル認証タイプ (パラメーター ID: MQIACF_CHLAUTH_TYPE)。

戻り: 常時。

Warning (MQCFIN)

警告 (パラメーター ID: **MQIACH_WARNING**)。

戻り: 常時。

connectionNameList (MQCFSL)

接続名リスト (パラメーター ID: **MQCACH_CONNECTION_NAME_LIST**)。

エレメントの長さ: **MQ_CONN_NAME_LENGTH**。

戻り: **ChannelAuthType** が **MQAUT_BLOCKADDR** の場合のみ。

MCAUserIdList (MQCFSL)

MCA ユーザー ID リスト (パラメーター ID: **MQCACH_MCA_USER_ID_LIST**)。

エレメントの長さ: **MQ_MCA_USER_ID_LENGTH**。

戻り: **ChannelAuthType** が **MQAUT_BLOCKUSER** の場合のみ。

MCAUser (MQCFST)

MCA ユーザー (パラメーター ID: **MQCACH_MCA_USER_ID**)。

最大長: **MQ_MCA_USER_ID_LENGTH**。

戻り: **ChannelAuthType** がマッピング・タイプ (**MQCAUT_SSLPEERMAP**、**MQCAUT_ADDRESSMAP**、**MQCAUT_USERMAP**、または **MQCAUT_QMGRMAP**) の場合のみ。

ConnectionName (MQCFST)

接続名 (パラメーター ID: **MQCACH_CONNECTION_NAME**)。

最大長: **MQ_CONN_NAME_LENGTH**。

戻り: **ChannelAuthType** がマッピング・タイプ (**MQCAUT_SSLPEERMAP**、**MQCAUT_ADDRESSMAP**、**MQCAUT_USERMAP**、または **MQCAUT_QMGRMAP**) の場合のみ。

UserSource (MQCFIN)

ユーザー・ソース (パラメーター ID: **MQIACH_USER_SOURCE**)。

戻り: **ChannelAuthType** がマッピング・タイプ (**MQCAUT_SSLPEERMAP**、**MQCAUT_ADDRESSMAP**、**MQCAUT_USERMAP**、または **MQCAUT_QMGRMAP**) の場合のみ。

SSLPeerName (MQCFST)

SSL ピア名 (パラメーター ID: **MQCACH_SSL_PEER_NAME**)。

最大長: **MQ_SSL_PEER_NAME_LENGTH**。

戻り: **ChannelAuthType** が **MQCAUT_SSLPEERMAP** の場合のみ。

ClientUserId (MQCFST)

クライアント・ユーザー ID (パラメーター ID: **MQCACH_CLIENT_USER_ID**)。

最大長: **MQ_MCA_USER_ID_LENGTH**。

戻り: **ChannelAuthType** が **MQCAUT_USERMAP** の場合のみ。

RemoteQueueManagerName (MQCFST)

リモート・キュー・マネージャー名 (パラメーター ID: **MQCA_REMOTE_Q_MGR_NAME**)。

最大長: **MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH**。

戻り: **ChannelAuthType** が **MQCAUT_QMGRMAP** の場合のみ。

リスナーの属性

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_DATE)。

情報が最後に変更された日付 (yyyy-mm-dd の形式)。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_TIME)。

情報が最後に変更された時刻 (hh.mm.ss の形式)。

Windows Adapter (MQCIN)

アダプター番号 (パラメーター ID: MQIACH_ADAPTER)。

NetBIOS が listen するアダプター番号。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

Backlog (MQCIN)

バックログ (パラメーター ID: MQIACH_BACKLOG)。

リスナーがサポートする並行接続要求の数。

Windows Commands (MQCIN)

アダプター番号 (パラメーター ID: MQIACH_COMMAND_COUNT)。

リスナーが使用できるコマンドの数。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

IPAddress (MQCFST)

IP アドレス (パラメーター ID: MQCACH_IP_ADDRESS)。

リスナーの IP アドレス。IPv4 ドット 10 進表記、IPv6 16 進表記、または英数字ホスト名のいずれかの形式で指定します。

ListenerDesc (MQCFST)

リスナー定義の説明 (パラメーター ID: MQCACH_LISTENER_DESC)。

ListenerName (MQCFST)

リスナー定義の名前 (パラメーター ID: MQCACH_LISTENER_NAME)。

Windows LocalName (MQCFST)

NetBIOS ローカル名 (パラメーター ID: MQCACH_LOCAL_NAME)。

リスナーが使用する NetBIOS ローカル名。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

Windows NetbiosNames (MQCFIN)

NetBIOS 名 (パラメーター ID: MQIACH_NAME_COUNT)。

リスナーでサポートされる名前数。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

Port (MQCFIN)

ポート番号 (パラメーター ID: MQIACH_PORT)。

TCP/IP のポート番号。このパラメーターは、**TransportType** の値が MQXPT_TCP の場合にのみ有効です。

Windows Sessions (MQCFIN)

NetBIOS セッション (パラメーター ID: MQIACH_SESSION_COUNT)。

リスナーが使用できるセッションの数。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

Socket (MQCFIN)

SPX ソケット番号 (パラメーター ID: MQIACH_SOCKET)。

listen する SPX ソケットです。このパラメーターは、**TransportType** の値が MQXPT_SPX の場合にのみ有効です。

StartMode (MQCFIN)

サービス・モード (パラメーター ID: MQIACH_LISTENER_CONTROL)。

リスナーの開始および停止の方法を指定します。値は次のいずれかです。

MQSVC_CONTROL_MANUAL

リスナーは、ユーザー・コマンドにより手動で開始および停止されます。

MQSVC_CONTROL_Q_MGR

キュー・マネージャーが開始/停止されると、リスナーが開始/停止されます。

MQSVC_CONTROL_Q_MGR_START

リスナーはキュー・マネージャーが開始すると開始しますが、キュー・マネージャーの停止時には停止しません。

Windows TPName (MQCFST)

トランザクション・プログラム名 (パラメーター ID: MQCACH_TP_NAME)。

LU 6.2 トランザクション・プログラム名。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

TransportType (MQCFIN)

伝送プロトコル (パラメーター ID: MQIACH_XMIT_PROTOCOL_TYPE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQXPT_TCP

TCP

MQXPT_LU62

LU 6.2

MQXPT_NETBIOS

NetBIOS

MQXPT_SPX

SPX

名前リストの属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、名前リスト属性を組み込むことができます。

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_DATE)。

情報が最後に変更された日付。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_TIME)。

情報が最後に変更された時刻。

NameCount (MQCFIN)

名前リスト内の名前の数 (パラメーター ID: MQIA_NAME_COUNT)。

名前リストに入っている名前の数。

NamelistDesc (MQCFST)

名前リスト定義の説明 (パラメーター ID: MQCA_NAMELIST_DESC)。

ストリングの最大長は MQ_NAMELIST_DESC_LENGTH です。

NamelistName (MQCFST)

名前リストの定義の名前 (パラメーター ID: MQCA_NAMELIST_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_NAMELIST_NAME_LENGTH です。

NamelistType (MQCFIN)

名前リスト・タイプ (パラメーター ID: MQIA_NAMELIST_TYPE)。

Names (MQCFSL)

名前リストに含まれる名前 (パラメーター ID: MQCA_NAMES)。

リスト内の名前の数は、MQCFSL 構造の **Count** フィールドで指定されます。各名前の長さは、その構造内の **StringLength** フィールドによって指定されます。名前の最大長は MQ_OBJECT_NAME_LENGTH です。

プロセスの属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、プロセス属性を組み込むことができます。

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_DATE)。

情報が最後に変更された日付。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_TIME)。

情報が最後に変更された時刻。

ApplId (MQCFST)

アプリケーション ID (パラメーター ID: MQCA_APPL_ID)。

ストリングの最大長は MQ_PROCESS_APPL_ID_LENGTH です。

ApplType (MQCFIN)

アプリケーション・タイプ (パラメーター ID: MQIA_APPL_TYPE)。

EnvData (MQCFST)

環境データ (パラメーター ID: MQCA_ENV_DATA)。

ストリングの最大長は MQ_PROCESS_ENV_DATA_LENGTH です。

ProcessDesc (MQCFST)

プロセス定義の説明 (パラメーター ID: MQCA_PROCESS_DESC)。

ストリングの最大長は MQ_PROCESS_DESC_LENGTH です。

ProcessName (MQCFST)

プロセス定義の名前 (パラメーター ID: MQCA_PROCESS_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_PROCESS_NAME_LENGTH です。

UserData (MQCFST)

ユーザー・データ (パラメーター ID: MQCA_USER_DATA)。

ストリングの最大長は MQ_PROCESS_USER_DATA_LENGTH です。

キューの属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、キュー属性を組み込むことができます。

該当するキューのタイプに適用する属性のみがイベント・データに入れられます。

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_DATE)。

情報が最後に変更された日付。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_TIME)。

情報が最後に変更された時刻。

BackoutRequeueName (MQCFST)

過剰なバックアウト・リキュー名 (パラメーター ID: MQCA_BACKOUT_REQ_Q_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

BackoutThreshold (MQCFIN)

バックアウトしきい値 (パラメーター ID: MQIA_BACKOUT_THRESHOLD)。

BaseQName (MQCFST)

別名が解決されるキュー名 (パラメーター ID: MQCA_BASE_Q_NAME)。

ローカル・キュー・マネージャーに対して定義されるキューの名前です。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

CFstructure (MQCFST)

CF 構造名 (パラメーター ID: MQCA_CF_STRUC_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_CF_STRUC_NAME_LENGTH です。

ClusterName (MQCFST)

クラスター名 (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_NAME)。

ClusterNameList (MQCFST)

クラスター名前リスト (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_NAMELIST)。

CLWLQueuePriority (MQCFIN)

キュー優先順位 (パラメーター ID: MQIA_CLWL_Q_PRIORITY)。

CLWLQueueRank (MQCFIN)

キュー・ランク (パラメーター ID: MQIA_CLWL_Q_RANK)。

CLWLUseQ (MQCFIN)

これは、ターゲット・キューにローカル・インスタンスと少なくとも 1 つのリモート・クラスター・インスタンスの両方がある場合の MQPUT の動作を定義します (パラメーター ID: MQIA_CLWL_USEQ)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCLWL_USEQ_ANY

リモート・キューとローカル・キューを使用します。

MQCLWL_USEQ_LOCAL

リモート・キューを使用しません。

MQCLWL_USEQ_AS_Q_MGR

キュー・マネージャー属性 **CLWLUseQ** から定義を継承します。

CreationDate (MQCFST)

キュー作成日 (パラメーター ID: MQCA_CREATION_DATE)。

ストリングの最大長は MQ_CREATION_DATE_LENGTH です。

CreationTime (MQCFST)

作成時刻 (パラメーター ID: MQCA_CREATION_TIME)。

ストリングの最大長は MQ_CREATION_TIME_LENGTH です。

DefBind (MQCFIN)

デフォルト・バインディング (パラメーター ID: MQIA_DEF_BIND)。

値は次のいずれかです。

MQBND_BIND_ON_OPEN

MQOPEN 呼び出しで固定されたバインディング。

MQBND_BIND_NOT_FIXED

固定されていないバインディング。

MQBND_BIND_ON_GROUP

グループ内のメッセージすべてを同じ宛先のインスタンスに割り振る要求をアプリケーションが行えるようになります。

DefinitionType (MQCFIN)

キュー定義タイプ (パラメーター ID: MQIA_DEFINITION_TYPE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQDT_PREDEFINED

事前定義された永続キュー。

MQQDT_PERMANENT_DYNAMIC

動的に定義された永続キュー。

MQQDT_SHARED_DYNAMIC

共有される、動的に定義された永続キュー。

DefInputOpenOption (MQCFIN)

キューを共用できるかどうかを定義するためのデフォルトの入力オープン・オプション (パラメーター ID: MQIA_DEF_INPUT_OPEN_OPTION)。

値は次のいずれかです。

MQOO_INPUT_EXCLUSIVE

メッセージを読み取るためにキューを排他アクセス・モードでオープンする。

MQOO_INPUT_SHARED

共有アクセスによりメッセージを読み取るためにキューをオープンする。

DefPersistence (MQCFIN)

デフォルトの持続性 (パラメーター ID: MQIA_DEF_PERSISTENCE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQPER_PERSISTENT

メッセージは持続します。

MQPER_NOT_PERSISTENT

メッセージは持続しません。

DefPriority (MQCFIN)

デフォルトの優先順位 (パラメーター ID: MQIA_DEF_PRIORITY)。

HardenGetBackout (MQCFIN)

バックアウトを強化するかどうか (パラメーター ID: MQIA_HARDEN_GET_BACKOUT)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQA_BACKOUT_HARDENED

バックアウト・カウントが保管される。

MQQA_BACKOUT_NOT_HARDENED

バックアウト・カウントが保管されない。

IndexType (MQCFIN)

索引タイプ (パラメーター ID: MQIA_INDEX_TYPE)。

InhibitGet (MQCFIN)

取得操作が許可されるかどうか (パラメーター ID: MQIA_INHIBIT_GET)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQA_GET_ALLOWED

取得操作は許可されています。

MQQA_GET_INHIBITED

取得操作は禁止されています。

InhibitPut (MQCFIN)

PUT 操作が許可されるかどうか (パラメーター ID: MQIA_INHIBIT_PUT)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQA_PUT_ALLOWED

書き込み操作が許可されています。

MQQA_PUT_INHIBITED

書き込み操作は使用禁止です。

InitiationQName (MQCFST)

開始キュー名 (パラメーター ID: MQCA_INITIATION_Q_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

MaxMsgLength (MQCFIN)

最大メッセージ長 (パラメーター ID: MQIA_MAX_MSG_LENGTH)。

MaxQDepth (MQCFIN)

最大キュー項目数 (パラメーター ID: MQIA_MAX_Q_DEPTH)。

MsgDeliverySequence (MQCFIN)

優先順位が関連しているかどうか (パラメーター ID: MQIA_MSG_DELIVERY_SEQUENCE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMDS_PRIORITY

メッセージが優先順位順に戻されます。

MQMDS_FIFO

メッセージは FIFO (先入れ先出し法) の順に戻されます。

ProcessName (MQCFST)

キューのプロセス定義の名前 (パラメーター ID: MQCA_PROCESS_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_PROCESS_NAME_LENGTH です。

QDepthHiEvent (MQCFIN)

キュー・サイズ上限イベントを生成するかどうかを制御します。 (パラメーター ID: MQIA_Q_DEPTH_HIGH_EVENT)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_ENABLED

キュー・サイズ上限イベントが有効になります。

MQEVR_DISABLED

キュー・サイズ上限イベントが無効になります。

QDepthHighLimit (MQCFIN)

キュー項目数の上限 (パラメーター ID: MQIA_Q_DEPTH_HIGH_LIMIT)。

キュー・サイズ上限イベントを生成する際にキューの長さの比較の対象になるしきい値。

QDepthLoEvent (MQCFIN)

キュー・サイズ下限イベントを生成するかどうかを制御します。 (パラメーター ID: MQIA_Q_DEPTH_LOW_EVENT)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_ENABLED

キュー・サイズ下限イベントが有効になります。

MQEVR_DISABLED

キュー・サイズ下限イベントが無効になります。

QDepthLowLimit (MQCFIN)

キュー項目数の下限 (パラメーター ID: MQIA_Q_DEPTH_LOW_LIMIT)。

キュー・サイズ下限イベントを生成する際にキューの長さの比較の対象になるしきい値。

QDepthMaxEvent (MQCFIN)

キュー満杯イベントを生成するかどうかを制御します。 (パラメーター ID: MQIA_Q_DEPTH_MAX_EVENT)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_ENABLED

キュー・サイズ・イベントが有効になります。

MQEVR_DISABLED

キュー・サイズ・イベントが無効になります。

QDesc (MQCFST)

キュー記述 (パラメーター ID: MQCA_Q_DESC)。

ストリングの最大長は MQ_Q_DESC_LENGTH です。

QName (MQCFST)

キュー名 (パラメーター ID: MQCA_Q_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

QServiceInterval (MQCFIN)

キュー・サービス間隔のターゲット (パラメーター ID: MQIA_Q_SERVICE_INTERVAL)。

キュー・サービス間隔上限およびキュー・サービス間隔 OK イベントを生成する際に、比較に使用されるサービス間隔。

QType (MQCFIN)

キュー・タイプ (パラメーター ID: MQIA_Q_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQQT_ALIAS

別名キュー定義。

MQQT_LOCAL

ローカル・キュー。

MQQT_REMOTE

リモート・キューのローカル定義。

MQQT_MODEL

モデル・キュー定義。

QueueAccounting (MQCFIN)

アカウンティング情報を収集するかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIA_ACCOUNTING_Q)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_ON

キューについてアカウンティング情報を収集します。

MQMON_OFF

キューについてアカウンティング情報を収集しません。

MQMON_Q_MGR

このキューのアカウンティング情報の収集は、キュー・マネージャー属性 **QueueAccounting** に基づいています。

QueueMonitoring (MQCFIN)

キューのモニター・データ収集のレベル (パラメーター ID: MQIA_MONITORING_Q)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_OFF

モニター・データ収集はオフになります。

MQMON_LOW

モニター・データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

MQMON_MEDIUM

モニター・データ収集は、普通のデータ収集率でオンとなります。

MQMON_HIGH

モニター・データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

MQMON_Q_MGR

収集されるモニター・データのレベルは、キュー・マネージャー属性 **QueueMonitoring** に基づきます。

RemoteQMgrName (MQCFST)

リモート・キュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: MQCA_REMOTE_Q_MGR_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

RemoteQName (MQCFST)

リモート・キュー・マネージャーでローカルに認識されているリモート・キューの名前 (パラメーター ID: MQCA_REMOTE_Q_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

RetentionInterval (MQCFIN)

保存間隔 (パラメーター ID: MQIA_RETENTION_INTERVAL)。

ServiceIntervalEvent (MQCFIN)

サービス間隔上限イベントまたはサービス間隔 OK イベントが生成されるかどうかを制御します。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSIE_NONE

サービス・インターバル・イベントは生成されません。

MQQSIE_OK

「サービス・インターバル OK」 イベントが生成されます。

MQQSIE_HIGH

「サービス・インターバル高」 イベントが生成されます。

Shareability (MQCFIN)

キューを共用できるかどうか (パラメーター ID: MQIA_SHAREABILITY)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQA_SHAREABLE

キューは共有可能。

MQQA_NOT_SHAREABLE

キューは共有不可。

StorageClass (MQCFST)

ストレージ・クラス名 (パラメーター ID: MQCA_STORAGE_CLASS)。

ストリングの最大長は MQ_STORAGE_CLASS_LENGTH です。

TriggerControl (MQCFIN)

トリガー制御 (パラメーター ID: MQIA_TRIGGER_CONTROL)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQTC_OFF

トリガー・メッセージは不要。

MQTC_ON

トリガー・メッセージは必要。

TriggerData (MQCFST)

トリガー・データ (パラメーター ID: MQCA_TRIGGER_DATA)。

ストリングの最大長は MQ_TRIGGER_DATA_LENGTH です。

TriggerDepth (MQCFIN)

トリガーの深さ (パラメーター ID: MQIA_TRIGGER_DEPTH)。

TriggerMsgPriority (MQCFIN)

トリガーのしきい値メッセージ優先順位 (パラメーター ID: MQIA_TRIGGER_MSG_PRIORITY)。

TriggerType (MQCFIN)

トリガー・タイプ (パラメーター ID: MQIA_TRIGGER_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQTT_NONE

トリガー・メッセージは書き込まれません。

MQTT_FIRST

トリガー・メッセージは、キューのサイズが 0 から 1 になったときに書き込まれます。

MQTT_EVERY

トリガー・メッセージは、すべてのメッセージについて書き込まれます。

MQTT_DEPTH

トリガー・メッセージは、サイズのしきい値を超えた場合に書き込まれます。

Usage (MQCFIN)

使用法 (パラメーター ID: **MQIA_USAGE**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQUS_NORMAL

通常の使用法。

MQUS_TRANSMISSION

伝送キュー。

XmitQName (MQCFST)

伝送キュー名 (パラメーター ID: **MQCA_XMIT_Q_NAME**)。

ストリングの最大長は **MQ_Q_NAME_LENGTH** です。

キュー・マネージャーの属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、キュー・マネージャー属性を組み込むことができます。

Multi AccountingConnOverride (MQCFIN)

アプリケーションが **QueueAccounting** および **MQIAccounting** キュー・マネージャー・パラメーターの設定をオーバーライドできるかどうかを指定します (パラメーター ID: **MQIA_ACCOUNTING_CONN_OVERRIDE**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_DISABLED

アプリケーションは、**QueueAccounting** および **MQIAccounting** パラメーターの設定をオーバーライドできません。

この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

MQMON_ENABLED

アプリケーションは、MQCONN API 呼び出しの **MQCNO** 構造体のオプション・フィールドを使用して、**QueueAccounting** および **MQIAccounting** パラメーターの設定をオーバーライドできます。

このパラメーターは、IBM i、AIX、Linux、and Windows でのみ有効です。

Multi AccountingInterval (MQCFIN)

中間アカウンティング・レコードが書き込まれる時間間隔 (秒単位) (パラメーター ID: **MQIA_ACCOUNTING_INTERVAL**)。

1 から 604,000 の範囲の値を指定します。

このパラメーターは、IBM i、AIX、Linux、and Windows でのみ有効です。

ActivityRecording (MQCFIN)

アクティビティー・レコーディングを使用可能にするか使用不可にするかを指定します (パラメーター ID: **MQIA_ACTIVITY_RECORDING**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRECORDING_MSG

アクティビティー・レコーディングは有効です。アクティビティー・レポートは、メッセージのメッセージ記述子に指定した応答先キューに送信されます。

MQRECORDING_Q

アクティビティー・レコーディングは有効です。アクティビティー・レポートは、固定された名前のキューに送信されます。

MQRECORDING_DISABLED

アクティビティ・レコーディングは無効です。

AdoptNewMCACheck (MQCFIN)

同じ名前のインバウンド・チャンネルが検出されたときに、既存の受信側 MCA が採用されるかどうかを判別する手順 (パラメーター ID: **MQIA_ADOPTNEWMCA_CHECK**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQADOPT_CHECK_Q_MGR_NAME

受信側 MCA とインバウンド・チャンネルを比較します。キュー・マネージャー名が一致した場合、既存の受信側 MCA がアクティブであれば選択されます。一致しない場合は、既存の受信側 MCA が取り消され、新規 MCA が作成されます。

MQADOPT_CHECK_NET_ADDR

受信側 MCA とインバウンド・チャンネルを比較します。ネットワーク・アドレスが一致した場合、既存の受信側 MCA がアクティブであれば選択されます。一致しない場合は、既存の受信側 MCA が取り消され、新規 MCA が作成されます。

MQADOPT_CHECK_ALL

受信側 MCA とインバウンド・チャンネルを比較します。キュー・マネージャー名とネットワーク・アドレスの両方が一致した場合、既存の受信側 MCA がアクティブであれば選択されます。一致しない場合は、既存の受信側 MCA が取り消され、新規 MCA が作成されます。

MQADOPT_CHECK_NONE

既存の受信側 MCA がアクティブである場合、受信側 MCA は検査なしで選択されます。

AdoptNewMCAType (MQCFIN)

AdoptNewMCACheck プロシージャに一致するインバウンド・チャンネルが検出されたときに、孤立した受信側 MCA を再始動するかどうかを指定します (パラメーター ID: **MQIA_ADOPTNEWMCA_TYPE**)。

値は次のいずれかです。

MQADOPT_TYPE_NO

再始動は行われず、受信側オーファン MCA は選択されません。

MQADOPT_TYPE_ALL

再始動が行われ、受信側オーファン MCA が選択されます。

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: **MQCA_ALTERATION_DATE**)。

情報が最後に変更された日付。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: **MQCA_ALTERATION_TIME**)。

情報が最後に変更された時刻。

AuthorityEvent (MQCFIN)

許可 (不許可) イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_AUTHORITY_EVENT**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_ENABLED

許可イベント報告が有効です。

MQEVR_DISABLED

許可イベント報告が無効です。

BridgeEvent (MQCFIN)

IMS ブリッジ・イベントを生成するかどうかを決定します (パラメーター ID: **MQIA_BRIDGE_EVENT**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_ENABLED

すべての IMS ブリッジ・イベントが有効です。

MQEVR_DISABLED

すべての IMS ブリッジ・イベントが無効です。

CertificateLabel (MQCFST)

このキュー・マネージャーが使用する証明書ラベルを指定します。このラベルは、鍵リポジトリ内のどの個人証明書が選択されたかを識別します (パラメーター ID: MQCA_CERT_LABEL)。

ALW

CertificateValPolicy (MQCFIN)

リモート・パートナー・システムから受信したデジタル証明書を妥当性検査するために、どの TLS 証明書妥当性検査ポリシーを使用するかを指定します (パラメーター ID: MQIA_CERT_VAL_POLICY)。

この属性を使用することにより、証明書チェーン妥当性検査においてセキュリティに関する業界の標準規格にどの程度厳密に準拠するかを制御することができます。詳しくは、[IBM MQ における証明書妥当性検査ポリシー](#)を参照してください。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQ_CERT_VAL_POLICY_ANY

セキュア・ソケット・ライブラリーでサポートされる証明書妥当性検査ポリシーのいずれかにおいて、その証明書チェーンが有効であると見なされる場合に、それらのポリシーのそれぞれを適用し、証明書チェーンを受け入れます。この設定は、最新の証明書標準に準拠しない旧式のデジタル証明書との後方互換性を最大にするために使用できます。

MQ_CERT_VAL_POLICY_RFC5280

RFC 5280 準拠の証明書妥当性検査ポリシーのみを適用します。この設定は、ANY 設定よりも厳密に妥当性検査しますが、一部の旧式のデジタル証明書を拒否します。

このパラメーターは AIX, Linux, and Windows でのみ有効であり、コマンド・レベルが 711 以上のキュー・マネージャーでのみ使用できます。

CertificateValPolicy に対する変更は、以下の場合に有効になります。

- 新しいチャネル・プロセスが開始される時。
- チャネル・イニシエーターのスレッドとして実行されるチャネルの場合は、チャネル・イニシエーターが再始動される時。
- リスナーのスレッドとして実行されるチャネルの場合は、リスナーが再始動される時。
- プロセス・プール・プロセスのスレッドとして実行されるチャネルの場合は、プロセス・プール・プロセスが開始または再開始され、TLS チャネルを最初に実行したとき。プロセス・プーリング・プロセスが既に TLS チャネルを実行しており、変更を即時に有効にする場合は、MQSC コマンド **REFRESH SECURITY TYPE(SSL)** を実行します。プロセス・プーリング・プロセスは、AIX, Linux, and Windows 上では **amqrmppa** です。
- **REFRESH SECURITY TYPE(SSL)** コマンドが発行されたとき。

z/OS

CFConlos (MQCFIN)

キュー・マネージャーが管理構造体への接続を失った場合、または **CFConlos** が ASQMGR に設定されている CF 構造体への接続を失った場合に実行するアクションを指定します (パラメーター ID: MQIA_QMGR_CFCNLOS)。

値は次のいずれかです。

MQCFCONLOS_TERMINATE

CF 構造体への接続が失われると、キュー・マネージャーが終了します。

MQCFCONLOS_TOLERATE

キュー・マネージャーは CF 構造体への接続が失われてもそれを許容し、終了しません。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

ChannelAuthenticationRecords (MQCFIN)

チャネル認証レコードを使用するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_CHLAUTH_RECORDS)。

チャネル認証レコードは、この属性の値に関係なく設定および表示することができます。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCHLA_DISABLED

チャンネル認証レコードは検査されません。

MQCHLA_ENABLED

チャンネル認証レコードは検査されます。

Multi

ChannelAutoDef (MQCFIN)

受信側チャンネルおよびサーバー接続チャンネルを自動定義できるかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_CHANNEL_AUTO_DEF**)。

クラスター送信側チャンネルの自動定義は常に使用可能にされます。

このパラメーターは、IBM i、AIX, Linux, and Windows でのみ有効です。

値は次のいずれかです。

MQCHAD_DISABLED

チャンネルの自動定義は無効です。

MQCHAD_ENABLED

チャンネルの自動定義は有効です。

Multi

ChannelAutoDefEvent (MQCFIN)

受信側チャンネル、サーバー接続チャンネル、またはクラスター送信側チャンネルが自動定義される時に、チャンネル自動定義イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID:

MQIA_CHANNEL_AUTO_DEF_EVENT)。

このパラメーターは、IBM i、AIX, Linux, and Windows でのみ有効です。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

ChannelAutoDefExit (MQCFST)

チャンネル自動定義出口名 (パラメーター ID: **MQCA_CHANNEL_AUTO_DEF_EXIT**)。

出口名の最大長は **MQ_EXIT_NAME_LENGTH** です。

このパラメーターは、MQSeries® 5.1 以降の製品が使用可能な環境でのみサポートされます。

ChannelEvent (MQCFIN)

チャンネル・イベントを生成するかどうかを決定します (パラメーター ID: **MQIA_CHANNEL_EVENT**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_ENABLED

すべてのチャンネル・イベントが有効です。

MQEVR_EXCEPTION

以下のチャンネル・イベントのみが有効です。

- **MQRC_CHANNEL_ACTIVATED**
- **MQRC_CHANNEL_CONV_ERROR**
- **MQRC_CHANNEL_NOT_ACTIVATED**
- **MQRC_CHANNEL_STOPPED**

MQEVR_DISABLED

すべてのチャンネル・イベントが無効です。

ChannelInitiatorControl (MQCFIN)

キュー・マネージャーの開始時にチャンネル・イニシエーターを開始するかどうかを指定します (パラメーター ID: **MQIA_CHINIT_CONTROL**)。

値は次のいずれかです。

MQSVC_CONTROL_MANUAL

チャンネル・イニシエーターは自動的に開始されません。

MQSVC_CONTROL_Q_MGR

キュー・マネージャーの始動時にチャンネル・イニシエーターを自動的に開始します。

このパラメーターは、IBM i、AIX、Linux、and Windows でのみ有効です。

ChannelMonitoring (MQCFIN)

チャンネルのリアルタイム・モニター・データ収集のレベル (パラメーター ID: **MQIA_MONITORING_CHANNEL**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_NONE

ChannelMonitoring チャンネル属性の設定に関係なく、モニター・データ収集は無効になります。

MQMON_OFF

ChannelMonitoring チャンネル属性に **MQMON_Q_MGR** が指定されているチャンネルのモニター・データ収集はオフになります。

MQMON_LOW

ChannelMonitoring チャンネル属性に **MQMON_Q_MGR** が指定されているチャンネルのモニター・データ収集は、低いデータ収集率でオンになります。

MQMON_MEDIUM

ChannelMonitoring チャンネル属性に **MQMON_Q_MGR** を指定したチャンネルの場合、モニター・データ収集は中程度のデータ収集率でオンになります。

MQMON_HIGH

ChannelMonitoring チャンネル属性に **MQMON_Q_MGR** が指定されているチャンネルのモニター・データ収集は、高いデータ収集率でオンになります。

ChannelStatistics (MQCFIN)

チャンネルの統計データを収集するかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_STATISTICS_CHANNEL**)。

値は次のいずれかです。

MQMON_NONE

チャンネルの **ChannelStatistics** パラメーターの設定に関係なく、チャンネルの統計データ収集はオフになります。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

MQMON_OFF

ChannelStatistics パラメーターに値 **MQMON_Q_MGR** が指定されているチャンネルの統計データ収集はオフになります。

MQMON_LOW

ChannelStatistics パラメーターに指定された値が **MQMON_Q_MGR** であるチャンネルに対して、統計データ収集が、低いデータ収集率でオンになります。

MQMON_MEDIUM

ChannelStatistics パラメーターに値 **MQMON_Q_MGR** が指定されているチャンネルの統計データ収集は、中程度のデータ収集率でオンになります。

MQMON_HIGH

ChannelStatistics パラメーターに値 **MQMON_Q_MGR** が指定されているチャンネルの場合、統計データ収集は、高いデータ収集率でオンになります。

z/OS の上 z/OS システムでは、このパラメータを有効にすると、選択した値に関係なく、統計データの収集がオンになるだけです。LOW、MEDIUM、または HIGH のどれを指定しても、結果に違い

はありません。チャンネル・アカウントिंग・レコードを収集するには、このパラメーターを有効にしなければなりません。

ChinitAdapters (MQCFIN)

IBM MQ 呼び出しの処理に使用するチャンネル・イニシエーター・アダプター・サブタスクの数 (パラメーター ID: **MQIA_CHINIT_ADAPTERS**)。

この値は 0 から 9999 の範囲でなければなりません。

ChinitDispatchers (MQCFIN)

チャンネル・イニシエーターに使用するディスパッチャーの数 (パラメーター ID: **MQIA_CHINIT_DISPATCHERS**)。

ChinitServiceParm (MQCFST)

この属性は、IBM で使用するために予約されています (パラメーター ID: **MQCA_CHINIT_SERVICE_PARM**)。

ChinitTraceAutoStart (MQCFIN)

チャンネル・イニシエーター・トレースを自動的に開始するかどうかを指定します (パラメーター ID: **MQIA_CHINIT_TRACE_AUTO_START**)。

値は次のいずれかです。

MQTRAXSTR_YES

チャンネル・イニシエーター・トレースを自動的に開始します。

MQTRAXSTR_NO

チャンネル・イニシエーター・トレースを自動的に開始しません。

ChinitTraceTableSize (MQCFIN)

チャンネル・イニシエーターのトレース・データ・スペースのサイズ (MB) (パラメーター ID: **MQIA_CHINIT_TRACE_TABLE_SIZE**)。

ClusterSenderMonitoring (MQCFIN)

自動定義クラスター送信側チャンネルのリアルタイム・モニター・データ収集のレベル (パラメーター ID: **MQIA_MONITORING_AUTO_CLUSSDR**)。

このパラメーターは、以下のいずれかの値になります。

MQMON_Q_MGR

モニター・データの収集は、キュー・マネージャー・オブジェクトの **ChannelMonitoring** 属性の設定から継承されます。

MQMON_OFF

モニター・データ収集は無効です。

MQMON_LOW

モニター・データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

MQMON_MEDIUM

モニター・データ収集は、普通のデータ収集率でオンとなります。

MQMON_HIGH

モニター・データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

ClusterSenderStatistics (MQCFIN)

自動定義クラスター送信側チャンネルの統計データを収集するかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_STATISTICS_AUTO_CLUSSDR**)。

値は次のいずれかです。

MQMON_Q_MGR

統計データの収集は、キュー・マネージャーの **ChannelStatistics** パラメーターの設定から継承されます。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

MQMON_OFF

チャンネルの統計データ収集は使用不可になります。

MQMON_LOW

ChannelStatistics が MQMON_NONE でない場合、この値は、システム・パフォーマンスへの影響を最小にして低いデータ収集率を指定します。

MQMON_MEDIUM

ChannelStatistics が MQMON_NONE でない場合、この値は中程度のデータ収集率を指定します。

MQMON_HIGH

ChannelStatistics が MQMON_NONE でない限り、この値は高いデータ収集率を指定します。

の上 z/OS システムでは、このパラメータを有効にすると、選択した値に関係なく、統計データの収集がオンになるだけです。LOW、MEDIUM、または HIGH のどれを指定しても、結果には変わりありません。チャンネル・アカウント・レコードを収集するには、このパラメータを有効にしなければなりません。

ClusterWorkLoadData (MQCFST)

クラスター・ワークロード出口に渡されるデータ (パラメーター ID: **MQCA_CLUSTER_WORKLOAD_DATA**)。

ClusterWorkLoadExit (MQCFST)

クラスター・ワークロード出口の名前 (パラメーター ID: **MQCA_CLUSTER_WORKLOAD_EXIT**)。

出口名の最大長は **MQ_EXIT_NAME_LENGTH** です。

ClusterWorkLoadLength (MQCFIN)

クラスター・ワークロードの長さ (パラメーター ID: **MQIA_CLUSTER_WORKLOAD_LENGTH**)。

クラスター・ワークロード出口に渡されるメッセージの最大長。

CLWLMRUChannels (MQCFIN)

クラスター・ワークロード・バランシング用に最近使用されたチャンネルの最大数 (パラメーター ID: **MQIA_CLWL_MRU_CHANNELS**)。

CLWLUseQ (MQCFIN)

これは、ターゲット・キューにローカル・インスタンスと少なくとも 1 つのリモート・クラスター・インスタンスの両方がある場合の MQPUT の動作を定義します (パラメーター ID: **MQIA_CLWL_USEQ**)。

このパラメーターは、以下のいずれかの値になります。

MQCLWL_USEQ_ANY

リモート・キューとローカル・キューを使用します。

MQCLWL_USEQ_LOCAL

リモート・キューを使用しません。

CodedCharSetId (MQCFIN)

コード化文字セット ID (パラメーター ID: **MQIA_CODED_CHAR_SET_ID**)。

CommandEvent (MQCFIN)

コマンド・イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_COMMAND_EVENT**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_DISABLED

コマンド・イベント生成は無効です。

MQEVR_ENABLED

コマンド・イベント生成は有効です。

MQEVR_NO_DISPLAY

MQSC DISPLAY コマンドおよび **PCF Inquire** コマンド以外のすべてのコマンドについて、コマンド・イベントが生成されます。

CommandEvent (MQCFIN)

コマンド・イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_COMMAND_EVENT**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

MQEVR_NO_DISPLAY

Inquire コマンドを除く成功したすべてのコマンドについてイベント報告は有効です。

CommandInputQName (MQCFST)

コマンド入力キュー名 (パラメーター ID: MQCA_COMMAND_INPUT_Q_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

CommandLevel (MQCFIN)

キュー・マネージャーでサポートされるコマンド・レベル (パラメーター ID: MQIA_COMMAND_LEVEL)。

z/OS CommandScope (MQCFIN)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS にのみ適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するかを指定します。以下の値のうちいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります。コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。このコマンドは、ローカル・キュー・マネージャー上で実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブ・キュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

Multi CommandServerControl (MQCFIN)

キュー・マネージャーの始動時にコマンド・サーバーを始動するかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIA_CMD_SERVER_CONTROL)。

値は次のいずれかです。

MQSVC_CONTROL_MANUAL

コマンド・サーバーは自動的に開始されません。

MQSVC_CONTROL_Q_MGR

キュー・マネージャーの始動時にコマンド・サーバーを自動的に開始します。

このパラメーターは、IBM i、AIX、Linux、and Windows でのみ有効です。

ConfigurationEvent (MQCFIN)

構成イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_CONFIGURATION_EVENT)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_DISABLED

構成イベント生成は無効です。

MQEVR_ENABLED

構成イベント生成は有効です。

ConnAuth (MQCFST)

ユーザー ID およびパスワード認証の場所を指定するために、使用される認証情報オブジェクトの名前 (パラメーター ID: MQCA_CONN_AUTH)。

ストリングの最大長は MQ_AUTH_INFO_NAME_LENGTH です。タイプが IDPWOS または IDPWLDAP の認証情報オブジェクトのみ指定できます。その他のタイプの場合は、以下のものが構成を読み取る際にエラー・メッセージが表示されます。

-  OAM (AIX, Linux, and Windows の場合)。
-  セキュリティー・コンポーネント (z/OS の場合)

Custom (MQCFST)

新機能のカスタム属性 (パラメーター ID: MQCA_CUSTOM)。

この属性は、単独の属性が導入されるまでの間、新しい機能の構成用として予約されています。1つ以上のスペースで分離された、ゼロ個以上の属性の値 (属性名と値のペアとして指定) を含むことができます。属性名と値のペアの形式は、NAME (VALUE) です。単一引用符は、別の単一引用符でエスケープする必要があります。

この属性を使用する機能が導入されるときに、この記述は更新されます。Custom に指定できる値はありません。

ストリングの最大長は MQ_CUSTOM_LENGTH です。

CPILevel (MQCFIN)

CPI レベル (パラメーター ID: MQIA_CPI_LEVEL)。

DeadLetterQName (MQCFST)

送達不能 (未配布メッセージ) キュー名 (パラメーター ID: MQCA_DEAD_LETTER_Q_NAME)。

未配布メッセージに使用されるローカル・キューの名前を指定します。メッセージが正しい宛先に送られない場合は、メッセージはこのキューに書き込まれます。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

DefXmitQName (MQCFST)

デフォルト伝送キュー名 (パラメーター ID: MQCA_DEF_XMIT_Q_NAME)。

これは、デフォルト伝送キュー以外の伝送キューを使用するよう指示しない場合、リモート・キュー・マネージャーにメッセージを伝送するために使用されるデフォルトの伝送キューの名前です。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

DNSGroup (MQCFST)

このパラメーターは、今後使用されません。IBM MQ for z/OS 8.0 以降、WLM/DNS は z/OS Communications Server でサポートされなくなったため、キュー・マネージャー属性 DNSWLM および DNSGROUP は使用されなくなりました。(パラメーター ID: MQCA_DNS_GROUP)。

この名前の最大長は、MQ_DNS_GROUP_NAME_LENGTH です。

DNSWLM (MQCFIN)

このパラメーターは、今後使用されません。IBM MQ for z/OS 8.0 以降、WLM/DNS は z/OS Communications Server でサポートされなくなったため、キュー・マネージャー属性 DNSWLM および DNSGROUP は使用されなくなりました。(パラメーター ID: MQIA_DNS_WLM)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQDNSWLM_YES

この値は、以前のリリースからマイグレーションされたキュー・マネージャーで使用される場合があります。値は無視されます。

MQDNSWLM_NO

この値だけが、キュー・マネージャーによってサポートされます。

EncryptionPolicySuiteB (MQCFIL)

スイート B 準拠の暗号方式を使用するかどうか、および使用する強度レベル (パラメーター ID MQIA_SUITE_B_STRENGTH) を指定します。

値は以下のいずれかです (複数可)。

MQ_SUITE_B_NONE

Suite B 準拠の暗号方式を使用しません。

MQ_SUITE_B_128_BIT

128 ビットの強度の Suite B セキュリティーを使用します。

MQ_SUITE_B_192_BIT

192 ビットの強度の Suite B セキュリティーを使用します。

無効なリスト (MQ_SUITE_B_NONE と MQ_SUITE_B_128_BIT など) が指定されると、エラー MQRCCF_SUITE_B_ERROR が発行されます。

ExpiryInterval (MQCFIN)

有効期限間隔 (パラメーター ID: MQIA_EXPIRY_INTERVAL)。

Force (MQCFIN)

変更を強制します (パラメーター ID: MQIACF_FORCE)。

次の 2 つの条件が両方とも満たされた場合にコマンドを強制的に完了するかどうかを指定します。

- DefXmitQName が指定され、および
- アプリケーションのリモート・キューがオープンされていて、この変更によってこの解決が影響を受ける。

z/OS GroupUR (MQCFIN)

XA クライアント・アプリケーションが GROUP リカバリー単位属性指定を使用してトランザクションを確立できるかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_GROUP_UR)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQGUR_DISABLED

XA クライアント・アプリケーションは、キュー・マネージャー名を使用して接続する必要があります。

MQGUR_ENABLED

XA クライアント・アプリケーションは、接続時にキュー共有グループ名を指定することにより、リカバリー単位属性指定を使用したトランザクションを確立できます。

z/OS IGQPutAuthority (MQCFIN)

IGQ 書き込み権限 (パラメーター ID: MQIA_IGQ_PUT_AUTHORITY)。

z/OS IGQUserId (MQCFST)

グループ内キューイング・エージェントのユーザー ID (パラメーター ID: MQCA_IGQ_USER_ID)。このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

ローカルのグループ内キューイング・エージェントに関連付けられたユーザー ID を指定します。この ID は IGQ エージェントによってメッセージがローカル・キューに書き込まれるときに、権限確認で検査される可能性のあるユーザー ID の 1 つです。検査される実際のユーザー ID は、**IGQPutAuthority** 属性の設定および外部セキュリティー・オプションによって異なります。

最大長は MQ_USER_ID_LENGTH です。

Multi ImageInterval (MQCFIN)

キュー・マネージャーがメディア・イメージを自動的に書き込むターゲットの頻度 (オブジェクトの前のメディア・イメージ以降の分数) (パラメーター ID: MQIA_MEDIA_IMAGE_INTERVAL)。このパラメーターは、z/OS では無効です。

値は次のいずれかです。

時間間隔

キュー・マネージャーがメディア・イメージを自動で書き込む分単位の時間間隔 (1 から 999 999 999)。

デフォルト値は 60 分です。

MQMEDIMGINTVL_OFF

時間間隔に基づいたメディア・イメージの自動書き込みは実行されません。

Multi ImageLogLength (MQCFIN)

オブジェクトの前のメディア・イメージの取得以降で、キュー・マネージャーが次にメディア・イメージを自動で書き込むまでの、書き込まれるリカバリー・ログのターゲット・サイズ (メガバイト単位)。これにより、オブジェクトのリカバリー時に読み取られるログの量が制限されます (パラメーター ID: **MQIA_MEDIA_IMAGE_LOG_LENGTH**)。このパラメーターは、z/OS では無効です。

値は次のいずれかです。

ターゲット・ログ・サイズ

リカバリー・ログのターゲット・サイズ (1 から 999 999 999 までのメガバイト単位)。

MQMEDIMGLOGLN_OFF

自動メディア・イメージを、書き込まれたログのサイズに基づいて書き込みません。

MQMEDIMGLOGLN_OFF がデフォルト値です。

Multi ImageRecoverObject (MQCFST)

リニア・ロギングが使用されている場合に、認証情報、チャンネル、クライアント接続、リスナー、名前リスト、プロセス、別名キュー、リモート・キュー、およびサービス・オブジェクトをメディア・イメージからリカバリー可能にするかどうかを指定します (パラメーター ID:

MQIA_MEDIA_IMAGE_RECOVER_OBJ)。このパラメーターは、z/OS では無効です。

値は次のいずれかです。

MQIMGRCOV_NO

これらのオブジェクトには **rcdmqimg** コマンドおよび **rcrmqobj** コマンドは許可されません。自動メディア・イメージ (使用可能な場合) は、これらのオブジェクトには書き込まれません。

MQIMGRCOV_YES

これらのオブジェクトはリカバリー可能です。

MQIMGRCOV_YES がデフォルト値です。

Multi ImageRecoverObject (MQCFST)

リニア・ロギングが使用されている場合に、認証情報、チャンネル、クライアント接続、リスナー、名前リスト、プロセス、別名キュー、リモート・キュー、およびサービス・オブジェクトをメディア・イメージからリカバリー可能にするかどうかを指定します (パラメーター ID:

MQIA_MEDIA_IMAGE_RECOVER_OBJ)。このパラメーターは、z/OS では無効です。

値は次のいずれかです。

MQIMGRCOV_NO

これらのオブジェクトには **rcdmqimg** コマンドおよび **rcrmqobj** コマンドは許可されません。自動メディア・イメージ (使用可能な場合) は、これらのオブジェクトには書き込まれません。

MQIMGRCOV_YES

これらのオブジェクトはリカバリー可能です。

MQIMGRCOV_YES がデフォルト値です。

Multi ImageRecoverQueue (MQCFST)

ローカル動的キュー・オブジェクトおよび永続動的キュー・オブジェクトがこのパラメーターとともに使用される場合のデフォルトの **ImageRecoverQueue** 属性を指定します (パラメーター ID:

MQIA_MEDIA_IMAGE_RECOVER_Q)。このパラメーターは、z/OS では無効です。

値は次のいずれかです。

MQIMGRCOV_NO

ローカル動的キュー・オブジェクトおよび永続動的キュー・オブジェクトの **ImageRecoverQueue** 属性は、**MQIMGRCOV_NO** に設定されます。

MQIMGRCOV_YES

ローカル動的キュー・オブジェクトおよび永続動的キュー・オブジェクトの **ImageRecoverQueue** 属性は、MQIMGRCOV_YES に設定されます。

MQIMGRCOV_YES がデフォルト値です。

Multi ImageSchedule (MQCFST)

キュー・マネージャーが自動的にメディア・イメージを書き込むかどうか (パラメーター ID: **MQIA_MEDIA_IMAGE_SCHEDULING**)。このパラメーターは、z/OS では無効です。

値は次のいずれかです。

MQMEDIMGSCHED_AUTO

キュー・マネージャーは、オブジェクトのメディア・イメージが作成されてから **ImageInterval** 分経過する前、または **ImageLogLength** メガバイトのリカバリー・ログが書き込まれる前に、そのオブジェクトのメディア・イメージを自動的に書き込もうとします。

ImageInterval または **ImageLogLength** の設定に応じて、以前のメディア・イメージが手動または自動で取得された可能性があります。

MQMEDIMGSCHED_MANUAL

メディア・イメージの自動書き込みは実行されません。

MQMEDIMGSCHED_MANUAL がデフォルト値です。

InhibitEvent (MQCFIN)

禁止 (読み取り禁止および書き込み禁止) イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_INHIBIT_EVENT**)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

z/OS IntraGroupQueuing (MQCFIN)

グループ内キューイング (パラメーター ID: **MQIA_INTRA_GROUP_QUEUING**)。

IPAddressVersion (MQCFIN)

使用する IP バージョンを指定します (パラメーター ID: **MQIA_IP_ADDRESS_VERSION**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQIPADDR_IPV4

IPv4 スタックが使用されます。

MQIPADDR_IPV6

IPv6 スタックが使用されます。

ListenerTimer (MQCFIN)

APPC または TCP/IP の障害後にリスナーの再始動を試行する時間間隔 (秒単位) (パラメーター ID: **MQCA_LISTENER_TIMER**)。

LocalEvent (MQCFIN)

ローカル・エラー・イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_LOCAL_EVENT**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

Multi **LoggerEvent (MQCFIN)**

リカバリー・ログ・イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_LOGGER_EVENT**)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。この値は、リニア・ロギングを使用するキュー・マネージャーでのみ有効です。

このパラメーターは、IBM i、AIX, Linux, and Windows でのみ有効です。

z/OS **LUGroupName (MQCFST)**

LU 6.2 リスナーの総称 LU 名 (パラメーター ID: **MQCA_LU_GROUP_NAME**)。

キュー共有グループのインバウンド伝送を処理する LU 6.2 リスナーに使用する総称 LU 名。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

ストリングの最大長は **MQ_LU_NAME_LENGTH** です。

z/OS **LUName (MQCFST)**

アウトバウンド LU 6.2 伝送に使用する LU 名 (パラメーター ID: **MQCA_LU_NAME**)。

アウトバウンド LU 6.2 伝送に使用する LU の名前。このパラメーターは、インバウンド伝送でリスナーによって使用される LU の名前と同じものに設定します。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

ストリングの最大長は **MQ_LU_NAME_LENGTH** です。

LU62ARMSuffix (MQCFST)

このチャンネル・イニシエーターの LUADD を指定する SYS1.PARMLIB メンバー APPCPMxx の接尾部 (パラメーター ID: **MQCA_LU62_ARM_SUFFIX**)。

この名前の最大長は **MQ_ARM_SUFFIX_LENGTH** です。

LU62Channels (MQCFIN)

サーバー接続チャンネルに接続されたクライアントを含む、LU 6.2 伝送プロトコルを使用する現行チャンネルの最大数 (パラメーター ID: **MQIA_LU62_CHANNELS**)。

LUGroupName (MQCFST)

キュー共有グループのインバウンド伝送を処理する LU 6.2 リスナーで使用される総称 LU 名。この名前は、**LUName** と同じでなければなりません (パラメーター ID: **MQCA_LU_GROUP_NAME**)。

この名前の最大長は、**MQ_LU_NAME_LENGTH** です。

LUName (MQCFST)

アウトバウンド伝送を処理する LU 6.2 リスナーで使用される LU 名。この名前は、**LUGroupName** と同じでなければなりません (パラメーター ID: **MQCA_LU_NAME**)。

この名前の最大長は、**MQ_LU_NAME_LENGTH** です。

MaxActiveChannels (MQCFIN)

同時にアクティブにすることのできるチャンネルの最大数 (パラメーター ID: **MQIA_ACTIVE_CHANNELS**)。

MaxChannels (MQCFIN)

現行チャンネルの最大数 (サーバー接続チャンネルに接続されたクライアントを含む) (パラメーター ID: **MQIA_MAX_CHANNELS**)。

MaxHandles (MQCFIN)

ハンドルの最大数 (パラメーター ID: **MQIA_MAX_HANDLES**)。

任意の1つのジョブが同時にオープンできるハンドルの最大数です。

MaxMsgLength (MQCFIN)

最大メッセージ長 (パラメーター ID: **MQIA_MAX_MSG_LENGTH**)。

MaxPriority (MQCFIN)

最大優先度 (パラメーター ID: **MQIA_MAX_PRIORITY**)。

MaxUncommittedMsgs (MQCFIN)

作業単位内のコミットされていないメッセージの最大数 (パラメーター ID: **MQIA_MAX_UNCOMMITTED_MSGS**)。

具体的には、以下の数を示します。

- 検索可能なメッセージの数
- キューに書き出しできるメッセージの数
- この作業単位内で生成されたトリガー・メッセージの数

これらは、1つの同期点でのものです。この限界は、同期点の外で取り出したり書き込まれたりするメッセージには当てはまりません。

Multi MQIAccounting (MQCFIN)

MQI データのアカウントリング情報を収集するかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_ACCOUNTING_MQI**)。

値は次のいずれかです。

MQMON_OFF

MQI アカウンティング・データ収集は無効です。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

MQMON_ON

MQI アカウンティング・データ収集は有効です。

このパラメーターは、IBM i、AIX, Linux, and Windows でのみ有効です。

Multi MQIStatistics (MQCFIN)

キュー・マネージャーの統計モニター・データを収集するかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_STATISTICS_MQI**)。

値は次のいずれかです。

MQMON_OFF

MQI 統計のデータ収集を使用不可にします。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

MQMON_ON

MQI 統計のデータ収集を使用可能にします。

このパラメーターは、IBM i、AIX, Linux, and Windows でのみ有効です。

MsgMarkBrowseInterval(MQCFIN)

マーク・ブラウザ間隔 (パラメーター ID: **MQIA_MSG_MARK_BROWSE_INTERVAL**)。

キュー・マネージャーが自動的にメッセージをマーク解除する時間間隔をミリ秒単位で指定します。

このパラメーターに指定できるのは、0 から 999,999,999 の範囲の値、または特殊値 **MQMMBI_UNLIMITED** です。

0 の値を指定するとキュー・マネージャーがメッセージを即時にマーク解除します。

MQMMBI_UNLIMITED はキュー・マネージャーが自動的にメッセージをマーク解除しないことを示します。

OutboundPortMax (MQCFIN)

アウトバウンド・ポート範囲の最大値 (パラメーター ID: **MQIA_OUTBOUND_PORT_MAX**)。

発信チャネルの結合時に使用されるポート番号の範囲の上限です。

OutboundPortMin (MQCFIN)

最小アウトバウンド・ポート範囲 (パラメーター ID: MQIA_OUTBOUND_PORT_MIN)。

発信チャネルの結合時に使用されるポート番号の範囲の下限です。

Parent (MQCFST)

このキュー・マネージャーがその子として階層的に接続するキュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: MQCA_PARENT)。

値が空白の場合は、このキュー・マネージャーが親のキュー・マネージャーを持たないことを示します。親キュー・マネージャーが既に存在する場合、それは切断されます。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

ストリングの最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

注:

- IBM MQ 階層接続を使用するには、キュー・マネージャー属性 **PSMode** が MQPSM_ENABLED に設定されている必要があります。
- **PSMode** が MQPSM_DISABLED に設定されている場合は、**Parent** の値を空白値に設定できます。
- 階層的にその子としてキュー・マネージャーに接続する前に、親のキュー・マネージャーと子のキュー・マネージャーの間に両方向のチャネルが存在していなければなりません。
- 親が定義されている場合、**Change Queue Manager** コマンドはもとの親から切断し、新しい親のキュー・マネージャーに接続フローを送信します。
- コマンドが正常に完了しても、アクションが完了したことも、これから正常に完了することも意味しません。**Inquire Pub/Sub Status** コマンドを使用して、要求された親関係の状況を追跡します。

PerformanceEvent (MQCFIN)

パフォーマンス関連イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_PERFORMANCE_EVENT)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

Platform (MQCFIN)

キュー・マネージャーが存在するプラットフォーム (パラメーター ID: MQIA_PLATFORM)。

PubSubClus (MQCFIN)

キュー・マネージャーがパブリッシュ/サブスクライブ・クラスタリングに参加するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_PUBSUB_CLUSTER)。

値は次のいずれかです。

MQPSCLUS_ENABLED

クラスター・トピック定義とクラスター・サブスクリプションの作成または受信が許可されます。

注: 大規模な IBM MQ クラスターにクラスター・トピックを導入すると、パフォーマンスが低下する場合があります。このパフォーマンス低下は、すべての部分リポジトリーに、クラスター内の他のすべてのメンバーが通知されることにより発生します。例えば、**proxysub(FORCE)** が指定されていると、他のすべてのノードで予期しないサブスクリプションが作成される可能性があります。キュー・マネージャーの障害後に再同期化する際には、キュー・マネージャーから多数のチャネルが開始される可能性もあります。

MQPSCLUS_DISABLED

クラスター・トピック定義とクラスター・サブスクリプションの作成または受信が禁止されます。作成または受信は、キュー・マネージャーのエラー・ログに警告として記録されます。

PubSubMaxMsgRetryCount (MQCFIN)

同期点で失敗したコマンド・メッセージを処理するときに、メッセージの再処理を試行する回数 (パラメーター ID: **MQIA_PUBSUB_MAXMSG_RETRY_COUNT**)。

このパラメーターの値の範囲は 0 から 999 999 999 です。初期値は 5 です。

PubSubMode (MQCFIN)

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンとキュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースが実行されているかどうかを指定します。パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンは、アプリケーションがアプリケーション・プログラミング・インターフェースを使用してパブリッシュまたはサブスクライブできるようにします。パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースは、キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースを使用したキューをモニターします (パラメーター ID: **MQIA_PUBSUB_MODE**)。

値は次のいずれかです。

MQPSM_COMPAT

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンが実行中。このため、アプリケーション・プログラミング・インターフェースを使用してパブリッシュまたはサブスクライブを行うことができます。キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースは実行されていません。したがって、キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースがモニターするキューに書き込まれるメッセージは処理されません。MQPSM_COMPAT は、このキュー・マネージャーを使用するバージョン 7 より前のバージョンの IBM Integration Bus (以前の WebSphere Message Broker) との互換性のために使用します。

MQPSM_DISABLED

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンとキュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースはどちらも実行されていません。このため、アプリケーション・プログラミング・インターフェースを使用してパブリッシュまたはサブスクライブを行うことができません。キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースがモニターするキューに書き込まれるパブリッシュ/サブスクライブ・メッセージは処理されません。

MQPSM_ENABLED

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンとキュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースはどちらも実行されています。このため、アプリケーション・プログラミング・インターフェースおよびキュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースによってモニターされるキューを使用してパブリッシュまたはサブスクライブを行うことができます。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

PubSubNPInputMsg (MQCFIN)

配信されなかった入力メッセージを破棄 (または保持) するかどうか (パラメーター ID: **MQIA_PUBSUB_NP_MSG**)。

値は次のいずれかです。

MQUNDELIVERED_DISCARD

非永続入力メッセージは、処理できない場合は廃棄されます。

MQUNDELIVERED_KEEP

非永続入力メッセージは、処理できない場合でも廃棄されません。この場合、キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースは妥当な間隔で処理を再試行し、後続メッセージの処理は行いません。

PubSubNPResponse (MQCFIN)

配信されなかった応答メッセージの動作を制御します (パラメーター ID: **MQIA_PUBSUB_NP_RESP**)。

値は次のいずれかです。

MQUNDELIVERED_NORMAL

応答キューに入れることができない非持続応答は送達不能キューに入れられます。非永続応答が送達不能キューに入れられない場合、廃棄されます。

MQUNDELIVERED_SAFE

応答キューに入れることができない非持続応答は送達不能キューに入れられます。応答が送信できず、送達不能キューに入れられない場合、キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェ

ースは現在の操作をロールバックします。この操作は適切な間隔で再試行され、後続メッセージの処理は行いません。

MQUNDELIVERED_DISCARD

応答キューに入れられない非永続応答は、廃棄されます。

MQUNDELIVERED_KEEP

非持続応答は送達不能キューに入れられず、廃棄はされない。代わりに、キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースは現在の操作をバックアウトし、適切な間隔で再試行します。

PubSubSyncPoint (MQCFIN)

持続メッセージのみ(またはすべてのメッセージ)を同期点で処理する必要があるかどうか(パラメーター ID: **MQIA_PUBSUB_SYNC_PT**)。

値は次のいずれかです。

MQSYNCPOINT_IFPER

この値を指定すると、キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースに、非持続メッセージを同期点外で受信させます。インターフェースは同期点外でパブリケーションを受け取ると、そのパブリケーションを、同期点外の認識しているサブスクライバーに転送します。

MQSYNCPOINT_YES

キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースにより同期点下にあるすべてのメッセージが受信されます。

QMGrDesc (MQCFST)

キュー・マネージャー記述(パラメーター ID: **MQCA_Q_MGR_DESC**)。

ストリングの最大長は **MQ_Q_MGR_DESC_LENGTH** です。

QMGrIdentifier (MQCFST)

キュー・マネージャー ID(パラメーター ID: **MQCA_Q_MGR_IDENTIFIER**)。

キュー・マネージャーの固有 ID。

QMGrName (MQCFST)

ローカル・キュー・マネージャーの名前(パラメーター ID: **MQCA_Q_MGR_NAME**)。

ストリングの最大長は **MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH** です。

QSGName (MQCFST)

キュー共有グループ名(パラメーター ID: **MQCA_QSG_NAME**)。

ストリングの最大長は **MQ_QSG_NAME_LENGTH** です。

QSGCertificateLabel (MQCFST)

使用するキュー共有グループの証明書ラベルを指定します(パラメーター ID: **MQCA_QSG_CERT_LABEL**)。

QueueAccounting (MQCFIN)

キューのアカウントリング情報を収集するかどうかを指定します(パラメーター ID: **MQIA_ACCOUNTING_Q**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_ON

キュー・パラメーター **QueueAccounting** が **MQMON_Q_MGR** に指定されているすべてのキューについて、アカウントリング情報が収集されます。

MQMON_OFF

キュー・パラメーター **QueueAccounting** に **MQMON_Q_MGR** が指定されているすべてのキューについて、アカウントリング情報は収集されません。

MQMON_NONE

キューについてアカウントリング情報を収集しません。

QueueMonitoring (MQCFIN)

キューのリアルタイム・モニター・データ収集のレベル(パラメーター ID: **MQIA_MONITORING_Q**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_NONE

QueueMonitoring キュー属性の設定に関係なく、モニター・データ収集は無効になります。

MQMON_OFF

QueueMonitoring キュー属性に MQMON_Q_MGR が指定されているキューのモニター・データ収集はオフになります。

MQMON_LOW

QueueMonitoring キュー属性に MQMON_Q_MGR が指定されているキューのモニター・データ収集は、低いデータ収集率でオンになります。

MQMON_MEDIUM

QueueMonitoring キュー属性に MQMON_Q_MGR を指定したキューのモニター・データ収集は、中程度のデータ収集率でオンになります。

MQMON_HIGH

QueueMonitoring キュー属性に MQMON_Q_MGR が指定されているキューのモニター・データ収集は、高いデータ収集率でオンになります。

Multi QueueStatistics (MQCFIN)

キューの統計データを収集するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_STATISTICS_Q)。

値は次のいずれかです。

MQMON_NONE

キューの **QueueStatistics** パラメーターの設定に関係なく、キューの統計データ収集はオフになります。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

MQMON_OFF

QueueStatistics パラメーターに値 MQMON_Q_MGR が指定されているキューの統計データ収集はオフになります。

MQMON_ON

QueueStatistics パラメーターに値 MQMON_Q_MGR が指定されているキューの統計データ収集がオンになります。

このパラメーターは、IBM i、AIX, Linux, and Windows でのみ有効です。

ReceiveTimeout (MQCFIN)

ReceiveTimeoutType と組み合わせて使用すると、TCP/IP チャンネルが、非アクティブ状態に戻る前にパートナーからのデータ (ハートビートを含む) の受信を待機する時間を指定します (パラメーター ID: MQIA_RECEIVE_TIMEOUT)。

ReceiveTimeoutMin (MQCFIN)

非アクティブ状態に戻る前に、TCP/IP チャンネルがパートナーからのデータ (ハートビートを含む) の受信を待機する最小時間 (秒単位) (パラメーター ID: MQIA_RECEIVE_TIMEOUT_MIN)。

ReceiveTimeoutType (MQCFIN)

ReceiveTimeout と組み合わせて使用すると、TCP/IP チャンネルが、非アクティブ状態に戻る前にパートナーからのデータ (ハートビートを含む) の受信を待機する時間を指定します (パラメーター ID: MQIA_RECEIVE_TIMEOUT_TYPE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCVTIME_MULTIPLY

ReceiveTimeout 値は、チャンネルが待機する時間を決定するために **HeartbeatInterval** の折衝値に適用される乗数です。これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

MQRCVTIME_ADD

ReceiveTimeout は、チャンネルが待機する時間を決定するために **HeartbeatInterval** の折衝値に加算される値 (秒単位) です。

MQRCVTIME_EQUAL

ReceiveTimeout は、チャンネルが待機する時間を表す値 (秒単位) です。

RemoteEvent (MQCFIN)

リモート・エラー・イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_REMOTE_EVENT**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

RepositoryName (MQCFST)

リポジトリ名 (パラメーター ID: **MQCA_REPOSITORY_NAME**)。

このキュー・マネージャーがリポジトリ・サービスを提供するクラスターの名前。

RepositoryNamelist (MQCFST)

リポジトリ名リスト (パラメーター ID: **MQCA_REPOSITORY_NAMELIST**)。

このキュー・マネージャーがリポジトリ・サービスを提供するクラスターの名前のリスト。

RevDns (MQCFIN)

ドメイン・ネーム・サーバー (DNS) からのホスト名のリバース・ルックアップを行うかどうか。 (パラメーター ID: **MQIA_REVERSE_DNS_LOOKUP**)。

この属性は、TCP のトランスポート・タイプ (TRPTYPE) を使用するチャネルでのみ有効です。

値は次のいずれかです。

MQRDNS_DISABLED

インバウンド・チャネルの IP アドレスに関して DNS ホスト名は逆引きされません。これを設定すると、ホスト名を使用する CHLAUTH ルールはマッチングされません。

MQRDNS_ENABLED

インバウンド・チャネルの IP アドレスに関して DNS ホスト名の情報が必要な場合に、それが逆引きされます。この設定値は、ホスト名が含まれている CHLAUTH 規則に対してマッチングを行う場合、およびエラー・メッセージを書き出す場合は必須です。

z/OS SecurityCase (MQCFIN)

サポートされるセキュリティー・ケース (パラメーター ID: **MQIA_SECURITY_CASE**)。

キュー・マネージャーが大/小文字混合のセキュリティー・プロファイル名をサポートするか、または大文字のみのセキュリティー・プロファイル名をサポートするかを指定します。この値は、Refresh Security コマンドが **SecurityType (MQSECTYPE_CLASSES)** を指定して実行されている場合、アクティブ化されます。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

値は次のいずれかです。

MQSCYC_UPPER

セキュリティー・プロファイル名は大文字でなければなりません。

MQSCYC_MIXED

セキュリティー・プロファイル名は大文字または大/小文字混合にすることができます。

z/OS SharedQueueQueueManagerName (MQCFIN)

キュー共有グループの別のキュー・マネージャーをオブジェクト・キュー・マネージャーとして指定する共有キューにメッセージを書き込む方法を指定します (パラメーター ID: **MQIA_SHARED_Q_Q_MGR_NAME**)。

値は次のいずれかです。

MQSQQM_USE

メッセージは、共有キューに入れられる前に、オブジェクト・キュー・マネージャーに送信されません。

MQSQQM_IGNORE

メッセージは、共有キューに直接入れられます。

SSLCRLNameList (MQCFST)

TLS CRL 名前リスト (パラメーター ID: **MQCA_SSL_CRL_NAMELIST**)。

ストリングの最大長は **MQ_NAMELIST_NAME_LENGTH** です。

SSLEvent (MQCFIN)

IMS ブリッジ・イベントを生成するかどうかを決定します (パラメーター ID: **MQIA_SSL_EVENT**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_ENABLED

すべての TLS イベントが有効です。

MQEVR_DISABLED

すべての TLS イベントが無効です。

ALW

SSLCryptoHardware (MQCFST)

TLS 暗号ハードウェア (パラメーター ID: **MQCA_SSL_CRYPTO_HARDWARE**)。

ストリングの長さは **MQ_SSL_CRYPTO_HARDWARE_LENGTH** です。

システム上に存在する暗号ハードウェアの構成に必要なパラメーター・ストリングを設定します。

このパラメーターは、AIX, Linux, and Windows でのみ有効です。

サポートされるすべての暗号ハードウェアは、PKCS #11 インターフェースをサポートします。以下の形式のストリングを指定します。

```
GSK_PKCS11=PKCS_#11_driver_path_and_filename;PKCS_#11_token_label;PKCS_#11_token_password;symmetric_cipher_setting;
```

PKCS #11 ドライバー・パスは、PKCS #11 カードに対するサポートを提供する共有ライブラリーの絶対パスです。PKCS #11 ドライバー・ファイル名は、共用ライブラリーの名前となります。PKCS #11 ドライバー・パスおよびファイル名に必要な値の例は、 `/usr/lib/pkcs11/PKCS11_API.so` です。

IBM Global Security Kit (GSKit)を介して対称暗号操作にアクセスするには、対称暗号設定パラメーターを指定します。このパラメーターの値は次のいずれかです。

SYMMETRIC_CIPHER_OFF

対称暗号操作を使用しません。

SYMMETRIC_CIPHER_ON

対称暗号操作を使用します。

対称暗号設定が指定されていない場合、この値は **SYMMETRIC_CIPHER_OFF** を指定しているときと同じように機能します。

ストリングの最大長は 256 文字です。デフォルト値はブランクです。

ストリングを誤った形式で指定すると、エラーが発生します。

SSLCryptoHardware (MQCFST) 値が変更されると、指定された暗号ハードウェア・パラメーターが新しい TLS 接続環境で使用されるパラメーターになります。以下の場合に、新しい情報が有効になります。

- 新しいチャンネル・プロセスが開始される時。
- チャンネル・イニシエーターのスレッドとして実行されるチャンネルの場合は、チャンネル・イニシエーターが再始動される時。
- リスナーのスレッドとして実行されるチャンネルの場合は、リスナーが再始動される時。
- Refresh Security コマンドが発行されて、TLS 鍵リポジトリの内容が最新表示された時。

SSLEvent (MQCFIN)

TLS イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_SSL_EVENT**)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

z/OS ALW SSLFipsRequired (MQCFIN)

SSLFIPS は、暗号化が暗号ハードウェアではなく IBM MQ で実行される場合に、FIPS 認証アルゴリズムのみを使用するかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIA_SSL_FIPS_REQUIRED)。

暗号ハードウェアが構成されている場合、ハードウェア製品で提供される暗号モジュールが使用されます。それらのモジュールは、使用されているハードウェア製品によって一定レベルまで FIPS の認定を受けている場合もあれば、そうではない場合もあります。このパラメーターは、z/OS、AIX, Linux, and Windows プラットフォームのみに適用されます。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSSL_FIPS_NO

IBM MQ は一部のプラットフォームで FIPS 認証モジュールを提供する TLS 暗号化の実装を提供します。SSLFIPSRequired を MQSSL_FIPS_NO に設定すると、特定のプラットフォームでサポートされる CipherSpec を使用できます。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

キュー・マネージャーが暗号ハードウェアを使用せずに実行されている場合は、CipherSpec の指定にリストされている、FIPS 140-2 認証の暗号化を使用する CipherSpec を参照してください。

MQSSL_FIPS_YES

このキュー・マネージャーとの間のすべての TLS 接続で許可される CipherSpecs で、FIPS 証明されたアルゴリズムだけが使用されるように指定します。

該当する FIPS 140-2 認定済み CipherSpec のリストについては、CipherSpec の指定を参照してください。

SSLFIPS に対する変更は、以下の場合に有効になります。

- ALW AIX, Linux, and Windows では、新しいチャンネル・プロセスが開始されたとき。
- ALW AIX, Linux, and Windows のチャンネル・イニシエーターのスレッドとして実行されるチャンネルの場合は、チャンネル・イニシエーターが再始動されたとき。
- ALW AIX, Linux, and Windows のリスナーのスレッドとして実行されるチャンネルの場合は、リスナーが再始動されたとき。
- ALW プロセス・プール・プロセスのスレッドとして実行されるチャンネルの場合は、プロセス・プール・プロセスが開始または再開始され、TLS チャンネルを最初に実行したとき。プロセス・プーリング・プロセスが既に TLS チャンネルを実行しており、変更を即時に有効にする場合は、MQSC コマンド REFRESH SECURITY TYPE(SSL) を実行します。プロセス・プーリング・プロセスは、AIX, Linux, and Windows 上では amqrmppa です。
- z/OS z/OS では、チャンネル・イニシエーターが再始動されたとき。
- z/OS REFRESH SECURITY TYPE(SSL) コマンドが発行されたとき (z/OS の場合を除く)。

SSLKeyRepository (MQCFST)

TLS 鍵リポジトリ (パラメーター ID: MQCA_SSL_KEY_REPOSITORY)。

ストリングの最大長は MQ_SSL_KEY_REPOSITORY_LENGTH です。

SSLKeyResetCount (MQCFIN)

TLS 鍵リセット・カウント (パラメーター ID: MQIA_SSL_RESET_COUNT)。

ストリングの最大長は MQ_SSL_KEY_REPOSITORY_LENGTH です。

SSLTasks (MQCFIN)

TLS タスク (パラメーター ID: MQIA_SSL_TASKS)。

StartStopEvent (MQCFIN)

開始イベントと停止イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_START_STOP_EVENT**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

Multi StatisticsInterval (MQCFIN)

統計モニター・データがモニター・キューに書き込まれる時間間隔 (秒単位) (パラメーター ID: **MQIA_STATISTICS_INTERVAL**)。

1 から 604,000 の範囲の値を指定します。

このパラメーターは、IBM i、AIX、Linux、and Windows でのみ有効です。

SyncPoint (MQCFIN)

同期点の可用性 (パラメーター ID: **MQIA_SYNCPOINT**)。

TCPChannels (MQCFIN)

サーバー接続チャンネルに接続されたクライアントを含む、TCP/IP 伝送プロトコルを使用する現行チャンネルの最大数 (パラメーター ID: **MQIA_TCP_CHANNELS**)。

TCPKeepAlive (MQCFIN)

TCP KEEPALIVE 機能を使用して、チャンネルの反対側にある MCA が使用可能かどうかを検査するかどうかを指定します (パラメーター ID: **MQIA_TCP_KEEP_ALIVE**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQTCPKEEP_YES

TCP プロファイル構成データ・セットでの指定に従って TCP KEEPALIVE 機能を使用します。

MQTCPKEEP_NO

TCP KEEPALIVE 機能を使用しません。

TCPName (MQCFST)

TCP 名 (パラメーター ID: **MQIA_TCP_NAME**)。

使用中の現行 TCP/IP システムの名前です。

この値の最大長は MQ_TCP_NAME_LENGTH です。

TCPStackType (MQCFIN)

TCP スタック・タイプ (パラメーター ID: **MQIA_TCP_STACK_TYPE**)。

チャンネル・イニシエーターが TCPNAME で指定された TCP/IP アドレス・スペースだけを使用するかどうか、または選択した TCP/IP アドレスにバインドするかどうかを指定します。

値は次のいずれかです。

MQTCPSTACK_SINGLE

チャンネル・イニシエーターは、TCPNAME で指定された TCP/IP アドレス・スペースのみを使用します。

MQTCPSTACK_MULTIPLE

イニシエーターは、使用可能などの TCP/IP アドレス・スペースも使用できます。他に使用できるアドレス・スペースがない場合は、TCPNAME に指定されたアドレス・スペースが使用されます。

TraceRouteRecording (MQCFIN)

経路トレース・メッセージングを使用可能にするか使用不可にするかを指定します (パラメーター ID: **MQIA_TRACE_ROUTE_RECORDING**)。

値は次のいずれかです。

MQRECORDING_MSG

経路トレース・メッセージングは有効です。経路トレース応答メッセージは、メッセージのメッセージ記述子で指定された応答先キューに送信されます。

MQRECORDING_Q

経路トレース・メッセージングは有効です。経路トレース応答メッセージは、固定された名前のキューに送信されます。

MQRECORDING_DISABLED

経路トレース・メッセージングは無効です。

TreeLifeTime (MQCFIN)

非管理トピックの存続時間 (秒単位) (パラメーター ID: **MQIA_TREE_LIFE_TIME**)。

非管理トピックとは、アプリケーションが、管理ノードとして存在しないトピック・ストリングにパブリッシュするとき、またはそうしたストリングとしてサブスクライブするときに作成されるトピックのことです。この非管理ノードにアクティブなサブスクリプションがなくなった場合、このパラメーターは、キュー・マネージャーがそのノードを除去する前に待機する時間を決定します。キュー・マネージャーがリサイクルされた後は、永続サブスクリプションによって使用中の非管理トピックのみが残ります。

0 から 604,000 の範囲の値を指定します。値 0 は、非管理トピックがキュー・マネージャーによって削除されないことを意味します。キュー・マネージャーの初期デフォルト値は 1800 です。

TriggerInterval (MQCFIN)

トリガー間隔 (パラメーター ID: **MQIA_TRIGGER_INTERVAL**)。

TriggerType の値が MQTT_FIRST であるキューのみに使用される、トリガー時間間隔をミリ秒で指定します。

ストレージ・クラスの属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、ストレージ・クラス属性を組み込むことができます。

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: **MQCA_ALTERATION_DATE**)。

情報が最後に変更された日付。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: **MQCA_ALTERATION_TIME**)。

情報が最後に変更された時刻。

PageSetId (MQCFIN)

ページ・セット ID (パラメーター ID: **MQIA_PAGESET_ID**)。

PassTicketApplication (MQCFST)

IMS ブリッジ・パスチケットの認証に使用されるアプリケーションの名前 (パラメーター ID: **MQCA_PASS_TICKET_APPL**)。

ストリングの最大長は MQ_PASS_TICKET_APPL_LENGTH です。

StgClassDesc (MQCFST)

ストレージ・クラス記述 (パラメーター ID: **MQCA_STORAGE_CLASS_DESC**)。

ストリングの最大長は MQ_STORAGE_CLASS_DESC_LENGTH です。

XCFGroupName (MQCFST)

XCF グループ名 (パラメーター ID: **MQCA_XCF_GROUP_NAME**)。

ストリングの最大長は MQ_XCF_GROUP_NAME_LENGTH です。

XCFMemberName (MQCFST)

XCF メンバー名 (パラメーター ID: **MQCA_XCF_MEMBER_NAME**)。

ストリングの最大長は **MQ_XCF_MEMBER_NAME_LENGTH** です。

トピック属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、トピック属性を組み込むことができます。

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: **MQCA_ALTERATION_DATE**)。

情報が最後に変更された日付 (yyyy-mm-dd の形式)。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: **MQCA_ALTERATION_TIME**)。

情報が最後に変更された時刻 (hh.mm.ss の形式)。

ClusterName (MQCFST)

このトピックが属するクラスターの名前。 (パラメーター ID: **MQCA_CLUSTER_NAME**)。

ストリングの最大長は **MQ_CLUSTER_NAME_LENGTH** です。このキュー・マネージャーがメンバーになっているクラスターにこのパラメーターを設定すると、クラスター内のすべてのキュー・マネージャーがこのトピックを認識します。このクラスター内の任意のキュー・マネージャーに書き込まれたこのトピックまたはその下位のトピック・ストリングのパブリケーションは、クラスター内のその他のキュー・マネージャーのサブスクリプションに伝搬されます。詳しくは、[分散パブリッシュ/サブスクライブのネットワーク](#)を参照してください。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

ブランク

トピック・ツリー内のこのトピックより上のトピック・オブジェクトで、このパラメーターがクラスター名に設定されているものがない場合、このトピックはクラスターに属しません。このトピックのパブリケーションおよびサブスクリプションは、クラスター接続されたパブリッシュ/サブスクライブ・キュー・マネージャーに伝搬されません。トピック・ツリー内の上位トピック・ノードでクラスター名が設定されている場合は、このトピックのパブリケーションおよびサブスクリプションもクラスター全体に伝搬されます。

この値は、値が指定されない場合のこのパラメーターのデフォルト値です。

ストリング

トピックは、このクラスターに所属します。トピック・ツリー内のこのトピック・オブジェクトより上位のトピック・オブジェクトと異なるクラスターにこれを設定することは推奨されません。クラスター内の他のキュー・マネージャーでは、同じ名前のローカル定義がキュー・マネージャーに存在しない場合は、このオブジェクトの定義が使用されます。

また、**PublicationScope** または **SubscriptionScope** が **MQSCOPE_ALL** に設定されている場合、この値は、このトピックのパブリッシュ/サブスクライブ・クラスター接続キュー・マネージャーへのパブリケーションおよびサブスクリプションの伝搬に使用されるクラスターです。

DefPersistence (MQCFIN)

デフォルトの持続性 (パラメーター ID: **MQIA_TOPIC_DEF_PERSISTENCE**)。

値は次のいずれかです。

MQPER_PERSISTENCE_AS_PARENT

デフォルトの持続性は、トピック・ツリー内で直近の親管理トピック・オブジェクトの設定に基づいて決まります。

MQPER_PERSISTENT

メッセージは持続します。

MQPER_NOT_PERSISTENT

メッセージは持続しません。

DefPriority (MQCFIN)

デフォルトの優先順位 (パラメーター ID: **MQIA_DEF_PRIORITY**)。

DefPutResponse (MQCFIN)

デフォルト書き込み応答 (パラメーター ID: **MQIA_DEF_PUT_RESPONSE_TYPE**)。

値は次のいずれかです。

MQPRT_ASYNC_RESPONSE

PUT 操作は非同期的に実行され、MQMD フィールドのサブセットが返されます。

MQPRT_RESPONSE_AS_PARENT

デフォルトの書き込み応答は、トピック・ツリー内で直近の親管理トピック・オブジェクトの設定に基づいて行われます。

MQPRT_SYNC_RESPONSE

PUT 操作は同期的に実行され、応答が返されます。

DurableModelQName (MQCFST)

永続管理サブスクリプションに使用されるモデル・キューの名前 (パラメーター ID:

MQCA_MODEL_DURABLE_Q)。

ストリングの最大長は **MQ_Q_NAME_LENGTH** です。

DurableSubscriptions (MQCFIN)

アプリケーションが永続サブスクリプションの作成を許可されるかどうか (パラメーター ID:

MQIA_DURABLE_SUB)。

値は次のいずれかです。

MQSUB_DURABLE_AS_PARENT

永続サブスクリプションが許可されるかどうかは、トピック・ツリー内で最も近い親管理トピック・オブジェクトの設定に基づきます。

MQSUB_DURABLE_ALLOWED

永続サブスクリプションが許可されています。

MQSUB_DURABLE_INHIBITED

永続サブスクリプションは許可されていません。

InhibitPublications (MQCFIN)

このトピックに対してパブリケーションが許可されるかどうか (パラメーター ID:

MQIA_INHIBIT_PUB)。

値は次のいずれかです。

MQTA_PUB_AS_PARENT

メッセージをこのトピックでパブリッシュできるかどうかは、トピック・ツリー内で最も近い親管理トピック・オブジェクトの設定に基づきます。

MQTA_PUB_INHIBITED

このトピックではパブリケーションは禁止されています。

MQTA_PUB_ALLOWED

このトピックではパブリケーションが許可されています。

InhibitSubscriptions (MQCFIN)

このトピックに対してサブスクリプションが許可されるかどうか (パラメーター ID:

MQIA_INHIBIT_SUB)。

値は次のいずれかです。

MQTA_SUB_AS_PARENT

アプリケーションがこのトピックにサブスクライブできるかどうかは、トピック・ツリー内で最も近い親管理トピック・オブジェクトの設定に基づきます。

MQTA_SUB_INHIBITED

このトピックではサブスクリプションは禁止されています。

MQTA_SUB_ALLOWED

このトピックではサブスクリプションが許可されています。

NonDurableModelQName (MQCFST)

非永続管理サブスクリプションに使用されるモデル・キューの名前 (パラメーター ID: **MQCA_MODEL_NON_DURABLE_Q**)。

ストリングの最大長は **MQ_Q_NAME_LENGTH** です。

NonPersistentMsgDelivery (MQCFIN)

このトピックにパブリッシュされる非永続メッセージの配信メカニズム (パラメーター ID: **MQIA_NPM_DELIVERY**)。

値は次のいずれかです。

MQDLV_AS_PARENT

使用される配信手段は、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づきます。

MQDLV_ALL

MQPUT 呼び出しが成功と見なされるには、サブスクライバーの耐久性とは無関係に非持続メッセージが全サブスクライバーに配信される必要があります。サブスクライバーへの配信が失敗した場合、他のサブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT は失敗します。

MQDLV_ALL_DUR

非持続メッセージは、すべての永続サブスクライバーに配信される必要があります。非永続サブスクライバーへの非永続メッセージの配信が失敗しても、MQPUT 呼び出しにエラーは返されません。永続サブスクライバーへの送達が失敗すると、他のすべてのサブスクライバーはメッセージを受信せず、MQPUT は失敗します。

MQDLV_ALL_AVAIL

非持続メッセージは、メッセージを受け入れ可能なすべてのサブスクライバーに配信されます。サブスクライバーへのメッセージ配信が失敗しても、他のサブスクライバーはメッセージを受け取ります。

PersistentMsgDelivery (MQCFIN)

このトピックにパブリッシュされる永続メッセージの配信メカニズム (パラメーター ID: **MQIA_PM_DELIVERY**)。

値は次のいずれかです。

MQDLV_AS_PARENT

使用される配信手段は、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づきます。

MQDLV_ALL

MQPUT 呼び出しが成功と見なされるには、サブスクライバーの耐久性とは無関係に持続メッセージが全サブスクライバーに配信される必要があります。サブスクライバーへの配信が失敗した場合、他のサブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT は失敗します。

MQDLV_ALL_DUR

持続メッセージは、すべての永続サブスクライバーに配信される必要があります。非永続サブスクライバーへの持続メッセージの配信が失敗しても、MQPUT 呼び出しにエラーは返されません。永続サブスクライバーへの送達が失敗すると、他のすべてのサブスクライバーはメッセージを受信せず、MQPUT は失敗します。

MQDLV_ALL_AVAIL

持続メッセージは、メッセージを受け入れ可能なすべてのサブスクライバーに配信されます。サブスクライバーへのメッセージ配信が失敗しても、他のサブスクライバーはメッセージを受け取ります。

ProxySubscriptions (MQCFIN)

ローカル・サブスクリプションが存在しない場合でも、このトピックのプロキシ・サブスクリプションを直接接続されたキュー・マネージャーに送信するかどうか (パラメーター ID: **MQIA_PROXY_SUB**)。

値は次のいずれかです。

MQTA_PROXY_SUB_FORCE

ローカル・サブスクリプションが存在しない場合でも、プロキシ・サブスクリプションは接続されているキュー・マネージャーに送信されます。

MQTA_PROXY_SUB_FIRSTUSE

ローカル・サブスクリプションが存在するときのみ、このトピックのプロキシ・サブスクリプションが送信されます。

PublicationScope (MQCFIN)

このキュー・マネージャーがパブリケーションを、階層の一部として、またはパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部としてキュー・マネージャーに伝搬するかどうか (パラメーター ID: **MQIA_PUB_SCOPE**)。

値は次のいずれかです。

MQSCOPE_ALL

このトピックのパブリケーションは、階層的に接続されたキュー・マネージャーおよびクラスター接続されたパブリッシュ/サブスクライブ・キュー・マネージャーに伝搬されます。

MQSCOPE_AS_PARENT

このキュー・マネージャーがパブリケーションを、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づいて、階層の一部としての、またはパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部としてのキュー・マネージャーに伝搬するかどうか。

これは、値が指定されない場合のこのパラメーターのデフォルト値です。

MQSCOPE_QMGR

このトピックのパブリケーションは、他のキュー・マネージャーには伝搬されません。

注: この動作は、書き込みメッセージ・オプションで **MQPMO_SCOPE_QMGR** を使用して、パブリケーションごとに指定変更できます。

QMgrName (MQCFST)

ローカル・キュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: **MQCA_CLUSTER_Q_MGR_NAME**)。

ストリングの最大長は **MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH** です。

SubscriptionScope (MQCFIN)

このキュー・マネージャーがサブスクリプションを、階層の一部として、またはパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部として、キュー・マネージャーに伝搬するかどうか (パラメーター ID: **MQIA_SUB_SCOPE**)。

値は次のいずれかです。

MQSCOPE_ALL

このトピックに対するサブスクリプションは、階層的に接続されたキュー・マネージャーおよびクラスター接続されたパブリッシュ/サブスクライブ・キュー・マネージャーに伝搬されます。

MQSCOPE_AS_PARENT

このキュー・マネージャーがサブスクリプションを、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づいて、階層の一部としての、またはパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部としてのキュー・マネージャーに伝搬するかどうか。

これは、値が指定されない場合のこのパラメーターのデフォルト値です。

MQSCOPE_QMGR

このトピックのサブスクリプションは、他のキュー・マネージャーには伝搬されません。

注: この動作は、サブスクリプション記述子で **MQSO_SCOPE_QMGR** を、または **DEFINE SUB** で **SUBSCOPE (QMGR)** を使用して、サブスクリプションごとに指定変更できます。

TopicDesc (MQCFST)

トピックの説明 (パラメーター ID: **MQCA_TOPIC_DESC**)。

最大長は **MQ_TOPIC_DESC_LENGTH** です。

TopicName (MQCFST)

トピック・オブジェクト名 (パラメーター ID: **MQCA_TOPIC_NAME**)。

ストリングの最大長は **MQ_TOPIC_NAME_LENGTH** です。

TopicString (MQCFST)

トピック・ストリング (パラメーター ID: **MQCA_TOPIC_STRING**)。

このストリング内の「/」文字には、特別な意味があります。これは、トピック・ツリー内の要素を区切るために使用されます。トピック・ストリングの先頭は「/」文字にできますが、必須ではありません。「/」文字で始まるストリングは、「/」文字なしで始まるストリングとは異なります。トピック・ストリングの末尾に「/」文字を使用することはできません。

ストリングの最大長は **MQ_TOPIC_STR_LENGTH** です。

TopicType (MQCFIN)

このオブジェクトがローカル・トピックであるかクラスター・トピックであるか (パラメーター ID: **MQIA_TOPIC_TYPE**)。

値は次のいずれかです。

MQTOPT_LOCAL

このオブジェクトはローカル・トピックです。

MQTOPT_CLUSTER

このオブジェクトはクラスター・トピックです。

WildcardOperation (MQCFIN)

このトピックに対して行われたワイルドカードを含むサブスクリプションの動作 (パラメーター ID: **MQIA_WILDCARD_OPERATION**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQTA_PASSTHRU

このトピック・オブジェクトのトピック・ストリングより限定的でないワイルドカード・トピック名を使用して行われるサブスクリプションは、このトピックに対して、さらにこのトピックより限定的なトピック・ストリングに対して行われるパブリケーションを受け取ります。これは、IBM MQ で提供されているデフォルトです。

MQTA_BLOCK

このトピック・オブジェクトのトピック・ストリングより限定的でないワイルドカード・トピック名を使用して行われるサブスクリプションは、このトピックに対して、さらにこのトピックより限定的なトピック・ストリングに対して行われるパブリケーションを受け取りません。

イベント・メッセージ参照

このページでは、イベント・メッセージの形式に関する情報の概要を説明します。

観測イベントごとに、イベント・メッセージのメッセージ記述子部分とメッセージ・データ部分の両方の情報が返されます。

関連概念

[129 ページの『イベント・メッセージ記述』](#)

イベント・メッセージ・データには、生成されたイベントに特有の情報が含まれています。このデータは、キュー・マネージャーの名前やキューの名前 (該当する場合) などです。

観測イベント**関連資料**

[121 ページの『イベント・メッセージの形式』](#)

イベント・メッセージは、メッセージ記述子とメッセージ・データを含む標準的な IBM MQ メッセージです。

[122 ページの『イベント・メッセージ MQMD \(メッセージ記述子\)』](#)

イベント・メッセージのメッセージ記述子には、メッセージ・タイプやメッセージ形式、およびメッセージがイベント・キューに書き込まれた日時など、システム・モニター・アプリケーションが使用できる情報が含まれています。

127 ページの『イベント・メッセージ MQCFH (PCF ヘッダー)』

イベント・メッセージのメッセージ・データの形式は、PCF コマンドの照会と応答に使用される プログラマブル・コマンド・フォーマット (PCF) です。メッセージ・データは、イベント・ヘッダーとイベント・データの 2 つの部分で構成されます。

イベント・メッセージの形式

イベント・メッセージは、メッセージ記述子とメッセージ・データを含む標準的な IBM MQ メッセージです。

121 ページの表 8 では、イベント・メッセージの基本的構造を示し、イベント・データ列に、キュー・サービス間隔イベントのイベント・メッセージにあるフィールドの名前を示します。

表 8. キュー・サービス間隔イベントのイベント・メッセージの構造		
メッセージ記述子	メッセージ・データ	
MQMD 構造	PCF ヘッダー MQCFH 構造	イベント・データ ¹
構造体 ID 構造バージョン レポート・オプション メッセージ・タイプ 満了時刻 フィードバック・コード Encoding コード化文字セット ID メッセージ形式 メッセージ優先順位 Persistence メッセージ ID 相関 ID バックアウト・カウント 応答先キュー 応答先キュー・マネージャー ユーザー ID アカウンティング・トークン アプリケーション識別データ アプリケーション・タイプ アプリケーション名 書き込み日付 書き込み時刻 発生元アプリケーション・データ グループ ID メッセージ順序番号 オフセット メッセージ・フラグ 元の長さ	構造タイプ 構造の長さ 構造バージョン コマンド ID メッセージ順序番号 制御オプション 完了コード 理由コード パラメーター数	キュー・マネージャー名 キュー名 前回のリセットからの時間の最大数 キュー上のメッセージ メッセージの数 キューに書き込む メッセージの数 キューから取り出された メッセージ数

表 8. キュー・サービス間隔イベントのイベント・メッセージの構造 (続き)

メッセージ記述子	メッセージ・データ	
MQMD 構造	PCF ヘッダー MQCFH 構造	イベント・データ ¹
<p>注:</p> <p>1. 示されるパラメーターは、キュー・サービス間隔イベントで戻るパラメーターです。実際のイベント・データは、個々のイベントによって異なります。</p>		

一般に、作成するシステム管理プログラムにとって必要なのは、この情報の一部のみです。例えば、アプリケーションにとって次のデータが必要な場合があります。

- イベントを引き起こしているアプリケーションの名前
- イベントが起きたキュー・マネージャーの名前
- イベントが生成されたキュー
- イベント統計

イベント・メッセージ MQMD (メッセージ記述子)

イベント・メッセージのメッセージ記述子には、メッセージ・タイプやメッセージ形式、およびメッセージがイベント・キューに書き込まれた日時など、システム・モニター・アプリケーションが使用できる情報が含まれています。

メッセージ・タイプは MQMT_DATAGRAM であり、メッセージの形式は MQFMT_EVENT であることが、記述子内の情報によってシステム管理アプリケーションに通知されます。

イベント・メッセージのフィールドの多くには、固定データが設定されています。このデータは、そのメッセージを生成したキュー・マネージャーが提供します。MQMD 構造はまた、メッセージを書き込んだキュー・マネージャーの名前 (28 文字に切り捨てられます) を指定します。

1 つのイベント・メッセージについて、MQMD 構造には次の値があります。

StrucId

説明:	構造体 ID
データ型:	MQCHAR4.
値:	MQMD_STRUC_ID

Version

説明:	構造体のバージョン番号。
データ型:	MQLONG

値: **MQMD_VERSION_1**
Version-1 メッセージ記述子構造。すべての環境でサポートされます。

MQMD_VERSION_2
Version-2 メッセージ記述子構造。以下の環境でサポートされます。

- ▶ **AIX** AIX
- ▶ **IBM i** IBM i
- ▶ **Linux** Linux
- ▶ **Windows** Windows
- ▶ **z/OS** z/OS

およびこれらのシステムに接続されるすべての IBM MQ MQI clients。

Report

説明: レポート・メッセージのオプション。
データ型: MQLONG
値: **MQRO_NONE**
レポートは必要ありません。

MsgType

説明: メッセージのタイプを示します。
データ型: MQLONG
値: MQMT_DATAGRAM

Expiry

説明: メッセージ存続期間。
データ型: MQLONG
値: **MQEI_UNLIMITED**
メッセージには有効期間がありません。

Feedback

説明: フィードバックまたは理由コード。
データ型: MQLONG
値: MQFB_NONE

Encoding

説明: メッセージ・データの数値エンコード。
データ型: MQLONG
値: MQENC_NATIVE

CodedCharSetId

説明: イベント・メッセージ・データの文字セット ID。
データ型: MQLONG

値: イベントを生成するキュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID)。

Format

説明: メッセージ・データの形式名。

データ型: MQCHAR8.

値: **MQFMT_EVENT**
イベント・メッセージ。

Priority

説明: メッセージの優先度。

データ型: MQLONG

値: **MQPRI_PRIORITY_AS_Q_DEF**
優先度はイベント・キューの優先度です。

Persistence

説明: メッセージの持続性。

データ型: MQLONG

値: **MQPER_PERSISTENCE_AS_Q_DEF**
優先度はイベント・キューの優先度です。

MsgId

説明: メッセージ ID。

データ型: MQBYTE24.

値: キュー・マネージャーによって生成される固有値。

CorrelId

説明: 相関 ID。

データ型: MQBYTE24.

値: パフォーマンス、キュー・マネージャー、ロガー、チャネル、ブリッジ、および SSL の各イベントの場合:

MQCI_NONE

相関 ID は指定されません。これはプライベート・キュー専用です。

共有キュー上のイベントの場合、ゼロ以外の相関 ID が設定されます。このパラメーターは、さまざまなキュー・マネージャーからの複数のイベント・メッセージを追跡できるように設定されます。文字は次のように指定されます。

- 1 から 4 製品 ID ('CSQ')
- 5 から 8 キュー共有グループ名
- 9 キュー・マネージャー ID
- 10 から 17 タイム・スタンプ
- 18 から 24 NULL

構成イベントおよびコマンド・イベントの場合:

固有なゼロ以外の相関 ID

同じイベントに関連するメッセージはすべて、同じ CorrelId を持っています。

BackoutCount

説明: バックアウトのカウンター。
データ型: MQLONG
値: 0。

ReplyToQ

説明: 応答キューの名前。
データ型: MQCHAR48.
値: ブランク。

ReplyToQMGr

説明: 応答キュー・マネージャーの名前。
データ型: MQCHAR48.
値: 発生元のシステムのキュー・マネージャー名。

UserIdentifier

説明: メッセージ発生元のアプリケーションを識別します。
データ型: MQCHAR12.
値: ブランク。

AccountingToken

説明: メッセージの結果として行われる作業についてアプリケーションによる課金を可能にするためのアカウントिंग・トークン。
データ型: MQBYTE32.
値: MQLONG

ApplIdentityData

説明: ID に関連するアプリケーション・データ。
データ型: MQCHAR32.
値: ブランク。

PutApplType

説明: メッセージを書き込むアプリケーションのタイプ。
データ型: MQLONG
値: **MQAT_QMGR**
キュー・マネージャーによって生成されたメッセージ。

PutApplName

説明: メッセージを書き込むアプリケーションの名前。

データ型: MQCHAR28.
値: 発生元のシステムのキュー・マネージャー名。

PutDate

説明: メッセージが書き込まれた日付。
データ型: MQCHAR8.
値: キュー・マネージャーによって生成された時点。

PutTime

説明: メッセージが書き込まれた時間。
データ型: MQCHAR8.
値: キュー・マネージャーによって生成された時点。

ApplOriginData

説明: 発生元に関するアプリケーション・データ。
データ型: MQCHAR4.
値: ブランク。

注: *Version* が MQMD_VERSION_2 である場合は、次の追加フィールドがあります。

GroupId

説明: 物理メッセージが属するメッセージ・グループ、または論理メッセージを識別します。
データ型: MQBYTE24.
値: **MQGI_NONE**
グループ ID は指定されません。

MsgSeqNumber

説明: グループ中の論理メッセージの順序番号。
データ型: MQLONG
値: 1 秒。

Offset

説明: 論理メッセージの先頭を起点とする、物理メッセージ中のデータのオフセット。
データ型: MQLONG
値: 0。

MsgFlags

説明: メッセージの属性を指定したり、その処理を制御したりするメッセージ・フラグ。
データ型: MQLONG
値: MQMF_NONE

OriginalLength

説明: 元のメッセージの長さ。
データ型: MQLONG
値: MQOL_UNDEFINED

イベント・メッセージ MQCFH (PCF ヘッダー)

イベント・メッセージのメッセージ・データの形式は、PCF コマンドの照会と応答に使用される プログラムブル・コマンド・フォーマット (PCF) です。メッセージ・データは、イベント・ヘッダーとイベント・データの 2 つの部分で構成されます。

MQCFH ヘッダーでは、以下の情報を指定します。

- イベントのカテゴリ: イベントはキュー・マネージャー・イベント、パフォーマンス・イベント、チャンネル・イベント、構成イベント、コマンド・イベント、またはロガー・イベントのいずれかです。
- イベントの原因を示す理由コード。MQI 呼び出しで引き起こされたイベントの場合、この理由コードは、MQI 呼び出しの理由コードと同様です。

理由コードには、文字 MQRC_ で始まる名前があります。例えば、理由コード MQRC_PUT_INHIBITED が生成されるのは、アプリケーションが書き込み用に使用可能になっていないキューにメッセージを書き込もうとしたときです。

イベントの場合、MQCFH 構造には以下の値が含まれます。

Type

説明: メッセージの内容を識別する構造タイプ。
データ型: MQLONG
値: **MQCFT_EVENT**
メッセージは、イベントのレポートです。

StrucLength

説明: 構造の長さ。
データ型: MQLONG
値: **MQCFH_STRUC_LENGTH**
MQCFH 構造のバイト単位の長さ。

Version

説明: 構造体のバージョン番号。
データ型: MQLONG
値: **MQCFH_VERSION_1**
Version-1 (構成イベントとコマンド・イベントを除くすべてのイベント)。
MQCFH_VERSION_2
Version-2 (構成イベントの場合)。
MQCFH_VERSION_3
Version-3 (コマンド・イベントの場合)。

Command

説明: コマンド ID。これはイベントのカテゴリを識別します。

データ型: MQLONG

値: **MQCMD_Q_MGR_EVENT**
キュー・マネージャー・イベント。

MQCMD_PERFM_EVENT
パフォーマンス・イベント。

MQCMD_CHANNEL_EVENT
チャンネル・イベント。

MQCMD_CONFIG_EVENT
構成イベント

MQCMD_COMMAND_EVENT
コマンド・イベント。

MQCMD_LOGGER_EVENT
ロガー・イベント。

MsgSeqNumber

説明: メッセージ順序番号 関連メッセージのグループ内のメッセージの順序番号です。

データ型: MQLONG

値: **1**
変更前の属性値を持つオブジェクトの変更の構成イベントの場合、および他のすべてのタイプのイベントの場合。

2
変更後の属性値を持つオブジェクトの変更の構成イベントの場合。

Control

説明: 制御オプション。

データ型: MQLONG

値: **MQCFC_LAST**
変更後の属性値を持つオブジェクトの変更の構成イベントの場合、および他のすべてのタイプのイベントの場合。

MQCFC_NOT_LAST
変更以前の属性値を持つオブジェクトの変更の構成イベントの場合のみ。

CompCode

説明: 完了コード。

データ型: MQLONG

値: **MQCC_OK**
イベントは OK 条件をレポートします。

MQCC_WARNING
イベントは警告条件をレポートします。特に指定しない限り、すべてのイベントはこの完了コードを持ちます。

Reason

説明: 完了コードを修飾する理由コード。
 データ型: MQLONG
 値: MQRC_* レポートされるイベントによって異なります。
 注: 理由コードが同じイベント同士の識別は、さらに、イベント・データの中の **ReasonQualifier** パラメーターを使用して行われます。

ParameterCount

説明: パラメーター構造のカウンタ。これは、MQCFH 構造に続くパラメーター構造の数です。グループ構造 (MQCFGR) とそれに含まれるパラメーター構造は、1つの構造としてカウンタされます。
 データ型: MQLONG
 値: 0 以上。

イベント・メッセージ記述

イベント・メッセージ・データには、生成されたイベントに特有の情報が含まれています。このデータは、キュー・マネージャーの名前やキューの名前 (該当する場合) などです。

戻されるデータ構造は、どのイベントが生成されたかによって異なります。また、一部のイベントでは、構造のパラメーターのいくつかはオプションであり、そのイベントを生成する原因となった状況に関連する情報が含まれている場合にのみ返されます。データ構造に設定されている値は、イベントが生成される原因となった状況によって異なります。

注:

1. メッセージ・データの PCF 構造は、定義した順序では返されません。説明の中に示されているパラメーター ID から、イベント構造を識別する必要があります。
2. イベント記述の最初に具体的な制限が示されていない限り、イベントはすべてのプラットフォームで使用可能です。

別名基本キュー・タイプ・エラー

イベント名:	別名基本キュー・タイプ・エラー。
MQCFH 中の理由コード:	1125 ページの『2001 (07D1) (RC2001): MQRC_ALIAS_BASE_Q_TYPE_ERROR』 。別名基本キューのタイプは無効です。
イベント記述:	宛先として別名キューを指定して MQOPEN または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、別名キュー定義内の <i>BaseObjectName</i> は、ローカル・キューでもリモート・キューのローカル定義でもないキューに解決されます。
イベント・タイプ:	ローカル。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
 ID: MQCA_Q_MGR_NAME

データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

QName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID: MQCA_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

BaseObjectName

説明: 別名が解決されるオブジェクト名。
ID: MQCA_BASE_OBJECT_NAME。既存アプリケーションとの互換性のために、MQCA_BASE_Q_NAME を引き続き使用できます。
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

QType

説明: 別名が解決されるキューのタイプ。
ID: MQIA_Q_TYPE
データ型: MQCFIN
値: **MQQT_ALIAS**
別名キュー定義。
MQQT_MODEL
モデル・キュー定義。
戻り: 常時。

ApplType

説明: イベントを引き起こした呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: イベントを引き起こした呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ObjectQMgrName

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。
ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) 内の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

ConnName

説明: クライアント接続の接続名。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明: クライアント接続のチャンネル名。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ブリッジ開始

イベント名:	ブリッジ開始。
MQCFH 中の理由コード:	1182 ページの『2125 (084D) (RC2125): MQRC_BRIDGE_STARTED』 . ブリッジが開始しました。
イベント記述:	IMS ブリッジが開始しました。
イベント・タイプ:	IMS ブリッジ。
プラットフォーム:	IBM MQ for z/OS のみ。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

BridgeType

説明: ブリッジ・タイプ。
ID: MQIACF_BRIDGE_TYPE
データ型: MQCFIN
値: **MQBT_OTMA**
OTMA ブリッジ。
戻り: 常時。

BridgeName

説明: ブリッジ名。タイプ MQBT_OTMA のブリッジの場合、名前の形式は XCFgroupXCFmember です。XCFgroup は、IMS と IBM MQ の両方が属する XCF グループ名です。XCFmember は、IMS システムの XCF メンバー名です。
ID: MQCACF_BRIDGE_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_BRIDGE_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ブリッジ停止

イベント名:	ブリッジ停止。
MQCFH 中の理由コード:	<u>1182 ページの『2126 (084E) (RC2126): MQRC_BRIDGE_STOPPED』</u> . ブリッジが停止しました。
イベント記述:	IMS ブリッジが停止しました。
イベント・タイプ:	IMS ブリッジ。
プラットフォーム:	IBM MQ for z/OS のみ。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ReasonQualifier

説明: MQCFH 中の、理由コードを修飾する ID。
ID: MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型: MQCFIN

値: **MQRQ_BRIDGE_STOPPED_OK**
ブリッジが、ゼロ戻りコードまたは警告戻りコードのいずれかを発行して終了しました。MQBT_OTMA ブリッジで、いずれかの側が正常な IXCLEAVE 要求を発行しました。

MQRQ_BRIDGE_STOPPED_ERROR
ブリッジは終了しましたが、エラーがレポートされています。

戻り: 常時。

BridgeType

説明: ブリッジ・タイプ。

ID: MQIACF_BRIDGE_TYPE

データ型: MQCFIN

値: **MQBT_OTMA**
OTMA ブリッジ。

戻り: 常時。

BridgeName

説明: ブリッジ名。タイプ MQBT_OTMA のブリッジの場合、名前の形式は XCFgroupXCFmember です。XCFgroup は、IMS と IBM MQ の両方が属する XCF グループ名です。XCFmember は、IMS システムの XCF メンバー名です。

ID: MQCACF_BRIDGE_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_BRIDGE_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

ErrorIdentifier

説明: あるエラーのためにブリッジが停止した場合、このコードはそのエラーを識別します。イベントでブリッジ停止障害が報告された場合は、IMS センス・コードが設定されます。

ID: MQIACF_ERROR_IDENTIFIER

データ型: MQCFIN

戻り: *ReasonQualifier* が MQRQ_BRIDGE_STOPPED_ERROR の場合。

権限レコードの変更

イベント名: 権限レコードの変更

MQCFH 中の理由コード: [1261 ページの『2368 \(0940\) \(RC2368\): MQRC_CONFIG_CHANGE_OBJECT』](#).
オブジェクトが変更されました。

イベント記述: Set Authority Record コマンドが発行され、既存の権限レコードが正常に変更されました。

イベント・タイプ: 構成

プラットフォーム: すべて、ただし z/OS を除く。

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.CONFIG.EVENT.

権限レコード変更イベントに関して2つのイベント・メッセージが生成されることに注意してください。最初のものには変更前の権限レコード属性値が含まれ、2番目のものには変更後の属性値が含まれます。

イベント・データ

EventQMgr

説明: コマンドまたは呼び出しが入れられたキュー・マネージャー。つまり、コマンドを処理してイベントを生成するキュー・マネージャーは、イベント・メッセージの MQMD にあります。

ID: MQCACF_EVENT_Q_MGR

データ型: MQCFST

最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

EventUserId

説明: コマンドを発行したユーザー ID、またはイベントを生成した呼び出し。
これは、コマンドまたは呼び出しを発行する権限の検査に使われるのと同じユーザー ID です。キューから受け取ったコマンドの場合、これはコマンド・メッセージのメッセージ記述子からのユーザー ID (**UserIdentifier**) でもあります。

ID: MQCACF_EVENT_USER_ID

データ型: MQCFST

最大長: MQ_USER_ID_LENGTH

戻り: 常時。

EventOrigin

説明: イベントを引き起こしたアクションの発信元。

ID: MQIACF_EVENT_ORIGIN

データ型: MQCFIN

値: **MQEVO_CONSOLE**
コンソール・コマンド ([runmqsc](#) または [setmqaut](#))

MQEVO_INTERNAL
キュー・マネージャーによって直接

MQEVO_MSG
SYSTEM.ADMIN.COMMAND.QUEUE でのコマンド・メッセージ

戻り: 常時

EventAccountingToken

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアカウントिंग・トークン (**AccountingToken**)。

ID: MQBACF_EVENT_ACCOUNTING_TOKEN

データ型: MQCFBS

最大長: MQ_ACCOUNTING_TOKEN_LENGTH

戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplIdentity

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアプリケーション識別データ (**ApplIdentityData**)。

ID: MQMQCACF_EVENT_APPL_IDENTITY

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_IDENTITY_DATA_LENGTH

戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplType

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアプリケーション・タイプ (**PutApplType**)。

ID: MQIACF_EVENT_APPL_TYPE

データ型: MQCFIN

値:

戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplName

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアプリケーション名 (**PutApplName**)。

ID: MQCACF_EVENT_APPL_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH

戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplOrigin

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアプリケーション発信元データ (**ApplOriginData**)。

ID: MQCACF_EVENT_APPL_ORIGIN

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_ORIGIN_DATA_LENGTH

戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

ObjectType

説明: オブジェクト・タイプ

ID: MQIACF_OBJECT_TYPE

データ型: MQCFIN

値: MQOT_AUTH_REC

戻り: 常時

ProfileName

説明:	オブジェクトまたは総称プロファイル名
ID:	MQCACF_AUTH_PROFILE_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_AUTH_PROFILE_NAME_LENGTH
戻り:	常時

オブジェクトの属性

オブジェクトの属性ごとにパラメーター構造が戻されます。戻される属性はオブジェクト・タイプによって異なります。詳しくは、[74 ページの『イベント・データのオブジェクト属性』](#)を参照してください。

オブジェクトの変更

イベント名:	オブジェクトの変更。
MQCFH 中の理由コード:	1261 ページの『2368 (0940) (RC2368): MQRC_CONFIG_CHANGE_OBJECT』 . 既存のオブジェクトが変更されました。
イベント記述:	ALTER または DEFINE REPLACE コマンド、または MQSET 呼び出しが発行されて、既存のオブジェクトが正常に変更されました。
イベント・タイプ:	構成。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CONFIG.EVENT.

注: オブジェクトの変更イベントについて 2 つのイベント・メッセージが生成されました。最初は、変更前のオブジェクト属性値が含まれており、2 番目のものには、変更後のオブジェクト属性値が含まれています。

イベント・データ

EventUserId

説明:	コマンドを発行したユーザー ID、またはイベントを生成した呼び出し。(これは、コマンドまたは呼び出しを発行する権限の検査に使用するものと同じユーザー ID です。キューから受け取ったコマンドの場合、これはコマンド・メッセージの MQMD からのユーザー ID (UserIdentifier) でもあります。)
ID:	MQCACF_EVENT_USER_ID
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_USER_ID_LENGTH
戻り:	常時。

EventOrigin

説明:	イベントを引き起こしたアクションの発信元。
ID:	MQIACF_EVENT_ORIGIN
データ型:	MQCFIN

値:	MQEVO_CONSOLE コンソール・コマンド。
	MQEVO_INIT 初期設定入力データ・セット・コマンド。
	MQEVO_INTERNAL キュー・マネージャーによって直接。
	MQEVO_MQSET MQSET 呼び出し。
	MQEVO_MSG SYSTEM.COMMAND.INPUT 上のコマンド・メッセージ。
	MQEVO_OTHER 上記のいずれでもない。
戻り:	常時。

EventQMGr

説明:	コマンドまたは呼び出しが入れられたキュー・マネージャー。(コマンドが実行されたキュー・マネージャー、およびイベントを生成したキュー・マネージャーは、イベント・メッセージの MQMD にあります。)
ID:	MQCACF_EVENT_Q_MGR
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

EventAccountingToken

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアカウントिंग・トークン (AccountingToken)。
ID:	MQBACF_EVENT_ACCOUNTING_TOKEN
データ型:	MQCFBS
最大長:	MQ_ACCOUNTING_TOKEN_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplIdentity

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーション識別データ (ApplIdentityData)。
ID:	MQCACF_EVENT_APPL_IDENTITY
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_IDENTITY_DATA_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplType

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションのタイプ (PutApplType)。
ID:	MQIACF_EVENT_APPL_TYPE
データ型:	MQCFIN

戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplName

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの名前 (PutApplName)。

ID: MQCACF_EVENT_APPL_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH

戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplOrigin

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの発信元データ (ApplOriginData)。

ID: MQCACF_EVENT_APPL_ORIGIN

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_ORIGIN_DATA_LENGTH

戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

ObjectType

説明: オブジェクト・タイプ:

ID: MQIACF_OBJECT_TYPE

データ型: MQCFIN

値:

MQOT_CHANNEL
チャンネル。

MQOT_CHLAUTH
チャンネル認証レコード

MQOT_NAMELIST
名前リスト。

MQOT_NONE
オブジェクトなし。

MQOT_PROCESS
プロセス。

MQOT_Q
キュー。

MQOT_Q_MGR
キュー・マネージャー。

MQOT_STORAGE_CLASS
ストレージ・クラス。

MQOT_AUTH_INFO
認証情報

MQOT_CF_STRUC
CF 構造。

MQOT_TOPIC
トピック。

MQOT_COMM_INFO
通信情報。

MQOT_LISTENER
チャンネル・リスナー。

戻り: 常時。

ObjectName

説明: オブジェクト名。

ID: ID はオブジェクト・タイプに従ったものになります。

- MQCACH_CHANNEL_NAME
- MQCA_NAMELIST_NAME
- MQCA_PROCESS_NAME
- MQCA_Q_NAME
- MQCA_Q_MGR_NAME
- MQCA_STORAGE_CLASS
- MQCA_AUTH_INFO_NAME
- MQCA_CF_STRUC_NAME
- MQCA_TOPIC_NAME
- MQCA_COMM_INFO_NAME
- MQCACH_LISTENER_NAME

注: MQCACH_CHANNEL_NAME は、チャンネル認証にも使用できます。

データ型: MQCFST

最大長: MQ_OBJECT_NAME_LENGTH

戻り: 常時

Disposition

説明: オブジェクトの属性指定。

ID: MQIA_QSG_DISP

データ型: MQCFIN

値: **MQQSGD_Q_MGR**

オブジェクトはキュー・マネージャーのページ・セットにあります。

MQQSGD_SHARED

オブジェクトは共有リポジトリ内にあり、メッセージがカップリング・ファシリティで共有されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは共有リポジトリにあります。

MQQSGD_COPY

オブジェクトはキュー・マネージャーのページ・セットにあり、GROUP オブジェクトのローカル・コピーです。

戻り: 常時 (キュー・マネージャーおよび CF 構造化オブジェクトは除く)。

オブジェクトの属性

オブジェクトの属性ごとにパラメーター構造が戻されます。戻される属性はオブジェクト・タイプによって異なります。詳しくは、[74 ページの『イベント・データのオブジェクト属性』](#)を参照してください。

チャンネル活動化

イベント名: チャンネル活動化。

MQCFH 中の理由コード: [1234 ページの『2295 \(08F7\) \(RC2295\): MQRC_CHANNEL_ACTIVATED』](#).
チャンネル活動化。

イベント記述: チャンネルがアクティブになるために待ち続けており、そのチャンネルについてチャンネル非活動化イベントが既に生成されている場合、アクティブ・スロットを別のチャンネルが解放したため、そのチャンネルがアクティブになることができたときに、この条件が検出されます。

このイベントは、アクティブ・スロットの解放を待たずにアクティブ状態になることができるチャンネルについては生成されません。

イベント・タイプ: チャンネル。

プラットフォーム: すべて。

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。

ID: MQCA_Q_MGR_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

ChannelName

説明: チャンネル名。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

XmitQName

説明: 伝送キュー名。
ID: MQCACH_XMIT_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 送信側、サーバー、クラスター送信側、およびクラスター受信側のチャンネルの場合のみ。

ConnectionName

説明: チャンネルが TCP 接続を正常に確立した場合、これは IP アドレスになります。それ以外は、チャンネル定義の *ConnectionName* フィールドの内容になります。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り: 総称名を含まないコマンドの場合のみ。

チャンネル自動定義エラー

イベント名:	チャンネル自動定義エラー。
MQCFH 中の理由コード:	<u>1213</u> ページの『 <u>2234 (08BA) (RC2234): MQRC_CHANNEL_AUTO_DEF_ERROR</u> 』。自動チャンネル定義に失敗しました。
イベント記述:	この条件が検出されるのは、チャンネルの自動定義に失敗した場合です。原因には、定義プロセス中にエラーが発生したこと、あるいはチャンネル自動定義出口によって定義が禁止されていることなどが考えられます。イベント・メッセージには、エラーの理由を示す追加情報が戻ります。
イベント・タイプ:	チャンネル。
プラットフォーム:	すべて。ただし IBM MQ for z/OS を除く。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME

データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ChannelName

説明: 自動定義に失敗したチャンネルの名前。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ChannelType

説明: チャンネル・タイプ。これは、自動定義に失敗したチャンネルのタイプを指定します。
ID: MQIACH_CHANNEL_TYPE
データ型: MQCFIN
値: **MQCHT_RECEIVER**
受信側。
MQCHT_SVRCONN
サーバー接続 (クライアントが使用)。
MQCHT_CLUSSDR
クラスター送信側。
戻り: 常時。

ErrorIdentifier

説明: エラーの原因の ID。チャンネル定義を試みた結果の理由コード (MQRC_* または MQRCCF_*) か、または定義の作成が出口によって禁止されている場合には値 MQRCCF_SUPPRESSED_BY_EXIT が戻ります。
ID: MQIACF_ERROR_IDENTIFIER
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ConnectionName

説明: 接続を確立しようとする相手先の名前。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

AuxErrorDataInt1

説明: 補助エラー・データ。MQCXP の *Feedback* フィールドにある出口から値が戻され、自動定義により禁止されている理由が示されます。
ID: MQIACF_AUX_ERROR_DATA_INT_1.

データ型: MQCFIN
戻り: *ErrorIdentifier* に MQRCCF_SUPPRESSED_BY_EXIT が戻った場合のみ。

チャンネル自動定義 OK

イベント名:	チャンネル自動定義 OK。
MQCFH 中の理由コード:	<u>1213 ページの『2233 (08B9) (RC2233): MQRC_CHANNEL_AUTO_DEF_OK』</u> . 自動チャンネル定義に成功しました。
イベント記述:	チャンネルの自動定義が正常に行われたときに、この状況が検出されます。チャンネルは MCA によって定義されました。
イベント・タイプ:	チャンネル。
プラットフォーム:	すべて。ただし IBM MQ for z/OS を除く。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ChannelName

説明: 定義するチャンネルの名前。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ChannelType

説明: 定義するチャンネルのタイプ。
ID: MQIACH_CHANNEL_TYPE
データ型: MQCFIN
値: **MQCHT_RECEIVER**
受信側。
MQCHT_SVRCONN
サーバー接続 (クライアントが使用)。
MQCHT_CLUSSDR
クラスター送信側。
戻り: 常時。

ConnectionName

説明:	接続を確立しようとする相手先の名前。
ID:	MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

チャンネルのブロック

イベント名:	チャンネルのブロック。
MQCFH 中の理由コード:	<u>1322 ページの『2577 (0A11) (RC2577): MQRC_CHANNEL_BLOCKED』</u> チャンネルのブロック。 <u>1322 ページの『2578 (0A12) (RC2578):</u> <u>MQRC_CHANNEL_BLOCKED_WARNING』</u> チャンネルのブロック - 警告モード。
イベント記述:	このイベントは、インバウンド・チャンネル開始の試みがブロックされた場合に発行されます。 MQRC_CHANNEL_BLOCKED_WARNING の場合、チャンネル認証レコードが WARN を YES に設定して定義されているため、このチャンネルには一時的なアクセスが認可されます。
イベント・タイプ:	チャンネル。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

Reason qualifier

説明:	理由コードを修飾する ID。
ID:	MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型:	MQCFIN

値: **MQRQ_CHANNEL_BLOCKED_ADDRESS**
チャンネルの IP アドレスが拒否リスト内に存在するため、チャンネルはブロックされました。

MQRQ_CHANNEL_BLOCKED_USERID
チャンネルの表明ユーザー ID またはマップされるユーザー ID が拒否リスト内に存在するため、チャンネルはブロックされました。

MQRQ_CHANNEL_BLOCKED_NOACCESS
チャンネルの IP アドレス、TLS ピア名、リモート・キュー・マネージャー名またはマップされるクライアント・ユーザー ID がアクセス権を持っていないため、チャンネルはブロックされました。

戻り: 常時。

ChannelName

説明: チャンネル名。

ID: MQCACH_CHANNEL_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH

戻り: 理由修飾子が MQRQ_CHANNEL_BLOCKED_ADDRESS ではない場合。この場合、チャンネル名が明らかになる前にインバウンド接続がブロックされます。

UserIdentifier

説明: ブロックされたユーザー ID。

ID: MQCACF_USER_IDENTIFIER

データ型: MQCFST

最大長: MQ_USER_ID_LENGTH

戻り: 理由修飾子が MQRQ_CHANNEL_BLOCKED_USERID の場合のみ

ConnectionName

説明: 接続の確立を試みる相手側のアドレス

ID: MQCACH_CONNECTION_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH

戻り: 常時

RemoteQMGrName

説明: 接続の確立を試みる相手側キュー・マネージャーの名前。

ID: MQCA_REMOTE_Q_MGR_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH

戻り: インバウンド・キュー・マネージャー接続の場合のみ。

SSLPeerName

説明: リモート・システムから送信される証明書内の識別名。

ID: MQCACH_SSL_PEER_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_DISTINGUISHED_NAME_LENGTH
戻り: チャンネルが TLS を使用していて、クライアントが匿名接続していない場合は常時。

SSLIssuerName

説明: リモート・システムから送信される証明書内の発行元の名前。
ID: MQCA_SSL_CERT_ISSUER_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_DISTINGUISHED_NAME_LENGTH
戻り: チャンネルが TLS を使用していて、クライアントが匿名接続していない場合は常時。

ClientUserIdentifier

説明: 接続の確立を試みる相手側のクライアント・サイド・ユーザー ID。
ID: MQCACH_CLIENT_USER_ID
データ型: MQCFST
最大長: MQ_USER_ID_LENGTH
戻り: 理由修飾子が MQRQ_CHANNEL_BLOCKED_ADDRESS ではない場合、インバウンド・クライアント接続のみ。この場合、クライアントのユーザー ID 名が明らかになる前にインバウンド接続がブロックされます。

ApplType

説明: API 呼び出しを実行したアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: インバウンド・クライアント接続の場合のみ。理由修飾子が MQRQ_CHANNEL_BLOCKED_ADDRESS ではない場合。この場合、アプリケーション名が明らかになる前にインバウンド接続がブロックされます。

ApplName

説明: API 呼び出しを実行したアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: インバウンド・クライアント接続の場合のみ。理由修飾子が MQRQ_CHANNEL_BLOCKED_ADDRESS ではない場合。この場合、アプリケーション名が明らかになる前にインバウンド接続がブロックされます。

チャンネル変換エラー

イベント名: チャンネル変換エラー。

MQCFH 中の理由コード: 1231 ページの『2284 (08EC) (RC2284): MQRC_CHANNEL_CONV_ERROR』.
チャンネル変換エラー。

イベント記述:	チャンネルがデータ変換を実行できず、伝送キューからメッセージを入手する MQGET 呼び出しの結果、データ変換エラーが生じたとき、この条件が検出されます。 <i>ConversionReasonCode</i> によって、障害の理由が識別されます。
イベント・タイプ:	チャンネル。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

ConversionReasonCode

説明:	変換エラーの原因の ID。
ID:	MQIACF_CONV_REASON_CODE
データ型:	MQCFIN
値:	MQRC_CONVERTED_MSG_TOO_BIG (2120, X'848') 変換されるメッセージは、アプリケーション・バッファーにとって大きすぎます。
	MQRC_FORMAT_ERROR (2110, X'83E') メッセージ形式が無効です。
	MQRC_NOT_CONVERTED (2119, X'847') アプリケーション・メッセージ・データが変換されません。
	MQRC_SOURCE_CCSID_ERROR (2111, X'83F') ソース・コード文字セット ID が無効です。
	MQRC_SOURCE_DECIMAL_ENC_ERROR (2113, X'841') メッセージのパック 10 進エンコードが認識されません。
	MQRC_SOURCE_FLOAT_ENC_ERROR (2114, X'842') メッセージの浮動小数点エンコードが認識されません。
	MQRC_SOURCE_INTEGER_ENC_ERROR (2112, X'840') メッセージの整数エンコードが認識されません。
	MQRC_TARGET_CCSID_ERROR (2115, X'843') ターゲット・コード文字セット ID が無効です。
	MQRC_TARGET_DECIMAL_ENC_ERROR (2117, X'845') 受信側が指定したパック 10 進エンコードが認識されません。

MQRC_TARGET_FLOAT_ENC_ERROR (2118、X'846')

受信側が指定した浮動小数点エンコードが認識されません。

MQRC_TARGET_INTEGER_ENC_ERROR (2116、X'844')

受信側が指定した整数エンコードが認識されません。

MQRC_TRUNCATED_MSG_ACCEPTED (2079、X'81F')

切り捨てられたメッセージが戻りました (処理は完了)。

MQRC_TRUNCATED_MSG_FAILED (2080、X'820')

切り捨てられたメッセージが戻りました (処理は未完了)。

戻り: 常時。

ChannelName

説明: チャンネル名。
 ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
 データ型: MQCFST
 最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
 戻り: 常時。

Format

説明: フォーマット名。
 ID: MQCACH_FORMAT_NAME
 データ型: MQCFST
 最大長: MQ_FORMAT_LENGTH
 戻り: 常時。

XmitQName

説明: 伝送キュー名。
 ID: MQCACH_XMIT_Q_NAME
 データ型: MQCFST
 最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
 戻り: 常時。

ConnectionName

説明: チャンネルが TCP 接続を正常に確立した場合、これは IP アドレスになります。それ以外は、チャンネル定義の *ConnectionName* フィールドの内容になります。
 ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
 データ型: MQCFST
 最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
 戻り: 常時。

チャンネル非活動化

イベント名: チャンネル非活動化。

MQCFH 中の理由コード:

1235 ページの『2296 (08F8) (RC2296): MQRC_CHANNEL_NOT_ACTIVATED』.
チャンネルを活動化できません。

イベント記述:

チャンネルが始動しようとしているため、またはそのパートナーとの接続の確立を再試行しようとしているために、アクティブになるようチャンネルが要求されたとき、この条件が検出されます。しかし、アクティブ・チャンネルの制限数に達しているため、チャンネルをアクティブ状態にすることができません。以下を参照してください。

- **Linux** / **AIX** qm.ini ファイル内の **MaxActiveChannels** パラメーター (AIX および Linux の場合)。
- **Windows** Windows のレジストリーの **MaxActiveChannels** パラメーター。
- **z/OS** z/OS の場合、**ALTER QMGR** コマンドの **ACTCHL** パラメーター。

別のチャンネルがアクティブになり解放されたアクティブ・スロットを取得できるまで待機します。アクティブ・スロットを取得できたときに、Channel Activated イベントが生成されます。

イベント・タイプ:

チャンネル。

プラットフォーム:

すべて。

イベント・キュー:

SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ChannelName

説明: チャンネル名。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

XmitQName

説明: 伝送キュー名。
ID: MQCACH_XMIT_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 送信側、サーバー、クラスター送信側、およびクラスター受信側のチャンネル・タイプの場合のみ。

ConnectionName

説明:	チャンネルが TCP 接続を正常に確立した場合、これは IP アドレスになります。それ以外は、チャンネル定義の ConnectionName フィールドの内容になります。
ID:	MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り:	総称名を含まないコマンドの場合のみ。

チャンネルが使用不可

イベント名:	チャンネルが使用不可。
MQCFH 中の理由コード:	<u>1310 ページの『2537 (09E9) (RC2537): MQRC_CHANNEL_NOT_AVAILABLE』</u> . チャンネルが使用不可。
イベント記述:	これは、インバウンド・チャンネル開始の試みが拒否された場合に発行されます。
イベント・タイプ:	チャンネル。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

ReasonQualifier

説明:	理由コードを修飾する ID。
ID:	MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型:	MQCFIN

値: **MQRQ_MAX_ACTIVE_CHANNELS**
 キュー・マネージャーの最大アクティブ・チャンネル・インスタンス (マルチプラットフォームの MaxActiveChannels qm.ini スタンザまたは z/OS の ACTCHL MQSC キーワード) 限度に達したため、チャンネルは使用できませんでした。

MQRQ_MAX_CHANNELS
 キュー・マネージャーの最大チャンネル・インスタンス (Multiplatforms の MaxChannels qm.ini スタンザまたは z/OS の MAXCHL MQSC キーワード) 限度に達したため、チャンネルを使用できませんでした。

MQRQ_SVRCONN_INST_LIMIT
 チャンネルの最大アクティブ・チャンネル・インスタンス (MAXINST) 限度に達したため、チャンネルを使用できませんでした。

MQRQ_CLIENT_INST_LIMIT
 チャンネルのクライアントの最大アクティブ・チャンネル・インスタンス (MAXINSTC) 限度に達したため、チャンネルを使用できませんでした。

戻り: 常時。

ChannelName

説明: チャンネル名。

ID: MQCACH_CHANNEL_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

ConnectionName

説明: 接続の確立を試みる相手側のアドレス。

ID: MQCACH_CONNECTION_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

MaximumActiveChannels

説明: 最大アクティブ・チャンネル数。

ID: MQIA_ACTIVE_CHANNELS

データ型: MQCFIN

戻り: 理由修飾子 MQRQ_MAX_ACTIVE_CHANNELS の場合のみ。

MaximumChannels

説明: 最大チャンネル。

ID: MQIA_MAX_CHANNELS

データ型: MQCFIN

戻り: 理由修飾子 MQRQ_MAX_CHANNELS の場合のみ。

MaximumInstances

説明:	最大チャンネル・インスタンス。
ID:	MQIACH_MAX_INSTANCES
データ型:	MQCFIN
戻り:	理由修飾子 MQRQ_SVRCONN_INST_LIMIT の場合のみ。

MaximumClientInstances

説明:	クライアントあたりの最大チャンネル・インスタンス。
ID:	MQIACH_MAX_INSTS_PER_CLIENT
データ型:	MQCFIN
戻り:	理由修飾子 MQRQ_CLIENT_INST_LIMIT の場合のみ。

チャンネル SSL エラー

イベント名:	チャンネル SSL エラー。
MQCFH 中の理由コード:	1262 ページの『2371 (0943) (RC2371): MQRChannel SSL Error』 . チャンネル SSL エラー。
イベント記述:	この状態は、Transport Layer Security (TLS) を使用しているチャンネルが接続を確立できなかったときに検出されます。 <i>ReasonQualifier</i> はエラーの性質を示します。
イベント・タイプ:	SSL。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

ReasonQualifier

説明:	理由コードを修飾する ID。
ID:	MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型:	MQCFIN

値: **MQRQ_SSL_HANDSHAKE_ERROR**
 TLS ハンドシェイク中に生じたキー交換/認証障害。

MQRQ_SSL_CIPHER_SPEC_ERROR
 このエラーは、次のいずれかを意味する場合があります。

- TLS クライアント CipherSpec が TLS サーバー・チャンネル定義上のものと一致しません。
- 無効な CipherSpec が指定されました。
- CipherSpec が、TLS チャンネルの一方の端でしか指定されていません。

MQRQ_SSL_PEER_NAME_ERROR
 TLS チャンネルの一方の終端によって送信された証明書内の識別名が、TLS チャンネルの他方の終端にあるチャンネル定義の末尾にある対等名と一致しません。

MQRQ_SSL_CLIENT_AUTH_ERROR
 TLS サーバー・チャンネル定義では、SSLCAUTH(REQUIRED) または SSLPEER にブランクでない値を指定しましたが、TLS クライアントは証明書を提供しませんでした。

戻り: 常時。

ChannelName

説明: チャンネル名。

ID: MQCACH_CHANNEL_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH

戻り: チャンネルの開始プロセスがあまり進んでいない場合は、*ChannelName* を使用できないことがあります。この場合、チャンネル名は返されません。それ以外は常に戻されます。

XmitQName

説明: 伝送キュー名。

ID: MQCACH_XMIT_Q_NAME

データ型: MQCFST

戻り: 送信側、サーバー、クラスター送信側、およびクラスター受信側のチャンネルの場合のみ。

ConnectionName

説明: チャンネルが TCP 接続を正常に確立した場合、これは IP アドレスになります。それ以外は、チャンネル定義の *ConnectionName* フィールドの内容になります。

ID: MQCACH_CONNECTION_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH

戻り: チャンネルの開始プロセスがあまり進んでいない場合、*ConnectionName* が使用可能にならないことがあります。この場合、接続名は戻されません。それ以外は常に戻されます。

SSLHandshakeStage

説明:	エラーの原因となっている TLS 関数呼び出しに関する情報。z/OS の場合、関数名の詳細は、「 System Secure Sockets Layer Programming Guide and Reference 」(SC24-5877)に記載されています。
ID:	MQCACH_SSL_HANDSHAKE_STAGE
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_SSL_HANDSHAKE_STAGE_LENGTH
戻り:	このフィールドは、 <i>ReasonQualifier</i> が MQRQ_SSL_HANDSHAKE_ERROR に設定される場合にのみ表示されます。

SSLReturnCode

説明:	失敗した TLS 呼び出しからの数値の戻りコード。 特定プラットフォームの TLS 戻りコードまたは TLS 戻りコードの詳細を調べる方法は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">z/OS z/OS については、1116 ページの『Transport Layer Security (TLS) return codes for z/OS』を参照してください。Multi Multiplatforms の場合は、Transport Layer Security (TLS) の戻りコードを参照してください。
ID:	MQIACH_SSL_RETURN_CODE
データ型:	MQCFIN
戻り:	このフィールドは、 <i>ReasonQualifier</i> が MQRQ_SSL_HANDSHAKE_ERROR に設定される場合にのみ表示されます。

SSLPeerName

説明:	リモート・システムから送信される証明書内の識別名。
ID:	MQCACH_SSL_PEER_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_DISTINGUISHED_NAME_LENGTH。
戻り:	このフィールドは、 <i>ReasonQualifier</i> が MQRQ_SSL_PEER_NAME_ERROR に設定される場合にのみ表示され、この理由修飾子について常に存在するわけではありません。

チャンネル SSL 警告

イベント名:	チャンネル SSL 警告。
MQCFH 中の理由コード:	1316 ページの『2552 (09F8) (RC2552): MQRC_CHANNEL_SSL_WARNING』 . チャンネル SSL 警告。
イベント記述:	この状態は、Transport Layer Security (TLS) を使用するチャンネルで、TLS 接続の確立を失敗させる原因とはならない問題が発生した場合に検出されます。 <i>ReasonQualifier</i> によってイベントの性質が示されます。
イベント・タイプ:	SSL。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

ReasonQualifier

説明:	理由コードを修飾する ID。
ID:	MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型:	MQCFIN
値:	MQRQ_SSL_UNKNOWN_REVOCATION OCSP 応答側が、不明という応答を返しました。IBM MQ は警告を出すように構成されていますが、接続は続行できます。
戻り:	常時。

ChannelName

説明:	チャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	チャンネルの開始プロセスがあまり進んでいない場合は、 <i>ChannelName</i> を使用できないことがあります。この場合、チャンネル名は返されません。それ以外は常に返されます。

XmitQName

説明:	伝送キュー名。
ID:	MQCACH_XMIT_Q_NAME
データ型:	MQCFST
戻り:	送信側、サーバー、クラスター送信側、およびクラスター受信側のチャンネルの場合のみ。

ConnectionName

説明:	チャンネルが TCP 接続を正常に確立した場合、これは IP アドレスになります。それ以外は、チャンネル定義の <i>ConnectionName</i> フィールドの内容になります。
ID:	MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り:	チャンネルの開始プロセスがあまり進んでいない場合、 <i>ConnectionName</i> が使用可能にならないことがあります。この場合、接続名は返されません。それ以外は常に返されます。

チャンネル開始

イベント名:	チャンネル開始。
MQCFH 中の理由コード:	<u>1231</u> ページの『 <u>2282 (08EA) (RC2282): MQRC_CHANNEL_STARTED</u> 』. チャンネルが開始されました。
イベント記述:	オペレーターがチャンネル開始コマンドを実行した場合、またはチャンネルのインスタンスが正常に確立されたかのいずれかの場合です。初期データ折衝が完了しているときに、メッセージ転送が続行できるよう必要に応じて再同期が実行された場合、この条件が検出されます。
イベント・タイプ:	チャンネル。
プラットフォーム:	すべて。クライアント接続では、このイベントは生成されません。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

ChannelName

説明:	チャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

XmitQName

説明:	伝送キュー名。
ID:	MQCACH_XMIT_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り:	送信側、サーバー、クラスター送信側、およびクラスター受信側のチャンネルの場合のみ。

ConnectionName

説明:	チャンネルが TCP 接続を正常に確立した場合、これは IP アドレスになります。それ以外は、チャンネル定義の <i>ConnectionName</i> フィールドの内容になります。
ID:	MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型:	MQCFST

最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り: 総称名を含まないコマンドの場合のみ。

チャンネル停止

イベント名:	チャンネル停止。
MQCFH 中の理由コード:	<u>1231</u> ページの『 <u>2283 (08EB) (RC2283): MQRC_CHANNEL_STOPPED</u> 』。 チャンネルが停止されました。
イベント記述:	これは、チャンネル・インスタンスが停止したときに発行されます。これが発行されるのは、チャンネル・インスタンスが以前にチャンネル開始イベントを発行した場合にのみです。
イベント・タイプ:	チャンネル。
プラットフォーム:	すべて。クライアント接続では、このイベントは生成されません。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ReasonQualifier

説明: 理由コードを修飾する ID。
ID: MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型: MQCFIN
値: **MQRQ_CHANNEL_STOPPED_OK**
チャンネルは、0 の戻りコードか警告の戻りコードのいずれかを伴ってクローズされました。
MQRQ_CHANNEL_STOPPED_ERROR
チャンネルはクローズされましたが、エラーがレポートされ、チャンネルは停止状態または再試行状態ではありません。
MQRQ_CHANNEL_STOPPED_RETRY
チャンネルはクローズされ、再試行状態になっています。
MQRQ_CHANNEL_STOPPED_DISABLED
チャンネルはクローズされ、停止状態になっています。
戻り: 常時。

ChannelName

説明: チャンネル名。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST

最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ErrorIdentifier

説明: エラーの原因の ID。エラーのためにチャンネルが停止した場合、このコードによってエラーが識別されます。チャンネル停止障害が原因でイベント・メッセージが発行された場合には、次の各フィールドが設定されます。

1. *ReasonQualifier*。値として `MQRQ_CHANNEL_STOPPED_ERROR` が格納されます。
2. *ErrorIdentifier*。エラーの内容を説明するエラー・メッセージのコード番号が格納されます。
3. *AuxErrorDataInt1*。エラー・メッセージ整数挿入 1 が格納されます。
4. *AuxErrorDataInt2*。エラー・メッセージ整数挿入 2 が格納されます。
5. *AuxErrorDataStr1*。エラー・メッセージ・ストリング挿入 1 が格納されます。
6. *AuxErrorDataStr2*。エラー・メッセージ・ストリング挿入 2 が格納されます。
7. *AuxErrorDataStr3*。エラー・メッセージ・ストリング挿入 3 が格納されます。

エラー・メッセージ挿入の意味は、エラー・メッセージのコード番号によって異なります。特定のプラットフォームについてエラー・メッセージのコード番号および挿入の詳細を調べる方法は次のとおりです。

- ▶ **z/OS** z/OS の場合は、[分散キューイング・メッセージ・コード](#)を参照してください。

- ▶ **Multi** Multiplatforms の場合は、16 進表記で表示された *ErrorIdentifier* の末尾 4 桁が、エラー・メッセージの 10 進コード番号を示します。

例えば、*ErrorIdentifier* に `X'xxxxyyyy'` という値がある場合、そのエラーを説明するエラー・メッセージのメッセージ・コードは `AMQyyyy` です。これらのエラー・メッセージの説明については、[235 ページの『AMQ メッセージ \(Multiplatforms\)』](#)を参照してください。

ID: MQIACF_ERROR_IDENTIFIER
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

AuxErrorDataInt1

説明: チャンネル・エラーに関する補助エラー・データの最初の整数。エラーのためにチャンネルが停止した場合、このストリングは、エラーを規定する最初の整数パラメータです。この情報は、IBM サービス担当員のための情報です。このイベント・メッセージについて IBM に問題報告書を送信するときは、この情報を問題報告書に含めてください。

ID: MQIACF_AUX_ERROR_DATA_INT_1.
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

AuxErrorDataInt2

説明: チャンネル・エラーに関する補助エラー・データの 2 番目の整数。エラーのためにチャンネルが停止した場合、この整数は、エラーを規定する 2 番目の整数パラメータです。この情報は、IBM サービス担当員のための情報です。このイベント・メッセージについて IBM に問題報告書を送信するときは、この情報を問題報告書に含めてください。

ID: MQIACF_AUX_ERROR_DATA_INT_2.

データ型: MQCFIN

戻り: 常時。

AuxErrorDataStr1

説明: チャンネル・エラーに関する補助エラー・データの最初のストリング。エラーのためにチャンネルが停止した場合、このストリングは、エラーを規定する最初のストリング・パラメータです。この情報は、IBM サービス担当員のための情報です。このイベント・メッセージについて IBM に問題報告書を送信するときは、この情報を問題報告書に含めてください。

ID: MQCACF_AUX_ERROR_DATA_STR_1.

データ型: MQCFST

戻り: 常時。

AuxErrorDataStr2

説明: チャンネル・エラーに関する補助エラー・データの 2 番目のストリング。エラーのためにチャンネルが停止した場合、このストリングは、エラーを規定する 2 番目のストリング・パラメータです。この情報は、IBM サービス担当員のための情報です。このイベント・メッセージについて IBM に問題報告書を送信するときは、この情報を問題報告書に含めてください。

ID: MQCACF_AUX_ERROR_DATA_STR_2.

データ型: MQCFST

戻り: 常時。

AuxErrorDataStr3

説明: チャンネル・エラーに関する補助エラー・データの 3 番目のストリング。エラーのためにチャンネルが停止した場合、このストリングは、エラーを規定する 3 番目のストリング・パラメータです。この情報は、IBM サービス担当員のための情報です。このイベント・メッセージについて IBM に問題報告書を送信するときは、この情報を問題報告書に含めてください。

ID: MQCACF_AUX_ERROR_DATA_STR_3.

データ型: MQCFST

戻り: 常時。

XmitQName

説明: 伝送キュー名。

ID: MQCACH_XMIT_Q_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH.

戻り: 送信側、サーバー、クラスター送信側、およびクラスター受信側のチャンネルの場合のみ。

ConnectionName

説明: チャンネルが TCP 接続を正常に確立した場合、これは IP アドレスになります。それ以外は、チャンネル定義の *ConnectionName* フィールドの内容になります。

ID: MQCACH_CONNECTION_NAME

データ型: MQCFST または MQCFSL。

最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH

戻り: 総称名を含まないコマンドの場合のみ。

ユーザーによるチャンネル停止

イベント名: ユーザーによるチャンネル停止。

MQCFH 中の理由コード: 1230 ページの『2279 (08E7) (RC2279): MQRC_CHANNEL_STOPPED_BY_USER』.
ユーザーによりチャンネルが停止されました。

イベント記述: これは、ユーザーが STOP CHL コマンドを発行したときに発行されます。
ReasonQualifier によって停止の理由が識別されます。

イベント・タイプ: チャンネル。

プラットフォーム: すべて。

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。

ID: MQCA_Q_MGR_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

ReasonQualifier

説明: 理由コードを修飾する ID。

ID: MQIACF_REASON_QUALIFIER

データ型: MQCFIN

値: **MQRQ_CHANNEL_STOPPED_DISABLED**
チャンネルはクローズされ、停止状態になっています。

戻り: 常時。

ChannelName

説明: チャンネル名。

ID: MQCACH_CHANNEL_NAME

データ型: MQCFST
 最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
 戻り: 常時。

コマンド

イベント名:	コマンド。
MQCFH 中の理由コード:	1273 ページの『2412 (096C) (RC2412): MQRC_COMMAND_MQSC』. MQSC コマンドが正常に発行されました。または、 1273 ページの『2413 (096D) (RC2413): MQRC_COMMAND_PCF』. PCF コマンドが正常に発行されました。
イベント記述:	コマンドが正常に発行されました。
イベント・タイプ:	コマンド。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.COMMAND.EVENT.

イベント・データ

イベント・データは、*CommandContext* と *CommandData* の 2 つのグループから成ります。

CommandContext

説明: 発行されたコマンドのコンテキストに関連する要素を含む PCF グループ。

ID: MQGACF_COMMAND_CONTEXT.

データ型: MQCFGR

グループ内の PCF 要素:

- *EventUserId*
- *EventSecurityId*
- *EventOrigin*
- *EventQMgr*
- *EventAccountingToken*
- *EventIdentityData*
- *EventApplType*
- *EventApplName*
- *EventApplOrigin*
- コマンド

戻り: 常時。

EventUserId

説明: コマンドを発行したユーザー ID、またはイベントを生成した呼び出し。(これは、コマンドを発行する権限の検査に使用するものと同じユーザー ID です。キューから受け取ったコマンドの場合、これはコマンド・メッセージの MQMD からのユーザー ID (*UserIdentifier*) でもあります。)

ID: MQCACF_EVENT_USER_ID

データ型: MQCFST

最大長: MQ_USER_ID_LENGTH

戻り: 常時。

Windows *EventSecurityId*

説明: イベントを生成したコマンドまたは呼び出しを発行したセキュリティー ID (ユーザー ID の拡張番号)。
ID: MQBACF_EVENT_SECURITY_ID.
データ型: MQCFBS
最大長: MQ_SECURITY_ID_LENGTH
戻り: Windows のみ。

EventOrigin

説明: イベントを引き起こしたアクションの発信元。
ID: MQIACF_EVENT_ORIGIN
データ型: MQCFIN
値: **MQEVO_CONSOLE**
コンソール・コマンド。
MQEVO_INIT
初期設定入力データ・セット・コマンド。
MQEVO_MSG
SYSTEM.COMMAND.INPUT 上のコマンド・メッセージ。
MQEVO_INTERNAL
キュー・マネージャーによって直接。
MQEVO_OTHER
上記のいずれでもない。
戻り: 常時。

EventQMgr

説明: コマンドが入力されたキュー・マネージャー。(コマンドが実行されたキュー・マネージャー、およびイベントを生成したキュー・マネージャーは、イベント・メッセージの MQMD にあります)
ID: MQCACF_EVENT_Q_MGR
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

EventAccountingToken

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアカウントिंग・トークン (AccountingToken)。
ID: MQBACF_EVENT_ACCOUNTING_TOKEN
データ型: MQCFBS
最大長: MQ_ACCOUNTING_TOKEN_LENGTH
戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventIdentityData

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーション識別データ (ApplIdentityData)。
ID:	MQCACF_EVENT_APPL_IDENTITY
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_IDENTITY_DATA_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplType

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションのタイプ (PutApplType)。
ID:	MQIACF_EVENT_APPL_TYPE
データ型:	MQCFIN
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplName

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの名前 (PutApplName)。
ID:	MQCACF_EVENT_APPL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplOrigin

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの発信元データ (ApplOriginData)。
ID:	MQCACF_EVENT_APPL_ORIGIN
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_ORIGIN_DATA_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

Command

説明:	コマンド・コード。
ID:	MQIACF_COMMAND
データ型:	MQCFIN
値:	<ul style="list-style-type: none">・ イベントが PCF コマンドに関連している場合、値はコマンド・メッセージの MQCFH 構造にある Command パラメーターの値です。・ イベントが MQSC コマンドに関連している場合、値は以下のいずれかです。

MQCMD_ARCHIVE_LOG
ARCHIVE LOG

MQCMD_BACKUP_CF_STRUC
BACKUP CFSTRUCT

MQCMD_CHANGE_AUTH_INFO
ALTER AUTHINFO

MQCMD_CHANGE_BUFFER_POOL
ALTER BUFFPOOL

MQCMD_CHANGE_CF_STRUC
ALTER CFSTRUCT

MQCMD_CHANGE_CHANNEL
ALTER CHANNEL

MQCMD_CHANGE_COMM_INFO
ALTER COMMINFO

MQCMD_CHANGE_LISTENER
ALTER LISTENER

MQCMD_CHANGE_NAMELIST
ALTER NAMELIST

MQCMD_CHANGE_PAGE_SET
ALTER PSID

MQCMD_CHANGE_PROCESS
ALTER PROCESS

MQCMD_CHANGE_Q
ALTER QLOCAL/QREMOTE/QALIAS/QMODEL

MQCMD_CHANGE_Q_MGR
ALTER QMGR、 DEFINE MAXSMSGS

MQCMD_CHANGE_SECURITY
ALTER SECURITY

MQCMD_CHANGE_SERVICE
ALTER SERVICE

MQCMD_CHANGE_STG_CLASS
ALTER STGCLASS

MQCMD_CHANGE_SUBSCRIPTION
ALTER SUBSCRIPTION

MQCMD_CHANGE_TOPIC
ALTER TOPIC

MQCMD_CHANGE_TRACE
ALTER TRACE

MQCMD_CLEAR_Q
CLEAR QLOCAL

MQCMD_CLEAR_TOPIC_STRING
CLEAR TOPICSTR

MQCMD_CREATE_AUTH_INFO
DEFINE AUTHINFO

MQCMD_CREATE_BUFFER_POOL
DEFINE BUFFPOOL

MQCMD_CREATE_CF_STRUC
DEFINE CFSTRUCT

MQCMD_CREATE_CHANNEL
DEFINE CHANNEL

MQCMD_CREATE_COMM_INFO
DEFINE COMMINFO

MQCMD_CREATE_LISTENER
DEFINE LISTENER

MQCMD_CREATE_NAMELIST
DEFINE NAMELIST

MQCMD_CREATE_PAGE_SET
DEFINE PSID

MQCMD_CREATE_PROCESS
DEFINE PROCESS

MQCMD_CREATE_Q
DEFINE QLOCAL/QREMOTE/QALIAS/QMODEL

MQCMD_CREATE_SERVICE
DEFINE SERVICE

MQCMD_CREATE_STG_CLASS
DEFINE STGCLASS

MQCMD_CREATE_SUBSCRIPTION
DEFINE SUB

MQCMD_CREATE_TOPIC
DEFINE TOPIC

MQCMD_DELETE_AUTH_INFO
DELETE AUTHINFO

MQCMD_DELETE_CF_STRUC
DELETE CFSTRUCT

MQCMD_DELETE_CHANNEL
DELETE CHANNEL

MQCMD_DELETE_COMM_INFO
DELETE COMMINFO

MQCMD_DELETE_LISTENER
DELETE LISTENER

MQCMD_DELETE_NAMELIST
DELETE NAMELIST

MQCMD_DELETE_PAGE_SET
DELETE PSID

MQCMD_DELETE_PROCESS
DELETE PROCESS

MQCMD_DELETE_Q
DELETE QLOCAL/QREMOTE/QALIAS/QMODEL

MQCMD_DELETE_SERVICE
DELETE SERVICE

MQCMD_DELETE_STG_CLASS
DELETE STGCLASS

MQCMD_DELETE_SUBSCRIPTION
DELETE SUBSCRIPTION

MQCMD_DELETE_TOPIC
DELETE TOPIC

MQCMD_INQUIRE_ARCHIVE
DISPLAY ARCHIVE

MQCMD_INQUIRE_AUTH_INFO
DISPLAY AUTHINFO

MQCMD_INQUIRE_CF_STRUC
DISPLAY CFSTRUCT

MQCMD_INQUIRE_CF_STRUC_STATUS
DISPLAY CFSTATUS

MQCMD_INQUIRE_CHANNEL
DISPLAY CHANNEL

MQCMD_INQUIRE_CHANNEL_INIT
DISPLAY CHINIT

MQCMD_INQUIRE_CHANNEL_STATUS
DISPLAY CHSTATUS

MQCMD_INQUIRE_CHLAUTH_RECS
DISPLAY CHLAUTH

MQCMD_INQUIRE_CLUSTER_Q_MGR
DISPLAY CLUSQMGR

MQCMD_INQUIRE_CMD_SERVER
DISPLAY CMDSERV

MQCMD_INQUIRE_COMM_INFO
DISPLAY COMMINFO

MQCMD_INQUIRE_CONNECTION
DISPLAY CONN

MQCMD_INQUIRE_LISTENER
DISPLAY LISTENER

MQCMD_INQUIRE_LOG
DISPLAY LOG

MQCMD_INQUIRE_NAMELIST
DISPLAY NAMELIST

MQCMD_INQUIRE_PROCESS
DISPLAY PROCESS

MQCMD_INQUIRE_PUBSUB_STATUS
DISPLAY PUBSUB

MQCMD_INQUIRE_Q
DISPLAY QUEUE

MQCMD_INQUIRE_Q_MGR
DISPLAY QMGR、 DISPLAY MAXSMSGS

MQCMD_INQUIRE_QSG
DISPLAY GROUP

MQCMD_INQUIRE_Q_STATUS
DISPLAY QSTATUS

MQCMD_INQUIRE_SECURITY
DISPLAY SECURITY

MQCMD_INQUIRE_SERVICE
DISPLAY SERVICE

MQCMD_INQUIRE_STG_CLASS
DISPLAY STGCLASS

MQCMD_INQUIRE_SUBSCRIPTION
DISPLAY SUB

MQCMD_INQUIRE_SUB_STATUS
DISPLAY SBSTATUS

MQCMD_INQUIRE_SYSTEM
DISPLAY SYSTEM

MQCMD_INQUIRE_THREAD
DISPLAY THREAD

MQCMD_INQUIRE_TOPIC
DISPLAY TOPIC

MQCMD_INQUIRE_TOPIC_STATUS
DISPLAY TPSTATUS

MQCMD_INQUIRE_TRACE
DISPLAY TRACE

MQCMD_INQUIRE_USAGE
DISPLAY USAGE

MQCMD_MOVE_Q
MOVE QLOCAL

MQCMD_PING_CHANNEL
PING CHANNEL

MQCMD_RECOVER_BSDS
RECOVER BSDS

MQCMD_RECOVER_CF_STRUC
RECOVER CFSTRUCT

MQCMD_REFRESH_CLUSTER
REFRESH CLUSTER

MQCMD_REFRESH_Q_MGR
REFRESH QMGR

MQCMD_REFRESH_SECURITY
REFRESH SECURITY

MQCMD_RESET_CHANNEL
RESET CHANNEL

MQCMD_RESET_CLUSTER
RESET CLUSTER

MQCMD_RESET_Q_MGR
RESET QMGR

MQCMD_RESET_Q_STATS
RESET QSTATS

MQCMD_RESET_TPIPE
RESET TPIPE

MQCMD_RESOLVE_CHANNEL
RESOLVE CHANNEL

MQCMD_RESOLVE_INDOUBT
RESOLVE INDOUBT

MQCMD_RESUME_Q_MGR
RESUME QMGR (CLUSTER/CLUSNL 以外)

MQCMD_RESUME_Q_MGR_CLUSTER
RESUME QMGR CLUSTER/CLUSNL

MQCMD_REVERIFY_SECURITY
REVERIFY SECURITY

MQCMD_SET_ARCHIVE
SET ARCHIVE

MQCMD_SET_CHLAUTH_REC
SET CHLAUTH

MQCMD_SET_LOG
SET LOG

MQCMD_SET_SYSTEM
SET SYSTEM

MQCMD_START_CHANNEL
START CHANNEL

MQCMD_START_CHANNEL_INIT
START CHINIT

MQCMD_START_CHANNEL_LISTENER
START LISTENER

MQCMD_START_CMD_SERVER
START CMDSERV

MQCMD_START_SERVICE
START SERVICE

MQCMD_START_TRACE
START TRACE

MQCMD_STOP_CHANNEL
STOP CHANNEL

MQCMD_STOP_CHANNEL_INIT
STOP CHINIT

MQCMD_STOP_CHANNEL_LISTENER
STOP LISTENER

MQCMD_STOP_CMD_SERVER
STOP CMDSERV

MQCMD_STOP_CONNECTION
STOP CONN

MQCMD_STOP_SERVICE
STOP SERVICE

MQCMD_STOP_TRACE
STOP TRACE

MQCMD_SUSPEND_Q_MGR
SUSPEND QMGR (CLUSTER/CLUSNL 以外)

MQCMD_SUSPEND_Q_MGR_CLUSTER
SUSPEND QMGR CLUSTER/CLUSNL

戻り: 常時。

CommandData

説明: コマンド・データに関連する要素を含む PCF グループ。

ID: MQGACF_COMMAND_DATA

データ型: MQCFGR

グループ内の PCF 要素:

- MQSC コマンド用に生成された場合、このグループには PCF 要素 *CommandMQSC* のみが含まれます。
- PCF コマンド用に生成された場合、このグループには、コマンド・メッセージにあるとおりに、PCF コマンドを構成する PCF 要素が含まれます。

戻り: 常時。

CommandMQSC

説明: MQSC コマンドのテキスト。

ID: MQCACF_COMMAND_MQSC

データ型: MQCFST

最大長: MQ_COMMAND_MQSC_LENGTH

戻り: メッセージ記述子にある Reason が MQRC_COMMAND_MQSC である場合のみ。

オブジェクトの作成

イベント名: オブジェクトの作成。

MQCFH 中の理由コード: [1261](#) ページの『[2367 \(093F\) \(RC2367\): MQRC_CONFIG_CREATE_OBJECT](#)』. 新規オブジェクトが作成されました。

イベント記述: DEFINE または DEFINE REPLACE コマンドが発行され、新規オブジェクトが正常に作成されました。

イベント・タイプ: 構成。

プラットフォーム: すべて。

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.CONFIG.EVENT.

イベント・データ

EventUserId

説明: コマンドを発行したユーザー ID、またはイベントを生成した呼び出し。(これは、コマンドまたは呼び出しを発行する権限の検査に使用するものと同じユーザー ID です。キューから受け取ったコマンドの場合、これはコマンド・メッセージの MQMD からのユーザー ID (UserIdentifier) でもあります。)

ID: MQCACF_EVENT_USER_ID

データ型: MQCFST

最大長: MQ_USER_ID_LENGTH

戻り: 常時。

EventOrigin

説明:	イベントを引き起こしたアクションの発信元。
ID:	MQIACF_EVENT_ORIGIN
データ型:	MQCFIN
値:	MQEVO_CONSOLE コンソール・コマンド。 MQEVO_INIT 初期設定入力データ・セット・コマンド。 MQEVO_INTERNAL キュー・マネージャーによって直接。 MQEVO_MQSET MQSET 呼び出し。 MQEVO_MSG SYSTEM.COMMAND.INPUT 上のコマンド・メッセージ。 MQEVO_OTHER 上記のいずれでもない。
戻り:	常時。

EventQMGr

説明:	コマンドまたは呼び出しが入れられたキュー・マネージャー。(コマンドが実行されたキュー・マネージャー、およびイベントを生成したキュー・マネージャーは、イベント・メッセージの MQMD にあります。)
ID:	MQCACF_EVENT_Q_MGR
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

EventAccountingToken

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアカウントिंग・トークン (AccountingToken)。
ID:	MQBACF_EVENT_ACCOUNTING_TOKEN
データ型:	MQCFBS
最大長:	MQ_ACCOUNTING_TOKEN_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplIdentity

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーション識別データ (ApplIdentityData)。
ID:	MQCACF_EVENT_APPL_IDENTITY
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_IDENTITY_DATA_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplType

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションのタイプ (PutApplType)。

ID: MQIACF_EVENT_APPL_TYPE

データ型: MQCFIN

戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplName

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの名前 (PutApplName)。

ID: MQCACF_EVENT_APPL_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH

戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplOrigin

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの発信元データ (ApplOriginData)。

ID: MQCACF_EVENT_APPL_ORIGIN

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_ORIGIN_DATA_LENGTH

戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

ObjectType

説明: オブジェクト・タイプ:

ID: MQIACF_OBJECT_TYPE

データ型: MQCFIN

値:

MQOT_CHANNEL
チャンネル。

MQOT_CHLAUTH
チャンネル認証レコード

MQOT_NAMELIST
名前リスト。

MQOT_NONE
オブジェクトなし。

MQOT_PROCESS
プロセス。

MQOT_Q
キュー。

MQOT_STORAGE_CLASS
ストレージ・クラス。

MQOT_AUTH_INFO
認証情報

MQOT_CF_STRUC
CF 構造。

MQOT_TOPIC
トピック。

MQOT_COMM_INFO
通信情報。

MQOT_LISTENER
チャンネル・リスナー。

戻り: 常時。

ObjectName

説明: オブジェクト名。

ID: ID はオブジェクト・タイプに従ったものになります。

- MQCACH_CHANNEL_NAME
- MQCA_NAMELIST_NAME
- MQCA_PROCESS_NAME
- MQCA_Q_NAME
- MQCA_STORAGE_CLASS
- MQCA_AUTH_INFO_NAME
- MQCA_CF_STRUC_NAME
- MQCA_TOPIC_NAME
- MQCA_COMM_INFO_NAME
- MQCACH_LISTENER_NAME

注: MQCACH_CHANNEL_NAME は、チャンネル認証にも使用できます。

データ型: MQCFST

最大長: MQ_OBJECT_NAME_LENGTH

戻り: 常時

Disposition

説明:	オブジェクトの属性指定。
ID:	MQIA_QSG_DISP
データ型:	MQCFIN
値:	MQQSGD_Q_MGR オブジェクトはキュー・マネージャーのページ・セットにあります。 MQQSGD_SHARED オブジェクトは共有リポジトリ内にあり、メッセージがカップリング・ファシリティで共有されます。 MQQSGD_GROUP オブジェクトは共有リポジトリにあります。 MQQSGD_COPY オブジェクトはキュー・マネージャーのページ・セットにあり、GROUP オブジェクトのローカル・コピーです。
戻り:	常時。ただし CF 構造オブジェクトの場合を除く。

オブジェクトの属性

オブジェクトの属性ごとにパラメータ構造が戻されます。戻される属性はオブジェクト・タイプによって異なります。詳しくは、[74 ページの『イベント・データのオブジェクト属性』](#)を参照してください

デフォルト伝送キュー・タイプ・エラー

イベント名:	デフォルト伝送キュー・タイプ・エラー。
MQCFH 中の理由コード:	1204 ページの『2198 (0896) (RC2198): MQRC_DEF_XMIT_Q_TYPE_ERROR』 . デフォルト伝送キューはローカルではありません。
イベント記述:	リモート・キューを宛先に指定して、MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されました。リモート・キューのローカル定義が指定されたか、キュー・マネージャーの別名が解決される予定でしたが、いずれの場合でもローカル定義内の XmitQName 属性がブランクです。 宛先キュー・マネージャーと同じ名前でも伝送キューが定義されていないので、ローカル・キュー・マネージャーは、デフォルト伝送キューの使用を試みましたが、ただし、 DefXmitQName キュー・マネージャー属性で定義されたキューが存在しますが、ローカル・キューが存在しません。
イベント・タイプ:	リモート。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMGrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

QName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。

ID: MQCA_Q_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。

戻り: 常時。

XmitQName

説明: デフォルト伝送キュー名。

ID: MQCA_XMIT_Q_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。

戻り: 常時。

QType

説明: デフォルト伝送キューのタイプ。

ID: MQIA_Q_TYPE

データ型: MQCFIN

値: **MQQT_ALIAS**
別名キュー定義。
MQQT_REMOTE
リモート・キューのローカル定義。

戻り: 常時。

ApplType

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。

ID: MQIA_APPL_TYPE

データ型: MQCFIN

戻り: 常時。

ApplName

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。

ID: MQCACF_APPL_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

ObjectQMgrName

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。

ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) 内の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

ConnName

説明: クライアント接続の接続名。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明: クライアント接続のチャンネル名。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

関連タスク

[システム・オブジェクトの定義](#)

関連資料

[IBM MQ に用意されているサンプル定義](#)

[DefXmitQName \(MQCHAR48\)](#)

[DefXmitQName \(48 バイトの文字ストリング\)](#)

デフォルト伝送キュー使用エラー

イベント名:	デフォルト伝送キュー使用エラー。
MQCFH 中の理由コード:	1205 ページの『2199 (0897) (RC2199): MQRC_DEF_XMIT_Q_USAGE_ERROR』 . デフォルト伝送キュー使用エラー。
イベント記述:	<p>リモート・キューを宛先に指定して、MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されました。リモート・キューのローカル定義が指定されたか、キュー・マネージャーの別名が解決される予定でしたが、いずれの場合でもローカル定義内の XmitQName 属性がブランクです。</p> <p>宛先キュー・マネージャーと同じ名前で伝送キューが定義されていないので、ローカル・キュー・マネージャーは、デフォルト伝送キューの使用を試みしました。ただし、DefXmitQName キュー・マネージャー属性で定義されたキューには、MQUS_TRANSMISSION の Usage 属性はありません。</p>
イベント・タイプ:	リモート。
プラットフォーム:	すべて。

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

QName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID: MQCA_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

XmitQName

説明: デフォルト伝送キュー名。
ID: MQCA_XMIT_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

ApplType

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ObjectQMgrName

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。
ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME

データ型: MQCFST
 最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
 戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) 内の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

ConnName

説明: クライアント接続の接続名。
 ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
 データ型: MQCFST
 最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
 戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明: クライアント接続のチャンネル名。
 ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
 データ型: MQCFST
 最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
 戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

関連タスク

[システム・オブジェクトの定義](#)

関連資料

[IBM MQ に用意されているサンプル定義](#)

[DefXmitQName \(MQCHAR48\)](#)

[DefXmitQName \(48 バイトの文字ストリング\)](#)

Delete Authority Record

イベント名:	Delete Authority Record
MQCFH 中の理由コード:	1261 ページの『2369 (0941) (RC2369): MQRC_CONFIG_DELETE_OBJECT』. オブジェクトが削除されました。
イベント記述:	Delete Authority Record コマンドが発行されたか、オブジェクトが削除され、これにより権限レコードが正常に削除されました。
イベント・タイプ:	構成
プラットフォーム:	すべて、ただし z/OS を除く。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CONFIG.EVENT.

イベント・データ

EventQMgr

説明: コマンドまたは呼び出しが入れられたキュー・マネージャー。つまり、コマンドを処理してイベントを生成するキュー・マネージャーは、イベント・メッセージの MQMD にあります。

ID: MQCACF_EVENT_Q_MGR
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

EventUserId

説明: コマンドを発行したユーザー ID、またはイベントを生成した呼び出し。
これは、コマンドまたは呼び出しを発行する権限の検査に使われるのと同じユーザー ID です。キューから受け取ったコマンドの場合、これはコマンド・メッセージのメッセージ記述子からのユーザー ID (**UserIdentifier**) でもあります。

ID: MQCACF_EVENT_USER_ID
データ型: MQCFST
最大長: MQ_USER_ID_LENGTH
戻り: 常時。

EventOrigin

説明: イベントを引き起こしたアクションの発信元。

ID: MQIACF_EVENT_ORIGIN
データ型: MQCFIN
値: **MQEVO_CONSOLE**
コンソール・コマンド (`runmqsc` または `setmqaut`)
MQEVO_INTERNAL
キュー・マネージャーによって直接
MQEVO_MSG
SYSTEM.ADMIN.COMMAND.QUEUE でのコマンド・メッセージ

戻り: 常時

EventAccountingToken

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアカウントिंग・トークン (**AccountingToken**)。

ID: MQBACF_EVENT_ACCOUNTING_TOKEN
データ型: MQCFBS
最大長: MQ_ACCOUNTING_TOKEN_LENGTH
戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplIdentity

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアプリケーション識別データ (**ApplIdentityData**)。

ID: MQMQCACF_EVENT_APPL_IDENTITY
データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_IDENTITY_DATA_LENGTH
戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplType

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアプリケーション・タイプ (**PutApplType**)。
ID: MQIACF_EVENT_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
値:
戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplName

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアプリケーション名 (**PutApplName**)。
ID: MQCACF_EVENT_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplOrigin

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアプリケーション発信元データ (**ApplOriginData**)。
ID: MQCACF_EVENT_APPL_ORIGIN
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_ORIGIN_DATA_LENGTH
戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

ObjectType

説明: オブジェクト・タイプ
ID: MQIACF_OBJECT_TYPE
データ型: MQCFIN
値: MQOT_AUTH_REC
戻り: 常時

ProfileName

説明: オブジェクトまたは総称プロファイル名
ID: MQCACF_AUTH_PROFILE_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_AUTH_PROFILE_NAME_LENGTH
戻り: 常時

オブジェクトの属性

オブジェクトの属性ごとにパラメーター構造が戻されます。戻される属性はオブジェクト・タイプによって異なります。詳しくは、[74 ページの『イベント・データのオブジェクト属性』](#)を参照してください。

オブジェクトの削除

イベント名:	オブジェクトの削除。
MQCFH 中の理由コード:	1261 ページの『2369 (0941) (RC2369): MQRC CONFIG_DELETE_OBJECT』 . オブジェクトが削除されました。
イベント記述:	DELETE コマンドまたは MQCLOSE 呼び出しが発行され、オブジェクトが正常に削除されました。
イベント・タイプ:	構成。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CONFIG.EVENT.

イベント・データ

EventUserId

説明:	コマンドを発行したユーザー ID、またはイベントを生成した呼び出し。(これは、コマンドまたは呼び出しを発行する権限の検査に使用するものと同じユーザー ID です。キューから受け取ったコマンドの場合、これはコマンド・メッセージの MQMD からのユーザー ID (UserIdentifier) でもあります。)
ID:	MQCACF_EVENT_USER_ID
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_USER_ID_LENGTH
戻り:	常時。

EventOrigin

説明:	イベントを引き起こしたアクションの発信元。
ID:	MQIACF_EVENT_ORIGIN
データ型:	MQCFIN
値:	MQEVO_CONSOLE コンソール・コマンド。 MQEVO_INIT 初期設定入力データ・セット・コマンド。 MQEVO_INTERNAL キュー・マネージャーによって直接。 MQEVO_MSG SYSTEM.COMMAND.INPUT 上のコマンド・メッセージ。 MQEVO_OTHER 上記のいずれでもない。
戻り:	常時。

EventQMGr

説明: コマンドまたは呼び出しが入れられたキュー・マネージャー。(コマンドが実行されたキュー・マネージャー、およびイベントを生成したキュー・マネージャーは、イベント・メッセージの MQMD にあります。)

ID: MQCACF_EVENT_Q_MGR

データ型: MQCFST

最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

EventAccountingToken

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアカウントिंग・トークン (AccountingToken)。

ID: MQBACF_EVENT_ACCOUNTING_TOKEN

データ型: MQCFBS

最大長: MQ_ACCOUNTING_TOKEN_LENGTH

戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplIdentity

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーション識別データ (ApplIdentityData)。

ID: MQCACF_EVENT_APPL_IDENTITY

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_IDENTITY_DATA_LENGTH

戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplType

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションのタイプ (PutApplType)。

ID: MQIACF_EVENT_APPL_TYPE

データ型: MQCFIN

戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplName

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの名前 (PutApplName)。

ID: MQCACF_EVENT_APPL_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH

戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplOrigin

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの発信元データ (ApplOriginData)。

ID: MQCACF_EVENT_APPL_ORIGIN
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_ORIGIN_DATA_LENGTH
戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

ObjectType

説明: オブジェクト・タイプ:
ID: MQIACF_OBJECT_TYPE
データ型: MQCFIN
値: **MQOT_CHANNEL**
チャンネル。
MQOT_CHLAUTH
チャンネル認証レコード
MQOT_NAMELIST
名前リスト。
MQOT_NONE
オブジェクトなし。
MQOT_PROCESS
プロセス。
MQOT_Q
キュー。
MQOT_STORAGE_CLASS
ストレージ・クラス。
MQOT_AUTH_INFO
認証情報
MQOT_CF_STRUC
CF 構造。
MQOT_TOPIC
トピック。
MQOT_COMM_INFO
通信情報。
MQOT_LISTENER
チャンネル・リスナー。
戻り: 常時。

ObjectName

説明: オブジェクト名。

ID: ID はオブジェクト・タイプに従ったものになります。

- MQCACH_CHANNEL_NAME
- MQCA_NAMELIST_NAME
- MQCA_PROCESS_NAME
- MQCA_Q_NAME
- MQCA_STORAGE_CLASS
- MQCA_AUTH_INFO_NAME
- MQCA_CF_STRUC_NAME
- MQCA_TOPIC_NAME
- MQCA_COMM_INFO_NAME
- MQCACH_LISTENER_NAME

注: MQCACH_CHANNEL_NAME は、チャンネル認証にも使用できます。

データ型: MQCFST

最大長: MQ_OBJECT_NAME_LENGTH

戻り: 常時

Disposition

説明: オブジェクトの属性指定。

ID: MQIA_QSG_DISP

データ型: MQCFIN

値: **MQQSGD_Q_MGR**
オブジェクトはキュー・マネージャーのページ・セットにあります。

MQQSGD_SHARED
オブジェクトは共有リポジトリ内にあり、メッセージがカップリング・ファシリティで共有されます。

MQQSGD_GROUP
オブジェクトは共有リポジトリにあります。

MQQSGD_COPY
オブジェクトはキュー・マネージャーのページ・セットにあり、GROUP オブジェクトのローカル・コピーです。

戻り: 常時。ただし CF 構造オブジェクトの場合を除く。

オブジェクトの属性

オブジェクトの属性ごとにパラメータ構造が戻されます。戻される属性はオブジェクト・タイプによって異なります。詳しくは、[74 ページの『イベント・データのオブジェクト属性』](#)を参照してください。

読み取り禁止

イベント名: 読み取り禁止。

MQCFH 中の理由コード: [1134 ページの『2016 \(07E0\) \(RC2016\): MQRC_GET_INHIBITED』](#).
このキューに関して読み取りが禁止されています。

イベント記述: キューに対する MQGET 呼び出し (**InhibitGet** キュー属性については **InhibitGet (MQLONG)** を参照)、またはこのキューが解決されるキューに対する MQGET 呼び出しが現在禁止されています。

イベント・タイプ:	禁止。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

QName

説明:	オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID:	MQCA_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り:	常時。

ApplType

説明:	読み取りを発行したアプリケーションのタイプ。
ID:	MQIA_APPL_TYPE
データ型:	MQCFIN
戻り:	常時。

ApplName

説明:	読み取りを発行したアプリケーションの名前。
ID:	MQCACF_APPL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

ConnName

説明:	クライアント接続の接続名。
ID:	MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明:	クライアント接続のチャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

関連タスク

[キュー属性の設定](#)

関連資料

IBM i InhibitGet (10 桁の符号付き整数)

ロガー

イベント名:	ロガー。
MQCFH 中の理由コード:	1273 ページの『2411 (096B) (RC2411): MQRC_LOGGER_STATUS』 . 新しいログ・エクステン트가開始されました。
イベント記述:	キュー・マネージャーが新しいログ・エクステン트 IBM i (または IBM i の場合は新しいジャーナル・レシーバー) に対して書き込みを開始したときに発行されます。
イベント・タイプ:	ロガー。
プラットフォーム:	すべて。ただし IBM MQ for z/OS を除く。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.LOGGER.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

CurrentLogExtent

説明:	イベント・メッセージが生成されたときのログ・エクステン트名 IBM i (または、IBM i の場合は書き込みが行われているジャーナル・レシーバー)。
ID:	MQCACF_CURRENT_LOG_EXTENT_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_LOG_EXTENT_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

RestartRecoveryLogExtent

説明:	最も古いログ・エクステンツの名前 IBM i (または、IBM i の場合は最も古いジャーナル・レシーバー)。再始動リカバリーを実行するためにキュー・マネージャーが必要となります。
ID:	MQCACF_RESTART_LOG_EXTENT_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_LOG_EXTENT_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

MediaRecoveryLogExtent

説明:	最も古いログ・エクステンツの名前 IBM i (または、IBM i の場合は最も古いジャーナル・レシーバー)。メディア・リカバリーを実行するためにキュー・マネージャーが必要となります。
ID:	MQCACF_MEDIA_LOG_EXTENT_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_LOG_EXTENT_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

LogPath

説明:	キュー・マネージャーによってログ・ファイルが作成されるディレクトリー。
ID:	MQCACF_LOG_PATH
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_LOG_PATH_LENGTH
戻り:	常時。

非許可 (タイプ 1)

イベント名:	非許可 (タイプ 1)。
MQCFH 中の理由コード:	1142 ページの『2035 (07F3) (RC2035): MQRC_NOT_AUTHORIZED』 . アクセスが許可されません。
イベント記述:	MQCONN 呼び出しましたまたはシステム接続呼び出しで、ユーザーはキュー・マネージャーへの接続を許可されていません。ReasonQualifier はエラーの性質を示します。
イベント・タイプ:	権限。
プラットフォーム:	すべて。ただし IBM MQ for z/OS を除く。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME

データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ReasonQualifier

説明: タイプ 1 権限イベントの ID。
ID: MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型: MQCFIN
値: **MQRQ_CONN_NOT_AUTHORIZED**
接続が許可されません。
MQRQ_SYS_CONN_NOT_AUTHORIZED
システム権限がありません。
MQRQ_CSP_NOT_AUTHORIZED
MQCSP 認証資格情報が許可されていません。
戻り: 常時。

UserIdentifier

説明: 許可検査を引き起こしたユーザー ID。
ID: MQCACF_USER_IDENTIFIER
データ型: MQCFST
最大長: MQ_USER_ID_LENGTH
戻り: 常時。

ApplType

説明: このイベントを引き起こしたアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: このイベントを引き起こしたアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ConnName

説明: クライアント接続の接続名。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH

戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明: クライアント接続のチャンネル名。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

CSPUserIdentifier

説明: 接続セキュリティー・パラメーター (MQCSP) 構造からのユーザー ID。
V9.4.0 認証トークンが MQCSP 構造で指定されている場合、このパラメーターの値は *TOKEN です。
ID: MQCACF_CSP_USER_IDENTIFIER.
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CLIENT_USER_ID_LENGTH
戻り: イベントの原因となった MQI 呼び出しを行うアプリケーションが、MQCSP 構造でユーザー ID または認証トークンを提供した場合。

非許可 (タイプ 2)

イベント名:	非許可 (タイプ 2)。
MQCFH 中の理由コード:	<u>1142 ページの『2035 (07F3) (RC2035): MQRC_NOT_AUTHORIZED』</u> . アクセスが許可されません。
イベント記述:	MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、ユーザーは、指定したオプションのオブジェクトをオープンすることを許可されません。
イベント・タイプ:	権限。
プラットフォーム:	すべて。ただし IBM MQ for z/OS を除く。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ReasonQualifier

説明: タイプ 2 権限イベントの ID。

ID: MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型: MQCFIN
値: MQRQ_OPEN_NOT_AUTHORIZED オープンを許可されません。
戻り: 常時。

Options

説明: MQOPEN 呼び出しで指定したオプション。
ID: MQIACF_OPEN_OPTIONS
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

UserIdentifier

説明: 許可検査を引き起こしたユーザー ID。
ID: MQCACF_USER_IDENTIFIER
データ型: MQCFST
最大長: MQ_USER_ID_LENGTH
戻り: 常時。

ApplType

説明: 許可検査を引き起こしたアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: 許可検査を引き起こしたアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ObjectQMgrName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくオブジェクト・キュー・マネージャーの名前。
ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) の *ObjectQMgrName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

QName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。

ID: MQCA_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: オープンされているオブジェクトがキュー・オブジェクトである場合。

ProcessName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくプロセス・オブジェクト名。
ID: MQCA_PROCESS_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_PROCESS_NAME_LENGTH
戻り: オープンしているオブジェクトが、プロセス・オブジェクトである場合。

TopicString

説明: サブスクライブされた、またはオープンされたトピック・ストリング。
ID: MQCA_TOPIC_STRING
データ型: MQCFST
最大長: MQ_TOPIC_STR_LENGTH
戻り: オープンされているオブジェクトがトピック・オブジェクトである場合。

AdminTopicNames

説明: 権限が確認されたトピック管理オブジェクトのリスト。
ID: MQCA_ADMIN_TOPIC_NAME
データ型: MQCFSL
最大長: MQ_TOPIC_NAME_LENGTH
戻り: オープンされているオブジェクトがトピック・オブジェクトである場合。

ObjectType

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくオブジェクト・タイプ。
ID: MQIACF_OBJECT_TYPE
データ型: MQCFIN
値: MQOT_NAMELIST 名前リスト。
MQOT_PROCESS プロセス。
MQOT_Q キュー。
MQOT_Q_MGR キュー・マネージャー。
MQOT_TOPIC トピック。
戻り: 常時。

NameListName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID: MQCA_NAMELIST_NAME
データ型: MQCFST

最大長: MQ_NAMELIST_NAME_LENGTH
戻り: オープンされているオブジェクトが名前リスト・オブジェクトである場合。

ConnName

説明: クライアント接続の接続名。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明: クライアント接続のチャンネル名。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

非許可 (タイプ 3)

イベント名: 非許可 (タイプ 3)。

MQCFH 中の理由コード: [1142 ページの『2035 \(07F3\) \(RC2035\): MQRC_NOT_AUTHORIZED』](#).
アクセスが許可されません。

イベント記述: MQCLOSE 呼び出しを使用してキューをクローズするとき、ユーザーは、オブジェクトの削除を許可されません。そのオブジェクトは永続動的キューであり、MQCLOSE 呼び出しで指定された **Hobj** パラメーターは、そのキューを作成した MQOPEN 呼び出しによって返されたハンドルではありません。

MQCLOSE 呼び出しを使用してサブスクリプションをクローズするとき、ユーザーは MQCO_REMOVE_SUB オプションを使用してサブスクリプションを削除するように要求しましたが、ユーザーはサブスクリプションの作成者でないか、またはユーザーに、サブスクリプションに関連付けられたトピックに対する *sub* 権限がありません。

イベント・タイプ: 権限。

プラットフォーム: すべて。ただし IBM MQ for z/OS を除く。

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

ReasonQualifier

説明: タイプ 3 権限イベントの ID。
ID: MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型: MQCFIN
値: **MQRQ_CLOSE_NOT_AUTHORIZED**
クローズを許可されません。
戻り: 常時。

UserIdentifier

説明: 許可検査を引き起こしたユーザー ID
ID: MQCACF_USER_IDENTIFIER
データ型: MQCFST
最大長: MQ_USER_ID_LENGTH
戻り: 常時。

ApplType

説明: 許可検査を引き起こしたアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: 許可検査を引き起こしたアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

QName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID: MQCA_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: クローズされるハンドルがキューに対してのものである場合

SubName

説明: 除去されるサブスクリプションの名前。
ID: MQCACF_SUB_NAME
データ型: MQCFST

最大長: MQ_SUB_NAME_LENGTH
戻り: クローズされるハンドルがサブスクリプションに対してのものである場合。

TopicString

説明: サブスクリプションのトピック・ストリング。
ID: MQCA_TOPIC_STRING
データ型: MQCFST
最大長: MQ_TOPIC_STR_LENGTH
戻り: クローズされるハンドルがサブスクリプションに対してのものである場合。

AdminTopicNames

説明: 権限が確認されたトピック管理オブジェクトのリスト。
ID: MQCACF_ADMIN_TOPIC_NAMES.
データ型: MQCFSL
最大長: MQ_TOPIC_NAME_LENGTH
戻り: クローズされるハンドルがサブスクリプションに対してのものである場合。

ConnName

説明: クライアント接続の接続名。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明: クライアント接続のチャンネル名。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

非許可 (タイプ 4)

イベント名:	非許可 (タイプ 4)。
MQCFH 中の理由コード:	1142 ページの『2035 (07F3) (RC2035): MQRC_NOT_AUTHORIZED』 . アクセスが許可されません。
イベント記述:	コマンドに指定したオブジェクトにアクセスすることを許可されないユーザー ID でコマンドが実行されたことを示しています。
イベント・タイプ:	権限。
プラットフォーム:	すべて。ただし IBM MQ for z/OS を除く。

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ReasonQualifier

説明: タイプ 4 権限イベントの ID。
ID: MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型: MQCFIN
値: **MQRQ_CMD_NOT_AUTHORIZED**
コマンドが許可されません。
戻り: 常時。

Command

説明: コマンド ID。 [127 ページの『イベント・メッセージ MQCFH \(PCF ヘッダー\)』](#)で説明している MQCFH ヘッダー構造を参照してください。
ID: MQIACF_COMMAND
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

UserIdentifier

説明: 許可検査を引き起こしたユーザー ID。
ID: MQCACF_USER_IDENTIFIER
データ型: MQCFST
最大長: MQ_USER_ID_LENGTH
戻り: 常時。

不許可 (タイプ 5)

イベント名:	不許可 (タイプ 5)。
MQCFH 中の理由コード:	1142 ページの『2035 (07F3) (RC2035): MQRC_NOT_AUTHORIZED』 . アクセスが許可されません。
イベント記述:	MQSUB 呼び出しで、ユーザーは、指定したトピックをサブスクライブすることを許可されていません。
イベント・タイプ:	権限。
プラットフォーム:	すべて。ただし IBM MQ for z/OS を除く。

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ReasonQualifier

説明: タイプ 5 権限イベントの ID。
ID: MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型: MQCFIN
値: **MQRQ_SUB_NOT_AUTHORIZED**
サブスクライブが許可されていません。
戻り: 常時。

Options

説明: MQSUB 呼び出しで指定されたオプション。
ID: MQIACF_SUB_OPTIONS
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

UserIdentifier

説明: 許可検査を引き起こしたユーザー ID。
ID: MQCACF_USER_IDENTIFIER
データ型: MQCFST
最大長: MQ_USER_ID_LENGTH
戻り: 常時。

ApplType

説明: 許可検査を引き起こしたアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: 許可検査を引き起こしたアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

TopicString

説明: オープンされたストリング、またはサブスクライブされたストリング。
ID: MQCA_TOPIC_STRING
データ型: MQCFST
最大長: MQ_TOPIC_STR_LENGTH
戻り: 常時。

AdminTopicNames

説明: 権限が確認されたトピック管理オブジェクトのリスト。
ID: MQCACF_ADMIN_TOPIC_NAMES.
データ型: MQCFSL
ストリング・リスト
の各メンバーの最
大長: MQ_TOPIC_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ConnName

説明: クライアント接続の接続名。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明: クライアント接続のチャンネル名。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

不許可 (タイプ 6)

イベント名: 不許可 (タイプ 6)。

MQCFH 中の理由コード: [1142 ページの『2035 \(07F3\) \(RC2035\): MQRC_NOT_AUTHORIZED』](#).
アクセスが許可されません。

イベント記述: MQSUB 呼び出しで、ユーザーは、必要なアクセス・レベルで宛先キューを使用することを許可されていません。このイベントが返されるのは、管理対象ではない宛先キューを使用したサブスクリプションの場合のみです。

サブスクリプションを作成、変更、または再開しているとき、宛先キューに対するハンドルが要求で提供されている場合、ユーザーは指定された宛先キューに対する PUT 権限を持っていません。

サブスクリプションを再開または変更しているとき、宛先キューに対するハンドルが MQSUB 呼び出しで戻される場合、ユーザーは宛先キューに対する PUT、GET および BROWSE 権限を持っていません。

イベント・タイプ:	権限。
プラットフォーム:	すべて。ただし IBM MQ for z/OS を除く。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。

ID: MQCA_Q_MGR_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

ReasonQualifier

説明: タイプ 6 権限イベントの ID。

ID: MQIACF_REASON_QUALIFIER

データ型: MQCFIN

値: **MQRQ_SUB_DEST_NOT_AUTHORIZED**
サブスクリプション宛先キューの使用は許可されていません。

戻り: 常時。

Options

説明: MQSUB 呼び出しで指定されたオプション。

ID: MQIACF_SUB_OPTIONS

データ型: MQCFIN

戻り: 常時。

UserIdentifier

説明: 許可検査を引き起こしたユーザー ID。

ID: MQCACF_USER_IDENTIFIER

データ型: MQCFST

最大長: MQ_USER_ID_LENGTH

戻り: 常時。

ApplType

説明: 許可検査を引き起こしたアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: 許可検査を引き起こしたアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

TopicString

説明: サブスクライブされたトピック・ストリング。
ID: MQCA_TOPIC_STRING
データ型: MQCFST
最大長: MQ_TOPIC_STR_LENGTH
戻り: 常時。

DestQMgrName

説明: サブスクリプションの宛先キューのホスティング・キュー・マネージャー名。
ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 宛先キューをホスティングするキュー・マネージャーが、アプリケーションが現在接続している キュー・マネージャーでない場合。

DestQName

説明: サブスクリプションの宛先キューの名前。
ID: MQCA_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

DestOpenOptions

説明: 宛先キューについて要求されたオープン・オプション。
ID: MQIACF_OPEN_OPTIONS
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ConnName

説明:	クライアント接続の接続名。
ID:	MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明:	クライアント接続のチャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

書き込み禁止

イベント名:	書き込み禁止。
MQCFH 中の理由コード:	1151 ページの『2051 (0803) (RC2051): MQRC_PUT_INHIBITED』 . このキューまたはトピックに関して書き込みの呼び出しが禁止されています。
イベント記述:	キューまたはトピックに対する MQPUT 呼び出しおよび MQPUT1 呼び出しは、現在禁止されています (このキューが解決されるキューについては、 InhibitPut (MQLONG) の InhibitPut キュー属性、または 116 ページの『トピック属性』 の InhibitPublications トピック属性を参照してください)。
イベント・タイプ:	禁止。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

QName

説明:	オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID:	MQCA_Q_NAME
データ型:	MQCFST

最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: オープンされているオブジェクトがキュー・オブジェクトである場合。

ApplType

説明: 書き込みを発行したアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: 書き込みを発行したアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ObjectQMgrName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: このパラメーターの値が *QMgrName* の値と異なる場合のみ。これは、アプリケーションで MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しを発行するときに指定したオブジェクト記述子の *ObjectQMgrName* フィールドが、空白ではなく、またそのアプリケーションの ローカル・キュー・マネージャーの名前でもない場合です。ただし、オブジェクト記述子の *ObjectQMgrName* が空白であっても、ネーム・サービスから渡されたキュー・マネージャー名が、アプリケーションのローカル・キュー・マネージャーの名前でなければ、これと同じことが発生します。

TopicString

説明: オープンしているトピック・ストリング
ID: MQCA_TOPIC_STRING
データ型: MQCFST
最大長: MQ_TOPIC_STR_LENGTH
戻り: オープンしているオブジェクトがトピックである場合。

ConnName

説明: クライアント接続の接続名。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH

戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明: クライアント接続のチャンネル名。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

関連資料

 [InhibitPut \(10 桁の符号付き整数\)](#)

[Inquire Queue \(応答\)](#)

[Inquire Topic \(応答\)](#)

[Inquire Topic Status \(応答\)](#)

[Change Topic、Copy Topic、および Create Topic](#)

キュー・サイズ上限

イベント名:	キュー・サイズ上限。
MQCFH 中の理由コード:	1211 ページの『2224 (08B0) (RC2224): MQRC Q_DEPTH_HIGH』 . キュー・サイズ上限に到達したか、それを超えました。
イベント記述:	MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが原因で、キュー・サイズは、 QDepthHighLimit 属性で指定した限度まで増加したか、その限度を超えました。
イベント・タイプ:	パフォーマンス。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.PERFM.EVENT.

注:

1. IBM MQ for z/OS は、共有キュー上のキュー・サイズ・イベントをサポートしています。共有キュー上でキュー・マネージャーによるアクティビティが実行されなかった場合に、その共有キューに関する NULL イベント・メッセージを受け取ることがあります。
2. 共有キューの場合、メッセージ記述子 (MQMD) 中で関連 ID の *CorrelId* が設定されます。詳細については、[122 ページの『イベント・メッセージ MQMD \(メッセージ記述子\)』](#)を参照してください。

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

QName

説明: 限度に達したキューの名前。
ID: MQCA_BASE_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

TimeSinceReset

説明: 統計が最後にリセットされてからの秒単位の時間。このタイマーで記録された値は、キュー・サービス間隔イベントの間隔の時間としても使用されます。
ID: MQIA_TIME_SINCE_RESET
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

HighQDepth

説明: キュー統計が最後にリセットされてからのキュー上のメッセージの最大数。
ID: MQIA_HIGH_Q_DEPTH
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

MsgEnqCount

説明: キューに入れられたメッセージの数。これは、キュー統計が最後にリセットされてからキューに書き込まれたメッセージの数です。
ID: MQIA_MSG_ENQ_COUNT
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

MsgDeqCount

説明: キュー統計が最後にリセットされてからキューから取り出されたメッセージの数。
ID: MQIA_MSG_DEQ_COUNT
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

キュー・サイズ下限

イベント名:	キュー・サイズ下限。
MQCFH 中の理由コード:	<u>1211 ページの『2225 (08B1) (RC2225): MQRC_Q_DEPTH_LOW』</u> 。 キュー・サイズ下限に到達したか、それを超えました。
イベント記述:	取得操作が原因で、キュー・サイズが、 QDepthLowLimit 属性で指定された限度まで減少したか、その限度を下回りました。
イベント・タイプ:	パフォーマンス。

プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.PERFM.EVENT.

注:

1. IBM MQ for z/OS は、共有キュー上のキュー・サイズ・イベントをサポートしています。共有キュー上でキュー・マネージャーによるアクティビティが実行されなかった場合に、その共有キューに関する NULL イベント・メッセージを受け取ることがあります。
2. 共有キューの場合、メッセージ記述子 (MQMD) 中で関連 ID の *CorrelId* が設定されます。詳細については、[122 ページの『イベント・メッセージ MQMD \(メッセージ記述子\)』](#)を参照してください。

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

QName

説明:	限度に達したキューの名前。
ID:	MQCA_BASE_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り:	常時。

TimeSinceReset

説明:	統計が最後にリセットされてからの秒単位の時間。このタイマーで記録された値は、キュー・サービス間隔イベントの間隔の時間としても使用されます。
ID:	MQIA_TIME_SINCE_RESET
データ型:	MQCFIN
戻り:	常時。

HighQDepth

説明:	キュー統計が最後にリセットされてからのキュー上のメッセージの最大数。
ID:	MQIA_HIGH_Q_DEPTH
データ型:	MQCFIN
戻り:	常時。

MsgEnqCount

説明:	キューに入れられたメッセージの数。これは、キュー統計が最後にリセットされてからキューに書き込まれたメッセージの数です。
ID:	MQIA_MSG_ENQ_COUNT
データ型:	MQCFIN

戻り: 常時。

MsgDeqCount

説明: キュー統計が最後にリセットされてからキューから取り出されたメッセージの数。

ID: MQIA_MSG_DEQ_COUNT

データ型: MQCFIN

戻り: 常時。

キュー満杯

イベント名: キュー満杯。

MQCFH 中の理由コード: [1152 ページの『2053 \(0805\) \(RC2053\): MQRC_Q_FULL』](#)。
キューには、既に最大数のメッセージが入っています。

イベント記述: キューが満杯であるため、MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが失敗しました。つまり、キューに入れることのできる最大数のメッセージが、既にキューに入っています (*MaxQDepth* ローカル・キュー属性を参照してください)。

イベント・タイプ: パフォーマンス。

プラットフォーム: すべて。

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.PERFM.EVENT.

注:

1. IBM MQ for z/OS は、共有キュー上のキュー・サイズ・イベントをサポートしています。共有キュー上でキュー・マネージャーによるアクティビティが実行されなかった場合に、その共有キューに関する NULL イベント・メッセージを受け取ることがあります。
2. 共有キューの場合、メッセージ記述子 (MQMD) 中で関連 ID の *CorrelId* が設定されます。詳細については、[122 ページの『イベント・メッセージ MQMD \(メッセージ記述子\)』](#)を参照してください。

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。

ID: MQCA_Q_MGR_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

QName

説明: 書き込みが拒否されたキューの名前。

ID: MQCA_BASE_Q_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。

戻り: 常時。

TimeSinceReset

説明: 統計が最後にリセットされてからの秒単位の時間。
ID: MQIA_TIME_SINCE_RESET
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

HighQDepth

説明: キュー上のメッセージの最大数。
ID: MQIA_HIGH_Q_DEPTH
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

MsgEnqCount

説明: キューに入れられたメッセージの数。これは、キュー統計が最後にリセットされてからキューに書き込まれたメッセージの数です。
ID: MQIA_MSG_ENQ_COUNT
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

MsgDeqCount

説明: キュー統計が最後にリセットされてからキューから取り出されたメッセージの数。
ID: MQIA_MSG_DEQ_COUNT
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

キュー・マネージャーがアクティブ

イベント名:	キュー・マネージャーがアクティブ
MQCFH 中の理由コード:	<u>1210</u> ページの『 <u>2222 (08AE) (RC2222): MQRC_Q_MGR_ACTIVE</u> 』. キュー・マネージャーがアクティブです。
イベント記述:	キュー・マネージャーがアクティブになると、この状況が検出されます。
イベント・タイプ:	開始および停止。
プラットフォーム:	すべて。ただし、IBM MQ for z/OS キュー・マネージャーの初回始動時は除く。 2 回目以降の再始動時にのみ作成される。 <i>ReasonQualifier</i> および <i>HostName</i> フィールドは、複数インスタンスの可用性をサポートするプラットフォームにのみ適用される (つまり非 z/OS)
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。

ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ReasonQualifier

説明: この理由コードの原因の ID。これは、発生している始動の種類を指定する。

ID: MQIACF_REASON_QUALIFIER

データ型: MQCFIN

値: **MQRQ_FAILOVER_PERMITTED**

キュー・マネージャーは既に正常に始動し、スタンバイ・インスタンスを許可します。

MQRQ_FAILOVER_NOT_PERMITTED

キュー・マネージャーは正常に始動済みですが、スタンバイ・インスタンスを許可しません。

MQRQ_STANDBY_ACTIVATED

キュー・マネージャーが既に待機モードからアクティブ・モードに移行しました。

MQRQ_REPLICA_ACTIVATED

Native HA キュー・マネージャーのレプリカ・インスタンスはアクティブ・モードに移行しました。

戻り: 常時。

HostName

説明: キュー・マネージャーが実行されているマシンのホスト名。

ID: MQCACF_HOST_NAME

データ型: MQCFST

戻り: 常時。

キュー・マネージャーが非アクティブ

イベント名: キュー・マネージャーが非アクティブ。

MQCFH 中の理由コード: [1211](#) ページの『[2223 \(08AF\) \(RC2223\): MQRC Q_MGR_NOT_ACTIVE](#)』。
キュー・マネージャーは利用できません。

イベント記述: キュー・マネージャーの停止または静止を要求すると、この状況が検出されません。

イベント・タイプ: 開始および停止。

プラットフォーム: すべて。ただし IBM MQ for z/OS を除く。

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

ReasonQualifier

説明:	この理由コードの原因の ID。これは、要求された停止のタイプを指定します。
ID:	MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型:	MQCFIN
値:	MQRQ_Q_MGR_STOPPING キュー・マネージャーが停止中です。 MQRQ_Q_MGR QUIESCING キュー・マネージャーが静止しています。
戻り:	常時。

キュー・サービス間隔上限

イベント名:	キュー・サービス間隔上限。
MQCFH 中の理由コード:	<u>1212 ページの『2226 (08B2) (RC2226): MQRC_Q_SERVICE_INTERVAL_HIGH』</u> 。 キュー・サービス間隔上限。
イベント記述:	QServiceInterval 属性に指定された限度を超える間隔内で、正常に終了した取得操作または MQPUT 呼び出しが検出されていません。
イベント・タイプ:	パフォーマンス。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.PERFM.EVENT.

注: IBM MQ for z/OS は、共有キュー上のサービス間隔イベントをサポートしていません。

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

QName

説明:	このキュー・サービス間隔上限イベントが生成される原因となったコマンドで指定しているキューの名前。
-----	--

ID: MQCA_BASE_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

TimeSinceReset

説明: 統計が最後にリセットされてからの秒単位の時間。 サービス間隔上限イベントの場合、この値は、サービス間隔より大きい値になります。
ID: MQIA_TIME_SINCE_RESET
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

HighQDepth

説明: キュー統計が最後にリセットされてからのキュー上のメッセージの最大数。
ID: MQIA_HIGH_Q_DEPTH
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

MsgEnqCount

説明: キューに入れられたメッセージの数。 これは、キュー統計が最後にリセットされてからキューに書き込まれたメッセージの数です。
ID: MQIA_MSG_ENQ_COUNT
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

MsgDeqCount

説明: キュー統計が最後にリセットされてからキューから取り出されたメッセージの数。
ID: MQIA_MSG_DEQ_COUNT
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

キュー・サービス間隔 OK

イベント名:	キュー・サービス間隔 OK。
MQCFH 中の理由コード:	1212 ページの『2227 (08B3) (RC2227): MQRC_Q_SERVICE_INTERVAL_OK』 . キュー・サービス間隔 OK。
イベント記述:	QServiceInterval 属性に指定された限度以下の間隔内で、正常に終了した取得操作が検出されました。
イベント・タイプ:	パフォーマンス。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.PERFM.EVENT.

注: IBM MQ for z/OS は、共有キュー上のサービス間隔イベントをサポートしていません。

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

QName

説明: このキュー・サービス間隔イベントが生成される原因となったコマンドで指定されているキューの名前。
ID: MQCA_BASE_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

TimeSinceReset

説明: 統計が最後にリセットされてからの秒単位の時間。
ID: MQIA_TIME_SINCE_RESET
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

HighQDepth

説明: キュー統計が最後にリセットされてからのキュー上のメッセージの最大数。
ID: MQIA_HIGH_Q_DEPTH
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

MsgEnqCount

説明: キューに入れられたメッセージの数。これは、キュー統計が最後にリセットされてからキューに書き込まれたメッセージの数です。
ID: MQIA_MSG_ENQ_COUNT
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

MsgDeqCount

説明: キュー統計が最後にリセットされてからキューから取り出されたメッセージの数。
ID: MQIA_MSG_DEQ_COUNT
データ型: MQCFIN

戻り: 常時。

キュー・タイプ・エラー

イベント名:	キュー・タイプ・エラー。
MQCFH 中の理由コード:	<u>1153 ページの『2057 (0809) (RC2057): MQRC_Q_TYPE_ERROR』</u> . キュー・タイプは無効です。
イベント記述:	MQOPEN 呼び出しで、オブジェクト記述子の <i>ObjectQMgrName</i> フィールドにリモート・キューのローカル定義の名前を指定しています (キュー・マネージャーの別名を指定するため)。そのローカル定義では、 RemoteQMgrName 属性は、ローカル・キュー・マネージャーの名前です。しかし、 <i>ObjectName</i> フィールドには、ローカル・キュー・マネージャーのモデル・キューの名前を指定しています。これは認められません。詳しくは、 <u>キュー・マネージャー・イベント</u> を参照してください。
イベント・タイプ:	リモート。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

QName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID: MQCA_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

ApplType

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME

データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ObjectQMgrName

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。
ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ConnName

説明: クライアント接続の接続名。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明: クライアント接続のチャンネル名。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

権限レコードのリフレッシュ

イベント名:	権限レコードのリフレッシュ
MQCFH 中の理由コード:	1261 ページの『2370 (0942) (RC2370): MQRC_CONFIG_REFRESH_OBJECT』 . キュー・マネージャー構成のリフレッシュ - 権限レコード
イベント記述:	TYPE(CONFIGEV) を指定した REFRESH QMGR コマンドが発行された。
イベント・タイプ:	構成
プラットフォーム:	すべて、ただし z/OS を除く。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CONFIG.EVENT.

REFRESH QMGR コマンドによって多数の構成イベントが作成される可能性があることに注意してください。コマンドで選択される権限レコードごとに 1 つのイベントが生成されます。

イベント・データ

EventQMgr

説明:	コマンドまたは呼び出しが入れられたキュー・マネージャー。つまり、コマンドを処理してイベントを生成するキュー・マネージャーは、イベント・メッセージの MQMD にあります。
ID:	MQCACF_EVENT_Q_MGR
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

EventUserId

説明:	コマンドを発行したユーザー ID、またはイベントを生成した呼び出し。 これは、コマンドまたは呼び出しを発行する権限の検査に使われるのと同じユーザー ID です。キューから受け取ったコマンドの場合、これはコマンド・メッセージのメッセージ記述子からのユーザー ID (UserIdentifier) でもあります。 .
ID:	MQCACF_EVENT_USER_ID
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_USER_ID_LENGTH
戻り:	常時。

EventOrigin

説明:	イベントを引き起こしたアクションの発信元。
ID:	MQIACF_EVENT_ORIGIN
データ型:	MQCFIN
値:	MQEVO_CONSOLE コンソール・コマンド (runmqsc または setmqaut) MQEVO_INTERNAL キュー・マネージャーによって直接 MQEVO_MSG SYSTEM.ADMIN.COMMAND.QUEUE でのコマンド・メッセージ
戻り:	常時

EventAccountingToken

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアカウントिंग・トークン (AccountingToken)。
ID:	MQBACF_EVENT_ACCOUNTING_TOKEN
データ型:	MQCFBS
最大長:	MQ_ACCOUNTING_TOKEN_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplIdentity

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアプリケーション識別データ (**ApplIdentityData**)。

ID: MQMQCACF_EVENT_APPL_IDENTITY

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_IDENTITY_DATA_LENGTH

戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplType

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアプリケーション・タイプ (**PutApplType**)。

ID: MQIACF_EVENT_APPL_TYPE

データ型: MQCFIN

値:

戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplName

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアプリケーション名 (**PutApplName**)。

ID: MQCACF_EVENT_APPL_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH

戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplOrigin

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアプリケーション発信元データ (**ApplOriginData**)。

ID: MQCACF_EVENT_APPL_ORIGIN

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_ORIGIN_DATA_LENGTH

戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

ObjectType

説明: オブジェクト・タイプ

ID: MQIACF_OBJECT_TYPE

データ型: MQCFIN

値: MQOT_AUTH_REC

戻り: 常時

ProfileName

説明:	オブジェクトまたは総称プロファイル名
ID:	MQCACF_AUTH_PROFILE_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_AUTH_PROFILE_NAME_LENGTH
戻り:	常時

オブジェクトの属性

オブジェクトの属性ごとにパラメーター構造が戻されます。戻される属性はオブジェクト・タイプによって異なります。詳しくは、[74 ページの『イベント・データのオブジェクト属性』](#)を参照してください。

オブジェクトのリフレッシュ

イベント名:	オブジェクトのリフレッシュ。
MQCFH 中の理由コード:	1261 ページの『2370 (0942) (RC2370): MQRC_CONFIG_REFRESH_OBJECT』 . キュー・マネージャー構成のリフレッシュ。
イベント記述:	TYPE (CONFIGEV) を指定する REFRESH QMGR コマンドが発行されました。
イベント・タイプ:	構成。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CONFIG.EVENT.

注: REFRESH QMGR コマンドは、多数の構成イベントを作成することができます。コマンドによって選択されるそれぞれのオブジェクトごとに1つのイベントが生成されます。

イベント・データ

EventUserId

説明:	コマンドを発行したユーザー ID、またはイベントを生成した呼び出し。(これは、コマンドまたは呼び出しを発行する権限の検査に使用するものと同じユーザー ID です。キューから受け取ったコマンドの場合、これはコマンド・メッセージの MQMD からのユーザー ID (UserIdentifier) でもあります。)
ID:	MQCACF_EVENT_USER_ID
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_USER_ID_LENGTH
戻り:	常時。

EventOrigin

説明:	イベントを引き起こしたアクションの発信元。
ID:	MQIACF_EVENT_ORIGIN
データ型:	MQCFIN

値: **MQEVO_CONSOLE**
コンソール・コマンド。

MQEVO_INIT
初期設定入力データ・セット・コマンド。

MQEVO_INTERNAL
キュー・マネージャーによって直接。

MQEVO_MSG
SYSTEM.COMMAND.INPUT 上のコマンド・メッセージ。

MQEVO_OTHER
上記のいずれでもない。

戻り: 常時。

EventQMgr

説明: コマンドまたは呼び出しが入れられたキュー・マネージャー。(コマンドが実行されたキュー・マネージャー、およびイベントを生成したキュー・マネージャーは、イベント・メッセージの MQMD にあります。)

ID: MQCACF_EVENT_Q_MGR

データ型: MQCFST

最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

EventAccountingToken

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアカウントिंग・トークン (AccountingToken)。

ID: MQBACF_EVENT_ACCOUNTING_TOKEN

データ型: MQCFBS

最大長: MQ_ACCOUNTING_TOKEN_LENGTH

戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplIdentity

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーション識別データ (ApplIdentityData)。

ID: MQCACF_EVENT_APPL_IDENTITY

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_IDENTITY_DATA_LENGTH

戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplType

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションのタイプ (PutApplType)。

ID: MQIACF_EVENT_APPL_TYPE

データ型: MQCFIN

戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplName

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの名前 (PutApplName)。
ID:	MQCACF_EVENT_APPL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplOrigin

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの発信元データ (ApplOriginData)。
ID:	MQCACF_EVENT_APPL_ORIGIN
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_ORIGIN_DATA_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

ObjectType

説明:	オブジェクト・タイプ:
ID:	MQIACF_OBJECT_TYPE
データ型:	MQCFIN

値:

MQOT_CHANNEL
チャンネル。

MQOT_CHLAUTH
チャンネル認証レコード

MQOT_NAMELIST
名前リスト。

MQOT_NONE
オブジェクトなし。

MQOT_PROCESS
プロセス。

MQOT_Q
キュー。

MQOT_Q_MGR
キュー・マネージャー。

MQOT_STORAGE_CLASS
ストレージ・クラス。

MQOT_AUTH_INFO
認証情報

MQOT_CF_STRUC
CF 構造。

MQOT_TOPIC
トピック。

MQOT_COMM_INFO
通信情報。

MQOT_LISTENER
チャンネル・リスナー。

戻り: 常時。

ObjectName

説明: オブジェクト名。

ID: ID はオブジェクト・タイプに従ったものになります。

- MQCACH_CHANNEL_NAME
- MQCA_NAMELIST_NAME
- MQCA_PROCESS_NAME
- MQCA_Q_NAME
- MQCA_Q_MGR_NAME
- MQCA_STORAGE_CLASS
- MQCA_AUTH_INFO_NAME
- MQCA_CF_STRUC_NAME
- MQCA_TOPIC_NAME
- MQCA_COMM_INFO_NAME
- MQCACH_LISTENER_NAME

注: MQCACH_CHANNEL_NAME は、チャンネル認証にも使用できます。

データ型: MQCFST

最大長: MQ_OBJECT_NAME_LENGTH

戻り: 常時

Disposition

説明: オブジェクトの属性指定。

ID: MQIA_QSG_DISP

データ型: MQCFIN

値: **MQQSGD_Q_MGR**
オブジェクトはキュー・マネージャーのページ・セットにあります。

MQQSGD_SHARED
オブジェクトは共有リポジトリ内にあり、メッセージがカップリング・ファシリティーで共有されます。

MQQSGD_GROUP
オブジェクトは共有リポジトリにあります。

MQQSGD_COPY
オブジェクトはキュー・マネージャーのページ・セットにあり、GROUP オブジェクトのローカル・コピーです。

戻り: 常時 (キュー・マネージャーおよび CF 構造化オブジェクトは除く)。

オブジェクトの属性

オブジェクトの属性ごとにパラメーター構造が戻されます。戻される属性はオブジェクト・タイプによって異なります。詳しくは、[74 ページの『イベント・データのオブジェクト属性』](#)を参照してください。

リモート・キュー名エラー

イベント名:	リモート・キュー名エラー。
MQCFH 中の理由コード:	1198 ページの『2184 (0888) (RC2184): MQRC_REMOTE_Q_NAME_ERROR』 。 リモート・キュー名が無効です。
イベント記述:	MQOPEN 呼び出しましたは MQPUT1 呼び出しで、次のいずれかの状況が発生しています。 <ul style="list-style-type: none">・リモート・キューのローカル定義 (またはその別名) が指定されましたが、リモート・キュー定義の RemoteQName 属性はブランクです。このエラーは、定義内の XmitQName がブランクでない場合でも発生することに注意してください。・オブジェクト記述子の ObjectQMgrName フィールドはブランクではなく、ローカル・キュー・マネージャーの名前ではありませんが、ObjectName フィールドはブランクです。
イベント・タイプ:	リモート。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。

ID: MQCA_Q_MGR_NAME

データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

QName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID: MQCA_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

ApplType

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ObjectQMgrName

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。
ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) 内の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

ConnName

説明: クライアント接続の接続名。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明:	クライアント接続のチャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

伝送キュー・タイプ・エラー

イベント名:	伝送キュー・タイプ・エラー。
MQCFH 中の理由コード:	<u>1166</u> ページの『 <u>2091 (082B) (RC2091): MQRC_XMIT_Q_TYPE_ERROR</u> 』。 伝送キューはローカルではありません。
イベント記述:	<p>MQOPEN または MQPUT1 呼び出しでは、メッセージはリモート・キュー・マネージャーに送られます。オブジェクト記述子の <i>ObjectName</i> フィールドまたは <i>ObjectQMGrName</i> フィールドに、リモート・キューのローカル定義の名前を指定していますが、その定義の XmitQName 属性では次のいずれかの状況が発生しています。以下のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">• <i>XmitQName</i> がブランクではないが、ローカル・キューではないキューをこのフィールドに指定している。または、• <i>XmitQName</i> はブランクだが、<i>RemoteQMGrName</i> はローカル・キューでないキューを指定している。 <p>この状況は、キュー名がセル・ディレクトリーによって解決されるときに、セル・ディレクトリーから取得したリモート・キュー・マネージャー名としてキューの名前ですが、ローカル・キューではない場合にも発生します。</p>
イベント・タイプ:	リモート。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMGrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

QName

説明:	オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID:	MQCA_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。

戻り: 常時。

XmitQName

説明: 伝送キュー名。
ID: MQCA_XMIT_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

QType

説明: 伝送キューのタイプ。
ID: MQIA_Q_TYPE
データ型: MQCFIN
値: **MQQT_ALIAS**
別名キュー定義。
MQQT_REMOTE
リモート・キューのローカル定義。
戻り: 常時。

ApplType

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ObjectQMgrName

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。
ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) 内の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

ConnName

説明:	クライアント接続の接続名。
ID:	MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明:	クライアント接続のチャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

伝送キュー使用エラー

イベント名:	伝送キュー使用エラー。
MQCFH 中の理由コード:	1167 ページの『2092 (082C) (RC2092): MQRC_XMIT_Q_USAGE_ERROR』 . 伝送キューの使用方法が正しくありません。
イベント記述:	<p>MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しでは、メッセージがリモート・キュー・マネージャーへ送信されようとしています。次のいずれかの状況が発生しています。以下のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">• <i>ObjectQMGrName</i> はローカル・キューの名前を指定していますが、Usage 属性が MQUS_TRANSMISSION ではありません。• オブジェクト記述子の <i>ObjectName</i> または <i>ObjectQMGrName</i> フィールドは、リモート・キューのローカル定義の名前を指定しますが、定義の XmitQName 属性には以下のいずれかが適用されます。<ul style="list-style-type: none">– <i>XmitQName</i> は空白ではないが、Usage 属性が MQUS_TRANSMISSION ではないキューが指定されている。– <i>XmitQName</i> は空白だが、<i>RemoteQMGrName</i> に、Usage 属性が MQUS_TRANSMISSION でないキューが指定されている。• キュー名がセル・ディレクトリーを介して解決され、セル・ディレクトリーから得られたリモート・キュー・マネージャー名はローカル・キューの名前になっていますが、Usage 属性が MQUS_TRANSMISSION ではありません。
イベント・タイプ:	リモート。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMGrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
-----	-------------------------

ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

QName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID: MQCA_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

XmitQName

説明: 伝送キュー名。
ID: MQCA_XMIT_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

ApplType

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ObjectQMgrName

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。
ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) 内の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

ConnName

説明:	クライアント接続の接続名。
ID:	MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明:	クライアント接続のチャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

不明別名基本キュー

イベント名:	不明別名基本キュー。
MQCFH 中の理由コード:	1163 ページの『2082 (0822) (RC2082): MQRC_UNKNOWN_ALIAS_BASE_Q』 . 不明別名基本キューまたはトピック。
イベント記述:	別名キューを宛先として指定して MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、別名キュー属性にある <i>BaseObjectName</i> は、キュー名またはトピック名として認識されません。
イベント・タイプ:	ローカル。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

QName

説明:	オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID:	MQCA_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。

戻り: 常時。

BaseObjectName

説明: 別名が解決されるオブジェクト名。
ID: MQCA_BASE_OBJECT_NAME。既存アプリケーションとの互換性のために、MQCA_BASE_Q_NAME を引き続き使用できます。
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

ApplType

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ObjectQMgrName

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。
ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) 内の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

BaseType

説明: 別名が解決されるオブジェクトのタイプ。
ID: MQIA_BASE_TYPE
データ型: MQCFIN
値: **MQOT_Q**
基本オブジェクト・タイプはキューです。
MQOT_TOPIC
基本オブジェクト・タイプはトピックです。
戻り: 常時。

ConnName

説明:	クライアント接続の接続名。
ID:	MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明:	クライアント接続のチャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

不明デフォルト伝送キュー

イベント名:	不明デフォルト伝送キュー。
MQCFH 中の理由コード:	1204 ページの『2197 (0895) (RC2197): MQRC_UNKNOWN_DEF_XMIT_Q』 . 不明デフォルト伝送キュー。
イベント記述:	<p>リモート・キューを宛先に指定して、MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されました。リモート・キューのローカル定義を指定したとき、またはキュー・マネージャーの別名が解決されようとしているときに、ローカル定義の XmitQName 属性はブランクです。</p> <p>いずれのキューも宛先キュー・マネージャーと同じ名前では定義されていません。したがって、キュー・マネージャーは、デフォルト伝送キューを使用しようとしていました。ただし、DefXmitQName キュー・マネージャー属性で指定された名前は、ローカル定義されたキューの名前ではありません。</p>
イベント・タイプ:	リモート。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

QName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID: MQCA_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

XmitQName

説明: デフォルト伝送キュー名。
ID: MQCA_XMIT_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

ApplType

説明: リモート・キューをオープンしようとしているアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: リモート・キューをオープンしようとしているアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ObjectQMgrName

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。
ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) 内の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

ConnName

説明: クライアント接続の接続名。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH

戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明: クライアント接続のチャンネル名。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

不明オブジェクト名

イベント名:	不明オブジェクト名。
MQCFH 中の理由コード:	1164 ページの『2085 (0825) (RC2085): MQRC_UNKNOWN_OBJECT_NAME』 . オブジェクト名が不明です。
イベント記述:	MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、オブジェクト記述子 MQOD の <i>ObjectQMgrName</i> フィールドは、次のいずれかのオプションに設定されます。 次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none">• ブランク• ローカル・キュー・マネージャーの名前• RemoteQMgrName 属性がローカル・キュー・マネージャーの名前になっているリモート・キューのローカル定義の名前 (キュー・マネージャー別名) ただし、オブジェクト記述子の <i>ObjectName</i> は、指定したオブジェクト・タイプに関して認識されません。
イベント・タイプ:	ローカル。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ApplType

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN

戻り: 常時。

ApplName

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

QName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID: MQCA_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: オープンされているオブジェクトがキュー・オブジェクトである場合。 *QName* または *TopicName* が返されます。

ProcessName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくプロセス・オブジェクト名。
ID: MQCA_PROCESS_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_PROCESS_NAME_LENGTH
戻り: オープンしているオブジェクトが、プロセス・オブジェクトである場合。 *ProcessName*、*QName*、または *TopicName* のいずれかが返されます。

ObjectQMgrName

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。
ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) 内の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

TopicName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくトピック・オブジェクト名。
ID: MQCA_TOPIC_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_TOPIC_NAME_LENGTH
戻り: オープンされているオブジェクトがトピック・オブジェクトである場合。 *ProcessName*、*QName*、または *TopicName* のいずれかが返されます。

ConnName

説明: クライアント接続の接続名。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明: クライアント接続のチャンネル名。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

不明リモート・キュー・マネージャー

イベント名: 不明リモート・キュー・マネージャー。

MQCFH 中の理由コード: [1165 ページの『2087 \(0827\) \(RC2087\): MQRC UNKNOWN REMOTE Q MGR』](#).
不明リモート・キュー・マネージャー。

イベント記述: MQOPEN 呼び出しましたは MQPUT1 呼び出しで、次のいずれかの理由でキュー名の解決時にエラーが発生しました。

- *ObjectQMGrName* は、ブランクまたはローカル・キュー・マネージャーの名前であり、*ObjectName* は、ブランクの *XmitQName* を持つリモート・キューのローカル定義の名前です。しかし、*RemoteQMGrName* の名前前で定義された (伝送) キューはなく、**DefXmitQName** キュー・マネージャー属性はブランクです。
- *ObjectQMGrName* が、キュー・マネージャー別名定義 (リモート・キューのローカル定義として保持される) の名前であり、その定義では、*XmitQName* がブランクになっています。しかし、*RemoteQMGrName* の名前前で定義された (伝送) キューはなく、**DefXmitQName** キュー・マネージャー属性はブランクです。
- 指定した *ObjectQMGrName* が次のいずれでもありません。
 - ブランク
 - ローカル・キュー・マネージャーの名前
 - ローカル・キューの名前
 - キュー・マネージャー別名定義 (*RemoteQName* がブランクのリモート・キューのローカル定義) の名前また、**DefXmitQName** キュー・マネージャー属性はブランクです。
- *ObjectQMGrName* がブランクまたはローカル・キュー・マネージャーの名前であり、*ObjectName* がリモート・キューのローカル定義の名前 (またはその別名)。その定義に関しても *RemoteQMGrName* はブランクであるか、ローカル・キュー・マネージャーの名前です。 *XmitQName* がブランクでない場合でも、このエラーが発生します。
- *ObjectQMGrName* がリモート・キューのローカル定義の名前。この場合、キュー・マネージャー別名定義でなければなりません。しかし、その定義の *RemoteQName* がブランクではありません。
- *ObjectQMGrName* がモデル・キューの名前。
- セル・ディレクトリーによって解決されるキューの名前。しかし、セル・ディレクトリーから取得したリモート・キュー・マネージャーと同じ名前前で定義されているキューは存在しません。また、**DefXmitQName** キュー・マネージャー属性はブランクです。
- z/OS 上でのみ、メッセージがキュー共有グループのキュー・マネージャーに書き込まれて、*SQQMNAME* が *USE* に設定されます。これは、メッセージがキューに書き込まれるようにするために、指定されたキュー・マネージャーにメッセージを送付します。 *SQQMNAME* が *IGNORE* に設定されている場合、メッセージはキューに直接書き込まれます。

イベント・タイプ:	リモート。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMGrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST

最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

QName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID: MQCA_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

ApplType

説明: リモート・キューをオープンしようとしているアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: リモート・キューをオープンしようとしているアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ObjectQMgrName

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。
ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) 内の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

ConnName

説明: クライアント接続の接続名。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明: クライアント接続のチャンネル名。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME

データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

不明伝送キュー

イベント名:	不明伝送キュー。
MQCFH 中の理由コード:	<u>1204 ページの『2196 (0894) (RC2196): MQRC_UNKNOWN_XMIT_Q』</u> . 不明伝送キュー。
イベント記述:	MQOPEN または MQPUT1 呼び出しでは、メッセージはリモート・キュー・マネージャーに送られます。オブジェクト記述子の <i>ObjectName</i> または <i>ObjectQMgrName</i> にリモート・キューのローカル定義の名前を指定しています (後者の場合、キュー・マネージャー別名化機能が使用されています)。しかし、その定義の XmitQName 属性は空白ではなく、また、ローカルに定義されたキューの名前でもありません。
イベント・タイプ:	リモート。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

QName

説明:	オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID:	MQCA_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り:	常時。

XmitQName

説明:	伝送キュー名。
ID:	MQCA_XMIT_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り:	常時。

ApplType

説明:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。
ID:	MQIA_APPL_TYPE
データ型:	MQCFIN
戻り:	常時。

ApplName

説明:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。
ID:	MQCACF_APPL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

ObjectQMgrName

説明:	オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) 内の <i>ObjectName</i> が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

ConnName

説明:	クライアント接続の接続名。
ID:	MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明:	クライアント接続のチャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

メッセージおよび理由コード

以下のメッセージと理由コードを使用して、IBM MQ のコンポーネントまたはアプリケーションに関する問題の解決に役立てることができます。

このセクションには、AMQ シリーズの診断メッセージが番号順にリストされています。これらのメッセージは、発信元の IBM MQ の部分に従ってグループ化されています。

注: メッセージが単一プラットフォームに固有の場合は、メッセージ ID の後に、プラットフォーム名が示されます。何回かリストされているメッセージもありますが、それぞれ異なるプラットフォームに関連しています。その場合は、まず多くのプラットフォームに共通するバージョンがリストされ、その後個別プラットフォームに対応したバージョンが続きます。該当するバージョンをお読みください。

これらのメッセージについて詳しくは、[IBM Documentation](#) を参照してください。

- [AMQ3xxx: ユーティリティーおよびツール](#)
- [AMQ4xxx: ユーザー・インターフェース・メッセージ \(Windows および Linux システム\)](#)
- [AMQ5xxx: インストール可能サービス](#)
- [AMQ6xxx: 共通サービス](#)
- [AMQ7xxx: IBM MQ 製品](#)
- [AMQ8xxx: 管理](#)
- [AMQ9xxx: リモート](#)

メッセージの読み取り

各メッセージには、次の情報が提供されています。

メッセージ ID

次の 3 つの部分から成るメッセージ識別子:

1. 「AMQ」という文字。これは、メッセージが IBM MQ からのものであることを示します。
2. 4 桁の 10 進コード。
3. [重大度リスト](#) に示されているように、メッセージの重大度を示す接尾部 (I、W、E、S、または T)。

接尾部文字はデフォルトで組み込まれます。接尾部文字を含まない以前のメッセージ形式に依存したスクリプトがある場合などは、[AMQ_DIAGNOSTIC_MSG_SEVERITY](#) 環境変数を 0 に設定することで、接尾部文字を無効にすることができます。

メッセージ・テキスト

メッセージの要約

重大度

- 0: 情報
- 10: 警告
- 20: エラー
- 30: エラー
- 40: 重大
- 50: 強制終了

説明

メッセージに関する詳細情報を示すための説明

応答

ユーザーによる必要な対応。場合によっては、特に情報メッセージの場合は、この部分は「アクションは不要です」となることがあります。

メッセージ変数

一部のメッセージには、メッセージの原因となった状況に応じて変化するテキストまたは数値が含まれています。これをメッセージ変数といいます。メッセージ変数は <insert_1>、<insert_2> などで表されています。

メッセージによっては、説明または対応の項に変数が含まれていることもあります。メッセージ変数の値を見つけるには、エラー・ログを調べてください。エラー・ログには、完全な形のメッセージと、説明および対応が含まれています。

関連概念

[264 ページの『IBM MQ for z/OS messages, completion, and reason codes』](#)

Use this topic to interpret and understand the messages and codes issued by IBM MQ for z/OS.

関連タスク

[エラー・ログの使用](#)

関連資料

[1123 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)

呼び出しが行われるたびに、その呼び出しが成功したか失敗したかを示すための完了コードと理由コードが、キュー・マネージャーまたは出口ルーチンによって戻されます。

[1335 ページの『PCF 理由コード』](#)

PCF フォーマットのコマンド・メッセージ中で使用したパラメーターによっては、そのメッセージへの応答としてブローカーから理由コードが返される場合があります。

[1414 ページの『Transport Layer Security \(TLS\) の戻りコード』](#)

IBM MQ では、さまざまな通信プロトコルと一緒に TLS を使用できます。このトピックを使用して、TLS によって返される可能性があるエラー・コードを特定します。

[1419 ページの『WCF カスタム・チャンネル例外』](#)

このトピックでは、診断メッセージが、発信元の Microsoft Windows Communication Foundation (WCF) カスタム・チャンネルの部分に従ってグループ化された番号順にリストされています。

IBM MQ Console メッセージ

IBM MQ Console のメッセージを識別して解釈するための参照情報。

これらのメッセージについて詳しくは、[IBM Documentation](#) を参照してください。

- [MQWB20xx: IBM MQ Console メッセージ](#)

メッセージの読み取り

各メッセージには、次の情報が提供されています。

メッセージ ID

次の 3 つの部分から成るメッセージ識別子:

1. 「MQWB」という文字 (メッセージの発信元が IBM MQ Console であるという意味)
2. 4 桁の 10 進コード
3. メッセージの重大度を示す接尾部文字 (I、W、E、S、または T)。以下の重大度リストを参照してください。

メッセージ・テキスト

メッセージの要約

重大度

- 0: 情報
- 10: 警告
- 20: エラー
- 30: エラー
- 40: 重大
- 50: 強制終了

説明

メッセージに関する詳細情報を示すための説明

応答

ユーザーによる必要な対応。場合によっては、特に情報メッセージの場合は、この部分は「アクションは不要です」となることがあります。

メッセージ変数

一部のメッセージには、メッセージの原因となった状況に応じて変化するテキストまたは数値が含まれています。これをメッセージ変数といいます。メッセージ変数は <insert_1>、<insert_2> など表されています。

メッセージによっては、説明または対応の項に変数が含まれていることもあります。メッセージ変数の値を見つけるには、エラー・ログを調べてください。エラー・ログには、完全な形のメッセージと、説明および対応が含まれています。

IBM MQ Internet Pass-Thru メッセージ

IBM MQ Internet Pass-Thru のメッセージを識別して解釈するための参照情報。

コマンド行から実行する場合、IBM MQ Internet Pass-Thru (MQIPT) は、情報、警告、およびエラーの各メッセージをコンソールに表示します。

このセクションには、MQIPT 診断メッセージがその発信元になる MQIPT の部分ごとにまとめられ、それぞれ番号順にリストされています。

- [237 ページの『MQCAxxxx: 管理クライアント・メッセージ』](#)
- [240 ページの『MQCPxxxx: MQIPT メッセージ』](#)

メッセージの読み取り

すべてのメッセージ ID は、以下の形式に従います。

```
MQCpsnnn
```

ここで、

- *p* は、メッセージの生成元です。
 - A: `mqiptAdmin` コマンド
 - P: MQIPT
- *s* はメッセージの重大度です。
 - I: 情報
 - W: 警告
 - E: エラー
- *nnn* は、3桁のメッセージ番号です。

メッセージ変数

一部のメッセージには、メッセージの原因となった状況に応じて変化するテキストまたは数値が含まれています。これをメッセージ変数といいます。メッセージ変数は <insert_1>、<insert_2> など表されています。

MQCAxxxx: 管理クライアント・メッセージ

MQCAE001 不明なホスト: <insert_1>

説明:

MQIPT ホストが見つかりません。

ユーザーの処置:

ホスト名が正しく指定されていることを確認します。ホスト名の PING の実行かホストの IP アドレスの使用を試してください。

MQCAE002 以下のエラーがシステムから報告されました: <insert_1>

説明:

MQIPT との通信中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置:

エラー・メッセージのテキストを確認し、適切なアクションを実行してください。

MQCAE023 MQIPT がパスワードを認識しませんでした

説明:

管理コマンドを MQIPT に発行するときに、誤ったパスワードが指定されました。

ユーザーの処置:

管理コマンドを MQIPT に発行するとき、正しいパスワードを入力したことを確認してください。

MQCAE024 MQIPT <insert_1> がコマンドを認識しませんでした。

説明:

MQIPT との通信中にエラーが検出されました。

ユーザーの処置:

mqiptAdmin コマンドが、管理対象の MQIPT のインスタンスと同じバージョン以上であることを確認してください。この状態が持続する場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

MQCAE026 リモート・シャットダウンは MQIPT <insert_1> 上では使用不能です。

説明:

MQIPT はシャットダウン要求を受け取りましたが、リモート・シャットダウンが有効になっていないため、続行できません。

ユーザーの処置:

MQIPT のリモート・シャットダウンを有効にするには、構成ファイルを編集して、**RemoteShutDown** プロパティを真に設定します。

MQCAE057 指定されたポート番号が無効です

説明:

コマンドのパラメーターとして無効なポート番号が指定されました。

ユーザーの処置:

コマンド・パラメーターに有効なポート番号を指定してください。

MQCAE058 <insert_1> という名前を持つ MQIPT のローカル・インスタンスが見つかりません

説明:

示された名前の MQIPT のアクティブ・ローカル・インスタンスが **mqiptAdmin** コマンドによって検出されませんでした。

ユーザーの処置:

mqiptAdmin コマンドのパラメーターとして、MQIPT のアクティブ・インスタンスの名前を指定します。MQIPT のインスタンスは、**mqiptAdmin** と同じユーザー ID でローカル・マシン上で実行されている必要があります。また、AIX and Linux の場合は、**mqiptAdmin** を root として実行することもできます。MQIPT のアクティブなローカル・インスタンスをリストするには、**mqiptAdmin** コマンドの **-list** オプションを使用します。

MQCAE059 MQIPT <insert_1> は既にシャットダウン中です

説明:

コマンドが MQIPT に送信されましたが、MQIPT インスタンスは既にシャットダウン中です。

MQCAE060 ローカル管理は無効です

説明:

コマンドが MQIPT のローカル・インスタンスに送信されましたが、ローカル管理は無効になっています。

ユーザーの処置:

LocalAdmin プロパティを使用してローカル管理を有効にするか、コマンド・ポートを使用して MQIPT を管理します。

MQCAE061 MQIPT への TLS 接続を確立中にエラーが発生しました: <insert_1>

説明:

mqiptAdmin コマンドが MQIPT への TLS 接続を確立しようとしたときに、エラーが発生しました。このメッセージの後に、スローされた例外の詳細が続きます。

ユーザーの処置

メッセージに含まれる例外の詳細を検討します。

mqiptAdmin コマンドの TLS 構成が正しいことを確認してください。

- プロパティ・ファイルには、**mqiptAdmin** がリモート MQIPT インスタンスの ID を検証するために使用するトラストストアの名前と、トラストストアにアクセスするためのパスワードが含まれている必要があります。
- **mqiptAdmin** によって使用されるトラストストアには、MQIPT サーバー証明書に署名した CA の CA 証明書が含まれている必要があります。

MQCAE062 プロパティ <insert_2> に指定されているファイル <insert_1> が存在しないか、読み取ることができません。

説明:

mqiptAdmin プロパティ・ファイル内のプロパティが、存在しないファイルまたはディレクトリを参照しています。

ユーザーの処置:

プロパティ・ファイルを編集して、ファイルまたはディレクトリーの正しい場所を指定してください。

MQCAE063 プロパティ・ファイル <insert_1> が存在しないか、読み取ることができません。

説明:

-p パラメーターで **mqiptAdmin** に指定されたプロパティ・ファイルが存在しないか、読み取ることができません。

ユーザーの処置:

プロパティ・ファイルの名前が **-p** パラメーターで正しく指定されていること、および **mqiptAdmin** コマンドを実行しているユーザーがそのファイルを読み取ることができることを確認してください。

MQCAE064 プロパティ・ファイル <insert_1> の読み取り中にエラーが発生しました。

説明:

-p パラメーターで **mqiptAdmin** に指定されたプロパティ・ファイルの読み取り中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置:

プロパティ・ファイルの名前が **-p** パラメーターで正しく指定されていること、および **mqiptAdmin** コマンドを実行しているユーザーがそのファイルを読み取ることができることを確認してください。

MQCAE065 **MQIPT** <insert_1> がシャットダウンしました。

説明:

MQIPT は、**mqiptAdmin** によって発行されたコマンドの処理中にシャットダウンしました。

MQCAE066 **MQIPT** コマンド・レベル <insert_1> は **mqiptAdmin** バージョン <insert_2> によってサポートされていません。

説明:

mqiptAdmin コマンドは、このバージョンの **mqiptAdmin** ではサポートされないコマンド・レベルの **MQIPT** のインスタンスに接続されています。

ユーザーの処置:

mqiptAdmin コマンドのバージョンが、常に接続先の **MQIPT** のインスタンスのバージョン以上になるようにしてください。

MQCAI025 **MQIPT** <insert_1> がリフレッシュされました。

説明:

MQIPT は、その構成ファイルを読み取ることによって更新されています。

MQCAI026 **MQIPT** <insert_1> がシャットダウン要求を受信しました。

説明:

MQIPT はシャットダウン要求の受信を確認しました。シャットダウンされます。

MQCAI105 <insert_1> コマンドを <insert_2> という名前で **MQIPT** インスタンスに送信しています。

説明:

mqiptAdmin は、示されたコマンドを、示された名前を持つ **MQIPT** のローカル・インスタンスに送信しています。

MQCAI106 **MQIPT** のローカル・アクティブ・インスタンス:

説明:

このメッセージは、**mqiptAdmin** コマンドによって表示され、**MQIPT** のローカル・アクティブ・インスタンスをリストします。

MQCAI107 **MQIPT** のローカル・アクティブ・インスタンスがありません

説明:

mqiptAdmin コマンドは、**mqiptAdmin** コマンドと同じユーザー ID で実行されている **MQIPT** のローカル・アクティブ・インスタンスを検出できませんでした。

MQCAI108 コマンド・ポートが **TLS** で保護されている場合は、セキュア接続を有効にするために **-s** パラメーターを指定する必要があります。

説明:

mqiptAdmin コマンドは非セキュア接続を使用して **MQIPT** に接続されましたが、コマンド・ポートが **TLS** で保護されていることを示す応答を受け取りました。

ユーザーの処置:

TLS を使用して **MQIPT** に接続するには、**mqiptAdmin** コマンドに **-s** パラメーターを指定します。

MQCAI109 **MQIPT** への接続は <insert_1> で保護されています。

説明:

mqiptAdmin コマンドが **MQIPT** に接続されました。その接続は示されたプロトコルを使用して保護されません。

MQCAW001 **MQIPT** への接続は保護されていません。

説明:

mqiptAdmin コマンドが非セキュア接続を使用して **MQIPT** に接続されました。

ユーザーの処置:

処置は不要。 **TLS** を使用して **MQIPT** に安全に接続するには、**mqiptAdmin** コマンドに **-s** パラメーターを指定します。

MQCPxxxx: MQIPT メッセージ

MQCPA104 <insert_1> の MQIPT サーバーからのコマンドが完了しました。

説明:

mqiptAdmin コマンドによって送信されたコマンドは、MQIPT によって受け入れられ、実行されます。

MQCPE001 ディレクトリーが存在しないか、ディレクトリー <insert_1> ではありません。

説明:

MQIPT 初期化時に、必要なディレクトリーが見つかりませんでした。このメッセージは、MQIPT 構成ファイル `mqipt.conf` 内、またはデフォルト・ディレクトリーの MQIPT コマンドライン始動オプションのどちらかに指定されたディレクトリーを指しています。

ユーザーの処置:

正しいディレクトリーを指定して、コマンドを再試行してください。

MQCPE004 経路の開始がポート <insert_1> 上で失敗しました。

説明:

指定された **ListenerPort** 番号で経路を開始することができませんでした。

ユーザーの処置:

経路の開始中に I/O エラーが発生しました。この問題について詳細に説明している他の隣接エラー・メッセージおよびログ・レコードを確認してください。

MQCPE005 構成ファイル <insert_1> が見つかりません。

説明:

指定されたディレクトリーに MQIPT 構成ファイル `mqipt.conf` が見つかりませんでした。

ユーザーの処置:

正しいディレクトリーを指定して、コマンドを再試行してください。

MQCPE006 経路の数が <insert_1> を超えました。MQIPT は開始されますが、この構成はサポートされません。

説明:

構成が、MQIPT の 1 つのインスタンスでサポートされる最大経路数を超過しています。操作は停止しませんが、結果としてシステムが不安定になったり、過負荷になったりする可能性があります。指定されている最大経路数を超えた構成はサポートされません。

ユーザーの処置:

インスタンスあたりの経路数が少ない追加の MQIPT インスタンスを開始することを検討してください。

MQCPE007 リスナー・ポート <insert_1> 上で経路が再始動していません。

説明:

リフレッシュ操作中に、指定された **ListenerPort** 上で作動していた経路が新しい構成で再始動されませんでした。

ユーザーの処置:

この問題について詳細に説明している他の隣接エラー・メッセージを確認してください。

MQCPE008 リスナー・ポート <insert_1> に重複する経路が定義されています。

説明:

複数の経路が同じ **ListenerPort** 値で定義されています。

ユーザーの処置:

重複している経路を構成ファイルから削除して、コマンドを再試行してください。

MQCPE009 ログ・ディレクトリー <insert_1> が無効です。

説明:

示されているログ・ディレクトリーが存在しないか、アクセスできません。

ユーザーの処置:

このディレクトリーが存在し、MQIPT からアクセス可能であることを確認してください。

MQCPE010 リスナーまたはコマンド・ポート番号 <insert_1> が無効です。

説明:

コマンド・ポート用に指定されたポート・アドレスまたはリスナー・ポート・パラメーターが無効です。

ユーザーの処置:

使用できる有効な空きポート・アドレス指定してください。ネットワーク内のポート・アドレスの使用方法については、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

MQCPE012 値 <insert_1> はプロパティー <insert_2> には無効です。

説明:

無効なプロパティー値が指定されました。

ユーザーの処置:

各プロパティーの有効な値の詳細については、[IBM MQ Internet Pass-Thru 構成に関する参照情報を参照](#)してください。

MQCPE013 **ListenerPort** プロパティーが経路 <insert_1> の中に見つかりません。

説明:

MQIPT が、**ListenerPort** プロパティーを含まない経路を構成ファイル内で検出しました。**ListenerPort** プロパティーは、各経路の 1 次 ID と固有 ID であるため、必須です。

ユーザーの処置:
指定された経路に有効な **ListenerPort** プロパティ
ーを指定してください。

MQCPE014 **ListenerPort** プロパティの値
 <insert_1> が無効です。

説明:
経路の **ListenerPort** プロパティに無効なポート・
アドレスが指定されました。

ユーザーの処置:
ポート・アドレスは、1024 から 65535 の範囲である
必要があります。構成ファイル内の各
ListenerPort を確認します。

MQCPE015 メッセージ番号 <insert_1> のテキ
 ストが見つかりません。

説明:
内部エラーが発生しましたが、それに対する説明があり
ません。

ユーザーの処置:
mqipt.properties ファイルが破損している可能性
があり、指定されたメッセージ番号が見つかりませんで
した。mqipt.properties ファイルが
com.ibm.mq.ipt.jar ファイルにあること、またメッ
セージ番号がmqipt.properties ファイルにあるこ
とを確認してください。MQIPT_PATH 環境変数を使用
している場合は、正しく設定されていることを確認して
ください。

MQCPE016 接続スレッドの最大数は <insert_1>
 ですが、接続スレッドの最小数であ
 る <insert_2> より小さい値になっ
 ています。

説明:
構成ファイルで、接続スレッドの最小数が、接続スレ
ッドの最大数より大きな値で指定されています。

ユーザーの処置:
これは、単一の経路、グローバル・プロパティと経路
プロパティの競合、または経路プロパティによるシ
ステム・デフォルト値の指定変更のエラーである可能
性があります。各プロパティの有効な値および適用可
能なデフォルトの詳細については、IBM MQ Internet
Pass-Thru 構成に関する参照情報を参照してください。

MQCPE017 例外 <insert_1> がスローされたた
 め、MQIPT がシャットダウンされま
 した。

説明:
MQIPT が異常終了し、シャットダウンされました。こ
れは、メモリー・オーバーフローなどのシステム環境の
状態または制約により発生した可能性があります。

ユーザーの処置:
この状態が持続する場合は、IBM ソフトウェア・サポ
ートに連絡してください。

MQCPE018 **ListenerPort** プロパティがブラン
 クです。経路は開始されません。

説明:
経路で **ListenerPort** 番号が省略されています。

ユーザーの処置:
構成ファイルを編集して、有効な **ListenerPort** を追
加してください。

MQCPE019 スタンザ <insert_1> が次のもの
 前に見つかりません : <insert_2>

説明:
構成ファイル内でシーケンス・エラーが発生しました。

ユーザーの処置:
構成ファイルを編集して、すべての [route] スタンザ
が [global] スタンザの後にあることを確認します。

MQCPE020 **MaxConnectionThreads** の新しい値
 は <insert_1> です。これは、現行値
 <insert_2> よりも大きくなければなり
 ません

説明:
経路の開始後は、**MaxConnectionThread** プロパティ
ーのみを増やすことができます。

ユーザーの処置:
構成ファイルを編集して、**MaxConnectionThread** プ
ロパティを変更します。

MQCPE021 宛先プロパティが経路 <insert_1>
 に提供されていません。

説明:
Destination プロパティは経路には必須ですが、指
定された経路で省略されました。

ユーザーの処置:
構成ファイルを編集し、指定された経路の
Destination プロパティを追加します。

MQCPE022 <insert_1> の値 <insert_2> が、有
 効な 1 から 65535 の範囲にありま
 せん

説明:
CommandPort または **SSLCommandPort** プロパティ
ーの値が 1 から 65535 の範囲外です。

ユーザーの処置:
構成ファイルを編集し、示されたプロパティの値を有
効なポート番号に変更してください。

MQCPE023 リモート・シャットダウンが無効に
 になっているため、<insert_1> の管理
 クライアントから MQIPT をシャッ
 トダウンする要求は無視されました

説明:
構成ファイルでリモート・シャットダウンが使用可能に
なっていないため、リモートでの MQIPT のシャットダ
ウン試行が失敗しました。

ユーザーの処置:

MQIPT のリモート・シャットダウンを有効にするには、構成ファイルを編集して、**RemoteShutDown** プロパティを真に設定します。

MQCPE024 MQIPT コントローラーが受信したコマンドが認識されていません。

説明:

MQIPT コマンド・ポートが、認識できないコマンドを受け取りました。

ユーザーの処置:

mqipt.log ファイルでコマンドの ID を確認してください。

MQCPE025 ホスト <insert_1>上のサーバーへの接続に失敗しました。ポート <insert_2>: <insert_3>

説明:

mqiptAdmin コマンドが、示されたネットワーク・アドレスおよびポート番号で MQIPT に接続できませんでした。

ユーザーの処置:

示されたポートで MQIPT コマンド・ポートが listen するように構成されていること、および示されたホスト上で MQIPT が実行されていることを確認してください。MQIPT コンソール・ログで、コマンド・サーバーの開始時に発生したエラーがないか確認してください。

MQCPE026 ホスト <insert_1>、ポート <insert_2> 上のサーバーから応答がありません。

説明:

mqiptAdmin コマンドは、MQIPT からの応答を受信しませんでした。これは、要求がタイムアウトになった場合、または MQIPT に問題がある場合に発生する可能性があります。

ユーザーの処置:

MQIPT コンソール・ログと接続ログで、追加のエラー・メッセージがないか確認してください。

MQCPE027 MQIPT からの応答が認識されません。

説明:

mqiptAdmin コマンドが MQIPT からの応答を受信しましたが、それは認識されませんでした。

ユーザーの処置:

mqiptAdmin コマンドが、接続先の MQIPT のインスタンスと同じバージョン、またはそれより上位のバージョンであることを確認してください。

MQCPE028 無効なスタanzasが検出されました: <insert_1>

説明:

示されている認識されないスタanzasが構成ファイルで見つかりました。

ユーザーの処置:

構成ファイルでは、[global]と[route]スタanzasのみが有効です。

MQCPE029 ログ出力をフラッシュすることができませんでした。

説明:

通信バッファをフラッシュできなかったため、一部のメッセージがログに書き込まれなかった可能性があります。

ユーザーの処置:

MQIPT ホーム・ディレクトリー・ファイル・システムがフルではないこと、また MQIPT に logs サブディレクトリーへの書き込みアクセス権限があることを確認してください。

MQCPE034 <insert_1>の管理クライアントが正しいパスワードを提供しませんでした。

説明:

構成ファイル内の **AccessPW** プロパティが、管理クライアントによって提供されたプロパティと一致していませんでした。

ユーザーの処置:

構成ファイル内の **AccessPW** プロパティを変更するか、管理クライアントに保存されているパスワードを変更してください。

MQCPE035 ポート <insert_1> 上のコマンド・リスナーの開始に失敗しました。

説明:

指定されたポート上のコマンド・ポート・リスナーの開始時に I/O エラーが発生しました。

ユーザーの処置:

構成ファイルの **CommandPort** プロパティに使用されているポート番号を確認してください。

MQCPE042 経路 <insert_1> で以下のプロパティが競合しています。

説明:

一部のプロパティは、他のプロパティと同時に使用できません。このメッセージの後に、競合しているプロパティのリストが続きます。

ユーザーの処置:

以下のエラー・メッセージを確認し、適切なアクションを実行してください。

MQCPE043<insert_1> および <insert_2>

説明:

指定された 2 つのプロパティの両方を、同じ経路上で同時に設定することはできません。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集して、所定の経路において、指定されたプロパティのうちの 1 つを除去してください。

MQCPE045HTTP プロキシまたはサーバー名がありません**説明:**

HTTP プロパティーが真に設定されている場合は、**HTTPProxy** プロパティーまたは **HTTPServer** プロパティーを設定する必要があります。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集して、指定された経路の **HTTPProxy** または **HTTPServer** を定義してください。

MQCPE048 経路の開始がポート <insert_1> 上で失敗しました。例外は <insert_2> です。**説明:**

指定された **ListenerPort** 番号で経路を開始することができませんでした。

ユーザーの処置:

この問題について詳細に説明している他の隣接エラー・メッセージおよびログ・レコードを確認してください。

MQCPE049 Java security manager <insert_1> の開始中または停止中にエラー**説明:**

Java security manager の開始または停止の試行中に例外がスローされました。

ユーザーの処置:

Java security manager は以前に使用可能になっていますが、実行時権限が使用可能になっていません。

RuntimePermission for **setSecurityManager** をローカル・ポリシー・ファイルに追加します。変更内容を有効にするには、MQIPT を再始動する必要があります。

MQCPE050 コマンド・ポート <insert_1> でセキュリティ例外が発生しました。必要な許可は <insert_2> です。**説明:**

指定されたコマンド・ポートの MQIPT コマンド・サーバーはコマンド・ポート上で **listen** するか接続を受け入れようとしたのですが、指定された許可が Java security manager ポリシーで付与されていなかったため、セキュリティ例外がスローされました。この例外は、MQIPT には指定のコマンド・ポートで **listen** する許可がないこと、または MQIPT には指定のホストからの接続を受け入れる許可がないことを示している場合があります。

ユーザーの処置

以下のアクションの **java.net.SocketPermission** 許可が Java security manager ポリシーで付与されていることを確認します。

• コマンド・ポートのローカル・ポート番号上の **listen**。

• コマンド・ポートへの接続を許可する任意のホストからの **accept** 接続。

ポリシーの変更を有効にするには、MQIPT をリフレッシュまたは再始動して Java security manager を再始動する必要があります。

MQCPE051 経路 <insert_1> 上で接続を受け入れ中にセキュリティ例外が起きました。**説明:**

指定された経路上で接続を受け入れ中にセキュリティ例外がスローされました。

ユーザーの処置:

Java security manager は以前に使用可能になっていますが、エラー・メッセージで特定されているホストに対する許可が付与されていません。ホストがこの経路で接続できるようにするには、**SocketPermission** を追加して、経路 **ListenerPort** プロパティーで指定されたポートの接続を受け入れ/解決します。変更を有効にするには、Java security manager を再始動する必要があります。

MQCPE052 経路 <insert_1> 上での接続要求が失敗しました : <insert_2>**説明:**

このメッセージは、接続要求のセキュリティ例外を記録するために接続ログ内に出されます。

ユーザーの処置:

Java security manager は以前に使用可能になっていますが、エラー・メッセージで特定されているホストに対する許可が付与されていません。ホストがこの経路で接続できるようにするには、**SocketPermission** を追加して、経路 **ListenerPort** プロパティーで指定されたポートの接続を受け入れ/解決します。変更を有効にするには、Java security manager を再始動する必要があります。

MQCPE053 <insert_1>(<insert_2>) への接続の確立中にセキュリティ例外が発生しました。**説明:**

指定された経路上の接続の確立中にセキュリティ例外がスローされました。

ユーザーの処置:

Java security manager は以前に使用可能になっていますが、エラー・メッセージで特定されているターゲットに対する許可が付与されていません。MQIPT がこの経路上のターゲットに接続できるようにするには、**SocketPermission** を追加して、経路 **ListenerPort** プロパティーで指定されたポートの接続/解決接続を行います。変更を有効にするには、Java security manager を再始動する必要があります。

MQCPE054 <insert_1><insert_2>への接続要求が失敗しました : <insert_3>**説明:**

このメッセージは、ターゲット・ホストへの接続要求のセキュリティ例外を記録するために接続ログ内に出されます。

ユーザーの処置:

Java security manager は以前に使用可能になっていますが、エラー・メッセージで特定されているターゲット・ホストへの接続を確立するための許可が付与されていません。MQIPT がターゲット・ホストに接続できるようにするには、**SocketPermission** を追加して、経路 **ListenerPort** プロパティで指定されたポートの接続を接続/解決します。変更を有効にするには、Java security manager を再始動する必要があります。

MQCPE055Socks プロキシ名がありません**説明:**

SocksClient プロパティが true に設定されている場合は、**SocksProxy** プロパティを設定する必要があります。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集して、指定された経路の **SocksProxy** を定義します。

MQCPE056 経路のプロパティと競合していません。**説明:**

一部のプロパティは、他のプロパティと同時に使用できません。

ユーザーの処置:

エラーの詳細についてコンソール・メッセージを確認して、適切なアクションを実行してください。

MQCPE057 SSL プロトコル(<insert_1>)が認識されません。**説明:**

経路は SSL/TLS プロキシ・モードに入っており、初期データ・フローが認識されません。

ユーザーの処置:

SSL/TLS 接続のみがこの経路に確立されていることを確認してください。

MQCPE058 <insert_1><insert_2>を介した<insert_3><insert_4>へのCONNECT 要求が失敗しました**説明:**

HTTP サーバーへの SSL トンネルを作成するための HTTP CONNECT 要求が HTTP プロキシに送信されました。HTTP プロキシはこの要求に対して「200 OK」応答を返しませんでした。

ユーザーの処置:

これは、さまざまな問題が原因となり得ます。経路上のトレースを使用可能にして、接続を再試行してください。トレース・ファイルに実際のエラーが示されます。

MQCPE059 鍵リング・ファイルが定義されていません。**説明:**

SSL クライアントまたはサーバーが、少なくとも 1 つの鍵リング・ファイルを指定せずに定義されています。

ユーザーの処置:

クライアント・サイドの **SSLClientKeyRing** プロパティと **SSLClientCAKeyRing** プロパティ、またはサーバー・サイドの **SSLServerKeyRing** プロパティと **SSLServerCAKeyRing** プロパティを使用して、鍵リング・ファイルを定義してから、経路を再始動します。

MQCPE060 SSL クライアント接続タイムアウトを<insert_1>秒に設定中に実行時エラーが起きました。**説明:**

タイムアウト値の設定中に、クライアント・サイドで SSL 実行時エラーが発生しました。

ユーザーの処置:

SSLClientConnectTimeout プロパティに指定された値が有効であることを確認してください。所定の経路でトレースを実行すると、詳細なエラー情報が示されます。

MQCPE061 使用可能な暗号スイートがありません。**説明:**

SSL クライアントまたはサーバー接続は開始していますが、MQIPT は有効な暗号スイートを特定できません。

ユーザーの処置:

定義された鍵リング・ファイル内に有効な証明書が存在することを確認してください。証明書を生成するために使用される秘密鍵と公開鍵、および使用される暗号化アルゴリズムは、サポートされる暗号スイートのリストに準拠する必要があります。MQIPT でサポートされる暗号スイートのリストについては、[MQIPT でサポートされる CipherSuites](#) を参照してください。

MQCPE062 SSL 暗号スイート<insert_1>を設定中に実行時エラーが起きました。**説明:**

クライアント・サイドまたはサーバー・サイドで、サポートされない SSL 暗号スイートが定義されています。

ユーザーの処置:

SSLClientCipherSuites または **SSLServerCipherSuites** に指定された値が有効であり、この接続でサポートされていることを確認してください。所定の経路でトレースを実行すると、使用可能な暗号スイートのリストが示されます。MQIPT でサ

ポートされる暗号スイートのリストについては、MQIPT でサポートされる **CipherSuite** を参照してください。

MQCPE063 ファイル <insert_1> は既に存在し
ます。 **replace** オプションを使って
ください。

説明:

mqiptPW コマンドに対して指定されたファイル名パラ
メーターが既に存在しています。

ユーザーの処置:

別のファイル名を選択するか、**replace** オプションを使
用してください。

MQCPE064 暗号解除鍵の生成中に実行時エラ
ーが起きました :%n <insert_1>

説明:

鍵リング・ファイルを開くために使用されるパスワード
を暗号解除するための暗号鍵の生成中にエラーが発生
しました。

ユーザーの処置:

メッセージにリストされた実行時エラーを修正して、コ
マンドを再実行してください。

MQCPE065 LDAP サーバー名がありません

説明:

LDAP プロパティが真に設定されている場合は、
LDAPServer1 プロパティまたは **LDAPServer2** プ
ロパティを設定する必要があります。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集して、指定された経路の
LDAPServer*を定義します。

MQCPE066 LDAP サーバー <insert_1> の
LDAP パスワードがありません。

説明:

メインまたはバックアップ LDAP サーバーの LDAP ユ
ーザー ID が、パスワードを指定せずに指定されていま
す。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集して、所定の経路の LDAP パスワ
ードを定義してください。 **LDAPServer1Password** プ
ロパティはメイン・サーバー用で、
LDAPServer2Password プロパティはバックアッ
プ・サーバー用です。

MQCPE067 LDAP サーバーの **SSLClient** また
は **SSLServer** がありません

説明:

LDAP プロパティが true に設定されている場合は、
SSLClient または **SSLServer** プロパティを設定す
る必要があります。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集して、指定された経路の
SSLClient または **SSLServer** を定義してください。

MQCPE068 セキュリティ出口名がありません

説明:

SecurityExit プロパティが真に設定されている場
合は、**SecurityExitName** プロパティを設定する必
要があります。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集して、指定された経路の
SecurityExitName を定義します。

MQCPE071 <insert_1> への書き込みエラー

説明:

暗号化されたパスワードが含まれるファイルの作成ま
たは更新中にエラーが発生しました。 このエラー・メ
ッセージには、スローされた例外も含まれています。

ユーザーの処置:

このエラーは、**mqiptPW** コマンドから生成されます。
例外にリストされたエラーを修正して、コマンドを再実
行してください。

MQCPE072 セキュリティ出口 <insert_1> で
不明のエラーが起きました。

説明:

接続要求の検証中に、ユーザー定義セキュリティ出口
でエラーが発生しました。

ユーザーの処置:

セキュリティ出口でトレースを使用可能にして、接続
要求を再試行してください。 セキュリティ出口トレ
ース・ファイルにエラーが記録されます。

MQCPE073 セキュリティ出口 <insert_1> が
タイムアウトしました。

説明:

接続要求の検証中に、ユーザー定義セキュリティ出口
がタイムアウトしました。

ユーザーの処置:

セキュリティ出口のタイムアウト期間を延長して、接
続要求を再試行してください。

MQCPE074 証明書出口名がありません

説明:

SSLClientExit または **SSLServerExit** プロパティ
が真に設定されている場合は、**SSLExitName** プロパ
ティを設定する必要があります。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集して、指定された経路の
SSLExitName を定義します。

MQCPE075 **SSLPlainConnections** では、
SSLServer または **SSLProxyMode**
を有効にする必要があります。

説明:

SSLClientExit または **SSLServerExit** プロパティが真に設定されている場合は、**SSLExitName** プロパティを設定する必要があります。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集して、指定された経路の **SSLExitName** を定義します。

MQCPE076 経路 <insert_1> のプロパティ <insert_2> にサポートされない **CipherSuites** が含まれています。次の **CipherSuites** はサポートされません: <insert_3>

説明:

少なくとも 1 つのサポートされない暗号スイートが **SSLClientCipherSuites** または **SSLServerCipherSuites** プロパティに含まれていました。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集して、サポートされない暗号スイートを経路構成から削除してください。

MQCPE077 経路 <insert_1> のプロパティ <insert_2> はファイル・ロケーション <insert_3> を指定していますが、これは存在しません。

説明:

経路のプロパティが存在しないファイルまたはディレクトリを参照しています。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集して、ファイルまたはディレクトリの正しい場所を指定してください。

MQCPE078 経路 <insert_1> のプロパティ <insert_2> はファイル・ロケーション <insert_3> を指定していますが、これを読み取ることができません。

説明:

経路のプロパティが、読み取ることができないファイルを参照しています。

ユーザーの処置:

MQIPT でそれを読み取る操作がファイル許可で許可されていることを確認してください。

MQCPE079 経路 <insert_1> のサイト証明書ラベル <insert_2> が鍵リング・ファイル <insert_3> 内に見つかりませんでした。

説明:

指定された経路の定義にサイト証明書ラベルが指定されましたが、そのラベルの個人証明書が鍵リング・ファイルに見つかりませんでした。

ユーザーの処置:

正しいサイト証明書ラベルが指定されていること、およびそのラベルを持つ個人証明書が適切な鍵リングに存在することを確認してください。

MQCPE080 **MQIPT** インストール・ディレクトリを判別できません。
MQIPT_PATH 環境変数を最上位 **MQIPT** ディレクトリの絶対パスに設定してください。

説明:

MQIPT コマンドはインストール・ディレクトリを判別できませんでした。

ユーザーの処置:

MQIPT_PATH 環境変数を最上位の MQIPT ディレクトリの絶対パスに設定します。

MQCPE081 **MQIPT_PATH** <insert_1> は無効です。ディレクトリが存在しないか、または有効な **MQIPT** インストール済み環境が含まれていません。

説明:

MQIPT_PATH 環境変数が正しく設定されていません。ディレクトリが存在しないか、ディレクトリが MQIPT インストールではありません。

ユーザーの処置:

MQIPT_PATH 環境変数が正しく設定されていることを確認し、コマンドを再実行してください。

MQCPE082 サービスが既にインストールされているため、**MQIPT** サービスをインストールできません。同時にインストールできる **MQIPT** サービスは 1 つのみです。

説明:

ユーザーが MQIPT サービスをインストールしようとしたが、MQIPT サービスは既にインストールされています。システムに同時にインストールできる MQIPT サービスは 1 つのみです。

ユーザーの処置:

必要な経路を既存の MQIPT サービス構成にマージするか、既存のサービスを削除して代わりに新しいサービスをインストールしてください。

MQCPE083 インストールされているサービスは現在の **MQIPT** インストールによりインストールされたものではないため、**MQIPT** サービスを削除できません。このサービスをインストールした **MQIPT** インストールから **mqiptService** を実行してください。

説明:

MQIPT サービスは、そのサービスをインストールした本来の MQIPT インストールを使用した場合のみ削除できます。このエラーは、システム上に複数の MQIPT インストールがあり、対象となる MQIPT サービスをインストールした本来のインストールとは別のインストールを使用してそのサービスを削除しようとした場合に発生します。

ユーザーの処置:

正しい MQIPT インストール済み環境からコマンド **mqiptService -remove** を実行します。

MQCPE084 MQIPT サービスはインストールされていません。

説明:

ユーザーは MQIPT サービスを削除しようとしたが、MQIPT サービスはインストールされていません。

MQCPE085 Java security manager policy\

説明:

Java security manager ポリシーのリフレッシュの試行中に例外がスローされました。

ユーザーの処置:

エラーの原因を調査して、更新されたポリシー・ファイルが正しい構文であることを確認してください。

MQCPE086 エラー <insert_3> のため、経路 <insert_2> のセキュリティー出口 <insert_1> の初期化に失敗しました。

説明:

セキュリティー出口初期化メソッドが予期しないエラーを返しました。これにより経路を開始できません。

ユーザーの処置:

エラーの原因を調査して、経路を再始動してください。

MQCPE087 エラー <insert_3> のため、経路 <insert_2> のセキュリティー出口 <insert_1> のロードに失敗しました。

説明:

セキュリティー出口をロードできませんでした。これにより経路を開始できません。

ユーザーの処置:

出口ロード・エラーの原因を調査して、経路を再始動してください。

MQCPE088 エラー <insert_3> のため、経路 <insert_2> の証明書出口 <insert_1> の初期化に失敗しました。

説明:

証明書出口初期化メソッドが予期しないエラーを返しました。これにより経路を開始できません。

ユーザーの処置:

エラーの原因を調査して、経路を再始動してください。

MQCPE089 エラー <insert_3> のため、経路 <insert_2> の証明書出口 <insert_1> のロードに失敗しました。

説明:

証明書出口をロードできませんでした。これにより経路を開始できません。

ユーザーの処置:

出口ロード・エラーの原因を調査して、経路を再始動してください。

MQCPE090 セキュリティー出口は、戻りコード <insert_1> およびエラー <insert_2> で接続を拒否しました。

説明:

セキュリティー出口が経路リスナー・ポートへの接続を拒否しました。

ユーザーの処置:

出口によって返されたエラーを調査してください。

MQCPE091 SSLClient 証明書出口は、戻りコード <insert_1> およびエラー <insert_2> で接続を拒否しました。

説明:

SSL クライアント証明書出口はリモート・サーバー証明書を拒否しました。

ユーザーの処置:

出口によって返されたエラーを調査してください。

MQCPE092 SSLServer 証明書出口は、戻りコード <insert_1> およびエラー <insert_2> で接続を拒否しました。

説明:

SSL サーバー証明書出口がリモート・クライアント証明書を拒否しました。

ユーザーの処置:

出口によって返されたエラーを調査してください。

MQCPE093 グローバル・プロパティー <insert_1> はファイル・ロケーション <insert_2> を指定していますが、これは存在しません。

説明:

グローバル・プロパティーが存在しないファイルまたはディレクトリーを参照しています。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集して、ファイルまたはディレクトリーの正しい場所を指定してください。

MQCPE094 グローバル・プロパティー <insert_1> はファイル・ロケーション <insert_2> を指定していますが、これは読み取ることができません。

説明:

グローバル・プロパティーが、読み取ることができないファイルを参照しています。

ユーザーの処置:

MQIPT でそれを読み取る操作がファイル許可で許可されていることを確認してください。

MQCPE095 MQIPT インストール・ディレクトリー <insert_1> には、このプラットフォーム上のスペースを含めることはできません。

説明:

MQIPT インストール・ディレクトリーにスペース文字が含まれています。これは、AIX でも Linux でもサポートされていません。

ユーザーの処置:

インストール・ディレクトリーの名前を変更して、スペースが含まれないようにしてください。

MQCPE096 TCP キープアライブを使用可能にするときにエラーが発生しました。

説明:

TCP キープアライブ経路プロパティが設定されていますが、MQIPT は TCP キープアライブを使用可能にできませんでした。

ユーザーの処置:

障害の原因を調査するか、TCP キープアライブを使用不可にしてください。

MQCPE097HTTPS 通信では SSLClient を true にする必要があります

説明:

HTTPS が真に設定されている場合は、SSLClient プロパティを真に設定する必要があります。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集し、指定された経路の真として SSLClient を定義します。

MQCPE098SSLClient と HTTP の両方が true に設定されている場合、HTTPS を true にする必要があります

説明:

HTTP および SSLClient が真に設定されている場合は、HTTPS プロパティを真に設定する必要があります。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集し、指定された経路の真として HTTPS を定義します。

MQCPE099 経路 <insert_2> 上の <insert_1> では、MQ Advanced の機能が有効になっていることが必要です

説明:

経路に指定されたプロパティの 1 つについて、IBM MQ Advanced の拡張機能が必要とされています。しかし、それらの機能が有効になっていません。

ユーザーの処置:

IBM MQ Advanced、IBM MQ Advanced for z/OS、IBM MQ Advanced for z/OS VUE、または IBM MQ Appliance の資格がある場合は、

EnableAdvancedCapabilities プロパティを使

用して IBM MQ Advanced の拡張機能を有効にします。経路で IBM MQ Advanced 機能を使用するには、その経路を使用して接続されているローカル・キュー・マネージャーにも、IBM MQ Advanced、IBM MQ Advanced for z/OS、IBM MQ Advanced for z/OS VUE、または IBM MQ Appliance の資格が必要です。

MQCPE100 経路 <insert_1> のサイト証明書ラベル <insert_2> が、暗号化ハードウェア鍵ストア <insert_3> 内に見つかりませんでした。

説明:

指定された経路の定義にサイト証明書ラベルが指定されましたが、そのラベルの個人証明書が暗号ハードウェア鍵ストアに見つかりませんでした。

ユーザーの処置:

正しいサイト証明書ラベルが指定されていること、およびそのラベルを持つ個人証明書が鍵ストアに存在することを確認してください。

MQCPE101 指定されたパスワード保護モードが無効です。

説明:

mqiptPW コマンドのパラメーターとして無効なパスワード保護モードが指定されました。

ユーザーの処置:

有効な保護モードを指定して、mqiptPW コマンドを再実行してください。

MQCPE102 暗号鍵ファイルはパスワード保護モード <insert_1> と共に指定できません。

説明:

パスワード暗号鍵ファイルが mqiptPW コマンドのパラメーターとして指定されましたが、指定されたパスワード保護モードと共に暗号鍵を使用することはできません。

ユーザーの処置:

有効なパラメーターの組み合わせを指定して、mqiptPW コマンドを再実行してください。

MQCPE103 暗号鍵ファイル <insert_1> が存在しないか、読み取ることができません

説明:

MQIPT または mqiptPW コマンドで使用するために暗号鍵ファイルが指定されましたが、そのファイルは存在していないか、またはそのファイルにアクセスできません。

ユーザーの処置:

暗号鍵ファイルが存在し、MQIPT または mqiptPW コマンドを実行しているユーザーにそのファイルの読み取り権限があり、正しい暗号鍵ファイルが指定されていることを確認してください。

MQCPE104 パスワード <insert_1> を暗号化中にエラーが発生しました**説明:**

パスワードを暗号化中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置:

このメッセージに続く例外でエラーの原因を調査してください。

MQCPE105 暗号化鍵ファイル <insert_1> の読み取り中にエラーが発生しました**説明:**

パスワード暗号化鍵ファイルを読み取り中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置:

正しい暗号化鍵ファイルが指定されていること、およびそのファイルが MQIPT または `mqiPTPW` コマンドを実行するユーザーによって読み取り可能であることを確認してください。

MQCPE106 プロパティ <insert_1> のパスワードを復号中にエラーが発生しました**説明:**

指定されたプロパティの暗号化されたパスワードを復号できませんでした。

ユーザーの処置:

プロパティの値、またはプロパティが参照するファイルの内容が、このバージョンの MQIPT でサポートされるパスワード保護モードを指定して `mqiPTPW` コマンドを実行した場合の出力であることを確認してください。

MQCPE107 暗号化パスワード・ファイル <insert_1> の読み取り中にエラーが発生しました**説明:**

暗号化されたパスワードを含むファイルを読み取り中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置:

正しいパスワード・ファイルが指定されていること、およびそのファイルが MQIPT を実行するユーザーによって読み取り可能であることを確認してください。

MQCPE108 プロパティ <insert_1> はプロパティ <insert_2> と共に指定できません**説明:**

ここに示されている 2 つのプロパティは、MQIPT 構成にその両方を指定することができません。

ユーザーの処置:

MQIPT 構成を編集して、示されているプロパティのいずれか 1 つのみ指定してください。

MQCPE109 暗号化鍵ファイル <insert_1> が正しい形式ではありません。**説明:**

指定されたパスワード暗号化鍵ファイルの内容が正しい形式ではありません。

ユーザーの処置:

パスワード暗号化鍵ファイルに少なくとも 1 文字が含まれ、1 行のテキストしか含まれていないことを確認してください。

MQCPE110 名前が <insert_1> の MQIPT は既にアクティブです**説明:**

MQIPT は、ローカル・マシン上で既にアクティブになっている同じ名前の MQIPT のインスタンスがあるため、開始できません。

ユーザーの処置:

開始する MQIPT のインスタンスに固有の名前を指定して、MQIPT を開始するコマンドを発行します。

MQCPE111 ローカル管理を使用できません**説明:**

コマンド・ポートを使用しないで MQIPT のローカル・インスタンスを管理することができません。

ユーザーの処置:

MQIPT インストール済み環境が破損していないこと、および MQIPT または `mqiPTAdmin` コマンドの開始時に使用された Java runtime environment が MQIPT で提供されているものであることを確認してください。問題が解決しない場合には、IBM サービス担当員に連絡してください。

MQCPE112 コマンド・ポート <insert_1> のサイト証明書ラベル <insert_2> が鍵リング・ファイル <insert_3> 内に見つかりませんでした。**説明:**

指定されたポートで listen しているコマンド・サーバーに対してサイト証明書ラベルが指定されましたが、そのラベルの個人証明書が鍵リング・ファイルに見つかりませんでした。

ユーザーの処置:

正しいサイト証明書ラベルが指定されていること、およびそのラベルを持つ個人証明書が適切な鍵リングに存在することを確認してください。

MQCPE113 コマンド・ポート <insert_1> のサイト証明書ラベル <insert_2> が暗号化ハードウェア鍵ストア <insert_3> 内に見つかりませんでした。**説明:**

指定されたポートで listen しているコマンド・サーバーに対してサイト証明書ラベルが指定されましたが、そのラベルの個人証明書が暗号ハードウェア鍵ストアに見つかりませんでした。

ユーザーの処置:

正しいサイト証明書ラベルが指定されていること、およびそのラベルを持つ個人証明書が鍵ストアに存在することを確認してください。

MQCPE114 <insert_1> では、MQ Advanced の機能が有効になっていることが必要です

説明:

指定されたプロパティの 1 つについて、IBM MQ Advanced の拡張機能が必要とされています。しかし、それらの機能が有効になっていません。

ユーザーの処置:

IBM MQ Advanced、IBM MQ Advanced for z/OS、IBM MQ Advanced for z/OS VUE、または IBM MQ Appliance の資格がある場合は、

EnableAdvancedCapabilities プロパティを使用して IBM MQ Advanced の拡張機能を有効にします。

MQCPE115 ポート <insert_1> にあるコマンド・サーバーは、次のエラーのために開始しませんでした: <insert_2>

説明:

いずれかのコマンド・ポートにあるコマンド・サーバーは、示されたエラーのために開始しませんでした。

ユーザーの処置:

エラー・メッセージに示されている問題を修正してください。その後、リフレッシュ・コマンドを発行してコマンド・サーバーを再始動します。

MQCPE116 リフレッシュ中に構成エラーが検出されました

説明:

MQIPT は、リフレッシュ・プロセス中に、いくつかの構成プロパティの値でエラーを検出しました。このエラーの影響を受けるプロパティの有効な値が変更されていません。

ユーザーの処置:

先行するメッセージに示されている問題を修正してから、リフレッシュ・コマンドを再発行してください。

MQCPE117 無効なデータを受信しました

説明

MQIPT 経路が IBM MQ プロトコルに準拠していない無効データを受信しました。

このメッセージは、接続アクティビティを記録するために接続ログに出されます。

ユーザーの処置:

MQIPT 経路リスナー・ポートへの接続が有効な IBM MQ 接続であることを確認してください。

MQCPE118 伝送長 <insert_1> が、最大伝送サイズ <insert_2> を超えています。

説明

MQIPT 経路によって受信されたデータの示す伝送長が、経路の最大伝送サイズを超えています。これは、データが無効であるか、IBM MQ プロトコルに準拠していないことを示している可能性があります。

このメッセージは、接続アクティビティを記録するために接続ログに出されます。

ユーザーの処置:

IBM MQ のクライアントおよびキュー・マネージャーのみが MQIPT 経路リスナー・ポートに接続していることを確認してください。

MQCPE119 MQIPT サービスは、このオペレーティング・システムではサポートされていません。

説明:

MQIPT サービスは、オペレーティング・システムが System V init をサポートしていないため、このオペレーティング・システムではサポートされません。

ユーザーの処置:

MQIPT を自動的に開始するには、systemd on Linux などの別の方法を使用します。

MQCPE120 次のエラーのため、鍵リング <insert_1> をロードできませんでした: <insert_2>

説明:

示されたエラーのため、鍵リング・ファイルをロードできませんでした。

ユーザーの処置:

指定された鍵リングが PKCS #12 鍵リングであること、MQIPT を開始したユーザー ID がファイルへの読み取りアクセス権を持っていること、および MQIPT 構成が鍵リングの正しいパスワードを指定していることを確認してください。

MQCPE121 次のエラーのため、暗号ハードウェア鍵ストアをロードできませんでした: <insert_1>

説明:

示されたエラーのため、PKCS #11 暗号ハードウェア鍵ストアをロードできませんでした。

ユーザーの処置:

MQIPT を実行する Java runtime environment (JRE) が暗号ハードウェア鍵ストアにアクセスするように正しく構成されていること、および MQIPT 構成で暗号ハードウェア鍵ストアの正しいパスワードが指定されていることを確認してください。

MQCPE122 <insert_1> プロトコルは使用できません。

説明:

指定されたプロトコルを受け入れるように経路が構成されていないため、接続は拒否されます。

ユーザーの処置:

AllowedProtocols プロパティを使用して、経路で受け入れられるプロトコルを構成します。

MQCPI001 <insert_1> が開始しています

説明:

この MQIPT インスタンスが実行を開始しています。詳細な初期化メッセージが続きます。

MQCPI002 <insert_1> シャットダウン中

説明:

MQIPT がシャットダウンしようとしています。このシャットダウンは、**STOP** コマンドの結果生じる場合や、構成エラーのために正常な開始や **REFRESH** アクションが行われない場合に自動的に起こる場合もあります。

MQCPI003 <insert_1> シャットダウン完了

説明:

シャットダウン・プロセスが完了しました。すべての MQIPT プロセスが終了しています。

MQCPI004 <insert_1> から構成情報を読み取り中

説明:

MQIPT 構成ファイル **mqipt.conf** がこのメッセージに示されているディレクトリーから読み込まれています。

MQCPI005 指定されたリスナー・ポートがアクティブではありません - <insert_1> -> <insert_2><insert_3>

説明:

このメッセージで参照されている経路が非アクティブとしてマークされています。この経路では通信要求は一切受け入れられません。

MQCPI006 経路 <insert_1> が開始し、メッセージを次に転送します:

説明:

このポートで示されているリスナー・ポートで経路が開始されました。このメッセージの後に、この経路に関連するすべてのプロパティをリストした他のメッセージが続きます。経路が接続を受け入れることができる状態になると、メッセージ MQCPI078 が出されます。

MQCPI007 経路 <insert_1> は停止しました。

説明:

指定されたリスナー・ポートで作動していた経路がシャットダウンしようとしています。このアクションは、通常、**REFRESH** コマンドを MQIPT に発行し、経路構成が変更された場合に発生します。

MQCPI008 ローカル・アドレス <insert_2> 上のポート <insert_1> で制御コマンドを listen しています

説明:

この MQIPT インスタンスは、示されたポートでとローカル・アドレスで制御コマンドを listen しています。アスタリスク (*) は、MQIPT がすべてのネットワーク・インターフェース上でコマンドを listen していることを示します。

MQCPI009 制御コマンドを受信しました:
<insert_1>

説明:

このメッセージは、制御コマンドがコマンド・ポートで受信されたことを示しています。該当する場合は、詳細がこのメッセージに含まれます。

MQCPI010 <insert_1> 上でコマンド・ポートを停止しています。

説明:

新しい構成では、**REFRESH** 操作時にこのコマンド・ポートは使用されません。コマンドは、指定されたポートで受信されません。

MQCPI011 ログ・ファイルの保管にパス <insert_1> が使用されます。

説明:

現在の構成では、ロギング出力はこのメッセージに示されている場所に送信されます。

ユーザーの処置:

構成が変更され、**REFRESH** 操作が要求された場合、これが変更される場合があります。

MQCPI012 経路の開始後は、**MinConnectionThreads** の値を変えても効果はありません。

説明:

経路の開始時に接続スレッドの最小数が割り当てられます。この値は MQIPT が再始動するまで変更できません。

MQCPI013 <insert_1> からホスト <insert_2> への接続がクローズされました。

説明:

このメッセージは、接続アクティビティを記録するために接続ログに出されます。

MQCPI014 プロトコルの目印 (<insert_1>) は認識されません

説明:

このメッセージは、接続アクティビティを記録するために接続ログに出されます。

MQCPI015 この経路ではクライアント・アクセスが使用できません。

説明:

このメッセージは、接続アクティビティを記録するために接続ログに出されます。

MQCPI016 この経路ではキュー・マネージャー・アクセスが使用できません。

説明:

このメッセージは、接続アクティビティを記録するために接続ログに出されます。

MQCPI017 <insert_1> 上のキュー・マネージャがホスト <insert_2> に接続しました。

説明:

このメッセージは、接続アクティビティを記録するために接続ログに出されます。

MQCPI018 <insert_1> 上のクライアントがホスト <insert_2> に接続しました。

説明:

このメッセージは、接続アクティビティを記録するために接続ログに出されます。

MQCPI019 <insert_1> 経路が作成されました。これは、サポートされている経路の最大数である <insert_2> を超えています。

説明:

サポートされる最大経路数を超過しました。

ユーザーの処置:

MQIPT は引き続き作動しますが、2 番目の MQIPT インスタンスを作成して 2 つのインスタンス間で経路を分割することをお勧めします。

MQCPI021 コマンド・ポートでパスワード検査が使用可能になっています。

説明:

コマンド・ポートにアクセスするにはパスワードが必要です。

MQCPI022 コマンド・ポートでパスワード検査が使用不可にされています。

説明:

コマンド・ポートにアクセスするためにパスワードは必要ありません。コマンド・ポートでパスワード認証を構成するには、**RemoteCommandAuthentication** プロパティと **AccessPW** プロパティの両方を設定します。

MQCPI024および <insert_1>(<insert_2>) の HTTP プロキシ

説明:

このメッセージは、この経路の発信接続が HTTP プロキシを使用して確立されることを示しています。

MQCPI025 管理クライアント <insert_1> が要求したリフレッシュが終了しました。

説明:

REFRESH コマンドを受信した結果として、MQIPT は構成ファイルを読み取って再始動しています。

MQCPI026 管理クライアント <insert_1> がシャットダウンを要求しました。

説明:

STOP コマンドを受信した結果として、MQIPT はシャットダウンしています。

MQCPI027 <insert_1> コマンドがポート <insert_3> 上の <insert_2> の MQIPT に送信されました。

説明:

示されたコマンドは、管理クライアントによって、示されたネットワーク・アドレスおよびコマンド・ポートの MQIPT に送信されました。

MQCPI031暗号スイート <insert_1>

説明:

このメッセージは、この経路またはコマンド・ポートで使用されている暗号スイートをリストしています。

MQCPI032鍵リング・ファイル <insert_1>

説明:

このメッセージは、この経路またはコマンド・ポートの鍵リングのファイル名を示しています。

MQCPI033クライアント認証を <insert_1> に設定

説明:

このメッセージは、SSL サーバーがこの経路のクライアント認証を要求しているかどうかを定義します。

MQCPI034<insert_1>(<insert_2>)

説明:

このメッセージは、この経路の宛先および宛先ポート・アドレスを示しています。

MQCPI035 <insert_1> プロトコルの使用

説明:

このメッセージは、経路の宛先に対して使用されているプロトコルを示しています。

MQCPI036プロパティによる SSL クライアント・サイドの有効化:

説明:

このメッセージは、経路が SSL/TLS を使用してデータを宛先ホストに送信することを示しています。

MQCPI037SSL サーバー・サイドの有効化(プロパティあり):

説明:

このメッセージは、経路が SSL/TLS を使用して送信元ホストからデータを受信することを示しています。

MQCPI038ピア証明書は <insert_1> を使用

説明:

このメッセージは、ピア証明書の認証を制御するために使用される識別名をリストしています。

MQCPI039および <insert_1><insert_2> の SOCKS プロキシ**説明:**

このメッセージは、この経路の発信接続が、指定された SOCKS プロキシを使用して確立されることを示しています。

MQCPI040 コマンド・ポート <insert_1> は、管理クライアントによってネットワーク・アドレス <insert_2> からアクセスされました**説明:**

示されたポートで listen している MQIPT コマンド・サーバーは、示されたリモート・ネットワーク・アドレスで、管理クライアントからの接続を受信しました。

MQCPI042 経路 <insert_1> で最大接続に達しました。これ以後の要求はブロックされます。**説明:**

このメッセージは、所定の経路の接続が最大数に達した場合にシステム・コンソールに書き出されます。接続が解放されるか、MaxConnectionThreads 値が増やされるまで、以降の要求はブロックされます。

MQCPI043 経路 <insert_1> 上の接続がブロック解除されました。**説明:**

このメッセージは、所定の経路で接続要求に対するブロックが解除されたときにシステム・コンソールに書き出されます。

MQCPI047CA 鍵リング・ファイル <insert_1>**説明:**

このメッセージは、この経路の CA 鍵リングのファイル名を示しています。

MQCPI048 管理クライアント <insert_1> による PING が終了しました。**説明:**

IPTController から管理クライアントへの応答メッセージ。

MQCPI050 システムの始動時に MQIPT が自動的に開始するように、inittab にエントリーを追加しています。**説明:**

ユーザーは mqiptService スクリプトを実行して、MQIPT をシステム・サービスとして開始しました。

MQCPI051 システムの始動時に MQIPT を自動的に開始する inittab からエントリーを削除しています。**説明:**

ユーザーは mqiptService スクリプトを実行して、MQIPT がシステム・サービスとして開始されないようにしました。

MQCPI052Socks サーバー・サイド使用可能**説明:**

この経路は SOCKS サーバー (プロキシ) として機能し、SOCKS 化されたアプリケーションからの接続を受け入れます。

MQCPI053 Java security manager の開始**説明:**

SecurityManager プロパティが true に設定されているため、デフォルトの Java security manager が開始されます。

MQCPI054 Java security manager の停止**説明:**

SecurityManager プロパティが false に設定されているため、デフォルトの Java security manager は停止します。

MQCPI055 java.security.policy を <insert_1> に設定しています。**説明:**

デフォルトの Java security manager が間もなく開始され、提供されたポリシー・ファイルが使用されます。

MQCPI057トレース・レベル <insert_1> 有効**説明:**

このメッセージは、この経路で有効にされているトレースのレベルを示すため、経路の開始時にシステム・コンソールに書き出されます。

MQCPI058 および <insert_1> の URI 名**説明:**

このメッセージは、この経路の Uniform Resource Identifier 名を示すため、経路の開始時にシステム・コンソールに書き出されます。

MQCPI060 システムの始動時に MQIPT が自動的に開始するように、ファイルをインストールしています。**説明:**

ユーザーは mqiptService スクリプトを実行して、MQIPT をシステム・サービスとして開始しました。

MQCPI061 システムの始動時に MQIPT を自動的に開始するファイルを削除しています。**説明:**

ユーザーは mqiptService スクリプトを実行して、MQIPT がシステム・サービスとして開始されないようにしました。

MQCPI064このルートには、SSL 認証が存在しません

説明:

このメッセージは、経路が開始したときにシステム・コンソールに書き出され、匿名暗号スイートが指定されているためにこの経路で使用されている SSL 認証がないことを示しています。

MQCPI066 および <insert_1>(<insert_2>) の HTTP サーバー

説明:

このメッセージは、この経路の発信接続がこの HTTP サーバーを使用して確立されることを示しています。

MQCPI069新規接続を作成するときにローカル・アドレス <insert_1> にバインド

説明:

このメッセージは、各新規接続が宛先アドレスに対してバインドされるローカル IP アドレスを示しています。これは、マルチホーム・システムのみで使用する必要があります。

MQCPI070新規接続を作成するときにローカル・ポート・アドレス範囲を <insert_1>-<insert_2> を使用

説明:

このメッセージは、新規接続に使用されるローカル・ポート・アドレスを示しています。これにより、ファイアウォール管理者は MQIPT からの接続を制限できます。

MQCPI071サイト証明書は <insert_1> を使用

説明:

このメッセージは、サイト証明書の選択を制御するために使用される識別名をリストしています。

MQCPI072および証明書ラベル <insert_1>

説明:

このメッセージは、サイト証明書の選択を制御するために使用されるラベル名をリストしています。

MQCPI073 ファイル <insert_1> が更新されました。

説明:

指定されたファイルは mqiptPW コマンドによって更新されました。

MQCPI074 ファイル <insert_1> が作成されました。

説明:

指定されたファイルは mqiptPW コマンドによって作成されました。

MQCPI075<insert_1>(<insert_2>) の LDAP メイン・サーバー

説明:

このメッセージは、CRL サポートに使用されるメイン LDAP サーバーの名前をリストしています。

MQCPI076<insert_1>(<insert_2>) の LDAP バックアップ・サーバー

説明:

このメッセージは、CRL サポートに使用されるバックアップ LDAP サーバーの名前をリストしています。

MQCPI077LDAP エラーは無視されます

説明:

このメッセージは、LDAP から受信したすべてのエラーが無視されることを意味しています。

MQCPI078 経路 <insert_1> は接続要求を受け入れます。

説明:

このメッセージは、経路が接続要求を受け入れることができる状態になると表示されます。

MQCPI079セキュリティ出口 <insert_1> を使用

説明:

このメッセージは、セキュリティ出口の完全修飾名を示すため、経路の開始時にシステム・コンソールに書き出されます。

MQCPI080およびタイムアウト <insert_1> 秒

説明:

このメッセージは、セキュリティ出口または証明書出口のタイムアウト値を示すため、経路の開始時にシステム・コンソールに書き出されます。

MQCPI083最新表示コマンドはルートを再開しません

説明:

このメッセージは、リフレッシュ・コマンドが発行されても経路が再始動しないことを示しています。

MQCPI084CRL キャッシュの有効期限タイムアウトは <insert_1> 時間です。

説明:

このコンソール・メッセージは、CRL (または ARL) が MQIPT キャッシュ内に留まっている時間を表示します。

MQCPI085CRL は鍵リング・ファイルに保管されます。

説明:

このコンソール・メッセージは、LDAP サーバーから取得されたすべての CRL (または ARL) が関連する CA 証明書に接続された鍵リング・ファイルに保存されることを意味します。

MQCPI086タイムアウト <insert_1> 秒

説明:

このメッセージは、LDAP サーバーへの接続のためのタイムアウト値を示すため、経路の開始時にシステム・コンソールに書き出されます。

MQCPI087ユーザー ID は <insert_1>**説明:**

このメッセージは、LDAP サーバーに接続するためのユーザー ID 名を示すため、経路の開始時にシステム・コンソールに書き出されます。

MQCPI088バッファ・サイズ <insert_1>**説明:**

このメッセージは、使用されるバッファのサイズを示すため、その値が 65535 でない場合にのみ、経路の開始時にシステム・コンソールに書き出されます。この値は、デフォルトの 65535 の値より大きい場合のみ使用されます。

MQCPI090検索 baseDN は <insert_1> を使用**説明:**

このメッセージは、CRL (および ARL) を取り出すための LDAP baseDN キー名を示すため、経路の開始時にシステム・コンソールに書き出されます。

MQCPI091単純接続を許可します**説明:**

このメッセージは、SSL サーバーとして機能している場合、または SSL プロキシ・モードで実行している場合に、非暗号化接続が許可されていることを示すため、経路の開始時にシステム・コンソールに書き出されます。

MQCPI092ソケット・タイムアウト <insert_1> ミリ秒**説明:**

このメッセージは、ソケット・タイムアウト値(ミリ秒単位)を示しています。

MQCPI127全二重モード**説明:**

このメッセージは、宛先に対して使用されている HTTP プロトコルが全二重モードで作動していることを示しています。

MQCPI128半二重モード**説明:**

このメッセージは、宛先に対して使用されている HTTP プロトコルが半二重モードで作動していることを示しています。

MQCPI129証明書出口 <insert_1> を使用**説明:**

このメッセージは、経路の開始時にシステム・コンソールに書き出されます。証明書出口の完全修飾名を示すために使用されます。

MQCPI130 宛先への接続に失敗したため、発信者への接続はクローズされました。**説明:**

このメッセージは、MQIPT がターゲット宛先への接続に失敗したときに、呼び出し元へのクローズされた接続の接続ログに書き込まれます。

ユーザーの処置:

クローズの理由について、以前の接続失敗を参照してください。

MQCPI131および証明書出口データ "<insert_1>"**説明:**

このメッセージは、経路の開始時にシステム・コンソールに書き出されます。証明書出口のデータを示すために使用されます。

MQCPI132ローカル・アドレス <insert_1> で listen**説明:**

このメッセージは、経路が listen しているローカル IP アドレスを示しています。これは、マルチホーム・システムのみで使用する必要があります。

MQCPI138 Java security manager ポリシーがリフレッシュされました。**説明:**

Java security manager は使用可能なままで、ポリシーが再読み取りされました。これで、セキュリティー・ポリシーに対するすべての変更が有効になります。

MQCPI139セキュア・ソケット・プロトコル <insert_1>**説明:**

このメッセージは、この経路またはコマンド・ポートで有効になっているセキュア・ソケット・プロトコルのバージョンをリストします。

MQCPI140TCP キープアライブ有効**説明:**

このメッセージは、TCP キープアライブ・パラメーターが使用可能であることを示しています。

MQCPI141暗号化ハードウェア鍵ストア**説明:**

この経路またはコマンド・ポートは、サーバーまたはクライアントのいずれかの鍵ストアの PKCS #11 インターフェースをサポートする暗号化ハードウェアを使用します。

MQCPI142暗号化ハードウェア CA 鍵ストア**説明:**

この経路は、サーバーまたはクライアントのいずれかの CA 鍵ストアの PKCS #11 インターフェースをサポートする暗号化ハードウェアを使用します。

MQCPI143 MQ Advanced の機能が有効になりました**説明:**

IBM MQ Advanced の拡張機能が有効になりました。

MQCPI144 **MQ Advanced の機能は有効になっていません**

説明:
IBM MQ Advanced の拡張機能は有効になっていません。

MQCPI145 **パスワードの入力**

説明:
mqiptPW コマンドによってパスワードの入力を求めるプロンプトが出されます。

MQCPI150 **パスワードが指定されていません。**

説明:
mqiptPW コマンドが暗号化を行うためのパスワードが指定されませんでした。プログラムは終了します。

MQCPI151 **<insert_1> からパスワード暗号鍵を読み取り中です**

説明:
MQIPT によって保管されたパスワードの暗号鍵を指定されたファイルから読み取り中です。

MQCPI152 **MQIPT 名は <insert_1> です**

説明:
MQIPT のこのインスタンスの名前が表示されます。

MQCPI153 **コマンド・ポートでのパスワード検査はオプションです**

説明:
コマンド・ポートに接続するとき、認証用のパスワードの指定がオプションで可能になります。パスワードが指定された場合は、それが検査されます。

MQCPI155 **TLS を使用してローカル・アドレス <insert_2> 上のポート <insert_1> 上で制御コマンドを listen 中です**

説明:
この MQIPT インスタンスは、示されたポートでとローカル・アドレスで制御コマンドを listen しています。このポートへの接続は、TLS を使用して保護されます。アスタリスク (*) は、MQIPT がすべてのネットワーク・インターフェース上でコマンドを listen していることを示します。

MQCPI158 **.... 受け入れられた接続プロトコル: <insert_1>**

説明:
経路は、指定されたプロトコルを使用する接続を受け入れます。

MQCPW001 **CRL は <insert_1> にわたって有効期限切れです。**

説明:
このメッセージは、CRL (または ARL) が LDAP サーバーから取得された場合に表示されます。

ユーザーの処置:

指定された CRL を LDAP サーバーで更新してください。

MQCPW003 **....期限切れの CRL は無視されます**

説明:
このコンソール・メッセージは、すべての有効期限切れ CRL (または ARL) が無視され、接続要求は許可される場合があることを意味します。

MQCPW004 **.....SSLServerAskClientAuth は使用不可になり、証明書出口は呼び出されない可能性があります。**

説明:
このコンソール・メッセージは、**SSLServerExit** および **SSLServerAskClientAuth** プロパティーとの競合を示すために始動時に表示されます。

ユーザーの処置:

SSLServerAskClientAuth を無効にすると、SSL クライアントは SSL 証明書を送信する必要がないため、証明書出口が呼び出されない場合があります。

MQCPW005 **経路 <insert_1> <insert_2> 鍵リング・ファイル <insert_3> 証明書 <insert_4> シリアル番号 <insert_5> は、まだ有効ではありません。この証明書は <insert_6> より前には使用できません。**

説明:
このコンソール・メッセージは、いずれかの鍵リング・ファイルに「次の日付以降」が将来の日付であるためにまだ有効ではない証明書が含まれている場合に、経路の開始時に表示されます。

ユーザーの処置:

システム・クロックが正確に設定されていることを確認してください。組織で独自の CA を運用している場合は、その CA システムのシステム・クロックを確認してください。

MQCPW006 **経路 <insert_1> <insert_2> 鍵リング・ファイル <insert_3> 証明書 <insert_4> シリアル番号 <insert_5> は有効期限切れです。この証明書は <insert_6> より後では使用できません。**

説明:
このコンソール・メッセージは、いずれかの鍵リング・ファイルに有効期限切れの証明書が含まれている場合に、経路の開始時に表示されます。

ユーザーの処置:

システム・クロックが正確に設定されていることを確認してください。クロックが正しく設定されている場合、代替の証明書を入手してください。

MQCPW007 **経路 <insert_1> のプロパティー <insert_2> は無効です。**

説明:

この経路に指定されているプロパティは、このバージョンの MQIPT では無効です。プロパティは無視され、経路は始動処理を続行します。

ユーザーの処置:

無効なプロパティを経路定義から除去してください。

MQCPW008 経路 <insert_1> 証明書 <insert_2> シリアル番号 <insert_3> は、まだ有効ではありません。この証明書は <insert_4> の前には使用できません。暗号ハードウェア鍵ストア <insert_5> に保管されています。

説明:

このコンソール・メッセージは、暗号化ハードウェア鍵ストアに、「次の日付以降」が将来の日付であるためにまだ有効ではない証明書が含まれている場合に、経路の開始時に表示されます。

ユーザーの処置:

システム・クロックが正確に設定されていることを確認してください。組織で独自の CA を運用している場合は、その CA システムのシステム・クロックを確認してください。

MQCPW009 経路 <insert_1> 証明書 <insert_2> シリアル番号 <insert_3> は期限切れです。この証明書は <insert_4> の後では使用できません。暗号ハードウェア鍵ストア <insert_5> に保管されています。

説明:

このコンソール・メッセージは、暗号化ハードウェア鍵ストアに有効期限切れの証明書が含まれている場合に、経路の開始時に表示されます。

ユーザーの処置:

システム・クロックが正確に設定されていることを確認してください。クロックが正しく設定されている場合、代替の証明書を入手してください。

MQCPW010 使用すべきでないコマンド構文が使用されました。

説明:

使用すべきでない構文を使用したコマンドが発行されました。この構文はコマンド・オプションの全範囲で提供していません。mqiptPW コマンドの使用すべきでない構文では、最もセキュアな方式を使用してパスワードを暗号化できません。

ユーザーの処置:

コマンド構文を見直し、今後、最新の構文を使用してコマンドを発行するようにします。

MQCPW011 プロパティ <insert_1> に無保護のパスワードまたは保護の弱いパスワードが指定されました

説明:

平文のパスワードまたは保護の弱いパスワードが示されたプロパティに指定されました。

ユーザーの処置:

パスワードを安全に保管するには、mqiptPW コマンドで最新の保護モードを使用してパスワードを暗号化してください。

MQCPW012 経路 <insert_2> のプロパティ <insert_1> に無保護のパスワードまたは保護の弱いパスワードが指定されました

説明:

平文のパスワードまたは保護の弱いパスワードが、示された経路の示されたプロパティに指定されました。

ユーザーの処置:

パスワードを安全に保管するには、mqiptPW コマンドで最新の保護モードを使用してパスワードを暗号化してください。

MQCPW013 コマンド・ポート <insert_1> は保護されていません

説明:

MQIPT は示されたポートでコマンドを listen するように構成されていますが、このポートは TLS によって保護されていません。mqiptAdmin コマンドでこのポートに送信されたデータ (MQIPT アクセス・パスワードなどの機密データを含む) が、ネットワーク上の他のシステムによって表示されてしまう可能性があります。

ユーザーの処置:

SSLCommandPort プロパティを使用して、TLS で保護されたコマンド・ポートを構成します。

MQCPW014 コマンド・ポート <insert_1> 証明書 <insert_2> シリアル番号 <insert_3> は、まだ有効になっていません。この証明書は <insert_4> の前には使用できません。鍵リング・ファイル <insert_5> に保管されています。

説明:

示されたコマンド・ポートのコマンド・サーバーによって使用される鍵リング・ファイルに、「次の日付以降」が将来の日付であるためにまだ有効ではない証明書が含まれています。

ユーザーの処置:

システム・クロックが正確に設定されていることを確認してください。組織で独自の CA を運用している場合は、その CA システムのシステム・クロックを確認してください。

MQCPW015 コマンド・ポート <insert_1> 証明書 <insert_2> シリアル番号 <insert_3> は期限切れです。この証明書は <insert_4> の後では使用できません。鍵リング・ファイル <insert_5> に保管されています。

説明:

示されたコマンド・ポートのコマンド・サーバーによって使用される鍵リング・ファイルに、有効期限が切れた証明書が含まれています。

ユーザーの処置:

システム・クロックが正確に設定されていることを確認してください。クロックが正しく設定されている場合、代替の証明書を入手してください。

MQCPW016 コマンド・ポート <insert_1> 証明書 <insert_2> シリアル番号 <insert_3> は、まだ有効になっていません。この証明書は <insert_4> の前には使用できません。暗号ハードウェア鍵ストア <insert_5> に保管されています。

説明:

示されたコマンド・ポートのコマンド・サーバーによって使用される暗号化ハードウェア鍵ストアに、「次の日付以降」が将来の日付であるためにまだ有効ではない証明書が含まれています。

ユーザーの処置:

システム・クロックが正確に設定されていることを確認してください。組織で独自の CA を運用している場合は、その CA システムのシステム・クロックを確認してください。

MQCPW017 コマンド・ポート <insert_1> 証明書 <insert_2> シリアル番号 <insert_3> は期限切れです。この証明書は <insert_4> の後では使用できません。暗号ハードウェア鍵ストア <insert_5> に保管されています。

説明:

示されたコマンド・ポートのコマンド・サーバーによって使用される暗号化ハードウェア鍵ストアに、有効期限が切れた証明書が含まれています。

ユーザーの処置:

システム・クロックが正確に設定されていることを確認してください。クロックが正しく設定されている場合、代替の証明書を入手してください。

JSON 形式診断メッセージ

各 JSON 形式の IBM MQ 診断メッセージを構成する名前/値のペアを表形式で説明します。

診断メッセージについて詳しくは、[QMErrorLog サービス](#)を参照してください。

エラー・ログ・ファイルを JSON 形式で書き出す場合、各エラー・メッセージには JSON の単一行が挿入されます。

名前	タイプ	説明
host	ストリング	ホスト名
ibm_arithInsert1	number	最初のメッセージ変数。
ibm_arithInsert2	number	2 番目のメッセージ変数。
ibm_commentInsert1	ストリング	必要な場合、3 番目のメッセージ変数。
ibm_commentInsert2	ストリング	必要な場合、4 番目のメッセージ変数。
ibm_commentInsert3	ストリング	必要な場合、5 番目のメッセージ変数。
ibm_datetime	ストリング	メッセージがいつ生成されたかを示す ISO 8601 形式のタイム・スタンプ。形式は YYYY-MM-DDTHH:MM:SS.mmmZ で、常に UTC で示します。
ibm_installationDir	ストリング	インストール・パス。これは、マシン上の構文解析プログラムが、インストール済み環境から適切なコマンドを実行できるようにするために組み込まれます。
ibm_installationName	ストリング	インストール名。
ibm_messageID	ストリング	重大度文字を含む診断メッセージ ID (例えば AMQ6209W)。
ibm_processID	number	プロセス ID。
ibm_processName	ストリング	IBM i のプロセスまたはジョブ名 (例えば amqzma0)。

表 9. メッセージ・オブジェクト内の名前/値のペア (続き)

名前	タイプ	説明
ibm_qmgrId	ストリング	キュー・マネージャーの ID。
ibm_remoteHost	ストリング	関連付けられたクライアント・プログラムがある場合、その IP アドレス。
ibm_sequence	ストリング	同じ時に生成された複数のメッセージを区別するための、メッセージのシーケンス番号。
ibm_serverName	ストリング	キュー・マネージャーの名前。
ibm_threadId	number	プロセス内の IBM MQ スレッド ID。
ibm_userName	ストリング	プロセスが実行されているユーザーの実名。
ibm_version	ストリング	IBM MQ バージョン、リリース、モディフィケーション、フィックスパック (VRMF) の情報。
loglevel	ストリング	INFO、WARNING、または ERROR。
メッセージ	ストリング	挿入が拡張されたメッセージの要約 (ID を含む)。
module	ストリング	メッセージが生成されたソース・ファイルと行番号 (例えば amqxerrx.c:243)。
タイプ	ストリング	mq_log

メッセージの例

以下のメッセージは複数行に表示されますが、IBM MQ は通常、メッセージを単一行に書き込みます。

```
{
  "ibm_messageId": "AMQ9209E",
  "ibm_arithInsert1": 0,
  "ibm_arithInsert2": 0,
  "ibm_commentInsert1": "localhost (127.0.0.1)",
  "ibm_commentInsert2": "TCP/IP",
  "ibm_commentInsert3": "SYSTEM.DEF.SVRCONN",
  "ibm_datetime": "2018-02-22T06:54:53.942Z",
  "ibm_serverName": "QM1",
  "type": "mq_log",
  "host": "0df0ce19c711",
  "loglevel": "ERROR",
  "module": "amqccita.c:4214",
  "ibm_sequence": "1519282493_947814358",
  "ibm_remoteHost": "127.0.0.1",
  "ibm_qmgrId": "QM1_2018-02-13_10.49.57",
  "ibm_processId": 4927,
  "ibm_threadId": 4,
  "ibm_version": "9.0.5.0",
  "ibm_processName": "amqrmppa",
  "ibm_userName": "johndoe",
  "ibm_installationName": "Installation1",
  "ibm_installationDir": "/opt/mqm",
  "message": "AMQ9209E: Connection to host 'localhost (127.0.0.1)' for channel 'SYSTEM.DEF.SVRCONN' closed."
}
```

MFT メッセージ

ここでは、診断メッセージがその発信元になる Managed File Transfer の部分ごとにまとめられ、それぞれ番号順にリストされています。

これらのメッセージについて詳しくは、IBM Documentation: https://www.ibm.com/docs/SSFKSJ_9.4.0/reference/mft_messages.html を参照してください。

REST API メッセージ

IBM MQ REST API のメッセージを識別して解釈するための参照情報。メッセージはその発信元になる API の部分ごとにまとめられ、それぞれ番号順にリストされています。

これらのメッセージについて詳しくは、IBM Documentation を参照してください。

- [MQWB00xx: REST API メッセージ](#)
- [MQWB01xx: REST API メッセージ](#)
- [MQWB02xx: REST API メッセージ](#)
- [MQWB03xx: REST API メッセージ](#)
- [MQWB04xx: REST API メッセージ](#)
- [MQWB09xx: REST API メッセージ](#)
- [MQWB10xx: REST API メッセージ](#)
- [MQWB11xx: REST API メッセージ](#)
- [MQWB20xx: REST API メッセージ](#)

メッセージの読み取り

各メッセージには、次の情報が提供されています。

メッセージ ID

次の 3 つの部分から成るメッセージ識別子:

1. 「MQWB」という文字 (メッセージの発信元が REST API であるという意味)
2. 4 桁の 10 進コード
3. メッセージの重大度を示す接尾部文字 (I、W、E、S、または T)。以下の重大度リストを参照してください。

メッセージ・テキスト

メッセージの要約

重大度

- 0: 情報
- 10: 警告
- 20: エラー
- 30: エラー
- 40: 重大
- 50: 強制終了

説明

メッセージに関する詳細情報を示すための説明

応答

ユーザーによる必要な対応。場合によっては、特に情報メッセージの場合は、この部分は「アクションは不要です」となることがあります。

メッセージ変数

一部のメッセージには、メッセージの原因となった状況に応じて変化するテキストまたは数値が含まれています。これをメッセージ変数といいます。メッセージ変数は <insert_1>、<insert_2> などで表されています。

メッセージによっては、説明または対応の項に変数が含まれていることもあります。メッセージ変数の値を見つけるには、エラー・ログを調べてください。エラー・ログには、完全な形のメッセージと、説明および対応が含まれています。

ALW Telemetry メッセージ

IBM MQ Telemetry のメッセージの識別と解釈に役立つ参照情報。

- [Telemetry \(AMQAM\) メッセージ](#) (IBM Documentation 内)
- [261 ページの『テレメトリー \(AMQCO および AMQHT\) メッセージ』](#)
- [Telemetry \(AMQXR\) メッセージ](#) (IBM Documentation 内)

メッセージの読み取り

各メッセージには、次の情報が提供されています。

メッセージ ID

次の 3 つの部分から成るメッセージ識別子:

1. 5 文字: 「AMQAM」、「AMQCO」、「AMQHT」、または「AMQXR」。これらは、メッセージが IBM MQ Telemetry からのものであることを示します。
2. 4 桁の 10 進コード
3. メッセージの重大度を示す接尾部文字 (I、W、E、S、または T)。以下の重大度リストを参照してください。

メッセージ・テキスト

メッセージの要約

重大度

- 0: 情報
- 10: 警告
- 20: エラー
- 30: エラー
- 40: 重大
- 50: 強制終了

説明

メッセージに関する詳細情報を示すための説明

応答

ユーザーによる必要な対応。場合によっては、特に情報メッセージの場合は、この部分は「アクションは不要です」となることがあります。

メッセージ変数

一部のメッセージには、メッセージの原因となった状況に応じて変化するテキストまたは数値が含まれています。これをメッセージ変数といいます。メッセージ変数は <insert_1>、<insert_2> など表されています。

メッセージによっては、説明または対応の項に変数が含まれていることもあります。メッセージ変数の値を見つけるには、エラー・ログを調べてください。エラー・ログには、完全な形のメッセージと、説明および対応が含まれています。

ALW テレメトリー (AMQCO および AMQHT) メッセージ

MQ Telemetry の AMQCO および AMQHT メッセージを識別して解釈するのに役立つ参照情報。

AMQCO1001E

MQXR サービスが予期せず通信 exception=<insert_0>(Exception) をキャッチしました。

説明

コミュニケーション・マネージャーが例外をキャッチし、例外の応答として、適切なアクションを取ることができませんでした。

ユーザー処置

根本的な例外の原因を調べて解決してください。

AMQCO1002E

予期しない状態で選択 key=<insert_0> が検出されました。

説明

予期していない状態で選択キーが見つかりました。

ユーザー処置

IBM サポートにお問い合わせください。

AMQCO1003E

Connection=<insert_0>(Connection) には、取得要求を満たすために十分なデータがありません。

説明

アプリケーションは、すぐに使用可能なデータよりも多くのデータを読み取ろうとしました。アプリケーションは使用可能な量の情報を処理した後、制御を解放し、さらにデータが使用可能になったときに再び呼び出されるのを待機する必要があります。

ユーザー処置

この例外を処理するようにアプリケーションを変更するか、または get() が成功するかどうかを判別するために get() メソッドが呼び出される前に Connection.available() を使用してください。

AMQCO1004E

接続クローズ・エラー: <insert_0>。

説明

接続をクローズする際にエラーが発生しました。セッションが正常に完了しなかった可能性があります。

ユーザー処置

セッションが正常に完了していることを確認してください。

AMQCO1005E

チャンネル "<insert_1>" の SSL 鍵リポジトリ・ファイルが無効であるか、見つかりません。次の例外がスローされました: <insert_0>

説明

チャンネルに指定された SSL 鍵リポジトリ・ファイルは無効です。

ユーザー処置

指定された SSL 鍵リポジトリ・ファイルの妥当性を調べてください。

AMQCO1006I

チャンネル "<insert_0>" が停止しました。

説明

チャンネルは停止されました。このチャンネルでは、これ以上クライアントとの通信は発生しません。

ユーザー処置

アクションは不要です。

AMQCO1007E

接続 "<insert_0>" は "<insert_1>" ミリ秒間データを送受信しなかったため、閉じられました。

説明

アプリケーションは接続のアイドル・タイマーを <insert_1> ミリ秒に設定しましたが、この時間内にデータを送受信しなかったため、接続はクローズされました。

ユーザー処置

接続でデータが送信または受信されなかった理由を判別して、適切な場合には idleTimer をより長い値に設定してください。

AMQCO1008E

"<insert_1>" のクライアントがチャンネル "<insert_0>": <insert_2> に接続しようとしたときに、SSL ハンドシェイク・エラーが発生しました。

説明

SSL ハンドシェイクをクライアント・アプリケーションで実行している際にエラーが発生しました。これは多くの場合、クライアントが MQXR サービスによって信頼されていない証明書を提示しているために発生します。

ユーザー処置

例外の情報を使用して、問題を診断および修正してください。

AMQCO1009E

無効な鍵ストア名 "<insert_1>" が指定されました。

説明

指定された鍵ストア名またはパスフレーズは無効です。

ユーザー処置

有効な鍵ストア・ファイル名とパスワードを指定してください。

AMQCO1010E

"<insert_1>" のクライアントがチャンネル "<insert_0>": <insert_2> に接続しようとしたときに、SSL 例外が発生しました。

説明

SSL 操作をクライアント・アプリケーションで実行している際にエラーが発生しました。

ユーザー処置

例外の情報を使用して、問題を診断および修正してください。

AMQCO2001E

エラー (プローブ: <insert_0>) が発生し、障害データ・キャプチャー機能 (FDC) ファイルが書き込まれました。

説明

問題が検出され、診断を補助するために FDC ファイルに書き込みが行われました。

ユーザー処置

FDC ファイルを参照して問題を解決してください。問題を解決できない場合には、IBM サポート・センターに連絡してください。

AMQCO2002I

トレースが使用不可です。

説明

MQXR サービスの (問題の診断のために使用される) トレースは現在実行されていません。

ユーザー処置

アクションは不要です。

AMQCO2003I

トレースが有効です。

説明

MQXR サービスの (問題の診断のために使用される) トレースは現在実行されています。

ユーザー処置

アクションは不要です。

AMQCO2004I

メッセージ「<insert_1>」の「<insert_0>」個のインスタンスが抑止されました。

説明

この ID を持つ最後のメッセージが書き込まれてから、メッセージ ID "<insert_1>" の番号 <insert_0> がログから抑止されました。

ユーザー処置

抑制されたメッセージに対してさらに必要な処置はありません。

AMQCO9999E

<insert_0>

説明

このメッセージで十分な情報が得られない場合には、さらに助けを得るため、前のメッセージを確認してください。

ユーザー処置

詳しくは、前のメッセージを参照してください。

AMQHT1001E

無効な text=<insert_0>(String) が HTTP 要求または HTTP 応答で見つかりました。

説明

HTTP 要求または応答に、"https://www.w3.org/Protocols/" に記載されていない予期せぬデータが含まれていました。

ユーザー処置

HTTP 要求または応答の発信元またはソースが、有効な要求または応答を生成していることを確認してください。

AMQHT1002E

HTTP ヘッダー text=<insert_0>(String) が無効です。

説明

HTTP 要求または応答に、予期せぬテキストが含まれていました。

ユーザー処置

HTTP 要求または応答の発信元またはソースが、有効な要求または応答を生成していることを確認してください。

AMQHT1003E

string=<insert_1>(String) の location=<insert_0> に無効なテキストがあります。

説明

Java Script Object Notation (JSON) ストリングに、「https://www.json.org/」に記述されていない予期しないデータが含まれていました。

ユーザー処置

発信元 (JSON) が有効なデータを生成しているかを確認してください。

AMQHT2001E

WebSocket クローズ、状況コード = <insert_0>

説明

WebSocket はリモート・エンドによって閉じられました。

ユーザー処置

予期せず閉じられた場合は、Websocket の状況コードを参照して、Websocket が閉じられた理由を特定してください。

AMQHT9999E

<insert_0>

説明

このメッセージで十分な情報が得られない場合には、さらに助けを得るため、前のメッセージを確認してください。

ユーザー処置

詳しくは、前のメッセージを参照してください。

z/OS

IBM MQ for z/OS messages, completion, and reason codes

Use this topic to interpret and understand the messages and codes issued by IBM MQ for z/OS.

The information in this topic can be used to understand a message or code produced by the IBM MQ for z/OS product. The topic is divided into the following parts:

“Messages for IBM MQ for z/OS” on page 266

Describes all IBM MQ messages in alphanumeric order.

All IBM MQ message identifiers are eight characters long. The first three characters are always CSQ. If you get a message with a different prefix, find out which product issued the message. See [“Messages from other products” on page 1122](#).

The fourth character is the component identifier; this identifies the component of IBM MQ that issued the message. These are shown in [“IBM MQ component identifiers” on page 1103](#). The fifth through seventh characters represent the numeric identifier, which is unique within the component. The last

character is the message type code; this indicates the type of response that the message requires. [Table 10 on page 265](#) shows the four type codes used by IBM MQ for z/OS.

<i>Table 10. Message type codes</i>		
Type code	Response type	Response required
A	Immediate action	System operator action is required immediately. The associated task does not continue until the requested action has been taken.
D	Immediate decision	System operator decision or action is required immediately. The operator is requested to select from specific options, such as retry or cancel . The associated task does not continue until the requested decision has been made or action has been taken.
E	Eventual action	System operator action <i>will</i> be required; however, the associated task continues independently of system operator action.
I	Information only	No operator action is required. However, certain messages may be significant - please review Console message monitoring for further information.

In messages issued by the queue manager itself and the mover, the message identifier is normally followed by the *command prefix* (CPF); this indicates which IBM MQ queue manager issued the message. These messages have prefixes starting CSQE, CSQH, CSQI, CSQM, CSQN, CSQP, CSQR, CSQV, CSQX, CSQY, CSQ2, CSQ3, CSQ5, and CSQ9; some messages with prefixes CSQJ and CSQW also have the CPF. In certain exceptional cases, the CPF might show as blank.

Messages from CICS-related components (CSQC) show the CICS application ID or transaction ID if applicable.

Messages from other components, that is messages with prefixes CSQO, CSQQ, CSQU, and CSQ1 (and some with prefixes CSQJ and CSQW) have no indicator.

“IBM MQ for z/OS codes” on page 915

Describes all IBM MQ abend reason codes, and subsystem termination reason codes, in alphanumeric order.

The codes are four bytes long. The first byte is always 00; this is the high-order byte. The second byte is the hexadecimal identifier (Hex ID) of the IBM MQ component. These are shown in [“IBM MQ component identifiers” on page 1103](#). The last two bytes are the numeric identifier, which is unique within the component.

“IBM MQ CICS adapter abend codes” on page 1103 and “IBM MQ CICS bridge abend codes” on page 1103

Describe the CICS abend codes issued by the IBM MQ CICS adapter, and the IBM MQ CICS bridge.

Accompanying each message and code is the following information, when applicable:

Explanation:

This section tells what the message or code means, why it occurred, and what caused it.

Severity:

Severity values have the following meanings:

0: An information message. No error has occurred.

4: A warning message. A condition has been detected of which the user should be aware. The user might need to take further action.

8: An error message. An error has been detected and processing could not continue.

12: A severe error message. A severe error has been detected and processing could not continue.

System action:

This part tells what is happening as a result of the condition causing the message or code. If this information is not shown, no system action is taken.

User response:

If a response by the user is necessary, this section tells what the appropriate responses are, and what their effect is. If this information is not shown, no user response is required.

Operator response:

If an operator response is necessary, this section tells what the appropriate responses are, and what their effect is. If this information is not shown, no operator response is required.

System programmer response:

If a response by the system programmer is required, this part tells what the appropriate responses are, and what their effect is. If this information is not shown, no system programmer response is required.

Programmer response:

If a programmer response is necessary, this part tells what the appropriate responses are, and what their effect is. If this information is not shown, no programmer response is required.

Problem determination:

This section lists the actions that can be performed to obtain adequate data for support personnel to diagnose the cause of the error. If this information is not shown, no problem determination is required.

Related reference**[“AMQ メッセージ \(Multiplatforms\)” on page 235](#)**

このセクションには、AMQ シリーズの診断メッセージが番号順にリストされています。これらのメッセージは、発信元の IBM MQ の部分に従ってグループ化されています。

[“Communications protocol return codes for z/OS” on page 1104](#)

The communication protocols used by IBM MQ for z/OS can issue their own return codes. Use these tables to identify the return codes used by each protocol.

[“Distributed queuing message codes” on page 1119](#)

Distributed queuing is one of the components of IBM MQ for z/OS. Use this topic to interpret the message codes issued by the distributed queuing component.

[“API 完了コードと理由コード” on page 1123](#)

呼び出しが行われるたびに、その呼び出しが成功したか失敗したかを示すための完了コードと理由コードが、キュー・マネージャーまたは出口ルーチンによって戻されます。

[“PCF 理由コード” on page 1335](#)

PCF フォーマットのコマンド・メッセージ中で使用したパラメーターによっては、そのメッセージへの応答としてブローカーから理由コードが返される場合があります。

[“Transport Layer Security \(TLS\) の戻りコード” on page 1414](#)

IBM MQ では、さまざまな通信プロトコルと一緒に TLS を使用できます。このトピックを使用して、TLS によって返される可能性があるエラー・コードを特定します。

[“Transport Layer Security \(TLS\) return codes for z/OS” on page 1116](#)

IBM MQ for z/OS can use TLS with the various communication protocols. Use this topic to identify the error codes that can be returned by TLS.

[“WCF カスタム・チャネル例外” on page 1419](#)

このトピックでは、診断メッセージが、発信元の Microsoft Windows Communication Foundation (WCF) カスタム・チャネルの部分に従ってグループ化された番号順にリストされています。

 Messages for IBM MQ for z/OS

Each component of IBM MQ for z/OS can issue messages and each component uses a unique four character prefix for its messages. Use this topic to identify and interpret the messages for IBM MQ for z/OS components.

The following message types are described:

z/OS Batch adapter messages (CSQB...)

CSQB001E

Language environment programs running in z/OS batch or z/OS UNIX System Services must use the DLL interface to IBM MQ.

Severity

4

Explanation

Application programs using IBM MQ and Language Environment® services from z/OS Batch or z/OS UNIX System Services must use the DLL interface to IBM MQ. This message is issued once per connection. The program which caused this message to be issued is using the stub interface to IBM MQ.

System action

Processing continues. The Async Consume feature of IBM MQ is not supported when using the non-DLL stub interface to IBM MQ.

z/OS CICS adapter and Bridge messages (CSQC...)

All the CICS versions supported by IBM MQ 9.0.0, and later, use the CICS supplied version of the bridge. See the [DFHMQnnnn messages](#) section of the CICS documentation for these messages.

z/OS Coupling Facility manager messages (CSQE...)

The value shown for *struc-name* in the coupling facility manager messages that follow is the 12-character name as used by IBM MQ. The external name of such CF structures for use by z/OS is formed by prefixing the IBM MQ name with the name of the queue sharing group to which the queue manager is connected.

CSQE005I

Structure *struc-name* connected as *conn-name*, version=*version*

Explanation

The queue manager has successfully connected to structure *struc-name*.

System action

Processing continues. The queue manager can now access the CF structure.

CSQE006I

Structure *struc-name* connection name *conn-name* disconnected

Explanation

The queue manager has disconnected from CF structure *struc-name*.

System action

Processing continues.

CSQE007I

event-type event received for structure *struc-name* connection name *conn-name*

Explanation

The queue manager has received XES event *event-type* for CF structure *struc-name*.

System action

Processing continues.

System programmer response

Examine the event code to determine what event was issued. The event codes are described in the [z/OS MVS Programming: Sysplex Services Reference](#) manual.

CSQE008I

Recovery event from *qmgr-name* received for structure *struc-name*

Explanation

The queue manager issued a peer level recovery event for CF structure *struc-name*.

System action

Processing continues. The queue manager will begin peer level recovery processing.

CSQE011I

Recovery phase 1 started for structure *struc-name* connection name *conn-name*

Explanation

Peer level recovery has started phase one of its processing, following the failure of another queue manager in the queue sharing group.

System action

Processing continues.

System programmer response

Determine why a queue manager within the queue sharing group failed.

CSQE012I

Recovery phase 2 started for structure *struc-name* connection name *conn-name*

Explanation

Peer level recovery has started phase two of its processing.

System action

Processing continues.

CSQE013I

Recovery phase 1 completed for structure *struc-name* connection name *conn-name*

Explanation

Peer level recovery has completed phase one of its processing.

System action

Processing continues.

CSQE014I

Recovery phase 2 completed for structure *struc-name* connection name *conn-name*

Explanation

Peer level recovery has completed phase two of its processing.

System action

Processing continues.

CSQE015I

Recovery phase 2 not attempted for structure *struc-name* connection name *conn-name*

Explanation

Phase two of peer level recovery processing was not attempted because of a previous error in phase one on one of the participating queue managers.

System action

Processing continues. The connection will be recovered by the failed queue manager when it restarts.

System programmer response

Investigate the cause of the error, as reported in the preceding messages.

CSQE016E

Structure *struc-name* connection name *conn-name* disconnected, RC=*return-code* reason=*reason*

Explanation

The queue manager has disconnected from CF structure *struc-name*.

System action

Processing continues.

System programmer response

Examine the return and reason codes to determine why the CF structure was disconnected. The codes are described in the [z/OS MVS Programming: Sysplex Services Reference](#) manual.

CSQE018I

Admin structure data building started

Explanation

The queue manager is building its own data for the administration structure.

System action

Processing continues.

CSQE019I

Admin structure data building completed

Explanation

The queue manager has built its own data for the administration structure.

System action

Processing continues.

CSQE020E

Structure *struc-name* connection as *conn-name* failed, RC=*return-code* reason= *reason* codes=*s1 s2 s3*

Explanation

The queue manager failed to connect to CF structure *struc-name*.

System action

This depends on the component that caused the connection request (queue manager or channel initiator) and the reason for connecting to the CF structure. The component might terminate, or might continue processing but with functions that require the structure inhibited.

System programmer response

Examine the return and reason codes to determine why the connect failed. Codes *s1 s2 s3* are the XES IXLCONN diagnosis codes, which are described in the [z/OS MVS Programming: Sysplex Services Reference](#) manual.

CSQE021I

Structure *struc-name* connection as *conn-name* warning, RC=*return-code* reason=*reason* codes=*s1 s2 s3*

Explanation

The queue manager has successfully connected to CF structure *struc-name*, but the XES IXLCONN call returned with a warning.

System action

Processing continues.

System programmer response

Examine the return and reason codes to determine why the connect warning message was issued. Codes *s1 s2 s3* are the XES IXLCONN diagnosis codes, which are described in the [z/OS MVS Programming: Sysplex Services Reference](#) manual.

CSQE022E

Structure *struc-name* unusable, size is too small

Explanation

The queue manager cannot use the named (coupling facility) (CF) structure because its size is less than the minimum that IBM MQ requires.

System action

The queue manager disconnects from the coupling facility (CF) structure, which becomes unusable. If it is an application structure, the queues that use the structure are not usable. If it is the administration structure, the queue manager terminates with completion code X'6C6' and reason code X'00C53000'.

System programmer response

Increase the size of the CF structure to at least the minimum size required. See [Planning your coupling facility and offload storage environment](#) for guidance on required structure sizes.

If the structure is allocated and the coupling facility Resource Manager policy allows the size of it to be increased, use the z/OS command `SETXCF START,ALTER,STRNAME=ext-struc-name,SIZE=newsize`. If the policy does not so allow, or there is insufficient space in the coupling facility that hosts the structure, the policy must be altered; then the structure can be rebuilt using the z/OS command `SETXCF START,REBUILD,STRNAME=ext-struc-name`. (In these commands, *ext-struc-name* is formed by prefixing *struc-name* with the queue sharing group name.)

If the structure is not allocated, alter the policy to specify a larger INITSIZE for the structure.

CSQE024E

Incorrect coupling facility level *level1*, required *level2*

Explanation

The queue manager cannot join the queue sharing group because the version of z/OS being used supports only CF level *level1*, but IBM MQ requires at least level *level2*.

System action

CF support is not active.

System programmer response

Upgrade z/OS and the coupling facility as necessary.

CSQE025E

Invalid UOW for *qmgr-name* in list *list-id* cannot be recovered, key=*uow-key*

Explanation

A unit-of-work descriptor was read during recovery processing that contained unexpected data. The descriptor was for the indicated queue manager; it was in the coupling facility list *list-id* and had key *uow-key* (shown in hexadecimal).

System action

The unit-of-work in error cannot be processed and the descriptor is marked as being in error. Processing continues.

System programmer response

Take a memory dump of the indicated list in your coupling facility administration structure for queue manager *qmgr-name* and contact your IBM support center.

CSQE026E

Structure *struc-name* unusable, incorrect coupling facility level *level1*, required *level2*

Explanation

The queue manager cannot use the named CF structure because it has been allocated in a CF which supports level *level1*, but MQ requires at least level *level2*.

System action

The queues that use the CF structure are not usable.

System programmer response

Either upgrade the coupling facility, or use a CF structure which is in a CF running level *level2* or above.

CSQE027E

Structure *struc-name* unusable, vector size *n1* incorrect, required *n2*

Explanation

The queue manager cannot use the named CF structure because it has been allocated a list notification vector of size *n1*, but IBM requires at least size *n2*. This is probably because there is not enough available hardware storage area (HSA) for the vector.

System action

The queues that use the CF structure are not usable.

System programmer response

You cannot adjust the amount of HSA defined for your processor. Instead, retry the application (or other process) which was attempting to open the shared queue. If the problem persists, contact your IBM support center for assistance.

CSQE028I

Structure *struc-name* reset, all messages discarded

Explanation

When it tried to connect to the named CF structure, the queue manager detected that the structure had been deleted, so a new empty structure has been created.

System action

All the messages on the queues that use the CF structure are deleted.

CSQE029E

Structure *struc-name* unusable, version *v1* differs from group version *v2*

Explanation

The queue manager cannot use the named CF structure because the version number of the structure differs from that of the queue sharing group.

System action

The queue manager disconnects from the CF structure, which becomes unusable. If it is an application structure, the queues that use the structure are not usable. If it is the administration structure, the queue manager terminates with completion code X'6C6' and reason code X'00C51057'.

System programmer response

Check that the configuration of your queue manager, queue sharing group, and data-sharing group is correct. If so, deallocate the CF structure using the z/OS commands **SETXCF FORCE,CON** and **SETXCF FORCE,STRUCTURE**. When you use these commands, the structure name is formed by prefixing *struc-name* with the queue sharing group name.

You might need to stop and restart the queue manager(s).

Note:

You can also use the **D XCF** command, for example **D XCF,STR,STRNAME=MQ7@CSQ_ADMIN** to show information about the structure and any connections.

CSQE030I

Serialized application cannot start, admin structure data incomplete

Explanation

A serialized application attempted to start, but it could not do so because one or more queue managers in the queue sharing group has not completed building its data for the administration structure. Messages CSQE031I and CSQE032I precede this message to identify such queue managers.

System action

The application is not started. The MQCONN call that it issued to connect to the queue manager fails with a completion code of MQCC_FAILED and a reason code of MQRC_CONN_TAG_NOT_USABLE. (See [“API完了コードと理由コード”](#) on page 1123 for more information about these codes.)

System programmer response

The administration structure is automatically rebuilt. The rebuild can occur on any member of the QSG. Restart the application after the administration structure is successfully rebuilt, which is shown by message CSQE037I on the system performing the rebuild.

CSQE031I

Admin structure data from *qmgr-name* incomplete

Explanation

Some functions are not yet available because the indicated queue manager has not completed building its data for the administration structure.

System action

Processing continues. The functions will be available when all the queue managers identified by messages CSQE031I and CSQE032I have issued message CSQE019I.

CSQE032I

Admin structure data from *qmgr-name* unavailable

Explanation

Some functions are not yet available because the indicated queue manager is not active and therefore its data for the administration structure is not available.

System action

Processing continues.

System programmer response

The rebuild of the administration structure can occur on any member of the QSG. The functions will be available after the administration structures have been successfully rebuilt. Check the log for the messages CSQE036I and CSQE037I, which will indicate the start and completion of the administration structure rebuild.

CSQE033E

Recovery phase 1 failed for structure *struc-name* connection name *conn-name*, RC=*return-code* reason= *reason*

Explanation

An error occurred during phase one of peer level recovery processing. The recovery attempt is terminated. *return-code* and *reason* are the diagnosis codes (in hexadecimal) from an XES IXL call.

System action

Processing continues. The connection will be recovered by the failed queue manager when it restarts.

System programmer response

See the *z/OS MVS Programming: Sysplex Services Reference* manual for information about the XES IXL diagnosis codes. Restart the queue manager that failed; if it is unable to recover, contact your IBM support center.

CSQE034E

Recovery phase 2 failed for structure *struc-name* connection name *conn-name*, RC=*return-code* reason=*reason*

Explanation

An error occurred during phase two of peer level recovery processing. The recovery attempt is terminated. *return-code* and *reason* are the diagnosis codes (in hexadecimal) from an XES IXL call.

System action

Processing continues. The connection will be recovered by the failed queue manager when it restarts.

System programmer response

See the *z/OS MVS Programming: Sysplex Services Reference* manual for information about the XES IXL diagnosis codes. Restart the queue manager that failed; if it is unable to recover, contact your IBM support center.

CSQE035E

csect-name Structure *struc-name* in failed state, recovery needed

Explanation

The queue manager attempted to use CF structure *struc-name*, but it is in a failed state. The failure occurred previously; it was not caused by the current use of the structure.

System action

Processing continues, but queues that use this CF structure will not be accessible.

System programmer response

Check the console for messages from XES relating to the earlier failure, and investigate the cause. See the *z/OS MVS Programming: Sysplex Services Reference* manual for information about diagnosing problems in XES.

When the problem is resolved, issue a RECOVER CFSTRUCT command specifying TYPE(NORMAL) for this and any other failed CF structure.

CSQE036I

Admin structure data building started for *qmgr-name*

Explanation

The queue manager is building the indicated queue manager's data for the administration structure.

System action

Processing continues.

CSQE037I

Admin structure data building completed for *qmgr-name*

Explanation

The queue manager has built the indicated queue manager's data for the administration structure.

System action

Processing continues.

CSQE038E

Admin structure is full

Explanation

The queue manager cannot write to the administration structure in the coupling facility (CF) because it is full.

System action

The queue manager periodically retries the write attempt. If after a number of retries the structure is still full, this message is reissued and the queue manager terminates with a completion code X'5C6' and a reason code 00C53002.

System programmer response

Increase the size of the CF structure to at least the minimum size required. See the Defining coupling facility resources for guidance on required structure sizes.

If the structure is allocated and the coupling facility Resource Manager policy allows the size of it to be increased, use the z/OS command SETXCF START,ALTER,STRNAME=*ext-struct-name*,SIZE=*newsize*. If the policy does not allow this change, or there is insufficient space in the coupling facility that hosts the structure, the policy must be altered, then the structure can be rebuilt using the z/OS command SETXCF START,REBUILD,STRNAME=*ext-struct-name*. (In these commands, *ext-struct-name* is formed by prefixing CSQ_ADMIN with the queue sharing group name.)

If the structure is not allocated, alter the policy to specify a larger INITSIZE for the structure.

CSQE040I

Structure *struct-name* should be backed up

Explanation

The latest backup for the named CF structure is more than two hours old. Unless backups are taken frequently, the time to recover persistent messages on shared queues may become excessive.

The message is issued at checkpoint time if the queue manager was the one that took the last backup, or if it has used the structure since the last backup was taken.

System action

Processing continues.

System programmer response

Use the BACKUP CFSTRUCT command (on any queue manager in the queue sharing group) to make a new CF structure backup. You are recommended to set up a procedure to take frequent backups automatically.

CSQE041E

Structure *struct-name* backup is more than a day old

Explanation

The latest backup for the named CF structure is more than one day old. Unless backups are taken frequently, the time to recover persistent messages on shared queues might become excessive.

The message is issued at checkpoint time if the queue manager was the one that took the last backup, or if it has used the structure since the last backup was taken.

System action

Processing continues.

System programmer response

Use the BACKUP CFSTRUCT command (on any queue manager in the queue sharing group) to make a new CF structure backup. It is suggested you set up a procedure to take frequent backups automatically.

CSQE042E

csect-name Structure *struct-name* unusable, no EMC storage available

Explanation

The queue manager cannot use the named CF structure because its size is less than the minimum that IBM MQ requires. Specifically, the coupling facility allocation algorithms were unable to make any event monitor control (EMC) storage available during the allocation.

System action

The queue manager disconnects from the CF structure, and the CF structure becomes unusable. If it is an application structure, the queues that use the structure are not usable. If it is the administration structure, the queue manager terminates with completion code X'6C6' and reason code X'00C53003'.

System programmer response

Disconnect all connectors from the structure, and then issue

```
SETXCF FORCE,STR,STRNAMEname
```

to get the structure deallocated from the CF before you resize the structure.

Increase the size of the CF structure to at least the minimum size required. See [Planning your coupling facility and offload storage environment](#) for further information.

If the structure is allocated and the Coupling Facility Resource Manager policy allows the size of it to be increased, use the z/OS system command:

```
SETXCF START,ALTER,STRNAME=ext-struct-name,SIZE=newsize
```

If the CFRM policy does not allow an increase in size, or there is insufficient space in the coupling facility that hosts the structure, the policy must be altered. The structure can then be rebuilt using the z/OS system command:

```
SETXCF START,REBUILD,STRNAME=ext-struct-name
```

In these commands, *ext-struct-name* is formed by prefixing *struct-name* with the queue sharing group name.

If the structure is not allocated, alter the CFRM policy to specify a larger INITSIZE for the structure.

CSQE101I

csect-name Unable to back up or recover structure *struct-name*, structure in use

Explanation

A BACKUP or RECOVER CFSTRUCT command was issued, or automatic recovery started, for a CF structure that is in use by another process. The most likely cause is that another BACKUP or RECOVER CFSTRUCT command, or automatic recovery, is already in progress on one of the active queue managers in the queue sharing group.

This message can also be issued when new connections to the CF structure are being prevented by the system.

System action

Processing of the command, or automatic recovery for the identified structure, is terminated.

System programmer response

Check that the correct CF structure name was entered on the command. If so, wait until the current process ends before reissuing the command if required.

If there is no other BACKUP or RECOVER CFSTRUCT already in progress, check for previous messages that indicate why connections to the CF structure are being prevented.

CSQE102E

csect-name Unable to recover structure *struct-name*, not in failed state

Explanation

A RECOVER CFSTRUCT command was issued for a CF structure that is not in a failed state. Only a CF structure that has previously failed can be recovered.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Check that the correct CF structure name was entered on the command.

CSQE103E

csect-name Unable to recover structures, admin structure data incomplete

Explanation

A RECOVER CFSTRUCT command was issued, but recovery could not be performed because one or more queue managers in the queue sharing group has not completed building its data for the administration structure.

System action

Messages CSQE031I and CSQE032I are sent to the z/OS console to identify such queue managers. Processing of the command is terminated.

System programmer response

The administration structure is automatically rebuilt. The rebuild can occur on any member of the QSG. Reissue the command after the administration structure is successfully rebuilt, which is shown by message CSQE037I on the system performing the rebuild.

CSQE104I

csect-name RECOVER task initiated for structure *struc-name*

Explanation

The queue manager has successfully started a task to process the RECOVER CFSTRUCT command for the named CF structure.

System action

Processing continues.

CSQE105I

csect-name BACKUP task initiated for structure *struc-name*

Explanation

The queue manager has successfully started a task to process the BACKUP CFSTRUCT command for the named CF structure.

System action

Processing continues.

CSQE106E

csect-name Unable to back up structure *struc-name*, reason=*reason*

Explanation

A BACKUP CFSTRUCT command was issued for a CF structure, but the backup could not be performed.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Examine the reason code to determine why the CF structure could not be backed-up. The codes are described in [“IBM MQ for z/OS codes”](#) on page 915 and the [z/OS MVS Programming: Sysplex Services Reference](#) manual.

CSQE107E

csect-name Unable to back up or recover structure *struc-name*, structure has never been used

Explanation

A BACKUP or RECOVER CFSTRUCT command was issued, or automatic recovery started, for a CF structure that has never been used, and so does not contain any messages or data.

System action

Processing of the command, or automatic recovery for the identified structure, is terminated.

System programmer response

Check that the correct CF structure name was entered on the command.

CSQE108E

csect-name Unable to back up or recover structure *struc-name*, structure does not support recovery

Explanation

A BACKUP or RECOVER CFSTRUCT command was issued, or automatic recovery started, for a CF structure with a functional capability that is incompatible with this process; for example, the CF structure level is not high enough to support recovery, or the RECOVER attribute is set to NO.

System action

Processing of the command, or automatic recovery for the identified structure, is terminated.

System programmer response

Ensure that the CF structure is at a level of functional capability that allows the use of the BACKUP or RECOVER CFSTRUCT command and that its MQ RECOVER attribute is set to YES. You can check the values using the DIS CFSTRUCT(*) ALL command. Check that the correct CF structure name was entered on the command.

CSQE109E

csect-name Unable to recover structure *struc-name*, no backup information available

Explanation

A RECOVER CFSTRUCT command was issued or automatic recovery started for a CF structure, but no backup information could be found.

System action

Processing of the command, or automatic recovery for the identified structure, is terminated.

System programmer response

Check that the correct CF structure name was entered on the command. If so, issue a BACKUP CFSTRUCT command to ensure that backup information is available.

CSQE110E

csect-name PURGE not allowed for structure *struc-name*

Explanation

A RECOVER CFSTRUCT command was issued for CF structure *struc-name* using TYPE(PURGE). This CF structure is a system application structure. To prevent loss of messages on system queues TYPE(PURGE) is not allowed for system application structures.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command without the TYPE(PURGE) option.

If structure recovery fails contact your IBM support center.

CSQE111I

csect-name Structure *struct-name* will be set to failed state to allow recovery of failed SMDS data sets

Severity

0

Explanation

The **RECOVER CFSTRUCT** command was issued for a structure which is not in the failed state, but at least one of the related SMDS data sets is currently marked as failed, requiring recovery. The structure will be put into the failed state to make it unavailable for normal use so recovery can proceed.

System action

The structure is marked as failed and recovery processing continues.

CSQE112E

csect-name Unable to recover structure *struct-name*, failed to read required logs.

Explanation

A RECOVER CFSTRUCT command or automatic structure recovery was unable to read the logs required to recover a structure.

System action

Processing of the command is terminated.

Automatic recovery of the structure will not be attempted.

System programmer response

Check that the logs containing the RBA range indicated in message CSQE130I are available, and reissue the command.

Check for any prior errors or abends reporting problems using the logs.

Issue RECOVER CFSTRUCT(*struct-name*) to retry structure recovery.

CSQE120I

Backup of structure *struc-name* started at RBA=*rba*

Explanation

The named CF structure is being backed-up in response to a BACKUP CFSTRUCT command. The backup begins at the indicated RBA.

System action

Processing continues.

CSQE121I

csect-name Backup of structure *struc-name* completed at RBA=*rba*, size *n* MB

Explanation

The named CF structure has been backed-up successfully. The backup ends at the indicated RBA, and *n* is its approximate size in megabytes.

System action

Processing continues.

CSQE130I

Recovery of structure *struc-name* started, using *qmgr-name* log range from RBA=*from-rba* to RBA=*to-rba*

Explanation

CF structure recovery is starting in response to a RECOVER CFSTRUCT command. It must read the log range shown to determine how to perform recovery. The logs are read backwards, from the latest failure time of the structures to be recovered to the earliest last successful backup time of those structures.

System action

Processing continues.

CSQE131I

csect-name Recovery of structure *struc-name* completed

Explanation

The named CF structure has been recovered successfully. The structure is available for use again.

CF structure recovery was started in response to a RECOVER CFSTRUCT command. The log range determined how to perform recovery. The logs are read backwards, from the latest failure time of the structures to be recovered to the earliest last successful backup time of those structures.

System action

Processing continues.

CSQE132I

Structure recovery started, using log range from LRSN=*from-lrsn* to LRSN=*to-lrsn*

Explanation

CF structure recovery is starting in response to a RECOVER CFSTRUCT command. It must read the log range shown to determine how to perform recovery. The logs are read backwards, from the latest failure time of the structures to be recovered to the earliest last successful backup time of those structures.

See [Recovering a CF structure](#) for more information.

System action

Processing continues.

CSQE133I

Structure recovery reading log backwards, LRSN= *lrsn*

Explanation

This is issued periodically during log reading by CF structure recovery to show progress. The log range that needs to be read is shown in the preceding CSQE132I message.

CF structure recovery is starting in response to a RECOVER CFSTRUCT command. It must read the log range shown to determine how to perform recovery. The logs are read backwards, from the latest failure time of the structures to be recovered to the earliest last successful backup time of those structures.

System action

Processing continues.

System programmer response

If this message is issued repeatedly with the same LRSN value, investigate the cause; for example, IBM MQ might be waiting for a tape with an archive log data set to be mounted.

CSQE134I

Structure recovery reading log completed

Explanation

CF structure recovery is started in response to a RECOVER CFSTRUCT command. It must read the log range shown to determine how to perform recovery. The logs are read backwards, from the latest

failure time of the structures to be recovered, to the earliest last successful backup time of those structures.

CF structure recovery has completed reading the logs. The individual structures can now be recovered.

System action

Each CF structure is recovered independently, as shown by messages CSQE130I and CSQE131I.

CSQE135I

Recovery of structure *struc-name* reading log, RBA=*rba*

Explanation

This is issued periodically during log reading for recovering the named CF structure to show progress. The log range that needs to be read is shown in the preceding CSQE130I message.

System action

Processing continues.

System programmer response

If this message is issued repeatedly with the same RBA value, investigate the cause; for example, MQ might be waiting for a tape with an archive log data set to be mounted.

CSQE136I

Error returned by Db2 when clearing queue *queue-name*, list header number=*list header number*, structure number=*strucnum*

Severity

4

Explanation

Shared queue messages greater than 63 KB in size have their message data held as one or more binary large objects (BLOBs) in a Db2 table. An error was returned by Db2 when clearing these messages from the table.

Note that the list header number, and structure number, are output in hexadecimal format.

System action

Processing continues.

System programmer response

The messages have been deleted from the coupling facility but message data might remain in Db2 as orphaned BLOBs. This message is normally preceded by message CSQ5023E. Examine the Db2 job log to determine why the error occurred. The orphaned messages can be deleted by issuing the **'DISPLAY GROUP OBSMSG(S)(YES)'** command after 24 hours.

CSQE137E

csect-name Db2 and CF structure out of sync for queue *queue-name*, list header number=*list header number*, structure number=*strucnum*

Severity

4

Explanation

The queue manager has identified a discrepancy between the information stored about a queue in the coupling facility and the corresponding information in Db2.

Note that the list header number, and structure number, are output in hexadecimal format.

System action

Processing continues, but applications are unable to open the affected queue until the discrepancy is resolved by the System Programmer.

System programmer response

If the queue manager has recently been recovered from a backup then the recovery process should be reviewed to ensure that everything was correctly restored, including any Db2 tables associated with the queue manager.

If the cause of the problem cannot be determined then contact your IBM support center for assistance.

CSQE138I

csect-name Structure *struc-name* is already in the failed state

Explanation

A **RESET CFSTRUCT ACTION(FAIL)** command was issued for a CF structure that is already in the failed state.

System action

Processing of the command is terminated.

CSQE139I

csect-name Unable to fail structure *struc-name*, structure in use

Explanation

A **RESET CFSTRUCT ACTION(FAIL)** command was issued for a CF structure that is in use by another process

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Check that the correct CF structure name was entered on the command. If so, wait until the process ends before reissuing the command if required.

CSQE140I

csect-name Started listening for ENF 35 events for structure *structure-name*

Severity

0

Explanation

The queue manager has registered to receive ENF 35 events and will attempt to reconnect to the identified structure if it is notified that a coupling facility resource has become available.

System action

Processing continues.

CSQE141I

csect-name Stopped listening for ENF 35 events for structure *structure-name*

Explanation

The queue manager has de-registered from receiving ENF 35 events for the identified structure, and will not attempt to reconnect to it if notified that a coupling facility resource has become available.

System action

Processing continues.

CSQE142I

csect-name Total loss of connectivity reported for structure *structure-name*

Explanation

The queue manager has been notified that no systems in the sysplex have connectivity to the coupling facility in which the identified structure is allocated.

System action

If automatic recovery has been enabled for the identified structure one of the queue managers in the queue sharing group will attempt to recover the structure in an alternative coupling facility, if one is available.

System programmer response

Investigate and resolve the loss of connectivity to the coupling facility on which the structure is allocated.

CSQE143I

csect-name Partial loss of connectivity reported for structure *structure-name*

Explanation

The queue manager has lost connectivity to the coupling facility in which the identified structure is allocated, and has been notified that the coupling facility is still available on other systems in the sysplex.

System action

A system-managed rebuild will be scheduled to rebuild the structure in an alternative coupling facility, if one is available.

System programmer response

Investigate and resolve the loss of connectivity to the coupling facility on which the structure is allocated.

CSQE144I

csect-name System-managed rebuild initiated for structure *structure-name*

Explanation

The queue manager has initiated a system-managed rebuild for the identified structure on an alternative coupling facility.

System action

Processing continues and when the process has completed, you receive message CSQE005I.

CSQE145E

csect-name Auto recovery for structure *structure-name* is not possible, no alternative CF defined in CFRM policy

Severity

8

Explanation

The queue manager has lost connectivity to the coupling facility in which the identified structure is allocated, but cannot automatically recover the structure because there is no alternative coupling facility in the CFRM preference list.

System action

Processing continues without connectivity to the structure. Any queues that reside on the application structure remain unavailable.

System programmer response

Investigate and resolve the loss of connectivity to the Coupling Facility on which the structure is allocated.

CSQE146E

csect-name System-managed rebuild for structure *structure-name* failed, reason=*reason*

Severity

8

Explanation

The queue manager attempted to initiate a system-managed rebuild for the identified structure but the rebuild could not be performed.

System action

Processing continues without connectivity to the structure. Any queues that reside on the application structure remain unavailable.

System programmer response

Examine the reason code to determine why the system-managed rebuild could not be completed. The codes are described in the *z/OS MVS Programming: Sysplex Services Reference* manual.

CSQE147I

csect-name System-managed rebuild for structure *structure-name* is already in progress

Explanation

The queue manager attempted to initiate a system-managed rebuild for the identified structure but determined that another queue manager in the queue sharing group has initiated it already.

System action

Processing continues.

CSQE148I

csect-name Loss of connectivity processing for structure *structure-name* deferred

Explanation

The queue manager has lost connectivity to the coupling facility in which the identified structure is allocated, but MVS™ has requested that the queue manager should not take action until a subsequent notification is received.

System action

Processing continues without connectivity to the structure. Any queues that reside on the application structure remain unavailable.

CSQE149I

csect-name Waiting for other queue managers to disconnect from structure *structure-name*

Explanation

The queue manager has lost connectivity to the coupling facility, in which the identified structure is allocated, but cannot delete the structure or initiate a system-managed rebuild because one or more queue managers that also lost connectivity remain connected to it.

System action

The queue manager will periodically retry the attempted operation until all of the queue managers have disconnected.

CSQE150I

csect-name System-managed rebuild already completed for structure *structure-name*

Explanation

A system-managed rebuild for the identified structure is unnecessary as another request to rebuild the structure has been completed.

System action

Processing continues.

CSQE151I

csect-name Loss of admin structure connectivity toleration enabled

Explanation

If any queue manager in the queue sharing group loses connectivity to the administration structure the structure will be rebuilt in an alternative CF, if one is available.

If the structure cannot be rebuilt, some shared queue functions on queue managers that have lost connectivity will be unavailable until connectivity to the structure has been restored. Access to private queues will not be affected.

System action

Processing continues.

CSQE152I

csect-name Loss of admin structure connectivity toleration disabled

Explanation

If the queue manager loses connectivity to the administration structure no attempt to rebuild it is made. The queue manager terminates with abend code 5C6-00C510AB.

This can occur if the CFCONLOS queue manager attribute is set to TERMINATE.

System action

Processing continues.

CSQE153I

csect-name Auto recovery for structure *struct-name* has been scheduled

Explanation

The queue manager has detected that the identified structure which has automatic recovery enabled, has failed, or connectivity to it has been lost on all systems in the sysplex.

The queue manager has scheduled an attempt to recover the structure.

System action

One of the active queue managers in the queue sharing group will attempt to recover the identified structure.

CSQE154I

csect-name Structure *struct-name* has been deleted

Explanation

The queue manager has successfully deleted the identified structure from the coupling facility.

System action

Processing continues.

CSQE155I

csect-name Structure *struct-name* has already been deleted

Explanation

The queue manager attempted to delete the identified structure from the coupling facility. It could not be deleted because it was not allocated.

System action

Processing continues.

CSQE156I

csect-name Structure *struct-name* has already been reallocated

Explanation

The queue manager lost connectivity to the identified structure. When attempting to delete the structure the queue manager found that the structure had been reallocated since connectivity was lost.

System action

Processing continues.

CSQE157E

csect-name Unable to recover structure *struc-name*, no suitable CF available

Severity

8

Explanation

A RECOVER CFSTRUCT command was issued or automatic recovery started for the identified structure, but there was no suitable Coupling Facility available in which to allocate it.

System action

Processing of the command, or automatic recovery for the identified structure, is terminated.

System programmer response

Ensure that a suitable Coupling Facility in the CFRM preference list for the identified structure is available, then reissue the command.

CSQE158E

csect-name Recovery of structure *struc-name* failed, reason=*reason*

Severity

8

Explanation

Recovery of the identified (coupling facility) CF structure has failed.

System action

Processing continues, but queues that use the identified (coupling facility) CF structure will not be accessible.

System programmer response

Refer to coupling facility codes (X'C5') for information about the reason code. Use this information to solve the problem, then reissue the RECOVER CFSTRUCT command for structures that do not have automatic recovery enabled.

CSQE159I

csect-name Waiting for structure rebuild to complete for structure *structure-name*

Explanation

The queue manager has lost connectivity to the coupling facility, in which the identified structure is allocated, but cannot delete the structure or initiate a system-managed rebuild, because a structure rebuild is currently in progress.

System action

The queue manager will periodically retry the attempted operation, until the structure rebuild is finished.

CSQE160I

csect-name Auto recovery for structure *struc-name* is suspended

Explanation

The queue manager detected that recovery for structure *struc-name* is not possible. Automatic recovery of the structure is suspended.

System action

Automatic recovery for structure *struc-name* is suspended. Automatic recovery is resumed when a successful connection to the structure is established.

System programmer response

Check for any previous errors or abends reporting problems recovering the structure.

Issue RECOVER CFSTRUCT(*struct-name*) to retry structure recovery.

CSQE161E

csect-name queue sharing group state is inconsistent; no XCF data for queue manager *qmgr-number*

Explanation

A RECOVER CFSTRUCT command or automatic structure recovery could not read all the log data required for recovery, because there was no XCF data for one of the queue managers in the QSG. *qmgr-number* is the number of the affected queue manager in the MQ Db2 tables.

System action

Processing of the command is terminated. Automatic recovery of the structure will not be attempted.

System programmer response

If the queue manager with number *qmgr-number* in the MQ Db2 tables has been force removed from the queue sharing group then added back into the QSG, start the queue manager and issue the RECOVER CFSTRUCT command again. Otherwise, reset the structure to an empty state by issuing the RECOVER CFSTRUCT TYPE(PURGE) command.

CSQE162E

csect-name Structure *struc-name* could not be deleted, RC=*return-code* reason=*reason*

Severity

8

Explanation

The queue manager failed to delete structure *struc-name* from the Coupling Facility when processing a DELETE CFSTRUCT command.

System action

Processing continues.

System programmer response

Examine the return and reason codes to determine why the Coupling Facility structure could not be deleted by the IXLFORCE macro. The codes are described in the [z/OS MVS Programming: Sysplex Services Reference](#) manual.

Correct the problem that caused the failure, then delete the structure by issuing the SETXCF FORCE,STRUCTURE z/OS command.

CSQE201E

Media manager request failed with return code *ccccffss* processing *req* request for control interval *rci* in SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) data set *dsname*

Severity

8

Explanation

An error occurred when attempting the indicated media manager request (READ, UPDATE or FORMAT) for the data set.

ccccffss

is the media manager return code in hexadecimal. The last byte *ss* indicates the overall type of error:

08

Extent error

0C

Logic error

10

Permanent I/O error

14

Undetermined error

The *cccc* field identifies the specific error and the *ff* field identifies the function which returned the error. See the [z/OS DFSMSdfp Diagnosis](#) manual for further details of media manager return codes.

req

specifies the type of request:

READ

Read one or more control intervals.

UPDATE

Rewrite one or more control intervals.

FORMAT

Format one or more control intervals.

rci

identifies the relative control interval (RCI) number of the control interval being accessed, in hexadecimal.

qmgr-name

identifies the queue manager which owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

dsname

shows the full name of the shared message data set.

System action

This typically results in the **SMDS** status being set to **FAILED** (if it is the data set owned by the current queue manager) or the **SMDSCONN** status being set to **ERROR** (if it is a data set owned by a different queue manager).

System programmer response

If the problem is a permanent I/O error caused by damage to the data set and recovery logging was enabled, the data set can be recovered by the recreating it from a backup and reapplying the logged changes using the **RECOVER CFSTRUCT** command.

If the data set is temporarily unavailable (for example because of a device connectivity problem) but is not damaged, then when the data set is available again, it can be put back into normal use by using the **RESET SMDS** command to set the status to **RECOVERED**.

CSQE202E

Media manager service failed with return code *ret-code*, feedback code *feedback-code*, processing function for SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) data set *dsname*

Severity

8

Explanation

A media manager support services (MMGRSRV) function gave an unexpected error.

ret-code

indicates the MMGRSRV return code, in hexadecimal.

08

Media Manager Services error.

14

Indeterminate error

feedback-code

indicates the 8-byte MMGRSRV internal feedback code, in hexadecimal.

For CONNECT processing, the first byte of this feedback code is the same as the VSAM OPEN error information returned in ACBERFLG.

function

indicates the type of function requested, which can be any of the following:

CONNECT

Open the data set.

DISCONNECT

Close the data set.

EXTEND

Extend the data set being written by the current queue manager, or obtain access to recently added extents for a data set which has been extended by another queue manager.

CATREAD

Obtain the highest allocated and highest used control interval numbers from the catalog entry for the current data set.

CATUPDT

Update the highest used control interval in the catalog entry for the current data set, after formatting new extents.

qmgr-name

identifies the queue manager which owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

dsname

shows the full name of the shared message data set.

System action

This typically results in the **SMDS** status being set to **FAILED** (if it is the data set owned by the current queue manager) or the **SMDSCONN** status being set to **ERROR** (if it is a data set owned by a different queue manager).

System programmer response

This message is normally preceded by a system message such as IEC161I from VSAM or DFP indicating the nature of the error.

If the problem is a permanent I/O error caused by damage to the data set and recovery logging was enabled, the data set can be recovered by the recreating it from a backup and reapplying the logged changes using the **RECOVER CFSTRUCT** command.

If the data set is temporarily unavailable (for example because of a device connectivity problem) but is not damaged, then when the data set is available again, it can be put back into normal use by using the **RESET SMDS** command to set the status to **RECOVERED**.

CSQE211I

Formatting is in progress for *count* pages in SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) data set *dsname*

Severity

0

Explanation

The data set is being formatted from the current highest used page to the highest allocated page. This message occurs either when a new extent has been allocated or immediately after opening an existing data set which has not been fully formatted (that is, the highest used page is less than the highest allocated page).

count

indicates the number of pages which need to be formatted (in decimal).

qmgr-name

identifies the queue manager which owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

dsname

shows the full name of the shared message data set.

System action

Formatting continues.

CSQE212I

Formatting is complete for SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) data set *dsname*

Severity

0

Explanation

Formatting of the data set has completed and the highest used page has been successfully updated in the catalog.

dsname

identifies the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

System action

The newly formatted space is made available for use.

CSQE213I

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) data set *dsname* is now *percentage*% full

Severity

0

Explanation

The data set is nearly full.

qmgr-name

identifies the queue manager which owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

dsname

shows the full name of the shared message data set.

percentage

shows the percentage of data blocks in the data set which are currently in use.

This message is issued when the data set becomes 90% full, 92% full, and so on, up to 100%. After this message has been issued for a particular percentage, it is not issued again until the usage has changed in either direction by at least 2%. If the usage then decreases to 88% or less (as a result of messages being deleted or as a result of the data set being expanded) a final message is issued to indicate the new usage percentage.

System action

If expansion is allowed, the data set is expanded. If the data set reaches 100% full, then requests to put new messages that require space in the data set are rejected with return code MQRC_STORAGE_MEDIUM_FULL.

System programmer response

You can check the usage in more detail using the **DISPLAY USAGE** command with the **SMDS** keyword.

CSQE215I

Further expansion of SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) data set *dsname* is not possible because the maximum number of extents have been allocated

Severity

0

Explanation

The media manager interface has indicated that the data set has reached the maximum number of extents, and cannot be expanded any further.

qmgr-name

identifies the queue manager that owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

dsname

shows the full name of the shared message data set.

This message can be issued when the data set is opened, or following an expansion attempt, which might have been successful, as indicated by previous messages.

System action

The expansion option for the data set is changed to **DSEXPAND(NO)** to prevent further expansion attempts.

System programmer response

The only way to expand the data set further is to make it temporarily unavailable by using the **RESET SMDS** command to mark the status as **FAILED**, copy it to a new location using larger extents, then make it available again using the **RESET SMDS** command to mark the status as **RECOVERED**.

CSQE217I

Expansion of SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) data set *dsname* was successful, *count* pages added, total pages *total*

Severity

0

Explanation

The data set was expanded, and one or more new extents have been successfully added.

qmgr-name

identifies the queue manager, which owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

dsname

shows the full name of the shared message data set.

count

indicates the number of new pages that have been allocated (in decimal).

total

indicates the total number of pages currently allocated (in decimal).

System action

The queue manager formats the newly allocated space.

CSQE218E

Expansion of SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) data set *dsname* was unsuccessful

Severity

8

Explanation

An attempt was made to expand the data set, but it was unsuccessful, typically because insufficient space was available.

qmgr-name

identifies the queue manager, which owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

dsname

shows the full name of the shared message data set.

System action

The expansion option for the data set is changed to **DSEXPAND(NO)** to prevent further expansion attempts.

System programmer response

Check for messages from VSAM or DFP that explain why the request was unsuccessful, and do the required actions.

If space is made available later, change the expansion option back to allow expansion to be tried again.

CSQE219I

Extents refreshed for SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) data set *dsname*, *count* pages added, total pages *total*

Severity

0

Explanation

The data set was extended by another queue manager. The current queue manager used media manager services to update the extent information for the open data set to read message data within the new extents.

qmgr-name

identifies the queue manager that owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

dsname

shows the full name of the shared message data set.

count

indicates the number of new page that have been allocated (in decimal).

total

indicates the total number of pages currently allocated (in decimal).

System action

The new extents are made visible to the current queue manager.

CSQE222E

Dynamic allocation of SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) data set *dsname* failed with return code *ret-code*, reason code *eeeeiiii*

Severity

8

Explanation

An attempt was made to allocate the data set using the data set name formed by taking the generic **DSGROUP** name and inserting the queue manager name, but the DYNALLOC macro returned an error.

qmgr-name

identifies the queue manager which owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

dsname

shows the full name of the shared message data set.

ret-code

shows the return code from DYNALLOC, in decimal.

eeeeiiii

shows the reason code, consisting of the error and information codes returned by DYNALLOC, in hexadecimal.

System action

This typically results in the **SMDS** status being set to **FAILED** (if it is the data set owned by the current queue manager) or the **SMDSCONN** status being set to **ERROR** (if it is a data set owned by a different queue manager).

System programmer response

Check the job log for dynamic allocation error messages giving more details about the problem.

After any changes, use the **START SMDSCONN** command to trigger a new attempt to use the data set.

When the reason code is '02540000', indicating that the allocation failed due to a required ENQ being unavailable, the queue manager will automatically retry the allocation request on subsequent attempts to access the SMDS.

When the reason code is '02380000', indicating that the allocation failed because there was not enough space in the MVS task I/O table (TIOT), increase the size of the TIOT using the ALLOCxx PARMLIB member.

 Alternatively, from IBM MQ 9.4.0, specify NON_VSAM_XTIOT=YES in the DEVSUPxx PARMLIB member which allows use of the extended TIOT.

CSQE223E

Dynamic deallocation of SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) data set *dsname* failed with return code *ret-code*, reason code *eeeeiiii*

Severity

8

Explanation

An attempt was made to deallocate the data set but the DYNALLOC macro returned an error.

qmgr-name

identifies the queue manager which owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

dsname

shows the full name of the shared message data set.

ret-code

shows the return code from DYNALLOC, in decimal.

eeeeiiii

shows the reason code, consisting of the error and information codes returned by DYNALLOC, in hexadecimal.

System action

No further action is taken, but problems can occur if an attempt is made to use the data set, either from another job or from the same queue manager.

System programmer response

Check the job log for dynamic allocation error messages giving more details about the problem.

CSQE230E

csect-name SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) data set *dsname* saved space map cannot be used the time stamp *time1* does not match the last CLOSE time stamp *time2* in the SMDS object

Severity

8

Explanation

The shared message data set owned by this queue manager appears to have been closed normally last time it was used, with a saved space map, but the time stamp in the data set does not match the time stamp stored in the SMDS object in Db2 the last time this queue manager closed the data set. This means that the saved space map may not be consistent with the current messages in the coupling facility, so it needs to be rebuilt.

The most probable cause for this message is that the data set has been copied or restored from a copy which was not completely up to date.

qmgr-name

identifies the queue manager that owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

dsname

shows the full name of the shared message data set.

time1

shows the time stamp found in the data set header.

time2

shows the time stamp found in the SMDS object in Db2.

System action

The existing saved space map is ignored and the space map is rebuilt by scanning the messages in the coupling facility structure which refer to the data set.

The rebuild scan process keeps track of the most recent message in the coupling facility that refers to the data set, and at the end of the scan it checks that the matching message data is found in the data set. If so, it is assumed that all changes up to at least that time are present in the data set, so no data has been lost, and the data set can be opened normally. Otherwise, message CSQI034E is issued and the data set is marked as failed.

CSQE231E

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) data set *dsname* cannot be used because it is not a VSAM linear data set with control interval size 4096 and SHAREOPTIONS(2 3)

Severity

8

Explanation

The specified data set is not a VSAM linear data set, or the control interval size is not the default value 4096, or the wrong sharing options have been specified.

qmgr-name

identifies the queue manager that owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

dsname

shows the full name of the shared message data set.

If the data set was initially empty, the sharing options are not checked until the data set has been initialized, closed, and reopened.

System action

The data set is closed and the **SMDS** status is set to **FAILED**.

System programmer response

Delete the incorrect data set, and create a one of the same name with the correct attributes.

After any changes, use the **START SMDSCONN** command to trigger a new attempt to use the data set.

CSQE232E

csect-name SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) data set *dsname* cannot be used because the identification information (*field-name*) in the header record is incorrect

Severity

8

Explanation

When the data set was opened, there was existing information in the header record (so the data set was not newly formatted) but the information did not match the expected data set identification. The identification information includes a marker "CSQESMDS" for a shared message data set followed by the names of the queue sharing group, the application structure and the queue manager which owns the shared message data set.

qmgr-name

identifies the queue manager that owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

dsname

shows the full name of the shared message data set.

field-name

identifies the first header identification field which did not have the expected value.

System action

The data set is closed and the connection is marked as **AVAIL (ERROR)**. If the data set status is **ACTIVE** or **RECOVERED**, indicating that it was currently in use, the status is changed to **FAILED**.

System programmer response

If the data set was already in use, this probably indicates that it has been overwritten in some way, in which case any persistent messages can be recovered using the **RECOVER CFSTRUCT** command.

If the data set was not yet in use, or was currently empty, ensure that it is either formatted or emptied before trying to use it again. After any changes, use the **START SMDSCONN** command to trigger a new attempt to use the data set.

To display the data set header record, you can use the Access Method Services **PRINT** command, for example as follows:

```
PRINT INDATASET('dsname') TOADDRESS(4095)
```

The format of the identification information within the data set header record is as follows:

Table 11. Format of identification information within the data set header record.					
Offset: Dec	Offset: Hex	Type	Length	Field	Description
8	8	Character	8	MARKER	Marker 'CSQESMDS'
16	10	Character	4	Queue sharing group	Queue sharing group name
20	14	Character	12	CFSTRUCT	Structure name
3	20	Character	4	SMDS	Owning queue manager
36	24	Integer	4	VERSION	Header version 1

CSQE233E

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) data set *dsname* cannot be used because the header record indicates a newly formatted data set but it was already being used

Severity

8

Explanation

When the data set was opened, the identification information in the header record was zero, indicating a new empty data set, but the data set was already in use, so it should not now be empty.

qmgr-name

identifies the queue manager that owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

dsname

shows the full name of the shared message data set.

System action

The data set is closed and marked as **FAILED**.

System programmer response

Any persistent messages can be recovered using the **RECOVER CFSTRUCT** command.

CSQE234I

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) data set *dsname* was empty so it requires formatting

Severity

0

Explanation

When the data set was opened, it was found to be empty, with no existing data and no pre-formatted space. In this case, VSAM does not allow shared access to the data set. The queue manager needs to initialize the data set.

qmgr-name

identifies the queue manager that owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

dsname

shows the full name of the shared message data set.

System action

The data set is pre-formatted up to the end of the existing extents. There is a short delay before the data set is fully available.

CSQE235I

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) data set *dsname* was not fully formatted so it requires additional formatting

Severity

0

Explanation

This occurs if the existing data set extents have not been fully formatted when the data set is opened.

qmgr-name

identifies the queue manager that owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

dsname

shows the full name of the shared message data set.

System action

The data set is formatted up to the end of the existing extents. There is a short delay before the data set is fully available.

CSQE236I

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) data set *dsname* cannot be used because there is not enough main storage available to build the space map

Severity

8

Explanation

The queue manager needs to build a space map in main storage to manage the free space in the data set, but it was unable to obtain sufficient main storage.

qmgr-name

identifies the queue manager which owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

dsname

shows the full name of the shared message data set.

System action

The data set is not opened.

System programmer response

Consider increasing the queue manager's MEMLIMIT.

If necessary, use the START SMDSCONN command to request another attempt to open the data set.

For more details see [Address space storage](#).

CSQE237I

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) data set *dsname* cannot be extended because there is not enough main storage available to build the space map

Severity

8

Explanation

The queue manager needs to build space map blocks in main storage to manage the additional space in the extended data set, but it was unable to obtain sufficient main storage.

qmgr-name

identifies the queue manager which owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

dsname

shows the full name of the shared message data set.

System action

The new extents of the data set are not available for use.

System programmer response

Consider increasing the queue manager's MEMLIMIT.

If necessary, use the START SMDSCONN command to request another attempt to open the data set.

For more details see [Address space storage](#).

CSQE238I

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) data set *dsname* is too small to use because the initial space allocation is less than two logical blocks

Severity

8

Explanation

The minimum supported data set size requires at least one logical block for control information and one logical block for data, but the data set is smaller than two logical blocks.

qmgr-name

identifies the queue manager which owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

dsname

shows the full name of the shared message data set.

System action

The data set is not opened.

System programmer response

Delete the data set and re-create it with a larger space allocation.

After making changes, use the **START SMDSCONN** command to request another attempt to open the data set.

CSQE239I

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) data set *dsname* has become full so new large messages can no longer be stored in it

Severity

8

Explanation

A message written to a shared queue contains data which is large enough to require offloading to a data set, but there is insufficient space in the data set. Further requests are likely to fail until existing messages have been read and deleted from the data set.

qmgr-name

identifies the queue manager which owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

dsname

shows the full name of the shared message data set.

System action

Any requests encountering this problem are rejected with MQRC_STORAGE_MEDIUM_FULL. This message is not issued again until the data set has been below 90% full since the previous time it was issued.

System programmer response

This problem means that the backlog of unprocessed large shared messages exceeds the size of the data set, but the data set could not be extended in time to avoid the problem.

Ensure that applications to remove large messages from the shared queues are running. Check also for previous problems relating to extending the data set, for example if there was insufficient space on eligible volumes.

CSQE241I

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) now has STATUS(*status*)

Severity

0

Explanation

The status of the shared message data set for the specified queue manager and application structure has been changed to the indicated value, either by automatic status management or by a **RESET SMDS** command.

qmgr-name

identifies the queue manager that owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

status

shows the new status value. For details of specific status values, see the [DISPLAY CFSTATUS](#) command with the **TYPE (SMDS)** option.

System action

All queue managers connected to the structure are notified of the status change. The queue managers take appropriate action if necessary, for example opening or closing the data set.

CSQE242I

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) now has ACCESS(*access*)

Severity

0

Explanation

The access availability setting for the shared message data set for the specified queue manager, and application structure has been changed to the indicated value, either by automatic status management or by a **RESET SMDS** command.

qmgr-name

identifies the queue manager, which owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

access

shows the new access availability setting. For details of specific settings, see the **DISPLAY CFSTATUS** command with the **TYPE (SMDS)** option.

System action

All queue managers connected to the structure are notified of the change. The queue managers take appropriate action if necessary, for example opening or closing the data set.

CSQE243I

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) now has DSBUFS(*value*)

Severity

0

Explanation

The number of shared message data set buffers to be used by the specified queue manager for this application structure has been changed to the indicated value. This message can either occur as a result of an **ALTER SMDS** command or when a previously specified **DSBUFS** target value cannot be achieved, in which case a warning message is issued, and the **DSBUFS** option is automatically set to the actual value achieved.

qmgr-name

identifies the queue manager, which owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

value

shows the new **DSBUFS** setting, which can either be a decimal number, giving the number of buffers to be used, or **DEFAULT**, indicating that the default **DSBUFS** value specified on the **CFSTRUCT** definition for the application structure is to be used. For more information, see the **ALTER SMDS** and **DISPLAY SMDS** commands.

System action

The queue manager identified by the **SMDS** keyword is notified, if active, and adjusts the size of its buffer pool as indicated.

CSQE244I

csect-name SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) now has DSEXPAND(*value*)

Severity

0

Explanation

The option to allow automatic expansion of a specific shared message data set has been changed as indicated. This message can occur either as a result of an **ALTER SMDS** command or when expansion was attempted but failed, in which case the option is automatically changed to **DSEXPAND(NO)** to prevent further expansion attempts. In the latter case, when the problem has been fixed, the **ALTER SMDS** command can be used to turn automatic expansion on again.

qmgr-name

identifies the queue manager which owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

value

shows the new **DSEXPAND** setting, which is **DEFAULT**, **YES** or **NO**. For more information, see the **ALTER SMDS** and **DISPLAY SMDS** commands.

System action

The queue manager identified by the **SMDS** keyword is notified, if that queue manager is active. If the change results in expansion being enabled, and the data set is already in need of expansion, an immediate expansion is attempted.

CSQE245I

CFSTRUCT(*struc-name*) now has OFFLDUSE(*offload-usage*)

Severity

0

Explanation

The **OFFLOAD** method for an application structure was recently changed and the queue manager has now determined that there are no more messages stored using the old offload method, so there is no longer any need for the old offload method to remain active. The offload usage indicator, displayed as the **OFFLDUSE** keyword on the **DISPLAY CFSTATUS** command, has been updated to indicate that only the new offload method is now in use.

For a transition from **OFFLOAD(SMDS)** to **OFFLOAD(DB2)**, this message occurs when all active data sets have been changed to the **EMPTY** state, which occurs if the data set is closed normally at a time when it does not contain any messages. In this case, the offload usage indicator is changed from **BOTH** to **DB2**, and the queue managers will no longer use the SMDS data sets, which can be deleted if no longer required.

For a transition from **OFFLOAD(DB2)** to **OFFLOAD(SMDS)**, this message occurs when the queue manager disconnects normally from the structure at a time when there are no large messages for the structure stored in Db2. In this case, the offload usage indicator is changed from **BOTH** to **SMDS**.

struc-name

identifies the application structure.

offload-usage

shows the new offload usage indicator.

System action

All queue managers connected to the structure are notified of the change. The queue managers take appropriate action if necessary, for example opening or closing data sets.

CSQE246I

csect-name SMDSCONN(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) now has STATUS(*status*)

Severity

0

Explanation

The current queue manager was unable to connect to a shared message data set, usually for reasons indicated by a previous message. The error status for the data set connection has now been set to indicate the type of problem which occurred. It will be reset next time an attempt is made to open the data set.

This message is only issued for error status values, which are shown instead of normal status if the data set has been closed because of an error. No message is issued for normal status values (**CLOSED**, **OPENING**, **OPEN** or **CLOSING**).

qmgr-name

identifies the queue manager that owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

status

shows the new error status. For details of the possible status values, see the **STATUS** keyword on the **DISPLAY SMDSCONN** command.

System action

The **SMDSCONN** availability is set to **AVAIL (ERROR)** and message CSQE247I is issued.

No further attempt is made to connect to the data set until the availability value is changed back to **AVAIL (NORMAL)**. This can occur as a result of the queue manager being restarted, or data set availability changing, or in response to the **START SMDSCONN** command. If this happens while the queue manager is running, another message CSQE247I is issued showing **AVAIL (NORMAL)**.

CSQE247I

csect-name SMDSCONN(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) now has AVAIL(*availability*)

Severity

0

Explanation

The availability setting for the connection between the current queue manager and a shared message data set has been changed to the indicated value. This can be changed either by automatic status management, for example if the queue manager is unable to open the data set, or by one of the commands **STOP SMDSCONN** or **START SMDSCONN**.

qmgr-name

identifies the queue manager that owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

availability

shows the new availability setting. For details of the possible values, see the **AVAIL** keyword on the **DISPLAY SMDSCONN** command.

System action

The current queue manager takes appropriate action if necessary, for example opening or closing the data set.

CSQE252I

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) data set *dsname* space map will be rebuilt by scanning the structure

Severity

0

Explanation

The data set space map needs to be reconstructed either following queue manager abnormal termination or data set recovery, so there will be a delay while this scan is completed.

qmgr-name

identifies the queue manager which owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

dsname

shows the full name of the shared message data set.

System action

The queue manager will scan the contents of the structure to determine which blocks in the data set are being referenced so that it can reconstruct the space map.

CSQE255I

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) data set *dsname* space map has been rebuilt, message count *msg-count*

Severity

0

Explanation

The scan to rebuild the data set space map has completed.

qmgr-name

identifies the queue manager which owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

dsname

shows the full name of the shared message data set.

msg-count

indicates the number of large messages currently stored in the data set.

System action

The data set is made available for use.

CSQE256E

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) data set *dsname* space map rebuild processing failed because a referenced message data block is beyond the end of the data set

Severity

8

Explanation

During the scan to rebuild the data set space map, a message was found in the structure which referenced a message data block with a control interval number greater than the size of the current data set. It is likely that the data set has been truncated.

qmgr-name

identifies the queue manager that owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

dsname

shows the full name of the shared message data set.

System action

The data set is closed and marked as **FAILED**.

System programmer response

This message indicates that the data set has been damaged, for example by copying it to a smaller data set, causing one or more message data blocks to be lost.

If the original copy is still available, the problem can be fixed without loss of data by reallocating the data set at the original size, copying in the original data, and then using the **RESET SMDS** command to mark the data set as **RECOVERED**.

Otherwise, any persistent messages can be recovered by recreating the data set at the original size and recovering the structure and the data set using the **RECOVER CFSTRUCT** command.

CSQE257E

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) data set *dsname* is smaller than the size recorded in the space map. The saved space map cannot be used

Severity

8

Explanation

The data set contained a saved space map, but the current size of the data set is smaller than the size recorded in the space map. It is likely that the data set has been truncated.

qmgr-name

identifies the queue manager that owns the shared message data set.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

dsname

shows the full name of the shared message data set.

System action

The saved space map is ignored and an attempt is made to rebuild the space map for the truncated data set. If all active message data is within the current extents of the data set the rebuild attempt will be successful, otherwise it will fail with message **CSQE256E**.

CSQE274E

The SMDS buffer pool for CFSTRUCT(*struc-name*) could not be created because insufficient storage was available

Severity

8

Explanation

Insufficient main storage was available to allocate the SMDS data buffer pool for the structure.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

System action

The data sets for this structure cannot be opened.

System programmer response

Consider increasing the queue manager's MEMLIMIT.

For more details about address space storage, see [Address space storage](#).

CSQE275E

The SMDS buffer pool for CFSTRUCT(*struc-name*) has been created with *actual-buffers* rather than the requested *buffer-count* because insufficient storage was available

Severity

8

Explanation

Insufficient main storage was available to allocate the requested number of buffers in the SMDS data buffer pool for the structure. A smaller number of buffers were successfully allocated.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

actual-buffers

shows the number of buffers allocated.

buffer-count

shows the requested number of buffers.

System action

The buffer pool is created with a smaller number of buffers.

System programmer response

If the specified number of buffers is enough, change the requested value to match, to avoid similar problems in future.

Consider increasing the queue manager's MEMLIMIT.

For more details see [Address space storage](#).

CSQE276I

The SMDS buffer pool for CFSTRUCT(*struc-name*) has been increased to *buffer-count* buffers

Severity

0

Explanation

The request to alter the **SMDS** buffer pool size has completed normally.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

buffer-count

shows the requested number of buffers.

System action

The additional buffers are made available for use.

CSQE277I

The SMDS buffer pool for CFSTRUCT(*struc-name*) has been increased to *actual-buffers* buffers rather than the requested *buffer-count* because insufficient storage was available

Severity

0

Explanation

The request to alter the **SMDS** buffer pool size has completed but the target number of buffers was not reached because insufficient main storage was available

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

actual-buffers

shows the number of buffers allocated.

buffer-count

shows the requested number of buffers.

System action

The additional buffers are made available for use.

CSQE278I

The SMDS buffer pool for CFSTRUCT(*struc-name*) has been decreased to *buffer-count* buffers

Severity

0

Explanation

The request to reduce the **SMDS** buffer pool size has completed normally.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

buffer-count

shows the requested number of buffers.

System action

The storage for the excess buffers is released back to the system.

CSQE279I

The SMDS buffer pool for CFSTRUCT(*struc-name*) has been decreased to *actual-buffers* buffers rather than the requested *buffer-count* because the rest of the buffers are in use

Severity

0

Explanation

The request to reduce the **SMDS** buffer pool size could not reach the target number of buffers because the current number of buffers in use exceeded that number, and active buffers cannot be released.

struc-name

identifies the application structure associated with the shared message data set.

actual-buffers

shows the number of buffers allocated.

buffer-count

shows the requested number of buffers.

System action

If the number of buffers was at least partly reduced, the storage for the excess buffers is released back to the system.

CSQE280I

SMDS usage ...

Severity

0

Explanation

This message is issued in response to a **DISPLAY USAGE** command with **TYPE(SMDS)**. It shows the data set space usage information for the shared message data sets owned by the current queue manager for each application structure which is currently using SMDS support. The information is in the following format:

Application structure	Offloaded messages	Total blocks	Total data blocks	Used data blocks	Used part	Encrypt
n	n	n	n	n% : n		
End of SMDS report						

The columns of information are as follows:

Application structure

This is the name of the application structure.

Offloaded messages

This shows the number of shared messages in the structure for which the message data has been stored in the data set owned by this queue manager.

Total blocks

This is the current total size of the owned data set in logical blocks, including blocks used to store the space map.

Total data blocks

This is the number of blocks in the owned data set which can be used to store data, excluding those used to store the space map.

Used data blocks

This is the number of blocks in the owned data set which are currently in use (that is, one or more pages of those blocks contain active message data).

Used part

This is the ratio of the number of used data blocks to the total data blocks, expressed as a percentage.

Encrypt

This indicates whether the SMDS data set is encrypted (YES, or NO).

CSQE285I

SMDS buffer usage ...

Severity

0

Explanation

This message is issued in response to a **DISPLAY USAGE** command with **TYPE(SMDS)**. It shows the shared message data set buffer pool usage information for each application structure which is currently using SMDS support. The information is in the following format:

```

Application  Block  -----  Buffers  -----  Reads  Lowest  Wait
structure   size  Total  In use  Saved  Empty  saved  free   rate  _name
nK          n      n      n      n      n      n%    n     n     n%
End of SMDS buffer report

```

The columns of information are as follows:

Application structure

This is the name of the application structure.

Block size

This shows the size of each buffer in Kbytes. This is equal to the logical block size of the shared message data set.

Buffers: Total

This is the actual number of buffers in the pool.

Buffers: In use

This is the number of buffers which are currently being used by requests to transfer data to or from the data set.

Buffers: Saved

This is the number of buffers which are free but currently contain saved data for recently accessed blocks.

Buffers: Empty

This is the number of buffers which are free and empty. When a new buffer is required, empty buffers are used first, but if there are no empty buffers, the least recently used saved buffer is reset to empty and used instead.

Reads saved

This is the percentage of read requests (during the current statistics interval) where the correct block was found in a saved buffer, avoiding the need to read the data from the data set.

Lowest free

This is the smallest number of free buffers during the current statistics interval, or zero if all buffers were used but no request had to wait for an empty buffer, or a negative number indicating the maximum number of requests which were waiting for a free buffer at the same time. If this value is negative, it indicates the number of additional buffers that would have been needed in order to avoid waits for a free buffer.

Wait rate

This is the fraction of requests to acquire a buffer which had to wait for a free buffer, expressed as a percentage. The numbers are reset when statistics are collected.

 **Security manager messages (CSQH...)****CSQH001I**

Security using uppercase classes

Severity

0

Explanation

This message is issued to inform you that security is currently using the uppercase classes MQPROC, MQNLIST, MQQUEUE and MQADMIN.

CSQH002I

Security using mixed case classes

Severity

0

Explanation

This message is issued to inform you that security is currently using the mixed case classes MXPROC, MXNLIST, MXQUEUE and MXADMIN.

CSQH003I

Security refresh did not take place for class *class-name*

Severity

4

Explanation

This message follows message CSQH004I when an attempt to refresh class MQPROC, MQNLIST, or MQQUEUE was unsuccessful because of a return code from a SAF RACROUTE REQUEST=STAT call. The return code is given in message CSQH004I.

System action

The refresh does not occur.

System programmer response

Check that the class in question (*class-name*) is set up correctly. See message CSQH004I for the reason for the problem.

CSQH004I

csect-name STAT call failed for class *class-name*, SAF return code= *saf-rc*, ESM return code=*esm-rc*

Severity

8

Explanation

This message is issued as a result of a SAF RACROUTE REQUEST=STAT call to your external security manager (ESM) returning a non-zero return code at one of the following times:

- During initialization, or in response to a REFRESH SECURITY command

If the return codes from SAF and your ESM are not zero, and are unexpected, this will cause abnormal termination with one of the following reason codes:

- X'00C8000D'
- X'00C80032'
- X'00C80038'

- In response to a REFRESH SECURITY command.

If the return codes from SAF and your ESM are not zero (for example, because a class is not active because you are not going to use it) this message is returned to the issuer of the command to advise that the STAT call failed.

Possible causes of this problem are:

- The class is not installed
- The class is not active
- The external security manager (ESM) is not active
- The RACF z/OS router table is incorrect

System programmer response

To determine if you need to take any action, see the [Security Server External Security Interface \(RACROUTE\) Macro Reference](#) for more information about the return codes.

CSQH005I

csect-name resource-type In-storage profiles successfully listed

Severity

0

Explanation

This message is issued in response to a REFRESH SECURITY command that caused the in-storage profiles to be RACLISTED (that is, rebuilt); for example, when the security switch for a resource is set on, or a refresh for a specific class is requested that requires the in-storage tables to be rebuilt.

System programmer response

This message is issued so that you can check the security configuration of your queue manager.

CSQH006I

Error returned from CSQTTIME, security timer not started

Severity

8

Explanation

An error was returned from the MQ timer component, so the security timer was not started.

System action

The queue manager terminates abnormally, with a reason code of X'00C80042'.

System programmer response

See [“Security manager codes \(X'C8’\)”](#) on page 930 for an explanation of the reason code.

CSQH007I

Reverify flag not set for user-id *userid*, no entry found

Severity

0

Explanation

A user identifier (*user-id*) specified in the RVERIFY SECURITY command was not valid because there was no entry found for it in the internal control table. This could be because the identifier was entered incorrectly in the command, or because it was not in the table (for example, because it had timed-out).

System action

The user identifier (*user-id*) is not flagged for reverify.

System programmer response

Check that the identifier was entered correctly.

CSQH008I

Subsystem security not active, no userids processed

Severity

0

Explanation

The RVERIFY SECURITY command was issued, but the subsystem security switch is off, so there are no internal control tables to flag for reverification.

CSQH009I

Errors occurred during security timeout processing

Severity

8

Explanation

This message is sent to the system log either:

- If an error occurs during security timeout processing (for example, a nonzero return code from the external security manager (ESM) during delete processing)
- Prior to a message CSQH010I if a nonzero return code is received from the timer (CSQTTIME) during an attempt to restart the security timer

System action

Processing continues.

System programmer response

Contact your IBM support center to report the problem.

CSQH010I

csect-name Security timeout timer not restarted

Severity

8

Explanation

This message is issued to inform you that the security timeout timer is not operational. The reason for this depends on which of the following messages precedes this one:

CSQH009I

An error occurred during timeout processing

CSQH011I

The timeout interval has been set to zero

System action

If this message follows message CSQH009I, the queue manager ends abnormally with one of the following reason codes:

csect-name**Reason code****CSQH011I**

X'00C80040'

CSQHPATC

X'00C80041'

System programmer response

See [“Security manager codes \(X'C8’\)” on page 930](#) for information about the reason code.

CSQH011I

csect-name Security interval is now set to zero

Severity

0

Explanation

The ALTER SECURITY command was entered with the INTERVAL attribute set to 0. This means that no user timeouts will occur.

System programmer response

This message is issued to warn you that no security timeouts will occur. Check that this is what was intended.

CSQH012I

Errors occurred during ALTER SECURITY timeout processing

Severity

8

Explanation

This message is issued in response to an ALTER SECURITY command if errors have been detected during timeout processing (for example, a nonzero return code from the external security manager (ESM) during timeout processing).

System action

Processing continues.

System programmer response

Contact your IBM support center to report the problem.

CSQH013E

csect-name Case conflict for class *class-name*

Severity

8

Explanation

A REFRESH SECURITY command was issued, but the case currently in use for the class *class-name* differs from the system setting and if refreshed would result in the set of classes using different case settings.

System action

The refresh does not occur.

System programmer response

Check that the class in question (*class-name*) is set up correctly and that the system setting is correct. If a change in case setting is required, issue the REFRESH SECURITY(*) command to change all classes.

CSQH015I

Security timeout = *number* minutes

Severity

0

Explanation

This message is issued in response to the DISPLAY SECURITY TIMEOUT command, or as part of the DISPLAY SECURITY ALL command.

CSQH016I

Security interval = *number* minutes

Severity

0

Explanation

This message is issued in response to the DISPLAY SECURITY INTERVAL command, or as part of the DISPLAY SECURITY ALL command.

CSQH017I

Security refresh completed with errors in signoff

Severity

8

Explanation

This message is issued when an error has been detected in refresh processing; for example, a nonzero return code from the external security manager (ESM) during signoff or delete processing.

System action

Processing continues.

System programmer response

Contact your IBM support center to report the problem.

CSQH018I

csect-name Security refresh for *resource-type* not processed, security switch set OFF

Severity

0

Explanation

A REFRESH SECURITY command was issued for resource type *resource-type*. However, the security switch for this type or the subsystem security switch is currently set off.

Note: This message is issued only for resource types MQQUEUE, MQPROC, and MQNLIST, because MQADMIN is always available for refresh.

System programmer response

Ensure that the REFRESH SECURITY request was issued for the correct resource type.

CSQH019I

Keyword values are incompatible

Severity

8

Explanation

The REFRESH SECURITY command was issued, but the command syntax is incorrect because a keyword value that is specified conflicts with the value for another keyword.

System action

The command is not executed.

System programmer response

See [REFRESH SECURITY](#) for more information.

CSQH021I

csect-name switch-type security switch set OFF, profile '*profile-type*' found

Severity

0

Explanation

This message is issued during queue manager initialization and in response to a REFRESH SECURITY command for each security switch that is set OFF because the named security profile has been found.

System action

If the subsystem security switch is set off, you will get only one message (for that switch).

System programmer response

Messages CSQH021I through CSQH026I are issued so that you can check the security configuration of your queue manager. See [Switch profiles](#) for information about setting security switches.

CSQH022I

csect-name switch-type security switch set ON, profile '*profile-type*' found

Severity

0

Explanation

This message is issued during queue manager initialization and in response to a REFRESH SECURITY command for each security switch that is set ON because the named security profile has been found.

System programmer response

Messages CSQH021I through CSQH026I are issued so that you can check the security configuration of your queue manager. See [Switch profiles](#) for information about setting security switches.

CSQH023I

csect-name switch-type security switch set OFF, profile '*profile-type*' not found

Severity

0

Explanation

This message is issued during queue manager initialization and in response to a REFRESH SECURITY command for each security switch that is set OFF because the named security profile has not been found.

System action

If the subsystem security switch is set off, you will get only one message (for that switch).

System programmer response

Messages CSQH021I through CSQH026I are issued so that you can check the security configuration of your queue manager. See [Switch profiles](#) for information about setting security switches.

CSQH024I

csect-name switch-type security switch set ON, profile '*profile-type*' not found

Severity

0

Explanation

This message is issued during queue manager initialization and in response to a REFRESH SECURITY command for each security switch that is set ON because the named security profile has not been found.

System programmer response

Messages CSQH021I through CSQH026I are issued so that you can check the security configuration of your queue manager. See [Switch profiles](#) for information about setting security switches.

CSQH025I

csect-name switch-type security switch set OFF, internal error

Severity

0

Explanation

This message is issued during queue manager initialization and in response to a REFRESH SECURITY command for each security switch that is set OFF because an error occurred.

System action

The message might be issued with message CSQH004I when an unexpected setting is encountered for a switch.

System programmer response

See message CSQH004I for more information.

Messages CSQH021I through CSQH026I are issued so that you can check the security configuration of your queue manager.

CSQH026I

csect-name switch-type security switch forced ON, profile '*profile-type*' overridden

Severity

0

Explanation

This message is issued during queue manager initialization and in response to a REFRESH SECURITY command for each security switch that was forced ON. This happens when an attempt was made to turn off both the queue manager and queue sharing group security switches for the named profile, which is not allowed.

System programmer response

Correct the profiles for the queue manager and queue sharing group security switches, and refresh security if required.

Messages CSQH021I through CSQH026I are issued so that you can check the security configuration of your queue manager. See [Switch profiles](#) for information about setting security switches.

CSQH030I

Security switches ...

Severity

0

Explanation

This is issued in response to a DISPLAY SECURITY ALL or DISPLAY SECURITY SWITCHES command and is followed by messages CSQH031I through CSQH036I for each security switch to show its setting and the security profile used to establish it.

System action

If the subsystem security switch is set off, you will get only one message (for that switch). Otherwise, a message is issued for each security switch.

CSQH031I

switch-type OFF, '*profile-type*' found

Severity

0

Explanation

This message is issued in response to a DISPLAY SECURITY ALL or DISPLAY SECURITY SWITCHES command for each security switch that is set OFF because the named security profile has been found.

System action

If the subsystem security switch is set off, you will get only one message (for that switch).

CSQH032I

switch-type ON, '*profile-type*' found

Severity

0

Explanation

This message is issued in response to a DISPLAY SECURITY ALL or DISPLAY SECURITY SWITCHES command for each security switch that is set ON because the named security profile has been found.

CSQH033I

switch-type OFF, '*profile-type*' not found

Severity

0

Explanation

This message is issued in response to a DISPLAY SECURITY ALL or DISPLAY SECURITY SWITCHES command for each security switch that is set OFF because the named security profile has not been found.

System action

If the subsystem security switch is set off, you will get only one message (for that switch).

CSQH034I

switch-type ON, '*profile-type*' not found

Severity

0

Explanation

This message is issued in response to a DISPLAY SECURITY ALL or DISPLAY SECURITY SWITCHES command for each security switch that is set ON because the named security profile has not been found.

CSQH035I

switch-type OFF, internal error

Severity

0

Explanation

This message is issued in response to a DISPLAY SECURITY ALL or DISPLAY SECURITY SWITCHES command for each security switch that is set OFF because an error occurred during initialization or when refreshing security.

System action

The message is be issued when an unexpected setting is encountered for a switch.

System programmer response

Check all your security switch settings. Review the z/OS system log file for other CSQH messages for errors during IBM MQ startup or when running RUNMQSC security refresh commands.

If required, correct them and refresh your security.

CSQH036I

switch-type ON, '*profile-type*' overridden

Severity

0

Explanation

This message is issued in response to a DISPLAY SECURITY ALL or DISPLAY SECURITY SWITCHES command for each security switch that was forced ON. This happens when an attempt was made to turn off both the queue manager and queue sharing group security switches for the named profile, which is not allowed.

System programmer response

Correct the profiles for the queue manager and queue sharing group security switches, and refresh security if required.

CSQH037I

Security using uppercase classes

Severity

0

Explanation

This message is issued in response to a DISPLAY SECURITY ALL or DISPLAY SECURITY SWITCHES command to inform you that security is currently using the uppercase classes MQPROC, MQNLIST, MQQUEUE and MQADMIN.

CSQH038I

Security using mixed case classes

Severity

0

Explanation

This message is issued in response to a DISPLAY SECURITY ALL or DISPLAY SECURITY SWITCHES command to inform you that security is currently using the mixed case classes MXPROC, MXNLIST, MXQUEUE and MXADMIN.

CSQH040I

Connection authentication ...

Severity

0

Explanation

This message is issued during queue manager initialization, in response to a DISPLAY SECURITY command, and in response to a REFRESH SECURITY TYPE(CONNAUTH) command. It is followed by messages CSQH041I and CSQH042I to show the value of the connection authentication settings.

CSQH041I

Client checks: *check-client-value*

Severity

0

Explanation

This message is issued during queue manager initialization, in response to a DISPLAY SECURITY command, and in response to a REFRESH SECURITY TYPE(CONNAUTH) command. It shows the current value of connection authentication client checks.

If the value shown is '????' this means that the connection authentication settings were not able to be read. Preceding error messages will explain why. Any applications which connect while the queue manager is in this state will result in error message CSQH045E.

CSQH042I

Local bindings checks: *check-local-value*

Severity

0

Explanation

This message is issued during queue manager initialization, in response to a DISPLAY SECURITY command, and in response to a REFRESH SECURITY TYPE(CONNAUTH) command. It shows the current value of connection authentication local bindings checks.

If the value shown is '????' this means that the connection authentication settings were not able to be read. Preceding error messages will explain why. Any applications which connect while the queue manager is in this state will result in error message CSQH045E.

CSQH043E

csect-name Object AUTHINFO(*object-name*) does not exist or has wrong type

Severity

8

Explanation

During queue manager initialization or while processing a REFRESH SECURITY TYPE(CONNAUTH) command, the authentication information object named in the queue manager's CONNAUTH field was referenced. It was found to either not exist, or not have AUTHTYPE(IDPWOS).

System action

If this message is issued in response to a REFRESH SECURITY TYPE(CONNAUTH) command, the command fails and the connection authentication settings remain unchanged.

If this message is issued during queue manager initialization, all connection attempts are refused with reason [“2035 \(07F3\) \(RC2035\): MQRC_NOT_AUTHORIZED”](#) on page 1142 until the connection authentication settings have been corrected.

System programmer response

Ensure the authentication information object *object-name* has been defined correctly. Ensure the queue manager's CONNAUTH field is referencing the correct object name. Correct the configuration, then issue a [REFRESH SECURITY TYPE\(CONNAUTH\)](#) command for the changes to become active.

CSQH044E

csect-name Access to AUTHINFO(*object-name*) object failed, reason=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

During queue manager initialization or while processing a REFRESH SECURITY TYPE(CONNAUTH) command, the authentication information object named in the queue manager's CONNAUTH field could not be accessed for the reason given by *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

System action

If this message is issued in response to a REFRESH SECURITY TYPE(CONNAUTH) command, the command fails and the connection authentication settings remain unchanged.

If this message is issued during queue manager initialization, all connection attempts are refused with reason "[2035 \(07F3\) \(RC2035\): MQRC_NOT_AUTHORIZED](#)" on page 1142 until the connection authentication settings have been corrected.

System programmer response

Ensure the authentication information object *object-name* has been defined correctly. Ensure the queue manager's CONNAUTH field is referencing the correct object name. Refer to "[API 完了コードと理由コード](#)" on page 1123 for information about *mqrc* to determine why the object cannot be accessed. Correct the configuration, then issue a [REFRESH SECURITY TYPE\(CONNAUTH\)](#) command for the changes to become active.

CSQH045E

csect-name application did not provide a password

Severity

8

Explanation

An application connected without supplying a user ID and password for authentication and the queue manager is configured to require this type of application to supply one.

If this is a client application, the configuration attribute CHECKCLNT is set to REQUIRED. *application* is identified by *channel name/connection details*.

If this is a locally bound application, the configuration attribute CHECKLOCL is set to REQUIRED. *application* is identified by *user id/application name*.

If the connection authentication configuration was unable to be read, this message will also be seen. See messages [CSQH041I](#) and [CSQH042I](#).

System action

The connection fails and the application is returned "[2035 \(07F3\) \(RC2035\): MQRC_NOT_AUTHORIZED](#)" on page 1142.

System programmer response

Ensure all applications are updated to supply a user ID and password, or alter the connection authentication configuration to OPTIONAL instead of REQUIRED, to allow applications to connect that have not supplied a user ID and password.

If the connection authentication configuration was unable to be read, check for earlier error messages and make corrections based on what is reported.

After making configuration changes, issue a [REFRESH SECURITY TYPE\(CONNAUTH\)](#) command for the changes to become active.

If the application is a client application, the user ID and password can be supplied without changing the application code, by using a security exit, such as `mqccred`, which is supplied with the IBM MQ MQI client.

CSQH046E

csect-name application supplied a password for user ID *userid* that has expired

Severity

8

Explanation

An application connected and supplied a user ID *userid* and password for authentication. The password supplied has expired.

If this is a client application, *application* is identified as 'channel name'/'connection details'.

If this is a locally bound application, *application* is identified as 'running user id'/'application name'.

System action

The connection fails and the application is returned “[2035 \(07F3\) \(RC2035\): MQRC_NOT_AUTHORIZED](#)” on page 1142.

System programmer response

Set a new password for *userid* using O/S facilities and retry the connect from the application using the new password.

Data manager messages (CSQI...)

CSQI002I

csect-name Page set *psid* value out of range

Severity

8

Explanation

One of the following commands has been issued:

- DEFINE STGCLASS
- DISPLAY STGCLASS
- DISPLAY USAGE

The value given for the page-set identifier was not in the range 0 through 99.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Reissue the command using the correct syntax. (See [MQSC commands](#) for information about the command.)

CSQI003I

csect-name 'PSID' not allowed with TYPE (*usage-type*)

Severity

8

Explanation

A DISPLAY USAGE command was issued specifying both the PSID keyword and either TYPE(DATASET), or TYPE(SMDS), which is not allowed.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Reissue the command using the correct syntax; see [DISPLAY USAGE](#) for additional information.

CSQI004I

csect-name Consider indexing *queue-name* by *index-type* for *connection-type* connection *connection-name*, *num-msgs* messages skipped

Severity

0

Explanation

The queue manager has detected an application receiving messages by message ID or correlation ID from a queue that does not have an index defined.

The type of index that should be established for the queue is indicated by *index-type*, and is either MSGID or CORRELID. The type of application that is affected is identified by *connection-type*, and is either BATCH, CHIN, CICS or IMS.

- For batch applications *connection-name* contains the job name.
- For the channel initiator *connection-name* contains the channel name.
- For CICS applications *connection-name* contains the region and transaction names.
- For IMS applications *connection-name* contains the IMS sysid, PSTID and PSB names.

The number of messages skipped while searching for the requested message, shown as *num-msgs*, is an indication of the impact of not having an index defined.

System action

Processing continues.

System programmer response

Investigate the application to determine whether an index is required for the queue.

The parameter to use with the DEFINE QLOCAL or ALTER QLOCAL command is **INDXTYPE**. Set it to *MSGID* or *CORRELID*, as indicated by the output you received for this message.

Applications that receive messages by message ID or correlation ID might encounter a performance degradation if an index is not defined and the depth of the queue is large.

CSQI005I

csect-name PAGE SET *nn* OFFLINE. RECOVERY RBA = *rba*

Severity

0

Explanation

This message indicates that the page set *nn* is currently not accessible by the queue manager. This might be because the page set has not been defined to the queue manager with the DEFINE PSID command.

This message can also be issued if the page set has been marked suspended.

Note: *rba* is the restart RBA for page set *nn*.

This situation can cause problems, so you should take action to correct it as soon as possible.

System action

Processing continues.

System programmer response

If the page set is required, bring it online; this can be done without stopping the queue manager. Use the FORMAT function of the utility program CSQUTIL, specifying TYPE(REPLACE). Then issue a DEFINE PSID command to bring the page set back into use. Note that all units of recovery (except those that are indoubt) that involved the offline page set will have been backed out by the queue manager when the page set was last used. These indoubt units of recovery may be resolved once the page set is back in use by the queue manager.

CSQI006I

csect-name COMPLETED IN-STORAGE INDEX FOR QUEUE *q-name*

Severity

0

Explanation

During restart, in-storage indexes are built for non-shared queues that have the INDXTYPE attribute, which might take some time. This message records that index-building has been completed for the specified queue.

System action

Processing continues.

CSQI007I

csect-name BUILDING IN-STORAGE INDEX FOR QUEUE *q-name*

Severity

0

Explanation

During restart, in-storage indexes are built for non-shared queues that have the INDXTYPE attribute, which might take some time. This message records that an index is being built for the specified queue.

System action

The in-storage index is built.

CSQI010I

Page set usage ...

Severity

0

Explanation

This message is the response to the DISPLAY USAGE command. It provides information about the page set usage, as follows:

```
Page ...  
set  
_ n page-set-information :  
End of page set report
```

where *n* is the page set identifier. The columns of *page-set-information* are:

Buffer pool

The buffer pool used by the page set.

Total pages

The total number of 4 KB pages in the page set (this relates to the records parameter on the VSAM definition of the page set).

Unused pages

The number of pages that are not used (that is, available page sets).

Persistent data pages

The number of pages holding persistent data (these pages are being used to store object definitions and persistent message data).

Nonpersistent data pages

The number of pages holding nonpersistent data (these pages are being used to store nonpersistent message data).

Expansion count

The type of expansion used for the page set (SYSTEM, USER, or NONE), and the number of times the page set has been dynamically expanded since restart. (The maximum number of times the page set can be expanded is constrained by the maximum number of extents allowable for the type of VSAM data set allocation and your operating system version.) If the count is large, your page set allocation might be wrong, or you might have some message processing problem.

Encrypt

The data set encryption status of the page set (YES, or NO).

Note: The page numbers are approximate because other threads might be altering the status of pages in this page set while the command is being processed.

If a page set is unavailable, *page-set-information* is one of:

has never been online

if the page set has been defined, but has never been used.

OFFLINE, recovery RBA=*rba*

if the page set is currently not accessible by the queue manager, for example because the page set has not been defined to the queue manager with the DEFINE PSID command; *rba* is the restart RBA for the page set.

is not defined

if the command was issued for a specific page set that is not defined to the queue manager.

is suspended, buffer pool *buffer pool number*, recovery RBA=*rba*

if the page set is suspended; *rba* is the restart RBA for the page set.

Exceptionally, the last line of the report might be:

```
Page set report terminated
```

if there was an error in obtaining the information. The error is described in the following messages.

CSQI012E

```
csect-name COULD NOT COMPLETE COMMAND. STORAGE EXHAUSTED
```

Severity

8

Explanation

A display of page set usage could not complete because all the available storage was exhausted.

System action

The output terminates at this point. There might be more information that has not been displayed. If this is in response to a DISPLAY USAGE command without the PSID keyword, try it again, specifying a page set identifier. This could decrease the amount of information produced, enabling it all to be displayed.

CSQI020I

```
MAXSMGS(number)
```

Severity

0

Explanation

This message is issued in response to a DISPLAY MAXSMGS command, and displays the maximum number of messages that a task can get or put within a single unit of recovery.

CSQI021I

csect-name PAGE SET *psid* IS EMPTY. MEDIA RECOVERY STARTED

Severity

0

Explanation

The queue manager has recognized a page set with a recovery RBA of zero. It will update the page set using information in the log data sets.

System action

The queue manager rebuilds the page set.

CSQI022I

csect-name PAGE SET *psid* NEWLY ADDED

Severity

0

Explanation

The queue manager has recognized that page set *psid* is new to the system.

CSQI023I

csect-name PAGE SET *psid* ONLINE AGAIN. MEDIA RECOVERY STARTED

Severity

0

Explanation

A page set has been redefined to the queue manager after a period offline or suspended.

System action

Any updates to the page set that are necessary are applied.

CSQI024I

csect-name Restart RBA for system as configured = *restart-rba*

Severity

0

Explanation

This message gives the restart RBA (relative byte address) for the queue manager, but does not include any offline or suspended page sets in the calculation of this restart point.

This value can be used to determine where to truncate logs, if you have no offline or suspended page sets.

If you have offline or suspended page sets that you want to add to your system at some time in the future, you must use the restart RBA given in message CSQI025I. If you truncate your logs at *rba* you might make it impossible to add the offline or suspended page sets back to the system.

CSQI025I

csect-name Restart RBA including offline page sets = *restart-rba*

Severity

0

Explanation

This message gives the restart RBA (relative byte address) for the queue manager, including any offline or suspended page sets.

This value can be used to determine where to truncate logs, if you have offline or suspended page sets that you want to add to the system in the future.

CSQI026I

csect-name PAGE SET *nn* DEFINED, BUT HAS NEVER BEEN ONLINE

Severity

0

Explanation

This message indicates that the page set *nn* has been defined, but it has never been used. Consequently, there is no restart RBA for the page set.

System action

Processing continues.

CSQI027I

csect-name PAGE SET *nn* TREATED AS A NEW PAGE SET

Severity

0

Explanation

This message indicates that the page set *nn* has been formatted using TYPE(NEW). It is treated as if it has been newly-added to the system, so all historical information relating to this page set is discarded. In particular, all queues that use storage classes that reference the page set will be cleared of all messages.

System action

Processing continues.

CSQI028E

csect-name PAGE SET CONFLICT FOR QUEUE *queue*

Severity

8

Explanation

The named queue contains messages that are on a different page set from that associated with the storage class for the queue.

System action

This message might be issued more than once, each occurrence naming a different queue. The queue manager ends abnormally with reason code X'00C93800'.

System programmer response

Contact your IBM support center for assistance.

CSQI029I

csect-name PAGE SET *psid* IS AN OLD COPY. MEDIA RECOVERY STARTED

Severity

0

Explanation

The queue manager has recognized that the media recovery RBA held within the page set is older than the media recovery RBA checkpointed for the page set. This is because the queue manager was started with an old copy of the page set.

System action

Any updates to the page set that are necessary are applied. Restart processing continues.

CSQI030I

csect-name PAGE SET *nn* TREATED AS A REPLACEMENT PAGE SET

Severity

0

Explanation

This message indicates that the page set *nn* has been formatted using TYPE(REPLACE). No media recovery will be performed on the page set.

System action

Processing continues.

CSQI031I

csect-name THE NEW EXTENT OF PAGE SET *psid* HAS FORMATTED SUCCESSFULLY

Severity

0

Explanation

Following the dynamic extension of page set *psid*, the new extent has been formatted successfully.

System action

Processing continues.

CSQI032I

csect-name NEW EXTENT(S) OF *nnn* PAGES DISCOVERED ON PAGE SET *psid* WILL NOW BE FORMATTED

Severity

0

Explanation

During restart, it was discovered that page set *psid* had been extended dynamically, but that *nnn* pages had not been formatted. This formatting will now be done.

System action

Processing continues.

CSQI033E

csect-name Block *block-number* of the message data for entry ID *entry-id* in CFSTRUCT(*struc-name*) was not found in Db2

Severity

8

Explanation

A shared message was read which referred to message data in Db2, but the corresponding data was not found in the Db2 table.

block-number

identifies the block number within the message of the data block which was not found.

entry-id

identifies the coupling facility entry for the shared message.

struc-name

identifies the application structure.

System action

If the message was persistent, the structure is marked as failed, requiring recovery, and messages CSQI036I and CSQE035E are issued.

If the message was nonpersistent, the damaged message is deleted and message CSQI037I is issued.

In both cases, a dump is produced.

CSQI034E

csect-name Block *block-number* of the message data for entry ID *entry-id* in CFSTRUCT(*struc-name*) refers to SMDS(*qmgr-id*) control interval *rci* but the stored data does not match the entry id

Severity

8

Explanation

A shared message was read which referred to message data stored in a shared message data set (SMDS), but when the data was read from the referenced location in the data set, the entry ID in the block prefix did not match the entry ID of the message.

block-number

identifies the block number within the message of the data block which was not found.

entry-id

identifies the coupling facility entry for the shared message.

struc-name

identifies the application structure.

qmgr-ide>

identifies the queue manager which owns the shared message data set.

rci

identifies the relative control interval number within the data set where the message block was expected to start.

System action

If the message was being retrieved for backup purposes, a dump is produced and the queue manager terminates.

Otherwise, action is taken as follows:

- If the message was persistent, the shared message data set and the structure are marked as failed, requiring recovery, and messages CSQI036I and CSQE035E are issued.
- If the message was nonpersistent, the damaged message is deleted and message CSQI037I is issued.

In both cases, a dump is produced.

CSQI035E

csect-name Block *block-number* of the message data for entry ID *entry-id* in CFSTRUCT(*struc-name*) refers to SMDS but the data set ID is not valid

Severity

8

Explanation

A shared message was read which referred to message data stored in a shared message data set (SMDS), but the relevant queue manager id (identified by the last byte of the entry id) is not one which currently owns a shared message data set.

block-number

identifies the block number within the message of the data block which could not be read.

entry-id

identifies the coupling facility entry for the shared message.

struc-name

identifies the application structure.

System action

If the message was persistent, the structure is marked as failed, requiring recovery, and messages CSQI036I and CSQE035E are issued.

If the message was nonpersistent, the damaged message is deleted and message CSQI037I is issued.

In both cases, a dump is produced.

CSQI036I

csect-name CFSTRUCT(*struc-name*) has been marked as failed because the data for persistent message with entry ID *entry-id* could not be retrieved

Severity

0

Explanation

A damaged persistent message was found, so the structure has been marked as failed, requiring recovery.

struc-name

identifies the application structure.

entry-id

identifies the coupling facility entry for the shared message.

System action

The structure is marked as failed and message CSQE035E is issued.

CSQI037I

csect-name The nonpersistent message with entry ID *entry-id* has been deleted from CFSTRUCT(*struc-name*) because the data could not be retrieved

Severity

0

Explanation

A damaged nonpersistent message was found which could not be successfully retrieved, so it has been deleted.

entry-id

identifies the coupling facility entry for the shared message.

struc-name

identifies the application structure.

System action

The damaged message is deleted. No attempt is made to delete any associated SMDS message data.

CSQI038I

csect-name The damaged message with entry id *entry-id* in CFSTRUCT(*struct-name*) is for queue *queue-name*

Severity

0

Explanation

A damaged shared message entry has been found, as indicated by a previous message, and this message indicates the corresponding queue name.

struc-name

identifies the application structure.

entry-id

identifies the coupling facility entry for the shared message.

queue-name

identifies the queue for which the message cannot be retrieved.

System action

Processing continues. This message will be followed by message CSQI036I or CSQI037I, depending on whether the damaged message was persistent or not.

CSQI039E

csect-name LRSN required for structure recovery not available for one or more CF structures

Explanation

The LRSN required for structure recovery for one or more CF structures could not be located within the logs indexed in the BSDS.

Previous CSQE040I and CSQE041E messages might indicate which CF structures are causing this error to occur.

System action

Processing continues.

System programmer response

Use the **BACKUP CFSTRUCT** command, on any queue manager in the queue sharing group, to make a new CF structure backup. You might consider setting up a procedure to take frequent backups automatically.

CSQI041I

csect-name JOB *jobname* USER *userid* HAD ERROR ACCESSING PAGE SET *psid*

Severity

0

Explanation

This message is issued when there is an error on a page set. The message identifies the job name, user ID, and page set identifier associated with the error.

CSQI042E

csect-name WLM IWMCONN request failed, rc=*rc* reason=*reason*

Severity

8

Explanation

A Workload Management Services (WLM) connect call failed. *rc* is the return code and *reason* is the reason code (both in hexadecimal) from the call.

System action

Processing continues, but WLM services are not available.

System programmer response

See the *z/OS MVS Programming: Workload Management Services* manual for information about the return and reason codes from the WLM call. When you have resolved the problem, you will need to restart the queue manager. If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center for assistance.

CSQI043E

csect-name WLM *call-name* request for process *process-name* failed, rc=*rc* reason=*reason*

Severity

8

Explanation

A Workload Management Services (WLM) call failed. *rc* is the return code and *reason* is the reason code (both in hexadecimal) from the call.

System action

Processing continues, but WLM services are not available.

System programmer response

See the *z/OS MVS Programming: Workload Management Services* manual for information about the return and reason codes from the WLM call. When you have resolved the problem, you will need to restart the queue manager. If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center for assistance.

CSQI044I

csect-name Process *process-name* used by queue *q-name* was not found

Severity

0

Explanation

The named queue is indexed by message tokens. An action was being performed for the queue that required the use of the Workload Management Services (WLM) IWMCLSFY service. However, the process specified by the queue does not exist, so the service name for WLM cannot be determined.

System action

A blank service name is passed to the Workload Management Services (WLM) IWMCLSFY service.

System programmer response

Correct the queue or process definitions.

CSQI045I

csect-name Log RBA has reached *rba*. Plan a log reset

Severity

4

Explanation

The current log RBA is approaching the end of the log RBA.

System action

Processing continues, unless the RBA value reaches FFF800000000 (if 6-byte log RBAs are in use) or FFFFFFFC00000000 (if 8-byte log RBAs are in use) when the queue manager terminates with reason code 00D10257.

System programmer response

Plan to stop the queue manager at a convenient time and reset the logs. See [RESETPAGE](#) for information on how to reset the logs using the CSQUTIL utility program and [resetting the queue manager's log](#).

If your queue manager is using 6-byte log RBAs, consider converting the queue manager to use 8-byte log RBAs. See [Planning to increase the maximum addressable log range](#) for further information.

CSQI046E

csect-name Log RBA has reached *rba*. Perform a log reset

Severity

8

Explanation

The current log RBA is approaching the end of the log RBA.

System action

Processing continues, unless the RBA value reaches FFF800000000 (if 6-byte log RBAs are in use) or FFFFFFFC00000000 (if 8-byte log RBAs are in use) when the queue manager terminates with reason code [00D10257](#).

System programmer response

Stop the queue manager as soon as it is convenient and reset the logs. See [RESETPAGE](#) for information on how to reset the logs using the CSQUTIL utility program and [resetting the queue manager's log](#).

If your queue manager is using 6-byte log RBAs, consider converting the queue manager to use 8-byte log RBAs. See [Planning to increase the maximum addressable log range](#) for further information.

CSQI047E

csect-name Log RBA has reached *rba*. Stop queue manager and reset logs

Severity

8

Explanation

The current log RBA is too close to the end of the log RBA range.

System action

Processing continues, unless the RBA value reaches FFF800000000 (if 6-byte log RBAs are in use) or FFFFFFFC00000000 (if 8-byte log RBAs are in use) when the queue manager terminates with reason code [00D10257](#).

System programmer response

Stop the queue manager immediately and reset the logs. See [RESETPAGE](#) for information on how to reset the logs using the CSQUTIL utility program and [resetting the queue manager's log](#).

If your queue manager is using 6-byte log RBAs, consider converting the queue manager to use 8-byte log RBAs. See [Planning to increase the maximum addressable log range](#) for further information.

CSQI048I

csect-name WLM reached maximum enclave limit

Severity

4

Explanation

Workload Management Services (WLM) reported that no more enclaves could be created, so a message could not be notified to WLM. (An IWMECREA call gave a return code of 8 with a reason code of X'xxxx0836'.)

Note: This message might be issued repeatedly during the scan of the indexes for WLM-managed queues.

System action

The queue manager will attempt to notify the message to WLM again on the next scan of the indexes for WLM-managed queues. This will be after the interval specified by the WLMTIME system parameter. For information about the system parameters for the CSQ6SYSP macro, see [Using CSQ6SYSP](#).

System programmer response

See the *z/OS MVS Programming: Workload Management Services* manual for information about the return and reason codes from the WLM call.

CSQI049I

Page set *psid* has media recovery RBA=*rcvry-rba*, checkpoint RBA= *chkpt-rba*

Severity

0

Explanation

During restart, the queue manager opened the indicated page set. The media recovery RBA from the page set itself and the checkpointed RBA from the logs are as shown.

If the RBAs differ, it indicates that an old copy of the page set is being used. If the checkpoint RBA and the prior checkpoint RBA shown in message CSQR003I differ, it indicates that the page set has been offline or suspended.

System action

Processing continues. Media recovery is performed if necessary to bring the page set up to date.

CSQI050E

csect-name Page set *psid* value RESETPAGE needed

Severity

8

Explanation

The queue manager has detected that a page set contains RBA values higher than the maximum logged.

System action

During queue manager startup, restart is terminated abnormally with completion code X'5C6' and reason code X'00C94525'.

During DEFINE PSID command processing, the command fails.

System programmer response

Run CSQUTIL with the RESETPAGE utility against the page set or sets indicated in the messages and retry the failed operation.

CSQI051E

csect-name QDEPTHHI less than QDEPTHLO for queue *queue*

Severity

8

Explanation

At start up a queue was found to have QDEPTHHI set to a value less than the value of QDEPTHLO.

System action

Processing continues.

System programmer response

Correct the queue definition so that QDEPTHHI is greater than or equal to QDEPTHLO.

CSQI052E

Invalid spacemap RBA found during restart for page set *psid*

Severity

8

Explanation

A space map page containing an invalid RBA was detected on the indicated page set during startup, indicating the page set is not in a consistent state.

This is normally as a result of the page set not being correctly processed during a past cold start operation or RESETPAGE operation.

System action

The page set is suspended. Queues using the page set will be inaccessible until the queue manager is started with the page set in a consistent state.

System programmer response

When *psid* specifies page set 0, contact IBM Service.

For page sets other than 0, plan to stop the queue manager as soon as it is convenient, then follow the procedure to restore the page set or sets to a consistent state:

- Run CSQUTIL with SCOPY PSID(x) to save persistent messages on the page set to a data set
- Format the page set with TYPE(NEW)
- Start the queue manager and reload the messages from the data set using SCOPY LOAD

CSQI053E

Invalid page RBA found during restart for page set *psid*

Severity

8

Explanation

A page containing an invalid RBA was detected on the indicated page set during startup, indicating the page set is not in a consistent state.

This is normally as a result of the page set not being correctly processed during a past cold start operation or RESETPAGE operation.

System action

The page set is suspended. Queues using the page set will be inaccessible until the queue manager is started with the page set in a consistent state.

System programmer response

When *psid* specifies page set 0, contact IBM Service.

For page sets other than 0, plan to stop the queue manager as soon as it is convenient, then follow the procedure to restore the page set or sets to a consistent state:

- Run CSQUTIL with SCOPY PSID(x) to save persistent messages on the page set to a data set
- Format the page set with TYPE(NEW)
- Start the queue manager and reload the messages from the data set using SCOPY LOAD

CSQI059E

Unable to increase cluster cache

Severity

8

Explanation

The dynamic cluster cache cannot be increased because the queue manager cluster cache task encountered an error.

System action

The cluster cache task terminates. The channel initiator will probably terminate.

System programmer response

Investigate the problem reported in any preceding messages.

CSQI060E

QSG names differ, log=*log-name* queue manager=*qmgr-name*

Severity

8

Explanation

The queue sharing group name recorded in the log does not match the name being used by the queue manager.

Possible causes are:

- The queue manager was restarted using the log from another queue manager.
- The queue manager was restarted with the wrong QSGDATA system parameter.
- The queue manager was not removed correctly from its previous queue sharing group.

System action

Restart is terminated abnormally with completion code X'5C6' and reason code X'00C94505'.

System programmer response

Restart the queue manager using the correct logs and BSDS, or change the QSGDATA system parameter. Note that you cannot change the name of the queue sharing group that a queue manager uses, or remove it from a queue sharing group, unless it has been shut down normally and the further procedures for removal described in [Managing queue sharing groups](#) have been followed.

CSQI061E

Queue manager queue sharing group numbers differ, log=*log-num* queue manager=*qmgr-num*

Severity

8

Explanation

The queue manager was restarted using the log from another queue manager. The queue sharing group queue manager number recorded in the log does not match that being used by the queue manager.

System action

Restart is terminated abnormally with completion code X'5C6' and reason code X'00C94506'.

System programmer response

Restart the queue manager using the correct logs and BSDS. If the correct logs are being used, correct the entry for the queue manager in the Db2 CSQ.ADMIN_B_QMGR table. If you cannot resolve the problem, contact your IBM support center for assistance.

CSQI062I

Queue *q-name* deleted by another queue manager during restart

Severity

0

Explanation

During restart processing the queue manager detected that the named queue has been deleted by another queue manager in the queue sharing group.

System action

Processing continues.

CSQI063E

Queue *q-name* is both PRIVATE and SHARED

Severity

0

Explanation

During restart processing the queue manager detected that the named queue exists both as a locally defined queue on this queue manager and as a shared queue in the queue sharing group. Opening a queue with this name will therefore not be allowed.

System action

Processing continues.

System programmer response

Delete one of the instances of the queue. See [Shared queue problems](#) for more information.

CSQI064E

Cannot get information from Db2. *obj-type* COPY objects not refreshed

Severity

8

Explanation

During queue manager or channel initiator startup, objects of type *obj-type* with a disposition of COPY were being refreshed from those with a disposition of GROUP. However, the necessary information could not be obtained from Db2; this may be because Db2 is not available or no longer available, or because the connection to Db2 is suspended, or because there was an error in accessing Db2, or because a Db2 table was temporarily locked.

System action

The COPY objects of type *obj-type* are not refreshed. Startup continues.

System programmer response

Refer to the console log for messages giving more information about the error.

When the error condition has cleared, refresh the objects manually, or restart the queue manager or channel initiator.

CSQI065I

Buffer pool attributes ...

Severity

0

Explanation

This message displays the current state of buffer pool attributes, based on the page set number passed into the **DISPLAY USAGE PSID** command. It provides information about the number of

available buffers, buffers free (stealable), shown as a number and as a percentage of the buffers in the pool, and the memory LOCATION for the specified buffer pool.

```

CSQI065I !MQ21 Buffer pool attributes ... 321
  Buffer  Available  Stealable  Stealable  Page  Location
  pool   buffers    buffers    percentage class
  -      0         5000      4989      99   FIXED4KB  ABOVE
  -      1         5000      4995      99   4KB      ABOVE
  -      2         5000      4999      99   4KB      BELOW
  -      3         5000      4995      99   4KB      BELOW
  -      4         5000      4999      99   4KB      BELOW
  -      5         1000      999       99   4KB      BELOW
  
```

Buffer pool

The number of the buffer pool.

Available buffers

The total number of available buffers defined for a specified buffer pool.

If location is SWITCHING_ABOVE or SWITCHING_BELOW, the value is the sum of the numbers above and below.

Stealable buffers

The number of buffers free (stealable) for a defined buffer pool.

Stealable percentage

The amount of buffers free (stealable), as a percentage, for a defined buffer pool.

Page class

The type of virtual storage pages used for backing the buffers in the buffer pool. The page class value is one of the following:

4KB

Buffers are backed by standard pageable 4 KB pages

FIXED4KB

Buffers are backed by permanently page-fixed 4 KB page

Location

The location value of the memory used by individual buffer pools. The location value is one of the following:

ABOVE

Memory is used above the bar for buffer pools.

BELOW

BELOW is the default. Memory is used below the bar for buffer pools.

SWITCHING_ABOVE

The buffer pool is in the process of switching to a location ABOVE the bar.

SWITCHING_BELOW

The buffer pool is in the process of switching to a location BELOW the bar.

CSQI070I

Data set usage ...

Severity

0

Explanation

This message is the response to the DISPLAY USAGE command. It provides information about the data sets relating to various circumstances, as follows:

```

Data set  RBA/LRSN  DSName
data-set-type:
      III          dsname
End of data set report
  
```

where:

data-set-type

The type of data set and circumstance, which can be:

Log, oldest with active unit of work

The log data set containing the beginning RBA of the oldest active unit of work for the queue manager.

Log, oldest for page set recovery

The log data set containing the oldest restart RBA of any page set for the queue manager.

Log, oldest for CF structure recovery

The log data set containing the LRSN which matches the time of the oldest current backup of any CF structure in the queue sharing group. If the oldest current backup is not found, you must back up all of your structures.

rrr

The RBA or LRSN corresponding to the circumstance.

dsname

The name of the copy 1 data set. If no data set relates to a circumstance, this is shown as None; if the data set name cannot be determined, this is shown as Not found.

System programmer response

This information can be used to help manage data sets; see [Tips for backup and recovery](#) for more information.

CSQI090E

RRS is not available.

Severity

8

Explanation

RRS was called to register interest on behalf of an IBM MQ application linked with an RRS stub, but RRS is not available.

System action

The IBM application is terminated with completion code X'5C6' and reason code X'00C94201'. This message is issued unless it has been issued recently

System programmer response

Ensure RRS is available when using an IBM MQ application linked with the RRS stub.

CSQI965I

modulename Backward migration required for msgs on page set *ps-name*

Explanation

During queue manager restart it has been detected that one or more of the page sets that have been connected has been used at a higher version of queue manager code.

System action

The queue manager will automatically perform special processing during restart to alter any messages stored on the indicated page set so they can be read by the current version of the queue manager.

CSQI968I

modulename Alias queue *aq-name* to TARGQ *tq-name* has TARGTYPE *ttype* which is not supported. *aq-name* has been deleted

Explanation

During object migration, an alias queue was found which had an invalid **TARGTYPE**, for example an alias queue to a topic object.

System action

The alias queue indicated is deleted.

CSQI969I

Data set *ds-name* for page set *ps-name* was used for a higher version of IBM MQ and cannot be added dynamically

Explanation

During dynamic connection to a page set which was offline at queue manager restart, it has been detected that it requires backward migration processing.

The page set is not dynamically added.

CSQI970E

csect-name object-type(object-name) COULD NOT BE MIGRATED

Explanation

Migration of the identified object could not be performed because of locks held by in-doubt transactions.

Some functions will not be available until migration of the object can be performed. For example, the object cannot be altered or deleted, and if it is a transmission queue, the associated channel may not start.

System action

The object is not migrated.

System programmer response

Use the DISPLAY CONN or the DISPLAY THREAD command to identify the list of in-doubt transactions and then resolve them via either the transaction coordinator or the RESOLVE INDOUBT command. Once the in-doubt transactions are resolved, either restart the queue manager or issue an ALTER command against the object to re-attempt its migration.

Message CSQI971I will be issued when the object has been successfully migrated.

CSQI971I

csect-name object-type(object-name) MIGRATED

Explanation

The identified object could not be migrated when the queue manager was first started at the current version because of locks held by in-doubt transactions (see message CSQI970E for more information).

This message is issued during a subsequent restart of the queue manager, or when the object is subsequently altered, to indicate that migration of the object has now occurred.

System action

The object is migrated.

System programmer response

none.

回復ログ・マネージャー・メッセージ (CSQJ...)

CSQJ001I

現在のコピー *n*、活動ログ・データ・セットは DSNAME=*dsname*, STARTRBA=*sss* ENDRBA=*ttt*

説明

このメッセージは、次のいずれかの理由で生成される。

1. キュー・マネージャーの開始時に、現行の活動ログ・データ・セット (コピー 1、および重複ロギングが使用される場合はコピー 2) を識別するために、この通知メッセージが送信される。
2. 現行の活動ログ・データ・セットが満杯になると (または ARCHIVE LOG コマンドが発行されると)、MQ は次に使用可能な活動ログ・データ・セットに切り替える。このメッセージは、ロギングに使用される次に使用可能な活動ログ・データ・セットを識別する。

STARTRBA で指定された値は、指定されたデータ・セット内のログ・データの最初のバイトの RBA である。ENDRBA で指定された値は、データ・セット内の最後の可能なバイトの RBA である。

システム・プログラマーの応答

処置は不要。ただし、回復が必要な場合は、このメッセージの情報が、ログ目録変更ユーティリティー (CSQJU003) への入力として必要となることがある。

CSQJ002I

活動ログ・データ・セットの最後は、DSNAME=*dsname*, STARTRBA=*sss* ENDRBA=*ttt*

説明

このメッセージは、ロギングが新しい空のデータ・セットに切り替わる時に送信される。このメッセージは、満杯のデータ・セットの名前とログ RBA 範囲を示している。

システム・プログラマーの応答

処置は不要。ただし、回復が必要な場合は、このメッセージの情報が、ログ目録変更ユーティリティー (CSQJU003) への入力として必要となることがある。

CSQJ003I

FULL ARCHIVE LOG VOLUME DSNAME=*dsname*, STARTRBA=*sss* ENDRBA=*ttt*, STARTTIME=*ppp*
ENDTIME=*qqq*, UNIT=*unitname*, COPYnVOL=*vvv* VOLSPAN=*xxx* CATLG=*yyy*

説明

指定した保存ログ・データ・セットのオフロードは、指定ボリュームについて正常に完了した。データ・セットが複数のテープ・ボリュームにまたがっている場合、このメッセージは、各テープ・ボリュームごとに生成される。

システム・アクション

保存ログ・データ・セットが作成され、BSDS 内の保存ログ・データ・セット目録は、メッセージ中の次のような情報で更新された。

DSNAME

保存ログ・データ・セットの名前

STARTRBA

ボリュームに含まれる開始 RBA

ENDRBA

ボリュームに含まれる終了 RBA

STARTTIME

ボリューム内のログ・レコードの開始ストア・クロック値

ENDTIME

ボリューム内のログ・レコードの終了ストア・クロック値

UNIT

データ・セットが割り振られていた装置

COPYnVOL

ボリュームの名前。これは、これがコピー 1 保存ログ・データ・セットであれば COPY1VOL として、コピー 2 保存ログ・データ・セットであれば COPY2VOL として表示される。

VOLSPAN

次の 4 つの状態のいずれかを表す標識。

NO

データ・セットは、COPYnVOL で指定されたボリュームに完全に含まれる。

FIRST

これはマルチボリューム・データ・セットの最初の項目である。

MIDDLE

これはマルチボリューム・データ・セットの中間の項目である。

LAST

これはマルチボリューム・データ・セットの最後の項目である。

CATLG

次の2つの状態のいずれかを表す標識。

NO

保存ログ・データ・セットはカタログ化されていない。

YES

保存ログ・データ・セットはカタログ化されている。

BSDSは、このメッセージに含まれている情報で自動的に更新される。ただし、回復が必要な場合は、このメッセージの情報が、ログ目録変更ユーティリティ (CSQJU003) への入力として必要となることがある。

CSQJ004I

活動ログのコピー *n* は非活動で、単一モードです。ENDRBA=*ttt*

説明

このメッセージは、重複活動ロギング・オプションが選択されている場合で、コピー *n* が非活動状態になっている場合に送られる。次の活動ログ・データ・セットが必要になったときに作動可能になっていないと、ログ・コピーは非活動状態になる。ENDRBAは、コピー *n* に書き込まれたログ・データの最後のバイトである。これは、通常はオフロードの遅れが原因で起こる。

システム・アクション

コピー *n* の次のデータ・セットがロギングに作動可能になるまで、ログは単一モードに切り替えられる。

単一モードでシステム・パラメーター・オプションが重複活動データ・セットに引き続き設定された状態のときに、キュー・マネージャーがシャットダウンまたは異常終了すると、キュー・マネージャーの始動時になにが起こるかは、活動状態ログ・データ・セットの直前の状態によって決まる。

- 活動状態ログの各セットで2つ以下のデータ・セットが利用可能な (STOPPEDとしてフラグが立てられていない) 場合、キュー・マネージャーの始動は終了し、メッセージ CSQJ112E が出される。
- 活動状態ログ・データ・セットが NOTREUSABLE 状態の場合、キュー・マネージャーは単一ロギング・モードで開始することができるが、オフロード後に他の活動状態ログ・データ・セットが利用可能になったときに、重複モードが有効になる。

システム・プログラマーの応答

表示要求を実行し、ログのオフロード処理に関連して未解決の要求がないかどうかを確認する。要求を満たすのに必要な処置を取り、オフロード処理を続行できるようにする。

オフロードに必要な資源が不足しているために、単一モードへの切り替えが行われた場合には、必要な資源を使用可能にして、オフロード処理を完了させ、重複ロギングが行われるようにしなければならない。回復が必要な場合は、このメッセージの情報が、ログ目録変更ユーティリティ (CSQJU003) への入力として必要となることがある。

CSQJ005I

活動ログでのコピー *n* は活動状態で、二重モードです。STARTRBA=*sss*

説明

このメッセージは、ログのコピー *n* が、前に非活動状態のフラグを立てられた後で活動状態になったときに、送られる。STARTRBAは、活動化された後でコピー *n* に書き込まれたログ・データの最初のバイトのRBAである。

システム・プログラマーの応答

処置は不要。ただし、回復が必要な場合は、このメッセージの情報が、ログ目録変更ユーティリティ (CSQJU003) への入力として必要となることがある。

CSQJ006I

オペレーターは、新しい保存ログ・データ・セットの割り振りを取り消しました。

説明

このメッセージは、オペレーターがメッセージ CSQJ008E に「N」と応答した場合に送られる。

システム・アクション

割り振りが、保存ログ・データ・セットの最初のコピーに対するものである場合は、次にそれが活動化されるまで、オフロードは処理を終了する。最初のコピーがすでに割り振られており、この要求が2番目のコピーに対するものである場合、オフロードは、このデータ・セットのみの単一オフロード・モードに切り替える。

CSQJ007I

オペレーターが ARCHIVE VOL SER=*volser* の割り振りを取り消しました。

説明

オペレーターがメッセージ CSQJ009E に「N」と応答すると、このメッセージが出される。*volser* は、読み取り要求を満たすのに必要な保存ログ・ボリュームのボリューム通し番号である。保存データ・セットの名前は、後に続くメッセージ CSQJ022I によって与えられる。

システム・アクション

保存ボリュームが必要であった読み取り要求は、失敗に終わる。この要求が COND=YES パラメーターを指定して出された場合、ログ・マネージャーは、戻りコード 12 および理由コード X'00D1032B' で、その呼び出し側に戻る。そうでない場合、ログ・マネージャーの呼び出し側は、同じ理由コードで異常終了する。

CSQJ008E

mm 活動ログの *nn* は満杯です。*qmgr-name* には保存スクラッチが必要です。

説明

IBM MQ は、活動ログ・データ・セットのオフロードのためにスクラッチ・ボリュームを必要としている。*qmgr-name* は、キュー・マネージャーの名前である。*nn* は、満杯の活動ログ・データ・セットの数である。*mm* は、活動ログ・データ・セットの合計数である。

システム・アクション

オフロード・タスクは、メッセージ CSQJ021D を出して、オペレーターの応答を待つ。

CSQJ009E

qmgr-name VOL SER=*nnnnnn* が必要です。

説明

MQ は、読み取り操作で指定された保存ボリュームを必要としている。*qmgr-name* は、キュー・マネージャーの名前である。

システム・アクション

保存ログ読み取りサービス・タスクは、メッセージ CSQJ021D を出して、オペレーターの応答を待つ。この待機は、ログ読み取りが出される対象となったエージェントと、ログ読み取りサービス・タスク・キュー上で待機している他のエージェントに影響を与える。

CSQJ010I

応答が無効です - Y や N ではありません。

説明

保存データ・セットの割り振り中に、応答メッセージが出された。ユーザーが、応答メッセージに正しく応答しなかった。「Y」または「N」を入力しなければなりません。

システム・アクション

元のメッセージが繰り返される。

CSQJ011D

再始動制御 *rrr* (*date time* で作成) が見つかりました。使用する場合は Y、取り消す場合は N を入力してください。

説明

キュー・マネージャーの初期設定時に、条件再始動制御レコードが BSDS データ・セットで検出された。レコード ID (4 バイトの 16 進数) および作成タイム・スタンプは、使用する条件再始動レコード

を識別しやすいように表示される。そのレコードを使用して条件付き再始動を行うには、メッセージに対して「Y」と応答する。そうでない場合は、「N」と応答する。

システム・アクション

応答が「Y」の場合、キュー・マネージャーは、見つかったレコードを使用して条件付きで始動する。応答が「N」の場合、始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

指示されたとおりに応答する。

正常再始動が失敗して、ログ目録変更ユーティリティーで条件再始動レコードを作成した場合は、メッセージの時刻および日付が、そのレコードを作成した時刻および日付と一致しているかどうかを確認する。そうである場合は、「Y」と応答する。そうでない場合は、「N」と応答し、不一致点を調べる。

CSQJ012E

データ・セット *dsname* で RBA *rrr* の読み取り中にエラー *ccc*。接続-ID=*xxxx* スレッド-XREF=*yyyyyy*

説明

バッファーに読み込まれたログ・レコードをスキャンしているときに、IBM MQ が、理由コード *ccc* の論理エラーを検出した。*rrr* は、エラーが検出されたバッファー内のセグメントのログ RBA である。*dsname* は、レコードが読み取られた活動ログ・データ・セットまたは保存ログ・データ・セットの名前である。*dsname* がブランクである場合、データは、活動ログ出力バッファーから読み取られている。

接続 ID および THREAD-XREF は、問題が起こったユーザーまたはアプリケーションを識別する。同じ接続 ID および THREAD-XREF をもつメッセージは、同じユーザーに関連している。

システム・アクション

アプリケーション・プログラムは、理由コード *ccc* で終了する。ただし、このメッセージの情報は、その後の異常終了の診断に役立つ場合がある。

システム・プログラマーの応答

ログの問題の処理方法については、[活動ログの問題](#)を参照。

CSQJ013E

活動ログへ書き込む前、バッファー *rrr* にエラー *ccc* を検出しました。

説明

ログ出力バッファーの走査で、バッファーを書き込む直前に、ログ・データ内に矛盾が検出された。*ccc* は、作成される SDUMP に関連付けられた理由コードである。*rrr* は、エラーが検出されたログ RBA である。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了してダンプがとられ、損傷を受けたバッファーは、コピー 1 またはコピー 2 活動ログ・データ・セットには書き込まれない。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーが終了した後で、再始動する。

損傷を受けたバッファーがログ・データ・セットに書き込まれていないため、キュー・マネージャーを再始動することができる。訂正処置は不要である。

CSQJ014E

活動ログへ書き込み後、バッファー *rrr* にエラー *ccc* を検出しました。

説明

ログ出力バッファーの走査で、活動ログ・データ・セットの最初のコピーに書き込んだ後、2 番目のコピーに書き込む前に、ログ・データ内に矛盾が検出された。*ccc* は、作成される SDUMP に関連付けられた理由コードである。*rrr* は、エラーが検出されたログ RBA である。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了してダンプがとられ、損傷を受けたバッファはコピー 2 データ・セットに書き込まれない。

システム・プログラマーの応答

示されたログ RBA を含んでいるブロックが損傷を受けている可能性がある。活動ログのコピー 1 データ・セットへの書き込みの完了時に、バッファにエラーがあることがわかった。

重複活動ログを使用している場合は、ログ・マップ印刷ユーティリティ (CSQJU004) を使用して、活動ログの両方のコピーに関する活動ログ・データ・セットをリストする。対応する RBA を持つコピー 2 データ・セットを見つけ、そのデータ・セットを (アクセス方式サービス REPRO を使用して) コピー 1 データ・セットにコピーする。キュー・マネージャーを始動します。

単一のアクティブ・ログのみが使用されている場合は、IBM サポートに連絡してください。DASD への書き込みが完了した後で、バッファの損傷が起こった場合には、キュー・マネージャーを始動すると成功することがある。

CSQJ020I

csect-name は N の応答を *msg-num* に受信しました。キュー・マネージャーの始動は終了しました。

説明

オペレーターが、*msg-num* に対して「N」と応答することにより、キュー・マネージャーの始動の終了を選択した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは再始動しない。

CSQJ021D

装置の準備ができたなら Y を、取り消す場合は N を応答してください。

説明

保存ログ・データ・セットは、先行する CSQJ008E または CSQJ009E メッセージで指示されたとおりに、割り振りを必要とする。

システム・アクション

ログ・サービス・タスクは、オペレーターの応答を待つ。

CSQJ022I

DSNAME=*dsname*

説明

dsname は、先行するメッセージが参照する保存データ・セットの名前である。

CSQJ030E

startrba から *endrba* の範囲の RBA は、活動中のログ・データ・セットでは使用できません。

説明

前のエラーにより、活動ログ・データ・セット (メッセージに示された RBA 範囲を含む) が使用不能にされた。BSDS の中でそれらのログの状況は STOPPED です。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが出力されます。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを回復可能にするには、ログ RBA 範囲を使用可能にしなければならない。前のエラーを訂正し、メッセージに示された RBA 範囲を含む活動ログ・データ・セットを復元する。

- ログ・データ・セットが回復可能である場合は、BSDS 内の活動ログ・データ・セット目録を変更し、STOPPED 状況をリセットしなければならない。ログ・マップ印刷ユーティリティ (CSQJU004) を使用して、BSDS ログ目録のコピーを入手する。次に、ログ目録変更ユーティリティ (CSQJU003) を使用して、STOPPED のマークが付いた活動ログ・データ・セットを (DELETE ステートメントを用

いて) 削除し、それらを再び (NEWLOG ステートメントを用いて) 追加する。ログ目録変更ユーティリティを使用してログを再び BSDS に追加するときは、各活動ログ・データ・セットの開始 RBA と終了 RBA を、NEWLOG ステートメントに指定しなければならない。

- ログ・データ・セットがリカバリー可能でない場合は、ログに関する問題の処理方法について[活動ログの問題](#)を参照する。

CSQJ031D

csect-name、ログ RBA 範囲をリセットする必要があります。起動を続行するには「Y」を、シャットダウンするには「N」を入力してください。

説明

キュー・マネージャーの初期化中に、現行のログ RBA が FF8000000000 以上 (6 バイトのログ RBA を使用している場合) または FFFFC00000000000 以上 (8 バイトのログ RBA を使用している場合) の値である場合に、キュー・マネージャーの再始動を続行する必要があるかどうかをオペレーターに確認するために、このメッセージが発行される。

システム・アクション

応答が「Y」であれば、キュー・マネージャーの始動が続行される。

応答が「N」であれば、キュー・マネージャーの始動が強制終了される。

システム・プログラマーの応答

できるだけ早くキュー・マネージャーを停止し、ログをリセットする。CSQUTIL ユーティリティ・プログラムを使用してログをリセットする方法、および [キュー・マネージャーのログをリセットする方法](#)については、[RESETPAGE](#) を参照してください。

キュー・マネージャーが 6 バイトのログ RBA を使用している場合は、8 バイトのログ RBA を使用するようキュー・マネージャーを変換することを検討してください。詳しくは、[アドレス指定可能な最大ログ範囲を広げる計画](#)を参照してください。

CSQJ032E

csect-name alert-lvl - ログ RBA 範囲の終端 *max-rba* に近づきました。現行のログ RBA は *current-rba* です。

説明

現行のログ RBA が、ログ RBA 範囲の終わりに近づいている。*current-rba* は現行のログ RBA 値。現行のログ RBA が、ログ RBA の最大値 *max-rba* に達しないようにする必要があります。

このメッセージは、キュー・マネージャーの初期化中か、アクティブなログ・データ・セットが満杯になってキュー・マネージャーが次に使用可能なログ・データ・セットに切り替えた後に発行される。

alert-lvl は次のいずれかを示します。

警告

現行のログ RBA が F80000000000 (6 バイトのログ RBA を使用している場合) または FFFFC00000000000 (8 バイトのログ RBA を使用している場合) の値に達した場合に発行される。

CRITICAL

現行のログ RBA 値が FF8000000000 (6 バイトのログ RBA を使用している場合) または FFFFC00000000000 (8 バイトのログ RBA を使用している場合) に達した場合に発行される。

システム・アクション

RBA 値が FFF800000000 (6 バイトのログ RBA を使用している場合) または FFFFFFFC0000000000 (8 バイトのログ RBA を使用している場合) に達した場合は、キュー・マネージャーが理由コード 00D10257 で強制終了する。それ以外の場合は、処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

できるだけ早くキュー・マネージャーを停止してログをリセットする計画を立てる。CSQUTIL ユーティリティ・プログラムを使用してログをリセットする方法については、[RESETPAGE](#) および [キュー・マネージャーのログのリセット](#) を参照。

キュー・マネージャーが 6 バイトのログ RBA を使用している場合は、8 バイトのログ RBA を使用するようキュー・マネージャーを変換することを検討してください。詳しくは、[アドレス指定可能な最大ログ範囲を広げる計画](#)を参照してください。

CSQJ033I

FULL ARCHIVE LOG VOLUME DSNNAME=*dsname*, STARTRBA= *sss* ENDRBA=*ttt*, STARTLRSN=*ppp*
ENDLRSN=*qqq*, UNIT=*unitname*, COPYnVOL=*vvv* VOLSPAN=*xxx* CATLG=*yyy*

説明

指定した保存ログ・データ・セットのオフロードは、指定ボリュームについて正常に完了した。データ・セットが複数のテープ・ボリュームにまたがっている場合、このメッセージは、各テープ・ボリュームごとに生成される。

このメッセージはキュー共有グループ用に、CSQJ003I の代わりに発行される。

システム・アクション

メッセージ CSQJ003I を参照。STARTTIME と ENDTIME は、それぞれ次のように置き換えられる。

STARTLRSN

キュー共有グループのボリュームに含まれる開始 LRSN。

ENDLRSN

キュー共有グループのボリュームに含まれる終了 LRSN。

CSQJ034I

csect-name ログ RBA 範囲の終わりは *max-rba* です。

説明

このメッセージはキュー・マネージャーの始動中に発行され、現行のログ RBA サイズを使用してアドレス指定できるログ RBA 範囲の末尾を示す。

max-rba の値 0000FFFFFFFFFFFFFF は、6 バイト RBA を使用するようキュー・マネージャーが構成されていることを示す。値 FFFFFFFFFFFFFFFF は、8 バイト RBA を使用するようキュー・マネージャーが構成されていることを示す。

キュー・マネージャーのログは、使用量が最も高いログ RBA がログ RBA 範囲の末尾に達する前にリセットしなければならない。

システム・アクション

処理を続行

システム・プログラマーの応答

max-rba が 0000FFFFFFFFFFFFFF である場合は、キュー・マネージャーのログのリセットが必要になるまでの時間を最大にするために、8 バイトのログ RBA を使用するようキュー・マネージャーを変換することを検討してください。詳しくは、[アドレス指定可能な最大ログ範囲を広げる計画](#)を参照してください。

CSQJ060E

parm-name システム・パラメーターを使用できません。

説明

システム・パラメーター・ロード・モジュール内の *parm-name* によって設定されているパラメーターの形式が無効であるため、使用できません。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、理由コード X'00E80084' で異常終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーが正しいシステム・パラメーター・モジュール (例えば、CSQZPARM) で開始されているようにする。必要であれば、示されたパラメーターを使用するモジュールを再アセンブルし、システム・パラメーター・ロード・モジュールを再リンク・エディットする。

CSQJ061I

parm-name システム・パラメーターは古くなっています。

説明

システム・パラメーター・ロード・モジュール *parm-name* によって設定されているパラメーターは、古くなったいくつかの値を使用している。

システム・アクション

処理を続行する。古くなったパラメーターは無視され、新しいパラメーターのデフォルト値が使用される。

システム・プログラマーの応答

システム・パラメーターの設定を検討する。必要であれば、示されたパラメーターを使用するモジュールを再アSEMBルし、システム・パラメーター・ロード・モジュールを再リンク・エディットする。

CSQJ070E

csect-name 保存ログ DSN 接頭部が正しい様式ではないために、タイム・スタンプ・データを受信できません。 *dsname* のタイム・スタンプはバイパスされます。

説明

システム・パラメーター (CSQ6ARVP によって設定される) により、保存ログ・データ・セットの作成日時を、保存ログ・データ・セット名 (DSN) の一部として含めるように指定した。これを行うには、IBM MQ では保存ログ・データ・セット名の接頭部の長さが制限されている必要がある。この接頭部に必要な条件が満たされていなかった場合は、メッセージに指定された保存ログ・データ・セットの割り振りの直前に、このメッセージが出される。

システム・アクション

保存ログ・データ・セットは、保存ログの接頭部を使用して割り振られる。ただし、保存ログ DSN には、ユーザーが要求した日時は含まれない。

システム・プログラマーの応答

ログ保存機能のシステム・パラメーターを変更しなければならない。特に、TSTAMP および ARCPFXn フィールドが互いに適合していない。この問題を取り除くのに必要な処置については、[CSQ6ARVP](#) の使用を参照。

CSQJ071E

csect-name タイマー障害のため、バイパスされる保存 *dsname* のタイム・スタンプが取られました。

説明

システム・パラメーター (CSQ6ARVP によって設定される) により、保存ログ・データ・セットの作成日時を、保存ログ・データ・セット名 (DSN) の一部として含めるように指定した。しかし、システムから現在の日時を取得できなかった。このメッセージは、メッセージに指定された保存ログ・データ・セットの割り振りの直前に出される。

システム・アクション

保存ログ・データ・セットは、保存ログの接頭部を使用して割り振られる。ただし、保存ログ DSN には、ユーザーが要求した日時は含まれない。

CSQJ072E

保存ログ・データ・セット *dsname* は非テープ装置に振り分けられ、カタログ・パラメーターをオーバーライドしてカタログされます。

説明

システム・パラメーター (CSQ6ARVP によって設定される) により、すべての保存ログ・データ・セットをカタログ化しない (CATALOG=NO) ように指定した。しかし、MQ では、非テープ装置に割り振られる保存ログ・データ・セットは、すべて登録しなければならない。 *dsname* で指定された保存ログ・データ・セットは、非テープ装置に割り振られているため、登録された。ユーザーのシステム・パラメーター CATALOG の設定 NO はオーバーライドされた。

システム・アクション

保存ログ・データ・セットは非テープ装置に割り振られているため、登録された。システム・パラメーター CATALOG=NO の設定は、オーバーライドされた。BSDS は、データ・セットが登録されたことを反映している。

システム・プログラマーの応答

保存システム・パラメーターを変更する必要がある。特に、CATALOG および UNIT パラメーターが互いに適合していない。この問題を取り除くのに必要な処置については、[CSQ6ARVP の使用](#)を参照。

CSQJ073E

ログ保存装置の割り振り障害が検出されました。理由コード=ccc、保存ログ・データ・セットの割り振りか、オフロードが失敗した可能性があります。

説明

新しい保存ログ・データ・セットを動的に割り振るための SVC99 テキスト項目を作成しているときに、装置割り振りエラーが検出された。メッセージ中の ccc で示された理由コードにより、問題は次のように明確にされる。

4-28 (X'4'-X'1C')

z/OS IEFGB4UV マクロからの戻りコード。一般的な値は、次のとおりである。

4 (X'04')

装置名が無効。

8 (X'08')

装置名に不正な装置割り当てがある。

16 (X'10')

ストレージが利用不能。

20 (X'14')

装置番号が無効。

32 (X'20')

MQ が、システム・パラメーターに指定された装置タイプ (装置名) に対応する装置のリストを取得した。しかし、このリストにテープ装置と非テープ装置が混在していると判断された。

36 (X'24')

z/OS サービスのパラメーター・リストを作成するために、取り出し保護されていないストレージを取得できませんでした。

40 (X'28')

ユーザーがシステム・パラメーターに指定した装置タイプ (装置名) は有効である。しかし、指定された装置タイプ (装置名) と関連付けられている装置が現在ない。

44 (X'2C')

ユーザーがシステム・パラメーターに指定した装置タイプ (装置名) は有効である。しかし、ストレージのボリューム使用属性をもつ使用可能な DASD ボリュームがない。

システム・アクション

このメッセージは、SVC99 テキスト項目が作成された後、新しい保存ログ・データ・セットの割り振りの前に出される。このエラーの結果として、標準のデフォルト値を使用して、保存ログ・データ・セットの動的割り振りが試みられる。標準のデフォルト値は通常受け入れられる。しかし、割り振りが失敗したり、その後のオフロードが望ましくない処理結果をもたらすことがある。以下に例を示します。

- 理由コード 4 または 44 (X'2C') は、SVC99 が保存データ・セットに対して出された場合の、割り振りエラー (CSQJ103E) を示す。
- テープへのオフロード処理が失敗に終わる場合がある。テープへの割り振り時に、IBM MQ はボリューム・カウント 20 を使用し、非テープ装置への書き込み時には、標準 z/OS ボリューム・カウントのデフォルト 5 を使用する。上記のエラーではほとんどの場合、IBM MQ は、どの装置タイプにデータ・セットを割り振るべきかを判別することができない。したがって、標準の z/OS デフォルトが、ボリューム・カウントとして使用される。データ・セットがテープ装置に正常に割り振られても、保存データ・セットに使用されるボリュームの数が 5 つを超えるようなデータ量があると、オフロード

処理は、6番目のテープ・ボリュームに書き込みを行おうとしたときに、z/OS 完了コード X'837-08' とメッセージ IEC028I を受け取る。

- 直接アクセス装置へのオフロード処理が失敗に終わることがある。直接アクセス装置に新しい保存ログ・データ・セットを割り振るとき、IBM MQ は、マルチボリューム保存データ・セットを容易にするために、装置カウントを使用する。上記のエラーではほとんどの場合、IBM MQ は、どの装置タイプにデータ・セットを割り振るべきかを正しく判断できない。したがって、標準のデフォルト (1) が装置カウントとして使用される。データ・セットが直接アクセス装置に正常に割り振られても、オフロード処理中にデータ・セットを別の装置に拡張する必要が生じると、オフロード処理は z/OS X'B37' (スペース不足) 完了コードを受け取り、保存ログ・データ・セットは割り振り解除される。

システム・プログラマーの応答

メッセージに示された理由コードに従って、必要な処置をとる。

4-28 (X'4'-X'1C')

z/OS IEFGB4UV マクロからの戻りコードについて詳しくは、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide」を参照してください。この問題の一般的な原因としては、次のことが考えられる。

4 (X'04')

保存システム・パラメーターの指定が正しくない。UNIT パラメーターを訂正する。保存システム・パラメーターからの UNIT パラメーターが正しいと思われる場合は、EDT を調べ、システム・パラメーターに指定された非公式装置名または総称装置名が実際に EDT に含まれているかどうかを確認する。その後オフロード処理を行うと、割り振りエラー (CSQJ103E) のために前に保存できなかったログ・データが保存される。

8 (X'08')

保存システム・パラメーターの指定が正しくない、または操作セットアップが正しくない。

16 (X'10')

これは通常、一時的な問題である。保存ログ・データ・セットの割り振りが成功した場合には、この状況を訂正するための処置は必要ない。この問題が繰り返し起こる場合は、十分なページ・スペースが使用可能でないので、キュー・マネージャーのアドレス・スペースの領域サイズを増やすか、または標準の z/OS 診断手順を使用して問題を訂正しなければならない。

20 (X'14')

保存システム・パラメーターの指定が正しくない、または操作が正しくない。

32 (X'20') または 40 (X'28')

この状況を訂正するには、同種装置を含む装置タイプ (装置名) を使用するように保存システム・パラメーター UNIT を変更するか、または、システム生成を使用して、装置タイプ (装置名) に関連する装置リストを変更し、同種装置のリストを与えるようにする。

44 (X'2C')

この状況を訂正するには、z/OS コマンド MOUNT を実行し、取り付けられた専用ボリュームのボリューム使用属性をストレージへ変更する。この問題が繰り返し起こる場合は、次のいずれかの処置をとる必要が生じる場合がある。

- システム生成を実行し、ストレージのボリューム使用属性をもつ永続常駐ボリュームを、非公式装置または総称装置に追加する。
- 保存システム・パラメーターを変更して、UNIT に別の非公式装置名または総称装置名を使用するようにする。

CSQJ077E

QMGR qmgr-name のログ・エラーまたは BSDS リード・エラー、理由コード=ccc

説明

このメッセージは、アクセスできないログ・データを持つキュー・マネージャーを示している。キュー共有グループ内の他のキュー・マネージャーのログまたは BSDS が、RECOVER CFSTRUCT 操作中にアクセスされていたか、キュー共有グループ内のキュー・マネージャーで生じることのある、対等の管理構造の再作成中にアクセスされていた可能性がある。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

アクセスされていたデータ・セットと問題をより具体的に示す前のメッセージを探す。

理由コード:

- 00D10901 は、ピアのピア SCA メンバーレコードを示します IBM MQ 見つからない場合は、ピア キュー マネージャーを再起動することで問題を解決できます。
- 00D10905 これは、ピア キュー マネージャーの 2 つの BSDS タイムスタンプが一致していないことを示しています。ピア キュー マネージャーを再起動すると、問題を解決できます。

REASON CODE は、Db2。このような場合は、[Db2 理由コード詳細](#)については。

問題を解決できない場合には、理由コードを書き留め、次の情報を収集して、IBM サポートに連絡する。

- システム・ダンプ
- メッセージで示されたキュー・マネージャーのコンソール出力
- 他のキュー・マネージャーのコンソール出力
- SYS1.LOGREC の印刷出力

CSQJ098E

csect-name 再始動制御 ENDLRSN *rrr* が既知の LRSN 範囲にありません。キュー・マネージャーの始動は終了しました。

説明

条件再始動制御レコードは切り捨てを要求するが、終了 LRSN が、活動または保存ログに通用する LRSN 値の範囲内がないので、これは実行できない。*rrr* は活動レコードに指定された終了 LRSN である。終了 LRSN は、最新の活動ログ・データ・セットの終了 LRSN より高位か、または最も古い保存ログ・データ・セットの開始 LRSN より低位である。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動は終了します。

システム・プログラマーの応答

条件再始動制御レコードに指定されている ENDLRSN の値を調べる。値が正しくない場合、ログ目録変更ユーティリティ (CSQJU003) を CRESTART CANCEL を使って実行し、条件再始動を取り消してから、正しい ENDLRSN を指定して新しく CRESTART を実行する。

CSQJ099I

LOG RECORDING TO COMMENCE WITH STARTRBA=sss

説明

このメッセージは、キュー・マネージャーの始動時に生成される。STARTRBA で指定された値は、活動ログ・データ・セットに記録されるログ・データの次のバイトの RBA である。

このメッセージの前に、1 つ (単一ロギングの場合) または 2 つ (重複ロギングの場合) の CSQJ001I メッセージが出される。

システム・プログラマーの応答

処置は不要。ただし、回復が必要な場合は、このメッセージの情報が、ログ目録変更ユーティリティ (CSQJU003) への入力として必要となることがある。

CSQJ100E

csect-name BSDSn のオープン中にエラー。DSNAME= *dsname*、エラー状況=*ee,ii*

説明

始動時または RECOVER BSDS コマンドの処理中に、指定された BSDS を MQ がオープンできなかった。BSDS *n* は、オープンできないデータ・セットの、キュー・マネージャーが開始したタスクの JCL プロシージャ (xxxxMSTR) 内の DD 名と一致する。*n* の値は 1 または 2 です。エラー状況には、*ee* 内の VSAM オープン戻りコード、および *ii* 内の VSAM オープン理由コードが含まれています。

システム・アクション

このエラーが初期設定時に起こった場合は、BSDS なしではログ・データ・セットを判別して割り振ることができないので、始動は必ず終了する。このエラーが RECOVER BSDS の処理中に起こった場合、そのコマンドは終了し、キュー・マネージャーは単一 BSDS モードで処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

オープンできない BSDS を回復する。BSDS またはログに関する問題の処理方法については、[活動ログの問題](#)を参照。

CSQJ101E

csect-name 制御 ENDRBA *rrr* の再始動は、既知の RBA 範囲にありません。キュー・マネージャーの始動は終了しました。

説明

条件再始動制御レコードは切り捨てを要求するが、終了 RBA が、活動または保存ログに通用する RBA 値の範囲内がないので、これは実行できない。*rrr* は活動レコードに指定された終了 RBA である。終了 RBA は、最新の活動ログ・データ・セットの終了 RBA より高位か、または最も古い保存ログ・データ・セットの開始 RBA より低位である。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動は終了します。

システム・プログラマーの応答

条件再始動制御レコードに指定されている ENDRBA の値を調べる。値が正しくない場合、ログ目録変更ユーティリティ (CSQJU003) を CRESTART CANCEL を使って実行し、条件再始動を取り消してから、正しい ENDRBA を指定して新しく CRESTART を実行する。

それ以外の場合は、要求された RBA を含む保存ログ・データ・セットが、ログ目録変更ユーティリティによって、BSDS データ・セットから削除されたと思われる。古いログ・マップ印刷ユーティリティからの出力を見つけ、欠落している RBA を含むデータ・セットを識別する。このデータ・セットが再使用されていなかった場合は、ログ目録変更ユーティリティを実行し、このデータ・セットをログ・データ・セットの目録に戻す。キュー・マネージャーを再始動する。

CSQJ102E

ログ・データ・セット DSNAME=*dsname*、STARTRBA=*sss* ENDRBA=*ttt* が、BSDS 情報と一致していません。

説明

BSDS 内の指定されたデータ・セットについて示されたログ RBA 範囲が、データ・セットの内容と一致しない。

システム・アクション

始動処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

ログ・マップ印刷ユーティリティとログ目録変更ユーティリティを使用して、BSDS をログ・データ・セットと一致させる。

CSQJ103E

csect-name LOG ALLOCATION ERROR DSNAME=*dsname*, ERROR STATUS=*eeeeiiii*, SMS REASON CODE=*ssssssss*

説明

DSNAME で示された活動ログ・データ・セットまたは保存ログ・データ・セットを割り振ろうとしたときに、エラーが発生した。STATUS は、z/OS 動的割り振り (SVC99) から戻されたエラーの理由コードを示す。

このメッセージの前に、メッセージ CSQJ073E が出されることがある。

システム・アクション

以降の処置は、関連するデータ・セットのタイプによって異なる。

活動ログ・データ・セットの場合、このエラーがキュー・マネージャーの初期設定時に起こったのであれば、始動は終了する。活動ログ・データ・セットのコピーが 2 部定義されていても、このメッセージは一度しか表示されない。

保存ログ・データ・セットの場合は、保存ログ・データ・セットのコピーが 2 部定義されていれば、残りの保存ログ・データ・セットで処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

このメッセージのエラー状況部分には、SVC99 要求ブロックからの 2 バイトのエラー・コード (eeee S99ERROR) と、その後 2 バイトの情報コード (iiii S99INFO) が含まれている。S99ERROR コードが SMS 割り振りエラー ('97xx') を示す場合、ssssssss には、S99ERSN から取得される追加の SMS 理由コードの情報が含まれる。

これらのコードについては、「*z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide*」にアクセスし、「[Interpreting DYNALLOC return codes](#)」トピックを選択してください。

活動ログ・データ・セットの場合は、この問題がキュー・マネージャーの初期設定時に起こったのであれば、次のいずれかの方法で問題を解決できる。

- STATUS で示された、活動ログ・データ・セットに関連するエラーを解決する。
- アクセス方式サービス・プログラムを使用して、活動ログ・データ・セットの別のコピーを用意する。
- ログ目録変更ユーティリティ (CSQJU003) を用いて BSDS を更新する。
- キュー・マネージャーを再始動します。

保存ログ・データ・セットの場合

- データ・セットへの書き込みを目的として割り振りを行っているときに、この問題が起こった場合は、ただちに処置をとる必要はない。しかし、(メッセージの STATUS 値で示された) SVC99 エラーを解決しておかないと、将来のオフロードもすべて同じエラーのため失敗することになるので、活動ログ内の使用可能なスペースが最終的には使い尽くされる (CSQJ111A) 可能性がある。
- データ・セットの読み取りを目的として割り振りを行っているときに、この問題が起こった場合は、問題を判別し、ログ目録変更ユーティリティ (CSQJU003) の DELETE 機能を使用して、BSDS 保存ログ目録から保存ログ・データ・セットを削除する。その後、NEWLOG 機能を使用し、正しいボリュームと装置を指すようにして、そのデータ・セットを保存ログ目録に戻す。

ログの問題の処理方法については、[活動ログの問題](#)を参照。

このメッセージは、ユーザー・エラーの結果として出されることもある。STATUS の値が '17080000' である場合は、BSDS に 1 つ以上の活動ログ・データ・セットが定義されているが、それらが DASD に割り振られていないと考えられる。この状況を訂正するには、ログ・マップ印刷ユーティリティ (CSQJU004) を使用して、現在の活動ログ・データ・セット目録の内容を印刷してから、次のいずれかの処置をとる。

- アクセス方式サービス・プログラムを使用して、BSDS にはリストされているが実際には DASD に割り振られていない各活動ログ・データ・セットに対して、活動ログ・データ・セットを割り振る。活動ログ・データ・セットに対するアクセス方式サービス・プログラムのコマンド構文は、CSQ4BSDS サンプル JCL にある。
- ログ目録変更ユーティリティ (CSQJU003) の DELETE ステートメントを使用して、エラーの活動ログ・データ・セット名を削除してから、NEWLOG ステートメントを用いて、正しい名前を活動ログ・

データ・セット目録に追加する。NEWLOG ステートメントに指定する名前は、DASD に割り振られている実際の活動ログ・データ・セットの名前と同じでなければならない。

CSQJ104E

csect-name DSNAME dsname のエラー状況 nnn を macro-name から受信しました。

説明

マクロ macro-name の発行中にエラーが発生しました。エラー状況は、指定したマクロからの戻りコードで、次のとおりである。

- VSAM データ・セットの OPEN の場合は、アクセス方式サービス・プログラム制御ブロックのエラー・フィールド内の戻りコードが、エラー状況値として、このメッセージに含まれる。これらの値の説明については、[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#) マニュアルを参照してください。
- VSAM 以外のデータ・セットの OPEN の場合は、エラー状況はゼロとなる。
- MMSRV エラーの場合、エラー状況には、メディア・マネージャー・サービスから戻されたエラー情報が入られる。活動ログ・データ・セットを切り捨てようとしていて MMSRV CATUPDT エラーが起こった場合は、ログ・データ・セットは使用不能になり、BSDS 内ではこのログ・データ・セットの状況に STOPPED のフラグが立てられる。
- VSAM OPEN および MMSRV エラーの場合は、このメッセージの前に、発生したエラーを定義する IEC161I メッセージが出される。
- 保存ログ・データ・セットの PROTECT の場合、戻りコードは、DADSM PROTECT からの戻りコードである。

ログの問題の処理方法については、[活動ログの問題](#)を参照。

システム・アクション

以降の処置は、エラーの発生時によって異なる。

キュー・マネージャー初期設定中、始動が終了する。

オフロード操作または入力操作にデータ・セットを使用する場合、処理は継続する。データの 2 番目のコピーが使用可能であれば、IBM MQ は 2 番目のデータ・セットの割り振りおよびオープンを試みる。

データ・セットを活動ログ・データ・セットとして使用している場合、IBM MQ は要求を再試行する。再試行が失敗に終わると、キュー・マネージャーは終了する。

チェックポイントの処理中、IBM MQ がページ・セットの再始動回復、CF 構造体の再始動回復、および CF 構造体のメディア回復に必要な最も古い活動ログ・データ・セットまたは保存ログ・データ・セットを見つけようとしていた場合、処理は継続される。このメッセージは、再始動回復か CF 構造体のメディア回復が失敗するという警告である。これは、すべての CF アプリケーション構造体が定期的にバックアップされていないときに発生しやすいため、回復のために過度に古いログ・データ・セットを必要とする。

システム・プログラマーの応答

このエラーが初期設定時に発生した場合、問題を訂正してデータ・セットを使用可能にするか、またはデータ・セットの別のコピーを指定し、新しいデータ・セットを指すように BSDS を変更する。

このエラーが始動後に起こった場合は、後でデータ・セットを使用できるように、戻りコードを調べ、適切な処置を取って問題を訂正するか、ログ目録変更ユーティリティを使用して、そのデータ・セット項目を BSDS から取り除くことができる。

PROTECT からこのエラーを受け取った場合は、PASSWORD データ・セットに問題がある場合がある。該当する DADSM 資料を参照し、問題の原因を判別する。問題が訂正されたら、このエラーを受け取った保存ログ・データ・セットが PASSWORD データ・セットに追加されているようにする。これらの保存ログ・データ・セットが PASSWORD データ・セットに追加されないと、保存読み取りで、これらのデータ・セットをオープンすることができない。指定されたマクロに関する情報がない場合は、マクロ名と戻りコードを書き留めて、IBM サポートに連絡する。

チェックポイントの処理中にエラーが発生した場合、DISPLAY USAGE TYPE(DATASET) コマンドを発行してページ・セットとメディア回復に現在必要なログ・データ・セットを表示し、そのログ・デー

タ・セットが使用可能であることを確認する。適用可能な場合は、CF 構造体に BACKUP CFSTRUCT コマンドを使用して、CF 構造体を頻繁にバックアップするように手順を設定する。

CSQJ105E

`csect-name LOG WRITE ERROR DSNAME=dsname, LOGRBA=rrr, ERROR STATUS=ccccffss`

説明

ログ・データ・セットの書き込み中にエラーが発生した。 `csect-name` が CSQJW107 であれば、活動ログ・データ・セットにログ・バッファを書き込んでいるときに、エラーが起こった。 `csect-name` が CSQJW207 の場合、ログ・データを書き込む前に次の制御域を事前フォーマットしているときにエラーが発生した。

エラー状況には、 `ccccffss` の形式で、メディア・マネージャーから戻されたエラー情報が含まれている。 `cccc` はエラーを記述する 2 バイトの戻りコード、 `ff` はエラーを検出した機能ルーチンを定義する 1 バイトのコード、 `ss` はエラーの汎用カテゴリーを定義する 1 バイトの状況コードである。

システム・アクション

重複活動ロギング・オプションが選択されている場合は、IBM MQ がこのコピーの次のデータ・セットに切り替える。次のデータ・セットが作動可能になっていない場合、IBM MQ は一時的に単一ロギング・モードに入り、エラーが検出されたデータ・セットの置換データ・セットを割り振る。可能な限り早く重複ロギングが再開される。

単一活動ロギング・オプションが選択されており、次のデータ・セットが作動可能になっていないと、IBM MQ はそのデータ・セットが使用可能になるのを待つ。この場合、置換データ・セットが出力を受け入れる準備ができるまで、ログ書き込みは禁止される。

システム・プログラマーの応答

[メディア・マネージャー戻りコード](#)については、「[z/OS DFSMSdfp 診断](#)」を参照してください。問題を解決できない場合は、戻りコードを書き留め、IBM サポートに連絡する。

CSQJ106E

`LOG READ ERROR DSNAME=dsname, LOGRBA=rrr, ERROR STATUS=ccccffss`

説明

活動ログ・データ・セットの読み取り中にエラーが発生した。エラー状況には、 `ccccffss` の形式で、メディア・マネージャーから戻されたエラー情報が含まれている。 `cccc` はエラーを記述する 2 バイトの戻りコード、 `ff` はエラーを検出した機能ルーチンを定義する 1 バイトのコード、 `ss` はエラーの汎用カテゴリーを定義する 1 バイトの状況コードである。（[メディア・マネージャー戻りコード](#)については、「[z/OS DFSMSdfp 診断](#)」を参照してください。）

システム・アクション

別のログ・データ・セットにデータが含まれている場合、IBM MQ はその代替ソースからデータを読み取ろうとする。代替ソースが利用できない場合、ログ・データを要求したプログラムに読み取りエラー戻りコードが送られる。障害が発生した状況によっては、キュー・マネージャーは、重複ロギングが使用されていれば代替ログ・データ・セットを用いて処理を続行する場合もあり、異常終了する場合もある。

システム・プログラマーの応答

重複ロギングを使用していれば、要求された RBA は、対応する重複活動ログ・データ・セットからおそらく取り出されており、即時の応答は必要ない。しかし、このエラーが頻繁に起こる場合、または単一ロギングを使用している場合は、即時の処置が必要になる可能性がある。その場合は、エラー状況フィールドの内容を書き留め、IBM サポートに連絡する。

エラーのデータ・セットを、ログ・データを含む新しいデータ・セットで置き換え、次に、ログ目録変更 (CSQJU003) の NEWLOG 操作を使用して、新しいデータ・セットを反映するように BSDS を更新する場合もある。

ログの問題の処理方法については、[活動ログの問題](#)を参照。

このメッセージは、ユーザー・エラーの結果として出されることもある。DSNAME で指定されているデータ・セット名が欠落していて、STATUS の値が '00180408' または '00100408' である場合には、

重複ロギングが使用されているが、活動ログ・データ・セットが1組しか BSDS に定義されていない。この状況を解決するには、次のいずれかの処置をとる。

- アクセス方式サービスを使用して2組目のアクティブ・ログ・データ・セットを定義し(まだ定義されていない場合)、[ログ目録変更 \(CSQJU003\)](#) の NEWLOG 操作を使用して BSDS ログ目録を更新する。
- 単一ロギングを示すようにログ・システム・パラメーターをリセットする。CSQ6LOGP システム・パラメーターの TWOACTV を 'NO' に設定すると、これを実行できる。

CSQJ107E

READ ERROR ON BSDS DSNAME=*dsname* ERROR STATUS=*eee*

説明

示された BSDS の読み取り中にエラーが発生した。エラー状況には VSAM 戻りコードおよびフィードバック・コードが入る。これは2バイトのフィールドで、最初のバイトは16進数の戻りコード、2番目のバイトは16進数のフィードバック・コードである。VSAM 戻りコードおよび理由コードの説明については、「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照。

BSDS またはログに関する問題の処理方法については、[活動ログの問題](#)を参照。

システム・アクション

重複 BSDS が使用可能であれば、MQ は残りの BSDS から読み取ろうとする。2番目の BSDS からの読み取りが失敗するか、または1つの BSDS しかない場合には、BSDS にアクセスさせたログ要求にエラー・コードが戻される。

始動時に読み取りエラーが見つかった場合、キュー・マネージャーは終了する。

エラー・コードが予期しないものである場合、診断ダンプがとられることがあります。

システム・プログラマーの応答

読み取りエラーから生じた状況に応じて、BSDS の置換または修復が必要になることがある。BSDS を置き換えるには、まずエラーの BSDS を削除してから、同じ名前と属性を用いて新しい BSDS を定義する。新しい BSDS に新しい名前を使用した場合は、新しい BSDS 名を指定するように、キュー・マネージャーが開始したタスクの JCL プロシージャ (xxxxMSTR) を変更する。

CSQJ108E

WRITE ERROR ON BSDS DSNAME=*dsname* ERROR STATUS=*eee*

説明

示された BSDS への書き込み中にエラーが発生した。エラー状況には VSAM 戻りコードおよびフィードバック・コードが入る。これは2バイトのフィールドで、最初のバイトは16進数の戻りコード、2番目のバイトは16進数のフィードバック・コードである。VSAM 戻りコードおよび理由コードの説明については、「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照。

システム・アクション

重複 BSDS が使用可能であれば、MQ は残りの有効な BSDS を使用して、単一 BSDS モードに入る。そうでなければ、BSDS へのアクセスを行ったログ要求にエラー・コードが戻される。

エラー・コードが予期しないものである場合、診断ダンプがとられることがあります。

システム・プログラマーの応答

重複 BSDS モードが使用されている場合は、オフラインのアクセス方式サービス・プログラム・ジョブを実行して、エラーの BSDS の名前を変更し、同じ名前でも新しい BSDS を定義する。その後、RECOVER BSDS コマンドを入力して、重複 BSDS モードを再設定する。

重複 BSDS モードが使用されていない場合は、キュー・マネージャーを終了し、バックアップ・コピーから BSDS を回復しなければならない。BSDS を回復するためには、ログ目録変更ユーティリティを使用する。

CSQJ109E

OUT OF SPACE IN BSDS DSNAME=*dsname*

説明

指定された BSDS に、スペースがそれ以上ない。スペース不足条件を検出した操作は、正常に完了しなかった。

システム・アクション

重複 BSDS が使用可能であれば、IBM MQ は残りの有効な BSDS を使用して、単一 BSDS モードに入る。そうでなければ、BSDS へのアクセスを行ったログ要求にエラー・コードが戻される。

システム・プログラマーの応答

重複 BSDS モードが使用されている場合は、オフラインのアクセス方式サービス・プログラム・ジョブを実行して、BSDS 全体の名前を変更し、同じ名前でもっと大きな BSDS を定義する。RECOVER BSDS コマンドを入力し、重複 BSDS モードを再確立する。

重複 BSDS モードが使用されていない場合は、キュー・マネージャーをシャットダウンし、BSDS をオフラインで回復しなければならない。この場合、上述した同じアクセス方式サービス・ジョブを実行して、データ・セット全体を名前変更し、もっと大きなデータ・セットを定義する。次に、アクセス方式サービス・プログラム REPRO ジョブを実行して、BSDS 全体を新しい BSDS にコピーする。

CSQJ110E

活動ログ・データ・セットの最新コピー *n* は *nnn* パーセントまできています。

説明

このメッセージは、最後の使用可能な活動ログ・データ・セットが 5% に達したときに出され、その後、データ・セットのスペースが 5% 増えるたびに出される。

システム・アクション

このメッセージが出されるたびに、オフロード処理が再試行される。状況が訂正されないと、活動ログ・データ・セットは容量に達し、メッセージ CSQJ111A が出され、IBM MQ の処理は停止する。

システム・プログラマーの応答

この状態を解消するには、他の待ちオフロード・タスクを完了するためのステップをとらなければならない。オフロード処理を完了させることによって、活動ログ・データ・セットが使用可能 (再使用可能) にされると、IBM MQ ログギング活動を続行できる。

表示要求を実行し、ログのオフロード処理に関連する未解決の要求を判別する。要求を満たすのに必要な処置を取り、オフロード処理を続行できるようにする。

十分なアクティブ・ログ・データ・セットがあるかどうかを確認する。必要であれば、DEFINE LOG コマンドを使用して、動的にログ・データ・セットを追加できる。

オフロードが正常終了しない、または起動できない場合は、オフロード処理エラーの原因となった問題を訂正するか、割り振られているデータ・セットのサイズを大きくするか、または、さらに活動ログ・データ・セットを追加する。後者の処置では、キュー・マネージャーを非活動状態にし、ログ目録変更ユーティリティを実行する必要がある。

活動ログ・データのスペース不足の原因としては、次のことが考えられる。

- 過度のログギング。例えば、持続メッセージ活動が多い場合。
- オフロードの遅延または低速オフロード。例えば、保存ボリュームのマウントが失敗した、オフロード・メッセージへの応答が不適切である、または装置スピードが遅い場合などに発生する。
- ARCHIVE LOG コマンドの過度の使用。このコマンドを呼び出すたびに、IBM MQ は、新しい活動ログ・データ・セットに切り替え、活動ログのオフロードを開始する。活動ログのコピーの中に活動ログ・データ・セットが 1 つしか残っていないときは、このコマンドは処理されない (CSQJ319I を参照) が、このコマンドを過度に使用すると、現行の活動ログ・データ・セットを除き、活動ログ内のすべてのスペースが使い尽くされてしまうことがある。
- オフロードの失敗。
- 活動ログ・スペースの不足。

CSQJ111A

活動ログ・データ・セットにスペースが足りません。

説明

オフロード処理の遅延のために、すべての活動ログ・データ・セットの使用可能なスペースがすべて使い尽くされた。回復ロギングを続行することができない。

システム・アクション

IBM MQ は、使用可能なデータ・セットを待つ。ロギングが必要な IBM MQ API 呼び出しを実行するタスクは、すべて停止する。

システム・プログラマーの応答

表示要求を実行し、ログのオフロード処理に関連して未解決の要求がないかどうかを確認する。要求を満たすのに必要な処置を取り、オフロード処理を続行できるようにする。

十分なアクティブ・ログ・データ・セットがあるかどうかを確認する。必要であれば、DEFINE LOG コマンドを使用して、動的にログ・データ・セットを追加できる。

オフロードに必要な資源が不足しているために遅延が生じた場合は、必要な資源を使用可能にして、オフロードを完了させ、ロギングを続行できるようにしなければならない。この状態から回復する方法については詳しくは、[アーカイブ・ログの問題](#)を参照。

保存がオフに設定されていたため、保存データ・セットを割り振ることができなかったため、またはシステム・パラメーターを変更しなければならない他の理由のために、この問題が発生した場合は、STOP MODE(QUIESCE) コマンドも STOP MODE(FORCE) コマンドも作動しないので、キュー・マネージャーを取り消さなければならない。

ロギングが必要な MQ API 呼び出しを実行したために停止しているタスクを解放するには、根底にある問題を解決するか、またはキュー・マネージャーを取り消さなければならない。

一部の資源が使用不可であるため、またはその他の理由により、オフロード処理が停止した場合、ARCHIVE LOG CANCEL OFFLOAD コマンドを使用して現在実行中のオフロード・タスクを取り消し、別のタスクを開始することで問題を解決できることがある。ハードウェア障害がある場合は、z/OS コマンドを使用して、問題のある装置を取り消す必要がある。

CSQJ112E

csect-name BSDS に定義された活動ログ・データ・セットが不十分です。

説明

キュー・マネージャーを始動するには、BSDS に定義されている活動ログ・データ・セットの数が不十分である。この状況は、通常、次のいずれかの理由で起こる。

- 活動ログ・コピー・セットの 1 つに定義されたデータ・セットが 2 つに満たない。
- CSQ6LOGP システム・パラメーターでは、TWOACTV=YES が指定されているが、活動ログの 2 つのコピーのデータ・セットが BSDS に定義されていない。
- 活動ログ・コピー・セットの 1 つに使用できる (STOPPED のフラグが立てられていない) データ・セットが 2 つに満たない。

システム・アクション

始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

ログ目録変更ユーティリティーを使用して、BSDS に定義する活動ログ・データ・セットの数を、CSQ6LOGP で指定されたシステム・パラメーターと一致させるか、または活動ログ・データ・セットを追加して、各活動ログ・コピーで複数の活動ログ・データ・セットを使用できるようにする。キュー・マネージャーを再始動する。

注: STOPPED のフラグを立てられたログ・データ・セットは、IBM MQ では再使用されない。キュー・マネージャーを再始動すると、STOPPED ログ・データ・セットを回復する必要がある場合がある。STOPPED 状況を取り消すには、以下の手順に従う。

1. キュー・マネージャーを停止する。
2. ログ・データ・セットを回復する (再定義するか、ログの他のコピーから回復する)。

3. ログ・データ・セットをいったん削除してから、(ログ目録変更ユーティリティを使用して)適切な RBA を指定して BSDS に再び追加する。

CSQJ113E

RBA *log-rba* が、活動または保存ログ・データ・セットにありません。CONNECTION-ID=xxxx THREAD-XREF=yyyyyy

説明

この RBA から始まるログ・レコードを読み取るように要求された。しかし、このログ・レコードが、どの活動/保存ログ・データ・セットにも見つからなかった。接続 ID および THREAD-XREF は、問題を検出したユーザーまたはアプリケーションを識別する(これは内部 IBM MQ タスクの可能性がある)。ログの問題の処理方法については、[活動ログの問題](#)を参照。

システム・アクション

どのログ・レコードがどのような理由で読み取られているかに応じて、要求側は X'00D1032A' の理由コードを出して異常終了することがある。

システム・プログラマーの応答

おそらくユーザー・エラーである。要求された RBA を含む保存ログ・データ・セットが、ログ目録変更ユーティリティによって、BSDS から削除されたと思われる。古いログ・マップ印刷実行からの出力を見つけ、欠落している RBA を含むデータ・セットを識別する。このデータ・セットが再使用されていなかった場合は、ログ目録変更ユーティリティを実行し、このデータ・セットをログ・データ・セットの目録に戻す。キュー・マネージャーを再始動する。

CSQJ114I

保存データ・セットにエラーが発生し、オフロードは生成中の保存データ・セットでだけ継続します。

説明

オフロードによって作成中の保存データ・セットの 1 つにアクセスしているときに、エラーが起こった。重複保存オプションが指定されているため、他方の保存データ・セットを用いてオフロードが継続される。オフロード中の RBA 範囲に関しては、保存データ・セットの数は 2 つではなく、1 つだけにする。

システム・アクション

オフロードは、1 つの保存データ・セットを作成する。

システム・プログラマーの応答

この保存ログ・データ・セットの 2 番目のコピーを作成でき、ログ目録変更ユーティリティを用いて BSDS を更新できる。

CSQJ115E

オフロードが失敗し、保存データ・セットを割り振れませんでした。

説明

オフロードで、保存ログ・データ・セットを割り振ることができなかった。オフロードは実行されない。このメッセージの前に、メッセージ [CSQJ103E](#) または [CSQJ073E](#) が出される。

注: 重複保存オプションを使用している場合は、コピーが作成されない。

システム・アクション

後で、オフロードが試行される。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQJ103E または CSQJ073E のエラー状況情報を調べる。データ・セット割り振りエラーの原因となった状況を訂正し、再試行時にオフロードが行われるようにする。

CSQJ116E

BSDS に保存項目を追加中にエラーが発生しました。

説明

オフロードで、BSDS に保存項目を追加することができなかった。オフロードは不完全と思われる。活動ログ・データ・セットには、新しいログ・データに再使用可能であるというマークは付けられない。このメッセージの前に、メッセージ CSQJ107E、CSQJ108E、または CSQJ109E が出される。

システム・アクション

オフロードは、後で再試行される。

システム・プログラマーの応答

該当する先行メッセージから処置を調べる。

CSQJ117E

INITIALIZATION ERROR READING BSDS DSNAME=*dsname*, ERROR STATUS=*eee*

説明

示された BSDS の初期設定読み取り中にエラーが発生した。エラー状況には VSAM 戻りコードおよびフィードバック・コードが入る。これは 2 バイトのフィールドで、最初のバイトは 16 進数の戻りコード、2 番目のバイトは 16 進数のフィードバック・コードである。VSAM 戻りコードおよび理由コードの説明については、「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照。

システム・アクション

始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

関連のある VSAM エラー状況情報を使用して、読み取りエラーの原因を判別する。キュー・マネージャーを再始動する。

CSQJ118E

マクロ *xxx* がログの初期化で失敗しました。RC=*ccc*

説明

ログの初期設定で、示されたマクロから戻りコードが戻された。

システム・アクション

始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

指定されたマクロおよび戻りコードに関する情報を用いて、問題を判別する。必要なステップをとり、キュー・マネージャーを再始動する。指定されたマクロに関する情報がない場合は、マクロ名と戻りコードを書き留めて、IBM サポートに連絡する。

CSQJ119E

アクセスのブートストラップが、初期設定処理に失敗しました。

説明

キュー・マネージャーの初期設定時に、BSDS アクセス機能はその初期設定処理を完了できなかった。BSDS またはログに関する問題の処理方法については、[活動ログの問題](#)を参照。

システム・アクション

始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

このメッセージに先立って、特定のエラーを記述する 1 つ以上のエラー・メッセージが出されている。該当するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ120E

重複 BSDS データ・セットに異なるタイム・スタンプがあります。SYSTEM BSDS1=*sys-bsds1*、BSDS2=*sys-bsds2*、UTILITY BSDS1=*uty-bsds1*、BSDS2=*uty-bsds2*

説明

キュー・マネージャーの初期設定時に、重複 BSDS のタイム・スタンプが一致していなかった。システムおよびログ目録変更ユーティリティからのタイム・スタンプが、それぞれの BSDS について示されている。タイム・スタンプの形式は `date hh:mm:ss.th` です。

システム・アクション

キュー・マネージャーが、BSDS データ・セットを再同期して重複 BSDS モードを復元しようとした。再同期が正常に終了すると、メッセージ CSQJ130I が発行され、始動は続行される。再同期が正常に終了しない場合、始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

始動に失敗した場合、各 BSDS に対してログ・マップ印刷ユーティリティを実行する。出力から、どのデータ・セットが使えないかを判別し、そのデータ・セットを削除し、それに置き換わるデータ・セットを定義し、残っている BSDS をその新しいデータ・セットにコピーする。

両方のデータ・セットに対するログ・マップ印刷ユーティリティの出力が類似している場合は、タイム・スタンプが古い方のデータ・セットを削除し、最新のタイム・スタンプをもつデータ・セットをコピーする。

CSQJ121E

INITIALIZATION ERROR READING JFCB, DDNAME=*ddd*

説明

キュー・マネージャーの初期設定時 (重複 BSDS データ・セットが指定されている場合)、DD 名 BSDS1 および BSDS2 に関連するデータ・セット名を取得するために、z/OS のジョブ・ファイル制御ブロック (JFCB) が読み取られる。このエラーの原因は、DD ステートメントの欠落である。

システム・アクション

始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

DD 名 BSDS1 に対する DD ステートメントが、キュー・マネージャーが開始したタスクの JCL プロシージャ xxxxMSTR に含まれているかどうかを確認する。重複 BSDS データ・セットが使用されている場合は、DD ステートメントも、DD 名 BSDS2 に対してキュー・マネージャーが開始したタスクの JCL プロシージャ xxxxMSTR に含まれているようにする。

CSQJ122E

二重 BSDS データ・セットは同期していません。

説明

キュー・マネージャーの初期化中、またはユーティリティの実行中に、二重 BSDS のコンテンツが違うことが検出された。

システム・アクション

プログラムまたはキュー・マネージャーの始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーの初期化中にこのエラーが発生した場合は、各 BSDS に対してログ・マップ印刷ユーティリティを実行し、最初のコピーとして最後に使用されたデータ・セットを特定する。2 番目のコピー・データ・セットを削除し、削除したデータ・セットに置き換わるデータ・セットを定義し、残っている BSDS をその新しいデータ・セットにコピーする。

キュー・マネージャーが異常終了した後の BSDS 変換ユーティリティの実行中にこのエラーが発生した場合は、まずそのキュー・マネージャーを再始動してクリーン・シャットダウンを実行した後に、BSDS 変換ユーティリティを再度実行する。それでも問題が解決しない場合、各 BSDS に対してログ・マップ印刷ユーティリティを実行し、最初のコピーとして最後に使用されたデータ・セットを特定する。BSDS 変換ユーティリティを呼び出すために使用する JCL を変更して、SYSUT1 DD ステートメントにこの BSDS を指定し、SYSUT2 DD ステートメントを削除してから、ジョブを再実行依頼してください。

CSQJ123E

ログ目録変更の失敗が検出されました。

説明

キュー・マネージャーの初期設定時に、BSDS がログ目録変更ユーティリティーによって 完全には処理されていないことがわかった。

システム・アクション

始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

ログ・マップ印刷ユーティリティーを実行し、BSDS に対するどの操作が完了していなかったかを判別する。BSDS に対してログ目録変更ユーティリティーを実行し、未終了の処理がすべて完了されるようにする。

CSQJ124E

入出力エラーのため、活動中のログのオフロードは、RBA xxxxxx から RBA xxxxxx で中断しました。

説明

オフロード時に、活動ログ・データ・セットで、回復不能な入出力エラーが検出された。エラーのデータ・セットには使用不能のマークが付けられ、そのデータ・セットへのロギングはそれ以上行われない。

システム・アクション

活動ログ・データ・セットは、満杯になった時点で、再びオフロード処理が行われる。

システム・プログラマーの応答

そのデータ・セットからデータを手操作で回復し、それを保存データ・セットにコピーし、ログ目録変更ユーティリティーを実行して新しい保存データ・セットをキュー・マネージャーに対して使用可能にし、エラーの活動ログ・データ・セットを除去する。

CSQJ125E

BSDS のコピー中にエラーが発生しました。BSDS のコピーを作成せずにオフロードを継続します。

説明

オフロード処理中に BSDS データ・セットをコピーしているときに、エラーが発生した。データ・セットは生成されず、オフロードされたデータ・セットを含むボリュームは、回復用の BSDS を含んでいない。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、BSDS のコピーを作成せずに、オフロード処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

保存が行われているときは、活動ログ・データ・セットのコピーとその時点の BSDS の両方がダンプされる。この BSDS は、次の保存ログとともに再びコピーされるため、重要ではない (BSDS の欠落は、単に再始動時間が延長されることを意味する)。しかし、その後の BSDS オフロードが発生するようにするために、根底にあるデータ管理問題 (例えば、割り振られているスペースが不十分である) を解決しなければならない。

CSQJ126E

BSDS のエラーにより、強制的に単一モードになりました。

説明

入出力エラーまたは VSAM 論理エラーが BSDS で発生した。このメッセージの前に、メッセージ CSQJ107E または CSQJ108E が出される。

システム・アクション

IBM MQ は、残っている BSDS を使用して単一 BSDS モードに入る。

システム・プログラマーの応答

オフラインのアクセス方式サービス・プログラム・ジョブを実行して、エラーの BSDS の名前を変更し、同じ名前前で新しい BSDS を定義する。その後、RECOVER BSDS コマンドを入力して、重複 BSDS モードを再設定する。

CSQJ127I

SYSTEM TIME STAMP FOR BSDS=*date time*

説明

キュー・マネージャーの初期設定時に、BSDS のシステム・タイム・スタンプが表示される。タイム・スタンプの形式は *date hh:mm:ss.th* です。このタイム・スタンプは、このキュー・マネージャーが最後に停止された時刻に近くなければならない。そうしないと、間違った BSDS を使用して再始動が行われていることになる。

これまで BSDS が使用されなかった場合、タイム・スタンプには '*****' と表示される。

システム・アクション

始動処理が継続される。

システム・プログラマーの応答

表示された時刻がこのキュー・マネージャーを最後に停止した時刻に近くなく、時刻の矛盾の説明がつかない場合は、キュー・マネージャーを取り消す。キュー・マネージャーが開始したタスクの JCL プロシージャ *xxxxMSTR* から、BSDS のデータ・セット名を判別し、ログ・マップ印刷ユーティリティを実行する。すべての活動/保存ログ・データ・セットがこのキュー・マネージャーに属しているかどうかを調べる。属していない場合は、キュー・マネージャー用の開始済みタスク JCL プロシージャ *xxxxMSTR* を変更して、正しい BSDS を使用するようになる。

CSQJ128E

活動ログ *dsname* のログ・オフロード・タスクが失敗しました。

説明

活動ログ・データ・セット *dsname* の RBA 範囲をオフロードしようとしたときに、オフロード・タスクが異常終了した。

システム・アクション

オフロード・タスクは終了し、オフロード・タスクに割り振られていた保存データ・セットは割り振り解除されて、削除される。失敗したオフロード処理に関与していた活動ログ・データ・セットの状況は、「再使用不可」に設定されたままである。

ログ・オフロード・タスクは、いくつかのイベントのいずれかによって再び開始される。最も一般的なイベントは、次のとおりである。

- 現行の活動ログ・データ・セット内のすべての使用可能なスペースが使用された (通常の場合)。
- CSQJ110E メッセージが出された。
- キュー・マネージャーのアドレス・スペースが開始されたが、活動ログのデータが保存されていなかった。
- 活動ログで入出力エラーが起こった。これにより、キュー・マネージャーは強制的に活動ログ・データ・セットを切り捨ててオフロードし、新しい活動ログ・データ・セットに切り替わる。

システム・プログラマーの応答

このメッセージは、オフロード・エラーの結果として出されるものであり、この前に 1 つ以上の IBM MQ メッセージ (例えば、CSQJ073E) および z/OS メッセージ (例えば、IEC030I、IEC031I、IEC032I) が出される。キュー・マネージャーが限定された活動ログ資源で動作している場合は (メッセージ CSQJ110E を参照)、この異常終了または CSQJ110E 状況が解決されるまで、ログ活動を制限するためにシステムを静止しなければならない。

キュー・マネージャーによってオフロードが再び試みられる前に、この異常終了の原因を調べ、訂正しておく。

CSQJ129E

ログの終わり RBA *eol-rba* がどの活動ログ・データ・セットにも見つかりませんでした。見つかった最高 RBA は *hi-rba* でした。

説明

BSDS 内に最高位 RBA として書き込まれたログ・レコード *eol-rba* を見つけるように要求された。この RBA が、どの活動ログ・データ・セットにも見つからなかった。すべての活動データ・セット内で見つかった最高位 RBA は、*hi-rba* である。

システム・アクション

始動処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

要求された RBA を含む活動ログ・データ・セットが、ログ目録変更ユーティリティによって BSDS から削除されていると思われる。データ・セットが再使用されていない場合は、ログ目録変更ユーティリティを実行し、このデータ・セットを BSDS に戻す。キュー・マネージャーを再始動する。

データ・セットが使用可能でない場合は、IBM サポートに連絡する。

CSQJ130I

DUAL BSDS MODE RESTORED FROM BSDS n

説明

BSDS コピー n を使用して、重複 BSDS モードが復元されました。これは、最新のシステム・タイム・スタンプを持つ BSDS データ・セットです。

システム・アクション

始動処理が継続される。

CSQJ131E

csect-name Db2 にキュー・マネージャー情報を書き込み中にエラーが発生しました。

説明

コマンド処理中に、Db2 にキュー・マネージャー情報を書き込もうとして失敗した。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

この問題に関連するメッセージがないか、コンソールを調べる。

CSQJ132E

csect-name Db2 からキュー・マネージャー情報を読み取り中にエラーが発生しました。

説明

コマンド処理中に、Db2 からキュー・マネージャー情報を読み取ろうとして失敗した。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

この問題に関連するメッセージがないか、コンソールを調べる。

CSQJ133E

LRSN *rrr* が、活動または保存ログ・データ・セットにありません。接続 ID=*xxxx* THREAD-XREF=*yyyyyy*、QMGR=*qmgr-name*

説明

示されたキュー・マネージャー (メッセージの発行元とは限らない) の、この LRSN から始まるログ・レコードを読み取るように要求された。しかし、このログ・レコードが、どの活動/保存ログ・データ・セットにも見つからなかった。接続 ID および THREAD-XREF は、問題を検出したユーザーまたはアプリ

リケーションを識別する (これは内部 IBM MQ タスクの可能性がある)。 ログの問題の処理方法については、[活動ログの問題](#)を参照。

システム・アクション

どのログ・レコードがどのような理由で読み取られているかに応じて、要求側は X'00D1032A' の理由コードを出して異常終了することがある。

システム・プログラマーの応答

おそらくユーザー・エラーである。 要求された RBA を含む保存ログ・データ・セットが、ログ目録変更ユーティリティによって、BSDS から削除されたと思われる。 古いログ・マップ印刷実行からの出力を見つけ、欠落している LRSN を含むデータ・セットを識別する。 このデータ・セットが再使用されていなかった場合は、ログ目録変更ユーティリティを実行し、このデータ・セットをログ・データ・セットの目録に戻す。 キュー・マネージャーを再始動する。

CSQJ134E

RBA *log-rba* が、活動または保存ログ・データ・セットにありません。 CONNECTION-ID=xxxx THREAD-XREF=yyyyyy, QMGR=*qmgr-name*

説明

示されたキュー・マネージャーのこの RBA から始まるログ・レコードを読み取るように要求された。 しかし、このログ・レコードが、どの活動/保存ログ・データ・セットにも見つからなかった。 接続 ID および THREAD-XREF は、問題を検出したユーザーまたはアプリケーションを識別する (これは内部 IBM MQ タスクの可能性がある)。 ログの問題の処理方法については、[活動ログの問題](#)を参照。

システム・アクション

どのログ・レコードがどのような理由で読み取られているかに応じて、要求側は X'00D1032A' の理由コードを出して異常終了することがある。

システム・プログラマーの応答

この問題は、次の理由で起こる。

1. BSDS 内のログ範囲の項目が BSDS から削除された。
2. ログ範囲の項目は BSDS 内にあるが、アーカイブ・ログ・データ・セットが削除された。 アーカイブ・ログの作成時に、データ・セットを削除する時期を指定するために CSQ6ARVP パラメーター ARCRETN が使用される。 この日付を過ぎると、MVS はデータ・セットを削除するので、この日付より後にこのデータ・セットを使用しようとする、データ・セットが見つかりません。

詳しくは、[BSDS の問題](#)を参照。

CSQJ136I

磁気テープ装置を接続 ID=xxxx 相関 ID=yyyyyy に割り振れません。 *m* 個割り振られ、*n* 個許可されました。

説明

指定された接続 ID の磁気テープ装置を割り振ろうとする試みが失敗した。 指定されている現行の最大磁気テープ装置は *n* ですが、物理的には、*m* 個しか使用できない。

システム・アクション

接続 ID および相関 ID のプロセスは、割り振られた磁気テープ装置のいずれかが解放されるか、もっと多くの磁気テープ装置がオンラインに変更され、保存読み取りタスクに使用可能になるまで保留される。 この状態は、現在割り振られている磁気テープ装置が使用可能になるまで調整を繰り返す。

CSQJ139I

ログ・オフロード・タスクは終了しました。

説明

活動ログのオフロード処理が終了した。

システム・アクション

このメッセージは、z/OS コンソールに出力される。

CSQJ140I

Data set *dsname* successfully added to active log copy *n*

説明

DEFINE LOG コマンドが、新しいログ・データ・セット *dsn* を動的に追加し、それを *n* が示す活動ログ・データ・セットの LOGCOPY1 または LOGCOPY2 リングに追加した。

新しい活動ログ・データ・セットは、現在の活動ログ・データ・セットが満杯になり、ロギングがリング内の次の活動ログ・データ・セットに切り替わるときに使用できる。

データ・セットに関する情報は BSDS に保管され、キュー・マネージャーを再始動しても保持される。

CSQJ141E

Error adding new active log data set *dsname*

説明

DEFINE LOG コマンドは、新しいログ・データ・セットの追加に失敗した。この失敗についての詳細は、先行のメッセージを参照。

システム・プログラマーの応答

失敗の原因を調査して訂正してから、コマンドを再入力する。

CSQJ142I

データ・セット *dsname* は以前使用されています。

説明

オペレーター・エラーを示している可能性があるため、IBM MQ は、DEFINE LOG コマンドで追加したデータ・セットが以前にログ・データ・セットとして使用されていなかったようにする。要求したデータ・セット *dsname* が以前に使用されていたことが判明した。

システム・アクション

データ・セットはクローズされ、割り振り解除される。新しい活動ログ・データ・セットの動的追加は失敗する。

システム・プログラマーの応答

活動ログ・データ・セットとして追加されようとしているデータ・セットが新しく割り振られているかどうか、または活動ログ事前フォーマット・ユーティリティ CSQJUFMT でフォーマットされているかどうかを確認する。

CSQJ143I

BSDS 活動ログ・データ・セット・レコードがいっぱいです。

説明

活動ログ・データ・セットの最大数は決まっている。最大数に達した後で、BSDS にそれ以上項目を挿入することはできない。

システム・アクション

新しい活動ログ・データ・セットの動的追加は失敗する。

CSQJ144I

Active log data set allocation error

説明

IBM MQ は、要求したデータ・セット (次の CSQJ141E メッセージで示される) を新しい活動ログ・データ・セットとして使用するために動的に割り振ることができなかった。

システム・アクション

新しい活動ログ・データ・セットの動的追加は失敗する。

システム・プログラマーの応答

新しい活動ログ・データ・セットとして追加されようとしているデータ・セットが SHAREOPTIONS(2 3) を使用した VSAM 線形データ・セットで、他のジョブに使用されていないようにする。

CSQJ150E

ログ収集出口が異常終了し、出口が非活動化されました。

説明

インストール・システム提供のログ収集出口コード (ロード・モジュール CSQJL004 の入り口点 CSQJW117) で実行中に、異常なプログラム割り込みが検出された。この結果として、ログ収集出口は活動状態ではなくなる。ログ・データはそれ以降は出口収集/処理に使用できない。

このメッセージは、インストール・システム提供のログ収集出口 (入り口点 CSQJW117) がこのキュー・マネージャーに対して活動状態になっている場合にのみ発行される可能性がある。

システム・アクション

ログ収集出口 (入り口点 CSQJW117) は終了する。このキュー・マネージャーに対してそれ以上の呼び出しは試みられない。診断を目的として完全なダンプが提供される。

システム・プログラマーの応答

CSQJL004 ロード・モジュール (入り口点 CSQJW117) 異常終了の原因を判別し、訂正処置をとる。

注: キュー・マネージャーを始動するには、ロード・モジュール CSQJL004/入り口 CSQJW117 の正しく機能するコピーが使用可能でなければならない。このエラーの原因となった問題を訂正できない場合は、次回キュー・マネージャーを始動するとき、デフォルトの CSQJW117 入り口 (ロード・モジュール CSQJL004 - IBM MQ で提供される) を使用可能にしておかなければならない。

CSQJ151I

csect-name RBA *rrr* の読み取り中エラー。CONNECTION-ID=*xxxx* CORRELATION-ID=*yyyyyy* REASON CODE=*ccc*

説明

キュー・マネージャーは、理由コード *ccc* のために、指定された RBA の読み取りを正常に完了することができなかった。接続 ID および相関 ID は、エラーが起こったユーザーまたはアプリケーションを識別する。同じ接続 ID および相関 ID を持つメッセージは、同じアプリケーションに関連している。「0nn」で始まる相関 ID (nn は 01 から 28 の番号) で、システム・エージェントを識別する。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、エラーを回復しようとする。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーがエラーを回復し、アプリケーションを正常に完了することができた場合には、さらにとるべき処置はない。アプリケーションが異常終了するか、またはキュー・マネージャーが正常に回復することができなかった場合には、このメッセージの後に 1 つまたは複数のメッセージが続く。このメッセージおよび後続のメッセージにある情報を参照して、適切な修正処置を決定してください。

CSQJ152I

csect-name 保存ログ・ボリューム報告書の作成中にエラー。CONNECTION-ID=*xxxx* CORRELATION-ID=*yyyyyy* 理由コード=*ccc*

説明

保存ログ・ボリューム報告書の作成を試みている間にエラーが起こった。理由コード *ccc* のため、RBA 範囲は 1 つまたは複数の保存データ・セットに正常にマップできなかった。接続 ID および相関 ID は、エラーが起こったユーザーまたはアプリケーションを識別する。このメッセージの前に、1 つまたは複数の関連エラー・メッセージが出されることがある。同じ接続 ID および相関 ID を持つメッセージは、同じアプリケーションに関連している。「0nn」で始まる相関 ID (nn は 01 から 28 の番号) で、システム・エージェントを識別する。

この障害は、1 つまたは複数の脱落保存ログ・データ・セットまたはシステム・エラー (例えば、BSDS 読み取りの入出力エラー) によって引き起こされる。

システム・アクション

保存ログ・ボリューム報告書(メッセージ CSQJ330I を参照)は生成されない。さらに、磁気テープの事前マウントはできない。

ユーザーまたはアプリケーションは、処理を継続する。ユーザーまたはアプリケーションに対する物理読み取りプロセスは、ジョブが正常に完了するかまたは異常終了するまで継続される。読み取りプロセスのためにデータ・セットが物理的に必要であるときにエラーが再び起こる場合、ジョブは異常終了することができる。

システム・プログラマーの応答

ユーザーまたはアプリケーションが正常に完了する場合、さらにとるべき処置はない。ユーザーまたはアプリケーションが正常に完了しない場合には、実際の障害に関連したメッセージを調べ、適切な訂正処置を判別する。

CSQJ153I

csect-name LRSN *rrr* の読み取り中にエラーが発生しました。接続 ID=xxxx 接続 ID=yyyyyy 理由コード=ccc、QMGR=*qmgr-name*

説明

キュー・マネージャーは、理由コード *ccc* のために、示されたキュー・マネージャー(メッセージの発行元とは限らない)の示された LRSN の読み取りを正常に完了することができなかった。接続 ID および関連 ID は、エラーが起こったユーザーまたはアプリケーションを識別する。同じ接続 ID および関連 ID を持つメッセージは、同じアプリケーションに関連している。「Onn」で始まる関連 ID (nn は 01 から 28 の番号)で、システム・エージェントを識別する。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、エラーを回復しようとする。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーがエラーを回復し、アプリケーションを正常に完了することができた場合には、さらにとるべき処置はない。アプリケーションが異常終了するか、またはキュー・マネージャーが正常に回復することができなかった場合には、このメッセージの後に 1 つまたは複数のメッセージが続く。このメッセージおよび後続のメッセージの情報を調べ、適切な訂正処置を判別する。

CSQJ154I

csect-name RBA *rrr* の読み取り中エラー。CONNECTION-ID=xxxx CORRELATION-ID=yyyyyy REASON CODE=ccc、QMGR=*qmgr-name*

説明

キュー・マネージャーは、理由コード *ccc* のために、指定されたキュー・マネージャーの指定された RBA の読み取りを正常に完了することができなかった。接続 ID および関連 ID は、エラーが起こったユーザーまたはアプリケーションを識別する。同じ接続 ID および関連 ID を持つメッセージは、同じアプリケーションに関連している。「Onn」で始まる関連 ID (nn は 01 から 28 の番号)で、システム・エージェントを識別する。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、エラーを回復しようとする。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーがエラーを回復し、アプリケーションを正常に完了することができた場合には、さらにとるべき処置はない。アプリケーションが異常終了するか、またはキュー・マネージャーが正常に回復することができなかった場合には、このメッセージの後に 1 つまたは複数のメッセージが続く。このメッセージおよび後続のメッセージの情報を調べ、適切な訂正処置を判別する。

CSQJ155E

csect-name アクティブ・ログ DSNAME=xxxxx が 4GB を超えています

説明

キュー・マネージャーが開いた LOG データ・セットに割り振られたスペースが 4GB を超えている。サポートされる最大 LOG サイズは 4GB である。

システム・アクション

処理を続行する。LOG データ・セットは引き続き使用されるが、使用されるスペースは割り振られたスペースより小さくなる。割り振られる RBA の最大値は 32 ビット・ワードをオーバーフローするため、切り捨てられる。切り捨てられた最大 RBA が使用されるため、LOG データ・セットのサイズは小さくなる。

システム・プログラマーの応答

LOG データ・セットには 4GB を超えないスペースを割り振る必要がある。アクセス方式サービス・プログラムを使用して、データ・セットを最大サイズ 4 GB で定義する。LOG データ・セットのサイズを判断するには、『[ログ・データ・セットの定義](#)』を参照。

LOG データ・セットに 4GB 以下のスペースを使用して再割り振りするには、以下の手順を実行する。

1. 新しい COPY1、COPY2 (使用する場合)、アクティブ・ログ・データ・セットに最大サイズの 4GB を割り振ってフォーマットし、必要に応じて CSQJUFMT を実行する。
2. コマンド DEFINE LOG を使用して、新しいログをキュー・マネージャーに動的に追加する。
3. コマンド ARCHIVE LOG を使用して、新しいログにロールインする。
4. 新しいログのいずれかが現在のアクティブ・ログ・データ・セットの場合、キュー・マネージャーをシャットダウンする。
5. CSQJU003 ユーティリティを使用して、小さすぎるアクティブ・ログを削除する。最初に CSQJU004 を実行して BSDS のログ状況を表示し、削除対象のログが「REUSABLE」、つまり正常にアーカイブされたことを確認する。
6. キュー・マネージャーを再始動する。CSQJ115E メッセージは発行されない。

CSQJ160I

長時間実行されている UOW が見つかりました。URID=*urid* CONNECTION NAME=*name*

説明

ログ・スイッチ処理中に、3 つ以上の活動ログ・スイッチに渡るコミットされていない回復単位が検出された。回復単位 ID *urid* と接続名 *name* により、関連するスレッドが識別される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

回復単位に問題があるかどうかを判別し、アプリケーションが頻繁に作業をコミットしているかどうかを確認するために、アプリケーション・プログラマーと連絡をとる。コミットされていない回復単位は、後で問題を起こす可能性がある。

必要に応じて、コマンド DISPLAY CONN(*) WHERE(QMURID EQ *urid*) ALL を発行して、リモート接続のチャンネル名など、回復単位に関する詳細情報を表示します。

CSQJ161I

n オフロードの後、UOW が解決されませんでした。URID=*urid* CONNECTION NAME=*name*

説明

ログ・スイッチ処理中に、コミットされていない回復単位で、いくつかのログ・データ・セットに渡るアクティビティを持つようになったものが見つかった。回復単位 ID *urid* と接続名 *name* により、関連するスレッドが識別される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

回復単位に問題があるかどうかを判別し、アプリケーションが頻繁に作業をコミットしているかどうかを確認するために、アプリケーション・プログラマーと連絡をとる。コミットされていない回復単位は、後で問題を起こす可能性がある。

必要に応じて、コマンド DISPLAY CONN(*) WHERE(QMURID EQ *urid*) ALL を発行して、リモート接続のチャンネル名など、回復単位に関する詳細情報を表示します。

CSQJ163E

COPY(2) が指定されましたが TWOACTV(NO) です

説明

DEFINE LOG コマンドで COPY(2) パラメーターが指定されたが、キュー・マネージャーの開始時に CSQ6LOGP では重複ロギング・パラメーター (TWOACTV=YES) が指定されていなかった。

システム・アクション

新しい活動ログ・データ・セットの動的追加は失敗する。

システム・プログラマーの応答

DEFINE LOG コマンドで COPY(1) を指定するか、重複ロギングを使用するようにキュー・マネージャーを構成する。

CSQJ164I

csect-name ログのアーカイブが遅延しました。使用可能なすべてのオフロード・タスクが使用中です

説明

使用可能なすべてのオフロード・タスクが使用中であるために、1つ以上のアクティブ・ログのオフロードが遅延した。

最大 31 個のオフロード・タスクが新しいアーカイブ・ログ・データ・セットを同時に書き込むことができる。MAXCNOFF パラメーター (CSQ6LOGP または SET LOG コマンドを使用して設定する) を使用してオフロード・タスクの数を調整できる。MAXCNOFF を指定して、使用可能な磁気テープ装置の数などのシステムの制約に一致するように IBM MQ ログのオフロードを調整する。

システム・アクション

処理を続行する。オフロード・タスクが使用できるようになると、オフロードは完了する。アクティブ・ログのオフロードが遅延しなくなったら、メッセージ [CSQJ168I](#) が発行される。

システム・プログラマーの応答

これはほとんどの場合、IBM MQ が突然に大量のフル・アクティブ・ログをアーカイブできるようになったことによる一時的な状態である (例えば、アーカイブに関する問題が解決された後など)。

それ以外の状況では、MAXCNOFF パラメーター設定を確認する。

アクティブ・ログとアーカイブ・ログの比率に合うように、アクティブ・ログの容量を増やすことを検討する。DEFINE LOG コマンドを使用して、アクティブ・ログの容量を追加できる。

CSQJ166E

アクティブ・ログ・コピー *n* の zHyperWrite 構成に矛盾があります

説明

アクティブ・ログの各コピー用のデータ・セットは、zHyperWrite で使用できるように一貫して構成する必要があります。

つまり、アクティブ・ログ・コピーを構成するすべてのデータ・セットを zHyperWrite 対応のボリューム上に配置するか、zHyperWrite 対応のボリューム上にデータ・セットを 1 つも配置しないかのいずれかにすることが必要です。

キュー・マネージャーは、ログ・コピー *n* を形成するデータ・セットの zHyperWrite 構成に矛盾があることを検出した。

システム・アクション

処理は続行するが、アクティブ・ログ・ボリュームの構成が矛盾しているため、ロギング・レートの不整合が見られる可能性がある。

システム・プログラマーの応答

アクティブ・ログ・ボリュームの構成を確認する。

▶ **V 9.4.0** zHyper 書き込みログ機能の状況は、キュー・マネージャーの開始時に表明されるため、機能に変更されると失効する可能性があります。

CSQJ167E

ZHYWRITE(YES) が指定されているが、アクティブ・ログが zHyperWrite 対応でない

説明

▶ **V 9.4.0** IBM MQ 9.3.5 より前では、システム・パラメーター ZHYWRITE は YES に設定されていましたが、アクティブ・ログ・コピーが zHyper 書き込み可能ボリューム上にないため、キュー・マネージャーは zHyper 書き込みを利用できません。

▶ **V 9.4.0** IBM MQ 9.3.5 以降、システム・パラメーター ZHYWRITE が YES に設定されていますが、キュー・マネージャーは、zHyper 書き込み可能ボリューム上にアクティブ・ログ・コピーがないことを検出しました。zHyper 書き込みログ機能の状況は、キュー・マネージャーの開始時に表明されるため、機能に変更されると失効する可能性があります。キュー・マネージャーは、zHyperWrite を有効にしてログ書き込みを発行します。アクティブ・ログ・コピーが zHyper 書き込み可能ボリューム上にあるかどうかに関係なく。詳しくは、[IBM MQ アクティブ・ログを使用した zHyper 書き込みの使用](#)を参照してください。

▶ **V 9.4.0** IBM MQ 9.4.0 以降では、キュー・マネージャーに ZHYLINK が設定されているために、ZHYWRITE が使用可能になっていたために、このメッセージが発行される可能性があります。

システム・アクション

zHyperWrite でのログ書き込みが有効化されずに処理が続行する。

▶ **V 9.4.0** IBM MQ 9.3.5 より前では、処理は続行されますが、zHyper 書き込みに対してログ書き込みは使用可能になりません。IBM MQ 9.3.5 以降、処理は続行され、zHyper 書き込みに対してログ書き込みが使用可能になります。

システム・プログラマーの応答

アクティブ・ログ・ボリュームと zHyperWrite 機能の構成を確認する。

CSQJ168I

csect-name ログ・アーカイブが遅延しなくなりました

説明

使用可能なオフロード・タスクの不足によるアクティブ・ログのオフロードの遅延が発生しなくなりました。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQJ169E

LAST CHECKPOINT NOT FOUND IN ACTIVE LOG COPY AND WITH STARTRBA=&, CHECKPOINT RBA=&.

説明

アクティブ・ログ切り替え処理中に、どのアクティブ・ログにも最後のチェックポイントが見つかりませんでした。これにより、再始動処理中に必要なリカバリー・ポイントを見つけるために使用できるアーカイブ・ログが不足している場合に、キュー・マネージャーがリカバリー不能状態のままになる可能性があります。

これは、チェックポイント処理が停止したか、タイマーに完了していない可能性があります。調査する必要があることを示している可能性があります。

システム・アクション

ログ切り替え処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを停止して再始動することにより、チェックポイント機能を再確立できる場合があります。チェックポイント機能が停止している場合、**STOP QMGR** コマンドはキュー・マネージャーを正常にシャットダウンできない可能性があります。これが発生した場合は、キュー・マネージャーの取り消しが必要になることがあります。これを行う前に、再始動 RBA 以降のログが使用可能であることを確認してください。再始動 RBA は、**DISPLAY USAGE** コマンドを使用して見つけることができます。

チェックポイント機能が停止したと思われる場合は、キュー・マネージャー・アドレス・スペースのダンプを取り、IBM サポートに連絡して、チェックポイント機能が停止した理由を理解するための支援を受ける。

チェックポイント機能が停止していないように見える場合、この状態の代替理由として、キュー・マネージャーのアクティブ・ログが現在のワークロードに対して小さすぎるために、1つのアクティブ・ログの有効範囲内でチェックポイント処理が完了していないことが考えられます。

CSQJ200I

csect-name ユーティリティの処理が正常に完了しました。

説明

ユーティリティが正常に完了した。

CSQJ201I

csect-name ユーティリティの処理は失敗しました。

説明

ユーティリティが、処理を正しく完了できなかった。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

このユーティリティによって作成された他のメッセージを調べ、適切な処置を判別する。

CSQJ202E

INSUFFICIENT STORAGE AVAILABLE TO CONTINUE

説明

使用可能なストレージがこれ以上ないため、ストレージの要求は失敗した。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

使用可能なストレージを増やしてから、ユーティリティを再実行する。

CSQJ203E

oper 操作が無効です。

説明

ユーザーが入力したユーティリティ制御ステートメント操作 (*oper*) が、無効である。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ204E

xxxx パラメーターが無効です。

説明

ユーザーが指定したユーティリティ制御ステートメント・パラメーター (xxxx) が、無効である。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ205E

xxxx パラメーターに引数がありません。

説明

xxxx に、引数を必要とするパラメーターの名前が含まれている。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

示されたパラメーターに引数を指定し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ206E

xxxx パラメーターは引数を必要としません。

説明

xxxx に含まれているパラメーター名の後に、誤って = 記号が付いている。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ207E

パラメーターは指定された操作と矛盾しています。

説明

ユーザーが指定したユーティリティ制御ステートメント・パラメーターは、指定されたユーティリティ操作と矛盾している。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ211E

SYSIN データ・セットの中に予期されないデータの終わりがあります。

説明

追加の制御ステートメントが予期されたが、見つからなかった。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ212E

BSDS 読み取りからエラーが戻されました。RPLERRCD=yy、DDNAME=ddd

説明

VSAM GET が発行されたが、ゼロ以外の戻りコードが戻された。yy には、VSAM によって戻されたエラー・コードが含まれています。ddd には、エラーを検出した BSDS の DD 名が含まれています。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

取るべき処置は、理由コードによって示されている。RPLERRCD の理由コードについては、[RPLERRCD](#) を参照。バックアップ・コピーを使用して BSDS を回復する必要がある場合がある。

CSQJ213E

BSDS 書き込みからエラーが戻されました。RPLERRCD=yy、DDNAME=ddd

説明

VSAM PUT が発行されたが、ゼロ以外の戻りコードが戻された。yy には、VSAM によって戻されたエラー・コードが含まれています。ddd には、エラーを検出した BSDS の DD 名が含まれています。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

取るべき処置は、理由コードによって示されている。RPLERRCD の理由コードについては、[RPLERRCD](#) を参照。バックアップ・コピーを使用して BSDS を回復する必要がある場合がある。

BSDS 変換ユーティリティ (CSQJUCNV) の実行中にこのエラーが発生した場合、重複キーを使ってレコードを保管しようとしたことがその理由であると RPLERRCD に示されているならば、ユーティリティの実行前に出力 BSDS が空であることを確認する。

CSQJ214E

指定された DSNAME はすでに BSDS 内にあります。DDNAME=ddd

説明

BSDS にすでに存在するデータ・セット名を指定して、NEWLOG 操作が試みられた。指定した DSNAME が、BSDS の活動レコードまたは保存レコードのいずれかに現在ある場合、その BSDS に項目は作成されない。ddd には対象の BSDS の DDname が入る。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ユーティリティを再実行するか、または BSDS から既存の DS 名を削除し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ215I

CSQJ215I *modname* ローカル時間帯の修正を行わずにタイム・スタンプがフォーマットされました。

説明

パラメーター TIME(RAW) がユーティリティ *modname* の呼び出しで指定された。可能な場合、出力内の日時としてフォーマットされるタイム・スタンプは、ローカル時間帯またはうるう秒の調整が実行されないため、ソース・システムのイベントの UTC 時刻になる。

この処理モードは、フォーマットされるログまたは BSDS が、時間帯の異なる、あるいは夏時間調整方式の異なるリモート・システム上で生成される場合に非常に有効である。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ユーティリティを再実行するか、または BSDS から既存の DS 名を削除し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ216E

BSDS 活動ログ・データ・セット・レコードがいっぱいです。DDNAME=ddd

説明

活動ログ・データ・セットの最大数は決まっている。最大数に達した後で、BSDS にそれ以上項目を挿入することはできない。ddd には対象の BSDS の DDname が入る。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ログ・マップ印刷ユーティリティを実行し、BSDS の現在の状況を判別する。BSDS の状況に応じて、その後の処置を決めることができる。

CSQJ217E

指定された DSNAME は BSDS の中にありません。DDNAME=ddd

説明

DELETE 操作で、BSDS からは検出できない DSNAME を指定している。ddd には対象の BSDS の DDname が入る。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ218E

指定されたボリュームは BSDS の中にありません。DDNAME=ddd

説明

DELETE 操作で、BSDS からは検出できない COPY1VOL または COPY2VOL 引数を指定している。ddd には対象の BSDS の DDname が入る。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ219E

OPEN ERROR, DDNAME=ddd

説明

csect-name が、ddd という名前のデータ・セットをオープンしようとしたとき、エラーが起こった。

このエラーは、さまざまな条件によって引き起こされる可能性がある。最も一般的な条件は、次のとおりである。

1. SYSPRINT、SYSIN、または SYSUT1 データ・セットの DDname は、ユーザーのジョブ制御言語 (JCL) で指定されていなかった。
2. キュー・マネージャーが現在活動状態である。
3. BSDS が、別のジョブにより、ユーザーの JCL に指定された後処理 (DISP) と矛盾する DISP を指定して割り振られている。
4. ddd に関連付けられているデータ・セットが、おそらく以前のエラーが原因ですでにオープンしている。

5. ユーザーが、*ddd* に関連するデータ・セットへのアクセスを許可されていない。
6. OPEN 操作の実行に使用できる仮想記憶域が不十分である。
7. カタログで、*ddd* に関連するデータ・セットの物理レコード・サイズが無効であることが示されている。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

処置は、OPEN エラーの原因となった条件によって異なる。以下に、上記に述べた条件に対応する適切な処置をリストしている。

1. 欠落しているデータ定義 (DD) ステートメントを指定して、ユーティリティを再実行する。詳しくは、[実行するプログラムの作成のセクション](#)を参照。
2. キュー・マネージャーが活動状態の間はログ・ユーティリティが実行できないので、キュー・マネージャーが非活動状態になるのを待って、ユーティリティを再度実行する。
3. 後処理の矛盾を訂正し、ユーティリティを再実行する。
4. *ddd* に関連するデータ・セットに対して、アクセス方式サービス・プログラム (IDCAMS) の VERIFY ジョブを実行する。ログ・ユーティリティ・ジョブを再実行する。
5. 許可問題の場合は、許可機能 (例えば、RACF) から別のメッセージが生成されるのが普通である。許可メッセージを調べ、適切な許可を入手してから、ユーティリティを再実行する。
6. 記憶域不足の場合、通常、z/OS とは別のエラーも起きている。使用可能なストレージを増やし、ユーティリティを再実行する。
7. 適切な物理レコード・サイズを使用して、データ・セットを割り振りし直す。

CSQJ220E

BSDS は作成モードです。マップするデータはありません。DDNAME=*ddd*

説明

ユーティリティは、BSDS が作成モードであり、マップするデータを格納できないことを検出した。*ddd* にはデータ・セットの DDname が入る。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ヌルでないデータ・セットを処理できるように、JCL を訂正する。

CSQJ221I

以前のエラーのために *oper* の操作は迂回されます。

説明

ユーティリティ処理中にエラーを検出した。これらのエラーにより、その後、*oper* がバイパスされた。

このメッセージは警告目的のみで、発生したエラー (複数の場合あり) を示すメッセージの後に表示される。このようなエラーは、現行の *oper* 操作に関連していないことがある。むしろ、ログ・ユーティリティ処理のもとでは、操作で重要なエラーが起これば、その操作およびその後の操作の制御ステートメントが、構文だけしか検査されなくなる。このメッセージに示された操作に関しては、BSDS 更新は行われぬ。

システム・アクション

ログ・ユーティリティは処理を続ける。しかし、この操作およびその後のすべての操作に関しては、BSDS は更新されず、ユーティリティは制御ステートメントの構文のみを検査する。

システム・プログラマーの応答

前のメッセージを調べ、このメッセージが出される原因となったエラーを訂正する。バイパスされたすべての操作に対するログ・ユーティリティ・ジョブを再実行する。

CSQJ222E

xxxx のパラメーター引数の指定が無効です。

説明

パラメーター xxxx が指定された。このパラメーターには、引数を使用できない。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントのパラメーター引数を訂正し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ223E

xxxx のパラメーター引数は許容できる最大長を超えています。

説明

xxxx は、最大許容長を超えた引数値を持つパラメーターの名前を示している。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントのパラメーター引数を訂正し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ224E

xxxx のパラメーター指定が多過ぎます。

説明

xxxx には、同じ制御ステートメントに 2 度以上指定されたパラメーターの名前が示されている。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

余分のパラメーターを取り除き、ユーティリティを再実行する。

CSQJ225I

oper 操作は正常に完了しました。

説明

メッセージに示された oper は、正常に完了したログ目録変更ユーティリティ操作の名前を識別している。

CSQJ226E

指定したボリュームはすでに BSDS に存在します。DDNAME=ddd

説明

指定されたボリュームは、現在、BSDS のアーカイブ・ログ・レコード内に存在しています。ddd は、対象の BSDS の DD 名を指定します。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントのパラメーター引数を訂正するか、指定されたボリュームを削除するかして、ユーティリティを再実行する。

CSQJ227E

BSDS に追加の保存項目のスペースがありません。DDNAME=ddd

説明

保存ボリュームの最大数を超過しており、指定されたコピー内のボリューム項目のためのスペースがなくなった。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

指定されたコピー番号の中の保存項目をいくつか削除し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ228E

csect-name LOG DEALLOCATION ERROR DSNAME=dsname, ERROR STATUS=eeeeiiii, SMS REASON
CODE=ssssssss

説明

データ・セットを動的に割り振り解除しようとしたときに、エラーが発生した。エラー状況は、z/OS 動的割り振りから戻されたエラーの理由コードである。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

このメッセージのエラー状況部分には、SVC99 要求ブロックからの 2 バイトのエラー・コード (eeee S99ERROR) と、その後 2 バイトの情報コード (iiii S99INFO) が含まれている。S99ERROR コードが SMS 割り振りエラー (「97xx」) を示す場合、ssssssss には、S99ERSN から取得される追加の SMS 理由コードの情報が含まれる。

これらのコードについては、「z/OS MVS Authorized Assembler Services Guide」の「[Interpreting DYNALLOC return codes](#)」トピックを参照してください。

CSQJ230E

ログのオフロードの初期設定処理が失敗しました。

説明

キュー・マネージャーの初期設定時に、オフロード機能はその初期設定処理を完了できなかった。

システム・アクション

始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

特定のエラーを記述する 1 つ以上のエラー・メッセージが、このメッセージの前に出されている。先行するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ231E

ログ・コマンドでの初期設定処理が失敗しました。

説明

キュー・マネージャーの初期設定時に、コマンド機能はその初期設定処理を完了できなかった。

システム・アクション

始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

特定のエラーを記述する 1 つ以上のエラー・メッセージが、このメッセージの前に出されている。該当するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ232E

出力データ・セット制御の初期設定処理が失敗しました。

説明

キュー・マネージャーの初期設定時に、出力データ・セット制御機能はその初期設定処理を完了できなかった。

システム・アクション

始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

特定のエラーを記述する1つ以上のエラー・メッセージが、このメッセージの前に出されている。先行するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ233E

保存ログ読み込みの初期設定処理が失敗しました。

説明

キュー・マネージャーの初期設定時に、保存ログ読み取り機能はその初期設定処理を完了できなかった。

システム・アクション

始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

特定のエラーを記述する1つ以上のエラー・メッセージが、このメッセージの前に出されている。該当するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ234E

保存ログ・コマンドの初期設定静止処理が失敗しました。

説明

キュー・マネージャーの初期設定時に、ARCHIVE LOG MODE(QUIESCE) コマンド処理をサポートする静止機能が、その初期設定処理を完了できなかった。

システム・アクション

始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

特定のエラーを記述する1つ以上のエラー・メッセージが、このメッセージの前に出されている。該当するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ235E

出力バッファの書き込み機能の処理は失敗しました。

説明

キュー・マネージャーの初期設定時に、出力バッファ書き込み機能はその初期設定処理を完了できなかった。

システム・アクション

始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

特定のエラーを記述する1つ以上のエラー・メッセージが、このメッセージの前に出されている。該当するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ236E

ブートストラップ・アクセスの終了処理は失敗しました。

説明

キュー・マネージャーの終了時に、BSDS アクセス機能はその終了処理を完了できなかった。

システム・アクション

終了処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

特定のエラーを記述する1つ以上のエラー・メッセージが、このメッセージの前に出されている。該当するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ238E

ログ・オフロードを終了できませんでした。

説明

キュー・マネージャーの終了時に、オフロード機能がその終了処理を完了できなかった。

システム・アクション

終了処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

特定のエラーを記述する1つ以上のエラー・メッセージが、このメッセージの前に出されている。該当するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ239E

ログ・コマンドの終了処理が失敗しました。

説明

キュー・マネージャーの終了時に、コマンド機能がその終了処理を完了できなかった。

システム・アクション

終了処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

特定のエラーを記述する1つ以上のエラー・メッセージが、このメッセージの前に出されている。該当するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ240E

出力データ・セット制御での終了処理が失敗しました。

説明

キュー・マネージャーの終了時に、出力データ・セット制御機能がその終了処理を完了できなかった。

システム・アクション

終了処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

特定のエラーを記述する1つ以上のエラー・メッセージが、このメッセージの前に出されている。該当するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ241E

保存ログ読み込みでの終了処理が失敗しました。

説明

キュー・マネージャーの終了時に、保存ログ読み取り機能がその終了処理を完了できなかった。

システム・アクション

終了処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

特定のエラーを記述する1つ以上のエラー・メッセージが、このメッセージの前に出されている。該当するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ242E

保存ログ・コマンドの静止機能が、終了に失敗しました。

説明

キュー・マネージャーの終了時に、ARCHIVE LOG MODE(QUIESCE) コマンド処理をサポートする静止機能が、その終了処理を完了できなかった。

システム・アクション

終了処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

特定のエラーを記述する1つ以上のエラー・メッセージが、このメッセージの前に出されている。該当するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ243E

出力バッファの書き込み機能が、終了に失敗しました。

説明

キュー・マネージャーの終了時に、出力バッファ書き込み機能がその終了処理を完了できなかった。

システム・アクション

終了処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

特定のエラーを記述する1つ以上のエラー・メッセージが、このメッセージの前に出されている。該当するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ244E

マクロ xxx がログの終了で失敗しました。RC=ccc

説明

終了時、示されたマクロから、エラーを示す戻りコードが戻された。

システム・アクション

終了処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

問題が解決しないようであれば、IBM サポートに連絡する。

CSQJ245D

条件再始動が RBA rrr での切り捨てを示しています。REPLY Y TO CONTINUE, N TO CANCEL

説明

使用している条件再始動制御レコードは、指定された RBA でログを切り捨てる必要があることを指示している。

システム・アクション

「Y」であれば、キュー・マネージャーの始動処理が続けられる。「N」であれば、始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

ログ目録変更ユーティリティ (CSQJU003) を実行して、条件再始動レコードを更新する。

CSQJ246D

条件再始動が RBA rrr でコールド・スタートを示しています。REPLY Y TO CONTINUE, N TO CANCEL

説明

使用している条件付き再始動制御レコードが、キュー・マネージャーを再始動する必要があること、およびこのメッセージで示された RBA でロギングを開始する必要があることを示している。

システム・アクション

「Y」であれば、キュー・マネージャーの始動処理が続けられる。「N」であれば、始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

ログ目録変更ユーティリティー (CSQJU003) を実行して、条件再始動レコードを更新する。

CSQJ247E

csect-name BSDS 保存ログ・レコードの処理中に I/O エラー。RC=*rc* 理由=*reason*

説明

BSDS レコードの処理中に、入出力エラーが発生した。*rc* は、入出力操作から受け取った戻りコードを示す。*reason* は、この操作から受け取った理由コードを示す。

戻りコード 4 は、IBM MQ が問題を検出したことを意味する。戻りコード 8 は、VSAM エラーを意味する。

システム・アクション

始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

戻りコード 4 の場合、問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡する。戻りコードが 8 の場合は、オフラインのアクセス方式サービス・ジョブを実行し、VSAM エラーの原因を判別する。

CSQJ250I

csect-name データ・セット *dsname* の共有オプションが (2 3) より小さいです。CF 構造体の回復はできません。

説明

キュー共有グループ環境での回復操作が許可されない、共有オプションが指定された活動ログ・データ・セットが検出された。すべての活動ログ・データ・セットは、少なくとも SHAREOPTIONS(2 3) でなければならない。

これは、キュー・マネージャー独自のログ・データ・セットが始動時にチェックされたとき、または別のキュー・マネージャーのログ・データ・セットにアクセスする必要がある RECOVER CFSTRUCT コマンドが出されたときに起きる可能性がある。

システム・アクション

RECOVER CFSTRUCT コマンドが出された結果である場合、コマンドは終了する。それ以外の場合、始動は継続されるが、CF 構造体の回復はできない。

システム・プログラマーの応答

CF 構造体の回復が必要な場合、アクセス方式サービス・プログラム ALTER 機能を使用して、データ・セットに対する SHAREOPTIONS を訂正する。

```
ALTER dsname.DATA SHAREOPTIONS(2 3)
```

その後で、データ・セットを持つキュー・マネージャーを再始動する。

CSQJ295D

条件再始動が LRSN *rrr* での切り捨てを示しています。REPLY Y TO CONTINUE, N TO CANCEL

説明

使用している条件再始動制御レコードは、指定された LRSN でログを切り捨てる必要があることを指示している。

システム・アクション

「Y」であれば、キュー・マネージャーの始動処理が続けられる。「N」であれば、始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

ログ目録変更ユーティリティー (CSQJU003) を実行して、条件再始動レコードを更新する。

CSQJ301E

`csect-name` オンライン・ブートストラップ・データ・セットの使用中にエラーが発生しました。(アクション・コード *a*)

説明

RECOVER BSDS コマンドまたは ARCHIVE LOG コマンドの処理中、BSDS に操作を行っているときに、エラーが発生した。この操作の種類は、次のように、*a* コードに示されている。

- 1
BSDS をオープンできない。
- 2
BSDS から必要なレコードを読み取ることができない。
- 3
BSDS に必要なレコードを書き込むことができない。
- 4
安定した BSDS の内容が正常に置換 BSDS にコピーされた。ただし、キュー・マネージャーは正常に二重 BSDS 操作をリストアできなかった。

システム・アクション

RECOVER BSDS コマンドの処理中にこのメッセージを受け取った場合は、キュー・マネージャーは単一 BSDS モードで続行する。ARCHIVE LOG コマンドの処理中にこのメッセージを受け取った場合は、BSDS 内の保存ログ・ヒストリー・レコードは、ARCHIVE LOG コマンドの出現を反映するように更新されることはない。ロギングおよびオフロード処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

RECOVER BSDS コマンドの処理中にこのメッセージを受け取った場合は、コマンドを再入力する前に、BSDS に対して回復処置を実行しなければならない。ARCHIVE LOG コマンドの処理中にこのメッセージを受け取った場合は、処置は必要ない。

CSQJ302E

ALLOCATION ERROR ON REPLACEMENT BSDS DSNAME=*dsname* ERROR STATUS=*eee*

説明

指定されたデータ・セットを動的に割り振ろうとしたとき、RECOVER BSDS コマンドでエラーが検出された。DSNAME は、データ・セット名である。エラー状況は、z/OS 動的割り振りから戻されたエラー・コードと情報コードである。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。キュー・マネージャーは単一の BSDS モードで続行する。

システム・プログラマーの応答

メッセージに含まれているエラー状況からエラーの原因を判別し、この状況を訂正する。その後、RECOVER BSDS コマンドを再入力する。

このメッセージのエラー状況部分には、SVC 要求ブロックからの 2 バイトのエラー・コード (S99ERROR) と 2 バイトの情報コード (S99INFO) が含まれている。

これらのコードについては、「*z/OS MVS Authorized Assembler Services Guide*」の「[Interpreting DYNALLOC return codes](#)」トピックを参照してください。

CSQJ303E

WRITE ERROR ON REPLACEMENT BSDS DSNAME=*dsname* ERROR STATUS=*eee*

説明

指定された BSDS に書き込みを行おうとしたとき、RECOVER BSDS コマンドでエラーが検出された。エラー状況には VSAM 戻りコードおよびフィードバック・コードが入る。これは 2 バイトのフィールドで、最初のバイトは 16 進数の戻りコード、2 番目のバイトは 16 進数のフィードバック・コードである。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。キュー・マネージャーは単一の BSDS モードで続行する。

システム・プログラマーの応答

オフラインのアクセス方式サービス・プログラム・ジョブを実行して、置換 BSDS を削除または名前変更し、同じ名前で新しい BSDS を定義する。RECOVER BSDS コマンドを再入力し、重複 BSDS モードを再確立する。

CSQJ304E

ERROR CLOSING REPLACEMENT BSDS DSNAME=*dsname* ERROR STATUS=*eee*

説明

指定された BSDS をクローズしようとしたとき、RECOVER BSDS コマンドでエラーが検出された。エラー状況には VSAM 戻りコードおよびフィードバック・コードが入る。これは 2 バイトのフィールドで、最初のバイトは 16 進数の戻りコード、2 番目のバイトは 16 進数のフィードバック・コードである。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。キュー・マネージャーは単一の BSDS モードで続行する。

システム・プログラマーの応答

オフラインのアクセス方式サービス・プログラム・ジョブを実行して、置換 BSDS を削除または名前変更し、同じ名前で新しい BSDS を定義する。RECOVER BSDS コマンドを再入力し、重複 BSDS モードを再確立する。

CSQJ305E

REPLACEMENT BSDS NOT EMPTY DSNAME=*dsname*

説明

RECOVER BSDS コマンドが実行されたが、置換 BSDS が空ではなかった。すなわち、データが含まれていた。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。キュー・マネージャーは単一の BSDS モードで続行する。

システム・プログラマーの応答

オフラインのアクセス方式サービス・プログラム・ジョブを実行して、エラーの BSDS を削除または名前変更し、同じ名前の新しい BSDS を定義する。RECOVER BSDS コマンドを再入力し、重複 BSDS モードを再確立する。

CSQJ306I

二重 BSDS モードはすでに設定されています。

説明

RECOVER BSDS コマンドが出されたが、キュー・マネージャーはすでに二重 BSDS モードであった。

システム・アクション

コマンドは無視される。

CSQJ307I

ログは単一 BSDS モードで初期設定されています。

説明

RECOVER BSDS コマンドが出されたが、キュー・マネージャーは単一 BSDS モードで初期設定されていた。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。キュー・マネージャーは単一の BSDS モードで続行する。

CSQJ308I

保存ログ・コマンドで、ログがオフロードされませんでした。保存はオフになっています。

説明

ARCHIVE LOG コマンドが出されたが、保存がオフになっている (つまり、OFFLOAD が CSQ6LOGP システム・パラメーターで「NO」に設定されている)。

システム・アクション

現在の活動ログ・データ・セットはオフロードではない。ただし、これは切り捨てられ、ロギングは次の活動ログ・データ・セットを使用して続行される。

CSQJ309I

保存ログの静止コマンドが、WAIT(YES) で、最大 xxx 秒として開始されました。

説明

ARCHIVE LOG コマンドが、MODE(QUIESCE) および WAIT(YES) オプション付きでキュー・マネージャーに受け入れられた。静止処理が開始された。

WAIT(YES) は、静止処理がユーザーにとって同期的であることを意味する。つまり、ユーザーは追加のコマンドを入力できるが、コマンドは静止処理が終了するまで処理されない。

システム・アクション

メッセージに指定された時間枠内に、キュー・マネージャーは IBM MQ 資源に対するすべての更新を停止しようとする。キュー・マネージャーを使用するユーザーおよびジョブは、それ以上の更新活動がブロックされる前に、整合性のポイント (コミット点) にまで進むことが許可される。ユーザーとジョブは、オフロード処理の開始に続くキュー・マネージャーによって解放されるまで、使用停止となり中断される。最長の指定時間の前に、キュー・マネージャーがすべてのユーザーに対して有効に更新をブロックできる場合は、オフロードは即時に開始され、通常処理が再開される。

このメッセージの後に、メッセージ CSQJ311I または CSQJ317I が出力される。

CSQJ310I

保存ログの静止コマンドが、WAIT(NO) で、最大 xxx 秒として開始されました。

説明

ARCHIVE LOG コマンドが、MODE(QUIESCE) および WAIT(NO) オプション付きでキュー・マネージャーに受け入れられた。静止処理が開始された。

WAIT(NO) は、静止処理がユーザーにとって非同期的であることを意味する。つまり、静止処理の開始と同時にコントロールが呼び出し側へ戻される。したがって、キュー・マネージャーは、静止処理の実行中は、すべての新規コマンドを受け入れて処理する。

システム・アクション

メッセージに指定された時間枠内に、キュー・マネージャーは IBM MQ 資源に対するすべての更新を停止しようとする。キュー・マネージャーを使用するユーザーおよびジョブは、それ以上の更新活動がブロックされる前に、整合性のポイント (コミット点) にまで進むことが許可される。ユーザーとジョブは、オフロード処理の開始に続くキュー・マネージャーによって解放されるまで、使用停止となり中断される。最長の指定時間の前に、キュー・マネージャーがすべてのユーザーに対して有効に更新をブロックできる場合は、オフロードは即時に開始され、通常処理が再開される。

このメッセージの後に、メッセージ CSQJ311I または CSQJ317I が出力される。

CSQJ311I

csect-name LOG ARCHIVE (OFFLOAD) TASK INITIATED

説明

ユーザー開始の ARCHIVE LOG コマンドが、キュー・マネージャーによって受け入れられた。活動ログ・データ・セットを保存 (オフロード) するためのタスクが開始された。

システム・アクション

現行の活動ログ・データ・セットは切り捨てられ、次に使用可能な活動ログ・データ・セットに切り替えられる。開始されたタスクは非同期的に活動ログ・データ・セットを保存し、キュー・マネージャーは処理を継続する。

ARCHIVE LOG コマンドで MODE (QUIESCE) オプションが使用されていた場合は、このメッセージの後に、CSQJ312I メッセージが出される。

CSQJ312I

保存ログの静止が終了しました。更新活動が再開されました。

説明

MODE(QUIESCE) オプションが指定された ARCHIVE LOG コマンドが、キュー・マネージャーによって処理された。MODE(QUIESCE) 処理の一部として、IBM MQ 資源に対する新規の更新活動をすべて停止する試みが行われていた。このメッセージは、静止処理が終了したこと、および静止期間に阻止されていたすべてのユーザーおよびジョブに対する通常の活動が再開されたことを示している。

CSQJ311I または CSQJ317I メッセージの後に、このメッセージが出される。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、静止期間に阻止されていたすべてのユーザーおよびジョブに対する通常の活動すべてを再開した。

CSQJ314E

'kwd1' を指定するには、'kwd2' も指定する必要があります。

説明

kwd1 キーワードを指定したコマンドが入力された。ただし、このキーワードを使用するには、kwd2 キーワードも使用する必要がある。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

CSQJ315I

停止 QMGR モード(強制)はすでに進行中です。

説明

STOP QMGR MODE(FORCE) コマンドがすでに進行中であるときに、ARCHIVE LOG コマンドを実行する試みがなされた。

システム・アクション

ARCHIVE LOG コマンドのコマンド処理は終了する。STOP QMGR MODE(FORCE) 処理が継続される。

CSQJ316I

システムの静止はすでに進行しています。

説明

MODE(QUIESCE) オプションが指定された ARCHIVE LOG コマンド、または SUSPEND QMGR LOG コマンドが、システム静止の進行中に出された。システム静止は、別の ARCHIVE LOG MODE(QUIESCE) コマンド、または STOP QMGR MODE(QUIESCE) コマンドによる処理の結果として発生したと思われる。

システム・アクション

コマンド処理は終了する。現在進行中のシステム静止が継続される。

CSQJ317I

静止期間が *time* に未解決の URS *nn* で満了しました。保存ログの処理は終了しました。

説明

ARCHIVE LOG MODE(QUIESCE) コマンドがキュー・マネージャーによって処理された。しかし、キュー・マネージャーは、ユーザーが指定した静止時間間隔内に、すべての更新活動を静止することができなかった。

システム・アクション

これは通知メッセージにすぎない。キュー・マネージャーは、静止期間中に *nn* 個の回復単位が整合性ポイントに達しなかったと判断したので、その関連更新処理の続行を静止できなかった。

この結果、ARCHIVE LOG 処理は終了する。現行の活動ログ・データ・セットは切り捨てられず、次に使用可能な活動ログ・データ・セットに切り替えられることはない。ログ保存(オフロード)タスクは作成されない。静止時に中断されていたすべてのジョブおよびユーザーが再開され、IBM MQ 資源に対する通常の更新活動が開始される。

このメッセージの後に、メッセージ CSQJ312I が出される。

システム・プログラマーの応答

未解決(非静止)の回復単位が重要な作業を表すものであるかどうかを判断しなければならない。

システムのユーザーの中で、IBM MQ 資源を変更しているユーザーごとに1つの回復単位が存在する。回復単位は、内部処理のためにキュー・マネージャー自身によって作成されることもある。

MODE(QUIESCE) オプションの目的は、すべての回復単位に整合性のポイント(コミット点)に到達させることにあるので、活動ログ・データ・セットが切り捨てられてオフロードにされる前に、すべての未解決のキューに入れられていないジョブとユーザーを、DISPLAY THREAD および z/OS コマンド DISPLAY ACTIVE,LIST を使って判別する。

資源を保持している(整合性ポイントに達している)ユーザーまたはジョブと、ロックを必要としている(したがって整合性ポイントに達することができない)ユーザーまたはジョブとの間でのロック競合のために、回復単位が未解決となっていることがあるので注意する。

MODE(QUIESCE) オプションを指定した ARCHIVE LOG コマンドの再実行を要求する前に、次のいずれかの処置をとる。

- スレッドが割り振り解除されるまで待つ。
- キュー・マネージャーの使用率が低くなるまで待つ。
- 妨害しているスレッドを強制的に終了させる。
- TIME オプションを使用して、システム・パラメーターに指定されている最長静止期間をオーバーライドして長くする。
- すべての回復単位が活動ログ内の整合性ポイントに達することが、もはや重要でなくなった場合は、MODE(QUIESCE) オプションを指定せずに ARCHIVE LOG コマンドを実行する。

注: ARCHIVE LOG コマンドを MODE(QUIESCE) オプションを指定せずに使用することに決めた場合、活動ログ・データ・セットは、キュー・マネージャーの静止活動とは関係なく切り捨てられる。この結果の保存ログ・データ・セットを回復に使用する場合、一部の回復単位は、キュー・マネージャーの初期設定時に、転送中、バックアウト中、コミット中、または未確定となる場合がある。

すべての回復単位が整合点に到達する前に静止期間が満了してしまうことが問題の場合は、CSQ6ARVP システム・パラメーターの QUIESCE 値を調整することが必要な場合もある。詳細については、[CSQ6ARVP の使用](#)を参照してください。

CSQJ318I

保存ログ・コマンドはすでに進行中です。

説明

ARCHIVE LOG コマンドがすでに進行中であるときに、別の ARCHIVE LOG コマンドを実行しようとした。

システム・アクション

コマンド処理は終了する。現在進行中の ARCHIVE LOG コマンドの処理が続行される。

CSQJ319I

csect-name 現行の活動ログ・データ・セットは、使用できる最後の活動ログ・データ・セットです。処理は終了します。

説明

現行の活動ログが最後の使用可能な活動ログ・データ・セットであるために、ARCHIVE LOG コマンドが拒否された。これらの条件があるときにコマンドを処理すると、キュー・マネージャーはその使用可能な活動ログ資源を使い果たし、即時に処理を停止する原因となる。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

この状態が正されない場合、使用可能な活動ログ・データ・スペースが危機的に低いレベルに達すると、キュー・マネージャーは CSQJ110E メッセージを出す (まだ出されていない場合)。使用可能な活動ログ・データ・スペースを使い果たすと、最終的にメッセージ CSQJ111A が出され、活動ログ・スペースが使用可能になるまで処理は停止する。

システム・プログラマーの応答

この状態を解消するには、他の待機オフロード・タスクを完了するためのステップをとらなければならない。オフロード処理を完了させることによって、別の活動ログが使用可能 (再使用可能) にされると、現行の活動ログのコマンド処理を行うことができる。

表示要求を実行し、ログのオフロード処理に関連する未解決の要求を判別する。要求を満たすのに必要な処置を取り、オフロード処理を続行できるようにする。

オフロードが正常終了しない、または起動できない場合は、オフロード処理エラーの原因となった問題を訂正するか、十分な活動ログ・データ・セットがあったかどうかを検討する。必要であれば、DEFINE LOG コマンドを使用して、動的にログ・データ・セットを追加できる。

活動ログ・データのスペース不足の原因としては、次のことが考えられる。

- 過度のロギング。例えば、持続メッセージ活動が多い場合。
- オフロードの遅延または低速オフロード。例えば、保存ボリュームのマウントが失敗した、オフロード・メッセージへの応答が不適切である、または装置スピードが遅い場合などに発生する。
- ARCHIVE LOG コマンドの過度の使用。コマンドのそれぞれの呼び出しによって、キュー・マネージャーは新規の活動ログ・データ・セットに切り替えられる。結果としてのオフロードがタイミングよく処理されないと、過度の使用により、使用可能な活動ログ・データ・スペースが使い尽くされてしまう場合がある。
- オフロードの失敗。
- 活動ログ・スペースの不足。

CSQJ320E

csect-name 内部エラーのため、ログの切り捨て要求を処理できません。(エラー・データ=ddd)

説明

ARCHIVE LOG コマンドの処理中に、ログ・バッファ出力ルーチンに対して、ログ・バッファを強制的に書き出し、活動ログを切り捨て、次に使用可能な活動ログ・データ・セットに切り替えるように求める、内部要求が出された。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

これは、キュー・マネージャーにより検出された内部エラーである。このエラーは、ログ・バッファの書き込みプロセス・コンポーネントの無関係のエラー (CSQJWxxx)、STOP QMGR MODE(FORCE) コマンド、または異常終了が原因の可能性もある。このメッセージの前のメッセージを参照。

CSQJ321E

内部エラーのため、保存ログの静止を継続できません。保存ログの処理は終了しました。

説明

MODE(QUIESCE) オプションが指定された ARCHIVE LOG コマンドが、キュー・マネージャーによって処理された。MODE(QUIESCE) 処理の一部として、IBM MQ 資源に対する新規の更新活動をすべて停止する試みが行われていた。この処理中に、内部エラーが発生した。

システム・アクション

ARCHIVE LOG MODE(QUIESCE) 処理は終了する。このメッセージの後で、MODE(QUIESCE) 処理によって静止されていたすべてのユーザーおよびジョブが再開されてから、メッセージ CSQJ312I が出力される。

システム・プログラマーの応答

これは、キュー・マネージャーにより検出された内部エラーである。ARCHIVE LOG MODE(QUIESCE) コマンドを再試行してみる。エラーが解消されない場合は、MODE(QUIESCE) オプションなしの ARCHIVE LOG コマンドを使用して、活動ログ・データ・セットを切り替えることができる。

CSQJ322I

DISPLAY パラメーター・タイプ・レポート ...

説明

このメッセージは、DISPLAY および SET *parm-type* コマンド (*parm-type* は SYSTEM、LOG、または ARCHIVE) への応答の一部である。これは、対応するシステム・パラメーターに関する情報を提供する。以下に例を示します。

```
Parameter  Initial value  SET value
LOGLOAD    500000          400000
CMDUSER    CSQ0PR
EXCLMSG    X500,X501,X528,X208,
           X519,X599
End of parm-type report
```

ここで、

LOGLOAD

CSQ6SYSP で設定され、SET SYSTEM LOGLOAD コマンドを使って変更された。

CMDUSER

CSQ6SYSP で設定され、まだ変更されていない。

EXCLMSG

CSQ6SYSP でデフォルトに設定され、SET SYSTEM EXCLMSG コマンドを使って既に変更されている。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQJ325I

ARCHIVE 磁気テープ装置レポート ...

説明

このメッセージは、DISPLAY および SET ARCHIVE コマンドへの応答の一部である。これは、保存ログに使用される磁気テープ装置についての以下のような情報を提供する。

```
Addr St CorrelID VolSer DSName  addr st correlid volser dsname| End of tape unit report
```

ここで、

addr

保存ログを読み取るように割り振られた磁気テープ装置の物理アドレス。

st

磁気テープ装置の状況。

- B** 使用中。保存ログ・データ・セットを活動状態で処理中。
- P** 事前取り付け。活動状態で、事前取り付けのために割り振られている。
- A** 使用可能。非活動状態で、作業のために待機中。
- *** 不明。

correlid

処理されている磁気テープのユーザーに関連付けられた相関 ID。現行ユーザーがない場合は「*****」。

volser

マウントされたテープのボリューム通し番号。

dsname

処理されている、または最後に処理された磁気テープ・ボリューム上のデータ・セット名。

磁気テープ装置が割り振られない場合、リストは以下の記述によって置き換えられる。

No tape archive reading activity

システム・アクション

処理を続行する。

CSQJ330I

ARCHIVE LOG VOLUMES が接続 ID xxxx、相関 ID yyyyyy に必要です:

説明

このメッセージは、与えられている接続 ID のための指定された相関 ID に必要な保存ログ・ボリュームの名前をリストしている。保存ログ・ボリュームは、個々の行に最大 6 つリストされる。このメッセージは、その相関 ID の最初の保存ログ・テープ取り付け時の保存読み取りプロセスによって自動的に生成される。接続 ID は、スレッドを確立するために使用される接続名を表す ID である。相関 ID は、指定されたスレッドに関連した ID (ジョブ名など) である。

'*' という接頭部を持つボリューム名は、保存ログ・ボリューム上のデータが保存ログ・データ・セットによってもマップされることを意味する。可能であれば活動ログからデータが読み取られるため、ボリューム自体は読み取りプロセスに必要とされない。

以下は、メッセージ CSJ330I によって生成された出力の例である。

```
CSQJ330I: ARCHIVE LOG VOLUMES required for connection-ID xxxx,  
correlation-ID yyyyyy: volume1, volume2, volume3, volume4, volume5, volume6 End of ARCHIVE  
LOG VOLUMES report
```

システム・アクション

処理を続行する。

CSQJ334E

パラメーター値は 'kwd' では受け入れられません。

説明

指定されたパラメーター値は、指定されたキーワードでは受け入れられない値である。または、他のキーワードに設定された値と互換性がない。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

CSQJ335E

無効なコマンド構文です。

説明

コマンドで、キーワードが指定されなかったか、または受諾不能なキーワードの組み合わせが指定された。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

CSQJ337I

parm-type パラメーター・セット

説明

SET コマンドは正常に完了し、指定の *parm-type* (SYSTEM、LOG、または ARCHIVE) にシステム・パラメーター値を設定する。

CSQJ364I

IMS XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname* のブリッジ機能が中断されました。

説明

これは、*gname* および *mname* で識別されるパートナー IMS システムに対する IBM MQ-IMS ブリッジ機能が中断された場合に、DISPLAY SYSTEM コマンドに対する応答の一部として発行されます。

システム・プログラマーの応答

IBM MQ-IMS ブリッジを再開する準備ができたなら、RESUME QMGR FACILITY(IMSBRIDGE) コマンドを使用する。

CSQJ365I

Db2 接続が中断されています。

説明

これは、Db2 への接続が中断された場合に、DISPLAY SYSTEM コマンドへの応答の一部として発行されます。

システム・プログラマーの応答

Db2 への接続を再開する準備ができたなら、RESUME QMGR FACILITY(Db2) コマンドを使用する。

CSQJ366I

ロギングはすでに中断しています。

説明

SUSPEND QMGR LOG コマンドが出されたが、前のコマンドによってロギングはすでに中断されていた。

システム・アクション

コマンドは無視される。

CSQJ367I

キュー・マネージャーが停止中です。

説明

SUSPEND QMGR LOG が出されたが、キュー・マネージャーは停止している。

システム・アクション

コマンドは無視される。

CSQJ368I

ロギングは中断していません。

説明

RESUME QMGR LOG コマンドが出されたが、ロギングは中断していない。

システム・アクション

コマンドは無視される。

CSQJ369E

csect-name ロギングの中断中に障害が発生しました。

説明

SUSPEND QMGR LOG コマンドが出されたが、それは異常終了していた。

システム・アクション

このコマンドは無視され、ロギングは中断されない。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查し、コマンドを再発行する。それでも異常終了する場合には、『問題判別』の項にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

CSQJ370I

LOG 状況レポート ...

説明

このメッセージは、DISPLAY および SET LOG コマンドへの応答の一部である。これは、以下のようなログ・データ・セットの状況に関する情報を提供する。

```
Copy %Full zHyperWrite DSName
1    k    p          dsname
2    k    p          dsname
Restarted at date time using RBA=sss
Latest RBA=rrr
Offload task is xxx
Full logs to offload - m of n
```

```
Copy %Full zHyperWrite Encrypted DSName
1    k    p          e          dsname
2    k    p          e          dsname
Restarted at date time using RBA=sss
Latest RBA=rrr
Offload task is xxx
Full logs to offload - m of n
```

ここで、

1, 2

現在の活動ログのコピー 1 およびコピー 2 のデータ・セットについての情報。

k

使用されたアクティブ・ログ・データ・セットの割合。

p

このデータ・セットが zHyperWrite 対応かどうかを示す。

NO

このログ・データ・セットは zHyperWrite に対応していない。

CAPABLE

このログ・データ・セットは zHyperWrite 対応である。ZHYWRITE システム・パラメーターが YES に設定されている場合、zHyperWrite が有効な状態でログ書き込みが行われます。

▶ V9.4.0 YES

このデータ・セットへのすべての書き込みは、zHyperWrite を使用可能にして実行されます。

▶ V9.4.0 IBM MQ 9.3.5 より前:

- ログが可能で、値が ZHYWRITE (YES) または ZHYWRITE (NO) に設定されている場合、*p* は値 CAPABLE を表示します。

- ログが使用できず、値が ZHYWRITE (YES) または ZHYWRITE (NO) に設定されている場合、*p* は値 NO を表示します。

V9.4.0 IBM MQ 9.3.5

- ログが可能で、値が ZHYWRITE (YES) に設定されている場合、*p* は値 YES を示します。
- ログが機能せず、値が ZHYWRITE (YES) に設定されている場合、*p* は値 YES を示します。
- 値が ZHYWRITE (NO) に設定されている場合、*p* の値は、IBM MQ 9.3.5 より前と同じようにログの機能を反映します。

e

データ・セットが暗号化されているかどうかを示す。

NO

このデータ・セットは暗号化されていない。

YES

このデータ・セットは暗号化されている。

dsname

アクティブ・ログ・データ・セットのデータ・セット名。コピーが現在活動状態でない場合は、Inactive と表示される。

date time

キュー・マネージャーが開始された時刻。

sss

キュー・マネージャーの開始時にロギングが開始された RBA。

rrr

最も新しく書き込まれたログ・レコードの RBA。ロギングが中断すると、この行は以下によって置き換えられる。

Logging suspended at RBA=rrr

xxx

オフロード・タスクの状況。これは以下のいずれかになる。

BUSY, allocating archive data set

磁気テープマウント要求が保留状態であることを示す。

BUSY, copying BSDS

BSDS データ・セットをコピー中である。

BUSY, copying active log

活動ログ・データ・セットをコピー中である。

BUSY

その他の処理中。

AVAILABLE

作業のために待機中。

m, n

まだ保存されていない完全な活動ログ・データ・セットの数と、活動ログ・データ・セットの合計数。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQJ372I

qmgr-name へのロギングが RBA=rrr で中断しました。

説明

これは SUSPEND QMGR LOG コマンドが正常に終了した場合に発行される。

また、他のコマンドに対しても、ロギングが中断されている場合、ロギングの中断中はコマンドが処理できないことを示すために発行される。

システム・アクション

指定されたキュー・マネージャーについて、すべてのログ更新活動が中断される。*rrr* は、最後に書き込まれたログ・レコードの RBA である。

SUSPEND QMGR LOG 以外のコマンドの場合、コマンドが無視される。

システム・プログラマーの応答

ロギング再開が可能である場合は、RESUME QMGR LOG コマンドを使用する。

CSQJ373I

qmgr-name のロギングが再開しました。

説明

RESUME QMGR LOG コマンドは正常に完了した。

システム・アクション

指定されたキュー・マネージャーに対するすべてのログ更新活動は再開される。

CSQJ401E

レコードが見つかりません - *rrr*

説明

BSDS から *rrrr* レコードを読み取ろうとした。しかし、読み取りルーチン (CSQJU01B) がそのレコードを見つけることができなかった。

これは、必ずしもエラーとは限らない。例えば、CSQJU003 CRESTART をこれまで使用しなかった場合は、CRCR レコードは存在しない。したがって、RESTART CONTROL レコードに対して CSQJU004 からこのメッセージを受ける。

システム・アクション

ユーティリティー処理は続行される。

CSQJ404E

kwd は *oper* 操作には許可されていません。

説明

oper 操作中に、無効なキーワードが使用された。

システム・アクション

現行のユーティリティー処理は終了する。

CSQJ405E

キーワード *kwd1* および *kwd2* は同時に指定できません。

説明

kwd1 と *kwd2* を、同じ制御ステートメントに指定することはできない。

システム・アクション

現行のユーティリティー処理は終了する。

CSQJ406E

キーワード *kwd1* または *kwd2* のどちらかを必ず指定してください。

説明

必須キーワードが、制御ステートメントに指定されていない。制御ステートメント・タイプでは、*kwd1* または *kwd2* のいずれかを使用する。

システム・アクション

現行のユーティリティー処理は終了する。

CSQJ407E

有効なチェックポイント RBA が検出できません。

説明

資源マネージャーの状況表およびチェックポイント・キューにより検索を完了した後で、指定された範囲に有効なチェックポイント RBA が見つからなかった。

システム・アクション

現行のユーティリティ処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

BSDS には、チェックポイント範囲の STARTRBA ログおよび ENDRBA ログなど、最後の 100 チェックポイントが記録された。ユーティリティは、範囲内の有効なチェックポイントを見つけようとする。この場合、ユーティリティは、有効なチェックポイントの検出に失敗した。

ログ・マップ印刷ユーティリティ (CSQJU004) を使用して、有効な RBA 範囲を判別し、適切な RBA 仕様のジョブを再実行する。

CSQJ408I

CHECKPOINT RBA FOUND, RBA=*rba*, TIME=*date time*

説明

資源マネージャーの状況表およびチェックポイント・キューにより検索を完了した後で、*rba* が、指定された範囲の最新チェックポイント RBA になり、*date time* がチェックポイント時刻になった。

システム・アクション

ユーティリティ処理は続行される。

CSQJ409E

レコードの読み取り処理中の入出力エラー - *yyy*

説明

レコードの読み取り時に、入出力エラーが発生した。*yyy* は、問題のレコードを示している。

システム・アクション

現行のユーティリティ処理は終了する。このメッセージに伴って、メッセージ CSQJ212E が出される。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQJ212E で与えられるエラー状況情報に基づいて、エラーの原因を判別する。

CSQJ410E

レコードの書き込み処理中の入出力エラー - *yyy*

説明

レコードの書き込み時に、入出力エラーが発生した。*yyy* は、問題のレコードを示している。

システム・アクション

現行のユーティリティ処理は終了する。このメッセージに伴って、メッセージ CSQJ213E が出される。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQJ213E で与えられるエラー状況情報に基づいて、エラーの原因を判別する。

CSQJ411I

CRESTART CREATE FOR CRCRID=*yyyy*, DDNAME=*ddd*

説明

CRESTART CREATE 要求が完了した。*yyyy* は、再始動制御レコードの 16 進数 ID であり、*ddd* は、要求に関連付けられた BSDS データ・セット (SYSUT1 または SYSUT2) である。

システム・アクション

Current[®] ユーティリティーの処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

今後の参照では、レコード ID に注意する。

CSQJ412E

再始動制御レコードが BSDS で検出できません。

説明

CRESTART CANCEL キーワードが指定されたが、BSDS データ・セットに条件再始動制御レコードが存在しない。

システム・アクション

現行のユーティリティー処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

CANCEL を意図していた場合は、必要なし。それ以外の場合は、制御ステートメントを訂正し、ユーティリティーを再実行する。

CSQJ413E

指定されたログ有効範囲またはチェックポイントが無効です。

説明

STARTRBA および ENDRBA キーワードによって指定された値が無効である。

システム・アクション

現行のユーティリティー処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

有効なログ範囲値を指定し、もう一方のログ範囲値として指定した値、またはそのデフォルト値と対応するようにする。STARTRBA は、ENDRBA 以下でなければならない。

CSQJ414I

この再始動制御レコードによりコールド・スタートになります。フォワードおよびバックアウトは NO に設定されます。

説明

STARTRBA と ENDRBA は等しい。この再始動制御レコードが再始動中に使用されると、コールド・スタートが発生する。転送またはバックアウト処理は実行されない。

システム・アクション

CRESTART 処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーのコールド・スタートを実行する必要があるときは、追加処置は必要ない。コールド・スタートを実行する必要があるときは、CRESTART を出し直した上で、現在の再始動制御レコードを CANCEL するか、あるいは新しい再始動制御レコードを CREATE してください。

CSQJ415E

ENDRBA=*rba* は無効です。4K の倍数である必要があります。

説明

ENDRBA に指定された値 *rba* が 4K の倍数ではない。

システム・アクション

CRESTART 処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

CRESTART ステートメントの ENDRBA 値を訂正して、ユーティリティーを再実行する。

CSQJ416I

警告 - BSDS ユーティリティ・タイム・スタンプの不一致が検出されました。処理は続行します

説明

ログ目録変更の更新の結果、SYSUT1 BSDS と SYSUT2 BSDS のタイム・スタンプが等しくないことがわかった。この不一致は、BSDS の不一致の可能性を意味する。

システム・アクション

現行のユーティリティの処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

SYSUT1 BSDS および SYSUT2 BSDS に対して、ログ・マップ印刷ユーティリティを実行する。それぞれの BSDS が現行のものかどうかを判別する。それぞれの BSDS が現行のものである場合は、この警告を無視してよい。いずれかの BSDS が現行のものでない場合は、使われなくなったデータ・セットを削除し、置換データ・セットを定義してから、現行の BSDS を置換データ・セットにコピーする。

CSQJ417E

必須の xxxx パラメーターが *oper* 操作について欠落しています。

説明

ログ・ユーティリティ操作に必要なパラメーター xxxx が、ログ・ユーティリティ制御ステートメントから抜けている。試みられた操作は、*oper* である。

システム・アクション

ログ・ユーティリティ *oper* 操作は、その機能を実行しない。その後のすべてのログ・ユーティリティ制御ステートメントは処理される。ユーティリティからは、ゼロ以外の戻りコードが出される。

システム・プログラマーの応答

指定された操作に関連する制御ステートメントに、抜けているパラメーターを追加し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ418I

BSDS ログ目録から、再使用できない活動ログを削除しました。STARTRBA=sss ENDRBA=ttt

説明

ログ目録変更ユーティリティ DELETE ステートメントの DSNAME パラメーターに指定されたデータ・セット名が、再使用不可の活動ログであった。

システム・アクション

ログ目録変更ユーティリティ処理が続行される。戻りコード 4 で終了する。

システム・プログラマーの応答

再使用不可の活動ログを削除したい場合は、追加処置は必要ない。削除したくない場合は、この警告メッセージに指定された RBA 値で NEWLOG ステートメントを使用して、削除されたログを再作成する。

CSQJ421I

CRESTART CANCEL FOR CRCRID=yyyy, DDNAME=ddd

説明

CRESTART CANCEL 要求が完了した。yyyy は、再始動制御レコードの 16 進数 ID であり、ddd は、要求に関連付けられた BSDS データ・セット (SYSUT1 または SYSUT2) である。

システム・アクション

現行のユーティリティの処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

今後の参照では、レコード ID に注意する。

CSQJ425E

xxxx パラメーター (YYYYDDHHMMSST) の値または形式が無効です。

説明

xxxx パラメーターに、日付および時刻として正しくない値または正しくない形式が含まれている。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ426E

ENDTIME 値を STARTIME の値より小さくすることはできません。

説明

STARTIME および ENDTIME パラメーターは、時間の範囲を指定する。そのため、ENDTIME 値は、STARTIME 値に等しいか、それ以上でなければならない。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ427I

キューにチェックポイント・レコードを追加しました。

説明

指定したチェックポイント・レコードは、BSDS 内のチェックポイント・キューに追加された。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQJ428I

キューからチェックポイント・レコードを削除しました。STARTRBA=ssss ENDRBA=ttt

説明

指定されたチェックポイント・レコードは、BSDS 内のチェックポイント・キューから削除されています。sss および ttt は、削除されたチェックポイント・レコードに示されている RBA 範囲でした。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQJ429E

RBA 範囲が既存チェックポイント・レコードの RBA 範囲と矛盾します。

説明

新しいチェックポイント・レコードに対して指定した RBA 範囲が存在する、または BSDS のチェックポイント・キューにある既存の RBA 範囲と重複する。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

SYSUT1 BSDS および SYSUT2 BSDS に対して、ログ・マップ印刷ユーティリティを実行する。正しい RBA 範囲を判別し、STARTRBA および ENDRBA パラメーターを訂正し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ430E

指定された項目を最低位の既存項目に上書きしないで追加することはできません。

説明

新しいチェックポイント・レコードに対して指定した RBA 範囲が、既存の最小の項目よりも小さい。BSDS 内のチェックポイント・キューが、現在満杯であり、最小の項目をオーバーレイしないと新しい項目を追加できない。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

SYSUT1 BSDS および SYSUT2 BSDS に対して、ログ・マップ印刷ユーティリティを実行する。最小の既存の項目を判別し、STARTRBA および ENDRBA パラメーターを変更するか、最小の既存の項目を削除して新しい低位のチェックポイント項目を追加する。次に、ユーティリティを再実行する。

CSQJ431E

チェックポイント・キューに STARTRBA の指定がありません。

説明

指定した STARTRBA は、BSDS のチェックポイント・キュー内で検出できなかった。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

SYSUT1 BSDS および SYSUT2 BSDS に対して、ログ・マップ印刷ユーティリティを実行する。正しい STARTRBA 値を判別し、STARTRBA パラメーターを訂正して、ユーティリティを再実行する。

CSQJ432E

kwd 値の末尾は 'xxx' でなければなりません。

説明

指定された *kwd* の値は無効である。末尾は 'xxx' でなければならない。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ440I

csect-name IBM MQ for z/OS バージョン

説明

このメッセージは、ユーティリティ・プログラムによって出される報告書のヘッダーの一部として出される。

CSQJ443I

csect-name ログ目録変更ユーティリティ - *date time*

説明

このメッセージは、ユーティリティ・プログラムによって出される報告書のヘッダーとして出される。

CSQJ444I

csect-name ログ・マップ印刷ユーティリティ - *date time*

説明

このメッセージは、ユーティリティ・プログラムによって出される報告書のヘッダーとして出される。

CSQJ445I

csect-name BSDS 変換ユーティリティ - *date time*

説明

このメッセージは、ユーティリティー・プログラムによって出される報告書のヘッダーとして出される。

CSQJ451E

csect-name BSDS の CI サイズが正しくありません。DDNAME=*ddd*

説明

CI サイズが正しくないため、BSDS 変換ユーティリティーに提供されたデータ・セットを使用できない。BSDS の CI サイズは 4096 でなければならない。変数 *ddd* には、データ・セットの DD 名が入る。

システム・アクション

現在のユーティリティーは何も実行しないまま終了する。

システム・プログラマーの応答

有効な BSDS を DD ステートメントが参照していることを確認する。DD 名が出力データ・セットを参照している場合は、その出力 BSDS を削除してから再定義した後、ユーティリティーを再実行する。

CSQJ452E

csect-name BSDS ユーティリティーのタイム・スタンプの不一致が検出されました。

説明

BSDS 変換ユーティリティーの実行中に、SYSUT1 および SYSUT2 の BSDS コピーのタイム・スタンプに不一致が検出された。この不一致は、二重 BSDS の同期が失われた可能性を示している。

システム・アクション

現在のユーティリティーは何も実行しないまま終了する。

システム・プログラマーの応答

各 BSDS に対してログ・マップ印刷ユーティリティー (CSQJU004) を実行する。この出力をもとに、どのデータ・セットが廃止になっているかを判別し、それを削除し、それに代わる代替データ・セットを定義する。その後、残りのデータ・セットを代替データ・セットにコピーしてから、ユーティリティーを再試行する。

両方のデータ・セットに対するログ・マップ印刷ユーティリティーの出力が類似している場合は、タイム・スタンプが古い方のデータ・セットを削除し、最新のタイム・スタンプをもつデータ・セットを代替データ・セットにコピーする。

CSQJ453E

csect-name 入力 BSDS の形式が正しくありません。DDNAME=*ddd*

説明

BSDS 変換ユーティリティーは、入力 BSDS が変換可能な正しい形式ではないことを検出した。入力 BSDS はバージョン 1 の形式でなければならない。変数 *ddd* には、データ・セットの DD 名が入る。

システム・アクション

現在のユーティリティーは何も実行しないまま終了する。

システム・プログラマーの応答

BSDS に対してログ・マップ印刷ユーティリティー (CSQJU004) を実行し、そのバージョンを判別する。DD ステートメントがバージョン 1 形式の入力 BSDS を参照していることを確認した後、必要ならユーティリティーを再実行する。

CSQJ454E

csect-name は認識できない BSDS です。KEY=*key-value*

説明

BSDS の変換中に、不明な形式のレコードが検出された。*key-value* は、認識されなかった BSDS レコードの VSAM KSDS キーである。

システム・アクション

現行のユーティリティーは終了する。

システム・プログラマーの応答

このレコードを BSDS に挿入した操作を判別するために、IDCAMS PRINT を使用し、このキー値を指定する。このレコードが必要ない場合は、それを削除して、BSDS 変換を再実行する。

CSQJ455E

無効な BSDS 変換です。

説明

このメッセージは、BSDS データ・セットにアクセスしようとしているユーティリティーが無効な BSDS を検出した場合に発行される。無効な BSDS は、BSDS 変換ユーティリティーを実行しようとする前に試みた際に発生した障害の結果である。

システム・アクション

現在のユーティリティーは何も実行しないまま終了する。

システム・プログラマーの応答

BSDS 変換ユーティリティーを実行する手順には、元の BSDS の名前を変更する操作が含まれる。データ・セットの名前を変更することにより BSDS を変換前の元のコピーに戻した後、変換を再試行する。

CSQJ456E

xxxx パラメーター引数が BSDS バージョン *n* の最大値を超えています。

説明

xxxx パラメーターでのパラメーター名の指定値が、BSDS バージョン *n* 形式で指定できる最大値を超えている。

システム・アクション

現行のユーティリティーは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントのパラメーター引数を訂正した後、ユーティリティーを再実行する。

CSQJ491I

csect-name ログ・データ・セット事前フォーマッター・ユーティリティー - *date time*

説明

このメッセージは、ユーティリティー・プログラムによって出される報告書のヘッダーとして出される。

CSQJ492I

ログ・データ・セット名 = *dsname*

説明

これは、事前フォーマットするログ・データ・セットの名前を示す。

CSQJ493I

ログ・データ・セットは VSAM ではありません。

説明

入力ログ・データ・セットは VSAM データ・セットではない。

システム・アクション

ユーティリティー処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

SYSUT1 DD ステートメントとデータ・セット名が正しく指定されていることを検査する。アクセス方式サービス・プログラムを使用して、データ・セットを VSAM 線形データ・セットとして定義する。

CSQJ494E

VSAM OPEN failed, ACBERRFLG=ee

説明

ログ・データ・セットをオープンしたら、示されている ACB エラー・コードで失敗した。

システム・アクション

エラー・コードが 128 以上の場合は、ユーティリティ処理が終了する。それ未満の場合は、処理は続行する。

システム・プログラマーの応答

VSAM エラー・コードについては、「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照。

CSQJ495E

VSAM PUT failed, RPLERREG=ee reason code=reason

説明

ログ・データ・セットへの書き込みは、示されている RPL エラー・コードと理由コードで失敗した。

システム・アクション

ユーティリティ処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

VSAM エラー・コードについては、「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照。

CSQJ496I

ログの事前フォーマットが正常に完了しました。n レコードがフォーマットされました。

説明

活動ログ・データ・セットは正常に事前フォーマットされている。

システム・アクション

ユーティリティ処理は完了する。

CSQJ497I

ログの事前フォーマットが終了しました。

説明

活動ログ・データ・セットの事前フォーマットは正常に完了しなかった。

システム・アクション

ユーティリティ処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

詳細については、先行するエラー・メッセージを参照。

CSQJ498I

ログ・データ・セットは空ではありません。

説明

入力ログ・データ・セットは空のデータ・セットではない。

システム・アクション

ユーティリティ処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

SYSUT1 DD ステートメントとデータ・セット名が正しく指定されていることを検査する。アクセス方式サービス・プログラムを使用して、データ・セットを VSAM 線形データ・セットとして定義する。

CSQJ499I

ログ・データ・セットが4GBよりも大きい

説明

ログ事前フォーマット・ユーティリティーの CSQJUFMT は、フォーマットする VSAM データ・セットのサイズが4GBよりも大きいことを検出した。

システム・アクション

処理を続行する。データ・セット全体は事前にフォーマットされるが、IBM MQ for z/OS ログ・データ・セットは最大4GBに制限される。データ・セット内に他にスペースがあっても、ログ・データの保持には使用されない。

SMDSが4GBを超えることを意図して事前フォーマットされている場合、VSAM 拡張アドレッシング機能属性を持つ SMS データ・クラスを使用して定義されていると、最大4GBに制限されません。

システム・プログラマーの応答

データ・セット名が正しく指定されていることを確認する。アクセス方式サービス・プログラムを使用して、データ・セットを最大サイズ4GBで定義する。

V 9.4.0 CSQJ600E

ZHYLINK (YES) が指定されていますが、zHyper リンク対応のアクティブ・ログがありません。

説明

システム・パラメーター ZHYLINK が YES に設定されていますが、キュー・マネージャーは、zHyper リンク対応ボリューム上にアクティブ・ログ・コピーがないことを検出しました。zHyper リンク・ログ機能の状況は、キュー・マネージャーの始動時に表明されるため、機能に変更されると失効する可能性があります。

キュー・マネージャーは、zHyper リンクを使用可能にしてログ書き込みを発行します。アクティブ・ログ・コピーがzHyper リンク対応ボリューム上にあるかどうかに関係なく。

詳しくは、[zHyperLink with IBM MQ の使用](#) を参照してください。

システム・アクション

zHyper リンクをログ書き込み用に使用可能にせずに、処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答

アクティブ・ログ・ボリュームの構成およびzHyper リンク機能を確認してください。zHyper 書き込み機能の検査を検討してください。

見る [トラブルシューティング zHyper リンク詳細](#) については。

V 9.4.0 CSQJ601E

zHyper アクティブ・ログ・データ・セットのリンク構成が矛盾しています。

説明

キュー・マネージャーは、アクティブ・ログ・データ・セットのzHyper リンク構成に矛盾を検出した。

アクティブ・ログの各コピーのデータ・セットは、zHyper リンクで使用できるように一貫して構成する必要があります。

これは、アクティブ・ログ・コピーを構成するすべてのデータ・セットがzHyper リンク対応ボリューム上にあるか、どのデータ・セットもzHyper リンク対応ボリューム上にないかのいずれかであることを意味します。

システム・アクション

処理は続行するが、アクティブ・ログ・ボリュームの構成が矛盾しているため、ロギング・レートの不整合が見られる可能性がある。

システム・プログラマーの応答

アクティブ・ログ・ボリュームの構成を確認する。

見る [トラブルシューティング zHyper リンク詳細](#) については。

V 9.4.0 CSQJ602I

ZHYLINK (YES) では、ZHYWRITE (YES) を設定する必要があります。

説明

SET LOG コマンドで ZHYWRITE (NO) パラメーターが指定されましたが、キュー・マネージャーで ZHYLINK (YES) が指定されています。

システム・アクション

コマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

zHyperWrite をオフにするかどうかを検討します。これを行う場合は、同時に zHyper リンクをオフにする必要もあります。

V 9.4.0 CSQJ603I

ZHYLINK (YES) が設定されているため、ZHYWRITE (YES) が設定されました。

説明

SET LOG コマンドで ZHYLINK (YES) が指定されましたが、キュー・マネージャーで ZHYWRITE (NO) が指定されています。ZHYLINK では、ZHYWRITE をオンに切り替える必要があります。

システム・アクション

ZHYWRITE パラメーターが YES に設定されている。

V 9.4.0 CSQJ604E

dsname RC=ret の zHyper リンク・セッションの切断に失敗しました

説明

ログ・データ・セット *dsname* の zHyper リンク・セッションの切断中に、予期しないエラーが検出されました。zHyper リンク・セッションが開いたままになっている可能性があります。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

コマンド DS QD, MACH=nnnn-xxxxx, ZHL を使用して、zHyper リンクに左からのセッションがあるかどうかを確認します。ここで、nnnn は scu、xxxxx はシリアル番号です。詳しくは、[zHyper のトラブルシューティングのリンク](#)を参照してください。

問題が解決しないようであれば、IBM サポートに連絡する。

V 9.4.0 CSQJ605E

データ・セット *dsname* に対する zHyper リンク書き込みがありませんでした。

説明

アクティブ・ログのライフサイクル中に、ZHYLINK (YES) が指定されている間に、正常な zHyper リンク書き込みが記録されませんでした。これは、zHyper リンクのセットアップにおける構成またはパフォーマンス上の問題を示している可能性があります。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

zHyperLink 書き込みが非同期書き込みにフォールバックする理由を評価します。

見る[トラブルシューティング zHyper リンク詳細](#)については、問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

z/OS Message manager messages (CSQM...)

CSQM001E

csect-name MSTR user ID cannot invoke USS callable services

Severity

8

Explanation

The IBM MQ queue manager MSTR address space is running under a user ID that has not been configured with authority to execute callable z/OS UNIX System Services (z/OS UNIX).

In RACF, the user ID requires an OMVS segment with a UID assigned.

System action

This message is issued and the process of z/OS UNIX calls, for reverse DNS host name lookup, are disabled in the MSTR address space.

System programmer response

Refer to [Planning your z/OS UNIX environment](#), where queue manager MSTR and CHIN address spaces require user IDs with OMVS segments defined with a valid UID.

Correct the configuration of the queue manager MSTR address space user ID and restart the queue manager.

CSQM050I

csect-name Intra-group queuing agent starting, TCB=*tcb-name*

Severity

0

Explanation

The intra-group queuing (IGQ) agent was started during the initialization of a queue manager that is in a queue sharing group. The agent uses TCB *tcb-name*.

The IGQ agent handles SYSTEM.QSG.TRANSMIT.QUEUE.

System action

Processing continues. The IGQ agent starts asynchronously.

CSQM051I

csect-name Intra-group queuing agent stopping

Severity

0

Explanation

The intra-group queuing (IGQ) agent is stopping because:

- the queue manager is stopping
- it has retried a failing request repeatedly without success
- it was unable to recover from an abnormal ending

System action

The IGQ agent stops.

System programmer response

If the queue manager is not stopping, investigate the cause of the error as reported in the preceding messages. To restart the IGQ agent, issue an ALTER QMGR command specifying IGQ(ENABLED).

CSQM052I

csect-name Shared channel recovery completed for *qmgr-name*, *n* channels found, *p* FIXSHARED, *r* recovered

Severity

0

Explanation

The queue manager successfully recovered some shared channels that were owned by queue manager *qmgr-name* in the queue sharing group when it or its channel initiator terminated abnormally. This recovery process might occur when:

- another queue manager or its channel initiator terminates abnormally
- the channel initiator is started, for channels that were owned by other queue managers
- the channel initiator is started, for channels that were owned by itself

n channels were found that needed recovery, of which *p* were originally started as FIXSHARED. The number recovered, *r*, might be less than *n* (or even 0) because other active queue managers are also recovering the channels and because FIXSHARED channels cannot be recovered by another queue manager.

For more information about shared channel recovery, see [Shared channels](#).

System action

Processing continues.

CSQM053E

csect-name Shared channel recovery terminated, DB2 not available

Severity

8

Explanation

Because Db2 is not available or no longer available, the queue manager was unable to recover some shared channels that were owned by a queue manager in the queue sharing group when it or its channel initiator terminated abnormally. This recovery process might occur when:

- another queue manager or its channel initiator terminates abnormally
- the channel initiator is started, for channels that were owned by other queue managers
- the channel initiator is started, for channels that were owned by itself

System action

The recovery process is terminated; some channels might have been recovered, while others have not.

System programmer response

Use the preceding messages on the z/OS console to investigate why Db2 is not available, and resume the connection or restart Db2 if necessary. Any channels that were not recovered will be recovered when the recovery process next runs; alternatively, they can be restarted manually.

CSQM054E

csect-name Shared channel recovery terminated, error accessing DB2

Severity

8

Explanation

Because there was an error in accessing Db2, the queue manager was unable to recover some shared channels that were owned by a queue manager in the queue sharing group when it or its channel initiator terminated abnormally. This recovery process might occur when:

- another queue manager or its channel initiator terminates abnormally
- the channel initiator is started, for channels that were owned by other queue managers
- the channel initiator is started, for channels that were owned by itself

System action

The recovery process is terminated; some channels might have been recovered, while others have not.

System programmer response

Resolve the error reported in the preceding messages. Any channels that were not recovered will be recovered when the recovery process next runs; alternatively, they can be restarted manually.

CSQM055E

csect-name Shared channel recovery terminated, error putting command, MQRRC=*mqr*c (*mqr*c-text)

Severity

8

Explanation

Because there was an error putting a message on the system-command input queue, the queue manager was unable to recover some shared channels that were owned by a queue manager in the queue sharing group when it or its channel initiator terminated abnormally. This recovery process might occur when:

- another queue manager or its channel initiator terminates abnormally
- the channel initiator is started, for channels that were owned by other queue managers
- the channel initiator is started, for channels that were owned by itself

System action

The recovery process is terminated; some channels might have been recovered, while others have not.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqr*c (*mqr*c-text provides the MQRRC in textual form), and resolve the error. Any channels that were not recovered will be recovered when the recovery process next runs; alternatively, they can be restarted manually.

CSQM056E

csect-name mqapi-call failed for queue *q-name*, MQRRC=*mqr*c (*mqr*c-text)

Severity

8

Explanation

The indicated IBM MQ API call for the named queue, failed for the specified reason, which might be an IBM MQ reason code (MQRRC_) or a signal completion code (MQEC_).

System action

If the queue is SYSTEM.ADMIN.CONFIG.EVENT or SYSTEM.ADMIN.COMMAND.EVENT, processing continues but events are not generated; message CSQM071E follows to show how many event messages have not been generated since the problem first occurred. These messages are generated on the first occurrence of the problem, and at intervals thereafter while the problem persists.

Depending on the queue involved and the type of error, it might continue processing, try the request again at regular intervals until the error is corrected, or terminate.

System programmer response

For more information, see “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123. For information about signal completion codes, see [Signaling](#). Correct the problem with the queue, or use the ALTER QMGR command to disable the events.

CSQM057E

csect-name MQPUT of trigger message failed for queue *q-name*, MQRRC=*mqr*c (*mqr*c-text)

Severity

8

Explanation

The queue manager could not deliver a trigger message to the indicated initiation queue for the specified IBM MQ reason code (MQRC_).

System action

The queue manager attempts to put the trigger message on to the dead-letter queue if one has been defined.

System programmer response

For more information about IBM MQ reason codes, and what action to take to correct the problem with the initiation queue, see [“API 完了コードと理由コード” on page 1123.](#)

CSQM058E

csect-name Unable to start channel *channel-name*

Severity

8

Explanation

An attempt was made to start cluster channel *channel-name* because a message was placed on the SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.QUEUE. If the channel could not be started because of an internal queuing error this message is preceded by CSQM056E. This message is also issued if the queue manager encounters a storage shortage.

System action

The message remains queued on the SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.QUEUE queue and the original MQPUT completes successfully. If the cluster channel is not already running it is not automatically started.

System programmer response

If required, manually start the channel using the START CHANNEL command. Stopping and restarting the channel initiator or the queue manager, or placing another message on the transmission queue for this cluster destination triggers another START request.

If message CSQM056E is issued because of an internal queuing error, action might be needed to ensure that future start channel requests can be processed correctly.

If there is a lack of storage and the problem persists, you might need to increase the region size used by your queue manager, or you might need to reduce the number of jobs running in your system.

CSQM059E

csect-name Queue *q-name* has incorrect attributes

Severity

8

Explanation

The named queue, used by the intra-group queuing (IGQ) agent, has incorrect attributes. For example, SYSTEM.QSG.TRANSMIT.QUEUE must have attributes USAGE(XMITQ), INDXTYPE(CORRELID), QSGDISP(SHARED).

System action

The IGQ agent retries at regular intervals until the error is corrected.

System programmer response

Redefine the queue with the correct attributes.

CSQM060E

csect-name Cluster cache is full

Severity

8

Explanation

No more space is available in the cluster cache area.

System action

The application call that resulted in the need for more space will fail with MQRC_CLUSTER_RESOURCE_ERROR. Processing continues, and existing users of clustering will be unaffected unless their actions are such as to need more cluster cache space.

System programmer response

The problem may be temporary. If it persists, the queue manager must be restarted; this will cause more space to be allocated for the cluster cache area.

Consider changing the cluster cache type system parameter CLCACHE to dynamic, so that more space for the cache will be obtained automatically as required. (If you are using a cluster workload exit, ensure that it supports a dynamic cluster cache.) For information about the system parameters for the CSQ6SYSP macro, see [Using CSQ6SYSP](#).

CSQM061E

csect-name Cluster workload exit *exit-name* does not support dynamic cache

Severity

8

Explanation

In response to the initialization call (using ExitReason MQXR_INIT), the cluster workload exit returned the value MQCLCT_STATIC in the ExitResponse2 field, indicating that it does not support a dynamic cluster cache.

System action

The cluster workload exit is suppressed.

System programmer response

Either change the cluster cache type system parameter CLCACHE to static, or rewrite the exit to be compatible with a dynamic cache. For information about the system parameters for the CSQ6SYSP macro, see [Using CSQ6SYSP](#).

CSQM062I

csect-name INDXTYPE(*index-type*) not allowed for shared transmission queue *shared-xmitq*

Severity

4

Explanation

A shared transmission queue is a queue that is defined with both USAGE(XMITQ) and QSGDISP(SHARED). To support recovery of messages that are in-doubt after a channel failure, the index type (INDXTYPE) for shared transmission queues must be either NONE or MSGID.

System action

Processing continues.

System programmer response

Modify the INDXTYPE attribute for the shared transmission queue to NONE or MSGID.

CSQM063E

csect-name Specified dead-letter queue name is unacceptable

Severity

4

Explanation

The intra-group queuing (IGQ) agent has attempted to put a persistent message on the dead-letter queue that is defined to the queue manager. The dead-letter queue specified is either `SYSTEM.QSG.TRANSMIT.QUEUE` or there is no dead-letter queue name specified.

System action

The put of the message to the dead-letter queue does not take place, the get of the message from the `SYSTEM.QSG.TRANSMIT.QUEUE` is backed out and the intra-group queuing (IGQ) agent goes into retry.

System programmer response

Ensure the queue manager has a dead-letter queue defined which is neither blank nor `SYSTEM.QSG.TRANSMIT.QUEUE`. Examine the message to determine the reason for its placement on the dead-letter queue.

CSQM064I

csect-name Intra-group queuing agent put messages to dead-letter queue

Severity

4

Explanation

The intra-group queuing (IGQ) agent was unable to deliver some messages to the required destination queue, so has put them on the dead-letter queue.

System action

Processing continues.

System programmer response

Examine the contents of the dead-letter queue. Each message is contained in a structure that describes why the message was put to the queue, and to where it was originally addressed.

CSQM065E

csect-name mqapi-call failed, `MQRC=mqrc (mqrc-text)`

Severity

8

Explanation

The indicated MQ API call failed for the specified reason, which is an IBM MQ reason code *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

System action

It is the intra-group queuing (IGQ) agent that issued the call; it was unable to commit or backout a batch of messages for the specified reason. Depending on the type of error, it may retry the request at regular intervals until the error is corrected, or terminate.

System programmer response

Refer to [“API 完了コードと理由コード”](#) on page 1123 for information about MQ reason codes. Correct the problem if required.

CSQM067E

csect-name Intra-group queuing agent ended abnormally. Restarting

Severity

8

Explanation

The intra-group queuing (IGQ) agent has ended abnormally because a severe error occurred, as reported in the preceding messages.

System action

The IGQ agent attempts to restart a number of times. If it fails persistently, it terminates.

System programmer response

Investigate the reason for the abnormal termination, as reported in the preceding messages.

CSQM068I

csect-name Failed to rebuild *n* retained publications

Severity

4

Explanation

While rebuilding the retained publications, *n* messages were found on the SYSTEM.RETAINED.PUB.QUEUE without any message properties.

System action

The associated retained publications were not rebuilt.

System programmer response

If messages were recently moved to the SYSTEM.RETAINED.PUB.QUEUE, then ensure that the PROPCTL value of the source queue does not result in any message properties being lost.

If no messages were recently moved to the SYSTEM.RETAINED.PUB.QUEUE, then note this message and contact your IBM support center.

CSQM070E

csect-name Queue *q-name* available again, *n* events not generated

Severity

4

Explanation

An earlier problem with putting messages on the configuration or command event queue has been corrected. *n* is the number of event messages that have not been generated since the problem first occurred.

System action

Processing continues and event messages for that queue will be generated again.

System programmer response

If the queue is SYSTEM.ADMIN.CONFIG.EVENT, and complete configuration information is required, use the REFRESH QMGR TYPE(CONFIGEV) command to generate events to replace those that were not generated; specify the INCLINT parameter to cover the period when the problem was occurring.

If the queue is SYSTEM.ADMIN.COMMAND.EVENT, a limited number of the missed event messages may be recovered automatically, as reported by message CSQM072I.

CSQM071E

csect-name Queue *q-name* unavailable, *n* events not generated

Severity

8

Explanation

There was an error putting a message on the configuration or command event queue, as reported in the preceding CSQM056E message; *n* is the number of event messages that have not been generated since the problem first occurred.

System action

Processing continues but event messages for that queue are not generated. This message is issued on the first occurrence of the problem, and at intervals thereafter while the problem persists.

System programmer response

Correct the problem with the event queue, or use the ALTER QMGR command to set the CONFIGEV or CMDEV attribute to DISABLED if events are not required.

CSQM072I

csect-name Queue *q-name*, *n* events recovered

Severity

0

Explanation

An earlier problem with putting messages on the command event queue has been corrected. *n* event messages that were not generated have been automatically recovered and generated.

Only a limited number of the missed event messages can be recovered in this way. If *n* is less than the value reported in message CSQM070E, the remaining event messages are lost, and there is no way to recover them.

System action

Processing continues.

CSQM073I

csect-name Loading of durable subscribers started

Severity

0

Explanation

Information about the durable subscribers on a queue manager is stored on the SYSTEM.DURABLE.SUBSCRIBER.QUEUE queue. During the restart of the queue manager the durable subscriptions are remade on the queue manager.

System action

Processing continues.

CSQM074I

csect-name Loading of durable subscribers finished

Severity

0

Explanation

The queue manager has finished reloading all of the durable subscribers.

System action

Processing continues.

CSQM075I

csect-name Consolidation of durable subscribers started

Severity

0

Explanation

Information about the durable subscribers on a queue manager is stored on the SYSTEM.DURABLE.SUBSCRIBER.QUEUE queue. To aid in restart processing and to speed up the time it takes to reload all of the durable subscribers, these messages are consolidated into fewer messages.

System action

Processing continues.

CSQM076I

csect-name Consolidation of durable subscribers finished

Severity

0

Explanation

The queue manager has finished consolidating the messages on the SYSTEM.DURABLE.SUBSCRIBER.QUEUE queue. The processing might be restarted at a later stage if there is a change in the number of durable subscribers.

System action

Processing continues

CSQM077I

csect-name PUBLISH/SUBSCRIBE ENGINE HAS SHUTDOWN

Severity

0

Explanation

The publish/subscribe engine has been shutdown.

System action

The publish/subscribe engine has shutdown.

System programmer response

No action is required if the queue manager is stopping. If the publish/subscribe engine has shutdown because you have disabled it, updating the PSMODE queue manager attribute from the value DISABLED will restart it.

CSQM078E

csect-name Unable to create thread structures for connection-type *connection* from *jobname*, insufficient ACE storage

Severity

8

Explanation

jobname attempted to create a new connection to IBM MQ as the result of issuing the first IBM MQ API call on a new thread. The connection-type is likely to be RRSBATCH.

There was insufficient common storage available to build the control blocks to represent the connection and the connect attempt failed.

There might be a system wide ECSA shortage, or the storage available for creating new queue manager connections might be limited by the ACELIM system parameter.

This message can be seen for CICS and the channel initiator, as well as for RRS applications; for example, Db2 stored procedures and WebSphere Application Server.

System action

IBM MQ API request fails with return code MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE 2071

Queue manager processing continues

CSQM079I

csect-name Policy access attempt rejected due to incompatible AMS version, jobname *jobname*

Severity

4

Explanation

An incompatible version of Advanced Message Security (AMS), identified by *jobname*, attempted to open the policy queue, SYSTEM.PROTECTION.POLICY.QUEUE.

System action

The request to open the policy queue is rejected.

System programmer response

Update the incompatible version of AMS so it does not attempt to connect to the queue manager. From IBM MQ 8.0, AMS is provided as an integrated feature of IBM MQ for z/OS. For information about how to configure AMS as an integrated feature, see [Installing IBM MQ Advanced for z/OS](#) or [Installing IBM MQ Advanced for z/OS Value Unit Edition](#).

CSQM084I

csect-name COMMAND INHIBITED DURING RESTART/TERMINATION

Severity

8

Explanation

A command that will affect a recoverable object was requested either too early in queue manager startup, or too late in termination.

The usual reason for receiving this message is that some prohibited command was issued in the initialization input data set CSQINP1.

System action

Message CSQM085I is also issued and the command is ignored.

System programmer response

Wait until the queue manager is in a state where it is possible to reissue the prohibited commands. If appropriate, remove the command from CSQINP1, and place it in CSQINP2, to ensure that this problem does not recur.

CSQM085I

csect-name ABNORMAL COMPLETION

Severity

8

Explanation

This message is issued with message CSQM084I, and indicates that the command requested has not been actioned.

System action

The command is not actioned.

System programmer response

Wait until the queue manager is in a state where it is possible to use the prohibited commands.

CSQM086E

QUEUE MANAGER CREATE ERROR, CODE=*reason-code*, RESTART UNSUCCESSFUL

Severity

8

Explanation

During restart, the creation of the queue manager object has failed. The reason code is of the form '00D44xxx'.

System action

The queue manager fails to restart.

System programmer response

See [“Message manager codes \(X'D4\)’” on page 988](#) for an explanation of the reason code, and what action to take. Reissue the START QMGR command to restart the queue manager. If the error persists note this reason code, and contact your IBM support center.

CSQM090E

csect-name FAILURE REASON CODE *reason-code*

Severity

8

Explanation

A command has failed. The reason code is of the form '00D44xxx'. This message is accompanied by one or more other more specific messages, which indicate the reason for the failure.

System action

The command is ignored.

System programmer response

See the explanations of the accompanying messages for more information. See [“Message manager codes \(X'D4\)’” on page 988](#) for an explanation of the reason code, and what action to take. If the reason code is not one of those listed, make a note of it and contact your IBM support center.

CSQM091E

csect-name FAILURE MQRC=*mqr*c (*mqr*c-text)

Severity

8

Explanation

A command has failed. The reason code is an IBM MQ reason code. This message is accompanied by one or more other more specific messages, which indicate the reason for the failure.

System action

The command is ignored.

System programmer response

See the explanations of the accompanying messages for more information. Refer to [“API 完了コードと理由コード” on page 1123](#) for an explanation of *mqr*c, (*mqr*c-text provides the MQRC in textual form), and what action to take.

CSQM092I

csect-name keyword(value) VALUE INVALID OR OUT OF RANGE

Severity

8

Explanation

Either:

- A keyword was entered that takes a bounded numeric value but the value specified is outside the bounds.
- A keyword was entered that takes a pair of numeric values defining a range, but only one value is specified or the values are not in ascending order.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Reissue the command with the parameter specified correctly. For more information about the command, see [MQSC commands](#).

CSQM093I

csect-name keyword(value) NAME CONTAINS INVALID CHARACTERS

Severity

8

Explanation

A name was specified that contains one or more invalid characters. See [MQSC commands](#) for information about validation required for the name in question to correct this.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Reissue the command with the correct name. For more information about the command, see [MQSC commands](#).

CSQM094I

csect-name keyword(value) WAS NOT FOUND

Severity

8

Explanation

A command was issued that refers to an object that does not exist. That is, no object could be found with the specified name and type (and subtype, for queues and channels) and with any disposition in the queue sharing group.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Check that you specified the correct name for the object, and the correct subtype (for queues and channels). If a queue sharing group is in use, check that Db2 is available and not suspended. Define the object if necessary.

Note:

1. If you are dealing with a queue or channel object, an object of the same name, but of a different subtype, might already exist.
2. Remember that the object might have recently been deleted by someone else, or from another queue manager in the queue sharing group.

CSQM095I

csect-name keyword(value) existing-disposition ALREADY EXISTS

Severity

8

Explanation

A DEFINE command was issued, but an object of that type with the specified name already exists, although it might not necessarily have the same subtype, or the same disposition in the queue sharing group. (You cannot have a locally-defined object and a local copy of a group object with the same name; for local queues, you cannot have a shared queue with the same name as a queue with any other disposition.) Where applicable, *existing-disposition* identifies the queue sharing group disposition of the existing object.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Reissue the command with another name or with the REPLACE option, or use the existing object, as appropriate.

CSQM096I

csect-name keyword(value) NAME HAS INVALID LENGTH

Severity

8

Explanation

A name was specified that is of an incorrect length.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Reissue the command with a name of the correct length. For more information about the command, see [MQSC commands](#).

CSQM097I

csect-name keyword(value) NAME CANNOT BE COMPLETELY BLANK

Severity

8

Explanation

A name was specified that is blank. This is not allowed.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Reissue the command with a non-blank name. For more information about the command, see [MQSC commands](#).

CSQM098I

csect-name keyword(value) FIELD TOO LONG

Severity

8

Explanation

Either a numeric or character parameter was specified but it is too long, or (if *value* is blank) a list of character parameters was specified with a total length that is too long.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Reissue the command with the correct field length. For more information about the command, see [MQSC commands](#).

CSQM099I

csect-name keyword(value) NAME IN USE AS A DIFFERENT TYPE

Severity

8

Explanation

An object was specified as one particular subtype, but it already exists as another subtype, although it might not necessarily have the same disposition in the queue sharing group. (You cannot have a locally-defined object and a local copy of a group object with the same name; for local queues, you cannot have a shared queue with the same name as a queue with any other disposition.)

System action

The command is ignored.

System programmer response

Reissue the command with the correct name and subtype. For more information about the command, see [MQSC commands](#).

CSQM100I

csect-name keyword(value) VALUE INVALID OR OUT OF RANGE

Severity

8

Explanation

A value is invalid or out of range. This could be because:

- A keyword was entered that takes a series of character values, but the value specified is not one of them.
- A keyword was entered that takes a series of character values, but the value specified is not valid for the particular subtype of object.
- A keyword was entered that takes a bounded numeric value, but the value specified is outside the bounds.
- A keyword was entered that takes a character or hexadecimal value, but the value specified is invalid for that keyword.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Reissue the command with the parameter specified correctly. For more information about the command, see [MQSC commands](#).

CSQM101I

csect-name keyword(value) IS CURRENTLY IN USE

Severity

8

Explanation

The object specified is in use. This could be because:

- It is open through the API.
- A trigger message is presently being written to it.
- It is in the process of being deleted.
- When it is a storage class, there is a queue defined as using the storage class, and there are messages currently on the queue.
- When it is a CF structure, there is a queue defined as using the CF structure, and there are messages currently on the queue or the queue is open.
- When altering the index type of a queue, the necessary conditions regarding messages and uncommitted activity are not satisfied.
- When altering the default transmission queue, the old queue is currently being used as a transmission queue by default.
- Although the FORCE option was specified to overcome the object being open through the API, the object was created with a previous version of IBM MQ.
- There is no connection from the queue manager to the structure.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Either:

- Wait until the object has been closed or deleted.
Note: MCAs for receiver channels, or the intra-group queuing (IGQ) agent, can keep the destination queues open for a while even when messages are not being transmitted, and so such queues might appear to be in use.
- Wait until all the queues that use a storage class are empty
- Wait until the queue is empty
- Wait until use of the queue as a default transmission queue has ended

It is not possible to use the FORCE option of the ALTER command to overcome the situations that cause this message.

For more information about the command, see [MQSC commands](#).

CSQM102E

csect-name SSLCIPH sslciph IS A WEAK OR BROKEN CIPHERSPEC

Severity

8

Explanation

A channel could not be defined or altered, because the specified SSLCIPH parameter contains a CipherSpec that is potentially insecure.

System action

The named channel is not defined or altered

System programmer response

Examine the CipherSpec specified in the SSLCIPH parameter and consider using a more secure CipherSpec.

If you want to re-enable the use of weak or deprecated CipherSpecs, see [Enabling deprecated CipherSpecs on z/OS](#).

There are alternative mechanisms that can be used to forcibly re-enable weak CipherSpecs, and SSLv3 support, if the Data Definition change is unsuitable. Contact IBM Service for further information.



Attention: Re-enabling CipherSpecs in this manner leaves systems exposed to possible security problems. You should use CipherSpecs that use only the TLS protocol, rather than SSLv3.

CSQM103I

csect-name keyword(value) QSGDISP(disposition) HAS MESSAGES ASSOCIATED WITH IT

Severity

8

Explanation

A local queue specified for deletion has messages associated with it, and the DELETE request did not include the PURGE option.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Either delete the local queue when it is empty, or reissue the request specifying the PURGE option. If the queue is a local copy of a group object, you must issue the request specifying PURGE explicitly for the local copy; specifying PURGE on the request to delete the group object has no effect.

CSQM104I

csect-name keyword(value) FLAGGED FOR DEFERRED DELETION

Severity

8

Explanation

A local dynamic queue specified on a DEFINE, ALTER, or DELETE request has been flagged for deferred deletion because it was found to be in use at the time of deletion.

System action

The queue is no longer available to new users, and will be deleted when all existing users of it have relinquished access.

CSQM105I

csect-name 'keyword' VALUE IS SAME AS QALIAS NAME

Severity

8

Explanation

An attempt was made to DEFINE or ALTER an alias queue so that the queue itself was named on the TARGQ keyword. Unless the queue is a cluster queue, this is not allowed because an alias queue can only resolve to a local or remote queue.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Reissue the command with a different name for the TARGQ keyword.

CSQM106I

csect-name DEFXMITQ(*q-name*) IS NOT ALLOWED

Severity

8

Explanation

The specified queue is not allowed to be used as the default transmission queue because it is reserved for use exclusively by clustering.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Reissue the command with a different DEFXMITQ name.

CSQM107I

csect-name STGCLASS ACTIVE OR QUEUE IN USE

Severity

8

Explanation

A request to ALTER or DEFINE REPLACE a local queue involving a change to the STGCLASS field is not allowed because there are messages on the queue, or other threads have the queue open.

System action

The command is ignored.

System programmer response

If there are messages on the queue, you must remove them before changing the storage class.

Note: If you remove all the messages from the queue, there might be a short delay before the command can be processed successfully.

If other threads have the queue open, wait until they have closed the queue before reissuing the command.

CSQM108I

csect-name keyword(value) NOT ALLOWED, INCOMPATIBLE NAME AND TYPE

Severity

8

Explanation

An attempt was made to issue a DEFINE command on a reserved object name, using an incorrect object type or subtype. The object is only allowed to be of the predetermined type listed in this topic:

<i>Table 12. Mapping reserved objects to object types</i>	
Type	Object
Any Queue	SYSTEM.ADMIN.ACTIVITY.QUEUE SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT SYSTEM.ADMIN.COMMAND.EVENT SYSTEM.ADMIN.CONFIG.EVENT SYSTEM.ADMIN.PERFM.EVENT SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT SYSTEM.ADMIN.PUBSUB.EVENT SYSTEM.ADMIN.TRACE.ROUTE.QUEUE
Alias queue	SYSTEM.DEFAULT.ALIAS.QUEUE
Alias or local queue	SYSTEM.ADMIN.COMMAND.QUEUE SYSTEM.COMMAND.INPUT
Local queue	SYSTEM.CHANNEL.INITQ SYSTEM.CHANNEL.SYNCQ SYSTEM.CHLAUTH.DATA.QUEUE SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE SYSTEM.CLUSTER.REPOSITORY.QUEUE SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.QUEUE SYSTEM.DEFAULT.LOCAL.QUEUE SYSTEM.QSG.CHANNEL.SYNCQ SYSTEM.QSG.TRANSMIT.QUEUE
Model queue	SYSTEM.COMMAND.REPLY.MODEL SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE SYSTEM.JMS.TEMPQ.MODEL SYSTEM.MQEXPLORER.REPLY.MODEL
Remote queue	SYSTEM.DEFAULT.REMOTE.QUEUE
Cluster-sender channel	SYSTEM.DEF.CLUSSDR
Cluster-receiver channel	SYSTEM.DEF.CLUSRCVR
Sender channel	SYSTEM.DEF.SENDER
Server channel	SYSTEM.DEF.SERVER
Receiver channel	SYSTEM.DEF.RECEIVER
Requester channel	SYSTEM.DEF.REQUESTER
Client-connection channel	SYSTEM.DEF.CLNTCONN
Server-connection channel	SYSTEM.ADMIN.SVRCONN SYSTEM.DEF.SVRCONN
Authentication information	SYSTEM.DEFAULT.AUTHINFO.CRLLDAP
Namelist	SYSTEM.DEFAULT.NAMELIST
Process	SYSTEM.DEFAULT.PROCESS
Storage class	SYSTEMST

System action

The command is ignored.

System programmer response

Ensure that reserved objects are defined with the correct object type or subtype.

CSQM109E

csect-name DYNAMIC QUEUE *value* NOT DELETED, MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

A dynamic queue could not be deleted during normal close processing, thread termination, or the end of queue manager restart, because an error occurred whilst attempting to delete it. *mqrc* gives the reason code for the error.

System action

The named dynamic queue is not deleted.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about the reason code to determine why the queue could not be deleted, and take the appropriate action as necessary. The most likely reason codes are:

- MQRC_OBJECT_IN_USE
- MQRC_PAGESET_ERROR
- MQRC_Q_NOT_EMPTY

CSQM110I

csect-name keyword(value) QSGDISP(disposition) HAS INCOMPLETE UNITS OF RECOVERY

Severity

8

Explanation

A command was issued that refers to a local queue that has incomplete units of recovery outstanding for it.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Wait until all units of recovery for this queue are complete before attempting to issue the command again.

CSQM111E

csect-name COULD NOT PUT TO THE DEAD QUEUE, MQRC=mqrc (mqrc-text)

Severity

4

Explanation

An attempt to put a message to the dead letter queue was unsuccessful. *mqrc* gives the reason code for the error.

System action

Processing continues.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form) to determine the cause of the problem.

CSQM112E

csect-name ERROR ACCESSING keyword(value)

Severity

4

Explanation

While processing a command for an object, object information could not be accessed. This may be because of an error on page set zero, or in the coupling facility information, or because a coupling facility structure has failed, or because Db2 is not available or is suspended. This message is issued with message CSQM090E or CSQM091E, which include a reason code that gives more information about the error.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Check for error messages on the console log that might relate to the problem. Verify that page set zero is set up correctly; for information about this, see [Page sets](#). If a queue sharing group is in use, check whether the coupling facility structure has failed and check that Db2 is available and not suspended. If the accompanying message is CSQM091E, an explanation of the *mqr*c in that message, and what action to take, is given in [“API 完了コードと理由コード” on page 1123](#).

CSQM113E

csect-name NO SPACE FOR *keyword(value)* QSGDISP(*disposition*)

Severity

8

Explanation

A command failed because page set zero is full, or because the application structure is full, or because no more application structures are available in the coupling facility (the limit is 63).

System action

The command is not actioned.

System programmer response

Do one of the following, depending on the cause of the error:

- Increase the size of page set zero or the application structure. Refer to [Managing page sets](#) for information about how to do this.
- Reduce the number of application structures you are using.

CSQM114E

csect-name keyword(value) EXCEEDED LOCAL QUEUE LIMIT

Severity

8

Explanation

A command failed because no more local queues could be defined. There is an implementation limit of 524 287 for the total number of local queues that can exist. For shared queues, there is a limit of 512 queues in a single coupling facility structure.

System action

The command is not actioned.

System programmer response

Delete any existing queues that are no longer required.

CSQM115I

csect-name keyword(value) IS CURRENTLY IN USE, ALTER WITH FORCE NEEDED

Severity

8

Explanation

The object specified is in use. This could be because:

- It is open through the API.
- When altering the USAGE attribute of a local queue, there are messages currently on the queue.
- When altering the default transmission queue, the old queue is currently being used as a transmission queue by default.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Either:

- Wait until the object has been closed or deleted.

Note: MCAs for receiver channels, or the intra-group queuing (IGQ) agent, can keep the destination queues open for a while even when messages are not being transmitted, and so such queues might appear to be in use.

- Wait until the queue is emptied.
- Wait until use of the queue as a default transmission queue has ended.
- Use the ALTER command with the FORCE option.

Note: Any subsequent API calls referencing the object will fail with a reason code of MQRC_OBJECT_CHANGED.

For more information about the command, see [MQSC commands](#).

CSQM117E

csect-name ERROR ACCESSING *keyword(value)* QSGDISP(*disposition*)

Severity

4

Explanation

While processing a command for an object, object information could not be accessed. This may be because of an error on page set zero, or in the coupling facility information, or because a coupling facility structure has failed, or because Db2 is not available or is suspended. This message is issued with message CSQM090E or CSQM091E, which include a reason code that gives more information about the error.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Check for error messages on the console log that might relate to the problem. If *disposition* is QMGR, COPY, or PRIVATE, verify that page set zero is set up correctly; for information about this, see [Page sets](#). If *disposition* is GROUP or SHARED, check whether the coupling facility structure has failed and check that Db2 is available and is not suspended. If the accompanying message is CSQM091E, see [“API 完了コードと理由コード” on page 1123](#) for an explanation of the *mqrc* in that message, and what action to take.

CSQM118I

csect-name keyword(value) QSGDISP(*disposition*) LEVEL IS INCOMPATIBLE

Explanation

The definition level of the specified object is incompatible with that of the queue manager or other members of the queue sharing group.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

For information about migration and compatibility between releases, see [Maintaining and migrating](#).

CSQM119I

csect-name keyword(value) LEVEL IS INCOMPATIBLE

Explanation

The definition level of the specified object is incompatible with that of the queue manager or other members of the queue sharing group.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

For information about migration and compatibility between releases, see [Maintaining and migrating](#).

CSQM120I

csect-name keyword(value) NOT ALLOWED FOR SHARED QUEUE

Severity

8

Explanation

The specified value for the object name or attribute is not allowed for a local queue with a disposition that is shared or a model queue used to create a dynamic queue that is shared.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command correctly.

CSQM121I

csect-name keyword(value) NOT ALLOWED, NOT IN QUEUE SHARING GROUP

Severity

8

Explanation

The specified value for the attribute requires a queue sharing group, but the queue manager is not in a group.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command correctly.

CSQM122I

csect-name 'verb-name object' COMPLETED FOR QSGDISP(*disposition*)

Severity

0

Explanation

Processing for the specified command that refers to an object with the indicated disposition has completed successfully.

System action

A command is generated specifying CMDSCOPE(*) to perform further processing on all queue managers in the queue sharing group. For example, if *disposition* is GROUP, the corresponding processing must be performed for local copies of the group object.

CSQM123I

csect-name 'keyword' VALUE CANNOT BE CHANGED

Severity

8

Explanation

The value for the specified attribute cannot be changed.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

To change the attribute, the object must be deleted and then redefined with the new value.

CSQM124I

csect-name keyword(value) ALLOWED ONLY WITH QSGDISP(disposition)

Severity

8

Explanation

The specified value for the attribute is allowed only for an object that has the indicated disposition.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command correctly.

CSQM125I

csect-name keyword(value) QSGDISP(disposition) WAS NOT FOUND

Severity

8

Explanation

A command was issued that refers to an object that does not exist. That is, no object could be found with the specified name and type (and subtype, for queues and channels) and disposition in the queue sharing group.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Check that you specified the correct name for the object, and the correct subtype (for queues and channels) or channel definition table (for deleting channels). If *disposition* is GROUP or SHARED, check that Db2 is available and is not suspended. Define the object if necessary.

Note:

1. An object of the same name and type, but of a different disposition, might already exist.
2. If you are dealing with a queue or channel object, an object of the same name, but of a different subtype, might already exist.

- Remember that the object might have recently been deleted by someone else, or from another queue manager in the queue sharing group.

CSQM126I

csect-name 'keyword' ONLY APPLICABLE TO LU62 PROTOCOL

Severity

8

Explanation

The named keyword can only be specified when TRPTYPE(LU62) is specified.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command without the named keyword.

CSQM127I

csect-name keyword(value) IS EMPTY OR WRONG TYPE

Severity

8

Explanation

A namelist used to specify a list of clusters has no names in it or does not have type CLUSTER or NONE.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command specifying a namelist that is not empty and has type CLUSTER or NONE.

CSQM128E

csect-name MQPUT FAILED FOR QUEUE *q-name*, MQRC=*mqrc (mqrc-text)*

Severity

8

Explanation

During the processing of a command, an attempt to put a message to the named queue failed for the specified reason.

System action

In general, the command is not actioned. If the command was REFRESH QMGR for configuration events, it might be partially completed as indicated by the preceding CSQM169I messages.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqrc (mqrc-text)* provides the MQRC in textual form). If *mqrc* is 2003, the message could not be committed.

CSQM129I

csect-name keyword(value) HAS WRONG CHANNEL TYPE

Severity

8

Explanation

The command (or the command with the particular disposition) cannot be used with the named channel because it cannot be used for channels of that type.

System action

The command is not actioned.

System programmer response

Check that the correct channel name and disposition was specified on the command. For more information about the command, see [MQSC commands](#).

CSQM130I

csect-name CLUSTER REQUEST QUEUED

Severity

0

Explanation

Initial processing for a command completed successfully. The command requires further action by the cluster repository manager, for which a request was queued.

This message is followed by message CSQ9022I to indicate that the command has completed successfully, in that a request has been sent. It does **not** indicate that the cluster request has completed successfully. Such requests are processed asynchronously by the cluster repository manager; any errors are reported to the z/OS console, not to the command issuer.

System action

A request was queued for the cluster repository manager, which will process it asynchronously.

CSQM131I

csect-name CHANNEL INITIATOR NOT ACTIVE, CLUSTER AND CHANNEL COMMANDS INHIBITED

Severity

8

Explanation

A command was issued that required the channel initiator to be started.

System action

The command is not actioned.

System programmer response

Issue the START CHINIT command to start the channel initiator, and reissue the command.

CSQM132I

csect-name CHANNEL INITIATOR ALREADY ACTIVE

Severity

8

Explanation

The START CHINIT command was issued but the channel initiator is already active.

System action

The command is not actioned.

CSQM133I

csect-name UNABLE TO START CHANNEL INITIATOR

Severity

8

Explanation

A START CHINIT command was issued but the channel initiator could not be started.

This could be for one of the following reasons:

- The system did not allow the channel initiator address space to be created at this time due to a heavy system workload
- There was not enough storage to start the channel initiator address space
- The system tried to obtain more address spaces than the maximum number supported
- The queue manager was quiescing or shutting down.

System action

The command is not actioned.

System programmer response

Reissue the command when the system workload is reduced and when the queue manager is not shutting down.

CSQM134I

csect-name command keyword(value) COMMAND ACCEPTED

Severity

0

Explanation

Initial processing for a command has completed successfully. The command requires further action by the channel initiator, for which a request has been queued. Messages reporting the success or otherwise of the action will be sent to the command issuer subsequently.

System action

A request was queued for the channel initiator. Further messages will be produced when the command has been completed.

CSQM135I

csect-name NO CHANNEL INITIATOR AVAILABLE

Severity

8

Explanation

A command was issued for a shared channel, but there was no suitable channel initiator available for any active queue manager in the queue sharing group. This could be because:

- no channel initiators are running
- the channel initiators that are running are too busy to allow any channel, or a channel of the particular type, to be started

System action

The command is not actioned.

System programmer response

Start a new channel initiator (on an active queue manager where there is no channel initiator running), or try again when there are fewer channels running.

CSQM136I

COMMAND NOT ALLOWED, COMMAND SERVER UNAVAILABLE

Explanation

A command for the channel initiator was entered, but the command server is not running and not enabled so the command cannot be processed.

System action

The command is not actioned.

System programmer response

Use the START CMDSERV command to start the command server, and reissue the command.

CSQM137I

csect-name command keyword COMMAND ACCEPTED

Severity

0

Explanation

Initial processing for a command has completed successfully. The command requires further action by the channel initiator, for which a request has been queued. Messages reporting the success or otherwise of the action will be sent to the command issuer subsequently.

System action

A request was queued for the channel initiator. Further messages will be produced when the command has been completed.

CSQM138I

csect-name CHANNEL INITIATOR STARTING

Severity

0

Explanation

A START CHINIT command was issued and the channel initiator address space has been started successfully.

System action

Further messages will be produced when the channel initiator itself has started.

CSQM139I

csect-name INDXTYPE(MSGTOKEN) NOT ALLOWED FOR TEMPORARY DYNAMIC QUEUE

Severity

8

Explanation

An attempt was made to define or alter a temporary-dynamic queue from which messages could be retrieved using message tokens. This combination is not allowed.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command with correct values.

CSQM140I

csect-name 'keyword' NOT ALLOWED WITH TRPTYPE(*value*)

Severity

8

Explanation

The named keyword cannot be used on a START LISTENER command for the transport type shown.

System action

The command is not actioned.

System programmer response

Reissue the command with the correct keywords.

CSQM141I

csect-name 'LUNAME' REQUIRED WITH TRPTYPE(LU62)

Severity

8

Explanation

A START LISTENER command was issued specifying TRPTYPE(LU62) but without the LUNAME keyword. The LUNAME keyword is required with TRPTYPE(LU62).

System action

The command is not actioned.

System programmer response

Reissue the command with the correct keywords.

CSQM142I

csect-name CLUSTER(*cluster-name*) REPOSITORY IS NOT ON THIS QUEUE MANAGER

Severity

8

Explanation

A RESET CLUSTER command was issued, but the queue manager does not provide a full repository management service for the specified cluster. That is, the REPOS attribute of the queue manager is not *cluster_name*, or the namelist specified by the REPOSNL attribute of the queue manager does not contain *cluster_name* or is not of type CLUSTER or NONE.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command with the correct values or on the correct queue manager.

CSQM143I

csect-name CLUSTER TOPICS INHIBITED DUE TO PSCLUS(DISABLED)

Severity

8

Explanation

An attempt was made to define a cluster topic when the PSCLUS queue manager attribute is set to DISABLED.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

To enable publish/subscribe clustering, alter the PSCLUS attribute on all queue managers in the cluster to ENABLED.

CSQM144I

csect-name keyword(value) CANNOT BE A CLUSTER QUEUE

Severity

8

Explanation

An attempt was made to define or alter a queue to make it part of a cluster. This is not allowed if the queue is dynamic or is one of the following reserved queues:

- SYSTEM.CHANNEL.INITQ
- SYSTEM.CHANNEL.SYNCQ
- SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE
- SYSTEM.CLUSTER.REPOSITORY.QUEUE
- SYSTEM.COMMAND.INPUT
- SYSTEM.QSG.CHANNEL.SYNCQ
- SYSTEM.QSG.TRANSMIT.QUEUE

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command with the correct values.

CSQM145I

csect-name 'keyword' VALUE REQUIRED FOR SHARED QUEUE

Severity

8

Explanation

A non-blank value must be specified for the named keyword for a local queue with a disposition that is shared or a model queue used to create a dynamic queue that is shared.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command with a value for the keyword added.

CSQM146I

csect-name keyword(value) VALUE IS REPEATED

Severity

8

Explanation

A keyword was entered that takes a list of values, and the named value appears more than once in the list.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Reissue the command with the parameter specified correctly. For more information about the command, see [MQSC commands](#).

CSQM147I

csect-name 'keyword1' AND 'keyword2' VALUES MUST BOTH BE BLANK OR NON-BLANK

Severity

8

Explanation

An attempt was made to define or alter an object so that it had a blank value for one of the specified keywords and a non-blank value for the other. Both of those values must either be blank or non-blank.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command with correct values.

CSQM148I

csect-name 'keyword' NOT ALLOWED WITH TYPE 'value'

Severity

8

Explanation

The named keyword cannot be specified for queues or channels of the type shown.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command without the named keyword.

CSQM149I

csect-name 'keyword' REQUIRED WITH TYPE 'value'

Severity

8

Explanation

The named keyword was not specified but is required for queues or channels of the type shown.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command with the named keyword added.

CSQM150I

csect-name 'keyword1' AND 'keyword2' VALUES ARE INCOMPATIBLE

Severity

8

Explanation

An attempt was made to define or alter an object so that it had incompatible values for the specified keywords.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command with correct values. For information about the restrictions on the values for the keywords, see [MQSC commands](#).

CSQM151I

csect-name 'keyword1' AND 'keyword2' VALUES CANNOT BOTH BE NON-BLANK

Severity

8

Explanation

An attempt was made to define or alter an object so that it had non-blank values for both of the specified keywords. At most one of those values can be non-blank.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command with correct values.

CSQM152I

csect-name USAGE(XMITQ) NOT ALLOWED FOR CLUSTER QUEUE

Severity

8

Explanation

An attempt was made to define or alter a queue so that it was both a transmission queue and in a cluster. This is not allowed.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command with correct values.

CSQM153E

csect-name Db2 NOT AVAILABLE

Severity

8

Explanation

Because Db2 is not available or no longer available, the queue manager cannot handle the command for a CF structure or shared channel.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Use the preceding messages on the z/OS console to investigate why Db2 is not available, and resume the connection or restart Db2 if necessary.

CSQM154E

csect-name ERROR ACCESSING Db2

Severity

8

Explanation

Because there was an error in accessing Db2, the queue manager cannot handle the command for a CF structure or shared channel.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Resolve the error reported in the preceding messages.

CSQM155I

csect-name STATUS(STOPPED) NOT ALLOWED WITH QMNAME OR CONNAME

Severity

8

Explanation

An attempt was made to stop a channel using STATUS(STOPPED), but a queue manager name or connection name was also specified. This is not allowed.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command with correct values.

CSQM156I

csect-name INDXTYPE(GROUPID) NOT ALLOWED FOR *keyword(value)*

Severity

8

Explanation

An attempt was made to define or alter a queue with a reserved name so that it had an index type of GROUPID. This is not allowed.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command with correct values.

CSQM157E

csect-name NO SPACE FOR *keyword(value)*

Severity

8

Explanation

An IBM MQ DEFINE CFSTRUCT command failed because no more application structures are available in the coupling facility (the limit is 63).

System action

The command is not actioned.

System programmer response

Reduce the number of application structures you are using.

CSQM158I

csect-name RECOVER(YES) NOT ALLOWED WITH CFLEVEL(*value*)

Severity

8

Explanation

An attempt was made to define or alter a CF structure to support recovery, but the level of the CF structure was less than 3. This is not allowed.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command with correct values. You cannot alter the level of a CF structure; you must delete the structure and then redefine it.

CSQM159I

csect-name verb-name object(obj-name) NOT ALLOWED, INCOMPATIBLE QUEUE MANAGER
CMDLEVELS

Severity

8

Explanation

An attempt was made to alter the CF level of a CF structure, or to delete the structure. This action requires that all queue managers in the queue sharing group must have a certain command level. Some of the queue managers have a lower level.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Ensure all the queue managers in the queue sharing group have the appropriate command level. For information about restrictions on the command, see [MQSC commands](#).

CSQM160I

csect-name keyword(value) IS NOT UNIQUE

Severity

8

Explanation

A command was issued that refers to an object that exists with more than one disposition in the queue sharing group, so the object to be used cannot be determined.

System action

The command is not executed.

System programmer response

Delete one of the objects.

CSQM161I

csect-name QUEUE ATTRIBUTES ARE INCOMPATIBLE

Severity

8

Explanation

A MOVE QLOCAL command was issued, but the queues involved have different values for one or more of these attributes: DEFTYPE, HARDENBO, INDXTYPE, USAGE. Messages cannot be moved safely if these attributes differ.

System action

The command is not executed.

System programmer response

Check that the queue names have been entered correctly. Change the queue attributes as necessary.

CSQM162I

csect-name keyword(value) MAXDEPTH IS TOO SMALL

Severity

8

Explanation

A MOVE QLOCAL command was issued, but the MAXDEPTH attribute value for the target queue is too small to allow all the messages to be moved.

System action

The command is not executed.

System programmer response

Change the MAXDEPTH value for the queue.

CSQM163I

csect-name ERROR USING keyword(value), MQRC=mqrc (mqrc-text)

Severity

8

Explanation

During the processing of a MOVE QLOCAL command, an attempt to open the named queue or to get or put a message for it failed for the specified reason. For example, a put to the target queue will fail if a message is too long.

System action

The command stops processing. If some messages have already been moved and committed, they will remain on the target queue; the rest of the messages will not be moved.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form), and take the appropriate action to resolve the problem.

CSQM164I

csect-name keyword(value) HAS MESSAGES ASSOCIATED WITH IT

Severity

8

Explanation

A MOVE QLOCAL command was issued specifying TYPE(MOVE), the target queue already has messages associated with it.

System action

The command is not executed.

System programmer response

Check that the queue name was entered correctly. Determine if it is safe to add messages to the queue, then reissue the command using the TYPE(ADD) option.

CSQM165I

csect-name *n* MESSAGES MOVED

Severity

0

Explanation

A MOVE QLOCAL command was issued, and moved the indicated number of messages.

If the command completed successfully and moved all the messages on the queue, this confirms the number moved. If an error occurred while moving the messages, this shows how many messages were successfully moved to the target queue and committed.

System action

Processing continues.

System programmer response

If the command did not complete successfully, as shown by the following CSQ9023E message, investigate the problem reported in the preceding messages.

CSQM166I

csect-name *keyword(value)* NOT AUTHORIZED

Severity

8

Explanation

You do not have proper authorization to use the command for the specified object.

System action

The command is not executed for that object.

System programmer response

Check that the object name was entered correctly. If required, arrange for someone who is authorized to use the object to issue the command for you, or get the necessary authority granted to you.

CSQM167I

csect-name PERFORMANCE EVENTS DISABLED

Severity

8

Explanation

A command was issued that required performance events to be enabled.

System action

The command is not executed.

System programmer response

Use the ALTER QMGR command to set the PERFMEV attribute to ENABLED if performance events are required.

CSQM168I

csect-name CONFIGURATION EVENTS DISABLED

Severity

8

Explanation

A command was issued that required configuration events to be enabled.

System action

The command is not executed.

System programmer response

Use the ALTER QMGR command to set the CONFIGEV attribute to ENABLED if configuration events are required.

CSQM169I

csect-name object-type OBJECTS: *m* FOUND, *n* EVENTS GENERATED

Severity

0

Explanation

A REFRESH QMGR command was issued for configuration events. *m* objects of the indicated type were found that matched the specified selection criteria (such as name or time of alteration), and *n* event messages were generated. The number of event messages might be less than the number of objects found because certain objects might be excluded, such as temporary dynamic queues or objects in the process of being deleted. It might also be less than the number of objects found if there was a problem with the event queue.

System action

Processing continues.

System programmer response

If *n* is less than *m*, but message CSQ9022I follows these messages to indicate that the command completed successfully, no action is needed. Otherwise, investigate the problem with the event queue as reported in the preceding messages.

CSQM170I

csect-name REFRESHING CONFIGURATION EVENTS SINCE *date time*

Severity

0

Explanation

A REFRESH QMGR command was issued for configuration events specifying a refresh interval with the INCLINT keyword. Event messages will be generated for all objects with an alteration date and time later than *date time* (provided they match any other specified selection criteria, such as name or type). However, event messages will not be generated for objects deleted after that time.

CSQM171I

csect-name CONFIGURATION EVENTS REFRESH NEEDED

Severity

0

Explanation

An ALTER QMGR command was issued that enables configuration events. Event messages need to be generated to ensure that the configuration information is complete and up to date.

System action

Processing continues.

System programmer response

If complete configuration information is required, do one of the following, as appropriate:

- If this is the first time that configuration events have been enabled, use the REFRESH QMGR TYPE(CONFIGEV) command to generate configuration events for **all** objects. If you have many objects, it may be preferable to use several such commands each with a different selection of objects, but such that all are included.
- Otherwise, use the REFRESH QMGR TYPE(CONFIGEV) command to generate events to replace those that were not generated while configuration events were disabled; specify the INCLINT parameter to cover this period.

CSQM172I

csect-name 'keyword' NOT ALLOWED WITH TYPE(*value*)

Severity

8

Explanation

The named keyword cannot be specified with the TYPE value shown.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command without the named keyword.

CSQM173I

csect-name EXPIRED MESSAGE SCAN REQUESTED FOR *m* QUEUES

Severity

0

Explanation

A REFRESH QMGR command was issued for expired message scanning. *m* queues were found that matched the specified selection criteria.

System action

Processing continues.

CSQM174E

csect-name 'keyword' is not allowed with CFLEVEL(*cflevel*) - this keyword requires CFLEVEL(5)

Severity

8

Explanation

An attempt was made to define or alter the value of a structure attribute related to SMDS, but the level of the structure was less than CFLEVEL(5). This is not allowed.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Issue the command again with correct values. You cannot alter the level of a CF structure; you must delete the structure, and then define it again.

CSQM175E

csect-name 'keyword' cannot be altered because a data set is currently active for this structure

Severity

8

Explanation

The keywords DSGROUP and DSBLOCK can only be altered before the first data set has been allocated for the structure. Once an SMDS data set has become active for this structure then these attribute values cannot be changed.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Verify the command entry and reissue the command correctly.

CSQM176E

csect-name SMDS cannot currently be reset to *keyword(value)*

Severity

8

Explanation

A **RESET SMDS** command requested a change of status which is not compatible with the existing status.

- The option **STATUS(FAILED)** is only allowed when the current status is **ACTIVE** or **RECOVERED** (or already **FAILED**, in which case the command has no effect).
- The option **STATUS(RECOVERED)** is only allowed when the current status is **FAILED** (or already **RECOVERED**).

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Verify the command entry, and reissue the command correctly.

CSQM177I

csect-name 'keyword' NOT ALLOWED WITH ACTION '*value*'

Severity

8

Explanation

The named keyword cannot be specified for channel authentication settings of the action shown.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command without the named keyword.

CSQM178I

csect-name ACTION NOT ALLOWED FOR CHANNEL *channel-type(channel-name)*

Severity

8

Explanation

The MATCH(RUNCHECK) action that you requested cannot be performed on the channel with the specified parameters. This may be because either: -

- The channel is a SVRCONN and the QMNAME parameter was supplied.
- The channel is not a SVRCONN and the CLNTUSER parameter was supplied

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Either correct the specified parameters or alter the channel to the appropriate channel type and then reissue the command.

CSQM179I

csect-name CHANNEL WILL RUN USING MCAUSER(*userid*)

Severity

0

Explanation

No matching channel authentication (CHLAUTH) records were found that match the given fields.

Note:

1. The returned MCAUSER value does not take into account possible actions by a channel security exit.
2. Channel authentication rules that match the host name apply only if the queue manager REVDNS attribute is enabled and the DNS server returns a valid host name for the IP address.

CSQM181I

csect-name INSUFFICIENT STORAGE TO COMPLETE COMMAND

Severity

8

Explanation

There was insufficient storage available to complete processing for the command.

System action

The command terminates. Any processing already completed may be retained or backed out.

System programmer response

Refer to the accompanying messages to determine what processing has been done. Retry the command, if appropriate, when your queue manager is less busy. If the problem persists, you might need to increase the region size used by your queue manager, or you might need to reduce the number of jobs running in your system.

CSQM182E

csect-name DURABLE SUBSCRIPTIONS NOT ALLOWED

Severity

8

Explanation

A DEFINE SUB command was issued, but it was not possible to make a durable subscription.

This could be for one of the following reasons:

- The topic subscribed to is defined as DURSUB(NO)
- The queue named SYSTEM.DURABLE.SUBSCRIBER.QUEUE is not available
- The CSQINP2 data sets are in the wrong order, the order is:

```
//CSQINP2 DD DSN=h1q.SCSQPROC(CSQ4INYS),DISP=SHR // DD
```

```
DSN=h1q.SCSQPROC(CSQ4INSX),DISP=SHR
//          DD DSN=h1q.SCSQPROC(CSQ4INSG),DISP=SHR
```

System action

The command is not executed.

System programmer response

Durable subscriptions are stored on the SYSTEM.DURABLE.SUBSCRIBER.QUEUE. Ensure that this queue is available for use. Possible reasons for failure include the queue being full, the queue being put inhibited, or the queue not existing.

If the topic subscribed to is defined as DURSUB(NO) then it is not possible to administratively define a subscription. The topic can be altered to DURSUB(YES) to enable the subscription to be defined.

CSQM183E

csect-name SUBSCRIPTION INHIBITED

Severity

8

Explanation

A DEFINE SUB command was issued, but it was not possible to make a subscription because the topic subscribed to is defined as SUB(DISABLED).

System action

The command is not executed.

System programmer response

If the topic subscribed to is defined as SUB(DISABLED) then it is not possible to administratively define a subscription. The topic can be altered to SUB(ENABLED) to enable the subscription to be defined.

CSQM184I

csect-name 'keyword1' AND 'keyword2' VALUES CANNOT BOTH BE BLANK

Severity

8

Explanation

An attempt was made to define or alter an object so that it had blank values for both of the specified keywords. One of those values must be provided.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command with correct values.

CSQM185E

csect-name SUBSCRIPTION HAS FIXED SUBUSER

Severity

8

Explanation

An ALTER SUB command was issued, but it was not possible to ALTER the target subscription because the userid performing the ALTER did not match the SUBUSER attribute of the subscription and the subscription has had the VARUSER(FIXED) attribute set.

System action

The command is not executed.

System programmer response

The subscription can be altered only by the owning userid that is displayed in the SUBUSER attribute.

CSQM186E

csect-name DESTCLAS VALUE CANNOT BE ALTERED

Severity

8

Explanation

An ALTER SUB command was issued, but it was not possible to ALTER the target subscription because the DESTCLAS attribute specified on the request did not match the one in the existing subscription. DESTCLAS cannot be altered.

System action

The command is not executed.

System programmer response

Ensure that the DESTCLAS attribute matches the existing subscription and rerun the request.

CSQM187E

csect-name GROUPING VALUE CANNOT BE ALTERED

Severity

8

Explanation

An ALTER SUB command was issued, but it was not possible to ALTER the target subscription because the GROUPING attribute specified on the request did not match the one in the existing subscription. GROUPING attributes cannot be altered.

System action

The command is not executed.

System programmer response

Ensure that the GROUPING attribute matches the existing subscription and rerun the request.

CSQM188E

csect-name SUBSCOPE VALUE CANNOT BE ALTERED

Severity

8

Explanation

An ALTER SUB command was issued, but it was not possible to ALTER the target subscription because the SUBSCOPE attribute specified on the request did not match the one in the existing subscription. SUBSCOPE cannot be altered.

System action

The command is not executed.

System programmer response

Ensure that the SUBSCOPE attribute matches the existing subscription and rerun the request.

CSQM189E

csect-name SELECTOR VALUE CANNOT BE ALTERED

Severity

8

Explanation

An ALTER SUB command was issued, but it was not possible to ALTER the target subscription because the SELECTOR attribute specified on the request did not match the one in the existing subscription. SELECTOR cannot be altered.

System action

The command is not executed.

System programmer response

Ensure that the SELECTOR attribute matches the existing subscription and rerun the request.

CSQM190E

csect-name TOPIC STRING IS INVALID

Severity

8

Explanation

A DEFINE SUB command was issued, but it was not possible to make a subscription because the topic string was invalid.

This could be because the WSCHEMA attribute was set to CHAR and either:

- The TOPICSTR attribute contains an invalid escape character, or
- The TOPICOBJ attribute refers to a TOPIC object with a TOPICSTR attribute that contains an invalid escape character.

System action

The command is not executed.

System programmer response

Correct the TOPICSTR attribute on the **DEFINE SUB** command to correctly use escape characters. If the problem is with the TOPICSTR in a TOPIC object, correct that TOPIC object or refer to a different TOPIC object. If the TOPICSTR needs to use the characters in that way, set the WSCHEMA attribute to *TOPIC* to avoid errors with escape characters.

CSQM191E

csect-name TOPIC STRING CANNOT BE ALTERED

Severity

8

Explanation

A DEFINE TOPIC command using the REPLACE keyword was issued, providing a value for TOPICSTR that was different from the value in the existing object. This is not allowed.

System action

The command is not executed.

System programmer response

Reissue the command with correct values. You cannot alter the topic string in a topic object; you must delete the object and then redefine it.

CSQM192I

csect-name Address '*address*' is invalid.

Severity

8

Explanation

The IP address or host name *address* contains invalid characters.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command with the parameter specified correctly. Note that the BLOCKADDR list may contain only IP addresses: host name addresses are not permitted.

CSQM193I

csect-name IP address '*ipaddress*' contains an invalid range.

Severity

8

Explanation

The IP address *ipaddress* contains an invalid range. For example, the lower number is greater than or equal to the upper number for the range.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command with the parameter specified correctly.

CSQM194I

csect-name IP address '*ipaddress1*' overlaps existing IP address '*ipaddress2*'.

Severity

8

Explanation

The IP address *ipaddress1* overlaps with an existing IP address *ipaddress2*. For example, addresses 1.2.3.4-7 and 1.2.3.6-8 overlap.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command with the parameter specified correctly.

CSQM195I

csect-name MATCH RUNCHECK FOUND A GENERIC VALUE IN *field-name*

Severity

8

Explanation

A DISPLAY **CHLAUTH** command was issued using the MATCH(RUNCHECK) parameter and the *field-name* parameter was found to contain a generic value, which is not allowed.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command with a value in *field-name* which is not generic.

CSQM196I

csect-name REQUIRED KEYWORD MISSING FOR *keyword(value)*

Severity

8

Explanation

A required additional keyword was not specified in conjunction with *keyword (value)*.

This message can be returned in the following scenarios:

- A **DISPLAY CHLAUTH** command, specifying **MATCH(RUNCHECK)** did not specify the **ADDRESS** keyword or one of the keywords **CLNTUSR** or **QMNAME**.
- A **SET CHLAUTH** command, the **MCAUSER** is missing when **USERSRC(MAP)** is specified or **USERSRC** is missing as **USERSRC(MAP)** is the default.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command specifying one of the required keywords

CSQM197I

csect-name 'keyword' NOT ALLOWED WITH MATCH '*value*'

Severity

8

Explanation

The named keyword cannot be specified for **DISPLAY CHLAUTH** in conjunction with the identified value for the **MATCH** keyword.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command without the named keyword.

CSQM198I

csect-name CHANNEL AUTHENTICATION PROFILE NAME IS INVALID

Severity

8

Explanation

The channel profile name used in the command was not valid.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Check that the characters entered for the profile are valid and reissue the command. If TYPE(BLOCKADDR) is specified, check that CHLAUTH('*') is also specified

CSQM199I

csect-name CFCONLOS (TOLERATE) NOT ALLOWED, INCOMPATIBLE QUEUE MANAGER CMDLEVELS

Severity

8

Explanation

An attempt was made to change the **CFCONLOS** queue manager attribute to a value of **TOLERATE**, which enables toleration of loss of connectivity to Coupling Facility structures. This action requires that all queue managers in the queue sharing group must have a command level of at least 710. Some of the queue managers have a lower level.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Ensure all the queue managers in the queue sharing group have the appropriate command level. For information about restrictions on the command, see [MQSC commands](#).

CSQM201I

```
csect-name verb-name obj-type DETAILS
```

Severity

0

Explanation

This message is the response to a command that displays attributes or other information about objects, when that command was entered from either the console, or the command server initialization server. It shows the attributes requested for *obj-type*, as follows:

```
obj-type(name) attribute-value attribute-value : END obj-type DETAILS
```

See the specific [command](#) for details of the attributes and values.

csect-name might include the command prefix (CPF), depending on how the command was entered.

Exceptionally, the last line might be:

```
obj-type TERMINATED WITH MAX LINES
```

if the number of lines allowed in a multiple line WTO to be issued on the console (255) was exceeded. This figure includes the first and last lines of the display. The only object that might cause this message is *namelist* because displaying a complete *namelist* would require 263 lines in total. (This only occurs when the command was issued from the console.) For details of the fields reported, see the command description.

CSQM224I

```
csect-name verb-name obj-type DETAILS - CURRENTLY DISABLED
```

Severity

0

Explanation

This message is issued instead of CSQM201I for channel authentication (CHLAUTH) records if the CHLAUTH queue manager attribute has been set to **DISABLED**.

See the explanation of message CSQM201I for more information.

CSQM292I

```
csect-name PUBLISH/SUBSCRIBE ENGINE IS DISABLED
```

Severity

0

Explanation

The publish/subscribe engine is unavailable because it has been disabled.

System action

The command is actioned, but no results are returned because the publish/subscribe engine has been disabled.

System programmer response

This message occurs because you are attempting to query the publish/subscribe engine but you have disabled it. To use the publish/subscribe engine, set the PSMODE queue manager attribute to a value other than DISABLED.

CSQM293I

csect-name m obj-type FOUND MATCHING REQUEST CRITERIA

Severity

0

Explanation

A command that displays attributes or other information about objects has been issued. *m* objects were found that matched the specified selection criteria.

System action

For each object found, a message follows giving its details.

CSQM294I

csect-name CANNOT GET INFORMATION FROM DB2

Severity

8

Explanation

While processing a command that displays attributes or other information about objects with a disposition of GROUP or SHARED, information could not be obtained from Db2. This might be because Db2 is not available or no longer available, or because it is suspended, or because there was an error in accessing Db2, or because a Db2 table was temporarily locked.

System action

Information about objects with a disposition of GROUP or SHARED is not displayed, so the information displayed might therefore be incomplete.

System programmer response

Refer to the console log for messages giving more information about the error.

CSQM295I

csect-name UNEXPECTED ERROR DURING DISPLAY

Severity

8

Explanation

A severe error occurred while processing a command that displays attributes or other information about objects.

System action

The command is terminated.

System programmer response

Refer to the console log for messages giving more information about the error.

CSQM297I

csect-name NO *item* FOUND MATCHING REQUEST CRITERIA

Severity

0

Explanation

A command that displays attributes or other information about objects or runtime status found that there are no items that match the specified name and satisfy any other criteria requested (such as subtype or disposition in a queue sharing group).

CSQM298I

csect-name TOTAL MESSAGE LENGTH ALLOWED ON CONSOLE EXCEEDED

Severity

8

Explanation

The total message length for the command allowed on the console (32 K) was exceeded.

System action

The command is actioned, but the display of the command is terminated.

System programmer response

This error occurs if a command that displays attributes or other information about objects is entered using a generic name (for example, DIS Q(*) ALL), and the total amount of data to be displayed exceeds 32 K. To avoid this problem, try to be more selective about the information requested (for example, DIS Q(PAY*) ALL).

CSQM299I

csect-name INSUFFICIENT STORAGE TO COMPLETE DISPLAY

Severity

8

Explanation

There was insufficient storage available to complete processing of a command that displays attributes or other information about objects.

System action

The command is actioned, but the display of the information is terminated before completion. The data returned is a subset of the requested information. Refer to message CSQM293I, which indicates how many objects have information returned. The message does not indicate how many matching objects were found.

System programmer response

If this error occurs when a generic name is used in the command (for example, DIS QUEUE(*) ALL), try to be more selective about the information requested (for example, DIS QUEUE(PAY*) ALL). If the problem persists, you might need to increase the region size used by your queue manager or channel initiator, or you might need to reduce the number of jobs running in your system.

CSQM4nnI

object details

Severity

0

Explanation

This message consists of the entire object or object status details formatted for use by applications. It is issued in response to commands entered from the command server. Message CSQ9022I follows this message.

The message number depends on the object or object status type, as follows:

Table 13. Mapping message numbers to object or status types

Number	Object or status type
CSQM400I	Storage class object
CSQM401I	Local queue object
CSQM402I	Model queue object
CSQM403I	Alias queue object
CSQM406I	Remote queue object
CSQM407I	Namelist object
CSQM408I	Process object
CSQM409I	Queue manager object
CSQM410I	Sender channel object
CSQM411I	Server channel object
CSQM412I	Receiver channel object
CSQM413I	Requester channel object
CSQM415I	Server-connection channel object
CSQM416I	Client-connection channel object
CSQM417I	Cluster-receiver channel object
CSQM418I	Cluster-sender channel object
CSQM420I	Sender channel status
CSQM421I	Server channel status
CSQM422I	Receiver channel status
CSQM423I	Requester channel status
CSQM425I	Server-connection channel status
CSQM427I	Cluster-receiver channel status
CSQM428I	Cluster-sender channel status
CSQM430I	CF structure object
CSQM431I	Cluster queue object
CSQM437I	Authentication information object
CSQM438I	Topic object
CSQM439I	Cluster queue manager object
CSQM440I	CF structure status
CSQM441I	Local queue status
CSQM442I	Connection information
CSQM443I	Topic status
CSQM444I	Subscription
CSQM445I	Subscription status

<i>Table 13. Mapping message numbers to object or status types (continued)</i>	
Number	Object or status type
CSQM446I	Publish/Subscribe status
CSQM451I	Local queue statistics
CSQM452I	Shared message data set
CSQM453I	Shared message data set connection
CSQM454I	Channel authentication record

CSQM500I

csect-name GROUPUR agent starting TCB=*tcb-name*

Severity

0

Explanation

The group unit of recovery (GROUPUR) agent was started during the initialization of a queue manager that is in a queue sharing group. The agent uses TCB *tcb-name*.

The GROUPUR agent monitors the SYSTEM.QSG.UR.RESOLUTION.QUEUE to process requests from other queue managers within the QSG.

System action

Processing continues. The GROUPUR agent is started.

CSQM501I

csect-name GROUPUR agent stopping

Severity

4

Explanation

The group unit of recovery (GROUPUR) agent is stopping because of one the following reasons:

- the queue manager is stopping
- it was unable to recover from an IBM MQ API error or an abnormal ending

System action

The GROUPUR agent stops.

If the agent has stopped due to an error it will be automatically restarted.

System programmer response

If the queue manager is not stopping, investigate the cause of the error as reported in the preceding messages.

CSQM502I

csect-name processed BACKOUT request from *qmgr-name* for in-doubt UOW, URID=*urid*, CONNECTION-NAME=*name*

Severity

0

Explanation

This message is generated during queue manager startup when the GROUPUR agent has processed a message on the SYSTEM.QSG.UR.RESOLUTION.QUEUE from another queue manager in the queue sharing group requesting that the specified UOW be backed out.

System action

Processing continues.

CSQM503I

csect-name processed COMMIT request from *qmgr-name* for in-doubt UOW, URID=*urid*,
CONNECTION-NAME=*name*

Severity

0

Explanation

This message is generated during queue manager startup when the GROUPUR agent has processed a message on the SYSTEM.QSG.UR.RESOLUTION.QUEUE from another queue manager in the queue sharing group requesting that the specified UOW be committed.

System action

Startup continues.

CSQM504I

csect-name GROUPUR support enabled

Severity

0

Explanation

This message is generated during queue manager startup, or in response to an ALTER QMGR command, if the GROUPUR queue manager attribute is enabled and all of the configuration checks performed by the GROUPUR agent are satisfied.

System action

The queue manager permits applications to establish transactions with a GROUP unit of recovery disposition.

CSQM505I

csect-name GROUPUR support disabled

Severity

0

Explanation

This message is generated during queue manager startup or in response to an ALTER QMGR command if the GROUPUR queue manager attribute is disabled.

System action

The queue manager inhibits applications from establishing transactions with a GROUP unit of recovery disposition.

CSQM506I

csect-name GROUPUR qmgr attribute has been disabled CODE=*code*

Severity

4

Explanation

This message is generated at queue manager startup if the GROUPUR queue manager attribute is enabled but one of the configuration checks performed by the GROUPUR agent failed. CODE=*code* contains an identifier indicating which configuration check failed.

System action

The GROUPUR queue manager attribute is disabled.

System programmer response

The system programmer should use the code specified to identify what configuration check failed. If support for group units of recovery is required, they should take corrective action and then re-enable the GROUPUR queue manager attribute.

CSQM507E

csect-name GROUPUR qmgr attribute was not enabled CODE=*code*

Severity

8

Explanation

This message is generated in response to an ALTER QMGR command if an attempt to enable the GROUPUR queue manager attribute fails because one of the configuration checks performed by the GROUPUR agent are not satisfied. CODE=*code* contains an identifier indicating which configuration check failed.

System action

The GROUPUR queue manager attribute remains disabled and the ALTER QMGR command fails.

System programmer response

The system programmer should use the code specified to identify what configuration check failed. They should then take corrective action and then re-issue the ALTER QMGR command.

When you enable group units of recovery (GROUPUR support) a number of configuration checks are performed to ensure the configuration steps have been completed. You cannot enable this support if any of these checks fail.

These checks are also performed at queue manager startup if GROUPUR queue manager attribute is enabled. If one of these checks fails during startup then group units of recovery will be disabled until you correct the error and re-enable the GROUPUR queue manager attribute.

If a check fails it will be identified with a return code (number). You can use this code to identify the failing check using the following list:

1. This queue manager is not a member of a queue sharing group.
2. The SYSTEM.QSG.UR.RESOLUTION.QUEUE does not exist.
3. The SYSTEM.QSG.UR.RESOLUTION.QUEUE does not support persistent messages.
4. The SYSTEM.QSG.UR.RESOLUTION.QUEUE is not indexed by correlation ID.
5. The SYSTEM.QSG.UR.RESOLUTION.QUEUE does not reside on the system application coupling facility structure, CSQSYSAPPL.
6. The queue manager name is the same as the name of the queue sharing group.

CSQM508E

csect-name GROUPUR agent ended abnormally. Restarting

Severity

8

Explanation

The group unit of recovery (GROUPUR) agent has ended abnormally because a severe error occurred, as reported in the preceding messages.

System action

The group unit of recovery (GROUPUR) agent attempts to restart a number of times. If it fails persistently, it terminates.

System programmer response

Ensure the CFSTRUCT called CSQSYSAPPL is configured for GROUPUR operation. See [Enabling GROUP units of recovery](#).

Investigate the reason for the abnormal termination, as reported in the preceding messages.

CSQM520I

csect-name PSCLUS CANNOT BE ALTERED, CLUSTER TOPICS EXIST

Severity

8

Explanation

An attempt was made to set the PSCLUS queue manager attribute to DISABLED, indicating that Publish/Subscribe activity is not expected in this cluster between queue managers, but a cluster topic exists so the setting cannot be modified.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

To disable publish/subscribe clustering delete all cluster topic objects before altering the PSCLUS attribute on all queue managers in the cluster to DISABLED.

CSQM521I

csect-name CLCHNAME MUST BE BLANK FOR DYNAMIC QUEUE

Severity

8

Explanation

An attempt was made to define or alter a dynamic queue with a non blank value for the CLCHNAME attribute, which is not allowed.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command with compatible attribute values.

CSQM522I

csect-name NOSHARE NOT ALLOWED WITH NON-BLANK CLCHNAME

Severity

8

Explanation

An attempt was made to define or alter a queue with a non-blank value for the CLCHNAME attribute, but NOSHARE was specified or implied.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command, specifying either SHARE or a blank value for the CLCHNAME attribute.

CSQM523I

csect-name CLUSTER OR CLROUTE CANNOT CURRENTLY BE ALTERED

Severity

8

Explanation

An attempt was made to alter an administered topic that is currently in a named cluster. While a topic is in a cluster it is not permitted to modify the CLROUTE attribute, or to modify the CLUSTER attribute to an alternative cluster name if CLROUTE is set to TOPICHOST.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

To alter the CLROUTE or CLUSTER attribute, perform the following actions:

1. Quiesce publish/subscribe messaging for the topic.
2. Remove the topic from the cluster by setting the value of the CLUSTER attribute to blank.
3. Set the CLROUTE and CLUSTER attributes to their required value once the topic has been removed from the cluster.
4. Resume publish/subscribe messaging once the change is visible in the cluster and the queue manager has received proxy subscriptions for any remote subscriptions.

CSQM524I

csect-name CLROUTE CONFLICT DETECTED FOR CLUSTER TOPIC

Severity

8

Explanation

An attempt was made to define a cluster topic but the value of the CLROUTE attribute conflicts with an existing topic, either above or below it, in the topic tree.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Review the cluster routing requirements for the topic tree, then correct and reissue the command.

CSQM525I

csect-name obj-type(obj-name) DOES NOT EXIST OR IS DEFINED INCORRECTLY

Severity

8

Explanation

The queue manager could not complete a requested operation because an object named *obj-name* of type *obj-type* does not exist or is defined incorrectly.

System action

Processing of the operation is terminated.

System programmer response

Check the object has been defined correctly, then try the operation again.

For information on how to define system objects, see [Sample definitions supplied with IBM MQ](#).

If this message has been issued for the model queue SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.MODEL.QUEUE, and the queue has been defined, ensure it has the following attributes:

- The **USAGE** attribute must be set to **XMITQ**
- The **QSGDISP** attribute must not be **SHARED**

- The **DEFTYPE** attribute must be set to **PERMDYN**
- The **INDXTYPE** attribute must be set to **CORRELID**
- The **SHARE** attribute must be set

CSQM526I

csect-name CERTIFICATE LABEL NOT ALLOWED FOR SSLv3 CHANNEL

Severity

8

Explanation

An attempt was made to specify a certificate label for an inbound channel that uses a SSL v3 CipherSpec, which is not allowed. Certificate labels for inbound channels are only supported for TLS channels.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

If you need to configure a certificate label, alter the channel to use a TLS CipherSpec.

CSQM527E

csect-name attribute(value) NOT ALLOWED WITH CHANNEL TYPE *channel-type*

Severity

8

Explanation

An attempt was made to specify a channel attribute value combination which is not applicable for the specified channel type.

Either SPLPROT(ASPOLICY) was specified on a channel with CHLTYPE SDR or SVR, or SPLPROT(REMOVE) was specified on a channel with CHLTYPE RCVR or RQSTR. These combinations are not valid.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Ensure a valid attribute and value combination is specified for the respective channel type. For more information, see [SPLPROT](#) under the DEFINE CHANNEL command.

CSQM528E

SSLCIPH(*cipher specification name*) is not supported

Severity

8

Explanation

The specified cipher specification name is not supported by the queue manager.

System action

An attempt to define or alter a channel definition fails.

System programmer response

Refer to [CipherSpecs order in TLS handshake](#) for a list of supported cipher specifications, and specify one of these.

CSQM529E

SSLCIPH(*cipher specification name*) is not in the AllowedCipherSpecs list

Severity

8

Explanation

The specified cipher specification name is not in the list of AllowedCipherSpecs defined in the QMINI data set specified in the queue manager start up procedure.

System action

An attempt to define or alter a channel definition fails.

System programmer response

Define a cipher specification that is in the list of AllowedCipherSpecs, or add the cipher specification to AllowedCipherSpecs and restart the queue manager.

CSQM530E

Unsupported cipher specification in AllowedCipherSpecs list.

Severity

8

Explanation

The AllowedCipherSpecs list in the QMINI data set names a cipher specification that is not supported by the queue manager. It is possible that the named cipher specification is a TLS V1.3 cipher specification and the version of z/OS that the queue manager is running on does not support TLS V1.3 function.

To be able to use TLS V1.3 function, the z/OS operating system must be at V2.4 or higher.

System action

An attempt to define or alter a channel definition fails.

System programmer response

Stop the queue manager. Remove or comment out TLS V1.3 cipher specifications from the AllowedCipherSpecs list in the QMINI data set, or upgrade to a version of the z/OS operating system that supports TLS V1.3. Restart the queue manager and redefine the channel with a supported cipher specification.

CSQM531I

Cannot set CAPEXPY as both a first-class and custom attribute.

Severity

0

Explanation

A command was issued that would result in both the first-class CAPEXPY and CUSTOM CAPEXPY being populated with non-default values. This is not allowed.

System action

The command is ignored.

System programmer response

If this is a new object, adjust the command to define only one of the two CAPEXPY parameters.

If the object is already defined, check to see which CAPEXPY value is set to a non-default value. Then, adjust the command to provide non-conflicting values.

If you are attempting to set CAPEXPY, ensure the CUSTOM value is not set, or is set to the default. If you are attempting to set the CUSTOM value, ensure that CAPEXPY is set to the default.

V 9.4.0 V 9.4.0 **CSQM532I**

Queue manager *queue manager* is at version *v.r.m* and does not support attribute *attribute*.

Severity

0

Explanation

A command was issued that would result in a shared queue, or object with a QSGDISP value of GROUP or COPY, accessed by *queue manager*, holding a non-default value for *attribute*. IBM MQ for z/OS version *v.r.m* does not support this attribute, so it cannot be set.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Upgrade the listed queue manager to a version of IBM MQ for z/OS that supports *attribute*.

CAPEXPY is supported from IBM MQ for z/OS 9.4.0.

V 9.4.0 V 9.4.0 **CSQM533I**

Cannot set *attribute*, as there are incompatible queue manager versions in this queue-sharing group.

Severity

0

Explanation

A command was issued that would set *attribute*, when one or more queue managers in the queue sharing group do not support it.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Upgrade all queue managers listed in the CSQM532I messages to a version of IBM MQ for z/OS that supports *attribute*.

CAPEXPY is supported from IBM MQ for z/OS 9.4.0.

CSQM550I

csect-name Switch of transmission queue for channel *channel-name* from *old-xmitq* to *new-xmitq* started

Severity

0

Explanation

A switch of transmission queue for the channel identified by *channel-name* is required due to a change to the default cluster transmission queue configuration of the queue manager, or to the cluster channel name attribute of a cluster transmission queue. This message is issued by the queue manager when the process of switching the transmission queue from *old-xmitq* to *new-xmitq* is started.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQM551I

csect-name Switch of transmission queue for channel *channel-name* completed - *num-msgs* messages moved from *old-xmitq* to *new-xmitq*

Severity

0

Explanation

A switch of transmission queue for the channel identified by *channel-name* was required due to a change to the default cluster transmission queue configuration of the queue manager, or to the cluster channel name attribute of a cluster transmission queue. This message is issued by the queue manager when the process of switching the transmission queue from *old-xmitq* to *new-xmitq* has completed.

During the switching process the queue manager moved *num-msgs* messages from *old-xmitq* to *new-xmitq*.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQM552E

csect-name Switch of transmission queue for channel *channel-name* from *old-xmitq* to *new-xmitq* failed

Severity

4

Explanation

A switch of transmission queue for the channel identified by *channel-name* is required due to a change to the default cluster transmission queue configuration of the queue manager, or to the cluster channel name attribute of a cluster transmission queue. This message is issued if an error occurs when attempting to start the process of switching the transmission queue from *old-xmitq* to *new-xmitq*.

System action

The process of switching the transmission queue is not started and the channel continues to use the transmission queue *old-xmitq*.

The queue manager will retry to start the switching process the next time the channel starts.

System programmer response

Investigate why the process of switching the transmission queue could not be started, as reported in the preceding messages.

CSQM553I

csect-name Moving messages for channel *channel-name* from transmission queue *old-xmitq* to *new-xmitq*

Severity

0

Explanation

A switch of transmission queue for the channel identified by *channel-name* is required due to a change to the default cluster transmission queue configuration of the queue manager, or to the cluster channel name attribute of a cluster transmission queue. This message is issued when the process of moving messages from the old transmission queue, *old-xmitq*, to the new transmission queue, *new-xmitq*, is started.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQM554I

csect-name Moved *num-msgs* messages for channel *channel-name* from transmission queue *old-xmitq* to *new-xmitq* - *remaining-msgs* messages remaining

Severity

0

Explanation

A switch of transmission queue for the channel identified by *channel-name* is required due to a change to the default cluster transmission queue configuration of the queue manager, or to the cluster channel name attribute of a cluster transmission queue. The switch of transmission queue requires that messages be moved from the old transmission queue, *old-xmitq*, to the new transmission queue, *new-xmitq*. This message is periodically issued to report the progress of this operation.

System action

Processing continues.

System programmer response

If this message is repeatedly issued it might indicate the old transmission queue cannot be drained of messages for the channel, which means the switching process can not complete. Applications continue to put messages to the old transmission queue during the switching process to preserve ordering. If the switching process cannot complete this might indicate that messages are being put to the old transmission queue faster than they can be moved by the switching process, or uncommitted messages remain on the old transmission queue for the channel.

CSQM555E

csect-name Moving of messages for channel *channel-name* from transmission queue *old-xmitq* to *new-xmitq* failed

Severity

8

Explanation

A switch of transmission queue for the channel identified by *channel-name* is required due to a change to the default cluster transmission queue configuration of the queue manager, or to the cluster channel name attribute of a cluster transmission queue. The switch of transmission queue requires that messages for the channel be moved from the old transmission queue, *old-xmitq*, to the new transmission queue, *new-xmitq*. This message is issued if an error occurs while moving these messages.

System action

Moving of messages from the old transmission queue to the new transmission queue is stopped. Any existing messages on the old transmission queue and any new messages put by applications remain on the old transmission queue and are not available to be sent by the cluster-sender channel until action is taken to restart the switching process.

System programmer response

You can use preceding messages to identify and resolve the cause of the error, then restart the switching process by either stopping and starting the channel, or by using [the CSQUTIL utility](#) to restart the switching operation.

CSQM556E

csect-name Unable to open transmission queue *xmitq-name* for channel *channel-name*, MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The switch of transmission queue requires that messages for the channel be moved from the old transmission queue to the new transmission queue. This message is issued if the old transmission queue, *xmitq-name*, cannot be opened due to reason *mqrc* when attempting to perform this operation (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

System action

The switching operation fails because the moving of messages from the old transmission queue to the new transmission queue cannot be completed.

System programmer response

You can use the reason code to identify and resolve the cause of the error, then restart the switching process by either stopping and starting the channel, or by using [the CSQUTIL utility](#) to restart the switching operation. If the error cannot be resolved, or the old transmission queue has been deleted, the CSQUTIL utility can be used to perform the switching operation without moving messages from the old transmission queue to the new transmission queue. If this option is used it is the responsibility of the IBM MQ administrator to deal with any messages for this channel on the old transmission queue.

CSQM557E

csect-name Unable to open new transmission queue *xmitq-name* for channel *channel-name*, MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The switch of transmission queue requires that messages for the channel be moved from the old transmission queue to the new transmission queue. This message is issued if the new transmission queue, *xmitq-name*, cannot be opened due to reason *mqrc* when attempting to perform this operation (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

System action

The switching operation fails because the moving of messages from the old transmission queue to the new transmission queue cannot be completed.

System programmer response

You can use the reason code to identify and resolve the cause of the error, then restart the switching process by either stopping and starting the channel, or by using [the CSQUTIL utility](#) to restart the switching operation.

CSQM558E

csect-name Unable to persist transmission queue state for channel *channel-name*, MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The queue manager uses persistent messages on the queue SYSTEM.CHANNEL.SYNCQ to track which transmission queue is used by each cluster-sender channel. This message is issued if state

information cannot be updated on this queue due to reason *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

System action

The operation requiring the persisted transmission queue state to be updated fails.

System programmer response

You can use the reason code to identify and resolve the cause of the error, then review subsequent messages to identify any additional actions that are required.

CSQM559I

csect-name Loading of cluster transmission queue state started

Severity

0

Explanation

The queue manager uses persistent messages on the queue SYSTEM.CHANNEL.SYNCQ to track which transmission queue is used by each cluster-sender channel. This message is issued during queue manager startup to indicate that loading of this information has started.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQM560I

csect-name Loading of cluster transmission queue state completed - *num-records* records processed

Severity

0

Explanation

The queue manager uses persistent messages on the queue SYSTEM.CHANNEL.SYNCQ to track which transmission queue is used by each cluster-sender channel. This message is issued during queue manager startup to indicate loading of this information has completed. The number of cluster-sender channel records that were processed is identified by *num-records*.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQM561E

csect-name Loading of cluster transmission queue state failed

Severity

8

Explanation

The queue manager uses persistent messages on the queue SYSTEM.CHANNEL.SYNCQ to track which transmission queue is used by each cluster-sender channel. This message is issued during queue manager startup to indicate that an error has occurred when loading this information.

System action

Processing continues with restricted clustering function. The queue manager is unable to determine which transmission queue should be used by each cluster-sender channel, so these channels are

unable to start. Any requests to put a message to a remote cluster queue will fail with MQRC_CLUSTER_RESOURCE_ERROR.

System programmer response

Investigate why the transmission queue state information could not be loaded, as reported in preceding messages. Resolve the error, then restart the queue manager to restore clustering function. If you are unable to resolve the error contact your IBM support center.

CSQM562E

csect-name Duplicate cluster transmission queue record found for channel *channel-name*

Severity

8

Explanation

The queue manager uses persistent messages on the queue SYSTEM.CHANNEL.SYNCQ to track which transmission queue is used by each cluster-sender channel. This message is issued during queue manager startup if a duplicate record is found for a channel.

System action

The duplicate record is ignored and processing continues, but the channel may use an incorrect transmission queue if the duplicated record should not have been used.

System programmer response

This condition should not occur. Contact your IBM support center.

CSQM563E

csect-name Failed to create dynamic cluster transmission queue *xmitq-name*, MQRC=*mqr*c (*mqr*c-text)

Severity

4

Explanation

A channel is required to switch to a permanent-dynamic transmission queue due to a change to the default cluster transmission queue configuration of the queue manager, or to the cluster channel name attribute of a cluster transmission queue. The queue manager could not create the permanent-dynamic transmission queue, *xmitq-name*, due to reason *mqr*c.

The cluster-sender channel that is affected can be identified from the name of the transmission queue because the queue name is in the format SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT*channel_name*.

System action

Processing continues.

System programmer response

You can use the reason code to identify and resolve the error that has prevented the permanent-dynamic cluster transmission queue from being created. Additional messages might be issued to provide further information. If the reason code is MQRC_UNKNOWN_OBJECT_NAME this means the model queue SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.MODEL.QUEUE has not been defined. The definition for this model queue can be found in the supplied sample **CSQ4INSX**.

Refer to “API 完了コードと理由コード” on page 1123 for information about *mqr*c (*mqr*c-text provides the MQRC in textual form).

CSQM564E

csect-name Cluster transmission model queue *model-xmitq* has incorrect attributes

Severity

4

Explanation

The queue manager failed to create a permanent-dynamic transmission queue for a cluster-sender channel because the model queue *model-xmitq* has been defined incorrectly.

The model queue must have the following attributes:

- The **USAGE** attribute must be set to **XMITQ**
- The **QSGDISP** attribute must not be **SHARED**
- The **DEFTYPE** attribute must be set to **PERMDYN**
- The **INDXTYPE** attribute must be set to **CORRELID**
- The **SHARE** attribute must be set

System action

Processing continues.

System programmer response

Review and correct the definition of the model transmission queue. The definition for the model queue can be found in the supplied sample **CSQ4INSX**.

CSQM565E

csect-name Delivery delay processor initialization failed, reason *reason-code*

Severity

8

Explanation

Initialization of the delivery delay processor task failed with the specified *reason-code*. As a result, any messages sent with delivery delay, using JMS 2.0, will not be processed and will be left on the delivery delay staging queue.

System action

The delivery delay processor task will end and will not restart. Messages can still be sent to the delivery delay staging queue by JMS 2.0 applications, however, the messages will not be processed until the delivery delay task is restarted. See system programmer response for instructions on how to restart the delivery delay processor.

System programmer response

The most likely reason for this message is a shortage of storage below the bar, in which case *reason-code* will be 4. Review the amount of storage used below the bar, and if possible try and reduce it. You can attempt to restart the delivery delay processor by altering the delivery delay staging queue state from 'get enabled' to 'get inhibited', and back to the 'get enabled' state again.

CSQM566I

csect-name Delivery delay processor started

Severity

0

Explanation

The delivery delay processor has started and is available to process messages from the delivery delay staging queue.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQM567I

csect-name Delivery delay processor stopped

Severity

0

Explanation

The delivery delay processor has stopped and is no longer available to process messages from the delivery delay staging queue. This message is output in the following situations:

- The queue manager is shutting down.
- The delivery delay staging queue has been deleted, or does not exist.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQM568E

csect-name Delivery delay processor ended abnormally, MQRC=*mqrc*

Severity

4

Explanation

The delivery delay processor has detected an error, indicated by *mqrc*, and has shut down.

System action

The delivery delay processor task ends and will not restart. Messages can still be sent to the delivery delay staging queue by JMS 2 applications, however, they will not be processed until the delivery delay task is restarted. See system programmer response for instructions on how to restart the delivery delay processor.

System programmer response

This message is output for many reasons, some of which will be expected and some will not. For example, if the delivery delay staging queue state is altered to 'get inhibited' this message will be output, and *mqrc* will be *MQRC_GET_INHIBITED*. If the message is expected then no action is required. If the message is unexpected use the value of *mqrc*, and any other messages to attempt to rectify the situation. You can attempt to restart the delivery delay processor by altering the delivery delay staging queue state from 'get enabled' to 'get inhibited', and back to the 'get enabled' state again.

CSQM569I

csect-name Delivery delay processor failed to get a message with correlation ID *correlid*, MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

4

Explanation

The delivery delay processor attempted to perform a destructive MQGET for the message with the specified correlation ID from the delivery delay staging queue, SYSTEM.DDELAY.LOCAL.QUEUE. The message was no longer on the queue.

System action

Processing continues.

System programmer response

Investigate whether the message was taken off the delivery delay staging queue for a valid reason, for example, it was put there by mistake. Validate the security settings for the delivery delay staging queue to ensure that only authorized users have access to it.

CSQM570E

csect-name Delivery delay processor failed to process a message with correlation ID *correlid*, for queue *q-name*, according to its report options *report-options*, MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The delivery delay processor could not put the specified message to the specified queue and, so, was attempting to either send the message to the dead-letter-queue or discard the message according to the disposition options specified in the report field of the message.

The message might have also requested an exception report. Some part of the processing of the disposition options, or the report, failed with the specified return code.

System action

The message is rolled back to the delivery delay staging queue, SYSTEM.DDELAY.LOCAL.QUEUE, and reprocessed at a time decided by the system.

System programmer response

Use the information from the message to establish the cause of the problem. Some possible explanations are:

- The specified queue might no longer exist, be full, or be put disabled.
- If the message should have been put to the dead-letter-queue, check that the dead-letter-queue is defined, is not full, and is put enabled.
- If an exception report message was to be generated, check that the queue the report was to be put to is defined, is not full, is put enabled, and that the user ID in the message has access to the queue.

Otherwise, check that the dead-letter-queue is defined, is not full, and is put enabled.

CSQM571I

csect-name Delivery delay processor received an unexpected message with message ID *msgid*

Severity

4

Explanation

The delivery delay processor received a message from the delivery delay staging queue, SYSTEM.DDELAY.LOCAL.QUEUE, that was not in the correct format.

The delivery delay processor either sends the message to the dead-letter-queue, or discards it according to the disposition options specified in the report field of the message.

System action

The delivery delay processor either sends the message to the dead-letter-queue, or discards it according to the disposition options specified in the report field of the message. If the message specified an exception report, this will be generated.

System programmer response

Investigate why unexpected messages are being sent to the delivery delay staging queue. Validate the security settings for the delivery delay staging queue to ensure that only authorized users have access to it.

CSQM572E

Insufficient storage to parse data set *data set*

Severity

8

Explanation

The queue manager could not obtain sufficient storage to parse the specified data set.

System action

The queue manager terminates during start up.

System programmer response

Investigate and resolve the reason for storage shortage and restart the queue manager

CSQM573E

Unable to parse line *line* in data set *data set*

Severity

8

Explanation

The queue manager could not parse the specified line in the specified data set.

System action

The queue manager is unable to parse the specified data set but continues with initialization. It will not be possible to start TLS/SSL enabled channels.

System programmer response

Stop the queue manager and resolve any issues with the contents of the specified data set. Restart the queue manager and ensure that the queue manager is able to successfully parse the data set.

CSQM574E

Incorrect value *value* for key *key* in stanza *stanza*, data set *data set*, around line *line*

Severity

8

Explanation

The specified key (keyword) in the specified stanza and data set is not valid.

System action

The queue manager is unable to parse the specified data set but continues with initialization. It will not be possible to start TLS/SSL enabled channels.

System programmer response

Stop the queue manager and resolve any issues with the contents of the specified data set. Restart the queue manager and ensure that the queue manager is able to successfully parse the data set.

CSQM575E

Incorrect or duplicate key *key* in stanza *stanza*, data set *data set*, around line *line*

Severity

8

Explanation

The specified key (keyword) in the specified stanza and data set is either not valid or has been entered more than once.

System action

The queue manager is unable to parse the specified data set but continues with initialization. It will not be possible to start TLS/SSL enabled channels.

System programmer response

Stop the queue manager and resolve any issues with the contents of the specified data set. Restart the queue manager and ensure that the queue manager is able to successfully parse the data set.

CSQM576E

Incorrect cipher specification name *name* in key *key*, stanza *stanza* data set *data set*, around line *line*

Severity

8

Explanation

The specified cipher specification in the specified key, stanza and data set is not valid.

System action

The queue manager is unable to parse the specified data set but continues with initialization. It will not be possible to start TLS/SSL enabled channels.

System programmer response

Stop the queue manager and resolve any issues with the contents of the specified data set. Restart the queue manager and ensure that the queue manager is able to successfully parse the data set.

CSQM577E

Cipher specification name *name* in key *key*, in stanza *stanza*, data set *data set*, around line *line* is not supported

Severity

8

Explanation

The specified cipher specification in the specified key, stanza and data set is not supported.

System action

The queue manager is unable to parse the specified data set but continues with initialization. It will not be possible to start TLS/SSL enabled channels.

System programmer response

Stop the queue manager and define only supported cipher specification names in the specified data set. Restart the queue manager and ensure that the queue manager is able to successfully parse the data set.

CSQM578I

Data set *data set* read and parsed successfully

Severity

0

Explanation

The queue manager has successfully read and parsed the specified data set.

System action

The queue manager continues with initialization.

System programmer response

None.

CSQM579E

Version of z/OS does not support TLS V1.3, in key *key*, stanza *stanza*, data set *data set*, around line *line*

Severity

8

Explanation

TLS V1.3 properties have been defined in the specified key, stanza and data set however, the version of z/OS that the queue manager is being run on does not support TLS V1.3 function. To be able to use TLS V1.3 function, the z/OS operating system must be at V2.4 or higher.

System action

The queue manager is unable to parse the specified data set but continues with initialization. It will not be possible to start TLS/SSL enabled channels.

System programmer response

Stop the queue manager and remove or comment out TLS V1.3 properties from the specified data set, or upgrade to a version of the z/OS operating system that supports TLS V1.3. Restart the queue manager and ensure that the queue manager is able to successfully parse the data set.

CSQM580I

csect-name Cluster object name *object_name* located at QMID *qmid_name* is resolved using old cached information.

Severity

0

Explanation

The cluster object referenced has been resolved using old cached information.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQM581E

Error getting data from data set *data set*

Severity

8

Explanation

The queue manager has not been able to read data from the specified data set.

System action

The queue manager is unable to parse the specified data set but continues with initialization. It will not be possible to start TLS/SSL enabled channels.

System programmer response

Stop the queue manager and resolve any issues with the contents of the data set. Restart the queue manager and ensure that the queue manager is able to successfully parse the data set.

CSQM582E

Unexpected error when accessing data set *data set*, reason *reason*

Severity

8

Explanation

The queue manager has encountered an unexpected error while accessing the specified data set.

System action

The queue manager is unable to parse the specified data set but continues with initialization. It will not be possible to start TLS/SSL enabled channels.

System programmer response

Investigate and resolve the reason for the failure. Restart the queue manager and ensure that the queue manager is able to successfully parse the data set.

If necessary, collect and gather diagnostic data, and contact your IBM support center.

CSQM583E

Error during open or close of data set *data set*

Severity

8

Explanation

The queue manager encountered an error while attempting to open or close the specified data set.

System action

The queue manager is unable to parse the specified data set but continues with initialization. It will not be possible to start TLS/SSL enabled channels.

System programmer response

Stop the queue manager and ensure that the data set is defined and valid. Restart the queue manager and ensure that the queue manager is able to successfully parse the data set.

CSQM584E

Unsupported stanza skipped, stanza *stanza*, in data set *data set*

Severity

8

Explanation

The queue manager encountered an unsupported stanza in the specified data set. The stanza has been ignored.

System action

The queue manager ignores the stanza and continues to parse the remainder of the specified data set.

System programmer response

At some point, you might want to stop the queue manager, remove or comment out the unsupported stanza, restart the queue manager and ensure that the queue manager is able to successfully parse the data set.

CSQM586E

csect-name Unable to open streaming queue *streamqname* for queue *queuename*, mqrc= *mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

An attempt to perform an MQOPEN on the specified streaming queue failed for the specified reason, which is an IBM MQ reason code *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

System action

The open of the streaming queue specified by the queue attribute STREAMQ does not occur.

System programmer response

For more information, see [“API 完了コードと理由コード” on page 1123](#). Correct the problem if required.

For a given application, the queue manager issues this message on the first failed attempt only to open the streaming queue. Subsequent failures to open the streaming queue do not result in this message being issued, unless the reason code is different.

CSQM587E

csect-name Unable to put to streaming queue *streamqname* for queue *queuname*, mqrc= *mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

An attempt to perform either an MQPUT or an MQPUT1 to the specified streaming queue failed for the specified reason, which is an IBM MQ reason code *mqrc* (*mqrc-text* text provides the MQRC in textual form).

System action

The put to the streaming queue specified by the queue attribute STREAMQ does not occur. Depending on the rules set by the queue attribute STRMQOS the original put might or might not have failed.

System programmer response

For more information, see [“API 完了コードと理由コード” on page 1123](#). Correct the problem if required.

For a given application, the queue manager issues this message on the first failed attempt only to put to the streaming queue. Subsequent failures to open the streaming queue do not result in this message being issued, unless the reason code is different.

CSQM588I

csect-name Streaming queue *qname* not supported.

Severity

4

Explanation

A command was issued to define or alter a queue with streaming enabled, and that queue does not support streaming to another queue from it.

System action

The command issued fails and does not take effect.

System programmer response

Refer to [Streaming Queue Restrictions](#). Correct the problem if required and reissue the command.

CSQM589I

csect-name Incompatible attributes for streaming queue *qname*.

Severity

4

Explanation

A command was issued to define or alter a queue with streaming enabled, and that queue has incompatible attributes to stream from.

System action

The command issued fails and does not take effect.

System programmer response

Refer to [Streaming Queue Restrictions](#) and check the attributes of the queue. Correct the problem if required and reissue the command.

CSQM590I

csect-name STREAMQ(*streamqname*) not allowed.

Severity

4

Explanation

A command was issued to define a queue where streaming to the queue name provided in STREAMQ it is not allowed, based on its name.

System action

The command issued fails and does not take effect.

System programmer response

Refer to [Streaming Queue Restrictions](#) and check the name of the queue being used in the STREAMQ attribute. Correct the problem if required and reissue the command.

CSQM591I

csect-name Queue attributes are incompatible for use as a streaming queue.

Severity

4

Explanation

A command was issued to define or alter a queue where the queue name set in STREAMQ refers to a queue that has incompatible attributes to function as a streaming queue.

System action

The command issued fails and does not take effect.

System programmer response

Refer to [Streaming Queue Restrictions](#) and check the attributes of the queue referred to in the STREAMQ attribute. Correct the problem if required and reissue the command.

CSQM999E

csect-name UNRECOGNIZED RETURN CODE *ret-code* FOR '*keyword*'

Severity

8

Explanation

An unexpected return code was issued from a command, relating to the named keyword.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Note the return code *ret-code* (which is shown in hexadecimal) and contact your IBM support center.

 **Command server messages (CSQN...)**

CSQN001I

COMMAND SERVER STARTED

Severity

0

Explanation

A request to start the command server with the START CMDSERV command has been accepted.

System action

The command server is triggered to start.

CSQN002I

COMMAND SERVER ALREADY STARTED

Severity

0

Explanation

A START CMDSERV command has been entered, but the command server is already running.

System action

The command is ignored.

CSQN003I

COMMAND SERVER ENABLED

Severity

0

Explanation

In response to a START CMDSERV command in an initialization file, the command server has been put in to an enabled state.

System action

The command server will be started automatically when initialization finishes.

CSQN004I

COMMAND SERVER ALREADY ENABLED

Severity

0

Explanation

A START CMDSERV command has been entered, but the command server was already enabled.

System action

The command is ignored.

CSQN005I

COMMAND SERVER STOPPED

Severity

0

Explanation

A request to stop the command server with a STOP CMDSERV command has been accepted.

System action

The command server shuts down when it finishes processing the current command (or immediately if it is not processing a command). This message is followed by message CSQN201I to confirm that the stop has started.

CSQN006I

COMMAND SERVER ALREADY STOPPED

Severity

0

Explanation

A STOP CMDSERV command was entered, but the command server was not running.

System action

The command is ignored.

CSQN007I

COMMAND SERVER DISABLED

Severity

0

Explanation

In response to a STOP CMDSERV command in an initialization file, the command server has been put in to a disabled state.

System action

The command server will not start automatically when initialization finishes.

CSQN008I

COMMAND SERVER ALREADY DISABLED

Severity

0

Explanation

A STOP CMDSERV command has been entered, but the command server was already disabled.

System action

The command is ignored.

CSQN009I

csect-name *verb-name* *pkw-name* COMMAND DISABLED

Severity

4

Explanation

The command was not processed because it was not allowed during this stage of initialization or termination. *verb-name* might include the command prefix (CPF). This depends on how the command was entered.

System action

The command is ignored.

CSQN011I

COMMAND SERVER STATUS IS ENABLED

Severity

0

Explanation

The command server is in an enabled state; that is, the command server will be started automatically when initialization finishes.

CSQN012I

COMMAND SERVER STATUS IS DISABLED

Severity

0

Explanation

The command server is in a disabled state; that is, the command server will not be started automatically when initialization finishes.

CSQN013I

COMMAND SERVER STATUS IS RUNNING

Severity

0

Explanation

The command server is in a running state; that is, the command server is currently processing a command.

CSQN014I

COMMAND SERVER STATUS IS WAITING

Severity

0

Explanation

The command server is in a waiting state; that is, the command server is waiting for a message to be put onto the system-command input queue.

CSQN015I

COMMAND SERVER STATUS IS STOPPED

Severity

0

Explanation

The command server is in a stopped state; that is, the command server will not process any commands until a START CMDSERV command is entered.

CSQN016I

COMMAND SERVER STATUS IS STARTING

Severity

0

Explanation

The command server is in a starting state; that is, a START CMDSERV command has been entered, but the command server has not yet started up.

CSQN017I

COMMAND SERVER STATUS IS STOPPING

Severity

0

Explanation

The command server is in a stopping state; that is, a STOP CMDSERV command has been entered, but the command server has not yet stopped.

CSQN018E

csect-name INTERNAL ERROR FOR *identifier*, RETURN CODE=*rc*

Severity

8

Explanation

This message could be caused by the following:

Identifier

Description

INSSRV01

During the early part of initialization, the queue manager was unable to start the task that processes commands in CSQINP1.

INSSRV02

During the later part of initialization, the queue manager was unable to start the task that processes commands in CSQINP2.

RTSSRV01

After initialization has completed with the command server enabled, or in response to a START CMDSERV command, the queue manager was unable to start the command server task that processes commands in the system-command input queue.

GRSSRV01

After initialization has completed with the command server enabled, or in response to a START CMDSERV command, the queue manager was unable to start the command server task that processes commands using CMDSCOPE.

System action

The task is not started.

System programmer response

Stop and restart the queue manager. Check the console for other messages regarding this error, and note the message number, *identifier*, and *rc*. Also collect the system dump (if one was produced). Contact your IBM support center to report the problem.

CSQN019E

csect-name INTERNAL ERROR FOR *identifier*, RETURN CODE=*rc*

Severity

8

Explanation

This message could be caused by the following:

Identifier

Description

INSSRV01

During the early part of initialization an error occurred when trying to delete the task that processes commands in CSQINP1.

INSSRV02

During the later part of initialization an error occurred when trying to delete the task that processes commands in CSQINP2.

RTSSRV01

During termination with the command server running, or in response to a START CMDSERV command, an error occurred when trying to delete the command server task that processes commands in the system-command input queue.

GRSSRV01

During termination with the command server running, or in response to a START CMDSERV command, an error occurred when trying to delete the command server task that processes commands using CMDSCOPE.

System action

If the value of *identifier* was INSSRV01 or INSSRV02, the error is ignored, and startup continues.

If the value of *identifier* was RTSSRV01 or GRSSRV01 and *csect-name* was CSQNESTP, the command server could have terminated while processing a command.

System programmer response

Check the console for other messages regarding this error. If you are unable to resolve the problem, note the message number, *identifier*, and *rc*, collect the system dump (if one was produced), and contact your IBM support center.

CSQN020E

csect-name UNABLE TO START COMMAND SERVER *identifier*

Severity

8

Explanation

csect-name was unable to start the command server task *identifier*.

System action

If *identifier* is INSSRV01 or INSSRV02, initialization is not completed and a dump might be produced. In other cases, the command server is not started.

System programmer response

Stop and restart the queue manager. Contact your IBM support center with details of this message, any previous messages pertaining to this error, and the dump (if applicable).

CSQN021E

csect-name COMMAND SERVER *identifier* ABNORMAL COMPLETION

Severity

8

Explanation

The command server task *identifier* was unable to complete its processing during startup.

System action

Queue manager startup continues.

System programmer response

Check the z/OS console for related messages (probably concerning the CSQINPx data sets). The CSQOUTx data sets should also be checked to determine how much command processing was done before the error occurred. If required, reissue any unprocessed commands, or resolve the problem and restart the queue manager.

CSQN100I

COMMAND EXCEEDS MAXIMUM SIZE, COMMAND IGNORED

Severity

4

Explanation

The command string was too long.

System action

The command is ignored, and processing of CSQINP1 or CSQINP2 continues.

System programmer response

The command in question precedes this message in the CSQOUT1 or CSQOUT2 data set. For details about forming a command string, see [Initialization commands](#).

CSQN101I

COMMAND ENDS WITH A CONTINUATION MARK, COMMAND IGNORED

Severity

4

Explanation

The last command in the CSQINP1 or CSQINP2 data set ended with a continuation mark.

System action

The command is ignored.

System programmer response

The command in question precedes this message in the CSQOUT1 or CSQOUT2 data set. For details about forming a command string, see [Initialization commands](#).

CSQN102I

COMMAND BUFFER INVALID, ERROR UNKNOWN, COMMAND IGNORED

Severity

4

Explanation

An internal error has occurred.

System action

This command is ignored, and the next command is processed.

System programmer response

The command in question precedes this message in the CSQOUT1 or CSQOUT2 data set. If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center.

CSQN103I

COMMAND PROCESSOR RETURN CODE=*rc*, REASON CODE=*reason*

Severity

4

Explanation

An error occurred while processing the command preceding this message in the CSQOUT1 or CSQOUT2 data set. The possible values of *rc* are as follows:

Return code**Description****00000004**

Internal error

00000008

Syntax or command preprocessor error, see the following lines in the CSQOUTx data set

000000C

Command processor error, see the following lines in the CSQOUTx data set

0000010

Command processor abnormal termination

0000014

Command completed, but there is insufficient storage for the messages

0000018

Command preprocessor has insufficient storage (there could be further messages about this error)

000001C

The command processor has insufficient storage (the command could be partially completed)

0000020

Security check

00D50102

See [“Command server codes \(X'D5\)’” on page 1007](#)

Note: If the return code is '0000010', the reason code has no meaning.

If *reason* is 00000004 and *return code* is 00000000, the command has been accepted and will be completed later. Further messages will be produced when the command has been completed.

Otherwise the reason code indicates the command result as follows:

Reason**Description****00000000**

Command completed

00000004

Partial completion

00000008

Command not actioned

0000000C

Command processor abend

FFFFFFFF

Command not actioned

System action

The next command is processed, if possible.

System programmer response

If *reason* indicates that the command did not complete, examine the command and all associated messages. See [“IBM MQ for z/OS messages, completion, and reason codes” on page 264](#) for further information about the commands.

If you are unable to solve the problem, collect the input and output data sets and contact your IBM support center.

CSQN104I

INITIALIZATION RETURN CODE=*rc*, REASON CODE=*reason*

Severity

8

Explanation

An error occurred while processing one of the initialization data sets.

System action

The system action depends on the reason code (*reason*). See [“Command server codes \(X'D5\)”](#) on page 1007 for information the code you have received.

System programmer response

The response you should make depends on the reason code (*reason*). See [“Command server codes \(X'D5\)”](#) on page 1007 for information about the code you have received.

CSQN105I

Commands from *ddname* for queue manager *qmgr-name* - *date time*

Severity

0

Explanation

This message forms the header for the output data sets CSQOUT1 and CSQOUT2.

CSQN121I

'*verb-namepkw-name*' command responses from *qmgr-name*

Explanation

The following messages are responses from queue manager *qmgr-name* to the indicated command - either entered or generated by another command - that specified CMDSCOPE.

CSQN122I

'*verb-namepkw-name*' command for CMDSCOPE(*qmgr-name*) normal completion

Explanation

Processing for the indicated command that specified CMDSCOPE(*qmgr-name*) - either entered or generated by another command - has completed successfully on all requested queue managers.

CSQN123E

'*verb-name pkw-name*' command for CMDSCOPE(*qmgr-name*) abnormal completion

Explanation

Processing for the indicated command that specified CMDSCOPE(*qmgr-name*) - either entered or generated by another command - has completed, but not successfully. If the command was sent to more than one queue manager, it might have completed successfully on some and not on others.

System programmer response

Examine the preceding responses from the command. Reissue the command correctly if necessary for the queue managers where it failed.

CSQN127E

Queue sharing group error, reason=*reason*

Severity

8

Explanation

While processing a command that specified CMDSCOPE, the command server experienced an error while trying to send data to the coupling facility.

System action

The command is not processed.

System programmer response

The response you should make depends on the reason code (*reason*). See [“Coupling Facility codes \(X'C5\)”](#) on page 918 for information about the code.

CSQN128E

Insufficient storage for CMDSCOPE(*qmgr-name*)

Explanation

While processing a command that specified CMDSCOPE, the command server was unable to obtain storage needed.

System action

The command is not processed.

System programmer response

If the problem persists, you might need to restart the queue manager after making more storage available.

CSQN129E

Error saving command reply information

Severity

8

Explanation

While processing a command that specified CMDSCOPE or a command for the channel initiator, the command server experienced an error while trying to save information about the command.

System action

The command is not processed.

System programmer response

The most likely cause is insufficient storage. If the problem persists, you may need to restart the queue manager after making more storage available.

CSQN130E

Command exceeds maximum size for CMDSCOPE(*qmgr-name*)

Explanation

A command that specified CMDSCOPE(*qmgr-name*) was too long.

System action

The command is not processed.

System programmer response

Reissue the command correctly.

CSQN131E

CMDSCOPE(*qmgr-name*) not allowed during restart

Explanation

A command that specified CMDSCOPE(*qmgr-name*) was issued in the initialization input data set CSQINP1. This is not allowed.

System action

The command is not processed.

System programmer response

Reissue the command later.

CSQN132E

CMDSCOPE(*qmgr-name*) not allowed with disposition *disposition*

Explanation

A command that specified CMDSCOPE(*qmgr-name*) with QSGDISP(*disposition*) or CHLDISP(*disposition*) was issued. This combination of values is not allowed.

System action

The command is not processed.

System programmer response

Reissue the command correctly.

CSQN133E

CMDSCOPE(*qmgr-name*) not allowed, command server unavailable

Explanation

A command that specified CMDSCOPE(*qmgr-name*) was entered or generated by another command, but the command server is not running and not enabled.

System action

The command is not processed.

System programmer response

Use the START CMDSERV command to start the command server, and reissue the command.

CSQN135E

Queue manager *qmgr-name* not active in queue sharing group

Explanation

A command specifying CMDSCOPE(*qmgr-name*) was entered or generated by another command, but that queue manager is not currently active in the group.

System action

The command is not processed.

System programmer response

Start the queue manager and reissue the command if required.

CSQN136E

Not in queue sharing group

Explanation

A command that requires a queue sharing group was entered, but the queue manager is not in a group.

System action

The command is not processed.

System programmer response

Reissue the command correctly.

CSQN137I

'*verb-name pkw-name*' accepted for CMDSCOPE(*qmgr-name*), sent to *n*

Explanation

A command that specified CMDSCOPE was entered. It has been passed to the requested queue manager(s) for processing; *n* is the number of queue managers.

System action

Processing continues.

CSQN138I

'*verb-name pkw-name*' generated for CMDSCOPE(*qmgr-name*), sent to *n*

Explanation

A command that specified CMDSCOPE was generated in response to the command originally entered. It has been passed to the indicated queue manager(s) for processing; *n* is the number of queue managers.

System action

Processing continues.

CSQN201I

COMMAND SERVER IS SHUTTING DOWN

Severity

0

Explanation

This message confirms that the command server is shutting down after an error.

System action

The command server shuts down and will not process any more commands.

System programmer response

Correct the errors reported in the preceding messages, and use the START CMDSERV command to restart the command server.

CSQN202I

COMMAND SERVER RETURN CODE=*rc*, REASON=*reason*

Severity

8

Explanation

An error occurred in the command server, as indicated by the preceding messages.

System action

The system action depends on the reason code (*reason*). See [“Command server codes \(X'D5\)’” on page 1007](#) or [“Coupling Facility codes \(X'C5\)’” on page 918](#) for information about the code.

System programmer response

The response you should make depends on the reason code (*reason*).

The return code *rc* is dependent on *reason*, and is of use to IBM service personnel.

CSQN203I

QUEUE *queuename*, MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

An API call, as indicated in the preceding message, did not complete successfully. The completion code is *mqcc*, and the reason code is *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

System programmer response

For more information, see [“API 完了コードと理由コード” on page 1123](#).

If you are unable to resolve the problem, note the numbers of any messages and codes associated with the error, and contact your IBM support center.

Reason codes above 8000 are internal queue manager error codes. If such a code persists, report it to your IBM support centre.

CSQN205I

COUNT=*count*, RETURN=*rc*, REASON=*reason*

Severity

0

Explanation

This message reports the results from the command processor (refer to the section [Writing programs to administer IBM MQ](#) for further information). *count* is the number of messages (including this one) to be written to the reply-to queue in response to the command. Possible values of *rc* are as follows:

Return code

Description

00000000

Normal completion

00000004

Internal error

00000008

Syntax or command preprocessor error, see the following messages

0000000C

Command processor error, see the following messages

00000010

Command processor abnormal termination

00000014

Command completed, but there is insufficient storage for the messages

00000018

Command preprocessor has insufficient storage, (there could be further messages about this error)

0000001C

The command processor has insufficient storage (the command could be partially completed)

00000020

Security check, check userid authority

00000024

Command too long, see the following messages

00000028

Queue sharing group error, see the following messages

00D5xxxx

See "[Command server codes \(X'D5'\)](#)" on page 1007

Note: If the return code is '00000010', the reason code has no meaning.

If *reason* is 00000004 and *return code* is 00000000, the set of reply messages is incomplete. Further sets of messages, each including another CSQN205I message, will be produced later. The results of the command will be shown by the codes in the CSQN205I message included with the final set of messages.

Otherwise the reason code indicates the command result as follows:

Reason

Description

00000000

Command completed

00000004

Partial completion

00000008

Command not actioned

0000000C

Command processor abend

FFFFFFFF

Command not actioned

System action

The next command is processed, if possible.

System programmer response

If *reason* indicates that the command did not complete, examine the command and all associated messages. See [“IBM MQ for z/OS messages, completion, and reason codes” on page 264](#) for further information about the commands.

If you are unable to solve the problem, collect the input and output data sets and contact your IBM support center.

CSQN206I

COMMAND SERVER ECBLIST, STOP=*ecb1*, WAIT=*ecb2*

Severity

8

Explanation

This message reports the ECB values associated with an error in the command server.

System action

The command server terminates.

System programmer response

This message is usually preceded by a CSQN202I message. Refer to the preceding messages for more information about the cause of the problem.

CSQN207I

COMMAND SERVER UNABLE TO OPEN REPLY TO QUEUE

Explanation

The command server was unable to open the reply-to queue while processing a command.

System action

Message CSQN203I is sent to the z/OS console reporting the completion and reason codes from the MQOPEN request.

If possible, the command server sends the response message to the dead-letter queue, otherwise the response is discarded.

System programmer response

For more information, see [“API 完了コードと理由コード” on page 1123](#). Use this information to solve the problem, and restart the command server. If this does not help you to solve the problem, collect the following items, and contact your IBM support center.

- Return and reason codes from the message produced
- Any trace information collected

CSQN208E

COMMAND SERVER UNABLE TO OPEN COMMAND INPUT QUEUE

Explanation

The command server was unable to open the system-command input queue while starting.

System action

Message CSQN203I is sent to the z/OS console reporting the completion and reason codes from the MQOPEN request. The command server stops, without processing any commands.

System programmer response

For more information, see “API 完了コードと理由コード” on page 1123. Use this information to solve the problem, and restart the command server. If this does not help you to solve the problem, collect the following items, and contact your IBM support center.

- Return and reason codes from the message produced
- Any trace information collected

CSQN209E

COMMAND SERVER ERROR CLOSING COMMAND INPUT QUEUE

Explanation

While the command server was shutting down, an error occurred when closing the system-command input queue.

System action

Message CSQN203I is sent to the z/OS console reporting the completion and reason codes from the MQCLOSE request. The shutdown procedure continues.

System programmer response

For more information, see “API 完了コードと理由コード” on page 1123. If this does not help you to solve the problem, collect the following items, and contact your IBM support center:

- Return and reason codes from the message produced
- Any trace information collected

CSQN210E

COMMAND SERVER ERROR CLOSING REPLY TO QUEUE

Explanation

The command server was unable to close the reply-to queue while processing a command.

System action

Message CSQN203I is sent to the z/OS console reporting the completion and reason codes from the MQCLOSE request.

The command server continues.

System programmer response

For more information, see “API 完了コードと理由コード” on page 1123.

CSQN211E

COMMAND SERVER ERROR GETTING FROM COMMAND INPUT QUEUE

Explanation

The command server experienced an error while trying to get a message from the system-command input queue.

System action

Message CSQN203I is sent to the z/OS console, reporting the completion and reason codes from the MQGET request.

The command server terminates.

System programmer response

For more information, see “API 完了コードと理由コード” on page 1123. Use this information to solve the problem, and restart the command server. If this does not help you to solve the problem, collect the following items, and contact your IBM support center:

- Return and reason codes from the console message
- Any trace information collected

CSQN212E

COMMAND SERVER ERROR PUTTING TO REPLY TO QUEUE

Explanation

The command server was unable to put a response message onto a reply-to queue while processing a command.

System action

Message CSQN203I is sent to the z/OS console reporting the completion and reason codes from the MQPUT request. If possible, the command server sends the response message to the dead-letter queue, otherwise the response is discarded.

The command server continues.

System programmer response

For more information, see “API 完了コードと理由コード” on page 1123. If this does not help you to solve the problem, collect the following items, and contact your IBM support center:

- Return and reason codes from the message produced
- Any trace information collected

CSQN213E

COMMAND SERVER ERROR, COMMAND INPUT QUEUE DISABLED

Explanation

While waiting for a command the system-command input queue has been disabled.

System action

Message CSQN203I is sent to the console containing the return and reason codes from the request function. The command server terminates.

System programmer response

Change the system-command input queue to be enabled, and issue the START CMDSERV command.

If the problem persists, collect the following items, and contact your IBM support center:

- Return and reason codes
- Any trace data collected
- Printout of SYS1.LOGREC

CSQN219E

Unable to find command reply information

Severity

8

Explanation

While processing responses from a command that specified CMDSCOPE or a command for the channel initiator, the command server could not find the information to determine where to send the responses.

System action

The command might not be processed; any command responses are discarded. The command server continues.

System programmer response

If the problem persists, contact your IBM support center with details of this message, any previous messages pertaining to this error, and the dump (if applicable).

CSQN220E

Error monitoring CMDSCOPE command data

Explanation

The command server experienced an error while monitoring command data in the coupling facility.

System action

Message CSQN202I is sent to the z/OS console, reporting the return and reason codes from the request.

The command server terminates.

System programmer response

See [“Coupling Facility codes \(X'C5\)’”](#) on page 918 for information about the reason code. Use this information to solve the problem, and restart the command server. If this does not help you to solve the problem, collect the following items, and contact your IBM support center:

- Return and reason codes from the console message
- Any trace information collected

CSQN221E

Error receiving CMDSCOPE command data

Explanation

The command server experienced an error while trying to get command data from the coupling facility.

System action

Message CSQN202I is sent to the z/OS console, reporting the return and reason codes from the request.

The command server terminates.

System programmer response

See [“Coupling Facility codes \(X'C5\)’”](#) on page 918 for information about the reason code. Use this information to solve the problem, and restart the command server. If this does not help you to solve the problem, collect the following items, and contact your IBM support center:

- Return and reason codes from the console message
- Any trace information collected

CSQN222E

Error sending CMDSCOPE command data

Explanation

The command server experienced an error while trying to send command data to the coupling facility.

System action

Message CSQN202I is sent to the z/OS console, reporting the return and reason codes from the request.

The command server terminates.

System programmer response

See “[Coupling Facility codes \(X'C5'\)](#)” on [page 918](#) for information about the reason code. Use this information to solve the problem, and restart the command server. If this does not help you to solve the problem, collect the following items, and contact your IBM support center:

- Return and reason codes from the console message
- Any trace information collected

CSQN223E

Insufficient storage for CMDSCOPE command data

Explanation

The command server was unable to obtain storage needed for command data in the coupling facility.

System action

The command server terminates.

System programmer response

Use the START CMDSERV command to restart the command server. If the problem persists, you might need to restart the queue manager after making more storage available.

CSQN224E

GROUP COMMAND SERVER ENDED ABNORMALLY. RESTARTING

Severity

8

Explanation

The Group Command Server has ended abnormally because a severe error occurred.

System action

The Group Command Server is automatically restarted.

System programmer response

Investigate the reason for abnormal termination. If the problem persists contact your IBM support center.

Operations and control messages (CSQO...)

CSQ0001I

'*' may only be final character.

Severity

8

Explanation

A character string entered in the Name field contains an asterisk character that is not in the last position. This is not allowed.

System action

The main menu is redisplayed.

CSQ0002I

Action *action* is not allowed.

Severity

8

Explanation

An incorrect action number was entered in the action code field. The number must be in the range shown on the panel.

System action

The panel is redisplayed.

CSQ0003I

Use the ISPF command PFSHOW to display F-key settings

Severity

0

Explanation

On entry to Operations and Control, F-key settings are not being displayed. This tells you how to display the settings; you need to use F-keys to use the Operations and Control panels.

System action

None.

CSQ0004I

Object *object-type* is not allowed.

Severity

8

Explanation

The value entered in the Object type field was invalid.

System action

The main menu is redisplayed.

CSQ0005I

Multiple replies returned. Press F10 to view.

Severity

4

Explanation

Several error messages were returned by the queue manager in response to an action from Operations and Control.

System action

The main menu is redisplayed.

CSQ0006I

Blank name is not allowed with action queue manager *.

Severity

8

Explanation

The Define action was selected and the Name field was left blank to define a new object using default attributes. However, an asterisk (*) was entered for the action queue manager, which is not allowed in this case.

System action

The main menu is redisplayed.

CSQ0007I

'*field*' must be supplied.

Severity

8

Explanation

Nothing was entered in the named field. This value is required to continue.

System action

The current panel is displayed again.

CSQ0008I

F-key is not active.

Severity

4

Explanation

A function key that is not currently available was pressed.

System action

The current panel is redisplayed.

CSQ0009I

Action *action* is not allowed for object type *object-type*.

Severity

8

Explanation

The action number that you entered is not allowed for *object-type* objects.

System action

The current panel is redisplayed.

CSQ0010I

Queue manager or group is not available.

Severity

8

Explanation

An attempt to connect to a queue manager was unsuccessful. If a queue manager name was specified, the queue manager is not running. If a queue sharing group name was specified, there are no queue managers running in that group.

System action

None, the panel is redisplayed.

CSQ0011E

MQCONN unsuccessful. Reason code=*mqrc*.

Severity

8

Explanation

An attempt to connect to a queue manager or queue sharing group was unsuccessful for one of the following reasons:

1. Insufficient storage is available

2. A severe error has occurred

System action

None, the panel is redisplayed.

System programmer response

Refer to [“API 完了コードと理由コード” on page 1123](#) for information about *mqrc*.

CSQ0012I

Connect name is invalid or unknown.

Severity

8

Explanation

An attempt to connect to a queue manager or queue sharing group was unsuccessful because the name specified is not known, or not valid. If a blank name was specified, this means that there was no default queue manager or group defined for your installation.

System action

None, the panel is redisplayed.

CSQ0013I

Not authorized to use queue manager.

Severity

8

Explanation

An attempt to connect to a queue manager was unsuccessful because the connection security failed, or you are not authorized to do so.

System action

None, the panel is redisplayed.

CSQ0014E

MQOPEN of *q-name* unsuccessful. Reason code=*mqrc*.

Severity

8

Explanation

An attempt to open *q-name* was unsuccessful. *mqrc* is the reason code returned by MQOPEN; see [“API 完了コードと理由コード” on page 1123](#) for more information. *q-name* is one of the following:

- SYSTEM.COMMAND.INPUT
- SYSTEM.COMMAND.REPLY.MODEL; the requested dynamic queue name is appended in parentheses.
- The name of a transmission queue (if you are attempting to send commands to a remote system)

Likely causes of this problem are:

- One or both of the required queues is not defined on the queue manager that you have connected to.
- An attempt was made to send commands to a remote system, but no transport queue is defined.
- You are not authorized to open one of the required queues. If the message indicates that it is the SYSTEM.COMMAND.REPLY.MODEL queue that you are not authorized to open, it could be that you are not authorized to open the SYSTEM.CSQOREXX.* dynamic queue.
- There is insufficient storage available.

System action

The main menu is redisplayed.

CSQ0015E

Command issued but no reply received.

Severity

8

Explanation

The reply to a command could not be retrieved from the reply-to queue using MQGET because the response wait time was exceeded.

System action

The panel is redisplayed. The command was sent to the queue manager, but it might not have been executed successfully.

CSQ0016E

MQPUT to *q-name* unsuccessful. Reason code=*mqrc*.

Severity

8

Explanation

An attempt to put a command on a queue (*q-name*) using MQPUT was unsuccessful. *q-name* is the name of either the system-command input queue, or a transmission queue if you are sending commands to a remote queue manager. *mqrc* is the reason code returned from MQPUT; see [“API 完了コードと理由コード” on page 1123](#) for more information.

The most likely causes of this problem are:

1. Put requests are inhibited for the system-command input queue or the transmission queue.
2. The system-command input queue or transmission queue is full, because the command server is not running.
3. There is insufficient storage available.

System action

The command is not sent to the queue manager and the panel is redisplayed.

CSQ0017E

MQGET from *reply-q* unsuccessful. Reason code=*mqrc*.

Severity

8

Explanation

The reply to a command could not be retrieved from the reply-to queue using MQGET. (The reply-to queue is a local queue generated from the model queue SYSTEM.COMMAND.REPLY.MODEL.) *mqrc* is the reason code returned from MQGET; see [“API 完了コードと理由コード” on page 1123](#) for more information.

A possible cause of this problem is that get requests are inhibited on the reply-to queue.

System action

The panel is redisplayed. The command was sent to the queue manager, but it might not have been executed successfully.

CSQ0018E

Queue manager is invalid or unknown or unavailable.

Severity

8

Explanation

An attempt to send a command was unsuccessful because the target or action queue manager was not known or not valid or not running.

System action

The command is not sent the queue manager and the panel is redisplayed.

CSQ0019E

Queue manager is no longer available.

Severity

8

Explanation

The queue manager that you were using is no longer running. The action that you requested might not have been actioned.

System action

The main menu is redisplayed.

CSQ0020I

'*field*' truncated due to quotes. Press Enter to continue.

Severity

0

Explanation

The value in field *field* contains one or more quotation marks. In order that these are treated as quotation marks instead of indicators of the beginning or end of a string, each quotation mark is converted into two quotation marks (doubling up) in the command for the queue manager. However, this conversion has made the string too long, and it has been truncated.

System action

The value is truncated. The panel may be displayed again with *field-name* set to the truncated value.

CSQ0021I

Generic name not allowed.

Severity

8

Explanation

You entered a name ending with an asterisk, but generic names are only allowed on the Main Menu panel.

System action

The panel is redisplayed.

CSQ0022I

Filter value invalid.

Severity

8

Explanation

You asked to list objects with filtering, but the value entered for the attribute to be used was invalid.

System action

The main menu panel or an empty list panel is displayed.

CSQ0023I

Command *command* not recognized.

Severity

4

Explanation

The command entered in the panel command area (or using a function key) is not valid.

System action

The panel is redisplayed.

CSQ0025I

There are no messages to view.

Severity

0

Explanation

The MSGVIEW panel command was entered in the command area, or the messages function key was pressed, but there are no messages from the queue manager to view.

System action

The panel is redisplayed.

CSQ0027I

Function *function* not allowed for object type *object-type*.

Severity

8

Explanation

The function number that you entered is not allowed for *object-type* objects.

System action

The current panel is redisplayed.

CSQ0028I

One of '*field1*' or '*field2*' but not both must be supplied.

Severity

0

Explanation

Nothing was entered in the two named fields, or something was entered in both of them. Either one or the other must have a value.

System action

The current panel is redisplayed.

CSQ0029I

Command exceeds maximum allowable length of 32762 bytes.

Severity

4

Explanation

While defining or altering a namelist, too many names are added causing the necessary command to exceed the maximum allowable length.

System action

The panel is redisplayed.

CSQ0030I

No objects of type *objtype* match *name*.

Severity

0

Explanation

You asked to display or list the objects of type *objtype* and name *name*, but no matching objects were found.

System action

The current panel is redisplayed.

CSQ0031E

ALLOCATE of data set *dsname* unsuccessful. Return code = *rc*.

Severity

8

Explanation

An ALLOCATE error occurred when processing the data set allocated during an attempt to edit the names in a namelist. *dsname* is the name of the data set, and is of the form *userid*.NAMELIST.NAMES*n* (where *userid* is the TSO userid involved, and *n* is a number). *rc* is the return code from the TSO command ALLOCATE.

The most likely cause of this problem is that another data set with the same name already exists, or that DDname CSQONL*n* is in use.

System action

The panel is redisplayed.

System programmer response

This message will be accompanied by one or more messages from TSO, giving more information about the cause of the problem. The return code is documented in the *TSO/E Command Reference* manual.

If you are unable to resolve the problem, contact your IBM support center.

CSQ0032E

Serious error returned. Press F10 to view.

Severity

12

Explanation

A command was sent to the queue manager, but message CSQN205I was received in reply, indicating a severe error.

System action

Message CSQN205I is saved. The current panel is redisplayed.

System programmer response

Look up message CSQN205I and take the appropriate action.

CSQ0033E

Format of first reply not recognized. Press F10 to view.

Severity

8

Explanation

A command was sent to the queue manager, but the first reply message received is not CSQN205I.

System action

The messages received are saved. If it is not possible to continue, the current panel is redisplayed.

CSQ0034E

Reply format not recognized. Press F10 to view.

Severity

8

Explanation

A command was sent to the queue manager. The first reply message received was CSQN205I as expected, but a subsequent message was not as expected.

System action

The message that caused the problem, and any subsequent messages are saved. If it is not possible to continue, the current panel is redisplayed.

CSQ0035E

Unable to get storage (return code = *rc*).

Severity

12

Explanation

An attempt to get storage was unsuccessful.

System action

The system is unable to acquire enough storage.

System programmer response

Determine why there was insufficient storage available to satisfy the request.

CSQ0036I

List is not filtered.

Severity

0

Explanation

You asked for a secondary list from a list that was filtered (for example, status from a list of queues or channels). The filter condition is not applied to the secondary list; all items that match the originally requested name, type, and disposition are included.

CSQ0037I

Locally-defined channel will be used.

Severity

4

Explanation

You selected an action from the List Cluster queue manager Channels panel for an auto-defined cluster channel, but there is a locally-defined channel of the same name. In such a case, if you decide to take the action, it will be performed against the locally-defined channel instead.

System action

The action panel is displayed.

CSQ0038I

Function is recursive.

Severity

4

Explanation

The function you requested would cause recursion; that is, it would take you to a panel that you have previously come from. This is not allowed.

System action

The current panel is redisplayed.

CSQ0039E

EDIT of data set *dsname* failed. Return code = *rc*.

Severity

8

Explanation

An EDIT error occurred when processing the data set allocated during an attempt to edit the names in a namelist. *dsname* is the name of the data set, and is of the form *userid.NAMELIST.NAMES_n* (where *userid* is the TSO userid involved, and *n* is a number). *rc* is the return code from the ISPF command EDIT.

System action

The panel is redisplayed.

System programmer response

This message will be accompanied by one or more messages from TSO, giving more information about the cause of the problem. The return code is documented in the *TSO/E Command Reference* manual.

If you are unable to resolve the problem, contact your IBM support center.

CSQ0040I

No open queues with disposition *disptype* match *name*.

Severity

0

Explanation

You asked to list the open queues with disposition (or dispositions) *disptype* and name *name*, but no matching objects were found.

System action

The empty list panel is displayed.

CSQ0041I

Action requires a specific object type.

Severity

4

Explanation

A define request was issued for object type QUEUE or CHANNEL.

System action

The secondary window or main panel is redisplayed.

CSQ0042I

On the first panel.

Severity

0

Explanation

A function key was pressed that requests scrolling back to the previous panel, but the first panel is already being displayed.

System action

The panel is redisplayed.

CSQ0043I

On the last panel.

Severity

0

Explanation

A function key was pressed that requests scrolling forward to the next panel, but the last panel is already being displayed.

System action

The panel is redisplayed.

CSQ0044I

Function not available for objects with type *objtype*.

Severity

0

Explanation

The function you requested (for example, status or cluster information) is not available for objects with type *objtype*.

System action

The panel is redisplayed.

CSQ0045I

Name too long for object type *type*.

Severity

8

Explanation

You specified a name that was longer than 20 characters for a channel object or longer than 16 characters for a connection object or longer than 8 characters or longer than 12 characters for a CF structure object or longer than 8 characters for a storage class object.

System action

The panel is redisplayed.

CSQ0046I

No channels with saved status for *name*.

Severity

0

Explanation

You asked to list the saved status for channel *name*, but there was none.

System action

The empty list panel is displayed.

CSQ0047I

No current channels for *name*.

Severity

0

Explanation

You asked to list the current instances for channel *name*, but there were none.

System action

The empty list panel is displayed.

CSQ0048I

Channel initiator is not active.

Severity

0

Explanation

The action you requested needs the channel initiator to be active on the action queue manager, but it is not.

System action

The panel is redisplayed.

CSQ0049I

EXEC cannot be invoked as a TSO command.

Severity

4

Explanation

An attempt was made to issue one of the Operations and Control execs as a TSO command.

System action

The request is ignored.

System programmer response

Use CSQOREXX to invoke the Operations and Control panels.

CSQ0050I

No objects of type *objtype* disposition *disptype* match *name*.

Severity

0

Explanation

You asked to display or list the objects of type *objtype*, with disposition (or dispositions) *disptype* and name *name*, but no matching objects were found.

System action

The current panel is redisplayed or the empty list panel is displayed.

CSQ0051I

Like object name with disposition *disptype* not found. Name assumed to be for defining new object with default attributes.

Severity

0

Explanation

You asked to define an object of type *objtype*, using as a basis an object with disposition *disptype* and name *name*, but no such object was found.

(In earlier releases, you could specify the name of a new object to define on the Main Menu panel, and a 'like' name to use as a basis for your definition. Now, only the 'like' name can be specified for Define on the Main Menu panel; you specify the new object name on the Define panel.)

System action

The Define panel is displayed, initialized with the name you specified and the default attributes for that type of object, on the assumption that you intended to define a new object with default attributes.

CSQ0052I

Queue manager names changed because connect name changed.

Severity

0

Explanation

The Connect name field was changed but the Target queue manager field was not, and the new connect name was different from the target queue manager name. It is assumed you have forgotten to change the target queue manager.

System action

The target queue manager is changed to the queue manager you are connected to; the action queue manager might also be changed. The 'Queue Manager Names' secondary window is displayed, showing the new names that will be used.

CSQ0053I

Blank connect or queue manager names specified.

Severity

0

Explanation

One or more of Connect name, Target queue manager, or Action queue manager fields was blank, specifying that the default name should be used.

System action

The Queue Manager Names secondary window is displayed, showing the actual names that will be used.

CSQ0054I

Function not available for objects with disposition *disptype*.

Severity

0

Explanation

The function you requested (for example, status or cluster information) is not available for objects with disposition (or dispositions) *disptype*.

System action

The panel is redisplayed.

CSQ0055I

Connect name is a queue sharing group.

Severity

0

Explanation

The Connect name field specified the name of a queue sharing group, to connect to any queue manager in the group.

System action

The Queue Manager Names secondary window is displayed, showing the queue manager you are connected to.

CSQ0056I

Queue sharing group is needed.

Severity

0

Explanation

The action you requested needs the queue manager to be part of a queue sharing group, but it is not.

System action

The panel is redisplayed.

CSQ0057I

Function *function* is not allowed for disposition *disposition*.

Severity

8

Explanation

The function number that you entered is not allowed with the specified disposition. This is the disposition of the object you are working with if you are using the Manage action, or the disposition you chose if you are performing a channel function.

System action

The current panel is redisplayed.

CSQ0058I

Action *action* is not allowed for channels with disposition *disposition*.

Severity

8

Explanation

The action number that you entered is not allowed for channel objects with the specified disposition.

System action

The current panel is redisplayed.

CSQ0059I

Disposition *disposition* is not allowed for object type *object-type*.

Severity

8

Explanation

The disposition that you entered is not allowed for *object-type* objects.

System action

The current panel is redisplayed.

CSQ0060I

Platform for target queue manager *qmgr-name* is not z/OS or OS/390®.

Severity

4

Explanation

The target queue manager is running on a platform that is not z/OS or OS/390. With such a queue manager, it is likely that actions will work only partially, incorrectly, or not at all, and that the replies from the queue manager will not be recognized.

System action

The Confirm Target Queue Manager secondary window is displayed.

CSQ0061I

Target queue manager *qmgr-name* command level is not supported.

Severity

4

Explanation

The target queue manager has a command level which is not one of those supported by the Operations and Control panels. With such a queue manager, it is likely that actions will work only partially, incorrectly, or not at all, and that the replies from the queue manager will not be recognized.

System action

The Confirm Target Queue Manager secondary window is displayed.

CSQ0062I

Action queue manager *qmgr-name* command level is not the current level.

Severity

4

Explanation

The action queue manager has a command level which is not the current level supported by the Operations and Control panels. If an action is directed to such a queue manager most actions will work, but some fields will be ignored; a few objects and actions will be disallowed.

System action

The Confirm Action Queue Manager secondary window is displayed.

CSQ0063I

Command level of some queue managers in the queue sharing group is not the current level.

Severity

4

Explanation

The action queue manager is * and one or more queue managers in the queue sharing group has a command level which is not the current level supported by the Operations and Control panels. If an action is directed to such a queue manager or to all queue managers in the queue sharing group, most actions will work, but some fields will be ignored; a few objects and actions will be disallowed.

System action

The Confirm Action Queue Manager secondary window is displayed.

CSQ0064I

Object type *object-type* is not allowed with command level of action or target queue manager.

Severity

4

Explanation

The action or target queue manager has a command level which does not support *object-type* objects.

System action

The 'Confirm Action Queue Manager' secondary window is displayed.

CSQ0065I

Object name *name* is invalid.

Severity

8

Explanation

The value entered in the Name field was invalid.

System action

The panel is redisplayed.

CSQ0066I

No status of this type for CF structures matching *name*.

Severity

0

Explanation

You asked to list status for CF structures with name *name*, but there were none with status of that type.

System action

The empty list panel is displayed.

CSQ0067I

Some channel initiators not active in queue sharing group. List may be incomplete.

Severity

4

Explanation

The action you requested requires information from the channel initiators on all the queue managers in the queue sharing group, but some of those channel initiators are not active. The information might therefore be incomplete.

System action

The list panel is displayed, but might be incomplete.

CSQ0068I

No channel initiators active in queue sharing group.

Severity

4

Explanation

The action you requested requires information from the channel initiators on all the queue managers in the queue sharing group, but none of those channel initiators are active. No information can therefore be displayed.

System action

The empty list panel is displayed.

CSQ0069I

Action or function or object type is not allowed because of queue manager command level.

Severity

4

Explanation

The action queue manager has a command level which is not the current level supported by the Operations and Control panels. The action, function, or object type you chose is not allowed at that command level.

System action

The panel is redisplayed.

CSQ0070I

No field value supplied.

Severity

0

Explanation

You asked to list objects with filtering, but no value was entered into any of the fields on the filter panels. A value must be entered into one (and only one) field to specify the filtering you want.

System action

The panel is redisplayed.

CSQ0071I

More than one field value supplied.

Severity

0

Explanation

You asked to list objects with filtering, but a value was entered into more than one of the fields on the filter panels. Only one field value may be entered to specify the filtering you want.

System action

The panel is redisplayed.

CSQ0072I

No current channels for *name* match filter condition.

Severity

0

Explanation

You asked to list the current instances for channel *name* with a filter condition, but there were none that satisfied the condition.

System action

The empty list panel is displayed.

CSQ0073I

No channels with saved status for *name* match filter condition.

Severity

0

Explanation

You asked to list the saved status for channel *name* with a filter condition, but there were none with saved status that satisfied the condition.

System action

The empty list panel is displayed.

CSQ0074I

No objects of type *objtype* match *name* and filter condition.

Severity

0

Explanation

You asked to display or list the objects of type *objtype* and name *name*, with a filter condition, but no matching objects were found that satisfied the condition.

System action

The current panel is redisplayed.

CSQ0075I

No objects of type *objtype* disposition *disptype* match *name* and filter condition.

Severity

0

Explanation

You asked to display or list the objects of type *objtype*, with disposition (or dispositions) *disptype* and name *name*, with a filter condition, but no matching objects were found that satisfied the condition.

System action

The current panel is redisplayed or the empty list panel is displayed.

CSQ0076I

No connections match *name*.

Severity

0

Explanation

You asked to list connections with name *name*, but there were none.

System action

The empty list panel is displayed.

CSQ0077I

No open handles for connection name match *name*.

Severity

0

Explanation

You asked to list the open handles for the connection *name*, but no such handles were found.

System action

The empty list panel is displayed.

CSQ0078I

No connections match *name* and filter condition.

Severity

0

Explanation

You asked to list connections with name *name*, but there were none that satisfied the condition.

System action

The empty list panel is displayed.

CSQ0079I

No open queues with disposition *disptype* match *name* and filter condition.

Severity

0

Explanation

You asked to list the open queues with disposition (or dispositions) *disptype* and name *name* with a filter condition, but no matching objects were found that satisfied the condition.

System action

The empty list panel is displayed.

CSQ0085E

Error in *pgm-name*. TBCREATE *table-name* failed, return code = *rc*.

Severity

12

Explanation

An attempt by *pgm-name* to call the ISPF TBCREATE service was unsuccessful. *table-name* is the name of the table that *pgm-name* was attempting to create.

System action

An internal error has occurred. The current panel is redisplayed. An ISPF message giving more details about the error might be shown first.

System programmer response

An internal error has occurred, note the message number and the values contained in it, together with any associated ISPF message, and contact your IBM support center to report the problem.

CSQ0086E

Error in *pgm-name*. TBDISPL *panel-name* failed, return code = *rc*.

Severity

12

Explanation

An attempt by *pgm-name* to call the ISPF TDISPL service was unsuccessful. *panel-name* is the name of the panel that *pgm-name* was attempting to display.

System action

The system is unable to display the panel, and the last panel is redisplayed (if applicable). An ISPF message giving more details about the error might be shown first.

System programmer response

If *rc*=12, the system is unable to find the panel. If you receive this message when you are trying to display the 'Main Menu' panel it could be that you do not have the data set containing the panels in your library concatenation. Find the name of the data set containing the panels, then check your ISPLIB library definitions. This will probably be in your TSO logon procedure unless you are calling CSQOREXX from a higher level exec or CLIST that has the ISPF LIBDEF calls in it.

If you are already using the panels when you get this message, either a panel is missing from your ISPLIB library, or an internal error has occurred. If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center for assistance.

If *rc*=20, the most likely cause of the problem is that the system was unable to find the key-list which goes with the panel that it is trying to display. All the key lists are in an ISPF table (CSQOKEYS) that should be in a library in your ISPTLIB concatenation.

CSQ0087E

Error in *pgm-name*. SELECT *program* failed, return code = *rc*.

Severity

12

Explanation

An attempt by *pgm-name* to call the ISPF SELECT service was unsuccessful. *program* is the name of the program that *pgm-name* was attempting to select.

System action

The current panel is redisplayed. An ISPF message giving more details about the error might be shown first.

System programmer response

The system is unable to find a load module. Check your ISPLIB library concatenation.

CSQ0088E

Error in *pgm-name*. DISPLAY *panel-name* failed, return code = *rc*.

Severity

12

Explanation

An attempt by *pgm-name* to call the ISPF DISPLAY service was unsuccessful. *panel-name* is the name of the panel that *pgm-name* was attempting to display.

System action

The system is unable to display the panel, and the last panel is redisplayed (if applicable). An ISPF message giving more details about the error might be shown first.

System programmer response

If *rc*=12, the system is unable to find the panel. If you receive this message when you are trying to display the 'Main Menu' panel it could be that you do not have the data set containing the panels in your library concatenation. Find the name of the data set containing the panels, then check your

ISPPLIB library definitions. This will probably be in your TSO logon procedure unless you are calling CSQOREXX from a higher level exec or CLIST that has the ISPF LIBDEF calls in it.

If you are already using the panels when you get this message, either a panel is missing from your ISPPLIB library, or an internal error has occurred. If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center for assistance.

If *rc*=20, the most likely cause of the problem is that the system was unable to find the key-list which goes with the panel that it is trying to display. All the key lists are in an ISPF table (CSQOKEYS) that should be in a library in your ISPTLIB concatenation.

CSQ0089E

Error in *pgm-name*. *service* failed, return code = *rc*.

Severity

12

Explanation

An attempt by *pgm-name* to call the ISPF service (*service*) was unsuccessful.

System action

The current panel is redisplayed. An ISPF message giving more details about the error might be shown first.

System programmer response

***service*=VDEFINE, VPUT, or TBADD**

An internal error has occurred, note the message number and the values contained in it, and contact your IBM support center for assistance.

If *service* is anything else, note the message number and the values contained in it, together with any associated ISPF message, and contact your IBM support center to report the problem.

CSQ0090E

Internal error in *program*. Action field is not valid.

Severity

12

Explanation

An internal error has occurred.

System action

The current panel is redisplayed.

System programmer response

Collect the following items, and contact your IBM support center:

- The number of the message, and the value of *program*
- The name of the panel involved
- A description of the actions that led to the problem

CSQ0091E

Internal error in *program*. Object field is not valid.

Severity

12

Explanation

An internal error has occurred.

System action

The last panel is redisplayed.

System programmer response

Collect the following items, and contact your IBM support center:

- The number of the message, and the value of *program*
- The name of the panel involved
- A description of the actions that led to the problem

CSQ0092E

Internal error in *program*. Error in reply translation.

Severity

12

Explanation

An internal error has occurred.

System action

The last panel is redisplayed.

System programmer response

Collect the following items, and contact your IBM support center:

- The number of the message, and the value of *program*
- The name of the panel involved
- A description of the actions that led to the problem

CSQ0093E

Internal error in *program*. Command request is not valid.

Severity

12

Explanation

An internal error has occurred.

System action

The last panel is redisplayed.

System programmer response

Collect the following items, and contact your IBM support center:

- The number of the message, and the value of *program*
- The name of the panel involved
- A description of the actions that led to the problem

CSQ0095E

Internal error in *program*. *service* failed, return code = *rc*.

Severity

12

Explanation

An internal error has occurred.

System action

The last panel is redisplayed.

System programmer response

Collect the following items, and contact your IBM support center:

- The number of the message, and the values of *program* and *service*
- The name of the panel involved
- A description of the actions that led to the problem
- Any associated ISPF message shown

CSQ0096E

Internal error in *program*. *att-name* not in keyword table.

Severity

12

Explanation

An internal error has occurred.

System action

The last panel is redisplayed.

System programmer response

Collect the following items, and contact your IBM support center:

- The number of the message, and the values of *program* and *att-name*
- The name of the panel involved
- A description of the actions that led to the problem

CSQ0097E

Internal error in *program*. No handle for required system queue.

Severity

12

Explanation

An internal error has occurred.

System action

The last panel is redisplayed.

System programmer response

Collect the following items, and contact your IBM support center:

- The number of the message
- The name of the panel involved
- A description of the actions that led to the problem

Buffer manager messages (CSQP...)

CSQP002I

BUFFPOOL VALUE OUT OF RANGE

Severity

8

Explanation

One of the following commands has been issued incorrectly:

- DEFINE BUFFPOOL(n)

- ALTER BUFFPOOL(n)
- DELETE BUFFPOOL(n)
- DEFINE PSID(x) BUFFPOOL(n)

The value of n is in the range 0 to 99.

System action

The command is ignored.

System programmer response

See [MQSC commands](#) for information about the command, and reissue the command correctly.

CSQP003I

PSID VALUE OUT OF RANGE

Severity

8

Explanation

One of the following commands has been issued incorrectly:

- DEFINE PSID(x)
- ALTER PSID(x)
- DELETE PSID(x)

The value of x must be in the range 0 through 99.

System action

The command is ignored.

System programmer response

See [MQSC commands](#) for information about the command, and reissue the command correctly.

CSQP004E

csect-name I/O ERROR STATUS *ret-code* PSID *psid* RBA *rba*

Severity

8

Explanation

An I/O error has occurred. *ret-code* is the return code from the Media Manager. *psid* is the identifier of the page set for which the error occurred and *rba* is the RBA (in hexadecimal) of the record on which the error occurred.

System action

The queue manager can be abended. For example, in the case of a failing MQGET or MQPUT, the queue manager is not terminated if the CSQP004E I/O error occurs during an IBM MQ API call. However, if the I/O error occurs during checkpoint processing, the queue manager is terminated.

System programmer response

See the *z/OS DFSMSdfp Diagnosis* manual for information about [Media manager return codes](#). If you do not have access to the required manual, contact your IBM support center, quoting the return code from the Media Manager.

CSQP005I

BUFFERS VALUE OUT OF RANGE

Severity

8

Explanation

One of the following commands has been issued incorrectly:

- DEFINE BUFFPOOL(*n*) BUFFERS(*x*)
- ALTER BUFFPOOL(*n*) BUFFERS(*x*)

If the value of the LOCATION parameter is BELOW, the minimum value of buffers is 100 and the maximum value is 500,000. If the value of the LOCATION parameter is ABOVE then valid values are in the range of 100 to 999999999 (nine nines).

System action

The command is ignored.

System programmer response

Reissue the command correctly. The total number of buffers that it is possible to define in all the buffer pools is determined by the amount of storage available in the queue manager address space.

CSQP006I

LOG CHECKPOINT NAME *log-name* DOES NOT MATCH QUEUE MANAGER NAME *qmgr-name*

Severity

8

Explanation

An attempt to restart with a log from another queue manager was detected. The name recorded in the log during checkpoint does not match the name of the queue manager using that log for restart.

System action

Restart is abnormally terminated with completion code X'5C6' and reason code X'00D70102'.

System programmer response

Change the started task JCL procedure xxxxMSTR for the queue manager to name the appropriate bootstrap and log data sets.

CSQP007I

Page set *x* uses buffer pool *n*

Severity

0

Explanation

This message gives the buffer pool used by the specified page set.

It is sent in response to a DEFINE PSID(*x*) command.

CSQP009I

PAGE RECOVERY STARTED FOR PAGE SET *psid* PAGE *page-number*

Severity

0

Explanation

An incomplete update operation was detected for page *page-number* of page set *psid*. The page is being restored to a consistent state from information on the log.

Message CSQP010I will be issued when the page recovery operation has completed.

CSQP010I

PAGE RECOVERY COMPLETE FOR PAGE SET *psid* PAGE *page-number*

Severity

0

Explanation

An incomplete update operation was detected for page *page-number* of page set *psid*. The page has been restored to a consistent state from information on the log.

CSQP011E

CONNECT ERROR STATUS *ret-code* FOR PAGE SET *psid*

Severity

8

Explanation

An attempt to open a page set was unsuccessful. *psid* is the page set identifier and *ret-code* is the return code from the Data Facilities Product (DFP) CONNECT function.

This can occur during queue manager startup, where the most likely cause is that there is no DD statement for the page set included in the queue manager started task JCL, or in response to a DEFINE PSID command used to add a page set dynamically.

System action

If this occurs during queue manager startup, MQ attempts to dynamically allocate the page set and retry the open, on the assumption that the DD statement for the page set is missing. Messages following message CSQI010I at the end of restart indicate whether the dynamic page set allocation was successful, or whether such page sets still remain offline.

If the page set cannot be opened, the queue manager continues running, but you will be unable to access the data in that page set. You could encounter problems during restart, or when attempting to open a queue.

System programmer response

If applicable, ensure that there is a DD statement for the page set included in the queue manager started task JCL.

If the page set cannot be opened, see the *z/OS DFSMSdfp Diagnosis* manual for information about [Media manager return codes](#). If you do not have access to the required manual, contact your IBM support center, quoting the return code from the Media Manager.

CSQP012I

DISCONNECT ERROR STATUS *ret-code* FOR PAGE SET *psid*

Severity

8

Explanation

An attempt to close a page set was unsuccessful. *psid* is the page set identifier and *ret-code* is the return code from the Media Manager.

System action

Queue manager shutdown continues, but some information might be missing from the page set. This will be corrected from the log during restart.

System programmer response

See the *z/OS DFSMSdfp Diagnosis* manual for information about [Media manager return codes](#). If you do not have access to the required manual, contact your IBM support center, quoting the return code from the Media Manager.

CSQP013I

csect-name NEW EXTENT CREATED FOR PAGE SET *psid*. NEW EXTENT WILL NOW BE FORMATTED

Severity

0

Explanation

Page set *psid* has been successfully dynamically expanded by creating a new extent.

System action

The new extent is formatted; message CSQI031I will be issued when formatting completes successfully.

System programmer response

The page set can only be expanded 123 times. After this you will have to reallocate the page set using larger primary and secondary extents. For information about managing page sets, see [Managing page sets](#).

CSQP014E

csect-name EXPANSION FAILED FOR PAGE SET *psid*. FUTURE REQUESTS TO EXTEND IT WILL BE REJECTED

Severity

8

Explanation

An attempt to expand a page set dynamically was unsuccessful.

System action

Processing continues.

System programmer response

Look for messages from VSAM or DFP that explain why the request was unsuccessful, and do the required actions.

Determine why the page set needs to expand:

- Review [Planning your page sets and buffer pools](#) to make sure your page set allocation is large enough for your application queues.
- If there is a large depth on the Dead Letter Queue (DLQ) either implement the DLQ Handler, [CSQUDLQH](#), or clear the queue with CLEAR QLOCAL command if you don't need to take further action with the messages. Similarly, SYSTEM.EVENT.* queues can fill a page set.
- Look in joblogs or application logs to see if an error is preventing the getting application from running.
- See if an application is failing to commit its gets or puts. You can tell if there are uncommitted messages by using the following command:

```
DISPLAY QSTATUS(qname) UNCOM CURDEPTH
```

Notes:

1. The display does not show how many messages are uncommitted, and whether they are for gets or puts.
 2. A message that is subject to an uncommitted MQGET still takes up space on the page set, although the message no longer contributes to the depth of the queue.
- If the getting application is a channel, is the channel starting, and is the channel able to successfully move messages? Use the command

```
DISPLAY CHSTATUS(channelname) ALL
```

to verify the [channel status](#) attributes including STATUS, SUBSTATE, and INDOUBT.

- If the messages use an integer in MQMD.EXPIRY, there might be expired messages that need to be cleaned up. If EXPRYINT is set to OFF in the QMGR definition, the command

```
REFRESH QMGR TYPE(EXPIRY) NAME(big.queue)
```

causes an EXPIRY scan of the queue that matches the name provided in the NAME() field. This command can take some time to process. Issue the command

```
DISPLAY USAGE PSID(n)
```

where n is the page set number, at regular intervals, to monitor progress.

- Check for any third party products on the system that get involved with EOVS or EXTEND processing.

If you have received message IEC070I, and the *return code* (the first value in that message) is:

034(004):

End of volume - Non-extended addressable. The new allocation amount would exceed 4 GB.

If the message volume or size requires a larger page set, follow the instructions at [Defining a page set to be larger than 4 GB](#)

104

No more volumes are available on which to allocate space (no more candidate volumes).

Use the following commands to add space and switch off the internal "page not expandable" flag:

- The ALTER ADDVOLUME command; see [Extending data sets on new volumes](#) in the *z/OS DFSMS Implementing System-Managed Storage* manual for more information.
- ALTER PSID() EXPAND()

You must supply valid syntax, that is, a page set number and expand value. See [ALTER PSID](#) for more information.

203

An extend was attempted, but no secondary space allocation quantity was specified.

204

An extend was attempted, but the maximum number of extents was reached.

The maximum number of extents for a VSAM data set cataloged in an ICF catalog is between 119 and 123, depending upon the number of extents (1-5) allocated by DADSM per allocate/extend request.

209

- An extend was attempted, but no space was available on user volume.
- No secondary space quantity was specified and no candidate volumes are available.

You can follow the directions in [How to increase the size of a page set](#) as IBM MQ for z/OS allows you to [enable dynamic page set expansion](#), or add candidate volumes using IDCAMS ALTER ADDVOL.

The data set then needs to be closed and reopened so that the TIOT is rebuilt; otherwise IEC070I 211(8,306)-221 and IGD306I UNEXPECTED ERROR DURING IEFAB4C2 PROCESSING RETURN CODE 24 REASON CODE 0 might occur.

The close can be done without a recycle of the queue manager by using the following JCL:

```
//STEP1 EXEC PGM=IDCAMS
//DSFILE DD DSN=your.dataset.name,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
VERIFY FILE(DSFILE)
/*
```

You might need to run the JCL twice to complete with a non-zero return code. Some flags might not be reset during the first run.

Note: DFP uses up to five non-contiguous areas of disk to satisfy the total space requirements of a primary or secondary extent. This means, in the worst case of badly fragmented disk space, that you might only get around 22 times the secondary space allocated before you reach the maximum space limit.

If you believe that there is sufficient free space that could be used by another secondary extent, contact your IBM support center for assistance.

220-220

IBM MQ for z/OS requested that Media Manager extend the page set (a linear data set) and passed Media Manager extend parameters that are not valid.

One cause for this is that the page set has reached the 64GB limit. [Formatting page sets \(FORMAT\)](#) equates a 64 GB page set with a maximum of 16,777,213 4K pages. You can observe the size of the page set using the [DISPLAY USAGE](#) command.

CSQP016E

csect-name PAGE SET *psid* HAS REACHED THE MAXIMUM NUMBER OF EXTENTS. IT CANNOT BE EXTENDED AGAIN

Severity

8

Explanation

An attempt to expand page set *psid* dynamically was unsuccessful because the maximum number of extents had been used.

System action

The page set cannot be extended again. When the messages on the full page set are retrieved, the existing space will be reused.

System programmer response

Copy the page set to a new page set with larger primary and secondary extents. By defining the page set as a multivolume data set, you can take advantage of the free space on as many disk volumes as possible. See [Planning your IBM MQ environment on z/OS](#). For more information about page set organization and management, see [Managing page sets](#).

CSQP017I

csect-name EXPANSION STARTED FOR PAGE SET *psid*

Severity

0

Explanation

Page set *psid* is being expanded dynamically, by creating a new extent.

System action

All threads that are currently adding message to page set *psid* are suspended until the page set expansion completes (this is indicated by message [CSQP013I](#)).

CSQP018I

csect-name CHECKPOINT STARTED FOR ALL BUFFER POOLS

Severity

0

Explanation

A checkpoint is being taken for all defined buffer pools.

CSQP019I

csect-name CHECKPOINT COMPLETED FOR BUFFER POOL *n*, *pages* PAGES WRITTEN

Severity

0

Explanation

A checkpoint has been successfully taken for buffer pool *n*.

CSQP020E

csect-name Buffer pool *n* is too small

Severity

8

Explanation

Contention is taking place for buffers in a buffer pool. Messages will have to be read from and written to the page sets, which increases the time to process an application request and increases the amount of processor time used.

System action

Processing continues.

System programmer response

If required, use the ALTER BUFFPOOL command to add more buffers to the buffer pool. Consider first altering other buffer pools to reduce the total number of buffers in use. Refer to the latest CSQY220I message on the z/OS console to see how much virtual storage is free, and hence how many extra buffers may be safely added to a buffer pool. If you do change the number of buffers in the buffer pool, you should also change the DEFINE BUFFPOOL commands in the CSQINP1 initialization input data set used by the queue manager.

Alternatively, specify DEFINE BUFFPOOL(X) REPLACE as this option does not use the log checkpoint record.

If the buffer pool has a LOCATION value of BELOW and there is insufficient storage below the bar then consider moving the buffer above the bar by setting its LOCATION value to ABOVE. This might require altering the value of the MEMLIMIT parameter. For more information, see [Address space storage](#).

CSQP021I

Page set *psid* new media recovery RBA=*rcvry-rba*, checkpoint RBA=*chkpt-rba*

Severity

0

Explanation

During checkpoint processing, buffers have been flushed from the buffer pools to the indicated page set, establishing a new media recovery RBA. This RBA is the point from which log data would be required to perform media recovery for the page set. It should be the same as the checkpoint RBA.

System action

Processing continues.

System programmer response

If the media recovery and checkpoint RBAs differ, contact your IBM support center.

CSQP022I

Buffer pool *n* is not defined

Severity

8

Explanation

A command has been issued specifying a buffer pool that is not defined.

System action

The command is ignored.

System programmer response

See [MQSC commands](#) for information about the command, and reissue the command correctly.

CSQP023I

Request completed for buffer pool *n*, now has *k* buffers

Severity

0

Explanation

The size of the specified buffer pool has been successfully changed.

CSQP024I

Request initiated for buffer pool *n*

Severity

0

Explanation

The request to change the buffer pool has been accepted. One of the messages CSQP023I, CSQP052I, or CSQP053I will be sent to the z/OS console when the change is complete,

CSQP025I

Page set *n* is not defined or offline

Severity

8

Explanation

A command has been issued specifying a page set that is not available to the queue manager.

System action

The command is ignored.

System programmer response

See [MQSC commands](#) for information about the command, and reissue the command correctly.

CSQP026I

Page set *n* is in use by a storage class

Severity

8

Explanation

The page set specified is referenced by a storage class, and so cannot be deleted.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Change or delete all the storage classes that reference the page set, and then reissue the command.

CSQP027I

Page set *n* has buffers in use

Severity

8

Explanation

The page set specified has buffers that are still in use, and so cannot be deleted.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Wait until three checkpoints have been completed, and then reissue the command.

CSQP028I

Request initiated for page set *n*

Severity

0

Explanation

The request to define or delete the page set has been accepted. Message [CSQP042I](#) or [CSQP032I](#) will be sent to the z/OS console when the change is complete. If the change fails, messages [CSQP041E](#) or [CSQP031E](#) will be sent.

CSQP030E

Deallocation failed for data set *dsname*, error status=*eeeeiiii*, SMS reason code=*ssssssss*

Severity

8

Explanation

An error occurred when trying to dynamically deallocate the page set data set. Error status is the error reason code returned by z/OS dynamic allocation.

System action

The page set is deleted and is no longer available for use.

System programmer response

The error status portion of this message contains a 2-byte error code (*eeee*, S99ERROR) followed by the 2-byte information code (*iiii*, S99INFO) from the SVC99 request block. If the S99ERROR code indicates an SMS allocation error ('97xx'), then *ssssssss* contains additional SMS reason code information obtained from S99ERSN.

Go to the *z/OS MVS Authorized Assembler Services Guide* and select the [Interpreting DYNALLOC return codes](#) topic for information about these codes .

CSQP031E

Page set *n* deletion failed

Severity

8

Explanation

An error occurred while deleting the specified page set.

System action

Processing continues.

System programmer response

See the preceding error messages for more information about the error.

CSQP032I

Page set *n* deletion completed

Severity

0

Explanation

The specified page set has been successfully deleted.

CSQP033E

Error deleting page set *n*, code=*rrr*

Severity

8

Explanation

An error occurred while deleting the specified page set.

System action

The page set is not deleted, and is still available for use.

System programmer response

Note the error code and contact your IBM support center.

CSQP034E

Page set *n* is already defined

Severity

8

Explanation

The specified page set is already in use by the queue manager, and so cannot be dynamically defined.

System action

The command is ignored.

System programmer response

See [MQSC commands](#) for information about the command, and reissue the command correctly.

CSQP035E

Allocation failed for data set *dsname*, error status=*eeeeiiii*, SMS reason code=*ssssssss*

Severity

8

Explanation

An error occurred when trying to dynamically allocate the page set data set. Error status is the error reason code returned by z/OS dynamic allocation.

System action

The page set is not defined.

System programmer response

The error status portion of this message contains a 2-byte error code (*eeee*, S99ERROR) followed by the 2-byte information code (*iiii*, S99INFO) from the SVC99 request block. If the S99ERROR code indicates an SMS allocation error ('97xx'), then *ssssssss* contains additional SMS reason code information obtained from S99ERSN.

Go to the *z/OS MVS Authorized Assembler Services Guide* and select the [Interpreting DYNALLOC return codes](#) topic for information about these codes .

CSQP036I

Data set *dsname* for page set *n* is not formatted with RECOVER or REPLACE

Severity

8

Explanation

The named page set data set was not formatted correctly. A data set that is to be used for adding a page set dynamically must be one that is newly formatted (using TYPE(RECOVER)), or one that has previously been used to hold messages and has been formatted using TYPE(REPLACE).

System action

The page set is not defined.

System programmer response

Format the data set as required. If you are adding a previously unused page set to the queue manager, use the FORMAT function of the utility program CSQUTIL, specifying TYPE(RECOVER). If the page set was previously used to hold messages, use the FORMAT function specifying TYPE(REPLACE).

In the latter case, if the queue manager terminated abnormally, the formatting may fail, and message CSQU160E will be issued. It is not possible to add such a page set data set dynamically, but the page set can be brought into use again by including it in the started task JCL procedure xxxxMSTR for the queue manager, and then restarting the queue manager.

CSQP037E

OPEN failed for page set *n*, VSAM return code=*rc* reason code=*reason*

Severity

8

Explanation

A VSAM error occurred when trying to open the page set data set.

System action

The page set is not defined.

System programmer response

See the *z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets* manual for information about the return and reason codes from VSAM. If necessary, reissue the request.

CSQP038E

GET failed for page set *n*, VSAM return code=*rc* reason code=*reason*

Severity

8

Explanation

A VSAM error occurred when trying to get a record from the page set data set.

System action

The page set is not defined.

System programmer response

See the *z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets* manual for information about the return and reason codes from VSAM.

CSQP039E

CLOSE failed for page set *n*, VSAM return code=*rc* reason code=*reason*

Severity

8

Explanation

A VSAM error occurred when trying to close the page set data set.

System action

The page set is not defined.

System programmer response

See the *z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets* manual for information about the return and reason codes from VSAM. If necessary, reissue the request.

CSQP041E

Page set *n* definition failed

Severity

8

Explanation

An error occurred while defining the specified page set.

System action

Processing continues.

System programmer response

See the preceding error messages for more information about the error.

CSQP042I

Page set *n* definition completed

Severity

0

Explanation

The specified page set has been successfully defined.

CSQP043I

Buffer pool *n* is in use by a page set

Severity

8

Explanation

The buffer pool specified is in use by a page set, and so cannot be deleted.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Change or delete all the page sets that reference the buffer pool, and then reissue the command.

CSQP045I

Buffer pool *n* is not in use by any page set

Severity

8

Explanation

The buffer pool specified is not in use by any page set, and so cannot have buffers added or removed.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Define at least one page set that references the buffer pool, and then reissue the command, or delete the buffer pool.

CSQP046I

Request already in progress for buffer pool *n*

Severity

8

Explanation

The buffer pool specified is being altered or deleted by another command.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Wait until the other command has completed processing, and then reissue the command if appropriate.

CSQP047E

Unavailable page sets can cause problems - take action to correct this situation

Severity

4

Explanation

One or more page sets are unavailable, as reported in the preceding messages; they are either offline having been used previously, not defined, suspended, or otherwise inaccessible. For example, MQ may have attempted to open a page set at restart, but failed perhaps because it was in use by another application.

This situation can cause problems, so you should take action to correct it as soon as possible.

System action

Processing continues.

System programmer response

Use the DISPLAY USAGE command to get a list of the unavailable page sets.

If a previously-used page set is required, bring it online; this can be done without stopping the queue manager. Use the FORMAT function of the utility program CSQUTIL, specifying TYPE(REPLACE). Then issue a DEFINE PSID command to bring the page set back into use. Note that all units of recovery (except those that are indoubt) that involved the offline page set will have been backed out by the queue manager when the page set was last used. These indoubt units of recovery may be resolved once the page set is back in use by the queue manager.

If a page set is not required, issue a DELETE PSID command to remove it. Also remove any DEFINE PSID command for it from the CSQINP1 initialization input data set.

CSQP048E

PUT failed for page set *n*, VSAM return code=*rc* reason code=*reason*

Severity

8

Explanation

A VSAM error occurred when trying to get a record from the page set data set.

System action

The page set is not defined.

System programmer response

See the *z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets* manual for information about the return and reason codes from VSAM. If necessary, reissue the request.

CSQP049I

Data set *dsname* is formatted for a different page set *n*

Severity

8

Explanation

The page set data set was formatted using TYPE(REPLACE), and as such may contain messages for a specific page set *n*. It cannot be added dynamically with a different page set identifier.

System action

The page set is not defined.

System programmer response

Reissue the command specifying the correct data set and page set. If you intended adding a previously unused page set, reformat the data set with use the FORMAT function of the utility program CSQUTIL, specifying TYPE(RECOVER).

CSQP051I

Insufficient storage for buffer pool *n* request

Severity

4

Explanation

The size of the specified buffer pool has not been changed as requested because insufficient storage is available.

System programmer response

The DISPLAY USAGE command can be used to determine the current sizes of all buffer pools defined to the system. It may be possible to reduce the size of other buffer pools, so freeing storage, which can then be assigned to this buffer pool by reissuing the command.

Message [CSQY220I](#) shows the storage information. Refer to [Managing buffer pools](#) for more information on how to alter your buffer pool.

CSQP052I

Request partially completed for buffer pool *n*, now has *k* buffers

Severity

4

Explanation

The size of the specified buffer pool has been changed. The number of buffers is not that requested because, for example, insufficient storage is available.

CSQP053I

Request completed for buffer pool *n*, buffers not changed

Severity

0

Explanation

The size of the specified buffer pool has not been changed. This could be because the number of buffers requested was the same as the existing size, or because there was insufficient storage

available to change the size or location of the buffer pool (as shown by preceding message CSQP051I).

CSQP054I

Buffer pool *n* is now located above the bar

Severity

0

Explanation

The specified buffer pool has now been moved so that it is located above the bar.

CSQP055I

Buffer pool *n* is now located below the bar

Severity

0

Explanation

The specified buffer pool has now been moved so that it is located below the bar.

CSQP056E

The ALTER BUFFPOOL command for buffer pool *n* has failed

Severity

8

Explanation

An unexpected error occurred while processing the ALTER BUFFPOOL command. The buffer pool will be left with the number of buffers that were in it at the time the error occurred.

System action

Processing continues.

System programmer response

Use the DISPLAY USAGE PSID(*) command to view the current state of the buffer pool. If necessary reissue the ALTER BUFFPOOL command again.

If any abends have been issued, look at the abend code to see if the error is caused by the queue manager being short of storage. Changing the LOCATION parameter from BELOW to ABOVE for a buffer pool might require you to increase the MEMLIMIT parameter in the JCL of the queue manager stored procedure, xxxxMSTR. For more details, see [Address space storage](#).

If switching a buffer pool from above to below the bar you might need to decrease the number of buffers in the buffer pool.

CSQP060E

Page set 0 must use one of buffer pools 0 to 15

Severity

12

Explanation

Page set 0 must be defined so that it uses buffer pool 0 to 15.

System action

Queue manager startup fails.

System programmer response

Define page set 0 so that it uses buffer pool 0 to 15. Generally, use buffer pool 0.

CSQP061I

ALTER BUFFPOOL *n* in progress, elapsed time *m* minutes

Severity

4

Explanation

The ALTER BUFFPOOL command has been issued for the specified buffer pool. If the command takes longer than approximately five minutes to process, this message is output approximately every five minutes until the command is complete.

Once the command is complete one or more of the following messages is output: CSQP023I, CSQP051I, CSQP052I, or CSQP053I.

This message might be output in the following scenarios:

- The specified buffer pool has had its LOCATION parameter changed from ABOVE to BELOW
- The specified buffer pool had its LOCATION parameter set to ABOVE and the number of buffers has been reduced by a large number

In most cases the ALTER BUFFPOOL command completes very quickly, and this message is not output. If this message is output, it should not be a cause for concern unless the value of the elapsed time becomes a large value - more than 30 minutes.

System action

Processing continues.

System programmer response

Monitor the job log for further output of this message, or a message indicating that the ALTER BUFFPOOL command has completed.

If this message is continually output and the elapsed time grows to a large value (more than 30 minutes) this might indicate a problem, so contact your IBM Service representative.

CSQP062I

Buffer pool *n* PAGECLAS changed, restart required to take effect

Severity

4

Explanation

The PAGECLAS attribute of the specified buffer pool has changed.

This change does not dynamically affect the type of pages used by the buffer pool, unless the LOCATION attribute is changed from BELOW to ABOVE at the same time. However the change is logged, and is applied when the queue manager is restarted.

System action

Processing continues. The buffer pool uses the previous value of the PAGECLAS attribute.

System programmer response

None, unless you require that the new PAGECLAS attribute of the specified buffer pool takes immediate effect.

In this case, either restart the queue manager or perform both of the following steps:

1. Buffer pool so that its LOCATION attribute is BELOW and its PAGECLAS is 4KB, and
2. Change the LOCATION attribute of the buffer pool to ABOVE, at the same time as changing the PAGECLAS attribute.

CSQP063E

PAGECLAS value must be 4KB if specified with LOCATION(BELOW)

Severity

8

Explanation

A buffer pool with a LOCATION value of ABOVE and PAGECLAS attribute that is not 4KB has been altered so that its LOCATION value is BELOW.

The only value of PAGECLAS that is valid with a LOCATION value of BELOW is 4KB.

System action

The command is ignored.

System programmer response

In addition to altering the LOCATION attribute to the value BELOW, alter the PAGECLAS attribute to the value 4KB.

CSQP064I

Buffer pool *n* definition in CSQINP1 data set used

Severity

4

Explanation

This message is issued at startup when the queue manager reads its log.

A buffer pool has been defined in the CSQINP1 data set, with the REPLACE attribute specified, so the definition for the buffer pool in the log of the queue manager is ignored.

Changes made to the buffer pool, using the ALTER BUFFPOOL command, when the queue manager was previously running have not occurred.

This message is only output if there is a difference between the definition for the buffer pool in the CSQINP1 data set and the log of the queue manager.

System action

The attribute values for the specified buffer pool are taken from the CSQINP1 data set rather than using the values stored in the log of the queue manager.

System programmer response

If the buffer pool definition in the CSQINP1 data set is the one you require, ignore the message.

Otherwise:

- Use the ALTER BUFFPOOL command to change the definition of the buffer pool, and also change its definition in CSQINP1 to match, or
- Remove the REPLACE attribute on the buffer pool definition in the CSQINP1 data set.

Note, that instead of removing the REPLACE attribute you can specify the NOREPLACE attribute instead.

 **IMS adapter messages (CSQQ...)****CSQQ000I**

IMS/TM *iiii* connected to queue manager *qqqq*

Severity

0

Explanation

This message is produced at the IMS master terminal when the IMS control region for IMS system *iiii* has successfully connected to queue manager *qqqq*.

CSQQ001I

IMS/TM *iiii* not connected to queue manager *qqqq*. Notify message accepted

Severity

0

Explanation

This message is produced at the IMS master terminal when the IMS control region for IMS system *iiii* has tried to connect to queue manager *qqqq* but the queue manager is not yet ready to make connections.

System action

The queue manager has accepted the notify message from IMS and when it is ready to make connections it will issue the z/OS command **MODIFY IMS** to cause IMS to attempt to make the connection again. IMS applications cannot access IBM MQ resources until the connection is made.

System programmer response

Resolve any other IBM MQ problems.

CSQQ002E

IMS/TM *iiii* failed to connect to queue manager *qqqq*, MQRC=*mqrc*

Severity

12

Explanation

This message is produced at the IMS master terminal when the IMS control region for IMS system *iiii* has failed to connect to queue manager *qqqq*. *mqrc* is the IBM MQ reason code for the failure.

System action

The IMS control region, and dependent regions are not connected to the queue manager. Any request from IMS applications for IBM MQ resources will fail.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqrc* to determine the nature of the error.

CSQQ003E

IMS/TM *iiii* create thread failed while connecting to queue manager *qqqq*, MQRC=*mqrc*

Severity

12

Explanation

This message is produced at the IMS master terminal when the IMS control region for IMS system *iiii* has failed to connect to queue manager *qqqq*. *mqrc* is the IBM MQ reason code for the failure from the IBM MQ create thread function.

System action

The IMS control region, and dependent regions are not connected to the queue manager. Any request from IMS applications for IBM MQ resources will fail.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqrc* to determine the cause of the problem.

CSQQ004E

IMS/TM *iiii* inquire indoubt failed while connecting to queue manager *qqqq*, MQRC=*mqrc*

Severity

12

Explanation

This message is produced at the IMS master terminal when the IMS control region for IMS system *iiii* has failed to connect to queue manager *qqqq*. *mqrc* is the IBM MQ reason code for the failure from the IBM MQ inquire indoubt function.

System action

The IMS control region, and dependent regions are not connected to the queue manager. Any request from IMS applications for IBM MQ resources will fail.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqrc* to determine the nature of the error.

CSQQ005E

IMS/TM *iiii* establish exit failed while connecting to queue manager *qqqq*, MQRC=*mqrc*

Severity

12

Explanation

This message is produced at the IMS master terminal when the IMS control region for IMS system *iiii* has failed to connect to queue manager *qqqq*. *mqrc* is the IBM MQ reason code for the failure from IBM MQ establish exit function.

System action

The IMS control region, and dependent regions are not connected to the queue manager. Any request from IMS applications for IBM MQ resources will fail.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqrc* to determine the cause of the error.

CSQQ007E

IMS/TM *iiii* resolve indoubt failed while connecting to queue manager *qqqq*, MQRC=*mqrc*

Severity

4

Explanation

This message is produced at the IMS master terminal when the queue manager has failed to resolve indoubt units of recovery during the connection process. *mqrc* is the IBM MQ reason code for the resolve in-doubt function failure.

System action

The IMS control region, and dependent regions are connected to the queue manager. IMS applications can access IBM MQ resources.

System programmer response

For information about resolving the IBM MQ unit of recovery associated with the in-doubt IMS unit of work, see [Recovering IMS units of recovery manually](#).

CSQQ008I

nn units of recovery are still in doubt in queue manager *qqqq*

Severity

4

Explanation

This message is produced at the IMS master terminal when the queue manager has units of recovery still in doubt after all the IMS units of work have been resolved.

System action

The IMS control region, and dependent regions are connected to the queue manager. IMS applications can access IBM MQ resources.

System programmer response

See [How in-doubt units of recovery are resolved from IMS](#) for information about resolving the IBM MQ unit of recovery associated with the in-doubt IMS unit of work.

CSQQ010E

Error resolving unit of recovery *uuuu* (OASN *nnnn*) in queue manager *qqqq*, MQRRC=*mqrc*

Severity

4

Explanation

This message is produced at the IMS master terminal when the queue manager is unable to resolve an indoubt unit of recovery. *uuuu* is the unit of work identifier in the same format as the reply from the DISPLAY THREAD command. *nnnn* is the IMS OASN (origin application sequence number), in decimal format.

System action

The IMS control region, and dependent regions are connected to the queue manager. IMS applications can access IBM MQ resources.

System programmer response

See the [How in-doubt units of recovery are resolved from IMS](#) for information about resolving the IBM MQ unit of recovery associated with the in-doubt IMS unit of work.

CSQQ011E

IMS/TM *iiii* terminate identify failed for connection to queue manager *qqqq*, MQRRC=*mqrc*

Severity

12

Explanation

This message is produced at the IMS master terminal when the IMS control region for IMS system *iiii* has failed to disconnect from the queue manager *qqqq*. *mqrc* is the return code for the failure from the IBM MQ terminate identify function.

System action

The IMS control region, and dependent regions are not connected to the queue manager. Any request from IMS applications for IBM MQ resources will fail.

System programmer response

Refer to [“API 完了コードと理由コード”](#) on page 1123 for information about *mqrc* to determine the cause of the error.

CSQQ013I

MQ commands cannot be issued using the /SSR command

Severity

4

Explanation

This message is produced at the IMS master terminal when the /SSR IMS command is used to issue an IBM MQ command; IBM MQ commands cannot be issued in this way.

System action

None

CSQQ014E

Unit of recovery *uuuu* (OASN *nnnn*) was not committed in queue manager *qqqq*

Severity

4

Explanation

This message is produced at the IMS master terminal when, following the abnormal termination of an application, the queue manager is unable to commit an indoubt unit of recovery as requested by IMS. *uuuu* is the unit of work identifier in the same format as the reply from the DISPLAY THREAD command. *nnnn* is the IMS OASN (origin application sequence number), in decimal format.

System action

The IMS control region, and dependent regions are connected to the queue manager. IMS applications can access IBM MQ resources.

System programmer response

See [How in-doubt units of recovery are resolved from IMS](#) for information about resolving the IBM MQ unit of recovery associated with the in-doubt IMS unit of work.

CSQQ015E

Unit of recovery *uuuu* (OASN *nnnn*) was not backed out in queue manager *qqqq*

Severity

4

Explanation

This message is produced at the IMS master terminal when, following the abnormal termination of an application, the queue manager is unable to back out an indoubt unit of recovery as requested by IMS. *uuuu* is the unit of work identifier in the same format as the reply from the DISPLAY THREAD command. *nnnn* is the IMS OASN (origin application sequence number), in decimal format.

System action

The IMS control region, and dependent regions are connected to the queue manager. IMS applications can access IBM MQ resources.

System programmer response

See [How in-doubt units of recovery are resolved from IMS](#) for information about resolving the IBM MQ unit of recovery associated with the in-doubt IMS unit of work.

CSQQ100I

psb-name region-id Processing queue manager *name*

Severity

0

Explanation

This message identifies the queue manager that this instance of the IMS trigger monitor is connected to. *region-id* is the last four digits of the region identifier, or blank. This message is followed by message CSQQ110I, indicating the name of the initiation queue.

CSQQ101E

psb-name region-id Cannot open the initiation queue, MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc*

Severity

8

Explanation

CSQQTRMN has attempted to open an initiation queue, but the attempt was unsuccessful (for example, because the queue was not defined). *mqqc* and *mqrc* give the reason for the problem. *region-id* is the last four digits of the region identifier, or blank.

System action

CSQQTRMN ends.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqqc* and *mqrc*, determine the cause of the problem, and restart CSQQTRMN.

CSQQ102E

psb-name region-id An IMS dl1-function call returned *pcb-status*

Severity

4

Explanation

A trigger message has been retrieved from the initiation queue which defines an IMS transaction to be started. However, the transaction cannot be started (for example, it cannot be found). *region-id* is the last four digits of the region identifier, or blank. *pcb-status* is the status code returned by IMS from the last *dl1-function* call.

System action

The trigger message is sent to the dead-letter queue. CSQQTRMN processes the next message.

System programmer response

See the [IMS documentation](#) for information about *pcb-status*. Examine the trigger message on the dead-letter queue to find the IMS transaction name. Determine the reason for the problem, and restart the transaction.

CSQQ103E

psb-name region-id CSQQTRMN read a trigger message with an incorrect MQTM-StrucId of *struc-id*

Severity

4

Explanation

A trigger message has been retrieved, but the structure identifier of the message is not MQTM_STRUC_ID and so is not compatible with this version of CSQQTRMN. *region-id* is the last four digits of the region identifier, or blank.

System action

The trigger message is sent to the dead-letter queue. CSQQTRMN processes the next message.

System programmer response

Check the header of the message on the dead-letter queue. This will tell you where the trigger message came from. Correct the process that created the trigger message.

CSQQ104E

psb-name region-id CSQQTRMN does not support version *version*

Severity

4

Explanation

A trigger message has been retrieved, but the version identifier in MQTM is not version 1, and so is not compatible with this version of CSQQTRMN. *region-id* is the last four digits of the region identifier, or blank.

System action

The trigger message is sent to the dead-letter queue. CSQQTRMN processes the next message.

System programmer response

Check the header of the message on the dead-letter queue. This will tell you where the trigger message came from. Correct the process that created the trigger message.

CSQQ105E

psb-name region-id CSQQTRMN cannot start a process type of type

Severity

4

Explanation

A trigger message has been retrieved, but the process type in MQTM is not IMS, and so cannot be processed by this version of CSQQTRMN. *region-id* is the last four digits of the region identifier, or blank.

System action

The trigger message is sent to the dead-letter queue. CSQQTRMN processes the next message.

System programmer response

Check the header of the message on the dead-letter queue. This will tell you where the trigger message came from. Correct the process that created the trigger message.

CSQQ106E

psb-name region-id MQGET error, MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc*. CSQQTRMN will end

Severity

8

Explanation

An attempt to issue an MQGET call on the initiation queue has been unsuccessful. *region-id* is the last four digits of the region identifier, or blank. This message is followed by message CSQQ110I, indicating the name of the queue.

System action

CSQQTRMN ends.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqqc* and *mqrc* to determine the cause of the problem. Restart CSQQTRMN.

CSQQ107E

psb-name region-id Cannot connect to the queue manager, MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc*

Severity

8

Explanation

An attempt by the trigger monitor to connect to the queue manager identified in message CSQQ100I was unsuccessful. *region-id* is the last four digits of the region identifier, or blank.

System action

CSQQTRMN ends.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqcc* and *mqrc* to determine the cause of the problem.

CSQQ108I

psb-name region-id LTERM *lterm-name* not available. Switched to MASTER

Severity

4

Explanation

The LTERM specified to receive diagnostic messages cannot be used.

System action

Messages are sent to the master terminal.

System programmer response

Resolve why *lterm-name* was not available.

CSQQ109E

psb-name region-id MQCLOSE error, MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc*

Severity

8

Explanation

An attempt has been made to close a dead-letter queue, but the MQCLOSE call was unsuccessful. *region-id* is the last four digits of the region identifier, or blank. This message is followed by message CSQQ110I, indicating the name of the queue.

System action

CSQQTRMN ends.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqcc* and *mqrc* to determine the cause of the problem.

CSQQ110I

Queue name = *q-name*

Severity

0

Explanation

This message follows other messages and identifies the name of the queue in question. The accompanying messages indicate the event or problem associated with the queue.

CSQQ111E

psb-name region-id CSQQTRMN read a trigger message with an incorrect length of length

Severity

4

Explanation

This message is issued if the transaction CSQQTRMN receives a trigger message that does not match the MQTM control block. *region-id* is the last four digits of the region identifier, or blank.

System action

The message is sent to the dead-letter queue.

System programmer response

Look at the message on the dead-letter queue to establish why it did not match MQTM.

CSQQ112E

psb-name region-id MQOPEN error, MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc*

Severity

8

Explanation

An **MQOPEN** call has been unable to open a queue. *region-id* is the last four digits of the region identifier, or blank. This message is followed by message CSQQ110I indicating the name of the queue.

System action

CSQQTRMN ends.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on [page 1123](#) for information about *mqcc* and *mqrc* to determine the cause of the problem.

CSQQ113I

psb-name region-id This message cannot be processed

Severity

0

Explanation

When an attempt to process a message using an IBM MQ API call was unsuccessful, an attempt was made to put the message on the dead-letter queue. This was also unsuccessful and the *message-id* has been sent to the LTERM. *region-id* is the last four digits of the region identifier, or blank. This message is followed by message CSQ118I, indicating the message identifier.

System action

Processing continues.

System programmer response

Check for previous messages explaining why the dead-letter queue was not available (if a dead-letter queue has not been defined, no other messages relating to the problem will have been issued).

CSQQ114E

psb-name region-id MQINQ error, MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc*

Severity

8

Explanation

An attempt to use the MQINQ call to inquire about the attributes of a queue was unsuccessful. *region-id* is the last four digits of the region identifier, or blank. This message is followed by message CSQQ110I indicating the name of the queue.

System action

CSQQTRMN ends.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on [page 1123](#) for information about *mqcc* and *mqrc* to determine why an MQINQ call could not be made on the queue.

CSQQ115I

psb-name region-id Ending following termination of queue manager connection

Severity

0

Explanation

CSQQTRMN has terminated because the connection to the queue manager is no longer available.

CSQQ116E

psb-name region-id Cannot open the queue manager, MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc*

Severity

8

Explanation

An MQOPEN call to the queue manager was unsuccessful. *region-id* is the last four digits of the region identifier, or blank.

System action

CSQQTRMN ends.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqcc* and *mqrc* to determine the cause of the problem.

CSQQ117E

psb-name region-id Cannot query the queue manager, MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc*

Severity

8

Explanation

An MQINQ call to the queue manager was unsuccessful. *region-id* is the last four digits of the region identifier, or blank.

System action

CSQQTRMN ends.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqcc* and *mqrc* to determine the cause of the problem.

CSQQ118I

MsgID=*msg-id*

Severity

0

Explanation

This message follows message CSQQ113I, indicating the hexadecimal identifier of the message that could not be processed.

CSQQ119E

psb-name region-id Error *rc* from STORAGE OBTAIN

Severity

8

Explanation

CSQQTRMN tried to obtain storage, but received return code *rc* from z/OS.

System action

CSQQTRMN ends.

System programmer response

Determine the reason for the return code from the STORAGE OBTAIN request, and restart CSQQTRMN.

CSQQ120E

psb-name region-id MQPUT error, MQCC=*mqcc* MQRC=*mqr*

Severity

8

Explanation

An attempt was made to put a message on a queue with an MQPUT call, but the attempt was unsuccessful. *region-id* is the last four digits of the region identifier, or blank. This message is followed by message CSQQ110I indicating the name of the queue.

System action

CSQQTRMN ends.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqcc* and *mqr* to determine why an MQPUT call could not be made for the queue.

CSQQ121E

psb-name region-id Dead-letter queue is not defined for the queue manager

Severity

4

Explanation

A dead-letter queue has not been defined for the queue manager. *region-id* is the last four digits of the region identifier, or blank.

System action

The trigger message is discarded, and the process cannot be started.

System programmer response

Define a dead-letter queue if one is required.

CSQQ122E

psb-name region-id Cannot close the queue manager, MQCC=*mqcc* MQRC=*mqr*

Severity

8

Explanation

CSQQTRMN was unable to close the queue manager after inquiring about the dead-letter queue. *region-id* is the last four digits of the region identifier, or blank.

System action

CSQQTRMN ends.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqcc* and *mqrc* to determine the cause of the problem.

CSQQ123E

psb-name region-id The dead-letter queue type is not QLOCAL

Severity

4

Explanation

The dead-letter queue defined was not of type local. *region-id* is the last four digits of the region identifier, or blank. This message is followed by message CSQQ110I, indicating the name of the queue.

System action

The message is not put to the dead-letter queue.

System programmer response

Define the dead-letter queue as a local queue.

CSQQ124E

psb-name region-id The dead-letter queue usage is not NORMAL

Severity

4

Explanation

The dead-letter queue defined is not of usage type normal. *region-id* is the last four digits of the region identifier, or blank. This message is followed by message CSQQ110I, indicating the name of the queue.

System action

The message is not put to the dead-letter queue.

System programmer response

Define the dead-letter queue to have usage type normal.

CSQQ125E

psb-name region-id No initiation queue identified

Severity

8

Explanation

CSQQTRMN did not find the initiation queue name in the input parameters.

System action

CSQQTRMN ends.

System programmer response

Examine the input parameters and look for other error messages to determine the reason for the failure. Restart CSQQTRMN.

CSQQ126E

psb-name region-id An IMS call returned *pcb-status*

Severity

8

Explanation

A status code of *pcb-status* was returned from a DLI call.

System action

CSQQTRMN ends.

System programmer response

Determine the reason for the status code, and restart CSQQTRMN.

CSQQ150I

csect-name IBM MQ for z/OS Vn

Severity

0

Explanation

This message is issued as part of the header to the report issued by the IMS trigger monitor program.

CSQQ151I

csect-name Trigger Monitor Input Report - *date time*

Severity

0

Explanation

This message is issued as part of the header to the report issued by the IMS trigger monitor program.

CSQQ152I

csect-name Unable to OPEN CSQQUT1 data set

Severity

8

Explanation

The IMS trigger monitor was unable to open the data set containing input control statements.

System action

Default values are used for the options.

System programmer response

Examine the error message that has been sent to the JES log to determine the reason for the error.
Check that the data set has been correctly specified.

CSQQ153I

csect-name First token is not a valid keyword

Severity

8

Explanation

The input control statement does not start with a valid keyword.

System action

The statement is ignored.

System programmer response

Correct the syntax for the statement.

CSQQ159I

csect-name Trigger monitor options:

Severity

0

Explanation

The IMS trigger monitor has finished processing input control statements. The options that will be used follow.

 **Recovery manager messages (CSQR...)****CSQR001I**

RESTART INITIATED

Explanation

This message delimits the beginning of the restart process within startup. The phases of restart are about to begin. These phases are necessary to restore the operational environment to that which existed at the time of the previous termination and to perform any recovery actions that might be necessary to return IBM MQ-managed resources to a consistent state.

CSQR002I

RESTART COMPLETED

Explanation

This message delimits the completion of the restart process within startup.

System action

Startup continues.

CSQR003IRESTART - PRIOR CHECKPOINT RBA=*rba***Explanation**

The message indicates the first phase of the restart process is in progress and identifies the log positioning RBA of the checkpoint from which the restart process will obtain its initial recovery information.

System action

Restart processing continues.

CSQR004IRESTART - UR COUNTS - IN COMMIT=*nnnn*, INDOUBT=*nnnn*, INFLIGHT=*nnnn*, IN BACKOUT=*nnnn***Explanation**

This message indicates the completion of the first phase of the restart process. The counts indicate the number of units of recovery with an execution state during a previous queue manager termination that indicates (to ensure MQ resource consistency) some recovery action must be performed during this restart process. The counts might provide an indication of the time required to perform the remaining two phases of restart (forward and backward recovery).

The IN COMMIT count specifies the number that had started, but not completed, phase-2 of the commit process. These must undergo forward recovery to complete the commit process.

The INDOUBT count specifies the number that were interrupted between phase-1 and phase-2 of the commit process. These must undergo forward recovery to ensure that resources modified by them are unavailable until their INDOUBT status is resolved.

The INFLIGHT count specifies the number that neither completed phase-1 of the commit process nor began the process of backing out. These must undergo backward recovery to restore resources modified by them to their previous consistent state.

The IN BACKOUT count specifies the number that were in the process of backing out. These must undergo backward recovery to restore resources modified by them to their previous consistent state.

System action

Restart processing continues.

CSQR005I

RESTART - FORWARD RECOVERY COMPLETE - IN COMMIT= *nnnn*, INDOUBT=*nnnn*

Explanation

The message indicates the completion of the forward recovery restart phase. The counts indicate the number of units of recovery with recovery actions that could not be completed during the phase. Typically, those in an IN COMMIT state remain because the recovery actions of some subcomponents have not been completed. Those units of recovery in an INDOUBT state will remain until connection is made with the subsystem that acts as their commit coordinator.

System action

Restart processing continues.

CSQR006I

RESTART - BACKWARD RECOVERY COMPLETE - INFLIGHT= *nnnn*, IN BACKOUT=*nnnn*

Explanation

The message indicates the completion of the backward recovery restart phase. The counts indicate the number of units of recovery with recovery actions that could not be completed during the phase. Typically, those in either state remain because the recovery actions of some subcomponents have not been completed.

System action

Restart processing continues.

CSQR007I

UR STATUS

Explanation

This message precedes a table showing the status of units of recovery (URs) after each restart phase. The message and the table will accompany the CSQR004I, CSQR005I, or CSQR006I message after each nested phase. At the end of the first phase, it shows the status of any URs that require processing. At the end of the second (forward recovery) and third (backout) phases, it shows the status of only those URs which needed processing but were not processed. The table helps to identify the URs that were active when the queue manager stopped, and to determine the log scope required to restart.

The format of the table is:

T	CON-ID	THREAD-XREF	S	URID	TIME
---	--------	-------------	---	------	------

The columns contain the following information:

T

Connection type. The values can be:

B

Batch: From an application using a batch connection

R

RRS: From an RRS-coordinated application using a batch connection

C

CICS: From CICS

I

IMS: From IMS

S

System: From an internal function of the queue manager or from the channel initiator.

CON-ID

Connection identifier for related URs. Batch connections are not related to any other connection. Subsystem connections with the same identifier indicate URs that originated from the same subsystem.

THREAD-XREF

The recovery thread cross-reference identifier associated with the thread; see [Connecting from the IMS control region](#) for more information.

S

Restart status of the UR. When the queue manager stopped, the UR was in one of these situations:

B

INBACKOUT: the UR was in the must-complete phase of backout, and is yet to be completed

C

INCOMMIT: the UR was in the must-complete phase of commit, and is yet to be completed

D

INDOUBT: the UR had completed the first phase of commit, but IBM MQ had not received the second phase instruction (the UR must be remembered so that it can be resolved when the owning subsystem reattaches)

F

INFLIGHT: the UR had not completed the first phase of commit, and will be backed out.

URID

UR identifier, the log RBA of the beginning of this unit of recovery. It is the earliest RBA required to process the UR during restart.

TIME

The time the UR was created, in the format *yyyymmdd hhmmss*. It is approximately the time of the first IBM MQ API call of the application or the first IBM MQ API call following a commit point.

CSQR009E

NO STORAGE FOR UR STATUS TABLE, SIZE REQUESTED= *xxxx*, REASON CODE=*yyyyyyyy*

Explanation

There was not enough storage available during the creation of the recoverable UR (unit of recovery) display table.

System action

Restart continues but the status table is not displayed.

System programmer response

Increase the region size of the *xxxxMSTR* region before restarting the queue manager.

CSQR010E

ERROR IN UR STATUS TABLE SORT/TRANSLATE, ERROR LOCATION CODE=*xxxx*

Explanation

An internal error has occurred.

System action

Restart continues but the status table is not displayed.

System programmer response

Note the error code in the message and contact your IBM support center.

CSQR011E

ERROR IN UR STATUS TABLE DISPLAY, ERROR LOCATION CODE=*xxxx*

Explanation

An internal error has occurred.

System action

Restart continues but the status table is not displayed.

System programmer response

Note the error code in the message and contact your IBM support center.

CSQR015E

CONDITIONAL RESTART CHECKPOINT RBA *rba* NOT FOUND

Explanation

The checkpoint RBA in the conditional restart control record, which is deduced from the end RBA or LRSN value that was specified, is not available. This is probably because the log data sets available for use at restart do not include that end RBA or LRSN.

System action

Restart ends abnormally with reason code X'00D99001' and the queue manager terminates.

System programmer response

Run the change log inventory utility (CSQJU003) specifying an ENDRBA or ENDLRSN value on the CRESTART control statement that is in the log data sets that are to be used for restarting the queue manager.

CSQR020I

OLD UOW FOUND

Explanation

During restart, a unit of work was found that predates the oldest active log. Information about the unit of work is displayed in a table in the same format as in message CSQR007I.

Old units of work can lead to extended restart times, as restart processing need to read archive logs to correctly process the unit of work. IBM MQ offers the opportunity to avoid this delay by allowing old units of work to be force committed.

Note: Force committing a unit of work can break the transactional integrity of updates between IBM MQ, and other resource managers involved in the original unit of work described in this message.

System action

Message CSQR021D is issued and the operator's reply is awaited.

CSQR021D

REPLY Y TO COMMIT OR N TO CONTINUE

Explanation

An old unit of work was found, as indicated in the preceding CSQR020I message.

System action

The queue manager waits for the operator's reply.

CSQR022I

OLD UOW COMMITTED, URID=*urid*

Explanation

This message is sent if the operator answers 'Y' to message CSQR021D.

System action

The indicated unit of work is committed.

CSQR023I

OLD UOW UNCHANGED, URID=*urid*

Explanation

This message is sent if the operator answers 'N' to message CSQR021D.

CSQR023I is also sent when an old unit of work which is already in the 'in-backout' state is identified. Units of work in the 'in-backout' state are ineligible for force commit processing as it can lead to a queue becoming unusable. For such units of work, the message CSQR021D is not issued, and no choice is possible.

System action

The indicated unit of work is left for handling by the normal restart recovery process.

CSQR026I

Long-running UOW shunted to RBA=*rba*, URID=*urid* connection name=*name*

Explanation

During checkpoint processing, an uncommitted unit of recovery was encountered that has been active for at least 3 checkpoints. The associated log records have been rewritten ('shunted') to a later point in the log, at RBA *rba*. The unit of recovery identifier *urid* together with the connection name *name* identify the associated thread.

System action

Processing continues.

System programmer response

Uncommitted units of recovery can lead to difficulties later, so consult with the application programmer to determine if there is a problem that is preventing the unit of recovery from being committed, and to ensure that the application commits work frequently enough.

CSQR027I

Long-running UOW shunting failed, URID=*urid* connection name=*name*

Explanation

During checkpoint processing, an uncommitted unit of recovery was encountered that has been active for at least 3 checkpoints. However, the associated log records could not be rewritten ('shunted') to a later point in the log. The unit of recovery identifier *urid* together with the connection name *name* identify the associated thread.

System action

The unit of recovery is not shunted, and will not participate in any future log shunting.

System programmer response

The most likely cause is insufficient active log data sets being available, in which case you should add more log data sets for the queue manager to use. Use the DISPLAY LOG command or the print log map utility (CSQJU004) to determine how many log data sets there are and what their status is.

Uncommitted units of recovery can lead to difficulties later, so consult with the application programmer to determine if there is a problem that is preventing the unit of recovery from being committed, and to ensure that the application commits work frequently enough.

CSQR029I

INVALID RESPONSE - NOT Y OR N

Explanation

The operator did not respond correctly to the reply message CSQR021D. Either 'Y' or 'N' must be entered.

System action

The original message is repeated.

CSQR030I

Forward recovery log range from RBA=*from-rba* to RBA=*to-rba*

Explanation

This indicates the log range that must be read to perform forward recovery during restart.

System action

Restart processing continues.

CSQR031I

Reading log forwards, RBA=*rba*

Explanation

This is issued periodically during restart recovery processing to show the progress of the forward recovery phase and the current status rebuild phase. For the forward recovery phase the log range that needs to be read is shown in the preceding [CSQR030I](#) message.

For the current status rebuild phase, the starting log RBA is shown in the preceding [CSQR003I](#) message and the end log RBA is shown in the preceding [CSQJ099I](#) message. The RBA represents the position in the recovery log during the forward recovery phase of current status rebuild.

System action

Restart processing continues.

CSQR032I

Backward recovery log range from RBA=*from-rba* to RBA=*to-rba*

Explanation

This indicates the log range that must be read to perform backward recovery during restart.

System action

Restart processing continues.

CSQR033I

Reading log backwards, RBA=*rba*

Explanation

This is issued periodically during restart recovery processing to show the progress of the backward recovery phase. The log range that needs to be read is shown in the preceding [CSQR032I](#) message.

System action

Restart processing continues.

CSQR034I

Backward migration detected

Explanation

During queue manager restart it has been detected that one or more of the page sets that have been connected has been used at a higher version of queue manager code.

System action

The queue manager will automatically perform special processing during restart to alter any messages stored on those page sets so they can be read by the current version of the queue manager. This special processing is dependent on there being no unresolved units of work found at the end of restart, so you might be prompted by way of further messages during restart to force commit these.

Restart processing continues.

 **Topic manager messages (CSQT...)****CSQT806I**

csect-name Queued Pub/Sub Daemon started

Severity

0

Explanation

Queued Pub/Sub Daemon started

System action

None

System programmer response

None

CSQT807I

csect-name Queued Pub/Sub Daemon ended

Severity

0

Explanation

The Queued Pub/Sub Daemon has ended.

System programmer response

None

CSQT809E

csect-name Unable to process publication, Queued Pub/Sub stream queue *queue-name* is GET(DISABLED)

Severity

8

Explanation

The stream queue, *queue-name*, has been GET(DISABLED) preventing the Queued Pub/Sub Daemon from processing publication messages.

System action

The Queued Pub/Sub Daemon will continue to process publication messages on other stream queues and subscriptions on all streams.

System programmer response

To resume processing publication messages alter the stream queue to be GET(ENABLED).

To quiesce the stream remove its name from SYSTEM.QPUBSUB.QUEUE.NAMELIST.

To quiesce the Queued Pub/Sub Daemon alter the queue manager to have PSMODE(COMPAT).

CSQT810E

csect-name Unable to process subscription requests, Queued Pub/Sub control queue is GET(DISABLED)

Severity

8

Explanation

The SYSTEM.BROKER.CONTROL.QUEUE has been GET(DISABLED) preventing the Queued Pub/Sub Daemon from processing subscription requests.

System action

The Queued Pub/Sub Daemon will continue to process publication messages on stream queues.

System programmer response

To resume processing subscription requests alter the SYSTEM.BROKER.CONTROL.QUEUE to be GET(ENABLED).

To quiesce the Queued Pub/Sub Daemon alter the queue manager to have PSMODE(COMPAT).

CSQT814E

csect-name Unable to resolve parent *queue_manager_name*

Severity

8

Explanation

In establishing a publish/subscribe hierarchy, the Queued Pub/Sub Daemon has been unable to resolve the parent *queue_manager_name*.

System action

The status of the publish/subscribe parent connection will be set to error.

System programmer response

Check that the parent queue manager is correctly specified.

Ensure that broker is able to resolve the queue manager name of the parent broker.

To resolve the queue manager name, at least one of the following resources must be configured:

- A transmission queue with the same name as the parent queue manager name.
- A queue manager alias definition with the same name as the parent queue manager name.
- A cluster with the parent queue manager a member of the same cluster as this queue manager.
- A cluster queue manager alias definition with the same name as the parent queue manager name.
- A default transmission queue, modify the parent queue manager name to blank, then set with the parent queue manager name.

CSQT816E

csect-name Unable to open Queued Pub/Sub control queue MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The queue manager failed to open the Queued Publish/Subscribe control queue, SYSTEM.BROKER.CONTROL.QUEUE. The attempt to open the queue failed with completion code *mqcc* and reason *mqrc*. The most likely reasons for this error are that an application program has opened the control queue for exclusive access, or that the control queue has been defined incorrectly.

System action

The Queued Publish/Subscribe Daemon terminates.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqcc* and *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form), then correct the problem and restart the Queued Publish/Subscribe interface.

CSQT817E

csect-name An invalid stream queue has been detected, queue *queue-name*

Severity

8

Explanation

The Pub/Sub Daemon attempted to use queue *queue-name* as a stream queue. The most likely reason for this error is that the queue is:

- Not a local queue.
- A shareable queue.
- A temporary dynamic queue.

System programmer response

Correct the problem with the queue *queue-name* or, if you do not intend to use it as a stream queue, remove it from the namelist SYSTEM.QPUBSUB.QUEUE.NAMELIST.

CSQT818E

csect-name Unable to open Queued Pub/Sub stream, queue *queue-name* MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The queue manager has failed to open a stream queue *queue-name*. The attempt to open the queue failed with completion code *mqcc* and reason *mqrc*. The most likely reasons for this error are:

1. A new stream name has been added to SYSTEM.QPUBSUB.QUEUE.NAMELIST but the stream queue does not exist.
2. An application has the queue open for exclusive access.

System programmer response

Refer to “API 完了コードと理由コード” on page 1123 for information about *mqcc* and *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

CSQT819E

csect-name Queued Pub/Sub stream *stream-name* ended abnormally, reason=*mqrc*

Severity

8

Explanation

The Pub/Sub Daemon stream (*stream-name*) has ended abnormally for reason *mqrc*. The *mqrc* could be an internal return code. The queue manager will attempt to restart the stream. If the stream should repeatedly fail then the Pub/Sub Daemon will progressively increase the time between attempts to restart the stream.

System programmer response

Investigate why the problem occurred and take appropriate action to correct the problem. If the problem persists, save any generated output files and use the MQ Support site to see whether a solution is already available. If you are unable to find a match, contact your IBM support center.

CSQT820E

csect-name Queued Pub/Sub stream *stream-name* restarted

Severity

8

Explanation

The queue manager has restarted a stream that ended abnormally. This message will frequently be preceded by message CSQT819E indicating why the stream ended.

System programmer response

Correct the problem.

CSQT821E

csect-name Unable to contact parent *queue_manager_name*, reason=*mqrc*

Severity

8

Explanation

In establishing a publish/subscribe hierarchy, the Queued Pub/Sub Daemon is unable to send a message to the parent *queue_manager_name* for reason *mqrc*.

System action

The status of the publish/subscribe parent connection will be set to error.

System programmer response

Investigate why the problem occurred and determine a resolution.

To reattempt a parent queue manager connection:

- Set the parent queue manager name to blank.
- Take appropriate action to correct the problem.
- Re-specify the parent queue manager name

CSQT822E

csect-name Failed to register with parent *queue_manager_name*, reason *mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The Queued Pub/Sub Daemon started and the PARENT queue manager was set to *queue_manager_name* in a queue manager attribute. The queue manager attempted to register as a child of the parent, but received an exception response indicating that it was not possible. The queue manager will retry to register periodically as a child. The child may not be able to process global publications or subscriptions correctly until this registration process has completed normally.

System programmer response

Investigate why the problem occurred and take appropriate action to correct the problem. The problem is likely to be caused by the parent queue manager not yet existing, or a problem with the transmission queue at the parent queue manager.

CSQT824I

csect-name Topic *topic-1* is dependent on PROXYSUB(FORCE) of topic *topic-2* from a different Pub/Sub hierarchy stream

Severity

4

Explanation

Topic object *topic-1* is a publish/subscribe hierarchy stream. Topic object *topic-2* is higher in the topic tree and has been configured with **PROXYSUB(FORCE)**, which results in a single wildcard proxy subscription being sent to the neighboring queue managers in the publish/subscribe hierarchy that support the *topic-2* stream. No further individual proxy subscriptions will be sent for any subscriptions made below *topic-2* in the topic tree, including below topic object *topic-1*. If a neighboring queue manager supports the *topic-1* stream, but not the *topic-2* stream, publications will not be sent to subscriptions to topic *topic-1* on this queue manager from that neighbor.

System programmer response

If the behavior described in the explanation is intended then no action is required. If not, alter the **PROXYSUB** attribute on topic *topic-1*, or *topic-2*, so both, or neither topics, are configured with the value **FORCE**.

CSQT826E

csect-name Failed to propagate subscription, stream *stream-name*, to queue manager *qm-name*, MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The queue manager failed to propagate subscription to stream *stream-name* at queue manager *queue_manager_name* with reason code *mqrc*. An application has either registered or unregistered a subscription to stream *stream-name*. The queue manager has attempted to propagate the subscription change to the queue manager, but the request has not been successful. Messages published on the stream through the queue manager might not reach this queue manager.

System programmer response

Refer to “API 完了コードと理由コード” on page 1123 for information about *mqcc* and *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

Investigate why the problem occurred and take appropriate action to correct the problem.

Use the following command to refresh proxy subscriptions:

```
REFRESH QMGR TYPE(PROXYSUB)
```

CSQT827E

csect-name Queued Pub/Sub internal subscription failed. Stream *stream-name* to queue manager *queue_manager_name* reason=*reason* MQRC=*mqrc*

Severity

8

Explanation

The queue manager failed to subscribe to stream *stream-name* at queue manager *queue_manager_name* with reason code *mqrc*. Related queue managers learn about each others configuration by subscribing to information published by each other. A queue manager discovered that one of these internal subscriptions has failed. The queue manager will reissue the subscription immediately. The queue manager cannot function correctly without knowing some information about neighboring queue managers. The information that this broker has about queue manager *queue_manager_name* is not complete and this could lead to subscriptions and publications not being propagated around the network correctly.

System programmer response

Investigate why the problem occurred and take appropriate action to correct the problem. The most likely cause of this failure is a problem with the transmission queue at the queue manager *queue_manager_name* or a problem with the definition of the route between this queue manager and queue manager *queue_manager_name*

CSQT831E

csect-name Unable to make subscription, reason=*mqrc* (*mqrc-text*), subscription name *sub-name*, topic *topic-string*

Severity

8

Explanation

A failure occurred while attempting to create a subscription to topic string *topic-string* using the subscription name *sub-name*. The associated reason code is *mqrc*. The *mqrc* could be an internal return code.

System programmer response

Refer to “API 完了コードと理由コード” on page 1123 for information about *mqcc* and *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

CSQT833E

csect_name Queue manager *queue_manager_name* introduced a loop into the Pub/Sub hierarchy

Severity

8

Explanation

The queue manager *queue_manager_name* introduced a loop in the Pub/Sub hierarchy. The Queued Publish/Subscribe Daemon on this queue manager will terminate immediately.

System programmer response

Remove queue manager *queue_manager_name* from the hierarchy, either by deleting the queue manager, or by removing knowledge of the queue manager's parent, using the ALTER QMGR PARENT(' ') command, or in exceptional circumstances, RESET QMGR TYPE(PUBSUB) PARENT(*queue_manager_name*).

CSQT834E

csect-name Conflicting queue manager names in the Pub/Sub hierarchy

Severity

8

Explanation

The names of the queue managers (*queue_manager_name*) and (*queue_manager_name*) in the Pub/Sub hierarchy both start with the same 12 characters. The first 12 characters of a queue manager name should be unique to ensure that no confusion arises within the hierarchy, and to guarantee unique message ID allocation.

CSQT835E

csect-name Unable to inform parent *parent-name* of new relation *queue_manager_name*, reason=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The queue manager failed to notify its parent queue manager *parent-name* of the relation *queue_manager_name* in the Pub/Sub hierarchy. The notification message will be put to the parent's dead-letter queue. A failure to notify a queue manager of a new relation will mean that no loop detection can be performed for the new relation.

System programmer response

Diagnose and correct the problem on the parent queue manager. One possible reason for this is that the parent queue manager does not yet exist.

CSQT836E

csect-name Duplicate queue manager name *queue_manager_name* located in the Pub/Sub hierarchy

Severity

8

Explanation

Multiple instances of the queue manager name *queue_manager_name* have been located. This could either be the result of a previously resolved loop in the Pub/Sub hierarchy, or multiple queue managers in the Pub/Sub hierarchy having the same name.

System programmer response

If this queue manager introduced a loop in the hierarchy (typically identified by message CSQT833E), this message can be ignored. It is strongly recommended that every queue manager in a Pub/Sub hierarchy has a unique name. It is not recommended that multiple queue managers use the same name.

CSQT839E

csect-name Unexpected topology information received from queue manager *queue_manager_name*

Severity

8

Explanation

A queue manager has received a distributed publish/subscribe communication that it did not expect. The message was sent by queue manager *queue_manager_name*. The message will be processed according to the report options in that message. The most likely reason for this message is that the queue manager topology has been changed while distributed publish/subscribe communication messages were in transit (for example, on a transmission queue) and that a message relating to the previous queue manager topology has arrived at a queue manager in the new topology. This message may be accompanied by an informational FFST including details of the unexpected communication.

System programmer response

If the queue manager topology has changed and the queue manager named in the message is no longer related to the queue manager issuing this message, this message can be ignored. If the **RESET QMGR TYPE(PUBSUB)** command was issued to unilaterally remove knowledge of queue manager *queue_manager_name* from this queue manager, the **RESET QMGR TYPE(PUBSUB)** command should also be used to remove knowledge of this queue manager from queue manager *queue_manager_name*.

CSQT844E

csect-name The relation with *queue_manager_name* is unknown

Severity

8

Explanation

The RESET QMGR TYPE(PUBSUB) command has been issued in an attempt to remove a queue manager's knowledge of a relation of that queue manager. The relative *queue_manager_name* is unknown at queue manager *queue_manager_name*. If the parent KEYWORD was specified, the queue manager does not currently have a parent. If the CHILD keyword was specified, the queue manager does not recognize the named child.

System programmer response

Investigate why the queue manager is unknown.

CSQT848E

csect-name Failed to register proxy subscription for queue manager *qmgr-name*, stream *stream-name*, topic string *topic-string*, reason=*mqrc (mqrc-text)*

Severity

8

Explanation

The queue manager received a proxy subscription request for stream *stream-name* and topic *topic-string* from queue manager *qmgr-name*. The attempt to register the subscription was unsuccessful for reason *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form). Messages published upon this topic will not be delivered to subscriptions on the relation queue manager.

System programmer response

Use the reason code to investigate why the failure occurred and take appropriate action to correct the problem. Use the command REFRESH QMGR TYPE(PROXYSUB) on the relation queue manager to refresh its proxy subscriptions.

CSQT852E

csect-name Unable to propagate delete publication command, topic *topic-name*, stream *stream-name*, to queue manager *queue_manager_name*, reason=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The queue manager failed to propagate delete publication command for stream *stream-name* to related queue manager *queue_manager_name* for reason *mqrc*. When an application issues a delete publication command to delete a global publication, the command has to be propagated to all queue managers in the sub-hierarchy supporting the stream. The queue manager reporting the error has failed to forward a delete publication command to a related queue manager *queue_manager_name* who supports stream *stream-name*. Delete publication commands are propagated without MQRO_DISCARD_MSG and the command message might have been written to a dead-letter queue. The topic for which the delete publication has failed is *topic-name*.

System programmer response

Refer to “API 完了コードと理由コード” on page 1123 for information about *mqcc* and *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

If the delete publication has failed because the stream has been deleted at the related queue manager, this message can be ignored. Investigate why the delete publication has failed and take the appropriate action to recover the failed command.

CSQT853E

csect-name Unable to propagate delete publication command, topic *topic-name*, stream *stream-name*, relation *relation-name*, reason = *mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The queue manager failed to propagate a delete publication command for stream *stream-name* to a previously related queue manager *relation-name*. In some cases the stream or the relation cannot be determined and so is shown as '????'.

When an application issues a delete publication command to delete a global publication, the command is propagated to all queue managers in the sub-hierarchy supporting the stream. The queue manager topology was changed after deleting the publication, but before a queue manager removed by the topology change processed the propagated delete publication message. The topic for which the delete publication has failed is *topic-name*. In some cases the topic cannot be determined and so is shown as '????'.

System programmer response

Refer to “API 完了コードと理由コード” on page 1123 for information about *mqcc* and *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

It is the user's responsibility to quiesce queue manager activity before changing the queue manager topology using the RESET QMGR TYPE(PUBSUB) command. Investigate why this delete publication activity was not quiesced. The delete publication command will have been written to the dead-letter queue at the queue manager that was removed from the topology. In this case, further action might be necessary to propagate the delete publication command that was not quiesced before the RESET QMGR TYPE(PUBSUB) command was issued.

CSQT854E

csect-name Unable to propagate delete publication command, topic *topic-name*, stream *stream-name* to queue manager *queue_manager_name*

Severity

8

Explanation

When an application issues a delete publication command, the command has to be propagated to all queue managers in the sub-hierarchy supporting the stream. At the time the delete publication was propagated, queue manager *queue_manager_name* was a known relation of this message queue manager supporting stream *stream-name*. Before the delete publication command arrived at the related queue manager, the queue manager topology was changed so that queue manager *queue_manager_name* no longer supported stream *stream-name*. The topic for which the delete publication has failed is *topic-name*.

System programmer response

It is the user's responsibility to quiesce queue manager activity before changing the stream topology of the queue manager. Investigate why this delete publication activity was not quiesced. The delete publication command will have been written to the dead-letter queue at queue manager *queue_manager_name*.

CSQT855E

csect-name Queued Pub/Sub Daemon failed, reason=*mqrc*

Severity

8

Explanation

An attempt has been made to run the queued publish/subscribe interface (Queued Pub/Sub Daemon) but the interface has ended for reason *mqrc*.

If *mqrc* is a number in the range of 2000 - 3000, it is an API reason code. If it is of the form *5nnn*, it is a queued publish/subscribe message code associated with the message CSQT *nnnE*, which is normally issued previously.

System programmer response

If *mqrc* is an API reason code, see [“API 完了コードと理由コード”](#) on page 1123 for more information about the *mqrc*. If *mqrc* is a queued publish/subscribe message code, see the corresponding message explanation for more information. Where no such message exists, see [“Queued Publish/Subscribe message codes”](#) on page 1122 for the corresponding message number.

Determine why the queued publish/subscribe daemon ended. The message logs for the Channel Initiator might contain more detailed information about why the queued publish/subscribe daemon cannot be started. Resolve the problem that is preventing the daemon from completing and restart the Channel Initiator.

CSQT856E

csect-name Unable to process publish command message for stream *stream-name*, reason=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The Queued Pub/Sub Daemon failed to process a publish message for stream *stream-name*. The queue manager was unable to write the publication to the dead-letter queue and was not permitted to discard the publication. The queue manager will temporarily stop the stream and will restart the stream and consequently retry the publication after a short interval.

System programmer response

Investigate why the error has occurred and why the publication cannot be written to the dead-letter queue. Either manually remove the publication from the stream queue, or correct the problem that is preventing the queue manager from writing the publication to the dead-letter queue.

CSQT857E

csect-name Unable to process control command message, reason=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The Queued Pub/Sub Daemon failed to process a command message on the SYSTEM.BROKER.CONTROL.QUEUE. The queue manager was unable to write the command message to the dead-letter queue and was not permitted to discard the command message. The queue manager will temporarily stop the stream and will restart the stream and consequently retry the command message after a short interval. Other queue manager control commands cannot be processed until this command message has been processed successfully or removed from the control queue.

System programmer response

Investigate why the error has occurred and why the command message cannot be written to the dead-letter queue. Either, manually remove the command message from the stream queue, or correct the problem that is preventing the broker from writing the command message to the dead-letter queue.

CSQT858E

csect-name Unable to send publication to subscriber queue, queue *queue-name*, to queue manager *queue_manager_name*, reason=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

A failure has occurred sending a publication to subscriber queue *queue-name* at queue manager *queue_manager_name* for reason *mqrc*. The broker configuration options prevent it from recovering from this failure by discarding the publication or by sending it to the dead-letter queue. Instead the queue manager will back out the unit of work under which the publication is being sent and retry the failing command message a fixed number of times. If the problem still persists, the queue manager will then attempt to recover by failing the command message with a negative reply message. If the issuer of the command did not request negative replies, the queue manager will either discard or send to the dead-letter queue the failing command message. If the queue manager configuration options prevent this, the queue manager will restart the affected stream, which will reprocess the failing command message again. This behavior will be repeated until such time as the failure is resolved. During this time the stream will be unable to process further publications or subscriptions.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqcc* and *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

Usually the failure will be due to a transient resource problem, for example, the subscriber queue, or an intermediate transmission queue, becoming full. Use reason code *mqrc* to determine what remedial action is required. If the problem persists for a long time, you will notice the stream being

continually restarted by the queue manager. Evidence of this occurring will be a large number of CSQT820E messages, indicating stream restart, being written to the Channel Initiator log. In such circumstances, manual intervention will be required to allow the queue manager to dispose of the failing publication. To do this, you will need to end the Queued Pub/Sub Daemon using the ALTER QMGR PSMODE(COMPAT), change the appropriate queue manager attributes; PSNPMMSG, PSNPRES, PSSYNCPPT, and restart it using ALTER QMGR PSMODE(ENABLED). This will allow the publication to be sent to the rest of the subscribers, while allowing the Queued Pub/Sub Daemon to discard or send to the dead-letter queue the publication that could not be sent.

CSQT859E

csect-name Queued Pub/Sub stream *stream-name* terminating, reason=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The stream *stream-name* has run out of internal resources and will terminate with reason code *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRRC in textual form). If the command in progress was being processed under syncpoint control, it will be backed out and retried when the stream is restarted by the queue manager. If the command was being processed out of syncpoint control, it will not be able to be retried when the stream is restarted.

System programmer response

This message should only be issued in very unusual circumstances. If this message is issued repeatedly for the same stream, and the stream is not especially large in terms of subscriptions, topics, and retained publications, save all generated diagnostic information and use either the IBM MQ Support site, or IBM Support Assistant (ISA) to see whether a solution is already available. If you are unable to find a match, contact your IBM support center.

CSQT864E

csect-name Unable to put a reply message, queue *queue-name* queue manager(*qm-name*)
MQCC=*mqcc* MQRRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

While processing a publish/subscribe command, the queue manager could not send a reply message to the queue *queue-name* at the queue manager *qm-name* for MQRRC=*mqrc*. The queue manager was also unable to write the message to the dead-letter queue. Since the command is being processed under syncpoint control, the queue manager will attempt to retry the command in the hope that the problem is only of a transient nature. If, after a set number of retries, the reply message still could not be sent, the command message will be discarded if the report options allow it. If the command message cannot be discarded, the stream will be restarted, and processing of the command message recommenced.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on [page 1123](#) for information about *mqcc* and *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRRC in textual form).

Use reason code *mqrc* to determine what remedial action is required. If the failure is due to a resource problem (for example, a queue being full), you might find that the problem has already cleared itself. If not, this message will be issued repeatedly each time the command is retried. In this case you are strongly advised to define a dead-letter queue to receive the reply message so that the Queued Pub/Sub Daemon can process other commands while the problem is being investigated. Check the application from which the command originated and ensure that it is specifying its reply-to queue correctly.

CSQT866E

csect-name Queued Pub/Sub command message discarded. Reason=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The queue manager failed to process a publish/subscribe command message, which has now been discarded. The queue manager will begin to process new command messages again.

System programmer response

Look for previous error messages to indicate the problem with the command message. Correct the problem to prevent the failure from happening again.

CSQT875E

csect-name Unable to put message to the dead-letter-queue, reason=*mqrc* (*mqrc-text*) (DLH reason=*mqrc2* (*mqrc2-text*))

Severity

8

Explanation

The queue manager attempted to put a message to the dead-letter queue *queue-name* but the message could not be written to the dead-letter queue for reason *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form). The message was being written to the dead-letter-queue with a reason of *mqrc2* (*mqrc2-text* provides the MQRC in textual form).

System programmer response

Determine why the message cannot be written to the dead-letter-queue. Also, if the message was not deliberately written to the dead-letter-queue, for example by a channel exit, determine why the message was written to the dead-letter-queue and resolve the problem that is preventing the message from being sent to its destination.

CSQT876E

csect-name Parent conflict detected in Pub/Sub hierarchy with queue manager *queue_manager_name*

Severity

8

Explanation

The queue manager *queue_manager_name* has been started, naming this queue manager as its parent. This queue manager has already named queue manager *queue_manager_name* as its parent. The queue manager will send an exception message to the queue manager *queue_manager_name* indicating that a conflict has been detected. The most likely reason for this message is that the queue manager topology has been changed while distributed publish/subscribe communication messages were in transit (for example, on a transmission queue) and that a message relating to the previous queue manager topology has arrived at a queue manager in the new topology. This message might be accompanied by an informational FFST including details of the unexpected communication.

System programmer response

If the queue manager topology has changed and the queue manager named in the message no longer identifies this queue manager as its parent, this message can be ignored - for example, if the command ALTER QMGR PARENT(' ') was issued. If queue manager *queue_manager_name* has been defined as this queue manager's parent, and this queue manager has been defined as queue manager *queue_manager_name*'s parent, the ALTER QMGR command should be used to resolve the conflict by specifying the correct PARENT.

CSQT882E

csect-name Message written to the dead-letter queue, for reason=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The queue manager has written a message to the dead-letter queue for reason *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form). Note. After the first occurrence of this message for a stream, it will only be written periodically.

System programmer response

Determine why the message was written to the dead-letter queue, and resolve the problem that is preventing the message from being sent to its destination.

CSQT883E

csect-name Queued Pub/Sub state not recorded

Severity

0

Explanation

The Queued Pub/Sub state on stream *stream-name* not recorded while processing a publication outside of syncpoint. A nonpersistent publication has requested a change to either a retained message or a publisher registration. This publication is being processed outside of syncpoint because the queue manager has been configured with the queue manager attribute PSSYNCPT set to IFPER. A failure has occurred hardening either the publisher registration or the retained publication to the queue manager's local queue. All state changes attempted as a result of this publication will be backed-out. Processing of the publication will continue and the queue manager will attempt to deliver it to all subscribers.

System programmer response

Investigate why the failure occurred. It is probably due to a resource problem occurring on the queue manager. The most likely cause is 'queue full' on a queue. If your publications also carry state changes, you are advised to send them either as persistent publications or set the queue manager attribute PSSYNCPT to YES. In this way, they will be carried out under syncpoint and the queue manager can retry them in the event of a failure such as this.

CSQT884E

csect-name Queued Pub/Sub control queue is not a local queue

Severity

8

Explanation

The queue manager has detected that the queue SYSTEM.BROKER.CONTROL.QUEUE exists and is not a local queue. This makes the queue unsuitable for use as the control queue. The Pub/Sub Daemon task will terminate immediately.

System programmer response

Delete the definition of the existing queue and, if required, re-create the queue to be of type MQQT_LOCAL.

CSQT895I

csect-name Queued Pub/Sub Daemon detected missing retained messages

Severity

4

Explanation

The Queued Pub/Sub Daemon uses retained messages to communicate with other members of publish subscribe hierarchies.

The retained message was missing and has been republished.

System action

Retained messages seem to have been removed from the SYSTEM.RETAINED.PUB.QUEUE. The Queued Pub/Sub Daemon has attempted to recover by republishing retained messages.

System programmer response

If you are unaware of a reason why retained messages have been removed this might be a symptom of a more serious problem that requires further investigation.

CSQT899E

csect-name Unable to establish parent relationship to child queue manager *qmname*

Severity

8

Explanation

The queue manager is unable to establish the requested parent relationship to queue manager *qmname* because that queue manager is already a child.

System action

The existing child relationship to queue manager *qmname* remains unaffected.

System programmer response

To prevent this message being issued, the parent definition on the queue manager must be removed by issuing the **ALTER QMGR PARENT(' ')** MQSC command. To ensure that the required topology is established, review the existing parent definitions and update appropriately.

CSQT960I

csect-name Distributed Pub/Sub command processor stopped

Severity

0

Explanation

The distributed Pub/Sub command processor stopped. This may be for one of three reasons:

- The channel initiator is stopping.
- The channel initiator is starting and the queues used by the distributed Pub/Sub command processor have not been defined because distributed Pub/Sub command processor is not required.
- An error has occurred

System action

Processing continues, but distributed Pub/Sub is not available.

System programmer response

If an error has occurred, investigate the problem reported in the preceding messages.

CSQT961I

csect-name Distributed Pub/Sub publication processor stopped

Severity

0

Explanation

The distributed Pub/Sub publication processor stopped. This can be for one of three reasons:

- The channel initiator is stopping.

- The channel initiator is starting and the queues used by the distributed Pub/Sub command processor have not been defined because distributed Pub/Sub publication processor is not required.
- An error has occurred

System action

Processing continues, but distributed Pub/Sub is not available.

System programmer response

If an error has occurred, investigate the problem reported in the preceding messages.

CSQT962I

csect-name Distributed Pub/Sub proxy-subscription fan out processor stopped

Severity

0

Explanation

The distributed Pub/Sub proxy-subscription stopped. This can be for one of three reasons:

- The channel initiator is stopping.
- The channel initiator is starting and the queues used by the distributed pub/sub proxy-subscription fan out processor have not been defined because distributed pub/sub proxy-subscription fan out processor is not required.
- An error has occurred

System action

Processing continues, but distributed Pub/Sub is not available.

System programmer response

If an error has occurred, investigate the problem reported in the preceding messages.

CSQT963E

csect-name Queued pub/sub daemon unavailable

Severity

8

Explanation

The Distributed publish/subscribe process was unable to contact the Queued Pub/Sub Daemon. The problem will be reported in preceding messages.

System action

Hierarchical connections cannot be processed until the problem is rectified.

System programmer response

Investigate the problem reported in the preceding messages. When the Daemon becomes available, it might be necessary to issue the REFRESH QMGR TYPE(PROXYSUB) command to resynchronize subscriptions.

CSQT964I

csect-name Pub/Sub hierarchy relation connected, (queue manager *qmgr-name*)

Severity

0

Explanation

A publish/subscribe hierarchy connection has been established with child or parent queue manager *qmgr-name*.

CSQT965I

csect-name Pub/Sub hierarchy relation disconnected, (queue manager *qmgr-name*)

Severity

0

Explanation

A publish/subscribe hierarchy connection has ended with child or parent queue manager *qmgr-name*.

CSQT966E

csect-name A previous publication is being incorrectly processed again

Severity

8

Explanation

A publication, previously processed by this queue manager, has been received.

This is caused by an invalid configuration of a hierarchy and a pub/sub cluster.

System action

This message will not be re-published and will be processed according to the message's report options. Additional messages might be written if this publication is sent to the dead-letter queue.

System programmer response

Correct the configuration to remove the loop. Check the message properties in the dead-letter queue to determine the route taken.

CSQT967E

csect-name Unable to deliver proxy subscription to queue manager *queue_manager_name*, reason=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

Unable to deliver proxy subscription to queue manager *queue_manager_name*. Reason code: *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

This might result in subscriptions not receiving publications from *queue_manager_name*.

System programmer response

Correct the configuration to allow proxy subscriptions to be delivered to *queue_manager_name*. When the problem has been resolved, it will be necessary to perform a **REFRESH QMGR TYPE (PROXYSUB)** to resynchronize subscriptions.

CSQT968I

csect-name Topic *topic-1* in cluster *cluster_name* is dependent on PROXYSUB(FORCE) of topic *topic-2*

Severity

4

Explanation

Topic object *topic-1* is defined in cluster *cluster_name*, and is below topic object *topic-2* in the topic tree. Topic object *topic-2* has been configured with **PROXYSUB(FORCE)** to generate a wildcard proxy subscription, so no further individual proxy subscriptions are sent for any subscriptions made below *topic-2* in the topic tree. However, *topic-2* is not in the same cluster as *topic-1*, and the wildcard proxy subscription is not sent to neighboring queue managers in the cluster in which *topic-1* is defined. Therefore, publications from cluster *cluster_name* might not be sent to subscriptions to *topic-1* on this queue manager.

System programmer response

If the behavior described in the explanation is intended no action is required. If not, alter the **PROXYSUB** attribute on topic *topic-1*, or *topic-2*, so both, or neither topics, are configured with the value **FORCE**.

CSQT971E

csect-name task failed to quiesce

Severity

8

Explanation

The indicated Distributed Publish/Subscribe task was requested to quiesce but failed to do so within the timeout interval.

There are four classes of task:

Distributed Pub/Sub Publish Task

Receives publications from remote queue managers in a Publish/Subscribe cluster and republishes into the local queue manager

Distributed Pub/Sub Command Task

Receives command messages from remote queue managers in a Publish/Subscribe cluster to create or cancel proxy subscriptions on behalf of remote queue managers.

Distributed Pub/Sub Fan Out Task

Sends command messages to remote queue managers in Publish/Subscribe clusters and Publish/Subscribe hierarchies in response to changes in the local queue manager state.

Distributed Pub/Sub Controller

Controls the starting and stopping of the Distributed Publish/Subscribe tasks during channel initiator startup and shutdown and also when enabling and disabling Publish/Subscribe.

System action

The Queued Pub/Sub Daemon will be forcibly closed.

System programmer response

Check the job log for additional messages, or an FFST™, that might explain why the task has failed to quiesce.

CSQT972E

csect-name Unable to put Distributed Pub/Sub fan-out request to *q-name*, reason=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

An attempt to put a subscription fan-out request on the distributed publish/subscribe fan-out request queue *q-name* failed with reason code *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

CSQT973E

csect-name Distributed Pub/Sub subscribing inhibited, topic string *topic-string*, (queue manager *qm-name*)

Severity

8

Explanation

Topic *topic-string* has been disabled for subscribe. This prevents distributed publish/subscribe from creating a subscription on behalf of another queue manager *qm-name* within the topology.

CSQT974E

csect-name Distributed Pub/Sub publication inhibited, topic string *topic-string*

Severity

8

Explanation

Topic *topic-string* has been disabled for publish. This prevents distributed publish/subscribe from publishing a message received from another queue manager within the topology. This message will not be re-published and will be processed according to the report options in the message. Additional messages will be written if this publication is sent to the dead-letter queue.

CSQT975I

csect-name task has started

Severity

0

Explanation

The indicated Distributed Publish/Subscribe task has started. This message typically occurs during channel initiator startup, or when enabling Publish/Subscribe.

There are four classes of task:

Distributed Pub/Sub Publish Task

Receives publications from remote queue managers in a Publish/Subscribe cluster and republishes into the local queue manager

Distributed Pub/Sub Command Task

Receives command messages from remote queue managers in a Publish/Subscribe cluster to create or cancel proxy subscriptions on behalf of remote queue managers.

Distributed Pub/Sub Fan Out Task

Sends command messages to remote queue managers in Publish/Subscribe clusters and Publish/Subscribe hierarchies in response to changes in the local queue manager state.

Distributed Pub/Sub Controller

Controls the starting and stopping of the Distributed Publish/Subscribe tasks during channel initiator startup and shutdown, and also when enabling and disabling Publish/Subscribe.

System action

None.

System programmer response

None.

CSQT976I

csect-name task has stopped

Severity

0

Explanation

The indicated Distributed Publish/Subscribe task has stopped. This message typically occurs during channel initiator shutdown, or when disabling Publish/Subscribe.

There are four classes of task:

Distributed Pub/Sub Publish Task

Receives publications from remote queue managers in a Publish/Subscribe cluster and republishes into the local queue manager

Distributed Pub/Sub Command Task

Receives command messages from remote queue managers in a Publish/Subscribe cluster to create or cancel proxy subscriptions on behalf of remote queue managers.

Distributed Pub/Sub Fan Out Task

Sends command messages to remote queue managers in Publish/Subscribe clusters and Publish/Subscribe hierarchies in response to changes in the local queue manager state.

Distributed Pub/Sub Controller

Controls the starting and stopping of the Distributed Publish/Subscribe tasks during channel initiator startup and shutdown and also when enabling and disabling Publish/Subscribe.

System action

None.

System programmer response

None.

CSQT977I

csect-name Establishing Pub/Sub hierarchy relation, (queue manager *qmgr-name*)

Severity

0

Explanation

The queue manager is establishing a Publish/Subscribe hierarchy connection with a child or parent queue manager *qmgr-name*.

System action

None.

System programmer response

None.

CSQT978E

csect-name Unable to create/cancel proxy subscription, for queue manager *queue_manager_name*, topic string *topic-string*, reason=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The Distributed Pub/Sub Command Task is unable to create or cancel a proxy subscription for queue manager *queue_manager_name* on topic *topic-string* for reason code *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

A failure to create or cancel a proxy subscription will result in this queue manager not having a correct knowledge of subscriptions on other queue managers in the Publish/Subscribe topology. This may result in this queue manager not delivering publications to other queue managers.

System programmer response

Correct the cause of the indicated reason code.

Once the problem has been resolved it may be necessary to perform a REFRESH QMGR TYPE(PROXYSUB) command to resynchronise any subscriptions.

CSQT979E

csect-name Distributed Pub/Sub proxy subscription from *qmgr-name* rejected due to PSCLUS(DISABLED)

Explanation

A cluster subscription has been sent to this queue manager over a channel from qmgr-name but the queue manager attribute PSCLUS has been set to DISABLED, indicating that Publish/Subscribe activity is not expected between queue managers in this cluster.

System action

The proxy subscription request is ignored and no subscription is locally registered.

System programmer response

To enable publish/subscribe clustering, alter the PSCLUS attribute on all queue managers in the cluster to ENABLED. You may also need to issue **REFRESH CLUSTER** and **REFRESH QMGR** commands as detailed in the documentation for the PSCLUS attribute. If you are not using publish/subscribe clusters you should delete the clustered topic object, and ensure PSCLUS is DISABLED on all queue managers.

CSQT980I

csect-name Distributed Pub/Sub proxy subscription re-synchronization completed

Severity

0

Explanation

During restart processing the Distributed Pub/Sub process was unable to determine that the proxy subscription state was consistent so a re-synchronization with remote queue managers has been performed.

This is usually seen when a queue manager was not quiesced cleanly during its previous shutdown, or when the system was particularly busy at that time.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQT981E

csect-name Distributed Pub/Sub disabled whilst in a Pub/Sub cluster

Severity

4

Explanation

This queue manager is a member of a Publish/Subscribe cluster but Publish/Subscribe has been disabled.

System action

Other queue managers within the Publish/Subscribe Cluster will continue to send publications and proxy subscriptions to this queue manager. They will accumulate on the Publish/Subscribe Cluster system queues and will not be processed until Publish/Subscribe is enabled. If these queues become full channel failure may occur, which will affect the operation of Publish/Subscribe on other queue managers in the cluster. This will also affect the delivery of other messages, unrelated to Publish/Subscribe, that are sent to this queue manager from other queue managers within the cluster.

System programmer response

Enable Publish/Subscribe by setting **PSMODE** to **ENABLED** or **COMPAT** with the **ALTER QMGR** command then the **REFRESH QMGR TYPE (PROXYSUB)** command should be issued to resynchronise subscriptions.

CSQT982E

csect-name Queued Pub/Sub disabled whilst in a Pub/Sub hierarchy

Severity

4

Explanation

This queue manager is a member of a Publish/Subscribe hierarchy but Queued Publish/Subscribe has been disabled.

System action

Any parent-child relations within the Publish/Subscribe hierarchy will continue to send publications and proxy subscriptions to this queue manager. They will accumulate on the Queued Publish/Subscribe system queues and will not be processed until Queued Publish/Subscribe is enabled. If the Queued Publish/Subscribe system queues become full channel failure may occur, which will affect the operation of Publish/Subscribe on parent-child relations sending messages to this queue manager. This will also affect the delivery of other messages, unrelated to Publish/Subscribe, that are to be delivered using the same channels.

System programmer response

Enable Queued Publish/Subscribe by setting **PSMODE** to **ENABLED** with the **ALTER QMGR** command. Once Queued Publish/Subscribe has been restarted, use the **DISPLAY PUBSUB ALL** command to confirm this has completed, the **REFRESH QMGR TYPE (PROXYSUB)** command must be issued to resynchronize

CSQT983E

csect-name task failed, reason *mqrc (mqrc-text)*, retry in *n* minutes

Severity

4

Explanation

The *task* encountered a problem and will retry the command in *n* minutes. Earlier messages might have been issued in the queue manager or system error logs providing additional detail.

This message might be issued by a number of tasks:

Distributed Pub/Sub Publish Task

Other queue managers within the cluster will continue to send publications to this queue manager. The publications will accumulate on the Publish/Subscribe Cluster system queue (SYSTEM.INTER.QMGR.PUBS) and will not be processed until the problem is resolved. If these queues become full channel failure might occur, which will affect the operation of Publish/Subscribe on other queue managers in the cluster. This will also affect the delivery of other messages, unrelated to Publish/Subscribe, that are sent to this queue manager from other queue managers in the cluster.

Distributed Pub/Sub Command Task

Other queue managers within the cluster will continue to send proxy subscriptions to this queue manager. Subscriptions will accumulate on the Publish/Subscribe Cluster system queue (SYSTEM.INTER.QMGR.CONTROL) and will not be processed until the problem is resolved. Other queue managers will not receive publications from this queue manager on topics for which proxy subscriptions have yet to be processed. If the Publish/Subscribe Cluster system queue becomes full channel failure might occur, which will affect the operation of Publish/Subscribe on other queue managers in the cluster. This will also affect the delivery of other messages, unrelated to Publish/Subscribe, that are sent to this queue manager from other queue managers in the cluster.

Distributed Pub/Sub Fan Out Task

This task will not send proxy subscription messages to other queue managers in a Publish/Subscribe Cluster or parent-child relations within a Publish/Subscribe hierarchy until the problem is rectified. On topics for which proxy subscriptions have yet to be sent, this queue manager will

not receive publications from other queue managers in a Publish/Subscribe Cluster, or parent-child relations in a Publish/Subscribe hierarchy.

System action

None

System programmer response

If possible, rectify the identified problem, or contact your IBM support center.

When the problem has been rectified wait for *task* to retry the command.

CSQT984E

csect-name task has encountered *n* occurrences of reason *mqrc* (*mqrc-text*) while attempting to process a message.

Severity

4

Explanation

The *task* is currently unable to process a message due to reason *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form). The task has encountered this *n* times; it will continue to retry the command until the problem has been rectified.

This message might be issued by a number of tasks:

Distributed Pub/Sub Publish Task

Other queue managers within the cluster will continue to send publications to this queue manager. Publications will accumulate on the Publish/Subscribe Cluster system queue (SYSTEM.INTER.QMGR.PUBS) and will not be processed until the problem is resolved. If these queues become full channel failure might occur, which will affect the operation of Publish/Subscribe on other queue managers in the cluster. This will also affect the delivery of other messages, unrelated to Publish/Subscribe, that are sent to this queue manager from other queue managers within the cluster.

Distributed Pub/Sub Command Task

Other queue managers within the cluster will continue to send proxy subscriptions to this queue manager. Subscriptions will accumulate on the Publish/Subscribe Cluster system queue (SYSTEM.INTER.QMGR.CONTROL) and will not be processed until the problem is resolved. Other queue managers will not receive publications from this queue manager on topics for which proxy subscriptions have yet to be processed. If the Publish/subscriber Cluster system queue becomes full channel failure might occur, which will affect the operation of Publish/Subscribe on other queue managers in the cluster. This will also affect the delivery of other messages, unrelated to Publish/Subscribe, that are sent to this queue manager from other queue managers within the cluster.

Distributed Pub/Sub Fan Out Task

This task will not send proxy subscription messages to other queue managers in a Publish/Subscribe Cluster or parent-child relations within a Publish/Subscribe hierarchy until the problem is rectified. On topics for which proxy subscriptions have yet to be sent this queue manager will not receive publications from other queue managers in a Publish/Subscribe Cluster or parent-child relations within a Publish/Subscribe hierarchy.

System action

None

System programmer response

If possible, rectify the identified problem, or contact your IBM support center.

When the problem has been rectified wait for *task* to retry the command.

CSQT987E

csect-name task failed due to reason *mqrc* (*mqrc-text*) Retry in *n* minutes

Severity

4

Explanation

The *task* encountered a problem. Earlier messages might have been issued in the queue manager or system error logs providing additional detail. The task will retry the command in *n* minutes.

Other queue managers within the cluster will continue to send proxy subscriptions to this queue manager. They will accumulate on the Publish/Subscribe cluster system queue and will not be processed until the problem is resolved.

Other queue managers will not receive publications from this queue manager on topics for which proxy subscriptions have yet to be processed.

If the Publish/subscriber cluster system queue becomes full, channel failure might occur, which will affect the operation of Publish/Subscribe on other queue managers in the cluster. This will also affect the delivery of other messages, unrelated to Publish/Subscribe, that are sent to this queue manager from other queue managers within the cluster.

System action

None

System programmer response

If possible, rectify the identified problem, or contact your IBM support center.

When the problem has been rectified wait for *task* to retry the command.

CSQT988E

csect-name task failed due to reason *mqrc (mqrc-text)* Retry in *n* minutes

Severity

4

Explanation

The *task* encountered a problem. Earlier messages might have been issued in the queue manager or system error logs providing additional detail. The task will retry the command in *n* minutes.

This task will not send proxy subscription messages to other queue managers in a Publish/Subscribe cluster or parent-child relations within a Publish/Subscribe hierarchy until the problem is rectified.

On topics for which proxy subscriptions have yet to be sent, this queue manager will not receive publications from other queue managers in a Publish/Subscribe cluster or parent-child relations within a Publish/Subscribe hierarchy.

System action

None

System programmer response

If possible, rectify the identified problem, or contact your IBM support center.

When the problem has been rectified wait for *task* to retry the command.

CSQT989E

csect-name task has encountered *n* occurrences of reason *mqrc (mqrc-text)* while attempting to process a message.

Severity

4

Explanation

The *task* is currently unable to process a message due to reason *mqrc (mqrc-text)*. Note that ((*mqrc-text*) provides the MQRC in textual form).

The task has encountered this *n* times. The task continues to retry the command until the problem has been rectified.

Other queue managers within the cluster continue to send proxy subscriptions to this queue manager. The subscriptions will accumulate on the Publish/Subscribe cluster system queue and will not be processed until the problem is resolved.

Other queue managers will not receive publications from this queue manager on topics for which proxy subscriptions have yet to be processed.

If the Publish/subscriber cluster system queue becomes full, channel failure might occur, which will affect the operation of Publish/Subscribe on other queue managers in the cluster.

This will also affect the delivery of other messages, unrelated to Publish/Subscribe, that are sent to this queue manager from other queue managers within the cluster.

System action

None

System programmer response

If possible, rectify the identified problem, or contact your IBM support center.

When the problem has been rectified wait for *task* to retry the command.

CSQT990E

csect-name task has encountered *n* occurrences of reason *mqrc* (*mqrc-text*) while attempting to process a message.

Severity

4

Explanation

The *task* is currently unable to process a message due to reason *mqrc* (*mqrc-text*). Note that ((*mqrc-text*) provides the MQRC in textual form).

The task has encountered this *n* times. The task continues to retry the command until the problem has been rectified.

This task will not send proxy subscription messages to other queue managers in a Publish/Subscribe Cluster or parent-child relations within a Publish/Subscribe hierarchy until the problem is rectified.

On topics for which proxy subscriptions have yet to be sent this queue manager will not receive publications from other queue managers in a Publish/Subscribe cluster or parent-child relations within a Publish/Subscribe hierarchy.

System action

None

System programmer response

If possible, rectify the identified problem, or contact your IBM support center.

When the problem has been rectified wait for *task* to retry the command.

CSQT991I

csect-name task has recovered from previous error condition

Severity

0

Explanation

The *task* has recovered from the previously reported error condition.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQT992E

csect-name task has written a message to the dead-letter queue, reason *mqrc (mqrc-text)*

Severity

8

Explanation

The *task* has written a message to the dead-letter queue due to reason *mqrc (mqrc-text)* provides the MQRC in textual form).

If *task* is the Distributed Pub/Sub Command Task, other queue managers will not receive publications from this queue manager on any topics for which this message is requesting proxy subscriptions be created.

If *task* is the Distributed Pub/Sub Fan Out Task, this queue manager will not receive publications from other queue managers on any topics for which this is requesting a proxy subscription be created.

System programmer response

Determine why the message was written to the dead-letter queue, and resolve the problem that is preventing the message from being sent to its destination.

If *task* is the Distributed Pub/Sub Command Task, or the Distributed Pub/Sub Fan Out Task, it may be necessary to issue the **REFRESH QMGR TYPE (PROXYSUB)** command when the problem has been resolved to resynchronize the subscription state with other queue managers.

CSQT996E

csect-name Creation of proxy subscription failed on queue manager *qmgr-name*, cluster *cluster_name*, topic string *topic-string*, reason=*mqrc (mqrc-text)*

Severity

8

Explanation

The proxy subscription in publish/subscribe cluster *cluster_name* on topic *topic-string* could not be created on queue manager *qmgr-name* due to reason *mqrc (mqrc-text)* provides the MQRC in textual form). The failure to create the proxy subscription will prevent publications made on queue manager *qmgr-name* to topic *topic-string* being delivered to subscriptions on this queue manager. If this queue manager is also participating as a member of a publish/subscribe hierarchy any subscriptions to topic *topic-string* on other members of the publish/subscribe hierarchy will not receive publications from queue manager *qmgr-name*.

System programmer response

Correct the cause of the indicated reason code on queue manager *qmgr-name*. When the problem has been resolved issue the **REFRESH QMGR TYPE (PROXYSUB)** command on the remote queue manager to resynchronize the subscription state with other queue managers.

CSQT997E

csect-name Cancellation of proxy subscription failed on queue manager *qmgr-name*, cluster *cluster_name*, topic string *topic-string*, reason=*mqrc (mqrc-text)*

Severity

8

Explanation

The proxy subscription in publish/subscribe cluster *cluster_name* on topic *topic-string* could not be canceled on queue manager *qmgr-name* due to reason *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form). The failure to cancel the proxy subscription will result in publications made on queue manager *qmgr-name* to topic *topic-string* to continue being delivered to this queue manager.

System programmer response

Correct the cause of the indicated reason code on queue manager *qmgr-name*. When the problem has been resolved issue the **REFRESH QMGR TYPE (PROXYSUB)** command on the remote queue manager to resynchronize the subscription state with other queue managers.

CSQT998E

csect-name Proxy subscription re-synchronization failed on queue manager *qmgr-name*, cluster *cluster_name*, reason=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The request to resynchronize the subscription state with other queue managers in publish/subscribe cluster *cluster_name* failed on queue manager *qmgr-name* due to reason *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form). There might be topic strings for which proxy subscriptions have not been created. Publications made on queue manager *qmgr-name* to those topics will not be delivered to subscriptions on this queue manager. If this queue manager is also participating as a member of a publish/subscribe hierarchy any subscriptions to those topics on other members of the publish/subscribe hierarchy will not receive publications from queue manager *qmgr-name*. There might also be topic strings for which proxy subscriptions have not been canceled on queue manager *qmgr-name*. Any publications made on that queue manager will continue to be delivered to this queue manager.

System programmer response

Correct the cause of the indicated reason code on queue manager *qmgr-name*. When the problem has been resolved issue the **REFRESH QMGR TYPE (PROXYSUB)** command on the remote queue manager to resynchronize the subscription state with other queue managers.

CSQT999E

csect-name task has encountered a message that is not valid on queue *queue*

Severity

4

Explanation

The queue *queue* is for exclusive use by the internal queue manager task *task*, and is used to maintain a distributed publish/subscribe topology. The task has encountered a message on the queue that is not valid

System action

The message is processed according to its report options. Additional console messages might be output if the message is put to the dead-letter queue.

An informational FFST, including details of the message that is not valid, might also be generated.

System programmer response

Ensure no applications put messages directly to the named queue, and ensure message exits do not alter system messages put to the queue. If the problem persists contact your IBM support center.

ユーティリティ・メッセージ (CSQU...)

CSQU000I

csect-name IBM MQ for z/OS Vn

説明

これは、ユーティリティー・プログラムによって発行される報告書のヘッダーの一部である。

CSQU001I

csect-name キュー・マネージャー・ユーティリティー - date time

説明

これは、ユーティリティー・プログラムによって発行される報告書のヘッダーの一部である。

システム・アクション

このメッセージに続いて、SYSIN データ・セットからの機能ステートメントのコピーが表示される。

CSQU002E

サイズが n バイトの記憶域を取得できません。戻りコード=*ret-code*

説明

記憶域を取得しようとしたが失敗した。

システム・アクション

機能は終了し、キューの更新はすべてバックアウトされる。

システム・プログラマーの応答

CSQUTIL 機能を実行する JCL を実行依頼するときこのエラーが発生した場合は、JCL の **REGION** サイズ・パラメーターに適切な値を定義したこと、または **REGION** サイズを 0M に設定したことを確認する。以下に例を示します。

```
//SCOPY EXEC PGM=CSQUTIL,REGION=0M //STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=thlqua1.SCSQANLE  
//DD DISP=SHR,DSN=thlqua1.SCSQAUTH ...
```

REGION パラメーターの設定について詳しくは、[キュー・マネージャー実行中のデータ・セットへのキューのコピー \(COPY\)](#) を参照してください。

「z/OS MVS プログラミング: アセンブラー・サービス解説書」の該当するボリュームにある、戻りコードに関する情報については、[STORAGE](#) または [GETMAIN](#) 要求を参照してください。

CSQU003E

address の記憶域を解放できません。戻りコード=*ret-code*

説明

アドレス *address* にある記憶域を解放してシステムに戻そうとしたが失敗した。

システム・アクション

プログラムは、通常、このエラーを無視してその機能を続行する。

システム・プログラマーの応答

「z/OS MVS プログラミング: アセンブラー・サービス解説書」の該当するボリュームにある、戻りコードに関する情報については、[STORAGE](#) または [FREEMAIN](#) 要求を参照してください。

CSQU005I

COMMIT が完了しました。

説明

MQCMIT 呼び出しから完了コード MQCC_OK が戻された。

CSQU006I

BACKOUT が完了しました。

説明

MQBACK 呼び出しから、完了コード MQCC_OK が戻された。

システム・アクション

この機能は終了する。

システム・プログラマーの応答

バックアウトの実行させたエラーの原因を調べる。

CSQU007E

MQCMIT に失敗しました。MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

説明

ユーティリティー・プログラムが、最後の変更をコミットできなかった。

システム・アクション

更新はバックアウトされ、機能は終了する。

システム・プログラマーの応答

mqqc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1123 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。必要があれば、ジョブの再実行を要求する。

CSQU008E

MQBACK に失敗しました。MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

説明

ユーティリティー・プログラムが、最後の変更をバックアウトできなかった。

システム・アクション

なし。バックアウトの原因となったエラーのために、機能はすでに終了している。

システム・プログラマーの応答

mqqc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1123 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。必要があれば、ジョブの再実行を要求する。

CSQU009E

MQCONN が *conn-id* で失敗しました。MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

説明

conn-id という名前のキュー・マネージャーまたはキュー共用グループへの接続が失敗に終わった。

システム・アクション

要求された機能は実行されない。

システム・プログラマーの応答

mqqc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1123 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。必要があれば、ジョブの再実行を要求する。

CSQU010E

MQDISC が *conn-id* で失敗しました。MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

説明

conn-id という名前のキュー・マネージャーまたはキュー共用グループからの切断が失敗に終わった。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。(切断要求は、ユーティリティー・プログラムが処理する最後の機能であるため、これはエラーではない。)

システム・プログラマーの応答

mqqc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1123 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQU011I

CSQINPX からのコマンド - *date time*

説明

これは、ユーティリティー・プログラムの進捗状況を示すメッセージのヘッダーの一部として、メッセージ CSQU000I の後に表示される。

これは、CSQINPX データ・セットを処理する目的でユーティリティーが分散キューイングから呼び出されたときに作成される。

CSQU012I

初期化コマンド処理が完了しました。

説明

CSQINPX コマンド・データ・セットを処理する初期化コマンド・ハンドラーが正常に完了した。

CSQU013E

初期化コマンド処理が失敗しました。RC=*return-code*

説明

CSQINPX コマンド・データ・セットを処理する初期設定コマンド・ハンドラーが、正常に完了しなかった。*return-code* は、エラーのタイプを示します。

00000008

一部のコマンドまたはすべてのコマンドが処理されなかった。

0000000C

重大エラー。これは、CSQINPX データ・セットまたは CSQOUTX データ・セットの定義が誤っていたことが原因である可能性が高い。

システム・アクション

初期化コマンド・ハンドラーは終了するが、チャンネル・イニシエーターは続行する。

システム・プログラマーの応答

このエラーの詳細については、CSQOUTX データ・セットおよび前に出されたメッセージを参照。

初期設定コマンド・ハンドラー、および CSQINPX または CSQOUTX データ・セットについて詳しくは、初期設定および構成ファイルを参照。COMMAND ステートメントについては、IBM MQ へのコマンドの実行 (COMMAND)を参照。

CSQU020E

Unable to OPEN *ddname* data set

説明

プログラムが、データ・セット *ddname* をオープンできなかった。

システム・アクション

SYSPRINT または SYSIN データ・セットをオープンできない場合は、ユーティリティー・プログラムは終了する。他のデータ・セットの場合、そのデータ・セットを要求する機能は実行されない。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに送られたエラー・メッセージを調べて、エラーの理由を判別する。データ・セットが正しく指定されているかどうかを調べる。データ・セットのレコード長が有効であることを確認する。

CSQU021E

データ・セット *ddname* には VBS のレコード・フォーマットがありません。

説明

プログラムはデータ・セット *ddname* をオープンしたが、このデータ・セットには VBS のレコード・フォーマットがない。

システム・アクション

LOAD 入力データ・セットをオープンできない場合、ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに送られたエラー・メッセージを調べて、エラーの理由を判別する。データ・セットが正しく指定されていることと、正しいレコード・フォーマットであることを確認する。

CSQU023E

ddname データ・セットをクローズできません。

説明

入力データ・セット *ddname* が、そのクローズ要求が行われた後も、オープンされたままになっている。

システム・アクション

プログラムはその終了手順を続行する。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに送られたエラー・メッセージを調べて、エラーの理由を判別する。データ・セットが正しく指定されているかどうかを調べる。

CSQU030E

csect-name データ・セット *ddname* のページ *nn* が無効です。

説明

ユーティリティー・プログラムは、ページ・セット・データ・セット *ddname* で無効なページを検出した。ページ番号が 0 の場合、そのデータ・セットは、*DD* 名で暗黙に指定されたページ・セットではない可能性がある。

システム・アクション

この機能は終了する。

システム・プログラマーの応答

ページ・セットが破壊されていないか、そのページ・セット番号が *DD* 名に対応しているかどうかを調べる。

CSQU031E

後処理 QMGR または COPY のあるキュー *q-name* は存在しません。

説明

指定されたキューには、後処理 QMGR または COPY を指定したものが存在しない。(後処理 SHARED のキューなどが存在する場合があるが、SCOPY 機能は共用キューでは作動しない。)

システム・アクション

この機能は終了する。

システム・プログラマーの応答

指定されたキュー名を調べる。

CSQU032E

ページ・セット *psid* は無効です。

説明

ユーティリティー・プログラムは無効なページ・セットを検出した。ページ・セットが矛盾した状態にあるため、スタンドアロン・ユーティリティー機能がこれを処理できない。

システム・アクション

この機能は終了する。

システム・プログラマーの応答

これは、ファジー・バックアップ ([ページ・セットのバックアップおよび回復の方法を参照](#)) を実行したことによる結果であるか、またはキュー・マネージャーが異常終了したことが原因と考えられる。キュー・マネージャーを再始動してから、これを正常に終了する。

CSQU036E

ユーティリティーは使用できません。機能が制限されています。

説明

IBM MQ 用に選択されているインストールとカスタマイズのオプションでは、すべての機能を使用することはできないため、ユーティリティーを実行できない。

システム・アクション

ユーティリティーは終了する。

CSQU037I

function は *version* 機能で固定化されました

説明

function によって識別されるユーティリティー機能は、バージョン *version* の機能で固定化された。

システム・アクション

処理は続けられるが、詳細を示す追加のメッセージが出力される場合がある。

システム・プログラマーの応答

ユーティリティー機能の使用方法を確認する。

CSQU038I

IBM MQ 8.0 から、クライアント・チャネル定義にはクライアント・マシンで `runmqsc -n` を使用します。

説明

CSQUTIL の MAKECLNT ユーティリティー機能 (クライアント・チャネル定義テーブル (CCDT) を生成する) は固定化された。

IBM MQ 8.0 から、代わりに `runmqsc` ユーティリティーをクライアント・マシンで使用して CCDT を生成する。

CSQU040E

ddname データ・セットから受信できません。

説明

プログラムが、*ddname* データ・セットからレコードを読み取ることができなかった。

システム・アクション

機能は終了し、キューの更新はすべてバックアウトされる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに送られたエラー・メッセージを調べて、エラーの理由を判別する。データ・セットが正しく指定されているかどうかを調べる。

CSQU043E

ddname データ・セットに書き込みできません。

説明

プログラムが、*ddname* データ・セットに次のレコードを書き込むことができなかった。そのデータ・セットがオープンされていなかったか、または QSAM エラーが発生した。

システム・アクション

機能は終了し、キューの更新はすべてバックアウトされる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに送られたエラー・メッセージを調べて、エラーの理由を判別する。データ・セットが正しく指定されているかどうかを調べる。

CSQU044I

ターゲット *qmgr-name* 以外のキュー・マネージャーに対してはコマンドを実行できません。

説明

MAKEDEF、MAKEREP、MAKEALT、または MAKEDEL を使用した COMMAND 機能の DISPLAY オブジェクト・コマンドのいくつかは、CMDSCOPE オプションを使用した。そのため、ターゲット・キュー・マネージャー *qmgr-name* 以外のキュー・マネージャーのオブジェクトについて情報が受信された。コマンドは、このようなオブジェクト用には生成されていない。

システム・プログラマーの応答

MAKEDEF、MAKEREP、MAKEALT、または MAKEDEL オプションとともに CMDSCOPE を使用することを避ける。ターゲット・キュー・マネージャーごとに別個の COMMAND 機能を使用し、生成されたコマンド・セットごとに別個のデータ・セットを使用する。

CSQU045I

n データ・レコードが読み取られました。

説明

これは、現行の機能について DATA キーワードにより指定された入力データ・セットから読み取られたデータ・レコードの数を示す。

CSQU046I

CCSID *ccsid* を使用して *ddname* データ・セットにクライアント・チャネル定義を作成中です。

説明

これは、COMMAND 機能がクライアント・チャネル定義をデータ・セット *ddname* に作成すること、およびそのデータのコード化文字セット ID が *ccsid* となることを示す。

CSQU047E

クライアント・チャネル定義のデータを変換できません。MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

説明

クライアント・チャネル定義ファイルが作成されたときに、キュー・マネージャーで使用された文字セットから、CCSID キーワードで要求された文字セットに、チャネルまたは認証情報オブジェクトのデータを変換できなかった。

システム・アクション

チャネルまたは認証情報定義を作成しない。

システム・プログラマーの応答

mqqc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1123 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。必要があれば、ジョブの再実行を要求する。

CSQU048I

n 認証オブジェクトが組み込まれました。 *m* が除外されました。

説明

これは、現行の機能について、クライアント・チャネル定義ファイルに含まれた認証情報のセットの数、および除外された認証情報のセットの数を示す。認証情報は、以下の理由で除外される場合がある。

- LDAPUSER および LDAPPWD 属性がブランクではない。
- 情報のセットが多すぎる。
- データ変換エラーがある。

システム・プログラマーの応答

情報の一部が除外された場合、認証情報オブジェクトが正しく選択されたことを確認する。

CSQU049I

n クライアント・チャネル定義が作成されました。

説明

これは、現行の機能により作成されたクライアント・チャンネル定義の数を示す。

CSQU050E

長さ *length* のコマンドは長すぎます。コマンドは拒否されました。

説明

COMMAND 機能において、アセンブルされたコマンドが 32 762 文字を超えている。

システム・アクション

コマンドは無視され、コマンドはそれ以上処理されない。

システム・プログラマーの応答

コマンドが連結ルールに従った正しい書式になっていることを確認する。

CSQU051E

コマンドへの応答が *n* 秒以内に受信されませんでした。

説明

COMMAND 機能において、さらに応答が予期されているときに、応答を入手する処理がタイムアウトになった。

システム・アクション

これまでに起こったタイムアウトの回数が多すぎない限り、次のコマンドが処理される。

システム・プログラマーの応答

特にコマンドがリモート・キュー・マネージャーに送信中の場合、RESPTIME の値を増やし、さらにリモート・キューの定義を調べる。

問題が続く場合、システム・コマンド入力キューの定義とシステム・コマンド応答キューの定義を調べる。MQGET および MQPUT で必ず使用可能にする。定義が正しい場合には、コマンド・サーバーを停止してから再始動する。

CSQU052E

タイムアウトが多すぎます。

説明

COMMAND 機能において、応答を入手する処理が 4 回タイムアウトになった。

システム・アクション

コマンドはそれ以上処理されない。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQU051E を参照。

CSQU053E

DISPLAY コマンドの応答が認識されません

説明

COMMAND 機能において、DISPLAY コマンドに対する応答が予期されたものではなかった。

システム・アクション

DISPLAY コマンド応答は、フォーマットされずに、そのまま表示される。次のコマンドが処理される。

システム・プログラマーの応答

使用したロード・ライブラリーが、使用しているキュー・マネージャーと整合していることを確認する。

IBM サポートに連絡して問題を報告する。

CSQU054I

オブジェクト・タイプ *objtyp* の function を実行中です。

説明

ユーティリティー・プログラムは、機能 *function* を実行し、指示されたタイプのオブジェクトを処理している。

CSQU055I

宛先キュー・マネージャーは *qmgr-name* です。

説明

これは、コマンドの送信先となるキュー・マネージャーを示す。

CSQU056I

コマンドを *ddname* データ・セットに作成中です。

説明

これは、MAKEDEF、MAKEREP、MAKEALT、または MAKEDEL を使用した COMMAND 機能、または SDEFS 機能のコマンドがデータ・セット *ddname* に作成されることを示す。

CSQU057I

n コマンドが読み取られました。

説明

これは、現行の機能によってコマンド入力データ・セットから読み取られたコマンドの数を示す。

CSQU058I

n コマンドが発行され、応答を受信しました。 *m* が失敗しました。

説明

これは、現行の機能について、送信されて応答があったコマンドの数、および正常に実行されなかったコマンドの数を示す。

CSQU059I

n cmd コマンドが作成されました。

説明

これは、現行の機能について作成されたコマンド (*cmd* と呼ばれる) の数を示す。

CSQU060E

メッセージ *msg-no* のデータ長が間違っています。 *act-length* バイトが見つかりましたが、 *exp-length* バイトが予期されていました。

重大度

8

説明

処理されているキューに対して、LOAD 関数または SLOAD 関数でメッセージ番号 *msg-no* のレコードを読み取ろうとしたときに、実際のレコード長が予期していたレコード長と異なっていることが判明した。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

データ・セットが COPY 関数によって作成されたことを確認する。

CSQU061E

メッセージ *msg-no* の *in-ddname* データ・セットへのアクセス中にエラーが発生しました。理由 =*reason-code*。

説明

LOAD、SLOAD、または ANALYZE の各関数を実行して、処理中のキューのメッセージ *msg-no* を読み取ろうとしたときに、エラーが検出された。理由コードは、以下の特定のエラーを示している。

4

データ・セット内の最初のレコードがキューを示していない

8

予期しないファイルの終わりを検出した

12

レコード・タイプが不明である

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

そのデータ・セットが COPY 機能によって作成されたものであり、壊れていないことを確認する。

CSQU062E

データ・レコードの形式が無効です。

説明

LOAD 機能において、ユーティリティー・プログラムが、入力データ・セットからの読み取り中に、認識されないレコードを検出した。

システム・アクション

機能は終了し、キューの更新はすべてバックアウトされる。

システム・プログラマーの応答

そのデータ・セットが COPY 機能によって作成されたものであり、壊れていないことを確認する。

CSQU063E

in-ddname データ・セットは空です

重大度

8

説明

LOAD、SLOAD、または ANALYZE の関数の実行時に、入力データ・セット (DDname *in-ddname*) が空だった。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

データ・セットが COPY 関数によって正常に作成されたことを確認する。

CSQU070I

コマンドの処理が停止しました。

説明

COMMAND 機能に、FAILURE (STOP) が指定されたので、コマンドが正常に実行されなかった。

システム・アクション

コマンドはそれ以上処理されない。

CSQU071E

Incomplete command

説明

COMMAND 機能において、コマンドの作成が完了する前に入力データ・セット上のデータの終わりに達した。

システム・アクション

コマンドは無視される。処理すべきコマンドはそれ以上ない。

システム・プログラマーの応答

コマンドが連結ルールに従った正しい書式になっていることを確認する。

CSQU080E

MQCLOSE がキュー *q-name* で失敗しました。MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

説明

q-name に対する MQCLOSE 呼び出しが失敗に終わった。これがシステム・コマンドの入力キューに対するもので、COMMAND 機能を使用中の場合は、ターゲット・キュー・マネージャーが使用中であることを示すメッセージ CSQU055I が続いて出される。

システム・アクション

この機能は終了する。

システム・プログラマーの応答

mqqc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す)の詳細については、[1123 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。必要があれば、ジョブの再実行を要求する。

CSQU082E

MQGET がキュー *q-name* で失敗しました。MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

説明

q-name に対する MQGET 呼び出しが失敗に終わった。

システム・アクション

機能は終了し、キューの更新はすべてバックアウトされる。

システム・プログラマーの応答

mqqc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す)の詳細については、[1123 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。必要があれば、ジョブの再実行を要求する。

CSQU083E

MQOPEN がキュー *q-name* で失敗しました。MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

説明

q-name に対する MQOPEN 呼び出しが失敗に終わった。このキューがモデル・キューの場合、要求された動的キューの名前に括弧が付けられる。これがシステム・コマンドの入力キューに対するもので、COMMAND 機能を使用中の場合は、ターゲット・キュー・マネージャーが使用中であることを示すメッセージ CSQU055I が続いて出される。

システム・アクション

機能は終了し、キューの更新はすべてバックアウトされる。

システム・プログラマーの応答

mqqc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す)の詳細については、[1123 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。必要があれば、ジョブの再実行を要求する。

CSQU085E

MQPUT がキュー *q-name* で失敗しました。MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

説明

q-name に対する MQPUT 呼び出しが失敗に終わった。これがシステム・コマンドの入力キューに対するもので、COMMAND 機能を使用中の場合は、ターゲット・キュー・マネージャーが使用中であることを示すメッセージ CSQU055I が続いて出される。

システム・アクション

機能は終了し、キューの更新はすべてバックアウトされる。

システム・プログラマーの応答

mqqc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1123 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。必要があれば、ジョブの再実行を要求する。

CSQU087I

MAXUMSGS に達しました。同期点が強制実行されました。

説明

MAXUMSGS に達したため、これまでに行われたキューの変更をコミットする同期点がとられた。

システム・アクション

この機能は続行されるが、それ以上の機能は処理されない。

システム・プログラマーの応答

このメッセージの後でこの機能が何らかの理由で失敗しない限り、何の処置も取られない。失敗した場合は、一部のキュー変更がコミットされるので、ジョブを再実行する前に、適切な調整を行わなければならない。

CSQU090E

ddname データ・セットで OPEN が失敗しました。VSAM 戻りコード=*rc* 理由コード=*reason*

説明

ユーティリティー・プログラムが、処理しようとしていたページ・セット (*ddname* で示される) に関する VSAM OPEN エラーを受け取った。

システム・アクション

そのページ・セットは、処理されない。

システム・プログラマーの応答

VSAM からの戻りコードと理由コードについては、「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照。必要に応じて、ジョブの再実行を要求する。

CSQU091E

ddname データ・セットが空でない。ページ・セットはフォーマットされません。

説明

データ・セット *ddname* がオープンされたが、空ではない。

システム・アクション

そのページ・セットはフォーマットされない。

システム・プログラマーの応答

指定するデータ・セットを必ず空にし、必要に応じて、ジョブの再実行を要求する。

CSQU092I

ddname データ・セットの *function* が完了しました。

説明

function 機能による *ddname* データ・セットの処理が完了した。

システム・アクション

次のページ・セットを用いて処理が続けられる。

CSQU093E

ddname データ・セットで PUT が失敗しました。VSAM 戻りコード=*rc* 理由コード=*code*

説明

ユーティリティー・プログラムが、処理しようとしていた (*ddname* で示される) ページ・セットに関する VSAM PUT エラーを受け取った。

システム・アクション

このページ・セットの処理は終了し、機能は次のページ・セットを用いて処理を続ける。

システム・プログラマーの応答

VSAM からの戻りコードと理由コードについては、「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照。必要に応じて、ジョブの再実行を要求する。

CSQU094E

ddname データ・セットで CLOSE が失敗しました。VSAM 戻りコード=*rc* 理由コード=*reason*

説明

ユーティリティー・プログラムが、処理しようとしていた (*ddname* で示される) ページ・セットに関する VSAM CLOSE エラーを受け取った。

システム・アクション

このページ・セットの処理は終了し、機能は次のページ・セットを用いて処理を続ける。

システム・プログラマーの応答

VSAM からの戻りコードと理由コードについては、「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照。必要に応じて、ジョブの再実行を要求する。

CSQU095E

ページ・セットが認識されていません。 *function* は終了しました。

説明

CSQP0000 から CSQP0099 の DD 名が付いたページ・セット・データ・セットがなかったため、ページ・セットのフォーマット要求または再設定要求が失敗した。

システム・アクション

処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

必要なページ・セット・データ・セットに対する DD ステートメントを追加し、ジョブの再実行を要求する。

CSQU096I

csect-name FORMAT TYPE(*type*) がページ・セット *psid* でスキップされました

説明

ページ・セット *psid* のフォーマット設定の *type* は、許可されていないため、スキップされた。

ページ・セット 0 の場合は、FORMAT TYPE(REINTRODUCE) は許可されない。その他の値の場合は、問題について説明したメッセージがこの前に発行される。

システム・アクション

このページ・セットはスキップされるが、FORMAT 処理は次のページ・セットから続行される。

システム・プログラマーの応答

必要であれば、START QMGR BACKMIG コマンドを使用してページ・セット 0 をマイグレーションする (この操作が許可されている場合)。必要に応じて、これより前のメッセージを調べる。

CSQU097E

csect-name FORMAT TYPE(*type*) TARGVER(*target-vrm*) がページ・セット *psid* で失敗しました。ページ・セットは *old-vrm* で最後に使用されました

説明

FORMAT コマンドを使用して、バージョン *target-vm* のページ・セット *psid* を再導入しようとした。このページ・セットはバージョン *old-vm* で最後に使用され、このマイグレーションはユーティリティーでサポートされていない。サポートされる変換については、[FORMAT](#) を参照してください。

システム・アクション

このページ・セットはスキップされるが、FORMAT 処理は次のページ・セットから続行される。

システム・プログラマーの応答

正しいバージョンのユーティリティーがサポートされている場合は、それを使用する。そうでない場合は、*target-vm* バージョンのユーティリティーを使用して、FORMAT TYPE(NEW) または FORMAT TYPE(RECOVER) によってページ・セットを追加できる可能性がある。

CSQU100E

ddname DD ステートメントがありません。

説明

データ・セット *ddname* に対する DD ステートメントが、JCL に含まれていない。

システム・アクション

ユーティリティーは終了する。

システム・プログラマーの応答

必要なステートメントを JCL に追加し、ジョブの再実行を要求する。

CSQU101E

DD ステートメントでページ・セット *psid* が欠落しています。

説明

ページ・セットには参照できるが、JCL にそれに対する DD ステートメントがない。必要な DD 名は CSQP00nn であり、この *nn* はページ・セット番号である。

システム・アクション

ユーティリティーは終了する。

システム・プログラマーの応答

必要なステートメントを JCL に追加し、ジョブの再実行を要求する。

CSQU102E

機能が要求されませんでした。

説明

SYSIN データ・セットに機能ステートメントが 1 つも含まれていない。

システム・アクション

ユーティリティーは終了する。

CSQU103E

キーワード *keyword1* または *keyword2* のいずれかを指定する必要があります。

説明

キーワード *keyword1* または *keyword2* を指定する必要があるが、どちらも指定されていないため、ステートメントの構文が正しくない。

システム・アクション

ユーティリティーは終了する。

システム・プログラマーの応答

[MQSC コマンド](#) を参照して、このステートメントに必要な正しい構文について調べた後、ジョブを再実行依頼する。

CSQU104E

キーワード *keyword* の値 *value* が無効です。

説明

キーワード *keyword* に指定された値が無効であるため、ステートメントの構文が正しくない。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

[MQSC コマンド](#)を参照して、このステートメントに必要な正しい構文について調べ、ジョブを再実行依頼する。

CSQU105E

機能 *function* のキーワードまたは値に互換性がありません。

説明

指定したキーワードまたはその値が別のキーワードまたはその値と競合するため、ステートメントの構文が正しくない。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

[MQSC コマンド](#)を参照して、このステートメントに必要な正しい構文について調べ、ジョブを再実行依頼する。

CSQU106E

機能 *function* が無効です。

説明

機能 *function* が認識不能なために、ステートメントの構文が正しくない。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

[MQSC コマンド](#)を参照して、有効な機能のリストを確認した後、ジョブを再実行依頼する。

CSQU107E

function ステートメント構文が無効です。

説明

function ステートメントの構文が正しくない。

- キーワードまたは値が多すぎる。
- 必須キーワードが欠落している。
- 解析できない。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

[MQSC コマンド](#)を参照して、このステートメントに必要な正しい構文について調べ、ジョブを再実行依頼する。

CSQU108E

キーワード *keyword* の値が欠落しています。

説明

キーワード *keyword* の後に値が必要であるが、それが欠落している。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

MQSC コマンドを参照して、このステートメントに必要な正しい構文について調べ、ジョブを再実行依頼する。

CSQU109E

キーワード *keyword* の値は許可されていません。

説明

キーワード *keyword* の後に値は不要であるのに、それが指定された。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ステートメントに必要な正しい構文について z/OS の構成を参照し、ジョブを再実行依頼してください。

CSQU110E

必須キーワードがキーワード *keyword* がありません。

説明

キーワード *keyword* は他の特定のキーワードも指定される場合にのみ指定できるが、その特定のキーワードが欠落しているため、ステートメントの構文は正しくない。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

MQSC コマンドを参照して、このステートメントに必要な正しい構文について調べた後、ジョブを再実行依頼する。

CSQU111E

機能 *function* のキーワード *keyword* が無効です。

説明

機能 *function* に対するキーワード *keyword* が無効であるため、ステートメントの構文が正しくない。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

MQSC コマンドを参照して、このステートメントに必要な正しい構文について調べ、ジョブを再実行依頼する。

CSQU112E

Incomplete statement

説明

ステートメントの作成が完了する前に、入力データ・セット上のデータの終わりに達した。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ステートメントが連結ルールに従った正しい書式になっていることを確認する。

CSQU113E

ステートメントが連続しすぎています。

説明

ステートメントの連結が 10 を超えている。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ステートメントが連結ルールに従った正しい書式になっていることを確認する。

CSQU114E

キーワード *keyword* が繰り返されました。

説明

キーワードが繰り返されているので、ステートメントの構文は正しくない。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

入力データ・セットの構文を調べる。 [CSQUTIL](#) を参照し、ユーティリティ・プログラムについての詳細情報を確認する。

CSQU115E

ページ・セット *psid* のキューが見つかりません。コマンドの応答が受信されていません。

説明

COPY または EMPTY 機能において、コマンドへの応答が時間内に受信されなかったために、どのキューがページ・セット *psid* にあるかをキュー・マネージャーが判別できなかった。

システム・アクション

この機能は終了する。

システム・プログラマーの応答

システム・コマンド入力キューの定義とシステム・コマンド応答キューの定義を調べる。MQGET および MQPUT で必ず使用可能にする。定義が正しい場合には、コマンド・サーバーを停止してから再始動する。

CSQU116I

ページ・セット *psid* の記憶域クラスが見つかりません。

説明

指定されたページ・セットには、ストレージ・クラスが関連付けられていない。

システム・アクション

この機能は終了する。

システム・プログラマーの応答

そのページ・セットにストレージ・クラスを定義し、必要があれば、ジョブの再実行を要求する。

CSQU117I

ページ・セット *psid* のキューが見つかりません。

説明

指定されたページ・セットに、要求された機能の実行対象となるキューが関連付けられていない。例えば、COPY 機能および EMPTY 機能の場合にはローカル・キューがない。SCOPY 機能の場合にはメッセージの入っているローカル・キューがない。

システム・アクション

この機能は終了する。

システム・プログラマーの応答

必要な場合には、指定されたページ・セットを訂正して、ジョブを再実行する。

CSQU120I

conn-id に接続中です。

説明

ユーティリティー・プログラムは、指定されたキュー・マネージャーまたはキュー共有グループに接続中である。

CSQU121I

キュー・マネージャー *qmgr-name* に接続されました。

説明

ユーティリティー・プログラムは、キュー・マネージャー *qmgr-name* に正常に接続された。

CSQU122I

function-name を実行中です。

説明

ユーティリティー・プログラムは、機能 *function-name* を実行しているところである。

CSQU123I

ddname データ・セットを処理中。モード FORCE

説明

現行の機能が、FORCE オプションを使用してデータ・セット *ddname* を処理している。

CSQU124I

データ・セット *ddname* を処理中です。

説明

ユーティリティー・プログラムの現行の機能が、データ・セット *ddname* を処理している。

CSQU125I

n ページ・セットが試行されました。

説明

これは、現行の機能が処理しようとしたページ・セットの数を示す。

CSQU126I

n ページ・セットが正常に処理されました。

説明

これは、現行の機能によって正常に処理されたページ・セットの数を示す。

CSQU127I

ddname データ・セットからの入力を使用して *function* を実行中です。

説明

ユーティリティー・プログラムは、*ddname* からの入力を使用して機能 *function* を実行しているところである。

CSQU128I

ddname データ・セットに出力する *function* を実行中です。

説明

ユーティリティー・プログラムは、機能 *function* を実行し、出力を *ddname* に書き出しているところである。

CSQU129I

ページ・セット *psid* をコピー中です。

説明

ユーティリティー・プログラムは、ページ・セット *psid* をコピーしているところである。

CSQU130I

キュー *q-name* をコピー中です。

説明

ユーティリティー・プログラムは、キュー *q-name* をコピーしているところである。

CSQU131I

n メッセージが正しくコピーされました。

説明

これは、キューをコピーするときに正常にコピーされたメッセージの数を示す。

CSQU133I

n キューが試行されました。

説明

これは、ページ・セットをコピーするときにプログラムがコピーしようとしたキューの数を示す。

CSQU134I

n キューが正常にコピーされました。

説明

これは、ページ・セットをコピーするときに正常にコピーされたキューの数を示す。

CSQU135I

キュー *sourceq* を *targetq* にロード中です。

重大度

0

説明

LOAD 関数または SLOAD 関数の実行時に、ロードされているターゲット・キューの名前と、メッセージのコピー元の入力データ・セット上のキューの名前を示している。

CSQU136I

msg-count メッセージ (*msg-from-msg-to*) がロードされました (合計サイズ *text-length*)。

重大度

0

説明

LOAD 関数または SLOAD 関数を実行している場合、このエラー・コードは、多くのメッセージが入力データ・セットからターゲット・キューに正常にロードされたことを示している。

- *msg-count* は、ロードされたメッセージの数である。
- *msg-from-msg-to* は、入力データ・セット上のキューのメッセージにおけるメッセージ番号範囲である。
- *text-length* は、ロードされたメッセージ・テキストの合計長 (MB 単位または KB 単位) である。

CSQU137I

キュー *q-name* をスキップ中です。

説明

このメッセージは、LOAD 機能に指定された SKIPQS または FROMQ オプションのためにキュー *q-name* がバイパスされていることを示す。

CSQU138I

n キューが正常にロードされました。

説明

これは、正常にロードされたキューの数を示す。

CSQU139I

ページ・セット *psid* を空にしています。

説明

ユーティリティー・プログラムは、ページ・セット *psid* を空にしているところである。

CSQU140I

キュー *q-name* を空にしています。

説明

ユーティリティー・プログラムは、キュー *q-name* を空にしているところである。

CSQU141I

n メッセージが正常に削除されました。

説明

これは、キューを空にするときに削除されたメッセージの数を示す。

CSQU142I

n キューが正常に空にされました。

説明

これは、空にされたキューの数を示す。

CSQU143I

n function ステートメントが試行されました。

説明

これは、ユーティリティー・プログラムにより試行された *function* ステートメントの数を示す。

CSQU144I

n function ステートメントが正常に実行されました。

説明

これは、ユーティリティー・プログラムにより正常に実行された *function* ステートメントの数を示す。

CSQU145I

function ステートメントが失敗しました。

説明

ユーティリティー・プログラムが、機能 *function* を実行中にエラーを検出した。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

ほかのメッセージを調べ、エラーが発生した場所と原因を判別する。

CSQU146I

msg-count 個のメッセージ (*msg-from-msg-to*) がスキップされました (合計サイズ *text-length*)。理由 =*reason-code*。

重大度

0

説明

LOAD 関数または SLOAD 関数を実行している場合に、入力データ・セットからの多くのメッセージが無視されたことを示している。

- *msg-count* は、無視されたメッセージの数である。
- *msg-from-msg-to* は、入力データ・セット上のキューのメッセージにおけるメッセージ番号範囲である。
- *text-length* は、無視されたメッセージ・テキストの合計長 (MB 単位または KB 単位) である。

理由コードは、メッセージが無視された理由を示している。

4

メッセージは、LOAD コマンドまたは SLOAD コマンドの *skipmsgs* パラメーターによりスキップされた。

8

メッセージは、MQPUT エラーによりスキップされた。

12

メッセージは MQOPEN でのエラーによりスキップされた。

16

メッセージは、同期点のすぐ後の MQPUT エラーによりスキップされた。

20

メッセージは、MQCLOSE でのエラーによりスキップされた。

24

メッセージは、同期点を取る際にエラーによりスキップされた。

28

メッセージは、(LOAD コマンドまたは SLOAD コマンドの) *MSGCOUNT* 制限に達したためにスキップされた。

CSQU147I

csect-name ユーティリティが終了しました。戻りコード = *ret-code*

説明

それ以上の機能を実行してはならないことを意味する重大エラーまたは強制同期点が発生したことにより、ユーティリティが終了した。*ret-code* は、ユーティリティからの戻りコードである。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

915 ページの『[IBM MQ for z/OS codes](#)』を参照し、ユーティリティからの戻りコードについて確認する。

CSQU148I

csect-name ユーティリティが完了しました。戻りコード = *ret-code*

説明

ユーティリティは完了し、必要な機能はすべて試行された。*ret-code* は、ユーティリティからの戻りコードである。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

失敗した機能がないかを調べる。

CSQU150I

データ・セット *ddname1* からデータ・セット *ddname2* への *function* が完了しました。

説明

データ・セット *ddname1* の処理が完了し、*ddname2* に出力された。

システム・アクション

次のページ・セットを用いて処理が続けられる。

CSQU151I

一致する CSQSnnnn および CSQTnnnn DD ステートメントがない。 *function* は終了しました。

説明

COPYPAGE または RESETPAGE 機能が失敗に終わった。 CSQS0000 から CSQS0099 までの名前と CSQT0000 から CSQT0099 までの名前をもつ、一致するペアのページ・セット・データ・セットがなかったためである。

システム・アクション

この機能は終了する。

システム・プログラマーの応答

必要なページ・セット・データ・セットに対する DD ステートメントを追加し、ジョブの再実行を要求する。

CSQU152I

ddname1 DD ステートメントがありません。 *ddname2* データ・セットについてアクションはとられません。

説明

ページ・セット・データ・セットのソース/ターゲットの対 (CSQSnnnn および CSQTnnnn) の一方だけしか指定されなかった。

システム・アクション

機能は処理を続ける。

システム・プログラマーの応答

必要なページ・セット・データ・セットに対する DD ステートメントを追加し、ジョブの再実行を要求する。

CSQU154E

ターゲット・データ・セット *ddname* がソース・データ・セットよりも小さいです。機能は終了しました。

説明

COPYPAGE または RESETPAGE 機能がページ・セット・データ・セットを処理できなかった。ターゲット・データ・セット *ddname* が小さすぎたためである。

システム・アクション

次のページ・セットを用いて処理が続けられる。

CSQU155I

キュー *queue-name* を処理中です。

重大度

0

説明

ANALYZE 関数を実行している場合は、入力データ・セットからのキュー *queue-name* の処理の開始を示している。

CSQU156E

データ・セット *ddname* で GET が失敗しました。VSAM 戻りコード=*rc* 理由コード=*code*

説明

ユーティリティー・プログラムが、処理しようとしていたページ・セット (*ddname*) に関する VSAM GET エラーを受け取った。

システム・アクション

このページ・セットの処理は終了し、機能は次のページ・セットを用いて処理を続ける。

システム・プログラマーの応答

VSAM からの戻りコードと理由コードについては、「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照。必要に応じて、ジョブの再実行を要求する。

CSQU157I

データ・セット *ddname1* を *ddname2* へ処理中です。

説明

現行の機能は、*ddname2* に出力しながら、データ・セット *ddname1* を処理しているところである。

CSQU158E

宛先データ・セット *ddname2* は新規にフォーマットされていません。

説明

COPYPAGE および RESETPAGE 機能は、新規にフォーマットされたターゲット・ページ・セット以外では使用できない。

システム・アクション

次のページ・セットを用いて処理が続けられる。

システム・プログラマーの応答

有効なターゲット・ページ・セットを指定し、ジョブの再実行を要求する。

CSQU159E

ソース・データ・セット *ddname1* はページ・セットではありません。

説明

CSQUTIL の COPYPAGE 機能または RESETPAGE 機能は、データ・セットを IBM MQ ページ・セットとして認識することができなかった。この原因として、データ・セットが無効であるか、バックレベル・バージョンの IBM MQ ライブラリーが使用されている可能性がある。

システム・アクション

次のページ・セットを用いて処理が続けられる。

システム・プログラマーの応答

データ・セットが有効な IBM MQ ページ・セットであることを確認する。

使用されている IBM MQ ライブラリーが、キュー・マネージャーで使用されているライブラリーと同じであることを確認する。

CSQU160E

データ・セット *ddname* は機能と一緒に使用できません。

説明

この機能は、正常に終了したキュー・マネージャーのページ・セットでしか使用できない。

システム・アクション

次のページ・セットを用いて処理が続けられる。

システム・プログラマーの応答

有効なページ・セットを指定して、ジョブの再実行を要求する。

CSQU161I

ddname には *pp* ページあり、ページ・セット *nn* としてフォーマットされました。

説明

これは、データ・セット *ddname* の PAGEINFO 機能に対する応答の一部である。

ページ・セットのサイズと、フォーマットされたときに予想されたページ・セット番号を示している。この番号は、フォーマット時に使用された DD 名からのものである (つまり CSQP00*nn*)。

CSQU162I

ddname は、キュー・マネージャー *qmgr-name* 用のページ・セット *psid* として使用されています。

説明

これは、データ・セット *ddname* の PAGEINFO 機能に対する応答の一部である。

このページ・セットは、示されているキュー・マネージャーによって使用されている。メッセージ CSQU161I に示されているように、ページ・セット番号は、必ずしもフォーマットされたときの番号と同じであるわけではない。

CSQU163I

ddname にはページ・セット回復 RBA = *rba* があります。

説明

これは、データ・セット *ddname* の PAGEINFO 機能に対する応答の一部である。

CSQU164I

ddname すべてのページ・セットでシステム回復 RBA = *rba* が正常に処理されました。

説明

これは、PAGEINFO 機能に対する応答の一部である。この RBA は、これらの処理されるページ・セットにのみ関連付けられる。キュー・マネージャーのすべてのページ・セットが含まれるのでない限り、キュー・マネージャー全体に関連付けられることはない。

CSQU165I

ddname データ・セットを処理しています。TYPE(*type*)

説明

ユーティリティー・プログラムの現行の機能が、示されたオプションを使用してデータ・セット *ddname* を処理している。

CSQU166I

ddname データ・セットを処理しています。TYPE(*type*) モード FORCE

説明

ユーティリティー・プログラムの現行の機能が、示されたオプションを使用してデータ・セット *ddname* を処理している。

CSQU167I

ddname はキュー・マネージャーによって初期化されていません。

説明

これは、データ・セット *ddname* の PAGEINFO 機能に対する応答の一部である。

CSQU168E

要求されたページ・セットは、複数のキュー・マネージャー用です。

説明

情報を要求したページ・セットが複数のキュー・マネージャーに関連付けられている。そのため、システム回復 RBA を判別することができない。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

1つのキュー・マネージャーにページ・セットのセットを指定し、ジョブを再サブミットする。

CSQU169E

メッセージ *msg-no* の MQPUT に失敗しました。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

LOAD 関数または SLOAD 関数の実行時に、入力データで現在処理中のキューにあるメッセージ番号 *msg-no* の MQPUT に失敗した。*mqcc* および *mqrc* が、この失敗の理由を示しています (*mqrc-text* は MQRC をテキスト形式で提供)。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

メッセージ内の MQ 完了コードおよび理由コードを使用して、エラーの原因を判別し、問題を修正する。LOAD または SLOAD を再実行し、エラー発生時点で処理中だったキューから再開する。失敗する前に入力キューから正常にロードされたメッセージがある場合は、LOAD コマンドまたは SLOAD コマンドで SKIPMSGS パラメーターを使用して、そのメッセージをバイパスする。

CSQU170I

msg-count 個のメッセージ (*msg-from-msg-to*) が見つかりました (合計サイズ *text-length*)

重大度

0

説明

ANALYZE 関数の実行時に、入力データ・セットからの処理中のキューに対して、このメッセージが表示される。メッセージ数およびメッセージ・テキストの合計長が表示される。

CSQU171E

入力データ・セットにキュー *queue-name* は見つかりませんでした

重大度

8

説明

実行中の LOAD 関数または SLOAD 関数で、*queue-name* の送信元キュー名が指定されたが、それは入力データ・セットで見つからなかった。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

正しい入力ファイルを指定し、コマンド内のキュー名を修正して再試行する。

CSQU172I

データ・セット *ddname* に対して *function-name* を処理しています。total-pages ページのうち *current-page* が処理されました。percentage% が完了しました。

説明

ページ・セットを処理するための CSQUTIL 関数が長時間にわたって実行されている場合は、このメッセージが定期的に出され、これまでに処理されたページ数を示します。

CSQU179E

チャンネル・イニシエーターがアクティブではないために、伝送キューを切り替えることができません

重大度

8

説明

ユーティリティー・プログラムは、先行するメッセージ CSQU183I で示されるチャンネルにおいて、チャンネル・イニシエーターがアクティブではないため、伝送キューの切り替えを開始できませんでした。

システム・アクション

処理を続けますが、影響を受けるチャンネルの伝送キューは切り替えられません。

システム・プログラマーの応答

チャンネル・イニシエーターを開始してから、チャンネルを再始動するか、伝送キューの切り替えを開始するコマンドを再実行します。

CSQU182E

チャンネルのリストを取得中にエラーが発生しました。理由 *mqrc (mqrc-text)*

重大度

8

説明

ユーティリティー・プログラムが、処理対象となるチャンネルのリストを識別できませんでした。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

理由コードを使用してエラーを特定して解決し、必要に応じてコマンドを再実行してください。

mqrc の詳細については、1123 ページの『API 完了コードと理由コード』を参照してください (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す)。

CSQU183I

チャンネル *channel-name*

重大度

0

説明

ユーティリティー・プログラムは、*channel-name* という名前のチャンネルの要求された機能を処理しています。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

後続メッセージを調べて、要求された機能が正常に処理されたかどうかを判別する。

CSQU184I

n 個のチャンネルが処理されました

重大度

0

説明

このメッセージは、要求された機能によって処理されたチャンネルの数を示している。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

処置は不要。

CSQU185I

このチャンネルでは、伝送キューの切り替えは必要ありません

重大度

0

説明

このメッセージは、先行するメッセージ CSQU183I で示されるチャンネルについて、伝送キューの切り替えが必要ないことを示します。これは、現在構成されている伝送キューをチャンネルが使用することを示しています。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

処置は不要。

CSQU186I

このチャンネルの伝送キューの切り替えは保留中です

重大度

0

説明

このメッセージは、先行するメッセージ CSQU183I で示されるチャンネルについて、伝送キューの切り替えが保留中であることを示します。これは、チャンネルが最後に開始された後に、**DEFCLXQ** キュー・マネージャー属性が更新されたか、伝送キューの **CLCHNAME** 属性の値が変更されたために、チャンネル用に構成された伝送キューが変更されたことを示します。

伝送キューの切り替えは、チャンネルが開始される次の機会か、CSQUTIL 関数 **SWITCH CHANNEL** を使用して切り替えが開始される場合に行われます。

切り替え操作が以前に開始されていたものの、メッセージが古い伝送キューから新しい伝送キューに移動されている間にキュー・マネージャーが停止した場合にも、その操作は保留中として報告されます。切り替え操作を再開するには、チャンネルを開始するか、CSQUTIL を使用して切り替えを開始します。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

処置は不要。

CSQU187I

このチャンネルの伝送キューの切り替えが進行中です

重大度

0

説明

このメッセージは、先行するメッセージ CSQU183I で示されるチャンネルについて、伝送キューの切り替えが進行中であることを示します。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーによって出されるコンソール・メッセージを使用して、必要に応じて切り替え操作の状況を判別してください。

CSQU188I

伝送キュー *xmit-qname* から

重大度

0

説明

このメッセージは、CSQU186I、CSQU187I、および CSQU195I などの他のメッセージとともに出される。チャンネルが切り替え中または切り替える元の伝送キューの名前を識別している。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

処置は不要。

CSQU189I

伝送キュー *xmit-qname* へ

重大度

0

説明

このメッセージは、CSQU186I、CSQU187I、および CSQU195I などの他のメッセージとともに出される。チャンネルが切り替え中または切り替える先の伝送キューの名前を識別している。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

処置は不要。

CSQU190I

xmitq-name のこのチャンネルについて、*num-msgs* 個のメッセージがキューに入れられています

重大度

0

説明

このメッセージは CSQU186I とともに出され、伝送キュー *xmitq-name* のチャンネルにおいて、現在 *num-msgs* 個のメッセージがキューに入れられており、伝送キューが切り替えられたときに移動する必要があることを示します。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

処置は不要。

CSQU191E

伝送キュー *xmitq-name* にアクセスできません。理由 *mqrq* (*mqrq-text*)

重大度

8

説明

このメッセージは、現在チャンネルによって使用されている伝送キュー *xmitq-name* に、理由 *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式の MQRC) のためにアクセスできない場合に、CSQU186I とともに出されます。この伝送キューは、チャンネルのメッセージを新しい伝送キューに移動するためにアクセス可能でなければなりません。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

理由コードを使用してエラーを特定して解決し、必要に応じてコマンドを再実行してください。

mqrc の詳細については、1123 ページの『API 完了コードと理由コード』を参照してください (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す)。

または、CSQUTIL 関数 **SWITCH CHANNEL** に **MOVEMSGS(NO)** オプションを指定して実行し、メッセージを移動せずに伝送キューを切り替えます。このオプションが選択された場合、切り替えが完了した後、伝送キュー *xmitq-name* のチャンネルのすべてのメッセージを解決するのは、システム・プログラマーの責任になります。

CSQU192E

このチャンネルの状況は利用不可です。理由 *mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

ユーティリティー・プログラムは、先行するメッセージ CSQU183I で示されるチャンネルの現在の状況を識別して伝送キューの切り替えが保留中と進行中のどちらであるかを判別することができませんでした。

システム・アクション

処理を続けますが、切り替えが要求されていた場合、影響を受けるチャンネルの伝送キューは切り替えられません。

システム・プログラマーの応答

理由コードを使用してエラーを特定して解決し、必要に応じてコマンドを再実行してください。

mqrc の詳細については、1123 ページの『API 完了コードと理由コード』を参照してください (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す)。

CSQU193E

チャンネルがアクティブであるために、伝送キューを切り替えることができません

重大度

8

説明

ユーティリティー・プログラムは、先行するメッセージ CSQU183I で示されるチャンネルにおいて、チャンネル状況が **STOPPED** でも **INACTIVE** でもないために、伝送キューの切り替えを開始できませんでした。

クラスター送信側チャンネルが **STOPPED** 状況を示しているにもかかわらずメッセージ CSQU193E が引き続き報告される場合は、チャンネルが直ちに停止できません。STOP CHANNEL *channel-name* を要求している間にメッセージの再割り振りが発生しています。

チャンネルはメッセージの再割り振りを続行し、このプロセスが完了するとチャンネルが停止します。このチャンネルに割り当てられたキュー上のメッセージが多い場合は、このプロセスに時間がかかることがあります。

メッセージ再割り振りが完了するまで十分な時間をかけて待った後、伝送キューを切り替えてください。

システム・アクション

処理を続けますが、影響を受けるチャンネルの伝送キューは切り替えられません。

システム・プログラマーの応答

まずチャンネルを停止し、チャンネルを再始動するか、伝送キューの切り替えを開始するコマンドを再実行します。

CSQU194E

伝送キューの切り替えが失敗しました。理由 *mqrc (mqrc-text)*

重大度

8

説明

ユーティリティー・プログラムは、先行するメッセージ CSQU183I で示されるチャンネルにおいて、伝送キューを切り替えることができませんでした。

システム・アクション

処理を続けますが、影響を受けるチャンネルの伝送キューは切り替えられません。

システム・プログラマーの応答

理由コードを使用してエラーを特定して解決し、必要に応じてコマンドを再実行してください。

mqrc の詳細については、[1123 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す)。

CSQU195I

このチャンネルの伝送キューを切り替えています

重大度

0

説明

伝送キューの切り替えが、前の CSQU183I メッセージで識別されたチャンネルに対して開始された。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

後続メッセージを使用して、伝送キューの切り替えが正常に完了したかどうかを判別する。

CSQU196I

このチャンネルのメッセージを移動中 - *num-msgs* 個のメッセージを移動しました

重大度

0

説明

伝送キューの切り替えでは、1つのチャンネルのメッセージを古い伝送キューから新しい伝送キューに移動する必要があります。このメッセージは、伝送キューの切り替え操作中に、先行するメッセージ CSQU183I で示されるチャンネルについて、この操作の進行状況について報告するために定期的に出されます。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

このメッセージが繰り返し出される場合、古い伝送キューがこのチャンネルのメッセージを移動し切ることができず、切り替え処理が完了できないことを意味する場合があります。アプリケーションは、切り替え処理の間、順番を保持するために、メッセージを引き続き古い伝送キューに書き込みます。

切り替え処理を完了できない場合、それは、切り替え処理によるメッセージの移動よりも古い伝送キューにメッセージが入れられる速度の方が速いか、コミットされていないメッセージがそのチャンネルの古い伝送キューに残っている可能性があります。

キュー・マネージャーによって出されるコンソール・メッセージ (CSQM554I など)、およびコマンド (DISPLAY QSTATUS など) を使用して、切り替え操作を完了できない理由を判別します。

CSQU197I

メッセージの移動が完了しました - *num-msgs* 個のメッセージを移動しました

重大度

0

説明

伝送キューの切り替えでは、1つのチャンネルのメッセージを古い伝送キューから新しい伝送キューに移動する必要があります。このメッセージは、先行するメッセージ CSQU183I で示されるチャンネルにおいて、メッセージの移動処理が完了したことを意味します。新しい伝送キューに移動したメッセージの数は、*num-msgs* で示されます。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

処置は不要。

CSQU198I

伝送キューの切り替えが正常に行われました

重大度

0

説明

前の CSQU183I メッセージで識別されたチャンネルに対する伝送キューの切り替えが正常に完了した。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

処置は不要。

CSQU199E

Function にはコマンド・レベル *required-cmdlevel* が必要ですが、キュー・マネージャーのコマンド・レベルは *qmgr-cmdlevel* です

重大度

8

説明

function で示される要求された関数は、接続先のキュー・マネージャーによってサポートされないため、ユーティリティ・プログラムが実行できませんでした。要求された関数を実行するには、キュー・マネージャーのコマンド・レベルが *required-cmdlevel* 以上でなければなりません。キュー・マネージャーのコマンド・レベルは *qmgr-cmdlevel* です。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

ユーティリティー・プログラムが接続しているキュー・マネージャーが必要なレベルであるか確認してください。実際に問題があった場合、要求された関数を使用するには、その前にキュー・マネージャーをアップグレードする必要があります。

CSQU200I

csect-name 送達不能キュー・ハンドラー・ユーティリティー - *date time*

説明

これは、ユーティリティー・プログラムによって発行される報告書のヘッダーの一部である。

CSQU201I

キュー *q-name* の処理

説明

送達不能キュー・ハンドラーは、エラーを検出することもなくルール表の構文解析を終え、メッセージ中に示されたキューの処理を開始するところである。

CSQU202I

送達不能キュー・ハンドラーが終了しています。成功したアクション: *n1* 回再試行、*n2* 個転送、*n3* 個廃棄

説明

送達不能キューにこれ以上メッセージがないか、キュー・マネージャーがシャットダウン中であるか、または送達不能キュー・ハンドラーがエラーを検出したため、送達不能キュー・ハンドラーは終了中である。このメッセージは、正常に処理された送達不能キュー・メッセージの数を示す。

システム・アクション

ユーティリティーは終了する。

システム・プログラマーの応答

ユーティリティーがエラーのために終了した場合は、先行するメッセージで報告されている問題を調べる。

CSQU203I

n 個のメッセージが送達不能キューに残っています。

説明

このメッセージは、送達不能キュー・ハンドラーの終了時に、その送達不能キュー上に残っているメッセージの数を示す。

CSQU210I

メッセージには有効な MQDLH がありません。

説明

送達不能キュー・ハンドラーは送達不能キューからメッセージを検索したが、そのメッセージの接頭部には、有効な送達不能キュー・ヘッダー (MQDLH) が付いていなかった。これは、通常、アプリケーションが送達不能キューに直接メッセージの書き込みを行い、それらのメッセージの接頭部に、有効な MQDLH を付けていないことが原因である。

システム・アクション

このメッセージは送達不能キューに残され、送達不能キュー・ハンドラーは送達不能キューの処理を続行する。

このメッセージは、このようなメッセージが最初に検出されたときに一度だけ出される。

システム・プログラマーの応答

無効なメッセージを送信不能キューからすべて除去する。接頭部に有効な MQDLH が付いていないメッセージは、送達不能キューに書き込んではいない。

CSQU211I

メッセージを書き込めません。行 n MQRC= mqr c (mqr c-text)

説明

送達不能キュー・ハンドラーは、要求どおり、メッセージを他のキューにリダイレクトしようとしたが、MQPUT 呼び出しが失敗に終わった。

システム・アクション

メッセージの再試行カウントが増え、処理が継続する。

システム・プログラマーの応答

mqr c の詳細については、[1123 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください (mqr c-text はテキスト形式での MQRC を示す)。メッセージのためのアクションを判別するために使用されるルール表の行番号 n を用いて、メッセージが書き込まれていたキューを識別することができる。

CSQU212I

送達不能キューを照会できません。MQCC= mqq c MQRC= mqr c (mqr c-text)

説明

送達不能キューに対する MQINQ 呼び出しが失敗した。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

mqq c および mqr c (mqr c-text はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1123 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQU213I

メッセージを変換できません。MQCC= mqq c MQRC= mqr c (mqr c-text)

説明

MQGET 呼び出しでデータ変換の問題が発生した。

システム・アクション

メッセージはロールバックされ、キューにとどまる。キューの残りのメッセージの処理は続行される。代替手段でこのメッセージを送達不能キューから除去する。

システム・プログラマーの応答

mqq c および mqr c (mqr c-text はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1123 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQU220E

キュー・マネージャー $qmgr$ -name に接続できません。MQCC= mqq c MQRC= mqr c (mqr c-text)

説明

送達不能キュー・ハンドラーは、要求されているキュー・マネージャーに接続することができなかった。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

mqq c および mqr c (mqr c-text はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1123 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQU221E

キュー・マネージャーをオープンできません。MQCC= mqq c MQRC= mqr c (mqr c-text)

説明

キュー・マネージャーに対する MQOPEN 呼び出しが失敗した。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqr*c (*mqr*c-text はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1123 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQU222E

キュー・マネージャーを照会できません。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqr*c (*mqr*c-text)

説明

キュー・マネージャーに対する MQINQ 呼び出しが失敗した。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqr*c (*mqr*c-text はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1123 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQU223E

キュー・マネージャーをクローズできません。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqr*c (*mqr*c-text)

説明

キュー・マネージャーに対する MQCLOSE 呼び出しが失敗した。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqr*c (*mqr*c-text はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1123 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQU224E

送達不能キュー *q-name* を表示できません。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqr*c (*mqr*c-text)

説明

送達不能キューをブラウズするための MQOPEN 呼び出しが失敗した。これは、一般的には以下のいずれかの理由で発生する。

- 別のプロセスが、排他的アクセス用にキューをオープンした。
- 無効なキュー名が指定された。
- 以下のいずれかのモジュールの別名が失われた。
 - CSQBSRV
 - CSQAPEPL
 - CSQBCRMH
 - CSQBAPPL

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqr*c (*mqr*c-text はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1123 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQU225E

送達不能キューをクローズできません。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

説明

送達不能キューに対する MQCLOSE 呼び出しが失敗した。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1123 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQU226E

Line *n*: keyword(*value*) invalid or outside permitted range

説明

ルール表の行 *n* の指定されたキーワードに与えられている値が、有効な値の範囲外、つまり無効であった。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ルール表を訂正し、送達不能キュー・ハンドラーを再始動する。

CSQU227E

送達不能キューからメッセージを受信できません。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

説明

送達不能キューに対する MQGET 呼び出しが失敗した。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1123 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQU228E

送達不能キュー・アクションをバックアウトまたはコミットできません。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

説明

送達不能キューに対する MQCMIT または MQBACK 呼び出しが失敗した。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1123 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQU229E

ルール表が無効、またはありません。

説明

ルール表に有効なメッセージ・テンプレートが含まれていなかった。または、ルール表が全くなかった。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

先行するメッセージに示されたルール表を訂正し、送達不能キュー・ハンドラーを再始動する。

CSQU230E

記憶域を取得できません。

説明

送達不能キュー・ハンドラーがストレージを取得できなかった。

多くの場合、これは、より広範な問題の結果として生じる問題である。例えば、メッセージを送達不能キューに書き込ませる原因となる持続的な問題があり、その同じ問題 (例えば、キューが満杯であるなどの) によって、送達不能キュー・ハンドラーがメッセージで要求されたアクションを取ることが妨げられる場合は、必要なストレージ量が増え続ける。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ユーティリティで使用可能なストレージを増量する。より広範な問題が存在していないかどうか、また、送達不能キューに多数のメッセージが含まれていないかどうかを調べる。

CSQU231E

行 n : パラメーター *keyword* は最大長を超えています。

説明

ルール表の行 n にある指定されたパラメーターの値が長すぎる。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ルール表を訂正し、送達不能キュー・ハンドラーを再始動する。

CSQU232E

行 n : パラメーター *keyword* は重複しています。

説明

ルール表の行 n に、同じタイプの複数のパラメーターがある。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ルール表を訂正し、送達不能キュー・ハンドラーを再始動する。

CSQU233E

行 n : 構文エラー

説明

ルール表の行 n に、構文エラーがある。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ルール表を訂正し、送達不能キュー・ハンドラーを再始動する。

CSQU234E

記憶域を解放できません。

説明

送達不能キュー・ハンドラーはストレージを解放することができなかった。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

これに先行するメッセージで報告された問題について調査する。

CSQU235E

行 *n*: *keyword* の値が無効または許可された範囲外です。

説明

ルール表の行 *n* にある指定されたパラメーターに与えられている値が、有効な値の範囲外、つまり無効であった。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ルール表を訂正し、送達不能キュー・ハンドラーを再始動する。

CSQU236E

ルール表内に *n* 個のエラーがあります。

説明

ルール表でエラーが検出された。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

先行するメッセージに示されたルール表を訂正し、送達不能キュー・ハンドラーを再始動する。

CSQU237E

行 *n*: 無効なキーワードの組み合わせです。

説明

ルール表の行 *n* に無効なパラメーターの組み合わせがある。これには、例えば、ACTION が指定されていない場合や、ACTION(FWD) が指定されているが FWDQ が指定されていない場合、および、HEADER が指定されているが ACTION(FWD) が指定されていない場合などがある。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ルール表を訂正し、送達不能キュー・ハンドラーを再始動する。

CSQU249E

キュー・マネージャーから切断できません。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

説明

キュー・マネージャーに対する MQDISC 呼び出しが失敗した。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrq* (*mqrq-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1123 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQU300I

正しくないパラメーターが指定されました。使用方法を次に示します。(Usage information follows:)

CSQUDSPM (-m QMgrName) (-o status | -s) (-o all) (-su) (-a)

-m QMgrName: このキュー・マネージャーの情報のみを表示 (-m QMgrName: Display information for this queue manager only)

-o status : キュー・マネージャーの操作状況を表示 (-o status : Display operational status of the queue manager, or queue managers)

-s : キュー・マネージャーの操作状況を表示 (-s : Display operational status of the queue manager, or queue managers)

-o all : キュー・マネージャーのすべての詳細を表示 (-o all : Display all details of the queue manager, or queue managers)

-su : バージョンが不明なキュー・マネージャーの情報を表示しない (-su : Do not show information for queue managers that have an unknown version)

-a : 実行中のキュー・マネージャーの情報のみを表示 (-a : Display information for running queue managers only)

説明

CSUDSPM に正しくないパラメーターが渡された。

システム・アクション

ユーティリティは処理を停止する。

システム・プログラマーの応答

パラメーターを訂正し、ユーティリティを再実行依頼する。

CSQU307I

指定された名前のキュー・マネージャーは存在しません (No queue manager with the specified name exists)

説明

CSQUDSPM ユーティリティが実行されたが、指定されたキュー・マネージャー名が見つからなかった。

システム・アクション

ユーティリティは処理を停止する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャー名を訂正するか、特定のキュー・マネージャーを指定せずにユーティリティを実行する。

CSQU500I

csect-name キュー共有グループ・ユーティリティ - *date time*

説明

これは、ユーティリティ・プログラムによって発行される報告書のヘッダーの一部である。

CSQU501I

function が要求されました。

説明

これは、要求されているユーティリティ機能を示す。

CSQU502I

キュー・マネージャー = *qmgr-name*

説明

これは、機能が要求されているキュー・マネージャーの名前を示す。

CSQU503I

QSG=*qsg-name*、Db2 DSG=*dsg-name*、Db2 ssid=*db2-name*

説明

これは、機能が要求されているキュー共有グループ、Db2 データ共有グループ、および Db2 サブシステムの名前を示す。

CSQU504E

Unable to LOAD *module-name*, reason=*ssssrrrr*

説明

ユーティリティーは要求されているモジュールをロードできなかった。ssss は完了コード、rrrr は z/OS LOAD サービスからの理由コードである (いずれも 16 進表示)。

システム・アクション

ユーティリティーは終了する。

システム・プログラマーの応答

コンソールから、モジュールがロードされなかった理由を示すメッセージがないかを調べる。LOAD 要求からのコードについては、「z/OS MVS プログラミング: アセンブラー・サービス解説書」第 2 巻を参照してください。

モジュールが必要なライブラリーにあるかどうか、さらにそのモジュールが正しく参照されているかどうかを確認する。ユーティリティーは、STEPLIB DD ステートメントのもとで、ライブラリー・データ・セットから、このモジュールのロードを試みる。

CSQU505E

EXEC PARM パラメーターがありません。

説明

ユーティリティーのパラメーターが EXEC PARM フィールドに指定されていなかった。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

必須パラメーターを指定し、ジョブを再実行する。

CSQU506E

EXEC PARM 機能パラメーターが無効です。

説明

EXEC PARM フィールドの最初のパラメーターで、ユーティリティーに要求されている機能が無効であった。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

パラメーターを訂正し、ジョブを再実行する。

CSQU507E

関数に対する EXEC PARM パラメーターの数が間違っています。

説明

EXEC PARM フィールドに指定されているユーティリティのパラメーターの数が、要求されている関数に対して正しくなかった。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

パラメーターを訂正し、ジョブを再実行する。

CSQU508E

EXEC PARM パラメーター *n* が無効です。

説明

EXEC PARM フィールドで指定されているユーティリティの *n* 番目のパラメーターが、要求されている機能に対して無効であったか、この機能にはこのパラメーターが必要であるのに、省略されていた。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

パラメーターを訂正し、ジョブを再実行する。

CSQU509E

EXEC PARM パラメーターが多過ぎます。

説明

EXEC PARM フィールドに指定されているユーティリティのパラメーターの数が、要求されている機能に対して多すぎた。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

パラメーターを訂正し、ジョブを再実行する。

CSQU510I

SQL エラー情報

説明

SQL エラーが発生した。続いて診断情報がメッセージ [CSQU511I](#) に示される。

システム・アクション

前のユーティリティのエラー・メッセージを参照する。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQU511I の情報を確認して、SQL エラーの理由を特定する。

CSQU511I

DSNT408I SQLCODE = -sql-code、説明

説明

このメッセージは、Db2 から直接送られた追加の診断情報を示している。以下のサンプル・ブロックのような追加の CSQU511I メッセージが続く。

```
CSQU511I  DSNT408I SQLCODE = -805, ERROR:  DBRM OR PACKAGE NAME DSNV11P1..CSQ5B9-
CSQU511I          00.1A47B13F08B31B99 NOT FOUND IN PLAN CSQ5B900. REASON 03
CSQU511I  DSNT418I SQLSTATE   = 51002 SQLSTATE RETURN CODE
CSQU511I  DSNT415I SQLERRP    = DSNXEPM SQL PROCEDURE DETECTING ERROR
CSQU511I  DSNT416I SQLERRD    = -251 0 0 -1 0 0 SQL DIAGNOSTIC INFORMATION
CSQU511I  DSNT416I SQLERRD    = X'FFFFFF05' X'00000000' X'00000000'
```

CSQU511I
CSQU511I

X'FFFFFFFF' X'00000000' X'00000000' SQL DIAGNOSTIC
INFORMATION

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

診断情報を使用して、SQL エラーの理由を特定し、問題を訂正する。

CSQU512E

ユーティリティが終了しました。Db2 表は使用中です。

説明

キュー共有グループ・ユーティリティが使用する Db2 表が他のジョブによって予約されているため、キュー共有グループ・ユーティリティを実行することができない。可能性が高い理由としては、ユーティリティの他のインスタンスが実行中であるか、キュー共有グループのキュー・マネージャーが始動中であることがある。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

ジョブを再実行する。

CSQU513E

ユーティリティが終了しました。APF に許可されていません。

説明

キュー共有グループ・ユーティリティが APF に許可されていない。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

STEPLIB DD ステートメントのもとにあるライブラリー・データ・セットを APF 許可のルールに準拠させ、ジョブを再実行する。

CSQU514E

RRSAF 機能 *call-name* が失敗しました。RC=*rc*

説明

call-name で示されている RRS 機能が、*rc* で示されている予期しない理由コードを戻した。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

RRSAF 理由コードの説明については、「[Db2for z/OS](#)」を参照してください。

必要に応じて訂正し、ジョブの再実行を要求する。

CSQU515E

Db2 表にアクセスできません。RC=*rc* 理由=*reason*

説明

CSQ5AR02 モジュールへの呼び出しが、*rc* で示された戻りコードおよび *reason* で示された理由コードで失敗した。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

ジョブを再実行依頼してください。問題が解決しない場合は、メッセージ内のエラー・コードを書き留め、IBM サポートに連絡する。

CSQU517I

XCF グループ *xcf-name* はすでに定義されています。

説明

xcf-name で示された XCF グループがすでに存在していることを示す通知メッセージ。

CSQU518E

XCF IXCQUERY メンバー・エラー。RC=*rc* 理由=*reason*

説明

rc で示された予期しない戻りコードと *reason* で示された理由コードが、IXCQUERY 呼び出しから戻された。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

IXCQUERY の戻りコードと理由コードの説明については、「z/OS MVS シスプレックス・サービス解説書」を参照。

必要に応じて訂正し、ジョブの再実行を要求する。

CSQU520I

XCF グループ *xcf-name* の要約情報。

説明

xcf-name で示された XCF の要約データが続くことを示す通知メッセージ。

CSQU521I

グループには *n* メンバーが含まれています。

説明

メッセージ CSQU517I で指定されているグループには、*n* 個のメンバーが含まれていることを示す通知メッセージ。

CSQU522I

Member=*xcf-name*, state=*sss*, system=*sys-name*

説明

xcf-name によって指定された XCF グループ・メンバーは、状態が *sss* であり、システム *sys-name* で最後に実行されたことを示す通知メッセージ。

CSQU523I

ユーザー・データ = *xxx*

説明

通知メッセージ CSQU522I に付随する、32 バイトの XCF ユーザー・データが含まれた通知メッセージ。

CSQU524I

QMGR 番号=*nn*

説明

通知メッセージ CSQU522I に付随する、キュー共有グループ内の QMGR の番号を含んでいる通知メッセージ。QMGR 番号は Db2 表、XCF グループ・メンバーおよび CF 構造体への接続の中に保管される。これは、CSQ5PQSG を使って QMGR がキュー共有グループに追加されるときに生成される。

CSQU525E

Db2 *db2-name* はデータ共有グループ *dsg-name* のメンバーではありません。

説明

Db2 ssid と EXEC PARM フィールドのデータ共有グループの名前が矛盾している。 *db2-name* によって指定された Db2 ssid は、 *dsg-name* によって指定された Db2 データ共有グループのメンバーではありません。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

表示されている Db2 ssid が、表示されている Db2 データ共有グループのメンバーであるようにする。コマンド DISPLAY XCF, GROUP を発行して、グループ・メンバー名を見つけます。

CSQU526I

Db2 *db2-name* に接続しました。

説明

ユーティリティ・プログラムは、Db2 サブシステム *db2-name* に正常に接続された。

CSQU527E

適格な Db2 が現在活動状態ではありません。

説明

EXEC PARM フィールドに Db2 ssid が指定されている場合、これは、ユーティリティ・ジョブが実行された z/OS システムで Db2 サブシステムが現在アクティブでないことを示します。

Db2 データ共有グループ名が EXEC PARM フィールドに指定されていた場合は、ユーティリティ・ジョブが実行された z/OS システムで、適格な Db2 サブシステムがアクティブになっていませんでした。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

Db2 ssid が EXEC PARM フィールドで指定されている場合は、これが、ユーティリティ・ジョブが実行される z/OS システム上で活動状態となるようにする。

EXEC PARM フィールドに Db2 データ共有グループ名が指定されている場合は、ユーティリティ・ジョブが実行される z/OS システムで、少なくとも 1 つの適格な Db2 サブシステムがアクティブであることを確認してください。

CSQU528I

Db2 *db2-name* から切断されました。

説明

ユーティリティ・プログラムは、Db2 サブシステム *db2-name* から正常に切断された。

CSQU529E

QSG *qsg-name* 入力が除去されませんでした。 *n* 個のメンバーがまだ定義されています。

説明

qsg-name のキュー共有グループ名を除去する要求は、*n* 個のメンバーがまだこのキュー共有グループに定義されていたために失敗した。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー共有グループ自体を削除する前に、そのキュー共有グループのメンバーをすべて除去する必要がある。前に出力された CSQU522I メッセージを使用して、まだキュー共有グループに定義されているキュー共有グループのメンバーを確認する。

注：状況が ACTIVE または FAILED であるメンバーをキュー共有グループから除去することはできない。

CSQU530E

QMGR *qmgr-name* 入力はキュー共有グループ *qsg-name* から除去されませんでした。状況は *sss* です。

説明

qmgr-name で指定されたキュー・マネージャーは、*sss* によって指定された不正な XCF メンバー状態であるため、*qsg-name* によって指定されたキュー共有グループから除去することができない。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー共有グループからキュー・マネージャーを除去するためには、XCF メンバー状況が CREATED または QUIESCED でなければならない。

XCF メンバー状況が ACTIVE である場合は、STOP QMGR コマンドを使用してキュー・マネージャーを停止し、ジョブの再実行を要求する。

XCF メンバー状況が FAILED である場合は、キュー・マネージャーを始動し、STOP QMGR コマンドを使用してこれを通常どおりに停止して、ジョブの再実行を要求する。

CSQU531E

QSG *qsg-name* 入力は除去されませんでした。Db2 表 *table-name* には見つかりません。

説明

キュー共有グループ *qsg-name* を除去する試みは、Db2 表 *table-name* に項目が見つからなかったために、失敗した。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー共有グループ *qsg-name* が、初めから表 *table-name* に定義されているようにする。

ユーティリティ・ジョブが、正しい Db2 データ共有グループに接続しているかどうかを検査する。必要に応じて、ジョブの再実行を要求する。

CSQU532E

QSG *qsg-name* 入力を除去できません。Db2 入力がまだ存在します。

説明

CSQ.ADMIN_B_QMGR 表にはまだキュー・マネージャーの項目が存在していたため、キュー共有グループ *qsg-name* を除去する試みには、Db2 制約の失敗が返された。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

CSQ.ADMIN_B_QMGR 表を調べて、キュー共有グループ *qsg-name* にまだ定義されているキュー・マネージャーを判別する。

CSQ5PQSG ユーティリティの REMOVE QMGR 機能を使用してその項目を除去し、ジョブの再実行を要求する。

CSQU533E

SQL error. Db2 table=*table-name*, code=*sqlcode*, state=*sss*, data=*sqlerrcd*

説明

予期しない SQL エラーが Db2 から戻された。 *table-name* で示された表での操作で、*sqlcode* で示された SQLCODE が戻された。 *sss* はその STATE を、*sqlerrcd* はその SQLERRCD 値を示す。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

SQL コードの説明については、「[Db2for z/OS](#)」を参照してください。

必要があれば、ジョブの再実行を要求する。

CSQU534E

SQL サービス・エラー、 Db2 *table=table-name* RC=*rc*

説明

table-name で示された表での操作中、先行する CSQU533E メッセージで報告された SQL エラーが発生し、戻りコード *rc* が内部サービス・ルーチンから戻された。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQU533E を参照。

CSQU535I

QSG *qsg-name* 入力は Db2 表 *table-name* から正常に除去されました。

説明

qsg-name によって指定されたキュー共有グループが正常に除去されたことを示す通知メッセージ。

CSQU536E

キュー共有グループ *qsg-name* 入力を追加できません。入力はすでに Db2 表 *table-name* に存在しません。

説明

キュー共有グループ *qsg-name* を追加する試みは、Db2 表 *table-name* にすでに項目が存在していたために、失敗した。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

CSQU537I

csect-name キュー共有グループ *qsg-name* 項目は Db2 表 *table-name* に正常に追加されました。

説明

キュー共有グループ *qsg-name* を Db2 表 *table-name* に追加する要求は、正常に完了した。

CSQU538E

QMGR *qmgr-name* のメンバー・レコードが XCF グループ *xcf-name* に見つかりました。

説明

qmgr-name で指定されたキュー・マネージャーのメンバー・レコードが、*xcf-name* によって指定された XCF グループ内にすでに存在していることを示す通知メッセージ。

CSQU539E

QMGR *qmgr-name* 入力がキュー共有グループ *qsg-name* に見つかりません。

説明

qmgr-name によって指定されたキュー・マネージャーを、*qsg-name* によって指定されたキュー共有グループから除去しようとしたが、Db2 表で項目が見つからなかったために失敗した。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

CSQU540E

QMGR *qmgr-name* を除去できません。正常に終了していないか、回復が必要です。

説明

qmgr-name によって指定されたキュー・マネージャーは、現在活動状態であるか、最終実行時に異常終了したか、バックアップおよび回復のために必要とされているため、キュー共有グループから除去することができない。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーが活動状態である場合は、STOP QMGR コマンドを使用してキュー・マネージャーを停止し、ジョブの再実行を要求する。

キュー・マネージャーがその最後の実行中に異常終了している場合は、キュー・マネージャーを始動してから、STOP QMGR コマンドを使用してこれを正常に停止し、ジョブの再実行を要求する。

これらのいずれも当てはまらないか、除去することができない場合には、バックアップおよび回復のために必要とされている。[キュー共有グループの管理](#)を参照し、そのようなキュー・マネージャーをキュー共有グループから除去する方法について確認する。

CSQU541E

QSG array manipulation error, RC=*rc*

説明

キュー共有グループの配列データを操作中に内部エラーが発生した。

内部ルーチンは *rc* で示された完了コードを戻した。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

ジョブを再実行依頼してください。問題が解決しない場合は、メッセージ内のエラー・コードを書き留め、IBM サポートに連絡する。

CSQU542E

キュー共有グループ *qsg-name* の更新が失敗しました。RC=*rc*

説明

qsg-name で指定されたキュー共有グループの Db2 行を更新しようとしたが、戻りコード *rc* で失敗した。

rc に示される障害のタイプは、次のとおりである。

00F5000C

キュー共有グループの行が存在しない

00F50010

内部エラー

00F50018

参照制約の障害

00F50028

内部エラー

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

ジョブを再実行依頼してください。問題が解決しないようであれば、IBM サポートに連絡する。

CSQU543E

QMGR *qmgr-name* の削除が失敗しました。RC=*rc*

説明

キュー・マネージャー *qmgr-name* を削除する試みが失敗し、戻りコード *rc* が戻された。

rc には、障害のタイプが示される。00F5000C は、キュー・マネージャー行が存在しないことを示す。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

これは、正しくない Db2 データ共有グループに対する要求が行われたか、直前に行われた試みが未完了であったことを示していると思われる。前者の場合は、正しい Db2 データ共有グループに対してユーティリティーが実行されるようにする必要がある。後者の場合は、これ以上の処置を行う必要はない。

CSQU544E

QMGR *qmgr-name* への IXCDELET 要求は失敗しました。RC=*rc* 理由=*reason*

説明

キュー・マネージャー *qmgr-name* を除去する試みの際の IXCDELET 要求で、IXC 戻りコード *rc* と理由コード *reason* が戻された。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

IXCDELET の戻りコードと理由コードの説明については、「z/OS MVS シスプレックス・サービス解説書」を参照。

必要に応じて訂正し、ジョブの再実行を要求する。

CSQU545E

CSQU545E QMGR *qmgr-name* への IXCCREAT 要求は失敗しました。RC=*rc* 理由 = *reason*

説明

キュー・マネージャー *qmgr-name* を追加する試みの際の IXCCREAT 要求で、IXC 戻りコード *rc* と理由コード *reason* が戻された。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

IXCCREAT の戻りコードと理由コードの説明については、「z/OS MVS シスプレックス・サービス解説書」を参照。

必要に応じて訂正し、ジョブの再実行を要求する。

CSQU546E

QMGR *qmgr-name* 入力を追加できません。Db2 表 *table-name* にすでに存在します。

説明

キュー・マネージャー *qmgr-name* の項目を Db2 表 *table-name* に追加する試みは、そのキュー・マネージャーの項目がすでに存在していたために、失敗した。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

table-name で指定された Db2 表を調べて、*qmgr-name* で指定されたキュー・マネージャーの項目が正しいキュー共有グループの項目であるかどうかを判別します。これが正しいければ、これ以上の処置を行う必要はない。

CSQU547E

QMGR *qmgr-name* 入力を追加できません。キュー共有グループ *qsg-name* 入力が Db2 表 *table-name* に存在しません。

説明

キュー・マネージャー *qmgr-name* の追加が試行されたが、キュー共有グループ *qsg-name* のキュー共有グループ項目が Db2 表 *table-name* になかったため、この試みは失敗した。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー共有グループにキュー・マネージャーを追加するには、Db2 CSQ.ADMIN_B_QSG 表には、*qsg-name* で指定されたキュー共有グループのキュー共有グループ・レコードが含まれている必要があります。

Db2 表を調べ、必要に応じて CSQ5PQSG ユーティリティ・ADD QSG 機能を実行してから、ジョブの再実行を要求する。

CSQU548E

QMGR *qmgr-name* をキュー共有グループ *qsg-name* に追加できません。割り当てられていない QMGR 番号がありません。

説明

キュー・マネージャー *qmgr-name* をキュー共有グループ *qsg-name* に追加する試みは、すべてのキュー・マネージャー番号が使用中であったために失敗した。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー共有グループには、同時に最大で 32 個のキュー・マネージャーを定義することができる。*qsg-name* によって指定されたキュー共有グループに、すでに 32 個のキュー・マネージャーがある場合の処置は、新規のキュー共有グループを作成するか、既存のキュー・マネージャーを除去するかのどちらかである。

CSQU549I

QMGR *qmgr-name* 入力は正常に QSG *qsg-name* に追加されました。

説明

キュー共有グループ *qsg-name* にキュー・マネージャー *qmgr-name* を追加する要求は正常に完了した。

CSQU550I

QMGR *qmgr-name* 入力は正常に QSG *qsg-name* から除去されました。

説明

キュー共有グループ *qsg-name* からキュー・マネージャー *qmgr-name* を除去する要求は正常に完了した。

CSQU551I

QSG *qsg-name* 入力は正常に追加されました。

説明

キュー共有グループ *qsg-name* を追加する要求は正常に完了した。

CSQU552I

QSG *qsg-name* 入力は正常に除去されました。

説明

キュー共有グループ *qsg-name* を除去する要求は正常に完了した。

CSQU553E

QMGR *qmgr-name* は Db2 表 *table-name* に、別のキュー共有グループ *qsg-name* のメンバーとして存在します。

説明

qmgr-name で指定されたキュー・マネージャーをキュー共有グループに追加しようとしたのですが、失敗しました。これは、*table-name* で指定された Db2 表が、そのキュー・マネージャーが既に *qsg-name* で指定された別のキュー共有グループのメンバーであることを示しているためです。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーは、一度に 1 つのキュー共有グループのメンバーにしか入れない。

キュー・マネージャーを今のキュー共有グループから除去してバッチ・ジョブを実行依頼し直すか、追加をあきらめる。

CSQU554E

QMGR *qmgr-name* 項目はキュー共有グループ *qsg-name* から除去できません。構造体 *struc-name* に必要です。

説明

qmgr-name で指定されたキュー・マネージャーは、構造体 *struc-name* のバックアップについての情報があるため、*qsg-name* によって指定されたキュー共有グループから除去することができない。(構造体 *struc-name* に示される値は IBM MQ によって使用される 12 文字の名前で、キュー共有グループ名を含む z/OS によって使用される外部名ではない。)

複数の構造体でキュー・マネージャーが必要な場合、このメッセージはそれぞれの構造体ごとに出される。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー共有グループの他のキュー・マネージャーを使用して、構造体のバックアップを取る。BACKUP CFSTRUCT コマンドで使用されている EXCLINT 時刻値が、除去しようとしているキュー・マネージャーが最後に停止してからの時間よりも小さいようにする。その後、ジョブを再サブミットする。

キュー共有グループ内の最後のキュー・マネージャーを除去する際は、REMOVE ではなく FORCE オプションを使用する必要があります。これにより、リカバリーに必要なキュー・マネージャー・ログの整合性検査は実行されずに、キュー共有グループからキュー・マネージャーが除去されます。このアクションを実行する必要があるのは、キュー共有グループを削除する場合だけです。キュー共有グループの管理については、キュー共有グループからキュー・マネージャーを除去するを参照してください。

CSQU555E

QMGR *qmgr-name* リリース・レベルがキュー共有グループ *qsg-name* と Db2 表 *table-name* で非互換です。

説明

qmgr-name で指定されたキュー・マネージャーをキュー共有グループに追加しようとしたのですが、失敗しました。これは、*table-name* で指定された Db2 表が、キュー共有グループ内の別のキュー・マネージャーが互換性のないリリース・レベルであることを示しているためです。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

互換性のあるリリース・レベルのキュー・マネージャーだけが、同じキュー共有グループのメンバーになれる。異なるリリース間のマイグレーションと互換性については、[保守および移行](#)を参照。

CSQU556I

QSG *qsg-name* may contain unexpected characters

説明

追加されるキュー共有グループ *qsg-name* で指定されたキュー共有グループ名は、「@」文字を含んでいるか、4文字より短い名前に「@」文字が付加されて4文字の長さの名前になっている。

システム・アクション

キュー共有グループを追加する処理は続行される。ユーティリティーは戻りコード4で完了する。

システム・プログラマーの応答

qsg-name で指定されたキュー共有グループ名が、キュー共有グループに使用する意図した名前であるかどうかを確認する。違っていれば、ユーティリティーを使用してキュー共有グループを除去し、キュー共有グループ名を訂正した後に、キュー共有グループを追加する要求を再実行依頼する。

'@'文字は *qsg-name* で使用することができるが、IBM MQ オブジェクト名では文字としてはサポートされていないため、非推奨である。キュー・マネージャーの別名定義などの定義、または *qsg-name* を参照する必要があるその他のオブジェクトは、*qsg-name* を参照できなくなる。可能な場合は、これらの文字の使用を避ける。

CSQU557E

QMGR およびキュー共有グループ名は異なっている必要があります。

説明

キュー・マネージャーの名前とそれが属するキュー共有グループの名前は同じにすることができないため、キュー・マネージャーをキュー共有グループに追加しようとして失敗した。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

CSQU558E

QMGR *qmgr-name* 項目をキュー共有グループ *qsg-name* から除去できません。構造体 *struc-name* 用の SMDS が空ではありません。

説明

qmgr-name によって指定されたキュー・マネージャーを、*qsg-name* によって指定されたキュー共有グループから除去できない。理由は、空であるとしてマークされていない、構造体 *struc-name* の共有メッセージ・データ・セットをこのキュー・マネージャーが所有しており、このデータ・セットにはまだ現行のメッセージ・データが含まれている可能性があるからである。(*struc-name* に示される値は IBM MQ によって使用される 12 文字の名前で、キュー共有グループ名を含む z/OS によって使用される外部名ではない。)

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

所有されている共有メッセージ・データ・セットが空であるとしてマークされ、この共有メッセージ・データ・セットがメッセージ・データをまったく含んでいないときに、その所有者であるキュー・マネージャーがこのデータ・セットを正常に閉じたことが示されるまでは、このキュー・マネージャーを除去できない。メッセージ・データを含んでいる、データ・セット内のすべての共有メッセージは、最初に読み取られているか、削除済みとしてマークされている必要があります、削除されたメッセージを除去し、データ・セットのスペースを解放するためには、所有側のキュー・マネージャーをその構造体に接続する必要があります。

この構造体の各共有メッセージ・データ・セットの現在の状況は、**DISPLAY CFSTATUS(struc-name) TYPE(SMDS)** コマンドを使用して表示できる。

CSQU559I

QMGR *qmgr-name* の CSQ_ADMIN 接続が削除されました。

説明

管理ストラクチャーへの障害持続接続が正常に削除されたことを示す通知メッセージ。

CSQU560I

管理構造体の絶対パス名は *admin-strname* です。

説明

z/OS によって使用される管理構造体の外部フルネームを示す (これにはキュー共有グループ名が含まれる)。

CSQU561E

Unable to get attributes for admin structure, IXLMG RC=*rc* reason code=*reason*

説明

キュー・マネージャーをキュー共有グループに追加しようとして失敗した。XES IXLMG サービス・エラーがあったため、管理構造体の属性を確認できなかった。管理構造体のフルネームが次の CSQ570I メッセージに示される。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。キュー・マネージャーはキュー共有グループに追加されない。

システム・プログラマーの応答

「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」に記載されている、IXLMG サービスからの戻りコードと理由コード (両方とも 16 進数) を調べてください。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQU562E

管理構造体属性が一時的に使用不可となっています。

説明

キュー・マネージャーをキュー共有グループに追加しようとして失敗した。管理構造体の属性が現在使用できないため、管理構造体の属性を確認できなかった。管理構造体のフルネームが次の CSQ570I メッセージに示される。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。キュー・マネージャーはキュー共有グループに追加されない。

システム・プログラマーの応答

ジョブを再実行する。

CSQU563I

管理構造体が CF *cf-name* で定義されています。割り振りサイズ *mm* KB、最大入力 *nn*

説明

これは、キュー共有グループの管理構造体の現在の属性を示す。 *cf-name* という名前のカップリング・ファシリティーに定義されている。

CSQU564E

キュー・マネージャーをキュー共有グループ *qsg-name* に追加できません。管理構造体が小さすぎます。

説明

キュー・マネージャーをキュー共有グループに追加しようとして失敗した。要求された数のキュー・マネージャーを持つキュー共有グループには、現在の管理構造体割り振りは小さすぎる。管理構造体のフルネームが次の CSQ570I メッセージに示される。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。キュー・マネージャーはキュー共有グループに追加されない。

システム・プログラマーの応答

キュー共有グループで使用するカップリング・ファシリティ・ストラクチャー・サイズについては、共用メッセージのオフロード・オプションの指定を参照してください。

新規のキュー・マネージャーをキュー共有グループに追加するには、管理構造体割り振りを増やす必要がある。これには、以下のステップの1つ以上が関係することがある。

- IXLMIAPU ユーティリティーを使用して管理構造体定義を更新する。
- 現在活動状態の CFRM ポリシーをリフレッシュする。
- z/OS SETXCF START,ALTER コマンドを使用して、管理構造体の現在の割り振りを動的に変更する。

管理構造体割り振りを増やしたら、ジョブを再実行する。

CSQU565E

管理構造体のための属性を取得できません。CF で失敗状況です。

説明

キュー・マネージャーをキュー共有グループに追加しようとして失敗した。管理構造体の属性は失敗の状態のため、管理構造体の属性を確認できなかった。管理構造体のフルネームが次の CSQ570I メッセージに示される。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。キュー・マネージャーはキュー共有グループに追加されない。

システム・プログラマーの応答

z/OS DISPLAY XCF,STRUCTURE コマンドを使用して、現在活動状態の CFRM ポリシーですべての構造体の状態を表示する。

管理構造体が失敗した場合、キュー共有グループ内のキュー・マネージャーを開始すると、現在の CFRM ポリシーに従って構造体が割り振られる。

CSQU566I

管理構造体のための属性を取得できません。CF が見つからないか、または割り振られていません。

説明

キュー・マネージャーをキュー共有グループに追加しようとして失敗した。管理構造体がまだ CFRM ポリシーに定義されていないか、または現在カップリング・ファシリティに割り振りされていないため、管理構造体の属性を確認できなかった。管理構造体のフルネームが次の CSQ570I メッセージに示される。構造体が割り振られない場合には、最初のキュー・マネージャーの開始時に構造体が割り振られる。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

z/OS コマンド DISPLAY XCF,STRUCTURE,STRNAME=<CFSTRNAME> を使用して、現在アクティブな CFRM ポリシー内のすべてのストラクチャーの状況(サイズを含む)を表示します。

構造体定義が CFRM ポリシーにあるようにする。これは、キュー・マネージャーを開始するために必要となる。

CSQU567E

番号の不一致のため QMGR *qmgr-name* が Db2 表に追加されません。

説明

既に発行されたメッセージ CSQU568E で示されているように、QMGR 番号の不一致のために QMGR *qmgr-name* を Db2 表に追加できなかった。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

"VERIFY QSG" パラメーターを使って CSQ5PQSG キュー共有グループ・ユーティリティを実行するときにメッセージ CSQU524I に示されるとおりに、XCF グループ内の QMGR 番号値に一致する順序で QMGR を追加する。

この問題が CSQ_ADMIN 構造体への接続の持続的な失敗と関連している場合には、SETXCF FORCE コマンドを使って CF 構造体をクリアすることにより問題を解決できる。

CSQU568E

キュー共有グループ *qsg-name* 内の QMGR *qmgr-name* の QMGR 番号が一致しません: Db2 value=*nn*、XCF メンバー value=*nn*、CSQ_ADMIN 接続 value=*nn*、SMDS グループ value=*nn*

説明

QMGR 番号が Db2 表、XCF グループ・メンバー、および CF 構造体への接続に保管され、それぞれの保管された値がメッセージに表示される。キュー共有グループ・ユーティリティ (CSQ5PQSG) を使って QMGR がキュー共有グループに追加されるときに QMGR 番号が作成される。

このメッセージは、キュー共有グループ *qsg-name* 内の QMGR *qmgr-name* に関する保管済みの値に不一致があるため、QMGR が開始しないことを示している。

システム・アクション

XCF グループ内のすべてのメンバーが処理された後、ユーティリティが終了する。

システム・プログラマーの応答

QMGR 番号値が -1 である場合は、その項目が存在しない。欠落している項目を追加するには "ADD QMGR" パラメーターを指定して CSQ5PQSG ユーティリティを使用する。

QMGR 番号値が 0 の場合、値は初期化されていません (XCF グループ・メンバーおよび CSQ_ADMIN 接続値のみ)。値を初期化するには、QMGR を開始する。

QMGR 番号値が 0 より大きい場合は、カップリング・ファシリティ問題判別ガイドにリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

SMDS グループ番号が -2 の場合、別のキュー・マネージャーの QMGR 番号に関する SMDS 状態情報が存在します。VERIFY QMGR パラメーターを指定した CSQ5PQSG ユーティリティを使用して SMDS 状態に関連付けられたキュー・マネージャーを識別した後、ADD QMGR を使用して関連付けられた QMGR を再追加してから、元の ADD QMGR コマンドを再試行する。

SMDS グループ番号が -1 の場合、複数の *qmid* を持つキュー・マネージャーに関する SMDS 状態情報が存在します。カップリング・ファシリティの問題判別ガイドにリストされている情報項目を収集して IBM サポートに連絡する。

CSQU569E

予期しない CSQ_ADMIN 接続が QMGR *qmgr-name* で検出されました

説明

キュー共有グループ内のそれぞれの QMGR に対して、CSQ_ADMIN 構造体への接続が 1 つだけ存在する必要がある。追加の接続が見つかるごとに、このメッセージが発行される。

システム・アクション

XCF グループ内のすべてのメンバーが処理された後、ユーティリティが終了する。

システム・プログラマーの応答

この状態は発生してはならない。CSQ_ADMIN 構造体に関する XCF 表示コマンドを使用して、接続を表示することができる。

カップリング・ファシリティの問題判別ガイドにリストされている情報項目を収集して IBM サポートに連絡する。

CSQU570I

QSG *qsg-name* を正常に検査しました。

説明

キュー共有グループ *qsg-name* の情報を検証する要求は正常に完了した。すべての情報は整合性がある。

CSQU571E

QSG *qsg-name* 入力を検査できません。Db2 表 *table-name* には見つかりません。

説明

キュー共有グループ *qsg-name* を検証する試みは、その項目が Db2 表 *table-name* に見つからなかったために、失敗した。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー共有グループ *qsg-name* が、初めから表 *table-name* に定義されているようにする。ユーティリティ・ジョブが、正しい Db2 データ共有グループに接続しているかどうかを検査する。

必要に応じて、ジョブの再実行を要求する。

CSQU572E

マップ *map-name* と Db2 表 *table-name* の使用に不整合があります

説明

キュー共有グループの検証中に、使用状況マップ *map-name* と Db2 表 *table-name* との情報の間に矛盾が見つかった。後続のメッセージに、矛盾についての詳細が示される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

ユーティリティ・ジョブが、正しい Db2 データ共有グループに接続しているかどうかを検査する。必要に応じて、ジョブの再実行を要求する。

IBM サポートに連絡する。

CSQU573E

QMGR *qmgr-name* (表項目 *entry-number* 内の)が使用マップに設定されていません。

説明

キュー共有グループの検証中に、使用状況マップとそれに対応する Db2 表との情報の間に矛盾が見つかった。矛盾はメッセージに説明されている。先行するメッセージ CSQU572E は、使用状況マップと表を示す。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQU572E を参照。

CSQU574E

使用マップ内の QMGR *qmgr-name* には、表での項目がありません。

説明

キュー共有グループの検証中に、使用状況マップとそれに対応する Db2 表との情報の間に矛盾が見つかった。矛盾はメッセージに説明されている。先行するメッセージ CSQU572E は、使用状況マップと表を示す。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQU572E を参照。

CSQU575E

構造体 *struc-name* (表項目 *entry-number* 内の) が使用マップに設定されていません。

説明

キュー共有グループの検証中に、使用状況マップとそれに対応する Db2 表との情報の間に矛盾が見つかった。矛盾はメッセージに説明されている。先行するメッセージ CSQU572E は、使用状況マップと表を示す。(*struc-name* に示される値は IBM MQ によって使用される 12 文字の名前で、キュー共有グループ名を含む z/OS によって使用される外部名ではない。)

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQU572E を参照。

CSQU576E

使用マップ内の構造体 *struc-name* には、表での項目がありません。

説明

キュー共有グループの検証中に、使用状況マップとそれに対応する Db2 表との情報の間に矛盾が見つかった。矛盾はメッセージに説明されている。先行するメッセージ CSQU572E は、使用状況マップと表を示す。(*struc-name* に示される値は IBM MQ によって使用される 12 文字の名前で、キュー共有グループ名を含む z/OS によって使用される外部名ではない。)

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQU572E を参照。

CSQU577E

キュー *q-name* (表項目 *entry-number* 内の) が構造体 *struc-name* 用の使用マップに設定されていません。

説明

キュー共有グループの検証中に、使用状況マップとそれに対応する Db2 表との情報の間に矛盾が見つかった。矛盾はメッセージに説明されている。先行するメッセージ CSQU572E は、使用状況マップと表を示す。(*struc-name* に示される値は IBM MQ によって使用される 12 文字の名前で、キュー共有グループ名を含む z/OS によって使用される外部名ではない。)

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQU572E を参照。

CSQU578E

使用マップ内のキュー *q-name* (構造体 *struc-name* 用) には、表での項目がありません。

説明

キュー共有グループの検証中に、使用状況マップとそれに対応する Db2 表との情報の間に矛盾が見つかった。矛盾はメッセージに説明されている。先行するメッセージ CSQU572E は、使用状況マップと表を示す。(struc-name に示される値は IBM MQ によって使用される 12 文字の名前で、キュー共有グループ名を含む z/OS によって使用される外部名ではない。)

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQU572E を参照。

CSQU580I

DSG *dsg-name* は移行の準備ができています。

説明

新しい Db2 表を使用するためにデータ共有グループ *dsg-name* をマイグレーションする要求で、データ共有グループをマイグレーションする準備ができていることが正常に検証されました。

システム・プログラマーの応答

マイグレーションを実行する。

CSQU581E

DSG *dsg-name* は QSG *qsg-name* の QMGR レベルと非互換です。

説明

データ共有グループ *dsg-name* を使用するキュー共有グループ *qsg-name* のキュー・マネージャーのレベルに互換性がないため、このデータ共有グループを移行して新しい Db2 表を使用することはできません。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

マイグレーションを実行するため、データ共有グループを使用するすべてのキュー共有グループのすべてのキュー・マネージャーでは、PTF をインストールして始動しておき、必要なレベルに引き上げておく必要がある。キュー・マネージャーのレベルおよびアップグレードする必要のあるレベルを判別するには、CSQ.ADMIN_B_QMGR Db2 表を調べる。フィールド QMGRNAME、MVERSIONL、MVERSIONH を参照し、MVERSIONH のより小さい値を持つキュー・マネージャーを調べる。

異なるリリース間のマイグレーションと互換性については、[保守および移行](#)を参照。

CSQU582E

DSG *dsg-name* はすでに移行しています。

説明

データ共有グループ *dsg-name* はすでにマイグレーションされているため、そのデータ共有グループをマイグレーションして新しい Db2 表を使用することができない。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

マイグレーションの一部として、CSQ.OBJ_B_CHANNEL Db2 表は、その行のサイズを 4 KB より大きく変更する。ユーティリティは、その行サイズがすでに存在することを検出する。マイグレーションがすでに行われていることを確認するには、CSQ.OBJ_B_CHANNEL Db2 表を調べる。

異なるリリース間のマイグレーションと互換性については、[保守および移行](#)を参照。

CSQU583I

QSG *qsg-name* (DSG *dsg-name* 内) は移行の準備ができています。

説明

データ共有グループ *dsg-name* 内のキュー共有グループ *qsg-name* を、新しい Db2 表を使用するようにマイグレーションする要求は、キュー共有グループのマイグレーション準備ができていないことを正常に検査した。

システム・プログラマーの応答

マイグレーションを実行する。このことは、SCSQPROC ライブラリーのサンプル・ジョブ CSQ4570T および CSQ4571T で示されているように、ユーティリティー・マイグレーション要求のときと同じジョブで使用する条件付きステップで実行するようにする。

CSQU584E

QSG *qsg-name* (DSG *dsg-name* 内) の QMGR レベルは非互換です。

説明

データ共有グループ *dsg-name* を使用するキュー・マネージャーのレベルが非互換であるため、そのデータ共有グループ内のキュー共有グループ *qsg-name* をマイグレーションして新しい Db2 表を使用することができない。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

マイグレーションを実行するため、データ共有グループを使用するすべてのキュー共有グループのすべてのキュー・マネージャーでは、PTF をインストールして始動しておき、必要なレベルに引き上げておく必要がある。キュー・マネージャーのレベルおよびアップグレードする必要のあるレベルを判別するには、CSQ.ADMIN_B_QMGR Db2 表を調べる。

異なるリリース間のマイグレーションと互換性については、[保守および移行](#)を参照。

CSQU585E

QSG *qsg-name* 項目はマイグレーションできません。Db2 表 *table-name* には見つかりません。

説明

キュー共有グループ *qsg-name* は、Db2 表 *table-name* に項目が見つからなかったため、マイグレーションできない。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー共有グループ *qsg-name* が、初めから表 *table-name* に定義されているようにする。

ユーティリティー・ジョブが、正しい Db2 データ共有グループに接続しているかどうかを検査する。必要に応じて、ジョブの再実行を要求する。

CSQU586I

QMGR *qmgr-name* 項目をキュー共有グループ *qsg-name* から除去しますが、この項目は構造体 *struc-name* のバックアップに必要です。

説明

qmgr-name が示すキュー・マネージャーは、*qsg-name* が示すキュー共有グループから強制的に除去されるが、これには、構造体 *struc-name* のバックアップについての情報が含まれている。(*struc-name* に示される値は IBM MQ によって使用される 12 文字の名前で、キュー共有グループ名を含む Db2 によって使用される外部名ではない。)

キュー・マネージャー *qmgr-name* をキュー共有グループに戻した場合、構造体のバックアップを取得していないと、構造体 *struct-name* の回復が不能になる矛盾した状態になる。

このキュー・マネージャーが複数の構造体に必要な場合は、それぞれの構造体ごとにこのメッセージが出される。

システム・アクション

キュー・マネージャーがキュー共有グループから除去され、ユーティリティー・プログラムは戻りコード 4 で終了する。

システム・プログラマーの応答

CF 構造体 *struc-name* が使用できる場合は、キュー共有グループの別のキュー・マネージャーを使用して CF 構造体 *struc-name* のバックアップをできる限り早く取得する。使用できない場合に、キュー・マネージャー *qmgr-name* をキュー共有グループに戻す場合は、構造体 *struc-name* の回復が行われる前に、キュー・マネージャーを再始動する必要がある。

CSQU587I

QMGR *qmgr-name* 項目をキュー共有グループ *qsg-name* から除去しますが、構造体 *struc-name* 用の SMDS が空ではありません。

説明

qmgr-name が示すキュー・マネージャーを、*qsg-name* が示すキュー共有グループから除去するが、このキュー・マネージャーは、空のマークが付いていない構造体 *struc-name* の共有メッセージ・データ・セットを所有しており、現行のメッセージ・データが含まれている可能性がある。(構造体 *struc-name* に示される値は IBM MQ によって使用される 12 文字の名前で、キュー共有グループ名を含む z/OS によって使用される外部名ではない。)

システム・アクション

キュー・マネージャーがキュー共有グループから除去され、ユーティリティー・プログラムは戻りコード 4 で終了する。

キュー・マネージャー *qmgr-name* の SMDS 上のメッセージは、SMDS が保持されている間はアクセス可能である。

CSQU599I

QSG *qsg-name* には、リリース・レベル *min-level* より下のキュー・マネージャーが含まれています。QSG は、リリース・レベル *current-level* をサポートしません。

説明

キュー共有グループには、CSQ5PQSG を実行するために使用される IBM MQ for z/OS のリリースでサポートされる最小レベルより下のキュー・マネージャーが含まれる。このキュー共有グループ内の現行レベルでキュー・マネージャーを開始することはできません。

システム・プログラマーの応答

現行レベルのキュー・マネージャーをキュー共有グループに追加する前に、メッセージに示されている *min-level* より下にあるキュー共有グループ内のキュー・マネージャーを見つけ、それらを少なくとも *min-level* にアップグレードします。

CSQU680E

Db2 と CF 構造体は、構造体 *struc-name* 内のリスト・ヘッダー *list-header-number* において同期していません。

重大度

8

説明

Db2 における共有キューの行が表すキューは、CF 構造体における構造体 *struc-name* 内のリスト・ヘッダー *list-header-number* で見つかるものとは異なる。この不整合が原因で、キュー・マネージャーは 5C6-00C51053 を伴って異常終了し、メッセージ CSQE137E が出される。また、メッセージ CSQU681I および CSQU682I も出されて、詳細情報がそこで提供される。

システム・アクション

不一致が報告されて、ユーティリティーの処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

カップリング・ファシリティの問題判別と Db2 マネージャーの問題判別でリストされる項目を収集して、Db2 サポートに連絡する。

CSQU681I

構造体 *struc-name*: *queue-name* 内のリスト・ヘッダー *list-header-number* の Db2 エントリー

重大度

0

説明

このメッセージは、メッセージ CSQU680E と共に出される。*queue-name* は、Db2 で構造体 *struc-name* 内のリスト・ヘッダー *list-header-number* に関して見つかるキューの名前。

システム・アクション

不一致が報告されて、ユーティリティの処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

カップリング・ファシリティの問題判別と Db2 マネージャーの問題判別でリストされる項目を収集して、Db2 サポートに連絡する。

CSQU682I

構造体 *struc-name* 内のリスト・ヘッダー *list-header-number* に関する CF 項目: *queue-name*

重大度

0

説明

このメッセージは、メッセージ CSQU680E と共に出される。*queue-name* は、CF で構造体 *struc-name* 内のリスト・ヘッダー *list-header-number* に関して見つかるキューの名前。

システム・アクション

不一致が報告されて、ユーティリティの処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

カップリング・ファシリティの問題判別と Db2 マネージャーの問題判別でリストされる項目を収集して、Db2 サポートに連絡する。

CSQU683E

構造体 *struc-name* 内のリスト・ヘッダー *list-header-number* に関する CF 項目が欠落しています

重大度

8

説明

構造 *struc-name* のリスト・ヘッダー *list-header-number* の Db2 項目は、現行コピーが CF で使用可能であることを示していますが、コピーが見つかりません。この不整合が原因で、このキューの使用を試みているアプリケーションに対して戻りコード 2085 が出される。

システム・アクション

不一致が報告されて、ユーティリティの処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

キュー共有グループ内のいずれかのキュー・マネージャーを始動または再始動すると、問題が解決される。問題が解決しないようであれば、カップリング・ファシリティの問題判別と Db2 マネージャーの問題判別でリストされる項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

CSQU684I

構造体 *struc-name* はキュー・マネージャーによってまだ割り振られていません

重大度

0

説明

CF 構造体 *struc-name* が割り振られていない。これは、構造体に対して初めて **IXLCONN** が出されるときに発生し、QSG 内のキュー・マネージャーによってのみ発行される。

システム・アクション

ユーティリティは処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQU685I

構造体 *struc-name* が接続されました

重大度

0

説明

ユーティリティが、CF 構造体 *struc-name* に正常に接続された。

システム・アクション

ユーティリティは処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQU686E

構造体 *struc-name* の接続が失敗しました。 **IXLCONN RC=return-code** 理由=*reason*

重大度

8

説明

ユーティリティが、CF 構造体 *struc-name* への接続に失敗した。

システム・アクション

ユーティリティはこの構造体に関する後続のキューをすべてスキップし、処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

戻りコードおよび理由コードを調べ、 **IXLCONN** 接続コマンドが失敗した理由を判別する。

CSQU687I

構造体 *struc-name* が切断されました

重大度

0

説明

ユーティリティが、CF 構造体 *struc-name* から切断された。

システム・アクション

ユーティリティは処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQU688E

構造体 *struc-name* のリスト・ヘッダー *list-header-number* の Db2 項目が欠落しています。

重大度

0

説明

構造体 *struc-name* 内のリスト・ヘッダー *list-header-number* に関する CF 項目は、Db2 内に現行コピーがあることを示しているが、コピーが見つからない。同じリスト・ヘッダーに新しいキューが定義される場合には、この不整合が原因で問題が発生する。

システム・アクション

不一致が報告されて、ユーティリティーの処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

カップリング・ファシリティの問題判別と Db2 マネージャーの問題判別でリストされる項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

CSQU689E

構造体 *struc-name*、**IXLLSTE** に関して予期されない戻りコード。RC=*return-code* 理由=*reason*

重大度

8

説明

ユーティリティーは、CF 構造体 *struc-name* からのリスト項目の読み取りに失敗した。

システム・アクション

ユーティリティーはこの構造体に関する後続のキューをすべてスキップし、処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

戻りコードと理由コードを調べて、**IXLLSTE** 読み取りに失敗した理由を判別する。

CSQU950I

csect-name IBM MQ for z/OS Vn

説明

これは、ユーティリティー・プログラムによって発行される報告書のヘッダーの一部である。

CSQU951I

csect-name データ変換出口ユーティリティー - *date time*

説明

これは、ユーティリティー・プログラムによって発行される報告書のヘッダーの一部である。

CSQU952I

csect-name ユーティリティーが完了しました。戻りコード = *ret-code*

説明

ユーティリティーが完了した。戻りコードは、すべての入力正常に処理された場合は 0 であり、何らかのエラーが検出された場合は 8 である。

システム・アクション

ユーティリティーは終了する。

システム・プログラマーの応答

戻りコードがゼロでなければ、報告されたエラーについて調べる。

CSQU954I

n 構造体が処理されました。

説明

これは、ユーティリティー・プログラムによって処理されたデータ構造体の数を示す。

CSQU956E

行 *line-number*: 構造体配列フィールドの次元が正しくありません。

説明

構造体配列フィールドに指定されたディメンションが正しくない。

システム・アクション

処理は停止する。

システム・プログラマーの応答

フィールド指定を訂正して、ジョブの再実行を要求する。

CSQU957E

行 *line-number*: 構造体には可変長フィールドの後にフィールドがあります。

説明

示された行にエラーがあった。可変長フィールドは必ず、構造体の最後のフィールドでなければならない。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

フィールド指定を訂正して、ジョブの再実行を要求する。

CSQU958E

行 *line-number*: 構造化フィールド *name* には、サポートされないタイプ 'float' があります

説明

示された行にエラーがあった。フィールドのタイプが「float」であり、これはサポートされていません。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

フィールド指定を訂正してジョブの再実行を要求するか、このようなフィールドを変換するためのルーチンを提供する。

CSQU959E

行 *line-number*: 構造化フィールド *name* に、サポートされていないタイプ 'double' があります。

説明

示された行にエラーがあった。フィールドに、サポートされないタイプの 'double' があった。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

フィールド指定を訂正してジョブの再実行を要求するか、このようなフィールドを変換するためのルーチンを提供する。

CSQU960E

行 *line-number*: 構造化フィールド *name* に、サポートされていないタイプ 'pointer' があります。

説明

示された行にエラーがあった。フィールドに、サポートされないタイプの 'pointer' があった。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

フィールド指定を訂正してジョブの再実行を要求するか、このようなフィールドを変換するためのルーチンを提供する。

CSQU961E

行 *line-number*: 構造化フィールド *name* に、サポートされていないタイプ 'bit' があります。

説明

示された行にエラーがあった。フィールドに、サポートされないタイプの 'bit' があった。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

フィールド指定を訂正してジョブの再実行を要求するか、このようなフィールドを変換するためのルーチンを提供する。

CSQU965E

EXEC PARM が無効です。

説明

EXEC PARM フィールドがブランクではない。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

JCL を変更して、ジョブの再実行を要求する。

CSQU968E

Unable to OPEN *ddname* data set

説明

プログラムが、データ・セット *ddname* をオープンできなかった。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに送られたエラー・メッセージを調べて、エラーの理由を判別する。データ・セットが正しく指定されているかどうかを調べる。

CSQU970E

行 *line-number*: 構文エラー

説明

示された行に構文エラーがありました。

システム・アクション

処理は停止する。

システム・プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

CSQU971E

ddname データ・セットから受信できません。

説明

プログラムが、*ddname* データ・セットからレコードを読み取ることができなかった。

システム・アクション

ユーティリティーは終了する。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに送られたエラー・メッセージを調べて、エラーの理由を判別する。データ・セットが正しく指定されているかどうかを調べる。

CSQU972E

ddname データ・セットに書き込みできません。

説明

プログラムが、*ddname* データ・セットに次のレコードを書き込むことができなかった。

システム・アクション

ユーティリティーは終了する。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに送られたエラー・メッセージを調べて、エラーの理由を判別する。データ・セットが正しく指定されているかどうかを調べる。

CSQU999E

メッセージ・コード *ccc* は認識されていません。

説明

予期しないエラー・メッセージ・コードがユーティリティーによって出されました。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

16 進数で表示されるコード *ccc* を書き留めて、IBM サポートに連絡を取り、問題を報告する。

Agent services messages (CSQV..)

CSQV086E

QUEUE MANAGER ABNORMAL TERMINATION REASON= *reason-code*

Explanation

The queue manager is ending abnormally, because an error that cannot be corrected has occurred. This message, which is not automatically deleted from the operator console, is issued during abnormal termination. *reason-code* is the termination reason code. If this abnormal termination is invoked multiple times, the termination reason code that accompanies this message is the reason associated with the first invocation.

System action

Abnormal termination processing continues.

System programmer response

For additional information, look up the reason code in “IBM MQ for z/OS codes” on page 915.

This message is accompanied by one or more dumps. Obtain a copy of SYS1.LOGREC after the queue manager completely terminates, and the dumps. If you suspect an error in IBM MQ, see [Troubleshooting and support](#) for information about identifying and reporting the problem.

CSQV400I

ARCHIVE LOG QUIESCE CURRENTLY ACTIVE

Explanation

An ARCHIVE LOG MODE(QUIESCE) command is currently active. This message is part of the DISPLAY LOG or DISPLAY THREAD command report.

System action

This message is issued as information only. It indicates that the ARCHIVE LOG MODE(QUIESCE) command has not completed and, consequently, updates against IBM MQ resources have been temporarily suspended. This might result in active threads being suspended awaiting termination of the quiesce period. Processing otherwise continues normally.

CSQV401I

DISPLAY THREAD REPORT FOLLOWS -

Explanation

This message is issued as the title for the DISPLAY THREAD command report output. It precedes the other messages generated by this command:

- Message CSQV402I provides the formatted report when the detailed status of active threads is requested using TYPE(ACTIVE).
- Message CSQV432I provides the formatted report when the summary status of active threads is requested using TYPE(REGIONS).
- Message CSQV406I provides the formatted report when the status of in-doubt threads is requested using TYPE(INDOUBT).
- Message CSQV436I provides the formatted report when the status of in-doubt threads on another queue manager is requested using TYPE(INDOUBT) with QMNAME.

System action

Processing continues normally.

CSQV402I

ACTIVE THREADS -

Explanation

This message is the response to the DISPLAY THREAD TYPE(ACTIVE) command. It provides the status information for each active thread, as follows:

```
NAME S T REQ THREAD-XREF USERID ASID URID  name s t req thread-xref userid asid urid :  
DISPLAY ACTIVE REPORT COMPLETE
```

where:

name

The connection name, which is one of the following:

- z/OS batch job name
- TSO user ID
- CICS APPLID
- IMS region name
- Channel initiator job name

s

Connection status code:

N

The thread is in IDENTIFY status.

T

The thread has issued CREATE THREAD.

Q

The CREATE THREAD request has been queued. The associated allied task is placed in a wait state.

C

The thread is queued for termination as a result of the termination of the associated allied task. If this thread is also the last (or only) IBM MQ thread for the address space, the associated allied task is placed in a wait state.

D

The thread is in the process of termination as a result of the termination of the associated allied task. If this thread is also the last (or only) IBM MQ thread for the address space, the associated allied task is placed in a wait state.

An asterisk is appended if the thread is active within IBM MQ.

t

Connection type code:

B

Batch: From an application using a batch connection

R

RRS: From an RRS-coordinated application using a batch connection

C

CICS: From CICS

I

IMS: From IMS

S

System: From an internal function of the queue manager or from the channel initiator.

req

A wraparound counter to show the number of IBM MQ requests.

thread-xref

The recovery thread cross-reference identifier associated with the thread.

userid

The user ID associated with a connection. If not signed-on, this field is blank.

asid

A hexadecimal number representing the ASID of the home address space.

urid

Unit of recovery identifier. This is the log RBA of the current unit of recovery associated with the thread. If there is no current unit of recovery, it is shown as 0000000000000000.

Exceptionally, the last line might be:

DISPLAY ACTIVE TERMINATED WITH MAX LINES

if the report was generated in response to a command from a z/OS console and more than 252 response messages were generated. Only 252 response messages are returned.

System action

Processing continues normally.

CSQV406I

INDOUBT THREADS -

Explanation

This message is the response to the DISPLAY THREAD TYPE(INDOUBT) command. It provides the status information for each in-doubt thread, as follows:

```
NAME THREAD-XREF URID NID name thread-xref urid origin-id : DISPLAY INDOUBT REPORT
COMPLETE
```

where:

name

The connection name, which is one of the following:

- z/OS batch job name
- TSO user ID
- CICS APPLID
- IMS region name
- Channel initiator job name

thread-xref

The recovery thread cross-reference identifier associated with the thread. See [Connecting from the IMS control region](#) for more information.

urid

Unit of recovery identifier. This is the log RBA of the current unit of recovery associated with the thread. (This is omitted if the command was issued from a z/OS console with a non-specific connection name.)

origin-id

The origin identifier, a unique token identifying the unit of recovery within the queue manager. This has the form *origin-node.origin-urid*, where:

origin-node

A name that identifies the originator of the thread. (This is omitted for batch RRS connections.)

origin-urid

The hexadecimal number assigned to the unit of recovery for this thread by the originating system.

Exceptionally, the last line might be:

```
DISPLAY INDOUBT TERMINATED WITH MAX LINES
```

if the report was generated in response to a command from a z/OS console and more than 252 in-doubt threads were eligible for display.

System action

Processing continues normally.

CSQV410I

NO ACTIVE CONNECTION FOUND FOR NAME=*connection-name*

Explanation

The DISPLAY THREAD command was unable to find any active connection associated with *connection-name*.

System action

Command processing continues.

CSQV411I

NO ACTIVE THREADS FOUND FOR NAME=*connection-name*

Explanation

The DISPLAY THREAD command was unable to locate any active threads associated with *connection-name*.

System action

Command processing continues.

CSQV412I

csect-name NO INDOUBT THREADS FOUND FOR NAME=*connection name*

Explanation

The DISPLAY THREAD command was unable to locate any in-doubt threads associated with *connection name*.

System action

Command processing continues.

CSQV413E

csect-name CONNECTION NAME MISSING

Explanation

A connection name was not supplied with the command, and a default connection name cannot be determined.

System action

Command processing terminates.

CSQV414I

THREAD NID=*origin-id* COMMIT SCHEDULED

Explanation

The thread specified by the recovery origin identifier *origin-id* is scheduled for COMMIT recovery action.

System action

Processing continues.

CSQV415I

THREAD NID=*origin-id* BACKOUT SCHEDULED

Explanation

The thread specified by the recovery origin identifier *origin-id* is scheduled for BACKOUT recovery action.

System action

Processing continues.

CSQV416E

THREAD NID=*origin-id* IS INVALID

Explanation

The RESOLVE INDOUBT command determined that the input format for the specified thread *origin-id* is invalid.

System action

Command processing continues.

CSQV417I

THREAD NID=*origin-id* NOT FOUND

Explanation

The RESOLVE INDOUBT command was unable to locate the thread specified by the recovery origin identifier *origin-id* to be scheduled for recovery. Either the thread identifier is incorrect, or the thread is no longer in an in-doubt state.

System action

Command processing continues.

CSQV419I

NO ACTIVE CONNECTIONS FOUND

Explanation

A DISPLAY THREAD(*) TYPE(ACTIVE) or TYPE(REGIONS) command was issued for all threads, but no active connections were found.

System action

Command processing continues.

CSQV420I

NO INDOUBT THREADS FOUND

Explanation

A DISPLAY THREAD(*) TYPE(INDOUBT) command was issued for all threads, but no in-doubt threads were found.

System action

Command processing continues.

CSQV423I

cmd MESSAGE POOL SIZE EXCEEDED

Explanation

The storage requirement needed to generate responses for the command *cmd* exceeded the maximum size of the message buffer pool.

System action

Processing is terminated.

CSQV424I

THREAD ID=*thread-xref* COMMIT SCHEDULED

Explanation

The thread specified by the recovery thread cross-reference identifier *thread-xref* is scheduled for COMMIT recovery action.

System action

Processing continues.

CSQV425I

THREAD ID=*thread-xref* BACKOUT SCHEDULED

Explanation

The thread specified by the recovery thread cross-reference identifier *thread-xref* is scheduled for BACKOUT recovery action.

System action

Processing continues.

CSQV427I

THREAD ID=*thread-xref* NOT FOUND

Explanation

The RESOLVE INDOUBT command was unable to locate the thread specified by the recovery thread cross-reference identifier *thread-xref* to be scheduled for recovery. Either the thread identifier is incorrect, or the thread is no longer in an in-doubt state.

System action

Command processing continues.

CSQV428I

CURRENT THREAD LIMIT OF *nnn* EXCEEDED. CREATE THREAD FOR JOB *jobname* DEFERRED

Explanation

A job requested a connection to the queue manager, but the current number of connections is the maximum allowed.

System action

The request for a connection is suspended, and waits until another connection ends.

System programmer response

If this situation occurs frequently, contact your IBM support center for assistance.

CSQV432I

ACTIVE THREADS -

Explanation

This message is the response to the DISPLAY THREAD TYPE(REGIONS) command. It provides the status information for each active connection, as follows:

```
NAME TYPE USERID ASID THREADS  name type userid asid threads : DISPLAY ACTIVE REPORT  
COMPLETE
```

where:

name

The connection name, which is one of the following:

- z/OS batch job name
- TSO user ID
- CICS APPLID
- IMS region name
- Channel initiator job name

type

The connection type:

CICS

From CICS.

IMS

From IMS.

BATCH

From an application using a batch connection.

RRSBATCH

From an RRS-coordinated application using a batch connection.

CHINIT

From the channel initiator.

userid

The user ID associated with a connection. If not signed-on, this field is blank.

asid

A hexadecimal number representing the ASID of the home address space.

threads

The number of active threads associated with the connection. This excludes fixed internal threads, such as those for the CICS adapter tasks, or the channel initiator listeners.

Exceptionally, the last line might be:

```
DISPLAY ACTIVE TERMINATED WITH MAX LINES
```

if the report was generated in response to a command from a z/OS console and more than 252 response messages were generated. Only 252 response messages are returned.

System action

Processing continues normally.

CSQV433I

'QMNAME' NOT ALLOWED, NOT IN QUEUE SHARING GROUP

Explanation

A DISPLAY THREAD TYPE(INDOUBT) or RESOLVE INDOUBT command specifying the QMNAME keyword was issued, but the requesting queue manager *qmgr-name* is not in a queue sharing group or the requested queue manager *qmgr-name* is not a member of the queue sharing group.

System action

Processing for the command is terminated.

CSQV434E

'QMNAME' ALLOWED ONLY WITH TYPE(INDOUBT)

Explanation

A DISPLAY THREAD command specifying the QMNAME keyword was issued, but TYPE(INDOUBT) was not specified.

System action

Processing for the command is terminated.

CSQV435I

QMNAME(*qmgr-name*) IS ACTIVE, COMMAND IGNORED

Explanation

A DISPLAY THREAD TYPE(INDOUBT) or RESOLVE INDOUBT command specifying the QMNAME keyword was issued, but the requested queue manager *qmgr-name* is active.

System action

Processing for the command is terminated.

CSQV436I

INDOUBT THREADS FOR *qmgr-name* -

Explanation

This message comprises the response to the DISPLAY THREAD TYPE(INDOUBT) command when the QMNAME keyword was specified. It provides the status information for each in-doubt unit-of-work on the requested queue manager; the information is displayed in the same format as in message CSQV406I.

System action

Processing continues normally.

CSQV437I

CANNOT RESOLVE THREAD NID=*origin-id*, SOME RESOURCES UNAVAILABLE

Explanation

The RESOLVE INDOUBT command was unable to schedule the thread specified by the recovery origin identifier *origin-id* for recovery, because not all the resources necessary for recovery were available.

System action

The identified thread will remain in-doubt.

CSQV450I

csect-name Unable to open *ddname* data set

Explanation

The *ddname* data set could not be opened, as reported in the preceding messages.

System action

Processing continues, but functions that require the data set will be inhibited.

System programmer response

Investigate the problem reported in the preceding messages.

CSQV451I

csect-name Unable to get storage for exits, RC=*return-code*

Explanation

An attempt to obtain some storage for use by exits failed. *return-code* is the return code (in hexadecimal) from the z/OS STORAGE service.

System action

Processing continues, but cluster workload user exits will not be available.

System programmer response

Go to the appropriate volume of the *z/OS MVS Programming: Assembler Services Reference* documentation for information about the return code from the [STORAGE](#) request.

CSQV452I

csect-name Cluster workload exits not available

Explanation

Cluster workload user exit functions will not be available, because:

- There is no CSQXLIB DD statement in the started task JCL procedure for the queue manager, xxxxCHIN
- The EXITTCB system parameter is zero.

System action

Processing continues, but cluster workload user exits will not be available.

System programmer response

If you want to use cluster workload exits, add the required statement to the queue manager started task JCL procedure and specify a non-zero value for the EXITTCB system parameter. For more information about cluster workload exits, see [Cluster workload exit programming](#).

CSQV453I

csect-name Unable to load *module-name*, reason=*ssssrrrr*

Explanation

The queue manager was unable to load a module required for exits. *ssss* is the completion code and *rrrr* is the reason code (both in hexadecimal) from the z/OS LOAD service.

System action

Processing continues, but cluster workload user exits will not be available.

System programmer response

Check the console for messages indicating why the module was not loaded.

Go to the appropriate volume of the *z/OS MVS Programming: Assembler Services Reference* documentation for information about the codes from the LOAD request.

Ensure that the module is in the required library, and that it is referenced correctly. The queue manager attempts to load this module from the library data sets under the STEPLIB DD statement of its started task JCL procedure xxxxMSTR.

CSQV455E

csect-name Cluster workload exit *exit-name* timed out

Explanation

A cluster workload user exit did not return to the queue manager within the allowed time, as specified by the EXITLIM system parameter.

System action

The exit is disabled until its load module in the CSQXLIB data set is refreshed.

System programmer response

Investigate why your exit is not returning in time.

CSQV456E

csect-name Cluster workload exit error, TCB=*tcb-name* reason=*sssuuu-reason*

Explanation

The exit subtask using TCB *tcb-name* is ending abnormally because an error that cannot be corrected has occurred in a cluster workload user exit. *sss* is the system completion code, *uuu* is the user completion code, and *reason* is the associated reason code (all in hexadecimal).

System action

The subtask ends abnormally, and a dump is normally issued. The exit is disabled until its load module in the CSQXLIB data set is refreshed.

System programmer response

User completion codes are generally the result of errors detected by the exit itself. If a system completion code is shown, see the *z/OS MVS System Codes* documentation for information about the problem in your exit.

CSQV457E

csect-name Unable to establish ESTAE, RC=*return-code*

Severity

8

Explanation

During startup processing, the recovery environment for a cluster workload user exit task could not be set up. *return-code* is the return code (in hexadecimal) from the z/OS ESTAE service.

System action

The task does not start. Cluster workload user exits will be available providing at least one task starts.

System programmer response

Go to the appropriate volume of the *z/OS MVS Programming: Assembler Services Reference* documentation for information about the return code from the ESTAE request. If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center for assistance.

CSQV459I

csect-name Unable to free storage for exits, RC=*return-code*

Explanation

An attempt to release some storage that was used by exits failed. *return-code* is the return code (in hexadecimal) from the z/OS STORAGE service.

System action

Processing continues.

System programmer response

Go to the appropriate volume of the *z/OS MVS Programming: Assembler Services Reference* documentation for information about the return code from the [STORAGE](#) request.

CSQV460I

csect-name Cluster workload exits are disabled but **CLWLEXIT** is set.

Explanation

A **CLWLEXIT** value is on the queue manager when it is started, however cluster workload exits are not enabled, and are prevented from operating.

System action

Message [CSQV461D](#) is issued, but **CLWLEXITs** are not enabled.

CSQV461D

csect-name

Reply Y to continue startup with CLWLEXIT not enabled, or N to shutdown.

Explanation

Issued after message [CSQV460I](#). Due to a **CLWLEXIT** being set in the queue manager with cluster workload exits not enabled, a reply is required to continue startup with cluster workload exits not enabled.

System action

Queue manager startup waits for the reply from the operator. Replying Y allows the queue manager to continue startup with cluster workload exits not enabled. Replying N shuts down the queue manager with abend reason [00D40039](#).

While cluster workload exits are not enabled, the **CLWLEXIT** value can only be changed to a blank value, and the exit will not function. You should use the IBM MQ supplied workload balancing algorithm and attributes, to alter how objects are selected, and remove the **CLWLEXIT** value. See [Workload balancing in clusters](#) for more information.

For further information contact IBM Support.

Instrumentation facilities messages (CSQW...)

CSQW001I

ASYNCHRONOUSLY GATHERED DATA IS BEING FORMATTED

Explanation

The dump formatting exit is not using summary dump records for formatting. The formatted control blocks might not contain the same values as they did at the time of the error.

System action

Dump formatting continues.

System programmer response

If you want summary dump records to be used, do not specify the 'SUMDUMP=NO' operand on the MQ DUMP DISPLAY MAIN MENU (if you are using the dump display panels), or in the CSQWDMP verbexit (if you are using line mode IPCS).

CSQW002I

SUMMARY DUMP RECORDS ARE BEING FORMATTED

Explanation

The dump formatting exit is using MQ summary dump record information to format its control blocks.

System action

Dump formatting continues.

System programmer response

If you do not want IBM MQ summary dump records to be used in formatting, specify the 'SUMDUMP=NO' and 'SUBSYS=subsystem name' on the MQ DUMP DISPLAY MAIN MENU (if you are using the dump display panels), or in the CSQWDMP verbexit (if you are using line mode IPCS). Both operands are required.

CSQW004E

ONE OR MORE OPERANDS ARE NOT VALID. FORMATTING TERMINATED

Explanation

An invalid operand was specified on the MQ DUMP DISPLAY MAIN MENU (if you are using the dump display panels), or in the CSQWDMP verbexit (if you are using line mode IPCS).

System action

The dump formatting exit terminates.

System programmer response

Correct the operand specified by message CSQW007E.

CSQW006E

THE ERLY BLOCK CANNOT BE ACCESSED OR IT IS INVALID

Explanation

The dump formatting exit could not locate its anchor block.

System action

The dump formatting exit terminates.

System programmer response

Specify 'SUBSYS=subsystem name', and 'SUMDUMP=NO' on the MQ DUMP DISPLAY MAIN MENU (if you are using the dump display panels), or in the CSQWDMP verbexit if you are using line mode IPCS.

CSQW007E

OPERAND IS NOT VALID: xxxx

Explanation

The specified operand was not a valid dump formatting operand.

System action

The dump formatting exit terminates.

System programmer response

Check the dump formatting operands.

CSQW008E

THE SCOM CANNOT BE ACCESSED OR IT IS INVALID

Explanation

An error was encountered while trying to retrieve the SCOM.

System action

The dump formatting exit terminates.

System programmer response

If 'SUMDUMP=NO' was specified on the MQ DUMP DISPLAY MAIN MENU (if you are using the dump display panels), or in the CSQWDMP verbexit (if you are using line mode IPCS) omit it and resubmit the request. Otherwise, specify this operand, and resubmit the request.

CSQW009E

THE ADDRESS SPACE REQUESTED IS NOT AVAILABLE

Explanation

The MQ control blocks for the address space specified could not be located.

System action

Formatting continues of any other requested dump segment.

System programmer response

Check the ASID specified. The ASID must be specified in hexadecimal.

CSQW010E

THE TRACE RMFT CANNOT BE ACCESSED OR IT IS INVALID

Explanation

The MQ trace table could not be located.

System action

Formatting of the MQ trace table is bypassed, and formatting continues of any other requested dump segment.

System programmer response

If 'SUMDUMP=NO' was specified try formatting the dump again using the summary dump because it could contain the information required to access this data.

If 'SUMDUMP=NO' was not specified, and the summary dump was used, try formatting the dump again specifying this option because the summary dump data could have been corrupted.

CSQW011I

A LARGER REGION SIZE IS REQUIRED FOR THIS JOB

Explanation

The dump formatting exit could not obtain a large enough work buffer to process the summary dump records.

System action

The dump formatting exit terminates.

System programmer response

Rerun the job, specifying a larger TSO region size (or a larger region size if running in batch).

CSQW013I

DMPW NOT FOUND IN SUMMARY DUMP

Explanation

The dump formatting exit was unable to locate the DMPW control block in the summary record portion of the dump data set. Because the DMPW provides the main anchor block for the dump formatter, processing is terminated.

System action

The dump formatting exit terminates.

System programmer response

Specify 'SUBSYS=xxxx' to identify which address space to format information for.

CSQW014I

REQUIRED SUMMARY DUMP RECORDS ARE NOT IN THIS DUMP. WILL ATTEMPT TO FORMAT FROM NON-SUMMARY DUMP

Explanation

Expected data could not be found in the summary dump. This message is issued for information only. Dump formatting continues.

System action

Formatting is attempted using information found from the full dump instead of the summary dump.

CSQW015I

SSCVT NOT LOCATED, CHECK THE SUBSYSTEM NAME SPECIFIED

Explanation

In a search through the SSCVT chain, a match of the subsystem name in the SSCVTs and the subsystem name specified was not found.

System action

Formatting for the named subsystem is not done.

System programmer response

Specify the subsystem name correctly.

CSQW016I

THE RMVT CANNOT BE ACCESSED OR IT IS INVALID

Explanation

The dump formatting exit could not locate the RMVT. The RMVT is required for formatting the MQ trace table and a number of other MQ control blocks.

System action

Formatting of the MQ trace table is bypassed, and formatting of other requested dump segments continues.

System programmer response

If 'SUMDUMP=NO' was specified try formatting the dump again using the summary dump because it could contain the information required to access this data.

If 'SUMDUMP=NO' was not specified, and the summary dump was used, try formatting the dump again specifying this option because the summary dump data could have been corrupted.

CSQW017E

MAXIMUM STACK LEVEL EXCEEDED

Explanation

This condition is usually caused by the MQ control block formatter looping. The stack array is depleted and can no longer accommodate control blocks.

System action

Dump formatting is terminated.

System programmer response

Contact your IBM support center.

CSQW018I

SUBSYS= SPECIFIED INCORRECTLY OR MISSING. REQUIRED IF SUMDUMP=NO SPECIFIED

Explanation

The 'SUMDUMP=NO' option was specified, but either the 'SUBSYS=' operand is missing, or it was incorrectly specified.

System action

Dump formatting is terminated.

System programmer response

Specify the name of the subsystem in the 'SUBSYS=' operand, and resubmit the request.

CSQW020I

UNSUCCESSFUL SEARCH FOR THE ERLY CONTROL BLOCK

Explanation

A key control block could not be located in the dump.

System action

Dump formatting is terminated.

System programmer response

Check that the 'SUBSYS=' operand was correctly specified, and resubmit the request.

CSQW022I

THE RESIDENT TRACE WAS NOT ACTIVE AT THE TIME OF DUMP

Explanation

Trace table formatting has been attempted, but no trace table existed at the time of the dump.

System action

Dump formatting continues with any other control blocks that were to be formatted.

CSQW023I

THE TRACE TABLE ENTRY IS OUT OF SEQUENCE OR OVERLAID

Explanation

A trace entry is overlaid by another trace entry of a different time stamp. This message is issued to flag an unrecognized trace entry. This error can occur if the dump is initiated by operator command, because the MQ address space continues to run while the dump is being taken.

System action

Formatting of the trace table continues.

CSQW024I

TRACE TABLE

Explanation

This identifies the start of the formatted trace table.

System action

Trace table formatting follows.

CSQW025I

ERROR ACCESSING THE TRACE TABLE

Explanation

A nonzero return code was returned from the storage access routine when accessing the trace table.

System action

Trace table formatting is bypassed.

CSQW026I

CONTROL BLOCK SUMMARY (ALL ADDRESS SPACES)

Explanation

This messages provides descriptive information about the type of formatting being produced.

System action

Dump formatting continues.

CSQW027I

CONTROL BLOCK SUMMARY (SINGLE ADDRESS SPACE)

Explanation

This messages provides descriptive information about the type of formatting being produced.

System action

Dump formatting continues.

CSQW028I

CONTROL BLOCK SUMMARY (LONG FORM GLOBAL)

Explanation

This messages provides descriptive information about the type of formatting being produced.

System action

Dump formatting continues.

CSQW029I

CONTROL BLOCK SUMMARY (SHORT FORM GLOBAL)

Explanation

This messages provides descriptive information about the type of formatting being produced.

System action

Dump formatting continues.

CSQW030E

DUMP ACCESS ERROR ACCESSING THE CONTROL BLOCK STRUCTURE TABLE IN THE DUMP

Explanation

A control block identifying the structure of MQ control blocks could not be found.

System action

Control block formatting is terminated.

System programmer response

Check the z/OS console to see if any messages were produced to indicate that there was a problem when the dump was taken. If you suspect an error in IBM MQ, see [Troubleshooting and support](#) for information about reporting the problem.

CSQW032E

ERROR ACCESSING ANCHOR CONTROL BLOCK

Explanation

A control block cannot be accessed from the dump.

System action

Control block formatting is terminated.

System programmer response

Check the z/OS console to see if any messages were produced to indicate that there was a problem when the dump was taken. If you suspect an error in IBM MQ, see [Troubleshooting and support](#) for information about reporting the problem.

CSQW033I

BEGINNING FORMATTING

Explanation

Formatting of MQ control blocks is beginning.

CSQW034I

TRACE TABLE AND GLOBAL BLOCKS ALREADY FORMATTED

Explanation

An indicative dump is being requested. The MQ trace table and the global blocks have already been formatted with first dump (full dump) for this abend dump (SNAP) invocation. These are, therefore, not formatted for this task.

CSQW035I

WARNING - NO TASK RELATED CONTROL BLOCKS FOR THIS TASK

Explanation

The task for which the dump is being requested is not identified to MQ. Task-related control blocks are not dumped. The MQ trace table and global blocks are dumped only if the SYSABEND DD statement is present and only if this is the first of the dumps (full dump) for this abend dump (SNAP) invocation.

System action

No MQ formatting is done for the specified task.

CSQW036I

CONTROL BLOCKS FOR TASKS ASSOCIATED WITH THE ABOVE RECOVERY COORDINATOR TASK

Explanation

The formatted blocks following this message are associated with tasks that have been identified to MQ with the 'recovery coordinator = no' option. These tasks might not have invoked SNAP, but they are associated with the task that did.

System action

The appropriate control blocks are formatted.

System programmer response

Examine the control blocks for relevant information.

CSQW037I

TASK RELATED CONTROL BLOCKS FOR THIS TASK

Explanation

The formatted blocks following this message are associated with the current task.

System action

The appropriate control blocks are formatted.

System programmer response

Examine the control blocks for relevant information.

CSQW038I

END OF FORMATTING

Explanation

Formatting of MQ control blocks is completed.

CSQW039I

FORMATTING COMPLETE FOR THIS DUMP

Explanation

The dump formatting exit has completed its processing for this dump data set.

CSQW041E

THE TAB CANNOT BE ACCESSED OR IT IS INVALID

Explanation

The MQ trace table anchor block could not be located.

System action

Formatting of the MQ trace table is bypassed, and formatting of any other requested dump segment continues.

System programmer response

If 'SUMDUMP=NO' was specified try formatting the dump again using the summary dump because it could contain the information required to access this data.

If 'SUMDUMP=NO' was not specified, and the summary dump was used, try formatting the dump again specifying this option because the summary dump data could have been corrupted.

Check the z/OS console to see if any messages were produced to indicate that there was a problem when the dump was taken. If you suspect an error in IBM MQ, see [Troubleshooting and support](#) for information about reporting the problem.

CSQW042E

REQUIRED SUMMARY DUMP RECORDS ARE NOT IN THIS DUMP. RERUN SPECIFYING SUBSYS= PARAMETER

Explanation

The summary dump records were not found in the dump. When this occurs the dump formatter needs the subsystem name to be able to identify which address space is to be formatted.

System action

Dump formatting is terminated.

System programmer response

Rerun the formatting specifying the parameter the subsystem name (using 'SUBSYS=').

CSQW049I

OLDEST SLOT ADDRESS INVALID, FORMATTING TRACE TABLE FROM FIRST ENTRY

Explanation

There are several pointers in the control block that defines the trace. One points to the start of the storage that contains the trace data, one to the end, and one to the next free record. The formatter has detected that the pointer to the next free record is outside the range indicated by the pointers to the start and end of the storage.

System action

Dump formatting continues, but from the physical start of the trace table, not the oldest record.

System programmer response

If the time of day values are meaningful, and in sequence, scan down the formatted trace to find the latest trace record written.

CSQW050I

ssnm NO SDWA/LOGREC, ABN=*comp-reason*, U=*userid*, M=*module*, C=*compid.vrm.comp-function*

Explanation

This message provides the default SVC dump title (SDUMP) associated with the SYS1.DUMP data set, when an SDWA was unavailable during recovery processing. The individual variable fields contain:

Field**Contents****ssnm**

MQ subsystem name

ABN

The abend completion code, followed by the abend reason code

U

The user ID for the individual subsystem user

M

The function recovery routine responsible for the dump

C

The component-ID

vrn

The MQ version, release number, and modification level

comp-function

The component-ID function

System action

Dump processing continues.

System programmer response

Since the SDWA provides important diagnostic information to assist in problem determination, the recovery environment at time of error should be examined to determine why an SDWA was not provided for this ABEND.

In a non-recovery environment, there might be valid reasons for the lack of an SDWA (for example, the operator could have initiated the dump).

CSQW051E

ERROR DURING DUMP PROCESSING

Explanation

This message is generated by the recovery routine of the SDUMP dump data gathering service when an error is encountered during dump processing.

System action

Processing of the SUMLSTA user storage areas is terminated, an SVC dump is requested, and control is returned to RTM.

System programmer response

This error is documented in a SYS1.LOGREC record. This message can be issued because of an error in the invocation of SDUMP, or because of an error in SDUMP itself, or during control block examination and access.

CSQW053I

VRA DIAGNOSTIC INFORMATION REPORT

Explanation

The variable recording area (VRA) is part of the system diagnostic work area (SDWA) and contains MQ diagnostic information. The VRA is extracted and displayed in this report.

For information about this report, see [Troubleshooting and support](#).

System action

Dump formatting continues.

CSQW054I

NO VRA DATA RECORDED IN SDWA

Explanation

The SDWA obtained from the SYS1.DUMP data set contained no diagnostic information in the VRA.

System action

VRA report generation is bypassed, dump format processing continues.

CSQW055I

UNABLE TO LOCATE SDWA

Explanation

The z/OS summary dump data access service routine (IEAVTFRD) was unable to locate the SDWA in the summary data portion of the SYS1.DUMP data set. SVC dumps only contain an SDWA if they are initiated by MQ. If the dump was initiated by any other means (such as the operator) the SDWA will not be present.

System action

No VRA is produced, and dump formatting continues.

CSQW056I

VRA DIAGNOSTIC REPORT COMPLETE

Explanation

The dump formatter has completed processing of the VRA diagnostic report.

System action

Dump formatting continues.

CSQW059I

SUMMARY OF CONNECTED JOBS

Explanation

A summary of information about connected jobs follows.

System action

Job summary information follows.

CSQW060I

BEGIN SAVE AREA TRACE

Explanation

This message identifies the start of the MQ register save area trace report which appears in the formatted section of an MQ SVC dump. This report is useful for problem determination because it contains the save areas for the agent execution block (EB) in error, and all associated agent EBs, traced from the point of error and displayed in order of invocation.

System action

Save area trace format processing continues for the agent EB in error, and all associated agent EBs.

CSQW061I

SAVE AREA TRACE COMPLETE

Explanation

This message indicates that the MQ formatted save area trace report (CSQW060I) is complete.

System action

Dump formatting continues.

CSQW062I

R6 (R6-contents) DOES NOT CONTAIN A VALID EB ADDRESS

Explanation

During dump format processing of the MQ formatted save area trace report (CSQW060I), register 6 (R6) did not contain the address of a valid agent execution block (EB).

System action

Save area trace format processing is terminated for the current agent EB, and all prior EBs.

CSQW063E

name (address) ASID (asid) NOT FOUND IN DUMP

Explanation

During processing of the save area trace report (CSQW060I), a control block or save area was not found in the dump data set.

Because the dump formatter uses the MQ and z/OS control blocks defined under the *name* field of this message to locate individual register save areas, subsequent save areas located using the *named* control block or save area will not be displayed in the report.

name

Identifies the name of the control block or save area that was not found in the dump data set:

SA

Indicates a save area

ASCE

MQ address space control element

EB

MQ execution block

TCB

z/OS task control block

RB

z/OS request block

XSB

z/OS extended status block

PSA

z/OS prefix save area

SDWA

z/OS system diagnostic work area

STSV

z/OS SRB status save area

STKE

z/OS cross memory stack element

address

The address of the named control block or save area.

asid

The address space identifier associated with the control block or save area.

Due to the execution structures and environmental restrictions of selected MQ and z/OS control structures, some control blocks and save areas associated with these execution environments will not be included in the dump data set.

System action

Register save area trace format processing for the current save area chains is terminated. Subsequent save area processing will vary depending on the specific control block or save area that was available, and the MQ agent execution environments at the time of the error.

CSQW064I

ERROR BLOCK NOT FOUND IN DUMP

Explanation

The dump formatter was unable to format a control block because the storage could not be found.

System action

Dump formatting continues.

CSQW065I

ERROR BLOCK LENGTH INCORRECT

Explanation

During the formatting of a control block, a mismatch was found between the expected length and the value determined from the dump.

System programmer response

You might find this message helpful when solving a more serious problem because it might indicate that a control block has been corrupted.

CSQW066I

ERROR BLOCK ID INCORRECT

Explanation

Each control block type has a unique identifier for verification. During the formatting of the control block, a mismatch occurred between the value expected and the value found in the control block in the dump.

System programmer response

This message could indicate that storage has been overlaid, and you might find it helpful when solving a more serious problem because it might indicate that a control block has been corrupted.

CSQW067I

ERROR BLOCK CHAINED FROM THIS BLOCK NOT FOUND IN DUMP

Explanation

Control blocks can contain pointers to other control blocks. A control block pointed to by the current control block could not be found in the dump.

System programmer response

This message could indicate that storage has been overlaid, and you might find it helpful when solving a more serious problem. The control block pointed to will have error message CSQW064I associated with it.

CSQW068I

ERROR BLOCK CHAINED FROM THIS BLOCK HAS INCORRECT ID

Explanation

Each control block type has a unique identifier for verification. During the formatting of a control block pointed to by the current control block, a mismatch occurred between the value expected and the value found in the control block in the dump.

System programmer response

This message could indicate that storage has been overlaid, and you might find it helpful when solving a more serious problem because it might indicate that a control block has been corrupted. The control block in error has error message CSQW066I associated with it.

CSQW069I

ERROR BLOCK EYECATCHER INCORRECT

Explanation

Each control block type has a unique eyecatcher for verification. During the formatting of the control block, a mismatch occurred between the value expected and the value found in the control block in the dump.

System programmer response

This message could indicate that storage has been overlaid, and you might find it helpful when solving a more serious problem because it might indicate that a control block has been corrupted.

CSQW070I

DUMP TITLE *dump-title*

Explanation

This shows the title of the dump.

CSQW072I

ENTRY: MQ user parameter trace

Explanation

This message is inserted into the formatted MQ trace to indicate that the control block was traced on entry to MQ.

CSQW073I

EXIT: MQ user parameter trace

Explanation

This message is inserted into the formatted MQ trace to indicate that the control block was traced on exit from MQ.

CSQW074I

ERROR: MQ user parameter trace

Explanation

This message is inserted into the formatted MQ trace to indicate that the control block was traced because it was determined to be in error.

CSQW075I

WARNING - data was truncated at 256 bytes

Explanation

This message is inserted into the formatted MQ trace when a control block has exceeded a 256 byte length limit.

CSQW076I

Return code was *mqrc*

Explanation

This message is inserted into the formatted MQ trace when an error has been detected. *mqrc* is the return code. Refer to [“API 完了コードと理由コード” on page 1123](#) for information about this code.

CSQW105E

ERROR DURING LOAD OR VALIDATION OF A CONTROL BLOCK STRUCTURE TABLE MODULE

Explanation

The MQ dump formatting facility cannot be used to format control blocks. An error occurred during the startup process while attempting to LOAD one of the Control Block Structures Table modules (CSQWDST1, CSQWDST2, CSQWDST3, and CSQWDST4) from the MQ program library.

System action

Queue manager startup processing continues.

System programmer response

If you expect to experience problems, stop your queue manager, resolve the problem, and restart. If you do not anticipate that this error will cause problems, you can stop and restart the queue manager at a convenient time.

CSQW108E

UNABLE TO AUTOMATICALLY START '*type*' TRACE

Explanation

System parameters indicated that an MQ trace should be started automatically during queue manager initialization, but the queue manager was unable to start the trace.

System action

Queue manager initialization continues.

System programmer response

Start the trace with the START TRACE command after queue manager initialization is complete.

CSQW109E

TRACE INITIALIZATION PARAMETERS UNAVAILABLE, DEFAULTS USED FOR '*type*' TRACE

Explanation

The trace function was unable to access the trace initialization parameters defined by the CSQ6SYSP macro. Default values as defined by that macro are assumed for trace parameters.

System action

Queue manager initialization continues.

System programmer response

Determine if the system parameter load module (the default version is called CSQZPARM) is missing or inaccessible. Trace can be started with the START TRACE command.

CSQW120E

DEST VALUE IS INVALID FOR '*type*' TRACE

Explanation

A trace command has been entered, but the specified destination value is not valid for the trace type requested.

System action

Processing for the TRACE command is terminated.

System programmer response

If a START TRACE command was entered, specify a valid destination for the trace. Otherwise, a DISPLAY TRACE command can be issued to determine what traces are currently active. See [MQSC commands](#) for information about valid destinations.

CSQW121E

CLASS VALUE IS INVALID FOR '*type*' TRACE

Explanation

A trace command has been entered, but the specified class value is not valid for the trace type requested.

System action

Processing for the TRACE command is terminated.

System programmer response

If a START TRACE command was entered, specify a valid class for the trace. Otherwise, a DISPLAY TRACE command can be issued to determine what options are currently active. See [MQSC commands](#) for information about valid classes.

CSQW122E

'*keyword*' IS NOT VALID FOR '*type*' TRACE

Explanation

A trace command has been entered, but *keyword* is not valid for the trace type specified.

System action

Processing for the TRACE command is terminated.

System programmer response

Either the named keyword must be omitted from the command, or a different type of trace must be specified. See [MQSC commands](#) for information about valid combinations of keywords and trace types.

CSQW123I

csect-name TRACE RECORDING HAS BEEN RESUMED ON *dest*

Explanation

dest destination has resumed acceptance of trace data after an error.

System action

Data recording is resumed.

CSQW124E

csect-name 'type' TRACE TERMINATED RC=*code* RMID=*nn*

Explanation

During processing *type* trace, processing ended due to an error. A trace type of blank indicates all tracing has stopped. RMID, displayed in decimal, identifies the resource manager. For information on IBM MQ RMIDs, see the TRACE commands in [MQSC commands](#).

code, displayed in hexadecimal, specifies the return, reason, or abend code associated with the action. Refer to ["IBM MQ for z/OS codes"](#) on page 915 for information about these codes.

For codes caused by errors that are not generated by IBM MQ for z/OS, see the [z/OS System completion codes](#) for further information.

Further collection of the named trace is stopped. If it is necessary to resume collection of the trace, a START TRACE command can be issued. However if another error is experienced, the problem should be resolved before starting the trace collection again.

System action

Processing for the named trace type is stopped. The message is not externalized by the functional recovery routine, but is output whenever an IFC event is driven at a later time. A trace type of blank indicates all tracing has stopped.

System programmer response

Investigate the reasons for the error. If necessary to collect the named trace, issue a START TRACE command to resume processing.

CSQW125E

MULTIPLE VALUES NOT ALLOWED FOR *keyword* AND *keyword*

Explanation

Multiple values were specified for both of the named keywords. At most one of these keywords is allowed multiple values on a single command.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Reenter a valid command. See [MQSC commands](#) for additional information.

CSQW126E

'*type*' TRACE NOT ALLOWED, ACTIVE TRACE TABLE FULL

Explanation

The *type* trace cannot be started because the active trace table has reached the maximum number of active traces allowed.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Use the DISPLAY TRACE command to see if an active trace could be stopped. An active trace must be stopped before any other start trace command will be processed.

CSQW127I

CURRENT TRACE ACTIVITY IS -

Explanation

This message is issued in response to the DISPLAY TRACE command. For each trace that is active, the message indicates the trace number, the type of trace, the class(es) within type, the destination(s) for the trace entries, the user ID, and the RMID(s), as follows:

TNO	TYPE	CLASS	DEST	USERID	RMID	<i>tno type class dest userid rmid</i>	END OF TRACE REPORT
						<i>tno type class dest userid rmid</i>	

The trace number *tno* can be:

01-03

A trace started automatically when the queue manager started, or a trace started by a START TRACE command.

04-32

A trace started by a START TRACE command.

00

The global trace started automatically when the channel initiator started.

Notes:

1. For TRACE(S) CLASS(4) (channel initiator statistics), the traces will only be gathered when the channel initiator is active and message [CSQX128I](#) has been output.
2. For TRACE(A) CLASS(4) (channel accounting), the traces will only be gathered when the channel initiator is active and message [CSQX126I](#) has been output.

CSQW130I

'*type*' TRACE STARTED, ASSIGNED TRACE NUMBER *tno*

Explanation

In response to a command, or automatically during queue manager initialization, a *type* trace has been started and assigned the trace number *tno*. Multiple messages are possible when the start command specifies multiple user identifiers.

System action

Processing for the request continues. If the specified trace applies to the channel initiator, a request will be queued: see message CSQW152I.

CSQW131I

STOP TRACE SUCCESSFUL FOR TRACE NUMBER(S) *tno*,...

Explanation

In response to a command, the trace number(s), *tno*,..., have been stopped. Up to five trace numbers can be listed. If more than five traces have been stopped, another CSQW131I message is sent.

System action

Processing for the request continues. If the specified trace applies to the channel initiator, a request will be queued: see message CSQW152I.

CSQW132I

ALTER TRACE SUCCESSFUL FOR TRACE NUMBER *tno*

Explanation

The trace number *tno* has been altered.

System action

Processing for the request continues.

CSQW133E

csect-name TRACE DATA LOST, *dest* NOT ACCESSIBLE RC=*code*

Explanation

The destination specified stopped accepting trace data during a trace. Some external condition caused the data rejection. The reason for the error is defined by the return code (RC). The value of *code* can be:

- The hexadecimal return code from SMF. See the [z/OS MVS System Management Facilities \(SMF\)](#) documentation for the specific value.
- The hexadecimal return code from the GTF request

04

GTF trace and/or USR tracing is not active

- The hexadecimal return code from the SRV request

10

The serviceability routine is absent

xx

The serviceability routine return code

System action

Trace processing continues, although data is lost.

System programmer response

Investigate the GTF or SMF facility to determine why data is not being accepted. You can issue a START TRACE command to record the data at another destination. The DISPLAY TRACE command shows what types of data were recorded at the specified destination.

See the [z/OS MVS System Management Facilities \(SMF\)](#) documentation for an explanation of the return code value.

CSQW135I

'*type*' TRACE ALREADY ACTIVE, TRACE NUMBER *tno*

Explanation

type trace was already active with trace number *tno*.

System action

Processing for the trace already in progress will continue.

CSQW137I

SPECIFIED TRACE NOT ACTIVE

Explanation

Either:

- A command requested action for a specific trace, but that trace could not be found in the active trace table.
- A command requested action for all traces, but there are no traces active.

System action

Processing for the command continues.

System programmer response

Issue an unqualified DISPLAY TRACE command (that is, DISPLAY TRACE(*) without any other keywords) to determine all the active trace entries.

CSQW138E

IFCID *ifcid-number* IS INVALID

Explanation

The specified IFCID number is outside the range of valid IFCID numbers or is an IFCID number which is not allowed on a trace command.

System action

Processing of the trace command is terminated before any trace functions are performed.

System programmer response

See the TRACE commands in [MQSC commands](#) and [Line trace](#) for more information.

CSQW144E

CHANNEL INITIATOR NOT ACTIVE

Explanation

TRACE(CHINIT) was specified, but the channel initiator is not active.

System action

The command is not actioned.

System programmer response

Issue the START CHINIT command to start the channel initiator, and reissue the command.

CSQW149E

RMID 231 IS OBSOLETE - USE TRACE(CHINIT)

Explanation

The command specifies RMID 231, which was formerly used for channel initiator traces, but is now obsolete. For channel initiator traces, specify TRACE(CHINIT).

System action

The command is not actioned.

System programmer response

Issue the command correctly. If both queue manager and channel initiator tracing is required, issue two separate commands.

CSQW152I

TRACE REQUEST FOR CHANNEL INITIATOR QUEUED

Explanation

Initial processing for a trace command has completed successfully. The command requires further action by the channel initiator, for which a request has been queued.

System action

A request has been queued for the channel initiator. Further messages will be produced when the command has been completed.

CSQW153E

csect-name STORAGE NOT AVAILABLE FOR NEW TRACE TABLE

Explanation

There is insufficient storage in ECSA for a new global trace table as requested by a previous SET SYSTEM TRACTBL command.

System action

Processing continues using the existing global trace table.

System programmer response

Investigate how ECSA storage is being used. Issue a further SET SYSTEM TRACTBL command to set the trace table size to an acceptable value.

CSQW200E

Error during STORAGE OBTAIN macro. Return code= *rc*

Explanation

The z/OS STORAGE macro was issued to obtain storage for the trace formatter. The request failed with return code *rc*.

System action

Formatting of control blocks stops, and a hexadecimal dump of the record is produced. (This might be only part of the logical record.)

System programmer response

See the appropriate volume of the *z/OS MVS Assembler Services Reference* manual for information about the STORAGE *rc*. You can usually resolve this problem by increasing the size of your TSO or batch region. When the problem has been solved, retry the operation.

CSQW201E

Error during STORAGE RELEASE macro. Return code= *rc*

Explanation

The z/OS STORAGE macro was issued to release some storage. The request failed with return code *rc*.

System action

Formatting of control blocks stops, and a hexadecimal dump of the record is produced. (This might be only part of the logical record.)

System programmer response

Try processing the dump again. If the problem persists, note the value of *rc*, and contact your IBM support center.

CSQW202E

Incomplete trace record detected

Explanation

A long trace record has been segmented, and the start record for the record currently being processed has not been processed.

This usually occurs when records within a time range have been selected for processing. The record with the start of segment flag is probably before the start of the selected time interval. This can also occur if the Generalized Trace Facility (GTF) is unable to write all records to the GTF data set.

System action

A hexadecimal dump of the record is produced, and formatting continues with the next record. (You will receive this message for each subsequent part of this logical record.)

System programmer response

Select a slightly earlier start time for your time interval (one tenth of a second for example) and retry the operation. If this is not successful, it is possible that your trace table has wrapped, and the start record has been overwritten.

CSQW204E

Internal error

Explanation

An internal error has occurred.

System action

A hexadecimal dump of the record is produced, and formatting continues with the next record. This message might be followed by message CSQW202E.

System programmer response

Try processing the dump again. If the problem persists, contact your IBM support center.

CSQW205E

Internal error

Explanation

An internal error has occurred.

System action

This, and all subsequent records are displayed in hexadecimal. IBM MQ trace formatting is suppressed.

System programmer response

Try processing the dump again. If the problem persists, contact your IBM support center.

CSQW206I

Accounting record

Explanation

This message identifies this record as an accounting record.

System action

A hexadecimal dump of the record is produced, and formatting continues with the next record.

CSQW207I

A Null Self Defining section was detected

Explanation

The MQ trace formatter has detected a self-defining section of zero length.

System action

Formatting continues with the next self-defining section.

CSQW208E

Invalid address detected

Explanation

The MQ trace formatter has been passed an invalid address. The address is in low storage.

System action

Formatting of the record is suppressed. Formatting continues with the next record.

CSQW209I

A null length data item was detected

Explanation

The MQ trace formatter detected a data item of zero length.

System action

Formatting continues with the next data item.

CSQW210E

Invalid record detected

Explanation

The format of a record was different from the format expected by the IBM MQ trace formatter.

System action

A hexadecimal dump is produced, and formatting continues with the next record.

System programmer response

Try processing the dump again. If the problem persists, contact your z/OS support center.

CSQW701E

csect-name ENFREQ request failed, RC=*rc*

Explanation

A z/OS ENFREQ request failed. *rc* is the return code (in hexadecimal) from the request.

System action

Processing continues.

System programmer response

See the appropriate volume of the *z/OS MVS Authorized Assembler Services Reference* documentation for information about the return codes from the [ENFREQ](#) command.

 **Distributed queuing messages (CSQX...)****CSQX000I**

IBM MQ for z/OS V*n*

Severity

0

Explanation

This message is issued when the channel initiator starts, and shows the release level.

CSQX001I

csect-name Channel initiator starting

Severity

0

Explanation

The channel initiator address space is starting, in response to a [START CHINIT](#) command.

System action

Channel initiator startup processing begins. Message [CSQX022I](#) is sent when the startup process has completed.

CSQX002I

csect-name Queue sharing group is *qsg-name*

Severity

0

Explanation

This is issued during channel initiator startup processing or in response to the [DISPLAY CHINIT](#) command if the queue manager that the channel initiator uses is in a queue sharing group.

System action

Processing continues.

CSQX003I

csect-name Obsolete parameter module ignored

Severity

0

Explanation

The [START CHINIT](#) command specified a parameter module name using the PARM keyword. The use of a channel initiator parameter module is obsolete, so the name is ignored.

System action

Processing continues.

System programmer response

Channel initiator parameters are specified by queue manager attributes. Use the [ALTER QMGR](#) command to set the values you want.

CSQX004I

V 9.4.0 Channel initiator storage usage :

Local storage: used 31-*used* MB, free 31-*free* MB

Above bar: used 64-*used*, free 64-*free*

Explanation

V 9.4.0 Displays the amount of virtual storage currently used and available in the extended private region, and above the bar. Values are approximate.

This message is logged at channel initiator start and then either every hour if the usage does not change or when the memory usage changes (up or down) by more than 2%.

V 9.4.0 The amount of currently used extended private region storage is also given in the *qcctstus* field in the SMF 115, subtype 231, record. 64-bit storage can be obtained from RMF, and is given in the *qcctstab* field in the SMF 115, subtype 231, record.

System action

Processing continues.

System programmer response

No action is required at this time. However, a frequent occurrence of this message might be an indication that the system is operating beyond the optimum region for the current configuration.

CSQX005E

csect-name Channel initiator failed to start

Severity

8

Explanation

A severe error, as reported in the preceding messages, occurred during channel initiator startup processing.

System action

The channel initiator started task ends.

System programmer response

Investigate the problem reported in the preceding messages.

CSQX006E

csect-name Channel initiator failed while stopping

Severity

8

Explanation

A severe error, as reported in the preceding messages, occurred during channel initiator termination processing.

System action

The channel initiator started task ends.

System programmer response

Investigate the problem reported in the preceding messages.

CSQX007E

csect-name Unable to connect to queue manager *qmgr-name*, MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

An attempt by the channel initiator to connect to the queue manager was unsuccessful.

System action

If the error occurred during the channel initiator startup procedure, the channel initiator does not start. In other cases, the component where the error occurred (message channel agent, dispatcher, adapter subtask, SSL server subtask, repository manager, or listener) does not start and the function it provides is unavailable; in most cases, the end result is that the channel initiator ends.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqcc* and *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center.

CSQX008E

csect-name Unable to disconnect from queue manager *qmgr-name*, MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

4

Explanation

An attempt by the channel initiator to disconnect from the queue manager was unsuccessful.

System action

Processing continues.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqcc* and *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center.

CSQX009I

csect-name Channel initiator stopping

Severity

8

Explanation

A severe error, as reported in the preceding messages, occurred during channel initiator processing; the channel initiator is unable to continue.

System action

The channel initiator ends.

System programmer response

Investigate the problem reported in the preceding messages.

CSQX010I

csect-name Channel initiator stopped

Severity

0

Explanation

The channel initiator ended following an error, as reported in the preceding messages.

System action

None.

CSQX011I

csect-name Client attachment available

Severity

0

Explanation

Clients can be attached to and MQI channels can be used with the channel initiator.

System action

The channel initiator startup processing continues.

CSQX012E

csect-name Unable to open *ddname* data set

Severity

4

Explanation

The *ddname* data set could not be opened, as reported in the preceding messages.

System action

Processing continues, but functions that require the data set will be inhibited. For example, if the exit library data set CSQXLIB cannot be opened, user channel and channel auto-definition exits will not be available, and channels that use them will not start. If the error information data set CSQSNAP cannot be opened, the error information will be lost.

System programmer response

Investigate the problem reported in the preceding messages.

CSQX013I

csect-name Address conflict for listener, port *port* address *ip-address*, TRPTYPE=TCP
INDISP=*disposition*

Severity

4

Explanation

A STOP LISTENER or START LISTENER command was issued specifying TRPTYPE(*trptype*) and INDISP(*disposition*), but that listener was already active for a port and IP address combination that conflicted with the requested port and IP address. If *ip-address* is '*', all IP addresses were requested.

The port and IP address combination specified must match a combination for which the listener is active. It cannot be a superset or a subset of that combination.

System action

None.

System programmer response

Reissue the command correctly if necessary.

CSQX014E

csect-name Listener exceeded channel limit, TRPTYPE=*trptype* INDISP=*disposition*

Severity

8

Explanation

The number of current channels using the indicated communications system *trptype* is the maximum allowed. The listener cannot accept an incoming request to start another channel; if the maximum is 0, the listener itself cannot start. (The name of the channel requested cannot be determined because the listener could not accept the request.) Current channels include stopped and retrying channels as well as active channels.

disposition shows which type of incoming requests the listener was handling:

QMGR

those directed to the target queue manager

GROUP

those directed to the queue sharing group.

The maximum allowed is specified in the TCPCHL or LU62CHL queue manager attribute, but may be reduced if a dispatcher fails, or if TCP/IP resources are restricted (as reported by message CSQX118I).

System action

The channel or listener does not start.

System programmer response

If the maximum allowed is zero, communications using the indicated system *trptype* are not allowed, and no such channels can be started. The listener also cannot be started. If the maximum allowed is non-zero, wait for some of the operating channels to end before restarting the remote channel, or use the ALTER QMGR command to increase TCPCHL or LU62CHL.

CSQX015I

csect-name started dispatchers started, *failed* failed

Severity

0

Explanation

The channel initiator startup procedure has started the requested number of dispatchers; *started* dispatchers started successfully and *failed* dispatchers did not start.

System action

The channel initiator startup processing continues. The number of current TCP/IP and LU 6.2 channels allowed will be reduced proportionately if some dispatchers did not start.

System programmer response

If the message indicates that some dispatchers failed, investigate the problem reported in the preceding messages.

CSQX016I

csect-name Listener already started, TRPTYPE=*trptype* INDISP=*disposition*

Severity

0

Explanation

A START LISTENER command was issued specifying TRPTYPE(*trptype*) and INDISP(*disposition*), but that listener was already active.

System action

None.

CSQX017I

csect-name Listener already started, port *port* address *ip-address*, TRPTYPE=TCP TRPTYPE=TCP INDISP=*disposition*

Severity

0

Explanation

A START LISTENER command was issued specifying TRPTYPE(TCP) and INDISP(*disposition*), but that listener was already active for the requested port and IP address. If *ip-address* is '*', all IP addresses were requested.

System action

None.

CSQX018I

csect-name Listener already stopped or stopping, TRPTYPE=*trptype* INDISP=*disposition*

Severity

0

Explanation

A STOP LISTENER or START LISTENER command was issued specifying TRPTYPE(*trptype*) and INDISP(*disposition*), but that listener was already stopped or in the process of stopping.

System action

None.

CSQX019I

csect-name Listener already stopped or stopping, port *port* address *ip-address*, TRPTYPE=TCP INDISP=*disposition*

Severity

0

Explanation

A `STOP LISTENER` or `START LISTENER` command was issued specifying `TRPTYPE(trptype)` and `INDISP(disposition)`, but that listener was already stopped or in the process of stopping for the requested port and IP address. If `ip-address` is '*', all IP addresses were requested.

System action

None.

CSQX020I

csect-name Shared channel recovery completed

Severity

0

Explanation

The channel initiator startup procedure has successfully completed the shared channel recovery process, for channels that were owned by itself and for channels that were owned by other queue managers.

System action

Processing continues.

System programmer response

See message [CSQM052I](#) issued by the queue manager for more details.

CSQX021E

csect-name Shared channel recovery error

Severity

0

Explanation

The channel initiator startup procedure did not complete the shared channel recovery process, because an error occurred.

System action

The recovery process is ended; some channels might have been recovered, while others have not.

System programmer response

See the error messages (such as [CSQM053E](#)) issued by the queue manager for more details. When the problem has been resolved, either start any unrecovered channels manually, or restart the channel initiator.

CSQX022I

csect-name Channel initiator initialization complete

Severity

0

Explanation

Initialization of the channel initiator completed normally, and the channel initiator is ready for use. Note, however, that processing of the `CSQINPX` command data set might still be in progress; its completion is shown by message [CSQU012I](#).

System action

None.

CSQX023I

csect-name Listener started, port *port* address *ip-address* `TRPTYPE=trptype` `INDISP=disposition`

Severity

0

Explanation

A listener has been started specifying TRPTYPE(*trptype*) and INDISP(*disposition*). This could either be because a START LISTENER command was issued, or because the listener was retrying. That listener is now active for the requested port and IP address. If *ip-address* is *, all IP addresses were requested.

System action

None.

CSQX024I

csect-name Listener stopped, port *port* address *ip-address* TRPTYPE=*trptype* INDISP=*disposition*

Severity

0

Explanation

A STOP LISTENER command was issued specifying TRPTYPE(*trptype*) and INDISP(*disposition*), or IBM MQ has tried to stop a listener because of a failure. That listener is no longer active for the requested port and IP address. If *ip-address* is *, all IP addresses were requested.

System action

None.

CSQX026E

csect-name Unable to locate the trace header, RC=12

Severity

8

Explanation

The trace formatting routine was unable to locate the trace control information in the trace data space in a dump of the channel initiator address space.

System action

Formatting ends.

System programmer response

The most likely cause is that the dump has not been produced correctly. Re-create the dump, and try again.

CSQX027E

csect-name Unable to get storage, RC=*return-code*

Severity

8

Explanation

An attempt to obtain some storage failed. *return-code* is the return code (in hexadecimal) from the z/OS STORAGE service.

System action

The component where the error occurred (message channel agent, dispatcher, adapter subtask, SSL server subtask, listener, repository manager, supervisor, or trace formatter) usually ends; in many cases, the end result will be that the channel initiator ends.

System programmer response

Go to the appropriate volume of the *z/OS MVS Programming: Assembler Services Reference* manual for information about the return code from the STORAGE request.

CSQX028E

csect-name Unable to free storage, RC=*return-code*

Severity

8

Explanation

An attempt to release some storage failed. *return-code* is the return code (in hexadecimal) from the z/OS STORAGE service.

System action

The component where the error occurred (message channel agent, dispatcher, adapter subtask, SSL server subtask, repository manager, or listener) usually ignores the error and continues processing.

System programmer response

Go to the appropriate volume of the *z/OS MVS Programming: Assembler Services Reference* manual for information about the return code from the STORAGE request.

CSQX029I

csect-name Queue manager *qmgr-name* stopping, MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc* (*mqr-text*)

Severity

0

Explanation

In response to an MQ API call, the queue manager notified the channel initiator that it is stopping.

System action

The channel initiator ends.

System programmer response

Refer to “API 完了コードと理由コード” on page 1123 for information about *mqqc* and *mqrc* (*mqr-text* provides the MQRC in textual form).

CSQX030I

csect-name '*type*' trace started, assigned trace number *tno*

Explanation

During channel initiator initialization, a *type* trace has been started automatically and assigned the trace number *tno*.

System action

Processing continues.

CSQX031E

csect-name Initialization command handler ended abnormally, reason=*00sssuuu*

Severity

8

Explanation

The initialization command handler, which processes the CSQINPX command data set, is ending abnormally. *sss* is the system completion code, and *uuu* is the user completion code (both in hexadecimal).

System action

The initialization command handler ends abnormally, but the channel initiator continues.

System programmer response

If a system completion code is shown, see the appropriate *System codes* manual for information about the problem; the message will normally be preceded by other messages giving additional information.

The most likely cause is erroneous definition of the CSQINPX and CSQOUTX data sets. For information about the initialization command handler and these data sets, see [Initialization commands](#). If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center.

CSQX032I

csect-name Initialization command handler ended

Severity

4

Explanation

The initialization command handler, which processes the CSQINPX command data set, was terminated before completing all the commands because the channel initiator is stopping, and so cannot process any more commands.

System action

The initialization command handler ends.

System programmer response

Refer to the CSQOUTX data set for information about the commands that were processed. If the channel initiator is not stopping because of a STOP command, refer to the preceding messages for information about the problem causing it to stop.

For information about the initialization command handler, see [Initialization commands](#).

CSQX033E

csect-name Channel initiator stopping because of errors

Severity

8

Explanation

A severe error, as reported in the preceding messages, occurred during channel initiator processing; the channel initiator is unable to continue.

System action

The channel initiator terminates.

System programmer response

Investigate the problem reported in the preceding messages.

CSQX034I

csect-name Channel initiator stopping because queue manager is stopping

Severity

0

Explanation

The queue manager notified the channel initiator that it is stopping.

System action

The channel initiator terminates.

CSQX035I

csect-name Connection to queue manager *qmgr-name* stopping or broken, MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

0

Explanation

In response to an MQ API call, the channel initiator found that its connection to the queue manager was no longer available.

System action

The channel initiator terminates.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqcc* and *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

CSQX036E

csect-name Unable to open *object-type(name)*, MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

An MQOPEN call for *name* was unsuccessful; *object-type* indicates whether *name* is a queue name, queue manager name, namelist name, channel name, topic name, or authentication information name. (The channel initiator can access channel definitions and authentication information as objects using the MQ API.)

System action

The component where the error occurred (message channel agent, dispatcher, adapter subtask, SSL server subtask, repository manager, listener, or supervisor) terminates. In the case of a message channel agent, the associated channel will be stopped.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqcc* and *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

The most common cause of the problem will be that the channel and queue definitions are incorrect.

CSQX037E

csect-name Unable to get message from *name*, MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

An MQGET call for queue *name* was unsuccessful.

System action

The component where the error occurred (message channel agent, dispatcher, adapter subtask, SSL server subtask, repository manager, listener, or supervisor) terminates. In the case of a message channel agent, the associated channel will be stopped.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqcc* and *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

CSQX038E

csect-name Unable to put message to *name*, MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

An MQPUT call for queue *name* was unsuccessful.

System action

The component where the error occurred (message channel agent, dispatcher, adapter subtask, SSL server subtask, repository manager, listener, or supervisor) terminates. In the case of a message channel agent, the associated channel will be stopped.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqcc* and *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

CSQX039E

csect-name Unable to close *name*, MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

4

Explanation

An MQCLOSE call for *name* was unsuccessful; *name* can be a queue name, queue manager name, namelist name, channel name, or authentication information name. (The channel initiator can access channel definitions and authentication information as objects using the IBM MQ API.)

System action

Processing continues.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqcc* and *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

CSQX040E

csect-name Unable to inquire attributes for *name*, MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

An MQINQ call for *name* was unsuccessful; *name* may be a queue name, queue manager name, namelist name, channel name, or authentication information name. (The channel initiator can access channel definitions and authentication information as objects using the MQ API.)

System action

The component where the error occurred (message channel agent, dispatcher, adapter subtask, SSL server subtask, repository manager, listener, or supervisor) terminates. In the case of a message channel agent, the associated channel will be stopped.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqcc* and *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

CSQX041E

csect-name Unable to set attributes for *name*, MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

An MQSET call for queue *name* was unsuccessful.

System action

The component where the error occurred (message channel agent, dispatcher, adapter subtask, SSL server subtask, listener, or supervisor) terminates. In the case of a message channel agent, the associated channel will be stopped.

System programmer response

Refer to “API 完了コードと理由コード” on page 1123 for information about *mqcc* and *mqrc* (*mqrctext* provides the MQRC in textual form).

CSQX042E

csect-name Unable to define *comp* to CTRACE, RC=*rc* reason=*reason*

Severity

8

Explanation

The CTRACE component definitions (for component *comp*) required by the channel initiator could not be defined. *rc* is the return code and *reason* is the reason code (both in hexadecimal) from the z/OS CTRACE service.

System action

The channel initiator does not start.

System programmer response

Go to the appropriate volume of the *z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference* manual for information about the return code from the CTRACE request.

If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center.

CSQX043E

csect-name Unable to delete *comp* from CTRACE, RC=*rc* reason=*reason*

Severity

4

Explanation

The CTRACE component definitions (for component *comp*) used by the channel initiator could not be deleted. *rc* is the return code and *reason* is the reason code (both in hexadecimal) from the z/OS CTRACE service.

System action

Channel initiator termination processing continues.

System programmer response

Go to the appropriate volume of the *z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference* manual for information about the return code from the CTRACE request.

If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center.

CSQX044E

csect-name Unable to initialize PC routines, RC=*rc* reason=*reason*

Severity

8

Explanation

The PC routines required by the channel initiator could not be defined. The reason code *reason* shows which z/OS service failed:

00E74007

LXRES failed

00E74008

ETCRE failed

00E74009

ETCON failed

rc is the return code (in hexadecimal) from the indicated z/OS service.

System action

The channel initiator does not start.

System programmer response

Go to the appropriate volume of the *z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference* manual for information about the return codes from:

- [LXRES](#)
- [ETCRE](#)
- [ETCON](#)

If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center.

CSQX045E

csect-name Unable to load *module-name*, reason=*sssssrrrr*

Explanation

The channel initiator was unable to load a required module. *ssss* is the completion code and *rrrr* is the reason code (both in hexadecimal) from the z/OS LOAD service.

System action

The component where the error occurred (message channel agent, dispatcher, adapter subtask, SSL server subtask, repository manager, or listener) does not start and the function it provides is unavailable; in many cases, the end result is that the channel initiator terminates.

System programmer response

Check the console for messages indicating why the module was not loaded.

Go to the appropriate volume of the *z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference* manual for information about the return code from the [LOAD](#) request.

Ensure that the module is in the required library, and that it is referenced correctly. The channel initiator attempts to load this module from the library data sets under the STEPLIB DD statement of its started task JCL procedure xxxxCHIN.

CSQX046E

csect-name Unable to initialize data conversion services, reason=*reason*

Severity

8

Explanation

The data conversion services required by the channel initiator could not be initialized. The reason code *reason* shows why:

00C10002

Unable to load modules

00C10003

Insufficient storage

other

Internal error

System action

The channel initiator does not start.

System programmer response

Check the console for messages indicating that a module was not loaded. Ensure that the module is in the required library, and that it is referenced correctly. The channel initiator attempts to load this module from the library data sets under the STEPLIB DD statement of its started task JCL procedure xxxxCHIN.

If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center.

CSQX047E

csect-name Unable to commit messages for *name*, MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

An MQCMIT call involving messages for queue *name* was unsuccessful.

System action

The component where the error occurred (supervisor) terminates.

System programmer response

Refer to “API 完了コードと理由コード” on page 1123 for information about *mqqc* and *mqrc* (*mqqc-text* provides the MQRC in textual form).

CSQX048I

csect-name Unable to convert message for *name*, MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc* (*mqqc-text*)

Severity

0

Explanation

A message being put to an IMS bridge queue *name* required data conversion, but the conversion was not successful.

System action

The message is put without conversion, and processing continues.

System programmer response

Refer to “API 完了コードと理由コード” on page 1123 for information about *mqqc* and *mqrc* (*mqqc-text* provides the MQRC in textual form).

CSQX049E

csect-name Unable to retrieve token for name *name*, RC=*rc*

Severity

8

Explanation

A token in a name/token pair required by the channel initiator could not be retrieved. *rc* is the return code (in hexadecimal) from the z/OS IEANTRT service.

System action

The channel initiator does not start.

System programmer response

Go to the appropriate volume of the *z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference* manual for information about the return code from the [IEANTRT](#) request.

If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center.

CSQX050E

csect-name Unable to create access list for queue manager, RC=*rc*

Severity

8

Explanation

The channel initiator could not create the necessary storage access list for the queue manager to use. *rc* is the return code (in hexadecimal) from the z/OS ALESERV service.

System action

The channel initiator does not start.

System programmer response

Go to the appropriate volume of the *z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference* manual for information about the return code from the [ALESERV](#) request.

If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center.

CSQX051E

csect-name Unable to share storage with the queue manager, RC=*rc*

Severity

8

Explanation

A request by the channel initiator to allow the queue manager to share some storage failed. *rc* is the return code (in hexadecimal) from the z/OS IARVSERV service.

System action

The channel initiator does not start.

System programmer response

Go to the appropriate volume of the *z/OS MVS Programming: Assembler Services Reference* manual for information about the return code from the [IARVSERV](#) request.

If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center.

CSQX052E

csect-name Timer task attach failed, RC=*return-code*

Severity

8

Explanation

The repository manager task could not be attached. *return-code* is the return code (in hexadecimal) from the z/OS ATTACH service.

System action

The channel initiator terminates.

System programmer response

See the appropriate volume of the *z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference* manual for information about the return code from the [ATTACH](#) request. If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center.

CSQX053E

csect-name Error information recorded in CSQSNAP data set

Severity

8

Explanation

An internal error has occurred. Information about the error is written to the data set identified by the CSQSNAP DD statement of the channel initiator started task JCL procedure, xxxxCHIN.

System action

Processing continues.

System programmer response

Collect the items listed in the Problem Determination section and contact your IBM support center.

CSQX054E

csect-name Repository manager ended abnormally, reason=*sssuuu-reason*

Severity

8

Explanation

The repository manager is ending abnormally because an error that cannot be corrected has occurred. *sss* is the system completion code, *uuu* is the user completion code, and *reason* is the associated reason code (all in hexadecimal).

System action

The repository manager ends abnormally, and a dump is normally issued. The channel initiator will attempt to restart it.

System programmer response

User completion codes are generally the result of errors detected by the Language Environment; see the *z/OS Language Environment Runtime Messages* manual for information about these codes. Otherwise, contact your IBM support center to report the problem.

CSQX055E

csect-name Repository manager attach failed, RC=*return-code*

Severity

8

Explanation

The repository manager task could not be attached. *return-code* is the return code (in hexadecimal) from the z/OS ATTACH service.

System action

The channel initiator terminates.

System programmer response

See the appropriate volume of the *z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference* manual for information about the return code from the [ATTACH](#) request. If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center.

CSQX056E

csect-name Preinitialization services request failed, function code=*func*, RC=*rc*

Severity

8

Explanation

A preinitialization services (CEEPIPI) call failed. *func* is the function code used (in decimal) and *rc* is the return code (in hexadecimal) from the call.

System action

The component where the error occurred (message channel agent or SSL server subtask) terminates. In the case of a message channel agent, the associated channel will be stopped.

System programmer response

See *z/OS Language Environment Vendor Interfaces* for information about the return code from the [CEEPIPI](#) call. If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center.

CSQX057E

csect-name Cluster cache task attach failed, RC=*return-code*

Severity

8

Explanation

The channel initiator cluster cache task could not be attached. *return-code* is the return code (in hexadecimal) from the z/OS ATTACH service.

System action

The channel initiator terminates.

System programmer response

See the appropriate volume of the *z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference* manual for information about the return code from the [ATTACH](#) request. If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center.

CSQX058E

csect-name Pause service *service-name* failed, RC=*return-code*

Severity

8

Explanation

An error occurred processing a pause element. *return-code* is the return code (in hexadecimal) from the z/OS pause service *service-name*.

System action

The component where the error occurred (message channel agent, repository manager, cluster cache extension task,) usually terminates; in many cases, the end result will be that the channel initiator terminates. This can also be issued without a subsequent abend and therefore without termination, as the error has been tolerated.

System programmer response

See the appropriate volume of the *z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference* manual for information about the return code from the [IEAVPSE pause service](#) request. If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center. No action is required when CSQX058E is issued during channel initiator startup, if the channel initiator had previously terminated abnormally.

CSQX059E

csect-name Unable to increase cluster cache

Severity

8

Explanation

The dynamic cluster cache cannot be increased because the channel initiator cluster cache task encountered an error.

System action

The channel initiator probably terminates.

System programmer response

Investigate the problem reported in any preceding messages.

CSQX060E

csect-name Queued Pub/Sub task attach failed, RC=*reason-code*

Severity

8

Explanation

The queued Publish/Subscribe task could not be attached. The *return-code* is the return code (in hexadecimal) from the z/OS ATTACH service.

System action

The channel initiator terminates.

System programmer response

See the appropriate volume of the *z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference* manual for information about the return code from the [ATTACH](#) request. If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center.

CSQX061E

csect-name Distributed Pub/Sub Offloader task attach failed, RC=*return-code*

Severity

8

Explanation

The Distributed Pub/Sub Offloader task could not be attached. *Return-code* is the return code (in hexadecimal) from the z/OS ATTACH service.

System action

The channel initiator terminates.

System programmer response

See the appropriate volume of the *z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference* manual for information about the return code from the [ATTACH](#) request. If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center.

CSQX062E

csect-name Distributed Pub/Sub tasks have insufficient command authority

Severity

8

Explanation

The PSMODE queue manager attribute has a value other than DISABLED but the channel initiator has insufficient authority to issue the `DISPLAY PUBSUB` command. Until such authority is granted, distributed publish/subscribe is unavailable.

System action

The channel initiator attempts to restart the distributed Pub/Sub tasks at 1 minute intervals. This message is issued on each subsequent attempt until the required authority has been granted or publish/subscribe is disabled.

System programmer response

Grant the channel initiator the required authority to access the command server queues and issue the `DISPLAY PUBSUB` command. For the required security definitions, see [Security considerations for the channel initiator on z/OS](#). Alternatively, if no publish subscribe operation is required, setting the PSMODE queue manager attribute to DISABLED prevents this message from being issued.

CSQX063I

csect-name Distributed Pub/Sub Offloader started

Severity

0

Explanation

The Distributed Pub/Sub Offloader task has started successfully.

System programmer response

None

CSQX064I

csect-name Distributed Pub/Sub Offloader stopped

Severity

0

Explanation

The Distributed Pub/Sub command Offloader task has stopped. This can be for one of three reasons:

- The channel initiator is stopping.
- The channel initiator is starting and the queues used by the distributed pub/sub offloader have not been defined because distributed pub/sub command processing is not required.
- An error has occurred.

System action

Processing continues, but distributed pub/sub is not available.

System programmer response

If an error has occurred, investigate the problem reported in the preceding messages.

CSQX065E

csect-name Unexpected error in distributed pub/sub Offloader

Severity

8

Explanation

The Distributed Pub/Sub command Offloader encountered an unexpected error

System action

Distributed publish/subscribe might no longer be available.

System programmer response

Investigate the problem reported in the preceding messages. If there are none or this does not resolve the problem contact IBM support.

CSQX066E

csect-name Refresh proxy subscriptions failed

Severity

8

Explanation

A [REFRESH QMGR TYPE\(PROXYSUB\)](#) was issued, but could not complete. This could be because the Channel Initiator is shutting down, or as a result of an error.

System action

Processing continues, but remote subscriptions are not resynchronized.

System programmer response

If an error has occurred, investigate the problem reported in the preceding messages.

CSQX067E

csect-name Error removing non durable remote subscriptions

Severity

8

Explanation

The Pub/Sub Offloader task is ending but was unable to remove one or more remote proxy subscriptions. If no previous error has occurred, this is likely to have been triggered by Queue Manager shut down.

System action

Processing continues, but remote subscriptions might continue to exist which are no longer valid. This could cause a build-up of publications for this Queue Manager on remote transmission queues.

System programmer response

If the Queue Manager is to be restarted immediately, these subscriptions will be cleaned up when initial resynchronization with the cluster occurs. If this is not the case, proxy subscriptions might need to be manually removed using [DELETE SUB](#) on other Queue Managers in the cluster. Investigate the problem reported in the preceding messages to see why resynchronization failed.

CSQX068I

csect-name Channel initiator has scavenged *mm* MB of transmission buffers

Explanation

Displays the amount of virtual storage that has been freed by the channel initiator transmission buffer scavenger task. This virtual storage value is displayed in megabytes (1048576 bytes), and is an approximation.

This message is logged when the amount of virtual storage used by the channel initiator is more than 75%. If storage has been freed the [CSQX004I](#) message is issued.

System action

Processing continues.

System programmer response

No action is required at this time. However, a frequent occurrence of this message might indicate the system is operating beyond the optimum region for the current configuration.

CSQX069E

csect-name Distributed Pub/Sub Offloader ended abnormally, reason=*sssuuu-reason*

Severity

8

Explanation

The Distributed Pub/Sub Offloader task is ending abnormally because an error that cannot be corrected has occurred. *sss* is the system completion code, *uuu* is the user completion code, and *reason* is the associated reason code (all in hexadecimal).

System action

The Distributed Pub/Sub Offloader task ends abnormally, and a dump is normally issued. Distributed publish/subscribe is no longer available.

System programmer response

User completion codes are generally the result of errors detected by the Language Environment; see the [z/OS Language Environment Programming Guide](#) for information about these codes. Otherwise, contact your IBM support center to report the problem.

CSQX070I

csect-name CHINIT parameters ...

Severity

0

Explanation

The channel initiator is being started with the parameter values shown in the following messages: CSQX071I, CSQX072I, CSQX073I, CSQX074I, CSQX075I, CSQX076I, CSQX078I, CSQX079I, CSQX080I, CSQX081I, CSQX082I, CSQX085I, CSQX090I, CSQX091I, CSQX092I, CSQX094I, CSQX099I.

System action

The channel initiator startup processing continues.

System programmer response

Channel initiator parameters are specified by queue manager attributes. Use the [ALTER QMGR](#) command to set the values you want.

CSQX093I

csect-name WLM/DNS is no longer supported

Severity

4

Explanation

The QMGR attribute DNSWLM is set to YES. This feature is no longer supported by z/OS Communications Server.

System action

Processing continues, but registration to the WLM/DNS server will not be attempted.

System programmer response

Issue the command

```
ALTER QMGR DNSWLM(NO)
```

and consider using Sysplex Distributor instead. See [Establishing a TCP connection Using Sysplex Distributor](#).

CSQX100E

csect-name Dispatcher failed to start, TCB=*tcb-name*

Severity

8

Explanation

A severe error, as reported in the preceding messages, occurred during dispatcher startup processing.

System action

The channel initiator will attempt to restart the dispatcher. The number of current TCP/IP and LU 6.2 channels allowed will be reduced proportionately.

System programmer response

Investigate the problem reported in the preceding messages.

CSQX101E

csect-name Dispatcher unable to schedule essential process *process*

Severity

8

Explanation

During dispatcher startup processing, one of the essential dispatcher processes (named *process*) could not be scheduled.

System action

The dispatcher does not start.

System programmer response

The most likely cause is insufficient storage. If increasing the available storage does not solve the problem, contact your IBM support center.

CSQX102E

csect-name Dispatcher linkage stack error, TCB=*tcb-name*

Severity

8

Explanation

The dispatcher using TCB *tcb-name* found an inconsistency in the linkage stack.

System action

The dispatcher ends abnormally with completion code X'5C6' and reason code X'00E7010E', and a dump is issued. The channel initiator will attempt to restart it.

System programmer response

The most likely cause is incorrect use of the linkage stack by a user channel exit; exits must issue any MQ API calls and return to the caller at the same linkage stack level as they were entered. If exits are not being used, or if they do not use the linkage stack, contact your IBM support center to report the problem.

CSQX103E

csect-name Dispatcher unexpected error, TCB=*tcb-name* RC=*return-code*

Severity

8

Explanation

The dispatcher using TCB *tcb-name* had an internal error.

System action

The dispatcher ends abnormally with completion code X'5C6' and reason code X'00E7010F', and a dump is issued. The channel initiator will attempt to restart it.

System programmer response

Contact your IBM support center to report the problem.

CSQX104E

csect-name Unable to establish ESTAE, RC=*return-code*

Severity

8

Explanation

During startup processing, the recovery environment could not be set up. *return-code* is the return code (in hexadecimal) from the z/OS ESTAE service.

System action

The component that was starting (dispatcher, adapter subtask, SSL server subtask, supervisor, repository manager, or channel initiator itself) does not start.

System programmer response

See the *Description of ESTAE* in the appropriate volume of the *z/OS MVS Programming: Assembler Services Reference* manual for information about the return code from the ESTAE request. If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center.

CSQX106E

csect-name Unable to connect to TCP/IP using USS, service '*serv*' RC=*return-code* reason=*reason*

Severity

4

Explanation

Use of TCP/IP with the z/OS UNIX System Services (z/OS UNIX) sockets interface was requested, but an error occurred. *return-code* and *reason* are the return and reason codes (both in hexadecimal) from the z/OS UNIX service *serv* that gave the error.

The most likely causes are:

- The user ID that the channel initiator uses is not set up correctly for use with z/OS UNIX. For example, it may not have a valid OMVS segment defined or its security profile may be incomplete.
- The TCPNAME queue manager attribute does not specify a valid TCP/IP stack name. These stack names are defined in the SUBFILESYSTYPE NAME parameter in member BPXPRMxx for SYS1.PARMLIB.
- The MAXFILEPROC or MAXPROCUSER parameter in member BPXPRMxx for SYS1.PARMLIB is too small.

System action

Processing continues, but communications using TCP/IP with the z/OS UNIX sockets interface will not be available.

System programmer response

See the *z/OS UNIX System Services Messages and Codes* manual for information about the codes from the service request.

CSQX110E

csect-name User data conversion exit error, TCB=*tcb-name* reason=*ssuuu-reason*

Severity

8

Explanation

A process for the dispatcher using TCB *tcb-name* is ending abnormally because an error that cannot be corrected has occurred in a user data conversion exit. *sss* is the system completion code, *uuu* is the user completion code, and *reason* is the associated reason code (all in hexadecimal).

System action

The process ends abnormally, and a dump is normally issued. The channel is stopped, and must be restarted manually.

System programmer response

User completion codes are generally the result of errors detected by the Language Environment; see the [Language Environment for z/OS Runtime Messages](#) manual for information about these codes. If a system completion code is shown, see the [z/OS MVS System Codes](#) manual for information about the problem in your exit.

CSQX111E

csect-name User channel exit error, TCB=*tcb-name* reason=*sssuuu-reason*

Severity

8

Explanation

A process for the dispatcher using TCB *tcb-name* is ending abnormally because an error that cannot be corrected has occurred in a user channel exit. *sss* is the system completion code, *uuu* is the user completion code, and *reason* is the associated reason code (all in hexadecimal).

System action

The process ends abnormally, and a dump is normally issued. The channel is stopped, and must be restarted manually. For auto-defined channels, the channel does not start.

System programmer response

User completion codes are generally the result of errors detected by the Language Environment; see the [Language Environment for z/OS Runtime Messages](#) manual for information about these codes. If a system completion code is shown, see the [z/OS MVS System Codes](#) manual for information about the problem in your exit.

CSQX112E

csect-name Dispatcher process error, TCB=*tcb-name* reason=*sssuuu-reason*

Severity

8

Explanation

A process run by the dispatcher using TCB *tcb-name* is ending abnormally because an error that cannot be corrected has occurred. *sss* is the system completion code, *uuu* is the user completion code, and *reason* is the associated reason code (all in hexadecimal).

System action

The process ends abnormally, and a dump is normally issued. If the process is a message channel agent, the channel is stopped, and will need to be restarted manually.

System programmer response

User completion codes are generally the result of errors detected by the Language Environment; see the [Language Environment for z/OS Runtime Messages](#) manual for information about these codes. If a system completion code is shown, and you are using user channel exits, check that your exit is setting its parameter lists correctly; otherwise, contact your IBM support center.

CSQX113E

csect-name Dispatcher ended abnormally, TCB=*tcb-name* reason=*sssuuu-reason*

Severity

8

Explanation

The dispatcher using TCB *tcb-name* is ending abnormally because an error that cannot be corrected has occurred. *sss* is the system completion code, *uuu* is the user completion code, and *reason* is the associated reason code (all in hexadecimal).

System action

The dispatcher ends abnormally, and a dump is normally issued. The channel initiator terminates.

System programmer response

User completion codes are generally the result of errors detected by the Language Environment; see the [Language Environment for z/OS Runtime Messages](#) manual for information about these codes. If a system completion code is shown, and you are using user channel exits, check that your exit is setting its parameter lists correctly; otherwise, contact your IBM support center.

CSQX114E

csect-name Dispatcher failed, reason=*reason*

Severity

8

Explanation

A dispatcher ended abnormally, as reported in the preceding messages, and could not be restarted. *reason* shows the type of failure:

0000000A

Startup error

0000000B

Linkage stack error

0000000D

Uncorrectable error

other

Completion code in the form 00*sssuuu*, where *sss* is the system completion code and *uuu* is the user completion code (both in hexadecimal).

System action

The channel initiator will attempt to restart the dispatcher. The number of current TCP/IP and LU 6.2 channels allowed will be reduced proportionately.

System programmer response

Investigate the problem reported in the preceding messages.

CSQX115E

csect-name Dispatcher not restarted - too many failures

Severity

8

Explanation

A dispatcher failed; because it had already failed too many times, the channel initiator did not attempt to restart it.

System action

The dispatcher is not restarted. The number of current TCP/IP and LU 6.2 channels allowed is reduced proportionately, and other processing capacity might be reduced.

System programmer response

Investigate the problems causing the dispatcher failures.

CSQX116I

csect-name Dispatcher restarted, *number* dispatchers active

Severity

0

Explanation

A dispatcher failed, but was successfully restarted by the channel initiator. *number* dispatchers are now active.

System action

Processing continues. The number of current TCP/IP and LU 6.2 channels allowed will be increased proportionately.

CSQX117I

csect-name Outgoing shared channels are restricted from starting for TCP communication

Severity

0

Explanation

A CHISERVP() service parm flag has been set which restricts the ability for this queue manager from being able to start an outgoing shared TCP channel. For more details on this flag contact IBM support. .

System action

Processing continues. This queue manager is unable to start outgoing shared TCP channels, and will not be selected during IBM MQ workload balanced start of a shared channel. This restriction persists until the flag is disabled and the channel initiator is restarted.

CSQX118I

csect-name TCP/IP channel limit reduced to *nn*

Severity

0

Explanation

This is issued during channel initiator startup processing and in response to the [DISPLAY CHINIT](#) command if the maximum number of current TCP/IP channels allowed is less than is specified in the TCPCHL queue manager attribute. This error can occur because:

- TCP/IP resources are restricted. The UNIX Systems Services MAXFILEPROC parameter (specified in the BPXPRMxx member of SYS1.PARMLIB) controls how many sockets each task is allowed: that is, how many channels each dispatcher is allowed
- Some dispatchers have failed and not been restarted; the number of current TCP/IP channels allowed is reduced proportionately

System programmer response

If TCP/IP resources are restricted, consider increasing either the UNIX Systems Services MAXFILEPROC parameter or the number of dispatchers if you need more current TCP/IP channels.

CSQX119I

csect-name LU 6.2 channel limit reduced to *nn*

Severity

0

Explanation

This is issued during channel initiator startup processing and in response to the [DISPLAY CHINIT](#) command if the maximum number of current LU 6.2 channels allowed is less than is specified in the LU62CHL queue manager attribute. This can occur because some dispatchers have failed and not been restarted; the number of current LU 6.2 channels allowed will be reduced proportionately.

CSQX120I

csect-name Shared channel recovery started for channels owned by this queue manager

Severity

0

Explanation

The channel initiator startup procedure is starting the shared channel recovery process, for channels that are owned by itself.

System action

Processing continues

System programmer response

See message [CSQM052I](#) issued by the queue manager for more details.

CSQX121I

csect-name Shared channel recovery started for channels owned by other queue managers in the same QSG

Severity

0

Explanation

The channel initiator startup procedure is starting the shared channel recovery process, for channels that are owned by other queue managers.

System action

Processing continues

System programmer response

See message [CSQM052I](#) issued by the queue manager for more details.

CSQX122E

csect-name Failed to process channel accounting, RC=*retcode*

Severity

8

Explanation

The channel initiator SMF task encountered an error processing channel accounting data. *retcode* contains the hexadecimal return code.

System action

Processing continues.

System programmer response

Contact your IBM support center.

CSQX123E

csect-name Failed to process channel initiator statistics, RC=*retcode*

Severity

8

Explanation

The channel initiator SMF task encountered an error processing channel initiator statistics data. *retcode* contains the hexadecimal return code.

System action

Processing continues.

System programmer response

Contact your IBM support center.

CSQX124E

csect-name SMF task ended abnormally, RC=*retcode*, reason=*reason*

Severity

8

Explanation

The channel initiator SMF task ended abnormally. Possible values for *reason* are:

C59592

The channel initiator failed to notify the SMF task to shutdown. *retcode* is the return code from the z/OS IEAVRLS service.

C59593

The SMF task encountered an error entering, or resuming from, the paused state. *retcode* is the return code from the z/OS IEAVPSE service.

C59594

During initialization of the SMF task an error occurred obtaining a pause element token (PET). *retcode* is the return code from the z/OS IEAVAPE service.

C59595

During initialization of the SMF task an error occurred obtaining storage.

System action

The channel initiator attempts to reattach the SMF task, unless the error occurred during:

- Channel initiator shutdown
- Obtaining storage (reason C59595)

System programmer response

For reason C59595, check MEMLIMIT for the channel initiator, or refer to the 256MB recommended limit.

For the other reasons, contact your IBM support center.

CSQX126I

csect-name Channel accounting collection started

Severity

0

Explanation

The channel initiator has started collecting channel accounting data.

System action

Channel accounting data for channels with STATCHL (HIGH|MED|LOW) is collected and written to the System Management Facility (SMF).

CSQX127I

csect-name Channel accounting collection stopped

Severity

0

Explanation

The channel initiator has stopped collecting channel accounting data.

System action

Channel accounting data that has been collected for channels with STATCHL (HIGH|MED|LOW) is written to the System Management Facility (SMF).

CSQX128I

csect-name Channel initiator statistics collection started

Severity

0

Explanation

The channel initiator has started collecting channel initiator statistics data.

System action

Channel initiator statistics data is collected and written to the System Management Facility (SMF).

CSQX129I

csect-name Channel initiator statistics collection stopped

Severity

0

Explanation

The channel initiator has stopped collecting channel initiator statistics data.

System action

Channel initiator statistics data that has been collected is written to the System Management Facility (SMF).

CSQX130E

csect-name queue-name is defined on a non-recoverable CF structure

Severity

8

Explanation

The shared channel synchronization queue *queue-name* is defined on a Coupling Facility (CF) structure that does not support recovery. This means that if the structure fails, shared channels might report message sequence errors, and might also lose messages.

System action

Processing continues.

System programmer response

Alter the CFSTRUCT object for the CF structure, where the shared channel synchronization queue is defined to RECOVER(YES), or plan to move the shared channel synchronization queue to the CSQSYSAPPL structure, which should be defined with RECOVER(YES).

CSQX140E

csect-name Adapter failed to start

Severity

8

Explanation

A severe error, as reported in the preceding messages, occurred during adapter subtask startup processing.

System action

The channel initiator will attempt to restart the adapter subtask.

System programmer response

Investigate the problem reported in the preceding messages.

CSQX141I

csect-name started adapter subtasks started, *failed* failed

Severity

0

Explanation

The channel initiator startup procedure has started the requested number of adapter subtasks; *started* adapter subtasks started successfully and *failed* adapter subtasks did not start.

System action

The channel initiator startup processing continues.

System programmer response

If the message indicates that some adapter subtasks failed, investigate the problem reported in the preceding messages.

CSQX142E

csect-name Adapter subtask failed to start, TCB=*tcb-name*

Severity

8

Explanation

A severe error, as reported in the preceding messages, occurred during adapter subtask startup processing.

System action

The channel initiator will attempt to restart the adapter subtask.

System programmer response

Investigate the problem reported in the preceding messages.

CSQX143E

csect-name Adapter subtask ended abnormally, TCB=*tcb-name* reason=*sssuuu-reason*

Severity

8

Explanation

The adapter subtask using TCB *tcb-name* is ending abnormally because an error that cannot be corrected has occurred. *sss* is the system completion code, *uuu* is the user completion code, and *reason* is the associated reason code (all in hexadecimal).

System action

The adapter subtask ends abnormally, and a dump is normally issued. The channel initiator will attempt to restart it.

System programmer response

User completion codes are generally the result of errors detected by the Language Environment; see the *Language Environment for z/OS Runtime Messages* manual for information about these codes. If a system completion code is shown, and you are using user channel exits, check that your exit is setting its parameter lists correctly; otherwise, contact your IBM support center.

CSQX144E

csect-name Adapter subtask attach failed, RC=*return-code*

Severity

8

Explanation

An adapter subtask could not be attached. *return-code* is the return code (in hexadecimal) from the z/OS ATTACH service.

System action

The adapter subtask is not restarted.

System programmer response

See the appropriate volume of the *z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference* manual for information about the return code from the [ATTACH](#) request. If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center.

CSQX145E

csect-name Adapter subtask not restarted - too many failures

Severity

8

Explanation

An adapter subtask failed; because it had already failed too many times, the channel initiator did not attempt to restart it.

System action

The adapter subtask is not restarted; processing capacity might therefore be reduced.

System programmer response

Investigate the problems causing the adapter subtask failures.

CSQX146I

csect-name Adapter subtask restarted, *active* subtasks active

Severity

0

Explanation

A adapter subtask failed, but was successfully restarted by the channel initiator. *active* adapter subtasks are now active.

System action

Processing continues.

CSQX150E

csect-name SSL server failed to start

Severity

8

Explanation

A severe error, as reported in the preceding messages, occurred during SSL server subtask startup processing.

System action

The channel initiator will attempt to restart the SSL server subtask.

System programmer response

Investigate the problem reported in the preceding messages.

CSQX151I

csect-name started SSL server subtasks started, *failed* failed

Severity

0

Explanation

The channel initiator startup procedure has started the requested number of SSL server subtasks; *started* SSL server subtasks started successfully and *failed* SSL server subtasks did not start.

System action

The channel initiator startup processing continues.

System programmer response

If the message indicates that some SSL server subtasks failed, investigate the problem reported in the preceding messages.

CSQX152E

csect-name SSL server subtask failed to start, TCB=*tcb-name*

Severity

8

Explanation

A severe error, as reported in the preceding messages, occurred during SSL server subtask startup processing.

System action

The channel initiator will attempt to restart the SSL server subtask.

System programmer response

Investigate the problem reported in the preceding messages.

CSQX153E

csect-name SSL server subtask ended abnormally, TCB=*tcb-name* reason=*sssuuu-reason*

Severity

8

Explanation

The SSL server subtask using TCB *tcb-name* is ending abnormally because an error that cannot be corrected has occurred. *sss* is the system completion code, *uuu* is the user completion code, and *reason* is the associated reason code (all in hexadecimal).

System action

The SSL server subtask ends abnormally, and a dump is normally issued. The channel initiator will attempt to restart it.

System programmer response

User completion codes are generally the result of errors detected by the Language Environment; see the *Language Environment for z/OS Runtime Messages* manual for information about these codes. If a system completion code is shown, and you are using user channel exits, check that your exit is setting its parameter lists correctly; otherwise, contact your IBM support center.

CSQX154E

csect-name SSL server subtask attach failed, RC=*return-code*

Severity

8

Explanation

An SSL server subtask could not be attached. *return-code* is the return code (in hexadecimal) from the z/OS ATTACH service.

System action

The SSL server subtask is not restarted.

System programmer response

See the appropriate volume of the *z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference* manual for information about the return code from the [ATTACH](#) request. If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center.

CSQX155E

csect-name SSL server subtask not restarted - too many failures

Severity

8

Explanation

An SSL server subtask failed; because it had already failed too many times, the channel initiator did not attempt to restart it.

System action

The SSL server subtask is not restarted; processing capacity might therefore be reduced.

System programmer response

Investigate the problems causing the SSL server subtask failures.

CSQX156I

csect-name SSL server subtask restarted, *active* subtasks active

Severity

0

Explanation

A SSL server subtask failed, but was successfully restarted by the channel initiator. *active* SSL server subtasks are now active.

System action

Processing continues.

CSQX160E

csect-name SSL communications unavailable

Severity

4

Explanation

SSLKEYR is required when communicating with the service.

SSL communications are requested but an error, as reported in the preceding messages, occurred during channel initiator startup processing.

System action

Processing continues.

System programmer response

Investigate the problem reported in the preceding messages. If you do not want to use SSL communications, set the SSLTASKS queue manager attribute to 0.

CSQX161E

csect-name SSL key repository name not specified

Severity

4

Explanation

SSLKEYR is required when communicating with the service.

SSL communications are requested but no SSL key repository name (SSLKEYR) is specified; that is, the SSLTASKS queue manager attribute is non-zero, but the SSLKEYR queue manager attribute is blank.

System action

Processing continues, but communications using SSL will not be available.

System programmer response

Use the [ALTER QMGR](#) command to specify a name for the SSL key repository with the SSLKEYR attribute, and restart the channel initiator. If you do not want to use SSL communications, set the SSLTASKS queue manager attribute to 0.

CSQX162E

csect-name SSL CRL namelist is empty or wrong type

Severity

4

Explanation

SSL communications are requested but the SSL authentication namelist specified by the SSLCRLNL queue manager attribute is empty or not of type AUTHINFO.

System action

If this message is displayed during CHINIT startup, then MQ communications using SSL are not available.

If the message is displayed after a change to the existing MQ SSL configuration and issuing the [REFRESH SECURITY TYPE\(SSL\)](#) command, then the changed MQ SSL configuration is rejected and the current MQ SSL configuration remains in force. This is to prevent a set of valid and working MQ SSL definitions being inadvertently deactivated by an incorrect change.

Processing continues.

System programmer response

Correct the definitions of the namelist, and start the channel initiator again. If you do not want to use SSL communications, set the SSLTASKS queue manager attribute to 0.

CSQX163I

csect-name SSL CRL namelist has too many names - first *n* used

Severity

4

Explanation

The SSL authentication namelist specified by the SSLCRLNL queue manager attribute has more names than are supported. The number supported is *n*.

System action

Processing continues; the excess names are ignored.

System programmer response

Correct the definitions of the namelist.

CSQX164E

csect-name Unable to access SSL key repository

Severity

4

Explanation

The SSL key repository, with a name that is specified by the SSLKEYR queue manager attribute, could not be accessed.

The most likely causes are:

- The specified key repository does not exist.
- The channel initiator does not have permission to read the specified key repository.
- The channel initiator was unable to connect to the LDAP server specified in an authentication information object listed in the SSL CRL namelist.
- When using shared key rings, the name is not prefixed with 'userid/'.

System action

Processing continues, but communications using SSL will not be available. Channels using SSL communications will not start.

System programmer response

Check that:

- the SSL key repository name is specified correctly; if using a shared key ring, it is prefixed with 'userid/'
- the key ring specified as the SSL key repository exists, and the channel initiator has permission to read it
- the LDAP name is specified correctly and that it is available.

For more information, refer to [SSL function return code 202](#) in the *z/OS Cryptographic Services System SSL Programming* manual.

CSQX165I

csect-name SSL key repository refresh already in progress

Severity

0

Explanation

A `REFRESH SECURITY TYPE(SSL)` command was issued, but an SSL key repository refresh was already in progress.

System action

The command is ignored. The refresh currently in progress continues.

CSQX166E

csect-name AuthInfo *auth-info-name* has wrong type

Severity

4

Explanation

The SSL authentication namelist specified by the SSLCRLNL queue manager attribute contains the name of an authentication information object that has an AUTHTYPE of OCSP.

System action

Processing continues, but communications using SSL will not be available.

System programmer response

Correct the definitions supplied in the namelist so that only authentication information objects with AUTHTYPE of CRLLDAP are named, and restart the channel initiator. If you do not want to use SSL communications, set the SSLTASKS queue manager attribute to 0.

CSQX179I

csect-name Channel *channel-name* message reallocation is in progress, *msg-progress* messages of *msg-total* processed

Severity

0

Explanation

The channel *channel-name* is currently in message reallocation and the progression of this processing is *msg-progress* message processed out of *msg-total* number of messages total to be processed.

System action

The channel continues to reallocate messages. This process can take some time to complete if there are a large number of messages assigned to the channel on its transmission queue. An increase in CPU utilization might be observed during this time. Upon completion of the reallocation process the channel ends.

System programmer response

If reallocation is not required, for example because the destination queue manager is now available, reallocation can be interrupted using the command STOP CHANNEL MODE(FORCE).

CSQX180I

csect-name Channel *channel-name* completed message reallocation, *msg-processed* messages processed

Severity

0

Explanation

The channel *channel-name* has completed message reallocation processing, and processed *msg-processed* number of messages during this processing.

System action

The channel reallocation for this channel has finished and the channel ends.

System programmer response

Determine if messages have been successfully reallocated, and if the channel can be started again.

CSQX181E

csect-name Invalid response *response* set by exit *exit-name*

Severity

8

Explanation

The user exit *exit-name* returned an invalid response code (*response*, shown in hexadecimal) in the *ExitResponse* field of the channel exit parameters (MQCXP).

System action

Message [CSQX190E](#) is issued giving more details, and the channel stops. For auto-defined channels, the channel does not start.

System programmer response

Investigate why the user exit program set an invalid response code.

CSQX182E

csect-name Invalid secondary response *response* set by exit *exit-name*

Severity

8

Explanation

The user exit *exit-name* returned an invalid secondary response code (*response*, shown in hexadecimal) in the *ExitResponse2* field of the channel exit parameters (MQCXP).

System action

Message [CSQX190E](#) is issued giving more details, and the channel stops. For auto-defined channels, the channel does not start.

System programmer response

Investigate why the user exit program set an invalid secondary response code.

CSQX184E

csect-name Invalid exit buffer address *address* set by exit *exit-name*

Severity

8

Explanation

The user exit *exit-name* returned an invalid address for the exit buffer when the secondary response code in the *ExitResponse2* field of the channel exit parameters (MQCXP) is set to MQXR2_USE_EXIT_BUFFER.

System action

Message [CSQX190E](#) is issued giving more details, and the channel stops. For auto-defined channels, the channel does not start.

System programmer response

Investigate why the user exit program set an invalid exit buffer address. The most likely cause is failing to set a value, so that it is 0.

CSQX187E

csect-name Invalid header compression value set by exit *exit-name*

Severity

8

Explanation

The user exit *exit-name* returned a header compression value that was not one of those which were negotiated as acceptable when the channel started.

System action

Message [CSQX190E](#) is issued giving more details, and the channel stops. For auto-defined channels, the channel does not start.

System programmer response

Investigate why the user exit program set an invalid value. If necessary, alter the channel definitions so that the required compression value is acceptable.

CSQX188E

csect-name Invalid message compression value set by exit *exit-name*

Severity

8

Explanation

The user exit *exit-name* returned a message compression value that was not one of those which were negotiated as acceptable when the channel started.

System action

Message [CSQX190E](#) is issued giving more details, and the channel stops. For auto-defined channels, the channel does not start.

System programmer response

Investigate why the user exit program set an invalid value. If necessary, alter the channel definitions so that the required compression value is acceptable.

CSQX189E

csect-name Invalid data length *length* set by exit *exit-name*

Severity

8

Explanation

The user exit *exit-name* returned a data length value that was not greater than zero.

System action

Message [CSQX190E](#) is issued giving more details, and the channel stops. For auto-defined channels, the channel does not start.

System programmer response

Investigate why the user exit program set an invalid data length.

CSQX190E

csect-name Channel *channel-name* stopping because of error in exit *exit-name*, Id=*ExitId*
reason=*ExitReason*

Severity

8

Explanation

The user exit *exit-name* invoked for channel *channel-name* returned invalid values, as reported in the preceding messages. *ExitId* shows the type of exit:

11

MQXT_CHANNEL_SEC_EXIT, security exit

12

MQXT_CHANNEL_MSG_EXIT, message exit

13

MQXT_CHANNEL_SEND_EXIT, send exit

- 14** MQXT_CHANNEL_RCV_EXIT, receive exit
- 15** MQXT_CHANNEL_MSG_RETRY_EXIT, message retry exit
- 16** MQXT_CHANNEL_AUTO_DEF_EXIT, auto-definition exit
and *ExitReason* shows the reason for invoking it:
- 11** MQXR_INIT, initialization
- 12** MQXR_TERM, termination
- 13** MQXR_MSG, process a message
- 14** MQXR_XMIT, process a transmission
- 15** MQXR_SEC_MSG, security message received
- 16** MQXR_INIT_SEC, initiate security exchange
- 17** MQXR_RETRY, retry a message
- 18** MQXR_AUTO_CLUSSDR, auto-definition of cluster-sender channel
- 28** MQXR_AUTO_CLUSRCVR, auto-definition of cluster-receiver channel

System action

The channel stops. The associated transmission queue may be set to GET(DISABLED) and triggering turned off. For auto-defined channels, the channel does not start.

System programmer response

Investigate why the user exit program set invalid values.

CSQX191I

csect-name Channel *channel-name* beginning message reallocation

Severity

0

Explanation

The channel *channel-name* is entering message reallocation because it cannot currently deliver messages to the destination queue manager.

System action

Messages that are not bound to a particular queue manager will be workload balanced. This may take some time if there are a large number of messages assigned to this channel. Check how many using the **DISPLAY CHSTATUS(channel-name) XQMSGSA** command.

System programmer response

If reallocation is not required, for example because the destination queue manager is now available, reallocation can be interrupted using **STOP CHANNEL MODE(FORCE)**.

CSQX192E

csect-name Channel *channel-name* unable to stop, message reallocation in progress

Severity

8

Explanation

A request to stop channel *channel-name* was made, but the channel cannot stop immediately because message reallocation is taking place.

System action

The channel continues to reallocate messages. This process can take some time to complete if there are a large number of messages assigned to the channel on its transmission queue. An increase in CPU utilization might be observed during this time. Upon completion of the reallocation process the channel ends.

System programmer response

The number of messages to be reallocated can be determined using the **DISPLAY CHSTATUS(*channel-name*) XQMSGSA** command.

Turn on the **MONCHL** attribute of the channel and check how many users are using the **DISPLAY CHSTATUS(*channel-name*) XQMSGSA** command. The value of **MONCHL** should be LOW, MEDIUM or HIGH. See [MONCHL](#) for further information.

If reallocation is not required, for example because the destination queue manager is not available, reallocation can be interrupted using the **STOP CHANNEL MODE(FORCE)** command.

CSQX196E

csect-name Data length *data-length* set by exit *exit-name* is larger than agent buffer length *ab-length*

Severity

8

Explanation

The user exit *exit-name* returned data in the supplied agent buffer, but the length specified is greater than the length of the buffer.

System action

Message CSQX190E is issued giving more details, and the channel stops. For auto-defined channels, the channel does not start.

System programmer response

Investigate why the user exit program set an invalid data length.

CSQX197E

csect-name Data length *data-length* set by exit *exit-name* is larger than exit buffer length *eb-length*

Severity

8

Explanation

The user exit *exit-name* returned data in the supplied exit buffer, but the length specified is greater than the length of the buffer.

System action

Message CSQX190E is issued giving more details, and the channel stops. For auto-defined channels, the channel does not start.

System programmer response

Investigate why the user exit program set an invalid data length.

CSQX199E

csect-name Unrecognized message code *ccc*

Severity

8

Explanation

An unexpected error message code has been issued by the channel initiator.

System action

Another upload attempt will be made at the next upload interval.

System programmer response

Use the error codes and explanation to identify the issue. Check the following:

- The APIKey and ServiceURL are specified in the ReportingService stanza in the CSQM.QINI DD card of the queue manager.
- The channel initiator has network access to the IBM Cloud® service.
- The channel initiator has a SSL key ring (SSLKEYR), and the IBM Cloud certificates are connected to the key ring.

CSQX201E

csect-name Unable to allocate conversation, channel *channel-name* connection *conn-id*
TRPTYPE=*trptype* RC=*return-code* (*return-text*) reason=*reason*

Severity

8

Explanation

An attempt to allocate a conversation on connection *conn-id* was not successful. The associated channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'. *trptype* shows the communications system used:

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

The return code from it was: (in hexadecimal) *return-code*, (in text) *return-text*. For some errors, there may also be an associated reason code *reason* (in hexadecimal) giving more information.

System action

The channel is not started.

System programmer response

The error may be due to an incorrect entry in the channel definition or some problems in the APPC setup. Correct the error and try again

It could also be that the listening program at the remote end is not running. If so, perform the necessary operations to start the listener for *trptype*, and try again.

See “[Communications protocol return codes for z/OS](#)” on page 1104 for information about the cause of the return code from the communications system. If using TCP/IP, see the [z/OS UNIX System Services Messages and Codes](#) manual for information about the reason code.

CSQX202E

csect-name Connection or remote listener unavailable, channel *channel-name* connection *conn-id*
TRPTYPE=*trptype* RC=*return-code* (*return-text*) reason=*reason*

Severity

8

Explanation

An attempt to allocate a conversation was not successful because the connection *conn-id* was unavailable. The associated channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'. *trptype* shows the communications system used:

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

The return code from it was: (in hexadecimal) *return-code*, (in text) *return-text*. For some errors, there might also be an associated reason code *reason* (in hexadecimal) giving more information.

System action

The attempt to start the channel is retried.

System programmer response

Try again later.

A likely cause is that the listener at the remote end was not running or has been started using the wrong port or LU name. If this is the case, perform the necessary operations to start the appropriate listener, and try again.

See “[Communications protocol return codes for z/OS](#)” on page 1104 for information about the cause of the return code from the communications system. If using TCP/IP, see the *z/OS UNIX System Services Messages and Codes* manual for information about the reason code.

If you receive reason code 468:

- You are not using the correct IP address.
- The listener for the port might not be active.
- A firewall does not allow the connection.

When there are multiple links defined on a z/OS image, the image can have multiple host names depending on the link. You need to ensure that the correct host name is used as the sender end. Use the NETSTAT HOSTS command to display the host names on the image.

CSQX203E

csect-name Error in communications configuration, channel *channel-name* connection *conn-id*
TRPTYPE=*trptype* RC=*return-code* (*return-text*) reason=*reason*

Severity

8

Explanation

An attempt to allocate a conversation on connection *conn-id* was not successful because of a communications configuration error. The associated channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'. *trptype* shows the communications system used:

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

The return code from it was: (in hexadecimal) *return-code*, (in text) *return-text*. For some errors, there might also be an associated reason code *reason* (in hexadecimal) giving more information.

System action

The channel is not started.

System programmer response

See “[Communications protocol return codes for z/OS](#)” on page 1104 for information about the cause of the return code from the communications system.

Probable causes are:

- If the communications protocol is TCP/IP:
 - The connection name specified is incorrect, or that it cannot be resolved to a network address, or the name may not be in the name server. Correct the error and try again.
 - If the return code is zero, there is a name server problem. The OMVS command OPING usually fails in the same way. Resolve this failure and restart the channel. Check the `/etc/resolv.conf` file and check that the correct name server address is specified in the NSINTERADDR statement.
- If the communications protocol is LU 6.2:
 - One of the transmission parameters (MODENAME or TPNAME or PARTNER_LU) in the side information is incorrect, or that there is no side information for the symbolic destination name specified as the connection name. Correct the error and try again.
 - An LU 6.2 session has not been established, perhaps because the LU has not been enabled. Issue the z/OS command VARY ACTIVE if this is the case.

See the [z/OS UNIX System Services Messages and Codes](#) manual for information about the reason code.

CSQX204E

csect-name Connection attempt rejected, channel *channel-name* connection *conn-id*
TRPTYPE=*trptype* RC=*return-code* (*return-text*) reason=*reason*

Severity

8

Explanation

An attempt to connect on connection *conn-id* was rejected. The associated channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'. *trptype* shows the communications system used:

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

The return code from it was: (in hexadecimal) *return-code*, (in text) *return-text*. For some errors, there might also be an associated reason code *reason* (in hexadecimal) giving more information.

System action

The channel is not started.

System programmer response

Check the appropriate listener has been started on the remote end.

See “[Communications protocol return codes for z/OS](#)” on page 1104 for information about the cause of the return code from the communications system.

If the communications protocol is LU 6.2, it is possible that either the user ID or password supplied at the remote LU is incorrect. The remote host or LU may not be configured to allow connections from the local host or LU.

If the communications protocol is TCP/IP, it is possible that the remote host does not recognize the local host. See the [z/OS UNIX System Services Messages and Codes](#) manual for information about the reason code.

CSQX205E

csect-name Unable to resolve network address, channel *channel-name* connection *conn-id*
TRPTYPE=TCP RC=*return-code* (*return-text*) reason=*reason*

Severity

8

Explanation

The supplied connection name *conn-id* could not be resolved into a TCP/IP network address. The associated channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'. *trptype* shows the communications system used:

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

The return code from it was: (in hexadecimal) *return-code*, (in text) *return-text*. For some errors, there might also be an associated reason code *reason* (in hexadecimal) giving more information.

System action

The channel is not started.

System programmer response

Check the local TCP/IP configuration. Either the name server does not contain the host or LU name, or the name server was not available.

See “[Communications protocol return codes for z/OS](#)” on page 1104 for information about the cause of the return code from TCP/IP. See the [z/OS UNIX System Services Messages and Codes](#) manual for information about the reason code.

CSQX206E

csect-name Error sending data, channel *channel-name* connection *conn-id* (queue manager *qmgr-name*) TRPTYPE=*trptype* RC=*return-code* (*return-text*) reason=*reason*

Severity

8

Explanation

An error occurred sending data to *conn-id*, which might be due to a communications failure. The associated channel is *channel-name* and the associated remote queue manager is *qmgr-name*; in some cases the names cannot be determined and so are shown as '????'. *trptype* shows the communications system used:

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

The return code from it was: (in hexadecimal) *return-code*, (in text) *return-text*. For some errors, there might also be an associated reason code *reason* (in hexadecimal) giving more information.

System action

The channel is stopped. The associated transmission queue might be set to GET(DISABLED) and triggering turned off.

System programmer response

See “[Communications protocol return codes for z/OS](#)” on page 1104 for information about the cause of the return code from the communications system. If using TCP/IP, see the [z/OS UNIX System Services Messages and Codes](#) manual for information about the reason code.

Note that the error might have occurred because the channel at the other end has stopped for some reason, for example an error in a receive user exit.

CSQX207E

csect-name Invalid data received, connection *conn-id* (queue manager *qmgr-name*) TRPTYPE=*trptype*

Severity

8

Explanation

Data received from connection *conn-id* was not in the required format. The associated remote queue manager is *qmgr-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'. The data that has been sent may come from something other than a queue manager or client. *trptype* shows the communications system used:

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

System action

The data is ignored.

System programmer response

A likely cause is that an unknown host or LU is attempting to send data.

CSQX208E

csect-name Error receiving data, channel *channel-name* connection *conn-id* (queue manager *qmgr-name*) TRPTYPE=*trptype* RC=*return-code* (*return-text*) reason=*reason*

Severity

8

Explanation

An error occurred receiving data from connection *conn-id*, which may be due to a communications failure. The associated channel is *channel-name* and the associated remote queue manager is *qmgr-name*; in some cases the names cannot be determined and so are shown as '????'. *trptype* shows the communications system used:

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

The return code from it was: (in hexadecimal) *return-code*, (in text) *return-text*. For some errors, there might also be an associated reason code *reason* (in hexadecimal) giving more information.

System action

The channel is stopped. The associated transmission queue may be set to GET(DISABLED) and triggering turned off.

System programmer response

See “Communications protocol return codes for z/OS” on page 1104 for information about the cause of the return code from the communications system. If using TCP/IP, see [Return code 00000461](#) for more information about the reason code.

CSQX209E

csect-name Connection unexpectedly terminated, channel *channel-name* connection *conn-id* (queue manager *qmgr-name*) TRPTYPE=*trptype* RC=*return-code* (*return-text*)

Severity

8

Explanation

An error occurred receiving data from connection *conn-id*. The connection to the remote host or LU has unexpectedly terminated. The associated channel is *channel-name* and the associated remote queue manager is *qmgr-name*; in some cases the names cannot be determined and so are shown as '????'. *trptype* shows the communications system used:

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

However, this message can also occur in cases where there is no error; for example, if the TCP/IP command TELNET is issued that is directed at the port which the channel initiator is using.

The return code from it was: (in hexadecimal) *return-code*, (in text) *return-text*. For some errors, there might also be an associated reason code *reason* (in hexadecimal) giving more information.

System action

If a channel is involved, it is stopped. The associated transmission queue may be set to GET(DISABLED) and triggering turned off.

System programmer response

Review the local and remote console logs for reports of network errors.

See “Communications protocol return codes for z/OS” on page 1104 for information about the cause of the return code from the communications system. If using TCP/IP, see the *z/OS UNIX System Services Messages and Codes* manual for information about the reason code.

CSQX210E

csect-name Unable to complete bind, channel *channel-name* connection *conn-id* TRPTYPE=LU62 RC=*return-code* (*return-text*) reason=*reason*

Severity

8

Explanation

An incoming attach request arrived on connection *conn-id*, but the local host or LU was unable to complete the bind. The associated channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'.

The return code from APPC/MVS allocate services was: (in hexadecimal) *return-code*, (in text) *return-text*. For some errors, there might also be an associated reason code *reason* (in hexadecimal) giving more information.

System action

The channel is not started.

System programmer response

Check the APPC/MVS configuration.

See “APPC/MVS return codes” on page 1108 for the cause of the return code from APPC/MVS allocate services, and the *z/OS MVS programming: Writing Servers for APPC/MVS* manual for more information.

CSQX212E

csect-name Unable to allocate socket, channel *channel-name* TRPTYPE=TCP RC=*return-code* (*return-text*) reason=*reason*

Severity

8

Explanation

A TCP/IP socket could not be created, possibly because of a storage problem. The associated channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'.

The return code from TCP/IP was: (in hexadecimal) *return-code*, (in text) *return-text*. For some errors, there might also be an associated reason code *reason* (in hexadecimal) giving more information.

System action

The channel is not started.

System programmer response

See “[Communications protocol return codes for z/OS](#)” on page 1104 for information about the cause of the return code from TCP/IP. See the [z/OS UNIX System Services Messages and Codes](#) manual for information about the reason code.

CSQX213E

csect-name Communications error, channel *channel-name* TRPTYPE=*trptype* function *func* RC=*return-code* (*return-text*) reason=*reason*

Severity

8

Explanation

An unexpected communications error occurred for a listener or a channel. If it was for a listener, the *csect-name* is CSQXCLMA, and the channel name is shown as '????'. If it was for a channel, the channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'.

trptype shows the communications system used:

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

func is the name of the TCP/IP or APPC/MVS function that gave the error. In some cases the function name is not known and so is shown as '????'.

return-code is

- normally, the return code (in hexadecimal) from the communications system function
- for an LU 6.2 listener, it might be the reason code (in hexadecimal) from APPC/MVS allocate services
- if it is of the form 10009*nnn* or 20009*nnn*, it is a distributed queuing message code.

return-text is the text form of the return code.

For some errors, there might also be an associated reason code *reason* (in hexadecimal) giving more information.

System action

If the error occurred for a channel, the channel is stopped. For a listener, the channel is not started or, in some cases, the listener terminates.

System programmer response

See “[Communications protocol return codes for z/OS](#)” on page 1104 for information about the cause of the return code from the communications system.

For the ioctl function, if the return-code is 0000007A and the reason is 12B20381, the problem might be that the queue manager has been configured with TCPSTACK(MULTIPLE) and the TCPIP stack named in the TCPNAME parameter does not exist.

If this is the case, either start the specified TCPIP stack, or change the value of the TCPNAME parameter on the queue manager.

A distributed queuing message code *nnn* is generally associated with message CSQX*nnn*E, which will normally be issued previously. See that message explanation for more information. Where no such message is described, see [“Distributed queuing message codes” on page 1119](#) for the corresponding message number.

Check for error messages on the partner system that might indicate the cause of the problem.

CSQX215E

csect-name Communications network not available, TRPTYPE=*trptype*

Severity

8

Explanation

An attempt was made to use the communications system, but it has not been started or has stopped. *trptype* shows the communications system used:

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

System action

The channel or listener is not started.

System programmer response

Start the communications system, and try again.

CSQX218E

csect-name Listener not started - unable to bind, port *port* address *ip-address* TRPTYPE=TCP
INDISP=*disposition* RC=*return-code*

Severity

8

Explanation

An attempt to bind the TCP/IP socket to the indicated listener port was not successful. *ip-address* is the IP address used, or '*' if the listener is using all IP addresses. The return code (in hexadecimal) from TCP/IP was *return-code*.

disposition shows which type of incoming requests the listener was handling:

QMGR

those directed to the target queue manager

GROUP

those directed to the queue sharing group.

System action

The listener is not started.

System programmer response

The failure could be due to another program using the same port number.

See [“Communications protocol return codes for z/OS” on page 1104](#) for information about the return code from TCP/IP.

CSQX219E

csect-name Listener stopped - error creating new connection, TRPTYPE=TCP INDISP=*disposition*

Severity

8

Explanation

An attempt was made to create a new TCP/IP socket because an attach request was received, but an error occurred.

disposition shows which type of incoming requests the listener was handling:

QMGR

those directed to the target queue manager

GROUP

those directed to the queue sharing group.

System action

The listener stops. The channel initiator will attempt to restart it, at the intervals specified by the LSTRTMR queue manager attribute.

System programmer response

The failure might be transitory, try again later. If the problem persists, it might be necessary to stop some other jobs that use TCP/IP, or to restart TCP/IP.

CSQX220E

csect-name Communications network not available, channel *channel-name* TRPTYPE=*trptype*

Severity

8

Explanation

An attempt was made to use the communications system by a channel or a listener, but it has not been started or has stopped. If it was for a channel, the channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'. If it was for a listener, the channel name is again shown as '????'. *trptype* shows the communications system used:

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

System action

The channel or listener is not started.

System programmer response

Start the communications system, and try again.

CSQX228E

csect-name Listener unable to start channel, channel *channel-name* TRPTYPE=*trptype*
INDISP=*disposition* connection=*conn-id*

Severity

8

Explanation

An incoming attach request arrived from *conn-id*, but the listener for *trptype* could not start an instance of a channel to respond to it. The associated channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'.

disposition shows which type of incoming requests the listener was handling:

QMGR

those directed to the target queue manager

GROUP

those directed to the queue sharing group.

However, this message can also occur in cases where there is no error; for example, if the TCP/IP command TELNET is issued that is directed at the port which the channel initiator is using.

System action

If a channel is involved, it is not started.

System programmer response

The failure could be because the channel initiator is currently too busy; try again when there are fewer channels running. If the problem persists, increase the number of dispatchers used by the channel initiator.

CSQX234I

csect-name Listener stopped, TRPTYPE=*trptype* INDISP=*disposition*

Severity

0

Explanation

The specified listener terminated. This could be for a number of reasons including, but not limited to, those in the following list:

- a STOP command was issued
- the listener was retrying
- an error occurred in the communications system

trptype is the transport type.

disposition shows which type of incoming requests the listener was handling:

QMGR

those directed to the target queue manager

GROUP

those directed to the queue sharing group.

System action

Processing continues. If the listener was not deliberately stopped, the channel initiator will attempt to restart the listener, at the intervals specified by the LSTRTMR queue manager attribute.

System programmer response

If the listener was not deliberately stopped, look at any preceding messages relating to the channel initiator or to the TCP/IP, OMVS, or APPC address spaces to determine the cause.

CSQX235E

csect-name Invalid local address *local-addr*, channel *channel-name* TRPTYPE=*trptype* RC=*return-code* (*return-text*) reason=*reason*

Severity

8

Explanation

The supplied local address *local-addr* could not be resolved to a TCP/IP network address. The associated channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'. *trptype* shows the communications system used:

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

The return code from it was: (in hexadecimal) *return-code*, (in text) *return-text*. For some errors, there might also be an associated reason code *reason* (in hexadecimal) giving more information.

System action

The channel is not started.

System programmer response

Check the local TCP/IP configuration. Either the name server does not contain the host name, or the name server was not available.

See “[Communications protocol return codes for z/OS](#)” on page 1104 for information about the cause of the return code from TCP/IP.

CSQX239E

csect-name Unable to determine local host name, channel *channel-name* TRPTYPE=TCP RC=*return-code* (*return-text*) reason=*reason*

Severity

8

Explanation

An attempt was made to start a channel or listener using TCP/IP, but the TCP/IP gethostname call failed. If it was for a channel, the channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'. If it was for a listener, the channel name is again shown as '????'.

The return code from it was: (in hexadecimal) *return-code*, (in text) *return-text*. For some errors, there might also be an associated reason code *reason* (in hexadecimal) giving more information.

System action

The channel or listener is not started.

System programmer response

See “[Communications protocol return codes for z/OS](#)” on page 1104 for information about the cause of the return code from TCP/IP.

CSQX250E

csect-name Listener ended abnormally, TRPTYPE=*trptype* INDISP=*disposition*, reason=*sssuuu-reason*

Severity

8

Explanation

The specified listener is ending abnormally because an error that cannot be corrected has occurred. *sss* is the system completion code, *uuu* is the user completion code, and *reason* is the associated reason code (all in hexadecimal).

disposition shows which type of incoming requests the listener was handling:

QMGR

those directed to the target queue manager

GROUP

those directed to the queue sharing group.

System action

The listener ends abnormally, and a dump is normally issued. The channel initiator will attempt to restart the listener, at the intervals specified by the LSTRTMR queue manager attribute.

System programmer response

User completion codes are generally the result of errors detected by the Language Environment; see the [z/OS Language Environment Programming Guide](#) for information about these codes. Otherwise, contact your IBM support center.

CSQX251I

csect-name Listener started, TRPTYPE=*trptype* INDISP=*disposition*

Severity

0

Explanation

The specified listener started successfully. This may be as a result of a [START LISTENER](#) command, or because the listener restarted automatically following an error.

disposition shows which type of incoming requests the listener was handling:

QMGR

those directed to the target queue manager

GROUP

those directed to the queue sharing group.

System action

Processing continues.

CSQX256E

csect-name Listener stopped - error selecting new connection, TRPTYPE=TCP INDISP=*disposition*

Severity

8

Explanation

An error occurred in the listener select processing. The listener was notified by TCP/IP, but no attach request was received.

disposition shows which type of incoming requests the listener was handling:

QMGR

those directed to the target queue manager

GROUP

those directed to the queue sharing group.

System action

The listener stops. The channel initiator will attempt to restart it, at the intervals specified by the LSTRTMR queue manager attribute.

System programmer response

The failure might be transitory, try again later. If the problem persists, it might be necessary to stop some other jobs that use TCP/IP, or to restart TCP/IP.

CSQX257I

csect-name Listener unable to create new connection, TRPTYPE=TCP INDISP=*disposition*

Severity

4

Explanation

An attempt was made to create a new TCP/IP socket because an attach request was received, but an error occurred.

disposition shows which type of incoming requests the listener was handling:

QMGR

those directed to the target queue manager

GROUP

those directed to the queue sharing group.

System action

The listener continues to run, but the connection is not created.

System programmer response

The failure might be transitory, try again later. If the problem persists, it might be necessary to stop some other jobs that use TCP/IP, or to restart TCP/IP.

CSQX258E

csect-name Listener stopped - error accepting new connection, TRPTYPE=TCP INDISP=*disposition*

Severity

8

Explanation

An error occurred in the listener accept processing. The listener was notified by TCP/IP, but no attach request was received.

disposition shows which type of incoming requests the listener was handling:

QMGR

those directed to the target queue manager

GROUP

those directed to the queue sharing group.

System action

The listener stops. The channel initiator will attempt to restart it, at the intervals specified by the LSTRTMR queue manager attribute.

System programmer response

The failure might be transitory, try again later. If the problem persists, it might be necessary to stop some other jobs that use TCP/IP, or to restart TCP/IP.

CSQX259E

csect-name Connection timed out, channel *channel-name* connection *conn-id* (queue manager *qmgr-name*) TRPTYPE=*trptype*

Severity

8

Explanation

The connection *conn-id* timed out. The associated channel is *channel-name* and the associated remote queue manager is *qmgr-name*; in some cases the names cannot be determined and so are shown as '????'. *trptype* shows the communications system used:

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

Probable causes are:

- A communications failure.
- For a message channel, if the Receive Timeout function is being used (as set by the RCVTIME, RCVTTYPE, and RCVTMIN queue manager attributes) and no response was received from the partner within this time.
- For an MQI channel, if the Client Idle function is being used (as set by the DISCINT server-connection channel attribute) and the client application did not issue an MQI call within this time.

System action

The channel stops.

System programmer response

For a message channel, check the remote end to see why the time out occurred. Note that, if retry values are set, the remote end will restart automatically. If necessary, set the receive wait time for the queue manager to be higher.

For an MQI channel, check that the client application behavior is correct. If so, set the disconnect interval for the channel to be higher.

CSQX261E

csect-name No suitable IP stack available, channel *channel-name*, connection *conn-id*

Severity

8

Explanation

An attempt to allocate a conversation on connection *conn-id* for channel *channel-name* using TCP/IP communications was not successful because the IP stack used did not support the IP address family required for the connection.

System action

The channel is not started.

System programmer response

If the channel's CONNAME attribute resolves to an IPv6 address, then ensure the stack being used by the combination of the TCPNAME queue manager attribute and the channel's LOCLADDR attribute supports IPv6. If the channel's CONNAME attribute resolves to an IPv4 address, then ensure the stack being used by the combination of the TCPNAME queue manager attribute and the channel's LOCLADDR attribute supports IPv4.

CSQX262E

csect-name Communications canceled, channel *channel-name* TRPTYPE=*trptype*

Severity

8

Explanation

An unexpected communications error occurred for a listener or a channel. This error occurs if the channel was stopped with mode FORCE and the communications session was canceled.

The channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'. *trptype* shows the communications system used:

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

System action

The channel is stopped.

System programmer response

Restart the channel if appropriate.

CSQX293I

csect-name Channel *channel-name* has initiated a switch of transmission queue from *old-xmitq* to *new-xmitq*

Severity

0

Explanation

A switch of transmission queue for the channel identified by *channel-name* is required due to a change to the default cluster transmission queue configuration of the queue manager, or to the cluster channel name attribute of a cluster transmission queue. This message is issued by the channel initiator when the process of switching the transmission queue from *old-xmitq* to *new-xmitq* is started.

System action

The queue manager is notified to start the switching process for the channel.

The channel continues to run after closing the old transmission queue and switching to use the new transmission queue instead.

System programmer response

None.

CSQX294E

csect-name Transmission queue status unavailable, channel *channel-name*

Severity

8

Explanation

The transmission queue for the cluster-sender channel identified by *channel-name* cannot be determined because when the queue manager started it was unable to load the persisted transmission queue state from the queue SYSTEM.CHANNEL.SYNCQ.

System action

The channel ends abnormally.

System programmer response

If the queue manager is unable to load the persisted transmission queue state during startup it issues message [CSQM561E](#).

CSQX296E

csect-name Password protection negotiation failed for channel *channel-name*, connection *conn-id*

Severity

8

Explanation

The channel *channel-name* could not be established because it failed to agree a password protection algorithm with the remote machine *conn-id*.

System action

The channel does not start.

System programmer response

Check whether password protection settings prevent interoperability with the remote machine.

Alternatively, consider using SSL or TLS to protect passwords instead. You must use a non-null CipherSpec to protect passwords.

CSQX298E

csect-name AMS not available, required for channel *channel-name*

Severity

8

Explanation

SPLPROT values of REMOVE and ASPOLICY require AMS to be active for this queue manager. If these values are specified without AMS being active, the channel cannot be started.

System action

The channel does not start.

System programmer response

Ensure AMS is active for this queue manager or alter the channel to SPLPROT(PASSTHRU), and try again.

CSQX403I

csect-name Auto-definition of channel *channel-name* suppressed by exit *exit-name*

Severity

0

Explanation

In response to a request to start a channel that was not defined, an attempt was made to define it automatically. The channel auto-definition exit *exit-name* prevented it being defined.

System action

The channel is not started.

CSQX404I

csect-name Phase one of REFRESH CLUSTER REPOS(YES) has completed, cluster *cluster_name* objects changed

Severity

0

Explanation

Phase one of REFRESH CLUSTER has completed.

Applications attempting to access cluster resources may see failures to resolve cluster resources until phase two of REFRESH CLUSTER is complete.

Phase two is complete once all new information has been received from other members of the cluster.

Monitor your SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE to determine when it has reached a consistently empty state to indicate that the refresh process has completed.

System action

None.

CSQX405I

csect-name FORCEREMOVE QUEUES(YES) command processed, cluster *cluster_name* target *target*

Severity

0

Explanation

The repository manager successfully processed a RESET CLUSTER ACTION(FORCEREMOVE) command with the QUEUES(YES) option for the indicated cluster and target queue manager.

System action

None.

CSQX406E

csect-name REFRESH CLUSTER REPOS(YES) command failed, cluster *cluster_name* - *qmgr-name* is a full repository

Severity

8

Explanation

The repository manager could not process a [REFRESH CLUSTER](#) command with the REPOS(YES) option for the indicated cluster, because the local queue manager provides full repository management service for the cluster.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Reissue the command with the correct values or on the correct queue manager. It might be necessary to change the queue manager so that it is not a full repository for the cluster.

CSQX407I

csect-name Cluster queue *q-name* definitions inconsistent

Severity

4

Explanation

The definition of a cluster queue has different values for the DEFPRTY, DEFPSIST, DEFPRESP, and DEFBIND attributes on the various queue managers in the cluster.

All definitions of the same cluster queue must be identical. Problems might arise if your applications rely on one of these attributes to determine messaging behavior. For example, if an application opens a cluster queue with the option MQOO_BIND_AS_Q_DEF, and the different instances of the queue have different DEFBIND values, the behavior of the message transfer depends on which instance of the queue happens to be selected when it is opened.

System action

None.

System programmer response

Alter the definitions of the queue on the various queue managers so that they have identical values for these attributes.

CSQX410I

csect-name Repository manager started

Severity

0

Explanation

The repository manager started successfully.

System action

None.

CSQX411I

csect-name Repository manager stopped

Severity

0

Explanation

The repository manager stopped. This may be for one of three reasons:

- The channel initiator is stopping.

- The channel initiator is starting and the queues used by the repository manager have not been defined because clustering is not required.
- An error has occurred.

System action

Processing continues, but clustering is not available.

System programmer response

If an error has occurred, investigate the problem reported in the preceding messages.

CSQX412E

csect-name Misdirected repository command, target *target-id* sender *sender-id*

Severity

8

Explanation

The repository manager received a command intended for some other queue manager, with an identifier that is *target-id*. The command was sent by the queue manager with identifier *sender-id*.

System action

The command is ignored, and the error is reported to the sender.

System programmer response

Check the channel and cluster definitions of the sending queue manager.

CSQX413E

csect-name Repository command format error, command code *command*

Severity

8

Explanation

An internal error has occurred.

System action

The command is ignored, and the error is reported to the sender; the repository manager continues processing. Information about the error is written to the data set identified by the CSQSNAP DD statement of the channel initiator started task JCL procedure, xxxxCHIN.

System programmer response

Collect the items listed in the Problem Determination section and contact your IBM support center.

CSQX415E

csect-name Repository command state error, command code *command* cluster object *object-name* sender *sender-id*

Severity

8

Explanation

An internal error has occurred.

System action

The command is ignored; the repository manager continues processing. Information about the error is written to the data set identified by the CSQSNAP DD statement of the channel initiator started task JCL procedure, xxxxCHIN.

System programmer response

Collect the items listed in the Problem Determination section and contact your IBM support center.

CSQX416E

csect-name Repository command processing error, RC=*return-code* command code *command* cluster object *object-name* sender *sender-id*

Severity

8

Explanation

An internal error has occurred.

System action

The command is ignored; the repository manager continues processing. Information about the error is written to the data set identified by the CSQSNAP DD statement of the channel initiator started task JCL procedure, xxxxCHIN.

System programmer response

Collect the items listed in the Problem Determination section and contact your IBM support center.

CSQX417I

csect-name Cluster-senders remain for removed queue manager *qmgr-name*

Severity

0

Explanation

The indicated queue manager has been deleted or forcibly removed from a cluster, but there are manually-defined cluster-sender channels that refer to it. This means that the repository manager will continue to send cluster information to the removed queue manager.

System programmer response

Delete the manually-defined cluster-sender channels that refer to *qmgr-name*.

CSQX418I

csect-name Only one repository for cluster *cluster_name*

Severity

0

Explanation

The repository manager has received information about a cluster for which it is the only full repository.

System action

None.

System programmer response

If you require a second full repository, alter the REPOS or REPOSNL attribute of the second queue manager that is to have a full repository for the cluster to specify the cluster name.

CSQX419I

csect-name No cluster-receivers for cluster *cluster_name*

Severity

0

Explanation

The repository manager has received information about a cluster for which no cluster-receiver channels are known.

System action

None.

System programmer response

Define cluster-receiver channels for the cluster on the local queue manager.

CSQX420I

csect-name No repositories for cluster *cluster_name*

Severity

0

Explanation

The repository manager has received information about a cluster for which no full repositories are known.

System action

None.

System programmer response

Define a cluster-sender channel for connecting to the queue manager that is the full repository for the cluster, or alter the REPOS or REPOSNL attribute of the queue manager that is to have a full repository for the cluster to specify the cluster name.

CSQX422E

csect-name Repository manager error, RC=*return-code*

Severity

8

Explanation

An internal error has occurred.

System action

The repository manager attempts to continue processing. Information about the error is written to the data set identified by the CSQSNAP DD statement of the channel initiator started task JCL procedure, xxxxCHIN.

System programmer response

Collect the items listed in the Problem Determination section and contact your IBM support center.

CSQX425E

csect-name Repository command merge error, command code *command* cluster object *object-name* sender *sender-id*

Severity

8

Explanation

An internal error has occurred.

System action

The command is ignored; the repository manager continues processing. Information about the error is written to the data set identified by the CSQSNAP DD statement of the channel initiator started task JCL procedure, xxxxCHIN.

System programmer response

Collect the items listed in the Problem Determination section and contact your IBM support center.

CSQX426E

csect-name Undeliverable repository command, channel *channel-name* target *target-id* command code *command*

Severity

8

Explanation

The repository manager tried to send a command to another queue manager using channel *channel-name*. The other queue manager, with identifier *target-id*, could not be found.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Check the channel and cluster definitions of the sending and receiving queue managers.

CSQX427E

csect-name Cluster-sender not connected to repository, cluster *cluster_name* channel *channel-name* target *target-id*

Severity

8

Explanation

A cluster-sender channel must be connected to a queue manager that is a full repository for all the clusters for the channel, and the corresponding cluster-receiver channel must be in the same clusters. Channel *channel-name* in cluster *cluster_name* does not satisfy this. *target-id* is the identifier of the target queue manager for the channel.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Check the definition of the channel on both queue managers to ensure that it is connected to a full repository for the clusters, and that it is in the same clusters on both queue managers.

CSQX428E

csect-name Unexpected publication of a cluster queue, cluster *cluster_name* cluster queue *q-name* sender *sender-id*

Severity

8

Explanation

The repository manager received a publication for cluster queue *q-name* from another queue manager, with an identifier *sender-id*, relating to cluster *cluster_name*. The local queue manager cannot accept the command because it is not a full repository for the cluster and thus it does not have an interest in the cluster queue.

This can also occur because a command destined for the local repository manager is delayed in the network and is out of date when it arrives, for example because a `REFRESH CLUSTER` command has been issued on the local repository manager and caused its view of the cluster to change.

System action

The command is ignored.

System programmer response

If the local partial repository queue manager is supposed to be a full repository for the cluster, use the `ALTER QMGR` command to specify a repository or repository namelist which contains the cluster. If

the local queue manager is correctly a partial repository for the cluster, ensure that the remote queue manager does not have a manually defined cluster sender directed at the local partial repository.

If the message occurs because a command is out of date, the message can be ignored.

CSQX429E

csect-name Unexpected deletion of a cluster queue, cluster *cluster_name* cluster queue *q-name*

Severity

8

Explanation

The repository manager received a deletion for cluster queue *q-name* from another queue manager, with an identifier *sender-id*, relating to cluster *cluster_name*. The local queue manager cannot accept the command because it is not a full repository for the cluster and thus it does not have an interest in the cluster queue.

This can also occur because a command destined for the local repository manager is delayed in the network and is out of date when it arrives, for example because a [REFRESH CLUSTER](#) command has been issued on the local repository manager and caused its view of the cluster to change.

System action

The command is ignored.

System programmer response

If the local partial repository queue manager is supposed to be a full repository for the cluster, use the [ALTER QMGR](#) command to specify a repository or repository namelist which contains the cluster. If the local queue manager is correctly a partial repository for the cluster, ensure that the remote queue manager does not have a manually defined cluster sender directed at the local partial repository.

If the message occurs because a command is out of date, the message can be ignored.

CSQX430E

csect-name Unexpected queue manager repository command, cluster *cluster_name* channel *channel-name* sender *sender-id*

Severity

8

Explanation

The repository manager received a command from another queue manager, with an identifier that is *sender-id*, relating to cluster *cluster_name*. The local queue manager cannot accept the command because it is not a full repository for the cluster, it does not have an interest in the cluster channel, and it does not have any matching cluster-sender channels. The cluster-sender channel used by the other queue manager was *channel-name*.

This message might appear on a queue manager that has defined a cluster-sender channel to another queue manager that does not host a full repository, if the other queue manager is later modified to host a full repository.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Check the definition of the channel on the sending queue manager to ensure that it is connected to a full repository for the cluster.

Ensure the CLUSTER and CLUSNL values are consistent, and that you have not specified a *cluster_name* when you meant a *cluster-namelist*.

CSQX431I

csect-name Repository unavailable, cluster *cluster_name* channel *channel-name* sender *sender-id*

Severity

0

Explanation

The repository manager received a command from another queue manager, with identifier *sender-id*, reporting that it is no longer a full repository for cluster *cluster_name*.

System action

The cluster-sender channel *channel-name* is changed so that it can no longer be used to access the other queue manager in relation to the cluster.

CSQX432I

csect-name Unexpected cluster query received, cluster *cluster_name* cluster object *object-name* sender *sender-id*

Severity

8

Explanation

The repository manager received a query for cluster object *object-name* from another queue manager, with an identifier *sender-id*, relating to cluster *cluster_name*. The local queue manager cannot accept the command because it is not a full repository for the cluster.

This can also occur because a command destined for the local repository manager is delayed in the network and is out of date when it arrives, for example because a [REFRESH CLUSTER](#) command has been issued on the local repository manager and caused its view of the cluster to change.

System action

The command is ignored.

System programmer response

If the local partial repository queue manager is supposed to be a full repository for the cluster, use the ALTER QMGR command to specify a repository or repository namelist which contains the cluster. If the local queue manager is correctly a partial repository for the cluster, ensure that the remote queue manager does not have a manually defined cluster sender directed at the local partial repository.

If the message occurs because a command is out of date, the message can be ignored.

CSQX433E

csect-name Cluster-receiver and cluster-sender differ, cluster *cluster_name* channel *channel-name* sender *sender-id*

Severity

8

Explanation

The repository manager received a command from another queue manager, with identifier *sender-id*. The cluster-sender channel *channel-name* on that queue manager is in cluster *cluster_name*, but the corresponding cluster-receiver channel on the local queue manager is not.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Change the definition of the channel so that it is in the same clusters on both queue managers.

CSQX434E

csect-name Unrecognized message on *name*

Severity

8

Explanation

The channel initiator found a message on one of its queues that either had a format that could not be recognized or did not come from a queue manager or channel initiator.

System action

The message is put on the dead-letter queue.

System programmer response

Examine the message on the dead-letter queue to determine the originator of the message.

CSQX435E

csect-name Unable to put repository manager message, target *target-id* MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

4

Explanation

The repository manager tried to send a message to SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE on another queue manager with an identifier that is *target-id*, but the MQPUT call was unsuccessful.

System action

Processing continues, but repository information may be out of date.

System programmer response

Refer to “API 完了コードと理由コード” on page 1123 for information about *mqcc* and *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

Check the channel and cluster definitions on the local and target queue managers, and ensure that the channels between them are running.

When the problem is corrected, the repository information will normally be updated automatically. The [REFRESH CLUSTER](#) command can be used to be sure that the repository information is up to date.

This error may occur if the [REFRESH CLUSTER REPOS\(YES\)](#) command is issued against a full repository, as the full repository will then be temporarily unable to fulfil requests from other repositories until it has rebuilt the cluster. If there is more than one full repository for the cluster, the problem will resolve itself. If there is only a single full repository for the cluster, the [REFRESH CLUSTER](#) command will need to be run against all the other queue managers in the cluster to make them contact the full repository again.

CSQX436E

csect-name Unable to put repository manager message, cluster *cluster_name* MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

4

Explanation

The repository manager tried to send a message to SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE on a queue manager that has the full repository for the specified cluster, but the MQPUT was unsuccessful.

System action

Processing continues, but repository information may be out of date.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqcc* and *mqrc* (*mqrctext* provides the MQRRC in textual form).

Check the channel and cluster definitions on the local and target queue managers, and ensure that the channels between them are running.

When the problem is corrected, the repository information will normally be updated automatically. The [REFRESH CLUSTER](#) command can be used to be sure that the repository information is up to date.

CSQX437E

csect-name Unable to commit repository changes

Severity

4

Explanation

The repository manager tried to commit some updates to the repository but was unsuccessful.

System action

Processing continues, but local repository information might be out of date.

System programmer response

If this occurs when the channel initiator is stopping, it can be ignored because the local repository information will normally be updated automatically when the channel initiator is restarted. If there is an isolated occurrence at other times, use the [REFRESH CLUSTER](#) command to bring the local repository information up to date.

If the problem persists, contact your IBM support center.

CSQX438E

csect-name Unable to reallocate messages, channel *channel-name* MQCC=*mqqc* MQRRC=*mqrctext*

Severity

8

Explanation

The repository manager was unable to reallocate messages for the specified channel to another destination.

System action

The messages remain on the transmission queue.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqqc* and *mqrctext* (*mqrctext* provides the MQRRC in textual form).

Use this information in conjunction with any preceding error messages to determine the cause of the problem. When the problem is corrected, restart the channel.

CSQX439E

csect-name Repository error for channel *channel-name*

Severity

8

Explanation

An internal error has occurred.

System action

The repository manager attempts to continue processing. Information about the error is written to the data set identified by the CSQSNAP DD statement of the channel initiator started task JCL procedure, xxxxCHIN.

System programmer response

Collect the items listed in the Problem Determination section and contact your IBM support center.

CSQX440E

csect-name FORCEREMOVE command failed, cluster *cluster_name* target *target* - repository is not on *qmgr-name*

Severity

8

Explanation

The repository manager could not process a RESET CLUSTER ACTION(FORCEREMOVE) command for the indicated cluster and target queue manager, because the local queue manager does not provide a full repository management service for the cluster.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Reissue the command with the correct values or on the correct queue manager.

CSQX441I

csect-name FORCEREMOVE command processed, cluster *cluster_name* target *target*

Severity

0

Explanation

The repository manager successfully processed a RESET CLUSTER ACTION(FORCEREMOVE) command for the indicated cluster and target queue manager.

System action

None.

CSQX442I

csect-name Phase one of REFRESH CLUSTER has completed, cluster *cluster_namen* objects changed

Severity

0

Explanation

Phase one of REFRESH CLUSTER has completed.

Applications attempting to access cluster resources may see failures to resolve cluster resources until phase two of **REFRESH CLUSTER** is complete.

Phase two is complete once all new information has been received from other members of the cluster.

Monitor your SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE to determine when it has reached a consistently empty state to indicate that the refresh process has completed.

System action

None.

CSQX443I

csect-name SUSPEND QMGR command processed, cluster *cluster_namen* objects changed

Severity

0

Explanation

The repository manager successfully processed a SUSPEND QMGR command for the indicated cluster. (Where the command specified a namelist of clusters, the message is issued only for the first cluster in the namelist.)

System action

None.

CSQX444I

csect-name RESUME QMGR command processed, cluster *cluster_namen* objects changed

Severity

0

Explanation

The repository manager successfully processed a RESUME QMGR command for the indicated cluster. (Where the command specified a namelist of clusters, the message is issued only for the first cluster in the namelist.)

System action

None.

CSQX447E

csect-name Unable to backout repository changes

Severity

8

Explanation

Following an error, the repository manager tried to backout some updates to the local repository but was unsuccessful.

System action

The repository manager terminates.

System programmer response

If the repository manager subsequently restarts successfully, or if on restarting the channel initiator the repository manager subsequently starts successfully, this can be ignored.

If not, contact your IBM support center.

CSQX448E

csect-name Repository manager stopping because of errors. Restart in *n* seconds

Severity

8

Explanation

A severe error, as reported in the preceding messages, occurred during repository manager processing; the repository manager is unable to continue.

System action

The repository manager terminates. The channel initiator will try to restart it after the specified interval.

System programmer response

Correct the problem reported in the preceding messages.

CSQX449I

csect-name Repository manager restarted

Severity

0

Explanation

The repository manager restarted successfully following an error.

System action

None.

CSQX453E

csect-name FORCEREMOVE command failed, cluster *cluster_name* target *target* is not unique

Severity

8

Explanation

The repository manager could not process a `RESET CLUSTER ACTION(FORCEREMOVE)` command for the indicated cluster and target queue manager, because there is more than one queue manager with the specified name in the cluster.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Reissue the command specifying the identifier (QMID) of the queue manager to be removed, rather than its name.

CSQX455E

csect-name FORCEREMOVE command failed, cluster *cluster_name* target *target* not found

Severity

8

Explanation

The repository manager could not process a `RESET CLUSTER ACTION(FORCEREMOVE)` command for the indicated cluster and target queue manager, because no information about that queue manager was found in the local repository.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Reissue the command specifying the correct queue manager name or identifier.

CSQX456E

csect-name Full repository update not received, cluster *cluster_name* cluster object *object_name* (queue manager *qmgr_uuid*)

Severity

4

Explanation

The repository manager found a cluster object that had been used in the last 30 days, and for which updated information should have been received. However, no such information has been received. The cluster object is *object_name* in *cluster_name*, and its queue manager is *qmgr_uuid*.

If the queue manager is a partial repository for the object, the updated information should have been sent from a full repository. If the queue manager is a full repository, the updated information should have been sent from the queue manager on which the object is defined.

System action

The repository manager keeps information about this object for a further 60 days from when the error first occurred. If information has not been sent to a full repository then this object is not used to satisfy any new requests for cluster resources made to this full repository.

System programmer response

If the cluster object is still required, check that:

- The cluster channels to and from the queue manager that is the full repository for the cluster, and between there and the queue manager where the object is located, are able to run.
- The repository managers on those queue managers have not ended abnormally.
- There is not a long-running problem with the cluster receiver channel to the local queue manager in cluster *cluster_name*. If there is a problem, correct the problem urgently, to ensure that updates for the cluster are received.
- There is not a long-running problem on the cluster sender channel of the remote queue manager in cluster *cluster_name*. If there is a problem, correct the problem urgently, to ensure that updates for the cluster are sent.
- The remote queue manager is not out of step with this queue manager, potentially due to a restore of the remote queue manager from a backup. If the remote queue manager is out of step, issue a REFRESH CLUSTER command on the remote queue manager to synchronize with other queue managers in the cluster.
- The remote queue manager is not out of step with this queue manager, potentially due to a disaster recovery exercise in which a replacement queue manager with the same cluster receiver channel name was created, was run for a while, then ended. If this has happened, then the remote queue manager *qmgr_uuid* must now issue a REFRESH CLUSTER command to synchronize with other queue managers in the cluster.
- If the above items have been checked, and this problem persists over several days (causing repeats of this error message in the error logs of the local queue manager) contact your IBM support center.

CSQX457I

csect-name Repository available, cluster *cluster_name* channel *channel-name* sender *sender-id*

Severity

0

Explanation

The repository manager received a command from another queue manager, with identifier *sender-id*, reporting that it is once again a full repository for cluster *cluster_name*.

System action

The cluster-sender channel *channel-name* is changed so that it can be used to access the other queue manager in relation to the cluster.

CSQX458E

csect-name Unable to access repository cache exclusively, TCB= *tcb-name* has *num-registrations* outstanding registrations

Severity

8

Explanation

During an operation that requires exclusive access to the cache, another task was found to be registered. If the queue manager finds registrations still exist after waiting for the task to remove its registrations, the queue manager issues this message. The task preventing exclusive access to the repository cache has *num-registrations* outstanding registrations.

System action

Processing continues.

System programmer response

Determine if this task is still running or terminated. If the task is not running or if the problem persists collect the items listed in the [Problem determination on z/OS](#) section and contact your IBM support center.

CSQX459E

csect-name Cluster topic topic-name from qmgr-name rejected due to PSCLUS(DISABLED)

Severity

8

Explanation

Information regarding cluster topic topic-name has been sent to this queue manager over a channel from qmgr-name but the queue manager attribute PSCLUS has been set to DISABLED, indicating that Publish/Subscribe activity is not expected between queue managers in this cluster.

System action

The cluster topic definition is ignored and will not be visible from this queue manager.

System programmer response

To enable publish/subscribe clustering, alter the PSCLUS attribute on all queue managers in the cluster to ENABLED. You may also need to issue [REFRESH CLUSTER](#) and [REFRESH QMGR](#) commands as detailed in the documentation for the PSCLUS attribute. If you are not using publish/subscribe clusters you should delete the clustered topic object, and ensure PSCLUS is DISABLED on all queue managers.

CSQX460E

csect-name Cluster cache is full

Severity

8

Explanation

No more space is available in the cluster cache area.

System action

The repository manager terminates. The channel initiator will try to restart it after the specified interval.

System programmer response

The problem may be temporary. If it persists, the queue manager must be restarted; this will cause more space to be allocated for the cluster cache area.

Consider changing the cluster cache type system parameter CLCACHE to dynamic, so that more space for the cache will be obtained automatically as required. (If you are using a cluster workload exit, ensure that it supports a dynamic cluster cache.) For information about the system parameters for the CSQ6SYSP macro, see [Using CSQ6SYSP](#).

CSQX461I

csect-name Cluster cache entry corrected, cluster queue manager *clusqmgr-name* channel *channel-name* connection *conn-id*

Severity

4

Explanation

At channel initiator restart, the repository manager found a corrupted entry in the cluster cache. The entry has been corrected.

System action

Processing continues. The cluster channel to which the entry refers, *channel-name* using connection *conn-id*, will be available for use.

System programmer response

None. You can verify that the entry was successfully corrected by issuing the command `DISPLAY CLUSQMGR(clusqmgr-name)` on the queue manager where this message was issued.

CSQX462E

csect-name Cluster cache entry is unusable, cluster queue manager *clusqmgr-name* channel *channel-name* connection *conn-id*

Severity

8

Explanation

At channel initiator restart, the repository manager found a corrupted entry in the cluster cache which could not be corrected.

System action

The corrupted entry is ignored. The cluster channel to which it refers, *channel-name* using connection *conn-id*, will not be usable.

System programmer response

The corrupted entry must be corrected and reintroduced by issuing the command

```
ALTER CHANNEL(channel-name) CHLTYPE(CLUSRCVR)
```

on the cluster queue manager *clusqmgr-name*. You can verify that the entry was successfully reintroduced by issuing the command `DISPLAY CLUSQMGR(clusqmgr-name)` on the queue manager where this message was issued.

CSQX463E

csect-name Error accessing cluster cache entry

Severity

8

Explanation

There was an internal error when accessing a cluster cache entry.

System action

Information about the error is written to the data set identified by the CSQSNAP DD statement of the channel initiator started task JCL procedure, xxxxCHIN. The component where the error occurred (message channel agent, repository manager) usually terminates; in some cases, the end result will be that the channel initiator terminates.

System programmer response

Collect the items listed in the Problem Determination section and contact your IBM support center.

CSQX465I

csect-name New cluster topic definition inconsistent, topic *topic-name*, queue manager identifier *qmid*, attribute *attr*

Severity

4

Explanation

The definition of the cluster topic *topic-name*, defined on queue manager identifier *qmid* has different *attr* attribute values than one or more cluster topics that already exist in the cluster cache. The existing topic objects are reported by message [CSQX466I](#).

All definitions of the same cluster topic should be identical; otherwise, problems may arise if your applications rely on one of these attributes to determine messaging behavior. For example, if an application opens a cluster topic and the different instances of the topic have different TOPICSTR values, the behavior of the message transfer depends on which instance of the topic happens to be selected when it is opened.

System action

None.

System programmer response

Alter the definitions of the topic on the various queue managers so that they have identical values for all attributes.

CSQX466I

csect-name Cluster topic definitions inconsistent, topic *topic-name*, queue manager identifier *qmid* attribute *attr*

Severity

4

Explanation

The definition of the cluster topic *topic-name*, defined on queue manager identifier *qmid* has different *attr* attribute value than a cluster topic being added to the cluster cache. The topic object being added is reported by message [CSQX465I](#).

All definitions of the same cluster topic should be identical; otherwise, problems may arise if your applications rely on one of these attributes to determine messaging behavior. For example, if an application opens a cluster topic and the different instances of the topic have different TOPICSTR values, the behavior of the message transfer depends on which instance of the topic happens to be selected when it is opened.

System action

None.

System programmer response

Alter the definitions of the topic on the various queue managers so that they have identical values for all attributes.

CSQX467E

Repository error for topic *topic-name*, MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The cluster repository was unable to insert or delete topic *topic-name* due to an unexpected error in the queue manager.

System action

The repository manager terminates. The channel initiator tries to restart the repository manager after an interval. See message [CSQX448E](#) for more information.

System programmer response

For more information about *mqcc* and *mqrc* completion codes (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form), see “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123.

Contact your IBM support center with the reason code provided for this failure.

CSQX468I

csect-name Queue manager *qmgr-uuid1* has replaced queue manager *qmgr-uuid2* in a cluster due to reuse of channel *channel-name*

Severity

0

Explanation

Queue manager *qmgr-uuid1* has joined a cluster using a cluster receiver channel with the same name as one that has already been defined by queue manager *qmgr-uuid2*. All cluster receiver channels used within a cluster must be uniquely named.

System action

Queue manager *qmgr-uuid1* uses channel *channel-name*. Queue manager *qmgr-uuid2* cannot successfully participate in the cluster while queue manager *qmgr-uuid1* is a member.

System programmer response

The use of a channel name currently associated with a different queue manager in the cluster can be intentional, for example it is possible the original queue manager has been deleted and re-created as a new queue manager. However, accidental duplication of a channel name across multiple queue managers would also result in this behavior. If this action was not intended review the configuration of the queue managers.

CSQX469E

csect-name Update not received for CLUSRCVR channel *channel-name* hosted on queue manager *qmid* in cluster *cluster_name*, expected *n* days ago, *m* days remaining

Severity

8

Explanation

The repository manager detected that the CLUSRCVR channel has not been republished by its owning queue manager. This republish action should have happened automatically *n* days ago, or in the time between then and now.

System action

The repository manager will check for this condition approximately every hour, continuing for a period of approximately *m* days from now. If an update for the CLUSRCVR channel is received during this period, these messages will stop. If no update is received, these messages will continue to be written. However, after this period has elapsed, if no update has been received, the local queue manager will discard its knowledge of this channel, and these messages will stop. You should be aware that Partial Repository queue managers in this cluster will cease to be able to use the channel at about that time.

System programmer response

There are several possible responses:

1. If the channel had been removed intentionally, and is no longer required, you should consider removing it fully via the [RESET CLUSTER](#) command.

2. There is a long-running problem with the local queue manager's CLUSRCVR in cluster *cluster_name*. If this is true, then correct the problem urgently, to ensure that updates for the cluster are received.
3. There is a long-running problem on the remote queue manager's CLUSSDR in cluster *cluster_name*. If this is true, then correct the problem urgently, to ensure that updates for the cluster are sent.
4. Check that the repository manager on the remote queue manager has not ended abnormally.
5. The remote queue manager is out of step with this queue manager, potentially due to a restore of the queue manager from a backup, potentially due to a restore of either the local or remote queue manager from backup data, including situations in which a duplicate instance of a queue manager has been introduced to the cluster even if only temporarily, for example under disaster recovery testing.

See [Clustering: Availability, multi-instance, and disaster recovery](#) for more information, and the affected queue manager must issue [REFRESH CLUSTER](#) to synchronize with other queue managers in the cluster.

If the above items have been checked, and this problem persists over several days, causing repeats of this error message in the local queue manager's error logs, contact your IBM support center.

CSQX470E

csect-name Channel *channel-name* has the wrong disposition *disposition*

Severity

8

Explanation

The action you requested cannot be performed on channel *channel-name* because it has the wrong disposition. For example, the action asked for a shared channel, but its disposition is private.

System action

The requested action is not performed.

System programmer response

Check whether the channel name is specified correctly. If it is, check that:

- The channel has been defined correctly
- The transmission queue name identifies the correct queue, and that queue has the required disposition.

The disposition of an instance of a channel is **not** related to that specified by QSGDISP in the channel definition:

- A sending channel is *shared* if its transmission queue is shared, and *private* if it is not.
- A receiving channel is *shared* if it was started in response to an inbound transmission directed to the queue sharing group, and *private* if it was started in response to an inbound transmission directed to the queue manager.

CSQX471I

csect-name nn shared channels to restart, *nn* requests issued

Severity

0

Explanation

The channel initiator is shutting down; it owns some active shared sending channels, and they have not been requested to stop. Requests to restart these channels on another queue manager have been issued as shown.

System action

The channel initiator shutdown processing continues.

System programmer response

If the numbers in the message differ, the channel initiator was not able to issue restart requests for all the channels. In this case, use the `DISPLAY CHSTATUS` command to determine which channels are still owned by the queue manager for the channel initiator that is shutting down, and which therefore have not been restarted, and restart them manually as required.

CSQX475I

csect-name Channel *channel-name* adopted, connection *conn-id*

Severity

0

Explanation

Channel *channel-name*, which was orphaned because of a communications error, has been adopted by a new instance of the channel, from connection *conn-id*.

System action

Processing continues.

CSQX476E

csect-name Channel *channel-name* is active on *qmgr-name*, shared status entry found

Severity

8

Explanation

An operation was requested on a channel that is active. Because the channel is shared, it might be active on another queue manager. If the channel is a receiver, a previous instance of it might have been orphaned and therefore still be active.

System action

The request fails.

System programmer response

For operations other than starting the channel, either stop the channel manually, or wait for it to terminate, and try the operation again. It might be necessary to use `MODE(FORCE)` to stop the channel manually if the Adopt MCA function is not being used. Using the Adopt MCA function avoids the need for manual intervention to handle orphaned receiver channels.

If the channel is not running on the named queue manager, then there is an orphaned shared status entry, which might be because a loss of connectivity to Db2 occurred. If the problem persists, contact your IBM support center.

CSQX477E

csect-name Channel *channel-name* is active, transmission queue *queue-name* in use on *qmgr-name*

Severity

8

Explanation

An operation was requested on a channel that is active. While starting, a sender channel has detected that its transmission queue, *queue-name*, is already in use on the specified queue manager.

System action

The request fails.

System programmer response

Do the following, which might need to be done on a different queue manager other than the one the channel was started on, as appropriate:

- Check if the channel is already running
- Check if another channel is using the queue by using the [DISPLAY QSTATUS](#) command
- Ensure the queue name is specified correctly in the channel definition
- Alter the queue usage attribute of the queue to that of a transmission queue.

If the channel is already running, for operations other than starting the channel, either stop the channel manually, or wait for it to terminate, and retry the operation. It may be necessary to use MODE(FORCE) to stop the channel manually if the Adopt MCA function is not being used. Using the Adopt MCA function will avoid the need for manual intervention to handle orphaned receiver channels.

CSQX478E

csect-name Channel *channel-name* is active on *qmgr-name*, connection tag in use

Severity

8

Explanation

An operation was requested on a channel that is active. The connection tag used to serialize the channel within the queue sharing group is currently in use. Because the channel is shared, it might be active on another queue manager. If the channel is a receiver, a previous instance of it might have been orphaned and therefore still be active.

In addition to the CSQX478E for a shared channel, another possible symptom is [CSQX514E: *csect-name* Channel *channel-name* is active on *qmgr-name*](#). The new instance of the channel is starting with a different IP address from the running instance. If the sender's IP address changed or might translate into more than one address, set ADOPTCHK to QMNAME using the [ALTER QMGR](#) command. For example, /cpf ALTER QMGR ADOPTCHK(QMNAME) where "cpf" is the command prefix for the queue manager subsystem.

System action

The request fails.

System programmer response

For operations other than starting the channel, either stop the channel manually, or wait for it to terminate, and try the operation again. It might be necessary to use MODE(FORCE) to stop the channel manually if the Adopt MCA function is not being used. Using the Adopt MCA function avoids the need for manual intervention to handle orphaned receiver channels.

CSQX479E

csect-name Channel *channel-name* is active on *qmgr-name*, shared channel adoption failed

Severity

8

Explanation

An attempt was made to adopt channel *channel-name*, which was orphaned because of a communications error. It failed, either because the channel could not be stopped or because a response was not received from the queue manager *qmgr-name*.

System action

The request fails, and the orphaned channel might remain active.

System programmer response

Investigate any preceding error messages to discover why the adopt failed. Either stop the channel manually, or wait for it to terminate, and try the operation again. It might be necessary to use MODE(FORCE) to stop the channel manually.

CSQX482E

csect-name Shared channel function not available

Severity

8

Explanation

During the execution of a channel command, or during shared channel processing, an internal function required by the channel initiator was found to be unavailable.

System action

The channel command fails or the channel stops.

System programmer response

Check that the Db2 tables required by IBM MQ are correctly defined, and restart the queue manager and Db2 if necessary. If these appear to be running correctly, display the information in the shared channel status (CSQ.ADMIN_B_SCST) and the shared synchronization key (CSQ.ADMIN_B_SSKT) Db2 tables, and contact your IBM support center for further assistance. For further information, and for details of a sample job (CSQ45STB) which shows the information in the Db2 tables, see [Problem determination on z/OS](#).

CSQX483E

csect-name Db2 not available

Severity

8

Explanation

Because Db2 is not available, or is no longer available, the channel initiator cannot do processing for a shared channel.

System action

The channel command fails or the channel stops.

System programmer response

Use the preceding messages on the z/OS console to investigate why Db2 is not available, and restart it if necessary.

CSQX484E

csect-name Error accessing Db2

Severity

8

Explanation

Because there was an error in accessing Db2, the channel initiator cannot do processing for a shared channel.

System action

The channel command fails or the channel stops.

System programmer response

Resolve the error reported in the preceding messages.

CSQX485E

csect-name Shared channel status error

Severity

8

Explanation

During the execution of a channel command, or during shared channel processing, shared channel status or shared synchronization key information, held in Db2, was found to be corrupted.

System action

The channel command fails or the channel stops.

System programmer response

Check that the Db2 tables required by IBM MQ are correctly defined, and restart Db2 if necessary. If Db2 appears to be running correctly, display the information in the shared channel status (CSQ.ADMIN_B_SCST) and the shared synchronization key (CSQ.ADMIN_B_SSKT) Db2 tables, and contact your IBM support center for further assistance. For further information, and for details of a sample job (CSQ45STB) which shows the information in the Db2 tables, see [Problem determination on z/OS](#).

CSQX486E

csect-name Shared channel *channel-name* definitions inconsistent

Severity

8

Explanation

The definition of a shared channel has differing attribute values on the various queue managers in the queue sharing group. For example, if the type of the channel differs start or stop requests cannot operate correctly.

System action

The request fails.

System programmer response

Change the definitions of the channel so that they are the same on all the queue managers. If the channel type needs changing, you must delete and then redefine the channel.

CSQX489E

csect-name Maximum instance limit *limit* exceeded, channel *channel-name* connection *conn-id*

Severity

8

Explanation

There are too many instances of the channel *channel-name* running to be able to start another. The maximum number allowed is *limit* and is specified in the MAXINST channel attribute.

System action

The channel does not start.

System programmer response

Wait for some of the operating channels to terminate before restarting the channel, or use the [ALTER CHANNEL](#) command to increase MAXINST.

CSQX490E

csect-name Maximum client instance limit *limit* exceeded, channel *channel-name* connection *conn-id*

Severity

8

Explanation

There are too many instances of the channel *channel-name* running from the connection *conn-id* to be able to start another. The maximum number allowed is *limit* and is specified in the MAXINSTC channel attribute.

System action

The channel does not start.

System programmer response

Wait for some of the operating channels to terminate before restarting the channel, or use the [ALTER CHANNEL](#) command to increase MAXINSTC.

CSQX496I

csect-name Channel *channel-name* stopping because of request by remote exit

Severity

0

Explanation

The channel is closing because the user channel exit at the remote end requested it.

System action

The channel stops. The associated transmission queue might be set to GET(DISABLED) and triggering turned off. For auto-defined channels, the channel does not start.

System programmer response

Note that this puts the channel into STOPPED state. A [START CHANNEL](#) command must be issued to restart it.

CSQX498E

csect-name Invalid MQCD field *field-name*, value=*nnn* (X*xxx*)

Severity

8

Explanation

The MQCD structure returned by the channel auto-definition exit had an invalid value in the indicated field. The value is shown in decimal (*nnn*) and hexadecimal (*xxx*).

System action

The channel is not defined.

System programmer response

Correct the channel auto-definition exit.

CSQX500I

csect-name Channel *channel-name* started connection *conn-id*

Severity

0

Explanation

The specified channel has been started.

If *channel-name* is an inbound channel (indicated by *csect-name* containing CSQXRESP) then it was started from connection *conn-id*. If *channel-name* is an outbound channel then *conn-id* will be omitted.

System action

Processing continues.

CSQX501I

csect-name Channel *channel-name* no longer active connection *conn-id*

Severity

0

Explanation

Channel *channel-name* terminated. It is now inactive if it terminated normally when the disconnect interval expired, or stopped if it terminated because of an error or a STOP CHANNEL command.

If *channel-name* was an inbound channel (indicated by *csect-name* containing CSQXRESP) then it was started from connection *conn-id*. If *channel-name* was an outbound channel then *conn-id* will be omitted.

System action

Processing continues.

System programmer response

If the channel is stopped, resolve any error, and issue a START CHANNEL command to restart the channel.

CSQX502E

csect-name Action not allowed for channel *chl-type(channel-name)*

Severity

8

Explanation

The action you requested cannot be performed on channel *channel-name*. Some actions are only valid for certain channel types. This channel is a *chl-type* channel type. For example, you can only ping a channel from the end sending the message.

System action

The requested action is not performed.

System programmer response

Check whether the channel name is specified correctly. If it is, check that:

- The channel has been defined correctly
- The connection name identifies the remote end correctly
- For a cluster-receiver channel, the connection name does not specify a generic address or a shared listener port (INDISP=GROUP).
- For TCP/IP connections, the port number specified by the local channel matches that used by the listener at the remote queue manager.

You can use the *csect-name* to determine the action that failed:

<i>Table 14. Mapping csect-names to actions</i>	
csect-name	action
CSQXPING	<u>PING CHANNEL</u>
CSQXRESE	<u>RESET CHANNEL</u>
CSQXRESO	<u>RESOLVE CHANNEL</u>
CSQXSTOP	<u>STOP CHANNEL</u>

CSQX503E

csect-name Negotiation failed, channel *channel-name* type=*last-segment-type* data=xxx connection *conn-id*

Severity

8

Explanation

Channel *channel-name* could not be established due to a negotiation failure between the local queue manager and the remote end using connection *conn-id*. The last control data received was of type *last-segment-type* and is accompanied by data indicating the error.

A value of FFFFFFFF (-1) indicates that no error data was sent by the remote end.

System action

The channel is not started.

System programmer response

Examine the console log for the remote end for messages explaining the cause of the negotiation failure.

CSQX504E

csect-name Local protocol error, channel *channel-name* type=*type* data=*xxx*

Severity

8

Explanation

During communications with the remote end, the local message channel agent for channel *channel-name* detected a protocol error.

type shows the type of error that occurred and the incorrect value is shown by *xxx*.

00000001

Missing channel. Define a remote channel. See message [CSQX520E](#) for more information.

00000002

Incorrect channel type. Check your definitions. See message [CSQX547E](#) for more information.

00000003

Queue manager unavailable. Check the queue manager. See message [CSQX524E](#) for more information.

00000004

Message sequence error. Investigate the problem and reset the channel. See message [CSQX526E](#) for more information.

00000005

Queue manager terminating. This message might be for information only. See message [CSQX525E](#) for more information.

00000006

Unable to store. This message might be for information only. See messages [CSQX527E](#) and [CSQX544E](#) for more information. Also, check the error log for the remote system. Messages might end up on the remote dead-letter queue.

00000007

User closed. This message might be for information only. See message [CSQX528I](#) for more information. The channel is stopping, either because of a STOP CHANNEL command, or the channel initiator is stopping.

00000008

Timeout expired. This message might be for information only. During an MQGET_WAIT the DISCONT times out, so the channel is closed.

00000009

Target queue unknown - contact your IBM support center.

0000000A

Incorrect segment type - contact your IBM support center.

000000B

Incorrect segment length. Check the remote client. Either the client has sent a segment larger than the buffer it requested, or the requested buffer exceeds the combined payload and header limits.

000000C

Data not valid - contact your IBM support center.

000000D

Unexpected segment - contact your IBM support center.

000000E

Unexpected ID - contact your IBM support center.

000000F

Unexpected MSH - contact your IBM support center.

0000010

General protocol problem - contact your IBM support center.

0000011

Batch failure - contact your IBM support center.

0000012

Incorrect message length - contact your IBM support center.

0000013

Incorrect segment number - contact your IBM support center.

0000014

Security failure - contact your IBM support center.

0000015

Wrap value error. Use the command ALTER CHANNEL SEQWRAP to align the local or remote channel sequence wrap values. See message [CSQX505E](#) for more information.

0000016

Channel unavailable. Check if the remote channel is STOPPED, or otherwise unavailable. See message [CSQX558E](#) for more information.

0000017

Closed by exit - contact your IBM support center.

0000018

Cipher spec error. Confirm the SSLCIPH of the channel, and its compatibility if the remote side has been set to SSLFIPS(YES). See message [CSQX635E](#) for more information.

0000019

Peer name error. Confirm that SSLPEERNAME on this channel, matches the distinguished name in the certificate of the remote side. See message [CSQX636E](#) for more information.

000001A

SSL/TLS client certificate error. Check the remote channel and see if a certificate has been supplied for SSL/TLS negotiation. See message [CSQX637E](#) for more information.

000001B

RMT RSRCS in recovery. This message is for information only; the condition is transient.

000001C

SSL/TLS refreshing. This message is for information only; the condition is transient.

000001D

HOBJ not valid - contact your IBM support center.

000001E

Conversion ID error - contact your IBM support center.

000001F

Socket action type not valid - contact your IBM support center.

0000020

Standby queue manager not valid - contact your IBM support center.

00000021

Maximum transmission size not valid. Increase the remote RECEIVER attributes for transmission unit size.

00000022

FAP level not valid - contact your IBM support center.

00000023

Maximum permitted conversions exceeded. The SHARECNV limit has been exceeded. Investigate the remote client and increase the value of SHARECNV.

00000024

Password protection error - contact your IBM support center.

System action

The channel stops. The associated transmission queue might be set to GET(DISABLED) and triggering turned off.

System programmer response

Examine the console log to determine the cause of the failure. This might occur after the channel initiator or queue manager is stopped forcibly or ends abnormally. If it occurs in other cases, contact your IBM support center to report the problem.

CSQX505E

csect-name Sequence wrap values differ, channel *channel-name* local=*local-seqno* remote=*remote-seqno*

Severity

8

Explanation

The sequence number wrap value for channel *channel-name* is *local-seqno*, but the value specified at the remote end is *remote-seqno*. The two values must be the same before the channel can be started.

System action

The channel does not start.

System programmer response

Change either the local or remote channel definition so that the values specified for the message sequence number wrap value are the same.

CSQX506E

csect-name Message receipt confirmation not received for channel *channel-name*

Severity

8

Explanation

The remote end did not accept the last batch of messages.

System action

Channel *channel-name* stops. The associated transmission queue may be set to GET(DISABLED) and triggering turned off.

System programmer response

Determine why the remote end did not accept the last batch of messages. Resolve the problem and restart the channel.

CSQX507E

csect-name Channel *channel-name* is in-doubt, connection *conn-id* (queue manager *qmgr-name*)

Severity

8

Explanation

Channel *channel-name* is in-doubt with the remote end using connection *conn-id*. The associated remote queue manager is *qmgr-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'.

System action

The requested operation does not complete.

System programmer response

Examine the status of the channel, and either restart a channel to resolve the in-doubt state, or use the [RESOLVE CHANNEL](#) command to correct the problem manually.

CSQX511I

csect-name Channel *channel-name* started, connection *conn-id*

Severity

0

Explanation

The specified SVRCONN channel has been started from connection *conn-id*.

System action

Processing continues.

CSQX512I

csect-name Channel *channel-name* no longer active, connection *conn-id*

Severity

0

Explanation

SVRCONN Channel *channel-name* terminated. It is now inactive if it terminated normally when the disconnect interval expired, or stopped if it terminated because of an error or a [STOP CHANNEL](#) command.

The SVRCONN *channel-name* was started from connection *conn-id*.

System action

Processing continues.

System programmer response

If the SVRCONN channel is stopped, resolve any error, and issue a [START CHANNEL](#) command to restart the channel.

CSQX513E

csect-name Current channel limit exceeded channel *channel-name* connection *conn-id*

Severity

8

Explanation

There are too many channels current to be able to start another. The maximum number allowed is specified in the MAXCHL queue manager attribute. Current channels include stopped and retrying channels as well as active channels.

If *channel-name* was an inbound channel (indicated by *csect-name* containing CSQXRESP) then it was started from connection *conn-id*. If *channel-name* was an outbound channel then *conn-id* will be omitted.

System action

The channel does not start.

System programmer response

Wait for some of the operating channels to terminate before restarting the channel, or use the [ALTER QMGR](#) command to increase **MAXCHL**. A change that increases **MAXCHL** will not be effective until the channel initiator has been stopped and restarted. If many of the currently operating channels are server-connection channels, consider limiting the number of those using **MAXINST** or **MAXINSTC** attributes of a server-connection channel. See [Server-connection channel limits](#) for more details.

CSQX514E

csect-name Channel *channel-name* is active on *qmgr-name*

Severity

8

Explanation

An operation was requested on a channel that is active. If the channel is shared, it might be active on another queue manager. If the channel is a receiver, a previous instance of it might have been orphaned and therefore still be active.

System action

The request fails.

System programmer response

For operations other than starting the channel, either stop the channel manually, or wait for it to terminate, and try the operation again. It might be necessary to use `MODE(FORCE)` to stop the channel manually if the Adopt MCA function is not being used. Using the Adopt MCA function avoids the need for manual intervention to handle orphaned receiver channels.

CSQX515I

csect-name Channel *channel-name* changed

Severity

0

Explanation

The channel for which information has been requested is a new instance of the channel. The previous channel instance has ended.

System action

The information shown is for the new channel instance.

CSQX516E

csect-name Error accessing synchronization data, RC=*return-code*

Severity

8

Explanation

There was an error when accessing the channel synchronization data.

If the return code is of the form 10009*nnn* or 20009*nnn*, it is a distributed queuing message code. This is generally associated with message CSQX*nnn*E, which will normally be issued previously.

Otherwise the most likely cause is a shortage of storage.

System action

The channel stops. The associated transmission queue may be set to `GET(DISABLED)` and triggering turned off.

In some cases, the channel initiator will stop as well.

System programmer response

If the return code is a distributed queuing message code, see the corresponding message explanation for more information. Where no such message is described, see [“Distributed queuing message codes” on page 1119](#) for the corresponding message number.

Restart the channel or the channel initiator. If the problem persists, contact your IBM support center.

CSQX517E

csect-name Error in *q-name* - channel *channel-name* repeated

Severity

8

Explanation

There was more than one set of synchronization information in *q-name* for an instance of channel *channel-name*. This is probably because the channel is a receiver channel, and there are two sender channels with the same name on different queue managers within the same network address that have communicated with it.

System action

The first set of synchronization information for the channel instance is used, and any others are ignored. Errors may occur if the channel is used.

System programmer response

Avoid using the channel. Remove the extra sets of information from the channel synchronization queue, and rename channels so that they have unique names.

If this does not resolve the problem, contact your IBM support center.

CSQX519E

csect-name Channel *channel-name* not defined connection *remote-conn-id*

Severity

8

Explanation

The channel initiator could not find a definition of channel *channel-name*.

The associated remote connection name is *remote-conn-id*. If the request to use the channel is not from an inbound connection, or the remote connection name cannot be determined, *remote-conn-id* will be shown as '????'.

System action

The requested operation fails.

System programmer response

Ensure that the name is specified correctly and the channel definition is available.

The message can also be issued if an automatically defined cluster sender channel (CLUSSDRA) has been deleted as a result of issuing a [REFRESH CLUSTER](#) command and a putting application still has a queue object open which is using the channel.

CSQX520E

csect-name Remote channel *channel-name* not defined

Severity

8

Explanation

There is no definition of channel *channel-name* at the remote end.

System action

The channel does not start.

System programmer response

Add an appropriate channel definition at the remote end, and retry the operation.

CSQX523E

csect-name Remote protocol error, channel *channel-name* type=*type* data=*xxx*

Severity

8

Explanation

During communications with the remote end, the remote message channel agent for channel *channel-name* detected a protocol error. *type* shows the type of error that occurred:

0000000A

Incorrect segment type

0000000B

Incorrect length

0000000C

Invalid data

0000000D

Invalid segment

0000000E

Invalid ID

0000000F

Invalid MSH

00000010

General error

00000011

Batch failure

00000012

Incorrect message length

00000013

Incorrect segment number

The data associated with the error (for example, the incorrect value) is shown by *xxx*.

System action

The channel stops. The associated transmission queue might be set to GET(DISABLED) and triggering turned off.

System programmer response

Examine the console log for the remote end to determine the cause of the failure. This might occur after the channel initiator or queue manager is stopped forcibly or ends abnormally. If it occurs in other cases, contact your IBM support center.

CSQX524E

csect-name Remote queue manager unavailable for channel *channel-name*

Severity

8

Explanation

Channel *channel-name* cannot start because the remote queue manager is not currently available.

System action

The channel does not start

System programmer response

Either start the remote queue manager, or retry the operation later.

CSQX525E

csect-name Channel *channel-name* closing because remote queue manager *qmgr-name* is stopping

Severity

8

Explanation

Channel *channel-name* is closing because the remote queue manager *qmgr-name* is stopping. In some cases, the remote queue manager name cannot be determined and so is shown as '????'.

System action

The channel stops. The associated transmission queue might be set to GET(DISABLED) and triggering turned off.

System programmer response

Investigate why the remote queue manager is stopping, if it was not expected.

CSQX526E

csect-name Message sequence error for channel *channel-name*, sent=*msg-seqno* expected=*exp-seqno*

Severity

8

Explanation

The local queue manager does not agree with the remote end on the next message sequence number for channel *channel-name*. The message is normally issued at both the sending and receiving end: at the sending end, *msg-seqno* and *exp-seqno* are unpredictable; at the receiving end, a message had sequence number *msg-seqno* but sequence number *exp-seqno* was expected.

System action

The channel stops. The associated transmission queue might be set to GET(DISABLED) and triggering turned off.

System programmer response

Determine the cause of the inconsistency. It could be that the synchronization information has become damaged, or has been backed out to a previous version. If the problem cannot be resolved, the sequence number can be reset manually at the sending end of the channel using the `RESET CHANNEL` command. (For some queue managers, it might be necessary to issue the `RESET CHANNEL` command at the receiving end as well.)

CSQX527E

csect-name Unable to send message for channel *channel-name*

Severity

8

Explanation

The remote end cannot receive the message that is being sent for channel *channel-name*.

System action

The channel stops. The associated transmission queue may be set to GET(DISABLED) and triggering turned off.

System programmer response

Examine the console log for the remote end to determine why the message cannot be received, and then restart the channel.

CSQX528I

csect-name Channel *channel-name* stopping

Severity

0

Explanation

The channel is closing because a [STOP CHANNEL](#) command was issued, or because the channel initiator is stopping.

System action

The channel stops. The associated transmission queue may be set to GET(DISABLED) and triggering turned off.

System programmer response

Note that a STOP CHANNEL command puts the channel into STOPPED state. A [START CHANNEL](#) command must be issued to restart it.

CSQX531E

csect-name Transmission queue *q-name* for *channel-name* has wrong usage type

Severity

8

Explanation

Queue *q-name* is named as a transmission queue in the channel definition for *channel-name*, but it is not a transmission queue.

System action

The channel does not start.

System programmer response

Ensure the queue name is specified correctly in the channel definition. If it is, alter the queue usage attribute of the queue to that of a transmission queue.

CSQX533I

csect-name Channel *channel-name* is already in requested state

Severity

0

Explanation

A request to stop channel *channel-name* was made, but the channel was already in the specified state, or in the process of reaching that state.

System action

The request is ignored.

CSQX534E

csect-name Channel *channel-name* is stopped

Severity

4

Explanation

The operation requested cannot be performed because the channel is currently stopped.

System action

The request is ignored.

System programmer response

Issue a [START CHANNEL](#) command to restart the channel.

CSQX535E

csect-name Channel *channel-name* stopping because exit *exit-name* is not valid

Severity

8

Explanation

The user exit *exit-name* specified for channel *channel-name* is not valid.

System action

The channel stops. The associated transmission queue might be set to GET(DISABLED) and triggering turned off. For auto-defined channels, the channel does not start.

System programmer response

Ensure that the user exit name is specified correctly in the channel definition, and that the user exit program is correct and available. The channel initiator loads exits from the library data sets under the CSQXLIB DD statement of its started task JCL procedure xxxxCHIN.

CSQX536I

csect-name Channel *channel-name* stopping because of request by exit *exit-name*

Severity

0

Explanation

The channel is closing because the user channel exit *exit-name* requested it.

System action

The channel stops. The associated transmission queue may be set to GET(DISABLED) and triggering turned off. For auto-defined channels, the channel does not start.

System programmer response

Note that this puts the channel into STOPPED state. A [START CHANNEL](#) command must be issued to restart it.

CSQX539E

csect-name Channel *channel-name* for queue *q-name* is not available

Severity

8

Explanation

A trigger message was received to start a channel *channel-name* to process the transmission queue *q-name*. However, the channel initiator could not find a defined and available channel to start.

System action

The channel does not start.

System programmer response

Ensure that there is a channel defined to process the transmission queue, and that it is not stopped.

CSQX540E

csect-name Unable to commit batch, channel *channel-name* MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

An MQCMIT call for the queue associated with channel *channel-name* was unsuccessful.

System action

The channel stops. The associated transmission queue might be set to GET(DISABLED) and triggering turned off.

System programmer response

Refer to “API 完了コードと理由コード” on page 1123 for information about *mqcc* and *mqrc* (*mqrctext* provides the MQRC in textual form).

CSQX541E

csect-name Invalid CCSIDs for data conversion, *ccsid1* and *ccsid2*

Severity

8

Explanation

Either the local coded character set identifier (CCSID) or the target CCSID is not valid, or is not currently supported, or conversion between the two CCSIDs involved is not supported. (The name of the channel cannot be determined because the invalid CCSID prevents the necessary data conversion being done.)

System action

The channel stops. The associated transmission queue may be set to GET(DISABLED) and triggering turned off.

System programmer response

Ensure that the CCSIDs are valid and that conversion between them is supported. For information about the CCSIDs that are supported, see [Codeset names and CCSIDs](#).

CSQX544E

csect-name Messages for channel *channel-name* sent to remote dead-letter queue

Severity

4

Explanation

During the processing of channel *channel-name*, one or more messages have been put the dead-letter queue at the remote queue manager.

System action

Processing continues.

System programmer response

Examine the contents of the dead-letter queue. Each message is contained in a structure that describes why the message was put to the queue, and to where it was originally addressed.

CSQX545I

csect-name Channel *channel-name* closing because disconnect interval expired

Severity

0

Explanation

The channel is closing because no messages arrived on the transmission queue within the disconnect interval.

System action

The channel ends normally.

CSQX547E

csect-name Remote channel *channel-name* has the wrong type

Severity

8

Explanation

The operation requested cannot be performed because channel *channel-name* on the remote end is not of a suitable type. For example, if the local channel is defined as a sender the remote queue manager must define its corresponding channel as either a receiver or requester.

System action

The requested operation is not performed.

System programmer response

Check that the channel name is specified correctly. If it is, check that:

- The channel definition on the remote end has an appropriate channel type
- The connection name of the local channel identifies the remote end correctly
- For a cluster-receiver channel, the connection name does not specify a generic address or a shared listener port (INDISP=GROUP).
- For TCP/IP connections, the port number specified by the local channel matches that used by the listener at the remote queue manager.

CSQX548E

csect-name Messages sent to local dead-letter queue, channel *channel-name* reason=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

4

Explanation

During the processing of channel *channel-name*, one or more messages have been put the dead-letter queue at the local queue manager. *mqrc* shows why, and is one of the following:

- an MQRC_* reason code from an MQPUT or MQPUT1 call
- an MQFB_* feedback code.

System action

Processing continues.

System programmer response

Examine the contents of the dead-letter queue. Each message is contained in a structure that describes why the message was put to the queue, and to where it was originally addressed.

Refer to “API 完了コードと理由コード” on page 1123 for information about *mqcc* and *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

For information about MQFB_* feedback codes see the MQMD description in [MQMD - Message descriptor](#).

CSQX549E

csect-name Queue *q-name* for channel *channel-name* is get-inhibited

Severity

8

Explanation

An MQGET failed because the transmission queue had been previously inhibited for gets.

System action

The channel stops. The associated transmission queue might have triggering turned off.

System programmer response

Change the definition of the transmission queue so that it is not inhibited for MQGET calls.

CSQX551E

csect-name Action not supported, channel *channel-name* connection *conn-id* (queue manager *qmgr-name*)

Severity

8

Explanation

The operation requested for channel *channel-name* is not supported by the remote end using the connection *conn-id*. The associated remote queue manager is *qmgr-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'.

System action

The channel stops. The associated transmission queue may be set to GET(DISABLED) and triggering turned off.

System programmer response

Check that the connection name parameter is specified correctly and that the levels of the queue managers in use are compatible.

CSQX552E

csect-name Security exit data for channel *channel-name* not received, connection *conn-id*

Severity

8

Explanation

The local security user channel exit for channel *channel-name* requested data from the remote security user channel exit, but no data was received. The remote connection was *conn-id*.

System action

The channel stops. The associated transmission queue may be set to GET(DISABLED) and triggering turned off.

System programmer response

Ensure that the security exit for the channel on the remote end has been defined correctly and is available. If it is, check that the exit program operates correctly.

CSQX558E

csect-name Remote channel *channel-name* not available

Severity

8

Explanation

The channel *channel-name* at the remote end is currently stopped or is otherwise unavailable. For example, there might be too many channels current to be able to start it.

System action

The channel does not start.

System programmer response

This might be a temporary situation, and the channel will try again. If not, check the status of the channel at the remote end. If it is stopped, issue a `START CHANNEL` command to restart it. If there are too many channels current, either wait for some of the operating channels to terminate, or stop some channels manually, before restarting the channel.

CSQX565E

csect-name No dead-letter queue for *qmgr-name*, channel *channel-name*

Severity

8

Explanation

A message could not be delivered normally and there is no dead-letter queue defined for queue manager *qmgr-name*.

You can get this message with a cluster sender channel during message reallocation. During reallocation, the message is got from the transmission queue and put back again. If the transmission queue is full, then the put fails and tries writing the message to the dead letter queue. If the dead letter queue does not exist, message CSQX565E is produced, and the reallocation changes are rolled back. Reallocation does not happen until the queue full problem is resolved.

System action

The channel stops, except in the case where nonpersistent messages are being sent and the NPMCLASS attribute of the channel is set to FAST, when processing continues. The associated transmission queue may be set to GET(DISABLED) and triggering turned off.

System programmer response

Correct the problem that prevented the message from being delivered normally, or define a dead-letter queue for the remote queue manager.

CSQX567E

csect-name Listener unable to register to APPC/MVS, TRPTYPE=LU62 INDISP=*disposition* RC=*return-code* reason=*reason*

Severity

8

Explanation

While starting, the specified LU 6.2 listener could not register as an APPC/MVS server. The return code from APPC/MVS allocate services was *return-code* and the associated reason code was *reason* (both in hexadecimal).

System action

The listener is not started.

System programmer response

See “[Communications protocol return codes for z/OS](#)” on page 1104 for the cause of the return code from APPC/MVS allocate services, and the [z/OS MVS Programming: Writing Servers for APPC/MVS](#) manual for more information. Check that the LUNAME queue manager attribute is the same as the PARTNER_LU value for the APPC/MVS symbolic destination used by the listener.

CSQX568E

csect-name Listener unable to unregister from APPC/MVS, TRPTYPE=LU62 INDISP=*disposition* RC=*return-code* reason=*reason*

Severity

8

Explanation

While stopping, the specified LU 6.2 listener could not unregister as an APPC/MVS server. The return code from APPC/MVS allocate services was *return-code* and the associated reason code was *reason* (both in hexadecimal).

System action

The listener stops. It may not be possible to restart it.

System programmer response

See “[Communications protocol return codes for z/OS](#)” on page 1104 for the cause of the return code from APPC/MVS allocate services and the [z/OS MVS Programming: Writing Servers for APPC/MVS](#) manual for more information.

CSQX569E

csect-name Channel *channel-name* exceeded TCP/IP channel limit

Severity

8

Explanation

The number of current TCP/IP channels is the maximum allowed; another channel cannot be started. Current channels include stopped and retrying channels as well as active channels. The maximum allowed is specified in the TCPCHL queue manager attribute, but may be reduced if a dispatcher fails, or if TCP/IP resources are restricted (as reported by message [CSQX118I](#)).

System action

The channel does not start.

System programmer response

If the maximum allowed is zero, TCP/IP communications are not allowed, and no TCP/IP channels can be started. If the maximum allowed is non-zero, wait for some of the operating channels to terminate before restarting the channel, or use the [ALTER QMGR](#) command to increase TCPCHL.

CSQX570E

csect-name Channel *channel-name* exceeded LU 6.2 channel limit

Severity

8

Explanation

The number of current LU 6.2 channels is the maximum allowed; another channel cannot be started. Current channels include stopped and retrying channels as well as active channels. The maximum allowed is specified in the LU62CHL queue manager attribute, but may be reduced if a dispatcher fails.

System action

The channel does not start.

System programmer response

If the maximum allowed is zero, LU 6.2 communications are not allowed, and no LU 6.2 channels can be started. If the maximum allowed is non-zero, wait for some of the operating channels to terminate before restarting the channel, or use the [ALTER QMGR](#) command to increase LU62CHL.

CSQX571E

csect-name Error from PKCS #11 callable service '*func*', RC=*return-code*, reason=*reason*

Severity

8

Explanation

An attempt to use PKCS #11 callable service *func* failed.

System action

The component where the error occurred (message channel agent, supervisor) will continue but the feature being used will be unavailable.

If *func* is CSFPPRF (Pseudo-random function) the feature affected is password protection. If this feature is not being used then this error can be ignored. If this occurs at channel initiator startup, the password protection algorithm uses STCK instead.

System programmer response

For information about the *return-code* and *reason* from the PKCS #11 callable service, see the section on [ICSF and cryptographic coprocessor return/reason codes](#) in the *z/OS Cryptographic Services ICSF Application Programmer's Guide*.

For more information about Integrated Cryptographic Service Facility (ICSF), see [Using ICSF](#).

CSQX572E

csect-name Channel *channel-name* stopping because message header is not valid

Severity

8

Explanation

During the processing of channel *channel-name*, a message was found that had an invalid header. The dead-letter queue was defined as a transmission queue, so a loop would have been created if the message had been put there.

System action

The channel stops. The associated transmission queue may be set to GET(DISABLED) and triggering turned off.

System programmer response

Correct the problem that caused the invalid message header.

CSQX573E

csect-name Channel *channel-name* exceeded active channel limit

Severity

8

Explanation

There are too many channels active (transmitting messages) to be able to start another. The maximum number allowed is specified in the ACTCHL queue manager attribute.

System action

The channel does not start.

System programmer response

Either wait for some of the operating channels to terminate, or stop some channels manually, before restarting the channel, or use the [ALTER QMGR](#) command to increase ACTCHL. A change that increases ACTCHL will not be effective until the channel initiator has been stopped and restarted.

CSQX574I

csect-name Channel *channel-name* can now start

Severity

0

Explanation

The specified channel was waiting to start, because there were too many channels active (transmitting messages) to be able to start another. One or more of the active channels has terminated, so this channel can now start.

Note: This message is not itself issued, although the corresponding event is generated.

CSQX575E

csect-name Negotiation failed for channel

Severity

8

Explanation

A channel between the local queue manager and the remote end could not be established due to a negotiation failure. The failure was such that the channel name could not be determined: for example, data conversion between the coded character set identifiers (CCSIDs) used by the local and remote ends might not have been possible.

System action

The channel is not started.

System programmer response

Examine the console log for the remote end for messages explaining the cause of the negotiation failure.

CSQX576E

csect-name ICSF is not available

Severity

8

Explanation

In order to generate entropy for the password protection algorithm, a call to CSFPPRF (Pseudo-random function) is made which requires the Integrated Cryptographic Service Facility (ICSF) to be available. ICSF was found not to be available.

System action

The password protection algorithm uses STCK instead.

System programmer response

If password protection is being used, start ICSF. If it is not being used, this error message can be ignored.

CSQX578E

csect-name Unable to save status for channel *channel-name*

Severity

8

Explanation

An internal error has occurred.

System action

The channel stops. The associated transmission queue may be set to GET(DISABLED) and triggering turned off.

Information about the error is written to the data set identified by the CSQSNAP DD statement of the channel initiator started task JCL procedure, xxxxCHIN.

System programmer response

Collect the items listed in the Problem Determination section and contact your IBM support center.

CSQX599E

csect-name Channel *channel-name* ended abnormally connection *conn-id*

Severity

8

Explanation

Channel *channel-name* ended abnormally because of a severe problem, as reported in the preceding messages.

If *channel-name* is an inbound channel (indicated by *csect-name* containing CSQXRESP) then it was started from connection *conn-id*. If *channel-name* is an outbound channel then *conn-id* will be omitted. The *conn-id* may be followed by the resolved hostname or the network address in parentheses following the *conn-id* but this is dependent on whether it can be resolved and if there is sufficient space remaining to report it.

System action

The channel stops. The associated transmission queue might be set to GET(DISABLED) and triggering turned off.

System programmer response

Investigate the problem reported in the preceding messages. For more information see, [Problem determination in DQM](#).

CSQX608E

csect-name Remote resources in recovery for channel *channel-name*

Severity

8

Explanation

Channel *channel-name* cannot start because resources at the remote queue manager are being recovered.

System action

The channel does not start.

System programmer response

Restart the channel at a later time. If the problem persists examine the console log for the remote end for messages explaining the cause of the problem. This includes an instance of [CSQX609E](#) with more details.

CSQX609E

csect-name Resources in recovery, channel *channel-name* MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The message channel agent for the channel could not connect to the queue manager because resources are being recovered.

System action

The channel does not start.

System programmer response

Refer to “API 完了コードと理由コード” on page 1123 for information about *mqcc* and *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form), which come from an MQCONN request.

CSQX613I

csect-name Channel *channel-name* instance is already in requested state

Severity

0

Explanation

A request to stop a particular instance of channel *channel-name* was made (by specifying a connection name or a remote queue manager name), but the channel instance was already in the specified state, or in the process of reaching that state.

This error will also apply if an attempt is made to stop a SVRCONN channel using the QMNAME parameter. In this case do not use the QMNAME parameter. In order to stop a specific SVRCONN instance use the CONNAME parameter

System action

The request is ignored.

CSQX616E

csect-name The proposed CipherSpec is not enabled. CipherSpec *cipherspec* channel *channel* connection *conn-id*

Severity

8

Explanation

A channel has failed to start because the other end has proposed a CipherSpec that is not enabled on the local channel initiator.

System action

The channel is prevented from starting.

System programmer response

Check that you have the correct digital certificate public key type for the CipherSpec you are trying to use; see [Digital certificates and CipherSpec compatibility in IBM MQ](#) for more information.

Examine the CipherSpec specified in the SSLCIPH channel attribute and consider using a more secure CipherSpec.

If the CipherSpec is for TLS 1.3 and TLS 1.3 is not enabled, enable TLS 1.3 by setting **AllowTLSV13=TRUE** in the TransportSecurity stanza in the QMINI data set in your queue manager start up procedure.

If you want to re-enable the use of weak or deprecated CipherSpecs, see [Enabling deprecated CipherSpecs on z/OS](#).



Attention: Re-enabling CipherSpecs in this manner leaves systems exposed to possible security problems. You should use CipherSpecs that use only the TLS protocol, rather than SSLv3.

CSQX617I

csect-name SSL key repository refresh not processed, SSL communications unavailable

Severity

0

Explanation

The cached SSL key repository cannot be refreshed in response to a [REFRESH SECURITY TYPE\(SSL\)](#) command because SSL communications are currently unavailable.

System action

0

System programmer response

Investigate why SSL is not available and take action as appropriate. It may be necessary to restart the channel initiator to allow SSL to be used.

Note: Ensure that SSLTASKS is set to a nonzero value.

CSQX618I

csect-name SSL key repository refresh started

Severity

0

Explanation

The cached SSL key repository is being refreshed in response to a [REFRESH SECURITY TYPE\(SSL\)](#) command.

System action

Message [CSQX619I](#) will be issued when the refresh is complete.

CSQX619I

csect-name SSL key repository refresh processed

Severity

0

Explanation

The refresh of the cached SSL key repository is complete.

System action

Channels will be restarted as required.

CSQX620E

csect-name System SSL error, channel *channel-name* connection *conn-id* function '*func*' RC=*return-code*

Severity

8

Explanation

An unexpected SSL communications error occurred for a channel. The channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'. The remote connection is *conn-id*. *func* is the name of the System SSL function that gave the error, and *return-code* is the return code (in decimal unless *func* is 'gsk_fips_state_set' in which case it is in hexadecimal).

System action

The channel is stopped.

System programmer response

See [“Transport Layer Security \(TLS\) return codes for z/OS”](#) on page 1116 for the cause of the return code from System SSL and refer to [SSL Function Return Codes](#) in the *z/OS Cryptographic Services System SSL Programming* manual for more information.

CSQX625E

csect-name System SSL error, function '*func*' RC=*return-code*

Severity

8

Explanation

An unexpected SSL communications error occurred for an SSL server subtask. *func* is the name of the System SSL function that gave the error, and *return-code* is the return code (in decimal).

System action

The SSL server subtask terminates.

System programmer response

See [“Transport Layer Security \(TLS\) return codes for z/OS”](#) on page 1116 for the cause of the return code from System SSL and refer to [SSL Function Return Codes](#) in the *z/OS Cryptographic Services System SSL Programming* manual for more information.

CSQX629E

csect-name Channel *channel-name* requires ICSF for SSLCIPH(*ciph*)

Severity

8

Explanation

Channel *channel-name* is using a cipherspec *ciph* that requires Integrated Cryptographic Service Facility (ICSF) callable services, but ICSF is not available. Sometimes the channel name and cipherspec are unknown and so are shown as "????".

The 4-character hexadecimal codes are listed in [Table 1 of Enabling CipherSpecs](#) and [Table 1 of Deprecated CipherSpecs](#).

If the CipherSpec is shown in the message as a 4-character hexadecimal code, the name can be obtained from [CipherSpecs](#) order in TLS handshake.

The cipherspecs that use GCM or ephemeral elliptic curve algorithms require ICSF.

System action

The channel will not start.

System programmer response

Ensure ICSF is available, or change the cipherspec that the channel is using to one that does not require ICSF. If you are using ICSF and running the queue manager with SSLFIPS(YES), ensure that ICSF is configured to run in FIPS mode.

For more information, see [System SSL function return code 455](#) in the *z/OS Cryptographic Services System SSL Programming* manual.

CSQX630E

csect-name Channel *channel-name* requires SSL

Severity

8

Explanation

Channel *channel-name* cannot start because it requires SSL, but SSL communications are not currently available.

System action

The channel does not start.

System programmer response

If SSL is required, investigate why it is not available and take action as appropriate. One possible cause, is that there is no certificate available owned by the user who initiated the channel address space. If this is the case, you need to re-configure the user ID to have a certificate with the correct value, by issuing the command **RACDCERT ID(xxxx)**, where xxxx is the user ID.

Check that you have the SSL queue manager properties set, for example SSLTASKS must be greater than 0.

If SSL is not required, change the channel definition so that SSL is not used.

CSQX631E

csect-name Cipher specifications differ, channel *channel-name* local=*local-ciph* remote=*remote-ciph* connection *conn-id*

Severity

8

Explanation

The SSL cipher specification value for channel *channel-name* is *local-ciph*, but the value specified at the remote end (from connection *conn-id*) is *remote-ciph*.

Supported alias CipherSpecs are listed in [CipherSpecs you can use with IBM MQ TLS support](#), and supported CipherSpecs and protocols are listed in [CipherSpecs order in TLS handshake](#)

System action

The channel does not start.

System programmer response

Change either the local or remote channel definition so that the values specified for the SSL cipher specification are the same.

If ANY_* alias CipherSpec values are being used, ensure that compatible CipherSpec values are used at both ends of the channel so that a suitable CipherSpec can be negotiated.

CSQX632I

csect-name SSL certificate has no associated user ID, remote channel *channel-name*, connection *conn-id* - channel initiator user ID used

Severity

0

Explanation

The certificate sent from the remote end (from connection *conn-id*) during SSL handshaking was accepted, but no user ID could be found associated with it. The channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'.

Likely causes are that the certificate or a matching certificate name filter are not defined to the external security manager (ESM), or that the certificate contains fields that are not understood by the ESM.

System action

The user ID of the channel initiator address space is used as the channel user ID for the channel.

System programmer response

If you are using certificate name filtering, you can create a filter that matches this certificate. See [Working with Certificate Name Filters \(CNFs\)](#) for details on associating a user ID with a certificate.

If the security you want on your channel does not require the use of the SSL mapped certificate user ID, you can define the channel to use Put Authority (**PUTAUT**) with a value of **ONLYMCA** instead of **DEF**, or **ALTMCA** instead of **CTX** and this message is not issued as no security checking for the channel is using the SSL mapped certificate user ID that could not be found. See [Receiving channels using](#)

[TCP/IP](#) for more details about which user IDs are used for security checking on a receiving channel using TCP/IP.

Alternatively, change the **SSLPEER** channel attribute or create a **CHLAUTH** record to prevent this certificate being accepted from the remote channel. See [Channel authentication records](#) for more details.

CSQX633E

csect-name SSL certificate for remote channel *channel-name* failed local check, connection *conn-id*

Severity

8

Explanation

The certificate sent from the remote end (from connection *conn-id*) during SSL handshaking could not be validated. The channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'.

System action

The channel will not start.

System programmer response

Ensure that the SSL certificate connected to the key repository at the remote end is valid, and that the signing certificate(s) have been connected to the key ring on the local queue manager so that the certificate sent can be authenticated.

For full details about SSL certificates and key repositories see [Securing](#).

This error might indicate that the remote end of the channel is configured to send the wrong certificate. Check the certificate label configuration at the remote end of the channel and ensure that the local key repository contains all of the necessary CA certificates.

For more information, refer to [System SSL Function Return Code 8](#) in the *z/OS Cryptographic Services System SSL Programming* manual.

CSQX634E

csect-name SSL certificate failed remote check, channel *channel-name* connection *conn-id*

Severity

8

Explanation

The certificates sent to the remote end using the connection *conn-id* during SSL handshaking could not be validated. The channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'.

System action

The channel will not start.

System programmer response

Firstly, you need to check that the SSL certificate in the key ring at the local queue manager *qmgr-name* is valid, for example, in TRUST status and not expired.

Secondly, you also need to check that both the signing certificate (for example the certificate from the certificate authority) and the signed certificate have been connected to the key repository on the remote end, so that the certificate sent can be verified at the remote end.

The certificate used is either named on the channel in the CERTLABL attribute, or named on the queue manager in the CERTLABL attribute or CERTQSG attribute (for a shared channel). If no certificate label is found in any of these attributes, then the certificate is named 'ibmMQqsg-name' (for a shared channel) or 'ibmMQqmgr-name', or a default certificate in the key ring is used.

For full details about SSL certificates and key repositories see [Securing](#).

For more information, refer to [System SSL Function return code 414](#) in the *z/OS Cryptographic Services System SSL Programming manual*.

CSQX635E

csect-name Invalid cipher specification *ciph* for channel *channel-name* connection *conn-id*

Severity

8

Explanation

The SSL cipher specification value for channel *channel-name* is not valid. The value is shown in the message as the full cipher string.

Supported CipherSpecs are listed in [CipherSpecs order in TLS handshake](#).

This error can occur if the remote end is configured to use SSLFIPS(YES). Check the errors at the remote end to determine if this is the case.

This error can also occur if SSLFIPS is configured at either end and an attempt was made to start a channel with a TLS 1.3 CipherSpec. TLS 1.3 CipherSpecs have not been FIPS certified yet.

System action

The channel will not start.

System programmer response

Correct the SSL cipher specification for the channel. If the remote end is configured to only accept FIPS-certified cipher specifications, change the channel to use a FIPS-certified cipher spec. See [Specifying CipherSpecs](#) for details on which cipher specifications are FIPS-certified.

For more information, refer to [System SSL Function Return Code 402](#), [System SSL Function Return Code 412](#), and [System SSL Function Return Code 422](#) in the *z/OS Cryptographic Services System SSL Programming manual*.

If the CipherSpec is for TLS 1.3 and TLS 1.3 is not enabled, enable TLS 1.3 by setting **AllowTLSV13=TRUE** in the **TransportSecurity** stanza in the QMINI data set in your queue manager start up procedure. However, if the queue manager attribute SSLFIPS is set to YES, TLS V1.3 cipher specifications cannot be used because TLS V1.3 CipherSpecs are not yet FIPS certified. In this case, consider setting SSLFIPS to NO.

CSQX636E

csect-name Distinguished name does not match peer name, channel *channel-name* name='*dist-name*' connection *conn-id*

Severity

8

Explanation

The distinguished name, *dist-name*, specified in the SSL certificate at the remote end (from connection *conn-id*) does not match the SSL peer name for channel *channel-name*. The distinguished name at the remote end must match the peer name specified (which can be generic) before the channel can be started. In some cases the channel name cannot be determined and so is shown as '????'.

System action

The channel will not start.

System programmer response

This error might indicate that the remote end of the channel is configured to send the wrong certificate. Check the certificate label configuration at the remote end of the channel and ensure that the local key repository contains all of the necessary CA certificates.

To allow this remote end to connect, change the SSL peer name specification for the channel so that it matches the distinguished name in the SSL certificate at the remote end, or obtain the correct certificate for the remote end, as appropriate.

If the SSL Peer name specification needs to match a number of different distinguished names for multiple different remote SSL certificates, consider using channel authentication records to define rules to allow or block specific SSL peer names instead of the SSL Peer name specification on the channel definition. See [Channel authentication records](#) for more details.

CSQX637E

csect-name No SSL certificate for remote channel *channel-name*, connection *conn-id*

Severity

8

Explanation

The remote channel (from connection *conn-id*) did not supply a certificate to use during SSL handshaking, but a certificate is required. The channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'.

System action

The channel will not start.

System programmer response

Ensure that the SSL certificate is connected to the key repository of the remote end, and the certificate is marked as "TRUST" by RACF, and not expired. Alternatively, if appropriate, change the local channel definition so that its **SSLCAUTH** attribute is set to **OPTIONAL**.

For full details about SSL certificates and key repositories see [Securing](#).

For more information, refer to [System SSL Function Return Code 403](#) in the *z/OS Cryptographic Services System SSL Programming* manual.

CSQX638E

csect-name SSL communications error for channel *channel-name*, connection *conn-id*

Severity

8

Explanation

An unexpected SSL communications error occurred for a channel, as reported in the preceding messages. The channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'. The remote connection is *conn-id*.

System action

The channel will not start.

System programmer response

Investigate the problem reported in the preceding messages. Review the local and remote console logs for reports of network errors.

For more information, refer to [System SSL Function Return Code 406](#) in the *z/OS Cryptographic Services System SSL Programming* manual.

CSQX639E

csect-name No cipher specification for remote channel *channel-name*, connection *conn-id*

Severity

8

Explanation

No SSL cipher specification was supplied by the remote channel *channel-name* (from connection *conn-id*), but one was required. In some cases the channel name cannot be determined and so is shown as '????'.

System action

The channel will not start.

System programmer response

Change the remote channel definition so that the value specified for the SSL cipher specification is the same as that of the local channel.

CSQX640E

csect-name Invalid peer name, channel *channel-name* attribute=*key-name*

Severity

8

Explanation

The SSL peer name for channel *channel-name* includes a distinguished name attribute key *key-name* which is invalid or unsupported. In some cases the channel name cannot be determined and so is shown as '????'.

System action

The channel will not start.

System programmer response

Correct the SSL peer name for the channel.

CSQX641E

csect-name Cipher specification error for remote channel, channel *channel-name*, local=*local-cipher*, remote=*remote-cipher*, connection *connection-id*

Severity

8

Explanation

An error occurred with the CipherSpec for remote channel *channel-name* (from connection *connection-id*). In some cases, the channel name cannot be determined and so is shown as '????'.

System action

The channel will not start.

System programmer response

Review the CipherSpecs at both ends of the channel and ensure that they match.

If the CipherSpec is for TLS 1.3 and TLS 1.3 is not enabled, enable TLS 1.3 by setting **AllowTLSV13=TRUE** in the TransportSecurity stanza in the QMINI data set in your queue manager start up procedure.

If ANY_* alias CipherSpec values are being used, ensure that compatible CipherSpec values are used at both ends of the channel so that a suitable CipherSpec can be negotiated.

CSQX642E

csect-name No SSL certificate for channel *channel-name*

Severity

8

Explanation

The channel *channel-name* did not supply a certificate to use during SSL handshaking, but a certificate is required by the remote end. In some cases the channel name cannot be determined and so is shown as '????'.

System action

The channel does not start.

System programmer response

Ensure that the key ring of the local queue manager *qmgr-name* has an SSL certificate connected to it which is associated with the queue manager. If you have configured a certificate label, check that the certificate exists, is marked as "TRUST" by RACF, and not expired.

The certificate used is either named on the channel in the CERTLABL attribute, or named on the queue manager in the CERTLABL attribute or CERTQSG attribute (for a shared channel). If no certificate label is found in any of these attributes, then the certificate is named 'ibmMQqsg-name' (for a shared channel) or 'ibmMQqmgr-name', or a default certificate in the key ring is used.

Alternatively, if appropriate, change the remote channel definition so that its SSLCAUTH attribute is set to OPTIONAL.

For full details about SSL certificates and key repositories, see [Securing](#).

CSQX643E

csect-name Peer name error for remote channel *channel-name*, connection *conn-id*

Severity

8

Explanation

An error occurred with the SSL peer name for remote channel *channel-name* (from connection *conn-id*). In some cases the channel name cannot be determined and so is shown as '????'.

System action

The channel will not start.

System programmer response

Review the remote console log to determine the peer name error.

CSQX644E

csect-name Unable to determine peer name for remote channel *channel-name*

Severity

4

Explanation

The peer name associated with the certificate sent from the remote end during SSL handshaking could not be determined. The channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'.

System action

If the local channel has a peer name specified it does not start.

System programmer response

Ensure that the SSL certificate in the key ring at the local queue manager *qmgr-name* is valid, and that the signing certificate has been connected to the key repository on the remote end so that the certificate sent can be authenticated.

The certificate used is either named on the channel in the CERTLABL attribute, or named on the queue manager in the CERTLABL attribute or CERTQSG attribute (for a shared channel). If no certificate

label is found in any of these attributes, then the certificate is named 'ibmMQqsg-name' (for a shared channel) or 'ibmMQmgr-name', or a default certificate in the key ring is used.

Check that the local and remote channel definitions are correct.

For full details about SSL certificates and key repositories, see [Securing](#).

CSQX645E

csect-name Certificate *cert-label* missing for channel *channel-name*

Severity

4

Explanation

An SSL/TLS certificate *cert-label*, or the default certificate cannot be found in the key ring or the certificate is not trusted. The channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'.

In some cases this message will appear multiple times, once for each affected channel.

System action

The channel does not start.

System programmer response

Ensure that the SSL/TLS certificate named *cert-label* is in the key ring and that it is valid.

Alternatively, change the certificate label configuration so that the channel uses a valid certificate.

The certificate used is either named on the channel in the CERTLABL attribute, or named on the queue manager in the CERTLABL attribute or CERTQSG attribute (for a shared channel). If no certificate label is found in any of these attributes, then the certificate is named 'ibmMQqsg-name' (for a shared channel) or 'ibmMQmgr-name', or a default certificate in the key ring is used.

To verify which key ring is in use, issue the following MQSC command:

```
DISPLAY QMGR SSLKEYR
```

To list the certificates that are present in the key ring in use, issue the following RACF command, or an equivalent command in your External Security Manager:

```
RACDCERT ID(chinit-user-id) LISTRING(key-ring-name)
```

For more information, refer to return codes [System SSL Function Return Code 6](#) and [System SSL Function Return Code 407](#) in the *z/OS Cryptographic Services System SSL Programming* manual.

CSQX646E

csect-name Error accessing LDAP server for channel *channel-name*

Severity

4

Explanation

While checking CRLs for a channel, an error occurred in setting up the LDAP environment or retrieving an LDAP directory entry. The channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'.

System action

The channel will not start.

System programmer response

Ensure that the LDAP server is specified and set up correctly, and is running.

For more information, refer to [System SSL Function Return Code 11](#) in the *z/OS Cryptographic Services System SSL Programming* manual.

CSQX658E

csect-name SSL certificate has expired, channel *channel-name* connection *conn-id*

Severity

4

Explanation

The current time is either before the SSL certificate start time or after the end time. The channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'. The connection is *conn-id*.

System action

The channel will not start.

System Programmer response

Obtain a new certificate if the certificate has expired, or wait until the certificate becomes valid if it is not valid yet.

For more information, refer to [System SSL Function Return Code 401](#) in the *z/OS Cryptographic Services System SSL Programming* manual.

CSQX663E

csect-name SSL certificate signature is incorrect, channel *channel-name* connection *conn-id*

Severity

4

Explanation

In the SSL certificate sent from the remote end using the connection *conn-id*, the certificate signature is not correct. The channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'.

System action

The channel will not start.

System programmer response

Ensure that the SSL certificate connected to the key repository at the remote end is valid.

For more information, refer to [System SSL Function Return Code 413](#) in the *z/OS Cryptographic Services System SSL Programming* manual.

CSQX665E

csect-name Channel *channel-name* stopping because remote SSL socket closed, connection *conn-id*

Severity

4

Explanation

The remote end of a channel using SSL communications (from connection *conn-id*) closed the socket or sent a close notification alert. The channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'.

System action

The channel stops.

System programmer response

Examine the console log for the remote end to determine the cause of the failure.

For more information, refer to [System SSL Function Return Code 420](#) in the *z/OS Cryptographic Services System SSL Programming* manual.

CSQX666E

csect-name LDAP server unavailable for channel *channel-name*

Severity

4

Explanation

While checking CRLs for a channel, the required LDAP server was not available. The channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'.

System action

The channel does not start.

System programmer response

Ensure that the LDAP server is running.

For more information, refer to [System SSL Function return Code 427](#) in the *z/OS Cryptographic Services System SSL Programming* manual.

CSQX668I

csect-name Cipher specifications based on the TLS V1.2 protocol are disabled

Severity

4

Explanation

Cipher specifications that use the TLS V1.2 protocol are not enabled. Channels configured to use those cipher specifications fail when started.

System action

Processing continues.

System programmer response

If you do not need to use cipher specifications based on the TLS V1.2 protocol, no action is required.

If you want to enable the use of cipher specifications based on the TLS V1.2 protocol, either stop the queue manager and remove or comment out the list of AllowedCipherSpecs defined in the QMINI dataset at queue manager start up, or add cipher specifications based on the TLS V1.2 protocol to the list of AllowedCipherSpecs. Restart the queue manager.

CSQX669I

csect-name Cipher specifications based on the TLS V1.2 protocol are enabled

Severity

4

Explanation

Cipher specifications based on the TLS V1.2 protocol are enabled, and channels can be configured to use those cipher specifications.

System action

Processing continues.

System programmer response

If you do not need to use cipher specifications based on the TLS V1.2 protocol, stop the queue manager and define an AllowedCipherSpecs list in the QMINI data that does not contain any cipher specifications based on the TLS V1.2 protocol. Restart the queue manager.

CSQX670I

csect-name Cipher specifications based on the TLS V1.3 protocol are disabled

Severity

4

Explanation

Cipher specifications that use the TLS V1.3 protocol are not enabled. Channels configured to use those cipher specifications fail when started.

System action

Processing continues.

System programmer response

If you do not need to use cipher specifications based on the TLS V1.3 protocol, no action is required.

If you want to enable cipher specifications based on the TLS V1.3 protocol, confirm that the queue manager is running z/OS 2.4 or later. If not the version of z/OS will need to be upgraded.

If the queue manager is already running on a version of the z/OS operating system that supports TLS 1.3, stop the queue manager and set the **AllowTLSV13** property in the **TransportSecurity** stanza in the QMINI dataset to *TRUE*. By default, TLS 1.3 is disabled on queue managers that have been migrated to IBM MQ 9.2.0 or later and enabled on queue managers that have been newly created to run at IBM MQ 9.2.0 or later. Also, if you have defined an AllowedCipherSpecs list in the QMINI dataset, add cipher specifications based on the TLS 1.3 protocol to the list. Restart the queue manager.

If the queue manager attribute SSLFIPS is set to YES, TLS 1.3 cipher specifications cannot be used because TLS 1.3 CipherSpecs are not yet FIPS certified. Consider setting SSLFIPS to NO.

If the queue manager attribute **SSLKEYR** contains a blank value, ensure that **SSLKEYR** references the defined keyring.

CSQX671I

csect-name Cipher specifications based on the TLS V1.3 protocol are enabled

Severity

4

Explanation

Cipher specifications based on the TLS V1.3 protocol are enabled, and channels can be configured to use those cipher specifications.

System action

Processing continues.

System programmer response

None, unless you want to use a cipher specification that has been disabled because of TLS 1.3 being enabled. If so, see Note 3 in [Deprecated CipherSpecs](#).

CSQX673E

csect-name Certificate label *cert-label* not used on channel *channel-name*, remote connection *conn-id*

Severity

8

Explanation

The SSL or TLS channel *channel-name* is configured to use certificate label *cert-label*. However, the remote peer did not send the necessary information to allow the local channel to use the correct certificate. The remote host is *conn-id*.

This error occurs when the local channel definition has a certificate label and the remote peer does not support selection of certificates.

System action

The channel will not start.

System programmer response

Ensure that the remote peer supports certificate label configuration. Refer to [Digital certificate labels, understanding the requirements](#) for details of certificate label requirements. Alternatively, alter the local channel definition so that it does not specify a certificate label.

CSQX674E

csect-name Channel *channel-name* specified a weak or broken SSL CipherSpec *sslcipher*

Severity

8

Explanation

The channel is unable to start because it is configured to use a CipherSpec that is potentially insecure.

System action

The channel is prevented from starting.

System programmer response

Examine the CipherSpec specified in the SSLCIPH channel attribute and consider using a more secure CipherSpec.

If the CipherSpec is for TLS 1.3 and TLS 1.3 is not enabled, enable TLS 1.3 by setting **AllowTLSV13=TRUE** in the TransportSecurity stanza in the QMINI data set in your queue manager start up procedure.

If you want to re-enable the use of weak or deprecated CipherSpecs, see [Enabling deprecated CipherSpecs on z/OS](#).



Attention: Re-enabling CipherSpecs in this manner leaves systems exposed to possible security problems. You should use CipherSpecs that use only the TLS protocol, rather than SSLv3.

CSQX675E

csect-name Unable to complete SSL key repository refresh

Severity

4

Explanation

The refresh of the cached SSL key repository could not be completed because of errors.

System action

The refresh is incomplete.

System programmer response

Examine the console log for messages that might indicate why the refresh could not be started.

CSQX676E

csect-name SSL key repository refresh completed, but some channels not restarted

Severity

4

Explanation

The refresh of the cached SSL key repository has completed, so the latest values and certificates are in use for all SSL channels. However, not all the outbound SSL channels which were running when the refresh was initiated could be restarted after the refresh had completed.

System action

Processing continues.

System programmer response

Examine the console log for messages identifying the channels that did not restart.

CSQX677E

csect-name SSL key repository refresh terminated, waiting for channel *channel-name*

Severity

4

Explanation

The cached SSL key repository is being refreshed, which involves stopping all the channels that use SSL communications. One or more of the channels is taking too long to stop. The channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'.

System action

The refresh is terminated. Some channels using SSL will have been stopped.

System programmer response

Stop any SSL channels that have not already stopped and issue the [REFRESH SECURITY TYPE\(SSL\)](#) command again.

CSQX678E

csect-name Channel *channel-name* not started, refreshing SSL key repository

Severity

4

Explanation

A channel using SSL communications could not be started because the cached SSL key repository is currently being refreshed. The channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'.

System action

The channel does not start.

System programmer response

Wait until the refresh has completed and start the channel again.

CSQX679E

csect-name Channel *channel-name* not started, refreshing remote SSL key repository

Severity

4

Explanation

A channel using SSL communications could not be started because the cached SSL key repository is currently being refreshed at the remote end. The channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'.

System action

The channel does not start.

System programmer response

Wait until the refresh has completed and start the channel again.

CSQX683E

csect-name SSL key repository has no certificates

Severity

4

Explanation

The SSL key repository (that is, the key ring in the external security manager) does not contain any valid certificates.

System action

Channels using SSL communications will not start.

System programmer response

Add the user certificate and any necessary certificate authority (CA) certificates to the key repository. Ensure that existing certificates are valid, have not expired, and are marked as trusted.

For more information, refer to [System SSL Function Return Code 7](#) in the *z/OS Cryptographic Services System SSL Programming* manual.

CSQX684E

csect-name SSL key repository has no CA certificates

Severity

4

Explanation

The SSL key repository (that is, the key ring in the external security manager) does not contain any valid certificate authority (CA) certificates. A channel using SSL communications needs at least one CA or self-signed certificate to perform client authentication.

System action

Channels using SSL communications will not start.

System programmer response

Add the user certificate and any necessary certificate authority (CA) certificates to the key repository. Ensure that existing certificates are valid, have not expired, and are marked as trusted.

For more information, refer to [System SSL Function Return Code 109](#) in the *z/OS Cryptographic Services System SSL Programming* manual.

CSQX685E

csect-name No self-signed certificate for channel *channel-name*, connection *conn-id*

Severity

4

Explanation

A self-signed certificate cannot be validated as it is not in the SSL key repository. The channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'. The remote connection is *conn-id*.

System action

The channel is not started.

System programmer response

Add the self-signed certificate to the key repository.

Note: Changes to the key repository do not take effect immediately, see [When changes to certificates or the key repository become effective on z/OS](#). If you have already added the self-signed certificate to the key repository, issue a `REFRESH SECURITY TYPE(SSL)` command or recycle the CHINIT address space.

For more information, refer to [System SSL Function Return Code 417](#) in the *z/OS Cryptographic Services System SSL Programming* manual.

CSQX686E

csect-name SSL private key error for channel *channel-name*

Severity

4

Explanation

The SSL certificate used has no associated private key, or the private key is not available because it key is stored in ICSF and ICSF services are not available. The channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'.

The certificate used is either named on the channel in the CERTLABL attribute, or named on the queue manager in the CERTLABL attribute or CERTQSG attribute (for a shared channel). If no certificate label is found in any of these attributes, then the certificate is named 'ibmMQqsg-name' (for a shared channel) or 'ibmMQqmgr-name', or a default certificate in the key ring is used.

System action

The channel is not started.

System programmer response

Ensure that the private key associated with the SSL certificate used is available. Ensure that the ICSF started task is running if the private key is stored in ICSF. See [Giving the channel initiator the correct access rights on z/OS](#) for information on how to actually give the CHINIT the proper accesses to get to its keys (if in ICSF).

For more information, refer to [System SSL Function Return Code 428](#) in the *z/OS Cryptographic Services System SSL Programming* manual.

CSQX687E

csect-name SSL certificate revoked by CA for channel *channel-name*, connection *conn-id*

Severity

4

Explanation

The SSL certificate has been revoked by the certificate authority (CA). The channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'. The remote connection is *conn-id*.

System action

The channel is not started.

System programmer response

Obtain a new certificate and add it to the key repository.

For more information, refer to [System SSL Function Return Code 431](#) in the *z/OS Cryptographic Services System SSL Programming* manual.

CSQX688E

csect-name No SSL CA certificate for channel *channel-name*, connection *conn-id*

Severity

4

Explanation

The SSL key repository does not contain a certificate for the certificate authority (CA). The channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'. The remote connection is *conn-id*.

System action

The channel is not started.

System programmer response

Obtain a certificate for the certificate authority (CA) and add it to the key repository.

For more information, refer to [System SSL Function Return Code 435](#) in the *z/OS Cryptographic Services System SSL Programming* manual.

CSQX689E

csect-name CRL cannot be processed for channel *channel-name*, connection *conn-id*

Severity

4

Explanation

A Certificate Revocation List (CRL) is not valid and cannot be processed. The channel is *channel-name*; in some cases its name cannot be determined and so is shown as '????'. The remote connection is *conn-id*.

System action

The channel is not started.

System programmer response

Contact the certificate authority and obtain a replacement CRL.

For more information, refer to [System SSL Function Return Code 436](#) in the *z/OS Cryptographic Services System SSL Programming* manual.

CSQX690I

csect-name Cipher specifications based on the SSLv3 protocol are disabled.

Severity

4

Explanation

Cipher specifications based on the SSLv3 protocol are not enabled, and channels configured to use those cipher specifications fail when started.

System action

Processing continues.

System programmer response

If you do not need to use cipher specifications based on the SSLv3 protocol, then no action is required.

If you want to re-enable the use of weak or deprecated CipherSpecs, see [Enabling deprecated CipherSpecs on z/OS](#).

By default, cipher specifications based on the SSLv3 protocol are disabled when the TLS V1.3 protocol is enabled. If you really do need to use cipher specifications based on SSLv3, consider disabling the TLS V1.3 protocol. Refer to message [CSQX671I](#), although you should enable the stronger TLS V1.3 protocol.



Attention: Re-enabling CipherSpecs in this manner leaves systems exposed to possible security problems. You should use CipherSpecs that utilize only the TLS V1.3 or V1.2 protocols, rather than the SSLv3 protocol.

CSQX691I

csect-name Cipher specifications based on the SSLv3 protocol are enabled.

Severity

4

Explanation

Cipher specifications based on the SSLv3 protocol are enabled, and channels can be configured to use those cipher specifications.

System action

Processing continues.

System programmer response

If you need to use cipher specifications based on the SSLv3 protocol, then no action is required.

If you do not need to use cipher specifications based on the SSLv3 protocol, you should remove the override that enables the use of SSLv3.

See message [CSQX690I](#) for information on enabling SSLv3.

CSQX692I

csect-name Weak or broken SSL cipher specifications are disabled.

Severity

4

Explanation

Cipher specifications that are known to be weak or broken are not enabled. This includes all SSLv3-based cipher specifications. Channels configured to use those cipher specifications fail when started.

System action

Processing continues.

System programmer response

If you do not need to use broken or weak cipher specifications, no action is required.

If you want to re-enable the use of weak or deprecated CipherSpecs, see [Enabling deprecated CipherSpecs on z/OS](#).



Attention: Re-enabling CipherSpecs in this manner leaves systems exposed to possible security problems. You should use CipherSpecs that utilize only the TLS V1.3 or V1.2 protocols, rather than the SSLv3 protocol.

CSQX693I

csect-name Weak or broken SSL cipher specifications are enabled.

Severity

4

Explanation

Cipher specifications known to be weak or broken are enabled, and channels can be configured to use those cipher specifications.

System action

Processing continues.

System programmer response

If you need to use weak or broken cipher specifications, no action is required.

If you do not need to use weak or broken cipher specifications, you should remove the override that enables the use of weak or broken cipher specifications.

See message [CSQX692I](#) for information on enabling weak or broken cipher specifications.

CSQX694I

csect-name Cipher specifications based on the TLS V1.0 protocol are disabled.

Severity

4

Explanation

Cipher specifications that use the TLS V1.0 protocol are not enabled. Channels configured to use those cipher specifications fail when started.

System action

Processing continues.

System programmer response

If you do not need to use cipher specifications based on the TLS V1.0 protocol, no action is required.

If you want to re-enable the use of weak or deprecated CipherSpecs, see [Enabling deprecated CipherSpecs on z/OS](#).

By default, weak or deprecated cipher specifications are disabled when protocol TLS V1.3 is enabled. If you really do need to use cipher specifications based on SSLv3, consider disabling the TLS V1.3 protocol. Refer to message [CSQX671I](#), although you should enable the stronger TLS V1.3 protocol.



Attention: Re-enabling CipherSpecs in this manner leaves systems exposed to possible security problems. You should use CipherSpecs that use only the TLS V1.3 or TLS V1.2 protocols, rather than the SSLv3 protocol.

CSQX695I

csect-name Cipher specifications based on the TLS V1.0 protocol are enabled.

Severity

4

Explanation

Cipher specifications based on the TLS V1.0 protocol are enabled, and channels can be configured to use those cipher specifications.

System action

Processing continues.

System programmer response

If you need to use weak or broken cipher specifications, no action is required.

If you do not need to use cipher specifications based on the TLS V1.0 protocol, you should remove the override that enables the use of TLS 1.0 cipher specifications.

See message [CSQX694I](#) for information on enabling cipher specifications based on TLS V1.0.

CSQX697I

csect-name Listener will only negotiate System SSL default cipher specifications.

Severity

4

Explanation

The listener will only negotiate with cipher specifications that are listed by default on the **System SSL** default cipher specification list.

System action

Processing continues.

System programmer response

If you only want to be able to negotiate with the listener using the cipher specifications listed on the **System SSL** default cipher specification list, then you can enable this behavior by adding a dummy Data Definition (DD) statement named **GSKDCIPS** to the channel initiator JCL; see [Enabling deprecated CipherSpecs on z/OS](#).

CSQX705E

csect-name Remote channel exit load error.

Severity

8

Explanation

A channel exit specified on the remote host could not be loaded.

System action

The channel ends abnormally .

System programmer response

Check the error logs on the remote host and ensure that the user exit is specified correctly in the channel definition.

CSQX772E

csect-name mqapi-call failed, MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The indicated IBM MQ *mqapi-call* failed for the specified reason code *mqrc*, (*mqrc-text*).

System action

Typically the component in which the error occurs terminates. When the component is a message channel agent, the associated channel is stopped.

System programmer response

Refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on [page 1123](#) for information about *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

CSQX774E

csect-name CHLAUTH cache load failed, all inbound channels blocked

Severity

8

Explanation

The CHLAUTH cache has failed to load. All inbound channels has been blocked from starting until the problem has been fixed. See previous message for the cause of the problem.

System action

All inbound channels are blocked from starting.

System programmer response

Look for the previous related message for the cause of the problem.

CSQX775I

csect-name Channel *channel-name* from *ipaddress* would have been blocked due to userid, Detail: *detail*

Severity

4

Explanation

The inbound channel *channel-name* would have been blocked from address *ipaddress* because the active values of the channel were mapped to a userid that should be blocked. Access is allowed as the channel authentication record is in warning mode.

The active values of the channel were *detail*.

System action

The channel is started.

System programmer response

Examine the channel authentication records to ensure that the correct settings have been configured. If the channel authentication record was not in warning mode the channel would be blocked. The [ALTER QMGR CHLAUTH](#) switch is used to control whether the channel authentication records are used. The [DISPLAY CHLAUTH](#) command can be used to query the channel authentication records.

CSQX776E

csect-name Channel *channel-name* from *ipaddress* has been blocked due to userid, Detail: *detail*

Severity

8

Explanation

The inbound channel *channel-name* was blocked from address *ipaddress* because the active values of the channel were mapped to a userid that should be blocked.

The active values of the channel were *detail*.

System action

The channel is not started.

System programmer response

Examine the channel authentication records to ensure that the correct settings have been configured. The [ALTER QMGR CHLAUTH](#) switch is used to control whether the channel authentication records are used. The [DISPLAY CHLAUTH](#) command can be used to query the channel authentication records.

CSQX777E

csect-name Channel *channel-name* from *ipaddress* has been blocked due to USERSRC(NOACCESS), Detail: *detail*

Severity

8

Explanation

The inbound channel *channel-name* was blocked from address *ipaddress* because the active values of the channel matched a channel authentication record configured with USERSRC(NOACCESS).

The active values of the channel were *detail*.

System action

The channel is not started.

System programmer response

Examine the channel authentication records to ensure that the correct settings have been configured.

The **ALTER QMGR CHLAUTH** switch is used to control whether the channel authentication records are used. The **DISPLAY CHLAUTH** can be used to query the channel authentication records.

If no host name is shown in the message next to the IP address, and CHLAUTH rules using host names are in place, ensure that your Domain Name Servers can correctly resolve the IP address to a host name and that your queue manager is configured with REVDNS(ENABLED).

CSQX782E

csect-name Connection from address *ipaddress* has been blocked due to matching rule *ip-address-pattern*

Severity

8

Explanation

The inbound connection from the address was blocked because it matches one of the blocked addresses, *ip-address-pattern*, in the channel authentication table.

System action

The channel is not started.

System programmer response

Examine the channel authentication records to ensure that the correct settings have been configured.

The **ALTER QMGR CHLAUTH** switch is used to control whether the channel authentication records are used. The **DISPLAY CHLAUTH** can be used to query the channel authentication records.

CSQX785E

csect-name Channel *channel-name* is configured to not use the dead-letter queue

Severity

8

Explanation

Channel *channel-name* failed to deliver a message to its destination. The report option MQRO_DISCARD_MSG was not specified for the message and the channel has been configured to not use the dead-letter queue through the attribute setting USEDLO(NO).

System action

The channel either discards the message, or the channel ends, in accordance with the NPMSPEED attribute setting.

System programmer response

Investigate the cause of this error, then either correct the problem that prevented the channel delivering the message, or enable the channel to use the dead-letter queue.

CSQX786I

csect-name Connection from address *ipaddress* would have been blocked due to matching rule *ip-address-pattern*

Severity

4

Explanation

The inbound connection from the address *ipaddress* would have been blocked because it matches one of the blocked addresses, *ip-address-pattern*, in the channel authentication table. Access is allowed as the channel authentication table is in warning mode.

System action

The channel is started.

System programmer response

Examine the channel authentication records to ensure that the correct settings have been configured. If the channel authentication record was not in warning mode the channel would be blocked. The [ALTER QMGR CHLAUTH](#) switch is used to control whether the channel authentication records are used. The [DISPLAY CHLAUTH](#) command can be used to query the channel authentication records.

CSQX787I

csect-name Channel *channel-name* from *ipaddress* would have been blocked due to USERSRC(NOACCESS), Detail: *detail*

Severity

4

Explanation

The inbound channel *channel-name* would have been blocked from address *ipaddress* because the active values of the channel matched a channel authentication record configured with USERSRC(NOACCESS). It was not blocked due to the channel authentication record being in warning mode.

The active values of the channel were *detail*.

System action

The channel is started.

System programmer response

Examine the channel authentication records to ensure that the correct settings have been configured. If the channel authentication record was not in warning mode the channel would be blocked. The [ALTER QMGR CHLAUTH](#) switch is used to control whether the channel authentication records are used. The [DISPLAY CHLAUTH](#) command can be used to query the channel authentication records.

CSQX788I

csect-name DNS lookup for address *address* using function '*func*' took *n* seconds

Severity

4

Explanation

An attempt to resolve address *address* using the '*func*' function call took *n* seconds to complete. This might indicate a problem with the DNS configuration.

System action

Processing continues.

System programmer response

Ensure that the DNS is correctly configured on the local system.

If the address was an IP address then the slow operation was a reverse DNS lookup. Some DNS configurations are not capable of reverse DNS lookups and some IP addresses have no valid reverse DNS entries.

If the problem persists, consider disabling reverse DNS lookups until the issue with the DNS can be resolved.

CSQX790I

csect-name Connection authentication failed for user *user-id* due to CHLAUTH with CHCKCLNT(*chckclnt-value*), Detail: *detail*

Severity

4

Explanation

The user ID *user-id* and its password were checked because the inbound connection matched a channel authentication record with CHCKCLNT(*chckclnt-value*).

The active values of the channel were *detail*. The MATCH(RUNCHECK) mode of the [DISPLAY CHLAUTH](#) command can be used to identify the relevant CHLAUTH record.

This message accompanies a previous error to clarify the reason for the user ID and password check.

System action

The channel is not started.

System programmer response

Refer to the previous error for more information.

Ensure that a password is specified by the client application and that the password is correct for the User ID.

Alternatively, to avoid the authentication check you can amend the CHLAUTH record CHCKCLNT attribute. However, allowing unauthenticated remote access is not recommended.

CSQX791E

csect-name Client application *appl-name* from address *ip-address* did not supply a user ID and password, Detail: *detail*

Severity

8

Explanation

The client application *appl-name* running on host *ip-address* did not supply a user ID and password. The channel authentication (CHLAUTH) record for the connection requires a user ID and password, but none was supplied.

The active values of the channel were *detail*. The MATCH(RUNCHECK) mode of the [DISPLAY CHLAUTH](#) command can be used to identify the relevant CHLAUTH record.

System action

The channel is not started.

System programmer response

Ensure that the application provides a valid user ID and password, or change the queue manager connection authority (CONNAUTH) configuration to OPTIONAL to allow client applications to connect which have not supplied a user ID and password.

CSQX793E

csect-name The user ID and password for client application *appl-name* from address *ip-address* cannot be checked, Detail: *detail*

Severity

8

Explanation

The user ID and password for the client application *appl-name* running on host *ip-address* cannot be checked. The channel authentication (CHLAUTH) record for the connection requires an authentication check, but the queue manager is not configured to use connection authentication for clients.

The active values of the channel were *detail*. The MATCH(RUNCHECK) mode of the DISPLAY CHLAUTH command can be used to identify the relevant CHLAUTH record.

System action

The channel is not started.

System programmer response

Change the CHLAUTH configuration so that client authentication is not required, or alter the queue manager connection authority (CONNAUTH) configuration to enable client authentication checks.

CSQX797E

csect-name Unable to send message for channel *channel-name*, MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The send on channel *channel-name* could not be completed and the message could not be redirected to the dead-letter queue.

System action

The channel stops.

System programmer response

Refer to API completion and reason codes for information about *mqqc* and *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form) to determine why the send failed.

Refer to previous messages to determine why the dead-letter queue is not available.

CSQX830I

csect-name Channel initiator active

Severity

0

Explanation

This is issued in response to the DISPLAY CHINIT command if the channel initiator is active.

CSQX831I

csect-name nn adapter subtasks started, *nn* requested

Severity

0

Explanation

This is issued in response to the DISPLAY CHINIT command, and shows how many adapter subtasks are currently active, and how many were requested by the CHIADAPS queue manager attribute. If the numbers differ, some adapter subtasks have failed and not been restarted, which could reduce processing capacity.

CSQX832I

csect-name nn dispatchers started, *nn* requested

Severity

0

Explanation

This is issued in response to the [DISPLAY CHINIT](#) command, and shows how many dispatchers are currently active, and how many were requested by the CHIDISPS queue manager attribute. If the numbers differ, some dispatchers have failed and not been restarted. The number of current TCP/IP and LU 6.2 channels allowed will be reduced proportionately, and other processing capacity may be reduced.

CSQX833I

csect-name nn SSL server subtasks started, *nn* requested

Severity

0

Explanation

This is issued in response to the [DISPLAY CHINIT](#) command, and shows how many SSL server subtasks are currently active, and how many were requested by the SSLTASKS queue manager attribute. If the numbers differ, some SSL server subtasks have failed and not been restarted, which could reduce processing capacity.

CSQX836I

csect-name nn Maximum channels - TCP/IP *nn*, LU 6.2 *nn*

Severity

0

Explanation

This is issued in response to the [DISPLAY CHINIT](#) command. It shows the maximum numbers of each type of channel that are allowed.

CSQX840I

csect-name nn channels current, maximum *nn*

Severity

0

Explanation

This is issued in response to the [DISPLAY CHINIT](#) command. It shows how many channels are current, and how many are allowed altogether, as requested by the MAXCHL queue manager attribute.

CSQX841I

csect-name nn channels active, maximum *nn*, including *nn* paused

Severity

0

Explanation

This is issued in response to the [DISPLAY CHINIT](#) command. Of the channels that are current, it shows how many are active (transmitting messages), and how many are allowed altogether to be active, by the ACTCHL queue manager attribute. It also shows how many of the active channels are paused, waiting to retry putting a message.

CSQX842I

csect-name nn channels starting, *nn* stopped, *nn* retrying

Severity

0

Explanation

This is issued in response to the [DISPLAY CHINIT](#) command. Of the channels that are current, it shows how many are:

- waiting to become active, because the limit for active channels has been reached
- stopped, requiring manual intervention
- attempting to reconnect following a temporary error.

CSQX843I

csect-name TCP/IP listener *INDISP=disposition* retrying, for port *port* address *ip-address*

Severity

0

Explanation

This is issued in response to the DISPLAY CHINIT command for each TCP/IP listener that is trying to restart after an error. The channel initiator will attempt to restart the listener, at the intervals specified by the LSTRTMR queue manager attribute.

port and *ip-address* show the port and IP address combination on which it listens; if *ip-address* is '*', it listens on all available IP addresses. *disposition* shows which type of incoming requests the listener handles:

QMGR

those directed to the target queue manager

GROUP

those directed to the queue sharing group.

CSQX844I

csect-name LU 6.2 listener *INDISP=disposition* retrying, for LU name *name*

Severity

0

Explanation

This is issued in response to the DISPLAY CHINIT command for each LU 6.2 listener that is trying to restart after an error. The channel initiator will attempt to restart the listener at the intervals specified by the LSTRTMR queue manager attribute.

disposition shows which type of incoming requests the listener handles:

QMGR

those directed to the target queue manager

GROUP

those directed to the queue sharing group.

CSQX845I

csect-name TCP/IP system name is *name*

Severity

0

Explanation

This is issued in response to the DISPLAY CHINIT command, and shows the TCP/IP system name that is being used, as specified in the TCPNAME queue manager attribute.

CSQX846I

csect-name TCP/IP listener *INDISP=disposition* started, for port *port* address *ip-address*

Severity

0

Explanation

This is issued in response to the DISPLAY CHINIT command for each TCP/IP listener that is active.

port and *ip-address* show the port and IP address combination on which it listens; if *ip-address* is '*', it listens on all available IP addresses. *disposition* shows which type of incoming requests the listener handles:

QMGR

those directed to the target queue manager

GROUP

those directed to the queue sharing group.

CSQX847I

csect-name LU 6.2 listener *INDISP=disposition* started, for LU name *name*

Severity

0

Explanation

This is issued in response to the DISPLAY CHINIT command for each LU 6.2 listener that is active.

disposition shows which type of incoming requests the listener handles:

QMGR

those directed to the target queue manager

GROUP

those directed to the queue sharing group.

CSQX848I

csect-name TCP/IP listener *INDISP=disposition* not started

Severity

0

Explanation

This is issued in response to the DISPLAY CHINIT command for each TCP/IP listener that is not active.

disposition shows which type of incoming requests the listener handles:

QMGR

those directed to the target queue manager

GROUP

those directed to the queue sharing group.

System programmer response

If the listener had been started, and was not deliberately stopped, this might be because there was an error in the communications system. The channel initiator will attempt to restart the listener, at the intervals specified by the LSTRTMR queue manager attribute.

CSQX849I

csect-name LU 6.2 listener *INDISP=disposition* not started

Severity

0

Explanation

This is issued in response to the DISPLAY CHINIT command for each LU 6.2 listener that is not active.

disposition shows which type of incoming requests the listener handles:

QMGR

those directed to the target queue manager

GROUP

those directed to the queue sharing group.

System programmer response

If the listener had been started, and was not deliberately stopped, this might be because there was an error in the communications system. The channel initiator will attempt to restart the listener, at the intervals specified by the LSTRTMR queue manager attribute.

CSQX871I

csect-name Cluster maintenance has been running for *num-mins* minutes, phase *maintenance-phase* has so far processed *num-records* records

Severity

0

Explanation

A queue manager will periodically perform a maintenance cycle to refresh and remove state associated with the clusters it is a member of. This message gives an indication of the progress being made.

System action

For large clusters this maintenance process may take a significant period of time. In such situations this message will be periodically repeated until maintenance has completed, at which time message [CSQX872I](#) will be output.

CSQX872I

csect-name Cluster maintenance has completed after *num-mins* minutes, *num-records* records were processed

Severity

0

Explanation

A queue manager will periodically perform a maintenance cycle to refresh and remove state associated with the clusters it is a member of. This message follows one or more instances of message [CSQX871I](#) and indicates the cycle has completed.

System action

None

CSQX875I

csect-name REFRESH CLUSTER processing started for cluster *cluster-name*

Severity

0

Explanation

A [REFRESH CLUSTER](#) command has been issued on this queue manager.

In phase one this will discard all locally cached information for the cluster and request new information from other members of the cluster when necessary. Phase two processes the information received. For large cluster configurations this process can take a significant amount of time, especially on full repository queue managers. During this time applications attempting to access cluster resources may see failures to resolve cluster resources. In addition, cluster configuration changes made on this queue manager may not be processed until the refresh process has completed.

System action

Defer any cluster related work on this queue manager until both phases are complete.

Message [CSQX442I](#) or [CSQX404I](#) will be issued at the end of phase one.

Completion of phase two can be determined when the SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE has reached a consistently empty state.

CSQX876I

csect-name Cluster cache compression started

Severity

0

Explanation

Periodically cluster management will compress its local cache. Compression can take a significant period of time for certain operations, such as performing a CLUSTER REFRESH. During the compression task, cluster management commands will not be processed.

Once the compression task has completed message [CSQX877I](#) will be issued.

CSQX877I

csect-name Cluster cache compression completed

Severity

0

Explanation

The cluster cache compression activity, indicated by message [CSQX876I](#), has now completed.

CSQX878I

csect-name Repository command error, command *command*, cluster object *object-name*, sender *sender-id*, reason *reason*

Severity

8

Explanation

An internal cluster repository command failed to complete successfully. Earlier messages in the log will contain details of the problem. Failure to successfully process a command can leave a cluster in an inconsistent state.

System action

Processing continues

System programmer response

If the problem cannot be resolved, collect the items listed in the Problem Determination section and contact your IBM® support center.

The *reason* is undocumented as it is intended for IBM support only.

CSQX879E

csect-name Conflicting clustered topic *topic-name* from queue manager *qmgr-name*

Severity

8

Explanation

A conflict has been detected for clustered topic *topic-name*.

Two clustered topics conflict if any of the following conditions are true:

1. They have the same topic string but have a different topic name
2. They have the same topic string, or one is an ancestor of the other in the topic tree, and they have a different cluster name
3. They have the same topic string, or one is an ancestor of the other in the topic tree, and they have incompatible values for the cluster route attribute

System action

The CLSTATE attribute of the clustered topic identified by *topic-name* is set to INVALID and the topic is no longer used by the queue manager.

System programmer response

Review the clustered topics visible to the queue manager and correct any conflicts by modifying or deleting the definitions in error. After updating the topic definitions, ensure all clustered topics have a CLSTATE of ACTIVE on all queue managers in the same cluster.

V 9.4.0

CSQX888E

csect-name Cluster object *object-name* in cluster *cluster-name* (QMID *qmid*) expiring due to definition mismatch.

Severity

8

Explanation

Object *object-name* shared in cluster *cluster-name* (QMID *qmid*) has not been updated for at least 30 days but an alternative instance remains active in the cluster.

This often indicates an administrative error, such as recovery from backup of a cluster queue manager without REFRESH CLUSTER being issued.

If no action is taken the alternative definition will be accepted in place of the current definition before it expires.

System action

None

System programmer response

Review administrative procedures to ensure only a single instance of the queue manager with this QMID is active in the cluster at any given time.

If only the 'correct' host for this object is now active, you can optionally issue REFRESH CLUSTER on that queue manager to ensure its definitions are used from this point onwards and suppress further error messages.

V 9.4.0

CSQX889E

csect-name Cluster object *object-name* in cluster *cluster-name* (QMID *qmid*) replaced with 'older' definition.

Severity

8

Explanation

Object *object-name* shared in cluster *cluster-name* (QMID *qmid*) was due to expire, but publications from an alternative instance were received. To prevent expiry these definitions will be used, but this might indicate an operational error in the cluster has occurred.

System action

None

System programmer response

No action is required as the 'visible' definition will now be used, but you might want to review administrative procedures to ensure that only a single instance of the queue manager with this QMID is active in the cluster at any given time.

CSQY000IIBM MQ for z/OS Vn *release_type***Explanation**

This message is issued when the queue manager starts, and shows the release level and release type.

CSQY002I

QUEUE MANAGER STOPPING

Explanation

The STOP QMGR command is accepted. Message CSQ9022I is issued when the queue manager shutdown process has completed. The message is issued either to the originator of the STOP QMGR command, or to the z/OS console from which the START QMGR command was received.

System action

Queue manager shutdown is initiated.

CSQY003I

QUEUE MANAGER IS ALREADY ACTIVE

Explanation

The START QMGR command has not been accepted, because the queue manager is active. Message CSQ9023E is issued after this message.

CSQY004I

QUEUE MANAGER IS ALREADY STOPPING

Explanation

The STOP QMGR command has not been accepted either because the queue manager shutdown is in progress for the specified option (QUIESCE or FORCE), or because the QUIESCE option was specified after a FORCE option had been accepted previously. Message CSQ9023E is issued after this message.

System action

Queue manager shutdown continues.

CSQY005E

QUEUE MANAGER STARTUP TERMINATED, INVALID START COMMAND

Explanation

The queue manager can be started only by a START QMGR command.

System action

Queue manager startup is terminated.

CSQY006E*csect-name* INVALID AMODE OR RMODE ATTRIBUTE FOUND FOR LOAD MODULE *module-name***Explanation**

The queue manager initialization procedures found that a module had an invalid AMODE or RMODE attribute when it was loaded. *module-name* is the name of the load module with an invalid addressing or residency mode.

System action

Queue manager startup terminates abnormally.

System programmer response

Verify that all installation and maintenance activities against IBM MQ have been done correctly. If you are unable to correct the problem, contact your IBM support center.

CSQY007E

csect-name QUEUE MANAGER STARTUP TERMINATED, INVALID OPERATING SYSTEM LEVEL

Explanation

The queue manager initialization procedures found that the level of the operating system did not have the function required for correct queue manager operation.

System action

Queue manager startup terminates abnormally.

System programmer response

Verify that the prerequisite, or later, level of the operating system is installed. If you are unable to correct the problem, contact your IBM support center.

CSQY008I

QUEUE MANAGER SHUTDOWN REQUEST NOT ACCEPTED

Explanation

The STOP QMGR command has not been accepted because startup has not completed to the point where shutdown can occur. Message CSQ9023E is issued after this message.

System action

Queue manager startup continues, and the STOP QMGR command is ignored.

CSQY009I

verb-name pkw-name COMMAND ACCEPTED FROM USER(*userid*), STOP MODE(*mode*)

Explanation

This message is issued to record who issued the command to stop IBM MQ, and what type of stop it was. *verb-name* might include the command prefix (CPF). This depends on how the command was entered.

CSQY010E

csect-name LOAD MODULE *module-name* IS NOT AT THE CORRECT RELEASE LEVEL

Explanation

The named load module is not at the correct level for the version of the queue manager that was being used.

System action

If detected by the queue manager, startup terminates abnormally with reason code X'00E80161'. If detected by the channel initiator (*module-name* is CSQXJST), it does not start.

If detected by the AMS enablement module (DRQONABL), the queue manager only fails to start if SPLCAP=YES is specified in the system parameters. In this case message [CSQY029E](#) is issued.

System programmer response

Verify that the correct IBM MQ program libraries are being used (for the queue manager or channel initiator as appropriate) and that all installation and maintenance activities against IBM MQ have been done correctly. If the early processing program is incorrect (*module-name* is CSQ3EPX), refresh it by issuing the REFRESH QMGR TYPE(EARLY) command.

If you are unable to correct the problem, contact your IBM support center.

CSQY011E

csect-name COMMAND PREFIX REGISTRATION FAILED. INVALID CHARACTER(S) IN CPF

Explanation

Command prefix registration failed because the command prefix (CPF) contains invalid characters.

System action

The queue manager does not start.

System programmer response

Reissue the z/OS command SETSSI ADD with the correct CPF parameter. Correct the CPF parameter in the record of SYS1.PARMLIB member IEFSSNxx. For information about the parameters, see [Updating the subsystem name table](#).

CSQY012E

csect-name COMMAND PREFIX REGISTRATION FAILED. INVALID CHARACTER(S) IN QUEUE
MANAGER NAME

Explanation

Command prefix registration failed because the queue manager name used as the owner of the command prefix (CPF) contains invalid characters.

System action

The queue manager does not start.

System programmer response

Reissue the z/OS command SETSSI ADD with the correct CPF parameter. Correct the CPF parameter in the record of SYS1.PARMLIB member IEFSSNxx. For information about the parameters, see [Updating the subsystem name table](#).

CSQY013E

csect-name COMMAND PREFIX REGISTRATION FAILED. CPF ALREADY DEFINED

Explanation

Command prefix registration failed because the command prefix (CPF) was already defined to z/OS.

System action

The queue manager does not start.

System programmer response

Reissue the z/OS command SETSSI ADD with the correct CPF parameter. Correct the CPF parameter in the record of SYS1.PARMLIB member IEFSSNxx. For information about the parameters, see [Updating the subsystem name table](#).

CSQY014E

csect-name COMMAND PREFIX REGISTRATION FAILED. CPF IS A SUBSET OF A CPF ALREADY
DEFINED

Explanation

Command prefix registration failed because the command prefix (CPF) is a subset of a CPF already defined to z/OS.

System action

The queue manager does not start.

System programmer response

Reissue the z/OS command SETSSI ADD with the correct CPF parameter. Correct the CPF parameter in the record of SYS1.PARMLIB member IEFSSNxx. For information about the parameters, see [Updating the subsystem name table](#).

CSQY015E

csect-name COMMAND PREFIX REGISTRATION FAILED. CPF IS A SUPERSET OF A CPF ALREADY
DEFINED

Explanation

Command prefix registration failed because the command prefix (CPF) is a superset of a CPF already defined to z/OS.

System action

The queue manager does not start.

System programmer response

Reissue the z/OS command SETSSI ADD with the correct CPF parameter. Correct the CPF parameter in the record of SYS1.PARMLIB member IEFSSNxx. For information about the parameters, see [Updating the subsystem name table](#).

CSQY016E

csect-name SYSTEM ERROR DURING COMMAND PREFIX REGISTRATION

Explanation

A z/OS error occurred during command prefix (CPF) registration.

System action

The queue manager does not start.

System programmer response

Check the z/OS console for other messages relating to the problem.

CSQY017E

csect-name INCORRECT STORAGE PROTECT KEY

Explanation

The queue manager initialization procedures found that the storage protect key was not 7. The most likely causes are that the program properties table (PPT) entry for CSQYASCP has not been specified correctly, or that the IBM MQ program libraries or other libraries in the IBM MQ STEPLIB are not APF authorized.

System action

Queue manager startup terminates abnormally with reason code X'00E80162'.

System programmer response

Check that all the libraries you include in the IBM MQ STEPLIB have been APF-authorized. Also, ensure that you use the actual library name and not the data set alias of the libraries in APF list.

For information about specifying the PPT entry for CSQYASCP and about APF authorization for the IBM MQ program libraries, see [Updating the z/OS program properties table](#).

CSQY018E

csect-name INCORRECT APF AUTHORIZATION

Explanation

The queue manager initialization procedures found that they were not APF authorized. The most likely cause is that one or more of the data sets in the //STEPLIB concatenation is not APF authorized.

System action

Queue manager startup terminates abnormally with reason code X'00E80163'.

System programmer response

Check all the libraries that you include in the IBM MQ STEPLIB are APF-authorized. Also, check that you do not use a data set alias of the libraries in the APF list, use the actual library name instead.

For information about APF authorization for the IBM MQ program libraries, see [APF authorize the IBM MQ load libraries](#).

CSQY019E

csect-name QUEUE MANAGER STARTUP TERMINATED, INVALID PARAMETER MODULE LEVEL,
REBUILD *macro-name*

Explanation

The queue manager initialization procedures found that the level of the parameter module (named in the preceding CSQY001I message) is not at the correct level for this version of the queue manager.

System action

Queue manager startup terminates abnormally with reason code 00E80051.

System programmer response

Rebuild the parameter module ensuring that *macro-name* is recompiled with the same level of code that the queue manager is running with.

For more information about the macros used to build the parameter module see, [Task 17: Tailor your system parameter module](#).

CSQY020E

csect-name CHANNEL INITIATOR STARTUP TERMINATED, INVALID START COMMAND

Explanation

The channel initiator can be started only by a **START CHINIT** command.

System action

Channel initiator startup is terminated.

System programmer response

Start the channel initiator using the **START CHINIT** command

CSQY021E

csect-name QUEUE MANAGER STARTUP TERMINATED, INSUFFICIENT MEMLIMIT

Explanation

The queue manager initialization procedures found that the configured MEMLIMIT is less than 512MB.

System action

Queue manager startup terminates abnormally.

CSQY022I

QUEUE MANAGER INITIALIZATION COMPLETE

Explanation

This message is issued when the initialization of the queue manager completes normally, and it is ready for use.

CSQY023A

SOME OBJECTS COULD NOT BE MIGRATED, MANUAL RESOLUTION REQUIRED. REPLY TO
ACKNOWLEDGE AND CONTINUE STARTUP

Explanation

The queue manager has detected that it was previously running at an earlier version and forward migration has been performed. However, some objects could not be migrated because of locks held by in-doubt transactions. Message CSQI970E is also issued for each object that could not be migrated.

This message is not issued during subsequent restarts of the queue manager whilst it is running at the same version.

System action

Startup is suspended and the queue manager waits for the operator to reply with any single character.

System programmer response

Reply to acknowledge this message and allow queue manager startup to proceed.

Thereafter, additional action is required to complete forward migration of each identified object.

For more information see the description of message CSQI970E.

CSQY024I

AMS not started, product usage is not set.

Severity

8

Explanation

The system parameter SPLCAP is set to YES in the queue manager's ZPARM, however, AMSPROD has not been set or QMGRPROD not set to ADVANCEDVUE.

System action

Queue manager startup is terminated.

System programmer response

If Advanced Message Security is required, set the appropriate value for AMSPROD or QMGRPROD, based on your product entitlement. See [product usage recording with IBM MQ for z/OS products](#).

Alternatively, if IBM MQ Advanced Message Security is not required, update the queue manager's ZPARM, to set SPLCAP to NO.

CSQY025I

AMS is enabled.

Severity

0

Explanation

This message indicates that IBM MQ Advanced Message Security is enabled.

System action

Queue manager startup continues.

System programmer response

None.

CSQY027I

csect-name AMS STARTING

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security (AMS) address space has been started because the system parameter SPLCAP is set to YES in the queue manager's ZPARM.

System action

Connections to the queue manager are permitted, but MQI calls that might require AMS function are suspended until AMS is available. Further messages are output when the AMS feature initializes.

CSQY028I

csect-name AMS HAS STARTED

Severity

0

Explanation

Advanced Message Security (AMS) initialization has completed successfully.

System action

Applications waiting for AMS function are resumed.

CSQY029E

csect-name QUEUE MANAGER STARTUP TERMINATED, AMS INITIALIZATION FAILED

Severity

12

Explanation

A severe error occurred during initialization of Advanced Message Security (AMS).

System action

The queue manager abnormally terminates with abend code 6C6 and reason 00F00003.

System programmer response

Investigate the problem reported by preceding messages in the job log for the AMS address space (xxxxAMSM). Resolve the problem, then restart the queue manager. If you are unable to resolve the error, contact your IBM support center.

CSQY030E

csect-name QUEUE MANAGER TERMINATING, AMS NOT AVAILABLE

Severity

12

Explanation

The Advanced Message Security (AMS) address space has ended abnormally due to an unrecoverable error.

System action

The queue manager abnormally terminates with abend code 6C6 and reason 00F00003.

System programmer response

Investigate the problem reported by preceding messages in the job log for the AMS address space (xxxxAMSM). Resolve the problem, then restart the queue manager. If you are unable to resolve the error, contact your IBM support center.

CSQY031I

csect-name QUEUE MANAGER WAITING FOR AMS INITIALIZATION

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security (AMS) address space has been started because the system parameter SPLCAP is set to YES in the queue manager's ZPARM. This message is periodically issued until AMS initialization completes.

System action

Processing continues. Connections to the queue manager are permitted, but MQI requests that might require AMS function are suspended until AMS is available.

System programmer response

Investigate the delay in initializing Advanced Message Security by reviewing the messages output in the job log for the AMS address space (xxxxAMSM).

CSQY032E

csect-name QUEUE MANAGER STARTUP TERMINATED, UNABLE TO START AMS

Severity

12

Explanation

The queue manager attempted to start the Advanced Message Security (AMS) address space because the system parameter SPLCAP is set to YES in the queue manager's ZPARM. The AMS address space (xxxxAMSM) failed to start, which might be because another job with the same name is active, or there is an error in the started task JCL.

System action

The queue manager abnormally terminates with abend code 6C6 and reason 00F00003.

System programmer response

Investigate why the AMS address space could not be started. Resolve the problem by terminating an existing address space if one is active, or correct the started task JCL if required, then restart the queue manager.

CSQY033A

csect-name QUEUE MANAGER NOT AVAILABLE, AMS INITIALIZATION ERROR

Severity

12

Explanation

A severe error occurred during initialization of Advanced Message Security (AMS).

System action

Queue manager startup is interrupted. The queue manager accepts commands, but MQI requests that might require AMS function fail with reason code 2063 (MQRC_SECURITY_ERROR).

System programmer response

Investigate the problem reported by preceding messages in the job log for the AMS address space (xxxxAMSM). Resolve the problem, then shutdown and restart the queue manager. If you are unable to resolve the error, contact your IBM support center.

CSQY034I

csect-name QUEUE MANAGER WAITING FOR AMS TO SHUTDOWN

Severity

0

Explanation

The queue manager is stopping and has requested the Advanced Message Security (AMS) address space (xxxxAMSM) ends. This message is periodically issued until AMS shutdown completes.

System action

The queue manager continues to wait for the AMS address space to end.

System programmer response

If this message is repeatedly issued examine the job log for the AMS address space to determine why it has not ended. If the problem cannot be resolved terminate the address space to allow queue manager shutdown to continue.

CSQY035I

csect-name AMS HAS SHUTDOWN

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security (AMS) address space (xxxxAMSM) has ended.

System action

Queue manager shutdown continues.

CSQY036I

QMGRPROD= *prod-value*, recording product usage for *product-name*, product ID *product-id*

Explanation

This message is issued when the queue manager starts if SMF 89 product usage records are to be recorded by the queue manager. *product-name* is the descriptive name of the product, and *product-id* is the product ID that is to be used in the SMF 89 data. For example:

- QMGRPROD=MQ, recording product usage for IBM MQ for z/OS, product ID 5655-MQ9 - this indicates that usage data is to be collected for the IBM MQ for z/OS product.
- QMGRPROD=ADVANCEDVUE, recording product usage for IBM MQ Advanced for z/OS Value Unit Edition, product ID 5655-AV1 - this indicates that usage data is to be collected for the IBM MQ Advanced for z/OS Value Unit Edition product.

See *z/OS MVS Product Management* for more information on product usage recording.

CSQY037I

Product usage data is not being recorded for *product-name*, product ID *product-id*

Explanation

This message is issued when the queue manager starts, if SMF 89 product usage data is not being recorded by the queue manager. This might be because SMF 89 collection is not activated for the system.

See *z/OS MVS Product Management* for more information on product usage recording.

CSQY038E

csect-name QUEUE MANAGER STARTUP TERMINATED, *product* is not valid for *prod-keyword* in *prod-source*

Explanation

The queue manager initialization procedures found a value *product* for *prod-keyword* in *prod-source* that is not valid.

prod-keyword can be QMGRPROD or AMSPROD, and *prod-source* can be START COMMAND, JCL PARM or CSQ6USGP.

The message can be issued more than once, if more than one value, that is not valid, is found.

System action

Queue manager startup terminates abnormally with reason code 00E80010.

System programmer response

Correct the value that is not valid:

- If *prod-source* is START COMMAND, see [START QMGR](#) for further information.
- If *prod-source* is JCL PARM, see [Using MQSC to start and stop a queue manager on z/OS](#) for information on coding the JCL parameter for the queue manager JCL.
- If *prod-source* is CSQ6USGP, see [Using CSQ6USGP](#) for information on configuring values using CSQ6USGP.

CSQY039I

Backwards migration is supported to Version v . x . m

Explanation

The queue manager has previously been started up using the indicated earlier version of IBM MQ. If required it is possible to start the queue manager up again using that earlier version if the [START QMGR BACKMIG\(VRM\)](#) command has first been run against the current version.

CSQY040I

Backwards migration not supported

Explanation

The queue manager cannot be started using an earlier version of IBM MQ. This message is output if the queue manager:

- Has been created using the current version.
- Was previously started, using a Continuous Delivery version with a non-zero modification number, for example, IBM MQ 9.2.4, before being migrated to the current version.
- Was previously started using a version of IBM MQ to which the current version does not support backwards migration.

CSQY041D

Starting queue manager at a CD release will prevent backward migration. Reply Y to continue, N to cancel

Explanation

This message is issued as a `write to operator with reply (WTOR)` when the queue manager detects that it is being migrated from an LTS release, such as IBM MQ 9.2.0, or a CD release, with a modifier value of 0 such as IBM MQ 9.3.0 CD, to a CD release with a non-zero modifier value, such as IBM MQ 9.3.1

CD releases with non zero modifiers do not support backwards migration, so this message is issued to confirm that the IBM MQ administrator is aware of this, and does want to migrate from LTS to CD.



Attention: Once the queue manager starts at CD it will not be able to migrate back to the earlier release.

The queue manager will not complete start up until you reply to the WTOR.

To confirm that the queue manager should migrate to CD, reply to the WTOR with the letter Y. The queue manager then starts up as normal and issues message [CSQY040I](#).

To cancel migration, reply to the WTOR with the letter N. The queue manager will abend with abend code 5C6 and reason code [00E80171](#), and shutdown. You can then start up the queue manager using the libraries that it was previously using.

If you reply to the WTOR with anything other than the letter N or Y, the message is reissued until a correct reply is received.

System action

The queue manager waits until a valid response to the WTOR is provided, at which point it will either continue startup or terminate.

System programmer response

Reply to the WTOR with either the letter Y or N.

CSQY042E

Backward migration to v.r.m not supported

Explanation

The queue manager was started with parameter `BACKMIG(vrm)`, but backward migration to the earlier version is not supported.

System action

Queue manager start up terminates abnormally with reason code [X'00E80084'](#).

System programmer response

Check for message [CSQY039I](#) or message [CSQY040I](#) to determine if backward migration is permitted.

CSQY043E

Backward migration to v.r.m failed

Explanation

The queue manager was started with parameter BACKMIG(vrm).

Backward migration to the earlier version was attempted, but failed unexpectedly.

System action

Queue manager start up terminates abnormally with a reason code indicating the problem.

System programmer response

Investigate and correct the cause of failure and retry the command.

CSQY044D

Page set or sets offline during backward migration. Reply Y to continue backward migration or N to cancel.

Explanation

The queue manager was started with parameter BACKMIG(vrm).

Backward migration to the earlier version was attempted, but at least one page set that has been used is currently offline. This message is preceded by an instance of message [CSQI005I](#) for each offline page set.

The queue manager will not be able to access any corresponding page set after it has been backward migrated without manual intervention.

System action

The queue manager waits until a valid response to the WTOR is provided, at which point it will either continue backward migration or end.

System programmer response

Reply N to cancel backward migration and end the queue manager. Resolve the offline page set or page sets and retry the command.

Reply Y to continue backward migration without the page set or sets. You might be able to migrate the page set or sets manually, or recover each to a new data set later using the CSQUTIL FORMAT command.

CSQY045I

Backward migration to v.r.m completed

Explanation

The queue manager was started with parameter BACKMIG(vrm), and has completed backward migration to the earlier release.

System action

The queue manager is shutdown.

System programmer response

Restart the queue manager at the earlier release.

CSQY100I

csect-name SYSTEM parameters ...

Explanation

The queue manager is being started with the system parameter values shown in the following messages.

System action

Queue manager startup processing continues.

CSQY101I

CSQY102I, CSQY103I, CSQY104I, CSQY105I, CSQY106I, CSQY107I, CSQY108I, CSQY109I,
CSQY130I: *csect-name* parms

Explanation

This series of messages shows the system parameter values that the queue manager is using. (Some values are followed by their internal hexadecimal representation in parentheses.) For information about the system parameters for the CSQ6SYSP macro, see [Using CSQ6SYSP](#).

System action

Queue manager startup processing continues.

CSQY110I

csect-name LOG parameters ...

Explanation

The queue manager is being started with the log parameter values shown in the following messages.

System action

Queue manager startup processing continues.

CSQY111I

CSQY112I, CSQY113I, CSQY114I: *csect-name* parms

Explanation

This series of messages shows the log parameter values that the queue manager is using. For information about the log parameters in the CSQ6LOGP macro, see [Using CSQ6LOGP](#).

System action

Queue manager startup processing continues.

CSQY120I

csect-name ARCHIVE parameters ...

Explanation

The queue manager is being started with the archive parameter values shown in the following messages.

System action

Queue manager startup processing continues.

CSQY121I

CSQY122I, CSQY123I, CSQY124I: *csect-name* parms

Explanation

This series of messages shows the archive parameter values that the queue manager is using. For information about the archive parameters in the CSQ6ARVP macro, see [Using CSQ6ARVP](#).

System action

Queue manager startup processing continues.

CSQY140I

csect-name USAGE parameters

Explanation

The queue manager is being started with the usage parameter values shown in the following messages.

These values can be overridden by values provided in the queue manager JCL or on the [START QMGR](#) command. The resolved values are shown in message [CSQY037I](#) and [CSQ0619I](#).

CSQY141I

csect-name No USAGE parameters provided

Explanation

No queue manager usage parameters are provided, and the defaults are assumed.

These values can be overridden by values provided in the queue manager JCL or on the [START QMGR](#) command. The resolved values are shown in message [CSQY037I](#) and [CSQ0619I](#).

CSQY142I

csect-name **parms**

Explanation

This message shows the usage parameter values that the queue manager is using. For information about the usage parameters for the CSQ6USGP macro, see [Using CSQ6USGP](#).

CSQY200E

csect-name ARM *request-type* for element *arm-element* type *arm-element-type* failed, *rc=rc*
reason=reason

Explanation

An ARM request (IXCARM REQUEST=*request-type*) for the specified element failed. *rc* is the return code and *reason* is the reason code (both in hexadecimal) from the call.

System action

None.

System programmer response

See the *z/OS MVS Programming Sysplex Services Reference* manual for information about the [Return and reason](#) codes from the IXCARM call.

If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center.

CSQY201I

csect-name ARM REGISTER for element *arm-element* type *arm-element-type* successful

Explanation

The specified element was successfully registered with ARM.

System action

None.

CSQY202E

csect-name ARM registration failed

Explanation

An attempt to register with ARM failed.

System action

Processing continues, but automatic restart is not available.

System programmer response

See the preceding CSQY200E message for more information about the failure.

CSQY203E

csect-name ARM *request-type* for element *arm-element* type *arm-element-type* timed out, *rc=rc*
reason=reason

Explanation

An ARM request (IXCARM REQUEST=*request-type*) was issued but some predecessor element specified in the ARM policy did not issue an ARM READY request within its specified time interval.

System action

Processing continues.

System programmer response

None required. However, if your program cannot run without the predecessor element, some installation-defined action might be necessary.

CSQY204I

csect-name ARM DEREGISTER for element *arm-element* type *arm-element-type* successful

Explanation

The specified element was successfully deregistered from ARM.

System action

None.

CSQY205I

csect-name ARM element *arm-element* is not registered

Explanation

A STOP QMGR command requested ARM restart, but the queue manager was not registered for ARM.

System action

The queue manager stops normally, but will not be automatically restarted.

System programmer response

Restart the queue manager manually.

CSQY210E

csect-name call-name call for name *name-token* failed, rc=*rc*

Explanation

During processing for a group connect, a name token services call failed. *rc* is the return code (in hexadecimal) from the call.

System action

If the failure occurs in the batch adapter (*csect-name* CSQBCON or CSQBDSC), the application call will fail with a reason code of MQRC_UNEXPECTED_ERROR. Otherwise (*csect-name* CSQYGRA1), processing continues, but the group connect facility will not be available.

System programmer response

Go to the appropriate volume of the *z/OS MVS Programming: Assembler Services Reference* manual for information about the return codes:

- [IEANTRT](#)
- [IEANTCR](#)
- [IEANTDL](#)

from the name token services call.

If you are unable to solve the problem, take a stand-alone system dump and contact your IBM support center.

CSQY211I

csect-name Unable to add entry to group connect name table (at *table-addr*)

Explanation

During initialization for the group connect facility, a new entry could not be added to the name table for this queue manager. The most likely cause is that there is already the maximum of 32 queue managers active in the group.

System action

Processing continues, but this queue manager will not be available for group connection.

System programmer response

Reduce the number of active queue managers and restart this queue manager. If this does not solve the problem, contact your IBM support center.

CSQY212E

csect-name Unable to find the group attach table

Explanation

During initialization for the group connect facility, the group attach table could not be found. The most likely causes are that an error occurred during subsystem initialization, or that the subsystem was not initialized with the latest version of the IBM MQ early code.

System action

Processing continues, but the group connect facility will not be available to CICS.

System programmer response

Ensure that the libraries with the latest version, release, or maintenance level of the IBM MQ early code are in the libraries used for the z/OS LPA, and refresh the early code for the queue manager using the IBM MQ command REFRESH QMGR TYPE(EARLY). See the [Task 3: Update the z/OS link list and LPA](#).

CSQY220I

csect-name Queue manager storage usage : local storage : used *mm*MB, free *nn*MB : above bar : used *aabb*,free *cc*

Explanation

This message displays the amount of virtual storage currently used and available:

- in the extended private region (local storage).
- above the Bar (64 bit storage).

The amount of storage used is displayed in the most appropriate unit (MB / GB) according to the number of bytes, and are approximations. If the amount of storage available exceeds 10 GB, '>10 GB' is displayed. In all other cases the amount of storage available is displayed in the most appropriate unit. For the amount of storage space available, the total is rounded down to a whole number in the appropriate unit (MB /GB). For example, if the value of 3 GB is displayed the amount of free storage is greater than or equal to 3 GB and less than 4 GB.

This message is logged at queue manager start and then either every hour if the usage does not change or when the memory usage changes (up or down) by more than 2%.

The message is also generated if the [ALTER BUFFPOOL](#) command makes a change to the value either for LOCATION, or BUFFERS.

System action

Processing continues. Any special actions taken by IBM MQ or that are required, are indicated by the [CSQY221I](#) and [CSQY222E](#) messages.

System programmer response

No action is required at this time. However, a frequent occurrence of this message might be an indication that the system is operating beyond the optimum region for the current configuration.

CSQY221I

csect-name Queue manager is short of local storage

Explanation

The queue manager is running short of virtual storage in the extended private region.

System action

Processing continues. Storage contraction processing is performed, which attempts to remove unused storage from internal subpools so that it can be reused in other subpools. This might be necessary after a temporary need for a large amount of storage; for example, an unusually large unit of work being performed.

System programmer response

If only a few of these messages are output then no action is required at this time. However, a frequent occurrence of this message may be an indication that the system is operating beyond the optimum region for the current configuration and should be investigated.

CSQY222E

csect-name Queue manager is critically short of local storage - take action

Explanation

The queue manager is running critically short of virtual storage in the extended private region. Action should be taken to relieve the situation, and to avoid the possible abnormal termination of the queue manager.

System action

Processing continues. Storage contraction processing has been performed, but the remaining unallocated virtual storage is less than a predetermined safe amount. If storage use continues to increase, the queue manager might terminate abnormally in an unpredictable way.

System programmer response

Virtual storage is over-allocated for the current configuration. The following actions can reduce the virtual storage requirement:

- For buffer pools that have the LOCATION parameter set to BELOW, you can reduce buffer pool sizes with the ALTER BUFFPOOL command. Buffer pool statistics can be used to determine buffer pools which are over-allocated.
- Reduce the number of concurrent connections to the queue manager. The DISPLAY CONN command can be used to determine connections which are consuming queue manager resources.

If the problem persists after taking actions described above, it might be an indication of an internal error where storage is not freed (a 'storage leak'). If you suspect this, then collect at least two system dumps of the queue manager, separated by an interval of time, and contact your IBM support center.

CSQY223I

csect-name Queue manager is no longer short of local storage

Explanation

The queue manager is no longer short of virtual storage in the extended private region.

System action

Processing continues. Storage contraction processing has been performed, and the remaining unallocated virtual storage is more than a predetermined safe amount.

CSQY224I

csect-name Queue manager is short of local storage above the bar

Explanation

The queue manager is running short of virtual storage above the bar.

System action

Processing continues. Storage contraction processing is performed, which attempts to remove unused storage from internal subpools so that it can be reused in other subpools. This might be necessary after a temporary need for lots of storage; for example, more than the usual number of messages held on an indexed queue, or an unusually large unit of work being performed.

CSQY225E

csect-name Queue manager is critically short of local storage above the bar - take action

Explanation

The queue manager is running critically short of virtual storage above the bar. Action should be taken to relieve the situation, and to avoid the possible abnormal termination of the queue manager.

System action

Processing continues. Storage contraction processing has been performed, but the remaining unallocated virtual storage is less than a predetermined safe amount. If storage use continues to increase, the queue manager might terminate abnormally in an unpredictable way.

CSQY226I

csect-name Queue manager is no longer short of local storage above the bar

Explanation

The queue manager is no longer short of virtual storage above the bar.

System action

Processing continues. Storage contraction processing has been performed, and the remaining unallocated virtual storage is more than a predetermined safe amount.

CSQY227E

csect-name Unable to allocate storage above the bar using IARV64, RC=rc, reason=reason

Explanation

A request by the queue manager to allocate storage above the bar failed. rc is the return code and reason is the reason code (both in hexadecimal) from the z/OS IARV64 service.

System action

The queue manager will attempt to recover from the error. If recovery is not possible an application or queue manager abend, for example 5C6-00A30042, 5C6-00A31000 or 5C6-00E20045, will occur.

CSQY228E

ACE pool cannot be extended, ACELIM reached

Explanation

The internal storage pool used to manage control blocks representing new connections to the queue manager has reached the limit defined by the ACELIM system parameter.

System action

Queue manager processing continues. New connection requests might have failed, message [CSQ3202E](#) or [CSM078E](#) give further information about the affected jobs.

System programmer response

Review the configured ACELIM value. It might be useful to use a STATISTICS CLASS(2) trace to establish the normal size of the ACE pool.

See [Address space storage](#) for more information.

CSQY270E

csect-name UNRECOGNIZED MESSAGE NUMBER *message-id*

Severity

8

Explanation

An unsuccessful attempt has been made to issue the message *message-id*. This message is issued only if the requested message could not be found in the IBM MQ message directory.

System action

Processing continues as though the requested message had been issued.

System programmer response

Use the message number (*message-id*) and look up the message in this product documentation. If you are using a language other than US English, ensure that you have installed the language feature correctly and that you have the appropriate load library data set concatenations in your job. Apart from that possibility, this might be an MQ system problem; see [Troubleshooting and support](#).

Note: Messages are also used to provide text for constructing panels and reports. If such a message cannot be found, message CSQY270E will appear on the panel or report, generally in truncated form.

CSQY271I

MESSAGE GENERATOR INITIALIZATION PARAMETERS NOT FOUND. DEFAULTS ASSUMED

Severity

4

Explanation

The message generator was unable to access the routing code initialization parameter defined by the CSQ6SYSP macro. Default values defined by that macro are assumed.

System action

Queue manager initialization continues.

System programmer response

It might be necessary to change the CSQ6SYSP macro. For information about the system parameters for the CSQ6SYSP macro, see [Using CSQ6SYSP](#).

CSQY290E

csect-name NO STORAGE AVAILABLE

Severity

4

Explanation

There was insufficient storage available for a system routine. *csect-name* shows the system routine function:

CSQAXDPS, CSQVXDPS

User exits (other than channel)

CSQXARMY

Channel initiator automatic restart

CSQXDCTS, CSQXTRPG

Channel initiator trace

CSQXDMPD

Channel initiator system dump

CSQXLDXS

User channel exits

CSQ2GFRR, CSQ2MFRR

IMS bridge system dump

System action

Processing continues, but the function provided by the system routine will be inhibited. For example, if the routine is CSQXLDXS, then user channel exits will not be available, and channels that use them will not start.

System programmer response

If the problem occurs in the queue manager, increase the size of the its address space, or reduce the number of queues, messages, and threads being used.

If the problem occurs in the channel initiator, increase the size of the its address space, or reduce the number of dispatchers, adapter subtasks, SSL server subtasks, and active channels being used.

CSQY291E

csect-name SDUMPX FAILED, RC=0000*ssrr*, *dump-identifier*

Severity

4

Explanation

The system dump routine was unable to issue a dump; the dump identifier was as shown in the message. *rr* is the return code and *ss* is the reason code (both in hexadecimal) from the z/OS [SDUMPX](#) service.

Usually the return code is 08. The most common [reason codes for return code 08](#) are:

02

An SVC dump was suppressed because the capture phase of another SVC dump was in progress.

04

An SVC dump was suppressed by a SLIP NODUMP command.

0B

An SVC dump was suppressed by DAE.

System action

Processing continues.

System programmer response

Select the appropriate volume of the *z/OS MVS Authorized Assembler Services Reference* manual for information about the return code and reason code from the [SDUMPX](#) request.

For reason code 0B, that is, in the case of DAE suppression, see [generating a suppressed dump](#).

To summarize, use IPCS option 3.5, that is, *Utilities* -> *DAE* to set the T (TAKEDUMP) option for the dump symptom, or symptoms, you want to allow.

CSQY330I

Queue manager has restricted functionality

Explanation

The installation and customization options chosen for IBM MQ do not allow all functions to be used.

System action

Queue manager startup processing continues.

CSQY331E

parm value not allowed - restricted functionality

Explanation

The value specified for the *parm* system parameter is not allowed because the installation and customization options chosen for IBM MQ do not allow all functions to be used.

System action

The queue manager does not start.

CSQY332I

IMS Bridge not available - restricted functionality

Explanation

The IBM MQ-IMS bridge cannot operate because the installation and customization options chosen for IBM MQ do not allow all functions to be used.

System action

The MQ-IMS bridge does not start.

CSQY333E

Command not allowed - restricted functionality

Explanation

The command that was issued is not allowed because the installation and customization options chosen for IBM MQ do not allow all functions to be used.

System action

The command is ignored.

CSQY334E

csect-name keyword(value) not allowed - restricted functionality

Explanation

The value specified for the keyword is not allowed because the installation and customization options chosen for IBM MQ do not allow all functions to be used.

System action

The command is ignored.

System programmer response**CSQY335E**

csect-name Channel *channel-name* unusable - restricted functionality

Explanation

The channel cannot be used because the installation and customization options chosen for IBM MQ do not allow all functions to be used.

System action

The requested operation fails.

CSQY336E

csect-name keyword not allowed - restricted functionality

Explanation

The keyword is not allowed because the installation and customization options chosen for IBM MQ do not allow all functions to be used.

System action

The command is ignored.

CSQY337E

csect-name keyword value length not allowed - restricted functionality

Explanation

The length of the value specified for the keyword is not allowed because the installation and customization options chosen for IBM MQ do not allow all functions to be used.

System action

The command is ignored.

CSQY340E

Queue manager has restricted functionality, but previously had full functionality. Unsupported objects will be deleted (losing messages), invalid attributes will be changed

Explanation

The installation and customization options chosen for IBM MQ do not allow all functions to be used. However, the queue manager has run previously without any functional restriction, and so might have objects and attribute settings that are not allowed with the restricted functionality.

In order to continue, these objects must be deleted (which might mean that messages are lost) and the attributes must be changed. The queue manager does this automatically.

System action

Message CSQY341D is issued and the operator's reply is awaited.

System programmer response

The operator has two options:

- Allow the queue manager to delete the objects and change the attributes, by replying 'Y'.
- Cancel the queue manager, by replying 'N'.

CSQY341D

Reply Y to continue or N to cancel

Explanation

The installation and customization options chosen for IBM MQ have changed, as indicated in the preceding CSQY340E message.

System action

The queue manager waits for the operator's reply

System programmer response

See message CSQY340E.

CSQY342I

Deleting objects and changing attributes - restricted functionality

Explanation

This message is sent if the operator answers 'Y' to message CSQY341D.

System action

The queue manager deletes the objects and changes the attributes that are not allowed with the restricted functionality.

CSQY343I

Queue manager terminating - restricted functionality not accepted

Explanation

This message is sent if the operator answers 'N' to message CSQY341D.

System action

The queue manager does not start.

 **Advanced Message Security (CSQ0...)****CSQ0101E**

csect-name Internal message protection error, reason *reason*, diagnostics: *value1,value2*

Severity

8

Explanation

An internal error occurred during message protection processing.

System action

For a put operation, the message is rejected.

For a get operation, the message is moved to the error queue, **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE**.

System programmer response

You should check that the message has valid IBM MQ headers, if not, contact your IBM support center.

CSQ0105E

csect-name Internal error occurred, reason *reason*, diagnostics: *value*

Severity

8

Explanation

An internal error occurred during message protection processing.

System action

The message queue interface (MQI) call fails.

System programmer response

Contact your IBM support center.

CSQ0109E

csect-name SDUMP failed, return code *rc*, reason *reason*

Severity

8

Explanation

An attempt to issue an SDUMP during abend processing failed.

System action

SDUMP diagnostics are not generated.

System programmer response

Review the return code and reason in conjunction with [SDUMP](#) documentation to resolve the problem.

CSQ0110I

csect-name AMS abend *abend*, reason *reason*

Severity

8

Explanation

An abend has occurred during message protection processing of type *abend* for reason *reason*.

System action

The message queue interface (MQI) call fails and the IBM MQ subsystem might terminate.

System programmer response

Use the abend and reason code information to resolve the issue.

If the problem cannot be resolved contact your IBM support center.

CSQ0111I

csect-name Module offset *offset*, level *level*

Severity

0

Explanation

The *module* and *level* are reported for diagnostic purposes following an abend during message protection processing.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0112I

csect-name PSW SDWAE1, *SDWAE1*, SDWAAEC1, *SDWAAEC1*

Severity

0

Explanation

Relevant Program Status Word (PSW) fields are reported following an abend during message protection processing.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0113I

csect-name CAB *value1*, *value2*, *value3*, *value4*

Severity

0

Explanation

Relevant internal fields are reported following an abend during message protection processing.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0114I

csect-name R0-R3 *gpr0*, *gpr1*, *gpr2*, *gpr3*

Severity

0

Explanation

General purpose registers 0 through 3 are reported following an abend during message protection processing.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0115I

csect-name R4-R7 gpr4, gpr5, gpr6, gpr7

Severity

0

Explanation

General purpose registers 4 through 7 are reported following an abend during message protection processing.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0116I

csect-name R8-R11 gpr8, gpr9, gpr10, gpr11

Severity

0

Explanation

General purpose registers 8 through 11 are reported following an abend during message protection processing.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0117I

csect-name R12-R15 gpr12, gpr13, gpr14, gpr15

Severity

0

Explanation

General purpose registers 12 through 15 are reported following an abend during message protection processing.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0118I

csect-name A0-A3 ar0, ar1, ar2, ar3

Severity

0

Explanation

Access registers 0 through 3 are reported following an abend during message protection processing.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0119I

csect-name A4-A7 ar4, ar5, ar6, ar7

Severity

0

Explanation

Access registers 4 through 7 are reported following an abend during message protection processing.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0120I

csect-name A8-A11 ar8, ar9, ar10, ar11

Severity

0

Explanation

Access registers 8 through 11 are reported following an abend during message protection processing.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0121I

csect-name A12-A15 ar12, ar13, ar14, ar15

Severity

0

Explanation

Access registers 12 through 15 are reported following an abend during message protection processing.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0137I

csect-name SDUMP not taken, suppressed by DAE

Severity

0

Explanation

An SDUMP was suppressed due to Dump Analysis and Elimination (DAE).

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0151E

csect-name Failed to allocate storage

Severity

8

Explanation

An attempt to allocate storage during message protection processing failed.

System action

The message queue interface (MQI) call fails.

System programmer response

Increase the amount of storage available.

CSQ0174E

csect-name Failed to load module *module*, return code *abncode*, reason *rsncode*

Severity

8

Explanation

An attempt to load a module into storage failed.

System action

The IBM MQ subsystem fails to start.

System programmer response

Use the abend and reason code in conjunction with documentation for the **LOAD** macro to resolve the problem.

CSQ0175E

csect-name Failed to delete module *module*, return code *rc*

Severity

8

Explanation

An attempt to delete a loaded module failed.

System action

The module remains loaded.

System programmer response

Use the return code in conjunction with documentation for the **DELETE** macro to resolve the problem.

CSQ0201E

csect-name Message table not available

Severity

8

Explanation

An attempt to load the message protection component message file failed.

System action

The IBM MQ subsystem fails to start.

System programmer response

Verify that the IBM MQ subsystem has been installed correctly. If the problem persists contact your IBM support center.

CSQ0204I

csect-name AMS is using *use-size* MB of local storage, *free-size* MB free

Severity

0

Explanation

The amount of storage currently used for message protection services is currently *use-size* MB, and a further *free-size* remains free.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0209E

csect-name Message for *qname* sent to error queue, MQRC=*mqr*c (*mqr*c-text)

Severity

4

Explanation

During get processing a protected message on queue *qname* could not be processed for reason *mqr*c, and has been sent to the error queue, **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE** (*mqr*c-text provides the MQRC in textual form).

System action

The message is placed on the error queue and an error is returned to the requesting application.

System programmer response

Examine the message on the error queue and the reason code to determine why the message could not be processed.

You should check the sender and receiver policies. For example, when setting the policy:

- Specify the State or Province using ST=
- The following special characters need escape characters:

```
, (comma)
+ (plus)
" (double quote)
\ (backslash)
< (less than)
> (greater than)
; (semicolon)
```

- If the Distinguished Name contains embedded blanks, you should enclose the DN in double quotation marks.

CSQ0210E

csect-name Failed to redirect message to error queue, MQRC=*mqr*c (*mqr*c-text)

Severity

8

Explanation

During get processing, message protection processing failed for reason *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form). An attempt to put the message to the error queue, **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE**, failed.

System action

The get request fails and the message remains on the target queue.

System programmer response

Examine the message on the target queue and the reason code to determine why the message could not be processed or placed on the error queue.

Check the queue manager and Advanced Message Security task error logs for error messages relating to the failure to put the message to the error queue.

CSQ0213E

csect-name Internal queue close failed MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

During open processing for a protected queue protection initialization failed and an attempt to internally close the queue failed.

System action

The open request fails.

System programmer response

Examine the completion and reason codes to determine the cause of the failure.

CSQ0214E

csect-name Message protection initialization failed, return code *rc*, reason *reason*

Severity

8

Explanation

During open processing for a protected queue protection initialization failed.

System action

The open request fails.

System programmer response

Examine the completion and reason codes to determine the cause of the failure. For more information, see [Messages and codes](#) in the *z/OS Cryptographic Services System SSL Programming* documentation.

CSQ0215E

csect-name Message protection failed, return code *rc*, reason *reason*

Severity

8

Explanation

An attempt to protect a message failed during put processing.

System action

The message is not put to the queue.

System programmer response

Examine the completion and reason codes to determine the cause of the failure. For more information, see [Messages and codes](#) in the *z/OS Cryptographic Services System SSL Programming* documentation.

CSQ0216E

csect-name Message unprotection failed, return code *rc*, reason *reason*

Severity

8

Explanation

An attempt to process a protected message during get processing failed.

System action

If the operation that failed was a destructive get, the message is moved to the error queue, **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE**, if possible.

System programmer response

Examine the completion and reason codes to determine the cause of the failure. For more information, see [Messages and codes](#) in the *z/OS Cryptographic Services System SSL Programming* documentation.

CSQ0217E

csect-name Failed to process object '*objname*'

Severity

8

Explanation

An attempt to initialize, protect, or process a protected message failed for the object named by *objname*.

System action

The open, get or put request fails.

System programmer response

Examine preceding or subsequent console messages for more information.

CSQ0218E

csect-name Privacy policy for *qname* invalid. No recipients

Severity

8

Explanation

During open or put1 processing, a privacy policy was stipulated for the object *qname*, but the policy failed to identify any recipients.

System action

The open or put1 request fails.

System programmer response

Modify or delete the protection policy for the object *qname*.

CSQ0219E

csect-name Message verification error for *qname*

Severity

8

Explanation

During put or get processing an attempt to process a message failed due to unexpected header values or offsets.

System action

The put or get operation fails.

For get processing the message is moved to the error queue, **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE**.

System programmer response

Examine the failing message to determine the cause of the problem.

CSQ0220E

csect-name Encryption strength not available

Severity

8

Explanation

During get processing a protected message did not specify an encryption strength.

System action

The get request fails and the message is moved to the error queue, **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE**.

System programmer response

Examine the message on the error queue to determine its origin and why it is not correctly protected.

CSQ0221E

csect-name Message encryption strength *encstr* not valid

Severity

8

Explanation

During get processing a protected message did not have a recognized encryption strength.

System action

The get request fails and the message is moved to the error queue, **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE**.

System programmer response

Examine the message on the error queue to determine its origin and why it does not have a valid encryption strength.

Some encryption algorithms are supported on some platforms, however, not on others.

CSQ0222E

csect-name Message encryption strength *encstr* inconsistent with policy

Severity

8

Explanation

During get processing a protected message did not use an encryption algorithm that matches the expected encryption strength.

System action

The get request fails and the message is moved to the error queue,
SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE.

System programmer response

Examine the message on the error queue to determine its origin and why the encryption algorithm does not match the expected encryption strength.

Some encryption algorithms are supported on some platforms, however, not on others.

CSQ0223E

csect-name Message size *m-size* inconsistent with header size *h-size* or original size *o-size*

Severity

8

Explanation

During get processing a protected message was found to have a header or overall message size that did not match the original unprotected message.

System action

The get request fails and the message is moved to the error queue,
SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE.

System programmer response

Examine the message on the error queue to determine why its lengths are inconsistent with the original unprotected message.

CSQ0224E

csect-name Message buffer length of *m-size* too small

Severity

8

Explanation

During get processing a protected message was of insufficient length to contain a standard protection header and could not be processed.

System action

The get request fails and the message is moved to the error queue,
SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE.

System programmer response

Examine the message on the error queue to determine why it is of insufficient length.

CSQ0225E

csect-name Message header not acceptable, structure identifier is '*strucid*'

Severity

8

Explanation

During get processing a protected message did not have the expected protection header eye-catcher, but instead had *strucid*.

System action

The get request fails and the message is moved to the error queue,
SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE.

System programmer response

Examine the message on the error queue to determine why it has an invalid protection header.

CSQ0226E

csect-name Header version not supported

Severity

8

Explanation

During get processing a protected message did not have the expected protection header version.

System action

The get request fails and the message is moved to the error queue,
SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE.

System programmer response

Examine the message on the error queue to determine why it has an invalid protection header.

CSQ0227E

csect-name Message signature algorithm *sig-alg* not valid

Severity

8

Explanation

During get processing a protected message did not have a recognized signature algorithm.

System action

The get request fails and the message is moved to the error queue,
SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE.

System programmer response

Examine the message on the error queue to determine its origin and why it does not have a valid signature algorithm. Some signature algorithms are supported on some platforms, however, not on others.

CSQ0228E

csect-name Message signature algorithm *sig-alg* inconsistent with policy

Severity

8

Explanation

During get processing a protected message did not use a signature algorithm that matches the expected signature strength.

System action

The get request fails and the message is moved to the error queue,
SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE.

System programmer response

Examine the message on the error queue to determine its origin and why the signature algorithm does not match the expected signature strength. Some signature algorithms are supported on some platforms, however, not on others.

CSQ0229E

csect-name Unable to verify sender distinguished name

Severity

8

Explanation

During get processing the distinguished name of the message sender was not present to be verified.

System action

The get request fails and the message is moved to the error queue,
SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE.

System programmer response

Examine the message on the error queue to determine why it does not have a distinguished name for the sender of the message.

CSQ0230E

csect-name Structure identifier *strucid* invalid for format name *format*

Severity

8

Explanation

During message protection processing a message header did not have the expected value for the message format indicated.

System action

The MQI call fails. For a get request the message is moved to the error queue,
SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE.

System programmer response

Examine the failing message formats and headers to determine the cause of the problem.

CSQ0231E

csect-name Unrecognized version *version* for structure *strucid*, format name *format*

Severity

8

Explanation

During message protection processing a message header version did not have the expected value for the message format and header indicated.

System action

The MQI call fails. For a get request the message is moved to the error queue,
SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE.

System programmer response

Examine the failing message formats and headers to determine the cause of the problem.

CSQ0232E

csect-name Buffer length insufficient for format name *format*

Severity

8

Explanation

During message protection processing a message length was insufficient to account for the length of a header indicated by the message format.

System action

The MQI call fails. For a get request the message is moved to the error queue, **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE**.

System programmer response

Examine the failing message formats and headers to determine the cause of the problem.

CSQ0233E

csect-name Message *msg-size* of size does not match original size of *orig-size*

Severity

8

Explanation

During get processing a protected message length does not resolve to the original length of the message before it was protected.

System action

The get request fails and the message is moved to the error queue, **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE**.

System programmer response

Examine the message on the error queue to determine why it has a different length than expected.

CSQ0234I

csect-name Policy for *queue-name* not defined, message protection will not be removed

Severity

0

Explanation

SPLPROT(REMOVE) was specified on a channel with CHLTYPE SDR or SVR, but an AMS policy has not been defined for the transmission queue.

The channel will start up, but protection will not be removed from messages retrieved from the transmission queue.

System action

Processing continues.

System programmer response

If message protection is to be removed, define an AMS policy for the transmission queue, refresh AMS policies, and stop and restart the channel.

CSQ0240E

csect-name No storage for error queue processing for *qname*

Severity

8

Explanation

During get processing a message that failed protection processing could not be put to the error queue, **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE**, due to insufficient storage.

System action

The get request fails and the message remains on the queue *qname*.

System programmer response

Determine the cause of storage shortage and retry the get operation.

CSQ0400I

CSQ0UTIL IBM MQ AMS for z/OS *vrm*

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security policy utility, CSQ0UTIL, is starting for utility version *v*, release *r*, and modlevel *m*.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0401I

Queue Manager Protection Policy Utility

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security policy utility, CSQ0UTIL, has started.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0402I

Command Name: *command*

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security policy utility is processing the policy command *command*.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0403I

Arguments: *args*

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security policy utility is processing arguments *args* for the current policy command.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0404E

Insufficient storage available to perform command

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility could not allocate storage to process the input command.

System action

The Advanced Message Security policy utility terminates without executing the current input command.

System programmer response

Determine why there is insufficient storage for the policy utility then rerun the utility when the problem has been resolved.

CSQ0405E

An error occurred running command *cmd-number* on line *line number*

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility encountered an error during the processing of command *cmd-number* at line *line-number* of the input.

System action

The Advanced Message Security policy utility processing fails for the command identified by *cmd-number* at line *line-number*.

System programmer response

Examine the failing command and related messages to determine the cause of the failure.

CSQ0406E

Invalid command found on line *line-number*. Valid commands are SETMQSPL and DSPMQSPL

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility did not recognize the input command at line *line-number* of the input.

System action

The Advanced Message Security policy utility does not process the command at line *line-number*.

System programmer response

Change the input command to either **SETMQSPL** or **DSPMQSPL**.

CSQ0407E

Quoted string on line *line-number* does not have a terminating quote

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility could not align matching quotes when processing the input command at line *line-number*.

System action

The Advanced Message Security policy utility does not process the command at line *line-number*.

System programmer response

Change the command at line *line-number* to use consistent and matching quotes in the arguments.

CSQ0408I

cmd-count policy commands have been completed successfully

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security policy utility has successfully processed *cmd-count* commands.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0409I

Reached end of input, *num-line* lines read

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security policy utility reached end of input after *num-line* lines.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0410E

Error opening SYSIN data set

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility could not open the standard input (SYSIN DD) to read input commands.

System action

No commands are processed.

System programmer response

Determine why the SYSIN DD is unavailable and resolve the problem, then rerun the policy utility.

CSQ0411E

Unexpected internal error

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility did not recognize the input command.

System action

The input command is not processed.

System programmer response

Examine the command input and verify that the input expresses a valid command with valid parameters.

CSQ0412I

Policy name: *policy-name*

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security policy utility is displaying information about the policy identified by *policy-name*.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0413I

Encryption algorithm: *enc-alg*

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security policy utility is displaying the encryption algorithm *enc-alg* for a given policy.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0414I

Recipient DNS: *recipient-dns*

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security policy utility is displaying the recipient distinguished names, *recipient-dns*, for a given policy.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0415I

Signature algorithm: *sig-alg*

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security policy utility is displaying the signature algorithm, *sig-alg*, for a given policy.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0416I

Signer DNs: *signer-dns*

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security policy utility is displaying the signer distinguished names, *signer-dns*, for a given policy.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0417I

Quality of protection: *qop*

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security policy utility is displaying the quality of protection, *qop*, for a given policy.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0418I

Toleration: *toleration-flag*

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security policy utility is displaying the toleration flag, *toleration-flag*, for a given policy.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0447E

Failed to open EXPORT DD, exporting to STDOUT

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility could not open the EXPORT DD to process a -export request.

System action

The policy export is sent to STDOUT.

System programmer response

Determine why the EXPORT DD is unavailable and resolve the problem, then rerun the policy utility.

CSQ0448E

Command failed

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility failed to successfully process an input command.

System action

The current command is not processed and the Advanced Message Security policy utility attempts to process the next input command, if any.

System programmer response

Determine the reason for the failing command by examining related messages, and correct the failing input command.

CSQ0449I

Command successful

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security policy utility successfully processed an input command.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0450E

Syntax error. Usage: setmqspl -m (qm) -p (policy) -s (sigalg) -a (signer DN) -e (encalg) -r (receiver DN)

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility failed to interpret a command due to bad command syntax.

System action

The current command is not processed and the Advanced Message Security policy utility attempts to process the next input command, if any.

System programmer response

Correct the syntax of the failing command then retry.

CSQ0451E

Invalid queue manager name: *qmgr-name*

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility encountered an invalid queue manager name value, *qmgr-name*, when processing an input command.

System action

The current command is not processed and the Advanced Message Security policy utility attempts to process the next input command, if any.

System programmer response

Correct the queue manager name value in the input command then retry.

CSQ0452E

Invalid policy name: *policy-name*

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility encountered an invalid policy name when processing an input command.

System action

The current command is not processed and the Advanced Message Security policy utility attempts to process the next input command, if any.

System programmer response

Correct the policy name value in the input command then retry.

CSQ0453E

Invalid encryption algorithm

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility encountered an invalid encryption algorithm when processing an input command.

System action

The current command is not processed and the Advanced Message Security policy utility attempts to process the next input command, if any.

System programmer response

Correct the encryption algorithm value in the input command then retry.

CSQ0454E

Invalid signature algorithm

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility encountered an invalid signature algorithm when processing an input command.

System action

The current command is not processed and the Advanced Message Security policy utility attempts to process the next input command, if any.

System programmer response

Correct the signature algorithm value in the input command and retry.

CSQ0455E

Encryption requires the use of a signature algorithm

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility encountered an invalid command that identified an encryption algorithm, but did not also identify a valid signature algorithm.

System action

The current command is not processed and the Advanced Message Security policy utility attempts to process the next input command, if any.

System programmer response

Provide both a valid encryption algorithm and a valid signature algorithm when defining privacy protection policies.

CSQ0456E

Encryption requires a receiver DN to be specified (-r)

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility encountered an invalid command that identified an encryption algorithm, but did not also identify at least one recipient DN via the -r parameter.

System action

The current command is not processed and the Advanced Message Security policy utility attempts to process the next input command, if any.

System programmer response

Provide both an encryption algorithm and at least one recipient DN when defining privacy protection policies.

CSQ0457E

Invalid receiver DN specified: *receiver-dn*

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility encountered an invalid receiver distinguished name, *receiver-dn*, when processing an input command.

System action

The current command is not processed and the Advanced Message Security policy utility attempts to process the next input command, if any.

System programmer response

Correct the receiver distinguished name in the input command then retry.

CSQ0458E

Receiver DN is specified while no encryption is enabled

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility encountered an invalid command that identified at least one recipient DN, however, did not also identify an encryption algorithm when processing the *-e* parameter.

System action

The current command is not processed and the Advanced Message Security policy utility attempts to process the next input command, if any.

System programmer response

Provide both an encryption algorithm and at least one recipient DN when defining privacy protection policies.

CSQ0459E

Invalid signer DN specified: *signer-dn*

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility encountered an invalid signer distinguished name, *signer-dn*, when processing an input command.

System action

The current command is not processed and the Advanced Message Security policy utility attempts to process the next input command, if any.

System programmer response

Correct the signer distinguished name value in the input command then retry.

CSQ0460E

Signer DN is specified while no signing is enabled

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility encountered an invalid command that identified at least one signer DN using the -a parameter, however, did not also identify a signature algorithm using the -s parameter.

System action

The current command is not processed and the Advanced Message Security policy utility attempts to process the next input command, if any.

System programmer response

Provide both an encryption algorithm and at least one recipient DN when defining privacy protection policies.

CSQ0461E

Queue **SYSTEM.PROTECTION.POLICY.QUEUE** unavailable, MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility could not open the policy queue, **SYSTEM.PROTECTION.POLICY.QUEUE**, due to an error identified by *mqcc* and *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

System action

Processing ends.

System programmer response

Determine the reason the policy queue is unavailable using the *mqcc* and *mqrc*, then resolve the problem.

CSQ0462E

Failed to retrieve protection policy, MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility could not retrieve a policy from the policy queue, **SYSTEM.PROTECTION.POLICY.QUEUE**, due to an error identified by *mqcc* and *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

System action

The current command is not processed and the Advanced Message Security policy utility attempts to process the next input command, if any.

System programmer response

Determine the reason the policy could not be retrieved from the policy queue, then resolve the problem.

CSQ0463E

Policy update failed due to concurrent update, MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility detected that a policy was changed by another process when it was trying to update or create the same policy, due to an error identified by *mqcc* and *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

System action

The current command is not processed and the Advanced Message Security policy utility attempts to process the next input command, if any.

System programmer response

Verify the policy is correct, then update the policy again if necessary.

CSQ0464E

Policy definition not found, MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility could not find a policy on the policy queue, **SYSTEM.PROTECTION.POLICY.QUEUE**, when a policy was expected, due to an error identified by *mqcc* and *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

System action

The current command is not processed and the Advanced Message Security policy utility attempts to process the next input command, if any.

System programmer response

Determine the reason the policy could not be retrieved from the policy queue, then resolve the problem.

CSQ0465E

An unexpected error occurred, MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility encountered an unexpected MQI error when processing an input command, identified by *mqcc* and *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

System action

The current command is not processed and the Advanced Message Security policy utility attempts to process the next input command, if any.

System programmer response

Determine the reason for the MQI error, then resolve the problem.

CSQ0466E

Invalid value specified for toleration flag, specify one of (0, 1)

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility encountered an invalid value for the toleration parameter.

System action

The current command is not processed and the Advanced Message Security policy utility attempts to process the next input command, if any.

System programmer response

Use a value of 0 (false) or 1 (true) for the toleration parameter when creating or modifying a policy.

CSQ0467E

Failed to connect to the queue manager, MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility could not connect to the input queue manager to process further input commands, due to an error identified by *mqcc* and *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

System action

Processing ends.

System programmer response

Determine the reason the queue manager is unavailable, then resolve the problem.

CSQ0468I

No policies found

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security policy utility found no policies matching the specified parameters.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0469E

Invalid value specified for key reuse argument

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility encountered an invalid value for the key reuse parameter.

System action

The current command is not processed and the Advanced Message Security policy utility attempts to process the next input command, if any.

System programmer response

Use a valid value for the key reuse parameter when creating or modifying a policy.

CSQ0470E

Syntax error. Usage: dspmqspl -m (qm) -p (policy) -export

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility failed to interpret a command due to incorrect syntax.

System action

The current command is not processed and the Advanced Message Security policy utility attempts to process the next input command, if any.

System programmer response

Correct the syntax of the failing command then retry.

CSQ0471E

Key reuse not valid for policy

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security policy utility encountered an invalid command that specified a non-zero value for the key reuse parameter for a policy that does not allow symmetric key reuse.

System action

The current command is not processed and the Advanced Message Security policy utility attempts to process the next input command, if any.

System programmer response

Either specify a value of 0 for the key reuse parameter (key reuse disabled), or change the policy to use a quality of protection that allows symmetric key reuse, for example, confidentiality.

CSQ0499I

CSQ0UTIL Utility completed return code=*retcode*

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security policy utility, CSQ0UTIL, has completed with return code *retcode*.

System action

Processing continues.

System programmer response

If the utility did not complete successfully refer to other messages in the output to determine the cause of any errors.

CSQ0501I

csect-name SMF recording enabled for record type *record-type*

Severity

0

Explanation

Advanced Message Security has enabled SMF record generation for record type *record-type*.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0502I

csect-name SMF recording disabled

Severity

0

Explanation

Advanced Message Security has disabled SMF record generation.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0503I

csect-name SMF record write failed, return code *retcode*

Severity

8

Explanation

An attempt to generate an SMF audit record using SMFEWTM failed during message protection processing with return code *retcode*.

System action

The SMF record is not generated.

System programmer response

Examine the *retcode* and documentation for the SMFEWTM macro to determine the cause of the failure.

CSQ0600I

csect-name IBM MQ AMS for z/OS , *version*, *service-level*

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security task is running at version *version* and service level *service-level*.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0601I

csect-name Environment variable *varname* has an invalid value, using default '*value*'

Severity

8

Explanation

A Advanced Message Security environment variable, *varname*, was set to an invalid value, resulting in the use of a default value, *value*, for the variable.

System action

Processing continues with the default value for the named environment variable.

System programmer response

Change the environment variable assignment to a valid value if the default is not acceptable.

CSQ0602I

csect-name AMS initialization complete

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security task initialization is complete.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0603I

csect-name AMS shutdown requested

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security task has received a shutdown request.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0604I

csect-name LOG option processed: *log-option*

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security task processed a LOG command for log option *log-option*.

System action

Processing continues with the new log option.

System programmer response

None.

CSQ0605E

csect-name Incorrect LOG option specified

Severity

8

Explanation

An attempt by the Advanced Message Security task to process a LOG command failed due to an invalid log option.

System action

The LOG command does not take effect.

System programmer response

Correct the LOG option and retry the LOG command.

CSQ0606E

csect-name Unrecognized command: specify **DISPLAY, REFRESH, LOG, SMFTYPE, SMFAUDIT** or **STOP**

Severity

8

Explanation

An attempt by the Advanced Message Security task to process a command failed because the command was not recognized.

System action

The command is not executed.

System programmer response

Select a valid command and retry.

Valid commands include **DISPLAY, REFRESH, LOG, SMFTYPE, SMFAUDIT** and **STOP**.

CSQ0607E

csect-name Insufficient storage available

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security task failed to allocate storage.

System action

The function being performed by the Advanced Message Security task fails.

System programmer response

Determine the reason there is insufficient storage and correct or increase, as appropriate.

CSQ0608E

csect-name Failed to load policy configuration, MQRRC=*mqr*c (*mqr*c-text)

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security task failed to load the policy configuration for reason *mqr*c (*mqr*c-text provides the MQRRC in textual form).

System action

The Advanced Message Security task cannot start.

System programmer response

Use the reason code, *mqr*c, to determine why the policy configuration could not be loaded from the policy queue, **SYSTEM.PROTECTION.POLICY.QUEUE**.

If the queue manager cannot start, you can define the queue in the CSQINP2 concatenation. Definitions for queues required by Advanced Message Security are provided in SCSQPROC member CSQ4INSM.

CSQ0609I

csect-name AMS for z/OS starting, version *version*, level *service-level*

Severity

0

Explanation

Advanced Message Security task has started for product version *version* and service level *service-level*.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0610E

csect-name Failed to start policy subtask, error *errcode*, reason *reason*

Severity

8

Explanation

An attempt by the Advanced Message Security task to start the policy configuration subtask failed with errno *errcode* and errno2 *reason*.

System action

The Advanced Message Security task cannot start.

System programmer response

Use the error and reason codes to determine why the policy configuration subtask could not be started, then take corrective action.

CSQ0611E

csect-name Failed to make AMS address space non-swapable, error *errcode*

Severity

8

Explanation

An attempt by the Advanced Message Security task to make itself non-swapable failed with error code *errcode*.

System action

The Advanced Message Security task cannot start.

System programmer response

The error identified by *errcode* is likely to be the return code from the SYSEVENT macro. Use macro documentation to determine the cause of the SYSEVENT failure.

CSQ0612E

csect-name System function '*function*' failed

Severity

8

Explanation

An attempt by the Advanced Message Security task to use a run-time call, *function*, failed.

System action

The Advanced Message Security task cannot continue to process the service it was providing at the time of the failure.

System programmer response

This message is associated with other messages that are generated at the time of failure. Examine these messages for more information, including error codes that might identify the cause of the failure.

CSQ0613E

csect-name AMS initialization error *errno*, reason *errno2*

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security task failed to initialize due to a run-time call failure.

System action

The Advanced Message Security task cannot start.

System programmer response

This message is associated with other messages that are generated at the time of failure. Examine these messages for more information, and use the error codes to determine the cause of the failure.

CSQ0614E

csect-name AMS termination error *errno*, reason *reason*

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security task failed during termination due to a run-time call failure.

System action

The Advanced Message Security task termination continues.

System programmer response

This message is associated with other messages that are generated at the time of failure. Examine these messages for more information, and use the error codes to determine the cause of the failure.

CSQ0615E

csect-name AMS post/wait request failed, reason *reason*

Severity

8

Explanation

An attempt by the Advanced Message Security task to issue a post or wait request failed for reason *reason*.

System action

The Advanced Message Security task cannot continue to process the service it was providing at the time of the failure.

System programmer response

The error identified by *reason* is likely to be the return code from the POST or WAIT macro. Use macro documentation to determine the cause of the failure.

CSQ0616E

csect-name AMS runtime environment initialization failed

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security task failed to initialize.

System action

The Advanced Message Security task cannot start.

System programmer response

Examine associated messages for more information about the failure, then take corrective action.

CSQ0617E

csect-name AMS already active

Severity

8

Explanation

An attempt to start the Advanced Message Security task failed because it was already running.

System action

The Advanced Message Security task cannot start while it is already running.

System programmer response

None.

CSQ0618E

csect-name AMS initialization failed, program not APF authorized

Severity

8

Explanation

An attempt to start the Advanced Message Security task failed because the module, CSQ0DSRV, is not APF authorized.

System action

The Advanced Message Security task cannot start.

System programmer response

Ensure that the AMS task module is APF authorized and retry.

CSQ0619I

csect-name AMSPROD=*prod-value*, recording product usage for *product-name* product ID *product-id*

Explanation

This message is issued when AMS starts, and if SMF 89 product usage records are to be recorded by AMS:

prod-value is the value defined for AMSPROD, and is allowed to be blank (see [START QMGR](#) for information on how to set *prod-value*).

product-name is the descriptive name of the product

product-id is the product ID that is to be used in the SMF 89 data

For example:

- AMSPROD=AMS, recording product usage for IBM MQ for z/OS AMS product ID 5655-AM9 - this indicates that usage data will be collected for the IBM MQ for z/OS AMS product.
- AMSPROD=ADVANCEDVUE, recording product usage for IBM MQ Advanced for z/OS Value Unit Edition product ID 5655-AV1 - this indicates that usage data is to be collected for the IBM MQ Advanced for z/OS Value Unit Edition product.

See *z/OS MVS Product Management* for more information on product usage recording.

CSQ0624E

csect-name SMF audit option invalid, defaulting to 'failure'

Severity

8

Explanation

An attempt to process the `_AMS_SMF_AUDIT` environment variable or an `SMFAUDIT` command failed because the variable or command value was not recognized.

System action

The variable assignment or command is ignored and the default value 'failure' is used.

System programmer response

Provide a valid variable or command value. Valid values include 'success', 'failure', and 'all'.

CSQ0625E

csect-name SMF record type invalid

Severity

8

Explanation

An attempt to process the `_AMS_SMF_TYPE` environment variable or an `SMFTYPE` command failed because the variable or command value was not valid.

System action

The variable assignment or command is ignored.

System programmer response

Provide a valid variable or command value. Valid values include numeric values between 0 and 255 inclusive. The `SMFTYPE` value represents the SMF record type for SMF record generation. A value of 0 means no SMF record generation is required. The recommended value is 180.

CSQ0626I

csect-name SMF audit type is *audit-type*

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security SMF audit type has been set to *audit-type*.

System action

The new SMF audit type takes effect immediately. If *audit-type* is 'failure', all failing puts/gets to a protected queue are audited. If *audit-type* is 'success', all successful puts/gets to a protected queue are audited. If *audit-type* is 'all', both successful and failing puts/gets to a protected queue are audited.

System programmer response

None.

CSQ0629E

csect-name Unable to create security environment for user '*userid*', reason *errno*

Severity

8

Explanation

An attempt by the Advanced Message Security task to create a thread-level security environment using `pthread_security_np()` for user *userid* failed for the reasons indicated by *errno* and *errno2*.

System action

The thread-level security environment is not created, and the AMS function being processed cannot be completed. The MQI call fails.

System programmer response

Examine the *errno* and *errno2* values in conjunction with `pthread_security_np()` documentation to determine the cause of the failure.

CSQ0630E

csect-name Unable to delete security environment, reason *errno*

Severity

8

Explanation

An attempt by the Advanced Message Security task to delete a thread-level security environment using `pthread_security_np()` failed for the reason indicated by *errno*.

System action

The thread-level security environment is not deleted. AMS processing continues.

System programmer response

Examine the *errno* value in conjunction with `pthread_security_np()` documentation to determine the cause of the failure.

CSQ0631E

csect-name AMS not started, product is not enabled

Severity

8

Explanation

An attempt by the Advanced Message Security task to register itself using macro IFAEDREG failed.

System action

The Advanced Message Security task cannot start.

System programmer response

Verify that the PARMLIB IFAPRDxx member has been built with the provided AMS product information, then retry.

CSQ0632E

csect-name AMS deregistration failed, reason *reason*

Severity

8

Explanation

An attempt by the Advanced Message Security task to deregister itself using macro IFAEDDRG failed.

System action

The Advanced Message Security task cannot deregister. Processing continues.

System programmer response

Examine the reason returned by the IFAEDDRG macro in conjunction with macro documentation to determine the cause of the failure.

CSQ0633I

csect-name AMS environment variable values:

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security task identifies its environment variables and their values immediately following this message.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0634I

csect-namevariable=value

Severity

0

Explanation

During startup, the Advanced Message Security task issues this message to report an environment variable *variable*, and its value *value*.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0635I

csect-name POLICY refresh complete

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security task has refreshed its policy configuration in response to a **REFRESH** command.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0636I

csect-name POLICY refresh failed

Severity

8

Explanation

An attempt by the Advanced Message Security task to refresh its policy configuration failed.

System action

The policy configuration is not refreshed.

System programmer response

Examine the console for associated error messages to determine the cause of the failure.

CSQ0637I

csect-name KEYRING refresh complete

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security task has refreshed its keyring configuration in response to a **REFRESH** command.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0638E

csect-name KEYRING refresh failed, return code *errno*

Severity

8

Explanation

An attempt by the Advanced Message Security task to refresh its keyring configuration failed for the reason indicated by *errno*.

System action

The keyring configuration is not refreshed.

System programmer response

Examine the console for associated error message to determine the cause of the failure. Use the *errno*, which might represent a System SSL *gsk_status* to further diagnose the problem.

CSQ0639E

csect-name Incorrect **REFRESH** option, specify KEYRING, POLICY or ALL

Severity

8

Explanation

An attempt by the Advanced Message Security task to process a **REFRESH** command failed because the refresh option was not recognized.

System action

The **REFRESH** command is not processed.

System programmer response

Ensure the **REFRESH** option is KEYRING, POLICY or ALL, depending on which option should be refreshed.

CSQ0640E

csect-name AMS not started correctly

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security task has started incorrectly.

System action

The Advanced Message Security task fails to start.

System programmer response

The Advanced Message Security task can only be started internally by IBM MQ.

CSQ0641I

csect-name **REFRESH** command completed successfully

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security task has successfully processed a **REFRESH** command.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0642I

*csect-name***REFRESH** command failed

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security task has failed to successfully process a **REFRESH** command.

System action

The requested **REFRESH** command is not processed.

System programmer response

Examine the console for associated error messages to determine the cause of the problem.

CSQ0648E

csect-name Failed to open AMS key ring, reason *gsk-status*

Severity

8

Explanation

An attempt by the Advanced Message Security task to open its keyring failed for the reason indicated by *gsk-status*.

System action

The AMS keyring is not opened, and the AMS task cannot start.

System programmer response

Examine System SSL documentation related to the `gsk_open_keyring()` call in conjunction with the `gsk-status` code to determine the cause of the failure.

CSQ0649E

csect-name CRL initialization failed

Severity

8

Explanation

An attempt by the Advanced Message Security task to connect to an LDAP server, based on configuration provided in the CRLFILE DD, failed.

System action

The Advanced Message Security task cannot perform Certificate Revocation List (CRL) checking. The behavior of certificate validation is determined by the System SSL environment variable `GSK_CRL_SECURITY_LEVEL`. See System SSL documentation for more information.

System programmer response

Check the configuration provided via the CRLFILE DD in the AMS started task JCL and verify that the configuration details are correct.

CSQ0651E

csect-name Failed to open CRL LDAP, *ldap-name*

Severity

8

Explanation

An attempt by the Advanced Message Security task to open an LDAP directory, *ldap-name*, failed.

System action

The Advanced Message Security task cannot perform Certificate Revocation List (CRL) checking against the named LDAP directory. The behavior of certificate validation is determined by the System SSL environment variable `GSK_CRL_SECURITY_LEVEL`. See System SSL documentation for more information.

System programmer response

Check the configuration provided in the CRLFILE DD in the AMS started task JCL and verify that the configuration details are correct. Verify that the failing directory is available.

CSQ0652I

csect-name CRL checking enabled

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security task has successfully enabled Certificate Revocation List (CRL) checking.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0653I

csect-name CRL checking disabled

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security task has successfully disabled Certificate Revocation List (CRL) checking.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0660E

csect-name Internal version mismatch

Severity

8

Explanation

The Advanced Message Security task has received a request for data protection services with an unrecognized request version value.

System action

The data protection service cannot be provided.

System programmer response

This error implies that a task other than the Advanced Message Security Interceptor is attempting to exploit AMS data protection services. AMS data protection services are only available by using the AMS Interceptor.

CSQ0699I

csect-name AMS shutdown complete

Severity

0

Explanation

The Advanced Message Security task has shutdown.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0996I

csect-name char-diag1, char-diag2, char-diag3, char-diag4, hex-diag1, hex-diag2

Severity

0

Explanation

This message is generated when Advanced Message Security is running in DEBUG mode, as directed by IBM support center, and provides character and hexadecimal diagnostic values to aid in problem resolution.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0997I

csect-name char-diag1, char-diag2, char-diag3, hex-diag1, hex-diag2, hex-diag3

Severity

0

Explanation

This message is generated when Advanced Message Security is running in DEBUG mode, as directed by IBM support center, and provides character and hexadecimal diagnostic values to aid in problem resolution.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0998I

csect-name char-diag1, char-diag2, hex-diag1, hex-diag2, hex-diag3, hex-diag4

Severity

0

Explanation

This message is generated when Advanced Message Security is running in DEBUG mode, as directed by IBM support center, and provides character and hexadecimal diagnostic values to aid in problem resolution.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

CSQ0999I

csect-name char-diag1, hex-diag1, hex-diag2, hex-diag3, hex-diag4, hex-diag5

Severity

0

Explanation

This message is generated when Advanced Message Security is running in DEBUG mode, as directed by IBM support center, and provides character and hexadecimal diagnostic values to aid in problem resolution.

System action

Processing continues.

System programmer response

None.

Service facilities messages (CSQ1...)

The value shown for severity in the service facility messages that follow is the value returned as the job-step condition code from the job-step during which the message is issued. If additional messages having higher severity values are issued during the same job-step, the higher value is reflected as the job-step condition code.

Log services return codes

The return codes set by log services are:

0

Successful completion

4

Exception condition (for example, end of file), not an error.

8

Unsuccessful completion due to parameter errors.

12

Unsuccessful completion. Error encountered during processing of a valid request.

CSQ1000I

csect-name IBM MQ for z/OS Vn

Severity

0

Explanation

This message is issued as the first part of the header to the report issued by the log print utility program.

CSQ1100I

csect-name LOG PRINT UTILITY - *date time*

Severity

0

Explanation

This message is issued as the second part of the header to the report issued by the log print utility program.

CSQ1101I

csect-name UTILITY PROCESSING COMPLETED, RETURN CODE=*rc*

Severity

0

Explanation

The log print utility completed with the return code *rc* indicated. 0 indicates successful completion.

CSQ1102I

SEARCH CRITERIA

Severity

0

Explanation

The search criteria specified for printing the log follow.

CSQ1105I

LOG PRINT UTILITY SUMMARY - *date time*

Severity

0

Explanation

This is issued as a header to the summary data set written by the log print utility.

CSQ1106I

END OF SUMMARY

Severity

0

Explanation

This marks the end of the summary data set written by the log print utility.

CSQ1110E

LIMIT OF 50 STATEMENTS EXCEEDED

Severity

8

Explanation

The limit of 50 input statements allowed by CSQ1LOGP has been exceeded.

System action

Processing is terminated.

System programmer response

Resubmit the job using no more than 50 statements.

CSQ1111E

LIMIT OF 80 TOKENS EXCEEDED

Severity

8

Explanation

The limit of 80 keywords and corresponding value specifications allowed by CSQ1LOGP has been exceeded. A keyword with its value is considered as two tokens.

System action

Processing is terminated.

System programmer response

Resubmit the job using no more than 80 tokens.

CSQ1112E

TOKEN xxx... EXCEEDS 48 CHARACTERS

Severity

8

Explanation

An input statement contains the character string beginning xxx. This string is not valid because it exceeds 48 characters in length.

System action

Processing is terminated.

System programmer response

Resubmit the job with a valid token.

CSQ1113E

INVALID SYNTAX FOR KEYWORD *kwd*

Severity

8

Explanation

An input statement contains the keyword *kwd*. The value specified for this keyword is not valid, because it is not of the form *kwd(value)*.

System action

Processing is terminated.

System programmer response

Resubmit the job with the correct form of the keyword.

CSQ1127E

KEYWORD *kwd* UNKNOWN

Severity

8

Explanation

CSQ1LOGP does not recognize the keyword *kwd*.

System action

Processing is terminated.

System programmer response

Check to make sure all keywords are valid and resubmit the job.

CSQ1128E

END OF LOG RANGE SPECIFIED WITHOUT START

Severity

8

Explanation

You cannot specify the end of a search range (RBAEND or LRSNEND) without specifying a beginning of the search range (RBASTART or LRSNSTART).

System action

Processing is terminated.

System programmer response

Resubmit the job providing an RBASTART or LRSNSTART value to correspond to the RBAEND or LRSNEND value given to specify a valid search range.

CSQ1129E

LIMIT OF 10 *kwd* KEYWORDS EXCEEDED

Severity

8

Explanation

The *kwd* keyword appears too many times in the control statements. The limit is 10.

System action

Processing is terminated.

System programmer response

Resubmit the job providing no more than 10 of these keywords.

CSQ1130E

INVALID VALUE FOR KEYWORD *kwd* NUMBER *n*

Severity

8

Explanation

The value for the *n*th occurrence of keyword *kwd* is invalid because it has invalid characters, it is not one of a list of permitted values, or it is too long.

System action

Processing is terminated.

System programmer response

Resubmit the job providing a correct value specification.

CSQ1131E

INVALID VALUE FOR KEYWORD *kwd*

Severity

8

Explanation

The value for the keyword *kwd* is invalid because it has invalid characters, it is not one of a list of permitted values, or it is too long.

System action

Processing is terminated.

System programmer response

Resubmit the job providing a correct value specification.

CSQ1132E

NO VALUE FOR KEYWORD *kwd* NUMBER *n*

Severity

8

Explanation

The *n*th occurrence of keyword *kwd* is not followed by a value.

System action

Processing is terminated.

System programmer response

Resubmit the job providing a correct value specification.

CSQ1133E

NO VALUE FOR KEYWORD *kwd*

Severity

8

Explanation

The keyword *kwd* is not followed by a value.

System action

Processing is terminated.

System programmer response

Resubmit the job providing a correct value specification.

CSQ1134E

KEYWORD EXTRACT REQUIRES AT LEAST ONE OUTPUT DDNAME

Severity

4

Explanation

The keyword *extract* requires at least one output DDNAME for log records to be extracted.

System action

Processing continues, however, no log records are extracted .

System programmer response

Remove EXTRACT(YES), or alternatively add a DDNAME from the following list: **CSQBACK, CSQCMT, CSQBOTH, CSQINFLT, CSQOBS**. Resubmit the job. For more information see, [The log print utility \(CSQ1LOGP\)](#).

CSQ1135E

KEYWORD *kwd* SPECIFIED MORE THAN ONCE

Severity

8

Explanation

The keyword *kwd* can only be specified once.

System action

Processing is terminated.

System programmer response

Resubmit the job providing only one of these keywords.

CSQ1137I

FIRST PAGE SET CONTROL RECORD AFTER RESTART = *r-rba*

Severity

0

Explanation

r-rba is the log RBA of a record that serves as an implicit indication that a restart occurred just prior to this point.

System action

Processing continues.

CSQ1138E

kwd1 AND *kwd2* CANNOT BOTH BE SPECIFIED

Explanation

kwd1 and *kwd2* cannot both appear in the control statements.

System action

Processing is terminated.

System programmer response

Correct the control statements and rerun the job.

CSQ1139E

SYSSUMRY DD STATEMENT MISSING

Severity

8

Explanation

You requested the SUMMARY option, but did not include the SYSSUMRY DD statement in your JCL.

System action

Processing terminates.

System programmer response

Resubmit the job with a SYSSUMRY DD statement included in the JCL.

CSQ1145E

CURRENT RESTART TIME STAMP OUT OF SEQUENCE - TIME=*date time* LOG RBA=*t-rba*

Severity

4

Explanation

This message indicates that the current log record has a time stamp that is less than the greatest time stamp processed so far. This might be a potential problem.

This message is followed by messages CSQ1147I and CSQ1148I which give the latest time stamp seen.

System action

Processing continues.

System programmer response

Examine the current log to determine whether multiple queue managers are writing to the same log. (Data might be being overwritten.) This might lead to data inconsistencies.

CSQ1146E

CURRENT END CHECKPOINT TIME STAMP OUT OF SEQUENCE - TIME=*date time* LOG RBA=*t-rba*

Severity

4

Explanation

This message indicates that the current log record has a time stamp that is less than the previous time stamp processed. This might be a potential problem.

This message is followed by messages CSQ1147I and CSQ1148I which give the latest time stamp seen.

System action

Processing continues.

System programmer response

Examine the current log to determine whether multiple queue managers are writing to the same log. (Data might be being overwritten.) This might lead to data inconsistencies.

CSQ1147I

LATEST TIME STAMP SEEN SO FAR - TIME=*date time* LOG RBA=*t-rba*

Severity

4

Explanation

This message follows message CSQ1145I or CSQ1146I and gives the latest time stamp seen.

CSQ1148I

MULTIPLE QUEUE MANAGERS MAY BE WRITING TO THE SAME LOG

Severity

4

Explanation

This message follows message CSQ1145I or CSQ1146I to indicate a possible cause of the time stamp problem.

CSQ1150I

SUMMARY OF COMPLETED EVENTS

Severity

0

Explanation

This message heads the summary of completed units of recovery (URs) and checkpoints.

System action

Processing continues.

CSQ1151I

UR CONNID=*cc* THREAD-XREF=*bb* USERID=*aa* TIME=*date time* START=*s-rba* END=*e-rba* DISP=*xx*
INFO=*ii*

Severity

0

Explanation

This message describes a unit of recovery that terminated.

cc

Connection ID (for example, BATCH)

bb

Thread cross-reference ID (for example, JOB xxx)

aa

User ID executing the UR

date time

Starting time of the UR

s-rba

Log RBA of the first log record associated with the UR (that is, the URID)

e-rba

Log RBA of the last log record associated with the UR. If the UR is not complete, *e-rba* is shown as '***'

xx

Disposition of the UR, values include:

- INFLIGHT
- IN BACKOUT
- IN COMMIT
- INDOUBT
- COMMITTED
- BACKED OUT

ii

Status of the data, one of the following:

- COMPLETE, indicating that all page sets modified by this UR have been identified
- PARTIAL, indicating that the list of page sets modified by this UR is incomplete (this is shown if all records associated with a UR are not available, and no checkpoint is found prior to the UR's completion)

If the UR identifying information is not available, it will be shown as '***'.

System action

Processing continues.

CSQ1153I

CHECKPOINT START=*s-rba* END=*e-rba* TIME=*date time*

Severity

0

Explanation

This message describes a complete checkpoint on the log starting at RBA *s-rba* and ending at RBA *e-rba*. If the information is available, CSQ1LOGP also returns the date and time that the checkpoint was completed.

When this message follows message CSQ1157I, it identifies the checkpoint that would be used at restart. If no checkpoint is available, message CSQ1158I is printed instead.

System action

Processing continues.

CSQ1154I

RESTART AT *r-rba* TIME=*date time*

Severity

0

Explanation

A normal restart occurred at log RBA *r-rba*. CSQ1LOGP also returns the date and time of that restart.

System action

Processing continues.

CSQ1155I

CONDITIONAL RESTART AT *r-rba* TIME=*date time*

Severity

0

Explanation

A conditional restart occurred at log RBA *r-rba*. CSQ1LOGP also returns the date and time of that restart.

System action

Processing continues.

CSQ1156I

ALL URS COMPLETE

Severity

0

Explanation

There are no URs outstanding for restart.

System action

Processing continues.

CSQ1157I

RESTART SUMMARY

Severity

0

Explanation

This message heads the summary of the description of work to be performed at restart. Restart information that follows is based on the scope of the log scanned. If you suspect an error in IBM MQ, see [Problem determination on z/OS](#) for information about identifying and reporting the problem.

System action

Processing continues.

CSQ1158I

NO CHECKPOINT AVAILABLE - RESTART SUMMARY INCOMPLETE

Severity

0

Explanation

No checkpoint is available within the scope of the log scanned. The information following this message includes:

- URs that have not completed
- Page sets modified by these URs
- Page sets with writes pending

The information cannot be considered complete.

System action

Processing continues.

CSQ1161E

INVALID URE FOUND AT *x-rba*

Severity

4

Explanation

While processing the SUMMARY option, an invalid URE checkpoint record was encountered in the log.

System action

Processing continues.

System programmer response

If the checkpoint record identified in the message is used to restart the queue manager, the restart will be unsuccessful because it will not be able to process the unit of recovery presented by the invalid RURE.

Look for other messages that indicate the cause of the problem. If you are unable to resolve the problem, contact your IBM support center.

CSQ1162E

INVALID RURE FOUND AT *x-rba*

Severity

4

Explanation

While processing the SUMMARY option, an invalid RURE checkpoint record was encountered in the log.

System action

Processing continues.

System programmer response

If the checkpoint record identified in the message is used to restart the queue manager, the restart will be unsuccessful because it will not be able to process the unit of recovery presented by the invalid RURE.

Look for other messages that indicate the cause of the problem. If you are unable to resolve the problem, contact your IBM support center.

CSQ1163E

NO CHECKPOINT AVAILABLE DUE TO LOG ERROR - RESTART SUMMARY INCOMPLETE

Severity

4

Explanation

A log error was encountered. CSQ1LOGP marked any checkpoints encountered before the log error as invalid. There were no complete checkpoints following the log error in the specified log range. The information following this message includes:

- URs that have not completed
- Page set modified by these URs
- Page sets with writes pending

This information cannot be considered complete.

System action

Processing continues.

CSQ1165E

UR REQUIRES LOG WHICH IS IN ERROR

Severity

0

Explanation

While processing a UR, information was required from the log, but the log was in error, as indicated by previous messages.

System action

Processing continues.

CSQ1166I

INFORMATION INCOMPLETE FOR UR - LOG TRUNCATED AT xx

Severity

0

Explanation

Complete information for the UR is not available within the scope of the log scanned.

System action

Processing continues.

CSQ1209E

END OF LOG RANGE IS LESS THAN START

Severity

8

Explanation

The end log range value (specified by RBAEND or LRSNEND) is less than or equal to the start range value (specified by RBASTART or LRSNSTART).

System action

Processing is terminated.

System programmer response

Resubmit the job providing an RBASTART or LRSNSTART value and a corresponding RBAEND or LRSNEND value to specify a valid search range.

CSQ1210E

LOG READ ERROR RETCODE=*rc* REASON CODE=*reason*

Severity

8

Explanation

An error was detected while attempting to read the log.

System action

Processing is terminated.

CSQ1211E

BAD LOG RBA RETURNED

Severity

8

Explanation

One of the three problems listed in this topic exists:

- The recovery log data set is damaged
- You identified a data set that is not a recovery log data set
- There is a problem with the log print utility

System action

Processing terminates, and a dump is produced.

System programmer response

A common error is to specify the first data set on an archive tape (the Bxxxxxxx data set) as a log data set; it is actually a bootstrap data set (BSDS).

Determine if the problem is your error by dumping the data set and determining if it is a log data set.

CSQ1212I

FIRST LOG RBA ENCOUNTERED = *s-rba*

Severity

0

Explanation

This identifies the RBA of the first log record read.

System action

Processing continues.

CSQ1213I

LAST LOG RBA ENCOUNTERED = *e-rba*

Severity

0

Explanation

This identifies the RBA of the last log record read.

System action

Processing continues.

CSQ1214I

nn LOG RECORDS READ

Severity

0

Explanation

This identifies the number (in decimal) of logical log records read during CSQ1LOGP processing.

System action

Processing continues.

CSQ1215I

NO LOG RECORDS READ

Severity

0

Explanation

CSQ1LOGP read no log records.

Possible explanations are:

- An error has prevented CSQ1LOGP from continuing, therefore no log records have yet been processed (if this is so, an error message should precede this message)
- You specified the active log data sets or archive log data sets out of RBA sequence
- You specified an RBASTART or LRSNSTART value that is greater than any RBA or LRSN in the active and archive data sets available

- You specified a log range using LRSNs, but the queue manager is not in a queue sharing group.

System action

Processing continues.

CSQ1216E

LOG READ ERROR, RETCODE=*rc*, REASON CODE=*reason*, RBA=*x-rba*

Severity

4

Explanation

An error was encountered while attempting to read the log, indicating that either the log has an error in one of the control intervals (CI), or a data set containing the requested RBA cannot be located. The RBA specification in the message indicates where the error was detected and gives the requested RBA. It will point to:

- The start of the CI if there is a problem with the log control interval definition (LCID), or with any of the general control information within a CI
- The log record in the CI if there is a problem with a log record header (LRH)

If this is the first log record read during this execution of the Log Extractor, and if there is a problem with the LCID, the RBA specification will be all zeros.

Before returning any records, the utility checks the control information (LCID) at the end of a CI, and analyzes the LRH to ensure that all records are properly chained together within the CI. If an error is detected while performing this process, CSQ1LOGP will issue this message, before dumping the entire CI. It will not format individual records within the CI, but will, if possible, continue processing by reading the next CI.

System action

Processing continues.

CSQ1217E

RBA RANGE WARNING, RETCODE=*rc*, REASON CODE=*reason*, PRIOR RBA=*p-rba*, CURRENT RBA=*c-rba*

RBA RANGE WARNING, REASON CODE=*reason*, PRIOR RBA=*p-rba*, CURRENT RBA=*c-rba*

Severity

4

Explanation

A gap in the log RBA range has been encountered. PRIOR RBA *p-rba* indicates the last good log RBA prior to the gap. CURRENT RBA *c-rba* indicates the log record following the gap, and will be formatted following this message.

System action

Processing continues.

CSQ1218I

nn LOG ERROR MESSAGES

Severity

0

Explanation

CSQ1LOGP distinguishes three classes of errors:

- Code problems existing in the MQ or system code used for CSQ1LOGP. In such cases, abnormal termination with a user completion code of U0153 occurs.

- Incorrect invocation of CSQ1LOGP caused, perhaps, by your having used an incorrect keyword or missed a DD statement. Under these circumstances, CSQ1LOGP issues appropriate error messages, and the program is terminated.
- An error in a particular log CI under the scrutiny of CSQ1LOGP. Such scrutiny is performed before any of the records within the CI are processed. This is an indication of logical damage, and error messages are issued by the utility. The CI or log record in error is printed, and CSQ1LOGP continues to the next CI or log record.

The count *nn* provided summarizes the number (in decimal) of errors CSQ1LOGP detected while accessing the log.

System action

Processing continues.

CSQ1219I

LOG RECORDS CONTAIN *n* BYTE RBA - QSG(*in-qsg*)

Severity

0

Explanation

This message is issued by CSQ1LOGP to indicate the format of the log records being processed, and whether the queue manager was a member of a queue sharing group (QSG). The message is issued before any log records are printed, and whenever the format of the log records change.

The value of *n* identifies the log RBA format of the log records being processed, and can be either 6 or 8.

The value of *in-qsg* identifies whether the log records were written by a queue manager that was a member of a QSG, and can be one of the following values:

YES

The log records were written by a queue manager that was a member of a QSG

NO

The log records were written by a queue manager that was not a member of a QSG

System action

Processing continues

CSQ1220E

ARCHIVE LOG TRUNCATED AT *xxxx* - INVALID LOG RECORDS READ

Severity

4

Explanation

At a restart of the queue manager, an archive log was truncated. This archive log data set could not be physically altered to reflect this truncation, and invalid log records therefore still exist. CSQ1LOGP has already reported this information in the summary report, and cannot retract it. Nor can it disregard the invalid log information already read in order adequately to summarize what has occurred. Therefore, all information up to this point in the log will be summarized, and a new summary report initiated. Consequently, the same UR might be reported twice with different dispositions and different page sets modified.

System action

Processing continues.

System programmer response

To avoid this condition, use the BSDS DD statement instead of the ARCHIVE DD statement.

CSQ1221E

VSAM ERROR, RETCODE=*rc*, REASON CODE=*reason*, VSAM RETURN CODE=*aaaa*, ERROR CODE=*bbbb*

Severity

8

Explanation

A VSAM error was encountered while attempting to read the log.

System action

Processing continues.

CSQ1222E

LOG ALLOCATION ERROR, RETCODE=*rc*, REASON CODE=*reason*, DYNALLOC INFO CODE=*aaaa*,
ERROR CODE=*bbbb*

Severity

8

Explanation

An error occurred while dynamically allocating a log data set.

System action

Processing terminates.

CSQ1223E

JFCB READ ERROR, RETCODE=*rc*, REASON CODE=*reason*, RDJFCB RETURN CODE=*aaaa*

Severity

8

Explanation

An error occurred while trying to read the job file control block.

System action

Processing continues.

CSQ1224I

INFORMATION INCOMPLETE FOR LOG RECORD, CURRENT RBA=*c-rba*, CURRENT URID=*c-urid*

Severity

0

Explanation

Incomplete information for the log record was found within the scope of the logs scanned. An end of log condition was encountered before all segments of a spanned record could be found. CURRENT RBA *c-rba* indicates the log RBA of the record in question. CURRENT URID *c-urid* indicates the UR to which the spanned log record is related. If there is no URID associated with the log record (for instance, a checkpoint record), then this will show zeros.

System action

Processing continues.

System programmer response

If complete information for the identified log record is required, extend the RBA range to be processed until the required log data is available.

CSQ1271I

START OF LOG RANGE SET TO LRSN=*s-lrsn*

Severity

0

Explanation

The LRSN value you specified for the start of the log range is less than the lowest possible LRSN value, which is *s-lrsn*.

System action

Processing continues, using an LRSNSTART value of *s-lrsn*.

CSQ1272I

FIRST LOG LRSN ENCOUNTERED = *s-lrsn*

Severity

0

Explanation

This identifies the LRSN of the first log record read.

System action

Processing continues.

CSQ1273I

LAST LOG LRSN ENCOUNTERED = *e-lrsn*

Severity

0

Explanation

This identifies the LRSN of the last log record read.

System action

Processing continues.

CSQ1275I

LRSN RANGE CAN BE USED ONLY WITH A QUEUE SHARING GROUP

Severity

0

Explanation

You specified a log range using LRSNs, but CSQ1LOGP read no log records. This could be because the queue manager is not in a queue sharing group, in which case you cannot use LRSN specifications.

System action

Processing continues.

System programmer response

If the queue manager is not in a queue sharing group, rerun the job using RBA specifications for the log range.

CSQ1276E

LOG READ ERROR, RETCODE=*rc*, REASON CODE=*reason*, LRSN=*x-lrsn*

Severity

4

Explanation

An error was encountered while attempting to read the log, indicating that either the log has an error in one of the control intervals (CI), or a data set containing the requested LRSN cannot be located. The

LRSN specification in the message indicates where the error was detected and gives the requested LRSN. It will point to:

- The start of the CI if there is a problem with the log control interval definition (LCID), or with any of the general control information within a CI
- The log record in the CI if there is a problem with a log record header (LRH)

If this is the first log record read during this execution of the Log Extractor, and if there is a problem with the LCID, the LRSN specification will be all zeros.

Before returning any records, the utility checks the control information (LCID) at the end of a CI, and analyzes the LRH to ensure that all records are properly chained together within the CI. If an error is detected while performing this process, CSQ1LOGP will issue this message, before dumping the entire CI. It will not format individual records within the CI, but will, if possible, continue processing by reading the next CI.

System action

Processing continues.

CSQ1277E

LRSN RANGE WARNING, RETCODE=*rc*, REASON CODE=*reason*, PRIOR LRSN=*p-lrsn*, CURRENT LRSN=*c-lrsn*

Severity

4

Explanation

A gap in the log LRSN range has been encountered. The PRIOR LRSN specification indicates the last good log LRSN prior to the gap. The CURRENT LRSN specification indicates the log record following the gap, and will be formatted following this message.

System action

Processing continues.

IBM MQ-IMS bridge Messages (CSQ2...)

CSQ2001I

csect-name OTMA REJECTED MESSAGE - APPLICATION ERROR, SENSE CODE=*code*, XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname* TPIPE=*tpipename*

Explanation

Because of an application error, the IBM MQ-IMS bridge received a negative acknowledgment (NAK) from OTMA when sending a message. The information provided in the message is:

gname

The XCF group to which the partner belongs.

mname

The member name of the partner.

tpipename

The name of the Tpipe used by the partner.

code

The IMS sense code returned by the partner (the first four characters are the sense code).

System action

The message is put to the dead-letter queue, and processing continues.

System programmer response

For information about the sense code from IMS, see the [IMS product documentation](#).

CSQ2002E

csect-name OTMA CLIENT BID REJECTED, XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname*, SENSE CODE=*code*

Explanation

An OTMA client bid command from the IBM MQ-IMS bridge was rejected. *code* is the associated IMS sense code. *gname* and *mname* identify the partner IMS system to which the command was directed.

System action

No connection is made to the IMS system. Connections to other OTMA partners are unaffected.

System programmer response

For information about IMS-OTMA sense codes, see [OTMA sense codes for NAK messages](#).

CSQ2003E

csect-name OTMA REJECTED MESSAGE - SYSTEM ERROR, SENSE CODE=*code*, XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname* TPIPE=*tpipename*

Explanation

Because of a system-related error, the IBM MQ-IMS bridge received a negative acknowledgment (NAK) from OTMA when sending a message. The information provided in the message is:

gname

The XCF group to which the partner belongs.

mname

The member name of the partner.

tpipename

The name of the Tpipe used by the partner.

code

The IMS sense code returned by the partner (the first four characters are the sense code).

System action

If the problem was caused by an environmental error, the IMS bridge returns the message to the queue. Depending on the error described by the sense code, the message send is retried or the queue is closed.

If a severe error occurred, the message is returned to the queue, and the IMS bridge ends abnormally with completion code X'5C6' and reason code X'00F20059'.

System programmer response

For information about IMS-OTMA sense codes, see [OTMA sense codes for NAK messages](#).

CSQ2004E

csect-name ERROR USING QUEUE *q-name*, MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Explanation

The IBM MQ-IMS bridge was unable to open, close, get from, put to, or inquire about a queue.

If *csect-name* is CSQ2QCP0, the problem was with the message queue associated with IMS or the reply-to queue. If *csect-name* is CSQ2QCP1, the problem was with the reply-to queue. If *csect-name* is CSQ2PUTD, the problem was with the dead-letter queue.

If CSQ2PUTD fails to put a message in the dead-letter queue for some reason, the process which gets messages from the IMS bridge queue ends, and is only restarted by disabling and re-enabling the IMS Bridge queue, or by restarting the queue-manager.

If the reason code received is 2042, it is because the IBM MQ-IMS bridge requires exclusive input access (MQOO_INPUT_EXCLUSIVE) to the bridge queue if it is defined with QSGDISP(QMGR), or if it is defined with QSGDISP(SHARED) together with the NOSHARE option.

System action

If the problem was caused by an environmental error, processing continues.

If a severe error occurred, the IMS bridge ends abnormally with completion code X'5C6' and a reason code which shows the particular error.

System programmer response

Refer to “API 完了コードと理由コード” on page 1123 for information about *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

If *csect-name* is CSQ2PUTD, disable and re-enable the IMS bridge queue, and if that does not work, restart the queue-manager.

CSQ2005I

csect-name ERROR PROCESSING MESSAGE, FEEDBACK=*code*, XCFGNAME=*gname*
XCFMNAME=*mname* TPIPE=*tpipename*

Explanation

The IBM MQ-IMS bridge encountered an error while processing a message. *code* is the associated feedback code that will be set in the message descriptor. The information provided in the message is:

gname

The XCF group to which the partner belongs.

mname

The member name of the partner.

tpipename

The name of the Tpipe used by the partner.

code

The IMS sense code returned by the partner.

If there is a loop of CSQ2005I messages causing FEEDBACK=292, see if there is a:

- Looping application that is putting badly-formed messages.
- Queue, for example the dead letter queue (DEADQ), that is not intended to be read by the IMS Bridge, but is using a STGCLASS with non-blank XCFGNAME and XCFMNAME parameters.

System action

The message is not processed.

System programmer response

code is one of the following:

291 (MQFB_DATA_LENGTH_ZERO)

A segment length field was zero in the application data of the message.

292 (MQFB_DATA_LENGTH_NEGATIVE)

A segment length field was negative in the application data of the message.

293 (MQFB_DATA_LENGTH_TOO_BIG)

A segment length field was too big in the application data of the message.

294 (MQFB_BUFFER_OVERFLOW)

The value of one of the length fields would overflow the MQ message buffer.

295 (MQFB_LENGTH_OFF_BY_ONE)

The length field was one byte too short.

296 (MQFB_IIH_ERROR)

The MQMD specified MQFMT_IMS, but the message does not begin with a valid MQIIH structure.

298 (MQFB_NOT_AUTHORIZED_FOR_IMS)

The user ID specified in the MQMD was denied access.

299 (MQFB_DATA_LENGTH_TOO_SHORT)

A segment length field was too short in the application data of the message.

3xx

IMS sense code xx (where xx is the decimal representation of the IMS sense code). For information about IMS-OTMA sense codes, see [OTMA sense codes for NAK messages](#).

CSQ2006I

csect-name DEAD-LETTER QUEUE UNAVAILABLE, MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

Explanation

The IBM MQ-IMS bridge was unable to put a message to the dead-letter queue.

System action

If the message was being sent to IMS, it will be retained on the local IMS queue, and the queue will be disabled. If the message was coming from IMS, a NAK will be sent to IMS so that IMS will retain it and stop sending messages on the Tpipe.

System programmer response

If *mqrc* is 0, there is no dead-letter queue defined; you are strongly recommended not to use the IBM MQ-IMS bridge unless you have a dead-letter queue defined. Otherwise, there is a problem obtaining the name of the queue from the queue manager; refer to “[API 完了コードと理由コード](#)” on page 1123 for information about *mqrc* (*mqrc-text* provides the MQRC in textual form).

CSQ2007I

csect-name PROCESSING HAS STOPPED FOR IMS BRIDGE QUEUE *q-name*, XCFGNAME=*gname*
XCFMNAME=*mname* TPIPE=*tpipename*

Explanation

This message follows message CSQ2004E, for *csect name* CSQ2PUTD failing to put a message in the dead-letter queue. The process which gets messages from the IMS bridge queue ends. The information provided in the message is:

q-name

The name of the IMS bridge queue.

gname

The XCF group to which the partner belongs.

mname

The member name of the partner

tpipename

The name of the Tpipe used by the partner

System action

Messages on this queue are no longer processed by the IMS bridge on this member.

System programmer response

To resume processing, GET-disable, and re-enable the IMS bridge queue or restart the Tpipe for the queue.

CSQ2009I

csect-name PREREQUISITE PRODUCTS FOR IMS BRIDGE NOT AVAILABLE

Explanation

The IBM MQ-IMS bridge cannot operate because:

- The version of z/OS being used is not correct
- The version of IMS being used is not correct
- OTMA support has not been enabled on IMS.
- An incorrect version of the system parameter module (CSQZPARM) is being used.

System action

The MQ-IMS bridge does not start.

System programmer response

Refer to [Planning your IBM MQ environment on z/OS](#) for information about what product levels are required.

If required, recompile CSQZPARM with the correct libraries.

CSQ2010I

csect-name CONNECTED TO PARTNER, XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname*

Explanation

The MQ-IMS bridge successfully established a connection to the partner IMS system identified by *gname* and *mname*.

System action

Processing continues; messages can be sent to the partner.

CSQ2011I

csect-name DISCONNECTED FROM PARTNER, XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname*

Explanation

The partner IMS system identified by *gname* and *mname* is no longer available, and the connection from the IBM MQ-IMS bridge has ended.

System action

Processing continues; messages can no longer be sent to the partner.

CSQ2012I

csect-name NO UTOKEN SECURITY REQUESTED FOR IMS SIGNON, XCFGNAME=*gname*
XCFMNAME=*mname*

Explanation

The IBM MQ-IMS bridge signed-on to the partner IMS system identified by *gname* and *mname*. No UTOKEN security was requested for this session.

System action

Processing continues.

CSQ2013E

csect-name NOT AUTHORIZED FOR IMS SIGNON, XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname*

Explanation

The IBM MQ-IMS bridge tried to sign on to the partner IMS system identified by *gname* and *mname*. However, the queue manager not authorized to establish a connection to this IMS system.

System action

No connection is made to the IMS system. Connections to other OTMA partners are unaffected.

CSQ2015I

csect-name IMS BRIDGE ALREADY SUSPENDED, XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname*

Explanation

A SUSPEND QMGR FACILITY(IMSBRIDGE) command was issued, but the IBM MQ-IMS bridge to the partner IMS system identified by *gname* and *mname* is already suspended.

System action

None.

CSQ2016I

csect-name IMS BRIDGE NOT SUSPENDED, XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname*

Explanation

A RESUME QMGR FACILITY(IMSBRIDGE) command was issued, but the IBM MQ-IMS bridge to the partner IMS system identified by *gname* and *mname* is not suspended.

System action

None.

CSQ2020E

csect-name RESYNCHRONIZATION ERROR

Explanation

A resynchronization error has occurred. The information provided by this message is:

```

IN TPIPE tpipename FOR QUEUE q-name, BY PARTNER, XCFGNAME=gname XCFMNAME=mname,
QMGR SEND=sendseq PARTNER RECEIVE=otmarecvseq, QMGR RECEIVE=rcvseq
PARTNER SEND=otmasendseq, INDOUBT UNIT OF RECOVERY urid

```

where:

tpipename

The name of the Tpipe which cannot be resynchronized

q-name

The name of the queue for this Tpipe

gname

The name of the XCF group to which the Tpipe belongs

mname

The name of the XCF member to which the Tpipe belongs

sendseq

The recoverable sequence number of the message last sent by IBM MQ to the partner, in hexadecimal

otmasendseq

The recoverable sequence number of the message last sent by the partner to IBM MQ, in hexadecimal

rcvseq

The recoverable sequence number of the message last received by IBM MQ from the partner, in hexadecimal

otmarecvseq

The recoverable sequence number of the message last received by the partner from IBM MQ, in hexadecimal

urid

The identifier of an in-doubt unit of recovery; a value of 0 means that there is no in-doubt unit of recovery.

System action

No messages are sent on the Tpipe.

System programmer response

Use the RESET TPIPE command to reset recoverable sequence numbers, to restart the Tpipe, and, if required, to resolve the unit of recovery.

CSQ2023E

csect-name PARTNER, XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname*, CANNOT RESYNCHRONIZE, SENSE CODE=*code*

Explanation

IBM MQ was unable to resynchronize with the partner. The information provided in the message is:

gname

The name of the XCF group to which the partner belongs.

mname

The member name of the partner who cannot resynchronize.

code

The IMS sense code returned by the partner (the first four characters are the sense code).

System action

The connection to OTMA is stopped

System programmer response

For information about IMS-OTMA sense codes, see [OTMA sense codes for NAK messages](#). Resolve the problem and restart the OTMA connection.

CSQ2024E

csect-name TPIPE *tpipename* IS UNKNOWN TO PARTNER, XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname*

Explanation

The Tpipe name was unknown to the partner. The information provided in the message is:

tpipename

The name of the Tpipe which the partner no longer recognizes.

gname

The XCF group to which the partner belongs.

mname

The member name of the partner who is resynchronizing

System action

The associated unit of recovery is backed out and processing continues.

System programmer response

If the partner IMS system has been cold started then this message can be considered normal. If the IMS system has not been cold started consider this message as an alert and investigate the partner IMS system.

CSQ2025E

csect-name PARTNER, XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname*, CANNOT RESYNCHRONIZE TPIPE *tpipename*, SENSE CODE=*code*

Explanation

The partner was unable to resynchronize the Tpipe. The information provided in the message is:

gname

The XCF group to which the partner belongs.

mname

The member name of the partner who is resynchronizing.

tpipename

The name of the Tpipe which the partner cannot resynchronize.

code

The IMS sense code returned by the partner.

System action

The Tpipe is stopped.

System programmer response

See [OTMA sense codes for NAK messages](#) for information about the sense code from IMS. Resolve the problem and restart or reset the Tpipe.

CSQ2026I

csect-name PARTNER, XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname*, HAS COLD-STARTED TPIPE
tpipename

Explanation

The partner has cold started a Tpipe. The information provided in the message is:

gname

The XCF group of which the partner is a member.

mname

The member name of the partner who is resynchronizing.

tpipename

The name of the Tpipe which the partner has cold started.

System action

All recoverable sequence numbers are reset to 1, and processing continues.

System programmer response

None.

CSQ2027I

csect-name TPIPE *tpipename* FOR PARTNER, XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname*, DOES NOT
HAVE AN INDOUBT UNIT OF RECOVERY

Explanation

MQ expected a Tpipe to have an in-doubt unit of recovery. The information provided by the message is:

tpipename

The name of the Tpipe for which there should be a unit of recovery still in doubt

gname

The XCF group to which the partner belongs.

mname

The member name of the partner for the Tpipe.

System action

Processing continues.

System programmer response

Collect the following items, and contact your IBM support center.

- Console log
- MQ job log
- IMS job log

CSQ2028I

csect-name QUEUE MANAGER IS NOT CONNECTED TO PARTNER, XCFGNAME=*gname*
XCFMNAME=*mname*

Explanation

MQ is not connected to the partner. The information provided in the message is:

gname

The group name of the partner.

mname

The member name of the partner.

System action

The command is rejected.

System programmer response

Resubmit the command using the correct XCF group name when IBM MQ is connected to the partner.

CSQ2029I

csect-name TPIPE *tpipename* NOT FOUND FOR PARTNER, XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname*

Explanation

The Tpipe could not be found. The information provided in this message is:

tpipename

The name of the Tpipe which could not be found.

gname

The XCF group of which the partner is a member.

mname

The member name of the partner for the Tpipe.

System action

The command is rejected.

System programmer response

Resubmit the RESET TPIPE command with the correct Tpipe name.

CSQ2030I

csect-name TPIPE *tpipename* IS STILL OPEN FOR PARTNER, XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname*

Explanation

The Tpipe is still open. The information provided by this message is:

tpipename

The name of the Tpipe which is still open.

gname

The XCF group name.

mname

The member name of the partner for the Tpipe.

System action

The command is rejected.

System programmer response

The most likely cause of this message is that the RESET TPIPE command was issued with an incorrect Tpipe name or that the command was issued on the wrong queue manager in a queue sharing group. Resubmit the RESET TPIPE command with the correct Tpipe name.

CSQ2031I

csect-name TPIPE *tpipename* FOR PARTNER, XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname*, ACTION REQUIRED FOR INDOUBT UNIT OF RECOVERY

Explanation

A Tpipe has an in-doubt unit of recovery, but no recovery action was specified. The information provided by the message is:

tpipename

The name of the Tpipe which has a unit of recovery still in doubt

gname

The XCF group to which the partner belongs.

mname

The member name of the partner for the Tpipe.

System action

Processing continues.

System programmer response

Resubmit the RESET TPIPE command specifying an action (COMMIT or BACKOUT) for the in-doubt unit of recovery.

CSQ2040I

csect-name OTMA MESSAGE FLOOD STATUS=WARNING FOR PARTNER, XCFGNAME=*gname*
XCFMNAME=*mname*

Severity

4

Explanation

This message is issued by the IBM MQ-IMS bridge in response to a notification from the partner IMS system, identified by *gname* and *mname*, that an OTMA message flood warning condition exists.

This message indicates that the IMS partner is currently unable to process the volume of transaction requests being sent to it via the IBM MQ-IMS bridge.

System action

Processing continues but the IBM MQ-IMS bridge will slow down the rate at which transaction requests are sent to allow the partner IMS system to process the accumulated backlog.

System programmer response

Review the status of the partner IMS system to determine if any action is required. You can use the **/DISPLAY OTMA** and **/DISPLAY TMEMBER** commands to do this.

Perform a check on the partner IMS system to determine if the message DFS1988W has been issued, identifying the severity of the warning condition.

CSQ2041I

csect-name OTMA MESSAGE FLOOD STATUS=FLOODED FOR PARTNER, XCFGNAME=*gname*
XCFMNAME=*mname*

Severity

8

Explanation

This message is issued by the IBM MQ-IMS bridge in response to a notification from the partner IMS system, identified by *gname* and *mname*, that an OTMA message flood condition exists.

This indicates that the IMS partner is currently unable to process the volume of transaction requests being sent to it through the IBM MQ-IMS bridge. No further requests can be sent until the flood condition in IMS has been relieved.

System action

All TPIPEs to the identified partner IMS system are suspended until a notification is received from IMS indicating that the flood condition has been relieved.

Messages can still be put to any IBM MQ-IMS bridge queue with a storage class specifying the identified IMS partner but will remain there until the TPIPES can be resumed.

IBM MQ-IMS bridge queues for other IMS partners are unaffected.

System programmer response

Review the status of the partner IMS system and determine what action is required to relieve the IMS flood condition. You can use the **/DISPLAY OTMA** and **/DISPLAY TMEMBER** commands to do this.

Perform a check on the partner IMS system to determine if the message DFS1989E has been issued, identifying the flood condition.

CSQ2042I

csect-name OTMA MESSAGE FLOOD RELIEVED FOR PARTNER, XCFGNAME=*gname*
XCFMNAME=*mname*

Severity

0

Explanation

This message is issued by the IBM MQ-IMS bridge in response to a notification from the partner IMS system, identified by *gname* and *mname*, that an OTMA message flood, or flood warning, condition no longer exists.

System action

If this message follows CSQ2041I, all TPIPEs to the identified partner IMS system that were suspended in response to the flood condition are resumed. The IBM MQ-IMS bridge will gradually increase the rate at which transaction requests are sent until the maximum rate is achieved, or a subsequent flood condition is reported by the partner IMS system.

System programmer response

None required.

Subsystem support messages (CSQ3...)

CSQ3001E

csect-name - ABNORMAL DISCONNECT FROM SUBSYSTEM INTERFACE

Explanation

An online routine was still supporting SSI calls (IEFSSREQ) even though the queue manager had nearly completed termination or was no longer executing. This occurs with *csect-name* CSQ3RS00 or CSQ3RS0X when the queue manager address space has reached end-of-memory and neither normal termination nor online error recovery routines have successfully completed termination of the queue manager. This occurs with *csect-name* CSQ3SSTM when this condition is discovered during online termination.

System action

The connection is terminated. All IEFSSREQ requests are handled by the IBM MQ early processing program until the queue manager is restarted. An SVC dump is requested.

CSQ3002I

INDOUBT RECOVERY BY *connection-name* STILL IN PROGRESS

Explanation

There might be IBM MQ units of recovery (URs), related to an identified subsystem (*connection-name*), still in doubt after restart synchronization has taken place. (Indoubt URs are those for which commit has been voted by IBM MQ but which have not yet been acknowledged by *connection-name*.)

This message might appear if the *connection-name* subsystem has begun to do new work before having resolved all in-doubt URs. The *connection-name* subsystem is still in the process of resolving the in-doubt URs.

System action

Resources held (locked) by these in-doubt URs are unavailable to any other work units until their status is resolved.

System programmer response

The system programmer or system administrator must determine the correct recovery action to resolve the in-doubt situations. This involves either ensure-commit or backout decisions for all in-doubt URs.

The DISPLAY THREAD command should be used to see the URs still in doubt. It will normally show that all in-doubt URs have now been resolved. If not, the RESOLVE INDOUBT command should be used to resolve the in-doubt URs and to release the resources they hold.

CSQ3004E

SSI DESCRIPTOR GET FAILURE, RC=*rc* REASON=*reason*

Explanation

An internal error has occurred during initialization or termination.

System action

The queue manager terminates.

System programmer response

Ensure that all maintenance has been applied to the IBM MQ program libraries, and then restart the queue manager.

CSQ3006E

'*rmid*' SSI FUNCTION WAS ALREADY ACTIVE WHEN ACTIVATE WAS ATTEMPTED

Explanation

An initialization sequence error has occurred.

System action

The queue manager terminates.

System programmer response

Ensure that all maintenance has been applied to the IBM MQ program libraries, and then restart the queue manager.

CSQ3007E

'*rmid*' SSI FUNCTION WAS ALREADY INACTIVE WHEN DEACTIVATE WAS ATTEMPTED

Explanation

A termination sequence error has occurred.

System action

Termination continues.

System programmer response

Ensure that all maintenance has been applied to the IBM MQ program libraries.

CSQ3008E

csect-name - ABNORMAL DISCONNECT FOR PROGRAM REQUEST HANDLER(S)

Explanation

One or more resource managers are still supporting application program calls through their program request handler, even though the queue manager had almost completed termination, or was no longer executing. This occurs when the queue manager address space has gone to end of memory and neither normal termination nor online error recovery routines have successfully completed termination.

System action

The connection is terminated. All application program support requests are rejected with an indication that the queue manager is not active. An SVC dump is requested.

System programmer response

If the problem persists, collect the following items, and contact your IBM support center:

- System dump
- Printout of SYS1.LOGREC

CSQ3009E

error-info

Explanation

An internal error has occurred in RRS exit processing. The message contains error information that will be needed to resolve the problem.

System action

Processing continues, but RRS coordination is no longer available to the queue manager. It will probably be necessary to restart the queue manager or RRS.

CSQ3011I

csect-name Coordinator RRS is cold-starting and has lost its log. In-doubt IBM MQ threads need manual resolution

Explanation

IBM MQ has participant responsibility for in-doubt threads. RRS, the commit coordinator, has informed the queue manager that it lost all knowledge of IBM MQ in-doubt threads. The in-doubt threads at this queue manager must be manually resolved with the RESOLVE INDOUBT command.

System action

Processing continues.

System programmer response

A list of in-doubt threads where RRS is the coordinator can be displayed using the DISPLAY THREAD command for in-doubt type threads by specifying RRSBATCH as the connection name.

The decision to commit or back out the logical unit of work should be coordinated with any other participant RRS Recoverable Resource Managers. The existence of other participants might not be easy to determine. The information might be available in the RRS recovery log even though information has been lost.

At this queue manager, all in-doubt threads coordinated by RRS must be resolved with the RESOLVE INDOUBT command. Locked data remains unavailable until resolution. Threads that were already resolved with this command are discarded. Threads not yet resolved are discarded after resolution with the command.

The commit or back out decision provided using the RESOLVE INDOUBT command for a logical unit of work is propagated to all downstream participants, if any.

CSQ3013I

csect-name Queue manager was restarted on the wrong system so cannot connect to RRS. There are unresolved URs where IBM MQ is a participant

Explanation

The queue manager has one or more in-doubt threads and is unable to connect to RRS to resolve these in-doubt units of recovery (URs).

System action

Processing continues.

CSQ3014I

csect-name In-doubt RRS URID=*rrs-urid* is unknown to IBM MQ. URID recorded for IBM MQ by RRS=*mq-urid*

Explanation

The queue manager is restarting with RRS where IBM MQ is a participant and RRS is the coordinator. RRS has a unit of recovery (UR) that the queue manager should be a participant in, but it has no knowledge of the RRS unit of recovery, with an ID of *rrs-urid*. RRS has recorded the IBM MQ URID as *mq-urid*.

System action

Restart with RRS continues.

System programmer response

This message might indicate a problem in IBM MQ or RRS, or it might be produced because of one of the following prior actions:

- A conditional restart was performed that resulted in the loss of part or all of the IBM MQ log. This conditional restart might have happened at any time in the past.
- The RESOLVE INDOUBT command was used to resolve the IBM MQ UR with ID *mq-urid*.

If one of these occurred, the message can be ignored. If neither occurred, there might be a problem in IBM MQ or RRS.

If the *mq-urid* appears to be a valid log RBA, use the log print utility (CSQ1LOGP) with the SUMMARY option and URID options using the *mq-urid* value. If this finds the UR, the disposition will indicate whether it was committed or backed out. If possible, use the RRS ISPF interface to commit or back out the RRS URID so that they match.

If you suspect an error in IBM MQ, collect the items listed in the Problem Determination section and contact your IBM support center.

CSQ3016I

csect-name RRS has lost data from its log

Explanation

The queue manager is restarting with RRS and RRS has lost some portion of its log.

System action

Restart with RRS continues.

System programmer response

IBM MQ might not be able to resolve in-doubt units of recovery successfully with RRS because of the loss of RRS log data.

CSQ3017I

csect-name RRS function *call-name* failed, RC=*rc*

Explanation

During queue manager restart, the RRS function specified by *call-name* issued a return code *rc* indicating a failure.

System action

Processing continues, but RRS functions will not be available. For example, connections using the RRS adapter will not be allowed, and queue sharing group facilities will not work.

System programmer response

Investigate the RRS return code from the function specified and resolve the problem. Then restart the queue manager.

CSQ3018I

csect-name RRS function synchronization complete

Explanation

The queue manager has completed synchronization processing with RRS, and RRS functions are available.

System action

None.

System programmer response

None.

CSQ3100I

csect-name - SUBSYSTEM *ssnm* READY FOR START COMMAND

Explanation

The queue manager has terminated, and can be restarted when required.

CSQ3101E

csect-name - INVALID EARLY PROCESSING PARAMETER

Explanation

The z/OS command SETSSI ADD or the subsystem definition record in the IEFSSNxx member of SYS1.PARMLIB for the IBM MQ subsystem specified the early processing initialization parameter incorrectly. The name must be CSQ3EPX.

The failing subsystem name is provided in message IEF759I, which follows this message.

System action

The IBM MQ subsystem with the indicated name is not available.

System programmer response

Correct the parameter fields in the record of SYS1.PARMLIB member IEFSSNxx. For information about the parameters, see [Update SYS1.PARMLIB members](#).

CSQ3102E

csect-name - INVALID COMMAND PREFIX

Explanation

The z/OS command SETSSI ADD or the subsystem definition record in the IEFSSNxx member of SYS1.PARMLIB for the IBM MQ subsystem specified the command prefix initialization parameter incorrectly.

The failing subsystem name is provided in message IEF759I, which follows this message.

System action

The IBM MQ subsystem with the indicated name is not available.

System programmer response

Correct the parameter fields in the record of SYS1.PARMLIB member IEFSSNxx. For information about the parameters, see [Update SYS1.PARMLIB members](#).

CSQ3104I

csect-name - TERMINATION COMPLETE

Explanation

The queue manager has terminated. The actual z/OS termination of the queue manager address spaces might have completed earlier. This message is presented for every termination, normal or abnormal.

CSQ3105E

csect-name - UNABLE TO LOAD EARLY PROCESSING PROGRAM 'CSQ3EPX'. *ssnm* IS NOT AVAILABLE

Explanation

Subsystem initialization or early processing refreshing for the IBM MQ subsystem failed because the initialization program (CSQ3INI) could not locate the early processing program (CSQ3EPX).

For subsystem initialization, the program must be either in the linkpack area (LPA) or in a library which is in the link list. For early processing refreshing, the program must be in the LPA.

System action

Subsystem initialization or early processing refreshing ends abnormally. IBM MQ subsystem *ssnm* is not available.

CSQ3106E

csect-name - QUEUE MANAGER STOPPED. COMMAND NOT PROCESSED - *command-text*

Explanation

A command was received which cannot be processed due to one of the following:

- The queue manager has not been started (this could be because the START QMGR command was not entered correctly)
- The command was queued for processing while the queue manager was starting, but startup terminated with an error
- The queue manager terminated before the command could be processed

System action

The command is not processed.

CSQ3107E

csect-name - COMMAND REJECTED. REQUESTER NOT AUTHORIZED

Explanation

A command was received from a console that does not have the correct authority.

System action

The command is not processed. This message is sent to the console that entered the command.

System programmer response

Verify that this console should be used for entering IBM MQ commands. If so, authorize it for IBM MQ commands by using z/OS services.

Note: If IBM MQ security is not activated, this check is still performed. This authorization is the z/OS console authority, and is not related to the external security manager. The user ID that entered the IBM MQ command must have OPERPARM AUTH with SYS, ALL, or MASTER console authority.

CSQ3108E

csect-name - COMMAND REJECTED. COMMAND FACILITY PATH UNAVAILABLE

Explanation

A command was received, but the path from z/OS consoles to the IBM MQ command processor is unavailable. It might still be possible to enter commands in other ways. You can also receive this message if the early code for the queue manager was being refreshed when the command was issued.

System action

The command is not processed. This message is delivered to the console that entered the command.

System programmer response

The console command facility is available again the next time the queue manager is started.

If the command was rejected because the early code for the queue manager was being refreshed when you issued it, wait until message CSQ3110I is issued to indicate that the early code has successfully refreshed before you issue the command again.

CSQ3109E

csect-name - UNABLE TO OBTAIN SUBSYSTEM AFFINITY TABLE INDEX FOR SUBSYSTEM *ssnm*.
IEFSSREQ RC=*nn*

Explanation

IBM MQ was unable to obtain a subsystem affinity table index for the named subsystem. z/OS did not recognize the named subsystem name as a known subsystem. If this message is issued, a serious error has occurred in z/OS or IBM MQ.

In the message, *nn* is the return code from the IEFSSREQ z/OS service. *ssnm* is the name of the IBM MQ subsystem undergoing IPL-time initialization.

System action

IBM MQ ends abnormally with completion code X'5C6' and reason code X'00F30104'. The IBM MQ subsystem with the indicated name is not available for this IPL of z/OS.

System programmer response

Try to perform an IPL of the z/OS system. If the problem persists, see [Problem determination on z/OS](#) for information about identifying and reporting the problem.

CSQ3110I

csect-name - SUBSYSTEM *ssnm* INITIALIZATION COMPLETE

Explanation

Either:

- IBM MQ subsystem initialization is complete, following z/OS IPL processing or the z/OS command SETSSI ADD.
- The IBM MQ early processing program has been successfully refreshed, following a REFRESH QMGR TYPE(EARLY) command.

CSQ3111I

csect-name - EARLY PROCESSING PROGRAM IS *Vn* LEVEL *l*

Explanation

This message shows the level of the early processing program that is being used.

The level is of the form *nnn-mmm* and indicates the capability of the early code.

nnn is incremented for each new release of the product and *mmm* can be incremented from time to time when PTFs add maintenance to the early code.

The early code level used must have a capability level corresponding with the highest release of the product you intend to run on an LPAR. You can use the *nnn* value to confirm the level installed.

Corresponding values of *nnn* are:

- **006**: IBM WebSphere MQ for z/OS 7.1
- **007**: IBM MQ for z/OS 8.0
- **008**: IBM MQ for z/OS 9.0
- **009**: IBM MQ for z/OS 9.1
- **010**: IBM MQ for z/OS 9.2
- **010**: IBM MQ for z/OS 9.3

CSQ3112E

csect-name - INVALID CPF SCOPE

Explanation

The z/OS command SETSSI ADD or the subsystem definition record in the IEFSSNxx member of SYS1.PARMLIB for the IBM MQ subsystem specified the CPF scope initialization parameter incorrectly.

The failing subsystem name is provided in message IEF759I, which follows this message.

System action

The IBM MQ subsystem with the indicated name is not available.

System programmer response

Correct the parameter fields in the record of SYS1.PARMLIB member IEFSSNxx. For information about the parameters, see [Update SYS1.PARMLIB members](#).

CSQ3113E

csect-name - COMMAND PREFIX REGISTRATION FAILED. INVALID CHARACTER(S) IN CPF

Explanation

Command prefix registration failed because the command prefix (CPF) contains invalid characters.

System action

The IBM MQ subsystem with the indicated name is not available.

System programmer response

Correct the CPF parameter in the record of SYS1.PARMLIB member IEFSSNxx. For information about the parameters, see [Update SYS1.PARMLIB members](#).

CSQ3114E

csect-name - COMMAND PREFIX REGISTRATION FAILED. INVALID CHARACTER(S) IN SUBSYSTEM NAME

Explanation

Command prefix registration failed because the subsystem name used as the owner of the command prefix (CPF) contains invalid characters.

System action

The IBM MQ subsystem with the indicated name is not available.

System programmer response

Correct the CPF parameter in the record of SYS1.PARMLIB member IEFSSNxx. For information about the parameters, see [Update SYS1.PARMLIB members](#).

CSQ3115E

csect-name - COMMAND PREFIX REGISTRATION FAILED. CPF ALREADY DEFINED

Explanation

Command prefix registration failed because the command prefix (CPF) was already defined to z/OS.

System action

The IBM MQ subsystem with the indicated name is not available.

System programmer response

Correct the CPF parameter in the record of SYS1.PARMLIB member IEFSSNxx. For information about the parameters, see [Update SYS1.PARMLIB members](#).

CSQ3116E

csect-name - COMMAND PREFIX REGISTRATION FAILED. CPF IS A SUBSET OF A CPF ALREADY DEFINED

Explanation

Command prefix registration failed because the command prefix (CPF) is a subset of a CPF already defined to z/OS.

System action

The IBM MQ subsystem with the indicated name is not available.

System programmer response

Correct the CPF parameter in the record of SYS1.PARMLIB member IEFSSNxx. For information about the parameters, see [Update SYS1.PARMLIB members](#).

CSQ3117E

csect-name - COMMAND PREFIX REGISTRATION FAILED. CPF IS A SUPERSET OF A CPF ALREADY DEFINED

Explanation

Command prefix registration failed because the command prefix (CPF) is a superset of a CPF already defined to z/OS.

System action

The IBM MQ subsystem with the indicated name is not available.

System programmer response

Correct the CPF parameter in the record of SYS1.PARMLIB member IEFSSNxx. For information about the parameters, see [Update SYS1.PARMLIB members](#).

CSQ3118E

csect-name - SYSTEM ERROR DURING COMMAND PREFIX REGISTRATION

Explanation

A z/OS error occurred during command prefix (CPF) registration.

System action

The MQ subsystem with the indicated name is not available.

System programmer response

Check the z/OS console for other messages relating to the problem.

CSQ3119E

csect-name call-name call for group attach table failed, rc=*rc*

Explanation

During initialization for the group connect facility, a name token services call failed. *rc* is the return code (in hexadecimal) from the call.

System action

Processing continues, but the group connect facility will not be available to CICS.

System programmer response

See the *z/OS MVS Authorized Assembler Services Reference* manual for information about the return codes from the [IEANTCR](#) name token services call. If you are unable to solve the problem, take a stand-alone system dump and contact your IBM support center.

CSQ3120E

csect-name - IXCQUERY ERROR FOR XCF GROUP *group-name* APPLID= *applid*, RC= *rc* REASON= *reason*

Explanation

A CICS region with APPLID *applid* attempted to connect to a queue sharing group. During processing of the request an IXCQUERY call failed with return code *rc* and reason code *reason*.

The XCF group for which the IXCQUERY request was performed is identified by *group-name*.

System action

The request by CICS to connect to the queue sharing group fails with the reason code MQRC_UNEXPECTED_ERROR.

System programmer response

See the *z/OS MVS Sysplex Services Reference* manual for an explanation of the `IXCQUERY` return and reason codes. If you are unable to solve the problem, contact your IBM support center.

CSQ3201E

ABNORMAL EOT IN PROGRESS FOR USER=*user* CONNECTION-ID=*conn-id* THREAD-XREF=*thread-xref*
JOBNAME=*jobname* ASID=*asid* TCB=*tcb*

Explanation

Abnormal termination processing has been started for the agent with the values for the USER, CONNECTION-ID, THREAD-XREF, JOBNAME, ASID and TCB shown. These values are the last known set of identifiers for the terminating agent.

The abnormal termination might be the result of an error in the allied agent's address space or the result of the z/OS command CANCEL issued by the operator.

The value for the USER, the THREAD-XREF or both might be blank. The values for the USER, CONNECTION-ID, THREAD-XREF, JOBNAME and ASID are the last values established to IBM MQ for this connection and might represent the current activity of the agent. The TCB value is the address of the TCB that is terminating. Previous IBM MQ work by this agent might have completed successfully.

This message, CSQ3201E, is written to the z/OS console after the agent has been removed from the service task work queue at the time that termination processing begins.

System action

The agent was previously queued to a service task for termination processing. This message indicates that the agent has been taken from the queue for processing. Any uncommitted changes will be backed out.

System programmer response

See the Problem Determination section of this message. The z/OS commands CANCEL and FORCE will have no effect. Do not cancel IBM MQ. If an extensive backout is in progress, the subsequent queue manager restart might take a very long time due to additional log activity.

CSQ3202E

CONNECTION FOR *jobname* FAILED, INSUFFICIENT ECSA STORAGE TO CREATE ACE

Explanation

jobname attempted to connect to IBM MQ using the MQCONN, or MQCONNX, API call.

There was insufficient common storage available to build the control blocks to represent the connection and to the connection attempt failed.

There might be a system wide ECSA shortage, or the storage available for creating new queue manager connections might be limited by the ACELIM system parameter.

This message can be seen for batch applications, including RRS applications; for example, Db2 stored procedures and WebSphere Application Server.

System action

The MQCONN or MQCONNX API call, used by *jobname* returns MQCC_FAILED, together with reason code MQRC_Q_MGR_NOT_AVAILABLE 2059

Queue manager processing continues.

CSQ3580E

CONNECTION FOR '*ssi-call*' GAVE RC=*rc*, REASON=*reason*

Explanation

A nonzero return code has been returned to CSQ3AMI2 from the connect to subsystem interface (SSI) call. The variables in the message indicate which SSI call is involved and the actual return and reason codes associated with it.

System action

The current task is ended abnormally with a system completion code of X'5C6' and a reason code of X'00F30580'. The queue manager terminates.

System programmer response

Restart the queue manager. Note the values contained in the message, and contact your IBM support center.

z/OS

Db2 マネージャー・メッセージ (CSQ5...)

CSQ5001I

csect-name Db2 *db2-name* に接続しました。

説明

キュー・マネージャーは、この名前の Db2 サブシステムへの接続を正常に確立した。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ5002E

csect-name connect-name を使用した Db2 への接続が失敗しました。RC=戻りコード 理由=*reason*

説明

キュー・マネージャーは、この名前の Db2 サブシステムに接続しようとしたが、失敗した。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動は終了します。

システム・プログラマーの応答

普通これは、権限エラーである。

コードの説明について *Db2 for z/OS* の資料の [Db2 コード](#) を参照し、問題の解決を試みてください。

CSQ5003A

csect-name connect-name を使用した Db2 への接続が保留されています。アクティブな接続がありません。Db2

説明

キュー・マネージャーは、適格な Db2 サブシステムが活動状態になり、接続の確立が可能になるのを待っている。あるいは、RRS が活動状態にないか、Db2 サブシステムの後に開始された。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、適格 Db2 サブシステムが活動状態になるのを待つ。

システム・プログラマーの応答

Db2 サブシステムが活動状態であるかどうかを検査する。活動状態でない場合は開始する。活動状態になっている場合は、RRS を必ず活動状態にし、これが Db2 サブシステムより前に開始しているかどうかを検査する。

CSQ5004E

キュー共有グループ *qsg-name* 内のキュー・マネージャーの *csect-name* Db2 テーブル項目が欠落しているか、または正しくありません。

説明

始動時、キュー・マネージャーは Db2 管理表の中にその項目を検出できなかったか、その項目が正しくない。

システム・アクション

キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' および理由コード X'00F50013' で終了する。

システム・プログラマーの応答

指定されている Db2 データ共有グループの Db2 表中に、キュー・マネージャー・レコードが存在しているかどうかを検査する。 QSGDATA システム・パラメーターで正しい Db2 データ共有グループが指定されているかどうかを検査する。正しいデータ共有グループが指定されているなら、CSQ.ADMIN_B_QMGR 表の中にキュー・マネージャーの項目が存在するかどうかを検査する。

直前のリリースの IBM MQ からマイグレーションしようとしている場合は、Db2 表を現行リリースの形式に更新したかどうかを確かめる。異なるリリース間のマイグレーションと互換性については、保守および移行を参照。

CSQ5005E

csect-name キュー・マネージャーのリリース・レベルがキュー共有グループと非互換です。

説明

開始済みキュー・マネージャーのリリース・レベルが、キュー共有グループの他のメンバーのリリース・レベルと非互換である。

システム・アクション

キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' および理由コード X'00F50029' で終了する。

システム・プログラマーの応答

リリース間のマイグレーションと互換性について詳しくは、キュー共有グループの移行を参照してください。

メッセージを発行するキュー・マネージャーによってサポートされているレベルより低いキュー共有グループ内のキュー・マネージャーを見つけ、少なくともサポートされているレベルにアップグレードしてから、キュー・マネージャーの再始動を試行してください。

リリース間の互換性については、z/OS でのキュー共有グループの共存を参照してください。

CSQ5PQSG ユーティリティの MIGRATE QSG オプションの結果に、存在しなくなったキュー・マネージャーがまだ Db2 表にあることが示されている場合は、REMOVE QMGR オプションを使用するか、必要であれば FORCE QMGR オプションを使用します。

CSQ5006E

csect-name データ共有グループが違います。

説明

QSGDATA システム・パラメーターで指定されている Db2 データ共有グループと CSQ.ADMIN_B_QMGR 表のキュー・マネージャー項目とのミスマッチが発覚した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' および理由コード X'00F50006' で終了する。

システム・プログラマーの応答

QSGDATA システム・パラメーターで指定されるキュー共有グループ名は、Db2 CSQ.ADMIN_B_QMGR 表でそのキュー・マネージャーが定義されているキュー共有グループ名と一致していなければならない。

CSQ5007E

csect-name RRSF 機能 *function* が失敗しました。計画 *plan-name*, RC=*return-code* 理由=*reason* 同期点コード=*sync-code*

説明

非ゼロの、または予期しない戻りコードが RRSF 要求から戻された。関係する Db2 計画は、*plan-name* であった。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動または再接続の処理中にエラーが発生した場合、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' と理由コード X'00F50016' で終了する可能性がある。それ以外の場合は、エラー・メッセージが出され、処理が再試行されます。

システム・プログラマーの応答

メッセージの RRS 戻りコードおよび理由コードから、エラーの原因を判別する。

コードの説明について *Db2 for z/OS* の資料の [Db2 コード](#) を参照し、問題の解決を試みてください。

CSQ5008E

csect-name Db2 *db2-name* はデータ共有グループ *dsg-name* のメンバーではありません。

説明

キュー・マネージャーが接続している Db2 サブシステムは、QSGDATA システム・パラメーターで指定されている Db2 データ共有グループのメンバーではない。

システム・アクション

キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' および理由コード X'00F50007' で終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーの接続先である Db2 サブシステムが、QSGDATA システム・パラメーターで指定されるデータ共有グループのメンバーであるようにする。

Db2 サブシステムに対して Db2 コマンド DIS GROUP を発行し、そのデータ共有グループ名が QSGDATA システム・パラメーターのデータ共有グループ名と一致していることを確認する。

CSQ5009E

csect-name 表 *table-name* で SQL エラー。コード=SQL-code 状態=SQL-state, データ=d1 d2 d3 d4 d5

説明

非ゼロの、または予期しない SQL 戻りコードが Db2 SQL 要求から戻された。

システム・アクション

要求された操作は失敗する。処理は続行するが、要求が失敗したことにより他のエラーが発生する可能性がある。環境によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' および理由コード X'00F50014' で終了する。

システム・プログラマーの応答

SQL エラーの原因を判別し、問題を訂正する。

SQL エラーの説明については、「*Db2 for z/OS*」資料の [Db2 コード](#) を参照してください。

CSQ5010E

csect-name XCF IXCQUERY メンバー・エラー。RC=return-code 理由=reason

説明

キュー・マネージャーが IXCQUERY 要求から予期しない戻りコードを受け取った。

システム・アクション

キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' および理由コード X'00F50017' で終了する。

システム・プログラマーの応答

予期しなかったそのエラーの原因を判別し、問題を訂正する。

[IXCQUERY](#) 要求からの戻りコードと理由コードの説明については、「*z/OS MVS プログラミング: システム・サービス解説書*」を参照。

キュー共有グループ (QSG) 内の 1 つ以上のキュー・マネージャーが、QSG の XCF グループにメンバー項目を持たない場合に、このメッセージが発生する可能性がある。

xxxx を QSG 名で置き換えて次の z/OS コマンドを入力する。

```
D XCF,GRP,CSQGxxxx,ALL
```

これにより、XCF グループのメンバーがリストされる。いずれかのキュー・マネージャーが QSG のメンバーとしては定義されているが、XCF グループに項目がない場合、CSQ5PQSG ユーティリティの ADD QMGR コマンドを使用してそのキュー・マネージャーの XCF グループ項目を復元する。このユーティリティは、XCF グループに項目がないキュー・マネージャーごとに実行する必要がある。

CSQ5011E

csect-name XCF IXCJOIN グループ・エラー。RC=*return-code* 理由=*reason*

説明

キュー・マネージャーが IXCJOIN 要求から予期しない戻りコードを受け取った。

システム・アクション

キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' および理由コード X'00F50019' で終了する。

システム・プログラマーの応答

予期しなかったそのエラーの原因を判別し、問題を訂正する。

IXCJOIN 要求からの戻りコードと理由コードの説明については、「z/OS MVS プログラミング: システム・サービス解説書」を参照。

CSQ5012E

csect-name XCF IXCQUIES グループ・エラー。RC=*return-code* 理由=*reason*

説明

キュー・マネージャーが IXCQUIES 要求から予期しない戻りコードを受け取った。

システム・アクション

キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' および理由コード X'00F50021' で終了する。

システム・プログラマーの応答

予期しなかったそのエラーの原因を判別し、問題を訂正する。

IXCQUIES 要求からの戻りコードと理由コードの説明については、「z/OS MVS プログラミング: システム・サービス解説書」を参照。

CSQ5013E

csect-name XCF IXCSETUS エラー。RC=*return-code* 理由=*reason*

説明

キュー・マネージャーが IXCSETUS 要求から予期しない戻りコードを受け取った。

システム・アクション

キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' および理由コード X'00F50018' で終了する。

システム・プログラマーの応答

予期しなかったそのエラーの原因を判別し、問題を訂正する。

IXCSETUS 要求からの戻りコードと理由コードの説明については、「z/OS MVS プログラミング: システム・サービス解説書」を参照。

CSQ5014I

csect-name db2-name への接続が失われました。Db2 は異常終了しました。

説明

キュー・マネージャーは、接続している Db2 サブシステムから異常終了の通知を受けた。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、この Db2 サブシステムへの接続を終結処理し、再接続を行う。QSGDATA システム・パラメーターで Db2 のグループ接続名が指定されている場合は、異なる Db2 に接続されることもある。

システム・プログラマーの応答

Db2 の異常終了の原因を判別する。問題を訂正し、Db2 サブシステムを再始動する。

CSQ5015I

csect-name db2-name への接続が失われました。Db2 は強制的にシャットダウンされます。

説明

キュー・マネージャーは、接続している Db2 サブシステムから STOP FORCE 終了の通知を受けた。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、この Db2 サブシステムへの接続を終結処理し、再接続を行う。QSGDATA システム・パラメーターで Db2 のグループ接続名が指定されている場合は、異なる Db2 に接続されることもある。

システム・プログラマーの応答

Db2 の強制終了の原因を判別する。Db2 サブシステムの再始動。

CSQ5016I

csect-name db2-name への接続が静止中です。Db2 は終了中です。

説明

キュー・マネージャーは、接続している Db2 サブシステムから STOP QUIESCE 終了の通知を受けた。

システム・アクション

キュー・マネージャーはすべての Db2 サーバー・タスクを静止し、Db2 サブシステムから切断して、シャットダウンする。その後、再接続する。QSGDATA システム・パラメーターで Db2 のグループ接続名が指定されている場合は、異なる Db2 に接続されることもある。

システム・プログラマーの応答

Db2 サブシステムを再始動し、共有キューの操作を再開する。

CSQ5019I

csect-name Db2 db2-name から切断されました。

説明

キュー・マネージャーは、Db2 サブシステムから正常に切断した。

システム・アクション

切断が Db2 STOP MODE(QUIESCE) によるものである場合、キュー・マネージャーは Db2 サブシステムへの接続を試行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ5020E

csect-name SQL エラー。表 *table-name* が Db2 に定義されていません。

説明

キュー・マネージャーが、Db2 表の 1 つにアクセスしようとしたが、Db2 は、SQL コードを戻し、その表が存在しないことを示した。

システム・アクション

要求は失敗するが、処理は続行する。

システム・プログラマーの応答

Db2 環境をセットアップするための MQ タスクがすべて正常に完了しており、QSGDATA システム・パラメーターに正しい Db2 データ共有グループ名が指定されているかどうかを検査する。

CSQ5021E

csect-name SQL エラー。表 *table-name* の索引が Db2 で作成されていません。

説明

キュー・マネージャーが、Db2 表の 1 つにアクセスしようとしたが、Db2 は、SQL コードを戻し、指定された表の索引が作成されていないことを示した。

システム・アクション

要求は失敗するが、処理は続行する。

システム・プログラマーの応答

Db2 環境をセットアップするためのすべての IBM MQ タスクが正常に完了したこと、および正しい Db2 データ共有グループ名が QSGDATA システム・パラメーターに指定されていることを確認してください。

CSQ5022I

csect-name connect-name を使用した Db2 への保留中の接続が終了しました。キュー・マネージャーは終了します。

説明

STOP QMGR 要求により、未解決な Db2 への接続保留要求が終了した。

システム・アクション

Db2 への接続の保留が取り消され、キュー・マネージャーの終了処理が続く。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ5023E

csect-name SQL エラーです。表 *table-name* にアクセスできません。

説明

キュー・マネージャーがその表の 1 つにアクセスしようとしたが、SQL コードが戻され、そのコードは、指定されたリソースへのアクセスが失敗したことを示した。

システム・アクション

要求は失敗するが、処理は続行する。

システム・プログラマーの応答

このメッセージの後に、Db2 から返される情報の詳細を含むメッセージ CSQ5009E が続く。これを Db2 ログのメッセージとともに使用して、問題を診断する。

この問題は、Db2 資源の競合が原因である可能性が高い (特に、使用頻度の高いシステムの場合)。その場合、問題は一時的であるので、エラーが発生したアクションを再試行する。

そうでない場合に、問題が解決しないときは、関連する資源をメッセージと Db2 ログから判別し、その資源をアンロックするために必要な回復処置を行う。このような問題は、Db2 表の 1 つを更新するときに Db2 障害によって引き起こされる可能性がある (これについては、Db2 ログに示される)。

CSQ5024E

csect-name キュー・マネージャーの状況を更新できません。RC=*return-code*

説明

始動および終了処理の間に、キュー・マネージャーが CSQ.ADMIN_B_QMGR 表の中の状況を変更しようとしたが、その試みは失敗した。

システム・アクション

なし。始動/終了処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ5025E

csect-name SQL エラー。関数 *function* コード=*SQL-code*

説明

function に示される SQL 関数への呼び出しで、*SQL-code* で示される非ゼロのコードが戻された。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

メッセージに示された値を書き留め、IBM サポートに連絡する。

エラー・コードについて詳しくは、「*Db2 for z/OS*」資料の [Db2 コード](#) を参照してください。

CSQ5026E

csect-name Db2 にアクセスできません。RRS が使用できません。

説明

キュー・マネージャーが Db2 へアクセスしようとしたが、RRS が使用不能であった。

システム・アクション

キュー・マネージャーの初期設定の間にこれが生じた場合、キュー・マネージャーは RRS の使用が可能になるまで待つ。

その他のときに発生した場合、キュー・マネージャーは Db2 への接続を終了してから再接続を試行する。キュー共有グループの機能の中には、RRS が再始動し、Db2 への接続が再び確立するまで使用できないものがある。

システム・プログラマーの応答

RRS を始動 (または再始動) する。

CSQ5027E

csect-name 表 *table-name* で SQL エラー。デッドロックまたはタイムアウトが発生 (コード=*SQL-code*)

説明

SQL 呼び出しが非ゼロのコードを戻し、デッドロックまたはタイムアウト状態が発生していることを示した。

システム・アクション

要求は失敗するが、処理は続行する。

システム・プログラマーの応答

コマンドまたは関連するアプリケーションを再試行する。問題が解決しないようであれば、IBM サポートに連絡する。

エラー・コードについて詳しくは、「*Db2 for z/OS*」資料の [Db2 コード](#) を参照してください。

CSQ5028E

csect-name Db2 にアクセスできません。RRS 接続限界を超えました。

説明

キュー・マネージャーが Db2 へアクセスしようとしたが、RRS が同時接続の限界に達している。

システム・アクション

キュー・マネージャーの初期設定中にこのメッセージが出された場合、キュー・マネージャーは RRS 接続が使用可能になるまで待機する。

このメッセージがその他のときに発生した場合、キュー・マネージャーは Db2 への接続を終了してから再接続を試行する。キュー共有グループの機能の中には、RRS が再始動し、Db2 への接続が再び確立するまで使用できないものがある。

システム・プログラマーの応答

RRS 接続の限界を調整してから、RRS を始動 (または再始動) する。

同時ユーザーおよび同時接続の最大数を制御する Db2 システム・パラメーターが正しいことを確認する。この Db2 パラメーターは、スレッド管理パネル DSNTIPE での最大バッチ接続 (CTHREAD) である。

問題を解決するためのこの Db2 パラメーターの説明については、*Db2 for z/OS* の資料を参照してください。

CSQ5029E

csect-name Db2 表 *table-name* に対する操作が失敗しました。

説明

指定された Db2 表に要求された操作が失敗した。例えば、表が満杯か、または要求を実行するために使用可能なストレージが不十分な可能性がある。

多くの場合、これが発生するのは、大きな共有メッセージを保管するために IBM MQ が使用する表の 1 つにデータを書き込むときである。

システム・アクション

メッセージ CSQ5009E が発行されて、関連する SQL エラー・コードの詳細が示される。要求された操作は失敗するが、処理は続行する。メッセージや他のデータは表に書き込まれない。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQ5009E 内の SQL コードで示される問題の原因を調査する。

この表が、大きな共有メッセージの保管に使用されている表の 1 つで、問題の原因がストレージ不足の場合、この状態は一時的なものと思われるので、後で操作を再試行する。この表が満杯であることが問題の原因である場合は、メッセージのいくつかを除去する。例えば、メッセージを取り出して処理するアプリケーションを開始する。MQ DISPLAY GROUP コマンドを使用して、使用されなくなったメッセージが表スペースにあるかどうかを調べ、あれば削除する。必要であれば、表のサイズを大きくする。

CSQ5032I

csect-name Db2 *db2-name* への接続がデータ共有グループ *dsg-name* で中断されています。

説明

これは SUSPEND QMGR FACILITY(Db2) コマンドが正常に終了した場合に発行される。

システム・アクション

指定されたキュー・マネージャーに対するすべての Db2 活動は中断されていて、Db2 への接続は切断されている。

システム・プログラマーの応答

Db2 活動の再開準備ができたなら、RESUME QMGR FACILITY(Db2) コマンドを使用する。

CSQ5033I

csect-name Db2 *db2-name* への接続がデータ共有グループ *dsg-name* で再開されました。

説明

RESUME QMGR FACILITY(Db2) コマンドは正常に完了し、Db2 への接続は再確立されている。

システム・アクション

指定されたキュー・マネージャーに対する Db2 活動は再開されている。

CSQ5034I

csect-name Db2 の中断または再開要求が保留中です。

説明

SUSPEND または RESUME QMGR FACILITY(Db2) コマンドが発行されたが、そのような要求はすでに保留中である。

システム・アクション

なし。

システム・プログラマーの応答

保留中の要求が完了するまで待って、必要であればコマンドを再発行する。

CSQ5035I

csect-name Db2 *db2-name* への接続がデータ共有グループ *dsg-name* ですすでに中断状態です。

説明

SUSPEND QMGR FACILITY(Db2) コマンドが発行されたが、指定された Db2 サブシステムへの接続はすでに中断されている。

システム・アクション

なし。

CSQ5036I

csect-name Db2 *db2-name* への接続がデータ共有グループ *dsg-name* で中断されていません。

説明

RESUME QMGR FACILITY(Db2) コマンドが発行されたが、指定された Db2 サブシステムへの接続は中断されていない。

システム・アクション

なし。

CSQ5038I

csect-name サービス・タスク *service-task* が hh.mm.ss.nnnnnn 以降、応答していません。Db2 の問題を検査してください

説明

hh.mm.ss.nnnnnn に開始した要求をサービス・タスク *service-task* で処理するのに長い時間がかかりすぎているのをキュー・マネージャーが検出した。

システム・アクション

処理は続行されるが、何らかの機能を使用できない可能性がある。

システム・プログラマーの応答

Db2 または RRS の問題のために IBM MQ 要求への応答が妨げられているかどうかを調査する。例えば Db2 CTHREAD 制限を超過したか、CPU、入出力容量、ストレージなどのリソース不足のため Db2 の実行が遅くなっているか、または Db2 がログ・スペースを待機している可能性がある。

CSQ5039I

csect-name SQL エラー情報

説明

SQL エラーが発生した。Db2 から直接送られた追加の診断情報が続く。

システム・アクション

前の Db2 マネージャーのエラー・メッセージを参照。

システム・プログラマーの応答

SQL エラーの原因を判別し、問題を訂正する。

CSQ5040E

アクティブ・ログ・データ・セット xxx.DS01 は暗号化されていますが、すべての QSG メンバーによってアクティブ・ログ・データ・セットの暗号化がサポートされているわけではありません

説明

名前の示されているアクティブ・ログ・データ・セットは暗号化によって保護されており、同じキュー共有グループ内のキュー・マネージャーが、アクティブ・ログ・データ・セットの暗号化をサポートしないバージョンの IBM MQ で実行されている。

アクティブ・ログ・データ・セット暗号化は IBM MQ for z/OS 9.1.4 以降でサポートされている。

QSG 内の各キュー・マネージャーは、同じ QSG 内の他のあらゆるキュー・マネージャーのログ・データ・セットを読み取ることが可能になっている必要がある

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

QSG 内のいずれかのキュー・マネージャーに対してアクティブなデータ・セット暗号化を構成する前に、QSG 内のすべてのキュー・マネージャーが、アクティブ・ログ・データ・セットの暗号化をサポートするバージョンの IBM MQ で開始されていることを確認する。

QSG 内の各キュー・マネージャーを正しいレベルで開始するか、またはデータ・セットの暗号化なしでアクティブ・ログを再構成する。

CSQ5041E

csect-name qmgr-name から検出された QSG 通知フラッディング (未解決の要求=num)

説明

キュー・マネージャーは、処理可能な速度よりも速い速度で qmgr-name から通知を受信し、バックログが 10000 個の保留中要求に達しました。

システム・アクション

このメッセージは、qmgr-name からのバックログが 10000 を下回るまで、毎分繰り返されます。

バックログが増え続けると、最終的にストレージが使い尽くされ、キュー・マネージャーの異常終了が発生します。

システム・プログラマーの応答

指定されたキュー・マネージャー上のどのアプリケーションが通知をトリガーするかを決定します。

生成される通知の数が少ない設計を使用するようにアプリケーションを更新することを検討してください。

通常、多数の QSG 通知を生成するアプリケーション設計の例を以下に示します。

- TRIGTYPE (EVERY) で構成されている共用アプリケーション・キューを使用します。

代わりに TRIGTYPE (FIRST) を使用することを検討してください。

- アプリケーションは、共用キューの最後の入力ハンドルを繰り返しクローズします。

共用キューのオープンとクローズを繰り返すのではなく、不要になるまで共用キューのハンドルをオープンしたままにすることを検討してください。

CSQ5100I

DISPLAY GROUP レポート...

説明

このメッセージは DISPLAY GROUP コマンドへの初期応答である。この後に、そのグループ内のキュー・マネージャーのフォーマット済み報告書であるメッセージ CSQ5102I が続く。

システム・アクション

処理は正常に続けられる。

CSQ5102I

グループ *group-name* 内のキュー・マネージャー

説明

このメッセージは DISPLAY GROUP コマンドへの応答の一部である。これは、グループ内の各キュー・マネージャーに関する情報を提供する。それは次のとおりである。

```
Name Num Prefix Status Ver Db2 Connection name num cpf qmgr-stat vrm db2-id
conn-stat : End of queue managers report
```

ここで、

name

キュー・マネージャーの名前。

NUM

グループ内で最初に生成されたキュー・マネージャーの数。

cpf

キュー・マネージャーのコマンド接頭部。

qmgr-stat

キュー・マネージャーの現在の状況。これには次のようなものがある。

ACTIVE

キュー・マネージャーは実行中です。

INACTIVE

キュー・マネージャーは実行されていません。正常終了しました。

失敗

キュー・マネージャーは実行されていません。異常終了しました。

CREATED

キュー・マネージャーはグループに定義されていますが、まだ開始されていません。

不明

状況を判別できません。

vrm

キュー・マネージャーの機能レベル。3桁の数字を指定する。

V

バージョン番号

r

リリース番号

m

モディフィケーション番号

db2-id

キュー・マネージャーが接続する Db2 サブシステムまたはグループ接続の名前。

conn-stat

Db2 への接続の現行状況。これには次のようなものがある。

ACTIVE

キュー・マネージャーが実行中で、Db2 へ接続している。

PENDING

キュー・マネージャーは実行中であるが、Db2 が正常に終了したため、接続されていない。

失敗

キュー・マネージャーは実行中であるが、Db2 が異常終了したため、接続されていない。

INACTIVE

キュー・マネージャーが実行しておらず、Db2 へも接続していない。

不明

状況を判別できません。

例外的に、最終行が次のようになることもある。

```
Report terminated, too many lines
```

z/OS コンソールからのコマンドに応答して報告書が生成された場合や、253 を超える応答メッセージが生成された場合はこのようになり、253 の応答行だけが戻される。

```
Report terminated
```

情報の取得の際にエラーが発生した場合に、このようになる。後続のメッセージでそのエラーが説明される。

システム・アクション

処理は正常に続けられる。

CSQ5103I

グループ *group-name* の Db2 内の廃止されたメッセージ

説明

通常、メッセージは Db2 から自動的に削除されるが、例外的な事情では、使用されなくなったメッセージが残っていることがある。この場合、次のようなメッセージを示す。

```
LEID msg-id : End of messages report
```

ここで、

msg-id

はメッセージの識別子。

例外的に、最終行が次のようになることもある。

```
Report terminated, too many lines
```

z/OS コンソールからのコマンドに応答して報告書が生成された場合や、253 を超える応答メッセージが生成された場合はこのようになり、253 の応答行だけが戻される。

```
Report terminated
```

情報の取得の際にエラーが発生した場合に、このようになる。

システム・アクション

処理は正常に続けられる。

システム・プログラマーの応答

使用されなくなったメッセージを Db2 から削除する。例えば、SPUFI を使用して SQL コマンドを発行する。

```
DELETE FROM CSQ.ADMIN_B_MESSAGES WHERE QSGNAME = 'group-name' AND LEID = 'msg-id';
```

見る [SPUFI を使用した SQL の実行詳細](#)については。

CSQ5113I

キュー・マネージャーはキュー共有グループ内にありません。

重大度

0

説明

キュー共有グループを必要とするコマンドが入力されたが、キュー・マネージャーがグループに含まれていない。

システム・アクション

コマンドは処理されない。

CSQ5116E

call-name 呼び出しが失敗しました。rc=*rc* 理由=*reason*

重大度

8

説明

DISPLAY GROUP コマンドの処理中、情報を取得するためのカップリング・ファシリティサービス呼び出しに失敗した。rc と *reason* はそれぞれ、この呼び出しからの戻りコードと理由コードである (いずれも 16 進表示)。

システム・アクション

処理は終了する。取得しようとしていた情報のタイプを確認するための次のメッセージが発行される。

システム・プログラマーの応答

「[z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書](#)」を参照してください。呼び出しからの戻りコードおよび理由コードについては、マニュアルを参照してください。

CSQ5117E

グループ *group-name* には情報がありません。- *reason*

重大度

8

説明

DISPLAY GROUP コマンドの処理中、表示されている *reason* でそのグループの情報を取得できなかった。

エラー

先行するメッセージ CSQ5116E に示されているようにして、カップリング・ファシリティサービス呼び出しが失敗した。

CHANGED

グループのサイズが変化した。

システム・アクション

処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

適宜問題を解決する。

▶ z/OS Generalized command preprocessor messages (CSQ9...)

CSQ9000E

'*keyword*' appears more than once

Explanation

The named keyword appears more than once in the command. This message will be issued for each occurrence of the keyword after the first.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Verify the command entry, and reissue the command correctly. See [Running MQSC commands from text files](#) for information about the rules for building commands.

CSQ9001E

'*keyword*' is invalid

Explanation

The named keyword is unknown or undefined. It might be misspelled, or it might not be applicable to the command being processed.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Verify the command entry, and reissue the command correctly. See [MQSC commands](#) for information about the command.

CSQ9002E

Unbalanced parentheses following '*keyword*'

Explanation

An invalid combination of parentheses has been found following the keyword *keyword*. A closing parenthesis must follow an opening parenthesis before any other opening parenthesis occurs.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Verify the command entry, and reissue the command correctly. See [Running MQSC commands from text files](#) for information about the rules for building commands.

CSQ9003E

'*keyword*' parameter contains unbalanced apostrophes

Explanation

An odd number of apostrophes is present in a parameter value of keyword *keyword*. If the parameter is a quoted string, it must have one apostrophe at each end of the string. If an apostrophe is to appear within the string, two adjacent apostrophes must be entered. If the parameter is a hexadecimal value, it must be entered as X'*hex-characters*'.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Verify the command entry, and reissue the command correctly. See [Running MQSC commands from text files](#) for information about the rules for building commands.

CSQ9004E

'*keyword*' parameter specifies range (:) incorrectly

Explanation

A parameter of keyword *keyword* specifies a range of values incorrectly. The character used to denote a range is a colon (:); the format is *lower-limit:upper-limit*.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

See [MQSC commands](#) to verify that the command you are using allows a range for the given keyword. Correct the error, and reissue the command.

CSQ9005E

'*keyword*' parameter does not satisfy generic rules

Explanation

For the keyword *keyword*, parameter values can be generic, but the value specified does not conform to the rules for a generic value. The value does not conform to these rules due to one of the following reasons:

- The value contains an asterisk (*) which is not the last character.
- The value contains a question mark (?) or colon (:).
- The keyword is WHERE and the value is a single asterisk.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Verify the command entry, correct the keyword parameter, and reenter the command. See [MQSC commands](#) for a description of the keyword and how to enter the command.

CSQ9006E

'*keyword*' parameter uses asterisk (*) incorrectly

Explanation

For the keyword *keyword*, an asterisk (*) was used in a parameter value. Either:

- The asterisk was not the last or only character in the value. Incorrect examples are NAME(BL*CK) and NAME(*LUE); a correct specification is NAME(BL*) or NAME(*).
- There is a list of parameter values, for example DETAIL(1,*).

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

See [MQSC commands](#) to verify that the command you are using allows specification of '*' for the given keyword. Correct the error, and reissue the command.

CSQ9007E

Either '*keyword1*' or '*keyword2*' must be specified

Explanation

The command requires that either keyword *keyword1* or keyword *keyword2* is specified, but neither keyword was entered on the command. One of the two keywords must be present in order for the command to be processed.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Reissue the command and include whichever keyword is appropriate. See [MQSC commands](#) for descriptions of the two keywords. See [Running MQSC commands from text files](#) for information about the rules for building commands.

CSQ9008E

'*keyword*' may not be negated

Explanation

The negation characters (NO) appear in front of the keyword *keyword*, but negating this keyword is not allowed.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Verify the command entry, and reissue the command correctly. See [Running MQSC commands from text files](#) for further information about this command.

CSQ9009E

'*keyword*' not specified

Explanation

The keyword *keyword* must be present, but it was not entered. This keyword must be present in order for the command to process properly.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Verify the command entry, and reissue the command including the specified keyword. See [MQSC commands](#) for further information about this command.

CSQ9010E

Required parameter for '*keyword*' not specified

Explanation

For the keyword *keyword*, either:

- One or more parameters must be specified, but no parameter was entered.
- A fixed number of parameters must be specified, but fewer parameters were entered.

For example, the keyword USERDATA must have a parameter that is a character string. Entering USERDATA() is meaningless; you must either enter a string (for example, USERDATA(MY_DATA)), or if you want to remove this attribute, you must enter USERDATA(' ').

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Verify the command entry, supply appropriate parameters for the specified keyword, and reissue the command. See [MQSC commands](#) for further information about this command.

CSQ9011E

Parameter(s) not allowed for '*keyword*'

Explanation

No parameters can be specified for the keyword *keyword*. This message is issued for each invalid parameter, so it can be issued more than once for a command.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Verify the command entry, correct the error, and reissue the command. See [Running MQSC commands from text files](#) for details on how to enter the command.

CSQ9012E

'*keyword*' parameter is not hexadecimal

Explanation

Parameter values for the keyword *keyword* must be hexadecimal values. Hexadecimal characters are the numeric digits 0 through 9 and the letters A through F, in either uppercase or lowercase. The value can optionally be specified using the hexadecimal string notation X'hex characters'; for example, *keyword*(123ABC) and *keyword*(X'123ABC') are synonymous.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Verify the command entry, and reissue the command, ensuring that the parameters for the named keyword are hexadecimal values.

CSQ9013E

'*keyword*' parameter '*parameter-value*' length is more than *nn*

Explanation

The parameter value *parameter-value* for keyword *keyword* exceeds the limit of *nn* characters in length.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Verify the command entry. See [MQSC commands](#) for a list of acceptable parameters. Correct the error, and reissue the command.

CSQ9014E

More than *nn* parameters for '*keyword*'

Explanation

Too many parameters have been specified for the keyword *keyword*. At most *nn* parameters can be specified. In addition to entering too many parameters, this could also be caused by a missing closing parenthesis that has not yet been detected.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Verify the command entry, and reissue the command, using no more than the specified limit of parameters for the given keyword. See [MQSC commands](#) for further details. See [Running MQSC commands from text files](#) for information about the rules for building commands.

If this error occurs while you are using connection names with the CSQUTIL program you must enclose certain variables within single quotation marks. See [CSQUTIL](#) for more information.

CSQ9015E

Parameter '*parameter-value*' is unacceptable for '*keyword*'

Explanation

The parameter value *parameter-value* is not an acceptable value for keyword *keyword*. Either:

- The keyword parameter can be one of a set of character values, but the value specified is not one of them.
- The keyword parameter can be a bounded numeric value, but the value specified is outside the bounds.

- The keyword parameter can be either numeric or one of a set of character values, but the value specified is neither numeric nor one of the set.
- The keyword is WHERE and the first parameter (the filter keyword) is not one of the acceptable keywords for the command.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Verify the command entry, and reissue the command correctly. See [MQSC commands](#) for a list of acceptable values. See [Running MQSC commands from text files](#) for information about the rules for building commands.

CSQ9016E

'cmd' command request not authorized

Explanation

The command requires a level of authorization that you do not have, either for the command itself, or for the resource that it is operating on.

System action

The command is not executed. Processing is terminated.

System programmer response

Contact the system programmer responsible for system security, and request that this person grant you authorization to use the command. Otherwise, you must have someone who is authorized issue the command for you.

CSQ9017E

Failure while processing 'cmd' command

Explanation

The command preprocessor ended abnormally while processing the command shown in the message. The error is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested. The command might have partially completed. Look at any previous response messages to determine what has been done.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Verify the command entry, and reissue the command. If it fails again, collect the items listed in the Problem Determination section, and contact your IBM support center.

CSQ9018E

csect-name Insufficient storage to process 'cmd' command

Explanation

The command preprocessor was unable to obtain sufficient storage to complete processing of any response messages generated by the command.

System action

Processing for the command is terminated abnormally.

System programmer response

If the problem persists, you might need to increase the region size used by your queue manager or channel initiator, or you might need to reduce the number of jobs running in your system.

CSQ9019E

'cmd' command is invalid

Explanation

The command, which starts with *cmd*, is invalid. This could be because:

- the command verb is unknown
- no keywords were specified, or none were specified that are valid as a secondary keyword for the command
- there is syntax error at the start of the command

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Verify the command entry, and reissue the command correctly. See [MQSC commands](#) for the correct command format. See [Running MQSC commands from text files](#) for information about the rules for building commands.

CSQ9020E

'*keyword1*' and '*keyword2*' cannot both be specified

Explanation

The command does not allow keyword *keyword1* and keyword *keyword2* to be specified together.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Verify the command entry, and reissue the command, omitting the inappropriate keyword. See [MQSC commands](#) for descriptions of the two keywords. See [Running MQSC commands from text files](#) for information about the rules for building commands.

CSQ9022I

csect-name 'cmd' NORMAL COMPLETION

Explanation

All synchronous processing for the command completed successfully. Any tasks executing asynchronously on behalf of the command might still be executing when this message is displayed.

System action

Synchronous processing for the command is complete.

CSQ9023E

csect-name 'cmd' ABNORMAL COMPLETION

Explanation

The command has not completed successfully. The command has issued one or more error messages prior to this message.

System action

Processing for the command has ended.

System programmer response

Follow the instructions for the other messages associated with the error.

CSQ9025E

'*parameter-value*' is unacceptable with 'WHERE' parameter '*filter-keyword*'

Explanation

The parameter values for the WHERE keyword are incompatible. The WHERE keyword must have three parameters, *filter-keyword*, *operator*, and *filter-value*. The error is one of the following:

- The operator parameter is not appropriate for the type of parameter values that the filter keyword requires. For example, the filter keyword requires one of a set of parameter values, but the operator is not EQ or NE.
- The filter value parameter exceeds the length limit for parameter values of the filter keyword.
- The filter value parameter is not a value that is valid as a value of the filter keyword. For example:
 - The filter keyword requires a numeric parameter value but the filter value parameter is not numeric.
 - The filter keyword requires one of a set of parameter values but the filter value parameter is not one of them.
 - The filter keyword requires a bounded numeric parameter value but the filter value parameter is outside the bounds.
 - The filter keyword requires an object or system name, but the filter value parameter does not consist only of characters that are valid for such a name.

Depending on the error, *parameter-value* may be the operator parameter or the filter value parameter.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Verify the command entry, and reissue the command correctly. See [MQSC commands](#) for information about the parameters for the WHERE keyword.

CSQ9026E

'*keyword*' parameter does not satisfy name rules

Explanation

Parameter values for the keyword *keyword* are names, and therefore must consist only of characters that are valid for the particular type of name, object name or system name. The valid object name characters are uppercase A-Z, lowercase a-z, numerics 0-9, period (.), forward slash (/), underscore (_), and percent sign (%). The valid system name characters are uppercase A-Z, and numerics 0-9; the first character must not be numeric.

This message is issued if the name specified contains invalid characters, or if the name is all blank in cases where an all-blank name is not allowed.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Verify the command entry, and reissue the command ensuring that the parameters for the named keyword are of the required type. See [MQSC commands](#) for a description of the keyword. See [Running MQSC commands from text files](#) for information about the rules for building commands.

CSQ9028E

'*keyword*' parameter is not numeric

Explanation

Parameter values for the keyword *keyword* must consist of numeric values only.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Verify the command entry, and reissue the command ensuring that the parameters for the named keyword are of the required type. See [MQSC commands](#) for a description of the keyword. See [Running MQSC commands from text files](#) for information about the rules for building commands.

CSQ9029E

csect-name Failure while processing a command

Explanation

An error occurred while processing a command. The command might or might not have been executed. The error has been recorded in the system error log (the SYS1.LOGREC data set), and an SVC dump was attempted.

You can get this message if you have insufficient ECSA.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Verify the command entry, and reissue the command. If you cannot resolve the problem, collect the items listed in the Problem Determination section, and contact your IBM support center.

CSQ9030E

'*keyword*' parameter may not be generic

Explanation

The parameter for the keyword *keyword* specifies a generic value using an asterisk (for example, ABC*), but a generic value is not allowed for that keyword.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Verify the command entry, correct the keyword parameter, and reenter the command. See [MQSC commands](#) for a description of the keyword. See [Running MQSC commands from text files](#) for information about the rules for building commands.

CSQ9031E

Syntax error following '*keyword*'

Explanation

The text that follows the named keyword contains invalid syntax. This is typically caused by specifying an incorrect sequence of special characters, such as equals (=), comma (,), colon (:), or parentheses.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Verify the command entry, examining the text following the named keyword. Ensure that you have followed the rules for command entry, and reenter the command. [Running MQSC commands from text files](#) for information about the rules for building commands.

CSQ9032E

Requested function is not available

Explanation

An attempt was made to invoke a command processor that was not loaded.

System action

The requested function is not performed.

System programmer response

Verify the command entry, to determine which command caused the error.

CSQ9033E

Command exceeds allowable length

Severity

8

Explanation

The command is so large that its internal form has exceeded the maximum length allowed. The size of the internal form of the command is affected by both the length, and the complexity of the command. (For example, an attempt has been made to use the operations and control panels to create a namelist containing too many names.)

This message could also be caused by commands entered through one of the following:

- the initialization input data sets
- the COMMAND function of the utility program CSQUTIL
- a user-written program that puts commands onto the system-command input queue, SYSTEM.COMMAND.INPUT

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

If you are using the operations and control panels to define a namelist, use the edit facility to reduce the number of names in the list. If you are entering a command from elsewhere, determine which command caused the error, and verify the syntax of that command from [MQSC commands](#). Correct the command.

CSQ9034E

Command cannot be issued using command server

Severity

8

Explanation

An attempt was made to issue a command using the command server. The command cannot be issued in that way.

The command server is used by commands entered through one of the following:

- the COMMAND function of CSQUTIL
- the CSQINPX initialization input data set of the channel initiator
- a user-written program that puts commands onto the system-command input queue, SYSTEM.COMMAND.INPUT

System action

The command is ignored.

CSQ9035E

csect-name Required keyword not specified

Severity

8

Explanation

The command requires one of a set of alternative keywords to be specified, but none was.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Verify the command entry, and reissue the command correctly. See [MQSC commands](#) for the proper format of the command. See [Running MQSC commands from text files](#) for information about the rules for building commands.

CSQ9036E

Command with '*keyword(parameter-value)*' not allowed when queue manager is active

Severity

8

Explanation

The command has the specified parameter value for keyword *keyword*. The command with this keyword and value can be issued only when the queue manager is not active.

System action

The command is ignored.

System programmer response

See [MQSC commands](#) for information about how to use the command.

CSQ9037E

Command must be issued from *ddname*

Severity

8

Explanation

An attempt was made to issue a command from the specified initialization input data set. The command cannot be issued from that data set.

System action

The command is ignored.

System programmer response

See [MQSC commands](#) for information about how to use the command.

CSQ9038E

Command must be issued from console

Severity

8

Explanation

An attempt was made to issue a command from other than the z/OS console or its equivalent. The command can only be issued in that way.

System action

The command is ignored.

System programmer response

Issue the command from the z/OS console; it cannot be issued from elsewhere.

If you issued the **DEFINE PSID** command from the console, you must include the additional DSN parameter for the command to complete successfully.

See [MQSC commands](#) for information about how to use the command.

CSQ9039E

Command cannot be issued from console

Severity

8

Explanation

An attempt was made to issue a command from the z/OS console or its equivalent. The command cannot be issued in that way.

System action

The command is ignored.

System programmer response

See [MQSC commands](#) for information about how to use the command.

CSQ9040E

Command cannot be issued from *ddname*

Severity

8

Explanation

An attempt was made to issue a command from the specified initialization input data set. The command cannot be issued from that data set.

System action

The command is ignored.

System programmer response

See [MQSC commands](#) for information about how to use the command.

CSQ9041E

Command not allowed during restart

Severity

8

Explanation

An attempt was made to issue a command before restart had completed, but the command cannot be issued at that time. This could be because the command was in the CSQINP1 initialization input data set.

System action

The command is ignored.

System programmer response

If the command was in the CSQINP1 initialization input data set, delete it.

CSQ9042E

Command with '*keyword()*' cannot be issued from *ddname*

Severity

8

Explanation

The command was issued with the specified keyword from an initialization input data set. The command with this keyword cannot be issued from that data set.

System action

The command is ignored.

System programmer response

See [MQSC commands](#) for information about how to use the command.

CSQ9045E

'*keyword*' has parameter(s) and is a 'WHERE' parameter

Explanation

The command specifies the WHERE keyword with a filter keyword parameter *keyword*. That keyword is also specified explicitly with with parameters, which is not allowed.

System action

Processing for the command is terminated.

System programmer response

Verify the command entry, and reissue the command correctly. See [MQSC commands](#) for information about the parameters for the WHERE keyword.

IBM MQ for z/OS codes

Each component of IBM MQ for z/OS can issue codes and each component uses a unique two character hexadecimal identifier for its messages. Use this topic to identify and interpret the codes for IBM MQ for z/OS components.

The following code types are described:

Connection manager codes (X'94')

If a connection manager reason code occurs that is not listed here, an internal error has occurred. Collect the following diagnostic items and contact IBM Support.

Diagnostics

- A description of the actions that led to the error or, if applicable, either a listing of the application program or the input string to a utility program that was being run at the time of the error.
- The console output for the period leading up to the error.
- The queue manager job log.
- The system dump resulting from the error.
- If you are using CICS, the CICS transaction dump output.
- Appropriate IBM MQ, z/OS, Db2, CICS, and IMS service levels.
- If you are using the IBM MQ Operations and Control panels, the ISPF panel name.

00940001

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and the queue manager terminates.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 915](#) and contact IBM Support.

Restart your queue manager.

00940003

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 915](#) and contact IBM Support.

00940004

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 915](#) and contact IBM Support.

00940007

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 915](#) and contact IBM Support.

00940008

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and the queue manager terminates.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 915](#) and contact IBM Support.

Restart your queue manager.

00940028

A requested diagnostic trap has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

This should only occur if IBM Support have requested that a dump be captured to aid in problem diagnosis

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 915](#) and contact IBM Support.

0094002B

An internal error has occurred during ALESERV processing.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. The failing return code from ALESERV will be in register 2 of the dump.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 915](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager.

Related tasks

[Contacting IBM Support](#)

Topic Manager codes ('X'A3')

If a topic manager reason code occurs that is not listed here, an internal error has occurred. Collect the following diagnostic items and contact IBM Support.

Diagnostics

- A description of the actions that led to the error or, if applicable, either a listing of the application program or the input string to a utility program that was being run at the time of the error.
- The console output for the period leading up to the error.
- The queue manager job log.
- The system dump resulting from the error.
- If you are using CICS, the CICS transaction dump output.
- Appropriate IBM MQ, z/OS, Db2, CICS, and IMS service levels.
- If you are using the IBM MQ Operations and Control panels, the ISPF panel name.

00A30001, 00A30002, 00A30052, 00A30053, 00A30054, 00A30061, 00A30062, 00A30064, 00A30065, 00A30066, 00A31000

An internal error has occurred while processing a command.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 917](#) and contact IBM Support.

00A30042

An internal error has occurred while processing a command.

If this error occurs in conjunction with a CSQY227E message then the problem is a lack of 64 bit storage.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 917](#) and contact IBM Support.

You should consider raising the value of the MEMLIMIT parameter. For more information, see [Address space storage](#).

00A30072, 00A30073, 00A30074, 00A30075, 00A30076, 00A30077

An internal error occurred during commit processing.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 917](#) and contact IBM Support.

Related tasks

[Contacting IBM Support](#)

Batch adapter codes ('X'C2')

00C20001

The CSQBSRV program has detected a request for a nonexistent function. CSQBSRV is invoked from batch and RRS-batch applications via a stub such as CSQBSTUB, CSQBRRSI, or CSQBRSTB.

System action

The application program ends abnormally, but IBM MQ continues processing.

System programmer response

The most likely cause of this problem is incompatible versions of CSQBSRV and the stub. If this is not the cause of the problem, obtain the diagnostic items listed in this topic, and contact IBM Support.

- Application program listing
- Queue manager job log
- PSW and registers at point of failure

00C20009

The task which started an asynchronous IBM MQ thread (for asynchronous message consumption or asynchronous event listening) has ended before the asynchronous thread which it started had ended. This abend is raised on the asynchronous IBM MQ thread, because processing cannot continue after the resources allocated by the original thread have been released.

System action

The application program ends abnormally, but IBM MQ continues processing.

System programmer response

Ensure that an MQDISC is called for all connections which are used to start asynchronous threads before termination of the task which created the connection.

00C2000A, 00C2000B, 00C2000C, 00C2000D, 00C2000E, 00C2000F

An internal error has occurred while processing an MQCRTMH call.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Obtain the diagnostic items listed in this topic, and contact IBM Support.

- An application program listing.
- The queue manager job log.
- The PSW and registers at point of failure.

Related tasks

[Contacting IBM Support](#)

Coupling Facility codes (X'C5')

If a coupling facility reason code occurs that is not listed here, an internal error has occurred. Collect the following diagnostic items and contact IBM Support. Restart the queue manager if necessary.

Diagnostics

- A description of the actions that led to the error or, if applicable, either a listing of the application program or the input string to a utility program that was being run at the time of the error.
- The console output for the period leading up to the error.
- The queue manager job log.
- The system dump resulting from the error.

- If you are using CICS, the CICS transaction dump output.
- Appropriate IBM MQ, z/OS, Db2, CICS, and IMS service levels.
- If you are using the IBM MQ Operations and Control panels, the ISPF panel name.
- A dump of the coupling facility structure.

00C50006

A backup or recovery of a CF structure failed because the queue manager is not connected to a Db2 subsystem.

System action

CF structure backup or recovery processing is terminated.

System programmer response

Configure the Db2 subsystem so that the queue manager can connect to it.

00C50012

CF structure processing failed, because the CF structure became full during the action.

System action

CF structure processing is terminated.

System programmer response

Increase the size of the CF structure.

00C50014

An unexpected reason code was returned by the Db2 subsystem that the queue manager is connected to.

System action

The current operation is terminated.

System programmer response

Investigate the cause of the error, as reported in the preceding messages.

00C50050

The CF structure is being recovered and cannot be used until the recovery is complete.

System action

Processing of the command is terminated.

System programmer response

Wait for the recovery of the structure to complete, then reissue the command. Use the **DISPLAY CFSTATUS** command to view the status of the CF structures.

00C50064

A backup or recovery of a CF structure failed either because the installation and customization options chosen for IBM MQ do not allow the queue manager to use structures at the required level, or because the level of the structure is not supported by the current command level.

System action

CF structure backup or recovery processing is terminated.

00C5004F

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed. It indicates that a request has been issued for a CF structure, but the request cannot be performed, as explained in the accompanying more specific message.

Severity

4

System action

The command is ignored.

System programmer response

Refer to the description of the accompanying message.

00C5005B

CF structure recovery failed because an error occurred when reading the BSDS of another queue manager in the queue sharing group.

System action

CF structure recovery processing is terminated.

System programmer response

Check the log for recovery log manager messages that indicate the reason for the error.

00C50D00

A backup of a CF structure failed because a required SMDS data set is not available.

System action

CF structure backup processing is terminated.

System programmer response

Ensure that all SMDS data sets used for the CF structure are available, then reissue the backup command. A **RECOVER CFSTRUCT** command can be used to restore these data sets if this is required.

00C51001, 00C51004, 00C51005, 00C51006, 00C5100A, 00C51019, 00C5101A, 00C5101B, 00C5101C, 00C5001D

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager might terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 918](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager if necessary.

00C51021, 00C51022, 00C51023, 00C51024, 00C50025, 00C51026, 00C51027, 00C51028, 00C51029, 00C5002A, 00C5102B, 00C5102C, 00C5102D, 00C5102E, 00C5002F

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager might terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 918](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager if necessary.

00C5102F

The queue manager failed to connect to the administration structure.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and the queue manager attempts to connect to the administration structure if it becomes available again. In some cases, the queue manager might terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Investigate the configuration for the administration structure. This abend code might be seen if the queue manager is running on an LPAR with no connectivity to the administration structure, or if the administration structure has been encrypted, but the LPAR does not have access to a cryptographic coprocessor.

00C50030, 00C51031, 00C51032, 00C51033, 00C51034, 00C50035, 00C51036, 00C51037, 00C51038, 00C51039, 00C5003A, 00C5103A, 00C5103B, 00C5103C, 00C5103D, 00C5103E, 00C5003F

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager might terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 918](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager if necessary.

00C50040, 00C51041, 00C51042, 00C51043, 00C51044, 00C50045, 00C51046, 00C51047

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager may terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 918](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager if necessary.

00C51051, 00C51052, 00C51053, 00C51054, 00C50055, 00C51056

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager may terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 918](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager if necessary.

00C51090, 00C51092, 00C51093

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager might terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 918](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager if necessary.

00C51094, 00C51095, 00C51096, 00C51097

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager might terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 918](#) and contact IBM Support.

00C510A1, 00C510A2, 00C510A3, 00C510A4, 00C500A5, 00C510A6, 00C510A7, 00C510A8, 00C510A9, 00C500AA

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager might terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 918](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager if necessary.

00C510AB

The CF structure has failed or connection to it has been lost.

System action

This might be issued in response to a command, in which case processing of the command is terminated. Otherwise, the current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager might terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Restart the queue manager if necessary. Recover the structure; if the error occurred in response to a command, reissue it.

00C510AC, 00C510AD

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager might terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 918](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager if necessary.

00C51100, 00C51101, 00C51102, 00C51103, 00C51104, 00C51105, 00C51106, 00C51107, 00C51108, 00C51109, 00C5110A, 00C5110B, 00C5110C, 00C5110D, 00C5110E, 00C5110F

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager may terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 918](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager if necessary.

00C51110, 00C51111, 00C51112, 00C51113, 00C51114, 00C51115, 00C51116, 00C51117, 00C51118, 00C51119, 00C5111A, 00C5111B, 00C5111C, 00C5111D, 00C5111E, 00C5111F

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager might terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 918](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager if necessary.

00C51120, 00C51121, 00C51122, 00C51123, 00C51124, 00C51125, 00C51126, 00C51127, 00C51128, 00C51129, 00C5112A, 00C5112B, 00C5112C, 00C5112D, 00C5112E, 00C5112F

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager might terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 918](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager if necessary.

00C51130, 00C51131, 00C51132, 00C51133, 00C51134, 00C51135, 00C51136, 00C51137, 00C51138, 00C51139, 00C5113A, 00C5113B, 00C5113C, 00C5113D, 00C5113E, 00C5113F

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager may terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 918](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager if necessary.

00C51140, 00C51141, 00C51142, 00C51143, 00C51144, 00C51145, 00C51146, 00C51147, 00C51148, 00C51149, 00C5114A, 00C5114B, 00C5114C, 00C5114D, 00C5114E, 00C5114F

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager may terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 918](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager if necessary.

00C51150, 00C51151, 00C51152, 00C51153, 00C51154, 00C51155, 00C51156, 00C51157, 00C51158, 00C51159, 00C5115A, 00C5115B, 00C5115C, 00C5115D, 00C5115E, 00C5115F

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager might terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 918](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager if necessary.

00C51160, 00C51161, 00C51162, 00C51163, 00C51164, 00C51165, 00C51166, 00C51167, 00C51168, 00C51169, 00C5116A, 00C5116B, 00C5116C, 00C5116D, 00C5116E, 00C5116F

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager might terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 918](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager if necessary.

00C51170, 00C51171, 00C51172, 00C51174, 00C51175, 00C51176, 00C51177, 00C51178, 00C51179, 00C5117A, 00C5117B, 00C5117C, 00C5117D, 00C5117E, 00C5117F

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager might terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 918](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager if necessary.

00C51173

An internal error has occurred.

System action

The internal task performing recovery of a CFSTRUCT terminates with completion code x'5C6'.

System programmer response

This error is often, but not exclusively, associated with space issues in the coupling facility.

Ensure that sufficient space is available in the cfstructure.

A common source of error is that the INITSIZE and SIZE values do not match in the CFRM policy. During normal use, the structure has expanded through AUTOALTER processing and the structure backup being restored reflects this size.

However, a new structure has been allocated with the INITSIZE attribute that is too small.

If storage issues are not indicated, then collect the items listed in [“Diagnostics” on page 918](#) and contact IBM Support.

00C51180, 00C51181, 00C51182, 00C51184, 00C51185, 00C51186, 00C51187, 00C51188, 00C51189, 00C5118A, 00C5118B, 00C5118C, 00C5118D, 00C5118E, 00C5118F

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager may terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 918](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager if necessary.

00C51183

An internal error has occurred.

System action

The internal task performing recovery of a CFSTRUCT terminates with completion code x'5C6'.

System programmer response

This error is often, but not exclusively, associated with space issues in the coupling facility.

Ensure that sufficient space is available in the cfstructure.

A common source of error is that the INITSIZE and SIZE values do not match in the CFRM policy. During normal use, the structure has expanded through AUTOALTER processing and the structure backup being restored reflects this size.

However, a new structure has been allocated with the INITSIZE attribute that is too small.

If storage issues are not indicated, then collect the items listed in [“Diagnostics” on page 918](#) and contact IBM Support.

00C51190, 00C51191, 00C51192, 00C51193, 00C51194, 00C51195, 00C51196, 00C51197, 00C51198, 00C51199, 00C5119A, 00C5119B, 00C5119C, 00C5119D, 00C5119E, 00C5119F

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager may terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 918](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager if necessary.

00C511A0, 00C511A1, 00C511A2, 00C511A3, 00C511A4, 00C511A5, 00C511A6, 00C511A7, 00C511A8, 00C511A9, 00C511AA, 00C511AB, 00C511AC, 00C511AD, 00C511AE, 00C511AF

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager may terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 918](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager if necessary.

00C511B0, 00C511B1, 00C511B2, 00C511B3, 00C511B4, 00C511B5, 00C511B6, 00C511B7, 00C511B8, 00C511B9, 00C511BA, 00C511BB, 00C511BC, 00C511BD, 00C511BE, 00C511BF

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager may terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 918](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager if necessary.

00C511C0, 00C511C1, 00C511C2, 00C511C3, 00C511C4, 00C511C5, 00C511C6, 00C511C7, 00C511C8, 00C511C9, 00C511CA, 00C511CB, 00C511CC, 00C511CD, 00C511CE, 00C511CF

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager may terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 918](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager if necessary.

00C511D0, 00C511D1, 00C511D2, 00C511D3, 00C511D4, 00C511D5, 00C511D6, 00C511D7, 00C511D8, 00C511D9, 00C511DA, 00C511DB, 00C511DC, 00C511DD, 00C511DE, 00C511DF

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager might terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 918](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager if necessary.

00C511E0, 00C511E1, 00C511E2, 00C511E3, 00C511E4, 00C511E5, 00C511E6, 00C511E7, 00C511E8, 00C511E9, 00C511EA, 00C511EB, 00C511EC, 00C511ED, 00C511EE, 00C511EF

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager might terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 918](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager if necessary.

00C511F0, 00C511F1, 00C511F2, 00C511F3, 00C511F4, 00C511F5, 00C511F6, 00C511F7, 00C511F8, 00C511F9, 00C511FA, 00C511FB, 00C511FC, 00C511FD, 00C511FE, 00C511FF

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager might terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 918](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager if necessary.

00C53000

The queue manager cannot use the administration structure because its size is less than the minimum that IBM MQ requires.

System action

The queue manager terminates with completion code X'6C6'.

System programmer response

Increase the size of the administration structure. See message CSQE022E for more information.

00C53001

The queue manager has detected a mismatch between the queue sharing group creation timestamp in the Db2 tables and the creation timestamp associated with the structure name in message CSQE029E.

System action

The queue manager terminates, a record is written to SYS1.LOGREC and a dump is taken.

System programmer response

Verify the queue manager, queue sharing group and data-sharing group configuration and determine whether a queue manager has configured to connect to a different Db2 data-sharing group.

If the queue manager and queue sharing group configuration is correct then the structure should be deallocated. Having verified that there are only failed-persistent connections remaining to the structure, deallocate it with the z/OS command

```
SETXCF FORCE,STRUCTURE,STRNAME=ext-struct-name
```

(In this command, *ext-struct-name* is formed by prefixing the IBM MQ structure name from message CSQE029E with the queue sharing group name.)

00C53002

The queue manager cannot use the administration structure because the administration structure is full and remains full despite repeated attempts to wait for space to become available.

System action

The queue manager terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Increase the size of the administration structure. See message [CSQE038E](#) for more information.

Related tasks

[Contacting IBM Support](#)

Message generator codes (X'C6')

00C60001

IBM MQ received return code X'20' when issuing a WTO request to display a console message. This means that there are no message buffers for either Multiple Console Support (MCS) or JES3, or there is a JES3 WTO staging area excess. The WTO request is terminated. The current console message and all subsequent informational console messages are ignored until the problem is corrected.

System action

A record is written to SYS1.LOGREC. A retry is requested and execution continues. IBM MQ resumes issuing console messages when the condition is corrected.

00C60004

The queue manager was unable to load the message table (CSQFMTAB).

System action

The queue manager terminates.

System programmer response

Ensure that the message table is in the required library (SCSQANLx, where x is your national language letter), that it is referenced correctly, and that all the libraries in the concatenation are APF authorized. Restart the queue manager.

00C60005

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the following diagnostic items and contact IBM Support:

- Queue manager job log
- System dump resulting from the error

00C60006

The MQ utility program was unable to load its message table (CSQFSTAB).

System action

The utility program ends abnormally.

System programmer response

Check the console for messages indicating why CSQFSTAB was not loaded. Ensure that the message table is in the required library (SCSQANLx, where x is your national language letter), and that it is referenced correctly, and resubmit the job.

The utility program attempts to load this module from the library data sets under the STEPLIB DD statement of the utility address space.

00C60007

The IBM MQ CICS adapter was unable to load its message table (CSQFCTAB).

System action

The IBM MQ CICS adapter server task terminates.

System programmer response

Check the console for messages indicating why CSQFCTAB was not loaded. Ensure that the message table is in the required library (SCSQANLx or SCSQSNLx, where x is your national language letter), and that it is referenced correctly.

CSQCSERV attempts to load this module from the library data sets under the STEPLIB DD statement of the CICS address space.

00C60008

The IBM MQ utility program was unable to load its message table (CSQFLTAB).

System action

The utility program ends abnormally.

System programmer response

Check the console for messages indicating why CSQFLTAB was not loaded. Ensure that the message table is in the required library (SCSQANLx, where x is your national language letter), and that it is referenced correctly, and resubmit the job.

The utility program attempts to load this module from the library data sets under the STEPLIB DD statement of the utility address space.

00C6000A

The IBM MQ early processing program was unable to load its message table (CSQ3ECMX).

System action

The queue manager terminates.

System programmer response

Ensure that the message table in the required library (SCSQSNLx, where x is your national language letter), and that it is referenced correctly, and perform an IPL of your z/OS system or use the z/OS command SETSSI ADD to restart the queue manager.

00C6000B

The distributed queuing component was unable to load its message table (CSQFXTAB).

System action

The channel initiator ends.

System programmer response

Check the console for messages indicating why CSQFXTAB was not loaded. Ensure that the message table is in the required library (SCSQANLx, where x is your national language letter), that it is referenced correctly, and that all the libraries in the concatenation are APF authorized. Restart the channel initiator.

00C6000C

The IMS trigger monitor was unable to load its message table (CSQFSTAB).

System action

The trigger monitor ends.

System programmer response

Check the console for messages indicating why CSQFSTAB was not loaded. Ensure that the message table is in the required library (SCSQANLx, where x is your national language letter), and that it is referenced correctly, and restart the trigger monitor.

00C600F0

The Advanced Message Security component was unable to load its message table (CSQF0TAB).

System action

The Advanced Message Security component fails to start during queue manager startup.

System programmer response

Check the console for messages indicating why CSQF0TAB was not loaded. Ensure that the message table is in the required library (SCSQANLx, where x is your national language letter), that it is referenced correctly, and that all the libraries in the concatenation are APF authorized. Restart the queue manager.

Related tasks

[Contacting IBM Support](#)

00C70010

While trying to recover from an error, an internal consistency check indicated a storage overlay, or an internal error.

System action

Control is percolated to the z/OS recovery termination manager, and a dump is requested.

System programmer response

Retain the dump, and contact IBM Support for assistance.

Restart the queue manager if necessary.

00C70020

A critical procedure recovery routine has ended abnormally, causing a secondary abnormal end.

System action

Control is percolated to the z/OS recovery termination manager, and in some cases the queue manager terminates abnormally. A dump is produced for both the primary and secondary errors.

System programmer response

Retain both dumps, and contact IBM Support for assistance.

Restart the queue manager if necessary.

00C70030

A request to z/OS to establish an ESTAE produced a non-zero return code.

System action

A dump is requested.

System programmer response

The return code from z/OS is captured in register 14.

Go to the [z/OSMVS Programming: Assembler Services Reference, Volume 1 \(ABEND-HSPSERV\)](#) manual for an explanation of the return code.

00C70040

This abnormal end reason code was caused by an internal IBM MQ error.

System action

Control is percolated to the z/OS recovery termination manager, and a dump is requested.

System programmer response

Retain the dump, and contact IBM Support for assistance.

Restart the queue manager if necessary.

Related tasks

[Contacting IBM Support](#)

Security manager codes (X'C8')

If a security manager reason code occurs that is not listed here, an internal error has occurred. Collect the following diagnostic items and contact your IBM support center.

Diagnostics

- A description of the actions that led to the error or, if applicable, either a listing of the application program or the input string to a utility program that was being run at the time of the error.

- The console output for the period leading up to the error.
- The queue manager job log.
- The system dump resulting from the error.
- If you are using CICS, the CICS transaction dump output.
- Appropriate IBM MQ, z/OS, Db2, CICS, and IMS service levels.
- If you are using the IBM MQ Operations and Control panels, the ISPF panel name.
- The security command issued before the error.

00C80001

An attempt to obtain storage for the security manager was unsuccessful.

Note: This could indicate a system-wide storage problem.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the return code from the storage failure.

System programmer response

Check that you are running with the recommended region size, and if not, reset your system and restart the queue manager. If this is not the cause of the problem, use these items to diagnose the cause of the problem:

- Queue manager job log
- Information about any other storage-related problems
- System dump resulting from the error

00C80002

An attempt to obtain storage for the security manager was unsuccessful.

Note: This error code could indicate a system-wide storage problem.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the return code from the storage failure.

System programmer response

Check that you are running with the suggested region size, and if not, reset your system and restart the queue manager. If this is not the cause of the problem, use these items to diagnose the cause of the problem:

- Queue manager job log
- Information about any other storage-related problems
- System dump resulting from the error

00C80003

An attempt to obtain a storage subpool for the security manager was unsuccessful.

Note: This error code could indicate a system-wide storage problem.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the return code from the storage failure.

System programmer response

Check that you are running with an appropriate region size, and if not, reset your system and restart the queue manager. If the region size is not the cause of the problem, use these items to diagnose the cause of the problem:

- Queue manager job log
- Information about any other storage-related problems
- System dump resulting from the error

00C80004

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

Restart the queue manager.

00C8000A

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=STAT call to the external security manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. Check your security configuration (for example, that the required classes are installed and active). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C8000B

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=EXTRACT call to the external security manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the entity being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. For information about setting IBM MQ security switches, see [Switch profiles](#). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C8000C

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=LIST (create) call to the external security manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class, and register 3 the address of the entity, being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C8000D

An unexpected return code has been received from one of the following SAF calls to the external security manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time:

- RACROUTE REQUEST=EXTRACT
- RACROUTE REQUEST=LIST
- RACROUTE REQUEST=STAT

System action

Message CSQH004I is produced containing the return codes from SAF and the ESM. The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the return codes.

System programmer response

See your ESM documentation for information about the return codes that appear in message CSQH004I (in the job log) or the dump. For information about setting IBM MQ security switches, see [Switch profiles](#). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C8000E

An unexpected setting for the subsystem security switch was encountered.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the control block containing the switch setting.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#), together with a note of what you expected the switch to be set to, and whether you had defined a profile for it or not, and contact your IBM support center.

00C8000F

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class involved at the time of the error.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

Restart the queue manager.

00C80010

An attempt to obtain storage for the security manager was unsuccessful.

Note: This error code could indicate a system-wide storage problem.

System action

The current execution unit terminates with a completion code of X'5C6', and a dump is produced. Register 2 contains the return code from the storage failure.

System programmer response

Check that you are running with the suggested region size, and if not, reset your system and restart the queue manager. If this is not the cause of the problem, use the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#), together with information about any other storage-related problems, to diagnose the cause of the problem. If you are unable to resolve the problem, contact your IBM support center.

00C80011

An attempt to obtain a storage subpool for the security manager was unsuccessful.

Note: This error code could indicate a system-wide storage problem.

System action

The current execution unit terminates with a completion code of X'5C6', and a dump is produced. Register 2 contains the return code from the storage failure.

System programmer response

Check that you are running with the suggested region size, and if not, reset your system and restart the queue manager. If this is not the cause of the problem, use the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#), together with information about any other storage-related problems, to diagnose the cause of the problem. If you are unable to resolve the problem, contact your IBM support center.

00C80012

An attempt to obtain storage for the security manager was unsuccessful.

Note: This error code could indicate a system-wide storage problem.

System action

The current execution unit terminates with a completion code of X'5C6', and a dump is produced. Register 2 contains the return code from the storage failure.

System programmer response

Check that you are running with the suggested region size, and if not, reset your system and restart the queue manager. If this is not the cause of the problem, use the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#), together with information about any other storage-related problems, to diagnose the cause of the problem. If you are unable to resolve the problem, contact your IBM support center.

00C80013

An internal error has occurred while processing a security request.

System action

The current execution unit terminates with a completion code of X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80020

An attempt to obtain storage for the security manager was unsuccessful.

Note: This error code could indicate a system-wide storage problem.

System action

The current execution unit terminates with a completion code of X'5C6', and a dump is produced. Register 2 contains the return code from the storage failure.

System programmer response

Check that you are running with the suggested region size, and if not, reset your system and restart the queue manager. If this is not the cause of the problem, use the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#), together with information about any other storage-related problems, to diagnose the cause of the problem. If you are unable to resolve the problem, contact your IBM support center.

00C80024

An internal error has occurred while processing a command.

System action

The current execution unit terminates with a completion code of X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80025

An internal error has occurred while processing a command.

System action

The current execution unit terminates with a completion code of X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80026

An internal error has occurred while processing a command.

System action

The current execution unit terminates with a completion code of X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80027

An unrecognized keyword was encountered whilst processing a REFRESH SECURITY command.

System action

The current execution unit terminates with a completion code of X'5C6', and a dump is produced. Register 2 contains the address of the keyword causing the problem.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80028

An attempt to obtain a storage subpool for the security manager was unsuccessful. This might have occurred during the processing of an ALTER SECURITY command, a REFRESH SECURITY command, or during the automatic security timeout processing.

Note: This could indicate a system-wide storage problem.

System action

The current execution unit terminates with a completion code of X'5C6', and a dump is produced. Register 2 contains the return code from the storage failure.

System programmer response

Use the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#), together with information about any other storage-related problems, to diagnose the cause of the problem. If you are unable to resolve the problem, contact your IBM support center.

00C80029

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=STAT call to the external security manager (ESM) during security switch processing for a REFRESH SECURITY command.

System action

The current execution unit terminates with a completion code of X'5C6', and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. Check your security configuration (for example, that the required classes are installed and active). If you are

unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80031

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=LIST (create) call to the external security manager (ESM) during the processing for a REFRESH SECURITY command.

System action

The current execution unit terminates with a completion code of X'5C6', and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class, and register 3 the address of the entity, being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. Check your security configuration (for example, that the required classes are installed and active). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80032

An unexpected return code has been received from one of the following SAF calls to the external security manager (ESM) during the processing of a REFRESH SECURITY command:

- RACROUTE REQUEST=LIST (create)
- RACROUTE REQUEST=LIST (delete)
- RACROUTE REQUEST=STAT

System action

The current execution unit terminates with a completion code of X'5C6', and a dump is produced. Register 2 contains the address of the return codes from SAF, and the ESM.

Note: If the error occurred on a STAT call, the error is preceded by a CSQH004I message containing the return codes from SAF, and the ESM.

System programmer response

See your ESM documentation for information about the return codes from SAF and the ESM. For information about setting IBM MQ security switches, see [Switch profiles](#). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80033

An unexpected setting for the subsystem security switch was encountered during the processing of a REFRESH SECURITY command.

System action

The current execution unit terminates with a completion code of X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#), together with a note of what you expected the switch to be set to, and whether you had defined a profile for it or not, and contact your IBM support center.

00C80034

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with a completion code of X'5C6', and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class invoked at the time of the check.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80035

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=STAT call to the external security manager (ESM) during security switch processing for a REFRESH SECURITY command.

System action

The current execution unit terminates with a completion code of X'5C6', and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. Check your security configuration (for example, that the required classes are installed and active). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80036

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=EXTRACT call to the external security manager (ESM) during security switch processing for a REFRESH SECURITY command.

System action

The current execution unit terminates with a completion code of X'5C6', and a dump is produced. Register 2 contains the address of the entity being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. For information about setting IBM MQ security switches, see [Switch profiles](#). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80037

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=LIST (create) call to the external security manager (ESM) during the processing for a REFRESH SECURITY command.

System action

The current execution unit terminates with a completion code of X'5C6', and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class, and register 3 the address of the entity, being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80038

An unexpected return code has been received from one of the following SAF calls to the external security manager (ESM) during the processing of a REFRESH SECURITY command.

- RACROUTE REQUEST=LIST (create)
- RACROUTE REQUEST=LIST (delete)
- RACROUTE REQUEST=EXTRACT
- RACROUTE REQUEST=STAT

System action

The current execution unit terminates with a completion code of X'5C6', and a dump is produced. Register 2 contains the address of the return codes from SAF, and the ESM.

Note: If the error occurred on a STAT call, the error is preceded by a CSQH004I message containing the return codes from SAF, and the ESM.

System programmer response

See your ESM documentation for information about the return codes from SAF and the ESM. For information about setting IBM MQ security switches, see [Switch profiles](#). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80039

An attempt to obtain a storage subpool for a security manager user entry block was unsuccessful. This could have occurred during either security timeout processing, or REFRESH SECURITY command processing.

Note: This could indicate a system-wide storage problem.

System action

The current execution unit terminates with a completion code of X'5C6', and a dump is produced. Register 2 contains the return code from the storage failure.

System programmer response

Use the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#), together with information about any other storage-related problems, to diagnose the cause of the problem. If you are unable to resolve the problem, contact your IBM support center.

00C80040

A severe error has occurred during security timeout processing. An unexpected return code has been received from the IBM MQ timer component.

Note: This could indicate a system-wide problem with the timer component, or the system timer.

System action

Messages CSQH009I and CSQH010I are issued. The current execution unit terminates with a completion code of X'5C6', and a dump is produced. Register 2 contains the return code from the timer component that caused the problem.

System programmer response

Use the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#), together with information about any other timer-related problems, to diagnose the cause of the problem. If you are unable to resolve the problem, contact your IBM support center.

00C80041

A severe error has occurred during security timeout processing for an ALTER SECURITY command. An unexpected return code has been received from the IBM MQ timer component.

Note: This could indicate a system-wide problem with the timer component, or the system timer.

System action

Message CSQH010I is issued. The current execution unit terminates with a completion code of X'5C6' and a dump is produced. Register 2 contains the return code from the timer component that caused the problem.

System programmer response

Use the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#), together with information about any other timer-related problems, to diagnose the cause of the problem. If you are unable to resolve the problem, contact your IBM support center.

00C80042

A severe error has occurred during security initialization when trying to start the security timer. An unexpected return code has been received from the IBM MQ timer component.

Note: This could indicate a system-wide problem with the timer component, or the system timer.

System action

Message CSQH010I is issued. The queue manager terminates and a dump is produced. Register 2 contains the return code from the timer component that caused the problem.

System programmer response

Use the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#), together with information about any other timer-related problems, to diagnose the cause of the problem. If you are unable to resolve the problem, contact your IBM support center.

00C80043

A severe error has occurred whilst processing a DISPLAY SECURITY command. A parameter has been entered on the SECURITY keyword, but this is invalid.

System action

The current execution unit terminates with a completion code of X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80044

A severe error has occurred whilst processing an ALTER SECURITY command. A parameter has been entered on the SECURITY keyword, but this is invalid.

System action

The current execution unit terminates with a completion code of X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80045

A severe error has occurred because the last security refresh did not complete successfully.

System action

The current execution unit terminates with error reason code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

If you are able to fix the cause of the problem, you must refresh the security again before you can continue. If you are unable to solve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80046

An attempt to obtain a storage subpool for the security manager Utoken blocks was unsuccessful.

This indicates that there could be a wider ranging problem relating to storage availability.

System action

The queue manager is terminated and a dump is produced.

System programmer response

Use the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#), together with information about any other storage-related problems, to diagnose the cause of the problem.

00C80047

An attempt to obtain a storage block for a security manager Utoken block was unsuccessful.
This indicates that there could be a wider ranging problem relating to storage availability.

System action

The current execution unit terminates with X'5C6' and a dump is produced.

System programmer response

Use the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#), together with information about any other storage-related problems, to diagnose the cause of the problem. Contact your IBM support center if you need help.

00C80050

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=STAT call to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. Check your security configuration (for example, that the required classes are installed and active). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80051

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=EXTRACT call to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the entity being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. For information about setting IBM MQ security switches, see [Switch profiles](#). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80052

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=LIST (create) call to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class, and register 3 the address of the entity, being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80053

An unexpected return code has been received from one of the following SAF calls to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

- RACROUTE REQUEST=EXTRACT
- RACROUTE REQUEST=LIST
- RACROUTE REQUEST=STAT

System action

Message CSQH004I is produced containing the return codes from SAF and the ESM. The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the return codes.

System programmer response

See your ESM documentation for information about the return codes that appear in message CSQH004I (in the job log) or the dump. For information about setting IBM MQ security switches, see [Switch profiles](#). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80054

An unexpected setting for the subsystem security switch was encountered.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the control block containing the switch setting.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#), together with a note of what you expected the switch to be set to, and whether you had defined a profile for it or not, and contact your IBM support center.

Restart the queue manager.

00C80055

An internal loop count was exceeded during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class being checked at the time of the error.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

Restart the queue manager.

00C80060

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=STAT call to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. Check your security configuration (for example, that the required classes are installed and active). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80061

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=EXTRACT call to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the entity being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. For information about setting IBM MQ security switches, see [Switch profiles](#). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80062

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=LIST (create) call to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class, and register 3 the address of the entity, being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80063

An unexpected return code has been received from one of the following SAF calls to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

- RACROUTE REQUEST=EXTRACT
- RACROUTE REQUEST=LIST
- RACROUTE REQUEST=STAT

System action

Message CSQH004I is produced containing the return codes from SAF and the ESM. The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the return codes.

System programmer response

See your ESM documentation for information about the return codes that appear in message CSQH004I (in the job log) or the dump. For information about setting IBM MQ security switches, see [Switch profiles](#). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80064

An unexpected setting for the subsystem security switch was encountered.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the control block containing the switch setting.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#), together with a note of what you expected the switch to be set to, and whether you had defined a profile for it or not, and contact your IBM support center.

Restart the queue manager.

00C80065

An internal loop count was exceeded during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class being checked at the time of the error.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

Restart the queue manager.

00C80070

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=STAT call to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. Check your security configuration (for example, that the required classes are installed and active). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80071

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=EXTRACT call to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the entity being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. For information about setting IBM MQ security switches, see [Switch profiles](#). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80072

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=LIST (create) call to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class, and register 3 the address of the entity, being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80073

An unexpected return code has been received from one of the following SAF calls to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

- RACROUTE REQUEST=EXTRACT
- RACROUTE REQUEST=LIST
- RACROUTE REQUEST=STAT

System action

Message CSQH004I is produced containing the return codes from SAF and the ESM. The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the return codes.

System programmer response

See your ESM documentation for information about the return codes that appear in message CSQH004I (in the job log) or the dump. For information about setting IBM MQ security switches, see [Switch profiles](#). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80074

An unexpected setting for the subsystem security switch was encountered.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the control block containing the switch setting.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#), together with a note of what you expected the switch to be set to, and whether you had defined a profile for it or not, and contact your IBM support center.

00C80075

An internal loop count was exceeded during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class being checked at the time of the error.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

Restart the queue manager.

00C80080

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=STAT call to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. Check your security configuration (for example, that the required classes are installed and active). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80081

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=EXTRACT call to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the entity being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. For information about setting IBM MQ security switches, see [Switch profiles](#). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80082

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=LIST (create) call to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class, and register 3 the address of the entity, being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80083

An unexpected return code has been received from one of the following SAF calls to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

- RACROUTE REQUEST=EXTRACT
- RACROUTE REQUEST=LIST
- RACROUTE REQUEST=STAT

System action

Message CSQH004I is produced containing the return codes from SAF and the ESM. The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the return codes.

System programmer response

See your ESM documentation for information about the return codes that appear in message CSQH004I (in the job log) or the dump. For information about setting IBM MQ security switches, see [Switch profiles](#). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80084

An unexpected setting for the subsystem security switch was encountered.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the control block containing the switch setting.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#), together with a note of what you expected the switch to be set to, and whether you had defined a profile for it or not, and contact your IBM support center.

00C80090

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=STAT call to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. Check your security configuration (for example, that the required classes are installed and active). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80091

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=EXTRACT call to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the entity being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. For information about setting IBM MQ security switches, see [Switch profiles](#). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80092

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=LIST (create) call to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class, and register 3 the address of the entity, being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80093

An unexpected return code has been received from one of the following SAF calls to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

- RACROUTE REQUEST=EXTRACT
- RACROUTE REQUEST=LIST
- RACROUTE REQUEST=STAT

System action

Message CSQH004I is produced containing the return codes from SAF and the ESM. The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the return codes.

System programmer response

See your ESM documentation for information about the return codes that appear in message CSQH004I (in the job log) or the dump. For information about setting IBM MQ security switches, see [Switch profiles](#). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80094

An unexpected setting for the subsystem security switch was encountered.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the control block containing the switch setting.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#), together with a note of what you expected the switch to be set to, and whether you had defined a profile for it or not, and contact your IBM support center.

Restart the queue manager.

00C80095

An internal loop count was exceeded during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class being checked at the time of the error.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

Restart the queue manager.

00C80100

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=STAT call to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. Check your security configuration (for example, that the required classes are installed and active). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80101

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=EXTRACT call to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the entity being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. For information about setting IBM MQ security switches, see [Switch profiles](#). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80102

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=LIST (create) call to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class, and register 3 the address of the entity, being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80103

An unexpected return code has been received from one of the following SAF calls to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

- RACROUTE REQUEST=EXTRACT
- RACROUTE REQUEST=LIST
- RACROUTE REQUEST=STAT

System action

Message CSQH004I is produced containing the return codes from SAF and the ESM. The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the return codes.

System programmer response

See your ESM documentation for information about the return codes that appear in message CSQH004I (in the job log) or the dump. For information about setting IBM MQ security switches, see [Switch profiles](#). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80104

An unexpected setting for the subsystem security switch was encountered.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the control block containing the switch setting.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#), together with a note of what you expected the switch to be set to, and whether you had defined a profile for it or not, and contact your IBM support center.

Restart the queue manager.

00C80105

An internal loop count was exceeded during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class being checked at the time of the error.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

Restart the queue manager.

00C80200

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=STAT call to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. Check your security configuration (for example, that the required classes are installed and active). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80201

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=EXTRACT call to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the entity being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. For information about setting IBM MQ security switches, see [Switch profiles](#). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80202

A severe error has occurred during a SAF RACROUTE REQUEST=LIST (create) call to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class, and register 3 the address of the entity, being checked at the time of the error.

System programmer response

See your ESM documentation for information about any return codes that appear in the job log. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80203

An unexpected return code has been received from one of the following SAF calls to the External Security Manager (ESM) during security switch processing at queue manager initialization time.

- RACROUTE REQUEST=EXTRACT
- RACROUTE REQUEST=LIST
- RACROUTE REQUEST=STAT

System action

Message CSQH004I is produced containing the return codes from SAF and the ESM. The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the return codes.

System programmer response

See your ESM documentation for information about the return codes that appear in message CSQH004I (in the job log) or the dump. For information about setting MQ security switches, see [Switch profiles](#). If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

00C80204

An unexpected setting for the subsystem security switch was encountered.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the control block containing the switch setting.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#), together with a note of what you expected the switch to be set to, and whether you had defined a profile for it or not, and contact your IBM support center.

Restart the queue manager.

00C80205

An internal loop count was exceeded during security switch processing at queue manager initialization time.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is produced. Register 2 contains the address of the class being checked at the time of the error.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

Restart the queue manager.

00C80206

An unexpected setting for the request type was encountered on an authentication request.

System action

The current execution unit terminates with a completion code of X'5C6' and a dump is produced. Register 2 contains the request type in error.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

Restart the queue manager.

00C80207

An unexpected setting for the request type was encountered on an authentication request.

System action

The queue manager terminates and a dump is produced. Register 2 contains the request type in error.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.

Restart the queue manager.

00C81000

A severe error has occurred while processing a REFRESH SECURITY command.

System action

The current execution unit terminates with error reason code X'5C6', and a dump is produced. Register 2 contains the address of the control block involved in the error.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 930](#) and contact your IBM support center.



If a data manager reason code occurs that is not listed here, an internal error has occurred. Collect the following diagnostic items and contact IBM Support.

Diagnostics

- A description of the actions that led to the error or, if applicable, either a listing of the application program or the input string to a utility program that was being run at the time of the error.
- The console output for the period leading up to the error.
- The queue manager job log.
- The system dump resulting from the error.
- If you are using CICS, the CICS transaction dump output.
- Appropriate IBM MQ, z/OS, Db2, CICS, and IMS service levels.
- If you are using the IBM MQ Operations and Control panels, the ISPF panel name.

00C90100

The object IBM MQ was trying to create was too large to be stored.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C90200

A page set page retrieved was not valid.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C90201

A page set page retrieved was not valid. The page was not a header page.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C90202

A page set page retrieved was not valid. The page was not a data page.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C90300

MQ was unable to start a unit of recovery for this execution unit.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C90301

An internal logging error has occurred for the current execution unit.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C90400

The data manager has detected an invalid log record.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C90401

The data manager has detected an invalid log record subtype.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C90500

The data manager was asked to make a change to some data in a page, but the change would have extended beyond the specific data item.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C90600

The data manager was unable to locate a specific logical record within a data page. The record was required for an update, or to insert a new record immediately after.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C90700

The data manager was unable to locate its *resource access list entry* (RALE).

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C90800

The data manager was requested to put a message on a queue, but told to give the message an invalid priority.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C90900

The data manager was asked to retrieve a logical record from a page, but on retrieving it discovered that the record is invalid.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C90A00

The data manager was asked to carry out a value logging operation with an invalid length field.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C90B00

The space reclamation routines have been asked to deallocate a page that is not in a state to be deallocated.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C90C00

An object type description passed to the data manager is not valid.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C90D00

A page set that was originally page set n is being presented as being a different page set, probably because the started task JCL procedure for the queue manager has been changed. Register 0 contains the identifier of the page set in error, and register 2 contains the identifier it was previously associated with.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Check the started task JCL procedure for the queue manager, and undo any changes to the CSQPnnnn DD statements that specify the page sets. Restart the queue manager. If the problem persists, or no changes have been made to these statements, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C90D01

Your data set is not recognized as an IBM MQ page set. This may be for one of the following reasons.

- The data set has not been formatted
- You are attempting to backwards migrate from a newer version of IBM MQ to an older version of IBM MQ without first running `START QMGR BACKMIG(target-vm)` at the newer version of IBM MQ.

Register 0 contains the identifier of the page set in error.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Investigate the reason code and take one of the following actions:

- Format the page set
- Run `START QMGR BACKMIG(target-vm)` at the newer version of IBM MQ before performing the backwards migration
- Start the queue manager with the correct level of code

00C90D02

This reason code is caused by one of the following:

- An attempt to use a page set that is a valid IBM MQ page set, but does not belong to this queue manager
- An attempt to change the subsystem name

Neither of these actions is allowed.

Register 0 contains the identifier of the page set in error.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

If you were attempting to use a page set from another queue manager, correct the error. Do not attempt to change the name of your queue manager.

00C90D03

An internal error has occurred during processing of an MQGET call with the Mark Skip Backout option.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C90D04

During restart, the queue manager detected that a page set has been truncated. This is probably because the data set allocated during restoration of a backup was smaller than required to hold the

backed up data, and so the data has been truncated. It might also occur if page set 0 is larger than the maximum supported page set size.

System action

The identifier of the page set in error is put in register 0. Restart is terminated.

System programmer response

Reallocate the data set correctly, restore the backed up data if necessary, and restart the queue manager.

00C90E00

The data manager was passed an invalid parameter describing the location of a logical record within a data page and page set.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C90F00

The data manager was requested to update a logical record within a page, but the record had been deleted previously.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C91000

The data manager was asked to retrieve a message from an object that was not a local queue.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C91094, 00C91095, 00C91096, 00C91097

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager might terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C91101

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C91102

MQ received a return code indicating an error from the RRS ATRSROI service.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

The return code from ATRSROI is in register 15. See the *z/OS MVS Programming: Resource Recovery* manual for information about the return code.

00C91104

The data manager was requested to carry out a browse message operation, but the required lock was not held.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C91200

The internal data manager locate-object routine could not find the object it was seeking during UNDO processing.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C91300

During queue manager startup, an attempt was made to recover an object, the length of which exceeds a single data page. However, one of the intermediate data pages was not available, and IBM MQ was unable to recover the object.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C91400

The data manager was unable to access the header page (page 0) of one of the page sets.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced. The number of the page set with a header page that was unreadable is held in register 2.

System programmer response

1. Check for a preceding IEC161I, CSQP060E, or CSQP011E message relating to page set mentioned in register 2.
2. Check the following:
 - For the page set mentioned in register 2, is the appropriate CSQPnnnn DD statement present in the started task JCL procedure for the queue manager, xxxxMSTR?
 - Does this DD statement reference a genuine data set? DD DUMMY statements are not allowed for page sets.

- Is DEFINE PSID(nn) present in the CSQINP1 initialization input data set?
3. If you are still unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C91500

During queue manager startup, the data manager was following a chain of objects on disk, and requested the next data page in the chain from the buffer manager. However, the buffer manager could not supply this page.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C91600

During restart, the data manager rebuilds its in-storage structures from page set data. On rebuilding an object, data manager discovered that the object already exists.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C91700, 00C91800

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C91900

During restart, data manager has detected an error in the rebuild of its in-storage object structures.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C91B01

During restart, the data manager found a queue with messages that are apparently located in a newly added page set. This is probably because the queue manager was run with a page set offline, and a new page set was formatted to replace the original one. This will lead to data loss.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C91C00

A delete purge request has been issued but the object type is not a local queue.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C91D00

A lock request has failed during an attempt to lock all pages associated with a long catalog object, or a long message.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C91E00

During a request issued by CSQIPUT5 or CSQIPUT6, an attempt to obtain a page level lock was unsuccessful.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C91F00

During a request issued by CSQIPUT5 or CSQIPUT6, an attempt to obtain a record level lock was unsuccessful.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C92000

An attempt to obtain a page level lock on the owner page relating to an object or message was unsuccessful.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C92100

An attempt to obtain a page level lock while trying to insert data was unsuccessful.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C92200

An attempt to obtain a record level lock while trying to insert data was unsuccessful.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C92300

An attempt to obtain a record level lock while trying to amend data was unsuccessful.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C92400

An attempt to get a lock on object type concatenated with object name within CSQIMGE1 was unsuccessful.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C92500, 00C92600, 00C92700, 00C92800, 00C92900, 00C92A00, 00C92B00, 00C92C00, 00C92D00, 00C92E00, 00C92F00, 00C93000

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C93100

A keyed read queue has encountered an error. A problem has occurred in the hash-table structure for the queue.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C93200, 00C93300

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C93500

IBM MQ was extending a page set at startup, based on log records from earlier dynamic page set extend operations. (IBM MQ does this so that any media recovery operation will have the required number of pages available in the page set.)

The page set could not be extended to the required RBA value.

The contents of the relevant registers are as follows:

R0

The number of the page set that could no longer be extended

R2

The logged page number that IBM MQ was trying to extend to

R3

The high page number at restart. This is the base from which IBM MQ was extending.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Create a larger page set, using multiple disk volumes if required, with a larger secondary extent value. The high page number of the page set should at least match that shown in register 2 in the dump.

00C93700

A queue contains messages, but the storage class named in the queue definition does not exist. This is an error.

This reason code is issued on queue manager restart if it is **not** the first time the queue manager has been started after migration to a new version.

Register 2 contains the first 4 characters of the storage class name, and register 3 contains characters 5 through 8.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the dump and a listing of your page set 0 and contact IBM Support.

00C93800

A queue contains messages, which are on a page set other than that defined by the storage class named by the queue.

This reason code is issued on queue manager restart if it is **not** the first time the queue manager has been started after migration to a new version. It is preceded by one or more instances of message CSQI028E.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the dump and a listing of your page set 0 and contact IBM Support.

00C93900

During MQPUT processing, IBM MQ was unable to acquire a lock on the storage class of the queue.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C93A00

During MQGET processing, IBM MQ was unable to acquire a lock on the queue it was processing.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C93B00

During MQPUT processing, IBM MQ was unable to acquire a lock on the queue it was processing.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C93C00

During MQGET processing, IBM MQ was unable to retrieve a message page from a queue it was processing.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C93D00, 00C93E00, 00C93F00, 00C94000, 00C94100

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C94200

MQ received a return code indicating an error from the RRS ATREINT service.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

The return code from ATREINT is in register 15. See the [z/OS MVS Programming: Resource Recovery](#) manual for information about the return code.

00C94201

MQ received a return code indicating that RRS is not available from the RRS ATREINT service. This can occur if RRS is stopped when running an IBM MQ application linked with an RRS stub.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Ensure RRS is running when using an IBM MQ application linked with an RRS stub

00C94300

MQ received a return code indicating an error from the RRS ATRSIT service.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

The return code from ATRSIT is in register 15. See the [z/OS MVS Programming: Resource Recovery](#) manual for information about the return code.

00C94400

MQ received a return code indicating an error from the RRS ATRSPID service.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

The return code from ATRSPID is in register 15. See the [z/OS MVS Programming: Resource Recovery](#) manual for information about the return code.

00C94500, 00C94501, 00C94502

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C94503

A page set that has been the subject of the RESETPAGE function had not previously been through a clean shutdown of the queue manager. Using this page set for subsequent IBM MQ processing would lead to data integrity problems.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Check the page sets that are defined to the queue manager. One or more of the page sets has been the subject of a RESETPAGE operation. Do not run the RESETPAGE operation against page sets that are either of the following:

- Fuzzy page set backups
- From a queue manager that has terminated abnormally

If you are unable to solve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C94505

An internal error has occurred.

An attempt to restart with a log from another queue manager was detected. The queue sharing group name recorded in the log during checkpoint does not match the name of the queue sharing group in the queue manager using that log. If the correct log is being used, you can perform the change only after a clean shutdown of the queue manager, that is, after a quiesce.

Message CSQI060E is issued before this error occurs.

System action

Restart is terminated abnormally with completion code X'5C6' and a dump is produced.

System programmer response

Restart the queue manager using the correct logs and BSDS, or change the QSGDATA system parameter. Note that you cannot change the name of the queue sharing group that a queue manager uses unless it has been shut down normally.

The following registers in the dump contain helpful values:

- R0 = the queue sharing group name recorded in the log
- R2 = the queue sharing group name in the running queue manager

00C94506

An internal error has occurred.

An attempt to restart with a log from another queue manager was detected. The shared queue manager identifier recorded in the log during checkpoint does not match the shared queue manager identifier in the queue manager using that log. If the correct log is being used, the entry in the Db2 CSQ.ADMIN_B_QMGR table for this queue manager has been corrupted.

Message CSQI061E is issued before this error occurs.

System action

Restart is terminated abnormally with completion code X'5C6' and a dump is produced.

System programmer response

Restart the queue manager using the correct logs and BSDS. If the correct logs are being used, correct the entry for the queue manager in the Db2 CSQ.ADMIN_B_QMGR table. If you cannot resolve the problem, contact IBM Support for assistance.

The following registers in the dump contain helpful values:

- R0 = the queue manager identifier recorded in the log
- R2 = the queue manager identifier in the running queue manager

00C94507

An internal error has occurred during processing of Mark Skip Backout.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C94510

A request was made to a coupling facility resource manager service within IBM MQ. The coupling facility resource manager service returned an unexpected return code.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C94511

An attempt to obtain storage for the data manager's use was unsuccessful. This indicates there could be a wider-ranging problem relating to storage availability.

System action

The queue manager is terminated and a dump is produced.

System programmer response

Check that you are running with the recommended region size, and if not, reset your system and restart the queue manager. If this is not the cause, use these items to diagnose the cause of the problem:

- Queue manager job log
- Information about any other storage-related problems
- System dump resulting from the error

00C94512

A request was made to a Db2 resource manager service within IBM MQ. The Db2 resource manager service returned an unexpected return code.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C94513

A request was made to a coupling facility resource manager service within IBM MQ. The coupling facility resource manager service returned an unexpected return code.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C9451A

A request was made to a Db2 resource manager service within IBM MQ during restart. The Db2 resource manager service returned an unexpected return code related to a locked table condition.

System action

The queue manager terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Restart the queue manager. If you started several queue managers at the same time, try restarting them one at a time to alleviate this condition.

If the problem persists, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C94525

An internal error has occurred.

An attempt to restart with a page set that has not had RESETPAGE run was detected.

Message CSQI050E is issued before this error occurs.

System action

Restart is terminated abnormally with completion code X'5C6' and a dump is produced.

System programmer response

Restart the queue manager, after running CSQUTIL, with the RESETPAGE option for the page set or sets indicated in the CSQI050E messages

00C94526

During MQOPEN processing, IBM MQ detected the presence of duplicate queue control blocks.

System action

The MQOPEN call fails with reason code MQRC_OBJECT_NOT_UNIQUE and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

00C9FEEE

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 951](#) and contact IBM Support.

Related tasks

[Contacting IBM Support](#)

回復ログ・マネージャー・コード (X'D1')

ここにリストされていない回復ログ・マネージャー理由コードが発生する場合、内部エラーが発生しています。以下の診断項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

診断

- エラーが発生するまでの期間のコンソール出力。
- エラーが原因のシステム・ダンプ。
- CICS を使用している場合は、CICS トランザクション・ダンプの出力。
- 適切な、IBM MQ、z/OS、Db2、CICS、および IMS のサービス・レベル。
- SYS1.LOGREC の印刷出力 (理由コードがアクティブなキュー・マネージャーから発行された場合)
- 理由コードがアクティブなキュー・マネージャーから発行された場合は、問題に関連するログ・レコードが含まれている CSQ1LOGP 詳細レポート。
- BSDS の内容。ログ・マップ印刷ユーティリティ (CSQJU004) を実行してリストを入手する。
- 多くの理由コードに関してシステム診断作業域 (SDWA) の SYS1.LOGREC 可変記録域 (VRA) に提供される、以下の回復ログ・マネージャー標準診断情報

MODID

エラーを出したモジュールの名前。

地位

変更レベル。

COMPONENT

回復ログ・マネージャーのサブコンポーネント ID。

REGISTERS

異常終了発生時の汎用レジスター (GPR) 0 から 15。

00D10010

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しで指定されたログ終了範囲の値が、開始範囲の値より小さいか、または等しい。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

ログ印刷ユーティリティーの呼び出しで指定したログ範囲入力制御パラメーターを訂正する。

ログ・サービスの詳細については、[CSQ1LOGP](#) を参照してください。

00D10011

ログ印刷ユーティリティー (CSQ1LOGP) の呼び出しで、要求の実行に必要なストレージを取得できなかった。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

この起動でのジョブ制御言語 (JCL) の EXEC ステートメントの REGION パラメーターの値が小さすぎることが原因と思われる。REGION サイズを大きくし、ログ印刷要求を再実行する。

ログ・サービスの詳細については、[アドレス・スペース・ストレージ](#) を参照してください。

00D10012

ログ印刷ユーティリティー (CSQ1LOGP) の呼び出しが失敗した。これは、この呼び出しに対するジョブ制御言語 (JCL) で、ブートストラップ・データ・セット (BSDS)、または BSDS がない場合には活動ログ・データ・セットおよび保存ログ・データ・セットの使用が指定されていなかったためである。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

JCL を訂正し、ログ印刷要求を再実行する。

BSDS について詳しくは、[BSDS の管理](#) を参照してください。

00D10013

ログ印刷ユーティリティー (CSQ1LOGP) の呼び出しで、ブートストラップ・データ・セット (BSDS) をオープンしようとしたとき、VSAM エラーが起こった。

この理由コードと VSAM 戻りコードは、メッセージ CSQ1221E に付随して出される。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

VSAM OPEN エラーの意味を判別するには、「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照。該当する処置を取ったうえで、ログ印刷要求を再実行する。

00D10014

ログ印刷ユーティリティー (CSQ1LOGP) の呼び出しに対するジョブ制御言語 (JCL) で、ブートストラップ・データ・セット (BSDS) の使用が指定されていたが、ユーティリティー制御ステートメントで RBASTART および RBAEND に値が指定されていなかった。

RBASTART および RBAEND 値は、活動ログまたは保存ログを使用するときには必要ではないが、BSDS を使用するときには必ず指定しなければならない。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

以下のいずれかを実行します。

- 引き続き BSDS を使用する場合には、ユーティリティー制御ステートメントを変更して、RBASTART および RBAEND に値を指定する。
- 代わりに、活動データ・セットおよび保存データ・セットを使用する場合には、JCL を訂正する。

詳しくは、[CSQ1LOGP](#) を参照してください。

00D10015

ログ印刷ユーティリティー (CSQ1LOGP) の呼び出しが失敗した。ブートストラップ・データ・セットのレコード形式が、使用されているログ印刷サービスのリリースと互換性がないためである。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

ログ印刷サービスのリリースが、該当する BSDS レコード形式に対して正しいものかどうかを確認する。

詳しくは、[CSQ1LOGP](#) を参照してください。

00D10019

ログ印刷ユーティリティー (CSQ1LOGP) の呼び出しで、ブートストラップ・データ・セット (BSDS) をオープンしようとしたとき、VSAM エラーが起こった。このエラーは、VSAM アクセス方式サービス・プログラム (AMS) の VERIFY 呼び出しによって訂正できると判断されたが、VERIFY 呼び出しも失敗に終わった。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

以下の項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

- ログ印刷ユーティリティー (CSQ1LOGP) の呼び出しに使用したユーザーのジョブ制御言語 (JCL) のコピー
- ユーザーが印刷しようとしていたログ・データ・セット

00D10020

データの終わりに達した (つまり、ログの終わり、ユーザー指定のデータ・セットの終わり、またはユーザー指定の RBAEND 値に達した) ため、ログ印刷ユーティリティー (CSQ1LOGP) がこのメッセージを出した。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

これはエラーではない。この理由コードは、正常なデータ終了条件を示している。処置は必要ない。

詳しくは、[CSQ1LOGP](#) を参照してください。

00D10021

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しで、ログ・データ・セットを切り替えるとき、ログ RBA 範囲内でギャップが見つかった。これは、ログ・レコードが欠落している可能性があることを示す。

通常は、ユーティリティを起動するときに使用されるジョブ制御言語 (JCL) 内の ACTIVE および ARCHIVE DD 名 (または、ブートストラップ・データ・セット (BSDS) を使用してログ・データ・セットにアクセスしている場合は BSDS DD 名) によって、一連の連続するログ・レコードが入力として提供される。ログ・データ・セットが JCL から取り除かれていた場合に、この条件が生じる。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

ログ・データ・セットが意図的に取り除かれられない場合は、JCL を調べ、ログ・データ・セットが RBA 値の昇順に指定されているかどうかを確認する。BSDS を使用してログ・データ・セットにアクセスしている場合には、ログ・マップ印刷ユーティリティ (CSQJU004) を使用して、BSDS に記録されている RBA の範囲を調べ、活動ログ・データ・セットまたは保存ログ・データ・セットの削除の結果として生じた可能性のある RBA ギャップを書き留めておく。

ログ・エラーが発生した可能性がある場合は、活動ログの問題を参照して、ログの問題の処理方法について確認する。

00D10022

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しで、ログ・データ・セットを切り替えるとき、ログ RBA 範囲内でギャップが見つかった。これは、ログ・レコードが欠落している可能性があることを示す。ギャップの後の次のレコードのログ RBA が、ユーティリティ制御ステートメントで指定した RBAEND 値より大きくなっている。

通常は、ユーティリティを起動するときに使用されるジョブ制御言語 (JCL) 内の ACTIVE および ARCHIVE DD 名 (または、ブートストラップ・データ・セット (BSDS) を使用してログ・データ・セットにアクセスしている場合は BSDS DD 名) によって、一連の連続するログ・レコードが入力として提供される。ログ・データ・セットが JCL から取り除かれていた場合に、この条件が生じる。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

ユーティリティ制御ステートメントに指定した JCL と RBAEND 値を確認する。

ログ・データ・セットが意図的に取り除かれたものではない場合は、ログ・データ・セット・セットが RBA 値の昇順に指定されているかどうかを確認する。BSDS を使用してログ・データ・セットにアクセスしている場合には、ログ・マップ印刷ユーティリティ (CSQJU004) を使用して、BSDS に記録されている RBA の範囲を調べ、活動ログ・データ・セットまたは保存ログ・データ・セットの削除の結果として生じた可能性のある RBA ギャップを書き留めておく。

ログ・エラーが発生した可能性がある場合は、活動ログの問題を参照して、ログの問題の処理方法について確認する。

00D10024

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しで、ログ RBA シーケンス・エラーが見つかった。前のログ・レコードの RBA が、現行のログ・レコードの RBA より大きい。

通常は、ユーティリティを起動するときに使用されるジョブ制御言語 (JCL) 内の ACTIVE および ARCHIVE DD 名 (または、ブートストラップ・データ・セット (BSDS) を使用してログ・データ・セットにアクセスしている場合は BSDS DD 名) によって、一連の連続するログ・レコードが入力として提供される。ログ・データ・セットの順序が正しくない場合に、この条件が生じる。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

JCL を調べ、ログ・データ・セットが RBA 値の昇順に指定されているかどうかを確認する。BSDS を使用してログ・データ・セットにアクセスしている場合には、ログ・マップ印刷ユーティリティ (CSQJU004) を使用して、それぞれの保存ログ・データ・セットおよび活動ログ・データ・セットに関連付けられている RBA の範囲を調べる。保存と活動の両方のログ・データ・セットが使用される場合には、最初の保存ログ・データ・セットに、最小のログ RBA 値が含まれていなければならない。必要であれば、JCL における保存/活動ログ・データ・セットの連結を調整し、ログ・レコードが確実に RBA の昇順で読み取られるようにしてから、ログ印刷要求を再実行する。

ログ・エラーが発生した可能性がある場合は、活動ログの問題を参照して、ログの問題の処理方法について確認する。

00D10025

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しで、活動ログ・データ・セットを読み取ろうとしたとき、VSAM GET エラーが起こった。

この理由コードおよび VSAM 戻りコードと理由コードは、メッセージ CSQ1221E で出される。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照して、VSAM GET エラーおよび RPL エラー・コードの意味を判別してください。該当する処置を行い、エラーを訂正し、ログ印刷要求を再実行する。

00D10026

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しが、失敗に終わった。RBASTART および RBAEND によって指定された範囲内にある RBA 値が、ログ・データ・セット上に見つからなかったためである。

この理由コードと見つからなかった RBA 値が、メッセージ CSQ1216E に付随して出される。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

ユーティリティ制御ステートメントを調べ、RBASTART と RBAEND の値が、JCL 内の DD 名によって定義されたすべての活動/保存ログ・データ・セットで使用できる RBA の下限または上限を超えていないかどうかを確認する。

BSDS を使用してログ・データ・セットにアクセスしている場合には、ログ・マップ印刷ユーティリティ (CSQJU004) を使用して、それぞれの保存ログ・データ・セットおよび活動ログ・データ・セットに関連付けられている RBA の範囲を調べる。

必要があれば、JCL およびユーティリティ制御ステートメントを訂正し、ログ印刷要求を再実行する。

詳しくは、CSQ1LOGP を参照してください。

00D10027

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しで、ブートストラップ・データ・セット (BSDS) を読み取ろうとしたとき、VSAM GET エラーが起こった。

この理由コードおよび VSAM 戻りコードと理由コードは、メッセージ CSQ1221E で出される。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照して、VSAM GET エラーおよび RPL エラー・コードの意味を判別してください。該当する処置を行い、エラーを訂正し、ログ印刷要求を再実行する。

00D1002A

前もってオープンされていない活動ログ・データ・セット内の RBA 値が要求されたため、ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しが失敗に終わった。活動ログ・データ・セットをオープンしようとしたときに、VSAM OPEN エラーが発生した。

この理由コードおよび VSAM 戻りコードと理由コードは、メッセージ CSQ1221E で出される。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照して、VSAM OPEN エラーおよび ACB エラー・コードの意味を判別してください。該当する処置を行い、エラーを訂正し、ログ印刷要求を再実行する。

00D1002B

前もってオープンされていない活動ログ・データ・セット内の RBA 値が要求されたため、ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しが失敗に終わった。活動ログ・データ・セットをオープンしようとしたときに、VSAM OPEN エラーが発生した。VSAM OPEN エラーは訂正できると判別されましたが、問題のアクティブ・ログ・データ・セットが VSAM ESDS (入力順データ・セット) であるか、VSAM LDS (線形データ・セット) であるかを判別するために z/OS TESTCB マクロを実行しているときに、システム・エラーが発生しました。

この理由コードおよび VSAM 戻りコードと理由コードは、メッセージ CSQ1221E で出される。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照して、VSAM OPEN エラーおよび ACB エラー・コードの意味を判別してください。該当する処置を行い、エラーを訂正し、ログ印刷要求を再実行する。

問題が解決しない場合は、以下の項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

- ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しに使用したジョブ制御言語 (JCL) のコピー
- ユーザーが印刷しようとしていたログ・データ・セット

00D1002C

前もってオープンされていない活動ログ・データ・セット内の RBA 値が要求されたため、ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しが失敗に終わった。活動ログ・データ・セットをオープンしようとしたときに、VSAM OPEN エラーが発生した。この VSAM OPEN エラーは、VSAM アクセス方式サービス・プログラム (AMS) の VERIFY 呼び出しによって訂正できると判断されたが、VERIFY 呼び出しも失敗に終わった。

この理由コードおよび VSAM 戻りコードと理由コードは、メッセージ CSQ1221E で出される。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照して、VSAM OPEN エラーおよび ACB エラー・コードの意味を判別してください。該当する処置を行い、エラーを訂正し、ログ印刷要求を再実行する。

00D1002D

前もってオープンされていない活動ログ・データ・セット内の RBA 値が要求されたため、ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しが失敗に終わった。活動ログ・データ・セットをオープンしようとしたときに、VSAM OPEN エラーが発生した。この VSAM OPEN エラーは、VSAM アクセス方式サービス・プログラム (AMS) の VERIFY 呼び出しによって訂正されたが、その後、VSAM ポインターを (VSAM AMS POINT 呼び出しを使用して) 活動ログ・データ・セットの先頭に再位置付けする試みが失敗に終わった。

この理由コードおよび VSAM 戻りコードと理由コードは、メッセージ CSQ1221E で出される。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照して、VSAM OPEN エラーおよび ACB エラー・コードの意味を判別してください。該当する処置を行い、エラーを訂正し、ログ印刷要求を再実行する。

00D10030

ログ印刷ユーティリティの呼び出しの結果、内部エラーが発生した。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

以下の項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

- ログ印刷ユーティリティの呼び出しに使用したジョブ制御言語 (JCL) のコピー
- ユーザーが印刷しようとしていたログ・データ・セット

00D10031

前もってオープンされていないログ・データ・セット内の RBA 値が要求されたため、ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しが失敗に終わった。ジョブ制御言語 (JCL) では、必要なデータ・セットを決定するためのガイドとしてブートストラップ・データ・セット (BSDS) を使用するように指定されている。適切なデータ・セットを動的に (z/OS SVC 99 を使用して) 割り振ろうとしましたが、失敗しました。

この理由コードは、動的割り振り情報コードおよびエラー・コード (S99INFO および S99ERROR) とともに、メッセージ CSQ1222E で出される。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

これらのコードについての情報は、MVS 許可アセンブラー・サービス・ガイドの [DYNALLOC 戻りコードの解釈](#) トピックに進みます。適切な処置を行い、エラーを訂正し、ログ印刷要求を再実行する。

00D10040

前もってオープンされていない保存ログ・データ・セット (テープ上の) の RBA 値が要求されたため、ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しが失敗に終わった。保存ログ・テープ上の 2 番目のファイル (通常は最初のファイルにブートストラップ・データ・セットが入っている) をオープンしようとしたが、保存ログ・データ・セットが保存ログ・テープ上の 2 番目のファイルではなかったため、オープンできなかった。その後、2 番目のファイルの再オープンを試みる前に、データ・セット順序番号をデフォルト値の 2 から 1 に変更するためにジョブ・ファイル制御ブロック読み取り (RDJFCB) マクロが呼び出されたが、マクロ呼び出しがエラーに終わった。

この理由コードおよび RDJFCB 戻りコードは、メッセージ CSQ1223E で出される。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

「z/OS DFSMSdfp 拡張サービス」を参照して、RDJFCB エラー・コードの意味を判別してください。適切な処置を行い、エラーを訂正し、ログ印刷要求を再実行する。

00D10044

前もってオープンされていない保存ログ・データ・セット内の RBA 値が要求されたため、ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しが失敗に終わった。保存ログ・データ・セットをオープンしようとしたが、QSAM (待機順次アクセス方式) エラーが発生した。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

QSAM エラーの原因を示すメッセージがないかをコンソールで調べる。適切な処置を行い、エラーを訂正し、ログ印刷要求を再実行する。

00D10048

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しが失敗に終わった。保存ログ・データ・セットの読み取り中に、QSAM (待機順次アクセス方式) 読み取りエラーが発生したためである。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

QSAM エラーの原因を示すメッセージがないかをコンソールで調べる。適切な処置を行い、エラーを訂正し、ログ印刷要求を再実行する。

00D10050

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しが失敗に終わった。ジョブ制御言語 (JCL) の中で、ブートストラップ・データ・セット (BSDS) が誤って保存データ・セットの 1 つとして指定されていたためである。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

JCL を調べ、連結 ARCHIVE データ・セットの 1 つとして指定された BSDS データ・セットの指定を取り除く。ログ印刷要求を再実行する。

詳しくは、[保存ログの問題](#)を参照してください。

00D10061

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しは成功したが、活動または保存ログ・データ・セットのログ・レコード制御間隔 (CI) に関して、予期しない物理レコード長が検出された。

そのログ・データ・セットのデータが、IBM MQ によって書き込まれた後に破壊された可能性がある。そのログ・データ・セットのデータはまだ使用可能であるかもしれないが、注意が必要である。

活動ログ・データ・セットのログ CI の長さは、4096 バイトと予期されている。保存ログ・データ・セットのログ CI の長さは、4089 バイトと予期されている。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。ログ印刷要求は完了した。この理由コードは、警告として出される。

システム・プログラマーの応答

ジョブ制御言語 (JCL) の中の活動および保存 DD 名が、活動ログおよび保存ログを正しく参照しているかどうかを確認する。

問題が解決しない場合は、以下の項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

- ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しに使用したジョブ制御言語 (JCL) のコピー
- ユーザーが印刷しようとしていたログ・データ・セット

00D10062

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しは成功したが、中間スパン・ログ・レコード・セグメントのための最初のログ・レコード・セグメントが見つからなかった。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。ログ印刷要求は完了した。この理由コードは、警告として出される。

システム・プログラマーの応答

この条件の原因としては、次のようないくつかの理由が考えられる。

- IBM MQ のコンポーネントである回復ログ・マネージャーが、初めからログ・レコード・ヘッダー (LRH) を正しく作成していない。
- ログ・レコード・セグメントの LRH が、IBM MQ により書き込まれた後で損傷を受けている。
- ログ RBA 値にギャップがあること (理由コード X'00D10021') を通知された後、アプリケーション・プログラムが処理を続行した。

問題のレコード・セグメントの直前および直後にあるレコード・セグメントを調べ、ログ・レコード・セグメントの LRH が実際にエラーであるかどうかを判別する。

適切な処置を行い、エラーを訂正し、ログ印刷要求を再実行する。問題が解決しない場合は、以下の項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

- ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しに使用したジョブ制御言語 (JCL) のコピー
- ユーザーが印刷しようとしていたログ・データ・セット

00D10063

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しは成功したが、最後のスパン・ログ・レコード・セグメントのための最初のログ・レコード・セグメントが見つからなかった。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。ログ印刷要求は完了した。この理由コードは、警告として出される。

システム・プログラマーの応答

この条件の原因としては、次のようないくつかの理由が考えられる。

- IBM MQ のコンポーネントである回復ログ・マネージャーが、初めからログ・レコード・ヘッダー (LRH) を正しく作成していない。
- ログ・レコード・セグメントの LRH が、IBM MQ により書き込まれた後で損傷を受けている。
- ログ RBA 値にギャップがあること (理由コード X'00D10021') を通知された後、アプリケーション・プログラムが処理を続行した。

問題のレコード・セグメントの直前および直後にあるレコード・セグメントを調べ、ログ・レコード・セグメントの LRH が実際にエラーであるかどうかを判別する。

適切な処置を行い、エラーを訂正し、ログ印刷要求を再実行する。問題が解決しない場合は、以下の項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

- ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しに使用したジョブ制御言語 (JCL) のコピー
- ユーザーが印刷しようとしていたログ・データ・セット

00D10114

IBM MQ が、キュー共有グループ・テーブル CSQ.ADMIN_B_QSG のメンバー情報の読み取りまたは書き込みに失敗した。

システム・アクション

キュー・マネージャーの初期設定は終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャー・ジョブ・ログの中でこのエラーの直前に報告されている Db2 SQL エラーを調べ、原因を判別する。多くの場合、テーブルのセットアップに間違いがある、プランがバインドされていない、または Db2 のプランを実行するには権限が不十分であるなどが原因である。

00D10121

BSDS が無効である。無効な BSDS は、前に BSDS 変換ユーティリティを実行しようとして失敗した結果である。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動が終了する。

システム・プログラマーの応答

BSDS 変換ユーティリティを実行する手順には、元の BSDS の名前を変更する操作が含まれる。データ・セットの名前を変更することにより BSDS を変換前の元のコピーに戻した後、変換を再試行する。変換が正常に終了したら、エラー・メッセージを出したプログラムを再試行する。

00D10122

BSDS バージョンがこのリリースの IBM MQ でサポートされていない。

システム・アクション

キュー・マネージャー始動、または BSDS にアクセスしようとしていたプロセスが終了します。

システム・プログラマーの応答

BSDS バージョンをサポートする IBM MQ バージョンのキュー・マネージャーを開始してください。

ログ・マップ印刷ユーティリティ (CSQJU004) を実行すると、BSDS のバージョンを判別できます

00D10250

アクティブ・ログ・データ・セットの変更を反映するために BSDS または z/OS カタログのいずれかを更新しているときに、リカバリー不能エラーが発生しました。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、キュー・マネージャーは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

SYS1.LOGREC および SVC ダンプを入手する。エラーを訂正し、キュー・マネージャーを再始動する。

965 ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。また、システム診断作業域 (SDWA) の可変記録域 (VRA) に記録される情報についての詳細は、理由コード X'00D10252' の説明を参照。

このエラーに先立って出された CSQJxxxx メッセージをコンソール・ログから探し、これが BSDS エラーであるか z/OS カタログ更新エラーであるかを判別する。問題を解決できない場合は、サポートに連絡してください。

00D10251

ログ・バッファ書き込み機能で回復不能なエラーが起こった。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、キュー・マネージャーは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

SYS1.LOGREC および SVC ダンプを入手する。このエラーは、通常、前のエラーが原因で起こる。前のエラーは、SYS1.LOGREC に記録されており、SVC ダンプが作成されているはずである。SYS1.LOGREC 項目および SVC ダンプを調べ、前に起こった 1 次エラーを判別しなければならない。

965 ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。また、システム診断作業域 (SDWA) の可変記録域 (VRA) に記録される情報についての詳細は、理由コード X'00D10252' の説明を参照。

問題を解決できない場合は、サポートに連絡してください。

00D10252

この理由コードは、システム診断作業域 (SDWA) の可変記録域 (VRA) に記録される情報の形式を定義するために使用される。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。

システム・プログラマーの応答

SYS1.LOGREC および SVC ダンプを入手する。

965 ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。さらに、次の情報が、SDWA の VRA に入れられる。

- 理由コード X'00D10252' が、VRA キー 6 に保管される。
- ログ・バッファ書き込み機能の回復トラッキング域が、VRA キー 10 に保管される。

00D10253

パラメーター・リストまたは他のデータを、呼び出し側のアドレス・スペースからキュー・マネージャーのアドレス・スペースに移動する MVCP 命令で、アプリケーション・プログラムのプログラム検査が発生した。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。

システム・プログラマーの応答

SYS1.LOGREC および SVC ダンプを入手する。965 ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

データの移動元の区域を調べる。キーが正しくないか、アドレスが問題の原因と考えられる。この正しくない命令は、DA 命令コードを含み、アドレスと移動すべき長さを示すレジスターを示している。

00D10254

データをキュー・マネージャーのアドレス・スペースから呼び出し側のアドレス・スペースに移動する MVCS 命令で、アプリケーション・プログラムのプログラム検査が発生した。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。

システム・プログラマーの応答

SYS1.LOGREC および SVC ダンプを入手する。965 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

データの移動先の区域を調べる。キーが正しくないか、アドレスが問題の原因と考えられる。この正しくない命令は、DB 命令コードを含み、アドレスと移動すべき長さを示すレジスターを示している。

00D10257

ログ RBA が、FFF800000000 (6 バイトのログ RBA を使用している場合) または FFFFFFFC000000000 (8 バイトのログ RBA を使用している場合) の値に到達した、あるいはこの値を超えた。ログ RBA 範囲が CRITICAL レベルに達し、キュー・マネージャーの処理を続行するために使用可能な範囲が小さくなりすぎたため、キュー・マネージャーは強制終了されます。

システム・アクション

キュー・マネージャーは理由コード 00D10257 で終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動するためには、その前にログをリセットする必要がある。この処置を行わないと、次のログ・データ・セットの切り替えの後に、キュー・マネージャーは再び異常終了する。

CSQUTIL ユーティリティ・プログラムを使用してログをリセットする方法については、RESETPAGE を参照。

キュー・マネージャーが 6 バイトのログ RBA を使用している場合は、8 バイトのログ RBA を使用するようキュー・マネージャーを変換することを検討してください。詳しくは、アドレス指定可能な最大ログ範囲を広げる計画を参照してください。

00D10261

ログ制御間隔 (CI) のレコードおよびレコード・セグメントを走査しているときに、正方向のレコード・チェーンが壊れていることが見つかった。この条件は、ログ CI のいずれかのレコードのログ・レコード・ヘッダーに含まれているレコード長が正しくないことが原因で起こる。

システム・アクション

この理由コードは、ログ・バッファが活動ログに書き込まれる前に走査されたときには、活動キュー・マネージャーによって、あるいは、CI がユーザー指定の活動または保存ログ・データ・セットから取り出されるときには、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理プログラムによって出される可能性がある。

この理由コードが活動キュー・マネージャーによって発行された場合には、診断レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

- このエラーが CSQJOFF1 によって検出された場合には、活動ログ・データ・セットの保存は終了し、欠陥のある活動ログ・データ・セットには「停止」のマークが付けられる。
- このエラーが CSQJR005 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、呼び出し側のエージェントが終了する。
- このエラーが CSQJW009 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、キュー・マネージャーが終了する。
- このエラーが CSQJW107 によって検出された場合には、キュー・マネージャーが終了する。

この理由コードが、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理の結果として発行された場合には、エラーは出されず、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

965 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10262

ログ制御間隔 (CI) の走査中に、その CI の最後のレコードまたはレコード・セグメントへのオフセットが正しくないことがわかった。

システム・アクション

この理由コードは、ログ・バッファが活動ログに書き込まれる前に走査されたときには、活動キュー・マネージャーによって、あるいは、CI がユーザー指定の活動または保存ログ・データ・セットから取り出されるときには、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理プログラムによって出される可能性がある。

この理由コードが活動キュー・マネージャーによって発行された場合には、診断レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

- このエラーが CSQJOFF1 によって検出された場合には、活動ログ・データ・セットの保存は終了し、欠陥のある活動ログ・データ・セットには「停止」のマークが付けられる。
- このエラーが CSQJR005 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、呼び出し側のエージェントが終了する。
- このエラーが CSQJW009 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、キュー・マネージャーが終了する。
- このエラーが CSQJW107 によって検出された場合には、キュー・マネージャーが終了する。

この理由コードが、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理の結果として発行された場合には、エラーは出されず、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

965 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10263

ログ制御間隔 (CI) の走査中に、VSAM RDF/CIDF 制御情報が正しくないことがわかった。

システム・アクション

この理由コードは、ログ・バッファが活動ログに書き込まれる前に走査されたときには、活動キュー・マネージャーによって、あるいは、CI がユーザー指定の活動または保存ログ・データ・セットから取り出されるときには、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理プログラムによって出される可能性がある。

この理由コードが活動キュー・マネージャーによって発行された場合には、診断レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

- このエラーが CSQJOFF1 によって検出された場合には、活動ログ・データ・セットの保存は終了し、欠陥のある活動ログ・データ・セットには「停止」のマークが付けられる。
- このエラーが CSQJR005 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、呼び出し側のエージェントが終了する。
- このエラーが CSQJW009 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、キュー・マネージャーが終了する。
- このエラーが CSQJW107 によって検出された場合には、キュー・マネージャーが終了する。

この理由コードが、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理の結果として発行された場合には、エラーは出されず、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

965 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10264

ログ制御間隔 (CI) を走査していたところ、その CI の開始ログ RBA は予期された RBA ではなかった。

システム・アクション

この理由コードは、ログ・バッファが活動ログに書き込まれる前に走査されたときには、活動キュー・マネージャーによって、あるいは、CI がユーザー指定の活動または保存ログ・データ・セットから取り出されるときには、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理プログラムによって出される可能性がある。

この理由コードが活動キュー・マネージャーによって発行された場合には、診断レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

- このエラーが CSQJOFF1 によって検出された場合には、活動ログ・データ・セットの保存は終了し、欠陥のある活動ログ・データ・セットには「停止」のマークが付けられる。
- このエラーが CSQJR005 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、呼び出し側のエージェントが終了する。
- このエラーが CSQJW009 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、キュー・マネージャーが終了する。
- このエラーが CSQJW107 によって検出された場合には、キュー・マネージャーが終了する。

この理由コードが、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理の結果として発行された場合には、エラーは出されず、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

965 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10265

ログ制御間 (CI) のレコードおよびレコード・セグメントを走査しているときに、逆方向のレコード・チェーンが壊れていることが見つかった。この条件は、ログ CI のいずれかのレコードのログ・レコード・ヘッダーに含まれているレコード長が正しくないことが原因で起こる。

システム・アクション

この理由コードは、ログ・バッファが活動ログに書き込まれる前に走査されたときには、活動キュー・マネージャーによって、あるいは、CI がユーザー指定の活動または保存ログ・データ・セットから取り出されるときには、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理プログラムによって出される可能性がある。

この理由コードが活動キュー・マネージャーによって発行された場合には、診断レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

- このエラーが CSQJOFF1 によって検出された場合には、活動ログ・データ・セットの保存は終了する。
- このエラーが CSQJR005 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、呼び出し側のエージェントが終了する。
- このエラーが CSQJW009 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、キュー・マネージャーが終了する。
- このエラーが CSQJW107 によって検出された場合には、キュー・マネージャーが終了する。

この理由コードが、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理の結果として発行された場合には、エラーは出されず、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

965 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10266

ログ制御間隔 (CI) を走査していたところ、あるレコードの回復単位 ID または LINK RBA が、その CI の開始ログ RBA と矛盾していることがわかった。

システム・アクション

この理由コードは、ログ・バッファが活動ログに書き込まれる前に走査されたときには、活動キュー・マネージャーによって、あるいは、CI がユーザー指定の活動または保存ログ・データ・セットから取り出されるときには、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理プログラムによって出される可能性がある。

この理由コードが活動キュー・マネージャーによって発行された場合には、診断レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

- このエラーが CSQJOFF1 によって検出された場合には、活動ログ・データ・セットの保存は終了し、欠陥のある活動ログ・データ・セットには「停止」のマークが付けられる。
- このエラーが CSQJR005 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、呼び出し側のエージェントが終了する。
- このエラーが CSQJW009 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、キュー・マネージャーが終了する。
- このエラーが CSQJW107 によって検出された場合には、キュー・マネージャーが終了する。

この理由コードが、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理の結果として発行された場合には、エラーは出されず、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

965 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10267

ログ制御間隔 (CI) を走査していたところ、中間または最後のスパン・レコード・セグメントが、そのログ CI に含まれる最初のセグメントではなかった。

システム・アクション

この理由コードは、ログ・バッファが活動ログに書き込まれる前に走査されたときには、活動キュー・マネージャーによって、あるいは、CI がユーザー指定の活動または保存ログ・データ・セットから取り出されるときには、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理プログラムによって出される。

この理由コードが活動キュー・マネージャーによって発行された場合には、診断レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

- このエラーが CSQJOFF1 によって検出された場合には、活動ログ・データ・セットの保存は終了し、欠陥のある活動ログ・データ・セットには「停止」のマークが付けられる。
- このエラーが CSQJR005 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、呼び出し側のエージェントが終了する。
- このエラーが CSQJW009 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、キュー・マネージャーが終了する。
- このエラーが CSQJW107 によって検出された場合には、キュー・マネージャーが終了する。

この理由コードが、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理の結果として発行された場合には、エラーは出されず、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

965 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10268

ログ制御間隔 (CI) を走査していたところ、最初または中間のスパン・レコード・セグメントが、そのログ CI に含まれる最後のセグメントではなかった。

システム・アクション

この理由コードは、ログ・バッファが活動ログに書き込まれる前に走査されたときには、活動キュー・マネージャーによって、あるいは、CIがユーザー指定の活動または保存ログ・データ・セットから取り出されるときには、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理プログラムによって出される可能性がある。

この理由コードが活動キュー・マネージャーによって発行された場合には、診断レコードがSYS1.LOGRECに書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

- このエラーがCSQJOFF1によって検出された場合には、活動ログ・データ・セットの保存は終了し、欠陥のある活動ログ・データ・セットには「停止」のマークが付けられる。
- このエラーがCSQJR005によって検出された場合には、メッセージCSQJ012Eが発行され、呼び出し側のエージェン트가終了する。
- このエラーがCSQJW009によって検出された場合には、メッセージCSQJ012Eが発行され、キュー・マネージャーが終了する。
- このエラーがCSQJW107によって検出された場合には、キュー・マネージャーが終了する。

この理由コードが、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理の結果として発行された場合には、エラーは出されず、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

965 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10269

活動ログへの物理的書き込みの準備として、現行のログ・バッファを静的書き込みバッファに移動しようとしたとき、バッファの1つで回復不能なエラーが見つかった。

システム・アクション

実行単位はSYS1.LOGRECにレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

965 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10270

ログ・レコード・ヘッダーの長さが予期された長さではなかったために、LOG WRITE 要求が異常終了した。これは内部エラーです。

システム・アクション

実行単位はSYS1.LOGRECにレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

965 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

SYS1.LOGREC、コンソール・ログ、および SVC ダンプを調べ、LOG WRITE 処理中に起こったそれ以前のエラーに関する情報を入手する。

問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10327

無効なログ LOGRBA があったために、LOG READ は正常に完了しなかった。要求された RBA による MODE(DIRECT) を指定したログ読み取りは、ログ・レコードの開始位置になっていない。

システム・アクション

SVC ダンプが要求され、実行単位は異常終了する。ログ読み取りエラーがキュー・マネージャーの開始時に発生した場合、そのキュー・マネージャーは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

MODE(DIRECT)を指定したログ読み取りは、ログ・データの順次(多くの場合は逆方向の)読み取りをして未確定の作業単位のロックを回復する前、または作業単位のバックアウトをする前に、作業単位の開始RBAがログで検出可能かどうかを検査するために、キュー・マネージャーで最も一般的に使用される。このメッセージは、キュー・マネージャーが不完全なログ・データを使用して開始されていることを示す。

IBM MQにエラーがあると思われる場合は、以下のデータを収集して、IBMサポートに連絡する。

- BSDS
- すべてのアクティブ・ログとアーカイブ・ログ
- このエラーにより作成された SVC ダンプ

00D1032A

LOG READ が正常に完了しなかった。BSDS は、指定された RBA をログ・データ・セットにマップしない。BSDS にエラーがあるか、ログ・データ・セットが削除されているかのいずれかである。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

965 ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00D1032B

ログ・データ・セットを割り振ろうとしたところエラーが起こったため、LOG READ が正常に完了しなかった。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

965 ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

LOGREC および SVC ダンプ情報を調べる。また、回復ログ・マネージャー割り振り処理から、接頭部が CSQJ のメッセージがそれ以前に発行されている場合には、それらを調べる。

00D1032C

ログ・データ・セットをオープンまたはクローズしようとしたところエラーが発生したため、LOG READ が正常に完了しなかった。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

965 ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

LOGREC および SVC ダンプ情報を調べる。また、回復ログ・マネージャーのオープン/クローズ処理からそれ以前に発行されたメッセージを調べる。これらのメッセージは、CSQJ の接頭部をもつ。

00D1032E

内部エラーが起こったため、LOG READ が正常に完了しなかった。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

965 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。SYS1.LOGREC および SVC ダンプ情報を調べる。

00D10340

LOG READ が正常に完了しなかった。これは、回復ログ・マネージャー (RLM) の内部論理エラーを反映している。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

965 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

SYS1.LOGREC、コンソール・ログ、および SVC ダンプを調べ、LOG READ 処理中に起こったそれ以前のエラーに関する情報を入手する。

問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10341

ログ・レコードの順方向 READ 中にエラーが検出されたため、LOG READ は正常に完了しなかった。これは内部エラーです。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

965 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

SYS1.LOGREC、コンソール・ログ、および SVC ダンプを調べ、LOG READ 処理中に起こったそれ以前のエラーに関する情報を入手する。

問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10342

ログ・レコードの逆方向 READ 中にエラーが検出されたため、LOG READ は正常に完了しなかった。これは内部エラーです。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

965 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

SYS1.LOGREC、コンソール・ログ、および SVC ダンプを調べ、LOG READ 処理中に起こったそれ以前のエラーに関する情報を入手する。

問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10343

CI オフセットが無効なためにエラーが発生し、ログ・レコードの READ 中にそれを検出したため、LOG READ は正常に完了しなかった。これは内部エラーです。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

965 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

SYS1.LOGREC、コンソール・ログ、および SVC ダンプを調べ、LOG READ 処理中に起こったそれ以前のエラーに関する情報を入手する。

問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10345

保存ログ・データ・セットの CATALOG LOCATE 要求からエラーを受け取ったため、LOG READ は正常に完了しなかった。要求された保存ログ・データ・セットは、カタログ解除されているか削除されている可能性がある。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

965 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。SYS1.LOGREC および SVC ダンプを調べる。

00D10348

ログ RBA の読み取り試行中に、最大再試行数を超過した。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

コンソール・ログを調べ、関連したエラーがないか調べる。この問題は、ユーザーが、BSDS に対して正しくない RBA 範囲で保存ログ・データ・セットまたは活動ログ・データ・セットを指定した場合に生じる可能性がある。

問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10354

LOG READ 要求は正常に終了したが、ログ・レコード・ヘッダーの長さが予期された長さではなかった。これは内部エラーです。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

965 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

SYS1.LOGREC、コンソール・ログ、および SVC ダンプを調べ、LOG READ 処理中に起こったそれ以前のエラーに関する情報を入手する。

問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10406

ブートストラップ・データ・セット・アクセス・サービスが、無効な機能コードをもつ要求を受け取った。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

965 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10410

READ BSDS RECORD が正常に完了しなかった。VSAM からエラーが戻された。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

コンソール・ログから、VSAM からの戻りコードを調べる。

問題を解決できない場合は、これらの値をメモし、965 ページの『診断』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D10411

WRITE UPDATE BSDS RECORD が正常に完了しなかった。VSAM からエラーが戻された。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

コンソール・ログから、VSAM からの戻りコードを調べる。

問題を解決できない場合は、これらの値をメモし、965 ページの『診断』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D10412

WRITE INSERT BSDS RECORD が正常に完了しなかった。VSAM からエラーが戻された。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

コンソール・ログから、VSAM からの戻りコードを調べる。

問題を解決できない場合は、これらの値をメモし、965 ページの『診断』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D10413

DELETE BSDS RECORD が正常に完了しなかった。VSAM からエラーが戻された。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

コンソール・ログから、VSAM からの戻りコードを調べる。

問題を解決できない場合は、これらの値をメモし、965 ページの『診断』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D10419

z/OS GETDSAB サービスからエラーが戻されました。

システム・アクション

現行のユーティリティーは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートに連絡してください。

00D1041A

z/OS SWAREQ サービスからエラーが戻されました。

システム・アクション

現行のユーティリティーは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートに連絡してください。

00D1041B

ユーティリティーの接続先となった Db2 サブシステムは、このバージョンの IBM MQ for z/OS の最小システム要件を満たしていません。

システム・アクション

現行のユーティリティーは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

ユーティリティーのパラメーターで指定された Db2 データ共有グループ名とサブシステム ID が正しいこと、および Db2 サブシステムがこのバージョンの IBM MQ for z/OS のシステム要件を満たしていることを確認する。

IBM MQ の前提条件のリンク先 Web ページを参照して、IBM MQ for z/OS の要件を確認する。

00D10700

SETLOCK OBTAIN によって、エラーの完了コードが戻された。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

965 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。ダンプ内のレジスター 0 には、SETLOCK OBTAIN からの戻りコードが入っている。

00D10701

SETLOCK RELEASE によって、エラーの完了コードが戻された。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

965 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。ダンプ内のレジスター 0 には、SETLOCK RELEASE からの戻りコードが入っている。

00D10901

ピア・キュー・マネージャーのリカバリー中に、ピア・キュー・マネージャーの SCA メンバー・レコードが見つかりません。

システム・アクション

これにより、通常、ピア・キュー・マネージャーのリカバリーは続行できなくなる。

システム・プログラマーの応答

ピア・キュー・マネージャーを手動で再始動すると、問題の解決が試行されます。

00D10905

ピア・キュー・マネージャーのリカバリー中に、ピア・キュー・マネージャーの BSDS システム・タイム・スタンプ間に矛盾が検出された。これは、ピア・キュー・マネージャーがデュアル BSDS を使用していた場合にのみ起こる。

システム・アクション

これにより、通常、ピア・キュー・マネージャーのリカバリーは続行できなくなる。

システム・プログラマーの応答

[ログ・マップ印刷ユーティリティ \(CSQJU004\)](#) を使用して、ピア・キュー・マネージャーのシステム・タイム・スタンプの矛盾を確認できる。

矛盾を解決するには、ピア・キュー・マネージャーを手動で再始動する。これにより、問題の解決が試行される。

関連タスク

[IBM サポートへの連絡](#)

Lock manager codes (X'D3')

If a lock manager reason code occurs that is not listed here, an internal error has occurred. Collect the following diagnostic items and contact IBM Support.

Diagnostics

- A description of the actions that led to the error or, if applicable, either a listing of the application program or the input string to a utility program that was being run at the time of the error.
- The console output for the period leading up to the error.
- The queue manager job log.
- The system dump resulting from the error.
- If you are using CICS, the CICS transaction dump output.
- Appropriate IBM MQ, z/OS, Db2, CICS, and IMS service levels.

00D301F1

An attempt to obtain storage was unsuccessful. This is probably because there is insufficient storage in your region.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Check that you are running in a region that is large enough. If not, reset your system and restart the queue manager. If this is not the cause of the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 986](#) and contact IBM Support.

00D301F2

An attempt to obtain storage was unsuccessful. This is probably because there is insufficient storage in your region.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Check that you are running in a region that is large enough. If not, reset your system and restart the queue manager. If this is not the cause of the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 986](#) and contact IBM Support.

00D301F3

An attempt to obtain storage was unsuccessful. This is probably because there is insufficient storage in your region.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Check that you are running in a region that is large enough. If not, reset your system and restart the queue manager. If this is not the cause of the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 986](#) and contact IBM Support.

00D301F4

An attempt to obtain storage was unsuccessful. This is probably because there is insufficient storage in your region.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Check that you are running in a region that is large enough. If not, reset your system and restart the queue manager. If this is not the cause of the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 986](#) and contact IBM Support.

00D301F5

An attempt to obtain storage was unsuccessful. This is probably because there is insufficient storage in your region.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Check that you are running in a region that is large enough. If not, reset your system and restart the queue manager. If this is not the cause of the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 986](#) and contact IBM Support.

00D302F1, 00D302F2, 00D302F3, 00D302F4, 00D302F5, 00D303F1, 00D303F2, 00D303F3, 00D304F1, 00D305F1, 00D306F1

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 986](#) and contact IBM Support.

00D31094, 00D31095, 00D31096, 00D31097

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager might terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 986](#) and contact IBM Support.

Related tasks

[Contacting IBM Support](#)

Message manager codes (X'D4')

If a message manager reason code occurs that is not listed here, an internal error has occurred. Collect the following diagnostic items and contact IBM Support.

Diagnostics

- A description of the actions that led to the error or, if applicable, either a listing of the application program or the input string to a utility program that was being run at the time of the error.
- The console output for the period leading up to the error.
- The queue manager job log.
- The system dump resulting from the error.
- If you are using CICS, the CICS transaction dump output.
- Appropriate IBM MQ, z/OS, Db2, CICS, and IMS service levels.
- If you are using the IBM MQ Operations and Control panels, the ISPF panel name.

00D40001, 00D40002

An internal error has occurred while processing a command.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D40003, 00D40004, 00D40007

An internal error has occurred while processing a DEFINE or ALTER command for a queue.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D40008

An internal error has occurred while processing a DEFINE or ALTER command for a process.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D40009

An internal error has occurred while processing a DEFINE or ALTER command for a queue.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D4000A, 00D4000B, 00D4000C

An internal error has occurred while processing a command.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D4000D

An internal error has occurred while attempting to establish a processing environment for the command processors.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D4000E, 00D4000F

An internal error has occurred while attempting to establish a processing environment.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D40010

An internal error has occurred while processing a command.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D40011, 00D40012, 00D40013, 00D40014

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D40015

An attempt to write a trigger message to the initiation queue or the dead-letter queue was unsuccessful because of an internal error (for example, a storage overwrite).

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D40016, 00D40017, 00D40018, 00D4001A, 00D4001B, 00D4001C, 00D4001D, 00D4001E, 00D4001F

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D40020, 00D40021, 00D40022, 00D40023, 00D40024, 00D40025

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D40026

An internal error has occurred while processing a DEFINE CHANNEL or ALTER command for a channel.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D40027, 00D40028, 00D40029, 00D4002A, 00D4002B, 00D4002C

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D4002D

An attempt to write a message to a queue was unsuccessful because of an internal error (for example, a storage overwrite).

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D4002E

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D4002F

An internal error has occurred while processing a channel command.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D40030

The report option requested in a message was not recognized.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. A dump is produced.

System programmer response

Correct the value of the report option field (the value specified is given in register 2).

00D40031, 00D40032

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D40033

An internal error has occurred while processing a STGCLASS command.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D40034, 00D40035, 00D40036, 00D40037, 00D40038, 00D40039

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D4003B

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#). Also collect details of the queue sharing group (QSG) and of the queue managers active, as well as the queue managers defined to the queue sharing

group at the time of the error. This information can be obtained by entering the following z/OS commands:

```
D XCF,GRP
```

to display a list of all QSGs in the coupling facility.

```
D XCF,GRP,qsg-name,ALL
```

to display status about the queue managers defined to queue sharing group qsg-name. contact IBM Support.

00D4003C, 00D4003D

An internal error has occurred while processing a DEFINE CFSTRUCT or ALTER CFSTRUCT or DELETE CFSTRUCT command.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D4003E

An internal error has occurred while processing an AUTHINFO command.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D4003F

An internal error has occurred while processing a DEFINE MAXSMSGS or ALTER QMGR command.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D40040

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D40042

An internal processing error has occurred. The repository cannot locate an object that it has been asked to release.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D40043, 00D40044, 00D40045, 00D40046, 00D40047, 00D40048

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D40049

An internal processing error has occurred while attempting to create the queue manager object during end restart processing.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D40050

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. The IGQ agent then attempts to recover.

System programmer response

If the IGQ agent fails to recover properly, an attempt could be made to disable the SYSTEM.QSG.TRANSMIT.QUEUE to force the IGQ agent to enter retry, or if this fails, the IGQ agent task can be restarted by issuing an ALTER QMGR IGQ(ENABLED) command or by restarting the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D40051, 00D40052

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D40053

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) together with a dump of the coupling facility list structure that the shared queue is defined to use, and contact IBM Support.

00D40054

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#). Also collect details of the queue sharing group (QSG) and of the queue managers active, as well as the queue managers defined to the queue sharing group at the time of the error. This information can be obtained by entering the following z/OS commands:

```
D XCF,GRP
```

to display a list of all QSGs in the coupling facility.

```
D XCF,GRP,qsg-name,ALL
```

to display status about the queue managers defined to queue sharing group qsg-name. contact IBM Support.

00D40055, 00D40056

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D40060

While performing Shared Channel Recovery Processing, Db2 was found to be inactive.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Check why Db2 related tasks are unavailable.

The recovery process is terminated; some channels might have been recovered, while others have not. Any channels that were not recovered will be recovered when the recovery process next runs; alternatively, they can be restarted manually. For more information about recovery and restart mechanisms used by IBM MQ, see [Recovery and restart](#).

00D40062, 00D40064, 00D40065, 00D40066

An internal error has occurred during shared channel recovery.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

The recovery process is terminated; some channels may have been recovered, while others have not. Any channels that were not recovered will be recovered when the recovery process next runs; alternatively, they can be restarted manually. For more information about recovery and restart mechanisms used by IBM MQ, see [Recovery and restart](#).

00D40067

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D40068

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. In some cases, the queue manager might terminate with completion code X'6C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager if necessary.

00D40069

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#). Also collect details of the queue sharing group (QSG) and of the queue managers active, as well as the queue managers defined to the queue sharing group at the time of the error. This information can be obtained by entering the following z/OS commands:

```
D XCF,GRP
```

to display a list of all QSGs in the coupling facility.

```
D XCF,GRP,qsg-name,ALL
```

to display status about the queue managers defined to queue sharing group qsg-name. contact IBM Support.

00D40070

An internal error has occurred involving the cluster cache.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and the channel initiator job log, and contact IBM Support.

00D40071, 00D40072, 00D40073, 00D40074, 00D40075, 00D40076, 00D40077, 00D40078, 00D40079, 00D4007A, 00D4007B, 00D4007C, 00D4007D, 00D4007E, 00D4007F

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.
Restart the queue manager if necessary.

00D40080

An internal error has occurred involving the cluster cache.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and the channel initiator job log, and contact IBM Support.

00D40081

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.
Restart the queue manager if necessary.

00D40082

An internal error has occurred involving the cluster cache.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and the channel initiator job log, and contact IBM Support.

00D40083

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.
Restart the queue manager if necessary.

00D40084

An internal error has occurred when opening a managed destination queue.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.
Restart the queue manager if necessary.

00D40085

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager if necessary.

00D40086, 00D40087

An internal error has occurred while processing a DEFINE or ALTER command for a subscription.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D40091

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager if necessary.

00D4009C

An internal error has occurred while processing an **ALTER SMDS** or **RESET SMDS** command.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D4009D

An internal error has occurred while processing a **START SMDSCONN** or **STOP SMDSCONN** command.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D400B1

While putting a message, an error was detected in the chaining of message headers.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Check the chaining fields (**CodedCharSetId**, **Encoding**, and **Format**) in the MQMD and headers for the problem message to determine which values are invalid or inconsistent.

At each point in the header chain, the field values must correctly describe the data in the next header:

- The **Format** field identifies the correct format of the next header
- The **CodedCharSetId** field identifies the character set of text fields in the next header
- The **Encoding** field identifies the numeric encoding of numeric fields in the next header

00D400B9

A cluster cache allocation request exceeded the maximum allowed size.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D400D0

Unable to get below the line storage for data control blocks when attempting to open the QM INI (CSQM0MIN) data set.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D401F1

Whilst processing a get message request, the specified search type (message identifier or correlation identifier) was found to be in error. This indicates a data corruption error.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

00D44001

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed. This code indicates that an object of the specified name exists, but is of a different subtype; it might not necessarily have the same disposition in the queue sharing group. This can only occur with subtypes of queues or channels. Message CSQM099I is also issued, indicating the object in error.

Severity

8

System action

The command is ignored.

System programmer response

Reissue the command, ensuring that all object subtypes are correct.

00D44002

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed. This code indicates that the object specified on the request could not be located. Message CSQM094I or message CSQM125I is also issued, indicating the object in error.

It is also issued in message CSQM086E, indicating that the queue manager object could not be located.

Severity

8

System action

For CSQM090E, the command is ignored. For CSQM086E, the queue manager fails to restart.

System programmer response

If you are using a queue sharing group, check that Db2 is available and not suspended. Define the object in question. For the queue manager, reissue the START QMGR command to restart the queue manager.

Note: An object of the same name and type, but of a different disposition, might already exist. If you are dealing with a queue or channel object, an object of the same name, but of a different subtype, might already exist.

00D44003

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed. This code indicates that the object specified on the request already exists. This will only arise when trying to define a new object. Message CSQM095I is also issued.

Severity

8

System action

The command is ignored.

System programmer response

Use the object in question.

00D44004

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed. This code indicates that one or more of the keywords on the command failed the parameter validation rules that apply to them. One or more other more specific messages are also issued, indicating the reason for the validation failure.

Severity

8

System action

The command is ignored.

System programmer response

Refer to the more specific associated message to determine what the error is.

00D44005

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed. This code indicates that one of the following situations has occurred:

- The object specified on the request is currently open. This typically happens when an object is in use through the API or a trigger message is being written to it, but it could also arise because the object specified is in the process of being deleted. For a local queue, it can occur because there are messages currently on the queue. Message CSQM101I or CSQM115I is also issued.
- A request has been issued for a local queue, but this queue has incomplete units of recovery outstanding for it. Message CSQM110I is also issued.
- An alter, delete, or define request was made against a storage class that is in use (that is, there is a queue defined as using the storage class, and there are messages currently on the queue. Message CSQM101I is also issued.

- An ALTER CFSTRUCT command was issued and an associated shared queue has messages or uncommitted message activity.

Severity

8

System action

The command is ignored.

System programmer response

Refer to the description of message CSQM101I, CSQM110I, or CSQM115I as appropriate.

00D44006

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed. This code indicates that a request has been issued to delete a local queue. The PURGE option has not been specified, but there are messages on the queue. Message CSQM103I is also issued.

Severity

8

System action

The command is ignored.

System programmer response

If the local queue must be deleted, even though there are messages on it, reissue the command with the PURGE option.

00D44007

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed. This code indicates that a request has been issued for a local queue that is dynamic, but this queue has been flagged for deletion. Message CSQM104I is also issued.

Severity

8

System action

The command is ignored.

System programmer response

None, the local queue will be deleted as soon as possible.

00D44008

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed. This code indicates that the object specified on the request needs updating because the IBM MQ version has changed, but that this cannot be done because the object is currently open. Message CSQM101I is also issued.

Severity

8

System action

The command is ignored.

System programmer response

Wait until the object is closed and reissue the command.

00D44009

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed, and is accompanied by message CSQM112E or message CSQM117E indicating the object in error. It is also issued in message CSQM086E during queue manager restart.

This code indicates that a request has been issued for an object, but the object information could not be accessed because of an error on page set zero.

Severity

8

System action

The command is ignored or the queue manager fails to restart.

System programmer response

Check for error messages on the console log that might relate to the problem. Verify that page set zero is set up correctly; refer to [Managing page sets](#) for information about this.

00D4400A

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed, and is accompanied by message CSQM113E indicating the object in error. It is also issued in message CSQM086E during queue manager restart. This code indicates that a request has been issued for an object, but page set zero is full.

Severity

8

System action

The command is ignored or the queue manager fails to restart.

System programmer response

Increase the size of page set zero. Refer to [Managing page sets](#) for information about how to do this.

00D4400B

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed, and is accompanied by message CSQM114E. This code indicates that a request has been issued for a local queue, but no more local queues could be defined. There is an implementation limit of 524 287 for the total number of local queues that can exist. For shared queues, there is a limit of 512 queues in a single coupling facility structure, and 512 structures altogether.

For the indexes used by shared queues (OBJ_QUEUE_IX1 and OBJ_QUEUE_IX2), 48 KB of space allocation is sufficient for 512 queues.

Severity

4

System action

The command is ignored.

System programmer response

Delete any existing queues that are no longer required.

00D4400C

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed. It indicates that the command is not allowed for a particular subtype of an object, as shown in the accompanying more specific message.

Severity

4

System action

The command is ignored.

System programmer response

Reissue the command with the object name specified correctly.

00D4400D

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed, and is accompanied by message CSQM127I. This code indicates that a request was issued specifying a namelist as a list of cluster names, but there are no names in the namelist.

Severity

8

System action

The command is ignored.

System programmer response

Specify a namelist that is not empty.

00D4400E

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed, and is accompanied by message CSQM112E or message CSQM117E indicating the object in error. It is also issued in message CSQM086E during queue manager restart. This code indicates that a request has been issued for an object, but that a page set that it requires is not defined.

Severity

8

System action

The command is ignored or the queue manager fails to restart.

System programmer response

Ensure that the necessary page set is defined in the initialization input data set CSQINP1, and has a DD statement in the queue manager started task JCL procedure. Restart the queue manager.

00D4400F

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed, and is accompanied by message CSQM112E or message CSQM117E indicating the object in error. It is also issued in message CSQM086E during queue manager restart. This code indicates that a request has been issued for an object, but that a page set that it requires is not open.

Severity

8

System action

The command is ignored or the queue manager fails to restart.

System programmer response

Ensure that the necessary page set is defined in the initialization input data set CSQINP1, and has a DD statement in the queue manager started task JCL procedure. Restart the queue manager.

00D44010

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed. This code indicates that a request was issued to change the default transmission queue for the queue manager, but the queue is already in use.

Severity

8

System action

The command is ignored.

System programmer response

Wait until the queue is no longer in use, or choose another queue.

00D44011

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed, and is accompanied by message CSQM128E. This code indicates that a request was issued that required a message to be sent to a command queue, but the message could not be put.

Severity

8

System action

The command is ignored.

System programmer response

Resolve the problem with the command queue.

00D44013

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed, and is accompanied by message CSQM160I indicating the object in error.

Severity

8

System action

The command is ignored.

System programmer response

See message CSQM160I for more information.

00D44014

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed, and is accompanied by message CSQM161I.

Severity

8

System action

The command is ignored.

System programmer response

See message CSQM161I for more information.

00D44015

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed, and is accompanied by message CSQM164I indicating the object in error.

Severity

8

System action

The command is ignored.

System programmer response

See message CSQM164I for more information.

00D44016

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed, and is accompanied by message CSQM163I indicating the object in error.

Severity

8

System action

The command stops processing.

System programmer response

See message CSQM163I for more information.

00D44017

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed, and is accompanied by message CSQM112E or message CSQM117E indicating the object in error. It is also issued in message CSQM086E during queue manager restart.

This code indicates that a request has been issued for an object, but the object information could not be accessed because coupling facility structure has failed.

Severity

8

System action

The command is ignored or the queue manager fails to restart.

System programmer response

Check for error messages on the console log that might relate to the problem. Use the RECOVER CFSTRUCT command to recover the coupling facility structure.

00D44018

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed, and is accompanied by message CSQM112E or message CSQM117E indicating the object in error. It is also issued in message CSQM086E during queue manager restart.

This code indicates that a request has been issued for an object, but the object information could not be accessed because there is an error or inconsistency in the coupling facility information.

This code might also occur as a result of the coupling facility structure for the queue being full.

Severity

8

System action

The command is ignored or the queue manager fails to restart.

System programmer response

Check for error messages on the console log that might relate to the problem.

Check that the coupling facility structure for the queue is not full.

Check that Db2 is available and not suspended. If the problem persists, it might be necessary to restart the queue manager.

00D44019

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed, and is accompanied by message CSQM112E or message CSQM117E indicating the object in error. It is also issued in message CSQM086E during queue manager restart.

This code indicates that a request has been issued for an object, but the object information could not be accessed because Db2 is not available or is suspended.

Severity

8

System action

The command is ignored or the queue manager fails to restart.

System programmer response

Check for error messages on the console log that might relate to the problem. Check that Db2 is available and not suspended.

00D44023

This reason code is issued in message CSQM090E and is accompanied by message CSQM117E when a command cannot be executed because a CF structure is not available.

System action

The command is ignored.

System programmer response

See reason code "[2346 \(092A\) \(RC2346\): MQRC_CF_STRUC_IN_USE](#)" on [page 1252](#) for more information.

00D4001B

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed, and is accompanied by message CSQM182E.

Severity

8

System action

The command is ignored.

System programmer response

See message [CSQM182E](#) for more information.

00D4001C

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed, and is accompanied by message CSQM183E.

Severity

8

System action

The command is ignored.

System programmer response

See message [CSQM183E](#) for more information.

00D4001D

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed, and is accompanied by message CSQM185E.

Severity

8

System action

The command is ignored.

System programmer response

See message [CSQM185E](#) for more information.

00D4001E

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed, and is accompanied by message CSQM186E.

Severity

8

System action

The command is ignored.

System programmer response

See message [CSQM186E](#) for more information.

00D4401F

This reason code is issued in message CSQM090E when a command has failed, and is accompanied by message CSQM190E.

Severity

8

System action

The command is ignored.

System programmer response

See message CSQM190E for more information.

00D44020

This reason code is issued in message CSQM090E when a PUBSUB command cannot be executed because PUBSUB is disabled.

System action

The command is ignored.

System programmer response

See message CSQM292I for more information.

00D4F001

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 988](#) and contact IBM Support.

Related tasks

[Contacting IBM Support](#)

Command server codes (X'D5')

If a command server reason code occurs that is not listed here, an internal error has occurred. Collect the following diagnostic items and contact IBM Support.

Diagnostics

- A description of the actions that led to the error or, if applicable, either a listing of the application program or the input string to a utility program that was being run at the time of the error.
- The console output for the period leading up to the error.
- The queue manager job log.
- The system dump resulting from the error.
- Appropriate IBM MQ, z/OS, Db2, CICS, and IMS service levels.
- Any trace information collected.
- If message [CSQN104I](#) or [CSQN202I](#) was issued, return and reason codes from the message.

00D50101

During initialization, the command server was unable to obtain storage. This is probably because there is insufficient storage in your region.

System action

Message CSQN104I is sent to the console containing this reason code and the return code from the internal storage macro. None of the commands in the initialization data set currently being processed are performed. Queue manager startup continues.

Note: If there is a storage problem, startup might not be successful.

System programmer response

Check that you are running in a region that is large enough, and if not, reset your system and restart the queue manager. If this is not the cause of the problem, collect the following items and contact IBM Support:

- Return and reason codes from CSQN104I message
- Trace of startup (if available)

00D50102

The command preprocessor ended abnormally while processing a command in the initialization input data set.

System action

Message CSQ9029E is produced, followed by message CSQN103I with this code as the return code, and a reason code of -1 indicating that the command was not processed, and a dump is produced. The next command is processed.

System programmer response

Look in the output data set to determine the command in error. Check that the command is correctly formed, that it applies to a valid object.

If the command is correct, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1007](#) and contact IBM Support.

00D50103

During initialization, an internal error occurred.

System action

Message CSQN104I is sent to the z/OS console, indicating the return and reason codes from the internal macro. The command server stops, without processing any commands.

System programmer response

Review the job log for messages about other errors that might be related. If you are unable to solve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1007](#), and contact IBM Support.

00D50104

An internal error occurred during initialization.

System action

Message CSQN104I is sent to the z/OS console, indicating the return and reason codes from the internal macro. The command server stops, without processing any commands.

System programmer response

Stop and restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1007](#) and contact IBM Support.

00D50105

An internal error has occurred.

System action

The command server terminates, and a dump is produced.

System programmer response

Stop and restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1007](#) and contact IBM Support.

00D50201

The command server was unable to obtain storage while starting. This return code typically occurs because there is insufficient storage in your region.

System action

Message CSQN202I is sent to the z/OS console, indicating the return code from the internal storage macro. The command server stops, without processing any commands.

System programmer response

Check that you are running in a region that is large enough, and if not, reset your system and restart the queue manager. If this is not the cause of the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1007](#) and contact IBM Support.

00D50202

An internal error has occurred.

System action

Message CSQN202I is sent to the z/OS console, indicating the return code from the internal macro. The command server stops, without processing any commands.

System programmer response

Review the job log for messages about other errors that might be related. If you are unable to solve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1007](#) and contact IBM Support.

00D50203

An internal error has occurred.

System action

Message [CSQN202I](#) is sent to the z/OS console, indicating the return code from the internal macro. The command server stops, without processing any commands.

System programmer response

Issue the **START CMDSERV** command to restart the command server.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1007](#) and contact IBM Support.

00D50208

The command server was unable to obtain storage during startup.

System action

Message [CSQN202I](#) is sent to the z/OS console, indicating the return code from the internal macro. The command server stops, without processing any commands.

System programmer response

Check that you are running in a region that is large enough, and if not, reset your system and restart the queue manager. If this is not the cause of the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1007](#) and contact IBM Support.

00D50209

The command preprocessor ended abnormally while processing a command from the command server.

System action

Message [CSQN205I](#) is put onto the reply-to queue with **COUNT=1**, **RETURN=00D50209**, and **REASON=-1** indicating that the command has not been processed. The command server processes the next command.

System programmer response

Check that the command is correctly formed, that it applies to a valid object.

If the command is correct, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1007](#) and contact IBM Support.

00D5020C

While waiting for a command, the command server did not recognize the reason for the end of the wait. This is because it was not one of the following:

- The arrival of a message
- The **STOP CMDSERV** command

System action

Messages [CSQN203I](#) and [CSQN206I](#) are sent to the console, containing the return and reason codes from the request function, and the ECB list.

The command server is terminated and a dump is produced.

System programmer response

Issue the **START CMDSERV** command to restart the command server.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1007](#) and contact IBM Support.

00D5020E

The command processor attempted to get a command from the system-command-input queue, but the attempt was unsuccessful because of an internal error.

System action

The command server continues processing. Message CSQN203I is written to the console containing the return and reason codes from the API call.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1007](#) and contact IBM Support.

00D5020F

The command processor got a command from the system-command-input queue, but was unable to process it because the message was not of type MQMT_REQUEST.

System action

The command processor processes the next command message.

00D50210

The command processor got a command from the system-command-input queue, but was unable to process it because the command message was of length zero.

System action

The command processor processes the next command message.

00D50211

The command processor got a command from the system-command-input queue, but was unable to process it because the command message consisted of blank characters only.

System action

The command processor processes the next command message.

00D50212

The command processor got a command from the system-command-input queue, but was unable to process it because the command message was greater than 32 762 characters long.

System action

The command processor processes the next command message.

00D54000

An internal error has occurred.

System action

The command server is terminated and a dump is produced.

System programmer response

Issue the **START CMDSERV** command to restart the command server.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1007](#) and contact IBM Support.

00D54nnn

The command processor got a command from the system-command-input queue, but was unable to process it because the command message indicated that data conversion was required and an error occurred during conversion. *nnn* is the reason code (in hexadecimal) returned by the MQGET call.

System action

The command processor processes the next command message.

System programmer response

Refer to [“API 完了コードと理由コード” on page 1123](#) for information about the reason code *nnn*.

Related tasks

[Contacting IBM Support](#)

Buffer manager codes (X'D7')

If a buffer manager reason code occurs that is not listed here, an internal error has occurred. Collect the following diagnostic items and contact IBM Support.

Diagnostics

- A description of the actions that led to the error or, if applicable, either a listing of the application program or the input string to a utility program that was being run at the time of the error.
- The console output for the period leading up to the error.
- The queue manager job log.
- The IBM MQ active log data set.
- The system dump resulting from the error.
- If you are using CICS, the CICS transaction dump output.
- Appropriate IBM MQ, z/OS, Db2, CICS, and IMS service levels.

00D70101

An attempt to obtain storage for a buffer manager control block (the PANC) was unsuccessful. This is probably because there is insufficient storage in your region.

System action

The queue manager is terminated, an entry is written to SYS1.LOGREC, and a dump is produced. Registers 2 and 0 contain the return and reason codes from the STORAGE or GETMAIN request.

System programmer response

Check that you are running in a region that is large enough, and if not, reset your system and restart the queue manager. If this does not resolve the problem, note the register values, and contact IBM Support.

00D70102

The name of the queue manager being restarted does not match the name recorded in a prior checkpoint log record.

System action

The queue manager is terminated, an entry is written to SYS1.LOGREC, and a dump is produced. This is preceded by message CSQP006I. Register 0 contains the name found in the log record. Register 2 contains the name of the queue manager being restarted.

System programmer response

Change the started task JCL procedure xxxxMSTR for the queue manager to name the appropriate bootstrap and log data sets.

The print log utility, CSQ1LOGP, can be used to view checkpoint records. You might also find the MQ active log data set useful for problem determination.

00D70103

An attempt to obtain storage for a buffer manager control block (a PSET) was unsuccessful.

System action

The queue manager is terminated, an entry is written to SYS1.LOGREC, and a dump is produced. Registers 2 and 0 contain the return and reason codes from the STORAGE or GETMAIN request.

System programmer response

Restart the queue manager.

Note the register values, and contact IBM Support.

00D70104

An attempt to obtain storage for a buffer manager control block (a BHDR) was unsuccessful.

System action

The queue manager is terminated, an entry is written to SYS1.LOGREC, and a dump is produced. Registers 2 and 0 contain the return and reason codes from the STORAGE or GETMAIN request.

System programmer response

Restart the queue manager.

Note the register values, and contact IBM Support.

00D70105

An internal error has occurred during dynamic page set expansion.

System action

The current page set extend task is terminated, an entry is written to SYS1.LOGREC, and a dump is produced. No further attempt will be made to expand the page set until the queue manager is restarted. Subsequent dynamic page set extend requests for other page sets are processed.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1011](#) and contact IBM Support.

00D70106

An internal error has occurred.

System action

An entry is written to SYS1.LOGREC, and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1011](#) and contact IBM Support.

00D70108

An attempt to obtain storage for the buffer pool was unsuccessful.

System action

The queue manager is terminated, an entry is written to SYS1.LOGREC, and a dump is produced. Register 2 contains the return code from the STORAGE, GETMAIN or IARV64 GETSTOR request. Register 3 contains the buffer pool number.

System programmer response

Provide sufficient storage for the number of buffers specified in the [DEFINE BUFFPOOL](#) command.

If the buffer pool is backed by page fixed storage, that is it has a PAGECLAS of FIXED4KB, check that there is enough real storage available on the system. For more information, see [Address space storage](#).

If it is not possible to rectify the problem:

- Alter the definition of the buffer pool in the CSQINP1 data set, to include the REPLACE attribute, and specify a smaller number of buffers, or
- Change the PAGECLAS attribute to 4KB.

00D7010A

An internal storage error has occurred.

System action

The queue manager is terminated, an entry is written to SYS1.LOGREC, and a dump is produced. Registers 2 and 3 contain the return and reason codes from the IARV64 GETSTOR request. Register 4 contains the buffer pool number.

System programmer response

Increase the value of the MEMLIMIT parameter.

00D70112

A critical process could not be started during queue manager initialization. This could be because there is insufficient storage in your region.

System action

The queue manager is terminated, an entry is written to SYS1.LOGREC, and a dump is produced. Register 0 contains the reason code for the error.

System programmer response

Check that you are running in a region that is large enough. If not, reset your system and restart the queue manager. If this does not resolve the problem, note the completion code and the reason code and contact IBM Support.

00D70113

A critical process could not be started during queue manager initialization. This could be because there is insufficient storage in your region.

System action

The queue manager is terminated, an entry is written to SYS1.LOGREC, and a dump is produced. Register 0 contains the reason code for the error.

System programmer response

Check that you are running in a region that is large enough. If not, reset your system and restart the queue manager. If this does not resolve the problem, note the completion code and the reason code and contact IBM Support.

00D70114

An internal cross-component consistency check failed.

System action

The request is terminated, an entry is written to SYS1.LOGREC, and a dump is produced. Register 0 contains the value in error.

System programmer response

Note the completion code and the reason code, collect the MQ active log data set, and contact IBM Support.

00D70116

An I/O error has occurred.

System action

An entry is written to SYS1.LOGREC, and a dump is produced. Register 0 contains the Media Manager reason code from an MMCALL call. In some circumstances, the queue manager will terminate. (This depends on the nature of the error, and the page set on which the error occurred.)

System programmer response

Restart the queue manager if necessary.

See the *z/OS DFSMSdfp Diagnosis* manual for information about return codes from the Media Manager. If you do not have access to the required manual, contact IBM Support, quoting the Media Manager reason code.

You might also find the MQ active log data set useful for problem determination.

00D70118

A page was about to be written to a page set, but was found to have improper format. The executing thread is terminated. (If this is the deferred write processor, the queue manager is terminated)

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Restart the queue manager. If the problem persists collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1011](#) and contact IBM Support.

00D70120

No buffers are available to steal. An executing thread needed a buffer in a buffer pool to bring a page in from the page set. The buffer pool is over-committed, and despite attempts to make more buffers available, including writing pages to the page set, no buffers could be released.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'. The API request is terminated with reason code MQRC_UNEXPECTED_ERROR, with the aim of reducing demand for the buffer pool.

System programmer response

Determine the problem buffer pool from preceding CSQP019I and CSQP020E messages. Review the size of the buffer pool with the DISPLAY USAGE command. Consider increasing the size of the buffer pool using the ALTER BUFFPOOL command.

00D70122

An unrecoverable error has occurred during check point.

System action

The queue manager is terminated, an entry is written to SYS1.LOGREC, and a dump is produced. Register 0 contains the reason code for the error.

System programmer response

Restart the queue manager.

Note the completion code and the reason code, collect the MQ active log data set, and contact IBM Support.

00D70133

An internal consistency check failed.

System action

The request is terminated, an entry is written to SYS1.LOGREC, and a dump is produced.

System programmer response

Note the completion code and the reason code, collect the MQ active log data set, and contact IBM Support.

00D70136

A critical process could not be started during queue manager initialization. This could be because there is insufficient storage in your region.

System action

The queue manager is terminated, an entry is written to SYS1.LOGREC, and a dump is produced. Register 0 contains the reason code for the error.

System programmer response

Check that you are running in a region that is large enough. If not, reset your system and restart the queue manager. If this does not resolve the problem, note the completion code and the reason code and contact IBM Support.

00D70137

A critical process could not be started during queue manager initialization. This could be because there is insufficient storage in your region.

System action

The queue manager is terminated, an entry is written to SYS1.LOGREC, and a dump is produced. Register 0 contains the reason code for the error.

System programmer response

Check that you are running in a region that is large enough. If not, reset your system and restart the queue manager. If this does not resolve the problem, note the completion code and the reason code and contact IBM Support.

00D70139

An attempt to allocate 64 bit storage for internal use failed.

System action

The queue manager is terminated.

System programmer response

Raise the value of the MEMLIMIT parameter. For more information, see [Address space storage](#).

00D7013A

An attempt to allocate storage for internal use failed. Register 2 contains the return code from the STORAGE request.

System action

The queue manager is terminated.

System programmer response

Provide sufficient storage. For more information, see [Address space storage](#).

00D7013B

An internal consistency check failed.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect buffer manager problem determination information, and contact IBM Support.

Related tasks

[Contacting IBM Support](#)

Recovery manager codes (X'D9')

If a recovery manager reason code occurs that is not listed here, an internal error has occurred. Collect the following diagnostic items and contact IBM Support.

Diagnostics

- A description of the actions that led to the error or, if applicable, either a listing of the application program or the input string to a utility program that was being run at the time of the error.
- The console output for the period leading up to the error.
- The queue manager job log.
- The system dump resulting from the error.
- A printout of SYS1.LOGREC.
- If you are using CICS, the CICS transaction dump output.
- Appropriate IBM MQ, z/OS, Db2, CICS, and IMS service levels.

00D90000

A recovery manager module received control from its FRR for retry and found an invalid retry point identifier. The name of the module in which the error occurred appears in the SYS1.LOGREC entry showing this reason code in register 15.

System action

Standard diagnostic information is provided. The error is recorded in SYS1.LOGREC, an SVC dump is scheduled, and queue manager termination is requested. The termination reason code reflects the function for which retry was unsuccessfully attempted.

System programmer response

This is a secondary error. Obtain a copy of SYS1.LOGREC and the SVC dump for this error and for the original problem that resulted in the retry attempt. Examine the SYS1.LOGREC information and the dumps from both the original and the secondary error to determine if the recovery parameter area was damaged or if retry incorrectly restored registers for the mainline module.

Restart the queue manager.

00D90002

The recovery manager startup notification routine received an error return code from the recovery log manager when attempting to read a recovery manager status table (RMST) record from the bootstrap data set (BSDS) in one of the following cases:

- When reading the record containing the RMST header. The first copy was successfully read, but the second copy could not be found.
- When reading records containing the RMST entries. A *no record found* condition was encountered before all entries were read.
- When reading either a header record or an entry record. The record exceeded its expected length.

This is an IBM MQ error.

System action

The recovery manager has no functional recovery routine (FRR) in place when this error occurs. It relies on its invoker, the facility startup function, to perform SYS1.LOGREC recording and to request a dump. The queue manager terminates with a X'00E80100' reason code.

System programmer response

The queue manager determined that the BSDS that it was reading has been corrupted. If you are running in a dual BSDS environment, determine which BSDS is corrupt, and follow the procedures described in [Recovering the BSDS](#) to recover it from the valid BSDS.

Similarly, if you are running in a single BSDS environment, refer to [Recovering the BSDS](#), which describes the procedures needed to recover your BSDS from an archived BSDS.

00D92001

The checkpoint/restart serial controller FRR invoked queue manager termination, because an unrecoverable error was detected while processing a request.

This is a queue manager termination reason code.

System action

Queue manager termination is initiated. Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested for the associated error.

System programmer response

Obtain a copy of the SYS1.LOGREC and the SVC dump for the original error, and follow the instructions associated with it.

Restart the queue manager.

00D92003

The restart request servicer FRR invoked queue manager termination, because an unrecoverable error was detected while processing a restart request.

This is a queue manager termination reason code.

System action

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested for the original error before queue manager termination is initiated.

System programmer response

Obtain a copy of SYS1.LOGREC and the SVC dump for the original error and follow the instructions associated with it.

Restart the queue manager.

00D92004

The shutdown checkpoint controller FRR invoked queue manager termination, because an unrecoverable error was detected while processing a shutdown checkpoint request.

This is a queue manager termination reason code.

System action

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested for the original error before queue manager termination is initiated.

System programmer response

Obtain a copy of SYS1.LOGREC and the SVC dump for the original error and follow the instructions associated with it.

Restart the queue manager.

00D92011

An internal error has occurred.

System action

The checkpoint process will end abnormally to prevent a damaged URE from being written out to the log, and the queue manager will be terminated. This is to prevent the loss or incorrect processing of an IBM MQ unit of recovery (UR). Restart will use the previous checkpoint and apply all the IBM MQ log records up to the point of the problem. Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is scheduled.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1016](#) and contact IBM Support.

00D92012

An internal error has occurred.

System action

The checkpoint process will end abnormally to prevent a damaged RURE from being written out to the log, and the queue manager will be terminated. This is to prevent the loss or incorrect processing of an IBM MQ unit of recovery. Restart will use the previous checkpoint and apply all the IBM MQ log records up to the point of the problem. Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is scheduled.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1016](#) and contact IBM Support.

00D92021

An internal error has occurred.

System action

The restart processing ends abnormally, which terminates the queue manager. This is to prevent the loss or incorrect processing of an IBM MQ unit of recovery.

System programmer response

Do not attempt to restart the queue manager until the error is resolved.

The log has become corrupted. If you are running with dual logging, try to start the queue manager from the undamaged log.

If you are unable to do achieve this, use the following procedure (you will lose all updates since your last back up):

1. Restore your page sets from the last set of full backups. The queue manager must have been shut down cleanly before taking the backup copies of the page sets.
2. Clear the logs by following the procedure detailed in [Resetting the queue manager's log](#).

See [Using the CSQUTIL utility for IBM MQ for z/OS](#) for information about restarting the queue manager from one log when using dual logging. If you are unable to resolve the problem, contact IBM Support.

00D92022

An internal error has occurred.

System action

The restart processing ends abnormally, which terminates the queue manager. This is to prevent the loss or incorrect processing of an IBM MQ unit of recovery.

System programmer response

Do not attempt to restart the queue manager until the error is resolved.

The log has become corrupted. If you are running with dual logging, try to start the queue manager from the undamaged log.

If you are unable to do achieve this, use the following procedure (you will lose all updates since your last back up):

1. Restore your page sets from the last set of full backups. The queue manager must have been shut down cleanly before taking the backup copies of the page sets.

2. Clear the logs by following the procedure detailed in [Resetting the queue manager's log](#).

See [Using the CSQUTIL utility for IBM MQ for z/OS](#) for information about restarting the queue manager from one log when using dual logging. If you are unable to resolve the problem, contact IBM Support.

00D92023

During queue manager restart in 6 byte log RBA mode, a log record has been encountered that is written with an 8 byte log RBA.

System action

The restart processing ends abnormally, which terminates the queue manager. This is to prevent the loss, or incorrect processing, of an IBM MQ unit of recovery.

System programmer response

Do not attempt to restart the queue manager until the error is resolved.

The queue manager might have been started with an incorrect log or BSDS. Ensure that the queue manager is started with the correct log and BSDS data sets. If this was not the cause of the problem, the log or BSDS has become corrupted.

To recover from a corrupted log or BSDS, if you are running with dual logging or dual BSDS, try to start the queue manager from the undamaged log.

If you are unable to do achieve this, use the following procedure. Note, that by carrying out this procedure, you will lose all updates since your last back up:

1. Restore your page sets from the last set of full backups. The queue manager must have been shut down cleanly before taking the backup copies of the page sets.
2. Clear the logs by following the procedure detailed in [Resetting the queue manager's log](#).

If necessary, when clearing the logs ensure that you convert the BSDS to the previous version, using the BSDS conversion utility CSQJUCNV.

See [Using the CSQUTIL utility for IBM MQ for z/OS](#). If you are unable to resolve the problem, contact IBM Support.

00D93001

The commit/backout FRR invoked queue manager termination, because an unrecoverable error was detected during 'must-complete' processing for phase 2 of a commit-UR request.

This is a queue manager termination reason code.

System action

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested for the original error before queue manager termination is initiated.

System programmer response

Obtain a copy of SYS1.LOGREC and the SVC dump for the original error and follow the instructions associated with it.

Restart the queue manager.

00D93011

A subcomponent of IBM MQ invoked commit when the agent state was invalid for commit-UR invocation. Commit-UR was requested for an agent that was modifying data. Either commit-UR or backout-UR was already in process, or the recovery structure (URE) was damaged.

System action

Abnormal termination of the agent results, including backing out (backout-UR) of its activity to the previous point of consistency. This releases all locks held by the agent for its resources.

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is scheduled. Additional information, identified in the SDWA variable recording area (VRA) by reason code X'00D9CCCC', is added to the VRA.

If the agent was in a 'must-complete' state (in-commit or in-backout), the queue manager is also terminated with reason code X'00D93001'. When the queue manager is next restarted, recoverable activity for this agent (such as an ensure-backout or ensure-commit UR) is handled to complete the commit or backout process.

System programmer response

This is an IBM MQ error. Examine the SYS1.LOGREC data and the dump to establish whether either commit-UR was invoked incorrectly or the control structure that reflects the state was damaged.

00D93012

A subcomponent of IBM MQ invoked commit when the agent state was invalid for commit-UR invocation. Commit-UR was invoked for an agent that was only retrieving data. Either commit-UR or backout-UR was already in process, or the ACE progress state field was damaged.

System action

Abnormal termination of the agent results, including backing out (backout-UR) of its activity to the previous point of consistency. This releases all locks held by the agent for its resources.

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is scheduled. Additional information, identified in the SDWA variable recording area (VRA) by reason code X'00D9CCCC', is added to the SDWA VRA.

System programmer response

This is an IBM MQ error. Examine the SYS1.LOGREC data and the dump to establish whether either commit-UR was invoked incorrectly or the control structure was damaged.

00D93100

This reason code indicates that an IBM MQ allied agent does not need to participate in the Phase-2 (Continue Commit) call, because all required work has been accomplished during the Phase-1 (Prepare) call.

This reason code is generated by the recovery manager when it is determined that an IBM MQ allied agent has not updated any IBM MQ resource since its last commit processing occurred.

System action

The 'yes' vote is registered with the commit coordinator.

System programmer response

None should be required because this is not an error reason code. This reason code is used for communication between components of IBM MQ.

00D94001

The commit/backout FRR invoked queue manager termination, because an unrecoverable error was detected during 'must-complete' processing for a backout-UR request.

This is a queue manager termination reason code.

System action

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested for the original error before queue manager termination is initiated.

System programmer response

Obtain a copy of SYS1.LOGREC and the SVC dump for the original error and follow the instructions associated with it.

Restart the queue manager.

00D94011

A subcomponent of IBM MQ invoked backout at a point when the agent state is invalid for invoking the function that backs out units of recovery. Either backout-UR or commit-UR phase-2 was already in process, or the agent structure was damaged.

System action

Abnormal termination of the agent results and, because the agent is in a 'must-complete' state, the queue manager is terminated with reason code X'00D94001'. When the queue manager is restarted, recoverable activity for this agent is handled to complete the commit or backout process.

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is scheduled. Additional information, identified in the SDWA variable recording area (VRA) by reason code X'00D9AAAA', is added to the SDWA VRA.

System programmer response

This is an IBM MQ error. Examine the SYS1.LOGREC data and the dump to establish whether commit-UR was invoked incorrectly or the control structure was damaged.

00D94012

During backout, the end of the log was read before all the expected log ranges had been processed. The error is accompanied by an abnormal termination with reason code X'00D94001'.

This could be because the queue manager has been started with a system parameter load module that specifies OFFLOAD=NO rather than OFFLOAD=YES.

System action

The agent is abnormally terminated with completion code X'5C6'. Because the agent is in a must-complete state, the queue manager is terminated with reason code X'00D94001' and message CSQV086E.

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC. and an SVC dump is requested.

System programmer response

Run the print log map utility to print the content of both BSDSs. Obtain a copy of the SYS1.LOGREC and the SVC dump for the original error. At the time of the error, registers 3 and 4 contain the 8-byte relative byte address (RBA) of the beginning of this unit of recovery. IBM MQ must read the log back to this point to complete the backout of this unit of recovery.

To restart the queue manager, you must add the missing archive log data sets back to the BSDS with the change log inventory utility, and increase the MAXARCH parameter in the CSQ6LOGP macro (the system parameter module log initialization macro) to complete the backout.

If the missing archive log is not available, or if archiving was not active, the queue manager cannot be restarted unless the log data sets and page sets are all reinitialized or restored from backup copies. Data will be lost as a result of this recovery action.

00D95001

The recovery manager's common FRR invoked queue manager termination, because an unrecoverable error was detected during checkpoint processing.

This is a queue manager termination reason code.

System action

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested for the original error before queue manager termination is initiated.

System programmer response

Obtain a copy of SYS1.LOGREC and the SVC dump for the original error and follow the instructions associated with it.

Restart the queue manager.

00D95011

The recovery manager checkpoint FRR invoked queue manager termination, because an unrecoverable error was detected while performing its checkpoint functions.

This is a queue manager termination reason code.

System action

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested for the original error before queue manager termination is initiated.

System programmer response

Obtain a copy of the SYS1.LOGREC and the SVC dump for the original error and follow the instructions associated with it.

Restart the queue manager.

00D96001

The recovery manager's restart FRR invoked queue manager termination, because an unrecoverable error was detected during the restart processor processing.

This is a queue manager termination reason code.

System action

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested for the original error before queue manager termination is initiated.

System programmer response

Obtain a copy of the SYS1.LOGREC and the SVC dump for the original error and follow the instructions associated with it.

Restart the queue manager.

00D96011

The restart participation FRR invoked queue manager termination, because an unrecoverable error was detected while processing log records during restart.

This is a queue manager termination reason code.

System action

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested for the original error before queue manager termination is initiated.

System programmer response

Obtain a copy of the SYS1.LOGREC and the SVC dump for the original error and follow the instructions associated with it.

Restart the queue manager when the problem has been corrected.

00D96021

The queue manager was terminated during restart because an error occurred while attempting to read the log forward MODE(DIRECT). It is accompanied by a recovery log manager error X'5C6' with a reason code describing the specific error.

Each time a portion of the log is skipped, a 'read direct' is used to validate the beginning RBA of the portion that is read.

This is a queue manager termination reason code.

System action

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested for the original error before queue manager termination is initiated.

System programmer response

Run the print log map utility to print the contents of both BSDSs. Obtain a copy of the SYS1.LOGREC and the SVC dump for the original error. Follow instructions for the accompanying recovery log manager error. If possible, remove the cause of original error and restart the queue manager. If you cannot correct the error, contact IBM Support.

00D96022

The restart FRR invoked abnormal termination, because, while reading the log forward during restart, the end-of-log was read before all recovery log scopes had been processed. It is followed by an abnormal termination with the same reason code (X'00D96022').

This is a queue manager termination reason code.

System action

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested for the error before queue manager termination is initiated.

System programmer response

Run the print log map utility to print the contents of both BSDSs. Obtain a copy of the SYS1.LOGREC and the SVC dump for the original error. At the time of the error, registers 2 and 3 (as shown in the dump or in SYS1.LOGREC) contain the relative byte address (RBA) of the last log record that was read before end-of-log was encountered. Follow instructions for the accompanying recovery log manager error. If you cannot correct the error, contact IBM Support.

00D96031

The restart FRR invoked queue manager termination, because an error occurred while attempting to read the log backward MODE(DIRECT). It is accompanied by a recovery log manager error X'5C6' with a reason code describing the specific error.

Each time a portion of the log is skipped, a 'read direct' is used to validate the beginning RBA of the portion that is read.

This is a queue manager termination reason code.

System action

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested for the original error before queue manager termination is initiated.

System programmer response

Run the print log map utility to print the contents of both BSDSs. Obtain a copy of the SYS1.LOGREC and the SVC dump for the original error. Follow instructions for the accompanying recovery log manager error. See the accompanying error reason code.

Restart the queue manager.

00D96032

During restart, the end of the log was read before all the expected log ranges had been processed. The error is accompanied by an abnormal termination with the same reason code (X'00D96032').

This is a queue manager termination reason code.

System action

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC. An SVC dump is requested. The queue manager is terminated with message CSQV086E.

System programmer response

Run the print log map utility to print the contents of both BSDSs. See [Finding out what the BSDS contains](#) for more information.

Obtain a copy of the SYS1.LOGREC and the SVC dump for the original error. At the time of the error, registers 2 and 3 contain the relative byte address (RBA) of the last log record that was read before end-of-log was encountered. Determine where the log went.

00D97001

The agent concerned was canceled while waiting for the RECOVER-UR service to complete.

System action

The RECOVER-UR function is completed. Abnormal termination of the requesting agent occurs. Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

The condition that caused cancellation of the agent was installation initiated (for example, a *forced* termination of the queue manager).

00D97011

The queue manager was terminated during RECOVER-UR because an unrecoverable error was detected during RECOVER-UR (CSQRRUPR) recovery processing.

This is a queue manager termination reason code.

System action

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested. queue manager terminates with message CSQV086E and return code X'00D97011'.

System programmer response

Determine the original error. If the error is log-related, see [Active log problems](#) before restarting the queue manager.

00D97012

The RECOVER-UR request servicer FRR invoked queue manager termination, because an unrecoverable error was detected while attempting to recover a unit of recovery.

This is a queue manager termination reason code.

System action

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested for the original error before queue manager termination is initiated.

System programmer response

Obtain a copy of the SYS1.LOGREC and the SVC dump for the original error and follow the instructions associated with it.

Restart the queue manager.

00D97021

The RECOVER-UR FRR invoked queue manager termination, because an error occurred while attempting to read the log MODE(DIRECT) during forward processing. It is accompanied by a recovery log manager error X'5C6' with a reason code describing the specific error.

Each time a portion of the log is skipped, a 'read direct' is used to validate the beginning RBA of the portion that is read.

This is a queue manager termination reason code.

System action

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested for the original error before queue manager termination is initiated.

System programmer response

Run the print log map utility to print the contents of both BSDSs. Obtain a copy of the SYS1.LOGREC and the SVC dump for the original error. Follow instructions for the accompanying recovery log manager error. See the accompanying error reason code.

Restart the queue manager.

00D97022

The RECOVER-UR invoked abnormal termination because end-of-log was reached before all ranges had been processed for forward recovery. This error is accompanied by an abnormal termination with the same reason code (X'00D97022').

This is a queue manager termination reason code.

System action

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested for the original error before queue manager termination is initiated.

System programmer response

Run the print log map utility to print the contents of both BSDSs. Obtain a copy of the SYS1.LOGREC and the SVC dump for the original error. At the time of the error, registers 2 and 3 contain the relative byte address (RBA) of the last log record that was read before end-of-log was encountered. Follow instructions for the accompanying recovery log manager error.

Restart the queue manager.

00D97031

The RECOVER-UR FRR invoked queue manager termination, because an error occurred during an attempt to read the log MODE(DIRECT) while reading the log backward. It is accompanied by a recovery log manager error X'5C6' with a reason code describing the specific error.

Each time a portion of the log is skipped, a 'read direct' is used to validate the begin-scope RBA of the portion that is read.

This is a queue manager termination reason code.

System action

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested for the original error before queue manager termination is initiated.

System programmer response

Run the print log map utility to print the contents of both BSDSs. Obtain a copy of the SYS1.LOGREC and the SVC dump for the original error. See the accompanying error reason code. Follow instructions for the accompanying recovery log manager error.

Restart the queue manager.

00D97032

The RECOVER-UR invoked abnormal termination because end-of-log was reached before all ranges had been processed for backward recovery. This error is accompanied by an abnormal termination with the same reason code (X'00D97032').

This is a queue manager termination reason code.

System action

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested for the original error before queue manager termination is initiated.

System programmer response

Run the print log map utility to print the contents of both BSDSs. Obtain a copy of the SYS1.LOGREC and the SVC dump for the original error. At the time of the error, registers 2 and 3 contain the relative

byte address (RBA) of the last log record that was read before end-of-log was encountered. Follow instructions for the accompanying recovery log manager error.

Restart the queue manager.

00D98001

The recovery manager's common FRR invoked queue manager termination, because an unrecoverable error was detected during indoubt-UR processing.

This is a queue manager termination reason code.

System action

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested for the original error before queue manager termination is initiated.

System programmer response

Obtain a copy of the SYS1.LOGREC and the SVC dump for the original error and follow the instructions associated with it.

Restart the queue manager.

00D98011

The FRR for the resolved-indoubt-UR request servicer invoked queue manager termination, because an unrecoverable error was detected processing a request.

This is a queue manager termination reason code.

System action

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested for the original error before queue manager termination is initiated.

System programmer response

Obtain a copy of the SYS1.LOGREC and the SVC dump for the original error. See the accompanying error reason code.

Restart the queue manager.

00D98021

The resolved indoubt FRR invoked queue manager termination because of an error while attempting to read the log MODE(DIRECT) during forward recovery. It is accompanied by a recovery log manager error X'5C6' with a reason code describing the specific error.

Each time a portion of the log is skipped, a 'read direct' is used to validate the beginning RBA of the portion that is read.

This is a queue manager termination reason code.

System action

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested for the original error before queue manager termination is initiated.

System programmer response

Run the print log map utility to print the contents of both BSDSs. Obtain a copy of the SYS1.LOGREC and the SVC dump for the original error. See the accompanying error reason code. Follow instructions for the accompanying recovery log manager error.

Restart the queue manager.

00D98022

Resolved indoubt invoked abnormal termination when end-of-log was reached before all ranges had been processed for forward recovery. This error is accompanied by abnormal termination with the same reason code (X'00D98022').

This is a queue manager termination reason code.

System action

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested for the original error before queue manager termination is initiated.

System programmer response

Run the print log map utility to print the contents of both BSDSs. Obtain a copy of the SYS1.LOGREC and the SVC dump for the original error. At the time of the error, registers 2 and 3 contain the relative byte address (RBA) of the last log record that was read before end-of-log was encountered. Follow instructions for the accompanying recovery log manager error.

Restart the queue manager.

00D98031

The resolved indoubt FRR invoked queue manager termination, because an error occurred during an attempt to read the log MODE(DIRECT) while reading the log backward. It is accompanied by a recovery log manager error X'5C6' with a reason code describing the specific error.

Each time a portion of the log is skipped, a 'read direct' is used to validate the begin-scope RBA of the portion that is read.

This is a queue manager termination reason code.

System action

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested for the original error before queue manager termination is initiated.

System programmer response

Run the print log map utility to print the contents of both BSDSs. Obtain a copy of the SYS1.LOGREC and the SVC dump for the original error. See the accompanying error reason code. Follow instructions for the accompanying recovery log manager error.

Restart the queue manager.

00D98032

The resolved indoubt FRR invoked abnormal termination when end-of-log was reached before all ranges had been processed for backward recovery. This error is accompanied by abnormal termination with the same reason code (X'00D98032').

This is a queue manager termination reason code.

System action

Standard diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested for the original error before queue manager termination is initiated.

System programmer response

Run the print log map utility to print the contents of both BSDSs. Obtain a copy of the SYS1.LOGREC and the SVC dump for the original error. At the time of the error, registers 2 and 3 contain the relative byte address (RBA) of the last log record that was read before end-of-log was encountered. Follow instructions for the accompanying recovery log manager error.

Restart the queue manager.

00D99001

The checkpoint RBA in the conditional restart control record, which is deduced from the end RBA or LRSN value that was specified, is not available. This is probably because the log data sets available for use at restart do not include that end RBA or LRSN.

System action

The queue manager terminates.

System programmer response

See message CSQR015E.

00D99104

Queue manager restart detected that backward migration of messages was required. For backward migration to be possible, there must be no uncommitted units of recovery present at the end of restart. During restart, however, a decision was made not to force commit a detected indoubt unit of work. The decision is based on the response to message CSQR021D, or by the presence of a service parm which prevents the CSQR021D WTOR from being issued.

System action

Queue manager restart is terminated.

System programmer response

Either restart the queue manager with a higher level of code so that backward migration is not required, or, allow indoubt units of work to be force committed during restart.

00D9AAAA

This reason code identifies additional data stored in the system diagnostic work area (SDWA) variable recording area (VRA) following an error during backout-UR.

System action

Data is stored in the field indicated by VRA key 38 following the EBCDIC string 'RMC-COMMIT/BACKOUT'. This information is useful for IBM service personnel.

System programmer response

Quote this code, and the contents of the VRA field indicated by key 38 when contacting IBM Support.

00D9BBBB

This reason code identifies additional data stored in the system diagnostic work area (SDWA) variable recording area (VRA) following an error during begin-UR.

System action

Data is stored in the field indicated by VRA key 38. This information is useful for IBM service personnel.

System programmer response

Quote this code, and the contents of the VRA field indicated by key 38 when contacting IBM Support.

00D9CCCC

This reason code identifies additional data stored in the system diagnostic work area (SDWA) variable recording area (VRA) following an error during commit-UR.

System action

Data is stored in the field indicated by VRA key 38 following the EBCDIC string 'RMC-COMMIT/ABORT'. This information is useful for IBM service personnel.

System programmer response

Quote this code, and the contents of the VRA field indicated by key 38 when contacting IBM Support.

00D9EEEE

This reason code identifies additional data stored in the system diagnostic work area (SDWA) variable recording area (VRA) following an error during end-UR.

System action

Data is stored in the field indicated by VRA key 38. This information is useful for IBM service personnel.

System programmer response

Quote this code, and the contents of the VRA field indicated by key 38 when contacting IBM Support.

Related tasks

[Contacting IBM Support](#)

Storage manager codes (X'E2')

If a storage manager reason code occurs that is not listed here, an internal error has occurred. Collect the following diagnostic items and contact IBM Support.

Diagnostics

- A description of the actions that led to the error or, if applicable, either a listing of the application program or the input string to a utility program that was being run at the time of the error.
- The console output for the period leading up to the error.
- The queue manager job log.
- The system dump resulting from the error.
- A printout of SYS1.LOGREC.
- If you are using CICS, the CICS transaction dump output.
- Appropriate IBM MQ, z/OS, Db2, CICS, and IMS service levels.

00E20001, 00E20002

An internal error has occurred.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E20003

A request for storage indicated that sufficient storage in the private area was not available.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

Increase region size.

If you are unable to solve the problem by increasing the region size, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E20004

A request for storage indicated that sufficient storage was not available because of pool size limits.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

Increase pool sizes.

If you are unable to solve the problem by increasing the pool sizes, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E20005, 00E20006, 00E20007, 00E20008, 00E20009

An internal error has occurred.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E2000A

A request to get storage was unsuccessful.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

Increase the region size.

If increasing the region size does not help you solve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E2000B

A request to get storage was unsuccessful.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

Increase region size.

If increasing the region size does not help you solve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E2000C

A request for storage indicated that sufficient storage was not available because of pool size limits.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

Increase pool sizes.

If increasing the pool size does not help you solve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E2000D, 00E2000E

An internal error has occurred.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

The most likely cause of the problem is a storage overlay or an invalid storage request from a queue manager component. A product other than MQ could cause the storage overlay problem.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E2000F, 00E20010, 00E20011, 00E20012

An internal error has occurred.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E20013

A request to get storage was unsuccessful.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

Increase region size.

If increasing the region size does not help you to solve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E20014

An internal error has occurred.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E20015

A request for storage indicated that 8K bytes of private area storage in subpool 229 was not available.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

There is probably a shortage of private area storage in the address space in which the problem occurred. Increase maximum private storage.

If increasing the maximum private storage does not solve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E20016

A request for storage indicated that sufficient storage in subpool 229 was not available.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

Increase region size.

If increasing the region size does not help you resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E20017, 00E20018, 00E20019

An internal error has occurred.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E2001A

An error has occurred with the z/OS ESTAE.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested. Register 15 contains the return code from the z/OS ESTAE.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E2001B

The 'setlock obtain' function issued a nonzero return code.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E2001D, 00E2001E

An internal error has occurred.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E2001F

There was insufficient storage in the common service area (CSA) to satisfy a request for storage.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

Run the monitoring tools available at your installation to review your CSA usage.

Increase the CSA size.

If increasing the CSA size does not solve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E20020

There was insufficient storage in the private area to satisfy a request for storage.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

Increase region size.

If increasing the region size does not solve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E20021

There was insufficient storage in the common service area (CSA) to satisfy a request for storage.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

Run the monitoring tools available at your installation to review your CSA usage.

Increase the CSA size.

If increasing the size of the CSA does not solve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E20022

There was insufficient storage in the common service area (CSA) to satisfy a request for storage.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

Run the monitoring tools available at your installation to review your CSA usage.

Increase the CSA size.

If increasing the size of the CSA does not solve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E20023

There was insufficient storage in the private area was to satisfy a request for storage.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

Increase region size.

If increasing the region size does not solve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E20024

There was insufficient storage in the common service area (CSA) to satisfy a request for storage.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

Run the monitoring tools available at your installation to review your CSA usage.

Increase the CSA size.

If increasing the CSA size does not solve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E20025

There was insufficient storage in the common service area (CSA) to satisfy a request for storage.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

Run the monitoring tools available at your installation to review your CSA usage.

Increase the CSA size.

If increasing the CSA size does not solve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E20026

A request for storage indicated that 4K bytes of private area storage in subpool 229 was not available.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

There is probably a shortage of private area storage in the address space in which the problem occurred. Increase region size.

If increasing the region size does not solve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E20027, 00E20028, 00E20029, 00E2002A

An internal error has occurred.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E2002B

This reason code code is used to force percolation when an error is encountered while in storage manager code and the storage manager has been called recursively.

System programmer response

Refer to the originating error code.

00E20042, 00E20043, 00E20044, 00E20045

An internal error has occurred.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E20046

There was insufficient storage in a 64-bit storage pool to satisfy a request.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

Increase the MEMLIM for the queue manager and restart it. If the problem persists collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

00E20047

An internal error has occurred.

System action

The invoker is abnormally terminated. Diagnostic information is recorded in SYS1.LOGREC, and a dump is requested.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1029](#) and contact IBM Support.

Related tasks

[Contacting IBM Support](#)

 **Timer services codes (X'E3')****00E30001**

An internal error has occurred.

System programmer response

Collect the system dump, any trace information gathered and the related SYS1.LOGREC entries, and contact IBM Support.

00E30002

This reason code was issued because an attempt to call the z/OS macro STIMERM was unsuccessful. The return code from STIMERM is in register 9.

System programmer response

Analyze the system dump, correct the problem from the information contained in the dump, and restart the queue manager.

See *z/OS MVS Programming: Assembler Services Reference Volume 2* For information about the [STIMERM](#) macro.

Related tasks

[Contacting IBM Support](#)

 **Agent services codes (X'E5')**

If an agent services reason code occurs that is not listed here, an internal error has occurred. Collect the following diagnostic items and contact IBM Support.

Diagnostics

- A description of the actions that led to the error or, if applicable, either a listing of the application program or the input string to a utility program that was being run at the time of the error.
- The console output for the period leading up to the error.
- The queue manager job log.
- The system dump resulting from the error.
- A printout of SYS1.LOGREC.
- If you are using CICS, the CICS transaction dump output.
- Appropriate IBM MQ, z/OS, Db2, CICS, and IMS service levels.

00E50001, 00E50002

An internal error has occurred.

System action

The requesting execution unit is ended abnormally.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50004, 00E50005, 00E50006, 00E50007, 00E50008, 00E50009, 00E50012

An internal error has occurred.

System action

The requesting execution unit is ended abnormally. A record is written to SYS1.LOGREC and an SVC dump is requested.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50013

An MQ execution unit has been ended abnormally.

System action

The agent CANCEL processing continues.

System programmer response

This reason code might be issued as a result of any abnormal termination of a connected task, or a STOP QMGR MODE(FORCE) command. No further action is required in such cases.

If the error results in the termination of the queue manager, and you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50014

An internal error has occurred.

System action

An entry is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50015

An internal error has occurred.

System action

The operation is retried once. If this is not successful, the queue manager is terminated with reason code X'00E50054'.

A SYS1.LOGREC entry and an SVC dump are taken.

System programmer response

Restart the queue manager if necessary.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50029

The agent services function which establishes the MQ tasking structure ends abnormally with this reason code following the detection of a load module which was loaded without the 31-bit addressing capability. This is preceded by message CSQV029E.

System action

Queue manager start-up is terminated.

System programmer response

See message CSQV029E.

00E50030, 00E50031, 00E50032, 00E50035, 00E50036

An internal error has occurred.

System action

The requesting execution unit is ended abnormally. The error is recorded on SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50039

An attempt was made to free an ACE while it was still on a VLCAAACE chain.

System action

An SVC dump is requested specifying a completion code of X'5C6' and this reason code. Processing continues.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50040

Queue manager termination was invoked following an unrecoverable error while processing a terminate allied agent request at the *thread*, or *identify* level.

System action

The queue manager is terminated.

System programmer response

Restart the queue manager.

Scan the system log and the contents of SYS1.LOGREC for MQ errors occurring immediately before the system termination message CSQV086E. Follow the problem determination procedures for the specific errors. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50041

Queue manager termination was invoked following an unrecoverable error while processing a terminate agent request.

System action

The queue manager is terminated.

System programmer response

Restart the queue manager.

Scan the system log and the contents of SYS1.LOGREC for MQ errors occurring immediately before the system termination message CSQV086E. Follow the problem determination procedures for the specific errors. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50042, 00E50044

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit is ended abnormally. A record is written to SYS1.LOGREC and an SVC dump is requested.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50045

Queue manager termination was invoked following an unrecoverable error while processing a create allied agent service request at the *thread*, or *identify* level.

System action

The queue manager is terminated.

System programmer response

Restart the queue manager.

Scan the system log and the contents of SYS1.LOGREC for MQ errors occurring immediately before the termination message CSQV086E. Follow the problem determination procedures for the specific errors. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50046

Queue manager termination was invoked following an unrecoverable error while processing a create agent structure request.

System action

The queue manager is terminated.

System programmer response

Restart the queue manager.

Scan the system log and the contents of SYS1.LOGREC for MQ errors occurring immediately before the termination message CSQV086E. Follow the problem determination procedures for the specific errors. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50047

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated.

System programmer response

Restart the queue manager.

Scan the system log and the contents of SYS1.LOGREC for MQ errors occurring immediately before the termination message CSQV086E. Follow the problem determination procedures for the specific errors. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50050

An internal error has occurred.

System action

The requesting execution unit is ended abnormally.

An X'00E50054' recovery reason code is placed in the SDWACOMU field of the SDWA, indicating that synchronization services was responsible for queue manager termination.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50051

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is ended abnormally with a X'5C6' completion code and this reason code.

An X'00E50054' recovery reason code is placed in the SDWACOMU field of the SDWA indicating that synchronization services was responsible for queue manager termination.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50052

The z/OS cross-memory lock (CML) could not be released.

System action

The queue manager is ended abnormally with a X'5C6' completion code and this reason code.

An X'00E50054' recovery reason code is placed in the SDWACOMU field of the SDWA indicating that synchronization services was responsible for queue manager termination.

A record is written to SYS1.LOGREC and an SVC dump is produced.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50054

The queue manager is ended abnormally by the synchronization services recovery routine when an unrecoverable error is encountered during recovery processing for the SUSPEND, CANCEL, RESUME, or SRB REDISPATCH functions. This is a queue manager termination reason code.

One of the following conditions was encountered during recovery processing for the requested function:

- Unable to complete resume processing for an SRB mode execution unit that was suspended at time of error
- Errors were encountered during primary recovery processing causing entry to the secondary recovery routine
- Recovery initiated retry to mainline suspend/resume code caused retry recursion entry into the functional recovery routine
- Unable to obtain or release the cross-memory lock (CML) of the queue manager address space either during mainline processing or during functional recovery processing (for example, reason code X'00E50052')

System action

The queue manager is terminated. This reason code is associated with a X'6C6' completion code indicating that synchronization services was responsible for termination.

System programmer response

Restart the queue manager.

Scan the system log and the contents of SYS1.LOGREC for IBM MQ errors occurring immediately before the system termination message CSQV086E. Follow the problem determination procedures for the specific errors. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50055

The synchronization services functional recovery routine was unable to successfully complete resume processing for a suspended TCB mode execution unit. The resume processing was requested by the CANCEL or RESUME functions.

System action

Because the suspended TCB mode execution unit must not be permitted to remain in a suspended state, the recovery routine invokes the z/OS CALLRTM (TYPE=ABTERM) service to end the execution unit abnormally with a X'6C6' completion code. Depending upon which execution unit was terminated, the queue manager might be ended abnormally.

System programmer response

Restart the queue manager if necessary.

Scan the system log and the contents of SYS1.LOGREC for MQ errors occurring immediately before the end of the execution unit. Follow the problem determination procedures for the specific errors. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50059

An internal error has occurred.

System action

If the module detecting the error is CSQVSDCO, it will be retried once. If validation is unsuccessful, the queue manager is terminated abnormally with a X'00E50054' reason code.

A SYS1.LOGREC entry and an SVC dump are requested.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50062

An internal error has occurred.

System action

The allied task is ended abnormally.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50063

An internal error has occurred.

System action

The task is ended abnormally.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50065

An internal error has occurred.

System action

The execution unit is ended abnormally.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50069

This reason code is issued during recovery processing for the suspend function when executing in SRB mode under the recovery routine established by the z/OS SRBSTAT(SAVE) service. Because the recovery routine established by this service is the only routine in the FRR stack at the time of error, normal RTM percolation to the invoking resource manager recovery routine is not possible.

After recovery processing for the initial error has successfully completed, the RTM environment is exited through retry to a routine that restores the original FRR stack. This routine terminates abnormally with completion code X'5C6' and this reason code. This causes entry into the original recovery routine established during suspend initialization.

System action

After this is intercepted by the original suspend recovery routine, a SYS1.LOGREC entry and SVC dump are requested to document the original error. The original recovery reason code is placed in the SDWACOMU field of the SDWA indicating the actions performed during recovery processing of the initial error. Control is then returned to the invoking resource manager's recovery routine through RTM percolation.

System programmer response

Because this is used only to permit the transfer of the initial recovery reason code to the invoking resource manager's recovery routine, no further recovery actions are required for this reason code. Diagnostic information for the initial error encountered can be obtained through the SYS1.LOGREC and SVC dump materials provided.

00E50070

To enable an internal task to terminate itself, the task has ended abnormally. This is not necessarily an error.

System action

The task is ended abnormally.

If the service task is ended abnormally with a completion code of X'6C6', no SVC dump is taken.

System programmer response

The error should be ignored if it happens in isolation, however, if it occurs in conjunction with other problems, these problems should be resolved.

If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50071

An internal error has occurred.

System action

The internal task is ended abnormally.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50072

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is ended abnormally.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50073

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit is ended abnormally. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50074

This reason code is issued in response to a nonzero return code from ATTACH during an attempt to create an internal task.

System action

The ATTACH is retried. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested. If a problem occurs again, the queue manager is terminated.

System programmer response

Restart the queue manager if necessary.

Register 2, in the SDWA, contains the return code from the ATTACH request. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50075, 00E50076, 00E50077, 00E50078

An internal error has occurred.

System action

The requesting execution unit is terminated. The queue manager might also be terminated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Restart the queue manager if necessary.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50079

An internal error has occurred. This can occur if the allied address space is undergoing termination.

System action

The requesting execution unit is ended abnormally. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50080, 00E50081

An internal error has occurred.

System action

An SVC dump is requested specifying a completion code of X'5C6' and this reason code. No record is written to SYS1.LOGREC. Execution continues.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50094, 00E50095, 00E50096, 00E50097, 00E50100

An internal error has occurred.

System action

The requesting recovery routine is ended abnormally. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50101

MQ was unable to establish an ESTAE.

System action

The error is passed on to a subsystem support subcomponent (SSS) ESTAE. Probably, the queue manager is ended abnormally. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

The inability to establish an ESTAE is normally due to insufficient free space in the local system queue area (LSQA) for an ESTAE control block (SCB). If necessary, increase the size of the queue manager address space.

Restart the queue manager.

Review the associated SVC dump for usage and free areas in the LSQA subpools belonging to the system services address space. If you are unable to solve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50102

An unrecoverable error occurred while canceling all active agents during processing of the STOP QMGR MODE (FORCE) command. This is a queue manager termination reason code.

System action

The queue manager is ended abnormally. A record is written to SYS1.LOGREC.

System programmer response

Restart the queue manager.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) useful in resolving the problem. Review the SYS1.LOGREC entries for errors immediately preceding queue manager termination.

00E50500

A z/OS LOCAL or CML lock could not be obtained during queue manager abnormal termination processing.

System action

The execution unit is ended abnormally. The error is recorded on SYS1.LOGREC, and abnormal queue manager termination is completed under a different execution unit if possible.

System programmer response

Restart the queue manager if necessary.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) useful in resolving the problem.

00E50501

A z/OS LOCAL or CML lock could not be released during queue manager abnormal termination processing.

System action

The execution unit is ended abnormally. The error is recorded on SYS1.LOGREC. Queue manager termination is completed under a different execution unit if possible.

System programmer response

Restart the queue manager.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) useful in resolving the problem.

00E50502

A z/OS LOCAL lock could not be obtained during queue manager abnormal termination processing.

System action

The execution unit is ended abnormally. The error is recorded on SYS1.LOGREC, and abnormal queue manager termination is completed under a different execution unit if possible.

System programmer response

Restart the queue manager.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) useful in resolving the problem.

00E50503

A z/OS LOCAL lock could not be released during queue manager abnormal termination processing.

System action

The execution unit is ended abnormally. The error is recorded on SYS1.LOGREC, and abnormal queue manager termination is completed under a different execution unit if possible.

System programmer response

Restart the queue manager.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) useful in resolving the problem.

00E50504

This reason code is used to define the format of the information recorded in the SDWA variable recording area (VRA) by the queue manager termination processor. The code identifies additional information provided in the VRA for errors encountered in module CSQVATRM.

System action

Recording of the error encountered during queue manager termination continues.

System programmer response

None.

00E50505

This reason code is used to define the format of the information recorded in the SDWA variable recording area (VRA). The code identifies additional information provided in the VRA for errors encountered in module CSQVATR4.

System action

Recording of the error encountered during queue manager termination continues.

System programmer response

None.

00E50701

A problem occurred during Commit Phase-1. This is used to effect backout, deallocation, and end-UR processing.

System action

The queue manager is ended abnormally. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Restart the queue manager.

If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50702

An error occurred while processing in SRB mode which could not be recovered.

SRB mode processing is often used internally by the queue manager to ensure data integrity and consistency of internal state. Where recovery is not possible, the queue manager is terminated with this reason code.

Most occurrences are due to internal errors which should be reported to IBM service for further investigation.

The error is also known to occur where log data sets have been reformatted, without reformatting the page sets (so they still contain active data). This situation can be resolved by user action.

System action

The queue manager is ended abnormally with this reason code. An SVC dump of the original error was requested by the recovery routine for CSQVEUS2 and a record written to SYS1.LOGREC.

System programmer response

Restart the queue manager.

Scan the SYS1.LOGREC entries looking for one or more MQ errors immediately prior to the queue manager termination. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50703

This queue manager termination reason code is used following an error while attempting to resume a suspended execution unit. The successful completion of resume processing was 'indoubt'.

System action

The queue manager is ended abnormally. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Restart the queue manager.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) useful in resolving the problem.

00E50704

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated with this reason code. Additionally, if no SDWA was provided to the recovery routine, a dump is requested.

System programmer response

Restart the queue manager.

Scan the SYS1.LOGREC entries looking for one or more MQ errors immediately prior to the queue manager termination. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50705

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is ended abnormally.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50706

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated with this reason code. Additionally, if no SDWA was provided to the recovery routine, a dump is requested. A record is written to SYS1.LOGREC.

System programmer response

Restart the queue manager.

Scan the SYS1.LOGREC entries looking for one or more IBM MQ errors immediately prior to the queue manager termination. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50707

An ESTAE could not be established.

System action

The queue manager is ended abnormally. A record is written to SYS1.LOGREC.

System programmer response

Review the usage and the free areas in the LSQA subpool of the queue manager address space. If necessary, increase the private area size of the address space.

Restart the queue manager.

If queue manager termination was requested by module CSQVRCT, a standard SVC dump was requested. If insufficient private storage is the cause of the problem, other MQ resource managers might have ended abnormally.

If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50708

An error occurred while connecting an allied agent to the queue manager address space. The connection must complete so that the allied agent can be terminated.

System action

The queue manager is terminated with this reason code. An SVC dump of the original error was requested and a record entered into SYS1.LOGREC.

System programmer response

Restart the queue manager.

Scan the SYS1.LOGREC entries looking for one or more IBM MQ errors immediately prior to the queue manager termination.

00E50709

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is ended abnormally.

System programmer response

Restart the queue manager.

Scan the SYS1.LOGREC entries for one or more IBM MQ errors occurring immediately prior to the queue manager termination. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50710

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated with this reason code. An SVC dump of the original error was requested and a record entered into SYS1.LOGREC.

System programmer response

Restart the queue manager.

Scan the SYS1.LOGREC entries looking for one or more IBM MQ errors immediately prior to the queue manager termination. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50711

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated with this reason code. An SVC dump of the original error was requested and a record entered into SYS1.LOGREC.

System programmer response

Restart the queue manager.

Scan the SYS1.LOGREC entries looking for one or more IBM MQ errors immediately prior to the queue manager termination. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50712

An error occurred in a latch manager function attempting to terminate the holder of an IBM MQ latch. The holder's task has been set nondispatchable by z/OS and a CALLRTM to terminate this task was unsuccessful.

System action

The queue manager is terminated with this reason code. An SVC dump of the error is requested and a record entered into SYS1.LOGREC. Register 3 at time of error contains the latch-holder's TCB address in the home address space and register 4 contains the return code from CALLRTM.

System programmer response

Restart the queue manager.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) useful in resolving the problem. Scan the SYS1.LOGREC entries for one or more MQ errors immediately prior to the queue manager termination.

00E50713

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is ended abnormally. An SVC dump is requested by the queue manager termination processor and a record is written to SYS1.LOGREC.

System programmer response

Restart the queue manager.

Scan the SYS1.LOGREC entries for one or more IBM MQ errors occurring immediately prior to the queue manager termination. It might be necessary to analyze the SVC dump requested. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50715

Queue manager termination was requested following an unrecoverable error in an SRB mode execution unit.

System action

The SRB-related task was ended abnormally as a result of SRB to TCB percolation. The queue manager is ended abnormally.

System programmer response

Restart the queue manager.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) useful in resolving the problem. Scan the SYS1.LOGREC entries for one or more IBM MQ errors occurring immediately prior to the queue manager termination.

00E50717

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is ended abnormally.

System programmer response

Restart the queue manager.

Scan the SYS1.LOGREC entries for one or more IBM MQ errors occurring immediately prior to the queue manager termination. If an error preceded the queue manager termination request, diagnostic information can be obtained through SYS1.LOGREC and SVC dump materials. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50719

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is ended abnormally.

System programmer response

Restart the queue manager.

Scan the SYS1.LOGREC entries for one or more IBM MQ errors occurring immediately prior to the queue manager termination. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) and contact IBM Support.

00E50725

Queue manager termination was requested because of an unrecovered error in a scheduled SRB-mode execution unit.

System action

The SRB-related task was ended abnormally, due to SRB to TCB percolation. The queue manager is ended abnormally.

System programmer response

Restart the queue manager.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) useful in resolving the problem. Scan the SYS1.LOGREC entries for one or more IBM MQ errors occurring immediately prior to the queue manager termination. If necessary, analyze the SVC dump requested by queue manager termination.

00E50727

A secondary error occurred during agent services functional recovery processing. This is a queue manager termination reason code.

System action

The queue manager is ended abnormally.

System programmer response

Restart the queue manager.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1036](#) useful in resolving the problem. Scan the SYS1.LOGREC entries for one or more IBM MQ errors occurring immediately prior to the queue manager termination.

Related tasks

[Contacting IBM Support](#)

▶ z/OS Instrumentation facilities codes (X'E6')

If an instrumentation facilities reason code occurs that is not listed here, an internal error has occurred. Collect the following diagnostic items and contact IBM Support.

Diagnostics

- The console output for the period leading up to the error.
- The system dump resulting from the error.
- A printout of SYS1.LOGREC.
- Appropriate IBM MQ, z/OS, Db2, CICS, and IMS service levels.

00E60008

An internal error has occurred.

System action

The function being traced is ended abnormally. The queue manager remains operational.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1050](#) and contact IBM Support.

00E60017

This code is an internal code used by the dump formatter.

System action

The request is ended abnormally.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1050](#) and contact IBM Support.

00E60085, 00E60086, 00E60087, 00E60088, 00E60089

An internal error has occurred.

System action

The request is end abnormally.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1050](#) and contact IBM Support.

00E60100 through 00E60199

The reason codes X'00E60100' through X'00E60199' are used by the instrumentation facility component (IFC) when a trace event occurs for which IBM service personnel have requested a dump using the IFC selective dump service aid.

System action

The agent might be retried or terminated, depending upon the serviceability dump request.

System programmer response

The reason code is issued on the occurrence of a specified trace event. An SVC dump is taken to the SYS1.DUMPxx data set. Problem determination methods depend on the condition that IBM service personnel are attempting to trap.

00E60701

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1050](#) and contact IBM Support.

00E60702, 00E60703

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1050](#) and contact IBM Support.

Related tasks

[Contacting IBM Support](#)

Distributed queuing codes (X'E7')

If a distributed queuing reason code occurs that is not listed here, an internal error has occurred. Collect the following diagnostic items and contact IBM Support.

Diagnostics

- A description of the actions that led to the error or, if applicable, either a listing of the application program or the input string to a utility program that was being run at the time of the error.
- The channel definitions being used
- If the error affected a message channel agent, a listing of any user channel exit programs used by the message channel agent.
- The console output for the period leading up to the error.
- The queue manager job log.
- The channel initiator job log.
- The system dump resulting from the error.
- Appropriate IBM MQ, z/OS, Db2, CICS, and IMS service levels.

00E70001

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1051](#) and contact IBM Support.

00E70002

No adapter subtasks are active. They have failed many times and so have not been restarted.

System action

The channel initiator terminates.

System programmer response

Investigate the adapter subtask failure problems, as reported in the messages associated with each failure.

00E70003

No dispatchers are active. Either all the dispatchers failed to start, or all the dispatchers have failed many times and so have not been restarted.

System action

The channel initiator terminates.

System programmer response

Investigate the dispatcher failure problems, as reported in the messages associated with each failure.

00E70004

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1051](#) and contact IBM Support.

00E70007

An attempt by an adapter subtask to obtain some storage failed.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Increase the size of the channel initiator address space, or reduce the number of dispatchers, adapter subtasks, SSL server subtasks, and active channels being used.

00E70008, 00E70009, 00E7000A

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1051](#) and contact IBM Support.

00E70011

The channel initiator was unable to load the module CSQXBENT.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Check the console for messages indicating why CSQXBENT was not loaded. Ensure that the module is in the required library, and that it is referenced correctly.

The channel initiator attempts to load this module from the library data sets under the STEPLIB DD statement of its started task JCL procedure xxxxCHIN.

00E70013

Some adapter subtasks were requested, but none could be attached.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Investigate the adapter subtask attach problems, as reported in the messages associated with each failure. If you cannot resolve the problems, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1051](#) and contact IBM Support.

00E70015

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1051](#) and contact IBM Support.

00E7001D

During startup, the channel initiator was unable obtain some storage below 16M.

System action

The channel initiator ends.

System programmer response

Investigate the cause of the problem.

00E7001E, 00E7001F

An internal error has occurred.

System action

The channel initiator terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Restart the channel initiator.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1051](#) and contact IBM Support.

00E70020

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Check the console for preceding error messages. If the problem cannot be resolved, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1051](#) and contact IBM Support.

00E70021, 00E70022, 00E70023, 00E70024, 00E70025

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1051](#) and contact IBM Support.

00E70031

An internal error has occurred. A lock is currently held by a task that has terminated.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Determine why the terminated task did not free the lock. This might be due to a previous error. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1051](#) and contact IBM Support.

00E70032

An internal error has occurred. An attempt to update information held in the coupling facility failed.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1051](#), together with details of the queue sharing group and of the queue managers active, as well as the queue managers defined to the queue sharing group at the time. This information can be obtained by entering the following z/OS commands:

```
D XCF,GRP
```

to display a list of all queue sharing groups in the coupling facility

```
D XCF,GRP,qsg-name,ALL
```

to display status about the queue managers defined to the queue sharing group.

contact IBM Support.

00E70033

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1051](#) and contact IBM Support.

00E70052

No SSL server subtasks are active. They have failed many times and so have not been restarted.

System action

The channel initiator terminates.

System programmer response

Investigate the SSL server subtask failure problems, as reported in the messages associated with each failure.

00E70053

Some SSL server subtasks were requested, but none could be attached.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Investigate the SSL server subtask attach problems, as reported in the messages associated with each failure. If you cannot resolve the problems, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1051](#) and contact IBM Support.

00E7010C

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1051](#) and contact IBM Support.

00E7010E

The dispatcher detected an inconsistency in the linkage stack.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

The most likely cause is incorrect use of the linkage stack by a user exit; exits must issue any IBM MQ API calls and return to the caller at the same linkage stack level as they were entered. If exits are not being used, or if they do not use the linkage stack, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1051](#) and contact IBM Support.

00E7010F, 00E7014A

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1051](#) and contact IBM Support.

00E7014C

An internal error has occurred. This can be caused by the channel initiator failing to stop when running against a previous instance of the queue manager and attempting to connect to a later instance of the queue manager.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1051](#), terminate then restart the channel initiator and contact IBM Support.

00E7014D

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1051](#) and contact IBM Support.

00E7014F

An internal error has occurred. This is normally as a result of some previous error.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Check the console for preceding error messages reporting a previous error, and take the appropriate action for resolving that error. If there is no previous error, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1051](#) and contact IBM Support.

00E7015A, 00E70214, 00E70216, 00E70226, 00E70231, 00E70232, 00E70233, 00E70501, 00E70522, 00E70543, 00E70546, 00E70553

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1051](#) and contact IBM Support.

00E70054, 00E70055, 00E70056

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1051](#) and contact IBM Support.

00E70057, 00E70058

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1051](#) and contact IBM Support.

00E70708

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1051](#) and contact IBM Support.

00E70802

No cluster workload exit server subtasks are active. They have failed many times, and so have not been restarted.

System action

Cluster workload exit services are disabled.

System programmer response

Investigate the cluster workload exit server subtask failure problems, as reported in the messages associated with each failure.

00E7080B

A cluster workload user exit did not return to the queue manager within the allowed time, as specified by the **EXITLIM** system parameter. The task running the exit is terminated with this reason. This code is preceded by message CSQV445E.

System action

Processing continues. The cluster destination is chosen using the usual algorithm.

System programmer response

Investigate why the user exit did not complete in time. Message [CSQV445E](#) displays the name of the exit program.

Related tasks

[Contacting IBM Support](#)

Initialization procedure and general services codes (X'E8')

If an initialization procedure reason code occurs that is not listed here, an internal error has occurred. Collect the following diagnostic items and contact IBM Support.

Diagnostics

- The console output for the period leading up to the error.
- The queue manager job log.
- The system dump resulting from the error.
- A printout of SYS1.LOGREC.
- The system parameter load module.
- The initialization procedure.
- The started task JCL procedure for this queue manager.
- Appropriate IBM MQ, z/OS, Db2, CICS, and IMS service levels.

00E80001

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) and contact IBM Support.

00E80002

The queue manager address space was not started correctly or an error occurred during z/OS IEFSSREQ processing.

System action

The queue manager is terminated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested. Register 9 contains the address of an 8-byte field that contains the following diagnostic information:

- Bytes 1 through 4 - subsystem name
- Bytes 5 through 8 - contents of register 15 that contains the return code set by the z/OS IEFSSREQ macro

System programmer response

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) useful in resolving the problem.

00E80003, 00E80004, 00E80005, 00E80006

An internal error has occurred.

System action

A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) and contact IBM Support.

00E8000E

An ESTAE could not be established for the queue manager address space control task.

System action

The queue manager is terminated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested. Register 9 contains the address of a 4-byte field that contains the ESTAE macro return code.

System programmer response

Restart the queue manager.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) useful in resolving the problem.

00E8000F

Invalid startup parameters were specified. This was probably caused by an attempt to start the queue manager by some means other than a **START QMGR** command.

System action

The queue manager is terminated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Restart the queue manager.

If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) and contact IBM Support.

00E80010

An invalid product was specified. This abend is preceded by one or more instances of message [CSQY038E](#). See this message for more details.

System action

The queue manager is terminated.

System programmer response

Locate the related CSQY038E messages for the queue manager, and correct the issue described in each of those messages.

00E80011

The address space could not be made non-swappable.

System action

The queue manager is terminated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Restart the queue manager.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) useful in resolving the problem.

00E80012

An internal error has occurred.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) and contact IBM Support.

00E80013, 00E8001F, 00E8002F

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) and contact IBM Support.

00E80031

An unsupported input parameter was detected for allied address space initialization.

System action

The caller's task is ended abnormally. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) and contact IBM Support.

00E80032

An unsupported input parameter was detected for allied address space termination.

System action

The caller's task is ended abnormally. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) and contact IBM Support.

00E80033

This reason code accompanies a X'6C6' completion code. This module detected that the queue manager was terminating.

System action

The caller's task is ended abnormally with code X'6C6'. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) useful in resolving the problem.

00E8003C

An internal error has occurred.

System action

The caller's task is ended abnormally. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) and contact IBM Support.

00E8003D

An internal error has occurred.

System action

Abnormal termination of the queue manager is initiated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) and contact IBM Support.

00E8003E

An ESTAE could not be established in an address space about to be initialized as an IBM MQ allied address space.

System action

The caller's task is ended abnormally. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) and contact IBM Support.

00E8003F

An internal error has occurred.

System action

The caller's task is ended abnormally. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) and contact IBM Support.

00E80041

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) and contact IBM Support.

00E80042, 00E8004F

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) and contact IBM Support.

00E80051

An error was detected in the command that was used to start the queue manager.

System action

The queue manager is terminated.

System programmer response

Reenter the command if it was entered incorrectly.

If you are unable to resolve the problem, contact IBM Support.

00E80052, 00E80053, 00E80054, 00E80055

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) and contact IBM Support.

00E80057

An error occurred while trying to start a queue manager address space. One possible cause of this problem is an error in the started task JCL procedure for the queue manager.

System action

The queue manager is terminated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Restart the queue manager.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) useful in resolving the problem.

00E80058

An error occurred during command prefix registration.

System action

The queue manager ends abnormally.

System programmer response

See the accompanying CSQYxxx messages for information about the cause of the problem.

Restart the queue manager after correcting the problem.

00E8005F, 00E80061, 00E8006F, 00E8007F

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) and contact IBM Support.

00E80081

An invalid load module was detected.

System action

The queue manager is terminated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested. Register 9 contains the address of an 8-byte field that contains the name of the module in error.

System programmer response

Check that the installation process was successful.

Restart the queue manager after resolving the problem.

If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) and contact IBM Support.

00E80084

A resource manager provided notification of an error during queue manager startup notification processing.

System action

The queue manager is terminated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested. Register 9 contains the address of a 4-byte field that contains the RMID of the resource manager that requested queue manager termination.

System programmer response

Look for error messages indicating the cause of the problem.

Restart the queue manager after resolving the problem.

If you are unable to solve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#), together with the contents of the BSDS and a GTF trace, and contact IBM Support.

00E8008F, 00E80091, 00E8009F, 00E800AF, 00E800B1

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) and contact IBM Support.

00E800B2

The queue manager initialization procedure found that the version of ZPARM loaded was compiled for a higher release of IBM MQ.

System action

Startup is terminated.

System programmer response

Check whether the correct ZPARM has been loaded at initialization.

The existence of this version of ZPARM implies that the queue manager has been running at a higher release of the product.

Check to see if the queue manager has been started on a higher release of the product. If this is the case, you have inadvertently started IBM MQ with the wrong version of the product libraries.

It might still be possible to rebuild ZPARM using the macros from SCSQMACS for the current release of the product.

00E800CE

An ESTAE could not be established.

System action

The queue manager is terminated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested. Register 9 contains the address of a 4-byte field that contains the ESTAE macro return code.

System programmer response

Restart the queue manager.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) useful in resolving the problem.

00E800D1

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) and contact IBM Support.

00E800D2

An error was encountered while attempting to obtain the z/OS LOCAL lock.

System action

The queue manager is terminated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Restart the queue manager.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) useful in resolving the problem.

00E800D3

An error was encountered while attempting to release the z/OS LOCAL lock.

System action

The queue manager is terminated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Restart the queue manager.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) useful in resolving the problem.

00E800DF

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) and contact IBM Support.

00E80100

The queue manager was ended abnormally because the queue manager address space control task ESTAE was entered. This reason code is issued for all completion codes, except for the X'5C6' completion code.

The queue manager is unable to determine the cause of the error.

System action

Termination of the queue manager is initiated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Restart the queue manager after resolving the problem.

The subcomponent that caused the error is unknown. This reason code might be returned if the queue manager is unable to find the system parameter load module you specified on the **START QMGR** command (the default name is CSQZPARM). Check that the module you specified is available.

This reason code is also issued if the queue manager is canceled by the z/OS command **CANCEL**. If this is the case, determine why the queue manager was canceled.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#), together with the contents of the BSDS and a GTF trace, useful in resolving the problem.

00E8011D

An internal error has occurred.

System action

Termination of queue manager is initiated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) and contact IBM Support.

00E8011E

The allied address space task primary ESTAE detected that the secondary ESTAE could not be established.

System action

Abnormal termination of allied address space is continued. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) useful in resolving the problem.

00E8011F

The allied address space task primary ESTAE was entered without a subsystem diagnostic work area (SDWA) provided by z/OS RTM.

System action

Abnormal termination of the allied address space is continued. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) useful in resolving the problem.

00E8012D

An internal error has occurred.

System action

Abnormal termination of queue manager is initiated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) and contact IBM Support.

00E8012F

The allied address space task secondary ESTAE was entered without a subsystem diagnostic work area (SDWA) provided by z/OS .

System action

Continue with the abnormal termination of the allied address space. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) useful in resolving the problem.

00E80130

The FRR that protects the **START QMGR/STOP QMGR** command processor function was entered while a valid **STOP QMGR** command was being processed.

System action

The queue manager is terminated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) useful in resolving the problem.

00E80140

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) and contact IBM Support.

00E80150, 00E80151

An invalid module was detected.

System action

The queue manager is terminated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested. Register 9 contains the address of a 12-byte field that contains the following diagnostic information:

- Bytes 1 through 8 contain the name of the load module that contains the initialization entry point list with the invalid entry

System programmer response

Restart the queue manager after resolving the problem.

Check that the installation process was successful. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) and contact IBM Support.

00E8015F

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated. A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) and contact IBM Support.

00E80160

The queue manager initialization procedures found that a load module had an invalid AMODE or RMODE attribute.

System action

Queue manager startup is terminated.

System programmer response

See message CSQY006E.

00E80161

The queue manager initialization procedures found that a load module was not at the correct level for the version of the queue manager that was being started.

System action

Queue manager startup is terminated.

System programmer response

See message CSQY010E.

00E80162

The queue manager initialization procedures found that the storage protect key was not 7. The most likely cause is that the program properties table (PPT) entry for CSQYASCP has not been specified correctly.

System action

Queue manager startup is terminated.

System programmer response

Restart the queue manager after resolving the problem.

For information about specifying the PPT entry for CSQYASCP, see [Update the z/OS program properties table](#).

00E80163

The queue manager initialization procedures found that they were not APF authorized. The most likely cause is that one or more of the data sets in the //STEPLIB concatenation is not APF authorized.

System action

Queue manager startup is terminated.

System programmer response

Restart the queue manager after resolving the problem.

For information about APF authorization for the IBM MQ load libraries, see [APF authorize the IBM MQ load libraries](#)

00E80170

An internal error has occurred.

System action

The request is ignored.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1057](#) and contact IBM Support.

00E80171

The queue manager terminated because you replied to the message CSQY041D WTOR with the letter N.

System programmer response

See message [CSQY041D](#) for more information.

00E80172

The queue manager terminated because you replied to the message CSQY044D WTOR with the letter N.

System programmer response

See message [CSQY044D](#) for more information.

Related tasks

[Contacting IBM Support](#)

System parameter manager codes (X'E9')

If a system parameter manager reason code occurs that is not listed here, an internal error has occurred. Collect the following diagnostic items and contact IBM Support.

Diagnostics

- The console output for the period leading up to the error.
- The queue manager job log.
- The system dump resulting from the error.
- A printout of SYS1.LOGREC.
- The system parameter load module.
- The initialization procedure.
- The started task JCL procedure for this queue manager.
- Appropriate IBM MQ, z/OS, Db2, CICS, and IMS service levels.

00E90101

An error has occurred while trying to open IBM MQ resources. The most likely cause is that a customized system parameter load module specified on the **START QMGR** command is not available.

System action

A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Check that the system parameter load module you specified on the **START QMGR** command (the default name is CSQZPARM) is available for use. If it is, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1067](#) and contact IBM Support.

00E90201

An internal error has occurred while attempting to open IBM MQ resources.

System action

A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1067](#) and contact IBM Support.

00E90202

An error has occurred while attempting to open IBM MQ resources. The most likely cause is that a customized system parameter load module specified on the START QMGR command (the default name is CSQZPARM) has been built incorrectly.

System action

A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Check that the system parameter load module that you specified is available, and that it was linked correctly. See CSQ4ZPRM for sample link-edit JCL. and for information about the system parameter modules, see [Tailor your system parameter module](#).

Restart the queue manager. If the problem persists, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1067](#) and contact IBM Support.

00E90203

An internal error has occurred while attempting to verify descriptor control information in IBM MQ resources.

System action

A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1067](#) and contact IBM Support.

00E90301

An internal error has occurred while attempting to close IBM MQ resources.

System action

A record is written to SYS1.LOGREC, and an SVC dump is requested.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1067](#) and contact IBM Support.

Related tasks

[Contacting IBM Support](#)

Service facilities codes (X'F1')

00F10001, 00F10002, 00F10003, 00F10004, 00F10005, 00F10006, 00F10007, 00F10008, 00F10009, 00F10010, 00F10011, 00F10012, 00F10013, 00F10014, 00F10015, 00F10016, 00F10017, 00F10018 , 00F10019, 00F1001B, 00F1001C

An internal error has been detected in the CSQ1LOGP log print utility.

System action

A dump is requested. The utility ends abnormally with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the following diagnostic items and contact IBM Support:

- Utility report output

- System dump resulting from the error, if any
- Appropriate IBM MQ, z/OS, Db2, CICS, and IMS service levels.

V 9.4.0 00F1001A

The IBM MQ utility program was unable to initialize the required data conversion services. The reason for the failure is in register 0:

00C10002, 00C1000E

Unable to load modules

00C10003

Insufficient storage

Other

Internal error

System action

A dump is requested. The utility ends abnormally with completion code X'5C6'.

System programmer response

Check the console for messages indicating that a module was not loaded. Ensure that the module is in the required library (SCSQAUTH), that it is referenced correctly, and resubmit the job.

The utility program attempts to load this module from the library data sets under the STEPLIB DD statement of the utility address space.

If you are unable to resolve the problem, contact IBM Support.

V 9.4.0 00F1001D

The IBM MQ utility program was unable to allocate storage required to perform the request.

System action

A dump is requested. The utility ends abnormally with completion code X'5C6'.

System programmer response

It is probable that the REGION parameter on the EXEC statement of the job control language (JCL) for this invocation is too small. Increase the REGION size, and resubmit the request.

If you are unable to resolve the problem, contact IBM Support.

00F10100

An internal error has been detected in the CSQ1LOGP log print utility.

System action

A dump is requested. The utility ends abnormally with completion code X'5C6'.

System programmer response

Resubmit the job.

contact IBM Support if the problem persists.

00F10101

The stand-alone log read function returned an invalid RBA. See the explanation for message CSQ1211E.

System action

A dump is requested. The utility ends abnormally with completion code X'5C6'.

System programmer response

If you determine that the data set is a log data set and that it is not damaged, contact IBM Support.

Related tasks

[Contacting IBM Support](#)

IBM MQ-IMS bridge codes (X'F2')

If an IBM MQ-IMS bridge reason code occurs that is not listed here, an internal error has occurred. Collect the following diagnostic items and contact IBM Support.

Diagnostics

- A description of the actions that led to the error or, if applicable, either a listing of the application program or the input string to a utility program that was being run at the time of the error.
- The console output for the period leading up to the error.
- The queue manager job log.
- The IMS job logs.
- The system dump resulting from the error.
- Appropriate IBM MQ, z/OS, Db2, CICS, and IMS service levels.

00F20001, 00F20002, 00F20003, 00F20004, 00F20005, 00F20006, 00F20007, 00F20008, 00F20009, 00F2000A, 00F2000B, 00F2000C, 00F2000D, 00F2000E, 00F2000F, 00F20010, 00F20011

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1070](#) and contact IBM Support.

00F20012

The IBM MQ-IMS bridge received a bad return code from IXCQUERY macro.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Registers 3 and 4 contain the return and reason codes from XCF. Refer to the *MVS Programming: Sysplex Services Reference* for information about these codes.

00F20013

The IBM MQ-IMS bridge received a bad return from IXCJOIN macro.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Registers 3 and 4 contain the return and reason codes from XCF. Refer to the *MVS Programming: Sysplex Services Reference* for information about these codes.

00F20014

The IBM MQ-IMS bridge received a bad return from IXCCREAT macro.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Registers 3 and 4 contain the return and reason codes from XCF. Refer to the *MVS Programming: Sysplex Services Reference* for information about these codes.

Use the IMS DIS OTMA command to see if the OTMACON member name is already in use. This can be caused by specifying the IMS system instead of the queue manager name in the OTMACON member name.

00F20015, 00F20016

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1070](#) and contact IBM Support.

00F20017

The IBM MQ-IMS bridge received a bad return from IXCLEAVE macro.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Registers 3 and 4 contain the return and reason codes from XCF. Refer to the *MVS Programming: Sysplex Services Reference* for information about these codes.

00F20018

The IBM MQ-IMS bridge received a bad return from IXCDELET macro.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Registers 3 and 4 contain the return and reason codes from XCF. Refer to the *MVS Programming: Sysplex Services Reference* for information about these codes. contact IBM Support to report the problem.

00F20019, 00F2001A, 00F2001B, 00F2001C, 00F2001D, 00F2001E, 00F2001F, 00F20020, 00F20021, 00F20022

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1070](#) and contact IBM Support.

00F20023

The IBM MQ-IMS bridge received a bad return code from IXCMSSGO.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Registers 2 and 3 contain the return and reason codes from XCF. Refer to the *MVS Programming: Sysplex Services Reference* for information about these codes.

00F20024, 00F20026, 00F20027, 00F20029, 00F2002A, 00F2002B

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1070](#) and contact IBM Support.

00F2002C

The IBM MQ-IMS bridge received a bad return code from IXCMGO.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Registers 2 and 3 contain the return and reason codes from XCF. Refer to the *MVS Programming: Sysplex Services Reference* for information about these codes.

00F2002D, 00F2002E

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1070](#) and contact IBM Support.

00F20030

The IBM MQ-IMS bridge received a bad return code from IXCMGO.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Registers 2 and 3 contain the return and reason codes from XCF. Refer to the *MVS Programming: Sysplex Services Reference* for information about these codes.

00F20031

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1070](#) and contact IBM Support.

00F20032

The IBM MQ-IMS bridge received a bad return code from IXCMGO.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Registers 2 and 3 contain the return and reason codes from XCF. Refer to the *MVS Programming: Sysplex Services Reference* for information about these codes.

00F20035, 00F20036, 00F20037, 00F20038, 00F20039, 00F2003A, 00F2003B, 00F2003D, 00F2003E, 00F2003F, 00F20040

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1070](#) and contact IBM Support.

00F20041

The IBM MQ-IMS bridge received an MQOPEN error.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

contact IBM Support to report the problem.

00F20042

The IBM MQ-IMS bridge received an MQCLOSE error.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

contact IBM Support to report the problem.

00F20043

The IBM MQ-IMS bridge received an MQGET error.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

contact IBM Support to report the problem.

00F20044

The IBM MQ-IMS bridge received an MQPUT error.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

contact IBM Support to report the problem.

00F20045

The IBM MQ-IMS bridge received an MQOPEN error.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

contact IBM Support to report the problem.

00F20046

The IBM MQ-IMS bridge received an MQCLOSE error.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

contact IBM Support to report the problem.

00F20047

The IBM MQ-IMS bridge received an MQGET error.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

contact IBM Support to report the problem.

00F20048

The IBM MQ-IMS bridge received an MQPUT error.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

contact IBM Support to report the problem.

00F20049

The IBM MQ-IMS bridge received an MQPUT1 error.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

contact IBM Support to report the problem.

00F2004A, 00F2004B, 00F2004C, 00F2004D, 00F2004E, 00F2004F, 00F20050, 00F20051, 00F20052, 00F20053, 00F20054, 00F20055, 00F20056, 00F20057

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1070](#) and contact IBM Support.

00F20058

The IBM MQ-IMS bridge received an MQPUT1 error.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

contact IBM Support to report the problem.

00F20059

The IBM MQ-IMS bridge received a severe sense code in an IMS negative response.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

The IMS sense code is given in message CSQ2003I..

00F20069

The IBM MQ-IMS bridge received an error when trying to resolve an in-doubt unit of recovery.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6', and a dump is produced.

System programmer response

contact IBM Support to report the problem.

Related tasks

[Contacting IBM Support](#)

Subsystem support codes (X'F3')

Many of the following reason codes are returned in register 15 at the time of an abnormal termination with completion code X'0Cx', and not as the reason code for a completion code of X'5C6'. This is indicated in the descriptions that follow.

If a subsystem support reason code occurs that is not listed here, an internal error has occurred. Collect the following diagnostic items and contact IBM Support.

Diagnostics

- A description of the actions that led to the error or, if applicable, either a listing of the application program or the input string to a utility program that was being run at the time of the error.
- The console output for the period leading up to the error.
- The queue manager job log.
- The system dump resulting from the error.
- A printout of SYS1.LOGREC.
- Appropriate IBM MQ, z/OS, Db2, CICS, and IMS service levels.

00F30003, 00F30004, 00F30005

An internal error has occurred.

System action

The request is not processed. A dump is taken, and an entry is written in SYS1.LOGREC.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30006

An internal error has occurred.

System action

The request is not processed.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30007, 00F30008

An internal error has occurred.

System action

The request is not processed. A dump is taken, and an entry is written in SYS1.LOGREC.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30014

An internal error has occurred.

System action

The requester's task is ended abnormally with completion code X'5C6'. A dump is taken, and an entry is written in SYS1.LOGREC.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30027, 00F30030 ,00F30032, 00F30033, 00F30038

An internal error has occurred.

System action

The request is not processed. A dump is taken, and an entry is written in SYS1.LOGREC.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30042

An internal error has occurred.

System action

A dump is taken, and an entry is written in SYS1.LOGREC.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30048

An internal error has occurred.

System action

The request is not processed. A dump is taken, and an entry is written in SYS1.LOGREC.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30052

The recovery coordinator for the caller has already terminated, so the connection from the caller to IBM MQ has been terminated.

System action

The request is not processed. The connection from the caller to IBM MQ is terminated.

The caller might reconnect to IBM MQ when the recovery coordinator has been restarted.

System programmer response

Identify and restart the recovery coordinator.

This abnormal termination is most commonly associated with a termination of RRS. There might be additional CSQ3009E messages on the console log associated with the termination of RRS.

00F30053

An internal error has occurred.

System action

The request is not processed. A dump is taken, and an entry is written in SYS1.LOGREC.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30067

An internal error has occurred.

System action

The connection request is not processed. A dump is taken, and an entry is written in SYS1.LOGREC.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30070

Functional recovery for the connection processing could not be established. The executing module could not establish its ESTAE. This can occur if the current address space has insufficient storage. This might lead to an abnormal termination of the queue manager.

System action

The connection request is not processed. The caller is ended abnormally with completion code X'5C6' and this reason code.

System programmer response

Restart the queue manager if necessary. A dump should be taken for problem analysis.

Examine the usage and free areas in the LSQA portion of the current address space private area. If necessary, have the size of the private areas expanded.

The caller should produce a SYS1.LOGREC entry and an SVC dump, so that you can examine the LSQA area. You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) useful in resolving the problem.

00F30071

An internal error has occurred.

System action

The connection request is not processed. A dump is taken, and an entry is written in SYS1.LOGREC.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30075

An internal error has occurred.

System action

A dump is taken, and an entry is written in SYS1.LOGREC.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30078

An internal error has occurred.

System action

The request is not processed. A dump is taken, and an entry is written in SYS1.LOGREC.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30080

An internal error has occurred.

System action

The application program is ended abnormally with completion code X'5C6' and this reason code. A dump is taken, and an entry is written in SYS1.LOGREC.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30091

The application program issued an RRSF IDENTIFY function request, but RRS is not available.

System action

The IDENTIFY request is not processed.

00F30093

The application program issued an RRSF TERMINATE THREAD or TERMINATE IDENTIFY function request, but the application has issued an IBM MQ API request since the last invocation of SRRCMIT or SRRBACK and therefore is not at a point of consistency.

System action

The function request is not processed.

00F30095

An internal error was detected in either MQ or RRS.

System action

The application is ended abnormally. The error is recorded in the SYS1.LOGREC data set and an SVC dump is requested.

This error might, in many cases, eventually cause the queue manager to terminate abnormally.

System programmer response

This is probably either an error in IBM MQ or in RRS.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30096

An internal error was detected in either IBM MQ or RRS Context Services.

System action

The application is ended abnormally. The error is recorded in the SYS1.LOGREC data set and an SVC dump is requested.

This error might, in many cases, eventually cause the queue manager to terminate abnormally.

System programmer response

This is probably either an error in IBM MQ or in RRS.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30101

The parameter contained in the IEFSSNxx member used to initialize IBM MQ (and other subsystems) is in error. See message CSQ3101E for details.

System action

See message CSQ3101E.

System programmer response

See message CSQ3101E.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) useful in resolving the problem.

00F30102

The parameter contained in the IEFSSNxx member used to initialize IBM MQ (and other subsystems) is in error. The IBM MQ command prefix (CPF) must not be blank. For details, see message CSQ3102E.

System action

See message CSQ3102E.

System programmer response

See message CSQ3102E.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) useful in resolving the problem.

00F30103

The parameter contained in the IEFSSNxx member used to initialize IBM MQ (and other subsystems) is in error or the named module is not resident in a library available during IPL. See message CSQ3103E for details.

System action

See message CSQ3103E.

System programmer response

See message CSQ3103E.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) useful in resolving the problem.

00F30104

Module CSQ3UR00 was unable to obtain the affinity table index for the named subsystem. z/OS did not recognize the named subsystem. See message CSQ3109E for details.

System action

See message CSQ3109E.

System programmer response

See message CSQ3109E.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) useful in resolving the problem.

00F30105

Module CSQ3UR00 was unable to load Early module CSQ3EPX. Either there was an I/O error, or the named module is not resident in a library available during IPL. See message CSQ3105E for details.

System action

See message CSQ3105E.

System programmer response

See message CSQ3105E.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) useful in resolving the problem.

00F30106

The parameter contained in the IEFSSNxx member used to initialize IBM MQ (and other subsystems) is in error. The scope of the IBM MQ command prefix (CPF) is not valid. For details, see message CSQ3112E.

System action

See message CSQ3112E.

System programmer response

See message CSQ3112E.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) useful in resolving the problem.

00F30107

An error occurred during command prefix registration.

System action

The IBM MQ subsystem ends abnormally.

System programmer response

See the accompanying CSQ3xxx messages for information about the cause of the problem.

00F30210, 00F30211, 00F30212, 00F30213, 00F30214

An internal error has occurred.

System action

The caller is ended abnormally. An SVC dump and associated SYS1.LOGREC entries are produced.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30216

An attempt to create a queue manager address space failed. This is probably because the user who issued the **START QMGR** command has insufficient authority.

System action

The current **START** command processing is terminated. An SVC dump and associated SYS1.LOGREC entries are produced.

System programmer response

Check the authority of users and consoles to issue commands. Retry the command.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) useful in resolving the problem.

00F30217

The console ID for the z/OS console that entered the current command is not found in the z/OS unit control module (UCM) structure. An internal z/OS command might have been incorrectly issued by an application program that provided invalid input parameters.

System action

The caller is ended abnormally.

System programmer response

Retry the **START QMGR** command. If the command was unsuccessful, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30218

An internal error has occurred.

System action

The current task is ended abnormally. The calling task might have requested an SVC dump or created associated SYS1.LOGREC entries.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30219

An internal error has occurred.

System action

The calling task is ended abnormally. The calling task might have requested an SVC dump or created associated SYS1.LOGREC entries.

System programmer response

Cancel the queue manager. End-of-task processing might still work, and it does a more complete clean-up than end-of-memory processing does. If this does not work, issue the z/OS command **FORCE** for the queue manager. If the problem is still unresolved, it might be necessary to perform an IPL of your z/OS system.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F3021A

An internal error has occurred.

System action

The calling task is ended abnormally. An SVC dump and associated SYS1.LOGREC entries are produced.

System programmer response

Stop the queue manager and reissue the **START QMGR** command.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F3021C

An ESTAE could not be established. This can occur if the z/OS system address space that is broadcasting the command has insufficient storage.

System action

The caller is ended abnormally (without a dump). The current START command processing is terminated.

System programmer response

Retry the command. If the error persists, it might be necessary to perform an IPL of your z/OS system.

Examine the LOGREC entries, and the console log for indications of a z/OS error, and try increasing the storage.

If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F3021D

An ESTAE could not be established during either the initialization or termination of the queue manager.

This can occur during initialization if the z/OS system address space that is broadcasting the first command (assumed to be the **START** command) has insufficient storage.

This can occur during termination if the current address space (usually the queue manager, or in the case of EOM broadcast, a z/OS system address space) has insufficient storage.

System action

The caller is ended abnormally without taking a system dump. The initialization stops, but termination proceeds.

System programmer response

Retry the command after the queue manager has terminated. If the problem persists, it might be necessary to perform an IPL of your z/OS system.

Examine the LOGREC entries, and the console log for indications of a z/OS error, and try increasing the storage.

If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F3021E

An ESTAE could not be established while in the process of routing control to the actual ESTAE routine. The caller (RTM) is ended abnormally. This causes the original error to percolate to a higher-level recovery routine and causes this reason code to be shown in an RTM recovery environment.

This can occur if the current address space (usually an allied address space) has insufficient storage.

System action

The caller is ended abnormally and a dump is produced.

System programmer response

Examine the usage and free areas in the LSQA portion of the current address space private area. If necessary, have the size of the private area expanded.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) useful in resolving the problem.

00F3021F, 00F30220

An internal error has occurred.

System action

The caller is not ended abnormally. A dump is taken, and an entry is written in SYS1.LOGREC.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30230

An internal error has occurred.

System action

The connection between the allied address space and the queue manager terminated. A dump is taken, and an entry is written in SYS1.LOGREC.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30310

An internal error has occurred.

System action

The invoker is ended abnormally. A dump is taken, and an entry is written in SYS1.LOGREC.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30311

An ESTAE could not be established during the processing of a resolve-indoubt request. This can occur if the current address space has insufficient storage. This will probably cause an abnormal termination of the queue manager.

System action

The caller is ended abnormally.

System programmer response

Restart the queue manager if necessary.

Examine the usage and free areas in the local system queue area (LSQA) portion of the current address space private area. If necessary, have the size of the private area expanded.

The caller should produce a SYS1.LOGREC entry and an SVC dump, so that you can examine the LSQA area.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) useful in resolving the problem.

00F30312

An ESTAE could not be established during the processing of a resolve-indoubt-UR request. This can occur if the current address space has insufficient storage.

System action

The caller is ended abnormally.

System programmer response

Examine the usage and free areas in the local system queue area (LSQA) portion of the current address space private area. If necessary, have the size of the private area expanded.

The caller should produce a SYS1.LOGREC entry and an SVC dump.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) useful in resolving the problem.

00F30313

A control block could not be allocated. This could occur when the storage pool has no more free space available.

System action

The request is not processed. The application program is ended abnormally with completion code X'5C6' and this reason code.

System programmer response

A dump should be taken for problem analysis.

Check that you are running with the recommended region size, and if not, reset your system and retry. If you are unable to resolve the problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30400, 00F30401, 00F30402

An internal error has occurred.

System action

The program which made the request might produce diagnostics to report the error.

System programmer response

Collect the diagnostics produced by the application program reporting the error, if any, and contact IBM Support.

00F30406

The queue manager has gone to EOM (end-of-memory). This is probably because the z/OS command **FORCE** has been issued.

System action

The queue manager is terminated, and a dump is taken.

System programmer response

The queue manager can be restarted after termination completes.

Determine why the z/OS command **FORCE** was issued.

00F30409, 00F3040A

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated with an SVC dump.

System programmer response

The queue manager can be started again after it terminates.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F3040B

See message CSQ3001E.

System action

See message CSQ3001E.

System programmer response

See message CSQ3001E.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) useful in resolving the problem.

00F3040C, 00F3040D

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated with an SVC dump.

System programmer response

The queue manager can be started again after it terminates.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F3040E

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated.

System programmer response

The queue manager should be restarted.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F3040F, 00F30410

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated.

System programmer response

The queue manager can be started again after it terminates.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30411, 00F30412, 00F30413

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated.

System programmer response

The queue manager can be started again after it terminates.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30414

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated.

System programmer response

The queue manager can be started again after it terminates. If the problem persists, request a stand-alone dump, and perform an IPL of your z/OS system.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30415

An ESTAE could not be established during the processing of an EOM SSI broadcast. This is probably a z/OS problem, because these modules are executing in the z/OS master scheduler address space.

System action

The queue manager is terminated.

System programmer response

The queue manager can be started again after it terminates. If the problem persists, it might be necessary to perform an IPL of your z/OS system.

This can occur if the z/OS master scheduler address space has insufficient free storage. If such is the case, IBM MQ is unable to write a SYS1.LOGREC record or request a dump. The z/OS master scheduler should have produced these diagnostic aids. Examine the dump to determine whether the problem is in z/OS or IBM MQ. Other unrelated errors in the z/OS Master Scheduler address space would indicate a z/OS problem.

If the problem appears to be an IBM MQ problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30416

An ESTAE could not be established during the processing of an EOM for an allied address space.

System action

The queue manager is terminated.

System programmer response

The queue manager can be started again after it terminates. If the problem persists, it might be necessary to perform an IPL of your z/OS system.

This can occur if the z/OS master scheduler address space has insufficient free storage. If such is the case, IBM MQ is unable to write a SYS1.LOGREC record or request a dump. The z/OS master scheduler should have produced these diagnostic aids. Examine the dump to determine whether the problem is in z/OS or IBM MQ. Other unrelated errors in the z/OS Master Scheduler address space would indicate a z/OS problem.

If the problem appears to be an IBM MQ problem, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30417, 00F30418

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated.

System programmer response

The queue manager can be started again after it terminates.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30419

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated with an SVC dump.

System programmer response

The queue manager can be started again after it terminates.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F3041A

An ESTAE could not be established by the deferred end-of-task (EOT) processor. This error could occur only during queue manager startup. Probably, an ESTAE could not be established because of a shortage of LSQA space.

System action

The queue manager is terminated.

System programmer response

Restart the queue manager.

If the problem persists, increase the size of the queue manager address space private area.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) useful in resolving the problem.

00F3041B, 00F30420

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated. A SYS1.LOGREC entry and associated SVC dump were requested.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30429

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated with an SVC dump.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30450

An ESTAE could not be established during the processing of an identify SSI call. This can occur if the current address space has insufficient storage.

System action

The allied address space is ended abnormally (without a dump). A dump should be produced by the allied task.

System programmer response

The user can retry the identify request. If a dump is available, review the storage manager's control blocks to determine if all of the private area has been allocated. If necessary, increase the private area size of the allied address space.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) useful in resolving the problem.

00F30451

An ESTAE could not be established during the processing of an identify SSI call. This can occur if the current address space has insufficient storage.

System action

The allied task is ended abnormally (without a dump). A dump should be produced by the allied task.

System programmer response

The user can retry the identify request. If a dump is available, review the storage manager's control blocks to determine if all of the private area has been allocated. If necessary, increase the private area size of the allied address space.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) useful in resolving the problem.

00F30452

An ESTAE could not be established during the processing of an identify SSI call. This can occur if the current address space has insufficient storage.

System action

The allied task is ended abnormally (without a dump). A dump should be produced by the allied task.

System programmer response

The user can retry the identify request. If a dump is available, review the storage manager's control blocks to determine if all of the private area has been allocated. If necessary, increase the private area size of the allied address space.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) useful in resolving the problem.

00F30453

ESTAEs could not be established during the processing of a n SSI call other than FEOT, EOM, HELP, COMMAND, and IDENTIFY. This can occur if the current address space has insufficient storage.

System action

The allied task is ended abnormally (without a dump). A dump should be produced by the allied task.

System programmer response

The user can retry the request. If a dump is available, review the storage manager's control blocks to determine if all of the private area has been allocated. If necessary, increase the private area size of the allied address space.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) useful in resolving the problem.

00F30454

An internal error has occurred.

System action

The allied task is ended abnormally.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30455

An ESTAE could not be established during the processing of an identify termination request. This can occur if the current address space has insufficient storage.

System action

The allied task is ended abnormally (without a dump). A dump should be produced by the allied task.

System programmer response

The user can retry the request. If a dump is available, review the storage manager's control blocks to determine if all of the private area has been allocated. If necessary, increase the private area size of the allied address space.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) useful in resolving the problem.

00F30456

An internal error has occurred.

System action

The calling task is ended abnormally.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30457

An internal error has occurred.

System action

The caller is ended abnormally. The error might, in many cases, eventually terminate the queue manager.

System programmer response

Restart the queue manager if necessary.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30459

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated with a reason code of X'00F30420'.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30461

The queue manager was unable to successfully restart with RRS because of an internal error in either IBM MQ or RRS.

System action

The queue manager is not connected to RRS and all services dependent on that connection are unavailable. This means that applications might not connect to the queue manager using RRSAF and that WLM-established address spaces might not be used for IBM MQ stored procedures until the queue manager successfully restarts with RRS.

System programmer response

Stop and then start RRS. Stop and then start the queue manager. If the problem persists, perform an RRS cold start.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30501, 00F30502

An internal error has occurred.

System action

The requester is ended abnormally, and the request is not processed.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30503

CSQ6SYSP is missing from the system parameter load module.

System action

Queue manager start-up is terminated.

System programmer response

Re-create your system parameter load module (if a customized version is being used) and restart the queue manager. For information about the system parameter modules, see [Tailor your system parameter module](#).

00F30573, 00F30574

An internal error has occurred.

System action

The requester is ended abnormally, and the request is not processed. A dump is taken, and an entry is written in SYS1.LOGREC.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30580

An internal error has occurred.

System action

The requester is ended abnormally.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30581

An internal error has occurred.

System action

The queue manager ends abnormally. The startup/shutdown ESTAE creates a SYS1.LOGREC entry and takes an SVC dump.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30597, 00F30598

An internal error has occurred.

System action

The allied task is ended abnormally, and the request is not processed.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30599

An internal error has occurred.

System action

The connection name associated with the error is probably unable to continue communication with IBM MQ until the queue manager is terminated and restarted.

System programmer response

If necessary, stop and restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30601

Asynchronous events occurred which caused the premature termination of the thread. The thread could not be recovered.

There might be other errors or messages concerning this allied user indicating what the asynchronous events were.

System action

The allied user is ended abnormally with completion code X'5C6' and this reason code.

System programmer response

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) useful in resolving the problem.

00F30610

An ESTAE could not be established during the processing of an 'end stop-work force' notification. This can occur if there is insufficient storage. This might lead to abnormal termination of the queue manager.

System action

The caller is ended abnormally. An SVC dump and related SYS1.LOGREC entry are requested.

System programmer response

If necessary, restart the queue manager.

If necessary, increase the private area size of the address space.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) useful in resolving the problem.

00F30801

An internal error has occurred.

System action

The queue manager is terminated. An SVC dump is requested.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30802

An internal error has occurred.

System action

The task is not ended abnormally.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30803

An ESTAE could not be established during the processing of an application program support call. This can occur if the current address space has insufficient storage.

System action

The allied task is ended abnormally. The allied task might have requested an SVC dump.

System programmer response

The user can retry the request. If necessary, increase the private area size of the application address space.

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) useful in resolving the problem.

00F30805

An internal error has occurred.

System action

The request might have been processed or rejected.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) and contact IBM Support.

00F30901

IBM MQ has lost its cross-memory authority to an allied address space because the ally has released its authorization index.

System action

The allied address space is terminated.

System programmer response

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) useful in resolving the problem.

00F30902

MQ has detected a recursive error condition while processing End-of-Task for a task in an allied address space.

System action

The allied address space is terminated.

System programmer response

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) useful in resolving the problem.

00F30903

An error has occurred while processing End-of-Task for the queue manager address space.

System action

The address space is forced to 'end-of-memory' with this reason code.

System programmer response

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) useful in resolving the problem.

00F30904

End-of-Task occurred for the queue manager address space, and IBM MQ could not establish an ESTAE to protect its processing. Insufficient storage might be the reason the ESTAE could not be established.

System action

The address space is forced to 'end-of-memory' with this reason code.

System programmer response

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) useful in resolving the problem.

Attempt to determine if one or more IBM MQ address spaces is storage-constrained. Examination of the console output for the time period preceding this condition might reveal other messages or indications that the terminating address space was storage-constrained.

00F30905

End-of-Task occurred for the job step task in an allied address space. IBM MQ would normally attempt to terminate the address space's connection to the queue manager but was unable to protect its processing by establishing an ESTAE. Insufficient storage might be the reason the ESTAE could not be established.

System action

The address space is forced to 'end-of-memory' with this reason code.

System programmer response

You might find the items listed in [“Diagnostics” on page 1075](#) useful in resolving the problem.

Attempt to determine if one or more allied address spaces is storage-constrained. Examination of the console output for the time period preceding this condition might reveal other messages or indications that the terminating allied address space was storage-constrained.

00F33100

The IBM MQ thread is read-only.

System action

A prepare issued by the application program was processed through Phase-1. IBM MQ discovered there were no resources modified and no need for COMMIT or BACKOUT to be subsequently issued.

System programmer response

This might create a path length saving by not issuing the subsequent commit or backout which normally follows prepare. No further action is required to complete the unit of recovery; the unit of recovery is complete.

Related tasks

[Contacting IBM Support](#)

Db2 manager codes (X'F5')

If a Db2 manager reason code occurs that is not listed here, an internal error has occurred. Collect the following diagnostic items and contact IBM Support.

Diagnostics

- A description of the actions that led to the error or, if applicable, either a listing of the application program or the input string to a utility program that was being run at the time of the error.
- The console output for the period leading up to the error.
- The queue manager job log.
- The system dump resulting from the error.
- A printout of SYS1.LOGREC.
- Appropriate IBM MQ, z/OS, Db2, CICS, and IMS service levels.

00F50000

An internal error has occurred.

System action

The queue manager terminates, a record is written to SYS1.LOGREC and a dump is taken.

System programmer response

Ensure that the QSGDATA system parameter is specified correctly and restart the queue manager.

If the problem persists, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1093](#) and contact IBM Support.

00F50001

An internal error has occurred.

System action

The queue manager terminates, a record is written to SYS1.LOGREC and a dump is taken.

System programmer response

Restart the queue manager.

If the problem persists, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1093](#) and contact IBM Support.

00F50002

An internal error has occurred.

System action

The task ends abnormally. Queue manager processing continues but the queue manager might not terminate normally and might not register Db2 termination.

System programmer response

Refer to *Db2 for z/OS Messages and Codes* for information about the completion and reason code in the accompanying message and collect the diagnostic data requested in the manual. In addition, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1093](#) and contact IBM Support.

00F50003

An internal error has occurred.

System action

The task ends abnormally. Queue manager processing continues.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1093](#) and contact IBM Support.

00F50004

An internal error has occurred.

System action

The queue manager terminates, a record is written to SYS1.LOGREC and a dump is taken.

System programmer response

Ensure that the following modules are available through the linklist or the steplib concatenation: DSNRLI, DSNHLIR, DSNWLIR, ATRCMIT and ATRBACK. Restart the queue manager.

If the problem persists, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1093](#) and contact IBM Support.

00F50006

An internal error has occurred.

System action

The queue manager terminates, a record is written to SYS1.LOGREC and a dump is taken.

System programmer response

All queue managers that are members of the same queue sharing group must connect to the same Db2 data-sharing group. Check that all queue managers in the queue sharing group have the same Db2 data-sharing group specified in the QSGDATA system parameter. Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1093](#) and contact IBM Support.

00F50007

An internal error has occurred.

System action

The queue manager terminates, a record is written to SYS1.LOGREC and a dump is taken.

System programmer response

Ensure that the Db2 subsystem(s) specified on the QSGDATA system parameter are members of the Db2 data-sharing group that is also specified on the QSGDATA system parameter. Restart the queue manager.

If the problem persists, refer to *Db2 for z/OS Messages and Codes* for information about the completion and reason code in the accompanying message and collect the diagnostic data requested in the manual. In addition, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1093](#) and contact IBM Support.

00F50008

An internal error has occurred.

System action

The task ends abnormally and processing continues.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1093](#) and contact IBM Support.

00F50009

An internal error has occurred.

System action

The queue manager terminates, a record is written to SYS1.LOGREC and a dump is taken.

System programmer response

Restart the queue manager.

Refer to *Db2 for z/OS Messages and Codes* for information about the completion and reason code in the accompanying message and collect the diagnostic data requested in the manual. In addition, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1093](#) and contact IBM Support.

00F50010

An internal error has occurred.

System action

The queue manager terminates, a record is written to SYS1.LOGREC and a dump is taken.

System programmer response

Restart the queue manager.

See z/OS 「MVS」プログラミング: シスプレックス・サービス解説書 for an explanation of the error and the diagnostic information, if any, that you must collect. In addition, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1093](#) and contact IBM Support.

00F50013

No queue manager entry was found in the CSQ.ADMIN_B_QMGR table for this combination of queue manager and queue sharing group, or the entry was incorrect.

System action

The queue manager terminates, a record is written to SYS1.LOGREC and a dump is taken.

System programmer response

Check the CSQ.ADMIN_B_QMGR table in the Db2 data-sharing group and ensure that an entry has been defined for the queue manager and it relates to the correct queue sharing group.

If you are migrating from a previous release of MQ, check also that you have updated the Db2 tables to the format for the current release. See [Maintaining and migrating](#), for information about migration and compatibility between releases.

Restart the queue manager. If the problem persists, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1093](#) and contact IBM Support.

00F50014

An internal error has occurred.

System action

The queue manager terminates, a record is written to SYS1.LOGREC and a dump is taken.

System programmer response

Check that the Db2 related installation and customization tasks have all completed successfully. Restart the queue manager.

If the problem persists, refer to *Db2 for z/OS Messages and Codes* for information about the completion and reason code in the accompanying message and collect the diagnostic data requested in the manual. In addition, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1093](#) and contact IBM Support.

00F50015

An internal error has occurred.

System action

The queue manager terminates, a record is written to SYS1.LOGREC and a dump is taken.

System programmer response

Restart the queue manager.

If the problem persists, refer to *Db2 for z/OS Messages and Codes* for information about the completion and reason code in the accompanying message and collect the diagnostic data requested in the manual. In addition, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1093](#) and contact IBM Support.

00F50016

An internal error has occurred.

System action

The queue manager terminates, a record is written to SYS1.LOGREC and a dump is taken.

System programmer response

Restart the queue manager.

If the problem persists, refer to *Db2 for z/OS Messages and Codes* for information about the completion and reason code in the accompanying message and collect the diagnostic data requested in the manual. In addition, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1093](#) and contact IBM Support.

00F50017

An internal error has occurred.

System action

The queue manager terminates, a record is written to SYS1.LOGREC and a dump is taken.

System programmer response

See [z/OS 「MVS」 プログラミング: シスプレックス・サービス解説書](#) for information about the completion and reason code in the accompanying message.

Restart the queue manager. If the problem persists, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1093](#) and contact IBM Support.

This error may occur if one or more of the queue managers in a queue sharing group (QSG) do not have a member entry in the XCF group for the QSG.

Enter the following z/OS command substituting the queue sharing group name for xxxx:

```
D XCF,GRP,CSQGxxxx,ALL
```

This will list the members of the XCF group. If any queue managers are defined as a member of the QSG, but do not have an entry in the XCF Group, use the ADD QMGR command of the CSQ5PQSG utility to restore the XCF group entry for that queue manager. The utility should be run for each queue manager which does not have an entry in the XCF group.

00F50018

An internal error has occurred.

System action

The queue manager terminates, a record is written to SYS1.LOGREC and a dump is taken.

System programmer response

See [z/OS 「MVS」 プログラミング: シスプレックス・サービス解説書](#) for information about the completion and reason code in the accompanying message.

Restart the queue manager. If the problem persists, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1093](#) and contact IBM Support.

00F50019

An internal error has occurred.

System action

The queue manager terminates, a record is written to SYS1.LOGREC and a dump is taken.

System programmer response

See z/OS 「MVS」 [プログラミング: シスプレックス・サービス解説書](#) for information about the completion and reason code in the accompanying message.

Restart the queue manager. If the problem persists, collect the items listed in “[Diagnostics](#)” on page [1093](#) and contact IBM Support.

00F5001C

CSQ5_DB2_UNAVAILABLE

System action

The queue manager terminates, a record is written to SYS1.LOGREC and a dump is taken.

System programmer response

See z/OS 「MVS」 [プログラミング: シスプレックス・サービス解説書](#) for information about the completion and reason code in the accompanying message.

Restart the queue manager. If the problem persists, collect the items listed in “[Diagnostics](#)” on page [1093](#) and contact IBM Support.

00F50021

An internal error has occurred.

System action

The queue manager terminates, a record is written to SYS1.LOGREC and a dump is taken.

System programmer response

See z/OS 「MVS」 [プログラミング: シスプレックス・サービス解説書](#) for information about the completion and reason code in the accompanying message.

Restart the queue manager. If the problem persists, collect the items listed in “[Diagnostics](#)” on page [1093](#) and contact IBM Support.

00F50024

An internal error has occurred.

System action

The task ends abnormally and a dump is taken.

System programmer response

If the problem persists, collect the items listed in “[Diagnostics](#)” on page [1093](#) and contact IBM Support.

00F50025

An internal error has occurred.

System action

The task ends abnormally and a dump is taken.

System programmer response

Collect the items listed in “[Diagnostics](#)” on page [1093](#) and contact IBM Support.

00F50026

An internal error has occurred.

System action

The task ends abnormally and a dump is taken.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1093](#) and contact IBM Support.

00F50027

An internal error has occurred.

System action

The task ends abnormally and a dump is taken.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1093](#) and contact IBM Support.

00F50028

An internal error has occurred.

System action

The task ends abnormally and a dump is taken.

System programmer response

This might be a temporary condition if Db2 or RRS has failed. If the problem persists, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1093](#), together with output from Db2 command **DISPLAY THREAD(*)**, and contact IBM Support.

00F50029

The queue manager has detected a mismatch between its supported versions of MQ and those of other members of the queue sharing group.

System action

The queue manager terminates, a record is written to SYS1.LOGREC and a dump is taken.

System programmer response

Locate the queue managers in the queue-sharing group that are below the level supported by the queue manager issuing the message, and upgrade them to at least the supported level before trying to start the queue manager again.

For information about compatibility between releases, see [Queue sharing group coexistence on z/OS](#).

If the correct version is being run, collect the items listed in Db2, together with a printout of the CSQ.ADMIN_B_QMGR table from the Db2 data-sharing group to which the queue manager connected, and contact IBM Support.

00F50033

The queue manager detected that one or more active log datasets is encrypted, and active log encryption is not supported by one or more other members of the queue sharing group.

This abend is preceded by message [CSQ5040E](#). See the explanation of that message for more details of the failure

System action

The queue manager terminates, a record is written to SYS1.LOGREC and a dump is taken.

00F50901

An internal error has occurred.

System action

The job ends abnormally with a X'5C6' completion code and a dump is taken.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1093](#) and contact IBM Support.

00F51030

An internal error has occurred.

System action

The task ends abnormally and a dump is taken.

System programmer response

Restart RRS if it has terminated. If RRS has not terminated, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1093](#) and contact IBM Support.

00F51031

An internal error has occurred on a Db2 connection thread.

System action

The task ends abnormally and a new task is created. A dump is taken if there is an 'in-flight' Db2 request.

System programmer response

None. A new Db2 server task is automatically re-created to replace the task that was terminated. If the problem persists, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1093](#) and contact IBM Support.

Related tasks

[Contacting IBM Support](#)

Generalized command preprocessor codes (X'F9')

If a command preprocessor reason code occurs that is not listed here, an internal error has occurred. Collect the following diagnostic items and contact IBM Support.

Diagnostics

- A description of the actions that led to the error or, if applicable, either a listing of the application program or the input string to a utility program that was being run at the time of the error.
- The console output for the period leading up to the error.
- The queue manager job log.
- The system dump resulting from the error.
- Appropriate IBM MQ, z/OS, Db2, CICS, and IMS service levels.
- If you are using the IBM MQ Operations and Control panels, the ISPF panel name.
- The command issued before the error occurred.

00F90000

An internal error has occurred.

System action

Command execution was ended abnormally. If the command was properly entered, it might have been partially or completely executed.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1099](#) and contact IBM Support.

It might be necessary to restart the CICS or IMS adapter.

00F90001

An internal error has occurred.

System action

Command execution was ended abnormally. If the command was properly entered, it might have been partially or completely executed.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1099](#) and contact IBM Support.

It might be necessary to restart the CICS or IMS adapter.

00F90002

The routines of the multiple console support (MCS) service of z/OS. were unable to initialize. This condition might indicate an error in the address space.

System action

Initialization is stopped, causing the queue manager to terminate.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1099](#) and contact IBM Support.

Restart the queue manager.

00F90003

The routines of the multiple console support (MCS) service of z/OS were unable to initialize.

System action

If the error was issued by module CSQ9SCNM, queue manager initialization is stopped, causing the queue manager to terminate. If the error was issued by module CSQ9SCN6, the command from the associated console is executed, and should proceed normally.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1099](#) and contact IBM Support.

00F90004

The routines of the multiple console support (MCS) service of z/OS detected a logic error.

System action

The command was not executed.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1099](#) and contact IBM Support.

00F90005

A routine of the multiple console support (MCS) service of z/OS was not able to create an ESTAE recovery environment. This condition is detected when the ESTAE service of z/OS returns a nonzero return code. The command from the associated z/OS console is not executed. See [z/OS MVS Programming: Assembler Services Reference](#) Volume 1 for an explanation of ESTAE return codes.

System action

Command processing is terminated.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1099](#) and contact IBM Support.

00F90006

An internal error has occurred.

System action

Agent allocation is terminated.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1099](#) and contact IBM Support.

00F90007

An internal error has occurred.

System action

The statistical update is not completed. The statistics block address is cleared from the CGDA to prevent future problems. No further command statistical counts are maintained. Processing for the command is retried and should complete normally.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1099](#) and contact IBM Support.

00F90008

An internal error has occurred.

System action

The function is ended abnormally.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1099](#) and contact IBM Support.

00F90009

This reason code is used to document that module CSQ9SCN9 has added information to the SDWA variable recording area (VRA) following the data provided by the CSQWRCRD service. If CSQ9SCN9 records an error in SYS1.LOGREC and the reason code in the VRA is not of the form X'00F9xxxx', the reason code is changed to X'00F90009'. This is done so that anyone examining a SYS1.LOGREC entry can determine, from the reason code, what additional data has been placed in the VRA. The reason code is the first data item in the VRA, as mapped by macro IHAVRA.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1099](#) and contact IBM Support.

00F9000A

An internal error has occurred.

System action

Command execution was ended abnormally. The command was not executed.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1099](#) and contact IBM Support.

00F9000B

An internal error occurred while attempting to obtain CSA storage. The storage request could not be satisfied, either because no CSA storage was available or because an unreasonably large amount of storage was requested. The amount of storage requested is determined by the length of the command being parsed. Normally, it is several hundred bytes.

System action

Command execution is ended abnormally.

System programmer response

It might be necessary to restart the CICS or IMS adapter, or the queue manager.

If the problem persists, collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1099](#) and contact IBM Support.

00F9000C

An internal error has occurred.

The command processor invoked attempted to return a message formatted for inclusion in a z/OS multiple line WTO (write to operator).

System action

Command execution is ended abnormally.

System programmer response

The command in error is identified by message CSQ9017E. It might be necessary to restart the CICS or IMS adapter, or the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1099](#) and contact IBM Support.

00F9000D

An internal error has occurred.

System action

The queue manager start-up is terminated.

System programmer response

Restart the queue manager.

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1099](#) and contact IBM Support.

00F9000E

An internal error has occurred.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Collect the items listed in [“Diagnostics” on page 1099](#) and contact IBM Support.

00F9000F

MQ was unable to locate the default userid to be used on a command check. This indicates that CSQ6SYSP is not in the system parameter load module.

System action

The current execution unit terminates with completion code X'5C6'.

System programmer response

Ensure that CSQ6SYSP is in the system parameter load module. Restart the queue manager if necessary.

00F90010

An internal error has occurred while processing a command.

System action

Command execution was ended abnormally. The command was not executed.

System programmer response

Collect the items listed in “Diagnostics” on page 1099 and contact IBM Support.

Related tasks

[Contacting IBM Support](#)

IBM MQ CICS adapter abend codes

All the CICS versions supported by IBM MQ 9.0.0, and later, use the CICS supplied version of the adapter. See the [Transaction abend codes](#) section of the CICS documentation for further information.

IBM MQ CICS bridge abend codes

All the CICS versions supported by IBM MQ 9.0.0, and later, use the CICS supplied version of the bridge. See the [Transaction abend codes](#) section of the CICS documentation for further information.

IBM MQ component identifiers

IBM MQ for z/OS has a component-based architecture and each component uses a unique identifier code. These identifier codes are displayed in some of the informational messages.

Component	ID	Hex ID
Batch adapter	B	X'C2'
CICS adapter	C	X'C3'
Coupling Facility manager	E	X'C5'
Message generator	F	X'C6'
Functional recovery manager	G	X'C7'
Security manager	H	X'C8'
Data manager	I	X'C9'
Recovery log manager	J	X'D1'
Lock manager	L	X'D3'
Connection manager	m	X'94'
Message manager	M	X'D4'
Command server	N	X'D5'
Operations and control	O	X'D6'
Buffer manager	P	X'D7'
IMS adapter	Q	X'D8'
Recovery manager	R	X'D9'
Storage manager	S	X'E2'
Timer services	T	X'E3'
Utilities	U	X'E4'

Table 15. Component identifiers used in IBM MQ messages and codes (continued)

Component	ID	Hex ID
Agent services	V	X'E5'
Instrumentation facilities	W	X'E6'
Distributed queuing	X	X'E7'
Initialization procedures and general services	Y	X'E8'
System parameter manager	Z	X'E9'
Advanced message security	0 (zero)	X'F0'
Service facilities	1	X'F1'
IBM MQ - IMS bridge	2	X'F2'
Subsystem support	3	X'F3'
Db2 manager	5	X'F5'
Generalized command processor	9	X'F9'

z/OS Communications protocol return codes for z/OS

The communication protocols used by IBM MQ for z/OS can issue their own return codes. Use these tables to identify the return codes used by each protocol.

The tables in this topic show the common return codes from TCP/IP and APPC/MVS returned in messages from the distributed queuing component:

- [“TCP/IP z/OS UNIX System Services Sockets return codes” on page 1104](#)
- [APPC/MVS return codes](#)

If the return code is not listed, or if you want more information, see to the documentation mentioned in each table.

If the return code you received is X'7D0' or more, it is one of the MQRC_* return codes issued by IBM MQ. These codes are listed in [“API 完了コードと理由コード” on page 1123](#).

TCP/IP z/OS UNIX System Services Sockets return codes

See the [z/OS UNIX System Services Messages and Codes](#) manual for more information and for further return codes.

Table 16. z/OS UNIX System Services sockets return codes

Return code (Hexadecimal)	Explanation
0001	Error in the domain
0002	Result is too large
006F	Permission is denied
0070	The resource is temporarily unavailable
0071	The file descriptor is incorrect
0072	The resource is busy
0073	No child process exists

Table 16. z/OS UNIX System Services sockets return codes (continued)

Return code (Hexadecimal)	Explanation
0074	A resource deadlock is avoided
0075	The file exists
0076	The address is incorrect
0077	The file is too large
0078	A function call is interrupted
0079	The parameter is incorrect
007A	An I/O error occurred
007B	The file specified is a directory
007C	Too many files are open for this process
007D	Too many links occurred
007E	The file name is too long
007F	Too many files are open in the system
0080	No such device exists
0081	No such file, directory, or IPC member exists
0082	The exec call contained a format error (DFSMS error)
0083	No locks are available
0084	Not enough space is available
0085	No space is left on the device, or no space is available to create the IPC member ID
0086	The function is not implemented
0087	Not a directory
0088	The directory is not empty
0089	The I/O control operator is inappropriate
008A	No such device or address exists
008B	The operation is not permitted
008C	The pipe is broken
008D	The specified file system is read only
008E	The seek is incorrect
008F	No such process or thread exists
0090	A link to a file on another file system was attempted
0091	The parameter list is too long, or the message to receive was too large for the buffer
0092	A loop is encountered in symbolic links
0093	The byte sequence is incorrect

Table 16. z/OS UNIX System Services sockets return codes (continued)

Return code (Hexadecimal)	Explanation
0095	A value is too large to be stored in the data type
0096	OpenMVS kernel is not active
0097	Dynamic allocation error
0098	Catalog Volume Access Facility error
0099	Catalog obtain error
009C	Process Initialization error
009D	An MVS environmental or internal error has occurred
009E	Bad parameters were passed to the service
009F	File system encountered a permanent file error
00A2	File system encountered a system error
00A3	SAF/RACF extract error
00A4	SAF/RACF error
00A7	Access to the OpenMVS version of the C RTL is denied
00A8	The password for the specified resource has expired
00A9	The new password specified is not valid
00AA	A WLM service ended in error
03EA	Socket number assigned by client interface code (for socket() and accept()) is out of range
03EB	Socket number assigned by client interface code is already in use
03ED	Offload box error
03EE	Offload box restarted
03EF	Offload box down
03F0	Already a conflicting call outstanding on socket
03F1	Request canceled using SOCKcallCANCEL request
03F3	SetIbmOpt specified a name of a PFS that either was not configured or was not a Sockets PFS
044C	Block device required
044D	Text file busy
044E	The descriptor is marked nonblocking, and the requested function cannot complete immediately
044F	Operation now in progress
0450	Operation already in progress
0451	Socket operation on a non-socket
0452	Destination address required
0453	The message is too large to be sent in a single transmission, as required

Table 16. z/OS UNIX System Services sockets return codes (continued)

Return code (Hexadecimal)	Explanation
0454	The socket type is incorrect
0455	Protocol or socket option unavailable
0456	Protocol not supported
0457	Socket type not supported
0458	The referenced socket is not a type that supports the requested function
0459	Protocol family not supported
045A	The address family is not supported
045B	The address is already in use
045C	Cannot assign requested address
045D	Network is down
045E	Network is unreachable
045F	Network dropped connection on reset
0460	Software caused connection abort
0461	Connection reset by peer
0462	Insufficient buffer space available
0463	The socket is already connected
0464	The socket is not connected
0465	Cannot send after socket shutdown
0466	Too many references: Cannot splice
0467	Connection timed out
0468	The attempt to connect was rejected
0469	Host is down
046A	No route to host
046B	Too many processes
046C	Too many users
046D	Disk quota exceeded
046E	Stale NFS file handle
046F	Too many levels of remote in path
0470	Device is not a stream
0471	Timer expired
0472	Out of streams resources
0473	No message of the required type
0474	Trying to read unreadable message
0475	Identifier removed

Table 16. z/OS UNIX System Services sockets return codes (continued)

Return code (Hexadecimal)	Explanation
0476	Machine is not on the network
0477	Object is remote
0478	The link has been severed
0479	Advertise error
047A	srmount error
047B	Communication error on send
047C	Protocol error
047D	Protocol error
047E	Cross mount point
047F	Remote address change
0480	The asynchronous I/O request has been canceled
0481	Socket send/receive gotten out of order
0482	Unattached streams error
0483	Streams push object error
0484	Streams closed error
0485	Streams link error
0486	Tcp error
Other	See the <i>z/OS UNIX System Services Messages and Codes</i> manual

APPC/MVS return codes

The tables in this section document the following return codes:

- [APPC return codes](#)
- [APPC allocate services return codes](#)
- [APPC reason codes](#)

See the *z/OS MVS Programming: Writing Transaction Programs for APPC/MVS* and *z/OS MVS Programming: Writing Servers for APPC/MVS* documentation for more information.

APPC return codes

This table documents the return codes that can be returned from APPC/MVS in messages from the distributed queuing component if you are using APPC/MVS as your communications protocol. These return codes can be returned to the local program in response to a call.

Table 17. APPC return codes and their meanings	
Return code (Hexadecimal)	Explanation
00	The call issued by the local program ran successfully. If the call specified a Notify_type of ECB, the call processing is performed asynchronously, and the ECB is posted when the processing is complete.

<i>Table 17. APPC return codes and their meanings (continued)</i>	
Return code (Hexadecimal)	Explanation
01	The caller specified an <code>allocate_type</code> that was other than <i>immediate</i> . Either APPC/MVS can not establish a session with the partner LU, or VTAM can not establish the conversation. In this case (when <code>allocate_type</code> is <i>immediate</i>), APPC/MVS converts this return code to "unsuccessful".
02	The conversation cannot be allocated on a session because of a condition that might be temporary. The program can try again the allocation request. The system returns this code when the <code>allocate_type</code> specified on a CALLOC verb is other than <i>immediate</i> .
03	The partner LU rejected the allocation request because the local program issued an Allocate call with the <code>Conversation_type</code> parameter set to either <code>Basic_conversation</code> or <code>Mapped_conversation</code> , and the partner program does not support the mapped or basic conversation protocol boundary. This return code is returned on a call made after the Allocate.
05	The partner LU rejected an ATBALLC or ATBALC2 (allocate) request because the partner program has one or more initialization parameter (PIP) variables defined. APPC/MVS does not support these parameters. This return code is returned on a call made after the Allocate. It is not returned for allocate requests made using CPI Communications.
06	The partner LU rejected the allocation request because the access security information is not valid. This return code is returned on a call subsequent to the Allocate.
08	The partner LU rejected the allocation request because the local program specified a synchronization level (with the <code>Sync_level</code> parameter) that the partner program does not support. This return code is returned on a call subsequent to the Allocate.
09	The partner LU rejected the allocation request because the local program specified a partner program that the partner LU does not recognize. This return code is returned on a call subsequent to the Allocate.
0A	The partner LU rejected the allocation request because the local program specified a partner program that the partner LU recognizes but cannot start. The condition is not temporary, and the program should not try again the allocation request. This return code is returned on a call subsequent to the Allocate.
0B	The partner LU rejected the allocation request because the local program specified a partner program that the partner LU recognizes but currently cannot start. The condition might be temporary, and the program can try again the allocation request. This return code is returned on a call subsequent to the Allocate.
11	The partner program issued a Deallocate call with a <code>Deallocate_type</code> of <code>Deallocate_abend</code> , or the partner LU has done so because of a partner program abnormal ending condition. If the partner program was in receive state when the call was issued, information sent by the local program and not yet received by the partner program is purged. This return code is reported to the local program on a call the program issues in Send or Receive state.

<i>Table 17. APPC return codes and their meanings (continued)</i>	
Return code (Hexadecimal)	Explanation
12	The partner program issued a Deallocate call on a basic or mapped conversation with a Deallocate_type of Deallocate_sync_level or Deallocate_flush. This return code is reported to the local program on a call the program issues in Receive state.
13	<p>The local program issued a call specifying an argument that was not valid. Specific reasons for the return code apply to the following callable services:</p> <p>ATBALC2 or ATBALLC (LU 6.2 Allocate)</p> <ul style="list-style-type: none"> • The TP name was not 1 - 64 characters long • Either the SYMDEST name or the TP name length were not specified • SNASVCMG is specified as mode name • X'06' is used as the first character of a TP name • An SNA service TP name is used with a mapped conversation verb • The partner LU name was not valid • The mode name was not valid • The local LU name specified is either undefined or not permitted <p>CMALLC (CPI-C Allocate)</p> <ul style="list-style-type: none"> • SNASVCMG is specified as mode name • X'06' is used as the first character of a TP name • An SNA service TP name is used with a mapped conversation verb • The mode name was not valid
14	A product-specific error has been detected. The system writes symptom records that describe the error to SYS1.LOGREC.
15	<p>Indicates one of the following:</p> <ul style="list-style-type: none"> • The partner program made a Send_error call on a mapped conversation and the conversation for the partner program was in Send state. No truncation occurs at the mapped conversation protocol boundary. This return code is reported to the local program on a Receive call before receiving any data records or after receiving one or more data records. • The partner program made a Send_error call specifying the Type parameter with a value of PROG, the conversation for the partner program was in Send state, and the call did not truncate a logical record. No truncation occurs at the basic conversation protocol boundary when a program performs a Send_error before sending any logical records, or after sending a complete logical record. This return code is reported to the local program on a Receive call before receiving any logical records or after receiving one or more complete logical records.

Table 17. APPC return codes and their meanings (continued)

Return code (Hexadecimal)	Explanation
16	The partner program made a Send_error call on a mapped conversation, or made a Send_error call on a basic conversation specifying the Type parameter with a value of PROG, and the conversation for the partner program was in Receive or Confirm state. The call might have caused information to be purged. Purging occurs when a program issued Send_error in receive state before receiving all the information sent by its partner program. No purging occurs when a program issues the call in Confirm state or in Receive state after receiving all the information sent by its partner program. The return code is normally reported to the local program on a call it issues before sending any information, depending on the call and when it is made.
17	The partner program made a Send_error call specifying the Type parameter with a value of PROG, the conversation for the partner program was in Send state, and the call truncated a logical record. Truncation occurs at the basic conversation protocol boundary when a program begins sending a logical record and then makes a Send_error call before sending the complete logical record. This return code is reported to the local program on a Receive call it issues after receiving the truncated logical record.

Table 17. APPC return codes and their meanings (continued)

Return code (Hexadecimal)	Explanation
18	<p>The local program issued a call in which a programming error has been found in one or more parameters. Specific reasons for the return code apply to the following callable services:</p> <p>ATBALC2 or ATBALLC (LU 6.2 Allocate)</p> <ul style="list-style-type: none"> • An unauthorized caller passed a nonzero TP_ID • For Sec_pgm-type security, both the user ID and password were not specified • For Sec_Pgm-type security, a user ID was specified with a blank password, or a password was specified with a blank user ID • The SYMDEST name was not found in the side information • The specified TP_ID is not associated with the address space • An unauthorized caller specified a Notify_Type of ECB <p>ATBCFM (LU 6.2 Allocate)</p> <ul style="list-style-type: none"> • An unauthorized caller specified a Notify_type of ECB • The Sync_Level field for the conversation was equal to sync_level_none <p>ATBDEAL (LU 6.2 Allocate)</p> <ul style="list-style-type: none"> • A Deallocate_type of deallocate_confirm was specified, and the Sync_Level field for the conversation was equal to sync_level_none <p>ATBPTR (LU 6.2 Prepare to Receive)</p> <ul style="list-style-type: none"> • A Prepare_To_Receive_Type of Prep_to_receive_sync_level was specified, and the Sync_Level field for the conversation was equal to sync_level_none <p>ATBSEND (LU 6.2 Send)</p> <ul style="list-style-type: none"> • The value in the 2 byte LL field was not valid • A Send_Type of Send_and_Confirm was specified, and the Sync_Level field for the conversation was equal to sync_level_none <p>CMINIT (CPI-C Initialize Conversation) The SYMDEST name was not found in the side information</p>
19	<p>The local program issued a call in a state that was not valid for that call. The program should not examine any other returned variables associated with the call as nothing is placed in the variables. The state of the conversation remains unchanged.</p> <p>If the error occurs in one of the following callable services, the conversation was in send state and the program started, but the program did not finish sending a logical record:</p> <ul style="list-style-type: none"> • ATBCFM (LU 6.2 Allocate) • ATBDEAL (LU 6.2 Allocate) • ATBPTR (LU 6.2 Allocate) • ATBRCVW and ATBRCVI (LU 6.2 Receive and Wait and Receive Immediate) • ATBSEND (LU 6.2 Send)

<i>Table 17. APPC return codes and their meanings (continued)</i>	
Return code (Hexadecimal)	Explanation
1A	A failure occurred that caused the conversation to be prematurely terminated. The condition is not temporary, and the program should not try the transaction again until the condition is corrected.
1B	A failure occurred that caused the conversation to be prematurely terminated. The condition might be temporary, and the program can try the transaction again.
1C	The call issued by the local program did not run successfully. This return code is returned on the unsuccessful call. If this code is returned by the ATBRCVI (LU 6.2 Receive_Immediate) callable service, there is no data to be returned.
1E	The partner program issued a Deallocate call with a Deallocate_type of Deallocate_abend_SVC. If the partner program was in Receive state when the call was issued, information sent by the local program and not yet received by the partner program is purged. This return code is reported to the local program on a call the program issues in Send or Receive state.
1F	The partner program issued a Deallocate call with a Deallocate_type of Deallocate_abend_timer. If the partner program was in Receive state when the call was issued, information sent by the local program and not yet received by the partner program is purged. This return code is reported to the local program on a call the program issues in Send or Receive state.
20	The partner program issued a Send_error call specifying a Type parameter of SVC, the conversation for the partner program was in Send state, and the call did not truncate a logical record. This return code is returned on a Receive call. It is not returned for Send_error requests using CPI Communications.
21	The partner program issued a Send_error call specifying a Type parameter of SVC, the conversation for the partner program was in Receive, Confirm, or Sync_Point state, and the call might have caused information to be purged. This return code is normally returned to the local program on a call that the local program issues after sending some information to the partner program. However the return code can be returned on a call that the local program issues before sending any information, depending on when the call is issued. This code is not returned for Send_error requests using CPI Communications.
22	The partner program issued a Send_error call specifying a Type parameter of SVC, the conversation for the partner program was in Send state, and the call truncated a logical record. Truncation occurs when a program begins sending a logical record and then issues Send_error before sending the complete record. This return code is returned to the local program on a Receive call that the local program issues after receiving the truncated logical record. The code is not returned for Send_error requests using CPI Communications.
40	APPC/MVS is not currently active. Call the service again after APPC is available.

<i>Table 17. APPC return codes and their meanings (continued)</i>	
Return code (Hexadecimal)	Explanation
Other	See the <i>z/OS MVS Programming: Writing Transaction Programs for APPC/MVS</i> and <i>z/OS MVS Programming: Writing Servers for APPC/MVS</i> documentation for more information.

APPC allocate services return codes

This table documents the return codes that can be returned from APPC/MVS allocate queue services in messages from the distributed queuing component if you are using APPC/MVS as your communications protocol.

<i>Table 18. APPC allocate services return codes and their meanings</i>	
Return code (Hex)	Explanation
0	The service completed as requested.
4	The service completed, but possibly not as expected. See the reason code parameter for a description of the warning condition.
8	A user-supplied parameter was found to be in error. For example, a parameter contains characters not in the required character set. See the reason code parameter to determine which parameter is in error.
10	The service was unsuccessful. The cause is most likely a parameter error other than a syntax error, or an environmental error. For example, a syntactically valid LU name was specified, but the LU is not defined to APPC/MVS. An example of an environmental error is that the caller called the service while holding locks. See the reason code parameter for the specific cause of the error, and to determine whether the error can be corrected and the service issued again.
20	APPC/MVS service failure. Record the return and reason code, and give them to your system programmer, who should contact the appropriate IBM support personnel.
40	APPC/MVS is not currently active. Call the service again after APPC is available.
Other	See the <i>z/OS MVS Programming: Writing Transaction Programs for APPC/MVS</i> and <i>z/OS MVS Programming: Writing Servers for APPC/MVS</i> documentation for more information.

APPC reason codes

This table documents the reason codes that can be returned from APPC/MVS allocate queue services in messages from the distributed queuing component if you are using APPC/MVS as your communications protocol.

Note: Some of the APPC return codes are not accompanied by a reason code; in these cases, the value in the reason code field can be ignored. See the documentation shown in [“APPC/MVS return codes”](#) on page 1108 for more information.

<i>Table 19. APPC reason codes and their meanings</i>	
Return code (Hex)	Explanation
1	The address space issued a Register_For_Allocates call that duplicated a previous Register_For_Allocate call (that is, the values specified for TP name, local LU name, partner LU name, user ID, and profile all matched those specified on a previous call to the Register_For_Allocates service).
2	A TP name is required, but none was specified.
3	The specified TP name contains characters that are not valid
4	The specified TP name length is outside the allowable range.
5	A local LU name is required, but none was specified.
7	An asynchronous call failed because a specified parameter was found to be inaccessible.
8	The caller held one or more locks when calling the service.
0A	A transaction scheduler called the Register_For_Allocate service, which is not allowed
0B	The specified symbolic destination name can not be found in the side information data set.
0C	The specified local LU is undefined.
0D	The specified local LU is not receiving inbound allocate requests.
0E	The Register_For_Allocate service was called, but the caller is not authorized to serve the specified TP name on the specified local LU.
0F	The specified local LU is inaccessible to the caller.
10	The service failed because of an APPC failure.
11	The specified allocate queue token does not represent an allocate queue for which this address space is registered.
12	The specified notify type is not valid.
13	The specified timeout value is not valid.
14	The request was canceled while in progress. This might have been caused by a call to the Unregister_For_Allocates service, or the termination of the caller's address space.
15	A Receive_Allocate call completed, but no allocate request was available to be received.
1A	The specified event notification type is not valid.
1B	The specified event code is not supported or is not valid for this service.
1C	The netid retrieved from the side information data set does not match the local netid.
1D	The specified event code qualifier is not valid or supported.
1E	The Get_Event call completed, but no event element was available to be received.
1F	The call to the Get_Event service was interrupted because all event notification requests were canceled for this address space.

<i>Table 19. APPC reason codes and their meanings (continued)</i>	
Return code (Hex)	Explanation
20	The call to the Get_Event service was rejected because a previous Get_Event call is currently outstanding.
21	The Get_Event call was rejected because no event notification is in effect for this address space.
22	The specified allocate queue keep time is outside the allowable range.
24	A call to the Unregister_For_Allocates service specified "unregister all" (that is, the allocate_queue_token was set to binary zeros), but this address space is not registered for any allocate queues.
25	The specified event get type is not valid.
26	The specified receive allocate type is not valid.
27	APPC/MVS cannot determine if the specified netid is valid.
29	The service failed because the supplied buffer was not large enough to contain the requested information.
Other	See the <i>z/OS MVS Programming: Writing Transaction Programs for APPC/MVS</i> and <i>z/OS MVS Programming: Writing Servers for APPC/MVS</i> documentation for more information.

Transport Layer Security (TLS) return codes for z/OS

IBM MQ for z/OS can use TLS with the various communication protocols. Use this topic to identify the error codes that can be returned by TLS.

Table 20 on page 1116 in this appendix documents the return codes, in decimal form, from the TLS that can be returned in messages from the distributed queuing component.

Table 21 on page 1119 in this appendix documents the return codes, in hexadecimal form, from the TLS function 'gsk_fips_state_set' that can be returned in messages from the distributed queuing component.

If the return code is not listed, or if you want more information, see [SSL Function Return Codes in z/OS Cryptographic Services System SSL Programming](#).

<i>Table 20. SSL return codes</i>	
Return code (decimal)	Explanation
1	Handle is not valid.
3	An internal error has occurred.
4	Insufficient storage is available
5	Handle is in the incorrect state.
6	Key label is not found.
7	No certificates available.
8	Certificate validation error.
9	Cryptographic processing error.
10	ASN processing error.
11	LDAP processing error.

Table 20. SSL return codes (continued)

Return code (decimal)	Explanation
12	An unexpected error has occurred.
102	Error detected while reading key database or SAF key ring.
103	Incorrect key database record format.
106	Incorrect key database password.
109	No certificate authority certificates.
201	No key database password supplied.
202	Error detected while opening the key database.
203	Unable to generate temporary key pair
204	Key database password is expired.
302	Connection is active.
401	Certificate is expired or is not valid yet.
402	No TLS cipher specifications.
403	No certificate received from partner.
405	Certificate format is not supported.
406	Error while reading or writing data.
407	Key label does not exist.
408	Key database password is not correct.
410	TLS message format is incorrect.
411	Message authentication code is incorrect.
412	TLS protocol or certificate type is not supported.
413	Certificate signature is incorrect.
414	Certificate is not valid.
415	TLS protocol violation.
416	Permission denied.
417	Self-signed certificate cannot be validated.
420	Socket closed by remote partner.
421	SSL 2.0 cipher is not valid.
422	SSL 3.0 cipher is not valid.
427	LDAP is not available.
428	Key entry does not contain a private key.
429	SSL 2.0 header is not valid.
431	Certificate is revoked.
432	Session renegotiation is not allowed.
433	Key exceeds allowable export size.

Table 20. SSL return codes (continued)

Return code (decimal)	Explanation
434	Certificate key is not compatible with cipher suite.
435	certificate authority is unknown.
436	Certificate revocation list cannot be found.
437	Connection closed.
438	Internal error reported by remote partner.
439	Unknown alert received from remote partner.
440	Incorrect key usage.
442	Multiple certificates exist for label.
443	Multiple keys are marked as the default.
444	Error encountered generaing random bytes.
445	Key database is not a FIPS mode database.
446	TLS extension mismatch has been encountered.
447	Required TLS extension has been rejected.
448	Requested server name is not recognized.
449	Unsupported fragment length was received.
450	TLS extension length field is not valid.
451	Elliptic Curve is not supported.
452	EC Parameters not supplied.
453	Signature not supplied.
454	Elliptic Curve parameters are not valid.
455	ICSF services are not available.
456	ICSF callable services returned a error.
457	ICSF PKCS#11 not operating in FIPS mode.
458	The SSL 3.0 expanded cipher is not valid.
459	Elliptic Curve is not supported in FIPS mode.
460	Required TLS Renegotiation Indication not received.
461	EC domain parameter format is not supported.
462	Elliptic Curve point format is not supported.
463	Cryptographic hardware does not support service or algorithmn.
464	Elliptic curve list is not valid.
466	Signature algorithm pairs list is not valid.
467	Signature algorithm not in signature algorithm pairs list.
468	Certificate key algorithm not in signature algorithm pairs list.
501	Buffer size is not valid.

Table 20. SSL return codes (continued)

Return code (decimal)	Explanation
502	Socket request would block.
503	Socket read request would block.
504	Socket write request would block.
505	Record overflow.
601	Protocol is not TLS 1.0, TLS 1.1, or TLS 1.2.
602	Function identifier is not valid.
603	Specified function enumeration is not valid.
604	Send sequence number is near maximum value.
701	Attribute identifier is not valid.
702	Attribute length is not valid.
703	Enumeration is not valid.
704	Session identifier cache callback is not valid.
705	Numeric value is not valid.
706	Attribute parameter is not valid.
707	TLS extension type is not valid.
708	Supplied TLS extension data is not valid.

Table 21. SSL return codes from 'gsk_fips_state_set'

Return code (hexadecimal)	Explanation
03353050	The enumeration value is not valid or it cannot be set due to the current state.
0335306B	The System SSL FIPS mode state cannot be changed to FIPS mode because it is currently not in FIPS mode.
0335306C	The request to execute in FIPS mode failed because the Cryptographic Services Security Level 3 FMID is not installed so that the required System SSL DLLs could not be loaded.
03353067	The power on known answer tests failed. FIPS mode cannot be set.

Distributed queuing message codes

Distributed queuing is one of the components of IBM MQ for z/OS. Use this topic to interpret the message codes issued by the distributed queuing component.

Distributed queuing message codes are in the form `s0009nnn` (in hexadecimal). The error they identify is described in detail by error message `CSQXnnn`, although there are some exceptions. The following table shows the full correspondence. Distributed queuing message codes are used in some error messages, and in the event data for the `MQRC_CHANNEL_STOPPED` event. The event data also contains message inserts. The meanings of the inserts depend on the message code, and are shown in the following table, in the form in which they are given in the message explanation. Where no meaning is shown, the insert is not relevant to the message code, and the value set in the event message is unpredictable.

Note: `trptype` can be shown in various forms:

Message insert**Event data****TCP**

TCP/IP

LU62

LU 6.2, APPC, CPI-C

Table 22. Distributed queuing message codes, and their corresponding message numbers, integer inserts, and character inserts.

Message code (nnn)	Message number	Integer insert 1	Integer insert 2	Character insert 1	Character insert 2	Character insert 3
001	CSQX501I			channel-name		
181	CSQX181E	response		exit-name		
182	CSQX182E	response		exit-name		
184	CSQX184E	address		exit-name		
189	CSQX189E	length		exit-name		
196	CSQX196E	data-length	agent-buffer length	exit-name		
197	CSQX197E	data-length	exit-buffer length	exit-name		
201	CSQX201E	return-code		conn-id	trptype	
202	CSQX202E	return-code		conn-id	trptype	
203	CSQX203E	return-code		conn-id	trptype	
204	CSQX204E	return-code		conn-id	trptype	
205	CSQX205E	return-code		conn-id	trptype	
206	CSQX206E	return-code		conn-id	trptype	
207	CSQX207E			conn-id	trptype	
208	CSQX208E	return-code		conn-id	trptype	
209	CSQX209E			conn-id	trptype	
211	CSQX027E					
212	CSQX212E	return-code				
213	CSQX213E	return-code			trptype	
237	CSQX203E	return-code	reason	conn-id	trptype	
238	CSQX213E	return-code	reason		trptype	
403	CSQX403I			channel-name	exit-name	
496	CSQX496I			channel-name		
498	CSQX498E	fieldvalue		channel-name		
506	CSQX506E			channel-name		
510	CSQX037E	mqrc			name	
511	CSQX038E	mqrc			name	

Table 22. Distributed queuing message codes, and their corresponding message numbers, integer inserts, and character inserts. (continued)

Message code (nnn)	Message number	Integer insert 1	Integer insert 2	Character insert 1	Character insert 2	Character insert 3
514	CSQX514E			channel-name		
519	CSQX519E			channel-name		
520	CSQX520E			channel-name		
525	CSQX525E			channel-name		
526	CSQX526E	msg-seqno	exp-seqno	channel-name		
527	CSQX527E			channel-name		
528	CSQX528I			channel-name		
533	CSQX533I			channel-name		
534	CSQX534E			channel-name		
536	CSQX536I			channel-name	exit-name	
540	CSQX540E	mqrc		commit identifier which includes channel-name		
542	the queue manager is stopping (no corresponding error message)					
544	see integer insert 1	1 - see message CSQX548E 2 - see message CSQX544E		channel-name		
545	CSQX545I			channel-name		
546	code 00E70546					
558	CSQX558E			channel-name		
565	CSQX565E			channel-name	qmgr-name	
569	CSQX569E			channel-name		
570	CSQX570E			channel-name		
572	CSQX572E			channel-name		
573	CSQX573E			channel-name		
574	CSQX574I			channel-name		
575	CSQX575E					

Table 22. Distributed queuing message codes, and their corresponding message numbers, integer inserts, and character inserts. (continued)

Message code (<i>nnn</i>)	Message number	Integer insert 1	Integer insert 2	Character insert 1	Character insert 2	Character insert 3
613	CSQX613E			channel-name		
620	CSQX620E	return-code		SSL-function		
631	CSQX631E			channel-name	local cipher spec	remote cipher spec
633	CSQX633E			channel-name		
634	CSQX634E			channel-name		
635	CSQX635E			channel-name		cipher spec
636	CSQX636E			channel-name	dist-name	
637	CSQX637E			channel-name		
638	CSQX638E			channel-name		
639	CSQX639E			channel-name		
640	CSQX640E			channel-name		key-name
641	CSQX641E			channel-name		
642	CSQX642E			channel-name		
643	CSQX643E			channel-name		
644	CSQX644E			channel-name		
999	CSQX599E			channel-name		

Queued Publish/Subscribe message codes

Queued Publish/Subscribe is a component of IBM MQ for z/OS. Use this topic to interpret the message codes issued by the queued Publish/Subscribe component.

Queued publish/subscribe message codes are in the form 5 *nnn* (in hexadecimal), and the error they identify is described in detail by error message CSQT *nnn*, although there are some exceptions. The following table shows the full correspondence. Queued publish/subscribe message codes are used in some error messages.

Table 23. Queued publish/subscribe message codes and any equivalent error messages

Message Code (<i>nnn</i>)	Message Number	Description
800	No equivalent message	Unexpected error
87F	CSQX036E	Failed

Messages from other products

Software products on the z/OS platform issue messages and each product uses a unique identifier. Use this topic to identify the different z/OS products using the unique identifier.

The following table shows the message prefixes for other products that you might receive while using IBM MQ for z/OS.

Table 24. Message prefixes

Prefix	Component	Procedure
AMQ	IBM MQ (not z/OS)	Consult メッセージおよび理由コード
ATB	APPC	Consult <i>MVS System Messages</i>
ATR	Resource recovery services	Consult <i>MVS System Messages</i>
CBC	C/C++	Consult <i>C/MVS User's Guide</i>
CEE	Language Environment	Consult <i>Language Environment for z/OS Debugging Guide and Runtime Messages</i>
CSQ	IBM MQ for z/OS	Consult this documentation
CSV	Contents supervision	Consult <i>MVS System Messages</i>
DFH	CICS	Consult <i>CICS Messages and Codes</i>
DFS	IMS	Consult <i>IMS Messages and Codes</i>
DSN	Db2	Consult <i>Db2 Messages and Codes</i>
EDC	Language Environment	Consult <i>Language Environment for z/OS Debugging Guide and Runtime Messages</i>
EZA, EZB, EZY	TCP/IP	Consult <i>TCP/IP for MVS Messages and Codes</i>
IBM	Language Environment	Consult <i>Language Environment for z/OS Debugging Guide and Runtime Messages</i>
ICH	RACF	Consult <i>RACF Messages and Codes</i>
IDC	Access method services	Consult <i>MVS System Messages</i>
IEA	z/OS system services	Consult <i>MVS System Messages</i>
IEC	Data management services	Consult <i>MVS System Messages</i>
IEE,IEF	z/OS system services	Consult <i>MVS System Messages</i>
IKJ	TSO	Consult <i>MVS System Messages</i>
IST	VTAM	Consult <i>VTAM Messages and Codes</i>
IWM	z/OS workload management services	Consult <i>MVS System Messages</i>
IXC	Cross-system coupling facility (XCF)	Consult <i>MVS System Messages</i>
IXL	Cross-system extended services (XES)	Consult <i>MVS System Messages</i>

See the [Message directory](#) for a full list of the z/OS message code prefixes.

API 完了コードと理由コード

呼び出しが行われるたびに、その呼び出しが成功したか失敗したかを示すための完了コードと理由コードが、キュー・マネージャーまたは出口ルーチンによって戻されます。

IBM MQ API の詳細については、[アプリケーションの開発](#)、および[アプリケーションの開発リファレンス](#)にある参照情報を参照してください。

API 完了コード

IBM MQ で戻される完了コード (MQCC) のリストを次に示します。

0: 正常終了 (MQCC_OK)

呼び出しはすべて完了しました。すべての出力パラメーターが設定されました。

この場合、**Reason** パラメーターの値は常に MQRC_NONE です。

1: 警告 (部分完了) (MQCC_WARNING)

呼び出しは部分的に完了しました。 *CompCode* および *Reason* 出力パラメーターの他にも、いくつかの出力パラメーターが設定されている場合があります。

Reason パラメーターが追加情報を提供します。

2: 呼び出し失敗 (MQCC_FAILED)

呼び出しの処理は完了しませんでした。通常、キュー・マネージャーの状態は変わりません。例外は個々に示されます。 *CompCode* および *Reason* 出力パラメーターだけが設定されました。その他のパラメーターは変更されませんでした。

理由は、アプリケーション・プログラム内の障害である場合や、そのプログラムの外部の状態の結果である場合があります。例えば、アプリケーション・プログラムの許可が侵害された場合などです。

Reason パラメーターが追加情報を提供します。

API 理由コード

理由コード・パラメーター (**Reason**) は、完了コード・パラメーター (**CompCode**) を修飾するものです。

特に報告する理由がない場合には、MQRC_NONE が戻ります。呼び出しが成功した場合は、MQCC_OK および MQRC_NONE が返されます。

完了コードが MQCC_WARNING または MQCC_FAILED のいずれかである場合、キュー・マネージャーは常に、それを修飾する理由を報告します。詳細は、各呼び出しの説明で示されています。

ユーザー作成出口ルーチンが完了コードと理由を設定する場合には、これらの規則に必ず従ってください。さらに、ユーザー作成出口ルーチンによって定義された特殊な理由値は、キュー・マネージャーによって定義されている値と重複しないようにするために、ゼロ未満の値にしてください。出口ルーチンでは、該当する場合、キュー・マネージャーによってすでに定義されている理由を設定することができます。

理由コードは、以下のフィールドにも設定されます。

- MQDLH 構造体の *Reason* フィールド
- MQMD 構造体の *Feedback* フィールド

例えば、接続名がコンマで区切られたチャンネルを使用して複数のクライアント接続が試行され、接続シーケンスが失敗した場合、MQRC_HOST_NOT_AVAILABLE および MQRC_STANDBY_Q_MGR 以外の理由コードがアプリケーションに戻られるときに優先順位が与えられます。以前のバージョンの製品では、接続シーケンスで検出された最後の理由コードが常に返されますが、これにより構成エラーが発生することがあります。例えば、接続試行の早い段階で検出された MQRC_NOT_AUTHORIZED はアプリケーションに戻されません。

以下の場合を除き、IBM MQ がサポートするすべてのプラットフォームで、各理由コード全体がサポートされています。

- 理由コードの上に1つ以上のプラットフォーム・アイコンがある。この場合、その理由コードは表示されているプラットフォームにのみ適用されます。
- 特定のステートメントに対してプラットフォーム・アイコンが表示されている。この場合、そのステートメントはそのプラットフォームにのみ適用されます。

アイコンの説明については、[プラットフォームのアイコン](#)を参照してください。

子トピックは、以下のような理由コードのセット (番号順) であり、それらを理解するのに役立つ詳細情報を提供します。

- 該当コードを発生させる状況の説明
- 関連付けられた完了コード
- コードへの応答で推奨されるプログラマーの応答

0 (0000) (RC0): MQRC_NONE

説明

呼び出しは正常に完了しました。完了コード (CompCode) は MQCC_OK です。

完了コード

MQCC_OK

プログラマー応答

なし。

900 (0384) (RC900): MQRC_APPL_FIRST

説明

データ変換出口により戻されるアプリケーション定義の理由コードの最低値。データ変換出口は、MQRC_APPL_FIRST から MQRC_APPL_LAST の範囲内の理由コードを戻し、この出口が検出した特定の条件を示すことができます。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

データ変換出口の作成者が定義している処置を行ってください。

999 (03E7) (RC999): MQRC_APPL_LAST

説明

データ変換出口により戻されるアプリケーション定義の理由コードの最高値。データ変換出口は、MQRC_APPL_FIRST から MQRC_APPL_LAST の範囲内の理由コードを戻し、この出口が検出した特定の条件を示すことができます。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

データ変換出口の作成者が定義している処置を行ってください。

2001 (07D1) (RC2001): MQRC_ALIAS_BASE_Q_TYPE_ERROR

説明

別名キューを宛先として指定して MQOPEN または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、別名キュー定義内の **BaseQName** は、ローカル・キュー、リモート・キューのローカル定義、またはクラスター・キューではないキューに解決されます。

トピック・オブジェクトを指す別名キューが配布リスト内のキューに含まれています。

この理由コードは、REFRESH CLUSTER コマンドの実行時に発生する可能性があります。 [REFRESH CLUSTER の実行時に見られるアプリケーションの問題](#)を参照してください。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー定義を訂正してください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [129 ページの『別名基本キュー・タイプ・エラー』](#)の識別にも使用されます。

2002 (07D2) (RC2002): MQRC_ALREADY_CONNECTED

説明

MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しが発行されましたが、アプリケーションはすでにキュー・マネージャーに接続されています。

- ▶ **z/OS** z/OS では、この理由コードが戻されるのはバッチ・アプリケーションおよび IMS アプリケーションの場合だけです。CICS アプリケーションの場合は戻されません。
- ▶ **Multi** マルチプラットフォームの場合、この理由コードは、非共有ハンドルが該当スレッドについて既に存在するときに、アプリケーションが非共有ハンドルを作成しようとした場合に発生します。1 つのスレッドは、複数の非共有ハンドルを保持できません。
- ▶ **Multi** マルチプラットフォームの場合、この理由コードは、MQCONN 呼び出しが MQ チャネル出口、API 交差出口、または非同期コンシューム・コールバック関数内から発行され、共有 hConn がこのスレッドにバインドされている場合に発生します。
- ▶ **Multi** マルチプラットフォームの場合、この理由コードは、MQCNO_HANDLE_SHARE_* オプションの 1 つを指定しない MQCONNX 呼び出しが、MQ チャネル出口、API 交差出口、または非同期コンシューム・コールバック関数内から発行され、共有 hConn がこのスレッドにバインドされている場合に発生します。
- ▶ **Windows** Windows の場合、キュー・マネージャーへの追加接続が許可されているため、MTS オブジェクトではこの理由コードは受け取られません。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。戻された **Hconn** パラメーターの値は、直前の MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しで戻された値と同じです。

MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しでこの理由コードが戻った場合でも、追加の MQDISC 呼び出しを発行して、そのキュー・マネージャーからの切り離しを行わなければならないということではありません。MQCONN が既に発行されている状況でアプリケーションが呼び出された場合にもこの理由コー

ドは戻ります。この場合、対応する MQDISC は発行しないでください。発行すると、元の MQCONN 呼び出しまは MQCONNX 呼び出しを発行したアプリケーションも切斷されます。

2003 (07D3) (RC2003): MQRC_BACKED_OUT

説明

現在の作業単位でリカバリー不能のエラーが発生したか、またはバックアウトされました。この理由コードは、以下の場合に発行されます。

- MQCMIT 呼び出しまは MQDISC 呼び出しで、コミット操作が失敗し、作業単位がバックアウトされた場合。その作業単位に含まれるすべてのリソースは、その作業単位が開始された時点の状態に戻されます。この場合、MQCC_WARNING で MQCMIT または MQDISC 呼び出しが完了します。
 -  z/OS の場合、この理由コードが戻されるのはバッチ・アプリケーションの場合だけです。
- 同じ作業単位内部で実行されている MQGET、MQPUT、または MQPUT1 呼び出しで、その作業単位に既にエラーが発生していて、そのエラーのために作業単位のコミットが妨げられている場合 (例えばログ・スペースがなくなっている場合)。アプリケーションが適切な呼び出しを発行して、作業単位をバックアウトする必要があります。(このような状況では MQCMIT 呼び出しでも同じ効果がありますが、キュー・マネージャーが調整する作業単位の場合、この適切な呼び出しとは MQBACK 呼び出しです。) この場合、MQGET、MQPUT、または MQPUT1 呼び出しは、MQCC_FAILED で完了します。
 -  z/OS の場合、このような状況は発生しません。
- 非同期コンシューム・コールバック (MQCB 呼び出しで登録されたもの) で、作業単位がバックアウトされ、非同期コンシューマーで MQBACK が呼び出された場合。また、非同期コンシューマーは、提供された MQCBC (コールバック・コンテキスト) の State フィールドを調べて、接続が中斷されているかどうかを確認し、必要に応じて再開する必要があります。
 -  z/OS の場合、このような状況は発生しません。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー・マネージャーへの直前の呼び出しからの戻りコードを調べてください。例えば、前の MQPUT 呼び出しが失敗した可能性があります。

2004 (07D4) (RC2004): MQRC_BUFFER_ERROR

説明

Buffer パラメーターは、以下のいずれかの理由で無効です。

- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- パラメーター・ポインターが、**BufferLength** で指定された長さ全体にわたってアクセスできないストレージを指しています。
- **Buffer** が出力パラメーターである呼び出しの場合: パラメーター・ポインターは読み取り専用ストレージを指します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パラメーターを修正してください。

2005 (07D5) (RC2005): MQRC_BUFFER_LENGTH_ERROR

説明

BufferLength パラメーターが無効、またはパラメーター・ポインターが無効です。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

また、チャンネルの折衝最大メッセージ・サイズが呼び出し構造体の固定部分より小さい場合、MQCONN または MQCONNX 呼び出しから MQ MQI クライアント・プログラムにこの理由が返されることがあります。

また、**AuthorityBuffer** パラメーターが小さすぎて、MQZ_ENUMERATE_AUTHORITY_DATA インストール可能サービス・コンポーネントの呼び出し側に返すデータを入れることができない場合にも、そのサービス・コンポーネントからこの理由が返されることがあります。

正の長さが必要なところにゼロ長のマルチキャスト・メッセージが提供されているときにも、この理由コードが戻される場合があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ゼロ以上の値を指定する。mqAddString 呼び出しと mqSetString 呼び出しの場合、特殊値 MQBL_NULL_TERMINATED も有効です。

2006 (07D6) (RC2006): MQRC_CHAR_ATTR_LENGTH_ERROR

説明

CharAttrLength が、マイナス (MQINQ 呼び出しまたは MQSET 呼び出しの場合) である、または、選択されたすべての属性を保持するには小さすぎます (MQSET 呼び出しの場合のみ)。この理由コードは、パラメーター・ポインターが無効な場合にも示されます。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

選択されたすべての属性の連結ストリングを保持するのに十分な大きさの値を指定してください。

2007 (07D7) (RC2007): MQRC_CHAR_ATTRS_ERROR

説明

CharAttrs が無効です。パラメーター・ポインターが無効であるか、MQINQ 呼び出しのための読み取り専用ストレージを指し示しているか、**CharAttrLength** によって暗黙に示された長さより短いストレージを指し示しています。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パラメーターを修正してください。

2008 (07D8) (RC2008): MQRC_CHAR_ATTRS_TOO_SHORT

説明

MQINQ 呼び出しの場合は、**CharAttrLength** が小さすぎるため、**Selectors** パラメーターの中に MQCA_* セレクターが指定されている文字属性をすべて入れることはできません。

それでも呼び出しは完了し、**CharAttrs** パラメーター・ストリングには、そのスペースに収まるだけの文字属性が入ります。完全な属性ストリングだけが返されます。属性全体を収めるための十分なスペースが残っていない場合は、その属性および後続の文字属性は除外されます。属性を収めるために使用されなかったストリングの終わりにあるスペースは、そのまま変わりません。

値の集合を表す属性 (例えば名前リスト **Names** 属性など) は、単一のエンティティとして扱われます。つまり、値が返される場合は、その集合に含まれているすべての値が返され、それ以外の場合は値が 1 つも返されません。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

複数値のサブセットのみ必要な場合以外は、十分な大きさの値を指定してください。

2009 (07D9) (RC2009): MQRC_CONNECTION_BROKEN

説明

キュー・マネージャーとの接続が切断された。これは、キュー・マネージャーが終了したために起こる場合がある。その呼び出しが MQGMO_WAIT オプション付きの MQGET 呼び出しである場合、待機は取り消されます。接続とオブジェクト・ハンドルは、すべて無効になっています。

MQ MQI クライアント・アプリケーションの場合は、この理由コードが MQCC_FAILED の CompCode で戻されても、呼び出しが正常に完了した可能性があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションは、MQCONN または MQCONNX 呼び出しを発行することで、キュー・マネージャー再接続を試行できます。正常な応答を受信するまで、ポーリングが必要な場合があります。

- ▶ **z/OS** z/OS for CICS アプリケーションでは、CICS アプリケーションは自動的に接続されるため、MQCONN または MQCONNX 呼び出しを発行する必要はありません。

作業単位の中でコミットされていない変更はバックアウトされる必要があります。キュー・マネージャーが調整した作業単位は自動的にバックアウトされます。

z/OS z/OS IMS の場合、サブシステムが IMS DIS SUBSYS コマンドを使用して開始されていることを確認し、必要に応じて IMS STA SUBSYS コマンドを使用して開始します。

関連概念

[IBM MQ と IMS](#)

2010 (07DA) (RC2010): MQRC_DATA_LENGTH_ERROR

説明

DataLength パラメーターが有効ではありません。パラメーター・ポインターが無効か、または読み取り専用ストレージを指しています。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

また、**BufferLength** パラメーターがクライアント・チャネルの折衝による最大メッセージ・サイズを超えている場合にも、MQGET、MQPUT、またはMQPUT1 呼び出しから MQ MQI クライアント・プログラムにこの理由が戻されることがあります。この原因として、チャネル定義の MAXMSGL が正しく設定されていないことが考えられます ([最大メッセージ長 \(MAXMSGL\)](#) を参照)。あるいは、MQCONN を使用して MQCD を指定している場合は、そのデータ構造体の **MaxMsgLength** の設定値を大きくする必要があります ([MQCONN の使用法](#) を参照)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パラメーターを修正してください。

MQ MQI クライアント・プログラムにエラーが発生した場合は、チャネルの最大メッセージ・サイズが、送信中のメッセージを収容できる十分な大きさであるかどうかを調べてください。十分でない場合は、チャネルの最大メッセージ・サイズを大きくしてください。

2011 (07DB) (RC2011): MQRC_DYNAMIC_Q_NAME_ERROR

説明

MQOPEN 呼び出しで、**ObjDesc** パラメーターの ObjectName フィールドにモデル・キューが指定されましたが、以下のいずれかの理由により、DynamicQName フィールドが無効です。

- DynamicQName が完全にブランクである (またはフィールド内の最初のヌル文字までがブランクである)。
- キュー名としては無効な文字がある。
- 33 文字目よりあと (しかもヌル文字の前) にアスタリスクがある。
- アスタリスクのあとに、ヌル文字でもブランクでもない文字が続いている。

この理由コードは、サーバー・アプリケーションが、サーバーが受信したメッセージの MQMD 内の ReplyToQ および ReplyToQMgr フィールドで指定された応答キューを開いたときにも発生することがあります。この場合、理由コードは、元のメッセージを送信したアプリケーションが、元のメッセージの MQMD の ReplyToQ および ReplyToQMgr フィールドに誤った値を入れたことを示します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効な名前を指定してください。

2012 (07DC) (RC2012): MQRC_ENVIRONMENT_ERROR

説明

呼び出しが現行の環境では無効です。

- ▶ **z/OS** z/OS で、以下のいずれかが該当するとき。
 - MQCONN または MQCONNX 呼び出しが発行されたが、アプリケーションの実行されている環境ではサポートされていないアダプターに、アプリケーションがリンクされていた。例えば、IBM MQ classes for Java RRS アダプターとリンクされているアプリケーションが、Db2 ストアード・プロシージャ・アドレス・スペースで実行されている場合に、このようなことが発生する可能性があります。RRS は、この環境ではサポートされていません。MQ RRS アダプターを使用しようとするストアード・プロシージャは、Db2 WLM 管理下のストアード・プロシージャ・アドレス・スペースで実行される必要があります。
 - MQCMIT または MQBACK 呼び出しが出されましたが、アプリケーションが RRS バッチ・アダプター CSQBRSTB にリンクされています。このアダプターは MQCMIT および MQBACK 呼び出しをサポートしていません。
 - MQCMIT 呼び出しまたは MQBACK 呼び出しが、CICS 環境または IMS 環境で発行された。
 - アプリケーションを実行していた z/OS システムで、RRS サブシステムが運用されていなかった。
 - MQOP_START を指定した MQCTL 呼び出し、またはイベント・リスナーを登録する MQCB 呼び出しが発行されたが、アプリケーションで POSIX スレッドを作成できない。
 - IBM MQ classes for Java アプリケーションが、サポートされていない環境で、CLIENT トランスポートを使用して MQQueueManager オブジェクトのインスタンスを作成した。

z/OS 環境では、Java アプリケーション用の IBM MQ 9.0.4 (およびそれ以降の) クラスのみがサポートされます。これらのクラスは、CLIENT トランスポートを使用して、z/OS で実行されている IBM MQ 9.0.4 (およびそれ以降の) キュー・マネージャーに接続します。このキュー・マネージャーには、**ADVCAP (ENABLED)**があります。

ADVCAP について詳しくは、[DISPLAY QMGR](#) を参照してください。

- CLIENT トランスポートを使用する IBM MQ classes for Java または IBM MQ classes for JMS アプリケーションが、Advanced Message Security for z/OS ポリシーで保護されているキューにアクセスした。CLIENT トランスポートを使用する場合、z/OS 環境は Advanced Message Security for z/OS をサポートしません。
 - CLIENT トランスポートを使用する IBM MQ classes for Java または IBM MQ classes for JMS アプリケーションで、互換モードを使用してキュー・マネージャーで認証を行う時に、12 文字を超える長さのパスワードを指定した。
- ▶ **Multi** マルチプラットフォームで、以下のいずれかが該当するとき。
 - アプリケーションがサポートされていないライブラリーにリンクされている。
 - アプリケーションが誤ったライブラリー (スレッドまたは非スレッド) にリンクされている。自動再接続を使用するように構成されている IBM MQ classes for Java クライアント・アプリケーションは、スレッド環境で実行する必要があります。
 - MQBEGIN 呼び出し、MQCMIT 呼び出し、または MQBACK 呼び出しが発行されたが、外部作業単位マネージャーが使用中である。例えば、Windows においては、MTS オブジェクトが DTC トランザクションとして実行されている場合にこの理由コードになります。また、キュー・マネージャーが作業単位をサポートしていない場合にも、この理由コードになります。
 - MQBEGIN 呼び出しが IBM MQ MQI クライアント環境で発行された。
 - MQXCLWLN 呼び出しが発行されたが、その呼び出しはクラスター・ワークロード出口ルーチンからのものではなかった。

- MQCONNX 呼び出しが、MQ チャネル出口、API 出口、またはコールバック関数内から、オプション MQCNO_HANDLE_SHARE_NONE を指定して発行された。この理由コードは、共用 hConn がアプリケーション・スレッドにバインドされている場合にのみ発生します。
- IBM MQ オブジェクトがファスト・パス接続を実行できない。
- IBM MQ classes for Java アプリケーションが、CLIENT トランスポートを使用する MQQueueManager オブジェクトを作成し、その後 MQQueueManager.begin() を呼び出しました。このメソッドは、BINDINGS トランスポートを使用する MQQueueManager オブジェクト上でのみ呼び出すことができます。
- 自動再接続を使用するように構成されている MQ クライアント・アプリケーションが、SHARECNV(0) で定義されたチャネルを使用して接続しようとしていました。
- CLIENT トランスポートを使用する IBM MQ classes for Java または IBM MQ classes for JMS アプリケーションで、互換モードを使用してキュー・マネージャーで認証を行う時に、12 文字を超える長さのパスワードを指定した。
- MQI クライアント環境で、SHARECNV(0) で定義されたチャネルを使用して MQCTL 呼び出しまたは MQCB 呼び出しが発行されました。
- **Windows** Windows で、管理対象 .NET クライアントを使用しているときに、サポートされない以下のいずれかの機能を使用しようとしていました。
 - 管理対象外のチャネル出口
 - XA トランザクション
 - TCP/IP 以外の通信
 - チャネル圧縮

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

次のいずれかのアクションを実行します。

- On z/OS:
 - アプリケーションを正しいアダプターにリンクする。
 - MQCMIT および MQBACK 呼び出しの代わりに SRRCMIT および SRRBACK 呼び出しを使用するように、アプリケーションを変更する。別の方法としては、アプリケーションを RRS バッチ・アダプター CSQBRSI にリンクさせます。このアダプターは、SRRCMIT および SRRBACK の他に、MQCMIT および MQBACK をサポートしています。
 - CICS アプリケーションまたは IMS アプリケーションの場合、適切な CICS または IMS 呼び出しを発行し、作業単位のコミットあるいはバックアウトを実行する。
 - アプリケーションが実行されている z/OS システムで RRS サブシステムを開始する。
 - アプリケーションで Language Environment (LE) を使用している場合は、そのアプリケーションが DLL インターフェースを使用し、POSIX(ON) を指定して実行されていることを確認してください。
 - アプリケーションが z/OS UNIX System Services (z/OS UNIX) の使用を許可されていることを確認する。
 - ローカルの z/OS アプリケーションおよび WebSphere Application Server アプリケーション・サーバー・アプリケーションに対する接続ファクトリー定義が、バインディング・モード接続でトランスポート・タイプを使用していることを確認する。

すべてのクライアント・モード接続が、サポートされるキュー・マネージャーに対して行われていて、IBM MQ Advanced Message Security for z/OS ポリシーで保護されているキューにはアクセスしないことを確認する。
- クライアント・バインディングを使用する IBM MQ classes for Java または IBM MQ classes for JMS アプリケーションでは、MQCSP 認証モードを使用して、キュー・マネージャーでの認証時に 12 文字より長

いパスワードを指定します。Java クライアント・アプリケーションを使用した接続認証の詳細については、[Java クライアントを使用した接続認証](#)を参照してください。

- その他の環境の場合
 - アプリケーションを正しいライブラリー (スレッドまたは非スレッド) にリンクする。
 - サポートされていない呼び出しまたは機能をアプリケーションから除去する。
 - ファスト・パスを実行する場合は、setuid を実行するようアプリケーションを変更する。

2013 (07DD) (RC2013): MQRC_EXPIRY_ERROR

説明

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、メッセージ記述子 MQMD 内の Expiry フィールドに指定された値が無効です。

この理由コードは、以下のいずれかより大きな送達遅延値を指定する JMS アプリケーションによっても生成されます。

- アプリケーションによって指定されるメッセージ有効期限時刻。
- ターゲット・キューまたはトピックの解決で使用されるオブジェクトの **CUSTOM(CAPEXPY)** 属性によって設定される有効期限時刻。
- **V9.4.0** ターゲット・キューまたはトピックの解決で使用されるオブジェクトの **CAPEXPY** 属性によって設定される有効期限時刻。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

0 より大きい値を指定するか、特殊値 MQEI_UNLIMITED を指定してください。

JMS アプリケーションによって指定される送達遅延が以下に示す値より小さいことを確認します。

- アプリケーションによって指定されるメッセージ有効期限時刻。
- ターゲット・キューまたはトピックの解決で使用されるオブジェクトの **CUSTOM(CAPEXPY)** 属性によって設定される有効期限時刻。
- **V9.4.0** ターゲット・キューまたはトピックの解決で使用されるオブジェクトの **CAPEXPY** 属性によって設定される有効期限時刻。

2014 (07DE) (RC2014): MQRC_FEEDBACK_ERROR

説明

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、メッセージ記述子 MQMD 内の Feedback フィールドに指定された値が無効です。その値は MQFB_NONE ではなく、システム・フィードバック・コード用に定義された範囲にも、アプリケーション・フィードバック・コード用に定義された範囲にも入っていません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQFB_NONE か、MQFB_SYSTEM_FIRST から MQFB_SYSTEM_LAST の範囲の値か、MQFB_APPL_FIRST から MQFB_APPL_LAST の範囲の値を指定してください。

2016 (07E0) (RC2016): MQRC_GET_INHIBITED

説明

そのキュー、またはこのキューの解決結果となるキューについての MQGET 呼び出しは現在禁止されています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

読み取り要求が短期間禁止される可能性があるシステム設計になっている場合は、後でこの操作を再試行してください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [183 ページ](#)の『読み取り禁止』の識別にも使用されます。

システム・プログラマーの処置

メッセージを取得できるようにするには、ALTER QLOCAL(...) GET(ENABLED)を使用します。

2017 (07E1) (RC2017): MQRC_HANDLE_NOT_AVAILABLE

説明

MQOPEN、MQPUT1、または MQSUB 呼び出しが発行されましたが、現行タスクの最大許容オープン・ハンドル数にすでに達していました。MQOPEN または MQPUT1 呼び出しで配布リストを指定するときには、配布リスト内の 1 つのキューが 1 つのハンドルを使用するようにしてください。

- ▶ **z/OS** z/OS における「タスク」とは、CICS タスク、z/OS タスク、または IMS 従属領域を意味します。

さらに、入力にオブジェクト・ハンドルを提供しない場合、MQSUB 呼び出しは 2 つのハンドルを割り振ります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションが、対応する MQCLOSE 呼び出しのない MQOPEN 呼び出しを発行しているかどうかを調べてください。そのような呼び出しがある場合は、アプリケーションを変更し、オープンされているオブジェクトが必要なくなった時点で、ただちに MQCLOSE 呼び出しを発行するようにしてください。

また、アプリケーションで多数のキューを含む配布リストを指定しているために、使用可能なハンドルをすべて使いきっているかを確認してください。使用可能なハンドルを配布リスト内のキューで使いきっている場合は、タスクで使用可能なハンドルの最大数を増やすか、該当する配布リストのサイズを小さくしてください。1 つのタスクで使用できるオープン・ハンドルの最大数は、**MaxHandles** キュー・マネージャー属性によって指定します。

2018 (07E2) (RC2018): MQRC_HCONN_ERROR

説明

以下のいずれかの理由により、接続ハンドル Hconn が無効です。

- パラメーター・ポインターが無効である、または (MQCONN または MQCONNX 呼び出しの場合に) パラメーター・ポインターが読み取り専用ストレージを指している。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- 指定された値が、先行する MQCONN または MQCONNX 呼び出しにより返されていない。
- 指定された値が、その前の MQDISC 呼び出しによって無効になった。
- ハンドルが、MQDISC 呼び出しを発行している別のスレッドによって無効になっている共用ハンドルである。
- ハンドルが、MQBEGIN 呼び出しで使用されている共用ハンドルである (MQBEGIN では非共用ハンドルのみ有効)。
- ハンドルが、ハンドルを作成していないスレッドにより使用されている非共用ハンドルである。
- ハンドルが無効な状況で MTS 環境において呼び出しが発行された。(プロセス間あるいはパッケージ間でのハンドルの受け渡しなど。ライブラリー・パッケージ間でのハンドルの受け渡しがサポートされません。)
- CICS TS 3.2 以降で、文字変換出口プログラムを起動することにより MQXCNVN が呼び出されたときに、変換プログラムが OPENAPI として定義されていない。変換プロセスの実行時に、TCB が疑似再入可能 (QR) TCB に切り替えられ、接続が正しくなくなります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー・マネージャーに対して正常な MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しが実行されること、および MQDISC 呼び出しがまだ実行されていないことを確認してください。ハンドルが有効な範囲内で使用されていることを確認してください (MQCONN の詳細については、[MQCONN](#) の MQCONN の説明を参照してください)。

-  z/OS では、アプリケーションが正しいスタブにリンクされたかどうかを確認してください。正しいスタブとは、CICS アプリケーションの場合は CSQCSTUB、バッチ・アプリケーションの場合は CSQBSTUB、IMS アプリケーションの場合は CSQQSTUB です。また、使用されるスタブが所属するキュー・マネージャーのリリースが、アプリケーションを実行するリリースより新しいものであってはなりません。

CICS TS 3.2 以降のアプリケーションで実行されていて MQXCNVN を呼び出す文字変換出口プログラムが OPENAPI として定義されていることを確認します。この定義により、正しくない接続が原因で発生する 2018 MQRC_HCONN_ERROR が回避され、MQGET を完了できます。

2019 (07E3) (RC2019): MQRC_HOBJ_ERROR

説明

以下のいずれかの理由により、オブジェクト・ハンドル Hobj が無効です。

- パラメーター・ポインターが無効であるか、または (MQOPEN 呼び出しの場合) 読み取り専用ストレージを指している。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- 指定された値が、その前の MQOPEN 呼び出しによって返されていない。
- 指定された値が、その前の MQCLOSE 呼び出しによって無効になった。

- ハンドルが、MQCLOSE 呼び出しを発行している別のスレッドによって無効になっている共有ハンドルである。
- ハンドルが、ハンドルを作成していないスレッドにより使用されている非共有ハンドルである。
- 呼び出しは MQGET または MQPUT であるが、ハンドルにより表されたオブジェクトがキューではない。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

該当するオブジェクトに対して正常な MQOPEN 呼び出しが実行され、しかもまだ MQCLOSE 呼び出しが実行されていないことを確認してください。ハンドルが有効な範囲内で使用されていることを確認してください (詳細については、[MQOPEN](#) の MQOPEN の説明を参照してください)。

2020 (07E4) (RC2020): MQRC_INHIBIT_VALUE_ERROR

説明

MQSET 呼び出しで、MQIA_INHIBIT_GET 属性、または MQIA_INHIBIT_PUT 属性用に指定されている値が無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

InhibitGet または **InhibitPut** キュー属性に有効な値を指定してください。

2021 (07E5) (RC2021): MQRC_INT_ATTR_COUNT_ERROR

説明

MQINQ 呼び出しまたは MQSET 呼び出しで、**IntAttrCount** パラメーターがマイナスになっている (MQINQ または MQSET の場合) か、または **Selectors** パラメーターに指定された整数属性セレクター (MQIA_*) の数値より小さい値になっています (MQSET の場合のみ)。この理由コードは、パラメーター・ポインターが無効な場合にも示されます。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

選択されたすべての整数属性を保存するのに十分な大きさの値を指定してください。

2022 (07E6) (RC2022): MQRC_INT_ATTR_COUNT_TOO_SMALL

説明

MQINQ 呼び出しで、**IntAttrCount** パラメーターが、**Selectors** パラメーター内に指定された整数属性セレクター (MQIA_*) の数値より小さい値になっています。

呼び出しは MQCC_WARNING で完了し、**IntAttrs** 配列には、そのスペースに収まるだけの整数属性が入っています。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

複数値のサブセットのみ必要な場合以外は、十分な大きさの値を指定してください。

2023 (07E7) (RC2023): MQRC_INT_ATTRS_ARRAY_ERROR

説明

MQINQ 呼び出しまたは MQSET 呼び出しで、**IntAttrs** パラメーターが無効です。パラメーター・ポインターが無効であるか (MQINQ および MQSET の場合)、読み取り専用ストレージを指し示しているか、**IntAttrCount** パラメーターによって示されている長さより小さいストレージを示しています (MQINQ の場合のみ)。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パラメーターを修正してください。

2024 (07E8) (RC2024): MQRC_SYNCPOINT_LIMIT_REACHED

説明

現行の作業単位内にあるコミットされていないメッセージの数が、キュー・マネージャーについて定義されている限度 (**MaxUncommittedMsgs** キュー・マネージャー属性を参照) を超えたために、MQGET、MQPUT、または MQPUT1 呼び出しが失敗しました。コミットされていないメッセージの数は、現行の作業単位が開始されてからの以下の合計です。

- アプリケーションが MQPMO_SYNCPOINT オプションを指定して書き込んだメッセージの数
- アプリケーションが MQGMO_SYNCPOINT オプションを指定して取り出したメッセージの数
- MQPMO_SYNCPOINT オプションを指定して書き込まれたメッセージについてキュー・マネージャーが生成したトリガー・メッセージと COA レポート・メッセージの数
- MQGMO_SYNCPOINT オプションを指定して取り出されたメッセージについてキュー・マネージャーが生成した COD レポート・メッセージの数

同期点からトピックへのメッセージをパブリッシュする場合は、この理由コードを受け取ることができます。詳細については、[同期点の下のパブリケーション](#)を参照してください。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションがループしていないかどうかを調べてください。ループしていない場合には、アプリケーションをもっと単純なものに修正してください。そのほかに、1つの作業単位内のコミットされていな

いメッセージの最大数に関するキュー・マネージャーの制限を、次のようにして増加させる方法もあります。

- ▶ **z/OS** z/OS では、ALTER QMGR コマンドを使用して、コミットされていないメッセージの最大数を変更することができます。
- ▶ **IBM i** IBM i では、CHGMQM コマンドを使用して、コミットされていないメッセージの最大数を変更することができます。

2025 (07E9) (RC2025): MQRC_MAX_CONNS_LIMIT_REACHED

説明

同時接続の最大数を越えたため、MQCONN または MQCONNX 呼び出しが拒否された。

- ▶ **z/OS** z/OS の場合、接続制限は TSO でも バッチ でも 32767 です。
- ▶ **Multi** マルチプラットフォームでは、この理由コードは MQOPEN 呼び出しでも戻されることがあります。
- Java アプリケーションを使用する場合、接続マネージャーによって同時接続の最大数が定義される可能性があります。

注: IBM MQ を使用するアプリケーションは、フレームワークまたは接続プールへの接続の管理 (例えば、Java EE アプリケーション・サーバー、Spring などのアプリケーション・フレームワーク、IBM コンテナ (IBM Cloud の場合)、またはこれらの組み合わせ) を委任した可能性があります。詳しくは、[IBM MQ classess for JMS オブジェクト・プーリング](#)を参照してください。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

該当するパラメーター値のサイズを大きくするか、同時接続の数を減らしてください。

関連概念

[IBM MQ classes for Java での接続プーリング](#)

2026 (07EA) (RC2026): MQRC_MD_ERROR

説明

下記のいずれかの理由により、MQMD 構造体が無効です。

- StrucId フィールドが MQMD_STRUC_ID ではありません。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- 呼び出しが成功であっても、変更された構造体をキュー・マネージャーがアプリケーション・ストレージにコピーすることができない。例えば、ポインターが読み取り専用ストレージを指している場合にこれが発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQMD 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2027 (07EB) (RC2027): MQRC_MISSING_REPLY_TO_Q

説明

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、メッセージ記述子 MQMD 内の ReplyToQ フィールドがブランクであるが、以下のいずれかまたは両方が該当する。

- 応答が要求されました (つまり、メッセージ記述子の MsgType フィールドに MQMT_REQUEST が指定されました)。
- メッセージ記述子の Report フィールドでレポート・メッセージが要求されました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

応答メッセージまたはレポート・メッセージの送信先のキューの名前を指定してください。

2029 (07ED) (RC2029): MQRC_MSG_TYPE_ERROR

説明

以下のいずれかを実行します。

- MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、メッセージ記述子 (MQMD) 内の MsgType フィールドに指定された値が無効です。
- メッセージ処理プログラムが、期待されるメッセージ・タイプではないメッセージを受信しました。例えば、IBM MQ コマンド・サーバーが、要求メッセージ (MQMT_REQUEST) ではないメッセージを受信すると、この理由コードで要求が拒否されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MsgType フィールドに対して有効な値を指定してください。メッセージ処理プログラムにより要求が拒否される場合、サポートするメッセージ・タイプの詳細について該当のプログラムの資料を参照してください。

2030 (07EE) (RC2030): MQRC_MSG_TOO_BIG_FOR_Q

説明

キューにメッセージを書き込む MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、メッセージがキューの最大長より大きく、MQMD 内の MsgFlags フィールドに MQMF_SEGMENTATION_ALLOWED が指定されていませんでした。セグメント化が使用可能になっていない場合、メッセージの長さは、キューの **MaxMsgLength** 属性とキュー・マネージャーの **MaxMsgLength** 属性のうち、いずれか小さい方を超えてはなりません。

- ▶ **z/OS** z/OS の場合、キュー・マネージャーはメッセージのセグメント化をサポートしていません。MQMF_SEGMENTATION_ALLOWED が指定されている場合、受け入れられますが、無視されます。

この理由コードは、MQMF_SEGMENTATION_ALLOWED が指定されている場合に、メッセージ内にあるデータの性質が原因で、キュー・マネージャーがキューに格納できる長さのいくつかのセグメントにメッセージを分割できない場合にも戻されることがあります。

- ユーザー定義形式の場合、キュー・マネージャーが作成できる最小のセグメントは 16 バイトです。
- 組み込み形式の場合、キュー・マネージャーが作成できる最小のセグメントは、それぞれの形式によって異なりますが、MQFMT_STRING (最小セグメント・サイズは 16 バイト) 以外は、どの形式でも 16 バイトより大きくなります。

MQRC_MSG_TOO_BIG_FOR_Q は、レポート・メッセージのメッセージ記述子内の Feedback フィールドにも戻されることがあります。この場合は、メッセージ・チャンネル・エージェントが、リモート・キューにメッセージを書き込もうとしたときにエラーを検出したことを示します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

BufferLength パラメーターが正しく指定されているかどうかを調べてください。このパラメーターが正しく指定されている場合は、次のいずれかの処置を取ってください。

- キューの **MaxMsgLength** 属性の値を大きくしてください。キュー・マネージャーの **MaxMsgLength** 属性の値も大きくしなければならない場合があります。
- メッセージを複数の小さなメッセージに分割してください。
- MQMD の MsgFlags フィールドで MQMF_SEGMENTATION_ALLOWED を指定してください。この値を指定すると、キュー・マネージャーでメッセージがいくつかのセグメントに分割されるようになります。

2031 (07EF) (RC2031): MQRC_MSG_TOO_BIG_FOR_Q_MGR

説明

キューにメッセージを書き込む MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、メッセージがキュー・マネージャーの最大長より大きく、MQMD 内の MsgFlags フィールドに MQMF_SEGMENTATION_ALLOWED が指定されていませんでした。セグメンテーションが許可されない場合、メッセージの長さは、キュー・マネージャーの **MaxMsgLength** 属性とキュー **MaxMsgLength** 属性の小さい方を超えることはできません。

この理由コードは、MQMF_SEGMENTATION_ALLOWED を指定した場合に、メッセージ内にあるデータの性質が原因で、キュー・マネージャーがキュー・マネージャーの制限に適合する長さのいくつかのセグメントにメッセージを分割できない場合にも戻されることがあります。

- ユーザー定義形式の場合、キュー・マネージャーが作成できる最小のセグメントは 16 バイトです。
- 組み込み形式の場合、キュー・マネージャーが作成できる最小のセグメントは、それぞれの形式によって異なりますが、MQFMT_STRING (最小セグメント・サイズは 16 バイト) 以外は、どの形式でも 16 バイトより大きくなります。

MQRC_MSG_TOO_BIG_FOR_Q_MGR は、レポート・メッセージのメッセージ記述子内の Feedback フィールドにも戻されることがあります。この場合は、メッセージ・チャンネル・エージェントが、リモート・キューにメッセージを書き込もうとしたときにエラーを検出したことを示します。

さらに、メッセージが通過するチャンネルが、キュー・マネージャーによって実際にサポートされるよりも小さい値に最大メッセージ長を制限しており、メッセージ長がこの値より大きな場合にも、この理由コードが戻される。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

BufferLength パラメーターが正しく指定されているかどうかを調べてください。このパラメーターが正しく指定されている場合は、次のいずれかの処置を取ってください。

- キュー・マネージャーの **MaxMsgLength** 属性の値を増やします。キューの **MaxMsgLength** 属性も増やす必要がある場合があります。
- メッセージを複数の小さなメッセージに分割してください。
- MQMD の **MsgFlags** フィールドで **MQMF_SEGMENTATION_ALLOWED** を指定してください。この値を指定すると、キュー・マネージャーでメッセージがいくつかのセグメントに分割されるようになります。
- チャネル定義を調べてください。

2033 (07F1) (RC2033): MQRC_NO_MSG_AVAILABLE

説明

MQGET 呼び出しが発行されましたが、MQMD (**MsgId** および **CorrelId** フィールド) および MQGMO (**Options** および **MatchOptions** フィールド) で指定された選択基準を満たすメッセージがキューにありません。MQGMO_WAIT オプションが指定されませんでした。あるいは、MQGMO の **WaitInterval** フィールドに指定された時間間隔が満了しました。この理由コードは、ブラウザのための MQGET 呼び出しで、キューの終わりに達したときにも戻されます。

この理由コードは、mqGetBag 呼び出しと mqExecute 呼び出しで戻されることもあります。mqGetBag は MQGET とほとんど同じものです。mqExecute 呼び出しの場合、完了コードは MQCC_WARNING と MQCC_FAILED のどちらかになります。

- 完了コードが MQCC_WARNING の場合、指定した待機間隔内に一部の応答メッセージは受信されましたが、全部は受信されていません。応答バッグの中には、システムが生成してネストされた、受信したメッセージのバッグがあります。
- 完了コードが MQCC_FAILED の場合、指定した待機間隔内に応答メッセージは 1 つも受信されませんでした。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

これが予期されていた条件である場合、訂正処置は不要です。

これが予期されていた条件ではない場合、下記のことを確認してください。

- テスト・メッセージが正常にキューに書きこまれたこと。
- MQPUT または MQPUT1 呼び出しのために使用された作業単位があるなら、それが正常にコミットされたこと。
- 選択基準を制御するオプションが正しく指定されていること。次のコードはすべて、MQGET 呼び出しの戻りメッセージの適格性に影響を与えます。
 - MQGMO_LOGICAL_ORDER
 - MQGMO_ALL_MSGS_AVAILABLE
 - MQGMO_ALL_SEGMENTS_AVAILABLE
 - MQGMO_COMPLETE_MSG

- MQMO_MATCH_MSG_ID
- MQMO_MATCH_CORREL_ID
- MQMO_MATCH_GROUP_ID
- MQMO_MATCH_MSG_SEQ_NUMBER
- MQMO_MATCH_OFFSET
- MQMD 中の MsgId フィールドの値
- MQMD 中の CorrelId フィールドの値

メッセージの待機時間を長くすることを検討してください。

2034 (07F2) (RC2034): MQRC_NO_MSG_UNDER_CURSOR

説明

MQGMO_MSG_UNDER_CURSOR または MQGMO_BROWSE_MSG_UNDER_CURSOR オプションを指定した MQGET 呼び出しが発行されました。しかし、ブラウザ・カーソルの位置は、取り出し可能なメッセージの位置ではありません。これは、次のいずれかの原因で起こります。

- カーソルが、論理的に先頭のメッセージの前に位置付けられている (ブラウザ・オプションを指定した最初の MQGET 呼び出しが正常に実行される前の状態)。
- ブラウズ操作が実行された後、(おそらく他のいずれかのアプリケーションによって) ブラウズ・カーソルが位置付けられたメッセージがロックされたか、そのキューから除去された。
- ブラウズ・カーソルが位置付けられていたメッセージの有効期限が切れた。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションの論理を調べてください。アプリケーションの設計上、ブラウザの後で複数のサーバーがメッセージを獲得するために競合できるようになっている場合、これは予期された理由である可能性があります。先行するブラウザのための MQGET 呼び出しで MQGMO_LOCK オプションを使用することを検討してください。

2035 (07F3) (RC2035): MQRC_NOT_AUTHORIZED

一般的な説明

説明

エラーを発生させた、アプリケーションまたはチャンネルのユーザーには、以下のように、試行した操作を実行する権限がありません。

- MQCONN または MQCONNX 呼び出しで、ユーザーがキュー・マネージャーへの接続を許可されていない。これは、次のいずれかの理由で起こります。
 - ローカルでバインドされたアプリケーションの場合に、アプリケーションのユーザー ID に、キュー・マネージャーに接続する権限が付与されていません。
 - MQCONNX 呼び出しの MQCSP 構造で無効なユーザー ID またはパスワードが指定されています。
 - **V9.4.0** MQCONNX 呼び出しの MQCSP 構造で、無効な認証トークンが指定されました。
 - キュー・マネージャーは、接続時にアプリケーションが MQCSP 構造で認証資格情報を提供することを要求するように構成されていますが、アプリケーションは資格情報を提供しませんでした。

z/OS z/OS では、CICS アプリケーションの場合、このコードの代わりに MQRC_CONNECTION_NOT_AUTHORIZED が発行されます。

- MQCONNX 呼び出しのユーザー ID またはパスワードの長さが、許可される最大長を超えています。ユーザー ID の最大長は、プラットフォームによって異なります。詳しくは、[ユーザー ID](#) を参照してください。
- IBM MQ classes for Java 内のキュー・マネージャー、またはクライアント・トランスポートを使用している IBM MQ classes for JMS アプリケーションへの接続を試行します。これは、次のいずれかの理由で起こります。
 - アプリケーションで、キュー・マネージャーとの認証に互換モードを使用しており、ユーザー ID の長さが許容最大長である 12 文字を超えている。
 - IBM MQ classes for Java または IBM MQ classes for JMS を IBM MQ 9.3.0 以降にアップグレードした後、アプリケーションで使用される認証モードが変更されました。Java クライアントが使用する認証モードの詳細については、[Java クライアントを使用した接続認証](#) を参照してください。
- ユーザーは、MQOPEN または MQPUT1 呼び出しにおいて、指定されているオプション (1 つ以上) でオブジェクトをオープンすることを許可されていません。
 - **z/OS** z/OS では、オープンされているオブジェクトがモデル・キューの場合、必要な名前での動的キューを作成する許可がユーザーにないときにも、この理由になります。
- MQCLOSE 呼び出しで、永続動的キューであるオブジェクトを削除する権限がユーザーにありません。また、MQCLOSE 呼び出しで指定された **Hobj** パラメーターが、キューを作成した MQOPEN 呼び出しによって返されたハンドルではありません。
- あるコマンドに関して、ユーザーにそのコマンドを発行する権限がないか、そのコマンドで指定されたオブジェクトにアクセスする権限がありません。
- MQSUB 呼び出しで、ユーザーは、トピックをサブスクライブすることを許可されていません。
- MQSUB 呼び出しで、非管理対象宛先キューを使用するとき、ユーザーは宛先キューを使用することを許可されていません。
- Advanced Message Security セキュリティー・ポリシーの存在。

この理由コードは、レポート・メッセージのメッセージ記述子の Feedback フィールドにも発生することがあります。この場合、メッセージ・チャンネル・エージェントがリモート・キューにメッセージを書き込もうとしたときにエラーを検出したことを示します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

正しいキュー・マネージャーまたはオブジェクトが指定されていること、および適切な権限が存在することを確認してください。

アプリケーションが接続時にユーザー ID とパスワード、または認証トークンを指定する場合は、資格情報が有効であることを確認してください。

システム・プログラマーまたはセキュリティ管理者に連絡して、キュー・マネージャーのログに追加情報を提供するメッセージがないか確認してもらってください。 **V 9.4.0** 認証トークンの問題に関連するエラー・メッセージには、エラーの原因を説明するエラー・コードが含まれている場合があります。詳しくは、[1407 ページの『トークン認証エラー・コード』](#) を参照してください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージを識別するためにも使用されます。生成されるイベント・メッセージは、失敗した操作によって異なり、以下のいずれかのメッセージです。

- MQCONN または MQCONNX [186 ページの『非許可 \(タイプ 1\)』](#)。
- MQOPEN または MQPUT1 [188 ページの『非許可 \(タイプ 2\)』](#)。
- MQCLOSE [191 ページの『非許可 \(タイプ 3\)』](#)。

- コマンド [193 ページ](#)の『非許可 (タイプ 4)』。
- MQSUB [194 ページ](#)の『不許可 (タイプ 5)』。
- MQSUB 宛先 [196 ページ](#)の『不許可 (タイプ 6)』。

RC2035 が生成される特定の問題

JMSWMQ2013 無効なセキュリティー認証

IBM MQ JMS アプリケーションがセキュリティー認証エラーで失敗した場合の情報については、[無効なセキュリティー認証](#) を参照してください。

キューまたはチャネルでの MQRC_NOT_AUTHORIZED

機能を実行する権限がユーザーにないために MQRC 2035 (MQRC_NOT_AUTHORIZED) が戻された場合は、[MQRC_NOT_AUTHORIZED in WMQ](#) で詳細を確認してください。どのオブジェクトにユーザーがアクセスできないかを判別し、ユーザーにそのオブジェクトへのアクセス権限を付与します。

管理者の場合の、MQRC_NOT_AUTHORIZED (クライアントでの AMQ4036)

MQRC 2035 (MQRC_NOT_AUTHORIZED) が戻され、IBM MQ 管理者であるユーザー ID を使用してクライアント接続を介してキュー・マネージャーにリモートでアクセスしようとした場合の情報については、[管理者としての MQRC_NOT_AUTHORIZED](#) を参照してください。

MQS_REPORT_NOAUTH

戻りコード 2035 (MQRC_NOT_AUTHORIZED) をより詳細に診断するための、この環境変数の使用の詳細については、[MQS_REPORT_NOAUTH](#) を参照してください。この環境変数を使用すると、キュー・マネージャーのエラー・ログにエラーが生成されますが、Failure Data Capture (FDC) は生成されません。

MQSAUTHERRORS

戻りコード 2035 (MQRC_NOT_AUTHORIZED) に関連する FDC ファイルを生成するためのこの環境変数の使用の詳細については、[MQSAUTHERRORS](#) を参照してください。この環境変数を使用すると、FDC が生成されますが、キュー・マネージャーのエラー・ログにエラーは生成されません。

WebSphere Application Server から IBM MQ に接続するアプリケーション

WebSphere Application Server から IBM MQ に接続するアプリケーションでの MQRC 2035 (MQRC_NOT_AUTHORIZED) エラーのトラブルシューティングについては、[2035 MQRC_NOT_AUTHORIZED when connecting to IBM MQ from WebSphere Application Server](#) を参照してください。

関連資料

[戻りコード=2035 MQRC_NOT_AUTHORIZED](#)

2036 (07F4) (RC2036): MQRC_NOT_OPEN_FOR_BROWSE

説明

MQGET 呼び出しは、次のいずれかのオプションを指定して発行されました。

- MQGMO_BROWSE_FIRST
- MQGMO_BROWSE_NEXT
- MQGMO_BROWSE_MSG_UNDER_CURSOR
- MQGMO_MSG_UNDER_CURSOR

しかし、キューがブラウザ用にオープンされていなかったか、IBM MQ マルチキャスト・メッセージングが使用されています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キューをオープンするときに、MQOO_BROWSE を指定してください。

IBM MQ マルチキャスト・メッセージングを使用している場合、MQGET 呼び出しでブラウザ・オプションを指定できません。

2037 (07F5) (RC2037): MQRC_NOT_OPEN_FOR_INPUT

説明

キューからメッセージを取り出すために MQGET 呼び出しが発行されましたが、そのキューは入力用にオープンされていませんでした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キューをオープンするときに、次のいずれかを指定してください。

- MQOO_INPUT_SHARED
- MQOO_INPUT_EXCLUSIVE
- MQOO_INPUT_AS_Q_DEF

2038 (07F6) (RC2038): MQRC_NOT_OPEN_FOR_INQUIRE

説明

オブジェクト属性を照会するために MQINQ 呼び出しが発行されましたが、オブジェクトは照会用にオープンされていませんでした。

MQINQ 呼び出しは、IBM MQ マルチキャストでのトピック・ハンドル用に発行されました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

オブジェクトをオープンするときに、MQOO_INQUIRE を指定してください。

MQINQ は、IBM MQ マルチキャストのトピック・ハンドルではサポートされていません。

2039 (07F7) (RC2039): MQRC_NOT_OPEN_FOR_OUTPUT

説明

キューにメッセージを書き込むために MQPUT 呼び出しが発行されましたが、そのキューは出力用にオープンされていませんでした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キューをオープンするときに、MQOO_OUTPUT を指定してください。

2040 (07F8) (RC2040): MQRC_NOT_OPEN_FOR_SET

説明

キュー属性を設定するために MQSET 呼び出しが発行されましたが、そのキューは設定用にオープンされていませんでした。

MQSET 呼び出しは、IBM MQ マルチキャストでのトピック・ハンドル用に発行されました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

オブジェクトをオープンするときに、MQOO_SET を指定してください。

MQSET は、IBM MQ マルチキャストのトピック・ハンドルではサポートされていません。

2041 (07F9) (RC2041): MQRC_OBJECT_CHANGED

説明

この呼び出しで使用された Hobj ハンドルが MQOPEN 呼び出しによって戻されて以来、このオブジェクトに影響を及ぼすオブジェクト定義が変更されました。MQOPEN 呼び出しの詳細については、[MQOPEN](#) を参照してください。

この理由コードは、REFRESH CLUSTER コマンドの実行時に発生する可能性があります。[REFRESH CLUSTER の実行時に見られるアプリケーションの問題](#)を参照してください。

この理由コードは、オブジェクト・ハンドルが MQPUT または MQPUT1 呼び出しの **PutMsgOpts** パラメータの Context フィールドに指定されている場合は発生しません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCLOSE 呼び出しを発行して、ハンドルをシステムに戻してください。通常は、次にそのオブジェクトを再オープンし、操作を再試行するだけで十分です。ただし、そのオブジェクト定義がアプリケーション論理にとって重要な場合には、そのオブジェクトを再オープンしてから、MQINQ 呼び出しを使って、オブジェクトの属性の新しい値を取得することができます。

2042 (07FA) (RC2042): MQRC_OBJECT_IN_USE

説明

MQOPEN 呼び出しが発行されましたが、当該のオブジェクトは、**Options** パラメーター内に指定されているオプションと矛盾するオプションを使用して、このアプリケーションまたは別のアプリケーションによってすでにオープンされています。これが起こるのは、要求が共用入力用のものであるのに、オブジェクトが排他入力用にすでにオープンされている場合です。また、要求が排他入力用のものであるのに、オブジェクトが (任意の種類) 入力用にすでにオープンされている場合にも、このようなことが起こります。

受信側チャンネルの MCA、またはグループ内キューイング・エージェント (IGQ エージェント) は、メッセージが伝送されていないときでも宛先キューをオープンしておく場合があります。そのため、キューが「使用中」のように見えることがあります。MQSC のコマンド DISPLAY QSTATUS を使用して、キューをオープンしたままにしているユーザーを調べてください。

IBM MQ が共用入力のキューをオープンするのは、アプリケーションが MQOO_INPUT_SHARED オープン・オプションを使用している場合か、アプリケーションが MQOO_INPUT_AS_Q_DEF を使用していて、デフォルトの共用オプション・キュー属性が DEFSOPT(SHARED) に設定されている場合です。ただし、SHARE/NOSHARE オプションという形の管理オーバーライドもあります。

キュー定義で NOSHARE が設定されている場合、IBM MQ はアプリケーションで設定されているオプションにかかわらず、入力ハンドルを排他に設定します。

- ▶ **z/OS** z/OS では、オープン対象のオブジェクト (キューである場合、または MQOPEN の場合は、名前リストかプロセス・オブジェクトである) が削除処理の最中だった場合は、MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しについても、この理由コードが示されることがあります。
- ▶ **z/OS** z/OS のデフォルト設定は NOSHARE です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

システム設計のときに、アプリケーションが待機して再試行するか、あるいは他の処置を取るのかを指定する必要があります。

2043 (07FB) (RC2043): MQRC_OBJECT_TYPE_ERROR

説明

MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、オブジェクト記述子 MQOD の objectType フィールドに無効な値が指定されています。MQPUT1 呼び出しの場合、オブジェクト・タイプは MQOT_Q でなければなりません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効なオブジェクト・タイプを指定してください。

2044 (07FC) (RC2044): MQRC_OD_ERROR

説明

下記のいずれかの理由により、MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、オブジェクト記述子 MQOD が無効です。

- StrucId フィールドが MQOD_STRUC_ID でない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- 呼び出しが成功であっても、変更された構造体をキュー・マネージャーがアプリケーション・ストレージにコピーすることができない。例えば、ポインターが読み取り専用ストレージを指している場合にこれが発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQOD 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2045 (07FD) (RC2045): MQRC_OPTION_NOT_VALID_FOR_TYPE

説明

MQOPEN 呼び出しまたは MQCLOSE 呼び出しで、オブジェクトのタイプとして無効であるか、オープン中またはクローズ中のキューにとって無効であるオプションが指定されています。

MQOPEN 呼び出しについては、以下の場合があります。

- オプションがオブジェクト・タイプに不適切である (例えば MQOT_PROCESS オブジェクトに対する MQOO_OUTPUT)。
- オプションがそのキュー・タイプではサポートされない (例えば、ローカル定義を持っていないリモート・キューに対する MQOO_INQUIRE)。
- 次のオプションの 1 つまたは複数が、指定されている。

- MQOO_INPUT_AS_Q_DEF
- MQOO_INPUT_SHARED
- MQOO_INPUT_EXCLUSIVE
- MQOO_BROWSE
- MQOO_INQUIRE
- MQOO_SET

ただし、以下のいずれかの場合です。

- キュー名が、セル・ディレクトリーを介して解決されている。
- オブジェクト記述子内の ObjectQMgrName は、リモート・キューのローカル定義の名前 (キュー・マネージャー別名を指定するため) を指定します。定義の RemoteQMgrName 属性で指定されたキューは、ローカル・キュー・マネージャーの名前です。

MQCLOSE 呼び出しの場合、次の場合が含まれます。

- キューが動的キューでないのに MQCO_DELETE または MQCO_DELETE_PURGE オプションが指定されている。

オープン中のオブジェクトのタイプが MQOT_NAMELIST、MQOT_PROCESS、MQOT_Q_MGR のいずれかであり、MQOD の ObjectQMgrName フィールドが空白でなくローカル・キュー・マネージャー名でもないときにも、この理由コードが MQOPEN 呼び出しで戻されることがあります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

正しいオプションを指定する。MQOPEN 呼び出しの場合は、ObjectQMgrName フィールドが正しく設定されているかどうかを確認してください。MQCLOSE 呼び出しの場合は、オプションを訂正するか、キューの新規作成に使用されるモデル・キューの定義タイプを変更してください。

2046 (07FE) (RC2046): MQRC_OPTIONS_ERROR

説明

Options パラメーターまたはフィールドに、無効なオプションが入っているか、または無効なオプションの組み合わせが入っています。

- MQOPEN、MQCLOSE、MQXCNVC、mqBagToBuffer、mqBufferToBag、mqCreateBag、および mqExecute の各呼び出しの場合、**Options** は、その呼び出し上の個別のパラメーターです。

この理由コードは、パラメーター・ポインターが無効な場合にも示されます。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

- MQBEGIN、MQCONN、MQGET、MQPUT、および MQPUT1 の各呼び出しの場合、Options は、関連のオプション構造体 (MQBO、MQCNO、MQGMO、または MQPMO) 内のフィールドです。
- IBM MQ マルチキャストのオプション・エラーの詳細については、[MQI の概念と、マルチキャストとの関係を参照してください](#)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効なオプションを指定してください。どのオプションおよびオプションの組み合わせが有効であるか判別するために、**Options** パラメーターまたはフィールドの記述を調べてください。個々のオプションをまとめて追加することによって複数のオプションを設定している場合は、同じオプションを重複して追加しないようにしてください。詳しくは、[MQI オプションの妥当性検査に関する規則](#)を参照。

2047 (07FF) (RC2047): MQRC_PERSISTENCE_ERROR

説明

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、メッセージ記述子 MQMD 内の Persistence フィールドに指定された値が無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

次のいずれかの値を指定します。

- MQPER_PERSISTENT
- MQPER_NOT_PERSISTENT
- MQPER_PERSISTENCE_AS_Q_DEF

2048 (0800) (RC2048): MQRC_PERSISTENT_NOT_ALLOWED

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しで、MQMD 内の Persistence フィールドに指定された値 (または DefPersistence キュー属性から取得された値) が MQPER_PERSISTENT を指定していますが、メッセージが置かれているキューが持続メッセージをサポートしていません。持続メッセージは、一時動的キューに入れることができません。

この理由コードは、レポート・メッセージのメッセージ記述子の Feedback フィールドにも発生することがあります。この場合、メッセージ・チャンネル・エージェントがリモート・キューにメッセージを書き込もうとしたときにエラーを検出したことを示します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

メッセージを一時動的キューに入れる必要がある場合は、MQPER_NOT_PERSISTENT を指定してください。持続性が必要な場合には、一時動的キューではなく永続動的キューまたは事前定義キューを使用してください。

サーバー・アプリケーションでは、元の要求メッセージ (メッセージ・タイプ MQMT_REQUEST) と同じ持続性を指定して応答メッセージ (メッセージ・タイプ MQMT_REPLY) を送信してください。要求メッセージが持続メッセージである場合、メッセージ記述子 MQMD 内の ReplyToQ フィールドで指定されている応答キューを一時動的キューにすることはできません。この場合には、永続動的キューまたは事前定義キューを応答キューとして使用する必要があります。

z/OS z/OS では、キューが使用する CFSTRUCT が RECOVER(NO) で定義されている場合は、持続メッセージを共有キューに入れることはできません。非持続メッセージだけをこのキューに入れるか、または CFSTRUCT 定義を RECOVER(YES) に変更してください。持続メッセージを、RECOVER(NO) が指定された CFSTRUCT を使用するキューに入れようとする、失敗して MQRC_PERSISTENT_NOT_ALLOWED が出されます。

2049 (0801) (RC2049): MQRC_PRIORITY_EXCEEDS_MAXIMUM

説明

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、メッセージ記述子 MQMD 内の Priority フィールドの値が、MaxPriority キュー・マネージャー属性で示されているローカル・キュー・マネージャーでサポートされている最大優先度を超えています。メッセージは、キュー・マネージャーによって受け入れられますが、そのキュー・マネージャーの最大優先順位でキューに入れられます。メッセージ記述子の Priority フィールドは、メッセージを書き込んだアプリケーションによって指定された値を保持します。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

この理由コードが、メッセージを書き込んだアプリケーションが予期していたコードの場合、処置は不要です。

2050 (0802) (RC2050): MQRC_PRIORITY_ERROR

説明

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、メッセージ記述子 MQMD 内の Priority フィールドの値が無効です。キュー・マネージャーによってサポートされる最大優先順位は、MaxPriority キュー・マネージャー属性によって指定されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

0 から MaxPriority の範囲の値、または特殊値 MQPRI_PRIORITY_AS_Q_DEF を指定してください。

2051 (0803) (RC2051): MQRC_PUT_INHIBITED

説明

キューまたはこのキューが解決するキューについて、MQPUT 呼び出しおよび MQPUT1 呼び出しの使用が現在禁止されています。

この理由コードは、レポート・メッセージのメッセージ記述子の Feedback フィールドにも発生することがあります。この場合、メッセージ・チャネル・エージェントがリモート・キューにメッセージを書き込もうとしたときにエラーを検出したことを示します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

システムの設計上、書き込み要求を短期間禁止できるようになっている場合は、後で操作を再試行する。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [199 ページ](#)の『[書き込み禁止](#)』の識別にも使用されます。

システム・プログラマーの処置

メッセージを書き込むことができるようにするには、ALTER QLOCAL(...) PUT(ENABLED)を使用します。

2052 (0804) (RC2052): MQRC_Q_DELETED

説明

呼び出しで指定された Hobj キュー・ハンドルが、オープンされたあとで削除された動的キューを参照しています。動的キューの削除の詳細については、[MQCLOSE](#) の MQCLOSE の説明を参照してください。

- **z/OS** z/OS では、動的キューのオープン処理中であって、そのキューが論理的に削除された状況になっていた場合にも、MQOPEN 呼び出しおよび MQPUT1 呼び出しでこのコードが戻されることがあります。このコードについては、MQCLOSE を参照してください。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

システムにハンドルおよび関連リソースを返すために、MQCLOSE 呼び出しを発行してください (この場合、MQCLOSE 呼び出しは成功します)。エラーを引き起こしたアプリケーションの設計を調べてください。

2053 (0805) (RC2053): MQRC_Q_FULL

説明

キューがいっぱいである (つまり、キューには、**MaxQDepth** キュー属性で指定された許容される最大数のメッセージがすでに格納されている) ため、MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出し、またはコマンドが失敗しました。

この理由コードは、レポート・メッセージのメッセージ記述子の **Feedback** フィールドにも発生することがあります。この場合、メッセージ・チャネル・エージェントがリモート・キューにメッセージを書き込もうとしたときにエラーを検出したことを示します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

操作を後で再試行する。このキューの最大サイズを増やすか、このキューを処理するためのアプリケーションのインスタンス数を増やすことを検討してください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [204 ページの『キュー満杯』](#)の識別にも使用されます。

2055 (0807) (RC2055): MQRC_Q_NOT_EMPTY

説明

永続動的キューに対して、次のいずれかを指定した MQCLOSE 呼び出しが発行されましたが、キューが空でなかったか使用中であったために、その呼び出しはエラーになりました。次のいずれかが当てはまりません。

- MQCO_DELETE オプションが指定されたが、キューにまだメッセージが残っている。
- MQCO_DELETE または MQCO_DELETE_PURGE オプションが指定されたが、キューに対して未処理のコミットされていない読み取り呼び出しまたは書き込み呼び出しがある。

詳しくは、MQCLOSE 呼び出しの動的キューに関する使用上の注意を参照してください。

この理由コードは、コミットされていないメッセージがキューに存在する場合に (または、除去オプションのない削除キューの場合はコミット済みメッセージ)、そのキューを消去、削除、または移動するためにコマンドからも返されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー上にメッセージが存在する理由を調べてください。そのキューに 1 つまたは複数のメッセージが存在する場合でも、**CurrentQDepth** キュー属性が 0 になる可能性があるので注意してください。まだコミットされていない作業単位の一部としてメッセージが取り出された場合に、このようなことが起こります。メッセージを廃棄できる場合は、MQCO_DELETE_PURGE オプションを指定して MQCLOSE 呼び出しを試みてください。この呼び出しをあとで再試行することを検討してください。

2056 (0808) (RC2056): MQRC_Q_SPACE_NOT_AVAILABLE

説明

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、ディスクまたは他の記憶装置上に、キューのために使用できるスペースがありません。

この理由コードは、レポート・メッセージのメッセージ記述子の Feedback フィールドにも発生することがあります。この場合、メッセージ・チャンネル・エージェントがリモート・キューにメッセージを書き込もうとしたときにエラーを検出したことを示します。

-  z/OS 上では、この理由コードは発生しません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションが無限ループにメッセージを書き込んでいるかどうかを調べてください。書き込んでいない場合には、キューに使用できるスペースを増やしてください。

2057 (0809) (RC2057): MQRC_Q_TYPE_ERROR

説明

次のいずれかが起こりました。

- MQOPEN 呼び出しで、オブジェクト記述子 MQOD またはオブジェクト・レコード MQOR の ObjectQMgrName フィールドにリモート・キューのローカル定義の名前を指定し (キュー・マネージャーの別名を指定します)、そのローカル定義では **RemoteQMgrName** 属性にローカル・キュー・マネージャーの名前を指定します。しかし、MQOD または MQOR の ObjectName フィールドには、ローカル・キュー・マネージャー上のモデル・キューの名前が指定されており、これは許されません。詳しくは、[MQOPEN](#) を参照してください。
- 環境変数 AMQ_BLOCK_RECONN_DYN_QUEUES が均一クラスター内のキュー・マネージャーに設定されている場合、この戻りコードは、呼び出しによって新しい動的キューが作成されたときに、キュー・マネージャーへの接続が接続オプション MQCNO_RECONNECT を使用して作成されていれば、MQOPEN 呼び出しで発生する可能性があります。
- MQPUT1 呼び出しで、オブジェクト記述子 MQOD またはオブジェクト・レコード MQOR にモデル・キューの名前が指定されています。
- 直前の MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、モデル・キューの名前がメッセージ記述子の ReplyToQ フィールドに指定されましたが、モデル・キューを応答メッセージまたはレポート・メッセージの宛先として指定することはできません。宛先として指定できるのは、事前定義キューの名前、あるいはモデル・キューから作成された動的キューの名前だけです。この状況では、応答メッセージまたはレポート・メッセージが送達不能キューに入ると、理由コード MQRC_Q_TYPE_ERROR が MQDLH 構造体の Reason フィールドに戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効なキューを指定してください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [210 ページ](#)の『[キュー・タイプ・エラー](#)』の識別にも使用されます。

2058 (080A) (RC2058): MQRC_Q_MGR_NAME_ERROR

説明

MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しで、**QMgrName** パラメーターに指定された値が無効か、または未知の値です。この理由コードは、パラメーター・ポインターが無効な場合にも示されます。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

- ▶ **z/OS** z/OS の場合、CICS アプリケーションで元の接続に誤った名前または認識できない名前が指定されていると、何を呼び出してもこの理由コードが戻される場合があります。

▶ **z/OS** CICS の場合、この理由コードの原因は、再同期の値の誤りである可能性があります。例えば、Groupresync が指定され、キュー・マネージャーがキュー共用グループに含まれていない場合などです。

この理由コードは、MQ MQI クライアント・アプリケーションが MQ クライアント・キュー・マネージャー・グループ内のキュー・マネージャーへの接続を試行し (**MQCONN** の **QMgrName** パラメーターを参照)、以下のいずれかの場合にも発生することがあります。

- キュー・マネージャー・グループがサポートされていない。
- 指定された名前のキュー・マネージャー・グループが存在しない。

▶ **z/OS** z/OS 上の IMS アダプターの場合、MQRC_Q_MGR_NAME_ERROR は、CSQQDEFV がロードされ、以下のいずれかの場合に発生します。

- MQCONN 呼び出しに空のキュー・マネージャー名が指定されていて、CSQQDEFX TYPE=DEFAULT エントリが存在しない。
- MQCONN 呼び出しに指定されたキュー・マネージャー名が、ロードされた CSQQDEFV テーブルに存在しない。
- 意図したものとは異なる CSQQDEFV モジュールがロードされた (製品に付属するデフォルトのモジュールなど)。この状況は、CSQQDEFV モジュールを格納するライブラリーが、従属領域の STEPLIB または JOBLIB 内で SCSQAUTH データ・セットの後にあることが原因で発生する場合があります。連結の中のライブラリーを SCSQAUTH データ・セットの前に移動してください。STEPLIB/JOBLIB 内に CSQQDEFV ロード・モジュールがない場合は、LINKLIST によって何がロードされているかを確認してください。

▶ **z/OS** CICS アダプターでは、以下のような場合に MQRC_Q_MGR_NAME_ERROR が発生します。

- MQCONN 定義によって Resyncmember(Groupresync) が指定され、MQNAME によってキュー共用グループ名の代わりにキュー・マネージャー名が指定されている。

▶ **z/OS** MQRC_Q_MGR_NAME_ERROR は、既存の IBM MQ 接続で使用されているものとは異なるタイプのアダプターを使用して、同じアドレス・スペースに接続しようとしたときに返されます。具体的には、以下のような場合です。

- CICS、IMS、または RRSBATCH タイプの領域で実行されている出口が、BATCH アダプターを介して MQCONN を試みている。
- CICS 標準 Liberty プロファイル・アプリケーションは、バインディング接続ファクトリーを使用して IBM MQ に接続しようと試みますが、既に CICS 領域から同じキュー・マネージャーに確立されている既存の CICS MQCONN が存在します。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

可能なら全部ブランクの名前を使用してください。あるいは、使用されている名前が有効かどうかを検証してください。

CICS Resyncmember(Groupresync) を使用している場合、キュー・マネージャー名ではなく、MQNAME のキュー共有グループ (QSG) 名を使用してください。

2059 (080B) (RC2059): MQRC_Q_MGR_NOT_AVAILABLE

説明

このエラーは次の場合に発生します。

1. MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しでは、**QMgrName** パラメーターによって識別されるキュー・マネージャーを接続に使用することはできません。
 - **z/OS** On z/OS:
 - バッチ・アプリケーションの場合、キュー・マネージャーがインストールされていない LPAR で実行されているアプリケーションにこの理由が返されることがあります。
 - CICS アプリケーションの場合、元の接続で指定されたキュー・マネージャーの名前が認識可能であっても使用可能でないと、何を呼び出してもこの理由コードが戻される場合があります。
 - システム全体で ECSA が不足している可能性がある。または、キュー・マネージャーの新規接続を作成するために使用できるストレージが ACELIM システム・パラメーターによって制限されている可能性がある。詳しくは、メッセージ [CSQ3202E](#) を参照してください。
 - **IBM i** IBM i では、互換モードで実行しているアプリケーションにより **Hconn** パラメーターに MQHC_DEF_HCONN が指定されていると、MQOPEN 呼び出しおよび MQPUT1 呼び出しでもこの理由コードが戻されることがあります。
2. IBM MQ MQI client アプリケーションからの MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しの場合:
 - MQ クライアント・キュー・マネージャー・グループ内で接続に使用可能なキュー・マネージャーが存在しない場合に、グループ内のキュー・マネージャーに接続しようとした (MQCONN 呼び出しの **QMgrName** パラメーターを参照)。
 - クライアント・チャンネルで接続に失敗した場合 (原因はおそらく、クライアント接続チャンネル定義または対応するサーバー接続チャンネル定義のエラー)
3. コマンドが、**CommandScope** パラメーターを使用して、キュー共有グループでアクティブではないキュー・マネージャーを指定している場合。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー・マネージャーが始動したことを確認してください。クライアント・アプリケーションからの接続の場合は、チャンネル定義、チャンネル状況、エラー・ログを調べてください。

複数インストール環境では、IBM MQ ライブラリーがオペレーティング・システムによってロードされていることを確認してください。詳細については、[複数のインストール環境でのアプリケーションの接続](#)を参照してください。

2061 (080D) (RC2061): MQRC_REPORT_OPTIONS_ERROR

説明

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、メッセージ記述子 MQMD 内の Report フィールドに、ローカル・キュー・マネージャーによって認識されないオプションが 1 つ以上含まれています。この理由コードが返される原因となるオプションは、そのメッセージの宛先によって異なります。詳細については、[レポート・オプションおよびメッセージ・フラグの REPORT](#) の説明を参照してください。

この理由コードは、レポート・メッセージの MQMD の Feedback フィールド、または送達不能キューのメッセージの MQDLH 構造体の Reason フィールドに戻されます。どちらの場合も、このコードは、メッセージの送信元が指定したレポート・オプションの中に、宛先キュー・マネージャーがサポートしていないものが 1 つ以上あることを示しています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

以下の作業を行います。

- メッセージ記述子内の Report フィールドが、そのメッセージ記述子を宣言したときの値で必ず初期設定されるか、あるいは、MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しの前に、必ずそのフィールドに値が割り当てられるようにしてください。レポート・オプションがまったく必要ない場合には、MQRO_NONE を指定してください。
- 指定されたレポート・オプションが有効であることを確認してください。有効なレポート・オプションについては、「[レポート・オプションおよびメッセージ・フラグ](#)」の MQMD の説明で説明されている Report フィールドを参照してください。
- 個々のレポート・オプションを一度に追加して複数のレポート・オプションを設定する場合は、同じレポート・オプションを重複して追加しないようにしてください。
- 矛盾するレポート・オプションを指定していないかどうかを確認してください。例えば、MQRO_EXCEPTION と MQRO_EXCEPTION_WITH_DATA の両方を Report フィールドに追加しないでください。これらのうちの一方だけを指定できます。

2062 (080E) (RC2062): MQRC_SECOND_MARK_NOT_ALLOWED

Explanation

An MQGET call was issued specifying the MQGMO_MARK_SKIP_BACKOUT option in the Options field of MQGMO, but a message has already been marked within the current unit of work. Only one marked message is allowed within each unit of work.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Modify the application so that no more than one message is marked within each unit of work.

2063 (080F) (RC2063): MQRC_SECURITY_ERROR

説明

MQCONN、MQCONNX、MQOPEN、MQSUB、MQPUT1、または MQCLOSE 呼び出しが発行されましたが、セキュリティ・エラーが発生したために失敗しました。

-  z/OS の場合、これには次の 2 つの理由が考えられます。
 - WebSphere Application Server または WebSphere Liberty Profile 環境内で実行されている JMS アプリケーションから BINDINGS トランスポートを使用してキュー・マネージャーに接続するために、

MQCONN または MQCONNX 呼び出しが発行され、8 文字より長いユーザー名またはパスワード、あるいはその両方が渡されました。

– 外部セキュリティー・マネージャーからセキュリティー・エラーが戻されました。

- Advanced Message Security (AMS) を使用している場合、これはセットアップの問題である可能性があります。

▶ **z/OS** AMS が有効になっているときに IBM MQ API 呼び出しが発行されましたが、AMS 処理中にセキュリティー・エラーが発生したため、呼び出しは失敗しました。

▶ **z/OS** 例えば、有効な証明書が存在しない場合、MQOPEN 呼び出しが失敗する可能性があります。

▶ **z/OS** 例えば、証明書またはポリシーが正しく構成されていないために、MQGET 呼び出しが失敗することがあります。MQGET 呼び出しが失敗すると、SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE にメッセージが配信されることがあります。

- LDAP サーバーで接続認証を使用している場合、これは、LDAP サーバーへの接続障害、または LDAP サーバーからのエラーの結果である可能性があります。

- **V9.4.0** アプリケーションが MQCONNX 呼び出しで認証トークンを提供した場合、キュー・マネージャーの認証トークン構成にエラーがある可能性があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

セキュリティー・マネージャーからのエラーを記録し、システム・プログラマーまたはセキュリティー管理者に連絡してください。

- Advanced Message Security を使用している場合は、キュー・マネージャーのエラー・ログを確認してください。

- **z/OS** z/OS では、指定されたユーザー名の最大長が 8 文字であり、指定されたパスワードの最大長が 100 文字であることを確認してください。

システム・プログラマーまたはセキュリティー管理者に以下を行うよう依頼してください。

- キュー・マネージャーおよび AMS ジョブ・ログに追加のメッセージがあるかどうかを確認する
- 証明書が有効であり、正しく構成されていることを確認する
- ポリシーが有効であり、正しく構成されていることを確認する
- SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE にメッセージが示されていないかを確認します。

- **IBM i** IBM i の場合、FFST ログにエラー情報が含まれています。

- LDAP を使用している場合は、[DISPLAY QMSTATUS](#) コマンドを使用して LDAP サーバーへの接続の状況を確認し、キュー・マネージャーのエラー・ログでエラー・メッセージを確認してください。

- **V9.4.0** アプリケーションが MQCONNX 呼び出しで認証トークンを提供した場合は、キュー・マネージャーのエラー・ログで追加情報を提供するメッセージを確認するように、システム・プログラマーまたはセキュリティー管理者に依頼してください。認証トークンの問題に関連するエラー・メッセージには、エラーの原因を説明するエラー・コードが含まれている場合があります。詳細については、[1407](#) ページの『[トークン認証エラー・コード](#)』を参照してください。

Linux

V9.4.0

AIX

2064 (0810) (RC2064):

MQRC_TOKEN_TIMESTAMP_NOT_VALID

説明

認証トークンを含む MQCONNX 呼び出しが発行されましたが、トークンがまだ有効でないか、有効期限が切れているため、失敗しました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー・マネージャーのエラー・ログで追加メッセージを確認するように管理者に依頼してください。有効期限が切れていない別のトークンを取得し、「not before」クレームがある場合は、「not before」時間が経過した後に接続してトークンを提示します。詳しくは、[認証トークンの要件](#)を参照してください。

関連概念

[MQCONNX - キュー・マネージャーの接続 \(拡張\)](#)

[認証トークンの処理](#)

[認証トークンの問題のトラブルシューティング](#)

関連タスク

[アプリケーションでの認証トークンの使用](#)

関連資料

[トークン認証エラー・コード](#)

2065 (0811) (RC2065): MQRC_SELECTOR_COUNT_ERROR

説明

MQINQ 呼び出しまたは MQSET 呼び出しで、**SelectorCount** パラメーターに無効な値が指定されています。この理由コードは、パラメーター・ポインターが無効な場合にも示されます。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

0 から 256 の範囲の値を指定してください。

2066 (0812) (RC2066): MQRC_SELECTOR_LIMIT_EXCEEDED

説明

MQINQ または MQSET 呼び出しで、**SelectorCount** パラメーターにサポートされる最大値 (256) より大きい値が指定されています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

呼び出しに指定されているセレクターの数を減らしてください。有効な値の範囲は 0 から 256 です。

2067 (0813) (RC2067): MQRC_SELECTOR_ERROR

説明

MQINQ または MQSET 呼び出しが発行されましたが、次のいずれかの理由により、Selectors 配列に含まれるセレクターが無効なものでした。

- そのセレクターは、サポートされていない、または範囲外である。
- そのセレクターは、属性の照会または設定をしようとしているオブジェクトのタイプに適用されない。
- そのセレクターは、設定できない属性のものである。

この理由コードは、パラメーター・ポインターが無効な場合にも示されます。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

MQINQ 呼び出しは、IBM MQ マルチキャストの管理ハンドル用に発行され、**Current Depth** 以外の値を照会します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

セレクターとして指定されている値が、Hobj によって表されているオブジェクト・タイプに対して有効であることを確認してください。MQSET 呼び出しの場合には、セレクターが、設定可能な整数属性を表していることも確認してください。

IBM MQ マルチキャストの管理ハンドル用の MQINQ は、*Current Depth* 上でのみ照会できます。

2068 (0814) (RC2068): MQRC_SELECTOR_NOT_FOR_TYPE

説明

MQINQ 呼び出しで、Selectors 配列内の 1 つ以上のセレクターが、属性を照会するキューのタイプに適用されません。

この理由は、キューの解決結果がそのキューのリモート・インスタスとなる場合にも発生します。その場合に照会できるのは、属性のうちローカル・キューに対して有効なものだけです。MQINQ の詳細については、[MQINQ - オブジェクト属性の照会の MQINQ の説明](#)にある使用上の注意を参照してください。

この呼び出しは、MQCC_WARNING で完了し、適用不可能なセレクターの属性値が、次のように設定されます。

- 整数属性については、**IntAttrs** の対応するエレメントが MQIAV_NOT_APPLICABLE に設定されます。
- 文字属性の場合、**CharAttrs** スtring の該当する部分が、アスタリスク (*) だけからなる文字ストリングに設定されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

指定されているセレクターが、意図したものであることを確認してください。

キューがクラスター・キューの場合、MQOO_INQUIRE に加えて MQOO_BROWSE、MQOO_INPUT_*、または MQOO_SET のいずれかのオプションを指定すると、そのキューの解決結果は強制的にそのローカル・インスタスとなります。しかし、そのキューのローカル・インスタスが存在しないなら、MQOPEN 呼び出しはエラーになります。

説明

MQGMO_SET_SIGNAL オプションまたは MQGMO_WAIT オプションを指定した MQGET 呼び出しが発行されましたが、キュー・ハンドル *Hobj* には、すでに未解決の信号があります。

この理由コードは、z/OS および Windows 98--> でのみ出されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションの論理を調べてください。同じキューについての未解決の信号があるときに、信号または待機を設定する必要がある場合は、別のオブジェクト・ハンドルを使用する必要があります。

MQRC_SIGNAL_REQUEST_ACCEPTED

説明

GetMsgOpts パラメーターに MQGMO_SET_SIGNAL を指定した MQGET 呼び出しが発行されましたが、使用可能な該当するメッセージがありませんでした。呼び出しは即時に復帰します。そこでアプリケーションは、信号が送達されるのを待つことができます。

- ▶ **z/OS** z/OS では、*Signal1* フィールドが指すイベント制御ブロックをアプリケーションで待機する必要があります。
- ▶ **Windows** Windows 98--> では、アプリケーションは、Windows メッセージの信号が送達されるのを待機する必要があります。

この理由コードは、z/OS および Windows 98--> でのみ出されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

信号を待機してください。信号が送達されたら、それを調べてメッセージが使用可能になったかどうかを確認してください。メッセージが使用可能になったら、MQGET 呼び出しを再発行してください。

- z/OS の場合は、*Signal1* フィールドが指す ECB で待ち、それが通知されたら、それを調べてメッセージが使用可能になっていることを確認してください。
- Windows 95 および Windows 98 の場合は、アプリケーション (スレッド) でメッセージ・ループの実行を続ける必要があります。

2071 (0817) (RC2071): MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

説明

使用できる主ストレージが十分でないために、呼び出しは失敗しました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アクティブ・アプリケーションが正常に作動しているかどうか (予期しないループに入っていないかどうかなど)を確認してください。問題が見つからない場合は、使用可能な主ストレージを増やしてください。

- ▶ **z/OS** z/OS の場合、アプリケーションに問題が見つからなければ、システム・プログラマーにキュー・マネージャーを実行する領域のサイズを大きくするように要請してください。
- ▶ **z/OS** z/OS では、この戻りコードは、アプリケーション・アドレス・スペース内のすべてのストレージを使い果たした結果と見なすことができます。

2072 (0818) (RC2072): MQRC_SYNCPOINT_NOT_AVAILABLE

説明

MQGET 呼び出しで MQGMO_SYNCPOINT オプションが使用されているか、MQPUT または MQPUT1 呼び出しで MQPMO_SYNCPOINT オプションが使用されていますが、ローカル・キュー・マネージャーはその要求を受け入れることができませんでした。キュー・マネージャーが作業単位をサポートしない場合、**SyncPoint** キュー・マネージャー属性の値は MQSP_NOT_AVAILABLE になります。

外部作業単位コーディネーターを使用する場合も、MQGET、MQPUT、および MQPUT1 呼び出しでこの理由コードが返される場合があります。例えば、そのコーディネーターで、作業単位を開始するために明示的な呼び出しが必要であるとします。この場合、アプリケーションが MQGET、MQPUT、または MQPUT1 呼び出しを発行する前に呼び出しを発行していないと、理由コード MQRC_SYNCPOINT_NOT_AVAILABLE が戻ります。

▶ **IBM i** IBM i では、この理由コードは、IBM i コミットメント制御機能が始動されていないか、キュー・マネージャーで使用できる状態になっていないことを示しています。

この理由コードは、IBM MQ マルチキャスト・メッセージングに MQGMO_SYNCPOINT または MQPMO_SYNCPOINT オプションが使用されていた場合にも返される場合があります。トランザクションは、マルチキャストではサポートされていません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQGMO_SYNCPOINT と MQPMO_SYNCPOINT のいずれか該当する指定を除去してください。

▶ **IBM i** IBM i の場合、コミットメント制御が開始されていることを確認してください。コミットメント制御が開始された後でこの理由コードが示された場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

2075 (081B) (RC2075): MQRC_TRIGGER_CONTROL_ERROR

説明

MQSET 呼び出しで、MQIA_TRIGGER_CONTROL 属性セレクターに指定した値が無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効な値を指定してください。

2076 (081C) (RC2076): MQRC_TRIGGER_DEPTH_ERROR

説明

MQSET 呼び出しで、MQIA_TRIGGER_DEPTH 属性セレクターに指定した値が無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ゼロより大きい値を指定します。

2077 (081D) (RC2077): MQRC_TRIGGER_MSG_PRIORITY_ERR

説明

MQSET 呼び出しで、MQIA_TRIGGER_MSG_PRIORITY 属性セレクターに指定した値が無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

値は 0 から、MaxPriority キュー・マネージャー属性の値までの範囲で指定してください。

2078 (081E) (RC2078): MQRC_TRIGGER_TYPE_ERROR

説明

MQSET 呼び出しで、MQIA_TRIGGER_TYPE 属性セレクターに指定した値が無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効な値を指定してください。

2079 (081F) (RC2079): MQRC_TRUNCATED_MSG_ACCEPTED

説明

MQGET 呼び出しで、メッセージ長が大きすぎたために、与えられたバッファーに収容できませんでした。MQGMO_ACCEPT_TRUNCATED_MSG オプションが指定されていたため、その呼び出しは完了しました。メッセージが (作業単位に関する考慮事項に従って) キューから除去されるか、またはブラウズ操作の場合には、ブラウズ・カーソルがそのメッセージまで進みます。

DataLength パラメーターが切り捨て前のメッセージの長さに設定され、**Buffer** パラメーターには、収容できる分のメッセージが入れられます。また、MQMD 構造体にデータが書き込まれます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

アプリケーションで予期されていた状態であるため、処置はありません。

2080 (0820) (RC2080): MQRC_TRUNCATED_MSG_FAILED

説明

MQGET 呼び出しで、メッセージ長が大きすぎたために、与えられたバッファーに収容できませんでした。MQGMO_ACCEPT_TRUNCATED_MSG オプションが指定されていなかったため、メッセージはキューから除去されませんでした。ブラウズ操作の場合、ブラウズ・カーソルは、呼び出しの前の場所に残ったままです。しかし、MQGMO_BROWSE_FIRST が指定されていた場合には、ブラウズ・カーソルは、論理的には、そのキュー上で最も優先順位の高いメッセージの前に置かれます。

DataLength フィールドが切り捨て前のメッセージの長さに設定され、**Buffer** パラメーターには収容できる分のメッセージが入れられます。また、MQMD 構造体にデータが書き込まれます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

少なくとも **DataLength** と同じ長さのバッファーを指定するか、すべてのメッセージ・データが必ずしも必要でない場合は、MQGMO_ACCEPT_TRUNCATED_MSG を指定してください。

2082 (0822) (RC2082): MQRC_UNKNOWN_ALIAS_BASE_Q

説明

別名のキューをターゲットとして指定している MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、別名キュー属性内の **BaseQName** がキュー名として認識されません。

BaseQName が正常に解決できないクラスター・キューの名前であるときには、この理由コードが戻されることがあります。

この理由コードは、REFRESH CLUSTER コマンドの実行時にも発生する可能性があります。REFRESH CLUSTER の実行時に見られるアプリケーションの問題を参照してください。

MQRC_UNKNOWN_ALIAS_BASE_Q は、アプリケーションが接続先キュー・マネージャーの **ObjectQmgrName**、および別名キューをホストしているキュー・マネージャーを指定していることを示す場合があります。つまり、キュー・マネージャーは指定されたキュー・マネージャーで別名宛先キューを検索するが、別名宛先キューはローカル・キュー・マネージャーにないため失敗することを意味します。**ObjectQmgrName** パラメーターはブランクのままにして、宛先となるキュー・マネージャーがクラスタリングで決まるようにします。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー定義を訂正してください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [224 ページの『不明別名基本キュー』](#)の識別にも使用されます。

IBM MQ classes for JMS を使用しているアプリケーションによって理由コードが表示される場合は、**QMGR** プロパティが空ストリング("") に設定されるように、アプリケーションによって使用される JMS キュー・オブジェクト定義を変更します。この設定により、ルーティング先のキュー・マネージャーがクラスター化によって確実に決定されます。

キューがクラスター内にある場合は、適切なオープン・オプションを使用したことを確認します。リモート・クラスター・キューからはメッセージを取得できないため、オープン・オプションは出力専用であることを確認します。

関連資料

[クラスター内のキューを開こうとしたときに、戻りコード 2082 MQRC_UNKNOWN_ALIAS_BASE_Q が返される](#)

2085 (0825) (RC2085): MQRC_UNKNOWN_OBJECT_NAME

説明

MQOPEN、MQPUT1、または MQSUB の呼び出しが発行されましたが、オブジェクト記述子 MQOD 中の ObjectName フィールドと ObjectQMGrName フィールドによって識別されるオブジェクトが見つかりません。次のいずれかが当てはまります。

- ObjectQMGrName フィールドが下記のいずれかである。
 - ブランク
 - ローカル・キュー・マネージャーの名前
 - **RemoteQMGrName** 属性がローカル・キュー・マネージャーの名前になっているリモート・キューのローカル定義の名前 (キュー・マネージャー別名)

しかし、指定された ObjectName および ObjectType を持つオブジェクトがローカル・キュー・マネージャーに存在しません。

- オープンしようとしているオブジェクトがリモート・キュー・マネージャー上でサービスを受けるクラスター・キューであるが、ローカル・キュー・マネージャーにリモート・キュー・マネージャーへの定義済み経路が存在しない。
- オープンしようとしているオブジェクトのキュー定義で、QSGDISP(GROUP) になっている。そのような定義を MQOPEN、MQPUT1、または MQSUB 呼び出しで使用することはできません。
- 障害が発生したアプリケーションの MQOD の ObjectQMGrName に、ローカル・キュー・マネージャーの名前が指定されている。そのローカル・キュー・マネージャーは、ObjectName に指定されている特定のクラスター・キューをホストしていない。

このような状況の解決策は、MQOD の ObjectQMGrName をブランクのままにすることです。

この理由コードは、REFRESH CLUSTER コマンドの実行時に発生する可能性があります。 [REFRESH CLUSTER の実行時に見られるアプリケーションの問題](#)を参照してください。

この理由コードは、存在しないオブジェクト名またはその他の項目を指定するコマンドへの応答でも発生する場合があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効なオブジェクト名を指定してください。必要な場合は、この名前の最後を空白で埋めてください。そのようなになっている場合は、オブジェクト定義を調べてください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [228 ページ](#)の『不明オブジェクト名』の識別にも使用されます。

キューがクラスター内にある場合は、適切なオープン・オプションを使用したことを確認します。リモート・クラスター・キューからはメッセージを取得できないため、オープン・オプションは出力専用であることを確認します。

関連資料

[クラスター内でキューをオープンしようとしたときの戻りコード= 2085 MQRC_UNKNOWN_OBJECT_NAME](#)

2086 (0826) (RC2086): MQRC_UNKNOWN_OBJECT_Q_MGR

説明

MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、オブジェクト記述子 MQOD 内の ObjectQMgrName フィールドが、オブジェクトに関する命名規則に従っていません。詳しくは、[ObjectQMgrName \(MQCHAR48\)](#) を参照してください。

この理由コードは、オブジェクト記述子内の ObjectType フィールドの値が MQOT_Q_MGR で、ObjectQMgrName フィールドが空白でなく、指定された名前がローカル・キュー・マネージャーの名前でない場合にも戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効なキュー・マネージャー名を指定してください。ローカル・キュー・マネージャーを指定する場合は、すべて空白の名前またはヌル文字で始まる名前を使用できます。必要な場合は、この名前の最後を空白で埋めるか、ヌル文字で終了してください。

2087 (0827) (RC2087): MQRC_UNKNOWN_REMOTE_Q_MGR

説明

MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、次のいずれかの理由からキュー名解決でのエラーが発生しました。

- ObjectQMgrName が空白またはローカル・キュー・マネージャーの名前になっていて、ObjectName がリモート・キュー (またはその別名) のローカル定義の名前であり、以下のいずれかに該当します。
 - RemoteQMgrName が空白またはローカル・キュー・マネージャーの名前になっている。このエラーは、XmitQName が空白でない場合でも発生するので、注意してください。
 - XmitQName は空白だが、RemoteQMgrName の名前で定義された伝送キューはなく、**DefXmitQName** キュー・マネージャー属性は空白。
 - RemoteQMgrName および RemoteQName は、正常に解決できないクラスター・キューを指定します。**DefXmitQName** キュー・マネージャー属性は空白です。
 -  z/OS の場合のみ、RemoteQMgrName はキュー共用グループ内のキュー・マネージャーの名前ですが、グループ内キューイングが使用不可になっています。
- ObjectQMgrName が (キュー・マネージャー別名定義が入っている) リモート・キューのローカル定義の名前になっており、以下のいずれかが該当します。

- RemoteQName が空白でない。
 - XmitQName は空白だが、RemoteQMgrName の名前で定義された伝送キューはなく、**DefXmitQName** キュー・マネージャー属性は空白。
 - ObjectQMgrName が次のどれでもありません。
 - 空白
 - ローカル・キュー・マネージャーの名前
 - 伝送キューの名前
 - キュー・マネージャー別名定義 (RemoteQName が空白のリモート・キューのローカル定義) の名前
- しかし、**DefXmitQName** キュー・マネージャー属性が空白になっており、キュー・マネージャーが、グループ内キューイングが有効であるキュー共用グループに属していません。
- ObjectQMgrName がモデル・キューの名前です。
 - セル・ディレクトリーによって解決されるキューの名前。しかし、セル・ディレクトリーから取得されたリモート・キュー・マネージャー名と同じ名前で定義されたキューはなく、**DefXmitQName** キュー・マネージャー属性が空白です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ObjectName および ObjectQMgrName に指定された値を調べてください。それらの値が正しい場合は、キュー定義を調べてください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [230 ページ](#)の『[不明リモート・キュー・マネージャー](#)』の識別にも使用されます。

2090 (082A) (RC2090): MQRC_WAIT_INTERVAL_ERROR

説明

MQGET 呼び出しにおいて、**GetMsgOpts** パラメーター内の WaitInterval フィールドに指定された値が無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

無限待機が必要な場合は、0 以上の値を指定するか、特殊値 MQWI_UNLIMITED を指定してください。

2091 (082B) (RC2091): MQRC_XMIT_Q_TYPE_ERROR

説明

MQOPEN または MQPUT1 呼び出しでは、メッセージはリモート・キュー・マネージャーに送られます。オブジェクト記述子の ObjectName または ObjectQMgrName フィールドは、リモート・キューのローカル定義の名前を指定しますが、定義の XmitQName 属性には以下のいずれかが適用されます。

- XmitQName は空白ではないが、ローカル・キューでないキューを指定している。
- XmitQName は空白だが、RemoteQMgrName はローカル・キューでないキューを指定している。

キュー名がセル・ディレクトリーを介して解決され、そのセル・ディレクトリーから得られたリモート・キュー・マネージャー名がキューの名前であるのに、そのキューがローカル・キューでない場合にも、この理由コードが戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ObjectName および ObjectQMgrName に指定された値を調べてください。それらの値が正しい場合は、キュー定義を調べてください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [220 ページ](#)の『[伝送キュー・タイプ・エラー](#)』の識別にも使用されます。

2092 (082C) (RC2092): MQRC_XMIT_Q_USAGE_ERROR

説明

MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、メッセージはリモート・キュー・マネージャーへ送信されますが、次のいずれかが起こりました。

- ObjectQMgrName はローカル・キューの名前を指定していますが、Usage 属性が MQUS_TRANSMISSION ではありません。
- オブジェクト記述子の ObjectName または ObjectQMgrName フィールドは、リモート・キューのローカル定義の名前を指定しますが、定義の XmitQName 属性には以下のいずれかが適用されます。
 - XmitQName はブランクではないが、Usage 属性が MQUS_TRANSMISSION ではないキューが指定されている。
 - XmitQName はブランクだが、RemoteQMgrName に、Usage 属性が MQUS_TRANSMISSION でないキューが指定されている。
 - XmitQName がキュー SYSTEM.QSG.TRANSMIT.QUEUE を指定しているが、IGQ キュー・マネージャー属性は IGQ が使用不可であることを示している。
- キュー名がセル・ディレクトリーを介して解決され、セル・ディレクトリーから得られたリモート・キュー・マネージャー名はローカル・キューの名前になっていますが、Usage 属性が MQUS_TRANSMISSION ではありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ObjectName および ObjectQMgrName に指定された値を調べてください。それらの値が正しい場合は、キュー定義を調べてください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [222 ページ](#)の『[伝送キュー使用エラー](#)』の識別にも使用されます。

2093 (082D) (RC2093): MQRC_NOT_OPEN_FOR_PASS_ALL

説明

PutMsgOpts パラメーターに MQPMO_PASS_ALL_CONTEXT オプションを指定して MQPUT 呼び出しが発行されましたが、そのキューは、MQOO_PASS_ALL_CONTEXT オプションを指定してオープンされていませんでした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キューをオープンするときに、MQOO_PASS_ALL_CONTEXT (またはこれを暗黙指定する別のオプション) を指定してください。

2094 (082E) (RC2094): MQRC_NOT_OPEN_FOR_PASS_IDENT

説明

PutMsgOpts パラメーターに MQPMO_PASS_IDENTITY_CONTEXT オプションを指定して MQPUT 呼び出しが発行されましたが、そのキューは、MQOO_PASS_IDENTITY_CONTEXT オプションを指定してオープンされていませんでした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キューをオープンするときに、MQOO_PASS_IDENTITY_CONTEXT (またはこれを暗黙指定する別のオプション) を指定してください。

2095 (082F) (RC2095): MQRC_NOT_OPEN_FOR_SET_ALL

説明

PutMsgOpts パラメーターに MQPMO_SET_ALL_CONTEXT オプションを指定して MQPUT 呼び出しが発行されましたが、そのキューは、MQOO_SET_ALL_CONTEXT オプションを指定してオープンされていませんでした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キューをオープンするときに、MQOO_SET_ALL_CONTEXT を指定してください。

2096 (0830) (RC2096): MQRC_NOT_OPEN_FOR_SET_IDENT

説明

PutMsgOpts パラメーターに MQPMO_SET_IDENTITY_CONTEXT オプションを指定して MQPUT 呼び出しが発行されましたが、そのキューは、MQOO_SET_IDENTITY_CONTEXT オプションを指定してオープンされていませんでした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キューをオープンするときに、MQOO_SET_IDENTITY_CONTEXT (またはこれを暗黙指定する別のオプション) を指定してください。

2097 (0831) (RC2097): MQRC_CONTEXT_HANDLE_ERROR

説明

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、MQPMO_PASS_IDENTITY_CONTEXT または MQPMO_PASS_ALL_CONTEXT が指定されましたが、**PutMsgOpts** パラメーターの Context フィールドに指定されたハンドルが有効なキュー・ハンドルではないか、有効なキュー・ハンドルではありますが、キューが MQOO_SAVE_ALL_ALL_CONTEXT でオープンされていません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

参照されているキューをオープンするときに、MQOO_SAVE_ALL_CONTEXT を指定してください。

2098 (0832) (RC2098): MQRC_CONTEXT_NOT_AVAILABLE

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しで、MQPMO_PASS_IDENTITY_CONTEXT または MQPMO_PASS_ALL_CONTEXT が指定されましたが、**PutMsgOpts** パラメーターの Context フィールドに指定されたキュー・ハンドルには、それに関連したコンテキストがありません。これが発生するのは、参照されたキュー・ハンドルを使用してメッセージがまだ正しく取り出されていない場合か、または最後に成功した MQGET 呼び出しがブラウズだった場合です。

この条件は、最後に取り出されたメッセージに関連コンテキストがない場合には発生しません。

- ▶ **z/OS** z/OS では、メッセージ内のユーザー ID の許可を使用してメッセージを書き込んでいるメッセージ・チャンネル・エージェントがメッセージを受信した場合、そのメッセージに関連するコンテキストが存在しないと、例外レポートの *Feedback* フィールドにこのコードが戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

成功した非ブラウズ読み取り呼び出しが、参照されたキュー・ハンドルを使用して発行されたことを確認してください。

Windows ▶ **z/OS** 2099 (0833) (RC2099): MQRC_SIGNAL1_ERROR

説明

GetMsgOpts パラメーターに MQGMO_SET_SIGNAL を指定した MQGET 呼び出しが発行されましたが、Signal1 フィールドが無効です。

- ▶ **z/OS** z/OS の場合は、Signal1 フィールドに指定されているアドレスが無効であるか、読み取り専用ストレージを指しています。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- ▶ **Windows** Windows の場合は、Signal1 フィールド内のウィンドウ・ハンドルが無効です。

この理由コードは z/OS および Windows 98--> の環境でのみ返されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

Signal1 フィールドの設定を訂正してください。

2100 (0834) (RC2100): MQRC_OBJECT_ALREADY_EXISTS

説明

動的キューを作成するために MQOPEN 呼び出しが発行されましたが、その動的キューと同じ名前のキューがすでに存在します。

- ▶ **z/OS** z/OS では、ごくまれに発生する「競合状態」によっても、この理由コードが戻されることがあります。詳細については、理由コード MQRC_NAME_IN_USE の説明を参照してください。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

動的キューの名前を完全名で指定している場合は、それが動的キューの命名規則に準拠していることを確認してください。準拠している場合は、別の名前を指定するか、または、既存のキューがすでに不要ならそのキューを削除してください。あるいは、キュー・マネージャーに名前を生成させることもできます。

キュー・マネージャーが (部分的または全面的に) 名前を生成している場合には、MQOPEN 呼び出しを再発行してください。

2101 (0835) (RC2101): MQRC_OBJECT_DAMAGED

説明

呼び出しがアクセスするオブジェクトが損傷を受けていて、使用できない。例えば、メイン・ストレージのオブジェクトの定義に整合性がない、その定義がディスクのオブジェクトの定義と異なっている、ディスクの定義が読み取れない、などが原因として考えられる。関連したユーザー・スペースは削除できないこともあるが、オブジェクトは削除できる。

- ▶ **z/OS** z/OS では、共用キューに関連した Db2 リスト・ヘッダーまたは構造体の番号がゼロの場合に、この理由コードが出される。この状態は、MQSC コマンド DELETE CFSTRUCT を使用して、Db2 構造体定義を削除する結果として生じる。このコマンドは、削除される CF 構造体を参照する共用キューごとに、リスト・ヘッダーや構造体の番号をゼロにリセットする。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー・マネージャーを停止して再始動するか、バックアップ・ストレージからキュー・マネージャー・データを復元する必要がある。

- 以下のプラットフォームでは、FFST の記録を調べて問題の詳細情報を得る。

-   AIX and Linux

-  IBM i

-  z/OS では、共有キューを削除し、MQSC コマンド DEFINE QLOCAL を使用して再定義する。こうすると、自動的に CF 構造体が定義され、リスト・ヘッダーが割り振られる。

 複製ロギングを使用するネイティブ HA キュー・マネージャーは、メディア・リカバリー可能として構成されている損傷オブジェクトの非同期メディア・リカバリーを自動的に試行します。自動リカバリーが最初に失敗した場合、非同期リカバリー処理は定期的に再試行します。リカバリーを妨げた問題を解決できる場合、オブジェクトは次の再試行時にリカバリーされるか、または **rcrmqobj** コマンドを使用してオブジェクトを手動でリカバリーすることができます。循環ロギング・キュー・マネージャーの場合、またはメディア・リカバリー可能として構成されていないオブジェクトの場合、メディア・リカバリーはできないため、オブジェクトを削除する必要があります。

2102 (0836) (RC2102): MQRC_RESOURCE_PROBLEM

説明

呼び出しを正常に完了するには、システム資源が足りない。

 z/OS では、これは共有キューの使用時に Db2 エラーが発生したか、単一のカップリング・ファシリティ・リスト構造体に定義できる共有キューの最大数に達したことを示します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

システムの負荷が大きくないときに、アプリケーションを実行してください。

-  z/OS の場合、オペレーター・コンソールにおいて追加情報が含まれている可能性のあるメッセージがあるかどうかを調べてください。
- 以下のプラットフォームでは、FFST の記録を調べて問題の詳細情報を得る。

-  IBM i

-   AIX and Linux

2103 (0837) (RC2103): MQRC_ANOTHER_Q_MGR_CONNECTED

説明

MQCONN または MQCONNX 呼び出しは発行されましたが、スレッドまたはプロセスはすでに異なるキュー・マネージャーにすでに接続されています。スレッドまたはプロセスが一度に接続できるキュー・マネージャーは 1 つだけです。

- ▶ **z/OS** z/OS 上では、この理由コードは発生しません。
- ▶ **Windows** Windows の場合、他のキュー・マネージャーとの付加的な接続が可能なので、MTS オブジェクトがこの理由コードを受け取ることはありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQDISC 呼び出しを使用して、すでに接続されているキュー・マネージャーから切断した後、もう一度 MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しを発行して、新しいキュー・マネージャーに接続してください。

既存のキュー・マネージャーから切断すると、現在オープンされているすべてのキューがクローズされます。MQDISC 呼び出しは、コミットされていない作業単位がすべてコミットされるか、バックアウトされた後で発行することをお勧めします。

2104 (0838) (RC2104): MQRC_UNKNOWN_REPORT_OPTION

説明

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、メッセージ記述子 MQMD 内の Report フィールドに、ローカル・キュー・マネージャーによって認識されないオプションが 1 つ以上含まれています。オプションは受け入れられません。

この理由コードが返される原因となるオプションは、そのメッセージの宛先によって異なります。詳細については、[レポート・オプションおよびメッセージ・フラグの REPORT の説明](#)を参照してください。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

この理由コードが予期されていたものである場合、訂正処置は必要ありません。予期されたコードでない場合には、次のようにしてください。

- メッセージ記述子内の Report フィールドが、そのメッセージ記述子を宣言したときの値で必ず初期設定されるか、あるいは、MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しの前に、必ずそのフィールドに値が割り当てられるようにしてください。
- 指定されたレポート・オプションが有効であることを確認してください。有効なレポート・オプションについては、[MQMD-メッセージ記述子の MQMD の説明](#)に記述されている Report フィールドを参照してください。
- 個々のレポート・オプションを一度に追加して複数のレポート・オプションを設定する場合は、同じレポート・オプションを重複して追加しないようにしてください。
- 矛盾するレポート・オプションを指定していないかどうかを確認してください。例えば、MQRO_EXCEPTION と MQRO_EXCEPTION_WITH_DATA の両方を Report フィールドに追加しないでください。これらのうちの一方だけを指定できます。

▶ **z/OS** 2105 (0839) (RC2105): MQRC_STORAGE_CLASS_ERROR

Explanation

The MQPUT or MQPUT1 call was issued, but the storage-class object defined for the queue does not exist.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Create the storage-class object required by the queue, or modify the queue definition to use an existing storage class. The name of the storage-class object used by the queue is given by the **StorageClass** queue attribute.

▶ z/OS 2106 (083A) (RC2106): MQRC_COD_NOT_VALID_FOR_XCF_Q

Explanation

An MQPUT or MQPUT1 call was issued, but the Report field in the message descriptor MQMD specifies one of the MQRO_COD_* options and the target queue is an XCF queue. MQRO_COD_* options cannot be specified for XCF queues.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Remove the relevant MQRO_COD_* option.

2107 (083B) (RC2107): MQRC_XWAIT_CANCELED

説明

MQXWAIT 呼び出しが発行されましたが、**STOP CHINIT** コマンドが発行された (またはキュー・マネージャーが停止したために同じ結果になった) ため、呼び出しが取り消されました。MQXWAIT 呼び出しの詳細については、[MQXWAIT](#) を参照してください。

MQRC_XWAIT_CANCELED 戻りコードは、分散プラットフォーム上の IBM MQ でも内部的に使用される場合があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

実行中の処理を整理して終了してください。

▶ z/OS 2108 (083C) (RC2108): MQRC_XWAIT_ERROR

Explanation

An MQXWAIT call was issued, but the invocation was not valid for one of the following reasons:

- The wait descriptor MQXWD contains data that is not valid.

- The linkage stack level is not valid.
- The addressing mode is not valid.
- There are too many wait events outstanding.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Obey the rules for using the MQXWAIT call. For more information about MQWAIT, see [MQXWAIT](#).

2109 (083D) (RC2109): MQRC_SUPPRESSED_BY_EXIT

説明

MQCONN または MQDISC 以外のいずれかの呼び出しで、API 交差出口が呼び出しを抑制しました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

出口を実行する MQI 呼び出しについての規則に従ってください。規則を調べるには、その出口の作成者に連絡してください。

2110 (083E) (RC2110): MQRC_FORMAT_ERROR

説明

GetMsgOpts パラメーターに MQGMO_CONVERT オプションが指定された MQGET 呼び出しが発行されましたが、メッセージ形式に関してエラーがあるため、そのメッセージを正しく変換できません。エラーとして、次のことが考えられます。

- メッセージ内の形式名が MQFMT_NONE である。
- メッセージ内の Format フィールドに指定されている名前のユーザー作成出口ルーチンが見つからない。
- 形式定義と矛盾するデータがメッセージに含まれている。

メッセージは、MQGET 呼び出しを発行したアプリケーションに変換されずに戻され、**MsgDesc** パラメーターの CodedCharSetId および Encoding フィールドの値は、戻されたメッセージの値に設定され、呼び出しは MQCC_WARNING で完了します。

メッセージが複数の部分で構成されており、それぞれが独自の CodedCharSetId および Encoding フィールドによって記述されている場合 (例えば、MQFMT_DEAD_LETTER_HEADER という形式名のメッセージ)、一部は変換され、その他の部分は変換されないことがあります。ただし、さまざまな CodedCharSetId フィールドおよび Encoding フィールドに返される値は、常に関連するメッセージ・データを正しく記述しています。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

メッセージが書き込まれたときに指定されていた形式名を調べてください。それが組み込み形式の1つでない場合には、その形式と同じ名前の適切な出口ルーチンをキュー・マネージャーがロードできるかどうかを調べてください。メッセージ内のデータが、出口ルーチンによって予期されている形式に対応していることを確認してください。

2111 (083F) (RC2111): MQRC_SOURCE_CCSID_ERROR

説明

文字データの変換元であるコード化文字セット ID が無効であるか、サポートされていません。

これは、MQGET 呼び出しにおいて、MQGMO_CONVERT オプションが **GetMsgOpts** パラメーターに指定されている場合に起こる可能性があります。エラーのあったコード化文字セット ID は、取り出されているメッセージ内の CodedCharSetId フィールドです。この場合、メッセージ・データは変換されずに戻され、**MsgDesc** パラメーターの CodedCharSetId および Encoding フィールドの値は、戻されたメッセージの値に設定され、呼び出しは MQCC_WARNING で完了します。

メッセージに1つ以上の MQ ヘッダー構造体 (MQCIH、MQDLH、MQIIH、MQRMH) が含まれており、メッセージ内の CodedCharSetId フィールドに、キュー名として有効な文字のための SBCS 文字が含まれない文字セットが指定されている場合にも、MQGET 呼び出しで発生することがあります。そのような文字を含む MQ ヘッダー構造体は無効であるため、メッセージは変換なしで返されます。unicode 文字セット UTF-16 が、そのような文字セットの例です。

メッセージが複数の部分で構成されており、それぞれが独自の CodedCharSetId および Encoding フィールドによって記述されている場合 (例えば、MQFMT_DEAD_LETTER_HEADER という形式名のメッセージ)、一部は変換され、その他の部分は変換されないことがあります。ただし、さまざまな CodedCharSetId フィールドおよび Encoding フィールドに返される値は、常に関連するメッセージ・データを正しく記述しています。

この理由コードは、MQXCNCV 呼び出しでも戻されることがあります。エラーのあるコード化文字セット ID は、**SourceCCSID** パラメーターです。**SourceCCSID** パラメーターに無効な値またはサポートされていない値が指定されているか、**SourceCCSID** パラメーター・ポインターが無効です。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

この理由コードは、呼び出しを発行しているアプリケーションで言語環境プログラム (LE) が使用されておらず、メッセージ・プロパティ名とストリング・プロパティ値に CCSID 値 MQCCSI_APPL (-3) が定義されている場合に、MQSETMP/MQINQMP/MQDLTMP 呼び出しで発生する場合があります。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

メッセージが書き込まれたときに指定された文字セット ID、または MQXCNCV 呼び出しで **SourceCCSID** パラメーターに指定された文字セット ID を確認してください。それが正しい場合には、キュー・マネージャー変換のサポートの対象となっている文字セットかどうかを調べてください。指定した文字セットについてキュー・マネージャー変換がサポートされていない場合は、アプリケーションによって変換を行う必要があります。

この理由コードが、CCSID を MQCCSI_APPL (-3) に指定している非 LE アプリケーション・プログラムで MQSETMP/MQINQMP/MQDLTMP 呼び出しが発行されたために発生している場合、アプリケーションを変更して、プロパティ名またはプロパティ・ストリング値がエンコードされるように、アプリケーションで使用される CCSID 値を指定する必要があります。

アプリケーションで正しい CCSID が使用されるように MQCCSI_APPL (-3) の値がオーバーライドされるようにするか (MQCCSI_APPL の再定義を参照)、あるいは MQCHARV のテキスト・ストリングまたは同様の構造体がエンコードされるように、明示的 CCSID 値が使用されるように設定する必要があります。

2112 (0840) (RC2112): MQRC_SOURCE_INTEGER_ENC_ERROR

説明

GetMsgOpts パラメーターに MQGMO_CONVERT オプションを指定した MQGET 呼び出しで、取り出されるメッセージの *Encoding* 値に、認識されない整数エンコードが指定されています。メッセージ・データは変換されずに戻され、**MsgDesc** パラメーターの CodedCharSetId および Encoding フィールドの値は戻されたメッセージの値に設定され、呼び出しは MQCC_WARNING で完了します。

メッセージが複数の部分で構成されており、それぞれが独自の CodedCharSetId および Encoding フィールドによって記述されている場合 (例えば、MQFMT_DEAD_LETTER_HEADER という形式名のメッセージ)、一部は変換され、その他の部分は変換されないことがあります。ただし、さまざまな CodedCharSetId フィールドおよび Encoding フィールドに返される値は、常に関連するメッセージ・データを正しく記述しています。

この理由コードは、MQXCNVC 呼び出しで、**Options** パラメーターにサポートされない MQDCC_SOURCE_* 値が含まれている場合、または UTF-16 コード・ページに MQDCC_SOURCE_ENC_UNDEFINED が指定されている場合にも発生することがあります。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

メッセージを書き込んだときに指定されていた整数エンコードを調べてください。それが正しい場合には、キュー・マネージャー変換のサポートの対象となっている文字セットかどうかを調べてください。必要な整数エンコードについてキュー・マネージャー変換がサポートされない場合には、アプリケーションによって変換を実行する必要があります。

2113 (0841) (RC2113): MQRC_SOURCE_DECIMAL_ENC_ERROR

説明

GetMsgOpts パラメーターに MQGMO_CONVERT オプションを指定した MQGET 呼び出しで、取り出されるメッセージの *Encoding* 値に、認識されない 10 進数エンコードが指定されています。メッセージ・データは変換されずに戻され、**MsgDesc** パラメーターの CodedCharSetId および Encoding フィールドの値は戻されたメッセージの値に設定され、呼び出しは MQCC_WARNING で完了します。

メッセージが複数の部分で構成されており、それぞれが独自の CodedCharSetId および Encoding フィールドによって記述されている場合 (例えば、MQFMT_DEAD_LETTER_HEADER という形式名のメッセージ)、一部は変換され、その他の部分は変換されないことがあります。ただし、さまざまな CodedCharSetId フィールドおよび Encoding フィールドに返される値は、常に関連するメッセージ・データを正しく記述しています。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

メッセージを書き込んだときに指定されていた 10 進数エンコードを調べてください。それが正しい場合には、キュー・マネージャー変換のサポートの対象となっている文字セットかどうかを調べてください。

必要な 10 進数エンコードについてキュー・マネージャー変換がサポートされない場合には、アプリケーションによって変換を行う必要があります。

2114 (0842) (RC2114): MQRC_SOURCE_FLOAT_ENC_ERROR

説明

GetMsgOpts パラメーターに MQGMO_CONVERT オプションを指定した MQGET 呼び出しにおいて、取り出されるメッセージの Encoding 値が、認識されない浮動小数点エンコードを指定しています。メッセージ・データは変換されずに戻され、**MsgDesc** パラメーターの CodedCharSetId および Encoding フィールドの値は戻されたメッセージの値に設定され、呼び出しは MQCC_WARNING で完了します。

メッセージが複数の部分で構成されており、それぞれが独自の CodedCharSetId および Encoding フィールドによって記述されている場合 (例えば、MQFMT_DEAD_LETTER_HEADER という形式名のメッセージ)、一部は変換され、その他の部分は変換されないことがあります。ただし、さまざまな CodedCharSetId フィールドおよび Encoding フィールドに返される値は、常に関連するメッセージ・データを正しく記述しています。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

メッセージを書き込んだときに指定されていた浮動小数点エンコードを調べてください。それが正しい場合には、キュー・マネージャー変換のサポートの対象となっている文字セットかどうかを調べてください。必要な浮動小数点エンコードについてキュー・マネージャー変換がサポートされない場合には、アプリケーションによって変換を行う必要があります。

2115 (0843) (RC2115): MQRC_TARGET_CCSID_ERROR

説明

文字データを変換するコード化文字セット ID が無効であるか、あるいはサポートされていません。

これは、MQGET 呼び出しで、MQGMO_CONVERT オプションが **GetMsgOpts** パラメーターに指定されている場合に起こることがあります。エラーのあるコード化文字セット ID は、**MsgDesc** パラメーターの CodedCharSetId フィールドです。この場合、メッセージ・データは変換されずに戻され、**MsgDesc** パラメーターの CodedCharSetId および Encoding フィールドの値は戻されたメッセージの値に設定され、呼び出しは MQCC_WARNING で完了します。

この理由コードは、MQGET 呼び出しで、メッセージに 1 つ以上の MQ ヘッダー構造体 (MQCIH、MQDLH、MQIIH、MQRMH) が含まれており、**MsgDesc** パラメーターの CodedCharSetId フィールドに、キュー名で有効な文字の SBCS 文字が含まれていない文字セットが指定されている場合にも発生することがあります。unicode 文字セット UTF-16 が、そのような文字セットの例です。

この理由コードは、MQXCNCV 呼び出しでも戻されることがあります。エラーのあるコード化文字セット ID は、**TargetCCSID** パラメーターです。**TargetCCSID** パラメーターに無効な値またはサポートされていない値が指定されているか、**TargetCCSID** パラメーター・ポインターが無効です。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQGET 呼び出しの **MsgDesc** パラメーターの **CodedCharSetId** フィールドに指定された文字セット ID、または MQXCNCV 呼び出しの **SourceCCSID** パラメーターに指定された文字セット ID を確認してください。それが正しい場合には、キュー・マネージャー変換のサポートの対象となっている文字セットかどうかを調べてください。指定した文字セットについてキュー・マネージャー変換がサポートされていない場合は、アプリケーションによって変換を行う必要があります。

2116 (0844) (RC2116): MQRC_TARGET_INTEGER_ENC_ERROR

説明

GetMsgOpts パラメーターに MQGMO_CONVERT オプションを指定した MQGET 呼び出しで、**MsgDesc** パラメーターの **Encoding** 値が、認識されない整数エンコードを指定しています。メッセージ・データは変換されずに戻され、**MsgDesc** パラメーターの **CodedCharSetId** および **Encoding** フィールドの値は、取り出されるメッセージの値に設定され、呼び出しは MQCC_WARNING で完了します。

この理由コードは、MQXCNCV 呼び出しで、**Options** パラメーターにサポートされない MQDCC_TARGET_* 値が含まれている場合、または UTF-16 コード・ページに MQDCC_TARGET_ENC_UNDEFINED が指定されている場合にも発生することがあります。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

指定されている整数エンコードを調べてください。それが正しい場合には、キュー・マネージャー変換のサポートの対象となっている文字セットかどうかを調べてください。必要な整数エンコードについてキュー・マネージャー変換がサポートされない場合には、アプリケーションによって変換を実行する必要があります。

2117 (0845) (RC2117): MQRC_TARGET_DECIMAL_ENC_ERROR

説明

GetMsgOpts パラメーターに MQGMO_CONVERT オプションを指定した MQGET 呼び出しで、**MsgDesc** パラメーターの **Encoding** 値が、認識されない 10 進数エンコードを指定しています。メッセージ・データは変換されずに戻され、**MsgDesc** パラメーターの **CodedCharSetId** および **Encoding** フィールドの値は戻されたメッセージの値に設定され、呼び出しは MQCC_WARNING で完了します。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

指定されている 10 進数エンコードを調べてください。それが正しい場合には、キュー・マネージャー変換のサポートの対象となっている文字セットかどうかを調べてください。必要な 10 進数エンコードについてキュー・マネージャー変換がサポートされない場合には、アプリケーションによって変換を行う必要があります。

2118 (0846) (RC2118): MQRC_TARGET_FLOAT_ENC_ERROR

説明

GetMsgOpts パラメーターに MQGMO_CONVERT オプションを指定した MQGET 呼び出しで、**MsgDesc** パラメーターの Encoding 値が、認識されない浮動小数点エンコードを指定しています。メッセージ・データは変換されずに戻され、**MsgDesc** パラメーターの CodedCharSetId および Encoding フィールドの値は戻されたメッセージの値に設定され、呼び出しは MQCC_WARNING で完了します。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

指定されている浮動小数点エンコードを調べてください。それが正しい場合には、キュー・マネージャー変換のサポートの対象となっている文字セットかどうかを調べてください。必要な浮動小数点エンコードについてキュー・マネージャー変換がサポートされない場合には、アプリケーションによって変換を行う必要があります。

2119 (0847) (RC2119): MQRC_NOT_CONVERTED

説明

GetMsgOpts パラメーターに MQGMO_CONVERT オプションを指定して MQGET 呼び出しが発行されましたが、メッセージ内のデータの変換中にエラーが発生しました。メッセージ・データは変換されずに戻され、CodedCharSetId パラメーターの Encoding および **MsgDesc** フィールドの値は戻されたメッセージの値に設定され、呼び出しは MQCC_WARNING で完了します。

メッセージが複数の部分で構成されており、それぞれが独自の CodedCharSetId および Encoding フィールドによって記述されている場合 (例えば、MQFMT_DEAD_LETTER_HEADER という形式名のメッセージ)、一部は変換され、その他の部分は変換されないことがあります。ただし、さまざまな CodedCharSetId フィールドおよび Encoding フィールドに返される値は、常に関連するメッセージ・データを正しく記述しています。

このエラーは、データ変換サービスへのパラメーターがサポートされていないことを示している可能性があります。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

メッセージ・データが、メッセージの書き込み時に指定された **Format**、**CodedCharSetId**、および **Encoding** パラメーターによって正しく記述されていることを確認してください。また、これらの値、および MQGET 呼び出しの **MsgDesc** パラメーターに指定された CodedCharSetId と Encoding が、キュー・マネージャー変換でサポートされていることも確認してください。必要な変換がサポートされていない場合には、アプリケーションによって変換を行う必要があります。

2120 (0848) (RC2120): MQRC_CONVERTED_MSG_TOO_BIG

説明

GetMsgOpts パラメーターに MQGMO_CONVERT オプションを指定した MQGET 呼び出しで、データ変換中にメッセージ・データが拡張され、アプリケーションによって提供されたバッファのサイズを超えました。ただし、変換の前にメッセージ・データを切り捨てずにアプリケーション・バッファに収容できたので、メッセージはすでにキューから除去されています。

MQGET 呼び出しの **CompCode** パラメーターが MQCC_WARNING に設定されていると、メッセージは変換されずに戻されます。メッセージはいくつかの部分から構成されており、各部分が独自の文字セットとエンコード・フィールドで記述されている場合 (例えば、フォーマット名が MQFMT_DEAD_LETTER_HEADER のメッセージ)、変換される部分と変換されない部分が発生するという可能性があります。ただし、このようなメッセージの戻り値は、関連のメッセージ・データを常に正確に表しています。

この理由コードは、MQXCNCV 呼び出しで、**TargetBuffer** パラメーターが小さすぎて変換されたストリングを収容できず、バッファに収まるようにストリングが切り捨てられた場合にも発生します。戻される有効なデータの長さは、**DataLength** パラメーターによって指定されます。DBCS ストリングまたは SBCS/DBCS 混合ストリングの場合、この長さは **TargetBuffer** の長さより短くすることができます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

MQGET 呼び出しの場合は、出口ルーチンがメッセージ・データを正しく変換し、出力長 **DataLength** を適切な値に設定していることを確認してください。その場合、MQGET 呼び出しを発行するアプリケーションは、**Buffer** パラメーター用により大きなバッファを提供する必要があります。

MQXCNCV 呼び出しで、ストリングを切り捨てずに変換する必要がある場合は、もっと大きい出力バッファを指定してください。

Multi

2121 (0849) (RC2121): MQRC_NO_EXTERNAL_PARTICIPANTS

説明

Multi

キュー・マネージャーで調整された作業単位を開始しようとして、MQBEGIN 呼び出しが発行されたが、関連する資源マネージャーがキュー・マネージャーに登録されていない。その結果、この作業単位内でキュー・マネージャーが調整できるのは、IBM MQ リソースに対する変更のみになります。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

アプリケーションが、非 MQ 資源が作業単位に関与することを要求しない場合、この理由コードは無視できるか、MQBEGIN 呼び出しを削除できる。そうでない場合は、システム・プログラマーに連絡して、必要な資源マネージャーがキュー・マネージャーに登録されていない理由を判別する。キュー・マネージャーの構成ファイルがエラーになっている場合がある。

Multi

2122 (084A) (RC2122): MQRC_PARTICIPANT_NOT_AVAILABLE

説明

Multi

キュー・マネージャーが調整する作業単位を開始するための MQBEGIN 呼び出しが発行されましたが、キュー・マネージャーに登録されている関与するリソース・マネージャーの中に、使用可能になっていないプログラムが 1 つ以上あります。その結果、キュー・マネージャーは、作業単位内でそれらのリソースに対する変更を調整することができません。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

アプリケーションが、非 MQ 資源が作業単位に介入することを要求しない場合、この理由コードは無視できる。そうでない場合は、システム・プログラマーに連絡して、必要な資源マネージャーが使用できない理由を判別する。資源マネージャーが一時停止されたか、キュー・マネージャーの構成ファイルにエラーが発生した可能性がある。

ALW 2123 (084B) (RC2123): MQRC_OUTCOME_MIXED

説明

キュー・マネージャーは、他のリソース・マネージャーを含む作業単位のための作業単位コーディネーターとして機能していますが、次のいずれかの状況が発生しました。

- 作業単位をコミットするための MQCMIT 呼び出しまたは MQDISC 呼び出しが発行されたが、関与するリソース・マネージャーの中に、作業単位をコミットする代わりにバックアウトしたものが 1 つ以上ある。その結果、作業単位の結果が混合している。
- 作業単位をバックアウトしようとして、MQBACK 呼び出しが発行されたが、1 つ以上の関連している資源マネージャーが、すでに作業単位にコミットしていた。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー・マネージャーのエラー・ログを見て、混合した結果に関するメッセージを調べる。これらのメッセージは、どの資源マネージャーが影響を受けているかを識別する。影響を受けた資源マネージャーにローカルな手順を使用して、回復を再同期する。

この理由コードが返されても、アプリケーションが後続の作業単位を開始する妨げになることはありません。

z/OS ALW 2124 (084C) (RC2124): MQRC_OUTCOME_PENDING

説明

z/OS ALW

キュー・マネージャーが、他のリソース・マネージャーを必要とする作業単位に対して作業単位のコーディネーターとして機能しているときに、その作業単位をコミットする MQCMIT 呼び出しまたは MQDISC 呼び出しが発行されましたが、作業単位に関与しているリソース・マネージャーの中に、作業単位の正常なコミットを確認していないプログラムが 1 つ以上あります。

コミット操作は今後のどこかの時点で完了しますが、出力が混合状態になる可能性は残ります。

z/OS z/OS では、この状態が発生する可能性があるのは、共用キュー上のメッセージに影響を与える作業単位がコミットまたはバックアウトされている時に、キュー・マネージャーがカップリング・ファシリティ構造体への接続を失った場合です。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

Windows **AIX** 標準のエラー報告メカニズムを使用して、出力が混合しているかどうかを判別してください。混合状態になっている場合は、リソースを再同期させるための該当する処置をとってください。

Windows **AIX** この理由コードが返されても、アプリケーションが後続の作業単位を開始する妨げになることはありません。

z/OS この理由コードが返されたのが、z/OSでのカップリング・ファシリティ構造体への接続が失われた結果である場合、この操作が完了するのは、影響を受けた構造体にそのキュー・マネージャーが再接続した場合か、または同じキュー共用グループに属する別のキュー・マネージャーがこの構造体で対等リカバリーを実行できた場合です。

2125 (084D) (RC2125): MQRC_BRIDGE_STARTED

説明

z/OS

IMSブリッジが開始しました。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [131 ページの『ブリッジ開始』](#)の識別にのみ使用されます。

2126 (084E) (RC2126): MQRC_BRIDGE_STOPPED

説明

z/OS

IMSブリッジが停止しました。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [132 ページの『ブリッジ停止』](#)の識別にのみ使用されます。

z/OS 2127 (084F) (RC2127): MQRC_ADAPTER_STORAGE_SHORTAGE

Explanation

On an MQCONN call, the adapter was unable to acquire storage.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Notify the system programmer. The system programmer should determine why the system is short on storage, and take appropriate action, for example, increase the region size on the step or job card.

2128 (0850) (RC2128): MQRC_UOW_IN_PROGRESS

説明

 Multi

キュー・マネージャーで調整される作業単位を開始しようとして、MQBEGIN 呼び出しが発行されたが、作業単位は、指定された接続ハンドル用にすでに存在している。これは、直前の MQBEGIN 呼び出しにより開始されたグローバル作業単位の場合もあり、キュー・マネージャーまたは調整を行っているリソース・マネージャーの 1 つにとってローカルの作業単位の場合もあります。1 つの接続ハンドルについて、同時に複数の作業単位が存在することはできません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーション論理を検討して、作業単位がすでに存在している理由を判別する。MQBEGIN 呼び出しをアプリケーション内の適切な場所に移動してください。

2129 (0851) (RC2129): MQRC_ADAPTER_CONN_LOAD_ERROR

Explanation

On an MQCONN call, the connection handling module could not be loaded, so the adapter could not link to it. The connection handling module name is:

- CSQBICON for batch applications
- CSQQCONN or CSQQCON2 for IMS applications

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Ensure that the correct library concatenation has been specified in the batch application program execution JCL, and in the queue manager startup JCL.

2130 (0852) (RC2130): MQRC_ADAPTER_SERV_LOAD_ERROR

Explanation

On an MQI call, the batch adapter could not load one of the following API service module, and so could not link to it:

- CSQBSRV
- CSQAPEPL
- CSQBCRMH
- CSQBAPPL

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Ensure that the correct library concatenation has been specified in the batch application program execution JCL, and in the queue manager startup JCL.

2131 (0853) (RC2131): MQRC_ADAPTER_DEFS_ERROR

Explanation

On an MQCONN call, the subsystem definition module (CSQBDEFV for batch and CSQQDEFV for IMS) does not contain the required control block identifier.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Check your library concatenation. If this is correct, check that the CSQBDEFV or CSQQDEFV module contains the required subsystem ID.

2132 (0854) (RC2132): MQRC_ADAPTER_DEFS_LOAD_ERROR

Explanation

On an MQCONN call, the subsystem definition module (CSQBDEFV for batch and CSQQDEFV for IMS) could not be loaded.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Ensure that the correct library concatenation has been specified in the application program execution JCL, and in the queue manager startup JCL.

2133 (0855) (RC2133): MQRC_ADAPTER_CONV_LOAD_ERROR

Explanation

On an MQGET call, the adapter (batch or IMS) could not load the data conversion services modules.
This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Ensure that the correct library concatenation has been specified in the batch application program execution JCL, and in the queue manager startup JCL.

Multi

2134 (0856) (RC2134): MQRC_BO_ERROR

説明

MQBEGIN 呼び出しで、開始オプション構造体 MQBO が無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQBO_STRUC_ID でない。
- Version フィールドが MQBO_VERSION_1 でない。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- 呼び出しが成功であっても、変更された構造体をキュー・マネージャーがアプリケーション・ストレージにコピーすることができない。例えば、ポインターが読み取り専用ストレージを指している場合にこれが発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQBO 構造体内の入力フィールドの設定が正しいかを調べる。

Multi

2135 (0857) (RC2135): MQRC_DH_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQDH 構造体が含まれている。エラーとして、次のことが考えられます。

- StrucId フィールドが MQDH_STRUC_ID でない。
- Version フィールドが MQDH_VERSION_1 でない。
- StrucLength フィールドに指定されている値が小さすぎて、この構造体と MQOR および MQPMR レコードの配列の両方を組み込めない。
- CodedCharSetId フィールドがゼロであるか、または無効な負の値です。
- 呼び出しの **BufferLength** パラメーターの値が小さすぎて、構造体を収容できない (構造体がメッセージの終わりを越えて拡張されている)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。アプリケーションが CodedCharSetId フィールドを有効な値に設定していることを確認してください (注: MQCCSI_DEFAULT、MQCCSI_EMBEDDED、MQCCSI_Q_MGR、および MQCCSI_UNDEFINED は、このフィールドには無効です)。

Multi 2136 (0858) (RC2136): MQRC_MULTIPLE_REASONS

説明

配布リストをオープンするため、または配布リストにメッセージを書き込むために MQOPEN、MQPUT、MQPUT1 のいずれかの呼び出しが発行されましたが、呼び出しの結果がリスト内のすべての宛先について同じではありませんでした。次のいずれかが当てはまります。

- 一部の宛先については呼び出しが成功したが、その他の宛先については失敗した。この場合、完了コードは MQCC_WARNING です。
- 呼び出しはすべての宛先で失敗したが、理由はさまざまである。この場合、完了コードは MQCC_FAILED です。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQRR 応答レコードを調べて、呼び出しが失敗した宛先、および失敗の理由を確認する。エラーが判別できるように、必ずアプリケーションが呼び出しに十分な応答レコードを提供できるようにする。MQPUT1 呼び出しの場合、応答レコードは、MQPMO 構造体ではなく、MQOD 構造体を使用して指定されなければならない。

Multi 2137 (0859) (RC2137): MQRC_OPEN_FAILED

説明

次のいずれかの理由により、キューまたは他の MQ オブジェクトを正常にオープンできなかった。

- MQCONN または MQCONNX 呼び出しが発行されたが、このキュー・マネージャーが内部で使用しているオブジェクトであるため、このキュー・マネージャーでオープンすることはできない。その結果、処理を継続することができません。エラー・ログには、開くことのできなかったオブジェクトの名前が書き込まれます。
- 配布リストにメッセージを書き込むために MQPUT 呼び出しが発行されたが、宛先が MQOPEN 呼び出しで正常にオープンされなかったために、メッセージは、この理由コードが設定する宛先に送信できなかった。この理由コードは、MQRR 応答レコードの Reason フィールドだけに戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

次のいずれかを行います。

- MQCONN または MQCONNX 呼び出しでエラーが発生した場合は、次のコマンドを実行して必要なオブジェクトが存在しているようにして、アプリケーションを再試行する。

```
STRMQM -c qmgr
```

ここで、qmgr はキュー・マネージャーの名前を表している。

- MQPUT 呼び出しでエラーが発生した場合は、MQOPEN 呼び出しに指定された MQRR 応答レコードを調べて、キューがオープンできなかった理由を判別する。エラーが判別できるように、必ずアプリケーションが呼び出しに十分な応答レコードを提供できるようにする。

z/OS

2138 (085A) (RC2138): MQRC_ADAPTER_DISC_LOAD_ERROR

Explanation

On an MQDISC call, the disconnect handling module (CSQBDSC for batch and CSQQDISC for IMS) could not be loaded, so the adapter could not link to it.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Ensure that the correct library concatenation has been specified in the application program execution JCL, and in the queue manager startup JCL. Any uncommitted changes in a unit of work should be backed out. A unit of work that is coordinated by the queue manager is backed out automatically.

Multi

2139 (085B) (RC2139): MQRC_CNO_ERROR

説明

MQCONNX 呼び出しで、接続オプション構造体 MQCNO が無効であり、その理由は次のいずれかです。

- *StrucId* フィールドが MQCNO_STRUC_ID でない。
- *Version* フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- 呼び出しが成功であっても、変更された構造体をキュー・マネージャーがアプリケーション・ストレージにコピーすることができない。例えば、パラメーター・ポインターが読み取り専用ストレージを指している場合に、このような状況が発生することがあります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCNO 構造体内の入力フィールドの設定が正しいかを調べる。

z/OS

2140 (085C) (RC2140): MQRC_CICS_WAIT_FAILED

Explanation

On any MQI call, the CICS adapter issued an EXEC CICS WAIT request, but the request was rejected by CICS.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Examine the CICS trace data for actual response codes. The most likely cause is that the task has been canceled by the operator or by the system.

2141 (085D) (RC2141): MQRC_DLH_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQDLH 構造体が含まれている。エラーとして、次のことが考えられます。

- StrucId フィールドが MQDLH_STRUC_ID でない。
- Version フィールドが MQDLH_VERSION_1 でない。
- CodedCharSetId フィールドがゼロであるか、または無効な負の値です。
- 呼び出しの **BufferLength** パラメーターの値が小さすぎて、構造体を収容できない (構造体がメッセージの終わりを越えて拡張されている)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。アプリケーションが CodedCharSetId フィールドを有効な値に設定していることを確認してください (注: MQCCSI_DEFAULT、MQCCSI_EMBEDDED、MQCCSI_Q_MGR、および MQCCSI_UNDEFINED は、このフィールドには無効です)。

2142 (085E) (RC2142): MQRC_HEADER_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQ ヘッダー構造体が含まれている。エラーとして、次のことが考えられます。

- StrucId フィールドが無効である。
- Version フィールドが無効である。
- StrucLength フィールドに指定されている値が小さすぎる。
- CodedCharSetId フィールドがゼロであるか、または無効な負の値です。
- 呼び出しの **BufferLength** パラメーターの値が小さすぎて、構造体を収容できない (構造体がメッセージの終わりを越えて拡張されている)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。アプリケーションが `CodedCharSetId` フィールドを有効な値に設定していることを確認してください (注: `MQCCSI_DEFAULT`、`MQCCSI_EMBEDDED`、`MQCCSI_Q_MGR`、および `MQCCSI_UNDEFINED` は、このフィールドには無効です)。

2143 (085F) (RC2143): MQRC_SOURCE_LENGTH_ERROR

説明

`MQXCNV` 呼び出しで、**SourceLength** パラメーターがゼロより小さいか、またはストリングの文字セットまたは内容と整合しない長さを指定しています (例えば、文字セットは 2 バイト文字セットですが、長さが 2 の倍数ではありません)。この理由コードは、**SourceLength** パラメーター・ポインターが無効な場合にも発生します。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

`MQGMO_CONVERT` オプションが指定されているときに、`MQGET` 呼び出しでこの理由コードが戻される場合があります。この場合これは、`MQRC_SOURCE_LENGTH_ERROR` 理由コードが、データ変換出口ルーチンにより発行された `MQXCNV` 呼び出しによって戻されたことを示します。

完了コード

`MQCC_WARNING` または `MQCC_FAILED`

プログラマー応答

ゼロ以上の長さを指定してください。理由コードが `MQGET` 呼び出しで発行された場合は、データ変換出口ルーチンの論理が正確であるかを調べてください。

2144 (0860) (RC2144): MQRC_TARGET_LENGTH_ERROR

説明

`MQXCNV` 呼び出しで、以下のいずれかの理由により、**TargetLength** パラメーターが無効です。

- **TargetLength** がゼロより小さいです。
- **TargetLength** パラメーター・ポインターが無効です。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- `MQDCC_FILL_TARGET_BUFFER` オプションが指定されていますが、**TargetLength** の値は、有効な文字でターゲット・バッファーを完全に埋めることができないようなものです。これは、**TargetCCSID** が純粋な DBCS 文字セット (UTF-16 など) ですが、**TargetLength** が奇数バイトの長さを指定している場合に発生することがあります。

`MQGMO_CONVERT` オプションが指定されているときに、`MQGET` 呼び出しでこの理由コードが戻される場合があります。この場合これは、`MQRC_TARGET_LENGTH_ERROR` 理由コードが、データ変換出口ルーチンにより発行された `MQXCNV` 呼び出しによって戻されたことを示します。

完了コード

`MQCC_WARNING` または `MQCC_FAILED`

プログラマー応答

ゼロ以上の長さを指定してください。 `MQDCC_FILL_TARGET_BUFFER` オプションが指定され、**TargetCCSID** が純粋な DBCS 文字セットである場合は、**TargetLength** に 2 の倍数の長さが指定されていることを確認してください。

理由コードが MQGET 呼び出しで発行された場合は、データ変換出口ルーチンの論理が正確であるかを調べてください。

2145 (0861) (RC2145): MQRC_SOURCE_BUFFER_ERROR

説明

MQXCNCV 呼び出しで、**SourceBuffer** パラメーター・ポインターが無効であるか、**SourceLength** で指定された長さ全体でアクセスできないストレージを指しています。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

MQGMO_CONVERT オプションが指定されているときに、MQGET 呼び出しでこの理由コードが戻される場合があります。この場合これは、MQRC_SOURCE_BUFFER_ERROR 理由コードが、データ変換出口ルーチンにより発行された MQXCNCV 呼び出しによって戻されたことを示します。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効なバッファを指定してください。理由コードが MQGET 呼び出しで発行された場合は、データ変換出口ルーチンの論理が正確であるかを調べてください。

2146 (0862) (RC2146): MQRC_TARGET_BUFFER_ERROR

説明

MQXCNCV 呼び出しで、**TargetBuffer** パラメーター・ポインターが無効であるか、読み取り専用ストレージを指しているか、または **TargetLength** で指定された長さ全体にわたってアクセスできないストレージを指しています。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

MQGMO_CONVERT オプションが指定されているときに、MQGET 呼び出しでこの理由コードが戻される場合があります。この場合これは、MQRC_TARGET_BUFFER_ERROR 理由コードが、データ変換出口ルーチンにより発行された MQXCNCV 呼び出しによって戻されたことを示します。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効なバッファを指定してください。理由コードが MQGET 呼び出しで発行された場合は、データ変換出口ルーチンの論理が正確であるかを調べてください。

Windows 2147 (0863) (RC2147): MQRC_INCOMPLETE_TRANSACTION

説明

DTC トランザクションにまだ参加している接続ハンドルを切断しようとしてしました。

これは、管理対象 IBM MQ .NET アプリケーションがトランザクションを完了する前に接続ハンドルを切断しようとしたときに発生する可能性があります。

このエラーは、非トランザクション MQI 呼び出しの場合には起こりません。

この理由コードは、Windows でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーション設計を調べて、キュー・マネージャー接続が切断される前に、キュー・マネージャー接続に関連付けられているトランザクションがコミットまたはロールバックされるようにしてください。

2148 (0864) (RC2148): MQRC_IIH_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQIIH 構造体が含まれている。エラーとして、次のことが考えられます。

- StrucId フィールドが MQIIH_STRUC_ID でない。
- Version フィールドが MQIIH_VERSION_1 でない。
- StrucLength フィールドが MQIIH_LENGTH_1 でない。
- 呼び出しの **BufferLength** パラメーターの値が小さすぎて、構造体を収容できない (構造体がメッセージの終わりを越えて拡張されている)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

2149 (0865) (RC2149): MQRC_PCF_ERROR

説明

PCF データが組み込まれたメッセージを書き込むために、MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されたが、メッセージの長さがメッセージの中にある PCF 構造体の長さの合計と一致しない。これは、次の形式名を持つメッセージについて起こることがある。

- MQFMT_ADMIN
- MQFMT_EVENT
- MQFMT_PCF

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQPUT または MQPUT1 呼び出しに指定されたメッセージの長さが、必ずメッセージ・データ内にある PCF 構造体の長さの合計に等しくなるようにする。

2150 (0866) (RC2150): MQRC_DBCS_ERROR

説明

2 バイト文字セット (DBCS) または可変幅エンコード文字セットのストリングに変換しようとしてエラーが発生しました。これは次の場合に発生します。

- MQXCNVV 呼び出しで、**SourceCCSID** パラメーターに 2 バイト文字セットまたは可変長エンコード文字セットのコード化文字セット ID が指定されていますが、**SourceBuffer** パラメーターに有効なストリングが含まれていません。理由としては、そのストリングに無効な文字が含まれているか、あるいは、そのストリングが SBCS/DBCS の混合ストリングであって、シフトアウト/シフトインの文字が正しく対になっていない可能性があります。この場合、完了コードは MQCC_FAILED です。
- MQGET 呼び出しで、MQGMO_CONVERT オプションが指定されている場合。この場合、これは、MQRC_DBCS_ERROR 理由コードが、データ変換出口ルーチンにより発行された MQXCNVV 呼び出しによって戻されたことを示します。この場合、完了コードは MQCC_WARNING です。
-  z/OS デッド・レター・ハンドラー・ユーティリティー CSQUDLQH では、処理される規則がデフォルトの CONVERT (YES) を使用する場合があります。データを変換する必要がない場合は、CONVERT(NO) を使用するように規則を変更してください。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効なストリングを指定してください。

理由コードが MQGET 呼び出しで発行された場合は、メッセージ内のデータが有効であり、データ変換出口ルーチンの論理が正確であることを調べてください。

 Multi

2152 (0868) (RC2152): MQRC_OBJECT_NAME_ERROR

説明

配布リストをオープンするために MQOPEN または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが (つまり、MQOD の RecsPresent フィールドがゼロより大きい)、ObjectName フィールドがブランクでもヌル・ストリングでもありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

配布リストをオープンするには、ObjectName フィールドをブランクまたはヌル・ストリングに設定します。配布リストをオープンすることが目的でない場合は、RecsPresent フィールドをゼロに設定してください。

 Multi

2153 (0869) (RC2153): MQRC_OBJECT_Q_MGR_NAME_ERROR

説明

配布リストをオープンするために MQOPEN または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが (つまり、MQOD の RecsPresent フィールドがゼロより大きい)、ObjectQMgrName フィールドがブランクでもヌル・ストリングでもありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

配布リストをオープンするには、ObjectQMgrName フィールドを空白またはヌル・ストリングに設定します。配布リストをオープンすることが目的でない場合は、RecsPresent フィールドをゼロに設定してください。

Multi 2154 (086A) (RC2154): MQRC_RECS_PRESENT_ERROR

説明

MQOPEN または MQPUT1 呼び出しが発行されたが、次のいずれかの理由によって呼び出しが失敗した。

- MQOD 内の RecsPresent がゼロより小さい。
- MQOD 内の ObjectType が MQOT_Q でなく、RecsPresent がゼロでない。オープン対象のオブジェクトがキューでない場合は、RecsPresent はゼロでなければなりません。
- IBM MQ マルチキャストが使用されていて、MQOD 内の RecsPresent がゼロに設定されていない。IBM MQ マルチキャストは、配布リストを使用しません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

配布リストをオープンすることが目的の場合は、ObjectType フィールドを MQOT_Q に設定し、RecsPresent をリスト内の宛先の数に設定してください。配布リストをオープンすることが目的でない場合は、RecsPresent フィールドをゼロに設定してください。

Multi 2155 (086B) (RC2155): MQRC_OBJECT_RECORDS_ERROR

説明

配布リストをオープンするために、MQOPEN または MQPUT1 呼び出しが発行された (すなわち、MQOD の RecsPresent フィールドはゼロより大きい) が、MQOR オブジェクト・レコードが正しく指定されていない。次のいずれかが当てはまります。

- ObjectRecOffset がゼロであり、ObjectRecPtr もゼロかヌル・ポインターである。
- ObjectRecOffset がゼロでなく、ObjectRecPtr がゼロでもヌル・ポインターでもない。
- ObjectRecPtr が無効なポインターである。
- ObjectRecPtr または ObjectRecOffset が、アクセス不可能なストレージを指している。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ObjectRecOffset と ObjectRecPtr の一方がゼロで、もう一方がゼロ以外であることを確認してください。使用しているフィールドがアクセス可能なストレージを指していることを確認します。

2156 (086C) (RC2156): MQRC_RESPONSE_RECORDS_ERROR**説明**

配布リストをオープンするために、MQOPEN または MQPUT1 呼び出しが発行された (すなわち、MQOD の RecsPresent フィールドはゼロより大きい) が、MQRR 応答レコードが正しく指定されていない。次のいずれかが当てはまります。

- ResponseRecOffset がゼロではなく、ResponseRecPtr がゼロでもヌル・ポインターでもない。
- ResponseRecPtr が無効なポインターである。
- ResponseRecPtr または ResponseRecOffset が、アクセス不可能なストレージを指している。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ResponseRecOffset と ResponseRecPtr の少なくとも 1 つがゼロであることを確認してください。使用しているフィールドがアクセス可能なストレージを指していることを確認します。

2157 (086D) (RC2157): MQRC_ASID_MISMATCH**Explanation**

On any MQI call, the caller's primary ASID was found to be different from the home ASID.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Correct the application (MQI calls cannot be issued in cross-memory mode). Any uncommitted changes in a unit of work should be backed out. A unit of work that is coordinated by the queue manager is backed out automatically.

2158 (086E) (RC2158): MQRC_PMO_RECORD_FLAGS_ERROR**説明**

メッセージを書き込もうとして、MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されたが、MQPMO 構造体の PutMsgRecFields フィールドが、次のいずれかの理由で無効である。

- フィールドに無効なフラグが含まれている。
- メッセージは配布リストに書き込まれており、書き込みメッセージ・レコードが提供されています (つまり、RecsPresent がゼロより大きく、PutMsgRecOffset または PutMsgRecPtr のいずれかがゼロ以外) が、PutMsgRecFields の値は MQPMRF_NONE です。
- MQPMRF_ACCOUNTING_TOKEN が、MQPMO_SET_IDENTITY_CONTEXT または MQPMO_SET_ALL_CONTEXT なしで指定されている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

必ず適切な MQPMRF_* フラグで *PutMsgRecFields* が設定され、書き込みメッセージ・レコードに、どのフィールドがあるのかを示すようにする。MQPMRF_ACCOUNTING_TOKEN が指定されている場合、必ず MQPMO_SET_IDENTITY_CONTEXT または MQPMO_SET_ALL_CONTEXT のいずれかを指定するようにする。別の手段としては *PutMsgRecOffset* と *PutMsgRecPtr* の両方をゼロに設定します。

Multi

2159 (086F) (RC2159): MQRC_PUT_MSG_RECORDS_ERROR

説明

配布リストにメッセージを書き込むために、MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されたが、MQPMR 書き込みメッセージ・レコードが正しく指定されていない。次のいずれかが当てはまります。

- *PutMsgRecOffset* がゼロではなく、*PutMsgRecPtr* がゼロでもヌル・ポインターでもない。
- *PutMsgRecPtr* が無効なポインターである。
- *PutMsgRecPtr* または *PutMsgRecOffset* が、アクセス不可能なストレージを指している。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

PutMsgRecOffset と *PutMsgRecPtr* の少なくとも 1 つがゼロであることを確認してください。使用しているフィールドがアクセス可能なストレージを指していることを確認します。

z/OS

2160 (0870) (RC2160): MQRC_CONN_ID_IN_USE

Explanation

On an MQCONN call, the connection identifier assigned by the queue manager to the connection between a CICS or IMS allied address space and the queue manager conflicts with the connection identifier of another connected CICS or IMS system. The connection identifier assigned is as follows:

- For CICS, the applid
- For IMS, the IMSID parameter on the IMSCTRL (sysgen) macro, or the IMSID parameter on the execution parameter (EXEC card in IMS control region JCL)
- For batch, the job name
- For TSO, the user ID

A conflict arises only if there are two CICS systems, two IMS systems, or one each of CICS and IMS, having the same connection identifiers. Batch and TSO connections need not have unique identifiers.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Ensure that the naming conventions used in different systems that might connect to the queue manager do not conflict.

2161 (0871) (RC2161): MQRC_Q_MGR QUIESCING

説明

MQI 呼び出しが発行されたが、キュー・マネージャーが静止している (シャットダウンの準備をしている) ために呼び出しが失敗した。

キュー・マネージャーが静止していても、MQOPEN、MQPUT、MQPUT1、および MQGET 呼び出しをそのまま正常に完了させることは可能である。しかし、呼び出しに適切なオプションを指定することによって、アプリケーションの側からその呼び出しの失敗が要求される場合もある。例えば、それぞれの呼び出しに対して以下のようなオプションが指定される。

- MQOPEN における MQOO_FAIL_IF QUIESCING
- MQPUT または MQPUT1 における MQPMO_FAIL_IF QUIESCING
- MQGET における MQGMO_FAIL_IF QUIESCING

これらのオプションを指定すれば、キュー・マネージャーがシャットダウンの準備をしていることにアプリケーションが気付くようにすることができます。

-  On z/OS:
 - バッチ・アプリケーションの場合、キュー・マネージャーがインストールされていない LPAR で実行されているアプリケーションにこの理由が返されることがあります。
 - CICS アプリケーションの場合、この理由コードは、接続が確立されていないときに戻されることがあります。
-  IBM i 上で、互換モードで実行しているアプリケーションの場合、この理由コードは、接続が確立されていないときに戻されることがあります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションを正常終了できる状態にして停止します。アプリケーションが失敗した呼び出しにおいて MQOO_FAIL_IF QUIESCING、MQPMO_FAIL_IF QUIESCING、または MQGMO_FAIL_IF QUIESCING オプションを指定していた場合、関係のあるオプションは除去して、呼び出しを再発行することができます。これらのオプションを省略することにより、アプリケーションは作業を続行して現在の作業単位を完了しコミットできますが、新しい作業単位は開始しません。

2162 (0872) (RC2162): MQRC_Q_MGR STOPPING

説明

MQI 呼び出しが発行されましたが、キュー・マネージャーがシャットダウン中のため、この呼び出しは失敗しました。その呼び出しが MQGMO_WAIT オプション付きの MQGET 呼び出しであった場合、待機は取り消されます。これ以上 MQI 呼び出しを発行できません。

MQ MQI クライアント・アプリケーションの場合は、この理由コードが MQCC_FAILED の *CompCode* で戻されても、呼び出しが正常に完了した可能性があります。

-  z/OS では、呼び出しが完了する前にキュー・マネージャーが終了した場合はシステム・スケジューリング要因の結果として、代わりに MQRC_CONNECTION_BROKEN が戻る場合があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションを正常終了できる状態にして停止します。アプリケーションが、外部作業単位コーディネーターにより調整された作業単位の途中である場合には、アプリケーションが適切な呼び出しを発行して、作業単位をバックアウトする必要があります。キュー・マネージャーによって調整された作業単位はすべて自動的にバックアウトされます。

z/OS 2163 (0873) (RC2163): MQRC_DUPLICATE_RECOV_COORD

Explanation

On an MQCONN or MQCONNX call, a recovery coordinator already exists for the connection name specified on the connection call issued by the adapter.

A conflict arises only if there are two CICS systems, two IMS systems, or one each of CICS and IMS, having the same connection identifiers. Batch and TSO connections need not have unique identifiers.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Ensure that the naming conventions used in different systems that might connect to the queue manager do not conflict.

2173 (087D) (RC2173): MQRC_PMO_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しにおいて、MQPMO 構造体が無効です。理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQPMO_STRUC_ID ではありません。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- 呼び出しが成功であっても、変更された構造体をキュー・マネージャーがアプリケーション・ストレージにコピーすることができない。例えば、ポインターが読み取り専用ストレージを指している場合にこれが発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQPMO 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2182 (0886) (RC2182): MQRC_API_EXIT_NOT_FOUND

説明

API 交差出口エントリー・ポイントが見つかりませんでした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

エントリー・ポイント名がライブラリー・モジュールに対して有効であることを確認してください。

2183 (0887) (RC2183): MQRC_API_EXIT_LOAD_ERROR

説明

API 交差出口モジュールにリンクできませんでした。プロセスが実行された後で API 交差出口が呼び出されたときにこのメッセージが戻された場合、プロセス自体は正しく完了した可能性があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

正しいライブラリー連結が指定されていること、および API 交差出口モジュールが実行可能であり、正しく命名されていることを確認します。作業単位の中でコミットされていない変更はバックアウトされる必要があります。キュー・マネージャーが調整した作業単位は自動的にバックアウトされます。

2184 (0888) (RC2184): MQRC_REMOTE_Q_NAME_ERROR

説明

MQOPEN または MQPUT1 呼び出しで、次のいずれかが発生しました。

- リモート・キュー (またはその別名) のローカル定義が指定されましたが、リモート・キュー定義の **RemoteQName** 属性が完全に空白です。このエラーは、定義内の **XmitQName** が空白でない場合でも発生することに注意してください。
- オブジェクト記述子の **ObjectQMgrName** フィールドは空白ではなく、ローカル・キュー・マネージャーの名前ではありませんが、**ObjectName** フィールドは空白です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

リモート・キューのローカル定義を変更して有効なリモート・キュー名を指定するか、オブジェクト記述子に非空白の **ObjectName** を適宜指定してください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [218 ページの『リモート・キュー名エラー』](#)の識別にも使用されます。

2185 (0889) (RC2185): MQRC_INCONSISTENT_PERSISTENCE

説明

グループ内または論理メッセージのセグメント内のメッセージを書き込むために MQPUT 呼び出しが発行されましたが、MQMD の Persistence フィールドの指定値またはデフォルト値が、キュー・ハンドル用にキュー・マネージャーが保存していた現行グループまたはセグメントの情報と矛盾しています。パーシスタンスの値は、グループ内のすべてのメッセージと論理メッセージ内のすべてのセグメントで統一されていなければなりません。つまり、これらのすべてを持続的にするか、そうでなければすべてを非持続的にしなければなりません。

現行の呼び出しが MQPMO_LOGICAL_ORDER を指定すると、呼び出しは失敗する。現行の呼び出しは MQPMO_LOGICAL_ORDER を指定しないが、キュー・ハンドルの直前の MQPUT 呼び出しを指定していると、呼び出しは完了コード MQCC_WARNING で成功する。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

グループ内のすべてのメッセージまたは論理メッセージのすべてのセグメントに同じパーシスタンスの値を使用するようにアプリケーションを変更してください。

2186 (088A) (RC2186): MQRC_GMO_ERROR

説明

MQGET 呼び出しで、MQGMO 構造体が無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQGMO_STRUC_ID でない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- 呼び出しが成功であっても、変更された構造体をキュー・マネージャーがアプリケーション・ストレージにコピーすることができない。例えば、ポインターが読み取り専用ストレージを指している場合にこれが発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQGMO 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2187 (088B) (RC2187): MQRC_CICS_BRIDGE_RESTRICTION

Explanation

It is not permitted to issue MQI calls from user transactions that are run in an MQ/CICS bridge environment where the bridge exit also issues MQI calls. The MQI call fails. If it occurs in the bridge exit, it results in a transaction abend. If it occurs in the user transaction, it can result in a transaction abend.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

The transaction cannot be run using the MQ/CICS bridge. Refer to the appropriate CICS manual for information about restrictions in the MQ/CICS bridge environment.

2188 (088C) (RC2188): MQRC_STOPPED_BY_CLUSTER_EXIT

説明

メッセージをオープンするため、またはクラスター・キューにメッセージを書き込むために MQOPEN、MQPUT、あるいは MQPUT1 呼び出しが発行されたが、クラスター・ワークロード出口は、その呼び出しを拒否した。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

クラスター・ワークロード出口が正しく記述されているかを確認します。呼び出しが拒否された理由を調べて、問題を解決してください。

2189 (088D) (RC2189): MQRC_CLUSTER_RESOLUTION_ERROR

説明

メッセージをオープンするため、またはクラスター・キューにメッセージを書き込むために MQOPEN、MQPUT、あるいは MQPUT1 呼び出しが発行されたが、応答がリポジトリ・マネージャーから要求されたときに応答は得られなかったので、キュー定義を正しく解決できなかった。

この理由コードは、REFRESH CLUSTER コマンドの実行時に発生する可能性があります。REFRESH CLUSTER の実行時に見られるアプリケーションの問題を参照してください。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

リポジトリ・マネージャーが実行されており、キュー定義とチャネル定義が正確であることを確認します。

関連資料

クラスター内でキューをオープンしようとしたときの戻りコード= 2189
MQRC_CLUSTER_RESOLUTION_ERROR

2190 (088E) (RC2190): MQRC_CONVERTED_STRING_TOO_BIG

説明

GetMsgOpts パラメーターに MQGMO_CONVERT オプションが指定されている MQGET 呼び出しにおいて、メッセージ内の固定長フィールドのストリングがデータ変換時に拡張し、フィールド・サイズを超えました。この場合、キュー・マネージャーは、末尾のブランク空白文字および最初のヌル文字に続く文字を廃棄して、ストリングをフィールド長に合わせます。しかし、この場合は廃棄するだけの文字がありませんでした。

この理由コードは、フォーマット名が MQFMT_IMS_VAR_STRING のメッセージの場合も発生することがあります。この場合は、IMS 可変ストリングが拡張し、その長さが IMS 可変ストリングの構造体内に含まれる 2 バイトのバイナリー長フィールドの容量を超えてしまいました (キュー・マネージャーは、IMS 変数ストリングの末尾ブランクは決して破棄しない。)

MQGET 呼び出しの **CompCode** パラメーターが MQCC_WARNING に設定されていると、メッセージは変換されずに戻されます。メッセージはいくつかの部分から構成されており、各部分が独自の文字セットとエンコード・フィールドで記述されている場合 (例えば、フォーマット名が MQFMT_DEAD_LETTER_HEADER のメッセージ)、変換される部分と変換されない部分が発生するという可能性があります。ただし、このようなメッセージの戻り値は、関連のメッセージ・データを常に正確に表しています。

この理由コードは、末尾ブランク文字を廃棄することでストリングをフィールドに合わせられる場合は発生しません。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

メッセージ内のフィールドに正しい値が含まれていること、およびメッセージの送信側と受信側が指定した文字セット ID が正しいことを確認します。これらがすべて正しい場合は、メッセージのデータ・レイアウトを変更して、変換時にストリングが拡張しても十分なスペースがあるようにフィールド長を増やす必要があります。

Multi

2191 (088F) (RC2191): MQRC_TMC_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQTMC2 構造体が含まれている。エラーとして、次のことが考えられます。

- StrucId フィールドが MQTMC_STRUC_ID でない。
- Version フィールドが MQTMC_VERSION_2 ではない。
- 呼び出しの **BufferLength** パラメーターの値が小さすぎて、構造体を収容できない (構造体がメッセージの終わりを越えて拡張されている)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

2192 (0890) (RC2192): MQRC_PAGESET_FULL

説明

MQRC_STORAGE_MEDIUM_FULL の以前の名前です。

z/OS

2192 (0890) (RC2192): MQRC_STORAGE_MEDIUM_FULL

Explanation

An MQI call or command was issued to operate on an object, but the call failed because the external storage medium is full. One of the following applies:

- A page-set data set is full (nonshared queues only).
- A coupling-facility structure is full (shared queues only).

A structure is full if either all ENTRIES or all ELEMENTs are in use.

- A coupling-facility is full. This situation can arise when the coupling facility structure is configured to use SCM storage (SCMMAXSIZE configured in CFRM policy) and messages are offloaded to SCM storage because the coupling facility structure has reached 90% threshold. Additional SCM use requires further augmented storage for the structure and there is insufficient storage in the coupling-facility to support this.
- The SMDS was full.

You can get this reason code when the page set or SMDS were expanding, but the space was not yet available. Check the messages in the job log to see the status of any expansion.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Check which queues contain messages and look for applications that might be filling the queues unintentionally. Be aware that the queue that has caused the page set or coupling-facility structure to become full is not necessarily the queue referenced by the MQI call that returned MQRC_STORAGE_MEDIUM_FULL.

Check that all of the usual server applications are operating correctly and processing the messages on the queues.

If the applications and servers are operating correctly, increase the number of server applications to cope with the message load, or request the system programmer to increase the size of the page-set data sets, coupling-facility structure, or SMDS.

For the situation of a full structure, issue the z/OS command /DISPLAY XCF,STRUCTURE,STRNAME=**structure-name**, to see information about INITSIZE, MAXSIZE, MINSIZE and ALLOWAUTOALT settings. The command also shows current space usage, so the number of elements and entries can be seen.

[SupportPac MP16](#) contains information about these settings, and you can use the MQ CFSIZER tool to help estimate the structure size needed.- see the IBM Support Page topic [MQSeries](#).

2193 (0891) (RC2193): MQRC_PAGESET_ERROR

Explanation

An error was encountered with the page set while attempting to access it for a locally defined queue. This could be because the queue is on a page set that does not exist. A console message is issued that tells you the number of the page set in error. For example if the error occurred in the TEST job, and your user identifier is ABCDEFG, the message is:

```
CSQI041I CSQIALLC JOB TEST USER ABCDEFG HAD ERROR ACCESSING PAGE SET 27
```

If this reason code occurs while attempting to delete a dynamic queue with MQCLOSE, the dynamic queue has not been deleted.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Check that the storage class for the queue maps to a valid page set using the DISPLAY Q(xx) STGCLASS, DISPLAY STGCLASS(xx), and DISPLAY USAGE PSID commands. If you are unable to resolve the problem, notify the system programmer who should:

- Collect the following diagnostic information:
 - A description of the actions that led to the error
 - A listing of the application program being run at the time of the error
 - Details of the page sets defined for use by the queue manager
- Attempt to re-create the problem, and take a system dump immediately after the error occurs
- Contact your IBM Support Center

2194 (0892) (RC2194): MQRC_NAME_NOT_VALID_FOR_TYPE

説明

キュー・マネージャー定義をオープンするために MQOPEN 呼び出しが発行されましたが、**ObjDesc** パラメーターの **ObjectName** フィールドがブランクではありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ObjectName フィールドがブランクに設定されていることを確認してください。

2195 (0893) (RC2195): MQRC_UNEXPECTED_ERROR

説明

予期しないエラーが起こったために、呼び出しが拒否された。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションのパラメーター・リストを調べ、例えば、正しい数のパラメーターが渡されたか、データ・ポインターとストレージ・キーが有効かを確認する。問題を解決できない場合には、システム・プログラマーに連絡する。

-  z/OS では、ジョブ・ログと logrec を確認ディスプレイし、何らかの情報がコンソールに表示されているかどうかを調べる。このエラーが MQCONN 呼び出しや MQCONNX 呼び出しで発生した場合は、指定されたサブシステムが活動状態の MQ サブシステムであるかを調べる。特に、それが Db2 サブシステムではないようにする。問題が解決されない場合は、CSQSNAP DD カードを使用してアプリケーションを再実行し (まだダンプを取得していない場合)、結果として生じたダンプを IBM に送る。

- **IBM i** IBM i では、FFST の記録を調べて問題の詳細情報を得る。
- **Linux** **AIX** AIX and Linux では、FDC ファイルを参照して、問題の詳細を確認してください。

2196 (0894) (RC2196): MQRC_UNKNOWN_XMIT_Q

説明

MQOPEN または MQPUT1 呼び出しでは、メッセージはリモート・キュー・マネージャーに送られます。オブジェクト記述子の **ObjectName** または **ObjectQMgrName** は、リモート・キューのローカル定義の名前を指定していますが (後者の場合、キュー・マネージャーの別名が使用されています)、定義の **XmitQName** 属性はブランクではなく、ローカル定義のキューの名前でもありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ObjectName および ObjectQMgrName に指定された値を調べてください。それらの値が正しい場合は、キュー定義を調べてください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [233 ページの『不明伝送キュー』](#) の識別にも使用されます。

2197 (0895) (RC2197): MQRC_UNKNOWN_DEF_XMIT_Q

説明

リモート・キューを宛先に指定して、MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されました。リモート・キューのローカル定義を指定したとき、またはキュー・マネージャーの別名が解決されようとしているときに、ローカル定義の **XmitQName** 属性はブランクです。

宛先のキュー・マネージャーと同じ名前でも定義されているキューは存在しないので、キュー・マネージャーはデフォルトの伝送キューを使用しようとしていました。ただし、**DefXmitQName** キュー・マネージャー属性で指定された名前は、ローカル定義されたキューの名前ではありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー定義またはキュー・マネージャー属性を訂正します。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [226 ページの『不明デフォルト伝送キュー』](#) の識別にも使用されます。

2198 (0896) (RC2198): MQRC_DEF_XMIT_Q_TYPE_ERROR

説明

リモート・キューを宛先に指定して、MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されました。リモート・キューのローカル定義が指定されたか、キュー・マネージャーの別名が解決される予定でしたが、いずれの場合でもローカル定義内の **XmitQName** 属性がブランクです。

宛先のキュー・マネージャーと同じ名前で定義されている伝送キューは存在しないので、ローカル・キュー・マネージャーはデフォルトの伝送キューを使用しようとしていました。ただし、**DefXmitQName** キュー・マネージャー属性で定義されたキューが存在しますが、ローカル・キューが存在しません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

次のいずれかを行います。

- リモート・キューのローカル定義内の **XmitQName** 属性値にローカル伝送キューを指定する。
- ローカル伝送キューを、リモート・キュー・マネージャーと同じ名前で定義する。
- **DefXmitQName** キュー・マネージャー属性の値にローカル伝送キューを指定する。

伝送キュー名の詳細については、**XmitQName** を参照してください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [173](#) ページの『デフォルト伝送キュー・タイプ・エラー』の識別にも使用されます。

2199 (0897) (RC2199): MQRC_DEF_XMIT_Q_USAGE_ERROR

説明

リモート・キューを宛先に指定して、MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されました。リモート・キューのローカル定義が指定されたか、キュー・マネージャーの別名が解決される予定でしたが、いずれの場合でもローカル定義内の **XmitQName** 属性がブランクです。

宛先のキュー・マネージャーと同じ名前で定義されている伝送キューは存在しないので、ローカル・キュー・マネージャーはデフォルトの伝送キューを使用しようとしていました。ただし、**DefXmitQName** キュー・マネージャー属性で定義されたキューには、MQUS_TRANSMISSION の **Usage** 属性はありません。

この理由コードは、キュー・マネージャーのデフォルトの伝送キューを使用しようとしている場合に MQOPEN または MQPUT1 から返されます。ただし、このキューの名前は SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.QUEUE です。このキューは、クラスター化用に予約されるため、キュー・マネージャーのデフォルトの伝送キューをこの名前に設定することは無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

次のいずれかを行います。

- リモート・キューのローカル定義内の **XmitQName** 属性値にローカル伝送キューを指定する。
- ローカル伝送キューを、リモート・キュー・マネージャーと同じ名前で定義する。
- **DefXmitQName** キュー・マネージャー属性の値に、異なるローカル伝送キューを指定する。
- **DefXmitQName** キューの **Usage** 属性を MQUS_TRANSMISSION に変更する。

伝送キュー名の詳細については、**XmitQName** を参照してください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [175](#) ページの『デフォルト伝送キュー使用エラー』の識別にも使用されます。

2201 (0899) (RC2201): MQRC_NAME_IN_USE

Explanation

An MQOPEN call was issued to create a dynamic queue, but a queue with the same name as the dynamic queue already exists. The existing queue is one that is logically deleted, but for which there are still one or more open handles. For more information, see Usage note 3 in MQCLOSE.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Either ensure that all handles for the previous dynamic queue are closed, or ensure that the name of the new queue is unique; see the description for reason code MQRC_OBJECT_ALREADY_EXISTS.

2202 (089A) (RC2202): MQRC_CONNECTION_QUIESCING

説明

キュー・マネージャーへの接続が休止状態であり、アプリケーションが次の呼び出しのいずれかを発行した場合、この理由コードが発行されます。

- MQCONN または MQCONNX
- 接続が確立されていないか、**Options** パラメーターに MQOO_FAIL_IF_QUIESCING が指定された MQOPEN
- MQGET (**GetMsgOpts** パラメーターの Options フィールドに MQGMO_FAIL_IF_QUIESCING を指定)
- MQPUT または MQPUT1 (**PutMsgOpts** パラメーターの Options フィールドに MQPMO_FAIL_IF_QUIESCING を指定)

キュー・マネージャーが静止状態だと、メッセージ・チャンネル・エージェント (MCA) によって MQRC_CONNECTION_QUIESCING も発行されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションを正常終了できる状態にして停止します。作業単位の中でコミットされていない変更はバックアウトされる必要があります。

2203 (089B) (RC2203): MQRC_CONNECTION_STOPPING

説明

キュー・マネージャーへの接続が切断され、アプリケーションが MQI 呼び出しを発行する場合、この理由コードが発行されます。これ以上メッセージ・キューイングの呼び出しを発行できません。MQGET 呼び出しの場合、MQGMO_WAIT オプションが指定されているならば、待機が取り消されます。

呼び出しが完了する前にキュー・マネージャーを終了した場合はシステム・スケジューリング要因の結果として、代わりに MQRC_CONNECTION_BROKEN が戻る場合があります。

キュー・マネージャーが終了される場合、メッセージ・チャンネル・エージェント (MCA) によって MQRC_CONNECTION_STOPPING も発行されます。

MQ MQI クライアント・アプリケーションの場合は、この理由コードが MQCC_FAILED の CompCode で戻されても、呼び出しが正常に完了した可能性があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションを正常終了できる状態にして停止します。作業単位の中でコミットされていない変更はバックアウトされる必要があります。キュー・マネージャーが調整した作業単位は自動的にバックアウトされます。

2204 (089C) (RC2204): MQRC_ADAPTER_NOT_AVAILABLE

Explanation

This is issued only for CICS applications, if any call is issued and the CICS adapter (a Task Related User Exit) has been disabled, or has not been enabled.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

The application should tidy up and terminate. Any uncommitted changes in a unit of work should be backed out. A unit of work that is coordinated by the queue manager is backed out automatically.

2206 (089E) (RC2206): MQRC_MSG_ID_ERROR

説明

選択基準としてメッセージ ID を使用してメッセージを検索する MQGET 呼び出しが発行されましたが、このキューではメッセージ ID による選択がサポートされないため、呼び出しが失敗しました。

 z/OS 上では、キューは共用キューですが、**IndexType** キュー属性に適切な値が指定されていません。

- 選択がメッセージ ID だけによって実行される場合は、**IndexType** に値 MQIT_MSG_ID が指定されている必要があります。
- 選択がメッセージ ID および相関 ID の組み合わせによって実行される場合は、**IndexType** に値 MQIT_MSG_ID または MQIT_CORREL_ID が指定されている必要があります。ただし、この規則の例外は、任意の値と突き合わせる値 MQCI_NONE および MQMI_NONE です。この値を使用すると、2206 MQRC_MSG_ID_ERROR 理由コードが出されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

次のいずれかを行います。

- メッセージ ID による選択を実行しないようにアプリケーションを変更します。すなわち、*MsgId* フィールドを MQMI_NONE に設定し、MQGMO で MQMO_MATCH_MSG_ID を指定しません。
- z/OS 上では、**IndexType** キュー属性の値を MQIT_MSG_ID に変更します。

2207 (089F) (RC2207): MQRC_CORREL_ID_ERROR

説明

選択基準として相関 ID を使用してメッセージを検索する MQGET 呼び出しが発行されましたが、このキューでは相関 ID による選択がサポートされないため、呼び出しが失敗しました。

z/OS z/OS 上では、キューは共用キューですが、**IndexType** キュー属性に適切な値が指定されていません。

- 選択が相関 ID だけによって実行される場合は、**IndexType** に値 MQIT_CORREL_ID が指定されている必要があります。
- 選択が相関 ID およびメッセージ ID の組み合わせによって実行される場合は、**IndexType** に値 MQIT_CORREL_ID または MQIT_MSG_ID が指定されている必要があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

次のいずれかを行います。

- z/OS 上では、**IndexType** キュー属性を MQIT_CORREL_ID に変更します。
- 相関 ID による選択を実行しないようにアプリケーションを変更します。すなわち、*CorrelId* フィールドを MQCI_NONE に設定し、MQGMO で MQMO_MATCH_CORREL_ID を指定しません。

2208 (08A0) (RC2208): MQRC_FILE_SYSTEM_ERROR

説明

キューを操作しようとしたとき、ファイル・システムから予期しない戻りコードを受け取りました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アクセスしたキューについてのファイル・システム定義をチェックします。VSAM ファイルの場合、そのキューの最大メッセージ長に対して制御インターバルが十分かどうかをチェックします。

2209 (08A1) (RC2209): MQRC_NO_MSG_LOCKED

説明

MQGMO_UNLOCK オプション付きで MQGET 呼び出しが発行されましたが、現在ロックされているメッセージはありませんでした。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

前の MQGMO_LOCK オプション付きの MQGET 呼び出しによって同じハンドルに対してメッセージがロックされたか、介入割り込み呼び出しによってメッセージがアンロックされていないかを確認します。

2217 (08A9) (RC2217): MQRC_CONNECTION_NOT_AUTHORIZED

Explanation

This reason code occurs only on z/OS.

If the queue manager has been configured to use Advanced Message Security this reason code is returned if an error occurs in security processing.

This reason code might indicate a privacy security policy has been defined for the target queue that does not identify any recipients.

This reason code is also returned to CICS applications if the CICS subsystem is not authorized to connect to the queue manager.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Ensure that the subsystem is authorized to connect to the queue manager.

If you are using Advanced Message Security, check the queue manager and AMS task error logs. You should also check the job log of the connecting task for error messages.

2218 (08AA) (RC2218): MQRC_MSG_TOO_BIG_FOR_CHANNEL

説明

メッセージがリモート・キューに書き込みましたが、メッセージの長さがチャンネルで許可されている最大メッセージ長を超えています。この理由コードは、レポート・メッセージのメッセージ記述子内の Feedback フィールドに戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

チャンネル定義を調べてください。チャンネルが受け入れられる最大メッセージ長を増やすか、メッセージをいくつかの小さいメッセージに分割します。

2219 (08AB) (RC2219): MQRC_CALL_IN_PROGRESS

説明

その接続ですでに別の MQI 呼び出しを処理中に、アプリケーションが MQI 呼び出しを発行した。呼び出しは、アプリケーション接続ごとに一度に 1 つのみ処理できます。

並行呼び出しは、アプリケーションが複数のスレッドを使用しているときか、または MQI 呼び出しの処理の一部として出口が呼び出されるときに起こることがある。例えば、MQGET 呼び出しの処理の一部として呼び出されたデータ変換出口が、MQI 呼び出しを実行しようとすることがある。

- ▶ **z/OS** z/OS では、並行呼び出しは、バッチまたは IMS アプリケーションでしか起こらない。例えば、MQI 呼び出しの進行中 (例えば待機中の MQGET) にサブタスクが終了した場合や、別の MQI 呼び出しを発行するタスク終了出口ルーチンがある場合など。
- ▶ **Windows** Windows では、MQI 呼び出しが別の MQI 呼び出しの進行中にユーザー・メッセージに応じて発行される場合にも、並行呼び出しが起きることがある。
- アプリケーションが複数のスレッドと共用可能ハンドルを使用している場合は、呼び出しで指定されているハンドルが別のスレッドですでに使用中で、MQCONNX 呼び出しで MQCNO_HANDLE_SHARE_NO_BLOCK が指定されている場合に、MQRC_CALL_IN_PROGRESS が起きる。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

別の MQI 呼び出しの活動中には、MQI 呼び出しを発行できないようにする。データ変換出口内から MQI 呼び出しを発行しないでください。

▶ **z/OS** z/OS において、メッセージの到着を待っているアプリケーションを取り消すことができるサブタスクを提供したい場合には、MQGMO_WAIT ではなく MQGMO_SET_SIGNAL が指定された MQGET を使用して、メッセージを待機する。

2220 (08AC) (RC2220): MQRC_RMH_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQRMH 構造体が含まれている。エラーとして、次のことが考えられます。

- *StrucId* フィールドが MQRMH_STRUC_ID でない。
- *Version* フィールドが MQRMH_VERSION_1 でない。
- *StrucLength* フィールドに指定されている値が小さすぎて、構造体に可変長データを加えたものを構造体の末尾に含めることができません。
- *CodedCharSetId* フィールドがゼロであるか、または無効な負の値です。
- 呼び出しの **BufferLength** パラメーターの値が小さすぎて、構造体を収容できない (構造体がメッセージの終わりを越えて拡張されている)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。アプリケーションが *CodedCharSetId* フィールドを有効な値に設定していることを確認してください (注: MQCCSI_DEFAULT、MQCCSI_EMBEDDED、MQCCSI_Q_MGR、および MQCCSI_UNDEFINED は、このフィールドには無効です)。

2222 (08AE) (RC2222): MQRC_Q_MGR_ACTIVE

説明

キュー・マネージャーがアクティブになると、この状況が検出されます。

 z/OS では、このイベントはキュー・マネージャーの最初の起動時には生成されず、その後の再始動の時のみ生成されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [205 ページ](#)の『[キュー・マネージャーがアクティブ](#)』の識別にのみ使用されます。

2223 (08AF) (RC2223): MQRC_Q_MGR_NOT_ACTIVE

説明

キュー・マネージャーの停止または静止を要求すると、この状況が検出されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [206 ページ](#)の『[キュー・マネージャーが非アクティブ](#)』の識別にのみ使用されます。

2224 (08B0) (RC2224): MQRC_Q_DEPTH_HIGH

説明

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが原因で、**QDepthHighLimit** 属性で指定した限度までキュー・サイズが増加したか、その限度を超えました。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [201 ページ](#)の『[キュー・サイズ上限](#)』の識別にのみ使用されます。

2225 (08B1) (RC2225): MQRC_Q_DEPTH_LOW

説明

MQGET 呼び出しが原因で、**QDepthLowLimit** 属性で指定した限度までキュー・サイズが減少したか、その限度を下回りました。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [202 ページの『キュー・サイズ下限』](#)の識別にのみ使用されます。

2226 (08B2) (RC2226): MQRC_Q_SERVICE_INTERVAL_HIGH

説明

QServiceInterval 属性で指定された制限を超える間隔内で、正常な取得または書き込みが検出されませんでした。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [207 ページの『キュー・サービス間隔上限』](#)の識別にのみ使用されます。

2227 (08B3) (RC2227): MQRC_Q_SERVICE_INTERVAL_OK

説明

QServiceInterval 属性で指定された制限以下の間隔内で、正常な取得が検出されました。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [208 ページの『キュー・サービス間隔 OK』](#)の識別にのみ使用されます。

2228 (08B4) (RC2228): MQRC_RFH_HEADER_FIELD_ERROR

説明

期待される RFH ヘッダー・フィールドが見つからないか、無効な値を保持しています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

関連するエラー・メッセージを調べ、IBM MQ 要求メッセージの RFH2 セクションに必須フィールドがすべて含まれていること、およびそれらのフィールドに有効な値があることを確認してください。

2229 (08B5) (RC2229): MQRC_RAS_PROPERTY_ERROR

説明

RAS プロパティ・ファイルに関連するエラーが存在します。ファイルが欠落しているか、ファイルにアクセスできないか、あるいはファイルでのコマンドが誤っています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

エラーについて詳細に説明している、関連エラー・メッセージを確認してください。エラーを訂正し、やり直してください。

2232 (08B8) (RC2232): MQRC_UNIT_OF_WORK_NOT_STARTED

説明

作業単位内でメッセージの読み取りまたは書き込みを行うために MQGET、MQPUT、または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、TM/MP トランザクションが開始していませんでした。MQGET で MQGMO_NO_SYNCPOINT が指定されていないか、MQPUT または MQPUT1 (デフォルト) に MQPMO_NO_SYNCPOINT が指定されていないと、呼び出しには作業単位が必要です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

TM/MP トランザクションが使用可能であることを確認するか、MQGMO_NO_SYNCPOINT オプション付きの MQGET 呼び出し、あるいは MQPMO_NO_SYNCPOINT オプション付きの MQPUT 呼び出しか MQPUT1 呼び出しのいずれかを発行します。これにより、トランザクションを自動的に開始します。

Multi

2233 (08B9) (RC2233): MQRC_CHANNEL_AUTO_DEF_OK

説明

チャンネルの自動定義が正常に行われたときに、この状況が検出されます。チャンネルは MCA によって定義されました。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [143 ページ](#)の『チャンネル自動定義 OK』の識別にのみ使用されます。

Multi

2234 (08BA) (RC2234): MQRC_CHANNEL_AUTO_DEF_ERROR

説明

チャンネルの自動定義が失敗したときにこの状況は検出されます。原因としては、定義処理中にエラーが発生したか、チャンネルの自動定義出口が定義を禁止したことが考えられます。失敗の理由についての追加情報が、イベント・メッセージとして戻されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [141](#) ページの『チャンネル自動定義エラー』の識別にのみ使用されます。

イベント・メッセージとして返された追加情報を調べて、失敗の理由を判断します。

2235 (08BB) (RC2235): MQRC_CFH_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQCFH 構造体が含まれている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

2236 (08BC) (RC2236): MQRC_CFIL_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、メッセージ・データに無効な MQCFIL または MQRCFIL64 構造体が含まれています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

2237 (08BD) (RC2237): MQRC_CFIN_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、メッセージ・データに無効な MQCFIN または MQCFIN64 構造体が含まれています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

Multi 2238 (08BE) (RC2238): MQRC_CFSL_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQCFSL 構造体が含まれている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

Multi 2239 (08BF) (RC2239): MQRC_CFST_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQCFST 構造体が含まれている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

2241 (08C1) (RC2241): MQRC_INCOMPLETE_GROUP

説明

未完了のメッセージ・グループを持つキュー・ハンドルを使用して、キューに操作が試行された。この理由コードは、次の場合に出される。

- MQPUT 呼び出しで、アプリケーションがグループ内に存在しないメッセージを読み込もうとし、MQPMO_LOGICAL_ORDER を指定する場合。この場合、完了コードは MQCC_FAILED です。
- MQPUT 呼び出しで、アプリケーションが MQPMO_LOGICAL_ORDER を指定しないが、そのキュー・ハンドルに対する前回の MQPUT 呼び出しでは MQPMO_LOGICAL_ORDER を指定した場合。この場合、完了コードは MQCC_WARNING です。
- MQGET 呼び出しで、アプリケーションが MQGMO_LOGICAL_ORDER を指定しないが、そのキュー・ハンドルに対する前回の MQGET 呼び出しでは MQGMO_LOGICAL_ORDER を指定した場合。この場合、完了コードは MQCC_WARNING です。
- MQCLOSE 呼び出しで、アプリケーションが、未完了メッセージ・グループを持つキューをクローズしようとする。この場合、完了コードは MQCC_WARNING です。

未完了論理メッセージと未完了メッセージ・グループの両方がある場合は、理由コード MQRC_INCOMPLETE_MSG が MQRC_INCOMPLETE_GROUP より優先して戻される。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

この理由コードが予期されていたものである場合、訂正処置は必要ありません。そうでない場合は、グループの最終メッセージの MQPUT 呼び出しが必ず MQMF_LAST_MSG_IN_GROUP を指定するようにする。

2242 (08C2) (RC2242): MQRC_INCOMPLETE_MSG

説明

未完了の論理メッセージを持つキュー・ハンドルを使用して、キューに操作が試行された。この理由コードは、次の場合に出される。

- MQPUT 呼び出しで、アプリケーションが MQPMO_LOGICAL_ORDER を指定して、セグメントではないメッセージか、直前のメッセージと異なる MQMF_LAST_MSG_IN_GROUP フラグの設定があるメッセージを書き込もうとした。この場合、完了コードは MQCC_FAILED です。
- MQPUT 呼び出しで、アプリケーションが MQPMO_LOGICAL_ORDER を指定しないが、そのキュー・ハンドルに対する前回の MQPUT 呼び出しでは MQPMO_LOGICAL_ORDER を指定した場合。この場合、完了コードは MQCC_WARNING です。
- MQGET 呼び出しで、アプリケーションが MQGMO_LOGICAL_ORDER を指定しないが、そのキュー・ハンドルに対する前回の MQGET 呼び出しでは MQGMO_LOGICAL_ORDER を指定した場合。この場合、完了コードは MQCC_WARNING です。
- MQCLOSE 呼び出しで、アプリケーションが、不完全な論理メッセージが存在するキューをクローズしようとする場合。この場合、完了コードは MQCC_WARNING です。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

この理由コードが予期されていたものである場合、訂正処置は必要ありません。そうでない場合は、最終セグメントへの MQPUT 呼び出しで、必ず MQMF_LAST_SEGMENT を指定するようにする。

Multi

2243 (08C3) (RC2243): MQRC_INCONSISTENT_CCIDS

説明

MQGMO_COMPLETE_MSG オプションを指定して MQGET 呼び出しが発行されたが、検索するメッセージは、MQMD の *CodedCharSetId* フィールドの値が異なる 2 つ以上のセグメントから構成されている。これは、ネットワークを介してセグメントのパスが異なるときに起こることがあり、これらのパスには、MCA 送信側変換が使用可能になっているものもある。呼び出しは完了コード MQCC_WARNING で成功しますが、同一の文字セット ID を持つ最初のいくつかのセグメントのみが戻されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

MQGET 呼び出しから MQGMO_COMPLETE_MSG オプションを削除して、残りのメッセージ・セグメントを1つずつ検索する。

Multi

2244 (08C4) (RC2244): MQRC_INCONSISTENT_ENCODINGS

説明

MQGMO_COMPLETE_MSG オプションを指定して、MQGET 呼び出しが発行されたが、検索するメッセージは、MQMD の *Encoding* フィールドの値が異なる 2 つ以上のセグメントから構成されている。これは、ネットワークを介してセグメントのパスが異なるときに起こることがあり、これらのパスには、MCA 送信側変換が使用可能になっているものもある。呼び出しは完了コード MQCC_WARNING で成功しますが、同一のエンコードを持つ最初のいくつかのセグメントのみが戻されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

MQGET 呼び出しから MQGMO_COMPLETE_MSG オプションを削除して、残りのメッセージ・セグメントを1つずつ検索する。

2245 (08C5) (RC2245): MQRC_INCONSISTENT_UOW

説明

次のいずれかが当てはまります。

- グループ内または論理メッセージのセグメント内のメッセージを書き込むために MQPUT 呼び出しが発行されましたが、MQPMO_SYNCPOINT オプションの指定値またはデフォルト値が、キュー・ハンドル用にキュー・マネージャーが保存していた現行グループまたはセグメントの情報と矛盾しています。

現行の呼び出しが MQPMO_LOGICAL_ORDER を指定すると、呼び出しは失敗する。現行の呼び出しは MQPMO_LOGICAL_ORDER を指定しないが、キュー・ハンドルの直前の MQPUT 呼び出しを指定していると、呼び出しは完了コード MQCC_WARNING で成功する。

- グループ内または論理メッセージのセグメント内のメッセージをキューから削除するために MQGET 呼び出しが発行されましたが、MQGMO_SYNCPOINT オプションの指定値またはデフォルト値が、キュー・ハンドル用にキュー・マネージャーが保存していた現行グループまたはセグメントの情報と矛盾しています。

現行の呼び出しが MQGMO_LOGICAL_ORDER を指定すると、呼び出しは失敗する。現行の呼び出しは MQGMO_LOGICAL_ORDER を指定しないが、キュー・ハンドルの直前の MQGET 呼び出しを指定していると、呼び出しは完了コード MQCC_WARNING で成功する。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

グループのすべてのメッセージ、または論理メッセージのすべてのセグメントで同じ作業単位指定を使用するようにアプリケーションを変更します。

Multi

2246 (08C6) (RC2246): MQRC_INVALID_MSG_UNDER_CURSOR

説明

MQGMO_MSG_UNDER_CURSOR または MQGMO_BROWSE_MSG_UNDER_CURSOR で MQGMO_COMPLETE_MSG オプションを指定して、MQGET 呼び出しが発行されたが、カーソル以下のメッセージは、論理メッセージの最初のセグメントではない (すなわち、メッセージの MQMD の *Offset* フィールドはゼロではない)。MQGMO_COMPLETE_MSG が指定されたので、メッセージは検索できません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQMD の *Offset* フィールドがゼロになっているメッセージ上に位置するよう、ブラウザ・カーソルを位置変更する。別の方法としては、MQGMO_COMPLETE_MSG オプションを削除します。

2247 (08C7) (RC2247): MQRC_MATCH_OPTIONS_ERROR

説明

MQGET 呼び出しが発行されましたが、以下のいずれかの理由により、**GetMsgOpts** パラメーターの **MatchOptions** フィールドの値が無効です。

- 未定義のオプションが指定されている。
- 次のすべての記述が該当する。
 - MQGMO_LOGICAL_ORDER が指定されている。
 - キュー・ハンドル用に現行のメッセージ・グループまたは論理メッセージが存在する。
 - MQGMO_BROWSE_MSG_UNDER_CURSOR も MQGMO_MSG_UNDER_CURSOR も指定されていない。
 - 1 つ以上の MQMO_* オプションが指定されている。
 - 指定された MQMO_* オプションに対応する **MsgDesc** パラメーターのフィールドの値は、次に返されるメッセージに関する MQMD のフィールドの値と異なっている。
-  z/OS では、キューの索引タイプのオプションの指定のうち 1 つ以上が無効である。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

フィールドに有効なオプションのみが指定されているかを確認します。

2248 (08C8) (RC2248): MQRC_MDE_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQMDE 構造体が含まれている。エラーとして、次のことが考えられます。

- **StrucId** フィールドが MQMDE_STRUC_ID でない。
- **Version** フィールドが MQMDE_VERSION_2 でない。
- **StrucLength** フィールドが MQMDE_LENGTH_2 でない。
- **CodedCharSetId** フィールドがゼロであるか、または無効な負の値です。

- 呼び出しの **BufferLength** パラメーターの値が小さすぎて、構造体を収容できない (構造体がメッセージの終わりを越えて拡張されている)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。アプリケーションが CodedCharSetId フィールドを有効な値に設定していることを確認してください (注: MQCCSI_DEFAULT、MQCCSI_EMBEDDED、MQCCSI_Q_MGR、および MQCCSI_UNDEFINED は、このフィールドには無効です)。

2249 (08C9) (RC2249): MQRC_MSG_FLAGS_ERROR

説明

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、メッセージ記述子 MQMD 内の MsgFlags フィールドに、ローカル・キュー・マネージャーによって認識されないメッセージ・フラグが 1 つ以上含まれています。この理由コードが返される原因となるメッセージ・フラグは、メッセージの宛先によって異なる。詳細については、[レポート・オプションおよびメッセージ・フラグの REPORT](#) の説明を参照。

この理由コードは、レポート・メッセージの MQMD の Feedback フィールド、または送達不能キューのメッセージの MQDLH 構造体の Reason フィールドにも戻されることがあります。どちらの場合も、宛先キュー・マネージャーが、メッセージの送信側によって指定された 1 つ以上のメッセージ・フラグをサポートしていないことを示します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

以下の作業を行います。

- メッセージ記述子内の MsgFlags フィールドが、そのメッセージ記述子を宣言したときの値で必ず初期設定されるか、あるいは、MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しの前に、必ずそのフィールドに値が割り当てられるようにしてください。メッセージ・フラグが不要な場合は MQMF_NONE を指定します。
- 指定されたメッセージ・フラグが有効であることを確認してください。有効なメッセージ・フラグについては、「[MsgFlags \(MQLONG\)](#)」の MQMD の説明に記載されている MsgFlags フィールドを参照してください。
- 個々のメッセージ・フラグを同時に追加して複数のメッセージ・フラグを設定する場合は、同じメッセージ・フラグを 2 度追加していないことを確認する。
-  z/OS の場合、指定されたメッセージ・フラグがキューの索引タイプに有効かどうかを確認する。詳細については、MQMD の MsgFlags フィールドの説明を参照してください。

2250 (08CA) (RC2250): MQRC_MSG_SEQ_NUMBER_ERROR

説明

MQGET、MQPUT、または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、MQMD または MQMDE 構造体の中の MsgSeqNumber フィールドの値が 1 より小さいか、もしくは 999 999 999 より大きい。

呼び出しの結果として `MsgSeqNumber` フィールドが 999 999 999 より大きくなった場合にも、MQPUT 呼び出しでこのエラーが発生することがある。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

1 から 999 999 999 の範囲の値を指定します。999 999 999 を超えるメッセージが入ったメッセージ・グループは作成しないようにする。

2251 (08CB) (RC2251): MQRC_OFFSET_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、MQMD または MQMDE 構造体の中の `Offset` フィールドの値がゼロより小さいか、もしくは 999 999 999 より大きくなっています。

呼び出しの結果として `Offset` フィールドが 999 999 999 より大きくなった場合にも、MQPUT 呼び出しでこのエラーが発生することがある。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

0 から 999 999 999 の範囲の値を指定する。オフセット 999 999 999 を超えて拡張するメッセージ・セグメントを作成しないようにする。

2252 (08CC) (RC2252): MQRC_ORIGINAL_LENGTH_ERROR

説明

セグメントであるレポート・メッセージを書き込むために MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、MQMD または MQMDE 構造体内の `OriginalLength` フィールドの値が次のいずれかです。

- メッセージ内のデータの長さより小さい
- 1 より小さい (最終セグメント以外のセグメントの場合)
- ゼロより小さい (最終セグメントの場合)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ゼロより大きい値を指定します。ゼロは最終セグメントの場合のみ有効です。

2253 (08CD) (RC2253): MQRC_SEGMENT_LENGTH_ZERO

説明

論理メッセージの最初または中間のセグメントを書き込もうとして MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されたが、(現在存在する可能性のある MQ ヘッダーを除く)セグメントのアプリケーション・メッセージ・データの長さがゼロである。最初または中間セグメントの長さは最低でも 1 でなくてはなりません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーション論理を調べ、セグメントが必ず 1 以上の長さで書き込まれるようにする。論理メッセージの最終セグメントだけは長さが 0 でも問題ありません。

Multi 2255 (08CF) (RC2255): MQRC_UOW_NOT_AVAILABLE

説明

作業単位外でメッセージを読み取ろうとして、または書き込もうとして、MQGET、MQPUT、または MQPUT1 呼び出しが出されたが、呼び出しに指定されたオプションは、キュー・マネージャーに、作業単位内で呼び出しを処理することを要求した。既存のユーザー定義の作業単位が存在していたので、キュー・マネージャーはその呼び出しを処理するために一時作業単位を作成することができませんでした。

この理由コードは、次の場合に発行される。

- MQGET 呼び出しで、MQGMO_COMPLETE_MSG オプションが MQGMO に指定されて、検索する論理メッセージが持続していて、複数のセグメントで構成される場合。
- MQPUT または MQPUT1 呼び出しで、MQMD に MQMF_SEGMENTATION_ALLOWED フラグが指定されており、メッセージのセグメント化が必要である。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ユーザー定義の作業単位内で MQGET、MQPUT、または MQPUT1 呼び出しを発行します。あるいは、MQPUT または MQPUT1 呼び出しの場合、キュー・マネージャーがセグメント化を要求しないように、メッセージのサイズを小さくする。

2256 (08D0) (RC2256): MQRC_WRONG_GMO_VERSION

説明

バージョン番号が MQGMO_VERSION_2 以上の MQGMO を要求するオプションを指定して MQGET 呼び出しが発行されたが、提供された MQGMO はこの条件を満たしていなかった。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

バージョン 2 の MQGMO が渡されるようにアプリケーションを変更します。アプリケーションの論理を調べ、MQGMO の Version フィールドが MQGMO_VERSION_2 に設定されているかどうかを確認します。別の方法としては、バージョン 2 の MQGMO を必要とするオプションを削除します。

2257 (08D1) (RC2257): MQRC_WRONG_MD_VERSION

説明

バージョン番号が MQMD_VERSION_2 以上の MQMD を要求するオプションを指定して MQGET、MQPUT、または MQPUT1 呼び出しが出されたが、提供された MQMD はこの条件を満たしていなかった。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

バージョン 2 の MQMD が渡されるようにアプリケーションを変更します。アプリケーションの論理を調べ、MQMD の Version フィールドが MQMD_VERSION_2 に設定されているかどうかを確認します。別の方法としては、バージョン 2 の MQMD を必要とするオプションを削除します。

Multi 2258 (08D2) (RC2258): MQRC_GROUP_ID_ERROR

説明

グループのメッセージまたはメッセージ・セグメントでもある配布リスト・メッセージ、あるいはセグメント化が許可されている配布リスト・メッセージを書き込もうとして、MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されたが、オプションと値の無効な組み合わせが指定された。次のすべての記述が該当する。

- MQPMO 内の Options フィールドに MQPMO_LOGICAL_ORDER が指定されていない。
- MQPMO が提供する MQPMR レコードが少なすぎるか、MQPMR レコード内に GroupId フィールドが指定されていない。
- 次のフラグのうちの 1 つ以上が MQMD または MQMDE 内の MsgFlags フィールドに指定されている。
 - MQMF_SEGMENTATION_ALLOWED
 - MQMF*_MSG_IN_GROUP
 - MQMF*_SEGMENT
- MQMD または MQMDE の GroupId フィールドが MQGI_NONE ではない。

オプションと値をこの組み合わせで使用すると、結果的に配布リスト内のすべての宛先に同じグループ ID が使用されます。キュー・マネージャーはこれを許可していません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQMD または MQMDE 内の GroupId フィールドに MQGI_NONE を指定します。あるいは、呼び出しが MQPUT の場合は、MQPMO の Options フィールドに MQPMO_LOGICAL_ORDER を指定します。

Multi 2259 (08D3) (RC2259): MQRC_INCONSISTENT_BROWSE

説明

指定された MQGMO_BROWSE_NEXT オプションで、MQGET 呼び出しが発行されたが、呼び出しに対する MQGMO_LOGICAL_ORDER オプションの指定が、キュー・ハンドルの直前の呼び出しへのオプションの指定と異なっている。両方の呼び出しで MQGMO_LOGICAL_ORDER を指定するか、両方の呼び出しで MQGMO_LOGICAL_ORDER を指定しません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

必要に応じて MQGMO_LOGICAL_ORDER オプションを追加または削除します。別の方法として、論理順序と物理順序を切り替えるには、MQGMO_BROWSE_FIRST オプションを指定してキューの最初からスキャンを再び開始し、必要に応じて MQGMO_LOGICAL_ORDER を省略または指定します。

2260 (08D4) (RC2260): MQRC_XQH_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQXQH 構造体が含まれている。エラーとして、次のことが考えられます。

- StrucId フィールドが MQXQH_STRUC_ID でない。
- Version フィールドが MQXQH_VERSION_1 でない。
- 呼び出しの **BufferLength** パラメーターの値が小さすぎて、構造体を収容できない (構造体がメッセージの終わりを越えて拡張されている)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

Multi

2261 (08D5) (RC2261): MQRC_SRC_ENV_ERROR

説明

この理由コードは、参照メッセージを処理するチャンネル出口が、参照メッセージ・ヘッダー (MQRMH) のソース環境データでエラーを検出すると発行される。以下のいずれかが該当する。

- SrcEnvLength がゼロより小さいです。
- SrcEnvLength はゼロより大きいですが、ソース環境データがない。
- SrcEnvLength はゼロより大きいですが、SrcEnvOffset がゼロ以下であるか、MQRMH の固定部分の長さより短い。
- SrcEnvLength はゼロより大きいですが、SrcEnvOffset + SrcEnvLength は StrucLength より大きい。

出口は、この理由コードを MQCXP 構造体の Feedback フィールドに戻します。例外報告書が要求されると、その報告書に関連付けられた MQMD の Feedback フィールドにコピーされる。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

送信元の環境データを正確に指定します。

Multi

2262 (08D6) (RC2262): MQRC_SRC_NAME_ERROR

説明

この理由コードは、参照メッセージを処理するチャンネル出口が、参照メッセージ・ヘッダー (MQRMH) のソース名データでエラーを検出すると出される。以下のいずれかが該当する。

- SrcNameLength がゼロより小さいです。
- SrcNameLength はゼロより大きいですが、ソース名データがない。
- SrcNameLength はゼロより大きいですが、SrcNameOffset がゼロ以下であるか、MQRMH の固定部分の長さより短い。
- SrcNameLength はゼロより大きいですが、SrcNameOffset + SrcNameLength は StrucLength より大きい。

出口は、この理由コードを MQCXP 構造体の Feedback フィールドに戻します。例外報告書が要求されると、その報告書に関連付けられた MQMD の Feedback フィールドにコピーされる。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

送信元の名前データを正確に指定します。

2263 (08D7) (RC2263): MQRC_DEST_ENV_ERROR

説明

この理由コードは、参照メッセージを処理するチャンネル出口が、参照メッセージ・ヘッダー (MQRMH) の宛先環境データでエラーを検出すると出される。以下のいずれかが該当する。

- DestEnvLength がゼロより小さいです。
- DestEnvLength はゼロより大きいですが、宛先環境データがない。
- DestEnvLength はゼロより大きいですが、DestEnvOffset がゼロ以下であるか、MQRMH の固定部分の長さより短い。
- DestEnvLength はゼロより大きいですが、DestEnvOffset + DestEnvLength は StrucLength より大きい。

出口は、この理由コードを MQCXP 構造体の Feedback フィールドに戻します。例外報告書が要求されると、その報告書に関連付けられた MQMD の Feedback フィールドにコピーされる。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

宛先環境データを正確に指定します。

2264 (08D8) (RC2264): MQRC_DEST_NAME_ERROR

説明

この理由コードは、参照メッセージを処理するチャンネル出口が、参照メッセージ・ヘッダー (MQRMH) の宛先名データでエラーを検出すると発行される。以下のいずれかが該当する。

- DestNameLength がゼロより小さいです。

- DestNameLength はゼロより大きい、宛先名データがない。
- DestNameLength はゼロより大きい、 DestNameOffset がゼロ以下であるか、MQRMH の固定部分の長さより短い。
- DestNameLength はゼロより大きい、 DestNameOffset + DestNameLength は StrucLength より大きい。

出口は、この理由コードを MQCXP 構造体の Feedback フィールドに戻します。例外報告書が要求されると、その報告書に関連付けられた MQMD の Feedback フィールドにコピーされる。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

宛先名前データを正確に指定します。

2265 (08D9) (RC2265): MQRC_TM_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQTM 構造体が含まれている。エラーとして、次のことが考えられます。

- StrucId フィールドが MQTM_STRUC_ID でない。
- Version フィールドが MQTM_VERSION_1 でない。
- 呼び出しの **BufferLength** パラメーターの値が小さすぎて、構造体を収容できない (構造体がメッセージの終わりを越えて拡張されている)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

2266 (08DA) (RC2266): MQRC_CLUSTER_EXIT_ERROR

説明

メッセージをオープンするため、またはクラスター・キューにメッセージを書き込むために MQOPEN、MQPUT、または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、キュー・マネージャーの **ClusterWorkloadExit** 属性によって定義されたクラスター・ワークロード出口が予期せず失敗したか、時間内に応答しませんでした。このキュー・ハンドルに対する後続の MQOPEN、MQPUT、および MQPUT1 呼び出しは、**ClusterWorkloadExit** 属性がブランクである場合のように処理される。

 z/OS では、エラーの詳細情報を提供する CSQV455E や CSQV456E などのメッセージがシステム・ログに書き込まれる。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

クラスター・ワークロード出口が正しく記述されているかを確認します。

2267 (08DB) (RC2267): MQRC_CLUSTER_EXIT_LOAD_ERROR

説明

キュー・マネージャーに接続するために MQCONN または MQCONNX 呼び出しが発行されたが、そのキュー・マネージャーがクラスター・ワークロード出口をロードできなかった。クラスター・ワークロード出口なしで実行が継続されます。

z/OS z/OS では、クラスター・ワークロード出口をロードできない場合に、CSQV453I などのメッセージがシステム・ログに書き込まれる。**ClusterWorkloadExit** 属性はブランクと見なされて処理が実行されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

キュー・マネージャーの **ClusterWorkloadExit** 属性に正しい値が設定されており、出口が正しいロケーションにインストールされているようにする。

2268 (08DC) (RC2268): MQRC_CLUSTER_PUT_INHIBITED

説明

MQOO_OUTPUT および MQOO_BIND_ON_OPEN オプションが有効になっている MQOPEN 呼び出しがクラスター・キューに対して発行されたが、次のすべての記述が該当するため呼び出しが失敗した。

- クラスター・キューのインスタンスがすべて、現在書き込み禁止になっている (つまり、すべてのキュー・インスタンスで **InhibitPut** 属性が MQQA_PUT_INHIBITED に設定されている)。
- キューのローカル・インスタンスがない。(ローカル・インスタンスがあれば、そのローカル・インスタンスが書き込み禁止になっていても MQOPEN 呼び出しは成功する。)
- キューに対するクラスター・ワークロード出口がない。または、クラスター・ワークロード出口はあるが、その出口でキュー・インスタンスが選択されなかった。(クラスター・ワークロード出口でキュー・インスタンスが選択されると、そのインスタンスが書き込み禁止になっていても MQOPEN 呼び出しは成功する。)

MQOO_BIND_NOT_FIXED オプションが MQOPEN 呼び出しに指定されている場合、クラスター内のすべてのキューが書き込み禁止になっていても、その呼び出しは成功する。ただし、その後に発行される MQPUT 呼び出しについては、その MQPUT 呼び出しが発行される時点でもそのまますべてのキューが書き込み禁止になっていると、失敗する可能性がある。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

システムの設計上、書き込み要求を短期間禁止できるようになっている場合は、後で操作を再試行する。問題が解決しない場合には、クラスター内のすべてのキューが書き込み禁止になっている理由を調べてください。

2269 (08DD) (RC2269): MQRC_CLUSTER_RESOURCE_ERROR

説明

クラスター・キューに対して MQOPEN、MQPUT、または MQPUT1 呼び出しが発行されたが、クラスター化に必要な資源を使おうとする際にエラーが発生した。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

以下の作業を行います。

- SYSTEM.CLUSTER.* キューは書き込み禁止または満杯ではありません。
- SYSTEM.CLUSTER.* これらのキューは、障害の性質に関するガイダンスを提供する場合があります。
- リポジトリ・キュー・マネージャーが使用可能であることをチェックします。
-  z/OS の場合に、ページ・セットが満杯であるというような障害の兆候がないかコンソールを調べる。

2270 (08DE) (RC2270): MQRC_NO_DESTINATIONS_AVAILABLE

説明

メッセージをクラスター・キューに書き込むために、MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されたが、呼び出しの時点でクラスター内のキューのインスタンスはなくなっていた。このため、メッセージを送信できなかった。

キューをオープンする MQOPEN 呼び出しに MQOO_BIND_NOT_FIXED を指定したとき、またはメッセージを書き込むために MQPUT1 を使用したとき、この状況になることがある。

この理由コードは、REFRESH CLUSTER コマンドの実行時にも発生する可能性があります。 [REFRESH CLUSTER](#) の実行時に見られるアプリケーションの問題を参照してください。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー定義とキュー状況を調べて、キューのすべてのインスタンスがクラスターから削除された理由を判断する。問題を解決して、アプリケーションを再実行します。

2271 (08DF) (RC2271): MQRC_CONN_TAG_IN_USE

Explanation

An MQCONN call was issued specifying one of the MQCNO_*_CONN_TAG_* options, but the call failed because the connection tag specified by ConnTag in MQCNO is in use by an active process or thread, or there is an unresolved unit of work that references this connection tag.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

The problem is likely to be transitory. The application should wait a short while and then retry the operation.

2272 (08E0) (RC2272): MQRC_PARTIALLY_CONVERTED

説明

GetMsgOpts パラメーターに MQGMO_CONVERT オプションが指定されている MQGET 呼び出しにおいて、メッセージ・データ内の 1 つ以上の MQ ヘッダー構造体を指定のターゲット文字セットまたはエンコードに変換できません。この場合、MQ ヘッダー構造体はキュー・マネージャーの文字セットおよびエンコードに変換され、メッセージ内のアプリケーション・データはターゲット文字セットおよびエンコードに変換されます。呼び出しからの戻り時に、**MsgDesc** パラメーターおよび MQ ヘッダー構造体のさまざまな CodedCharSetId および Encoding フィールドに戻される値は、メッセージの各部分に適用される文字セットおよびエンコードを示します。この呼び出しは、MQCC_WARNING で完了します。

通常、この理由コードは、指定したターゲット文字セットが、MQ ヘッダー構造体内の文字ストリングをフィールド長を超えて拡張させる場合に発生します。これを発生させる文字セットの例としては、Unicode 文字セット UTF-16 があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

これが予期されていた状態である場合、訂正処置は不要です。

これが予期されていない状態である場合、MQ ヘッダー構造体に有効なデータが含まれていることを確認してください。そのようになっている場合、ターゲット文字セットとして、ストリングの拡張を発生させない文字セットを指定してください。

2273 (08E1) (RC2273): MQRC_CONNECTION_ERROR

説明

MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しが、次のいずれかの理由で失敗しました。

- IBM MQ 用に選択されているインストールとカスタマイズのオプションでは、使われているタイプのアプリケーションによる接続が許されない。
- システム・パラメーター・モジュールのリリース・レベルが、キュー・マネージャーと同じではない。
- チャンネル・イニシエーターのリリース・レベルが、キュー・マネージャーと同じではない。
- キュー・マネージャーによって内部エラーが検出されました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

IBM MQ 用に選択されているインストールとカスタマイズのオプションが、すべての機能を使用することを許していない場合、なし。

そうではなく、これがチャンネル・イニシエーターの開始時に起きる場合は、キュー・マネージャーとチャンネル・イニシエーターのリリース・レベルが両方とも同じかどうかと、それらの開始済みタスク JCL プロシージャーが両方とも同じレベルの IBM MQ プログラム・ライブラリーを指定しているかどうかを確認する。これがキュー・マネージャーの開始時に起きる場合は、システム・パラメーター・モジュール (CSQZPARM) を再リンク・エディットして、正しいレベルであるようにする。問題が解決しないようであれば、IBM サポートに連絡する。

z/OS 2274 (08E2) (RC2274): MQRC_OPTION_ENVIRONMENT_ERROR

Explanation

An MQGET call with the MQGMO_MARK_SKIP_BACKOUT option specified was issued from a Db2 Stored Procedure. The call failed because the MQGMO_MARK_SKIP_BACKOUT option cannot be used from a Db2 Stored Procedure.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Remove the MQGMO_MARK_SKIP_BACKOUT option from the MQGET call.

Multi 2277 (08E5) (RC2277): MQRC_CD_ERROR

説明

キュー・マネージャーに接続するために MQCONNX 呼び出しが発行されましたが、MQCNO の *ClientConnOffset* または *ClientConnPtr* フィールドによってアドレス指定された MQCD チャンネル定義構造に、無効なデータが含まれています。エラー・ログでエラーの種類の詳細を調べます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCD 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

Multi 2278 (08E6) (RC2278): MQRC_CLIENT_CONN_ERROR

説明

キュー・マネージャーに接続するために MQCONNX 呼び出しが発行されたが、MQCD チャンネル定義構造体が正しく指定されていない。次のいずれかが当てはまります。

- *ClientConnOffset* がゼロではなく、*ClientConnPtr* がゼロでもヌル・ポインターでもない。
- *ClientConnPtr* が無効なポインターである。
- *ClientConnPtr* または *ClientConnOffset* が、アクセス不可能なストレージを指している。

これは、チャンネル名の判別のためのクライアント・チャンネル定義テーブル (CCDT) が指定された場合に、そのテーブル自体が見つからないときにも Java アプリケーションで発生する。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ClientConnOffset と ClientConnPtr の少なくとも 1 つがゼロであることを確認してください。使用しているフィールドがアクセス可能なストレージを指していることを確認します。クライアント・チャネル定義テーブルの URL が正しいことを確認してください。

2279 (08E7) (RC2279): MQRC_CHANNEL_STOPPED_BY_USER

説明

チャネルがオペレーターによって停止されていた場合にこの状況が検出されます。理由修飾子が停止理由を示しています。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [160 ページの『ユーザーによるチャネル停止』](#)の識別にのみ使用されます。

Multi

2280 (08E8) (RC2280): MQRC_HCONFIG_ERROR

説明

MQXEP 呼び出しまたは MQZEP 呼び出しで指定された構成ハンドル Hconfig が無効です。MQXEP 呼び出しが API 出口機能によって発行されます。MQZEP 呼び出しがインストール可能サービスによって発行されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー・マネージャーによって提供された構成ハンドルを指定します。

- MQXEP 呼び出しの場合、MQAXP 構造体の Hconfig フィールドに渡されたハンドルを使用します。
- MQZEP 呼び出しの場合、コンポーネント初期化呼び出しで、インストール可能サービスの構成機能に渡された構成ハンドルを指定します。インストール可能サービスの詳細については、[AIX, Linux, and Windows 用のインストール可能サービスとコンポーネント](#)を参照してください。

Multi

2281 (08E9) (RC2281): MQRC_FUNCTION_ERROR

説明

MQXEP または MQZEP 呼び出しが発行されましたが、呼び出しで指定された関数 ID Function が無効か、または構成されているインストール可能サービスでサポートされていません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

以下の作業を行います。

- MQXEP 呼び出しの場合、MQXF_* 値のいずれかを指定します。
- MQZEP 呼び出しの場合、構成するインストール可能サービスに対して有効な MQZID_* 値を指定します。有効な値を判別するには、[MQZEP](#) を参照してください。

2282 (08EA) (RC2282): MQRC_CHANNEL_STARTED

説明

次のいずれかが発生しました。

- オペレーターが Start Channel コマンドを実行しました。
- チャンネルのインスタンスが正常に確立されました。初期データ交渉が完了し、メッセージ転送に必要なため再同期が実行された場合、この状況が検出されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [156 ページ](#)の『[チャンネル開始](#)』の識別にのみ使用されます。

2283 (08EB) (RC2283): MQRC_CHANNEL_STOPPED

説明

チャンネルが停止されていた場合にこの状況が検出されます。理由修飾子が停止理由を示しています。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [157 ページ](#)の『[チャンネル停止](#)』の識別にのみ使用されます。

2284 (08EC) (RC2284): MQRC_CHANNEL_CONV_ERROR

説明

チャンネルがデータ変換を行えず、伝送キューからメッセージを読み取るための MQGET 呼び出しがデータ変換エラーに終わった場合に、この状況が検出されます。変換理由コードが失敗の理由を示しています。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [146 ページ](#)の『チャンネル変換エラー』の識別にのみ使用されます。

Multi 2285 (08ED) (RC2285): MQRC_SERVICE_NOT_AVAILABLE

説明

この理由コードは、必要な基本サービスが使用不能なため要求されたアクションを実行できない場合に、インストール可能なサービス・コンポーネントから戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

基本サービスを使用可能な状態にします。

Multi 2286 (08EE) (RC2286): MQRC_INITIALIZATION_FAILED

説明

この理由コードは、コンポーネントが初期化を完了できない場合に、インストール可能なサービス・コンポーネントから戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

エラーを訂正して操作をやり直してください。

Multi 2287 (08EF) (RC2287): MQRC_TERMINATION_FAILED

説明

この理由コードは、コンポーネントが正常に終了できない場合に、インストール可能なサービス・コンポーネントから戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

エラーを訂正して操作をやり直してください。

Multi 2288 (08F0) (RC2288): MQRC_UNKNOWN_Q_NAME

説明

この理由コードは、**QName** パラメーターに指定された名前が認識されない場合に、インストール可能なサービス・コンポーネント、MQZ_LOOKUP_NAME から戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

なし。インストール可能サービスの詳細については、[AIX, Linux, and Windows 用のインストール可能サービスとコンポーネント](#)を参照してください。

Multi

2289 (08F1) (RC2289): MQRC_SERVICE_ERROR

説明

この理由コードは、コンポーネントに予期しないエラーが発生した場合に、インストール可能なサービス・コンポーネントから戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

エラーを訂正して操作をやり直してください。

Multi

2290 (08F2) (RC2290): MQRC_Q_ALREADY_EXISTS

説明

この理由コードは、**QName** パラメーターに指定されたキューがすでに名前サービスに定義されている場合に、MQZ_INSERT_NAME インストール可能なサービス・コンポーネントから戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

なし。インストール可能サービスの詳細については、[AIX, Linux, and Windows 用のインストール可能サービスとコンポーネント](#)を参照してください。

Multi

2291 (08F3) (RC2291): MQRC_USER_ID_NOT_AVAILABLE

説明

この理由コードは、ユーザー ID を判別できない場合に、MQZ_FIND_USERID インストール可能なサービス・コンポーネントから戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

なし。インストール可能サービスの詳細については、[AIX, Linux, and Windows 用のインストール可能サービスとコンポーネント](#)を参照してください。

Multi

2292 (08F4) (RC2292): MQRC_UNKNOWN_ENTITY

説明

この理由コードは、**EntityName** パラメーターに指定された名前が認識されない場合に、インストール可能な許可サービス・コンポーネントから戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

エンティティーが定義されているかを確認します。

Multi

2294 (08F6) (RC2294): MQRC_UNKNOWN_REF_OBJECT

説明

この理由コードは、**RefObjectName** パラメーターによって指定された名前が認識されない場合に、インストール可能なサービス・コンポーネント、MQZ_COPY_ALL_AUTHORITY から戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

参照オブジェクトが定義されているかを確認します。インストール可能サービスの詳細については、[AIX, Linux, and Windows 用のインストール可能サービスとコンポーネント](#)を参照してください。

2295 (08F7) (RC2295): MQRC_CHANNEL_ACTIVATED

説明

別のチャンネルからアクティブ・スロットが解放されたためアクティブになるのを待機しており、Channel Not Activated イベントが生成されたチャンネルがアクティブ状態になると、この状況が検出されます。

このイベントは、アクティブ・スロットの解放を待たずにアクティブ状態になることができるチャンネルについては生成されません。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [140 ページの『チャンネル活動化』](#)の識別にのみ使用されます。

2296 (08F8) (RC2296): MQRC_CHANNEL_NOT_ACTIVATED

説明

チャンネルが起動された、またはパートナーとの別の接続を試みようとしている、のいずれかの理由でチャンネルをアクティブ状態にする必要があるときに、この状況が検出されます。しかし、アクティブ・チャンネルの制限数に達しているため、チャンネルをアクティブ状態にすることができません。

- **z/OS** z/OS 上では、アクティブ・チャンネルの最大数は、ACTCHL キュー・マネージャー属性によって指定されます。
- **Multi** その他の環境では、アクティブ・チャンネルの最大数は、qm.ini ファイル内の MaxActiveChannels パラメーターによって指定されます。

別のチャンネルがアクティブになり解放されたアクティブ・スロットを取得できるまで待機します。アクティブ・スロットを取得できたときに、Channel Activated イベントが生成されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [148 ページの『チャンネル非活動化』](#)の識別にのみ使用されます。

2297 (08F9) (RC2297): MQRC_UOW_CANCELED

説明

MQI 呼び出しが発行されましたが、MQ 操作に使用される作業単位 (TM/MP トランザクション) が取り消されました。これは、TM/MP 自身によるものか (例えば、トランザクションの実行期間が長すぎる、または監査証跡サイズを超えているといった理由で)、ABORT_TRANSACTION を発行したアプリケーション・プログラムによるものと考えられます。キュー・マネージャーが所有するリソースに対して行ったすべての更新はバックアウトされます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

オペレーティング・システムの「*Transaction Management Operations Guide*」で、トランザクション・マネージャーを調整してシステム制限超過の問題を回避する方法を判断します。

2298 (08FA) (RC2298): MQRC_FUNCTION_NOT_SUPPORTED

説明

要求された機能は、現行の環境では利用できません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションからこの呼び出しを除去してください。

 CICS グループ接続でこの理由コードを受け取った場合は、キュー・マネージャー属性 **GROUPUR** が有効になっていることを確認してください。

2299 (08FB) (RC2299): MQRC_SELECTOR_TYPE_ERROR

説明

Selector パラメーターのデータ・タイプが正しくありません。Long タイプでなければなりません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

Selector パラメーターを Long として宣言します。

2300 (08FC) (RC2300): MQRC_COMMAND_TYPE_ERROR

説明

mqExecute 呼び出しが発行されましたが、管理バッグ内の MQIASY_TYPE データ項目の値が MQCFT_COMMAND ではありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

管理バッグ内の MQIASY_TYPE データ項目の値が MQCFT_COMMAND であることを確認します。

2301 (08FD) (RC2301): MQRC_MULTIPLE_INSTANCE_ERROR

説明

Selector パラメーターでシステム・セレクター (MQIASY_* 値の 1 つ) を指定していますが、**ItemIndex** パラメーターが MQIND_NONE ではありません。各システム・セレクターのインスタンスは 1 つだけをバッグ内に存在させることができます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ItemIndex パラメーターの値に MQIND_NONE を指定します。

2302 (08FE) (RC2302): MQRC_SYSTEM_ITEM_NOT_ALTERABLE

説明

バッグ内のシステム・データ項目 (MQIASY_* セレクターの 1 つを持つデータ項目) の値を変更するための呼び出しが発行されましたが、そのデータ項目はアプリケーションでは変更できないため、呼び出しは失敗しました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ユーザー定義データ項目のセレクターを指定するか、呼び出しを削除します。

2303 (08FF) (RC2303): MQRC_BAG_CONVERSION_ERROR

説明

mqBufferToBag または mqGetBag 呼び出しが発行されましたが、バッファーまたはメッセージ内のデータをバッグに変換できませんでした。変換するデータが無効な PCF の場合にこの状況が発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

バッファーまたはメッセージを作成したアプリケーションの論理をチェックして、バッファーまたはメッセージに有効な PCF が含まれていることを確認します。

メッセージに無効な PCF が含まれている場合、そのメッセージは mqGetBag 呼び出しで検索することができません。

- MQGMO_BROWSE_* オプションの 1 つが指定されると、メッセージはキューに残り、MQGET 呼び出しで検索できます。
- その他の場合は、メッセージがキューからすでに削除され、廃棄されています。メッセージが作業単位内で検索された場合、作業単位をバックアウトし、メッセージを MQGET 呼び出しで検索できます。

2304 (0900) (RC2304): MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

説明

Selector パラメーターの値が、呼び出しにとっての有効範囲外です。バッグが MQCBO_CHECK_SELECTORS オプションで作成された場合、次の条件を満たしていなければなりません。

- mqAddInteger 呼び出しでは、値は MQIA_FIRST から MQIA_LAST までの範囲内である。
- mqAddString 呼び出しでは、値は MQCA_FIRST から MQCA_LAST までの範囲内である。

バッグが MQCBO_CHECK_SELECTORS オプションで作成されていない場合、値はゼロ以上でなければなりません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効な値を指定してください。

2305 (0901) (RC2305): MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE

説明

ItemIndex パラメーターの値は MQIND_NONE ですが、バッグには **Selector** パラメーターで指定されたセレクター値を持つデータ項目が複数含まれています。パラメーター値が MQIND_NONE の場合、バッグには指定セレクターのオカレンスは 1 つだけ含めることができます。

この理由コードは、セレクターのオカレンスを 1 つしか許可しない必須パラメーター用に 2 つ以上のオカレンスが管理バッグに含まれている場合にも、mqExecute 呼び出しにおいて発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

バッグを作成したアプリケーションの論理をチェックします。正しい場合は、*ItemIndex* にゼロ以上の値を指定し、バッグ内のセレクターのすべてのオカレンスを処理するアプリケーション・ロジックを追加します。

発行する管理コマンドの記述を見直して、バッグ内にすべての必須パラメーターが正しく定義されていることを確認します。

2306 (0902) (RC2306): MQRC_INDEX_NOT_PRESENT

説明

指定された索引が存在していません。

- バッグの場合、これは、**Selector** パラメーターで指定されたセレクター値を持つ 1 つ以上のデータ項目がバッグに含まれているが、**ItemIndex** パラメーターで指定された索引値を持つデータ項目がバッグに含まれていないことを意味します。**Selector** パラメーターおよび **ItemIndex** パラメーターによって識別されるデータ項目は、バッグ内に存在していなければなりません。
- 名前リストの場合には、これはつまり、索引パラメーター値が大きすぎて、有効な値の範囲外であるという意味です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

バッグまたは名前リスト内に存在するデータ項目の索引を指定します。mqCountItems 呼び出しを使って、バッグに存在する指定のセレクターを持つデータ項目の数を判断したり、nameCount メソッドを使って、名前リスト内の名前の数を判別したりします。

2307 (0903) (RC2307): MQRC_STRING_ERROR

説明

String パラメーターが有効ではありません。パラメーター・ポインターが無効か、または読み取り専用ストレージを指しています。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パラメーターを修正してください。

2308 (0904) (RC2308): MQRC_ENCODING_NOT_SUPPORTED

説明

メッセージ記述子 MQMD 内の Encoding フィールドにサポートされない値が含まれています。

- mqPutBag 呼び出しの場合、エラーの記述に示されているフィールドは呼び出しの **MsgDesc** パラメーター内にあります。
- mqGetBag 呼び出しの場合、エラーの記述に示されているフィールドは次の場所に含まれています。
 - MQGMO_CONVERT オプションが指定された場合は、呼び出しの **MsgDesc** パラメーター。
 - MQGMO_CONVERT が指定されなかった場合は、検索するメッセージのメッセージ記述子。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

値は MQENC_NATIVE でなくてはなりません。

メッセージ内の Encoding フィールドの値が無効な場合、メッセージは mqGetBag 呼び出しで検索することはできません。

- MQGMO_BROWSE_* オプションの 1 つが指定されると、メッセージはキューに残り、MQGET 呼び出しで検索できます。
- その他の場合は、メッセージがキューからすでに削除され、廃棄されています。メッセージが作業単位内で検索された場合、作業単位をバックアウトし、メッセージを MQGET 呼び出しで検索できます。

2309 (0905) (RC2309): MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT

説明

Selector パラメーターに、バッグ内に存在しないセレクターが指定されています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

バッグに存在するセレクターを指定します。

2310 (0906) (RC2310): MQRC_OUT_SELECTOR_ERROR

説明

OutSelector パラメーターが有効ではありません。パラメーター・ポインターが無効か、または読み取り専用ストレージを指しています。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パラメーターを修正してください。

2311 (0907) (RC2311): MQRC_STRING_TRUNCATED

説明

呼び出しによって戻された文字ストリングは長すぎて、与えられているバッファーに収まりません。ストリングはバッファーに収まるように切り捨てられました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ストリングの全体が必要な場合は、バッファーを大きくします。mqInquireString 呼び出しでは、**StringLength** パラメーターを設定して、切り捨てないでストリング全体が収まるバッファー・サイズを指定します。

2312 (0908) (RC2312): MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE

説明

指定のセレクターを持つデータ項目がバッグ内に存在していますが、そのデータ項目のデータ・タイプが、使用する呼び出しのデータ・タイプと矛盾しています。例えば、データ項目は数字データ・タイプですが、使用する呼び出しは文字データ・タイプの mqSetString という場合があります。

mqBagToBuffer、mqExecute、および mqPutBag 呼び出しにおいても、MQIACF_INQUIRY データ項目をバッグに追加するために mqAddString または mqSetString が使用された場合に、この理由コードが発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

mqSetInteger と mqSetString 呼び出しの場合、MQIND_ALL を **ItemIndex** パラメーターに指定して、必要なデータ・タイプの新規オカレンスを作成する前に指定セレクターの既存の全オカレンスがバッグから削除されるようにします。

mqInquireBag、mqInquireInteger、および mqInquireString 呼び出しの場合は、mqInquireItemInfo 呼び出しを使用して指定セレクターを持つデータ項目のデータ・タイプを決定し、次に適切な呼び出しを使用してデータ項目の値を決定します。

mqBagToBuffer、mqExecute、および mqPutBag 呼び出しの場合は、mqAddInteger または mqSetInteger 呼び出しを使用して MQIACF_INQUIRY データ項目を必ずバッグに追加します。

2313 (0909) (RC2313): MQRC_INCONSISTENT_ITEM_TYPE

説明

バッグに指定セクターの別のオカレンスを追加するために mqAddInteger または mqAddString 呼び出しが発行されましたが、このオカレンスのデータ・タイプが最初のオカレンスのデータ・タイプとは異なりました。

mqBufferToBag と mqGetBag 呼び出しにおいて、バッファーまたはメッセージ内の PCF に複数のオカレンスがあるセクターが含まれており、それらのオカレンスのデータ・タイプが矛盾している場合にも、この理由コードが発生する可能性があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

mqAddInteger と mqAddString 呼び出しの場合は、バッグ内のそのセクターの最初のオカレンスのデータ・タイプに適した呼び出しを使用します。

mqBufferToBag と mqGetBag 呼び出しの場合は、バッファーを作成したか、またはメッセージを送信したアプリケーションの論理をチェックして、セクターの複数オカレンスのデータ・タイプが同じであることを確認します。セクターのデータ・タイプが混在しているメッセージは、mqGetBag 呼び出しでは検索されません。

- MQGMO_BROWSE_* オプションの 1 つが指定されると、メッセージはキューに残り、MQGET 呼び出しで検索できます。
- その他の場合は、メッセージがキューからすでに削除され、廃棄されています。メッセージが作業単位内で検索された場合、作業単位をバックアウトし、メッセージを MQGET 呼び出しで検索できます。

2314 (090A) (RC2314): MQRC_INDEX_ERROR

説明

呼び出しまたはメソッドの索引パラメーターに無効な値があります。値はゼロ以上でなければなりません。バッグ呼び出しの場合は、特定の MQIND_* 値も指定することができます。

- mqDeleteItem、mqSetInteger および mqSetString 呼び出しの場合は、MQIND_ALL と MQIND_NONE が有効です。
- mqInquireBag、mqInquireInteger、mqInquireString および mqInquireItemInfo 呼び出しの場合は、MQIND_NONE が有効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効な値を指定してください。

2315 (090B) (RC2315): MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE

説明

バッグヘデータ項目を追加する、バッグ内の既存データ項目値を変更する、またはメッセージを検索してバッグへ挿入するといった目的で呼び出しが発行されましたが、そのバッグが、前回の mqExecute 呼び出しの結果、システムが作成したバッグだったため、呼び出しは失敗しました。アプリケーションからシステム・バッグを変更することはできません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションによって作成されたバッグのハンドルを指定するか、呼び出しを削除します。

2316 (090C) (RC2316): MQRC_ITEM_COUNT_ERROR

説明

mqTruncateBag 呼び出しが発行されましたが、**ItemCount** パラメーターに無効な値が指定されています。値がゼロより小さいか、バッグ内のユーザー定義のデータ項目数より大きいです。

mqCountItems 呼び出しでも、パラメーター・ポインターが無効か、パラメーター・ポインターが読取専用ストレージを指している、この理由コードは発生します。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効な値を指定してください。mqCountItems 呼び出しを使用して、バッグ内のユーザー定義のデータ項目数を判別します。

2317 (090D) (RC2317): MQRC_FORMAT_NOT_SUPPORTED

説明

メッセージ記述子 MQMD 内の *Format* フィールドにサポートされない値が含まれています。

- 管理メッセージにおいて、フォーマット値は MQFMT_ADMIN、MQFMT_EVENT、MQFMT_PCF のいずれかである必要があります。mqPutBag 呼び出しの場合、エラーの記述に示されているフィールドは呼び出しの **MsgDesc** パラメーター内にあります。mqGetBag 呼び出しの場合、エラーの記述に示されているフィールドは、検索しようとしているメッセージのメッセージ記述子に含まれています。
-  z/OS で、メッセージはフォーマット値 MQFMT_ADMIN を使用してコマンド入力キューに書き込まれましたが、使用されている IBM MQ のバージョンはコマンドの該当フォーマットをサポートしません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

メッセージの書き込み中にエラーが発生した場合は、フォーマット値を修正してください。

メッセージの読み取り中にエラーが発生した場合は、メッセージは mqGetBag 呼び出しを使用して取得できません。

- MQGMO_BROWSE_* オプションの 1 つが指定されると、メッセージはキューに残り、MQGET 呼び出しで検索できます。
- その他の場合は、メッセージがキューからすでに削除され、廃棄されています。メッセージが作業単位内で検索された場合、作業単位をバックアウトし、メッセージを MQGET 呼び出しで検索できます。

2318 (090E) (RC2318): MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED

説明

Selector パラメーターにシステム・セレクターである値 (負の値) が指定されていますが、システム・セレクターが呼び出しでサポートされている値ではありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

サポートされるセレクター値を指定してください。

2319 (090F) (RC2319): MQRC_ITEM_VALUE_ERROR

説明

mqInquireBag または mqInquireInteger 呼び出しが発行されましたが、**ItemValue** パラメーターが無効です。パラメーター・ポインターが無効か、または読み取り専用ストレージを指しています。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パラメーターを修正してください。

2320 (0910) (RC2320): MQRC_HBAG_ERROR

説明

パラメーターとしてバッグ・ハンドルが指定された呼び出しが発行されましたが、ハンドルが無効です。出力パラメーターの場合、パラメーター・ポインターが無効か、パラメーター・ポインターが読取専用ストレージを指しているときも、この理由コードが発生します。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パラメーターを修正してください。

2321 (0911) (RC2321): MQRC_PARAMETER_MISSING

説明

管理メッセージには、管理バッグ内に存在しないパラメーターが必要です。この理由コードは、MQCBO_ADMIN_BAG または MQCBO_REORDER_AS_REQUIRED オプションによって作成されたバッグについてのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

発行する管理コマンドの記述を見直して、バッグ内にすべての必須パラメーターが存在することを確認します。

2322 (0912) (RC2322): MQRC_CMD_SERVER_NOT_AVAILABLE

説明

管理コマンドを処理するコマンド・サーバーが使用不能です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

コマンド・サーバーを開始してください。

2323 (0913) (RC2323): MQRC_STRING_LENGTH_ERROR

説明

StringLength パラメーターが有効ではありません。パラメーター・ポインターが無効か、または読み取り専用ストレージを指しています。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パラメーターを修正してください。

2324 (0914) (RC2324): MQRC_INQUIRY_COMMAND_ERROR

説明

mqAddInquiry により前もって属性セレクターがバッグに追加されましたが、mqBagToBuffer、mqExecute、または mqPutBag 呼び出しに使用するコマンド・コードが認識されません。その結果、正しい PCF メッセージを生成できません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

mqAddInquiry 呼び出しを削除し、代わりに適切な MQIACF*_ATTRS または MQIACH*_ATTRS セレクターが指定された mqAddInteger 呼び出しを使用します。

2325 (0915) (RC2325): MQRC_NESTED_BAG_NOT_SUPPORTED

説明

呼び出しへの入力であるバッグにネスト・バッグが含まれています。ネスト・バッグは、呼び出しからの出力であるバッグの場合のみサポートされます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

別のバッグを呼び出しへの入力として使用します。

2326 (0916) (RC2326): MQRC_BAG_WRONG_TYPE

説明

Bag パラメーターに、呼び出しに対して誤ったタイプのバッグのハンドルが指定されています。バッグは管理バッグでなくてはなりません。つまり、そのバッグは MQCBO_ADMIN_BAG オプションを指定した mqCreateBag 呼び出しで作成する必要があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

バッグを作成するときに MQCBO_ADMIN_BAG オプションを指定します。

2327 (0917) (RC2327): MQRC_ITEM_TYPE_ERROR

説明

mqInquireItemInfo 呼び出しが発行されましたが、**ItemType** パラメーターが無効です。パラメーター・ポインターが無効か、または読み取り専用ストレージを指しています。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パラメーターを修正してください。

2328 (0918) (RC2328): MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_DELETABLE

説明

バッグを削除するために mqDeleteBag 呼び出しが発行されましたが、そのバッグが、前回の mqExecute 呼び出しの結果システムが作成したバッグだったため、呼び出しは失敗しました。アプリケーションでシステム・バッグを削除することはできません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションによって作成されたバッグのハンドルを指定するか、呼び出しを削除します。

2329 (0919) (RC2329): MQRC_SYSTEM_ITEM_NOT_DELETABLE

説明

バッグからシステム・データ項目 (MQIASY_* セレクターの 1 つを持つデータ項目) の値を削除するための呼び出しが発行されましたが、そのデータ項目はアプリケーションでは削除できないため呼び出しは失敗しました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ユーザー定義データ項目のセレクターを指定するか、呼び出しを削除します。

2330 (091A) (RC2330): MQRC_CODED_CHAR_SET_ID_ERROR

説明

CodedCharSetId パラメーターが有効ではありません。パラメーター・ポインターが無効か、または読み取り専用ストレージを指しています。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パラメーターを修正してください。

2331 (091B) (RC2331): MQRC_MSG_TOKEN_ERROR

説明

選択基準としてメッセージ・トークンを使用したメッセージ検索を行う MQGET 呼び出しが発行されましたが、MQGMO_WAIT または MQGMO_SET_SIGNAL のいずれかとともに MQMO_MATCH_MSG_TOKEN が指定されたため、指定されたオプションが無効です。

選択基準としてメッセージ・トークンを使用したメッセージ検索を行う非同期コンシューマーが登録されましたが、このコンシューマーのメッセージの配信が開始したとき、メッセージ・トークンと一致するメッセージをコンシューマーに配信できませんでした。その結果、コンシューマーは中断されています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

この理由コードが MQGET 呼び出しから戻される場合、MQMO_MATCH_MSG_TOKEN 一致オプションを除去するか、MQGMO_WAIT、または指定された MQGMO_SET_SIGNAL オプションを除去します。

この理由コードが非同期コンシューム・イベント・ハンドラーに戻される場合、コンシュームは中断され、メッセージがコンシューマーに配信されなくなります。コンシューマーを登録解除するか、MQCB 呼び出しを使って別のメッセージを選択するよう変更する必要があります。

2332 (091C) (RC2332): MQRC_MISSING_WIH

Explanation

An MQPUT or MQPUT1 call was issued to put a message on a queue with an **IndexType** attribute that had the value MQIT_MSG_TOKEN, but the **Format** field in the MQMD was not MQFMT_WORK_INFO_HEADER. This error occurs only when the message arrives at the destination queue manager.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Modify the application to ensure that it places an MQWIH structure at the start of the message data, and sets the **Format** field in the MQMD to MQFMT_WORK_INFO_HEADER. Alternatively, change the **App1Type** attribute of the process definition used by the destination queue to be MQAT_WLM, and specify the required service name and service step name in its **EnvData** attribute.

2333 (091D) (RC2333): MQRC_WIH_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQWIH 構造体が含まれている。エラーとして、次のことが考えられます。

- *StrucId* フィールドが MQWIH_STRUC_ID でない。
- *Version* バージョンが MQWIH_VERSION_1 でない。
- *StrucLength* フィールドが MQWIH_LENGTH_1 でない。
- *CodedCharSetId* フィールドがゼロであるか、または無効な負の値です。
- 呼び出しの **BufferLength** パラメーターの値が小さすぎて、構造体を収容できない (構造体がメッセージの終わりを超えて拡張されている)。

 z/OS の場合、キューの **IndexType** 属性が MQIT_MSG_TOKEN であるのに、メッセージ・データが MQWIH 構造体で始まっていない場合にも、このエラーが発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。アプリケーションが CodedCharSetId フィールドを有効な値に設定していることを確認してください (注: MQCCSI_DEFAULT、MQCCSI_EMBEDDED、MQCCSI_Q_MGR、および MQCCSI_UNDEFINED は、このフィールドには無効です)。

 z/OS で、キューが MQIT_MSG_TOKEN の IndexType を保持する場合、メッセージ・データが MQWIH 構造体で開始されることを確認してください。

2334 (091E) (RC2334): MQRC_RFH_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、メッセージ・データに無効な MQRFH または MQRFH2 構造体が含まれています。エラーとして、次のことが考えられます。

- StrucId フィールドが MQRFH_STRUC_ID ではありません。
- Version フィールドが MQRFH_VERSION_1 (MQRFH) でも MQRFH_VERSION_2 (MQRFH2) でもありません。
- StrucLength フィールドに指定されている値が小さすぎて、構造体に可変長データを加えたものを構造体の末尾に含めることができません。
- CodedCharSetId フィールドがゼロであるか、または無効な負の値です。
- 呼び出しの **BufferLength** パラメーターの値が小さすぎて、構造体を収容できない (構造体がメッセージの終わりを越えて拡張されている)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。アプリケーションが CodedCharSetId フィールドを有効な値に設定していることを確認してください (注: MQCCSI_DEFAULT、MQCCSI_EMBEDDED、MQCCSI_Q_MGR、および MQCCSI_UNDEFINED は、このフィールドには無効です)。

2335 (091F) (RC2335): MQRC_RFH_STRING_ERROR

説明

MQRFH 構造体の NameValueString フィールドの内容が無効です。NameValueString は、以下の規則に忠実に従っていなければなりません。

- スtring は、1 つ以上の空白で区切られたゼロ個以上の名前/値のペアで構成する必要があります。この空白は有意ではありません。
- 名前または値に有意の空白が含まれている場合は、その名前または値を二重引用符で囲む必要があります。
- 名前または値それ自体に 1 つ以上の二重引用符が含まれている場合は、その名前または値を二重引用符で囲む必要があります、さらに、組み込まれている個々の二重引用符を二重にする必要があります。

- 名前または値には、区切り文字の役割を持つヌル以外のどの文字でも含めることができます。ヌルおよびそれに続く文字は、NameValueString に定義された長さまで無視されます。

次は有効な NameValueString です。

```
Famous_Words "The program displayed ""Hello World"""
```

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

メッセージを生成したアプリケーションを変更して、このアプリケーションが NameValueString フィールドに、規則に従ったデータを配置するようにします。StrucLength フィールドが正しい値に設定されていることを確認します。

2336 (0920) (RC2336): MQRC_RFH_COMMAND_ERROR

説明

メッセージに MQRFH 構造体が含まれていますが、NameValueString フィールドに含まれているコマンド名が無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

メッセージを生成したアプリケーションを変更して、NameValueString フィールドに有効なコマンド名が配置されるようにします。

2337 (0921) (RC2337): MQRC_RFH_PARM_ERROR

説明

メッセージに MQRFH 構造体が含まれていますが、NameValueString フィールドに含まれているパラメーター名は、指定されたコマンドには無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

メッセージを生成したアプリケーションを変更して、指定されたコマンドに有効なパラメーターのみが NameValueString フィールドに配置されるようにします。

2338 (0922) (RC2338): MQRC_RFH_DUPLICATE_PARM

説明

メッセージに MQRFH 構造体が含まれていますが、指定したコマンドにはパラメーターの出現は 1 回だけが有効であるのに、NameValueString フィールドには 2 回以上出現しています。含まれているパラメーター名は指定されたコマンドには無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

メッセージを生成したアプリケーションを変更して、このアプリケーションが NameValueString フィールドにパラメーターを 1 回のみ出現させるようにします。

2339 (0923) (RC2339): MQRC_RFH_PARM_MISSING

説明

メッセージに MQRFH 構造体が含まれていますが、NameValueString フィールドに指定されたコマンドには、存在しないパラメーターが必要です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

メッセージを生成したアプリケーションを変更して、指定されたコマンドに必要なすべてのパラメーターが NameValueString フィールドに配置されるようにします。

2340 (0924) (RC2340): MQRC_CHAR_CONVERSION_ERROR

Explanation

This reason code is returned by the Java MQQueueManager constructor when a required character-set conversion is not available. The conversion required is between two nonUnicode character sets.

This reason code occurs in the following environment: IBM MQ classes for Java on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Ensure that the National Language Resources component of the z/OS Language Environment is installed, and that conversion between the IBM-1047 and ISO8859-1 character sets is available.

2341 (0925) (RC2341): MQRC_UCS2_CONVERSION_ERROR

Explanation

This reason code is returned by the Java MQQueueManager constructor when a required character set conversion is not available. The conversion required is between the UTF-16 Unicode character set and the character set of the queue manager which defaults to IBM-500 if no specific value is available.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Ensure that the relevant Unicode conversion tables are available for the JVM.

z/OS For z/OS ensure that the Unicode conversion tables are available to the z/OS Language Environment. The conversion tables should be installed as part of the z/OS C/C++ optional feature. Refer to the *z/OS C/C++ Programming Guide* for more information about enabling UTF-16 conversions.

z/OS 2342 (0926) (RC2342): MQRC_DB2_NOT_AVAILABLE

Explanation

An MQOPEN, MQPUT1, or MQSET call, or a command, was issued to access a shared queue, but it failed because the queue manager is not connected to a Db2 subsystem. As a result, the queue manager is unable to access the object definition relating to the shared queue.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Configure the Db2 subsystem so that the queue manager can connect to it.

z/OS 2343 (0927) (RC2343): MQRC_OBJECT_NOT_UNIQUE

Explanation

An MQOPEN or MQPUT1 call, or a command, was issued to access a queue, but the call failed because the queue specified cannot be resolved unambiguously. There exists a shared queue with the specified name, and a nonshared queue with the same name.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

One of the queues must be deleted. If the queue to be deleted contains messages, use the MQSC command MOVE QLOCAL to move the messages to a different queue, and then use the command DELETE QLOCAL to delete the queue.

z/OS 2344 (0928) (RC2344): MQRC_CONN_TAG_NOT_RELEASED

Explanation

An MQDISC call was issued when there was a unit of work outstanding for the connection handle. For CICS, IMS, and RRS connections, the MQDISC call does not commit or back out the unit of work. As a

result, the connection tag associated with the unit of work is not yet available for reuse. The tag becomes available for reuse only when processing of the unit of work has been completed.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_WARNING

Programmer response

Do not try to reuse the connection tag immediately. If the MQCONN call is issued with the same connection tag, and that tag is still in use, the call fails with reason code MQRC_CONN_TAG_IN_USE.

2345 (0929) (RC2345): MQRC_CF_NOT_AVAILABLE

Explanation

An MQI call was issued to access a shared queue, but the call failed either because connectivity was lost to the coupling facility (CF) where the CF structure specified in the queue definition was allocated, or because allocation of the CF structure failed because there is no suitable CF to hold the structure, based on the preference list in the active CFRM policy.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

If connectivity was lost to the CF where the structure was allocated, and the queue manager has been configured to tolerate the failure and rebuild the structure, no action should be necessary. Otherwise, make available a coupling facility with one of the names specified in the CFRM policy, or modify the CFRM policy to specify the names of coupling facilities that are available.

2346 (092A) (RC2346): MQRC_CF_STRUC_IN_USE

Explanation

An MQI call or command was issued to operate on a shared queue, but the call failed because the coupling-facility structure specified in the queue definition is unavailable. The coupling-facility structure can be unavailable because a structure dump is in progress, or new connectors to the structure are currently inhibited, or an existing connector to the structure failed or disconnected abnormally and clean-up is not yet complete.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Typically, this is a temporary problem: wait for a while then retry the operation.

If the problem does not resolve itself, then connectivity problems experienced during the recovery of structures in the coupling facility could have occurred. In this case, restart the queue manager which

reported the error. Resolve all the connectivity problems concerning the coupling facility before restarting the queue manager.

2347 (092B) (RC2347): MQRC_CF_STRUC_LIST_HDR_IN_USE

Explanation

An MQGET, MQOPEN, MQPUT1, or MQSET call was issued to access a shared queue, but the call failed because the list header associated with the coupling-facility structure specified in the queue definition is temporarily unavailable. The list header is unavailable because it is undergoing recovery processing.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

The problem is temporary; wait a short while and then retry the operation.

2348 (092C) (RC2348): MQRC_CF_STRUC_AUTH_FAILED

Explanation

An MQOPEN or MQPUT1 call was issued to access a shared queue, but the call failed because the user is not authorized to access the coupling-facility structure specified in the queue definition.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Modify the security profile for the user identifier used by the application so that the application can access the coupling-facility structure specified in the queue definition.

2349 (092D) (RC2349): MQRC_CF_STRUC_ERROR

Explanation

An MQOPEN or MQPUT1 call was issued to access a shared queue, but the call failed because the coupling-facility structure name specified in the queue definition is not defined in the CFRM data set, or is not the name of a list structure.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Modify the queue definition to specify the name of a coupling-facility list structure that is defined in the CFRM data set.

Explanation

An MQCONN call was issued specifying one of the MQCNO_*_CONN_TAG_* options, but the call failed because the connection tag specified by ConnTag in MQCNO is being used by the queue manager for recovery processing, and this processing is delayed pending recovery of the coupling facility.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

The problem is likely to persist. Consult the system programmer to ascertain the cause of the problem.

説明

グローバル作業単位の内部で、他のグローバル作業単位に参加中の接続ハンドルを使用しようとした。異なる DTC トランザクションに関係するオブジェクトの間で、アプリケーションが接続ハンドルを渡すと、このことが起こり得ます。トランザクションの完了が非同期であるため、アプリケーションが最初のオブジェクトを完了してそのトランザクションをコミットした後でこのエラーが起きることがあります。

このエラーは、非トランザクション MQI 呼び出しの場合には起こりません。

この理由コードは、Windows および z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

オブジェクトのクラスに定義されている **MTS Transaction Support** 属性が正しく設定されているか確認します。必要な場合には、接続ハンドルが別の作業単位内で実行中のオブジェクトによって使用されないようにアプリケーションを変更してください。

説明

グローバル作業単位の内部で、キュー・マネージャーが調整するローカル作業単位に参加中の接続ハンドルを使用しようとした。アプリケーションがオブジェクト間で接続ハンドルを渡すとき、一方のオブジェクトが DTC トランザクションに関係しており、他方が関係していないという場合に、このことが起こり得ます。

このエラーは、非トランザクション MQI 呼び出しの場合には起こりません。

この理由コードは、Windows および z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

オブジェクトのクラスに定義されている **MTS Transaction Support** 属性が正しく設定されているか確認します。必要な場合には、接続ハンドルが別の作業単位内で実行中のオブジェクトによって使用されないようにアプリケーションを変更してください。

Windows 2353 (0931) (RC2353): MQRC_HANDLE_IN_USE_FOR_UOW

説明

作業単位の外で、グローバル作業単位に参加中の接続ハンドルを使用しようとしてしました。

アプリケーションがオブジェクト間で接続ハンドルを渡すとき、一方のオブジェクトが DTC トランザクションに関係しており、他方が関係していないという場合に、このエラーが起こり得ます。トランザクションの完了が非同期であるため、アプリケーションが最初のオブジェクトを完結してそのトランザクションをコミットした後でこのエラーが起きることがあり得ます。

トランザクションとともに作成され、またトランザクションに関連付けられた単一オブジェクトが、実行中にその関連を失った場合にも、このエラーが起こり得ます。DTC が MTS とは独立してそのトランザクションを終了したときに、関連が失われます。この終了は、トランザクションがタイムアウトになったか、または DTC がシャットダウンされたためである可能性があります。

このエラーは、非トランザクション MQI 呼び出しの場合には起こりません。

この理由コードは、Windows でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

オブジェクトのクラスに定義されている MTS Transaction Support 属性が正しく設定されているか確認します。必要な場合には、別の作業単位内で実行中のオブジェクトが同じ接続ハンドルの使用を試行しないようにアプリケーションを変更してください。

Windows 2354 (0932) (RC2354): MQRC_UOW_ENLISTMENT_ERROR

説明

この理由コードはさまざまな理由で発生する可能性があり、Windows でのみ発生します。

最も可能性の高い理由は、DTC トランザクションによって作成されたオブジェクトが、DTC トランザクションがタイムアウトになるまでトランザクション MQI 呼び出しを発行しないことです。(トランザクションの MQI 呼び出しが発行された後に DTC トランザクションがタイムアウトになっても、MQI 呼び出しの失敗によって理由コード MQRC_HANDLE_IN_USE_FOR_UOW が戻されます。)

MQRC_UOW_ENLISTMENT_ERROR が発生した別の原因は、正しくないインストールです。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

Windows の場合は、DTC Transaction timeout 値を確認します。必要に応じて、Windows のインストール順序を確認します。

Windows 2355 (0933) (RC2355): MQRC_UOW_MIX_NOT_SUPPORTED

説明

この理由コードは、IBM WebSphere MQ 5.2 の前にキュー・マネージャーのバージョンを実行しているときに、Windows で発生します。

Windows Windows では、以下の説明が該当することがあります。

- 作業単位内で操作を実行するためにアプリケーションによって使用される呼び出しの混用がサポートされていません。特に、同一プロセス内で、キュー・マネージャーによって調整されているローカル作業単位と、DTC (分散トランザクション・コーディネーター) によって調整されているグローバル作業単位と混用することはできません。
- パッケージの一部のオブジェクトが DTC によって調整されており、その他のオブジェクトがそうではない場合に、アプリケーションによってこの混用が引き起こされる場合があります。また、MTS クライアントからのトランザクション MQI 呼び出しがライブラリー・パッケージ・トランザクション MTS オブジェクトからのトランザクション呼び出しと混用されている場合にも起こり得ます。
- すべてのトランザクション MQI 呼び出しがトランザクション MTS オブジェクトから発生しているか、またはすべてのトランザクション MQI 呼び出しが非トランザクション MTS オブジェクトから発生している場合には、問題は起こりません。しかし、混用スタイルが使用されている場合、最初に使用されるスタイルが作業単位のスタイルを固定し、同じ処理内で続けて他方のスタイルを使用しようとすると失敗して理由コード MQRC_UOW_MIX_NOT_SUPPORTED が戻されます。
- アプリケーションが 2 度実行されると、オペレーティング・システム内のスケジュール要素としては、一方の実行でキュー・マネージャー調整のトランザクション呼び出しが失敗する可能性があり、他方の実行で DTC 調整のトランザクション呼び出しが失敗する可能性があるということを意味します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

Windows Windows の場合は、オブジェクトのクラスに定義されている MTS Transaction Support 属性が正しく設定されているか確認します。必要に応じて、別の作業単位内で実行されるオブジェクトが同じ接続ハンドルの使用を試行しないようにアプリケーションを変更してください。

2356 (0934) (RC2356): MQRC_WXP_ERROR

説明

チェーン内の次のレコードのアドレスを取得するために、クラスター・ワークロード出口から MQXCLWLN 呼び出しが発行されましたが、以下のいずれかの理由により、ワークロード出口パラメーター構造体 ExitParms が無効です。

- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- StrucId フィールドが MQWXP_STRUC_ID ではありません。
- Version フィールドが MQWXP_VERSION_2 ではありません。
- CacheContext フィールドには、キュー・マネージャーによって出口に渡される値は含まれません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ExitParms に指定するパラメーターが、出口の呼び出し時に出口に渡された MQWXP 構造体であることを確認してください。

2357 (0935) (RC2357): MQRC_CURRENT_RECORD_ERROR

説明

チェーン内の次のレコードのアドレスを取得するために、クラスター・ワークロード出口から MQXCLWLN 呼び出しが発行されましたが、**CurrentRecord** パラメーターによって指定されたアドレスが有効なレコードのアドレスではありません。CurrentRecord はクラスター・キャッシュ内にある宛先レコード (MQWDR)、キュー・レコード (MQWQR)、またはクラスター・レコード (MQWCR) でなければなりません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

クラスター・ワークロード出口がクラスター・キャッシュにある有効なレコードのアドレスを渡していることを確認します。

2358 (0936) (RC2358): MQRC_NEXT_OFFSET_ERROR

説明

チェーン内の次のレコードのアドレスを取得するために、クラスター・ワークロード出口から MQXCLWLN 呼び出しが発行されましたが、**NextOffset** パラメーターによって指定されたオフセットが有効ではありません。NextOffset は、以下のフィールドのいずれかの値でなければなりません。

- MQWDR の ChannelDefOffset フィールド
- MQWDR の ClusterRecOffset フィールド
- MQWQR の ClusterRecOffset フィールド
- MQWCR の ClusterRecOffset フィールド

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

NextOffset パラメーターに指定されている値が、リストされているフィールドのいずれかの値であることを確認します。

2359 (0937) (RC2359): MQRC_NO_RECORD_AVAILABLE

説明

チェーン内の次のレコードのアドレスを取得するために、クラスター・ワークロード出口から MQXCLWLN 呼び出しが発行されましたが、現行レコードがチェーン内の最後のレコードです。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

なし。

2360 (0938) (RC2360): MQRC_OBJECT_LEVEL_INCOMPATIBLE

Explanation

An MQOPEN or MQPUT1 call, or a command, was issued, but the definition of the object to be accessed is not compatible with the queue manager to which the application has connected. The object definition was created or modified by a different version of the queue manager.

If the object to be accessed is a queue, the incompatible object definition could be the object specified, or one of the object definitions used to resolve the specified object (for example, the base queue to which an alias queue resolves, or the transmission queue to which a remote queue or queue manager alias resolves).

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

The application must be run on a queue manager that is compatible with the object definition. .

2361 (0939) (RC2361): MQRC_NEXT_RECORD_ERROR

説明

チェーン内の次のレコードのアドレスを取得するために、クラスター・ワークロード出口から MQXCLWLN 呼び出しが発行されましたが、**NextRecord** パラメーターに指定されたアドレスが、ヌル、無効、あるいは読み取り専用記憶域のアドレスのいずれかです。(無効なパラメーター・ポインタを必ず検出できるわけではありません。 検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

NextRecord パラメーターに対して有効なアドレスを指定してください。

2362 (093A) (RC2362): MQRC_BACKOUT_THRESHOLD_REACHED

説明

この理由コードは、MQDLH 構造体の Reason フィールド、またはレポート・メッセージの MQMD の Feedback フィールドでのみ発行されます。

JMS ConnectionConsumer は、キューのバックアウトしきい値を超えるメッセージを検出しました。キューには、バックアウト・リキュー・キューが定義されていないため、そのメッセージは MQMD の Report フィールドの後処理オプションの指定に従って処理されました。

BackoutThreshold および **BackoutQueueName** キュー属性をサポートしないキュー・マネージャーの場合、JMS ConnectionConsumer はバックアウトしきい値として値 20 を使用します。メッセージの

BackoutCount がこのしきい値に達すると、メッセージは後処理オプションの指定に従って処理されます。

Report フィールドで MQRO_EXCEPTION_* オプションのいずれかを指定した場合、この理由コードがレポート・メッセージの Feedback フィールドに表示されます。Report フィールドで MQRO_DEAD_LETTER_Q を指定するか、または後処理レポート・オプションがデフォルトのままになっている場合、この理由コードが MQDLH の Reason フィールドに示されます。

完了コード

なし

プログラマー応答

バックアウト・カウントがしきい値より大きくなる原因を調べます。それを訂正するには、関係するキューのバックアウト・キューを定義してください。

2363 (093B) (RC2363): MQRC_MSG_NOT_MATCHED

説明

この理由コードは、MQDLH 構造体の Reason フィールド、またはレポート・メッセージの MQMD の Feedback フィールドでのみ発行されます。

Point-to-Point メッセージングを実行している間に、JMS は、キューをモニターする ConnectionConsumers のセレクトアがないことを示すメッセージを受け取りました。パフォーマンスを維持するため、そのメッセージは MQMD の Report フィールドの後処理オプションの指定に従って処理されました。

Report フィールドで MQRO_EXCEPTION_* オプションのいずれかを指定した場合、この理由コードがレポート・メッセージの Feedback フィールドに表示されます。Report フィールドで MQRO_DEAD_LETTER_Q を指定するか、または後処理レポート・オプションがデフォルトのままになっている場合、この理由コードが MQDLH の Reason フィールドに示されます。

完了コード

なし

プログラマー応答

これを修正するには、キューをモニターする ConnectionConsumers がセレクトアの完全なセットを提供していることを確認します。あるいは、メッセージを保つように QueueConnectionFactory を設定します。

2364 (093C) (RC2364): MQRC_JMS_FORMAT_ERROR

説明

この理由コードは、以下のいずれかを使用する JMS アプリケーションによって生成されます。

- ConnectionConsumers
- アクティベーション・スペック
- WebSphere Application Server リスナー・ポート

もう 1 つの条件として、IBM MQ メッセージング・プロバイダー移行モードを使用して IBM MQ キュー・マネージャーに接続します。

IBM MQ classes for JMS が解析できないメッセージを検出した場合 (例えば、メッセージに無効な RFH2 ヘッダーが含まれる)、メッセージの MQMD 内の Report フィールドの後処理オプションの指定に従ってメッセージが処理されます。

Report フィールドで MQRO_EXCEPTION_* オプションのいずれかを指定した場合、この理由コードがレポート・メッセージの Feedback フィールドに表示されます。Report フィールドで MQRO_DEAD_LETTER_Q を指定するか、または後処理レポート・オプションがデフォルトのままになっている場合、この理由コードが MQDLH の Reason フィールドに示されます。

完了コード

なし

プログラマー応答

メッセージの発信元を調べてください。

2365 (093D) (RC2365): MQRC_SEGMENTS_NOT_SUPPORTED

Explanation

An MQPUT call was issued to put a segment of a logical message, but the queue on which the message is to be placed has an IndexType of MQIT_GROUP_ID. Message segments cannot be placed on queues with this index type.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Modify the application to put messages that are not segments; ensure that the MQMF_SEGMENT and MQMF_LAST_SEGMENT flags in the MsgFlags field in MQMD are not set, and that the Offset is zero. Alternatively, change the index type of the queue.

2366 (093E) (RC2366): MQRC_WRONG_CF_LEVEL

Explanation

An MQOPEN, MQPUT, or MQPUT1 call was issued specifying a shared queue, but the queue requires a coupling-facility structure with a different level of capability.

For example an MQPUT or MQPUT1 call was issued with a message that was bigger than 63 KB in length, and the shared queue was using an IBM MQ CFSTRUCT with a CFLEVEL of less than 4.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Ensure that the coupling-facility structure used for the queue is at the level required to support the capabilities that the queue provides.

You can use the DISPLAY CFSTRUCT command to display the level, and ALTER CFSTRUCT() CFLEVEL() command to modify the level; see [The MQSC commands](#).

2367 (093F) (RC2367): MQRC_CONFIG_CREATE_OBJECT

説明

この状態は、オブジェクトが作成される場合に検出されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [169 ページの『オブジェクトの作成』](#)の識別にのみ使用されます。

2368 (0940) (RC2368): MQRC_CONFIG_CHANGE_OBJECT

説明

この状態は、オブジェクトが変更される場合に検出されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [136 ページの『オブジェクトの変更』](#)の識別にのみ使用されます。

2369 (0941) (RC2369): MQRC_CONFIG_DELETE_OBJECT

説明

この状態は、オブジェクトが削除される場合に検出されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [180 ページの『オブジェクトの削除』](#)の識別にのみ使用されます。

2370 (0942) (RC2370): MQRC_CONFIG_REFRESH_OBJECT

説明

この状態は、オブジェクトが更新される場合に検出されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [214 ページ](#)の『オブジェクトのリフレッシュ』の識別にのみ使用されます。

2371 (0943) (RC2371): MQRC_CHANNEL_SSL_ERROR

説明

この状態は、TLS キー交換または認証の失敗のために接続が確立できない場合に検出されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [152 ページ](#)の『チャンネル SSL エラー』の識別にのみ使用されます。

2373 (0945) (RC2373): MQRC_CF_STRUC_FAILED

Explanation

An MQI call or command was issued to access a shared queue, but the call failed because the coupling-facility structure used for the shared queue had failed.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Report the problem to the operator or administrator, who should use the MQSC command RECOVER CFSTRUCT to initiate recovery of the coupling-facility structure, unless automatic recovery has been enabled for the structure.

2374 (0946) (RC2374): MQRC_API_EXIT_ERROR

説明

API 出口機能が無効な応答コードを戻したか、または他の何らかの理由で失敗しました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

出口のロジックを調べ、出口が MQAXP 構造体の ExitResponse フィールドまたは ExitResponse2 フィールドに有効な値を返すことを確認してください。FFST レコードを調べて問題の詳細情報があるか確認してください。

ALW

2375 (0947) (RC2375): MQRC_API_EXIT_INIT_ERROR

説明

API 出口機能のための実行環境の初期設定中に、キュー・マネージャーでエラーが発生しました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

問題についての詳しい情報を得るために、FFST レコードを調べてください。

ALW

2376 (0948) (RC2376): MQRC_API_EXIT_TERM_ERROR

説明

API 出口機能のための実行環境の終了中に、キュー・マネージャーでエラーが発生しました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

問題についての詳しい情報を得るために、FFST レコードを調べてください。

ALW

2377 (0949) (RC2377): MQRC_EXIT_REASON_ERROR

説明

API 出口機能によって MQXEP 呼び出しが発行されましたが、**ExitReason** パラメーターに指定された値が無効か、または指定された機能 ID Function でサポートされていません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

Function に指定された値に対して有効な値を ExitReason に指定するよう、出口機能を変更してください。

ALW

2378 (094A) (RC2378): MQRC_RESERVED_VALUE_ERROR

説明

API 出口機能によって MQXEP 呼び出しが発行されましたが、**Reserved** パラメーターに指定された値が無効です。値はヌル・ポインターでなければなりません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

Reserved パラメーターの値としてヌル・ポインターを指定するよう出口を変更してください。

Multi

2379 (094B) (RC2379): MQRC_NO_DATA_AVAILABLE

説明

この理由コードは、サービス・コンポーネントの呼び出し側に戻す権限データが存在しない場合に、MQZ_ENUMERATE_AUTHORITY_DATA インストール可能サービス・コンポーネントから戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

なし。

ALW

2380 (094C) (RC2380): MQRC_SCO_ERROR

説明

MQCONNX 呼び出しにおいて、MQSCO 構造体が無効であり、その理由は次のいずれかです。

- *StrucId* フィールドが MQSCO_STRUC_ID でない。
- *Version* フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQSCO 構造体の定義を訂正してください。

ALW

2381 (094D) (RC2381): MQRC_KEY_REPOSITORY_ERROR

説明

MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しにおいて、キー・リポジトリの位置が指定されていないか、無効か、あるいはそれを使用してキー・リポジトリにアクセスするとエラーが発生します。

キー・リポジトリの位置は、次のいずれかによって指定されます。

- クライアント構成ファイルの SSL スタンザ内の **SSLKeyRepository** プロパティの値 (MQCONN または MQCONNX 呼び出し)。または、
- MQSSLKEYR 環境変数 (MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出し)
- MQSCO 構造体の KeyRepository フィールドの値 (MQCONNX 呼び出しの場合のみ)。

MQCONNX 呼び出しで MQSSLKEYR と KeyRepository の両方が指定されている場合、後者が使用されます。

この理由コードは、鍵リポジトリにアクセスするためのパスフレーズが指定されていないか、正しくないか、または暗号化解除できない場合にも発生することがあります。詳しくは、[IBM MQ MQI client on AIX, Linux, and Windows の鍵リポジトリ・パスワードの提供](#)を参照してください。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

鍵リポジトリに有効なロケーションが指定されていることを確認してください。

クライアント・エラー・ログで、エラーの原因を示すメッセージを確認してください。

エラー・ログに鍵リポジトリ・パスフレーズが正しくないことが示されている場合は、正しい鍵リポジトリ・パスフレーズが指定されていること、または鍵リポジトリ・スタッシュ・ファイルが存在し、アプリケーションを実行しているユーザー ID によって読み取り可能であることを確認してください。

鍵リポジトリ・パスフレーズが暗号化され、パスフレーズの暗号化時に **runmqicred** ユーティリティーに初期鍵が指定された場合は、パスフレーズの暗号化に使用される初期鍵がアプリケーションによって指定されていることを確認してください。

ALW

2382 (094E) (RC2382): MQRC_CRYPTO_HARDWARE_ERROR

説明

MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しにおいて、暗号ハードウェアの構成ストリングが無効か、またはそれを使用して暗号ハードウェアを構成するとエラーが発生します。構成ストリングは、次のいずれかによって指定されます。

- MQSSLCRYP 環境変数 (MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出し)
- MQSCO 構造体の CryptoHardware フィールドの値 (MQCONNX 呼び出しの場合のみ)。

MQCONNX 呼び出しで MQSSLCRYP と CryptoHardware の両方が指定されている場合、後者が使用されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

暗号ハードウェアに有効な構成ストリングを指定してください。

ALW

2383 (094F) (RC2383): MQRC_AUTH_INFO_REC_COUNT_ERROR

説明

MQCONNX 呼び出しにおいて、MQSCO 構造体の AuthInfoRecCount フィールドに、0 より小さい値が指定されています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

AuthInfoRecCount に、ゼロ以上の値を指定してください。

ALW

2384 (0950) (RC2384): MQRC_AUTH_INFO_REC_ERROR

説明

MQCONNX 呼び出しにおいて、MQSCO 構造体に MQAIR レコードのアドレスが正確に指定されていません。次のいずれかが当てはまります。

- AuthInfoRecCount はゼロより大きい、AuthInfoRecOffset がゼロであり、AuthInfoRecPtr がヌル・ポインターである。
- AuthInfoRecOffset がゼロではなく、AuthInfoRecPtr がヌル・ポインターでない。
- AuthInfoRecPtr が無効なポインターである。
- AuthInfoRecOffset または AuthInfoRecPtr が、アクセス不可能なストレージを指している。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

AuthInfoRecOffset または AuthInfoRecPtr の一方がゼロで、もう一方がゼロ以外の数値になるようにする。使用しているフィールドがアクセス可能なストレージを指していることを確認します。

ALW

2385 (0951) (RC2385): MQRC_AIR_ERROR

説明

MQCONNX 呼び出しで、MQAIR レコードが無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQAIR_STRUC_ID でない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQAIR レコードの定義を訂正します。

ALW

2386 (0952) (RC2386): MQRC_AUTH_INFO_TYPE_ERROR

説明

MQCONNX 呼び出しで、MQAIR レコードの *AuthInfoType* フィールドに無効な値が指定されています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

AuthInfoType に MQAIT_CRL_LDAP を指定してください。

ALW

2387 (0953) (RC2387): MQRC_AUTH_INFO_CONN_NAME_ERROR

説明

MQCONNX 呼び出しで、MQAIR レコードの AuthInfoConnName フィールドに無効な値が指定されています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効な接続名を指定してください。

2388 (0954) (RC2388): MQRC_LDAP_USER_NAME_ERROR

説明

MQCONNX 呼び出しで、MQAIR レコードの LDAP ユーザー名が正しく指定されていません。次のいずれかが当てはまります。

- LDAPUserNameLength はゼロより大きいですが、LDAPUserNameOffset がゼロであり、LDAPUserNamePtr がヌル・ポインターである。
- LDAPUserNameOffset がゼロではなく、LDAPUserNamePtr がヌル・ポインターでない。
- LDAPUserNamePtr が無効なポインターである。
- LDAPUserNameOffset または LDAPUserNamePtr が、アクセス不可能なストレージを指している。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

LDAPUserNameOffset または LDAPUserNamePtr の一方がゼロで、もう一方がゼロ以外の数値になるようにする。使用しているフィールドがアクセス可能なストレージを指していることを確認します。

2389 (0955) (RC2389): MQRC_LDAP_USER_NAME_LENGTH_ERR

説明

MQCONNX 呼び出しで、MQAIR レコードの LDAPUserNameLength フィールドにゼロより小さい値が指定されています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

LDAPUserNameLength に、ゼロ以上の値を指定してください。

2390 (0956) (RC2390): MQRC_LDAP_PASSWORD_ERROR

説明

MQCONNX 呼び出しで、MQAIR レコードの LDAPPassword フィールドに値が指定されていますが、このフィールドには値を指定できません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ブランクまたはヌルの値を指定してください。

ALW 2391 (0957) (RC2391): MQRC_SSL_ALREADY_INITIALIZED

説明

MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しが発行されましたが、既にそのキュー・マネージャーには接続されています。以下の 3 つの理由のいずれか 1 つのために、接続の TLS オプション間に競合が発生しています。

- TLS 構成オプションが、最初の接続と 2 番目の接続間で異なっている。
- 既存の接続は TLS 構成オプションなしで指定されていたが、2 番目の接続では TLS 構成オプションが指定された。
- 既存の接続は TLS 構成オプション付きで指定されていたが、2 番目の接続では TLS 構成オプションが指定されなかった。

キュー・マネージャーとの接続は正常に完了しましたが、呼び出しに指定された TLS 構成オプションは無視されました。その代わりに、既存の TLS 環境が使用されました。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しで TLS 構成オプションを定義してアプリケーションを実行する必要がある場合は、MQDISC 呼び出しを使用してキュー・マネージャーとの接続を切断し、アプリケーションを終了してください。あるいは、後で TLS 環境が初期設定されていない時点で、アプリケーションを実行してください。

ALW 2392 (0958) (RC2392): MQRC_SSL_CONFIG_ERROR

説明

MQCONNX 呼び出しで、MQCNO 構造体は MQSCO 構造体を正しく指定していません。次のいずれかが当てはまります。

- SSLConfigOffset がゼロではなく、SSLConfigPtr がヌル・ポインターでない。
- SSLConfigPtr が無効なポインターである。
- SSLConfigOffset または SSLConfigPtr が、アクセス不可能なストレージを指している。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

SSLConfigOffset または SSLConfigPtr の一方がゼロで、もう一方がゼロ以外の数値になるようにする。使用しているフィールドがアクセス可能なストレージを指していることを確認します。

2393 (0959) (RC2393): MQRC_SSL_INITIALIZATION_ERROR

説明

TLS 構成オプションが指定された MQCONN または MQCONNX 呼び出しが発行されましたが、TLS 環境の初期化中にエラーが発生しました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

TLS のインストールが正しいことを確認してください。

詳細については、エラー・ログを調べてください。

2394 (095A) (RC2394): MQRC_Q_INDEX_TYPE_ERROR

Explanation

An MQGET call was issued specifying one or more of the following options:

- MQGMO_ALL_MSGS_AVAILABLE
- MQGMO_ALL_SEGMENTS_AVAILABLE
- MQGMO_COMPLETE_MSG
- MQGMO_LOGICAL_ORDER

but the call failed because the queue is not indexed by group identifier. These options require the queue to have an **IndexType** of MQIT_GROUP_ID.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Redefine the queue to have an **IndexType** of MQIT_GROUP_ID. Alternatively, modify the application to avoid using the options listed.

2395 (095B) (RC2395): MQRC_CFBS_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQCFBS 構造体が含まれている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

2396 (095C) (RC2396): MQRC_SSL_NOT_ALLOWED

説明

TLS 暗号化を指定したキュー・マネージャーへの接続が要求されました。しかし、要求された接続モードでは TLS がサポートされていません (バインディング接続など)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

クライアント接続モードが要求されるか、または TLS 暗号化が使用不可になるよう、アプリケーションを変更します。

注: NULL 以外の設定を使用し、ブランクを含めると、接続の暗号化スイートのプロパティがこのエラーを引き起こすおそれもあります。

2397 (095D) (RC2397): MQRC_JSSE_ERROR

説明

JSSE はエラーを報告しました (TLS 暗号化を使用したキュー・マネージャーとの接続中、など)。この理由コードを含む MQException オブジェクトは、JSSE の送出する Exception を参照します。これは、MQException.getCause() メソッドを使用して取得できます。JMS から、MQException はスローされた JMSEException にリンクされます。

この理由コードは、Java アプリケーションの場合のみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

原因となった例外について調べて、JSSE エラーを判別してください。

2398 (095E) (RC2398): MQRC_SSL_PEER_NAME_MISMATCH

説明

アプリケーションは TLS 暗号化を使用してキュー・マネージャーに接続しようとしたましたが、キュー・マネージャーによって示された識別名が、指定されたパターンと一致しません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー・マネージャーの識別で使用する証明書を調べてください。また、アプリケーションによって指定されている **sslPeerName** プロパティの値も調べてください。

2399 (095F) (RC2399): MQRC_SSL_PEER_NAME_ERROR

説明

アプリケーションによって指定されたピア名の形式が正しくありませんでした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションによって指定されている **sslPeerName** プロパティの値を調べてください。

2400 (0960) (RC2400): MQRC_UNSUPPORTED_CIPHER_SUITE

説明

TLS 暗号化を指定したキュー・マネージャーへの接続が要求されました。しかし、アプリケーションで指定されている CipherSuite はサポートされていないことが JSSE によって報告されました。

この理由コードは、Java アプリケーションの場合のみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションによって指定されている CipherSuite を調べてください。JSSE CipherSuite の名前は、キュー・マネージャーで使用される同等の CipherSpec とは異なることに注意してください。

また、JSSE が正しくインストールされているかどうかを調べてください。

2401 (0961) (RC2401): MQRC_SSL_CERTIFICATE_REVOKED

説明

TLS 暗号化を指定したキュー・マネージャーへの接続が要求されました。しかし、キュー・マネージャーによって示された証明書は、指定された CertStore の 1 つによって取り消されていました。

この理由コードは、Java アプリケーションの場合のみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー・マネージャーの識別で使用する証明書を調べてください。

2402 (0962) (RC2402): MQRC_SSL_CERT_STORE_ERROR

説明

TLS 暗号化を指定したキュー・マネージャーへの接続が要求されました。しかし、アプリケーションによって提供される CertStore オブジェクトの中から、キュー・マネージャーによって示される証明書を検索することができませんでした。この理由コードを含む MQException オブジェクトは、最初の CertStore の検索時に検出される Exception を参照します。これは、MQException.getCause() メソッドを使用して取得できます。JMS から、MQException はスローされた JMSEException にリンクされます。

この理由コードは、Java アプリケーションの場合のみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

原因となった例外について調べて、元になったエラーを判別してください。アプリケーションによって提供されている CertStore オブジェクトを調べてください。原因となった例外が java.lang.NoSuchElementException である場合、アプリケーションで CertStore オブジェクトの空のコレクションを指定していないことを確認してください。

2406 (0966) (RC2406): MQRC_CLIENT_EXIT_LOAD_ERROR

説明

指定された共有ライブラリーが見つからないか、指定されたエン트리・ポイントが見つからないため、クライアント接続に必要な外部ユーザー出口をロードできません。

この理由コードは、Java アプリケーション **V9.4.0** および .NET アプリケーションでのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

正しいライブラリーが指定されていること、およびマシン環境のパス変数に関連ディレクトリーが指定されていることを確認します。エン트리・ポイントが正しく指定されていること、および指定されたライブラリーがそれをエクスポートしていることも確認してください。

2407 (0967) (RC2407): MQRC_CLIENT_EXIT_ERROR

説明

クライアント接続のための非 Java ユーザー出口の実行中に障害が発生しました。

この理由コードは、Java 以外の出口を使用する Java アプリケーションでのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

非 Java ユーザー出口が、受け渡されている該当パラメーターおよびメッセージを使用できること、エラー状態を処理できること、および出口に必要な情報 (ユーザー・データなど) が正しく、使用可能であることを確認してください。

2409 (0969) (RC2409): MQRC_SSL_KEY_RESET_ERROR

説明

MQCONN または MQCONNX 呼び出しで、TLS キー・リセット・カウンターの値が 0 から 999 999 999 までの有効範囲内がない。

TLS キー・リセット・カウンターの値は、MQSSLRESET 環境変数の値 (MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出し)、あるいは MQSCO 構造体の KeyResetCount フィールドの値 (MQCONNX 呼び出しのみ) のいずれかにより指定されます。MQCONNX 呼び出しで MQSSLRESET と KeyResetCount の両方が指定されている場合、後者が使用されます。MQCONN または MQCONNX

TLS 秘密鍵のリセット・カウン터를 1 バイトから 32 キロバイトの範囲で指定する場合、TLS チャネルは 32 キロバイトの秘密鍵リセット・カウンターを使用します。これは、TLS 秘密鍵リセット値が小さいと鍵リセットが多くなりすぎてオーバーヘッドが発生するので、それを回避するためです。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドと MQSSLRESET 環境変数が正しく設定されているかどうかを調べてください。

2411 (096B) (RC2411): MQRC_LOGGER_STATUS

説明

ロガー・イベントが発生すると、この状態が検出されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [185 ページ](#)の『[ロガー](#)』の識別にのみ使用されます。

2412 (096C) (RC2412): MQRC_COMMAND_MQSC

説明

MQSC コマンドが実行されると、この状態が検出されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [161 ページ](#)の『[コマンド](#)』の識別にのみ使用されます。

2413 (096D) (RC2413): MQRC_COMMAND_PCF

説明

PCF コマンドが実行されると、この状態が検出されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [161 ページの『コマンド』](#)の識別にのみ使用されます。

2414 (096E) (RC2414): MQRC_CFIF_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQCFIF 構造体が含まれている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

2415 (096F) (RC2415): MQRC_CFSF_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQCFSF 構造体が含まれている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

2416 (0970) (RC2416): MQRC_CFGR_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQCFGR 構造体が含まれている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

2417 (0971) (RC2417): MQRC_MSG_NOT_ALLOWED_IN_GROUP

エラーの説明、完了コード、およびプログラマー応答を示します。

説明

グループへのメッセージの書き込みのために MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、このメッセージをグループに書き込むことは無効です。無効なメッセージの例は、Type が MQCFT_TRACE_ROUTE である PCF メッセージなどです。

パブリッシュ/サブスクライブでは、グループ化されたメッセージやセグメント化されたメッセージは使用できません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

グループから無効なメッセージを除去してください。

2418 (0972) (RC2418): MQRC_FILTER_OPERATOR_ERROR

説明

指定された **Operator** パラメーターが無効です。

入力変数である場合、値がいずれかの MQCFOP_* 定数値ではありません。出力変数である場合、パラメーター・ポインターが無効であるか、読み取り専用記憶域を指しています。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パラメーターを修正してください。

2419 (0973) (RC2419): MQRC_NESTED_SELECTOR_ERROR

説明

mqAddBag 呼び出しが発行されましたが、矛盾するセレクターを含むデータ項目が、ネストされるバッグに含まれています。ネスト・バッグが追加されるバッグが MQCBO_CHECK_SELECTORS オプションを使用して作成された場合のみ、この理由コードが発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ネストされるバッグ内のすべてのデータ項目が、該当項目により暗黙指定されるデータ・タイプと矛盾しないセレクターを保持していることを確認してください。

2420 (0974) (RC2420): MQRC_EPH_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQEPH 構造体が含まれている。エラーとして、次のことが考えられます。

- StrucId フィールドが MQEPH_STRUC_ID でありません。
- Version フィールドが MQEPH_VERSION_1 ではありません。
- StrucLength フィールドに指定されている値が小さすぎて、構造体に可変長データを加えたものを構造体の末尾に含めることができません。
- CodedCharSetId フィールドがゼロであるか、または無効な負の値です。
- Flags フィールドに、MQEPH_* 値の無効な組み合わせが含まれています。
- 呼び出しの **BufferLength** パラメーターの値が小さすぎて構造体を収容できないため、構造体がメッセージの終わりを越えて拡張されています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。アプリケーションが CodedCharSetId フィールドに有効な値を設定していることを確認してください。MQCCSI_DEFAULT、MQCCSI_EMBEDDED、MQCCSI_Q_MGR、および MQCCSI_UNDEFINED は、このフィールドには無効です。

2421 (0975) (RC2421): MQRC_RFH_FORMAT_ERROR

説明

メッセージに MQRFH 構造体が含まれていますが、そのフォーマットが無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

IBM MQ 要求メッセージの RFH2 セクションのフォーマットを修正し、再試行してください。

2422 (0976) (RC2422): MQRC_CFBF_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQCFBF 構造体が含まれている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

2423 (0977) (RC2423): MQRC_CLIENT_CHANNEL_CONFLICT

説明

チャンネル名の判別のためのクライアント・チャンネル定義テーブル (CCDT) が指定されましたが、該当の名前は既に定義されています。

この理由コードは、Java アプリケーションの場合のみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

チャンネル名をブランクに変更して再試行してください。

2424 (0978) (RC2424): MQRC_SD_ERROR

説明

MQSUB 呼び出しで、サブスクリプション記述子が次のいずれかの理由で無効です。

- StrucId フィールドが MQSD_SCTRUC_ID でない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されている。
- パラメーター・ポインターが無効。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- 呼び出しが成功であっても、変更された構造体をキュー・マネージャーがアプリケーション・ストレージにコピーすることができない。例えば、ポインターが読み取り専用ストレージを指している場合にこれが発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQSD 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2425 (0979) (RC2425): MQRC_TOPIC_STRING_ERROR

説明

オブジェクト記述子 MQOD 中の MQOPEN または MQPUT1 呼び出し、またはサブスクリプション記述子 MQSD 中の MQSUB 呼び出しで、結果のフル・トピック・ストリングが無効です。

次のいずれかが当てはまります。

- ObjectName には、空のトピック・ストリングが含まれている TOPICSTR 属性を指定した TOPIC オブジェクトの名前が含まれています。
- 完全に解決されたトピック・ストリングにエスケープ文字 '%' が含まれており、後ろに文字 '*'、'?'、または '%' のいずれも続いておらず、MQSUB 呼び出しで MQSO_WILDCARD_CHAR オプションが使用されています。
- MQOPEN では、MQOD 構造体で指定された CCSID を使用して、変換を実行することはできません。
- IBM MQ マルチキャスト・メッセージングを使用しているときは、トピック・ストリングは 255 文字を超えます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ObjectString にも ObjectName にも無効なトピック・ストリング文字が含まれていないことを確認してください。

IBM MQ マルチキャスト・メッセージングを使用している場合、トピック・ストリングが 255 文字未満であることを確認してください。

2426 (097A) (RC2426): MQRC_STS_ERROR

説明

MQSTAT 呼び出しで、MQSTS 構造体が無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQSTS_STRUC_ID ではない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されている。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- 呼び出しが成功であっても、変更された構造体をキュー・マネージャーがアプリケーション・ストレージにコピーすることができない。例えば、ポインターが読み取り専用ストレージを指している場合にこれが発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQSTS 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2428 (097C) (RC2428): MQRC_NO_SUBSCRIPTION

説明

MQSO_RESUME オプションを使用して MQSUB 呼び出しが行われましたが、指定されているフル・サブスクリプション名が既存のどのサブスクリプションとも一致しません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

サブスクリプションが存在していること、およびフル・サブスクリプション名がアプリケーションに正しく指定されていることを確認してください。フル・サブスクリプション名は、接続時に MQCNO 構造体に指定されている ConnTag フィールド、および MQSUB 実行時に MQSD 構造体に指定されている SubName フィールドから作成されます。

2429 (097D) (RC2429): MQRC_SUBSCRIPTION_IN_USE

説明

MQSO_RESUME オプションを使用して MQSUB 呼び出しが行われましたが、指定されているフル・サブスクリプション名が使用中です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションでサブスクリプション名が正しく指定されていることを確認してください。サブスクリプション名は、MQSD 構造体の SubName フィールドで指定されます。

2430 (097E) (RC2430): MQRC_STAT_TYPE_ERROR

説明

STS パラメーターに、MQSTAT 呼び出しには無効なオプションが含まれています。この理由コードは、パラメーター・ポインターが無効な場合にも示されます。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

プログラマー応答

MQSTAT への呼び出しのパラメーターとして、有効な MQSTS 構造体を指定してください。

2431 (097F) (RC2431): MQRC_SUB_USER_DATA_ERROR

説明

サブスクリプション記述子 MQSD の MQSUB 呼び出しで、SubUserData フィールドが無効です。次のいずれかが当てはまります。

- SubUserData.VSLength はゼロより大きいですが、SubUserData.VSOffset がゼロで、SubUserData.VSPtr がヌル・ポインターである。
- SubUserData.VSOffset がゼロでなく、SubUserData.VSPtr がヌル・ポインターではない (つまり、片方しか使用できない場合に両方のフィールドが使用されている可能性がある)。
- SubUserData.VSPtr が無効ポインターである。
- SubUserData.VSOffset または SubUserData.VSPtr が、アクセス不可能なストレージを指している。
- SubUserData.VSLength が、このフィールドに使用できる最大長を超えている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

SubUserData.VS0ffset または SubUserData.VSPtr の一方がゼロであり、もう一方がゼロでないことを確認します。使用しているフィールドがアクセス可能なストレージを指していることを確認します。このフィールドに使用できる最大長を超えない長さを指定する。

2432 (0980) (RC2432): MQRC_SUB_ALREADY_EXISTS

説明

サブスクリプションを作成するために MQSO_CREATE オプションを使用して MQSUB 呼び出しが発行されましたが、同じ SubName と ObjectString を使用するサブスクリプションがすでに存在します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQSD 構造体の SubName および ObjectString の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。または、MQSO_RESUME オプションを使用して、すでに存在しているサブスクリプションのハンドルを取得してください。

2434 (0982) (RC2434): MQRC_IDENTITY_MISMATCH

説明

MQSO_FIXED_USERID オプションが設定されたサブスクリプションに対して、サブスクリプションの所有者として記録されているユーザー ID 以外のユーザー ID から、MQSO_RESUME または MQSO ALTER のいずれかを使用する MQSUB 呼び出しが出されました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

フル・サブスクリプション名を訂正して固有の名前にするか、既存のサブスクリプションを更新して複数の別のユーザー ID がそのサブスクリプションを使用できるようにしてください。そのためには、所有ユーザー ID の下で実行中のアプリケーションから MQSO_ANY_USERID オプションを使用します。

2435 (0983) (RC2435): MQRC_ALTER_SUB_ERROR

説明

MQSO_IMMUTABLE オプションを指定して作成されたサブスクリプションを、MQSO ALTER オプションを使用した MQSUB 呼び出しで変更しようとした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCLOSE を使用してサブスクリプションを除去し、正しい設定の属性を指定して、MQSUB でサブスクリプションを再作成してください。

2436 (0984) (RC2436): MQRC_DURABILITY_NOT_ALLOWED

説明

MQSO_DURABLE オプションを使用する MQSUB 呼び出しが失敗しました。これは、次のいずれかの理由で起こります。

- サブスクライブ先のトピックが **DURSUB(NO)** として定義されている。
- SYSTEM.DURABLE.SUBSCRIBER.QUEUE という名前のキューが使用できない。
- サブスクライブ先のトピックが、**MCAST(ONLY)** と **DURSUB(YES)** の両方として定義されている (または **DURSUB(ASPARENT)** および親が **DURSUB(YES)**)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

永続サブスクリプションは SYSTEM.DURABLE.SUBSCRIBER.QUEUE に保管されます。このキューが使用可能であるようにしてください。失敗の理由としては、キューが満杯である、キューが書き込み禁止になっている、キューが存在しない、などが考えられます。

 z/OS では、失敗の別の理由として、キューで使用するよう定義されているページ・セットが存在しないことが考えられます。

サブスクライブ先のトピックが **DURSUB(NO)** として定義されている場合は、**DURSUB(YES)** を使用するよう管理トピック・ノードを変更するか、または代わりに MQSO_NON_DURABLE オプションを使用します。

IBM MQ Multicast メッセージングを使用するときに、サブスクライブ先のトピックが **MCAST(ONLY)** として定義されている場合は、**DURSUB(NO)** を使用するようトピックを変更します。

2437 (0985) (RC2437): MQRC_NO_RETAINED_MSG

説明

トピックに対して MQSUBRQ 呼び出しが行われ、このトピックのすべての保存パブリケーションをサブスクライバーに送信するよう要求されました。しかし、このトピックに関して現在保存されている保存パブリケーションはありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

トピックに対するパブリッシャーのパブリケーションに保存のマークが付けられていること、このトピックに対してパブリケーションが行われていることを確認してください。

2438 (0986) (RC2438): MQRC_SRO_ERROR

説明

MQSUBRQ 呼び出しで、サブスクリプション要求オプション MQSRO が無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQSRO_STRUC_ID ではない。

- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- 呼び出しが成功であっても、変更された構造体をキュー・マネージャーがアプリケーション・ストレージにコピーすることができない。例えば、ポインターが読み取り専用ストレージを指している場合にこれが発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQSRO 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2440 (0988) (RC2440): MQRC_SUB_NAME_ERROR

説明

サブスクリプション記述子 MQSD の MQSUB 呼び出しで、SubName フィールドが無効であるか、または省略されている。このフィールドは、MQSD オプション MQSO_DURABLE を指定した場合は必須であるが、MQSO_DURABLE を指定しない場合にも使用できる。

次のいずれかが当てはまります。

- SubName.VSLength がゼロより大きい、SubName.VSOffset がゼロで、SubName.VSPtr がヌル・ポインターである。
- SubName.VSOffset がゼロでなく、SubName.VSPtr がヌル・ポインターではない(つまり、片方しか使用できない場合に両方のフィールドが使用されている可能性がある)。
- SubName.VSPtr が無効ポインターである。
- SubName.VSOffset または SubName.VSPtr が、アクセス不可能なストレージを指している。
- SubName.VSLength がゼロであるが、このフィールドは必須である。
- SubName.VSLength が、このフィールドに使用できる最大長を超えている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

SubName を指定し、SubName.VSLength をゼロ以外に必ずする。SubName.VSOffset または SubName.VSPtr の一方をゼロに、他方をゼロ以外に必ずする。使用しているフィールドがアクセス可能なストレージを指していることを確認します。このフィールドに使用できる最大長を超えない長さを指定する。

このコードは、sd.Options のフラグ MQSO_CREATE および MQSO_RESUME が一緒に設定され、sd.SubName が初期化されていないときに戻される場合がある。再開するサブスクリプションがない場合でも、sd.SubName に対して MQCHARV 構造体を初期化する必要もある。詳細については、[例 2: 管理 MQ サブスクライバー](#)を参照。

2441 (0989) (RC2441): MQRC_OBJECT_STRING_ERROR

説明

オブジェクト記述子 MQOD 中の MQOPEN または MQPUT1 呼び出しか、またはサブスクリプション記述子 MQSD 中の MQSUB 呼び出しで、ObjectString フィールドが無効です。

次のいずれかが当てはまります。

- ObjectString.VSLength はゼロより大きいが、ObjectString.VSOffset がゼロで、ObjectString.VSPtr がヌル・ポインターである。
- ObjectString.VSOffset がゼロでなく、ObjectString.VSPtr がヌル・ポインターではない (つまり、片方しか使用できない場合に両方のフィールドが使用されている可能性がある)。
- ObjectString.VSPtr が無効ポインターである。
- ObjectString.VSOffset または ObjectString.VSPtr が、アクセス不可能なストレージを指している。
- ObjectString.VSLength が、このフィールドに使用できる最大長を超えている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ObjectString.VSOffset または ObjectString.VSPtr の一方をゼロに、他方をゼロ以外に必ずする。使用しているフィールドがアクセス可能なストレージを指していることを確認します。このフィールドに使用できる最大長を超えない長さを指定する。

2442 (098A) (RC2442): MQRC_PROPERTY_NAME_ERROR

説明

無効な名前を指定してプロパティを設定しようとしてしました。次のいずれかの設定によって、このエラーが発生します。

- 名前に無効文字が含まれている。
- 名前が「JMS」または「usr.JMS」で始まっていて、JMS プロパティが認識されない。
- 名前は、小文字または大文字の任意の組み合わせで「mq」で始まり、「mq_usr」ではなく、複数の「mq」を含んでいます。文字 (U+002E)。複数の「.」文字は、それらの接頭部を持つプロパティでは許可されません。
- メッセージ・プロパティ名において、Unicode 基本多言語面より上の文字 (U+FFFF より上)、つまり UTF-16 の場合にサロゲート・コード・ポイント (X'D800' から X'DFFF' まで) で表わされる文字、または UTF-8 の場合 4 バイトで表わされる文字はサポートされていません。
- 名前が「NULL」、「TRUE」、「FALSE」、「NOT」、「AND」、「OR」、「BETWEEN」、「LIKE」、「IN」、「IS」、「ESCAPE」であるか、または、これらのキーワードのいずれかに「usr」という接頭部が付いたものである。
- 名前が「Body」または「Root」で始まっている (「Root.MQMD.」で始まる名前を除く)。
- A "." 文字の直後に別の「.」を続けることはできません。文字。
- "." 文字をプロパティ名の最後の文字にすることはできません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効なプロパティ名については、IBM MQ の資料に記述されています。メッセージのすべてのプロパティを必ず有効な名前にしてから、呼び出しを再発行してください。

2443 (098B) (RC2443): MQRC_SEGMENTATION_NOT_ALLOWED

説明

セグメント化されたメッセージまたはさらに小さいセグメントに分割できるメッセージ (MQMF_SEGMENTATION_ALLOWED) を書き込むために、MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されました。そのメッセージのメッセージ・データに、1 つ以上の MQ 定義プロパティが含まれていることが検出されました。MQ 定義プロパティは、セグメント化されたメッセージのメッセージ・データでは無効です。

IBM MQ マルチキャストは、セグメント化されたメッセージを使用できません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

無効なプロパティをメッセージ・データから除去するか、メッセージがセグメント化されないようにしてください。

2444 (098C) (RC2444): MQRC_CBD_ERROR

説明

MQCB 呼び出しで、MQCBD 構造体が次のいずれかの理由で無効です。

- StrucId フィールドが MQCBD_STRUC_ID でない。
- Version フィールドに、無効な、またはサポートされていない値が指定されている。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCBD 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2445 (098D) (RC2445): MQRC_CTLO_ERROR

説明

MQCTL 呼び出しで、MQCTLO 構造体が次のいずれかの理由で無効です。

- StrucId フィールドが MQCTLO_STRUC_ID でない。
- Version フィールドに、無効な、またはサポートされていない値が指定されている。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCTLO 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2446 (098E) (RC2446): MQRC_NO_CALLBACKS_ACTIVE

説明

MQOP_START_WAIT 操作を指定して MQCTL 呼び出しが行われましたが、現在定義されていて中断状態でないコールバックがないために戻りました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

登録済みの再開されたコンシューマー機能が少なくとも 1 つは存在することを確認してください。

2448 (0990) (RC2448): MQRC_CALLBACK_NOT_REGISTERED

説明

現在登録済みのコールバックがないオブジェクト・ハンドルに対して MQCB 呼び出しを発行しようとした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

コールバックがオブジェクト・ハンドルに対して登録されているようにしてください。

2449 (0991) (RC2449): MQRC_OPERATION_NOT_ALLOWED

説明

MQCTL 呼び出しが行われましたが、そこに指定された操作は、hConn での非同期コンシュームの現在の状態が原因で許可されません。

操作が MQOP_RESUME の場合、hConn の非同期コンシュームの状態が STOPPED であるため、この操作は許可されません。MQOP_START 操作を指定して MQCTL を再発行してください。

操作が MQOP_SUSPEND の場合、hConn の非同期コンシュームの状態が STOPPED であるため、この操作は許可されません。hConn を SUSPENDED 状態にする必要がある場合は、MQOP_START 操作を指定した MQCTL を発行し、続いて MQOP_SUSPEND を指定した MQCTL を発行します。

操作が MQOP_START の場合、hConn の非同期コンシュームの状態が SUSPENDED であるため、この操作は許可されません。MQOP_RESUME 操作を指定して MQCTL を再発行してください。

操作が MQOP_START_WAIT の場合、この操作が許可されない理由は次のいずれかです。

- hConn での非同期コンシュームの状態が SUSPENDED である。MQOP_RESUME 操作を指定して MQCTL を再発行してください。

- hConn での非同期コンシュームの状態がすでに STARTED になっている。1つのアプリケーション内で MQOP_START と MQOP_START_WAIT を混用しないでください。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

正しい操作を指定して MQCTL 呼び出しを再発行してください。

2457 (0999) (RC2457): MQRC_OPTIONS_CHANGED

説明

MQOO_READ_AHEAD を使用して開かれた (またはキューのデフォルト値によりその値に解決された) キュー・ハンドルに対する MQGET 呼び出しによって、複数の MQGET 呼び出し間で一貫している必要があるオプションが変更されました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

すべての必須 MQGET オプションを MQGET の呼び出し間で同じになるようにするか、キューを開くときに MQOO_NO_READ_AHEAD を使用してください。詳しくは、[MQGET オプションおよび先読み](#)を参照してください。

2458 (099A) (RC2458): MQRC_READ_AHEAD_MSGS

説明

MQCLOSE 呼び出しで、オプション MQCO_QUIESCE が使用されましたが、要求側アプリケーションより先にクライアントに送信されてアプリケーションでコンシュームされていないメッセージが、クライアントの先読みバッファにまだ保管されています。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

使用可能なメッセージがなくなるまでキュー・ハンドルを使用してメッセージのコンシュームを続けた後に MQCLOSE を再発行するか、あるいは、MQCO_IMMEDIATE オプションを指定した MQCLOSE 呼び出しを発行してそれらのメッセージの廃棄を選択してください。

2459 (099B) (RC2459): MQRC_SELECTOR_SYNTAX_ERROR

説明

MQOPEN、MQPUT1、または MQSUB 呼び出しが発行されましたが、構文エラーを含む選択ストリングが指定されていました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

[メッセージ・セレクター構文](#)を参照して、選択ストリングの指定規則に正しく準拠していることを確認してください。構文エラーを訂正し、エラーが発生した MQ API 呼び出しを再実行依頼してください。

2460 (099C) (RC2460): MQRC_HMSG_ERROR

説明

MQCRTMH、MQDLTMH、MQSETMP、MQINQMP、または MQDLT 呼び出しで、指定されたメッセージ・ハンドルが次のいずれかの理由で無効です。

- パラメーター・ポインターが無効であるか、または (MQCRTMH 呼び出しの場合) 読み取り専用ストレージを指している。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- 指定された値が、その前の MQCRTMH 呼び出しによって返されていない。
- 指定された値が、その前の MQDLTMH 呼び出しによって無効になった。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

接続のための MQCRTMH 呼び出しが正常に実行され、まだ MQDLTMH 呼び出しが実行されていないことを確認してください。ハンドルが有効な範囲内で使用されていることを確認してください。詳細については、[MQCRTMH - メッセージ・ハンドルの作成](#)を参照してください。

2461 (099D) (RC2461): MQRC_CMHO_ERROR

説明

MQCRTMH 呼び出しで、メッセージ・ハンドル・オプション作成構造体 MQCMHO が無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQCMHO_STRUC_ID ではない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCMHO 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2462 (099E) (RC2462): MQRC_DMHO_ERROR

説明

MQDLTMH 呼び出しで、メッセージ・ハンドル・オプション削除構造体 MQDMHO が無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQCMHO_STRUC_ID ではない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQDMHO 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2463 (099F) (RC2463): MQRC_SMPO_ERROR

説明

MQSETMP 呼び出しで、メッセージ・プロパティ設定オプション構造体 MQSMPO が無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQSMPO_STRUC_ID ではない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQSMPO 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2464 (09A0) (RC2464): MQRC_IMPO_ERROR

説明

MQINQMP 呼び出しで、メッセージ・プロパティ照会オプション構造体 MQIMPO が無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQIMPO_STRUC_ID ではない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- 呼び出しが成功であっても、変更された構造体をキュー・マネージャーがアプリケーション・ストレージにコピーすることができない。例えば、ポインターが読み取り専用ストレージを指している場合にこれが発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQIMPO 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2465 (09A1) (RC2465): MQRC_PROPERTY_NAME_TOO_BIG

説明

MQINQMP 呼び出しで、IBM MQ が照会対象プロパティの名前を **InqPropOpts** パラメーターの ReturnedName フィールドで示された場所にコピーしようとしたのですが、バッファーが小さすぎて完全なプロパティ名を入れることができませんでした。呼び出しは失敗しましたが、**InqPropOpts** パラメーターの ReturnedName の VSLength フィールドは、ReturnedName バッファーに必要な大きさを示しています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

完全なプロパティ名を取得するには、返される名前のために大容量のバッファーを使用し、MQIMPO_INQ_PROP_UNDER_CURSOR オプションも指定して再び MQINQMP を呼び出します。これにより、同じプロパティについて照会されます。

2466 (09A2) (RC2466): MQRC_PROP_VALUE_NOT_CONVERTED

説明

InqPropOpts パラメーターに MQIMPO_CONVERT_VALUE オプションを指定した MQINQMP 呼び出しが発行されましたが、プロパティの値の変換中にエラーが発生しました。プロパティ値は無変換のまま返され、**InqPropOpts** パラメーターの ReturnedCCSID および ReturnedEncoding フィールドの値が、返された値の該当フィールドに設定されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

プロパティの設定時に指定された **ValueCCSID** および **ValueEncoding** パラメーターに、プロパティ値が正しく記述されているかどうかを調べてください。また、これらの値、および MQINQMP 呼び出しの **InqPropOpts** パラメーターで指定された RequestedCCSID と RequestedEncoding が IBM MQ 変換でサポートされていることも確認してください。必要な変換がサポートされていない場合には、アプリケーションによって変換を行う必要があります。

2467 (09A3) (RC2467): MQRC_PROP_TYPE_NOT_SUPPORTED

説明

MQINQMP 呼び出しが発行されましたが、照会対象のプロパティが、サポートされていないデータ・タイプのもので、値のストリング表現が返されているため、**InqPropOpts** パラメーターの **TypeString** フィールドを使用して、プロパティのデータ・タイプを判別できます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

プロパティ値が、**TypeString** フィールドに示されるデータ・タイプであるように意図されていたかどうかを確認してください。意図されていた場合、アプリケーションで値の解釈方法を決定する必要があります。そうでない場合は、プロパティを設定するアプリケーションを変更して、サポートされるデータ・タイプを指定してください。

2469 (09A5) (RC2469): MQRC_PROPERTY_VALUE_TOO_BIG

説明

MQINQMP 呼び出しで、プロパティ値が大きすぎたために、与えられたバッファーに収容できませんでした。 **DataLength** フィールドが切り捨て前のプロパティ値の長さに設定され、**Value** パラメーターには収容できる分の値が入れます。

MQMHBUF 呼び出しで、**BufferLength** がバッファーに収容されるプロパティのサイズより小さくなっていました。この場合は、呼び出しは失敗します。 **DataLength** フィールドは、切り捨て前のプロパティの長さに設定されます。

完了コード

MQCC_WARNING

MQCC_FAILED

プログラマー応答

プロパティ値のデータがすべて必要な場合には少なくとも **DataLength** と同じ大きさのバッファーを指定し、**MQIMPO_INQ_PROP_UNDER_CURSOR** オプションを指定して **MQINQMP** を再び呼び出してください。

2470 (09A6) (RC2470): MQRC_PROP_CONV_NOT_SUPPORTED

説明

MQINQMP 呼び出しで、**MQIMPO_CONVERT_TYPE** オプションが指定され、呼び出しが戻る前にプロパティ値を指定のデータ・タイプに変換することが要求されました。実プロパティと要求されたプロパティの間でのデータ・タイプの変換はサポートされていません。 **Type** パラメーターに、プロパティ値のデータ・タイプが示されています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQIMPO_CONVERT_TYPE を指定せずに MQINQMP を再び呼び出すか、または変換がサポートされているデータ・タイプを要求してください。

2471 (09A7) (RC2471): MQRC_PROPERTY_NOT_AVAILABLE

説明

MQINQMP 呼び出しで、指定された名前に一致するプロパティが見つかりませんでした。複数のプロパティを(多くの場合はワイルドカード文字を含む名前を使用して)繰り返し処理している場合、これは、指定の名前に一致するすべてのプロパティがすでに返されたことを意味します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

正しいプロパティ名が指定されたことを確認してください。名前にワイルドカード文字が含まれている場合は、MQIMPO_INQ_FIRST オプションを指定して、プロパティの繰り返し処理を再び開始します。

2472 (09A8) (RC2472): MQRC_PROP_NUMBER_FORMAT_ERROR

説明

MQINQMP 呼び出しで、プロパティ値の変換が要求されました。要求されたデータ・タイプに変換するには、プロパティの形式が無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

正しいプロパティ名とデータ・タイプが指定されたことを確認します。プロパティを設定しているアプリケーションで、プロパティに正しい形式が指定されていることを確認します。プロパティ値のデータ変換に必要な形式については、MQINQMP 呼び出しの資料を参照してください。

2473 (09A9) (RC2473): MQRC_PROPERTY_TYPE_ERROR

説明

MQSETMP 呼び出しで、タイプ・パラメーターに有効な MQTYPE_* 値が指定されていません。「Root.MQMD」で始まるプロパティ用。または "JMS" の場合、指定されたタイプは、一致する MQMD または JMS ヘッダー・フィールドのデータ・タイプに対応している必要があります。

- MQCHARn または Java ストリング・フィールドには MQTYPE_STRING を使用します。
- MQLONG または Java int フィールドには MQTYPE_INT32 を使用します。
- MQBYTEn フィールドには MQTYPE_BYTE_STRING を使用します。
- Java long フィールドには MQTYPE_INT64 を使用します。

MQINQMP 呼び出しで、**Type** パラメーターが無効です。パラメーター・ポインターが無効であるか、値が無効であるか、または読み取り専用ストレージを指しています。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パラメーターを修正してください。

2478 (09AE) (RC2478): MQRC_PROPERTIES_TOO_BIG

説明

キューにメッセージを入れるために MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、メッセージのプロパティーが大きすぎました。プロパティーの長さは、**MaxPropertiesLength** キュー・マネージャー属性の値を超えてはなりません。この戻りコードは、ヘッダーが 511 KB を超えるメッセージが共用キューに書き込まれる場合にも発行されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

次のいずれかの処置を考慮してください。

- メッセージに関連付けられたプロパティーの数またはサイズを減らす。そのために、一部のプロパティーをアプリケーション・データに移動することができます。
- MaxPropertiesLength キュー・マネージャー属性の値を増やしてください。

2479 (09AF) (RC2479): MQRC_PUT_NOT_RETAINED

説明

トピックに関するメッセージをパブリッシュするために MQPMO_RETAIN オプションを指定して MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、パブリケーションを保存できませんでした。一致するどのサブスクライバーにもパブリケーションはパブリッシュされません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

保存パブリケーションは SYSTEM.RETAINED.PUB.QUEUE に保管されます。このキューがアプリケーションで使用可能であるようにしてください。失敗の原因として、キューが満杯である、キューが書き込み禁止になっている、またはキューが存在しないことが考えられる。

2480 (09B0) (RC2480): MQRC_ALIAS_TARGTYPE_CHANGED

説明

トピックに関するメッセージをパブリッシュするために MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されました。このトピックに対応するサブスクリプションの1つが、元は1つのキューを参照する別名キューであったが現在はトピック・オブジェクトを参照している宛先キューで行われました。これは許可されません。この状況では、理由コード MQRC_ALIAS_TARGTYPE_CHANGED がレポート・メッセージの MQMD の

Feedback フィールド、または送達不能キューにあるメッセージの MQDLH 構造体の Reason フィールドに返されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

トピック・オブジェクトを参照する別名キューを使用しているサブスクライバーを見つけて、再びキューを参照するようにそのサブスクライバーを変更するか、またはサブスクリプションを変更して別のキューを参照するようにしてください。

2481 (09B1) (RC2481): MQRC_DMPO_ERROR

説明

MQDLTMP 呼び出しで、メッセージ・プロパティ削除オプション構造体 MQDMPO が無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQDMPO_STRUC_ID でない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQDMPO 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2482 (09B2) (RC2482): MQRC_PD_ERROR

説明

MQSETMP または MQINQMP 呼び出しで、プロパティ記述子構造体 MQPD が無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQPD_STRUC_ID ではない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- Context フィールドに認識不能な値が含まれている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQPD 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2483 (09B3) (RC2483): MQRC_CALLBACK_TYPE_ERROR

説明

MQOP_REGISTER 操作を指定して MQCB 呼び出しが行われましたが、CallbackType の値が正しくありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCBDO の CallbackType フィールドが正しく指定されていることを確認してください。

2484 (09B4) (RC2484): MQRC_CBD_OPTIONS_ERROR

説明

MQOP_REGISTER 操作を指定して MQCB 呼び出しが行われましたが、MQCBD の Options フィールドの値が正しくありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

Options が正しく指定されていることを確認してください。

2485 (09B5) (RC2485): MQRC_MAX_MSG_LENGTH_ERROR

説明

MQOP_REGISTER 操作を指定して MQCB 呼び出しが行われましたが、MQCBD の MaxMsgLength フィールドの値が正しくありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MaxMsgLength が正しく指定されていることを確認してください。

2486 (09B6) (RC2486): MQRC_CALLBACK_ROUTINE_ERROR

説明

MQOP_REGISTER 操作を指定して MQCB 呼び出しが行われたが、次のいずれかの理由で失敗しました。

- CallbackName と CallbackFunction の両方が指定されている。この呼び出しでは、どちらか1つのみを指定する必要があります。
- 呼び出しが、関数ポインターをサポートしない環境から発行された。
- プログラミング言語が関数ポインター参照をサポートしていない。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

CallbackName 値が正しく指定されていることを確認してください。

2487 (09B7) (RC2487): MQRC_CALLBACK_LINK_ERROR

Explanation

On an MQCTL call, the callback handling module (CSQBMCSM or CSQBMCSX for batch and DFHMQMCM for CICS) could not be loaded, so the adapter could not link to it.

This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

Ensure that the correct library concatenation has been specified in the application program execution JCL, and in the queue manager startup JCL. Any uncommitted changes in a unit of work should be backed out. A unit of work that is coordinated by the queue manager is backed out automatically.

2488 (09B8) (RC2488): MQRC_OPERATION_ERROR

説明

MQCTL または MQCB 呼び出しで、無効なパラメーターが指定されていた。

Operation パラメーターに指定された値が競合しています。

このエラーは、**Operation** パラメーターに無効値が指定されている場合、MQOP_START パラメーターまたは MQOP_START_WAIT パラメーターの使用時にコンシューマーが登録されていない場合、および非同期 API 呼び出しで非スレッド・ライブラリーの使用を試行した場合に発生することがあります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーション・プログラムを調べ、**Operation** パラメーター・オプションが正しいことを確認してください。非同期関数のために正しいバージョンのスレッド・ライブラリーとアプリケーションがリンク・エディットされていることを確認してください。

2489 (09B9) (RC2489): MQRC_BMHO_ERROR

説明

MQBUFMH 呼び出しで、メッセージ・ハンドル・オプション構造体 MQBMHO に対するバッファーが無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQBMHO_STRUC_ID ではない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。

- ・パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQBMHO 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2490 (09BA) (RC2490): MQRC_UNSUPPORTED_PROPERTY

説明

キュー・マネージャーがサポートしないプロパティーが含まれているメッセージが検出されました。失敗した操作では、すべてのプロパティーがキュー・マネージャーでサポートされている必要があります。これが発生する可能性があるのは、MQPUT/MQPUT1 呼び出しの場合か、またはメッセージを送信しようとしているチャンネルの接続先のキュー・マネージャーがメッセージ・プロパティーをサポートしていない場合です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

メッセージのどのプロパティーがキュー・マネージャーによってサポートされていないのか判別し、そのプロパティーをメッセージから除去するか、またはそのプロパティーをサポートするキュー・マネージャーに接続するか、どちらかに決定してください。

2492 (09BC) (RC2492): MQRC_PROP_NAME_NOT_CONVERTED

説明

InqPropOpts パラメーターに指定した MQIMPO_CONVERT_VALUE オプションを使用して MQINQMP 呼び出しが発行されましたが、返されたプロパティー名の変換中にエラーが発生しました。名前は変換されずに返されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

返された名前の文字セットが、プロパティーの設定時に正しく記述されていたかどうかを調べてください。また、これらの値、および MQINQMP 呼び出しの **InqPropOpts** パラメーターで指定された RequestedCCSID と RequestedEncoding が IBM MQ 変換でサポートされていることも確認してください。必要な変換がサポートされていない場合には、アプリケーションによって変換を行う必要があります。

2494 (09BE) (RC2494): MQRC_GET_ENABLED

説明

この理由コードは、前に GET が使用禁止になっていたキューが再び GET で使用可能になったときに、非同期コンシューマーに返される。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、アプリケーションにキューの状態変更を通知するために使用されます。

2495 (09BF) (RC2495): MQRC_MODULE_NOT_FOUND

説明

ネイティブ共有ライブラリーをロードできませんでした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

この問題の原因は、次の2つのいずれかであると考えられます。

- MQOP_REGISTER 操作を指定して MQCB 呼び出しが行われましたが、指定されている CallbackName が見つかりませんでした。CallbackName 値が正しく指定されていることを確認してください。
- Java IBM MQ コードが Java ネイティブ共有ライブラリーをロードできませんでした。このエラーは、Java アプリケーションが 32 ビット JRE で実行されているときに、64 ビット Java ネイティブ・ライブラリーをロードするように構成されている場合に発生することがあります。関連する例外スタックおよび FFST を確認してください。JNI 共有ライブラリーが正しく指定されていることを確認してください。Java プログラムを起動するときに、`-Djava.library.path=/opt/mqm/java/lib` またはそれに相当するものを指定したことも確認してください。

関連資料

[IBM MQ classes for JMS アプリケーションに必要な Java Native Interface \(JNI\) ライブラリー](#)

2496 (09C0) (RC2496): MQRC_MODULE_INVALID

説明

MQOP_REGISTER 操作を指定して MQCB 呼び出しが行われましたが、指定されている CallbackName が有効なロード・モジュールではありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

CallbackName 値が正しく指定されていることを確認してください。

2497 (09C1) (RC2497): MQRC_MODULE_ENTRY_NOT_FOUND

説明

MQOP_REGISTER 操作を指定して MQCB 呼び出しが行われましたが、CallbackName で識別されている関数名が指定のライブラリーで見つかりません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

CallbackName 値が正しく指定されていることを確認してください。

2498 (09C2) (RC2498): MQRC_MIXED_CONTENT_NOT_ALLOWED

説明

混合内容を指定してプロパティを設定しようとした。例えば、アプリケーションでプロパティ「x.y」を設定し、次にプロパティ「x.y.z」を設定しようとする、プロパティ名の階層の中で「y」に値が含まれるのか別の論理グループなのか明確ではなくなります。このような階層は「混合内容」であり、これはサポートされません。混合内容の原因となるプロパティを設定することは許可されません。プロパティ名内の階層は、「.」を使用して作成されます。文字 (U+002E)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効なプロパティ名については、[プロパティ名](#)に記載されています。混合内容が含まれないようにプロパティ名階層を変更してから、呼び出しを再発行してください。

2499 (09C3) (RC2499): MQRC_MSG_HANDLE_IN_USE

説明

メッセージ・プロパティ呼び出し (MQCRTMH、MQDLTMH、MQSETMP、MQINQMP、MQDLTMP、またはMQMHBUF) が行われましたが、指定されているメッセージ・ハンドルは別の API 呼び出しですでに使用中です。メッセージ・ハンドルは、一度に 1 つの呼び出しでのみ使用できます。

メッセージ・ハンドルの同時使用は、例えば、アプリケーションが複数のスレッドを使用している場合に起こることがあります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

別の呼び出しの進行中にそのメッセージ・ハンドルを使用できないようにしてください。

2500 (09C4) (RC2500): MQRC_HCONN_ASYNC_ACTIVE

説明

接続の開始中に、MQI 呼び出しを発行しようとした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCTL 呼び出しを使用して接続を停止または中断し、操作を再試行してください。

2501 (09C5) (RC2501): MQRC_MHBO_ERROR

説明

MQMHBUF 呼び出しで、バッファ・オプション構造体 MQMHBO に対するメッセージ・ハンドルが無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQMHBO_STRUC_ID ではない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQMHBO 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2502 (09C6) (RC2502): MQRC_PUBLICATION_FAILURE

説明

トピックに関するメッセージをパブリッシュするために MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されました。サブスクライバーの 1 つに対するパブリケーションの送達が失敗しました。使用された同期点オプションと以下のいずれかとの組み合わせに原因があります。

- 持続メッセージであった場合、管理 TOPIC オブジェクトの PMSGDLV 属性
- 非持続メッセージであった場合、管理 TOPIC オブジェクトの NPMSGDLV 属性

パブリケーションはどのサブスクライバーにも送達されていません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

サブスクリプション・キューに問題のあるサブスクライバー (複数の場合もあります) を見つけて問題を解決してください。または、TOPIC の PMSGDLV 属性または NPMSGDLV 属性の設定を変更して、1 つのサブスクライバーの問題が他のサブスクライバーに影響しないようにします。MQPUT を再試行してください。

2503 (09C7) (RC2503): MQRC_SUB_INHIBITED

説明

MQSUB 呼び出しは、サブスクライブ先のトピックについて現在使用禁止になっています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

サブスクリプション要求が短期間禁止される可能性があるシステム設計になっている場合は、後でこの操作を再試行してください。

2504 (09C8) (RC2504): MQRC_SELECTOR_ALWAYS_FALSE

説明

MQOPEN、MQPUT1、またはMQSUB呼び出しが発行されましたが、メッセージの選択を行わない選択ストリングが指定されていました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

APIで渡された選択ストリングのロジックが予期したとおりのものかどうか調べてください。ストリングのロジックに必要な訂正を加えて、このメッセージが出た原因となったMQ API呼び出しを再実行依頼してください。

2507 (09CB) (RC2507): MQRC_XEPO_ERROR

説明

MQXEP呼び出しで、終了オプション構造体MQXEPOが無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドがMQXEPO_STRUC_IDではない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQXEPO 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2509 (09CD) (RC2509): MQRC_DURABILITY_NOT_ALTERABLE

説明

MQSO ALTER オプションを使用してMQSUB呼び出しが行われ、サブスクリプション耐久性を変更しようとした。サブスクリプション耐久性は変更できません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCLOSE を使用してサブスクリプションを除去し、正しい設定の属性を指定した MQSUB でそのサブスクリプションを再作成してください。または、MQSUB 呼び出しで使用されている耐久性オプションを、既存のサブスクリプションに一致するように変更してください。

2510 (09CE) (RC2510): MQRC_TOPIC_NOT_ALTERABLE

説明

MQSO.Alter オプションを使用して MQSUB 呼び出しが行われ、サブスクライブ先のトピックを指定する MQSD の 1 つ以上のフィールドを変更しようとした。これらのフィールドは、ObjectName、ObjectString、またはワイルドカード・オプションです。サブスクライブ先のトピックは変更できません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCLOSE を使用してサブスクリプションを除去し、正しい設定の属性を指定した MQSUB でそのサブスクリプションを再作成してください。または、MQSUB 呼び出しで使用されている属性とオプションを、既存のサブスクリプションと一致するように変更してください。

2512 (09D0) (RC2512): MQRC_SUBLEVEL_NOT_ALTERABLE

説明

オプション MQSO.Alter を使用した MQSUB 呼び出しが、サブスクリプションの SubLevel を変更して行われました。サブスクリプションの SubLevel は変更できません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCLOSE を使用してサブスクリプションを除去し、正しい設定の属性を指定した MQSUB でそのサブスクリプションを再作成してください。または、MQSUB 呼び出しで使用されている SubLevel フィールドを、既存のサブスクリプションに一致するように変更してください。

2513 (09D1) (RC2513): MQRC_PROPERTY_NAME_LENGTH_ERR

説明

無効な名前を指定して、プロパティを設定、照会、または削除しようとした。これは、次のいずれかの理由で起こります。

- プロパティ名の VSLength フィールドがゼロ以下に設定された。
- プロパティ名の VSLength フィールドが、最大許容値より大きい値に設定された (定数 MQ_MAX_PROPERTY_NAME_LENGTH を参照)。
- プロパティ名の VSLength フィールドが MQVS_NULL_TERMINATED に設定され、プロパティ名が最大許容値より大きかった。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効なプロパティ名については、IBM MQ の資料に記述されています。プロパティに有効な名前長を必ず指定してから、呼び出しを再発行してください。

2514 (09D2) (RC2514): MQRC_DUPLICATE_GROUP_SUB

説明

MQSO_GROUP_SUB オプションを使用して MQSUB 呼び出しが行われ、新規のグループ化サブスクリプションを作成しようとしたが、固有の SubName が指定されているにもかかわらず、グループ内の既存のサブスクリプションのフル・トピック名と一致しています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

使用されているフル・トピック名を、グループ内の既存のサブスクリプションに一致しない名前に訂正してください。あるいは、別のグループが意図されていた場合、またはサブスクリプションのグループ化が意図されていなかった場合は、グループ化属性を訂正してください。

2515 (09D3) (RC2515): MQRC_GROUPING_NOT_ALTERABLE

説明

グループ化サブスクリプションに対して、MQSO_ALTER オプションを使用して MQSUB 呼び出しが行われましたが、そのサブスクリプションには MQSO_GROUP_SUB オプションが指定されていました。サブスクリプションのグループ化は変更できません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCLOSE を使用してサブスクリプションを除去し、正しい設定の属性を使用して MQSUB でそのサブスクリプションを再作成してください。または、MQSUB 呼び出しで使用されている各種のグループ化フィールドを、既存のサブスクリプションに一致するように変更してください。

2516 (09D4) (RC2516): MQRC_SELECTOR_INVALID_FOR_TYPE

説明

SelectionString は、以下の条件が当てはまる場合にのみ、MQOPEN/MQPUT1 の MQOD で指定できます。

- ObjectType が MQOT_Q である。
- MQOO_INPUT_* オープン・オプションの 1 つを使用してキューを開いている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ObjectType の値を MQOT_Q に変更してください。また、MQOO_INPUT_* オプションの 1 つを使用してキューが開かれていることを確認してください。

2517 (09D5) (RC2517): MQRC_HOBJ QUIESCED

説明

HOBJ が静止しましたが、現在の選択基準に一致するメッセージが先読みバッファの中にありません。この理由コードは、先読みバッファが空ではないことを示しています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

この理由コードは、現在の選択基準によるすべてのメッセージの処理が終わったことを示しています。次のいずれかを行います。

- これ以上メッセージを処理する必要がない場合は、MQCO_QUIESCE オプションを指定せずに MQCLOSE を発行してください。先読みバッファの中のメッセージはすべて破棄されます。
- MQGMO 中の値を変更して現在の選択基準を緩め、呼び出しを再発行してください。すべてのメッセージが消費されたら、呼び出しから MQRC_HOBJ_QUIESCED_NO_MSGS が返されます。

2518 (09D6) (RC2518): MQRC_HOBJ_QUIESCED_NO_MSGS

説明

HOBJ が静止し、先読みバッファが空になりました。この HOBJ には、もうメッセージは送達されません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

HOBJ に対して MQCLOSE を発行してください。

2519 (09D7) (RC2519): MQRC_SELECTION_STRING_ERROR

説明

SelectionString は、MQCHARV 構造体の使用方法の記述に従って指定する必要があります。このエラーが返された理由の例として、以下のようなものがあります。

- SelectionString.VSLength はゼロより大きいですが、SelectionString.VSOffset がゼロで、SelectionString.VSPtr がヌル・ポインターである。
- SelectionString.VSOffset がゼロでなく、SelectionString.VSPtr がヌル・ポインターではない（つまり、片方しか使用できない場合に両方のフィールドが使用されている可能性がある）。
- SelectionString.VSPtr が無効ポインターである。
- SelectionString.VSOffset または SelectionString.VSPtr が、アクセス不可能なストレージを指している。

- `SelectionString.VSLength` が、このフィールドに使用できる最大長を超えている。最大長は `MQ_SELECTOR_LENGTH` によって決まります。

完了コード

`MQCC_FAILED`

プログラマー応答

有効な `MQCHARV` 構造体の規則に従うように、`MQCHARV` のフィールドを変更してください。

2520 (09D8) (RC2520): MQRC_RES_OBJECT_STRING_ERROR

説明

オブジェクト記述子 `MQOD` 中の `MQOPEN` または `MQPUT1` 呼び出しか、またはサブスクリプション記述子 `MQSD` 中の `MQSUB` 呼び出しで、`ResObjectString` フィールドが無効です。

次のいずれかが当てはまります。

- `ResObjectString.VSLength` はゼロより大きいのが、`ResObjectString.VSOffset` がゼロで、`ResObjectString.VSPtr` がヌル・ポインターである。
- `ResObjectString.VSOffset` がゼロでなく、`ResObjectString.VSPtr` がヌル・ポインターではない(つまり、片方しか使用できない場合に両方のフィールドが使用されている可能性がある)。
- `ResObjectString.VSPtr` が無効ポインターである。
- `ResObjectString.VSOffset` または `ResObjectString.VSPtr` が、アクセス不可能なストレージを指している。
- `ResObjectString.VSBufSize` が `MQVS_USE_VSLENGTH` であり、`ResObjectString.VSOffset` または `ResObjectString.VSPtr` のいずれかが指定された。

完了コード

`MQCC_FAILED`

プログラマー応答

`ResObjectString.VSOffset` または `ResObjectString.VSPtr` の一方がゼロであり、もう一方がゼロでないこと、およびバッファ長が `ResObjectString.VSBufSize` で指定されていることを確認します。使用しているフィールドがアクセス可能なストレージを指していることを確認します。

2521 (09D9) (RC2521): MQRC_CONNECTION_SUSPENDED

説明

メッセージの非同期コンシュームが中断されたために、`MQOP_START_WAIT` 操作を指定した `MQCTL` 呼び出しが戻りました。これは、次のいずれかの理由で起こります。

- `MQOP_SUSPEND` 操作を指定した `MQCTL` を使用して、接続が明示的に中断された。
- すべてのコンシューマーが未登録または中断状態のいずれかになっている。

完了コード

`MQCC_WARNING`

プログラマー応答

これが予期された状態である場合、修正処置は必要ありません。予期しない状態である場合は、下記のことを確認してください。

- 少なくとも1つのコンシューマーが登録されていて、中断されていない。
- 接続が中断されていない。

2522 (09DA) (RC2522): MQRC_INVALID_DESTINATION

説明

パブリケーション・メッセージを送信する宛先に問題があったために、MQSUB 呼び出しが失敗しました。したがって、オブジェクト処理をアプリケーションに返すことができず、サブスクリプションは行われません。これは、次のいずれかの理由で起こります。

- MQSUB 呼び出しで MQSO_CREATE、MQSO_MANAGED、および MQSO_NON_DURABLE が使用されたが、管理トピック・ノード上の MNDURMDL で参照されたモデル・キューが存在していない。
- MQSUB 呼び出しで MQSO_CREATE、MQSO_MANAGED、および MQSO_DURABLE が使用されたが、管理トピック・ノード上の MDURMDL で参照されたモデル・キューが存在していないか、TEMPDYN の DEFTYPE を使用して定義されている。
- MQSUB 呼び出しで永続サブスクリプションに対して MQSO_CREATE または MQSO_ALTER が使用されたが、提供されたオブジェクト処理は一時動的キューを参照した。これは永続サブスクリプションの適切な宛先ではありません。
- 管理目的で作成されたサブスクリプションを再開するために MQSUB 呼び出しで MQSO_RESUME と MQHO_NONE の Hobj が使用されたが、そのサブスクリプションの DEST パラメーターに指定されたキュー名が存在していない。
- 前に作成済みの API サブスクリプションを再開するために MQSUB 呼び出しで MQSO_RESUME と MQHO_NONE の Hobj が使用されたが、前に使用されたキューがもう存在していない。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MNDURMDL および MDURMDL で参照されているモデル・キューが存在し、適切な DEFTYPE があることを確認します。管理サブスクリプションで DEST パラメーターを使用している場合、DEST パラメーターで参照するキューを作成します。前に使用されたキューが存在しない場合は、既存のキューを使用するようにサブスクリプションを変更します。

2523 (09DB) (RC2523): MQRC_INVALID_SUBSCRIPTION

説明

MQSO_RESUME または MQSO_ALTER を使用した MQSUB 呼び出しは、指定されたサブスクリプションがアプリケーションで使用するには無効なものであったため、失敗しました。これは、次のいずれかの理由で起こります。

- サブスクリプションが SYSTEM.DEFAULT.SUB サブスクリプションである。これは有効なサブスクリプションではなく、**DEFINE SUB** コマンドにデフォルト値を入力する場合にのみ使用されます。
- サブスクリプションがプロキシ・タイプ・サブスクリプションである。これは、アプリケーションが再開できる有効なサブスクリプションではなく、キュー・マネージャー間でパブリケーションを転送できるようにする場合にのみ使用されます。
- サブスクリプションの有効期限が切れたため、もう無効になっていて使用できない。

- サブスクリプションは JMS 2.0 共有サブスクリプションであり、これは、JMS 2.0 以外のアプリケーションの再開または変更のための有効なサブスクリプションではありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

SubName フィールドに指定されたサブスクリプションが、リストした無効なものではないようにします。サブスクリプションに対して開かれたハンドルがある場合、そのハンドルの有効期限がすでに切れています。MQCLOSE を使用してハンドルを閉じ、必要な場合には新規サブスクリプションを作成してください。

2524 (09DC) (RC2524): MQRC_SELECTOR_NOT_ALTERABLE

説明

MQSO ALTER オプションを使用して MQSUB 呼び出しが行われましたが、MQSD に SelectionString が含まれていました。サブスクリプションの SelectionString を変更することは無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQSUB を呼び出すときに、MQSD の SelectionString フィールドに有効な VSPtr が含まれていないこと、および VSLength がゼロに設定されていることを確認してください。

2525 (09DD) (RC2525): MQRC_RETAINED_MSG_Q_ERROR

説明

サブスクライブするトピック・ストリング用に存在していた保存パブリケーションを SYSTEM.RETAINED.PUB.QUEUE から取り出せなかったために、MQSO_NEW_PUBLICATIONS_ONLY オプションを使用しない MQSUB 呼び出しが、または MQSUBRQ 呼び出しが失敗しました。これは、次のいずれかの理由で起こります。

- キューが損傷したか、または削除された。
- キューが GET(DISABLED) に設定された。
- メッセージがこのキューから直接除去された。

エラー・メッセージがログに書き込まれ、そこに SYSTEM.RETAINED.PUB.QUEUE の問題に関するさらに詳しい情報が示されています。

この戻りコードが MQSUB 呼び出しで発生した場合、発生するのは MQSO_CREATE オプションを使用した場合のみであり、この場合はサブスクリプションは作成されません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

これが MQSUB 呼び出しで発生した場合は、MQSO_NEW_PUBLICATIONS_ONLY オプションを使用した MQSUB 呼び出しを再発行してください (このオプションは、それまでに保存されたパブリケーションがこ

のサブスクリプションに送信されないことを意味します)。または、SYSTEM.RETAINED.PUB.QUEUE を修正してそこからメッセージを取り出せるようにし、MQSUB 呼び出しを再発行してください。

これが MQSUBRQ 呼び出しで発生した場合は、SYSTEM.RETAINED.PUB.QUEUE を修正してそこからメッセージを取り出せるようにし、MQSUBRQ 呼び出しを再発行してください。

2526 (09DE) (RC2526): MQRC_RETAINED_NOT_DELIVERED

説明

MQSO_NEW_PUBLICATIONS_ONLY オプションを使用しない MQSUB 呼び出し、または MQSUBRQ 呼び出しが失敗しました。サブスクライブするトピック・ストリング用に存在している保存パブリケーションをサブスクリプション宛先キューに送信できず、結果的に送達不能キューに送信できなかったためです。

この戻りコードが MQSUB 呼び出しで発生した場合、発生するのは MQSO_CREATE オプションを使用した場合のみであり、この場合はサブスクリプションは作成されません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

宛先キューおよび送達不能キューの問題を修正して、MQSUB または MQSUBRQ 呼び出しを再発行してください。

2527 (09DF) (RC2527): MQRC_RFH_RESTRICTED_FORMAT_ERR

説明

制限付きフォーマットのフォルダーが組み込まれた MQRFH2 ヘッダーを含むメッセージがキューに書き込まれました。しかし、フォルダーが、要求されたフォーマットではありませんでした。これらの制限は次のとおりです。

- フォルダーの NameValueCCSID が 1208 の場合、フォルダー、グループ、またはエレメントの名前には、1 バイトの UTF-8 文字のみを使用できる。
- フォルダー内ではグループは使用できない。
- プロパティの値には、エスケープが必要な文字を含めることはできない。
- フォルダー内では、空白文字として処理されるのはユニコード文字 U+0020 のみである。
- フォルダー・タグには、内容属性を含めない。
- フォルダーには、ヌル値のプロパティを含めてはならない。

mq フォルダーには、この制限形式のフォーマットが必要です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

メッセージを変更して、有効な MQRFH2 フォルダーを指定してください。

2528 (09E0) (RC2528): MQRC_CONNECTION_STOPPED

説明

メッセージの非同期コンシュームを開始するために MQCTL 呼び出しが発行されましたが、接続は、メッセージのコンシューム準備ができる前に、メッセージ・コンシューマーのいずれかによって停止されました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

これが予期された状態である場合、修正処置は必要ありません。予期しない状況の場合は、MQCBCT_START コールバック機能の実行中に MQOP_STOP 操作を指定した MQCTL が発行されたかどうかを調べてください。

2529 (09E1) (RC2529): MQRC_ASYNC_UOW_CONFLICT

説明

メッセージの非同期コンシュームを開始するために MQOP_START 操作を指定して MQCTL 呼び出しが発行されましたが、使用された接続ハンドルにはすでに未解決のグローバル作業単位があります。作業単位が存在している間は、MQOP_START_WAIT 操作を使用していない限り、MQCTL を使用してメッセージの非同期コンシュームを開始することはできません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

接続ハンドルに対して MQCMIT を発行して作業単位をコミットした後で、MQCTL 呼び出しを再発行してください。または、非同期コンシューム・コールバック関数内から作業単位を使用するために、MQOP_START_WAIT 操作を使用して MQCTL 呼び出しを発行してください。

2530 (09E2) (RC2530): MQRC_ASYNC_XA_CONFLICT

説明

メッセージの非同期コンシュームを開始するために MQOP_START 操作を指定した MQCTL 呼び出しが発行されましたが、外部 XA 同期点コーディネーターがすでにこの接続ハンドルに対する xa_open 呼び出しを発行していました。XA トランザクションは、MQOP_START_WAIT 操作を使用して実行する必要があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQOP_START_WAIT を使用して MQCTL 呼び出しを再発行してください。

2531 (09E3) (RC2531): MQRC_PUBSUB_INHIBITED

説明

すべてのパブリッシュ/サブスクライブのトピックについて、MQSUB、MQOPEN、MQPUT、およびMQPUT1 呼び出しの使用が現在禁止されています。これは、キュー・マネージャー属性 PSMODE によって禁止されているか、キュー・マネージャーの開始時にパブリッシュ/サブスクライブ状態の処理が失敗したか、またはその処理がまだ完了していないことが原因です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

このキュー・マネージャーが意図的にパブリッシュ/サブスクライブの使用を禁止していない場合は、キュー・マネージャー開始時の障害を説明するエラー・メッセージがないか調べるか、または開始処理が完了するまで待ってください。キュー・マネージャーがクラスターのメンバーである場合、チャンネル・イニシエーターも開始されるまで、始動は完了しません。

 z/OS では、SYSTEM.BROKER.DEFAULT.STREAM キューまたはトピックの場合、Chinit は作業の処理でビジー状態になり、pubsub タスクは後で開始されます。DISPLAY PUBSUB コマンドを使用して、パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンの状況を調べて使用準備ができていないかどうかを確認します。また、z/OS では、情報メッセージ CSQM076I を受け取る場合があります。

2532 (09E4) (RC2532): MQRC_MSG_HANDLE_COPY_FAILURE

説明

メッセージのプロパティを取り出すための有効な MsgHandle を指定した MQGET 呼び出しが発行されました。キューからメッセージが除去された後で、アプリケーションは、メッセージのプロパティ用に十分なストレージを割り振ることができませんでした。メッセージ・データはアプリケーションで使用できますが、プロパティは使用できません。必要なストレージ量の詳細についてキュー・マネージャーのエラー・ログを調べてください。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

アプリケーションのメモリー限度を大きくして、プロパティを保管できるようにします。

2533 (09E5) (RC2533): MQRC_DEST_CLASS_NOT_ALTERABLE

説明

MQSO ALTER オプションを使用して MQSUB 呼び出しが行われ、サブスクリプションの MQSO_MANAGED オプションの指定を変更しようとしていました。サブスクリプションの宛先クラスは変更できません。MQSO_MANAGED オプションを使用していない場合は、指定されたキューを変更できますが、宛先のクラスは(管理対象であってもなくても)変更することができません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCLOSE を使用してサブスクリプションを除去し、正しい設定の属性を使用して MQSUB でそのサブスクリプションを再作成してください。または、MQSUB 呼び出しで使用されている MQSO_MANAGED オプションの指定を、既存のサブスクリプションと一致するように変更してください。

2534 (09E6) (RC2534): MQRC_OPERATION_NOT_ALLOWED

説明

MQCTL 呼び出しが行われましたが、そこに指定された操作は、hConn での非同期コンシュームの現在の状態が原因で許可されません。

操作が MQOP_RESUME の場合、hConn の非同期コンシュームの状態が STOPPED であるため、この操作は許可されません。MQOP_START 操作を指定して MQCTL を再発行してください。

操作が MQOP_SUSPEND の場合、hConn の非同期コンシュームの状態が STOPPED であるため、この操作は許可されません。hConn を SUSPENDED 状態にする必要がある場合は、MQOP_START 操作を指定した MQCTL を発行し、続いて MQOP_SUSPEND を指定した MQCTL を発行します。

操作が MQOP_START の場合、hConn の非同期コンシュームの状態が SUSPENDED であるため、この操作は許可されません。MQOP_RESUME 操作を指定して MQCTL を再発行してください。

操作が MQOP_START_WAIT の場合、この操作が許可されない理由は次のいずれかです。

- hConn での非同期コンシュームの状態が SUSPENDED である。MQOP_RESUME 操作を指定して MQCTL を再発行してください。
- hConn での非同期コンシュームの状態がすでに STARTED になっている。1つのアプリケーション内で MQOP_START と MQOP_START_WAIT を混用しないでください。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

正しい操作を指定して MQCTL 呼び出しを再発行してください。

2535 (09E7): MQRC_ACTION_ERROR

説明

MQPUT 呼び出しが発行されましたが、PutMsgOpts パラメーターの Action フィールドの値が有効な MQACTP_* 値ではありませんでした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

フィールドに有効な値を指定してください。

2537 (09E9) (RC2537): MQRC_CHANNEL_NOT_AVAILABLE

説明

キュー・マネージャーに接続するためにクライアントから MQCONN 呼び出しが発行されましたが、チャンネルは現在使用できません。この理由コードの一般的な原因は次のとおりです。

- チャンネルが現在停止状態になっている。
- チャンネルがチャンネル出口により停止された。
- キュー・マネージャーが、このクライアントからこのチャンネルへの接続の許容最大限度に達した。
- キュー・マネージャーが、このチャンネルの最大許容限度に達した。
- キュー・マネージャーが、すべてのチャンネルについての最大許容限度に達した。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー・マネージャーとクライアントのエラー・ログで、問題の原因を説明するメッセージを調べてください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [150 ページ](#)の『チャンネルが使用不可』の識別にも使用されます。

2538 (09EA) (RC2538): MQRC_HOST_NOT_AVAILABLE

説明

キュー・マネージャーに接続するためにクライアントから MQCONN 呼び出しが発行されましたが、リモート・システムへの会話を割り振る試みが失敗しました。この理由コードの一般的な原因は次のとおりです。

- リモート・システムでリスナーが開始されていない。
- クライアント・チャンネル定義の中の接続名が正しくない。
- ネットワークが現在使用できない。
- ファイアウォールがポートまたはプロトコル固有のトラフィックをブロックしている。
- IBM MQ クライアントを初期化しているセキュリティー呼び出しが、サーバーの SVRCONN チャンネルのセキュリティー出口でブロックされている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

クライアントのエラー・ログで、問題の原因を説明するメッセージを調べてください。

Linux Linux サーバーを使用していて、キュー・マネージャーへの接続試行時に 2538 戻りコードを受け取る場合、内部ファイアウォール構成を確認してください。

- この問題を診断するには、次のコマンドを発行して、内部 Linux ファイアウォールを一時的にオフにします。

```
/etc/init.d/iptables save  
/etc/init.d/iptables stop
```

- 内部 Linux ファイアウォールをもう一度オンにするには、次のコマンドを発行します。

```
/etc/init.d/iptables start
```

- 内部 Linux ファイアウォールを永続的にオフにするには、次のコマンドを発行します。

```
chkconfig iptables off
```

2539 (09EB) (RC2539): MQRC_CHANNEL_CONFIG_ERROR

説明

キュー・マネージャーに接続するためにクライアントから MQCONN 呼び出しが発行されましたが、通信を確立する試みが失敗しました。この理由コードの一般的な原因は次のとおりです。

- サーバーとクライアントが、使用するチャンネル属性について合意できなかった。
- qm.ini 構成ファイルまたは mqclient.ini 構成ファイルのいずれかまたは両方にエラーがあります。
- クライアントが使用しているコード・ページをサーバー・マシンがサポートしていない。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー・マネージャーとクライアントのエラー・ログで、問題の原因を説明するメッセージを調べてください。

2540 (09EC) (RC2540): MQRC_UNKNOWN_CHANNEL_NAME

説明

キュー・マネージャーに接続するためにクライアントから MQCONN 呼び出しが発行されましたが、キュー・マネージャーがチャンネル名を認識しなかったために、通信を確立する試みが失敗しました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

クライアントが正しいチャンネル名を使用するように構成されていることを確認してください。

2541 (09ED) (RC2541): MQRC_LOOPING_PUBLICATION

説明

パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターとパブリッシュ/サブスクライブ階層を組み合わせて、分散パブリッシュ/サブスクライブ・トポロジーが構成されたため、一部またはすべてのキュー・マネージャーがループ状に接続されました。ループするパブリケーションが検出され、送達不能キューに入れられました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

階層を調べて、ループを修正してください。

2543 (09EF) (RC2543): MQRC_STANDBY_Q_MGR

説明

アプリケーションが、スタンバイ・キュー・マネージャーのインスタンスに接続しようとした。

スタンバイ・キュー・マネージャーのインスタンスは接続を受け入れません。キュー・マネージャーに接続するには、アクティブなインスタンスに接続する必要があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションをアクティブなキュー・マネージャーのインスタンスに接続してください。

2544 (09F0) (RC2544): MQRC_RECONNECTING

説明

接続が再接続を開始しました。

イベント・ハンドラーが接続の再接続に登録されている場合に、再接続の試みが開始されると、この理由コードでそのイベント・ハンドラーが呼び出されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

IBM MQ で引き続き次の再接続を試行するか、再接続の前に間隔を変更するか、または再接続を停止します。再接続に依存するアプリケーション状態を変更してください。

注：アプリケーションが MQI を呼び出しているときに、再接続を開始する可能性があります。

2545 (09F1) (RC2545): MQRC_RECONNECTED

説明

接続の再接続が正常に終了し、すべてのハンドルが復元されます。

再接続が正常に行われた場合、接続に登録されているイベント・ハンドラーはこの理由コードで呼び出されます。

完了コード

MQCC_OK

プログラマー応答

再接続に依存するアプリケーション状態を設定してください。

注：アプリケーションが MQI を呼び出しているときに、再接続が終了する可能性があります。

2546 (09F2) (RC2546): MQRC_RECONNECT_QMID_MISMATCH

説明

再接続可能な接続で MQCNO_RECONNECT_Q_MGR が指定されているときに、接続が別のキュー・マネージャーに再接続しようとした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

再接続可能クライアントの構成が、単一のキュー・マネージャーに解決されることを確認します。

アプリケーションが、まったく同じキュー・マネージャーへの再接続を必要としない場合は、MQCONN オプション MQCNO_RECONNECT を使用してください。

2547 (09F3) (RC2547): MQRC_RECONNECT_INCOMPATIBLE

説明

再接続可能な接続と両立しない MQI オプションがあります。

このエラーは、そのオプションが、再接続時に失われるキュー・マネージャー内の情報に依存していることを示しています。例えば、オプション MQPMO_LOGICAL_ORDER を指定した場合、キュー・マネージャーは、論理メッセージの順序付けに関する情報を記憶している必要がありますが、その情報は再接続時に失われます。

この理由は、以下の条件で、オープンされているオブジェクトがクラスター・キューであるときの MQOPEN にも該当します。すなわち、オープン・オプションに MQOO_BIND_ON_OPEN (またはその値に相当するキューのデフォルト・バインド・オプション) が含まれ、キュー・マネージャーへの接続が MQCNO_RECONNECT オプションを使用して作成され、キュー・マネージャーが均一クラスターに含まれている場合です。

V9.4.0 再接続オプションが指定されている場合、認証トークンを使用して IBM MQ に接続することはできません。アプリケーションが認証トークンを提供し、MQCNO 構造体に MQCNO_RECONNECT または MQCNO_RECONNECT_Q_MGR オプションを指定すると、接続は失敗し、この理由コードがアプリケーションに戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションを変更して両立しないオプションを除去するか、またはアプリケーションを再接続可能にしないでください。

2548 (09F4) (RC2548): MQRC_RECONNECT_FAILED

説明

再接続の後、再接続可能な接続のハンドルを復元する際にエラーが発生しました。

例えば、キューを再オープンしようとしても、接続が切断されたときにそのキューがオープンされていると、再オープンは失敗します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

エラー・ログでエラーの原因を調べてください。MQSTAT API を使用して、障害をさらに詳しく調べることがを検討してください。

2549 (09F5) (RC2549): MQRC_CALL_INTERRUPTED

説明

MQPUT、MQPUT1、または MQCMIT が中断され、再接続の処理で確定結果を再確立することができません。

この理由コードは、キュー・マネージャーへの要求の送信と応答の受信の間に接続が切断された場合、および結果が不明確な場合に、再接続可能な接続を使用しているクライアントに戻されます。例えば、同期点の外側で中断されたメッセージの MQPUT には、メッセージが保管されている場合と保管されていない場合があります。あるいは、同期点の外側で中断されたメッセージの MQPUT1 によって、メッセージが保管されている場合と保管されていない場合があります。エラーのタイミングによって、メッセージがキューに残るかどうかが変わります。MQCMIT が中断された場合、トランザクションはコミットされている場合とされていない場合があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

再接続後に呼び出しを繰り返しますが、呼び出しの繰り返しは誤解を招く場合もあるため、注意が必要です。

リカバリー処理が適切かどうかは、アプリケーション設計によって決まります。多くの場合、同期点内でメッセージを取得および書き込みすると、不確定な結果が解決されます。メッセージを同期点の外部で処理する必要がある場合は、中断された操作が中断前に成功したかどうかを確認し、成功しなかった場合はその操作を繰り返すことが必要な場合があります。

2550 (09F6) (RC2550): MQRC_NO_SUBS_MATCHED

説明

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しは成功しましたが、トピックに一致するサブスクリプションがありませんでした。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

この理由コードが、メッセージを書き込んだアプリケーションが予期していたコードの場合、応答は不要です。

2551 (09F7) (RC2551): MQRC_SELECTION_NOT_AVAILABLE

説明

MQSUB 呼び出しは SelectionString を使用してパブリケーションにサブスクライブしました。選択ストリングの指定規則に準拠していないため、IBM MQ はその呼び出しを受け入れることができません (この規則については、[メッセージ・セレクター構文](#)を参照してください)。選択ストリングは拡張メッセージ選

択プロバイダーでは受け入れられる可能性があります。選択ストリングを評価する場合に拡張メッセージ選択プロバイダーを使用できませんでした。サブスクリプションが作成中の場合、MQSUB は失敗します。それ以外の場合は、警告を発行して MQSUB は完了します。

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しでメッセージがパブリッシュされ、少なくとも 1 つのサブスクライバーがコンテンツ・フィルターを有していましたが、パブリケーションをサブスクライバーに送達する必要があるかどうかを IBM MQ が判断できませんでした (例えば、選択ストリングを検証するために拡張メッセージ選択プロバイダーを使用できなかったなどの理由で)。MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しは失敗して MQRC_SELECTION_NOT_AVAILABLE が返され、サブスクライバーはパブリケーションを受け取れません。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

選択ストリングを拡張メッセージ選択プロバイダーによって処理する予定だった場合は、拡張メッセージ選択プロバイダーが正しく構成され、稼働していることを確認してください。拡張メッセージ選択を使用する予定ではなかった場合は、[メッセージ・セレクター構文](#)を参照し、選択ストリングの指定規則に正しく準拠していることを確認してください。

管理上定義されたサブスクリプション・セレクターが拡張メッセージ構文を使用している場合、これは値 EXTENDED を持つ **DISPLAY SUB** パラメーター **SELTYPE** によって示されます。以下のコマンドを使用して、拡張メッセージ・セレクターとして解釈されている管理上定義されたサブスクライバーを識別できます。

```
DISPLAY SUB(*) WHERE(SELTYPE EQ EXTENDED)
```

サブスクリプションが再開された場合は、拡張メッセージ選択プロバイダーが使用可能になるまで、さらにメッセージが再開したサブスクリプションの SelectionString と一致するまで、サブスクリプションにメッセージは送達されません。

2552 (09F8) (RC2552): MQRC_CHANNEL_SSL_WARNING

説明

TLS セキュリティ・イベントが発生しました。これは、TLS 接続では致命的ではありませんが、管理者の注意が必要になる可能性があります。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [154 ページの『チャンネル SSL 警告』](#)の識別にのみ使用されます。

2553 (09F9) (RC2553): MQRC_OCSP_URL_ERROR

説明

OCSPResponderURL フィールド内の HTTP URL の形式が正しくありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

OCSPResponderURL を確認し、修正してください。OCSP 応答側プログラムにアクセスする予定がない場合は、認証情報オブジェクトの **AuthInfoType** を MQAIT_CRL_LDAP に設定してください。

2554 (09FA) (RC2554): MQRC_CONTENT_ERROR

説明

理由コード 2554 には、以下の 2 つの説明があります。

1. メッセージで MQPUT 呼び出しが発行されましたが、内容を解析できず、そのメッセージを拡張メッセージ・セレクターを使用してサブスクライバーに送達する必要があるかどうかを判別できませんでした。サブスクライバーはパブリケーションを受け取りません。
2. メッセージの内容を選択する選択ストリングが指定されている場合、MQSUB および MQSUBRQ から MQRC_CONTENT_ERROR が返される場合があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

原因が 2 つあるため、理由コード 2554 に対するプログラマー応答は 2 つあります。

1. 理由コード 2554 が理由 [1317 ページの『1』](#) のために発行された場合、拡張メッセージ選択プロバイダーからのエラー・メッセージを確認して、操作を再試行する前にメッセージの内容が正しい形式であることを確認してください。
2. 理由コード 2554 が理由 [1317 ページの『2』](#) のために発行された場合、保存メッセージがパブリッシュされた時点でエラーが発生するので、システム管理者が保存キューをクリアする必要があります。クリアされないと、内容を選択する選択ストリングを指定できません。

2555 (09FB) (RC2555): MQRC_RECONNECT_Q_MGR_REQD

説明

MQCNO_RECONNECT_Q_MGR オプションは必須です。

MQGET 呼び出しの MQMO_MATCH_MSG_TOKEN や永続サブスクリプションをオープンするなどのオプションがクライアント・プログラムで指定され、同じキュー・マネージャーへの再接続が必要です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCNO_RECONNECT_Q_MGR を使用するように MQCONNX 呼び出しを変更するか、競合するオプションを使用しないようにクライアント・プログラムを変更してください。

2556 (09FC) (RC2556): MQRC_RECONNECT_TIMED_OUT

説明

再接続の試行がタイムアウトになりました。

接続が再接続するように構成されている場合、MQI verb で障害が発生することがあります。MQClient.ini ファイル内のタイムアウトをカスタマイズできます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

エラー・ログで、再接続が時間制限内に完了しなかった理由を調べてください。

2557 (09FD) (RC2557): MQRC_PUBLISH_EXIT_ERROR

説明

パブリッシュ出口機能が無効な応答コードを返したか、または他の何らかの方法で失敗しました。このコードは、MQPUT、MQPUT1、MQSUB および MQSUBRQ の各機能呼び出しから返される可能性があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パブリッシュ出口のロジックを調べて、出口が `MQPSXP` 構造体の `ExitResponse` フィールドに有効な値を戻していることを確認してください。問題の詳細については、IBM MQ エラー・ログ・ファイルおよび FFST レコードを確認してください。

2558 (09FE) (RC2558): MQRC_COMMINFO_ERROR

説明

COMMINFO オブジェクトの名前または COMMINFO オブジェクト自体の構成が正しくありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

TOPIC オブジェクトと COMMINFO オブジェクトの構成を確認し、操作を再試行してください。

2560 (0A00) (RC2560): MQRC_MULTICAST_ONLY

説明

非マルチキャストの方法でのみマルチキャストとして定義されたトピックの使用が試行されました。このエラーの原因として、以下が考えられます。

1. トピックに対して MQPUT1 呼び出しが発行された
2. MQOO_NO_MULTICAST オプションを使用して、MQOPEN 呼び出しが発行された
3. MQSO_NO_MULTICAST オプションを使用して、MQSUB 呼び出しが発行された
4. バインディングを介してアプリケーションが直接接続された (つまり、クライアント接続がない)
5. アプリケーションが、IBM WebSphere MQ 7.1 より前のリリースから実行されている

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

非マルチキャストを有効にするようトピック定義を変更するか、アプリケーションを変更してください。

2561 (0A01) (RC2561): MQRC_DATA_SET_NOT_AVAILABLE

Explanation

An IBM MQ MQI call or command was issued to operate on a shared queue, but the call failed because the data for the shared message has been offloaded to a shared message data set that is temporarily unavailable to the current queue manager. This can occur either because of a problem in accessing the data set or because the data set was previously found to be damaged, and is awaiting completion of recovery processing.

This return code can also occur if the shared message data set has not been defined for the queue manager being used. You might be using the wrong queue manager in the queue sharing group.

- This reason code occurs only on z/OS.

Completion code

MQCC_FAILED

Programmer response

The problem is temporary; wait a short while, and then retry the operation.

Use `DIS CFSTRUCT(. . .) SMDSCONN(*)` to display the status of the SMDS connection.

To start the connection if the STATUS is not OPEN, use `STA SMDSCONN(*) CFSTRUCT(. . .)`.

Use `DISPLAY CFSTATUS(. . .) TYPE(SMDS)` and check the status is active on the queue manager that you are using.

2562 (0A02) (RC2562): MQRC_GROUPING_NOT_ALLOWED

説明

グループ化されたメッセージを、マルチキャストを介してパブリッシュするハンドルに配置するために、MQPUT 呼び出しが発行されました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

マルチキャストを無効にするようトピック定義を変更するか、グループ化されたメッセージを使用しないようアプリケーションを変更してください。

2563 (0A03) (RC2563): MQRC_GROUP_ADDRESS_ERROR

説明

誤ったグループ・アドレス・フィールドを使用して定義されたマルチキャスト・トピックに対して、MQOPEN または MQSUB 呼び出しが発行されました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

TOPIC オブジェクトにリンクされている COMMINFO 定義のグループ・アドレス・フィールドを訂正してください。

2564 (0A04) (RC2564): MQRC_MULTICAST_CONFIG_ERROR

説明

MQOPEN、MQSUB、または MQPUT 呼び出しが発行され、それによってマルチキャスト・コンポーネントが呼び出されました。マルチキャストの構成が正しくないため、呼び出しに失敗しました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

マルチキャストの構成とエラー・ログを確認して、操作を再試行してください。

2565 (0A05) (RC2565): MQRC_MULTICAST_INTERFACE_ERROR

説明

MQOPEN、MQSUB、または MQPUT 呼び出しが発行され、それによってマルチキャストのネットワーク・インターフェースが試行されました。インターフェースはエラーを返しました。エラーの原因として、以下が考えられます。

1. 必要なネットワーク・インターフェースが存在しない。
2. インターフェースがアクティブではない。
3. 必要な IP のバージョンがインターフェースでサポートされていない。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

IP アドレスとシステム・ネットワークの構成が有効であることを確認してください。マルチキャストの構成とエラー・ログを確認して、操作を再試行してください。

2566 (0A06) (RC2566): MQRC_MULTICAST_SEND_ERROR

説明

MQPUT 呼び出しが発行され、それによってネットワーク経由でのマルチキャスト・トラフィックの送信が試行されました。システムは、1つ以上のネットワーク・パケットの送信に失敗しました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

IP アドレスとシステム・ネットワークの構成が有効であることを確認してください。マルチキャストの構成とエラー・ログを確認して、操作を再試行してください。

2567 (0A07) (RC2567): MQRC_MULTICAST_INTERNAL_ERROR

説明

MQOPEN、MQSUB、または MQPUT 呼び出しが発行され、それによってマルチキャスト・コンポーネントが呼び出されました。内部エラーが発生したため、操作が正常に完了しませんでした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

システム管理者に連絡してください。

2568 (0A08) (RC2568): MQRC_CONNECTION_NOT_AVAILABLE

説明

現行のインストール環境で、要求された接続タイプの接続をキュー・マネージャーが提供できない場合に、MQCONN または MQCONNX 呼び出しが行われました。サーバーのみのインストールでは、クライアント接続はできません。クライアントのみのインストールでは、ローカル接続はできません。

また、要求されたキュー・マネージャーに関連付けられているインストール環境からライブラリーをロードしようと IBM MQ が試みて失敗した場合にも、このエラーが発生する可能性があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

要求された接続タイプがインストール環境のタイプに該当することを確認します。接続タイプがインストール環境に該当する場合は、エラー・ログでエラーの性質について詳しく調べます。

2569 (0A09) (RC2569): MQRC_SYNCPOINT_NOT_ALLOWED

説明

MCAST(ENABLED) として定義されているトピックに対して、MQPMO_SYNCPOINT を使用して MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されました。これは許可されません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQPMO_NO_SYNCPOINT を使用するようアプリケーションを変更するか、マルチキャストの使用を無効にするようトピックを変更して、操作を再試行してください。

2577 (0A11) (RC2577): MQRC_CHANNEL_BLOCKED

説明

インバウンド・チャンネルは、キュー・マネージャーに接続しようとしたが、チャンネル認証規則と一致するため、ブロックされました。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [144 ページ](#)の『[チャンネルのブロック](#)』の識別にのみ使用されます。

2578 (0A12) (RC2578): MQRC_CHANNEL_BLOCKED_WARNING

説明

インバウンド・チャンネルがキュー・マネージャーに接続しようとしたが、チャンネル認証規則と一致するためにブロックされていましたが、規則は **WARN (YES)** で定義されているため、規則は接続をブロックしませんでした。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [144 ページ](#)の『[チャンネルのブロック](#)』の識別にのみ使用されます。

2583 (0A17) (RC2583): MQRC_INSTALLATION_MISMATCH

説明

アプリケーションは、ロードされたライブラリーと同じ IBM MQ インストール済み環境に関連付けられていないキュー・マネージャーに接続しようとした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションは、キュー・マネージャーと関連付けられているインストール済み環境のライブラリーを使用する必要があります。 **AMQ_SINGLE_INSTALLATION** 環境変数が設定されている場合、単一のインストール済み環境と関連付けられているキュー・マネージャーにのみアプリケーションが接続されていることを確認する必要があります。 そのように接続されていない場合、IBM MQ が正しいライブラリーを自動的に見つけることができなければ、アプリケーションまたはライブラリー検索パスを変更して、正しいライブラリーが確実に使用されるようにする必要があります。

2587 (0A1B) (RC2587): MQRC_HMSG_NOT_AVAILABLE

説明

MQGET、MQPUT、またはMQPUT1 呼び出しでは、提供されるメッセージ・ハンドルは、キュー・マネージャーが関連付けられているインストール済み環境には無効です。メッセージ・ハンドルは、MQHC_UNASSOCIATED_HCONN オプションを指定した MQCRTMH によって作成されました。これは、プロセス内で使用された最初のインストール済み環境と関連付けられたキュー・マネージャーでのみ使用できます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

別のインストールと関連付けられた 2 つのキュー・マネージャー間でプロパティを受け渡すには、MQGET を使用して取り出されたメッセージ・ハンドルを、MQMHBUF 呼び出しを使用してバッファーに変換します。次に、そのバッファーを他のキュー・マネージャーの MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しに渡します。あるいは、**setmqm** コマンドを使用して、キュー・マネージャーの 1 つを他のキュー・マネージャーが使用しているインストール済み環境と関連付けます。**setmqm** コマンドを使用すると、キュー・マネージャーが使用する IBM MQ のバージョンが変更される可能性があります。

2589 (0A1D) (RC2589) MQRC_INSTALLATION_MISSING

説明

MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しで、関連付けられたインストール済み環境がすでになくなっているキュー・マネージャーへの接続が試行されました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

setmqm コマンドを使用して、キュー・マネージャーを別のインストール済み環境と関連付けてから、そのキュー・マネージャーへの接続を再試行してください。

2590 (0A1E) (RC2590): MQRC_FASTPATH_NOT_AVAILABLE

説明

MQCONNX 呼び出しで、MQCNO_FASTPATH_BINDING オプションが指定されました。しかし、キュー・マネージャーへのファースト・パス接続を作成できません。この問題は、この MQCONNX 呼び出しの前に、プロセス内でキュー・マネージャーへの非ファースト・パス接続が作成された場合に発生する可能性があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

プロセス内のすべての MQCONNX 呼び出しをファースト・パスに変更するか、あるいは **AMQ_SINGLE_INSTALLATION** 環境変数を使用して接続を単一のインストール済み環境に制限します。これにより、キュー・マネージャーは同じプロセスから、任意の順序でファースト・パスおよび非ファースト・パス接続を受け入れることができます。

2591 (0A1F) (RC2591): MQRC_CIPHER_SPEC_NOT_SUITE_B

説明

クライアント・アプリケーションは NSA Suite B 準拠の操作向けに構成されていますが、クライアント接続チャンネルの CipherSpec は、構成された Suite B セキュリティー・レベルでは許可されません。これは現在構成されているセキュリティー・レベルの範囲外の Suite B CipherSpec で発生する可能性があります。例えば、ECDHE_ECDSA_AES_128_GCM_SHA256 (128 ビットの Suite B) は、192 ビットの Suite B セキュリティー・レベルが構成されている場合にのみ使用されます。

どの CipherSpec が Suite B に準拠しているかの詳細については、[CipherSpec の指定](#)を参照してください。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構成されている Suite B セキュリティー・レベルで許可されている適切な CipherSpec を選択してください。

2592 (0A20) (RC2592): MQRC_SUITE_B_ERROR

説明

Suite B の構成は無効です。例えば、認識されない値が、**MQSUITEB** 環境変数、EncryptionPolicySuiteB TLS スタンザ設定、または MQSCO EncryptionPolicySuiteB フィールドに指定されました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

Suite B 構成内の障害を判別して、修正してください。

2593 (0A21)(RC2593): MQRC_CERT_VAL_POLICY_ERROR

説明

証明書妥当性検査ポリシー構成が無効です。認識されないかサポートされない値が、**MQCERTVPOL** 環境変数、CertificateValPolicy TLS スタンザ設定、または MQSCO CertificateValPolicy フィールドに指定されました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

現行のプラットフォームでサポートされている有効な証明書妥当性検査ポリシーを指定してください。

2594 (0A22)(RC2594): MQRC_PASSWORD_PROTECTION_ERROR

説明

クライアント・アプリケーションによって MQCONN または MQCONNX 呼び出しが発行されましたが、キュー・マネージャーとパスワード保護アルゴリズムが一致しませんでした。暗号化されていないチャンネルの場合、クライアントは、ネットワークを介してプレーン・テキストでアプリケーション資格情報が送信されないようにするために、パスワード保護メカニズムに同意しようとしています。

このエラーの通常の原因は、mqclient.ini ファイルまたは qm.ini ファイルの **Channels** スタンザの **PasswordProtection** 属性が ALWAYS に設定されているが、リモート・システムにインストールされている IBM MQ のバージョンがパスワード保護をサポートしていないことです。

V 9.4.0 接続が IBM MQ Internet Pass-Thru (MQIPT) を通過し、MQIPT 経路が TLS 暗号化を追加または削除するように構成されている場合、チャンネルの一方の側が TLS 暗号化を使用し、もう一方の側が TLS 暗号化を使用しないため、クライアントとキュー・マネージャーがパスワード保護アルゴリズムに同意しない可能性があります。

Java および JMS クライアントで **PasswordProtection** 機能を使用するには、MQCSP 認証モードを有効にする必要があります。[Java クライアントによる接続認証](#)を参照してください。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

PasswordProtection 属性を変更するか、代わりに TLS を使用してアプリケーション資格情報を保護することを検討してください。TLS を使用する場合は、ヌル暗号を使用してはなりません。ヌル暗号では、資格情報がプレーン・テキストで送信されるため、保護は提供されません。

詳しくは、エラー・ログのメッセージ AMQ9296E を参照してください。

V 9.4.0 接続が MQIPT を通過し、MQIPT 経路が TLS 暗号化を追加または削除するように構成されている場合は、MQIPT 経路構成の **PasswordProtection** プロパティの値を `compatible` に設定することを検討してください。

2595 (0A23)(RC2595): MQRC_CSP_ERROR

説明

以下のいずれかの理由で MQCSP 構造体が無効であるため、接続呼び出しが失敗しました。

- StrucId フィールドが MQCSP_STRUC_ID ではない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- AuthenticationType フィールドに、このバージョンの MQCSP 構造体では無効な値またはサポートされない値が指定されています。
- ユーザー ID の指定が正しくない。
- パスワードの指定が正しくない。
- **V 9.4.0** 認証トークンが誤って指定されています。
- **V 9.4.0** ユーザー ID またはパスワードが指定され、AuthenticationType フィールドが MQCSP_AUTH_ID_TOKEN に設定されている。
- **V 9.4.0** 認証トークンが指定されましたが、AuthenticationType フィールドが MQCSP_AUTH_ID_TOKEN に設定されていません。
- **V 9.4.0** 認証トークンは、ローカル・バインディングを使用して接続するアプリケーションによって指定されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCSP 構造体が正しいことを確認してください。

 On z/OS:

- STEPLIB 内の IBM MQ ライブラリーがキュー・マネージャーのレベル以上であることを確認してください。
- z/OS UNIX System Services を使用している場合は、LIBPATH=\$LIBPATH:"/mqm/V8R0M0/java/lib/" などのように、一致するライブラリーが LIBPATH に指定されていることを確認してください。

2596 (0A24)(RC2596): MQRC_CERT_LABEL_NOT_ALLOWED

説明

チャンネル定義は証明書ラベルを指定していますが、証明書ラベルの構成は環境でサポートされていません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

証明書ラベルをチャンネル定義から除去するか、ラベルを無視するよう構成を変更してください。

2598 (0A26)(RC2598): MQRC_ADMIN_TOPIC_STRING_ERROR

説明

このエラーは、MQSUB または MQOPEN の呼び出し時に発生することがあります。\$SYS/MQ/ で始まる、IBM MQ 管理トピック・ストリングへのパブリッシュは許可されません。

IBM MQ 管理トピック・ストリングにサブスクライブする場合、ワイルドカード文字の使用は制限されません。詳しくは、[モニタリングとアクティビティ・トレースのためのシステム・トピック](#)を参照してください。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

\$SYS/MQ/ から始まらない管理トピック・ストリングをパブリッシュするように構成を変更します。

2601 (0A29)(RC2601): MQRC_Q_MGR_RECONNECT_REQUESTED

説明

このコードは、アプリケーション・บาลancingが使用中の場合など、明示的な再接続要求が発行された場合に現れることがあります。

完了コード

MQCC_WARNING

2602 (0A2A) (RC2602): MQRC_BNO_ERROR

説明

MQBNO がアプリケーション・コードによって提供される場合は、以下のようになります。

- バージョンが無効であるか、構造 ID が正しくありません
- 有効範囲外のその他のフィールド、または [MQBNO](#) 構造体に記載されている定数。

ただし、mqclient.ini **Application** または **ApplicationDefault** スタンザからアプリケーション・コードの代わりに MQBNO 構造体が作成される場合があることにも注意してください。したがって、アプリケーション・コードが MQBNO 構造体を直接提供しない場合でも、mqclient.ini ファイル内の値が欠落していたり誤っていたりすると、この戻りコードが返されることがあります。

完了コード

MQCC_WARNING

6100 (17D4) (RC6100): MQRC_REOPEN_EXCL_INPUT_ERROR

説明

オープンしているオブジェクトに正しい ImqObject オープン・オプションがなく、1 つまたは複数の追加オプションが必要です。暗黙的な再オープンが必要ですが、閉止が防止されています。

クローズが妨げられたのは、このキューが入力専用オープンされたものであり、クローズすると、現在アクセスしているプロセスまたはスレッドによってキューが再オープンされる前に、別のプロセスまたはスレッドによってそのキューがアクセスされてしまう可能性があるためです。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

オープン・オプションをすべての状況をカバーするように明示的に設定して、暗黙的な再オープンが必要なくなるようにします。

6101 (17D5) (RC6101): MQRC_REOPEN_INQUIRE_ERROR

説明

オープンしているオブジェクトに正しい ImqObject オープン・オプションがなく、1 つまたは複数の追加オプションが必要です。暗黙的な再オープンが必要ですが、閉止が防止されています。

オブジェクトの 1 つまたは複数の特性をクローズ前に動的に検査する必要があり、またオープン・オプションに MQOO_INQUIRE がまだ含まれていないため、クローズが妨げられました。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQOO_INQUIRE を組み込むようにオープン・オプションを明示的に設定します。

6102 (17D6) (RC6102): MQRC_REOPEN_SAVED_CONTEXT_ERR

説明

オープンしているオブジェクトに正しい ImqObject オープン・オプションがなく、1つまたは複数の追加オプションが必要です。暗黙的な再オープンが必要ですが、閉止が防止されています。

キューが MQOO_SAVE_ALL_CONTEXT を指定してオープンされており、以前に破壊的な GET が実行されたため、クローズが妨げられました。このため、保存されている状態情報がオープン・キューに関連付けられ、この情報がクローズによって破壊される可能性が生じました。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

オープン・オプションをすべての状況をカバーするように明示的に設定して、暗黙的な再オープンが必要なくなるようにします。

6103 (17D7) (RC6103): MQRC_REOPEN_TEMPORARY_Q_ERROR

説明

オープンしているオブジェクトに正しい ImqObject オープン・オプションがなく、1つまたは複数の追加オプションが必要です。暗黙的な再オープンが必要ですが、閉止が防止されています。

キューが定義タイプ MQQDT_TEMPORARY_DYNAMIC のローカル・キューであり、そのためクローズすると破壊されてしまうため、クローズが妨げられました。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

オープン・オプションをすべての状況をカバーするように明示的に設定して、暗黙的な再オープンが必要なくなるようにします。

6104 (17D8) (RC6104): MQRC_ATTRIBUTE_LOCKED

説明

オブジェクトがオープンしている間に、または ImqQueueManager オブジェクトの場合はそのオブジェクトが接続している間に、オブジェクトの属性値の変更を試行しました。これらの状況では特定の属性を変更できません。状況に応じてオブジェクトをクローズまたは切断してから、属性値を変更してください。

MQINQ 呼び出しを実行するために、オブジェクトが予期せず暗黙的に、接続されたかオープンされたか、またはその両方の可能性があります。何らかのメソッド呼び出しが結果的に MQINQ 呼び出しとなるかどうかを判別するには、C++ と MQI の相互参照の属性相互参照表を確認してください。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ImqObject オープン・オプションに MQOO_INQUIRE を指定し、早い段階で設定します。

6105 (17D9) (RC6105): MQRC_CURSOR_NOT_VALID

説明

暗黙の再オープンで最後に使用されたため、オープンされているキューのブラウズ・カーソルが無効にされました。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ImqObject オープン・オプションをすべての状況をカバーするように明示的に設定して、暗黙的な再オープンが必要なくなるようにします。

6106 (17DA) (RC6106): MQRC_ENCODING_ERROR

説明

(次の)メッセージ項目のエンコードを、貼り付け用に MQENC_NATIVE にする必要があります。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6107 (17DB) (RC6107): MQRC_STRUC_ID_ERROR

説明

(次の)メッセージ項目の構造体 ID (データ・ポインターから始まる 4 文字から派生したものは、欠落しているか、またはその項目が貼り付けられるオブジェクトのクラスと整合していません。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6108 (17DC) (RC6108): MQRC_NULL_POINTER

説明

非ヌル・ポインターが必要または暗示されているところに、ヌル・ポインターが提供されました。
この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6109 (17DD) (RC6109): MQRC_NO_CONNECTION_REFERENCE

説明

接続参照がヌルです。ImqQueueManager オブジェクトへの接続は必須です。
この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6110 (17DE) (RC6110): MQRC_NO_BUFFER

説明

使用可能なバッファーがありません。ImqCache オブジェクトの場合、オブジェクト状態に起こりえない内部矛盾を示すことによって、バッファーを割り振ることはできません。
この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6111 (17DF) (RC6111): MQRC_BINARY_DATA_LENGTH_ERROR

説明

2 進データの長さが宛先の属性の長さとは矛盾しています。ゼロは、すべての属性の長さとして正しい値です。

- ・ アカウンティング・トークンに適切な長さは MQ_ACCOUNTING_TOKEN_LENGTH です。
- ・ 代替セキュリティ ID に適切な長さは MQ_SECURITY_ID_LENGTH です。
- ・ 相関 ID に適切な長さは MQ_CORREL_ID_LENGTH です。
- ・ 機能トークンに適切な長さは MQ_FACILITY_LENGTH です。
- ・ グループ ID に適切な長さは MQ_GROUP_ID_LENGTH です。
- ・ メッセージ ID に適切な長さは MQ_MSG_ID_LENGTH です。
- ・ インスタンス ID に適切な長さは MQ_OBJECT_INSTANCE_ID_LENGTH です。
- ・ トランザクション・インスタンス ID に適切な長さは MQ_TRAN_INSTANCE_ID_LENGTH です。
- ・ メッセージ・トークンに適切な長さは MQ_MSG_TOKEN_LENGTH です。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6112 (17E0) (RC6112): MQRC_BUFFER_NOT_AUTOMATIC

説明

ユーザー定義 (およびユーザー管理) バッファのサイズを変更することはできません。ユーザー定義バッファは置き換えまたは取り消しのみが可能です。自動 (システム管理) になっているバッファであれば、サイズ変更できます。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

6113 (17E1) (RC6113): MQRC_INSUFFICIENT_BUFFER

説明

要求を収容するデータ・ポインターより後は、使用可能なバッファ・スペースが不足しています。これはバッファをサイズ変更できないためである可能性があります。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6114 (17E2) (RC6114): MQRC_INSUFFICIENT_DATA

説明

要求を収容するデータ・ポインターより後は、データが不足しています。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6115 (17E3) (RC6115): MQRC_DATA_TRUNCATED

説明

バッファから別のバッファにコピーされたとき、データが切り捨てられました。これは、ターゲット・バッファのサイズを変更できないためか、またはいずれかのバッファへのアドレッシングに問題があったか、または置き換えサイズが小さくてバッファのサイズが縮小されたか、いずれかのためである可能性があります。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6116 (17E4) (RC6116): MQRC_ZERO_LENGTH

説明

正の値の長さの指定が必要であるか、暗黙指定される場合に、ゼロ長が指定されています。
この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6117 (17E5) (RC6117): MQRC_NEGATIVE_LENGTH

説明

ゼロまたは正の値の長さを指定する必要があるところに、負の値の長さが指定されています。
この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6118 (17E6) (RC6118): MQRC_NEGATIVE_OFFSET

説明

ゼロまたは正の値のオフセットを指定する必要があるところに、負の値のオフセットが指定されています。
この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6119 (17E7) (RC6119): MQRC_INCONSISTENT_FORMAT

説明

(次の)メッセージ項目のフォーマットは、その項目が貼り付けられるオブジェクトのクラスと整合していません。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6120 (17E8) (RC6120): MQRC_INCONSISTENT_OBJECT_STATE

説明

このオブジェクト (オープンしている) と参照されている ImqQueueManager オブジェクト (接続していない) の間に、不整合があります。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6121 (17E9) (RC6121): MQRC_CONTEXT_OBJECT_NOT_VALID

説明

ImqPutMessageOptions コンテキスト参照が、有効な ImqQueue オブジェクトを参照していません。オブジェクトがすでに破壊されています。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6122 (17EA) (RC6122): MQRC_CONTEXT_OPEN_ERROR

説明

ImqPutMessageOptions コンテキスト参照が、コンテキストを確立するためにオープンできない ImqQueue オブジェクトを参照しています。これは、ImqQueue オブジェクトに不適切なオープン・オプションがあるためである可能性があります。示されているオブジェクト理由コードを調べて、原因を突き止めてください。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6123 (17EB) (RC6123): MQRC_STRUC_LENGTH_ERROR

説明

データ構造体の長さがその内容と矛盾しています。MQRMH では、固定フィールドとすべてのオフセット・データを格納するには長さが不十分です。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6124 (17EC) (RC6124): MQRC_NOT_CONNECTED

説明

キュー・マネージャーへの必須接続が利用不能であったため、メソッドが失敗し、また `ImqQueueManager behavior` クラス属性の `IMQ_IMPL_CONN` フラグが `FALSE` であったため、接続を暗黙的に確立できませんでした。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー・マネージャーへの接続を確立して、再試行します。

6125 (17ED) (RC6125): MQRC_NOT_OPEN

説明

オブジェクトがオープンされていないため、メソッドが失敗しました。 `ImqObject behavior` クラス属性の `IMQ_IMPL_OPEN` フラグが `FALSE` であるため、オープンが暗黙的に実行できません。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

オブジェクトをオープンして再試行してください。

6126 (17EE) (RC6126): MQRC_DISTRIBUTION_LIST_EMPTY

説明

参照されている `ImqQueue` オブジェクトがないため、 `ImqDistributionList` が失敗しました。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

配布リスト参照が `ImqDistributionList` オブジェクトをアドレッシングするように指定した `ImqQueue` オブジェクトを少なくとも 1 つ設定して、再試行します。

6127 (17EF) (RC6127): MQRC_INCONSISTENT_OPEN_OPTIONS

説明

オブジェクトがオープンしているため、メソッドが失敗し、 `ImqObject` オープン・オプションは必須操作と矛盾しています。このオブジェクトは、 `ImqObject behavior` クラス属性の `IMQ_IMPL_OPEN` フラグが偽であるため、暗黙的に再オープンできません。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

オブジェクトに適切な ImqObject オープン・オプションを指定してオープンし、再試行します。

6128 (17F0) (RC6128): MQRC_WRONG_VERSION

説明

指定されたバージョン番号か検出されたバージョン番号が間違っているかまたはサポートされていないため、メソッドが失敗しました。

ImqCICSBridgeHeader クラスの場合、問題は **version** 属性にあります。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

バージョン番号を指定する場合、該当クラスがサポートするバージョン番号を使用します。別のプログラムからメッセージ・データを受信している場合、両方のプログラムが一貫性のあるサポートされているバージョン番号を使用していることを確認します。

6129 (17F1) (RC6129): MQRC_REFERENCE_ERROR

説明

オブジェクト参照が無効です。

参照されたオブジェクトのアドレスに問題があります。使用時に、オブジェクトのアドレスはヌルではありませんが、アドレスは無効であり、意図した目的には使用できません。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

参照オブジェクトが削除されていないこと、および有効範囲内にあることを確認するか、ヌル・アドレス値を指定して参照自体を除去します。

PCF 理由コード

PCF フォーマットのコマンド・メッセージ中で使用したパラメーターによっては、そのメッセージへの応答としてブローカーから理由コードが返される場合があります。

PCF の詳細については、[プログラマブル・コマンド・フォーマットの概要](#)、[管理タスクの自動化](#)、および [プログラマブル・コマンド・フォーマットの使用](#)を参照してください。

次のリストは、PCF 理由コードを数字順で示しています。以下についても記載することで、理由コードを理解するための詳細情報を提供します。

- 該当コードを発生させる状況の説明
- 関連付けられた完了コード
- コードへの応答で推奨されるプログラマーの応答

関連概念

[264 ページの『IBM MQ for z/OS messages, completion, and reason codes』](#)

Use this topic to interpret and understand the messages and codes issued by IBM MQ for z/OS.

関連資料

[235 ページの『AMQ メッセージ \(Multiplatforms\)』](#)

このセクションには、AMQ シリーズの診断メッセージが番号順にリストされています。これらのメッセージは、発信元の IBM MQ の部分に従ってグループ化されています。

[1123 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)

呼び出しが行われるたびに、その呼び出しが成功したか失敗したかを示すための完了コードと理由コードが、キュー・マネージャーまたは出口ルーチンによって戻されます。

[1414 ページの『Transport Layer Security \(TLS\) の戻りコード』](#)

IBM MQ では、さまざまな通信プロトコルと一緒に TLS を使用できます。このトピックを使用して、TLS によって返される可能性があるエラー・コードを特定します。

[1419 ページの『WCF カスタム・チャネル例外』](#)

このトピックでは、診断メッセージが、発信元の Microsoft Windows Communication Foundation (WCF) カスタム・チャネルの部分に従ってグループ化された番号順にリストされています。

3001 (OBB9) (RC3001): MQRCCF_CFH_TYPE_ERROR

説明

タイプが無効です。

MQCFH *Type* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効なタイプを指定してください。

3002 (OBBA) (RC3002): MQRCCF_CFH_LENGTH_ERROR

説明

構造体の長さが無効です。

MQCFH *StrucLength* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効な構造体の長さを指定してください。

3003 (OBBB) (RC3003): MQRCCF_CFH_VERSION_ERROR

説明

構造体バージョン番号が無効です。

MQCFH *Version* フィールド値が無効でした。

z/OS では MQCFH_VERSION_3 が必要であることを注意してください。

プログラマー応答

有効な構造体バージョン番号を指定してください。

3004 (OBBC) (RC3004): MQRCCF_CFH_MSG_SEQ_NUMBER_ERR

説明

メッセージ順序番号が無効です。

MQCFH *MsgSeqNumber* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効なメッセージ・シーケンス番号を指定してください。

3005 (OBBD) (RC3005): MQRCCF_CFH_CONTROL_ERROR

説明

制御オプションが無効です。

MQCFH *Control* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効な制御オプションを指定してください。

3006 (OBBE) (RC3006): MQRCCF_CFH_PARM_COUNT_ERROR

説明

パラメーター・カウントが無効です。

MQCFH *ParameterCount* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効なパラメーター・カウントを指定してください。

3007 (OBBF) (RC3007): MQRCCF_CFH_COMMAND_ERROR

説明

コマンド ID が無効です。

MQCFH *Command* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効なコマンド ID を指定してください。

3008 (OBC0) (RC3008): MQRCCF_COMMAND_FAILED

説明

コマンドは失敗しました。

コマンドが失敗しました。

プログラマー応答

このコマンドに関する前のエラー・メッセージを参照してください。

3009 (OBC1) (RC3009): MQRCCF_CFIN_LENGTH_ERROR

説明

構造体の長さが無効です。

MQCFIN または MQCFIN64 *StrucLength* フィールドの値が無効です。

プログラマー応答

有効な構造体の長さを指定してください。

3010 (OBC2) (RC3010): MQRCCF_CFST_LENGTH_ERROR

説明

構造体の長さが無効です。

MQCFST *StrucLength* フィールド値が無効でした。値が4の倍数でなかったか、または MQCFST *StringLength* フィールド値と矛盾していました。

プログラマー応答

有効な構造体の長さを指定してください。

3011 (OBC3) (RC3011): MQRCCF_CFST_STRING_LENGTH_ERR

説明

ストリングの長さが無効です。

MQCFST *StringLength* フィールド値が無効でした。値が負の値であるか、*Parameter* フィールドに指定されたパラメーターの最大許容長を超えています。

プログラマー応答

パラメーターについて有効なストリングの長さを指定してください。

3012 (OBC4) (RC3012): MQRCCF_FORCE_VALUE_ERROR

説明

強制値が無効です。

指定された強制値が無効です。

プログラマー応答

有効な強制値を指定してください。

3013 (OBC5) (RC3013): MQRCCF_STRUCTURE_TYPE_ERROR

説明

構造タイプが無効です。

構造体 *Type* の値が無効です。

プログラマー応答

有効な構造体タイプを指定してください。

3014 (OBC6) (RC3014): MQRCCF_CFIN_PARM_ID_ERROR

説明

パラメーター ID が無効です。

MQCFIN または MQCFIN64 *Parameter* フィールドの値が無効です。

例えば、チャンネル状況照会要求でキューのパラメーター MQIACF_OLDEST_MSG_AGE を指定した場合などです。

プログラマー応答

有効なパラメーター ID を指定してください。

3015 (OBC7) (RC3015): MQRCCF_CFST_PARM_ID_ERROR

説明

パラメーター ID が無効です。

MQCFST *Parameter* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効なパラメーター ID を指定してください。

3016 (OBC8) (RC3016): MQRCCF_MSG_LENGTH_ERROR

説明

メッセージ長が無効です。

メッセージ・データ長が、メッセージ内のパラメーターにより暗黙指定された長さとは矛盾しているか、あるいは定位置パラメーターのシーケンスが無効です。

プログラマー応答

有効なメッセージ長を指定し、定位置パラメーターのシーケンスが正しいことを確認してください。

3017 (OBC9) (RC3017): MQRCCF_CFIN_DUPLICATE_PARM

説明

パラメーターが重複しています。

2つのMQCFIN、MQCFIN64、MQCFIL、またはMQCFIL64構造体、あるいはこれらのタイプの構造体のいずれか2つが、同じパラメーターIDを保持しています。

プログラマー応答

重複したパラメーターを確認し、除去してください。

3018 (OBCA) (RC3018): MQRCCF_CFST_DUPLICATE_PARM

説明

パラメーターが重複しています。

2つのMQCFST構造体、あるいはMQCFST構造体が続くMQCFSLが、同じパラメーターIDを保持しています。

プログラマー応答

重複したパラメーターを確認し、除去してください。

3019 (OBCB) (RC3019): MQRCCF_PARM_COUNT_TOO_SMALL

説明

パラメーター・カウントが小さすぎます。

MQCFH *ParameterCount* フィールド値が、コマンドに必要な最小値より小さい値でした。

プログラマー応答

コマンドに対して有効なパラメーター・カウントを指定してください。

3020 (OBCC) (RC3020): MQRCCF_PARM_COUNT_TOO_BIG

説明

パラメーター・カウントが大きすぎます。

MQCFH *ParameterCount* フィールド値がコマンドの最大値を超えています。

プログラマー応答

コマンドに対して有効なパラメーター・カウントを指定してください。

3021 (OBCD) (RC3021): MQRCCF_Q_ALREADY_IN_CELL

説明

キューがすでにセルに存在します。

セル有効範囲を持つキューを定義する試行、または既存キューの有効範囲をキュー・マネージャー有効範囲からセル有効範囲に変更する試行が行われましたが、その名前のキューはすでにセルに存在しています。

プログラマー応答

次のいずれかを行います。

- 既存のキューを削除し、操作を再試行します。
- 既存のキューの有効範囲をセルからキュー・マネージャーに変更し、操作を再試行します。
- 別の名前を使用して新規キューを作成します。

3022 (OBCE) (RC3022): MQRCCF_Q_TYPE_ERROR

説明

キュー・タイプは無効です。

QType 値が無効でした。

プログラマー応答

有効なキュー・タイプを指定してください。

3023 (OBCF) (RC3023): MQRCCF_MD_FORMAT_ERROR

説明

形式が無効です。

MQMD Format フィールド値が *MQFMT_ADMIN* ではありません。

プログラマー応答

有効なフォーマットを指定してください。

3024 (OBD0) (RC3024): MQRCCF_CFSL_LENGTH_ERROR

説明

構造体の長さが無効です。

MQCFSL StrucLength フィールド値が無効でした。値が4の倍数ではなかったか、*MQCFSL StringLength* フィールド値と矛盾していました。

プログラマー応答

有効な構造体の長さを指定してください。

3025 (OBD1) (RC3025): MQRCCF_REPLACE_VALUE_ERROR

説明

置換値が無効です。

Replace 値が無効でした。

プログラマー応答

有効な置換値を指定してください。

3026 (OBD2) (RC3026): MQRCCF_CFIL_DUPLICATE_VALUE

説明

パラメーター値が重複しています。

MQCFIL 構造体または MQCFIL64 構造体において、リスト内に重複したパラメーター値が存在します。

プログラマー応答

重複したパラメーター値を確認し、除去してください。

3027 (OBD3) (RC3027): MQRCCF_CFIL_COUNT_ERROR

説明

パラメーター値のカウントが無効です。

MQCFIL または MQCFIL64 *Count* フィールド値が無効でした。値が負の値であるか、または *Parameter* フィールドに指定されたパラメーターに許可されている最大値を超えています。

プログラマー応答

パラメーターについて有効なカウントを指定してください。

3028 (OBD4) (RC3028): MQRCCF_CFIL_LENGTH_ERROR

説明

構造体の長さが無効です。

MQCFIL または MQCFIL64 *StrucLength* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効な構造体の長さを指定してください。

3029 (OBD5) (RC3029): MQRCCF_MODE_VALUE_ERROR

説明

モード値が無効です。

Mode 値が無効でした。

プログラマー応答

有効なモード値を指定してください。

3029 (OBD5) (RC3029): MQRCCF_QUIESCE_VALUE_ERROR

説明

MQRCCF_MODE_VALUE_ERROR の以前の名前です。

3030 (OBD6) (RC3030): MQRCCF_MSG_SEQ_NUMBER_ERROR

説明

メッセージ順序番号が無効です。
メッセージ・シーケンス番号パラメーター値が無効です。

プログラマー応答

有効なメッセージ・シーケンス番号を指定してください。

3031 (OBD7) (RC3031): MQRCCF_PING_DATA_COUNT_ERROR

説明

データ・カウントが無効です。
ping チャンネル *DataCount* 値が無効です。

プログラマー応答

有効なデータ・カウント値を指定してください。

3032 (OBD8) (RC3032): MQRCCF_PING_DATA_COMPARE_ERROR

説明

ping チャンネル・コマンドが失敗しました。
ping チャンネル・コマンドがデータ比較エラーにより失敗しました。失敗したデータ・オフセットは、メッセージ内に返されます (パラメーター ID *MQIACF_ERROR_OFFSET*)。

プログラマー応答

システム管理者にご相談ください。

3033 (OBD9) (RC3033): MQRCCF_CFSL_PARM_ID_ERROR

説明

パラメーター ID が無効です。
MQCFSL Parameter フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効なパラメーター ID を指定してください。

3034 (OBDA) (RC3034): MQRCCF_CHANNEL_TYPE_ERROR

説明

チャンネル・タイプが無効です。
指定された *ChannelType* が無効であるか、コピー、変更、または置換されている既存のチャンネルのタイプと一致しなかったか、またはコマンドと指定された処理をそのタイプのチャンネルで使用できません。

プログラマー応答

有効なチャンネル名、タイプ、または処理を指定してください。

3035 (OBDB) (RC3035): MQRCCF_PARM_SEQUENCE_ERROR

説明

パラメーターの順序が無効です。

このコマンドに対するパラメーター・シーケンスが無効です。

プログラマー応答

コマンドに対し、有効なシーケンスで定位置パラメーターを指定してください。

3036 (OBDC) (RC3036): MQRCCF_XMIT_PROTOCOL_TYPE_ERR

説明

伝送プロトコル・タイプが無効です。

TransportType 値が無効でした。

プログラマー応答

有効な伝送プロトコル・タイプを指定してください。

3037 (OBDD) (RC3037): MQRCCF_BATCH_SIZE_ERROR

説明

バッチ・サイズが無効です。

指定されたバッチ・サイズが無効です。

プログラマー応答

有効なバッチ・サイズ値を指定してください。

3038 (OBDE) (RC3038): MQRCCF_DISC_INT_ERROR

説明

切断間隔が無効です。

指定された切断間隔が無効です。

プログラマー応答

有効な切断間隔を指定してください。

3039 (OBDF) (RC3039): MQRCCF_SHORT_RETRY_ERROR

説明

短期再試行カウントが無効です。

ShortRetryCount 値が無効でした。

プログラマー応答

有効な短期再試行カウント値を指定してください。

3040 (OBE0) (RC3040): MQRCCF_SHORT_TIMER_ERROR

説明

ショート・タイマーの値が無効です。

ShortRetryInterval 値が無効でした。

プログラマー応答

有効な短期タイマー値を指定してください。

3041 (OBE1) (RC3041): MQRCCF_LONG_RETRY_ERROR

説明

長期再試行カウントが無効です。

指定された長期再試行カウント値が無効です。

プログラマー応答

有効な長期再試行カウント値を指定してください。

3042 (OBE2) (RC3042): MQRCCF_LONG_TIMER_ERROR

説明

ロング・タイマーが無効です。

指定された長期タイマー (長期再試行の待機間隔) 値が無効です。

プログラマー応答

有効な長期タイマー値を指定してください。

3043 (OBE3) (RC3043): MQRCCF_SEQ_NUMBER_WRAP_ERROR

説明

順序折り返し番号が無効です。

SeqNumberWrap 値が無効でした。

プログラマー応答

有効なシーケンス折り返し番号を指定してください。

3044 (OBE4) (RC3044): MQRCCF_MAX_MSG_LENGTH_ERROR

説明

最大メッセージ長が無効です。
指定された最大メッセージ長の値が無効です。

プログラマー応答

有効な最大メッセージ長を指定してください。

3045 (OBE5) (RC3045): MQRCCF_PUT_AUTH_ERROR

説明

書き込み権限の値が無効です。
PutAuthority 値が無効でした。

プログラマー応答

有効な書き込む権限の値を指定してください。

3046 (OBE6) (RC3046): MQRCCF_PURGE_VALUE_ERROR

説明

ページ値が無効です。
Purge 値が無効でした。

プログラマー応答

有効なページ値を指定してください。

3047 (OBE7) (RC3047): MQRCCF_CFIL_PARM_ID_ERROR

説明

パラメーター ID が無効です。
MQRCCF または MQRCCF64 *Parameter* フィールド値が無効であるか、フィルタリングできないパラメーターを指定しているか、オブジェクトのサブセットを選択するためのパラメーターとしても指定されていません。

プログラマー応答

有効なパラメーター ID を指定してください。

3048 (OBE8) (RC3048): MQRCCF_MSG_TRUNCATED

説明

メッセージが切り捨てられました。
コマンド・サーバーは、有効な最大メッセージ・サイズより大きいメッセージを受け取りました。

プログラマー応答

メッセージ内容が正しいことを確認してください。

3049 (OBE9) (RC3049): MQRCCF_CCSSID_ERROR

説明

コード化文字セット ID エラー。

コマンド・メッセージで、次のいずれかが発生しました。

- コマンドのメッセージ記述子の *CodedCharSetId* フィールドが、コマンドが処理されているキュー・マネージャーのコード化文字セット ID と一致しません。または、
- コマンドのメッセージ・テキスト内のストリング・パラメーター構造体の *CodedCharSetId* フィールドが、
 - MQCCSI_DEFAULT
 - コマンドが処理されているキュー・マネージャーのコード化文字セット ID。メッセージ記述子の *CodedCharSetId* フィールドに示されています。

エラー応答メッセージには正しい値が含まれています。

この理由は、コード化文字セット ID に互換性がないために ping を実行できない場合にも発生する可能性があります。この場合、正しい値は返されません。

プログラマー応答

正しいコード化文字セット ID を使用してコマンドを構成し、コマンド送信時にメッセージ記述子内で指定してください。ping の場合、適切なコード化文字セット ID を使用してください。

3050 (OBEA) (RC3050): MQRCCF_ENCODING_ERROR

説明

エンコード・エラーです。

コマンドのメッセージ記述子の *Encoding* フィールドが、コマンドが処理されているプラットフォームに必要なフィールドと一致しません。

プログラマー応答

正しいエンコードを使用してコマンドを構成し、コマンド送信時にメッセージ記述子内で指定してください。

3052 (OBEC) (RC3052): MQRCCF_DATA_CONV_VALUE_ERROR

説明

データ変換値が無効です。

DataConversion に指定された値が無効です。

プログラマー応答

有効な値を指定してください。

3053 (OBED) (RC3053): MQRCCF_INDOUBT_VALUE_ERROR

説明

未確定値が無効です。

InDoubt に指定された値が無効です。

プログラマー応答

有効な値を指定してください。

3054 (OBEE) (RC3054): MQRCCF_ESCAPE_TYPE_ERROR

説明

エスケープ・タイプが無効です。

EscapeType に指定された値が無効です。

プログラマー応答

有効な値を指定してください。

3062 (OBF6) (RC3062): MQRCCF_CHANNEL_TABLE_ERROR

説明

チャンネル・テーブル値が無効です。

指定された *ChannelTable* が無効であるか、Inquire Channel コマンドまたは Inquire Channel Names コマンドで指定されたチャンネル・タイプに対して適切ではありませんでした。

プログラマー応答

有効なチャンネル・テーブル値を指定してください。

3063 (OBF7) (RC3063): MQRCCF_MCA_TYPE_ERROR

説明

メッセージ・チャンネル・エージェント・タイプが無効です。

指定された *MCAType* 値が無効です。

プログラマー応答

有効な値を指定してください。

3064 (OBF8) (RC3064): MQRCCF_CHL_INST_TYPE_ERROR

説明

チャンネル・インスタンス・タイプが無効です。

指定された *ChannelInstanceType* が無効です。

プログラマー応答

有効なチャンネル・インスタンス・タイプを指定してください。

3065 (OBF9) (RC3065): MQRCCF_CHL_STATUS_NOT_FOUND

説明

チャンネル状況が見つかりません。

Inquire Channel Status の場合、指定されたチャンネルで有効なチャンネル状況がありません。これは、チャンネルが使用されていないことを示している可能性があります。

プログラマー応答

ありません。これが予期しない状況である場合、システム管理者に連絡してください。

3066 (OBFA) (RC3066): MQRCCF_CFSL_DUPLICATE_PARM

説明

パラメーターが重複しています。

2つの MQCFSL 構造体、あるいは MQCFSL 構造体が続く MQCFST が、同じパラメーター ID を保持しています。

プログラマー応答

重複したパラメーターを確認し、除去してください。

3067 (OBFB) (RC3067): MQRCCF_CFSL_TOTAL_LENGTH_ERROR

説明

ストリングの合計長エラー。

MQCFSL 構造体におけるストリングの合計長 (末尾ブランクは含まない) が、該当パラメーターに許可される最大長を超えています。

プログラマー応答

構造体が正しく指定されていることを確認し、正しく指定されている場合はストリングの数を少なくしてください。

3068 (OBFC) (RC3068): MQRCCF_CFSL_COUNT_ERROR

説明

パラメーター値のカウントが無効です。

MQCFSL Count フィールド値が無効でした。値が負の値であるか、または *Parameter* フィールドに指定されたパラメーターに許可されている最大値を超えています。

プログラマー応答

パラメーターについて有効なカウントを指定してください。

3069 (OBFD) (RC3069): MQRCCF_CFSL_STRING_LENGTH_ERR

説明

ストリングの長さが無効です。

MQCFSL *StringLength* フィールド値が無効でした。値が負の値であるか、*Parameter* フィールドに指定されたパラメーターの最大許容長を超えています。

プログラマー応答

パラメーターについて有効なストリングの長さを指定してください。

3070 (OBFE) (RC3070): MQRCCF_BROKER_DELETED

説明

ブローカーが削除されています。

dltmqbrk コマンドを使用してブローカーを削除する場合、ブローカーにより作成されたすべてのブローカー・キューが削除されます。これを実行するには、すべてのコマンド・メッセージのキューが空である必要があります。検出されたものは、この理由コードで送達不能キューに配置されます。

プログラマー応答

送達不能キューに配置されたコマンド・メッセージを処理してください。

3071 (OBFF) (RC3071): MQRCCF_STREAM_ERROR

説明

ストリーム名が無効です。

ストリーム名パラメーターが無効です。ストリーム名は、IBM MQ キューの命名規則と同じ規則に従う必要があります。

プログラマー応答

有効なストリーム名パラメーターを使用してコマンドを再試行してください。

3072 (OC00) (RC3072): MQRCCF_TOPIC_ERROR

説明

トピック名が無効です。

無効なトピック名が指定されたブローカーにコマンドが送信されました。ワイルドカード・トピック名は、*Register Publisher* コマンドおよび *Publish* コマンドでは許可されないことに注意してください。

プログラマー応答

有効なトピック名パラメーターを使用してコマンドを再試行してください。該当のトピック名の 256 文字までが、エラー応答メッセージとともに返されます。トピック名にヌル文字が含まれる場合、これはストリングを終了させるものと認識され、ストリングの一部とは認識されません。ゼロ長のトピック名、および無効なエスケープ・シーケンスを含むトピック名は無効です。

3073 (0C01) (RC3073): MQRCCF_NOT_REGISTERED

説明

サブスクライバーまたはパブリッシャーが登録されていません。

パブリッシャーまたはサブスクライバーが登録されていないトピックの登録を削除するために、*Deregister* コマンドが発行されました。コマンドで複数のトピックが指定された場合で、指定されたトピックの一部にのみサブスクライバーまたはパブリッシャーが登録されており、すべてのトピックに登録されているわけではない場合、完了コード *MQCC_WARNING* で失敗します。このエラー・コードは、サブスクリプションを持っていないトピックに対して *Request Update* コマンドを発行するサブスクライバーにも返されます。

プログラマー応答

パブリッシャーまたはサブスクライバーが登録されていない理由を確認してください。サブスクライバーの場合、サブスクリプションの有効期限が切れている可能性があります。または、サブスクライバーに現在は許可がない場合はブローカーにより自動的に除去されている可能性があります。

3074 (0C02) (RC3074): MQRCCF_Q_MGR_NAME_ERROR

説明

無効または不明なキュー・マネージャー名が指定されました。

パブリッシャー ID またはサブスクライバー ID の一部として、キュー・マネージャー名が指定されました。これは、明示的なパラメーターとして、またはコマンドのメッセージ記述子の *ReplyToQMgr* フィールドに指定されている可能性があります。キュー・マネージャー名が無効です。あるいは、サブスクライバー ID の場合は、ブローカー・キュー・マネージャーがリモート・キュー・マネージャーを認識していないために、サブスクライバーのキューを解決できませんでした。

プログラマー応答

有効なキュー・マネージャー名を指定してコマンドを再試行する。キュー・マネージャー名が有効である場合、ブローカーにより、エラー応答メッセージ内にさらにエラー理由コードが組み込まれます。提供されている場合は、[234 ページの『メッセージおよび理由コード』](#)内のその理由コードのガイダンスに従って、問題を解決してください。

3075 (0C03) (RC3075): MQRCCF_INCORRECT_STREAM

説明

ストリーム名が、送信先のストリーム・キューと一致しません。

別のストリーム名パラメーターが指定されたストリーム・キューに対してコマンドが送信されました。

プログラマー応答

正しいストリーム・キューに対して送信するか、ストリーム名パラメーターが一致するようにコマンドを変更して、コマンドを再試行してください。

3076 (0C04) (RC3076): MQRCCF_Q_NAME_ERROR

説明

無効または不明なキュー名が指定されました。

パブリッシャー ID またはサブスクライバー ID の一部として、キュー名が指定されました。これは、明示的なパラメーターとして指定されたか、あるいはコマンドのメッセージ記述子の *ReplyToQ* フィールドで指定された可能性があります。キュー名が無効です。あるいは、サブスクライバー ID の場合は、ブローカーがキューのオープンに失敗しました。

プログラマー応答

有効なキュー名を使用してコマンドを再試行してください。キュー・マネージャー名が有効である場合、ブローカーにより、エラー応答メッセージ内にさらにエラー理由コードが組み込まれます。提供されている場合は、234 ページの『メッセージおよび理由コード』内のその理由コードのガイダンスに従って、問題を解決してください。

3077 (OC05) (RC3077): MQRCCF_NO_RETAINED_MSG

説明

指定されたトピックの保存メッセージが存在しません。

Request Update コマンドが発行され、特定トピックに関連する保存メッセージが要求されました。該当トピックの保存メッセージが存在しません。

プログラマー応答

該当の 1 つ以上のトピックに保存メッセージが存在すべきである場合、これらのトピックのパブリッシャーが、パブリケーションを保存するための正しいパブリケーション・オプションを使用してパブリッシュを実行していない可能性があります。

3078 (OC06) (RC3078): MQRCCF_DUPLICATE_IDENTITY

説明

パブリッシャー ID またはサブスクライバー ID が、すでに別のユーザー ID に割り当てられています。

各パブリッシャーおよびサブスクライバーは、キュー・マネージャー名、キュー名、およびオプションで相関 ID により構成される固有 ID を保持します。各 ID に関連するのは、パブリッシャーまたはサブスクライバーが最初に登録したユーザー ID です。特定の ID を一度に 1 つのユーザー ID に対してのみ割り当てることができます。ID はブローカーとともに登録されますが、これを使用するすべてのコマンドは、正しいユーザー ID を指定する必要があります。パブリッシャーまたはサブスクライバーのブローカーへの登録がなくなった場合は、その ID を別のユーザー ID で使用できます。

プログラマー応答

別の ID を使用してコマンドを再試行するか、該当 ID に関連するすべての登録を除去し、別のユーザー ID で使用できるようにしてください。ID が現在割り当てられているユーザー ID は、エラー応答メッセージ内で返されます。*Deregister* コマンドを発行すると、これらの登録を除去できます。問題のユーザー ID でそのようなコマンドを実行することができない場合は、MQOO_ALTERNATE_USER_AUTHORITY オプションを使用して SYSTEM.BROKER.CONTROL.QUEUE をオープンするために必要な権限を持っていないければなりません。

3079 (OC07) (RC3079): MQRCCF_INCORRECT_Q

説明

コマンドが無効なブローカー・キューに送信されました。

コマンドは有効なブローカー・コマンドですが、送信先のキューが正しくありません。 *Publish* および *Delete Publication* コマンドはストリーム・キューに送信する必要があり、その他のすべてのコマンドは SYSTEM.BROKER.CONTROL.QUEUE に送信する必要があります。

プログラマー応答

正しいキューに送信してコマンドを再試行してください。

3080 (OC08) (RC3080): MQRCCF_CORREL_ID_ERROR

説明

ID の一部として使用された関連 ID がすべて 2 進ゼロです。

各パブリッシャーおよびサブスクライバーは、キュー・マネージャー名、キュー名、およびオプションで関連 ID により識別されます。 関連 ID は、通常、複数のサブスクライバーが同じサブスクライバー・キューを共有できるようにする目的で使用されます。 この場合、パブリッシャーまたはサブスクライバーは、指定されたコマンドの Registration オプションまたは Publication オプション内で、自身の ID に関連 ID が含まれるが、有効な ID が指定されていないことを示しています。 <RegOpt>CorrelAsId</RegOpt> が指定されていますが、メッセージの関連 ID は NULL です。

プログラマー応答

プログラムを変更して、コマンド・メッセージのメッセージ記述子に指定された関連 ID がすべて 2 進ゼロでないことを確認し、コマンドを再試行してください。

3081 (OC09) (RC3081): MQRCCF_NOT_AUTHORIZED

説明

サブスクライバーの権限が不十分です。

パブリケーションを受け取るには、サブスクライプ先のストリーム・キューに対するブラウズ権限と、該当パブリケーションの送信先キューに対する書き込み権限の両方を、サブスクライバー・アプリケーションが保持する必要があります。 サブスクライバーが両方の権限を保持していない場合、サブスクリプションは拒否されます。 サブスクライバーは、ストリーム・キューのブラウズ権限に加えて、ブローカー自体が情報をパブリッシュする特定のトピックにストリーム・キューがサブスクライプするための *altusr* 権限も必要とします。 これらのトピックは MQ/SA/ 接頭部で開始されます。

プログラマー応答

サブスクライバーが必要な権限を保持していることを確認し、要求を再発行してください。 ブローカーがサブスクライバーのユーザー ID を認識していない場合、問題が発生する可能性があります。 エラー応答メッセージ内にさらに MQR_UNKNOWN_ENTITY のエラー理由コードが返される場合、これを識別できません。

3082 (OC0A) (RC3082): MQRCCF_UNKNOWN_STREAM

説明

ブローカーがストリームを認識していないか、作成できません。

不明なストリームについて、コマンド・メッセージが SYSTEM.BROKER.CONTROL.QUEUE に書き込まれました。 このエラー・コードは、動的ストリーム作成が有効であり、ブローカーが SYSTEM.BROKER.MODEL.STREAM キューを使用して新規ストリームのストリーム・キューの作成に失敗した場合も返されます。

プログラマー応答

ブローカーがサポートするストリームについてコマンドを再試行してください。ブローカーが該当ストリームをサポートしているべきである場合、ストリーム・キューを手動で定義するか、ブローカーがストリーム・キュー自体を作成できない問題を解決してください。

3083 (0C0B) (RC3083): MQRCCF_REG_OPTIONS_ERROR

説明

無効な登録オプションが指定されました。

コマンドに指定した登録オプション (<RegOpt> と </RegOpt> の間) が無効です。

プログラマー応答

有効なオプションの組み合わせを使用してコマンドを再試行してください。

3084 (0C0C) (RC3084): MQRCCF_PUB_OPTIONS_ERROR

説明

無効なパブリケーション・オプションが指定されました。

Publish コマンドに指定したパブリケーション・オプションが無効です。

プログラマー応答

有効なオプションの組み合わせを使用してコマンドを再試行してください。

3085 (0C0D) (RC3085): MQRCCF_UNKNOWN_BROKER

説明

不明なブローカーからコマンドを受信しました。

複数のブローカー・ネットワーク内では、関連するブローカーは、一連のコマンド・メッセージとして相互にサブスクリプションおよびパブリケーションを受け渡します。検出ブローカーに関連しない(または関連しなくなった)ブローカーから、そのようなコマンド・メッセージを受信しました。

プログラマー応答

ネットワークに対してトポロジー変更が行われている間にブローカー・ネットワークが静止していないと、この問題が発生する可能性があります。

キュー・マネージャーが非アクティブのときにトポロジーからブローカーを削除する場合、キュー・マネージャーの再始動時に変更は伝搬されます。

キュー・マネージャーがアクティブのときにトポロジーからブローカーを削除する場合、変更が即時に伝搬されるように、チャンネルもアクティブであることを確認してください。

3086 (0C0E) (RC3086): MQRCCF_Q_MGR_CCSID_ERROR

説明

キュー・マネージャーのコード化文字セット ID エラー。

キュー・マネージャーのコード化文字セット値が無効です。

プログラマー応答

有効な値を指定してください。

3087 (0C0F) (RC3087): MQRCCF_DEL_OPTIONS_ERROR

説明

無効な削除オプションが指定されました。

Delete Publication コマンドで指定されたオプションが無効です。

プログラマー応答

有効なオプションの組み合わせを使用してコマンドを再試行してください。

3088 (0C10) (RC3088): MQRCCF_CLUSTER_NAME_CONFLICT

説明

ClusterName 属性と **ClusterNameList** 属性が競合しています。

ClusterName 属性と **ClusterNameList** 属性の両方が非空白になるため、コマンドは拒否されました。少なくともいずれか1つの属性は空白にする必要があります。

プログラマー応答

コマンドがこれらの属性のいずれか1つのみを指定した場合、空白の値を使用してもう一方も指定する必要があります。コマンドが両方の属性を指定した場合、いずれか1つが空白の値を保持することを確認してください。

3089 (0C11) (RC3089): MQRCCF_REPOS_NAME_CONFLICT

説明

RepositoryName 属性と **RepositoryNameList** 属性が競合しています。

以下のいずれかを実行します。

- **RepositoryName** 属性と **RepositoryNameList** 属性の両方が非空白になるため、コマンドは拒否されました。少なくともいずれか1つの属性は空白にする必要があります。
- Reset Queue Manager Cluster コマンドの場合、キュー・マネージャーは、指定したクラスターの完全なリポジトリ管理サービスを提供しません。つまり、キュー・マネージャーの **RepositoryName** 属性が指定されたクラスター名ではないか、**RepositoryNameList** 属性で指定された名前リストにクラスター名が含まれていません。

プログラマー応答

正しい値を指定して、または正しいキュー・マネージャー上でコマンドを再発行する。

3090 (0C12) (RC3090): MQRCCF_CLUSTER_Q_USAGE_ERROR

説明

キューがクラスター・キューになることができません。

クラスター・キューが伝送キューにもなってしまうため(これは許可されない)、または該当のキューがクラスター・キューになることができないため、コマンドが拒否されました。

プログラマー応答

コマンドが次のいずれかを指定していることを確認してください。

- MQUS_NORMAL の値を使用した **Usage** パラメーター
- ブランクの値を使用した **ClusterName** パラメーターおよび **ClusterNameList** パラメーター
- 次の予約済みキューのいずれでもない値を使用した **QName** パラメーター
 - SYSTEM.CHANNEL.INITQ
 - SYSTEM.CHANNEL.SYNCQ
 - SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE
 - SYSTEM.CLUSTER.REPOSITORY.QUEUE
 - SYSTEM.COMMAND.INPUT
 - SYSTEM.QSG.CHANNEL.SYNCQ
 - SYSTEM.QSG.TRANSMIT.QUEUE

3091 (0C13) (RC3091): MQRCCF_ACTION_VALUE_ERROR

説明

アクション値が無効です。

Action に指定された値が無効です。有効な 1 つの値のみ存在します。

プログラマー応答

Action パラメーターの値として MQACT_FORCE_REMOVE を指定してください。

3092 (0C14) (RC3092): MQRCCF_COMMS_LIBRARY_ERROR

説明

要求通信プロトコルのライブラリーをロードできません。

要求通信プロトコルに必要なライブラリーをロードできません。

プログラマー応答

必要な通信プロトコルのライブラリーをインストールするか、すでにインストール済みの通信プロトコルを指定してください。

3093 (0C15) (RC3093): MQRCCF_NETBIOS_NAME_ERROR

説明

NetBIOS リスナー名が定義されていません。

NetBIOS リスナー名が定義されていません。

プログラマー応答

構成ファイルにローカル名を追加して操作をやり直してください。

3094 (OC16) (RC3094): MQRCCF_BROKER_COMMAND_FAILED

説明

ブローカー・コマンドを完了できません。

ブローカー・コマンドが発行されましたが、完了できません。

プログラマー応答

提示される情報を確認して問題を診断し、正しいコマンドを発行してください。

詳しくは、IBM MQ のエラー・ログを参照してください。

3095 (OC17) (RC3095): MQRCCF_CFST_CONFLICTING_PARM

説明

パラメーターが競合しています。

エラー応答で識別されたパラメーターがコマンド内の別のパラメーターと競合しているため、コマンドが拒否されました。

プログラマー応答

識別されたパラメーターの説明を確認して競合の原因を特定し、コマンドを修正してください。

3096 (OC18) (RC3096): MQRCCF_PATH_NOT_VALID

説明

パスが無効です。

指定されたパスが無効です。

プログラマー応答

有効なパスを入力してください。

3097 (OC19) (RC3097): MQRCCF_PARM_SYNTAX_ERROR

説明

パラメーターに指定された値に構文エラーがあります。

値が、以下の一般的な構文規則の 1 つに準拠していない可能性があります。

- 値に、末尾の文字ではないアスタリスク (*) が含まれている。
- 値に、疑問符 (?) またはコロン (:) が含まれている。
- キーワードが WHERE で、値がアスタリスク 1 つである。

プログラマー応答

該当パラメーターの構文を確認してください。

3098 (OC1A) (RC3098): MQRCCF_PWD_LENGTH_ERROR

説明

パスワードの長さがエラーです。

パスワード・ストリング長は、最近傍の 8 バイト単位の長さに切り上げられます。この切り上げにより、*SSLCryptoHardware* ストリングの全長がその最大長を超えます。

プログラマー応答

パスワード、または *SSLCryptoHardware* ストリングの前のフィールド・サイズを減少させてください。

3150 (0C4E) (RC3150): MQRCCF_FILTER_ERROR

説明

フィルターが無効です。次のいずれかが原因である場合があります。

1. 照会コマンド・メッセージ内のフィルターの指定が無効です。
2. パブリッシュ/サブスクライブ・コマンド・メッセージに指定されたコンテンツ・ベースのフィルター式に無効な構文が含まれており、使用できません。

プログラマー応答

1. 照会コマンド・メッセージ内のフィルター・パラメーター構造体の指定を修正してください。
2. パブリッシュ/サブスクライブ・コマンド・メッセージ内のフィルター式の構文を修正してください。フィルター式は、MQRFH2 構造体の *psc* フォルダの *Filter* タグの値です。有効な構文の詳細については、「*WebSphere MQ Integrator V2 Programming Guide*」を参照してください。

3151 (0C4F) (RC3151): MQRCCF_WRONG_USER

説明

不正なユーザー。

更新するサブスクリプションはすでに別のユーザーにより所有されているため、要求ユーザーの代わりにパブリッシュ/サブスクライブ・コマンド・メッセージを実行することはできません。サブスクリプションは、元々サブスクリプションを登録したユーザーのみ更新または登録の解除を実行できます。

プログラマー応答

既存のサブスクリプションに対してコマンドを発行する必要があるアプリケーションが、元々サブスクリプションを登録したユーザー ID により稼働していることを確認してください。または、別のユーザーについて別のサブスクリプションを使用してください。

3152 (0C50) (RC3152): MQRCCF_DUPLICATE_SUBSCRIPTION

説明

サブスクリプションがすでに存在します。

一致するサブスクリプションがすでに存在します。

プログラマー応答

新規サブスクリプション・プロパティを変更して既存のサブスクリプションと区別するか、既存のサブスクリプションを登録解除してください。その後、コマンドを再発行してください。

3153 (0C51) (RC3153): MQRCCF_SUB_NAME_ERROR

説明

サブスクリプション名パラメーターにエラーがあります。

サブスクリプション名が無効なフォーマットであるか、一致するサブスクリプション (サブスクリプション名を保持しない) がすでに存在します。

プログラマー応答

サブスクリプション名を修正するか、コマンドから除去してコマンドを再発行してください。

3154 (0C52) (RC3154): MQRCCF_SUB_IDENTITY_ERROR

説明

サブスクリプション ID パラメーターでエラーが検出されました。

指定された値が最大許可長を超えているか、サブスクリプション ID が現在はサブスクリプションの ID セットのメンバーではなく、Join 登録オプションが指定されていません。

プログラマー応答

ID 値を修正するか、Join 登録オプションを指定して、該当 ID をサブスクリプションの ID セットに追加してください。

3155 (0C53) (RC3155): MQRCCF_SUBSCRIPTION_IN_USE

説明

サブスクリプションが使用中です。

サブスクリプションの変更または登録解除が、該当セットの唯一のメンバーではない ID セットのメンバーにより試行されました。

プログラマー応答

ID セットの唯一のメンバーである場合にコマンドを再発行してください。ID セット確認を省略して変更または登録解除を強制するには、コマンド・メッセージからサブスクリプション ID を除去してコマンドを再発行してください。

3156 (0C54) (RC3156): MQRCCF_SUBSCRIPTION_LOCKED

説明

サブスクリプションがロックされています。

現在、別の ID によってサブスクリプションに排他ロックがかけられています。

プログラマー応答

この ID が排他ロックを解放するまで待機してください。

3157 (0C55) (RC3157): MQRCCF_ALREADY_JOINED

説明

この ID は、該当サブスクリプションのエントリーをすでに保持しています。

Join 登録オプションが指定されましたが、そのサブスクライバー ID は、既にサブスクリプションの ID セットのメンバーでした。

プログラマー応答

なし。コマンドは完了しており、この理由コードは警告です。

3160 (0C58) (RC3160): MQRCCF_OBJECT_IN_USE

説明

オブジェクトは、別のコマンドにより使用中です。

別のコマンドによりオブジェクトが変更されている間に、オブジェクトの変更が試行されました。

プログラマー応答

コマンドを再試行する。

3161 (0C59) (RC3161): MQRCCF_UNKNOWN_FILE_NAME

説明

ファイルが CICS に定義されていません。

ファイル名パラメーターにより、CICS に定義されていないファイルが識別されました。

プログラマー応答

有効なファイル名を指定するか、必要なファイルについて CSD 定義を作成してください。

3162 (0C5A) (RC3162): MQRCCF_FILE_NOT_AVAILABLE

説明

CICS がファイルを使用できません。

ファイル名パラメーターにより、CICS に定義されたファイルが識別されましたが、使用できません。

プログラマー応答

該当ファイルの CSD 定義が正しく、有効であることを確認してください。

3163 (0C5B) (RC3163): MQRCCF_DISC_RETRY_ERROR

説明

切断再試行カウントが無効です。

DiscRetryCount 値が無効でした。

プログラマー応答

有効なカウントを指定してください。

3164 (0C5C) (RC3164): MQRCCF_ALLOC_RETRY_ERROR

説明

割り振り再試行カウントが無効です。
AllocRetryCount 値が無効でした。

プログラマー応答

有効なカウントを指定してください。

3165 (0C5D) (RC3165): MQRCCF_ALLOC_SLOW_TIMER_ERROR

説明

割り振り低速再試行タイマー値が無効です。
AllocRetrySlowTimer 値が無効でした。

プログラマー応答

有効なタイマー値を指定してください。

3166 (0C5E) (RC3166): MQRCCF_ALLOC_FAST_TIMER_ERROR

説明

割り振り高速再試行タイマー値が無効です。
AllocRetryFastTimer 値が無効でした。

プログラマー応答

有効な値を指定してください。

3167 (0C5F) (RC3167): MQRCCF_PORT_NUMBER_ERROR

説明

ポート番号の値が無効です。
PortNumber 値が無効でした。

プログラマー応答

有効なポート番号値を指定してください。

3168 (0C60) (RC3168): MQRCCF_CHL_SYSTEM_NOT_ACTIVE

説明

チャンネル・システムがアクティブではありません。
チャンネル・システムがアクティブでないのに、チャンネルの始動が試行されました。

プログラマー応答

チャンネルを始動する前にチャンネル・システムをアクティブにしてください。

3169 (OC61) (RC3169): MQRCCF_ENTITY_NAME_MISSING

説明

必要なエンティティ名が欠落しています。

エンティティ名を指定するパラメーターを指定する必要があります。

プログラマー応答

必要なパラメーターを指定してください。

3170 (OC62) (RC3170): MQRCCF_PROFILE_NAME_ERROR

説明

プロファイル名が無効です。

プロファイル名が無効です。プロファイル名にワイルドカード文字が含まれているか、プロファイル名が明示的に指定されている可能性があります。プロファイル名を明示的に指定する場合、プロファイル名により識別されるオブジェクトが存在する必要があります。このエラーは、プロファイル名に複数の二重アスタリスクを指定した場合にも発生する可能性があります。

プログラマー応答

有効な名前を指定してください。

3171 (OC63) (RC3171): MQRCCF_AUTH_VALUE_ERROR

説明

権限值が無効です。

AuthorizationList パラメーター、**AuthorityRemove** パラメーター、または **AuthorityAdd** パラメーターの値が無効でした。

プログラマー応答

有効な値を指定してください。

3172 (OC64) (RC3172): MQRCCF_AUTH_VALUE_MISSING

説明

必要な権限值が欠落しています。

権限值を指定するパラメーターを指定する必要があります。

プログラマー応答

必要なパラメーターを指定してください。

3173 (OC65) (RC3173): MQRCCF_OBJECT_TYPE_MISSING

説明

必要なオブジェクト・タイプ値が欠落しています。
オブジェクト・タイプを指定するパラメーターを指定する必要があります。

プログラマー応答

必要なパラメーターを指定してください。

3174 (0C66) (RC3174): MQRCCF_CONNECTION_ID_ERROR

説明

接続 ID パラメーターにエラーがあります。
指定された *ConnectionId* が無効です。

プログラマー応答

有効な接続 ID を指定してください。

3175 (0C67) (RC3175): MQRCCF_LOG_TYPE_ERROR

説明

ログ・タイプが無効です。
指定されたログ・タイプ値が無効です。

プログラマー応答

有効なログ・タイプ値を指定してください。

3176 (0C68) (RC3176): MQRCCF_PROGRAM_NOT_AVAILABLE

説明

プログラムを使用できません。
プログラムを始動する要求が失敗したため、サービスを開始または停止する要求が失敗しました。これは、プログラムが指定した場所に存在しないか、始動するためのシステム・リソースが現在不足していることが原因である可能性があります。

プログラマー応答

要求を再試行する前に、正しい名前がサービスの定義に指定されていること、およびプログラムが適切なライブラリーに存在することを確認してください。

3177 (0C69) (RC3177): MQRCCF_PROGRAM_AUTH_FAILED

説明

プログラムを使用できません。
指定した場所でプログラムを始動するための十分なアクセス権限をユーザーが保持していないため、サービスを開始または停止する要求が失敗しました。

プログラマー応答

要求を再試行する前に、プログラム名、場所、およびユーザーの権限を修正してください。

3200 (0C80) (RC3200): MQRCCF_NONE_FOUND

説明

要求基準に一致する項目が見つかりません。

Inquire コマンドにより、指定された名前に一致する項目、および要求された他の基準を満たす項目が見つかりません。

3201 (0C81) (RC3201): MQRCCF_SECURITY_SWITCH_OFF

説明

セキュリティー・リフレッシュまたは再検証が処理されません。セキュリティー・スイッチが OFF に設定されています。

どちらも

- Reverify Security コマンドが発行されましたが、サブシステムのセキュリティー・スイッチが OFF であるため、再検証のフラグを立てる内部制御テーブルが存在しません。
- Refresh Security コマンドが発行されましたが、要求されたクラスのセキュリティー・スイッチまたはサブシステム・セキュリティー・スイッチが OFF です。

該当するスイッチは、メッセージ内に返される場合があります (パラメーター ID MQIACF_SECURITY_SWITCH)。

3202 (0C82) (RC3202): MQRCCF_SECURITY_REFRESH_FAILED

説明

セキュリティー・リフレッシュが行われませんでした。

外部セキュリティー・マネージャー (ESM) への SAF RACROUTE REQUEST=STAT 呼び出しがゼロ以外の戻りコードを返しました。これにより、要求されたセキュリティー・リフレッシュを実行できませんでした。影響されるセキュリティー項目は、メッセージ内に返される場合があります (パラメーター ID MQIACF_SECURITY_ITEM)。

この問題の考えられる原因は以下のとおりです。

- クラスが未インストール
- クラスが非アクティブ
- 外部セキュリティー・マネージャー (ESM) が非アクティブ
- RACF z/OS ルーター表が正しくない。

プログラマー応答

この問題の解決方法については、メッセージ CSQH003I と CSQH004I の説明を参照してください。

3203 (0C83) (RC3203): MQRCCF_PARM_CONFLICT

説明

パラメーターまたはパラメーター値が対応していません。

コマンドのパラメーターまたはパラメーター値が非互換です。次のいずれかが起こりました。

- 別のパラメーターまたはパラメーター値に必要なパラメーターが指定されていません。
- 他の一部のパラメーターまたはパラメーター値では許可されないパラメーターまたはパラメーター値が指定されています。
- 指定された2つのパラメーターの値が両方ともブランクまたは非ブランクではありません。
- 指定された2つのパラメーターの値が非互換です。
- 指定された値は構成と矛盾しています。

該当するパラメーターは、メッセージ内に返される場合があります (パラメーター ID MQIACF_PARAMETER_ID)。

プログラマー応答

正しいパラメーターと値でコマンドを再発行する。

3204 (0C84) (RC3204): MQRCCF_COMMAND_INHIBITED

説明

現在コマンドは許可されません。

再始動中または終了中であるか、コマンド・サーバーが稼働していないため、キュー・マネージャーは現在コマンドを受け入れることができません。

3205 (0C85) (RC3205): MQRCCF_OBJECT_BEING_DELETED

説明

オブジェクトは削除中です。

コマンドで指定されたオブジェクトは削除処理中であるため、コマンドは無視されます。

3207 (0C87) (RC3207): MQRCCF_STORAGE_CLASS_IN_USE

説明

記憶域クラスがアクティブであるか、キューが使用中です。

ローカル・キューに対するコマンドで *StorageClass* 値が変更されましたが、キューにメッセージがあるか、他のスレッドがキューをオープンしています。

プログラマー応答

キューからメッセージを除去するか、他のスレッドがキューをクローズするまで待機してください。

3208 (0C88) (RC3208): MQRCCF_OBJECT_NAME_RESTRICTED

説明

非互換のオブジェクト名およびタイプ。

コマンドが、不正なオブジェクト・タイプまたはサブタイプを指定して予約済みオブジェクト名を使用しました。メッセージ CSQM108I の説明でリストされているように、オブジェクトには所定のタイプのみ指定できます。

3209 (0C89) (RC3209): MQRCCF_OBJECT_LIMIT_EXCEEDED

説明

ローカル・キューの制限を超えました。

これ以上ローカル・キューを定義できないため、コマンドは失敗しました。存在可能なローカル・キューの総数には、524 287 のインプリメンテーション制限がある。共有キューの場合には、カップリング・ファシリティ構造体 1 つにつきキュー数は 512 個という制限があります。

プログラマー応答

不要な既存キューを削除してください。

3210 (0C8A) (RC3210): MQRCCF_OBJECT_OPEN_FORCE

説明

オブジェクトは使用中ですが、*Force* に MQFC_YES を指定して変更することができます。

指定されたオブジェクトは使用中です。これは、API を使用してオープンしていること、あるいは特定のパラメーター変更の場合はキューに現在メッセージが存在することが原因である可能性があります。要求された変更は、Change コマンドで *Force* に MQFC_YES を指定することによって行うことができます。

プログラマー応答

オブジェクトが使用されなくなるまで待機してください。あるいは、変更コマンドの場合は、*Force* に MQFC_YES を指定します。

3211 (0C8B) (RC3211): MQRCCF_DISPOSITION_CONFLICT

説明

パラメーターと属性指定が対応していません。

コマンドのパラメーターまたはパラメーター値が、オブジェクトの処理と非互換です。次のいずれかが起こりました。

- オブジェクト名または他のパラメーターに指定された値は、処理が共用されているローカル・キュー、または共用されている動的キューの作成に使用するモデル・キューに対して許可されません。
- パラメーターに指定された値は、該当の処理を行うオブジェクトに対して許可されません。
- パラメーターに指定された値は、該当の処理を行うオブジェクトに対して非ブランクである必要があります。
- **CommandScope** を **QSGDisposition** または **ChannelDisposition** パラメーター値と一緒に指定することはできません。
- チャンネルの属性指定が適切でないため、チャンネルに対して要求されたアクションを実行できません。

問題のパラメーターと属性指定がメッセージ内に返されているはずですが (パラメーター ID MQIACF_PARAMETER_ID と MQIA_QSG_DISP)。

プログラマー応答

正しいパラメーターと値でコマンドを再発行する。

3212 (0C8C) (RC3212): MQRCCF_Q_MGR_NOT_IN_QSG

説明

キュー・マネージャーがキュー共用グループ内にない。

キュー・マネージャーがキュー共用グループに存在しない場合、このコマンドまたはパラメーターは許可されません。該当するパラメーターは、メッセージで返される場合があります (パラメーター ID MQIACF_PARAMETER_ID)。

プログラマー応答

コマンドを正しく再発行する。

3213 (0C8D) (RC3213): MQRCCF_ATTR_VALUE_FIXED

説明

パラメーター値を変更できません。

パラメーターの値を変更できません。該当するパラメーターは、メッセージで返される場合があります (パラメーター ID MQIACF_PARAMETER_ID)。

プログラマー応答

パラメーターを変更するには、オブジェクトを削除し、新しい値を使用して再作成する必要があります。

3215 (0C8F) (RC3215): MQRCCF_NAMELIST_ERROR

説明

名前リストが空であるか、不正なタイプです。

クラスター・リストの指定に使用する名前リストに名前が存在しないか、タイプが MQNT_CLUSTER または MQNT_NONE ではありません。

プログラマー応答

空でなく、適切なタイプの名前リストを指定してコマンドを再発行してください。

3217 (0C91) (RC3217): MQRCCF_NO_CHANNEL_INITIATOR

説明

チャンネル・イニシエーターがアクティブではありません。

このコマンドでは、チャンネル・イニシエーターが始動している必要があります。

3218 (0C93) (RC3218): MQRCCF_CHANNEL_INITIATOR_ERROR

説明

チャンネル・イニシエーターを開始できないか、適切なチャンネル・イニシエーターが使用できない。

これは、次の理由で発生する場合があります。

- チャンネル・イニシエーターを次の理由で開始できない。
 - すでにアクティブである
 - システム・リソースが不十分である

- キュー・マネージャーがシャットダウン中である
- キュー共有グループ内のアクティブなキュー・マネージャーが使用可能である適切なチャンネル・イニシエーターが存在しないため、共有チャンネルを始動できません。この理由として、次のことが考えられる。
 - チャンネル・イニシエーターが稼働していない
 - 実行中のチャンネル・イニシエーターの使用率が高すぎて、チャンネルまたは特定のタイプのチャンネルを開始できない。

3222 (OC96) (RC3222): MQRCCF_COMMAND_LEVEL_CONFLICT

説明

キュー・マネージャーのコマンド・レベルが非互換です。

CF 構造体の **CFLevel1** パラメーターを変更したり、CF 構造体を削除したりするには、キュー共有グループのすべてのキュー・マネージャーが少なくとも 530 のコマンド・レベルを保持している必要があります。一部のキュー・マネージャーのレベルが、530 未満になっています。

3223 (OC97) (RC3223): MQRCCF_Q_ATTR_CONFLICT

説明

キュー属性が非互換です。

Move Queue コマンドに関係するキューは、*DefinitionType*、*HardenGetBackout*、*Usage* の 1 つ以上の属性に対して異なる値を持っています。これらの属性が異なる場合、メッセージを安全に移動することはできません。

3224 (OC98) (RC3224): MQRCCF_EVENTS_DISABLED

説明

イベントを使用できません。

このコマンドでは、パフォーマンス・イベントまたは構成イベントが使用可能である必要があります。

プログラマー応答

必要に応じて、Change Queue マネージャー・コマンドを使用してイベントを使用可能にしてください。

3225 (OC99) (RC3225): MQRCCF_COMMAND_SCOPE_ERROR

説明

キュー共有グループ・エラー。

CommandScope パラメーターを使用したコマンドの処理中に、カップリング・ファシリティにデータを送信しようとしたときにエラーが発生しました。

プログラマー応答

システム・プログラマーに通知してください。

3226 (OC9A) (RC3226): MQRCCF_COMMAND_REPLY_ERROR

説明

コマンド応答情報の保管でエラーが発生しました。

CommandScope パラメーターを使用したコマンド、またはチャンネル・イニシエーターのコマンドの処理中に、コマンドに関する情報を保管しようとしたときにエラーが発生しました。

プログラマー応答

ストレージ不足が原因であることが多い。問題が継続する場合には、さらに多くのストレージを使用可能にした後に、キュー・マネージャーを再始動する必要がある。

3227 (0C9B) (RC3227): MQRCCF_FUNCTION_RESTRICTED

説明

制限付きのコマンドまたはパラメーター値が使用されました。

選択したインストール・オプションおよびカスタマイズ・オプションではすべての機能の使用が許可されるわけではないため、このコマンド、またはそのパラメーターの1つに指定された値は許可されません。該当するパラメーターは、メッセージで返される場合があります (パラメーター ID MQIACF_PARAMETER_ID)。

3228 (0C9C) (RC3228): MQRCCF_PARM_MISSING

説明

必須パラメーターが指定されていません。

コマンドで、必要なパラメーターまたはパラメーター値が指定されていません。これは、次のいずれかの理由で発生する場合があります。

- 常に必要なパラメーター。
- 複数の代替必須パラメーター・セットの1つであるパラメーター。
- 他の一部のパラメーターが指定されたために必要なパラメーター。
- 値の数が不足している値リストであるパラメーター。

該当するパラメーターは、メッセージで返される場合があります (パラメーター ID MQIACF_PARAMETER_ID)。

プログラマー応答

正しいパラメーターと値でコマンドを再発行する。

3229 (0C9D) (RC3229): MQRCCF_PARM_VALUE_ERROR

説明

パラメーター値が無効です。

パラメーターに指定された値は使用できません。これは、次のいずれかの理由で発生する場合があります。

- 該当パラメーターに使用可能な数値範囲を超えている。
- 該当パラメーターに使用可能な値のリストの1つではない。
- 該当パラメーターに対して無効な文字を使用している。
- 完全にブランクであり、これが該当パラメーターには使用できない。
- 該当パラメーターに対して無効なフィルター値がフィルタリングされている。

該当するパラメーターは、メッセージで返される場合があります (パラメーター ID MQIACF_PARAMETER_ID)。

プログラマー応答

正しいパラメーターと値でコマンドを再発行する。

3230 (0C9E) (RC3230): MQRCCF_COMMAND_LENGTH_ERROR

説明

コマンドが許容される長さを超えています。

コマンドが長すぎるため、その内部フォームが許容される最大長を超えています。コマンドの内部形式の大きさは、コマンドの長さと同様複雑さの両方の影響を受ける

 この戻りコードは、CMDSCOPE の使用時に応答の内部形式がサポートされているサイズより大きい場合、z/OS でも戻されます。

3231 (0C9F) (RC3231): MQRCCF_COMMAND_ORIGIN_ERROR

説明

コマンドが不正に発行されました。

コマンド・サーバーを使用してコマンドを発行できません。これは内部エラーです。

プログラマー応答

システム・プログラマーに通知してください。

3232 (0CA0) (RC3232): MQRCCF_LISTENER_CONFLICT

説明

リスナーのアドレスが競合しています。

リスナーは、Start Channel Listener コマンドまたは Stop Channel Listener コマンドによって指定された *Port* 値および *IPAddress* 値と競合するポートと IP アドレスの組み合わせに対して既にアクティブになっていました。指定する *Port* 値と *IPAddress* 値の組み合わせは、リスナーがアクティブになっている組み合わせと一致している必要があります。その組み合わせのスーパーセットまたはサブセットにすることはできません。

プログラマー応答

必要に応じて、正しい値を使用してコマンドを再発行してください。

3233 (0CA1) (RC3233): MQRCCF_LISTENER_STARTED

説明

リスナーが始動しています。

リスナーの始動が試行されましたが、要求された *TransportType*、*InboundDisposition*、*Port*、および *IPAddress* 値についてリスナーがすでにアクティブです。該当する場合、要求されたパラメーター値はメッセージ内に返される場合があります (パラメーター ID MQIACH_XMIT_PROTOCOL_TYPE、MQIACH_INBOUND_DISP、MQIACH_PORT_NUMBER、MQCACH_IP_ADDRESS)。

3234 (OCA2) (RC3234): MQRCCF_LISTENER_STOPPED

説明

リスナーが停止しています。

リスナーの停止が試行されましたが、要求された *TransportType*、*InboundDisposition*、*Port*、および *IPAddress* 値についてリスナーがアクティブでないか、あるいはすでに停止しています。該当する場合、要求されたパラメーター値はメッセージ内に返される場合があります (パラメーター ID MQIACH_XMIT_PROTOCOL_TYPE、MQIACH_INBOUND_DISP、MQIACH_PORT_NUMBER、MQCACH_IP_ADDRESS)。

3235 (OCA3) (RC3235): MQRCCF_CHANNEL_ERROR

説明

チャンネル・コマンドが失敗しました。

チャンネル定義、チャンネルのリモート・エンド、または通信システムのエラーにより、チャンネル・コマンドが失敗しました。エラー ID 値 *nnn* は、メッセージ内に返される場合があります (パラメーター ID MQIACF_ERROR_ID)。

プログラマー応答

エラーについては、該当するエラー・メッセージの説明を参照してください。通常、エラーの *nnn* はメッセージ CSQX の *nnn* に一致します (一部例外もあります)。  詳しくは、[1119 ページの『Distributed queuing message codes』](#)を参照してください。

3236 (OCA4) (RC3236): MQRCCF_CF_STRUC_ERROR

説明

CF 構造体エラー。

カップリング・ファシリティまたは CF 構造体のエラーにより、コマンドを処理できません。次のいずれかの可能性があります。

- CF 構造体の状況が不適切である場合の Backup CF Structure コマンドまたは Recover CF Structure コマンドである。この場合、CF 構造体名とともに、メッセージ内に CF 構造体状況が返される場合があります (パラメーター ID MQIACF_CF_STRUC_STATUS および MQCA_CF_STRUC_NAME)。
- カップリング・ファシリティ情報のエラーにより、または CF 構造体に障害が発生したことにより、コマンドがオブジェクトにアクセスできない。この場合、関連するオブジェクト名がメッセージ内に返される場合があります (パラメーター ID MQCA_Q_NAME など)。
- 共用チャンネルを指定するコマンドが、チャンネル状況情報または同期キー情報にアクセスできない。

プログラマー応答

Backup CF Structure コマンドまたは Recover CF Structure コマンドの場合、報告された CF 構造体状況に適切なアクションを実行してください。

それ以外の場合、コンソール・ログで、問題に関連する可能性があるエラー・メッセージを確認してください。カップリング・ファシリティ構造体に障害があるかどうか、および Db2 が使用可能であるかどうかを確認してください。

3237 (OCA5) (RC3237): MQRCCF_UNKNOWN_USER_ID

説明

ユーザー ID が見つかりません。

内部制御テーブルで該当する項目が見つからないため、Reverify Security コマンドに指定されたユーザー ID は無効です。これは、コマンドで入力された ID が誤っているか、テーブルに存在しないこと (タイムアウトなどにより) が原因である可能性があります。該当するユーザー ID は、メッセージ内に返される場合があります (パラメーター ID MQCACF_USER_IDENTIFIER)。

3238 (OCA6) (RC3238): MQRCCF_UNEXPECTED_ERROR

説明

予期しないエラーまたは重大エラー。

予期しないエラー、重大エラー、またはその他の障害が発生しました。エラーに関連するコードは、メッセージ内に返される場合があります (パラメーター ID MQIACF_ERROR_ID)。

プログラマー応答

システム・プログラマーに通知してください。

3239 (OCA7) (RC3239): MQRCCF_NO_XCF_PARTNER

説明

MQ が XCF パートナーに接続されていない。

MQ が XCF パートナーに接続されていないため、IMS ブリッジに関連するコマンドを処理できません。該当する XCF パートナーのグループおよびメンバーの名前は、メッセージ内に返される場合があります (パラメーター ID MQCA_XCF_GROUP_NAME および MQCA_XCF_MEMBER_NAME)。

3240 (OCA8) (RC3240): MQRCCF_CFGR_PARM_ID_ERROR

説明

パラメーター ID が無効です。

MQCFGR *Parameter* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効なパラメーター ID を指定してください。

3241 (OCA9) (RC3241): MQRCCF_CFIF_LENGTH_ERROR

説明

構造体の長さが無効です。

MQCFIF *StrucLength* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効な構造体の長さを指定してください。

3242 (OCAA) (RC3242): MQRCCF_CFIF_OPERATOR_ERROR

説明

パラメーター・カウントが無効です。
MQCFIF *Operator* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効なオペレーター値を指定してください。

3243 (OCAB) (RC3243): MQRCCF_CFIF_PARM_ID_ERROR

説明

パラメーター ID が無効です。
MQCFIF *Parameter* フィールド値が無効であるか、フィルタリングできないパラメーターを指定しているか、オブジェクトのサブセットを選択するためのパラメーターとしても指定されています。

プログラマー応答

有効なパラメーター ID を指定してください。

3244 (OCAC) (RC3244): MQRCCF_CFSF_FILTER_VAL_LEN_ERR

説明

フィルター値の長が無効です。
MQCFSF *FilterValueLength* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効な長さを指定してください。

3245 (OCAD) (RC3245): MQRCCF_CFSF_LENGTH_ERROR

説明

構造体の長が無効です。
MQCFSF *StrucLength* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効な構造体の長さを指定してください。

3246 (OCAE) (RC3246): MQRCCF_CFSF_OPERATOR_ERROR

説明

パラメーター・カウントが無効です。
MQCFSF *Operator* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効なオペレーター値を指定してください。

3247 (OCAF) (RC3247): MQRCCF_CFSF_PARM_ID_ERROR

説明

パラメーター ID が無効です。

MQCFSF *Parameter* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効なパラメーター ID を指定してください。

3248 (OCB0) (RC3248): MQRCCF_TOO_MANY_FILTERS

説明

フィルターが多すぎます。

許可される最大数を超えるフィルター構造がコマンドに含まれています。

プログラマー応答

コマンドを正しく指定してください。

3249 (OCB1) (RC3249): MQRCCF_LISTENER_RUNNING

説明

リスナーが稼働しています。

リスナーでの操作の実行が試行されましたが、現在アクティブです。

プログラマー応答

必要に応じてリスナーを停止してください。

3250 (OCB2) (RC3250): MQRCCF_LSTR_STATUS_NOT_FOUND

説明

リスナー状況が見つかりません。

Inquire Listener Status の場合、指定されたリスナーで有効なリスナー状況がありません。これは、リスナーが使用されていなかったことを示している可能性があります。

プログラマー応答

ありません。これが予期しない状況である場合、システム管理者に連絡してください。

3251 (OCB3) (RC3251): MQRCCF_SERVICE_RUNNING

説明

サービスが実行されています。

サービスでの操作の実行が試行されましたが、現在アクティブです。

プログラマー応答

必要に応じてサービスを停止してください。

3252 (OCB4) (RC3252): MQRCCF_SERV_STATUS_NOT_FOUND

説明

サービス状況が見つかりません。

Inquire Service Status の場合、指定されたサービスで有効なサービス状況がありません。このサービスは使用されていない可能性があります。

プログラマー応答

ありません。これが予期しない状況である場合、システム管理者に連絡してください。

3253 (OCB5) (RC3253): MQRCCF_SERVICE_STOPPED

説明

サービスが停止しています。

サービスの停止が試行されましたが、アクティブでないか、すでに停止しています。

3254 (OCB6) (RC3254): MQRCCF_CFBS_DUPLICATE_PARM

説明

パラメーターが重複しています。

2つのMQCFBS構造体と同じパラメーターIDを保持しています。

プログラマー応答

重複したパラメーターを確認し、除去してください。

3255 (OCB7) (RC3255): MQRCCF_CFBS_LENGTH_ERROR

説明

構造体の長さが無効です。

MQRCCF *StrucLength* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効な構造体の長さを指定してください。

3256 (OCB8) (RC3256): MQRCCF_CFBS_PARM_ID_ERROR

説明

パラメーター ID が無効です。
MQCFBS *Parameter* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効なパラメーター ID を指定してください。

3257 (OCB9) (RC3257): MQRCCF_CFBS_STRING_LENGTH_ERR

説明

ストリングの長さが無効です。
MQCFBS *StringLength* フィールド値が無効でした。値が負の値であるか、*Parameter* フィールドに指定されたパラメーターの最大許容長を超えています。

プログラマー応答

パラメーターについて有効なストリングの長さを指定してください。

3258 (OCBA) (RC3258): MQRCCF_CFGR_LENGTH_ERROR

説明

構造体の長さが無効です。
MQCFGR *StrucLength* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効な構造体の長さを指定してください。

3259 (OCBB) (RC3259): MQRCCF_CFGR_PARM_COUNT_ERROR

説明

パラメーター・カウントが無効です。
MQCFGR *ParameterCount* フィールド値が無効でした。値が負の値であるか、または *Parameter* フィールドに指定されたパラメーター ID に許可されている最大値を超えています。

プログラマー応答

パラメーターについて有効なカウントを指定してください。

3260 (OCBC) (RC3260): MQRCCF_CONN_NOT_STOPPED

説明

接続が停止されませんでした。
Stop Connection コマンドを実行できなかったため、接続が停止されませんでした。

3261 (OCBD) (RC3261): MQRCCF_SERVICE_REQUEST_PENDING

説明

Suspend コマンド、Resume Queue Manager コマンド、または Refresh Security コマンドが発行されましたが、このようなコマンドは現在進行中です。

プログラマー応答

現在の要求が完了するまで待機し、必要に応じてコマンドを再発行してください。

3262 (OCBE) (RC3262): MQRCCF_NO_START_CMD

説明

開始コマンドが指定されていません。

開始コマンドがサービス定義に指定されていないため、サービスを開始できません。

プログラマー応答

サービスの定義を修正してください。

3263 (OCBF) (RC3263): MQRCCF_NO_STOP_CMD

説明

停止コマンドが指定されていません。

停止コマンドがサービス定義に指定されていないため、サービスを停止できません。

プログラマー応答

サービスの定義を修正してください。

3264 (OCC0) (RC3264): MQRCCF_CFBF_LENGTH_ERROR

説明

構造体の長さが無効です。

MQCFBF *StrucLength* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効な構造体の長さを指定してください。

3265 (OCC1) (RC3265): MQRCCF_CFBF_PARM_ID_ERROR

説明

パラメーター ID が無効です。

MQCFBF *Parameter* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効なパラメーター ID を指定してください。

3266 (OCC2) (RC3266): MQRCCF_CFBF_FILTER_VAL_LEN_ERR

説明

フィルター値の長が無効です。

MQCFBF *FilterValueLength* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効な長さを指定してください。

3267 (OCC3) (RC3267): MQRCCF_CFBF_OPERATOR_ERROR

説明

パラメーター・カウントが無効です。

MQCFBF *Operator* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効なオペレーター値を指定してください。

3268 (OCC4) (RC3268): MQRCCF_LISTENER_STILL_ACTIVE

説明

リスナーがまだアクティブです。

リスナーの停止が試行されましたが、失敗し、リスナーはアクティブのままになっています。例えば、まだアクティブなチャンネルがリスナーに存在する可能性があります。

プログラマー応答

リスナーへのアクティブな接続が完了してから、要求を再試行してください。

3269 (OCC5) (RC3269): MQRCCF_DEF_XMIT_Q_CLUS_ERROR

説明

指定したキューは、クラスター化による独占的な使用に対して予約されているので、デフォルトの伝送キューとして使用できない。

プログラマー応答

デフォルトの伝送キューの値を変更して、コマンドを再試行してください。

3300 (OCE4) (RC3300): MQRCCF_TOPICSTR_ALREADY_EXISTS

説明

指定されたトピック・ストリングは、別のトピック・オブジェクト内に既に存在します。

プログラマー応答

使用されたトピック・ストリングが正しいことを確認してください。

3301 (OCE5) (RC3301): MQRCCF_SHARING_CONVS_ERROR

説明

チャンネル定義の SharingConversations パラメーターに無効な値が指定されました。

プログラマー応答

PCF SharingConversations (MQCFIN) パラメーターに使用された値を訂正してください。詳細については、[Change Channel](#)、[Copy Channel](#)、および [Create Channel](#) を参照してください。

3302 (OCE6) (RC3302): MQRCCF_SHARING_CONVS_TYPE

説明

このチャンネル・タイプに対して、SharingConversations パラメーターは使用できません。

プログラマー応答

[Change Channel](#)、[Copy Channel](#)、および [Create Channel](#) を参照し、チャンネル・タイプが SharingConversations パラメーターと互換性があることを確認してください。

3303 (OCE7) (RC3303): MQRCCF_SECURITY_CASE_CONFLICT

説明

Refresh Security PCF コマンドが発行されましたが、現在使用されている大/小文字がシステムの設定と異なります。リフレッシュすると、異なる大/小文字の設定を使用するクラス・セットになります。

プログラマー応答

使用されたクラスが正しくセットアップされており、システムの設定が正しいことを確認してください。大/小文字の設定を変更する必要がある場合は、REFRESH SECURITY(*) コマンドを発行してすべてのクラスを変更してください。

3305 (OCE9) (RC3305): MQRCCF_TOPIC_TYPE_ERROR

説明

無効な TopicType パラメーターを指定した PCF コマンド Inquire Topic または Delete Topic が発行されました。

プログラマー応答

TopicType パラメーターを訂正し、コマンドを再発行してください。TopicType の詳細については、[Change Topic](#)、[Copy Topic](#)、および [Create Topic](#) を参照してください。

3306 (OCEA) (RC3306): MQRCCF_MAX_INSTANCES_ERROR

説明

チャンネル定義において、サーバー接続チャンネルの同時インスタンスの最大数 (MaxInstances) に対して、無効な値が指定されました。

プログラマー応答

詳細について、[Change Channel](#)、[Copy Channel](#)、および [Create Channel](#) を参照し、PCF アプリケーションを修正してください。

3307 (OCEB) (RC3307): MQRCCF_MAX_INSTS_PER_CLNT_ERR

説明

MaxInstancesPerClient プロパティに無効な値が指定されました。

プログラマー応答

値の範囲について、[Change Channel](#)、[Copy Channel](#)、および [Create Channel](#) を参照し、アプリケーションを修正してください。

3308 (OCEC) (RC3308): MQRCCF_TOPIC_STRING_NOT_FOUND

説明

Inquire Topic Status コマンドの処理時に、指定されたトピック・ストリングがトピック・ツリー内のどのトピック・ノードにも一致しませんでした。

プログラマー応答

トピック・ストリングが正しいことを確認してください。

3309 (OCED) (RC3309): MQRCCF_SUBSCRIPTION_POINT_ERR

説明

サブスクリプション・ポイントが無効です。有効なサブスクリプション・ポイントは、SYSTEM.QPUBSUB.SUBPOINT.NAMELIST にリストされているトピック・オブジェクトのトピック・ストリングです。

プログラマー応答

SYSTEM.QPUBSUB.SUBPOINT.NAMELIST にリストされているトピック・オブジェクトのトピック・ストリングと一致するサブスクリプション・ポイントを使用してください (または、サブスクリプション・ポイント・パラメーターを除去すると、デフォルトのサブスクリプション・ポイントが使用されます)。

3311 (OCEF) (RC2432): MQRCCF_SUB_ALREADY_EXISTS

説明

Copy Subscription コマンドまたは Create Subscription コマンドを処理するときに、宛先の *Subscription ID* が存在しています。

プログラマー応答

既存のサブスクリプションをコピーしている場合は、*ToSubscriptionName* パラメーターに固有値が指定されていることを確認してください。サブスクリプションを作成している場合は、*SubName* パラメーターと、*TopicObject* パラメーターまたは *TopicString* パラメーターの組み合わせが固有であることを確認してください。

3314 (OCF2) (RC3314): MQRCCF_DURABILITY_NOT_ALLOWED

説明

MQSO_DURABLE オプションを使用する MQSUB 呼び出しが失敗しました。これは、次のいずれかの理由で起こります。

- サブスクライブ先のトピックが DURSUB(NO) として定義されている。
- SYSTEM.DURABLE.SUBSCRIBER.QUEUE という名前のキューが使用できない。
- サブスクライブ先のトピックが、MCAST(ONLY) と DURSUB(YES) の両方として定義されている (または DURSUB(ASPARENT) および親が DURSUB(YES))。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

永続サブスクリプションは SYSTEM.DURABLE.SUBSCRIBER.QUEUE に保管されます。このキューが使用可能であるようにしてください。失敗の理由としては、キューが満杯である、キューが書き込み禁止になっている、キューが存在しない、または (z/OS の場合) キューが使用するよう定義されているページ・セットが存在しない、などが考えられます。

サブスクライブ先のトピックが DURSUB(NO) として定義されている場合は、DURSUB(YES) を使用するよう管理トピック・ノードを変更するか、または代わりに MQSO_NON_DURABLE オプションを使用します。

IBM MQ マルチキャスト・メッセージングを使用しているときにサブスクライブ先のトピックが MCAST(ONLY) として定義されている場合、DURSUB(NO) を使用するようトピックを変更します。

3317 (OCF5) (RC3317): MQRCCF_INVALID_DESTINATION

説明

Change、Copy、Create、または Delete の各 PCF コマンドで使用されたサブスクリプション・オブジェクトまたはトピック・オブジェクトが無効です。

プログラマー応答

使用している特定のコマンドの必須パラメーターを調べて、訂正してください。詳細については、[Change Subscription](#)、[Copy Subscription](#)、および [Create Subscription](#) を参照してください。

3318 (OCF6) (RC3318): MQRCCF_PUBSUB_INHIBITED

説明

すべてのパブリッシュ/サブスクライブのトピックについて、MQSUB、MQOPEN、MQPUT、および MQPUT1 呼び出しの使用が現在禁止されています。これは、キュー・マネージャー属性 PSMODE によって禁止されているか、キュー・マネージャーの開始時にパブリッシュ/サブスクライブ状態の処理が失敗したか、またはその処理がまだ完了していないことが原因です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

このキュー・マネージャーが意図的にパブリッシュ/サブスクライブの使用を禁止していない場合は、キュー・マネージャー開始時の障害を説明するエラー・メッセージがないか調べるか、または開始処理が完了するまで待ってください。DISPLAY PUBSUB コマンドを使用して、パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンの状況を調べて、そのエンジンを使用可能にします。また、z/OS では情報メッセージ CSQM076I を受け取ります。

3326 (OCFE) (RC3326): MQRCCF_CHLAUTH_TYPE_ERROR

説明

チャンネル認証レコード・タイプが無効です。

set コマンドで指定された **type** パラメーターが無効です。

プログラマー応答

有効なタイプを指定してください。

3327 (OCFF) (RC3327): MQRCCF_CHLAUTH_ACTION_ERROR

説明

チャンネル認証レコード・アクションが無効です。

set コマンドで指定された **action** パラメーターが無効です。

プログラマー応答

有効なアクションを指定してください。

3335 (OD07) (RC3335): MQRCCF_CHLAUTH_USRSRC_ERROR

説明

チャンネル認証レコード・ユーザー・ソースが無効です。

set コマンドで指定された **user source** パラメーターが無効です。

プログラマー応答

有効なユーザー・ソースを指定してください。

3336 (OD08) (RC3336): MQRCCF_WRONG_CHLAUTH_TYPE

説明

このチャンネル認証レコード・タイプでは許可されないパラメーターです。

設定されているタイプのチャンネル認証レコードではこのパラメーターは許可されません。エラーになったパラメーターの説明を参照し、このパラメーターが有効なレコード・タイプを判別してください。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

3337 (0D09) (RC3337): MQRCCF_CHLAUTH_ALREADY_EXISTS

説明

チャンネル認証レコードは既に存在しています。

チャンネル認証レコードを追加しようとしたますが、チャンネル認証レコードは既に存在しています。

プログラマー応答

アクションに MQRCCF_REPLACE を指定してください。

3338 (0D0A) (RC3338): MQRCCF_CHLAUTH_NOT_FOUND

説明

チャンネル認証レコードが見つかりません。

指定されたチャンネル認証レコードが存在しません。

プログラマー応答

存在するチャンネル認証レコードを指定してください。

3339 (0D0B) (RC3339): MQRCCF_WRONG_CHLAUTH_ACTION

説明

チャンネル認証レコードのこのアクションでは許可されないパラメーターです。

チャンネル認証レコードに適用されているアクションではこのパラメーターは許可されません。エラーになったパラメーターの説明を参照し、このパラメーターが有効なアクションを判別してください。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

3340 (0D0C) (RC3340): MQRCCF_WRONG_CHLAUTH_USERSRC

説明

このチャンネル認証レコードのユーザー・ソース値では許可されないパラメーターです。

user source フィールドに含まれている値を持つチャンネル認証レコードではこのパラメーターは許可されません。エラーになったパラメーターの説明を参照し、このパラメーターが有効なユーザー・ソースの値を判別してください。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

3341 (0D0D) (RC3341): MQRCCF_CHLAUTH_WARN_ERROR

説明

チャンネル認証レコードの **warn** 値が無効です。

set コマンドで指定された **warn** パラメーターが無効です。

プログラマー応答

warn に有効な値を指定してください。

3342 (0D0E) (RC3342): MQRCCF_WRONG_CHLAUTH_MATCH

説明

このチャンネル認証レコードの **match** 値では許可されないパラメーターです。

match フィールドに含まれている値の **inquire channel authentication record** コマンドではこのパラメーターは許可されません。エラーになったパラメーターの説明を参照し、このパラメーターが有効な **match** 値を見つけてください。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

3343 (0D0F) (RC3343): MQRCCF_IPADDR_RANGE_CONFLICT

説明

既存の範囲とオーバーラップする範囲の IP アドレスがチャンネル認証レコードに含まれます。範囲は、同じチャンネル・プロファイル名の既存範囲のスーパーセットまたはサブセットであるか、完全に分離した範囲である必要があります。

プログラマー応答

既存範囲のスーパーセットまたはサブセットの範囲を指定するか、すべての既存範囲とは完全に分離した範囲を指定してください。

3344 (0D10) (RC3344): MQRCCF_CHLAUTH_MAX_EXCEEDED

説明

チャンネル認証レコードが設定されましたが、単一のチャンネル・プロファイルでそのタイプのエントリー総数が、許可される最大数を超えました。

プログラマー応答

新しく設定できるように、いくつかのチャンネル認証レコードを削除してください。

3345 (0D11) (RC3345): MQRCCF_IPADDR_ERROR

説明

無効な IP アドレス、または IP アドレスに突き合わせるワイルドカードの無効なパターンがチャンネル認証レコードに含まれています。

プログラマー応答

有効な IP アドレスまたは有効なパターンを指定してください。

関連資料

[汎用 IP アドレス](#)

3346 (0D12) (RC3346): MQRCCF_IPADDR_RANGE_ERROR

説明

無効な範囲の IP アドレスがチャンネル認証レコードに含まれます。例えば、範囲の中の小さい方の数値が、大きい方の数値より大きいか等しくなっています。

プログラマー応答

有効な範囲の IP アドレスを指定してください。

3347 (OD13) (RC3347): MQRCCF_PROFILE_NAME_MISSING

説明

プロファイル名がありません。

コマンドにプロファイル名が必要ですが、指定されていません。

プログラマー応答

有効なプロファイル名を指定してください。

3348 (OD14) (RC3348): MQRCCF_CHLAUTH_CLNTUSER_ERROR

説明

チャンネル認証レコードの **client user** 値が無効です。

client user 値にワイルドカード文字が含まれていますが、それは許可されていません。

プログラマー応答

クライアント・ユーザー・フィールドに有効な値を指定してください。

3349 (OD15) (RC3349): MQRCCF_CHLAUTH_NAME_ERROR

説明

チャンネル認証レコードのチャンネル名が無効です。

チャンネル認証レコードで IP アドレスのブロック化を指定する場合、**channel name** 値は単一アスタリスク (*) にする必要があります。

プログラマー応答

チャンネル名に単一アスタリスクを入力してください。

3350 (OD16) (RC3350): MQRCCF_CHLAUTH_RUNCHECK_ERROR

Runcheck コマンドが汎用値を使用しています。

説明

MQMATCH_RUNCHECK を使用して Inquire Channel Authentication Record コマンドが発行されましたが、そのコマンドの 1 つ以上の入力フィールドに、許可されていない汎用値が入力されました。

プログラマー応答

チャンネル名、アドレス、クライアント・ユーザー ID またはリモート・キュー・マネージャーのいずれか、および TLS ピア名 (使用される場合) には、汎用値ではない値を入力してください。

3353 (OD19) (RC3353): MQRCCF_SUITE_B_ERROR

無効な値が指定されています。

説明

MQIA_SUITE_B_STRENGTH パラメーターに対して無効な組み合わせの値が指定されています。

プログラマー応答

入力した組み合わせを確認し、適切な値で再試行してください。

3363 (0D23) (RC3363): MQRCCF_CLUS_XMIT_Q_USAGE_ERROR

説明

ローカル・キュー属性 **CLCHNAME** が設定されている場合、属性 **USAGE** を XMITQ に設定してください。

z/OS z/OS では、ローカル・キュー属性 **CLCHNAME** が設定されている場合、属性 **INDXTYPE** を **CORRELID** に設定する必要があります。伝送キューは共用キューにしないでください。

CLCHNAME 属性は、クラスター送信側チャンネル総称名です。これは、伝送キューのメッセージを別のキュー・マネージャーに転送するクラスター送信側チャンネルを識別します。

プログラマー応答

伝送キュー以外のキューで **CLCHNAME** をブランクに設定するか、**CLCHNAME** 属性を設定しないようにアプリケーションを変更します。

z/OS z/OS では、伝送キューを関連 ID で索引付けし、キューを共用キューにしないでください。

3364 (0D24) (RC3364): MQRCCF_CERT_VAL_POLICY_ERROR

説明

MQIA_CERT_VAL_POLICY 属性に、無効な証明書妥当性検査ポリシー値が指定されました。指定された値が不明であるか、または現行のプラットフォームでサポートされていません。

プログラマー応答

指定された値を確認し、適切な証明書妥当性検査ポリシーを指定して再試行してください。

3366 (0D26) (RC3366): MQRCCF_REVDNS_DISABLED

説明

runcheck コマンドが正常に完了し、使用されるレコードが返されました。ただし、ホスト名を含むいくつかのチャンネル認証レコードが存在し、ホスト名の逆参照が現在無効になっているため、それらのレコードに対するマッチングは行われていません。この理由コードは MQCC_WARNING として返されます。

プログラマー応答

逆参照が無効になっていることが正しい場合には、ホスト名を含むいくつかのチャンネル認証レコードが存在するとしても、この警告は無視できます。

ホスト名を含むチャンネル認証レコードに対してマッチングを行う必要があります。それゆえにホスト名の逆参照が現在無効であってはならない場合には、Change Queue Manager コマンドを発行して、再びそれを有効にしてください。

ホスト名の逆参照が無効になっていることが正しく、ホスト名を含むチャンネル認証レコードがあってはならない場合には、Set Channel Authentication Record を発行して、それらのレコードを削除してください。

3370 (0D2A) (RC3370): MQRCCF_CHLAUTH_CHKCLI_ERROR

説明

チャンネル認証レコードの check client が無効です。
set コマンドで指定された check client パラメーターが無効です。

プログラマー応答

有効なユーザー・ソースを指定してください。

3377 (OD31) (RC3377): MQRCCF_TOPIC_RESTRICTED

説明

このエラーは、トピック・オブジェクトを作成または変更するときに発生することがあります。トピック・オブジェクトの1つ以上の属性が IBM MQ 管理トピックでサポートされていません。

プログラマー応答

説明されている制限に従うように構成を変更します。

3389 (OD3D) (RC3389): MQRCCF_INCOMPATIBLE_QM_IN_QSG

Explanation

An attempt was made to set attribute *attribute* on a shared object when one or more queue managers in the queue sharing group are running a version of IBM MQ for z/OS that does not support *attribute*. The object remains unchanged.

Programmer response

Adjust your command so *attribute* is not set, or upgrade all the queue managers in the queue sharing group to a version of IBM MQ for z/OS that does support *attribute*.

CAPEXPY is supported from IBM MQ for z/OS 9.4.0.

4001 (OFA1) (RC4001): MQRCCF_OBJECT_ALREADY_EXISTS

説明

オブジェクトがすでに存在します。

オブジェクトの作成が試行されましたが、オブジェクトはすでに存在しており、**Replace** パラメーターに MQRP_YES が指定されていません。

プログラマー応答

Replace に MQRP_YES を指定するか、作成するオブジェクトに別の名前を使用してください。

4002 (OFA2) (RC4002): MQRCCF_OBJECT_WRONG_TYPE

説明

オブジェクトのタイプが異なるか、処理方法が異なります。

同じ名前のオブジェクトがすでに存在しますが、コマンドにより指定されたサブタイプまたは処理方法と異なります。

プログラマー応答

指定されたオブジェクトが同じサブタイプおよび処理方法であることを確認してください。

4003 (OFA3) (RC4003): MQRCCF_LIKE_OBJECT_WRONG_TYPE

説明

新規オブジェクトと既存オブジェクトのサブタイプが異なります。

既存のオブジェクト定義に基づいてオブジェクトの作成が試行されましたが、新規オブジェクトと既存オブジェクトのサブタイプが異なります。

プログラマー応答

新規オブジェクトが、基本となるオブジェクトのサブタイプと同じであることを確認してください。

4004 (OFA4) (RC4004): MQRCCF_OBJECT_OPEN

説明

オブジェクトはオープンしています。

使用中のオブジェクトで操作が試行されました。

プログラマー応答

オブジェクトが使用されなくなるまで待機してから、操作を再試行してください。あるいは、変更コマンドの場合は、*Force* に MQFC_YES を指定します。

4005 (OFA5) (RC4005): MQRCCF_ATTR_VALUE_ERROR

説明

属性値が無効であるか、繰り返されています。

指定された 1 つ以上の属性値が無効であるか、繰り返されています。エラー応答メッセージ内に、問題のある属性セレクターが示されています (パラメーター ID MQIACF_PARAMETER_ID)。

プログラマー応答

属性値を正しく指定する。

4006 (OFA6) (RC4006): MQRCCF_UNKNOWN_Q_MGR

説明

キュー・マネージャーが不明です。

指定されたキュー・マネージャーが不明です。

プログラマー応答

コマンドの送信先となるキュー・マネージャー名を指定するか、ブランクにしてください。

4007 (OFA7) (RC4007): MQRCCF_Q_WRONG_TYPE

説明

指定されたタイプのキューに対して無効なアクションです。
誤ったタイプのキューに対するアクションが試行されました。

プログラマー応答

正しいタイプのキューを指定してください。

4008 (OFA8) (RC4008): MQRCCF_OBJECT_NAME_ERROR

説明

名前が無効です。
オブジェクト名またはその他の名前が、無効な文字を使用して指定されました。

プログラマー応答

名前に有効な文字のみを指定してください。

4009 (OFA9) (RC4009): MQRCCF_ALLOCATE_FAILED

説明

割り振りに失敗しました。
会話をリモート・システムに割り振ろうとして失敗しました。エラーの原因は、無効なチャンネル定義に項目があることか、またはリモート・システムの listen プログラムが稼働していなかったことである可能性があります。

プログラマー応答

チャンネル定義が正しいことを確認し、必要に応じて listen プログラムを始動してください。エラーが解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

4010 (OFAA) (RC4010): MQRCCF_HOST_NOT_AVAILABLE

説明

リモート・システムを使用できません。
会話をリモート・システムに割り振ろうとして失敗しました。このエラーは一時的なものである可能性があり、後で割り振りを実行すると成功することがあります。これは、リモート・システムで listen プログラムが稼働していないことが原因で発生する場合があります。

プログラマー応答

listen プログラムが稼働していることを確認し、操作を再試行してください。

4011 (OFAB) (RC4011): MQRCCF_CONFIGURATION_ERROR

説明

構成エラー。

チャンネル定義または通信サブシステムに構成エラーがあります。会話を割り振ることができませんでした。これは、次のいずれかの原因で発生します。

- LU 6.2 の場合、*ModeName* または *TpName* のいずれかが正しくありません。*ModeName* がリモート・システム上のものと一致する必要があり、*TpName* が指定される必要があります (IBM i では、これらは通信サイド・オブジェクトで保持されます)。
- LU 6.2 の場合、セッションが確立されていない。
- TCP の場合、チャンネル定義の *ConnectionName* をネットワーク・アドレスに解決できない。これは、名前が正しく指定されていないか、ネーム・サーバーを使用できないことが原因である可能性があります。
- 要求された通信プロトコルが該当プラットフォームでサポートされない。

プログラマー応答

問題を特定して、適切なアクションを実行してください。

4012 (OFAC) (RC4012): MQRCCF_CONNECTION_REFUSED

説明

接続は拒否されました。

リモート・システムへの接続を確立しようとして拒否されました。リモート・システムが、このシステムからの接続を受け入れる設定になっていない可能性があります。

- LU 6.2 の場合、リモート・システムに対して指定されたユーザー ID またはパスワードが正しくない。
- TCP の場合、リモート・システムがローカル・システムを有効と認識していない、または TCP リスナー・プログラムが始動していない。

プログラマー応答

エラーを修正するか、リスナー・プログラムを再始動してください。

4013 (OFAD) (RC4013): MQRCCF_ENTRY_ERROR

説明

接続名が無効です。

チャンネル定義の接続名をネットワーク・アドレスに解決できません。ネーム・サーバーに項目が含まれていないか、ネーム・サーバーが利用不能です。

プログラマー応答

接続名が正しく指定されているか、またネーム・サーバーが使用可能であることを確認します。

4014 (OFAE) (RC4014): MQRCCF_SEND_FAILED

説明

送信が失敗しました。

リモート・システムへのデータの送信中にエラーが発生しました。通信障害が原因である可能性があります。

プログラマー応答

システム管理者にご相談ください。

4015 (0FAF) (RC4015): MQRCCF_RECEIVED_DATA_ERROR

説明

データ・エラーを受信しました。

リモート・システムからのデータの受信中にエラーが発生しました。通信障害が原因である可能性があります。

プログラマー応答

システム管理者にご相談ください。

4016 (0FB0) (RC4016): MQRCCF_RECEIVE_FAILED

説明

受信に失敗しました。

受信操作が失敗しました。

プログラマー応答

エラーを訂正して操作をやり直してください。

4017 (0FB1) (RC4017): MQRCCF_CONNECTION_CLOSED

説明

接続がクローズされました。

リモート・システムからのデータの受信中にエラーが発生しました。リモート・システムへの接続は突然終了しました。

プログラマー応答

システム管理者に連絡してください。

4018 (0FB2) (RC4018): MQRCCF_NO_STORAGE

説明

使用可能な記憶域が不十分です。

使用可能な記憶域が不十分です。

プログラマー応答

システム管理者にご相談ください。

4019 (0FB3) (RC4019): MQRCCF_NO_COMMS_MANAGER

説明

コミュニケーション・マネージャーを使用できません。
通信サブシステムを使用できません。

プログラマー応答

通信サブシステムが始動していることを確認してください。

4020 (0FB4) (RC4020): MQRCCF_LISTENER_NOT_STARTED

説明

リスナーが始動していません。

リスナー・プログラムを始動できません。通信サブシステムが始動していないか、通信サブシステムを使用している現行チャンネル数が最大許容数であるか、あるいはキューで待機しているジョブが多すぎます。

プログラマー応答

通信サブシステムが始動していることを確認し、後で操作を再試行してください。必要に応じて、許可される現行チャンネル数を増加させてください。

4024 (0FB8) (RC4024): MQRCCF_BIND_FAILED

説明

バインドが失敗しました。
セッション折衝中にリモート・システムに対するバインドが失敗しました。

プログラマー応答

システム管理者にご相談ください。

4025 (0FB9) (RC4025): MQRCCF_CHANNEL_INDOUBT

説明

チャンネルが未確定です。
チャンネルが未確定であるため、要求された操作を完了できません。

プログラマー応答

チャンネル状況を確認し、チャンネルを再始動して未確定状態を解決するか、チャンネルを解決します。

4026 (0FBA) (RC4026): MQRCCF_MQCONN_FAILED

説明

MQCONN 呼び出しが失敗しました。

プログラマー応答

キュー・マネージャーがアクティブであるかどうか確認してください。

4027 (OFBB) (RC4027): MQRCCF_MQOPEN_FAILED

説明

MQOPEN 呼び出しが失敗しました。

プログラマー応答

キュー・マネージャーがアクティブであるかどうか、また関連するキューが正しくセットアップされているかどうかを確認してください。

4028 (OFBC) (RC4028): MQRCCF_MQGET_FAILED

説明

MQGET 呼び出しが失敗しました。

プログラマー応答

キュー・マネージャーがアクティブであるかどうか、また関連するキューが正しくセットアップされており、MQGET のために有効であるかどうかを確認してください。

4029 (OFBD) (RC4029): MQRCCF_MQPUT_FAILED

説明

MQPUT 呼び出しが失敗しました。

プログラマー応答

キュー・マネージャーがアクティブであるかどうか、また関連するキューが正しくセットアップされており、書き込みが禁止されていないかどうかを確認してください。

4030 (OFBE) (RC4030): MQRCCF_PING_ERROR

説明

ping エラーです。

ping 操作は、送信側またはサーバー・チャンネルについてのみ発行できます。ローカル・チャンネルが受信側チャンネルである場合、リモート・キュー・マネージャーから ping を実行する必要があります。

プログラマー応答

正しいタイプの別のチャンネルについて ping 要求を再実行するか、別のキュー・マネージャーから受信側チャンネルについて ping 要求を再実行してください。

4031 (OFBF) (RC4031): MQRCCF_CHANNEL_IN_USE

説明

チャンネルが使用中です。

チャンネルに対する操作を実行しようとしたましたが、そのチャンネルは現在アクティブです。

プログラマー応答

チャンネルを停止するか、チャンネル使用の終了を待ってください。

4032 (OFC0) (RC4032): MQRCCF_CHANNEL_NOT_FOUND

説明

チャンネルが見つかりません。

指定されたチャンネルが存在しません。

プログラマー応答

存在するチャンネル名を指定してください。

4033 (OFC1) (RC4033): MQRCCF_UNKNOWN_REMOTE_CHANNEL

説明

リモート・チャンネルが不明です。

リモート・システムには、参照されたチャンネルの定義がありません。

プログラマー応答

ローカル・チャンネルが正しく定義されていることを確認してください。正しく定義されている場合、適切なチャンネル定義をリモート・システムに追加してください。

4034 (OFC2) (RC4034): MQRCCF_REMOTE_QM_UNAVAILABLE

説明

リモート・キュー・マネージャーを使用できません。

リモート・キュー・マネージャーを使用できないため、チャンネルを開始できません。

プログラマー応答

リモート・キュー・マネージャーを始動してください。

4035 (OFC3) (RC4035): MQRCCF_REMOTE_QM_TERMINATING

説明

リモート・キュー・マネージャーが終了中です。

リモート・キュー・マネージャーが終了中であるため、チャンネルが終了しています。

プログラマー応答

リモート・キュー・マネージャーを再始動してください。

4036 (OFC4) (RC4036): MQRCCF_MQINQ_FAILED

説明

MQINQ 呼び出しが失敗しました。

プログラマー応答

キュー・マネージャーがアクティブであるかどうか確認してください。

4037 (OFC5) (RC4037): MQRCCF_NOT_XMIT_Q

説明

キューが伝送キューではありません。

チャンネル定義で指定したキューが、伝送キューでないか、使用中です。

プログラマー応答

キューがチャンネル定義で正しく指定されていること、またキュー・マネージャーに対して正しく定義されていることを確認してください。

4038 (OFC6) (RC4038): MQRCCF_CHANNEL_DISABLED

説明

チャンネルが無効です。

チャンネルの使用が試行されましたが、チャンネルが無効です (停止しています)。

プログラマー応答

チャンネルを始動してください。

4039 (OFC7) (RC4039): MQRCCF_USER_EXIT_NOT_AVAILABLE

説明

ユーザー出口を使用できません。

指定されたユーザー出口が存在しないため、チャンネルは終了されました。

プログラマー応答

ユーザー出口が正しく指定されていること、またプログラムが使用可能であるようにしてください。

4040 (OFC8) (RC4040): MQRCCF_COMMIT_FAILED

説明

コミットが失敗しました。

作業単位のコミットが試行されたときにエラーを受信しました。

プログラマー応答

システム管理者にご相談ください。

4041 (0FC9) (RC4041): MQRCCF_WRONG_CHANNEL_TYPE

説明

パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

このパラメーターは、作成中、コピー中、または変更中のチャンネルのタイプに使用できません。問題のあるパラメーターの説明を参照し、そのパラメーターが有効なチャンネル・タイプを判別してください。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4042 (0FCA) (RC4042): MQRCCF_CHANNEL_ALREADY_EXISTS

説明

チャンネルがすでに存在します。

チャンネルを作成しようとしたが、チャンネルは既に存在しており、*Replace* に *MQR_YES* が指定されていませんでした。

プログラマー応答

Replace に *MQR_YES* を指定するか、作成するチャンネルに別の名前を使用してください。

4043 (0FCB) (RC4043): MQRCCF_DATA_TOO_LARGE

説明

データが大きすぎます。

送信データが、コマンドでサポートされる最大サイズを超えています。

プログラマー応答

データのサイズを削減してください。

4044 (0FCC) (RC4044): MQRCCF_CHANNEL_NAME_ERROR

説明

チャンネル名エラー。

ChannelName パラメーターに、チャンネル名に使用できない文字が含まれています。

プログラマー応答

有効な名前を指定してください。

4045 (0FCD) (RC4045): MQRCCF_XMIT_Q_NAME_ERROR

説明

伝送キュー名のエラー。

XmitQName パラメーターに、キュー名に使用できない文字が含まれています。この理由コードは、送信側またはサーバー・チャンネルの作成中にパラメーターが指定されておらず、デフォルト値を使用できない場合にも発生します。

プログラマー応答

有効な名前を指定するか、パラメーターを追加してください。

4047 (0FCF) (RC4047): MQRCCF_MCA_NAME_ERROR

説明

メッセージ・チャンネル・エージェント名のエラー。

MCAName 値に、当該プラットフォーム上のプログラム名に使用できない文字が含まれています。

プログラマー応答

有効な名前を指定してください。

4048 (0FD0) (RC4048): MQRCCF_SEND_EXIT_NAME_ERROR

説明

チャンネル送信出口名のエラー。

SendExit 値に、当該プラットフォーム上のプログラム名に使用できない文字が含まれています。

プログラマー応答

有効な名前を指定してください。

4049 (0FD1) (RC4049): MQRCCF_SEC_EXIT_NAME_ERROR

説明

チャンネル・セキュリティー出口名のエラー。

SecurityExit 値に、当該プラットフォーム上のプログラム名に使用できない文字が含まれています。

プログラマー応答

有効な名前を指定してください。

4050 (0FD2) (RC4050): MQRCCF_MSG_EXIT_NAME_ERROR

説明

チャンネル・メッセージ出口名のエラー。

MsgExit 値に、当該プラットフォーム上のプログラム名に使用できない文字が含まれています。

プログラマー応答

有効な名前を指定してください。

4051 (0FD3) (RC4051): MQRCCF_RCV_EXIT_NAME_ERROR

説明

チャンネル受信出口名のエラー。

ReceiveExit 値に、当該プラットフォーム上のプログラム名に使用できない文字が含まれています。

プログラマー応答

有効な名前を指定してください。

4052 (0FD4) (RC4052): MQRCCF_XMIT_Q_NAME_WRONG_TYPE

説明

伝送キュー名は、このチャンネル・タイプでは指定できません。

XmitQName パラメーターは、送信側またはサーバーのチャンネル・タイプに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4053 (0FD5) (RC4053): MQRCCF_MCA_NAME_WRONG_TYPE

説明

メッセージ・チャンネル・エージェント名は、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MCAName パラメーターは、送信側、サーバー、または要求側のチャンネル・タイプに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4054 (0FD6) (RC4054): MQRCCF_DISC_INT_WRONG_TYPE

説明

切断間隔は、このチャンネル・タイプでは指定できません。

DiscInterval パラメーターは、送信側またはサーバーのチャンネル・タイプに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4055 (0FD7) (RC4055): MQRCCF_SHORT_RETRY_WRONG_TYPE

説明

短期再試行パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

ShortRetryCount パラメーターは、送信側またはサーバーのチャンネル・タイプに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4056 (OFD8) (RC4056): MQRCCF_SHORT_TIMER_WRONG_TYPE

説明

ショート・タイマー・パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

ShortRetryInterval パラメーターは、送信側またはサーバーのチャンネル・タイプに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4057 (OFD9) (RC4057): MQRCCF_LONG_RETRY_WRONG_TYPE

説明

長期再試行パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

LongRetryCount パラメーターは、送信側またはサーバーのチャンネル・タイプに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4058 (OFDA) (RC4058): MQRCCF_LONG_TIMER_WRONG_TYPE

説明

ロング・タイマー・パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

LongRetryInterval パラメーターは、送信側またはサーバーのチャンネル・タイプに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4059 (OFDB) (RC4059): MQRCCF_PUT_AUTH_WRONG_TYPE

説明

書き込み権限パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

PutAuthority パラメーターは、受信側または要求側のチャンネル・タイプに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4061 (OFDD) (RC4061): MQRCCF_MISSING_CONN_NAME

説明

接続名パラメーターは必須ですが、欠落しています。

ConnectionName パラメーターは、送信側または要求側のチャンネル・タイプには必須ですが、存在しません。

プログラマー応答

パラメーターを追加してください。

4062 (OFDE) (RC4062): MQRCCF_CONN_NAME_ERROR

説明

接続名パラメーターにエラーがあります。

ConnectionName パラメーターには、名前の先頭に1つ以上のブランクが含まれています。

プログラマー応答

有効な接続名を指定してください。

4063 (OFDF) (RC4063): MQRCCF_MQSET_FAILED

説明

MQSET 呼び出しが失敗しました。

プログラマー応答

キュー・マネージャーがアクティブであるかどうか確認してください。

4064 (OFE0) (RC4064): MQRCCF_CHANNEL_NOT_ACTIVE

説明

チャンネルがアクティブではありません。

チャンネルの停止が試行されましたが、チャンネルはすでに停止しています。

プログラマー応答

アクションは不要です。

4065 (OFE1) (RC4065): MQRCCF_TERMINATED_BY_SEC_EXIT

説明

セキュリティー出口によりチャンネルが終了されました。

チャンネル・セキュリティー出口によってチャンネルが終了されました。

プログラマー応答

チャンネルが正しいキュー・マネージャーに接続しようとしていることを確認してください。接続試行先が正しいキュー・マネージャーである場合、両方の終端において、セキュリティー出口が正しく指定されていること、また正常に機能していることを確認してください。

4067 (0FE3) (RC4067): MQRCCF_DYNAMIC_Q_SCOPE_ERROR

説明

動的キュー有効範囲のエラー。

キューの **Scope** 属性は MQSCO_CELL になりますが、これは動的キューには許可されません。

プログラマー応答

セルの有効範囲を指定する場合は、キューを事前定義してください。

4068 (0FE4) (RC4068): MQRCCF_CELL_DIR_NOT_AVAILABLE

説明

セル・ディレクトリーを使用できません。

キューの **Scope** 属性は MQSCO_CELL になりますが、セル・ディレクトリーをサポートするネーム・サービスが構成されていません。

プログラマー応答

適切なネーム・サービスを使用してキュー・マネージャーを構成してください。

4069 (0FE5) (RC4069): MQRCCF_MR_COUNT_ERROR

説明

メッセージ再試行カウントが無効です。

MsgRetryCount 値が無効でした。

プログラマー応答

0 から 999 999 999 の範囲で値を指定してください。

4070 (0FE6) (RC4070): MQRCCF_MR_COUNT_WRONG_TYPE

説明

メッセージ再試行カウント・パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MsgRetryCount パラメーターは、受信側および要求側のチャンネルに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4071 (0FE7) (RC4071): MQRCCF_MR_EXIT_NAME_ERROR

説明

チャンネル・メッセージ再試行出口名のエラー。

MsgRetryExit 値に、当該プラットフォーム上のプログラム名に使用できない文字が含まれています。

プログラマー応答

有効な名前を指定してください。

4072 (0FE8) (RC4072): MQRCCF_MR_EXIT_NAME_WRONG_TYPE

説明

メッセージ再試行出口パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MsgRetryExit パラメーターは、受信側および要求側のチャンネルに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4073 (0FE9) (RC4073): MQRCCF_MR_INTERVAL_ERROR

説明

メッセージ再試行間隔が無効です。

MsgRetryInterval 値が無効でした。

プログラマー応答

0 から 999 999 999 の範囲で値を指定してください。

4074 (0FEA) (RC4074): MQRCCF_MR_INTERVAL_WRONG_TYPE

説明

メッセージ再試行間隔パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MsgRetryInterval パラメーターは、受信側および要求側のチャンネルに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4075 (0FEB) (RC4075): MQRCCF_NPM_SPEED_ERROR

説明

非持続メッセージ速度が無効です。

NonPersistentMsgSpeed 値が無効でした。

プログラマー応答

MQNPMS_NORMAL または MQNPMS_FAST を指定してください。

4076 (OFEC) (RC4076): MQRCCF_NPM_SPEED_WRONG_TYPE

説明

非持続メッセージの速度パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

NonPersistentMsgSpeed パラメーターは、送信側、受信側、サーバー、要求側、クラスター送信側、およびクラスター受信側のチャンネルについてのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4077 (OFED) (RC4077): MQRCCF_HB_INTERVAL_ERROR

説明

ハートビート間隔が無効です。

HeartbeatInterval 値が無効でした。

プログラマー応答

0 から 999 999 の範囲の値を指定します。

4078 (OFEE) (RC4078): MQRCCF_HB_INTERVAL_WRONG_TYPE

説明

ハートビート間隔パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

HeartbeatInterval パラメーターは、受信側および要求側のチャンネルに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4079 (OFEF) (RC4079): MQRCCF_CHAD_ERROR

説明

チャンネル自動定義エラー。

ChannelAutoDef 値が無効でした。

プログラマー応答

MQCHAD_ENABLED または MQCHAD_DISABLED を指定してください。

4080 (OFF0) (RC4080): MQRCCF_CHAD_WRONG_TYPE

説明

チャンネル自動定義パラメーターはこのチャンネル・タイプには許可されていません。

ChannelAutoDef パラメーターは、受信側チャンネルおよびサーバー接続チャンネルに対してのみ使用できません。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4081 (OFF1) (RC4081): MQRCCF_CHAD_EVENT_ERROR

説明

チャンネル自動定義イベント・エラー。

ChannelAutoDefEvent 値が無効でした。

プログラマー応答

MQEVF_ENABLED または MQEVF_DISABLED を指定してください。

4082 (OFF2) (RC4082): MQRCCF_CHAD_EVENT_WRONG_TYPE

説明

チャンネル自動定義イベント・パラメーターはこのチャンネル・タイプには許可されていません。

ChannelAutoDefEvent パラメーターは、受信側チャンネルおよびサーバー接続チャンネルに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4083 (OFF3) (RC4083): MQRCCF_CHAD_EXIT_ERROR

説明

チャンネル自動定義出口名エラー。

ChannelAutoDefExit 値に、当該プラットフォーム上のプログラム名に使用できない文字が含まれています。

プログラマー応答

有効な名前を指定してください。

4084 (OFF4) (RC4084): MQRCCF_CHAD_EXIT_WRONG_TYPE

説明

チャンネル自動定義出口パラメーターはこのチャンネル・タイプには許可されていません。

ChannelAutoDefExit パラメーターは、受信側チャンネルおよびサーバー接続チャンネルに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4085 (OFF5) (RC4085): MQRCCF_SUPPRESSED_BY_EXIT

説明

出口プログラムによりアクションが抑止されました。

チャンネルの自動定義が試行されましたが、これはチャンネル自動定義出口により禁止されています。

AuxErrorDataInt1 パラメーターには、チャンネル定義が禁止された理由を示す、出口からのフィードバック・コードが含まれます。

プログラマー応答

AuxErrorDataInt1 パラメーターの値を調べて、該当するアクションを実行してください。

4086 (OFF6) (RC4086): MQRCCF_BATCH_INT_ERROR

説明

バッチ間隔が無効です。

指定されたバッチ間隔が無効です。

プログラマー応答

有効なバッチ間隔値を指定してください。

4087 (OFF7) (RC4087): MQRCCF_BATCH_INT_WRONG_TYPE

説明

バッチ間隔パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

BatchInterval パラメーターは、送信側およびサーバーのチャンネルについてのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4088 (OFF8) (RC4088): MQRCCF_NET_PRIORITY_ERROR

説明

ネットワーク優先順位の値が無効です。

プログラマー応答

有効な値を指定してください。

4089 (OFF9) (RC4089): MQRCCF_NET_PRIORITY_WRONG_TYPE

説明

このチャンネル・タイプに対して、ネットワーク優先順位パラメーターは使用できません。

NetworkPriority パラメーターは、送信側チャンネルとサーバー・チャンネルでのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4090 (OFFA) (RC4090): MQRCCF_CHANNEL_CLOSED

説明

チャンネルがクローズしています。

チャンネルがすでにクローズしています。これは、チャンネルの稼働中にユーザーがチャンネルを停止したか、チャンネル出口がチャンネルをクローズしたことで発生する可能性があります。

プログラマー応答

チャンネルがすでにクローズしている原因を判別してください。必要に応じて、チャンネルを再始動してください。

4092 (OFFC) (RC4092): MQRCCF_SSL_CIPHER_SPEC_ERROR

説明

TLS 暗号仕様が無効です。

指定された *SSLCipherSpec* が無効です。

プログラマー応答

有効な暗号仕様を指定してください。

4093 (OFFD) (RC4093): MQRCCF_SSL_PEER_NAME_ERROR

説明

TLS ピア名が無効です。

指定された *SSLPeerName* が無効です。

プログラマー応答

有効なピア名を指定してください。

4094 (OFFE) (RC4094): MQRCCF_SSL_CLIENT_AUTH_ERROR

説明

TLS クライアント認証が無効です。

指定された *SSLClientAuth* が無効です。

プログラマー応答

有効なクライアント認証を指定してください。

4095 (OFFF) (RC4095): MQRC CF_RETAINED_NOT_SUPPORTED

説明

保存メッセージが制限付きストリームで使用されました。

JMS の使用に制限定義されたパブリッシュ/サブスクライブ・ストリームで、保存メッセージの使用が試行されました。JMS は保存メッセージの概念をサポートしていないため、要求は拒否されました。

プログラマー応答

アプリケーションが保存メッセージを使用しないように変更するか、ブローカー `JmsStreamPrefix` 構成パラメーターを変更して、このストリームが JMS ストリームとして処理されないようにしてください。

Linux

V 9.4.0

AIX

トークン認証エラー・コード

コードと説明を使用して、認証トークンの使用時に発生する可能性があるエラーを理解し、修正します。

これらの表は、メッセージ `AMQ5783E`、`AMQ5784E`、および `AMQ5786E` に表示されるエラー・コードを 10 進数形式で示しています。

エラー・コード (10 進数)	説明	応答
101	必要なクレームまたはヘッダー・パラメーターが認証トークンから欠落しています。欠落しているクレームまたはヘッダー・パラメーターの名前がメッセージの説明に含まれています。	認証トークンに必要なすべてのヘッダー・パラメーターとクレームが含まれていることを確認してください。IBM MQ に提供される認証トークンの要件について詳しくは、 認証トークンの処理 を参照してください。
102	認証トークン内のクレーム・パラメーターまたはヘッダー・パラメーターのデータ・タイプが正しくありません。例えば、ストリングが、整数として指定する必要があるクレームの値として指定されました。誤ったデータ・タイプを持つクレームまたはヘッダー・パラメーターの名前が、メッセージの説明に含まれています。	指定されたヘッダー・パラメーターまたはクレームの値が、IBM MQ に必要なデータ・タイプであることを確認してください。IBM MQ に提供される認証トークンの要件について詳しくは、 認証トークンの処理 を参照してください。
103	認証トークンのタイプ・ヘッダー・パラメーターの値が正しくありません。トークンの "typ" (タイプ) ヘッダー・パラメーターの値は "JWT" でなければなりません。	タイプ・ヘッダー・パラメーターに正しい値を指定して認証トークンを取得してください。
104	認証トークンの形式が JSON Web Signature (JWS) 標準に準拠していません。	トークン発行者から、JSON Web Signature (JWS) 標準に準拠する認証トークンを取得します。つまり、デジタル署名またはメッセージ認証コード (MAC) で保護されている JSON Web トークン (JWT) です。
105	認証トークンのヘッダーまたはペイロードが有効な JSON ではありません。	トークン発行者から正しい形式の JWT を入手してください。

表 25. 認証トークンのフォーマット・エラーまたは検証エラーのエラー・コード (続き)

エラー・コード (10 進数)	説明	応答
106	認証トークンの署名の検証が失敗しました。	キュー・マネージャーのトークン認証鍵リポジトリに、認証トークン発行者の公開鍵証明書、または認証トークンの署名に使用される対称鍵のいずれかが含まれていることを確認してください。qm.ini ファイルの AuthToken スタンザ内の CertLabel 属性は、証明書または対称鍵のラベルを参照する必要があります。 REFRESH SECURITY TYPE (CONNAUTH) MQSC コマンドを発行して、キュー・マネージャーのトークン認証構成に対する変更を有効にします。
107	キュー・マネージャーは、認証トークン内のユーザー ID をアプリケーションのコンテキストとして採用するように構成されます。qm.ini ファイルの AuthToken スタンザ内の UserClaim 属性は、採用されるユーザー ID を含むクレームの名前を指定します。しかし、このクレームは、アプリケーションによって提供される認証トークンには存在しません。	qm.ini ファイルの AuthToken スタンザに指定されている UserClaim 属性の名前を持つクレームを含む認証トークンを取得します。クレームの値は、アプリケーションのコンテキストとして採用されるユーザー ID に設定する必要があります。
108	キュー・マネージャーは、認証トークン内のユーザー ID をアプリケーションのコンテキストとして採用するように構成されます。qm.ini ファイルの AuthToken スタンザ内の UserClaim 属性は、採用されるユーザー ID を含むクレームの名前を指定します。ただし、認証トークン内のこのクレームの値は、認証トークン内のユーザー ID の要件を満たしていません。	トークン・ユーザー・クレームの値が、認証トークン内のユーザー ID の制限を満たしていることを確認してください。詳しくは、 認証トークン内のユーザー ID を参照してください。
109	トークンの署名に使用されたアルゴリズムはサポートされていません。トークンに署名するために使用されるアルゴリズムを指定する、トークンの「alg」ヘッダー・パラメーターの値が、メッセージの説明に含まれています。	IBM MQ がサポートするアルゴリズムで署名されたトークン発行者からトークンを取得します。サポートされる署名アルゴリズムについて詳しくは、 認証トークンの処理 を参照してください。
110	キュー・マネージャーに提示された認証トークンを検証するための適切なシークレットが見つかりませんでした。トークンで検出された鍵 ID クレームの名前と値がエラー・メッセージに含まれています。	クライアントに返されたエラーが MQRC_SECURITY_ERROR の場合は、キュー・マネージャーと認証サーバーの間の接続を確認してください。クライアントに返されたエラーが MQRC_NOT_AUTHORIZED の場合は、この鍵が認証サーバーで構成されており、トークン・ベースの認証を構成するために提供されている JKWS 文書に含まれていることを確認してください。

表 25. 認証トークンのフォーマット・エラーまたは検証エラーのエラー・コード (続き)

エラー・コード (10進数)	説明	応答
111	着信 JWT トークンに設定されている発行者に対応する発行者情報が見つかりません。	この発行者名の JWKS スタンザが、このキュー・マネージャーの qm.ini ファイルで構成されていることを確認してください。JWKS が使用されていない場合は、この発行者の署名を検証できるローカル鍵ストアに証明書が構成されていること、およびこの鍵ストアにアクセスするように qm.ini の AuthInfo スタンザが構成されていることを確認してください。

表 26. トークン認証構成エラーのエラー・コード

エラー・コード (10進数)	説明	応答
201	<p>キュー・マネージャーがトークン認証用に構成されていないか、キュー・マネージャーのトークン認証構成にエラーがあります。このエラーは、以下のいずれかの問題が原因で発生した可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • qm.ini ファイルに AuthToken スタンザが指定されていません。 • qm.ini ファイルで AuthToken スタンザが複数回指定されています。 • AuthToken スタンザに必須属性が指定されていません。 • AuthToken スタンザの属性に無効な値が指定されています。 	<p>qm.ini ファイルの AuthToken スタンザに、有効なトークン認証構成を指定します。AuthToken スタンザについて詳しくは、qm.ini ファイルの AuthToken スタンザを参照してください。 REFRESH SECURITY TYPE (CONNAUTH) MQSC コマンドを発行して、キュー・マネージャーのトークン認証構成に対する変更を有効にします。</p>
202	<p>接続認証構成にトークン認証との互換性がありません。例えば、キュー・マネージャーが LDAP 認証用に構成されているとします。</p>	<p>キュー・マネージャー接続認証構成がトークン認証と互換性があることを確認してください。キュー・マネージャーの CONNAUTH 属性によって参照される AUTHINFO オブジェクトのタイプは IDPWOS でなければなりません。REFRESH SECURITY TYPE (CONNAUTH) MQSC コマンドを発行して、キュー・マネージャーの接続認証構成に対する変更を有効にします。</p>

表 26. トークン認証構成エラーのエラー・コード (続き)

エラー・コード (10進数)	説明	応答
203	qm.ini ファイルの AuthToken スタンザの KeyStore 属性で指定されている鍵リポジトリにアクセスしているときにエラーが発生しました。	<p>AuthToken スタンザの KeyStore 属性が有効な CMS または PKCS#12 キー・リポジトリ・ファイルへのパスを指定していること、および mqm ユーザーがそのファイルに対する読み取り権限を持っていることを確認してください。鍵リポジトリ・ファイルのアクセス権の設定について詳しくは、AIX および Linux システムでの鍵データベース・ファイルへのアクセスと保護を参照してください。</p> <p>キュー・マネージャーは、以下のいずれかの場所にある鍵リポジトリ・パスワードにアクセスできなければなりません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • runqmcred コマンドを使用して暗号化されたパスワードを含むファイル。暗号化されたパスワードを含むファイルへのパスは、qm.ini ファイルの AuthToken スタンザの KeyStorePwdFile 属性を使用して指定する必要があります。 • キー・リポジトリと同時に作成される stash ファイルです。stash ファイルを使用する場合は、その stash ファイルがキー・リポジトリと同じディレクトリにあり、キー・リポジトリと同じ名前を持ち、ファイル拡張子が .sth である必要があります。 <p>AuthToken スタンザで KeyStorePwdFile 属性を指定する場合は、有効な暗号化パスワードを含むファイルへのパスを指定する必要があります。この属性が指定されている場合、stash ファイルは使用されません。</p>
204	qm.ini ファイルの AuthToken スタンザに CertLabel 属性で指定されている証明書を、鍵リポジトリからロードできません。	qm.ini ファイルの AuthToken スタンザ内の各 CertLabel 属性が、 KeyStore 属性を使用して指定されている鍵リポジトリ内の証明書または対称鍵の正しいラベルを参照していることを確認します。トークン認証の構成に使用される AuthToken スタンザについては、 qm.ini ファイルの AuthToken スタンザ を参照してください。

表 26. トークン認証構成エラーのエラー・コード (続き)

エラー・コード (10進数)	説明	応答
205	qm.ini ファイルの Service スタンザの SecurityPolicy 属性を使用して指定されているキュー・マネージャーのセキュリティー・ポリシー構成は、トークン認証と互換性がありません。キュー・マネージャーがトークン認証用に構成されている場合、セキュリティー・ポリシーは自動的に UserExternal に設定されます。ただし、qm.ini ファイルの Service スタンザの SecurityPolicy 属性が明示的に group に設定されている場合は、セキュリティー・ポリシーを変更できません。	qm.ini ファイルの Service スタンザから SecurityPolicy 属性を削除します。 SecurityPolicy 属性について詳しくは、 SecurityPolicy を参照してください。
206	キュー・マネージャーの接続認証構成は、接続されたアプリケーションのコンテキストとして認証済みユーザーのコンテキストを採用するように設定されています。ただし、認証トークン内のユーザー ID を含むクレームを指定する UserClaim 属性は、qm.ini ファイルの AuthToken スタンザには指定されません。	認証トークン内のクレームに指定されているユーザーを、接続されているアプリケーションのコンテキストとして採用するには、採用するユーザー ID が含まれているクレームの名前を、qm.ini ファイルの AuthToken スタンザ内の UserClaim 属性に指定します。 UserClaim 属性について詳しくは、 UserClaim を参照してください。 接続アプリケーションによって提供される資格情報で指定されたユーザーをアプリケーションのコンテキストとして採用しない場合は、キュー・マネージャーの CONNAUTH 属性によって参照される AUTHINFO オブジェクトを変更して、 ADOPTCTX(NO) を指定します。 REFRESH SECURITY TYPE (CONNAUTH) MQSC コマンドを発行して、キュー・マネージャーのトークン認証および接続認証の構成に対する変更を有効にします。
207	qm.ini ファイルの AuthToken スタンザの CertLabel 属性に、証明書ラベルの最大数を超える数が指定されています。 CertLabel 属性を使用して、最大 32 個の証明書ラベルを指定できます。	qm.ini ファイルの AuthToken スタンザの CertLabel 属性を使用して、トークン認証に使用する証明書ラベルを最大 32 個指定します。 REFRESH SECURITY TYPE (CONNAUTH) MQSC コマンドを発行して、キュー・マネージャーのトークン認証構成に対する変更を有効にします。
208	qm.ini ファイルの AuthToken スタンザの KeyStorePwdFile 属性で指定されている、暗号化された鍵リポジトリ・パスワードを含むファイルを読み取ることができないか、ファイルの内容が無効です。	qm.ini ファイルの AuthToken スタンザの KeyStorePwdFile 属性で指定された鍵リポジトリ・パスワード・ファイルが存在することを確認してください。mqm ユーザーはファイルの読み取り権限を持っている必要があります。また、ファイルには、 runqmcrcd コマンドによって暗号化されたパスワード出力である単一行のテキストが含まれている必要があります。

表 26. トークン認証構成エラーのエラー・コード (続き)

エラー・コード (10進数)	説明	応答
209	qm.ini ファイルの AuthToken スタンザの KeyStore 属性で指定された鍵リポジトリの stash にアクセスしているときに、エラーが発生しました。	KeyStore 属性で指定された鍵リポジトリの stash ファイルが存在することを確認してください。これは、キー・リポジトリと同じディレクトリにあり、キー・リポジトリと同じ名前を持ち、ファイル拡張子 .sth を持っている必要があります。

表 27. 予期しないトークン認証エラーのエラー・コード

エラー・コード (10進数)	説明	応答
301	認証トークンの処理中に予期しないエラーが発生しました。	キュー・マネージャーのエラー・ログで先行するエラー・メッセージを確認してください。問題に関する詳細が含まれている FDC ファイルを確認してください。問題を解決できない場合は、 IBM サポートに連絡してください。

表 28. JWKS エラーのエラー・コード

エラー・コード (10進数)	説明	応答
401	JWKS エンドポイントから返されたデータが有効な JSON を構成していません。	JWKS エンドポイント・パスが正しいこと、および返されたデータが JWKS 鍵データを含む有効な JSON 文書であることを確認してください。
402	リモート・ファイル/URL が見つかりませんでした (HTTP 404 応答)	JWKS エンドポイント URL が指すリモート・ファイルが存在すること、およびエンドポイント URL が有効であることを確認してください。
403	SSL/TLS ハンドシェイク中にピアの証明書検証が失敗しました。	キュー・マネージャーのエラー・ログで AMQ5788 エラー・メッセージを確認します。このエラー・メッセージには、証明書検証の失敗の理由が含まれています。エラーを訂正してください。
404	ホスト検証に失敗しました-証明書は指定されたホストに属していません。	認証サーバーによって提示された証明書に、エンドポイント URL で構成されているホスト名が正しく含まれていることを確認してください。

表 28. JWKS エラーのエラー・コード (続き)

エラー・コード (10 進数)	説明	応答
405	リモート・ホストとの一般通信エラー。	リモート・ホストとの通信が可能であることを確認してください。キュー・マネージャーのエラー・ログで先行するエラー・メッセージを確認してください。問題に関する詳細が含まれている FDC ファイルを確認してください。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。
406	セキュア通信ライブラリーの初期化に失敗しました。	以前のエラーを確認し、必要に応じて IBM サポートに連絡して支援を受けてください。
407	取得された JWKS ペイロードに 1 つ以上の必須属性がありません。必須属性は、 use 、 alg 、 kid 、 n 、および e です。	JWKS ペイロードに、リストされている 1 つ以上の必須属性が含まれていることを確認してください。
408	32 を超える証明書が JWKS ペイロードで返されました。最初の 32 個の証明書の後の追加の証明書は無視されます。	JWKS ペイロードに 32 個を超える証明書が含まれていないことを確認してください。
409	JWKS ペイロードで証明書が返されませんでした。	JWKS ペイロードに、クライアントによって提供された JWT トークンを検証するために必要な証明書が含まれていることを確認してください。
410	JWKS エンドポイント SSL 証明書の失効状況が不明です。	証明書に指定されている失効エンドポイントをホストしているシステムが、キュー・マネージャーからアクセス可能であることを確認してください。

表 29. HTTPS エラーのエラー・コード

エラー・コード (10 進数)	説明	応答
501	HTTPS 鍵ストア・ファイルにアクセスできません。	HTTPS 鍵ストア・ファイルが、デフォルト・ロケーション QMdata/SSL/mqdefcfer.p12、または qm.ini ファイルの SSL スタンザで HTTPSKeyStore によって指定されている別のロケーションに存在することを確認します。このファイルの許可が、mqm ユーザー ID への読み取りアクセスを許可していることを確認します。

表 29. HTTPS エラーのエラー・コード (続き)

エラー・コード (10 進数)	説明	応答
502	HTTPS Stash ファイルにアクセスできません。	qm.ini ファイルの SSL スタンザの HTTPSKeyStore で指定されている場合は、HTTPS 鍵ストア stash ファイルがデフォルト・ロケーション [QM data dir]/SSL/mqdefcer.sth または同等の場所に存在することを確認してください。このファイルの許可が、mqm ユーザー ID への読み取りアクセスを許可していることを確認します。

関連概念

[認証トークンの処理](#)

[認証トークンの問題のトラブルシューティング](#)

関連タスク

[アプリケーションでの認証トークンの使用](#)

AuthTokens を受け入れるためのキュー・マネージャーの構成

関連資料

[qm.ini ファイルの AuthToken スタンザ](#)

Transport Layer Security (TLS) の戻りコード

IBM MQ では、さまざまな通信プロトコルと一緒に TLS を使用できます。このトピックを使用して、TLS によって返される可能性があるエラー・コードを特定します。

この付録の表では、TLS からの戻りコードを 10 進数形式で記載しています。これらの戻りコードは、分散キューイング・コンポーネントからのメッセージで返される場合があります。

表 30. TLS 戻りコード

戻りコード (10 進数)	説明
1	ハンドルが無効です。
3	内部エラーが発生しました。
4	使用可能な記憶域が不十分です。
5	ハンドルの状態が不正です。
6	鍵ラベルが見つかりません。
7	使用可能な証明書がありません。
8	証明書の検証エラー。
9	暗号処理エラー。
10	ASN 処理エラー。
11	LDAP 処理エラー。
12	予期しないエラーが発生しました。
102	鍵データベースまたは SAF 鍵リングの読み取り中にエラーが検出されました。

表 30. TLS 戻りコード (続き)

戻りコード (10 進数)	説明
103	不正な鍵データベース・レコード・フォーマットです。
106	不正な鍵データベース・パスワードです。
109	認証局証明書がありません。
201	鍵データベース・パスワードが指定されていません。
202	鍵データベースのオープン中にエラーが検出されました。
203	一時鍵ペアを生成できません。
204	鍵データベース・パスワードの有効期限が切れています。
302	接続がアクティブです。
401	証明書の有効期限が切れているか、まだ有効ではありません。
402	TLS 暗号仕様がありません。
403	パートナーから証明書を受け取っていません。
404	証明書が正しくありません。
405	証明書フォーマットがサポートされていません。
406	データの読み取り中または書き込み中にエラーが発生しました。
407	鍵ラベルが存在しません。
408	鍵データベース・パスワードが正しくありません。
410	TLS メッセージ・フォーマットが正しくありません。
411	メッセージ認証コードが正しくありません。
412	TLS プロトコルまたは証明書タイプがサポートされていません。
413	証明書の署名が正しくありません。
414	証明書が無効です。
415	TLS プロトコル違反。
416	許可が否認されました。
417	自己署名証明書を検証できません。
420	ソケットがリモート・パートナーによりクローズされています。
421	SSL 2.0 暗号が無効です。
422	SSL 3.0 暗号が無効です。
427	LDAP を使用できません。
428	鍵項目に秘密鍵が含まれていません。
429	SSL 2.0 ヘッダーが無効です。
431	証明書が取り消されています。
432	セッションの再折衝は許可されていません。
433	鍵が許容エクスポート・サイズを超えています。
434	証明書の鍵が暗号スイートと非互換です。

表 30. TLS 戻りコード (続き)	
戻りコード (10 進数)	説明
435	認証局が不明です。
436	証明書失効リストを処理できません。
437	接続がクローズされました。
438	リモート・パートナーにより内部エラーが報告されました。
439	不明なアラートをリモート・パートナーから受信しました。
501	バッファー・サイズが無効です。
502	ソケット要求がブロックされます。
503	ソケット読み取り要求がブロックされます。
504	ソケット書き込み要求がブロックされます。
505	レコード・オーバーフロー。
601	プロトコルが TLS 1 ではありません。
602	関数 ID が無効です。
701	属性 ID が無効です。
702	属性の長さが負ですが、これは無効です。
703	指定された列挙タイプの列挙値が無効です。
704	SID キャッシュ・ルーチンを置き換えるためのパラメーター・リストが無効です。
705	値は無効な数値です。
706	追加の証明書妥当性検査のために競合するパラメーターが設定されています。
707	AES 暗号アルゴリズムはサポートされていません。
708	PEERID の長さが正しくありません。
1501	GSK_SC_OK
1502	GSK_SC_CANCEL
1601	トレースが正常に開始されました。
1602	トレースが正常に停止しました。
1603	前にトレース・ファイルは開始されていないので、トレース・ファイルを停止することはできません。
1604	トレース・ファイルは開始済みであるので、再び開始することはできません。
1605	トレース・ファイルをオープンできません。gsk_start_trace() の最初のパラメーターは有効な絶対パス・ファイル名でなければなりません。

場合によっては、セキュア・ソケット・ライブラリーが AMQ9633 エラー・メッセージで証明書妥当性検査エラーを報告することがあります。表 2 に、分散キューイング・コンポーネントからのメッセージで返される場合がある証明書妥当性検査エラーをリストします。

表 31. 証明書妥当性検査エラー.

分散キューイング・コンポーネントからのメッセージで返される場合がある証明書妥当性検査エラーの戻りコードおよび説明をリストした表。

戻りコード (10 進数)	説明
575001	内部エラー
575002	誤った形式の証明書が原因の ASN エラー
575003	暗号エラー
575004	鍵データベース・エラー
575005	ディレクトリー・エラー
575006	実装ライブラリーが無効です
575008	適切なバリデーターがありません
575009	ルート CA は信頼されていません
575010	証明書チェーンがビルドされていません
575011	デジタル署名アルゴリズムが一致しません
575012	デジタル署名が一致しません
575013	この X.509 バージョンでは キー ID を使用することができません
575014	この X.509 バージョンでは拡張を使用できません
575015	不明な X.509 証明書バージョン
575016	証明書の有効期間の範囲が無効です
575017	証明書がまだ有効ではありません
575018	証明書の有効期限が切れています
575019	証明書に不明なクリティカルな拡張が含まれています
575020	証明書に重複する拡張が含まれています
575021	発行者のディレクトリー名が発行者の発行者と一致していません
575022	「権限キー ID」 シリアル番号値が発行者のシリアル番号と一致しません
575023	「権限キー ID」と「所有者キー ID」が一致しません
575024	発行者代替名が認識されません
575025	証明書の「基本制約」により CA としての使用が禁止されています
575026	証明書は、「基本制約」パス長さが非ゼロですが、CA ではありません。
575027	証明書の「基本制約」の最大パス長さを超えています
575028	証明書で他の証明書に署名することは許可されていません
575029	証明書が CA によって署名されていません
575030	所有者代替名が認識されません
575031	証明書チェーンが無効です
575032	証明書は取り消されます
575033	CRL 配布ポイントが認識されません

表 31. 証明書妥当性検査エラー.

分散キューイング・コンポーネントからのメッセージで返される場合がある証明書妥当性検査エラーの戻りコードおよび説明をリストした表。

(続き)

戻りコード (10 進数)	説明
575034	名前チェーニングが失敗しました
575035	証明書はチェーンに入っていません
575036	CRL がまだ有効ではありません
575037	CRL の有効期限が切れました
575038	この証明書のバージョンではクリティカルな拡張を使用できません
575039	不明な CRL 配布ポイント
575040	CRL 配布ポイントの CRL がありません
575041	間接 CRL はサポートされていません
575042	発行側の CRL 配布ポイント名が欠落しています
575043	配布点が一致しません
575044	使用可能な CRL データ・ソースがありません
575045	CA 所有者名がヌルです
575046	識別名がチェーニングしていません
575047	「所有者代替名」が欠落しています
575048	固有 ID が一致しません
575049	名前が許可されていません
575050	名前が除外されました
575051	CA 証明書には「クリティカル基本制約」が欠落しています
575052	名前制約がクリティカルではありません
575053	名前制約最小サブツリー値 (設定されている場合) が、ゼロではありません
575054	名前制約最大サブツリー値 (設定されている場合) が、許可されていません
575055	サポートされない名前制約
575056	ポリシー制約が空です
575057	証明書ポリシーが正しくありません
575058	証明書ポリシーは受け入れ不能です
575059	受け入れ可能な証明書ポリシーが正しくありません
575060	証明書ポリシー・マッピングがクリティカルです
575061	失効状況を判別できませんでした
575062	拡張キー使用エラー
575063	OCSP バージョンが不明です
575064	OCSP 応答が不明です

表 31. 証明書妥当性検査エラー.

分散キューイング・コンポーネントからのメッセージで返される場合がある証明書妥当性検査エラーの戻りコードおよび説明をリストした表。

(続き)

戻りコード (10 進数)	説明
575065	OCSP キー使用拡張が正しくありません
575066	OCSP nonce が正しくありません
575067	OCSP nonce が欠落しています
575068	使用可能な OCSP クライアントがありません
575069	重要でないポリシー
575070	OCSP は古い、良いです
575071	OCSP 古いが取り消されました
575072	正しくない曲線
575073	正しくない鍵サイズ
575074	正しくない署名アルゴリズム

戻りコード 575074 で出されるエラー・メッセージについて考えられる説明は、クライアントが選択した唯一の CipherSpec で、楕円曲線シグニチャーを使用したサーバー証明書の使用を要求するが、サーバー証明書が RSA シグニチャーを使用していることです。逆に、サーバーには楕円曲線の証明書があるが、唯一の CipherSpec が RSA であることが考えられます。

関連概念

264 ページの『[IBM MQ for z/OS messages, completion, and reason codes](#)』

Use this topic to interpret and understand the messages and codes issued by IBM MQ for z/OS.

関連資料

235 ページの『[AMQ メッセージ \(Multiplatforms\)](#)』

このセクションには、AMQ シリーズの診断メッセージが番号順にリストされています。これらのメッセージは、発信元の IBM MQ の部分に従ってグループ化されています。

1123 ページの『[API 完了コードと理由コード](#)』

呼び出しが行われるたびに、その呼び出しが成功したか失敗したかを示すための完了コードと理由コードが、キュー・マネージャーまたは出口ルーチンによって戻されます。

1335 ページの『[PCF 理由コード](#)』

PCF フォーマットのコマンド・メッセージ中で使用したパラメーターによっては、そのメッセージへの応答としてブローカーから理由コードが返される場合があります。

1419 ページの『[WCF カスタム・チャネル例外](#)』

このトピックでは、診断メッセージが、発信元の Microsoft Windows Communication Foundation (WCF) カスタム・チャネルの部分に従ってグループ化された番号順にリストされています。

WCF カスタム・チャネル例外

このトピックでは、診断メッセージが、発信元の Microsoft Windows Communication Foundation (WCF) カスタム・チャネルの部分に従ってグループ化された番号順にリストされています。

メッセージの読み取り

各メッセージごとに、次の情報が示されています。

- 次の 2 つの部分から成るメッセージ識別子

1. IBM MQ の Microsoft Windows Communication Foundation (WCF) カスタム・チャンネルからのメッセージであることを示す文字「WCFCH」
 2. 4 桁の 10 進数コード。このコードの後に、文字「E」が続きます。
- メッセージのテキスト
 - メッセージに関する詳細情報を示すための説明
 - ユーザーによる必要な対応。場合によっては、これは「なし」の場合があります (特に、情報メッセージの場合)。

メッセージ変数

一部のメッセージでは、メッセージの原因となった状況に応じて変化するテキストまたは数値が表示されます。それらの状況をメッセージ変数と呼ばれます。メッセージ変数は、{0} または {1} のように示されます。

メッセージによっては、説明または対応の項に変数が含まれていることもあります。メッセージ変数の値を見つけるには、エラー・ログを調べてください。エラー・ログには、完全な形のメッセージと、説明および対応が含まれています。

以下のメッセージ・タイプについて説明します。

[1420 ページの『WCFCH0001E-0100E: 一般/状態メッセージ』](#)

[1422 ページの『WCFCH0101E-0200E: URI プロパティ・メッセージ』](#)

[1423 ページの『WCFCH0201E-0300E: ファクトリー/リスナー・メッセージ』](#)

[1424 ページの『WCFCH0301E-0400E: チャンネル・メッセージ』](#)

[1426 ページの『WCFCH0401E-0500E: バインディング・メッセージ』](#)

[1427 ページの『WCFCH0501E-0600E: バインディング・プロパティ・メッセージ』](#)

[1427 ページの『WCFCH0601E-0700E: 非同期操作メッセージ』](#)

関連概念

[264 ページの『IBM MQ for z/OS messages, completion, and reason codes』](#)

Use this topic to interpret and understand the messages and codes issued by IBM MQ for z/OS.

関連資料

[235 ページの『AMQ メッセージ \(Multiplatforms\)』](#)

このセクションには、AMQ シリーズの診断メッセージが番号順にリストされています。これらのメッセージは、発信元の IBM MQ の部分に従ってグループ化されています。

[1123 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)

呼び出しが行われるたびに、その呼び出しが成功したか失敗したかを示すための完了コードと理由コードが、キュー・マネージャーまたは出口ルーチンによって戻されます。

[1335 ページの『PCF 理由コード』](#)

PCF フォーマットのコマンド・メッセージ中で使用したパラメーターによっては、そのメッセージへの応答としてブローカーから理由コードが返される場合があります。

[1414 ページの『Transport Layer Security \(TLS\) の戻りコード』](#)

IBM MQ では、さまざまな通信プロトコルと一緒に TLS を使用できます。このトピックを使用して、TLS によって返される可能性があるエラー・コードを特定します。

[1419 ページの『WCF カスタム・チャンネル例外』](#)

このトピックでは、診断メッセージが、発信元の Microsoft Windows Communication Foundation (WCF) カスタム・チャンネルの部分に従ってグループ化された番号順にリストされています。

WCFCH0001E-0100E: 一般/状態メッセージ

以下の情報は、WCFCH0001E-0100E 一般/状態メッセージについて理解するために使用します。

WCFCH0001E

オブジェクトの状態が '{0}' であるため、そのオブジェクトを開けません。

説明

内部エラーが発生しました。

応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。 [IBM MQ サポート Web ページ](#)、または [IBM Support Assistant Web ページ](#) のいずれかを使用して解決策が既に利用可能かどうかを確認してください。一致するものが見つからない場合、IBM サポート・センターに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

WCFCH0002E

オブジェクトの状態が '{0}' であるため、そのオブジェクトを閉じることができません。

説明

内部エラーが発生しました。

応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。 [IBM MQ サポート Web ページ](#)、または [IBM Support Assistant Web ページ](#) のいずれかを使用して解決策が既に利用可能かどうかを確認してください。一致するものが見つからない場合、IBM サポート・センターに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

WCFCH0003E

オブジェクトの状態が '{0}' であるため、そのオブジェクトを使用できません。

説明

内部エラーが発生しました。

応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。 [IBM MQ サポート Web ページ](#)、または [IBM Support Assistant Web ページ](#) のいずれかを使用して解決策が既に利用可能かどうかを確認してください。一致するものが見つからない場合、IBM サポート・センターに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

WCFCH0004E

指定された 'Timeout' 値 '{0}' は範囲外です。

説明

値が範囲外です。この値は、'TimeSpan.Zero' 以上でなければなりません。

応答

範囲内の値を指定するか、'TimeSpan.MaxValue' 値を指定してタイムアウトを使用不可にしてください。

WCFCH0005E

エンドポイント・アドレス '{1}' の操作が、指定された時間の '{0}' 内に完了しませんでした。

説明

タイムアウトが発生しました。

応答

タイムアウトの原因を調査してください。

WCFCH0006E

パラメーター '{0}' は予期されたタイプ '{1}' のパラメーターではありません。

説明

予期しないタイプのパラメーターがメソッド呼び出しに渡されました。

応答

例外スタック・トレースを参照し、詳細情報を確認してください。

WCFCH0007E

パラメーター '{0}' をヌルにすることはできません。

説明

必須パラメーターがヌル値に設定されたメソッドが呼び出されました。

応答

このパラメーターの値を指定するようにアプリケーションを変更してください。

WCFCH0008E

エンドポイント・アドレス '{0}' の操作を処理中にエラーが発生しました。

説明

操作を完了できませんでした。

応答

詳細については、リンクされている例外およびスタック・トレースを調べてください。

WCFCH0101E-0200E: URI プロパティ・メッセージ

以下の情報は、WCFCH0101E-0200E URI プロパティ・メッセージについて理解するために使用します。

WCFCH0101E

エンドポイント URI は、有効な文字ストリング '{0}' で開始する必要があります。

説明

エンドポイント URI が間違っています。有効な文字ストリングで開始する必要があります。

応答

有効な文字ストリングで始まるエンドポイント URI を指定してください。

WCFCH0102E

エンドポイント URI には、値が指定された '{0}' パラメーターが含まれている必要があります。

説明

エンドポイント URI が間違っています。パラメーターとその値が欠落しています。

応答

値を持つエンドポイント URI をこのパラメーターに指定してください。

WCFCH0103E

エンドポイント URI には、値 '{1}' が指定された '{0}' パラメーターが含まれている必要があります。

説明

エンドポイント URI が間違っています。パラメーターには正しい値が含まれていなければなりません。

応答

正しいパラメーターと値を持つエンドポイント URI を指定してください。

WCFCH0104E

エンドポイント URI に、無効な値 '{1}' が指定された '{0}' パラメーターが含まれています。

説明

エンドポイント URI が間違っています。有効なパラメーター値を指定する必要があります。

応答

正しい値を持つエンドポイント URI をこのパラメーターに指定してください。

WCFCH0105E

エンドポイント URI に、無効なキューまたはキュー・マネージャー名が指定された '{0}' パラメーターが含まれています。

説明

エンドポイント URI が間違っています。有効なキューおよびキュー・マネージャー名を指定する必要があります。

応答

キューおよびキュー・マネージャーの有効な値を持つエンドポイント URI を指定してください。

WCFCH0106E

'{0}' プロパティは必須プロパティであり、エンドポイント URI の最初のプロパティとして表示される必要があります。

説明

エンドポイント URI が間違っています。パラメーターが欠落しているか、間違った位置にあります。

応答

このプロパティを最初のパラメーターとして含むエンドポイント URI を指定してください。

WCFCH0107E

バイディング・プロパティが '{0}' に設定されている場合、プロパティ '{1}' を使用できません。

説明

エンドポイント URI の connectionFactory パラメーターが間違っています。無効な組み合わせのプロパティが使用されています。

応答

有効な組み合わせのプロパティまたはバイディングを含むエンドポイント URI connectionFactory を指定してください。

WCFCH0109E

プロパティ '{0}' が指定されている場合、プロパティ '{1}' も指定する必要があります。

説明

エンドポイント URI の connectionFactory パラメーターが間違っています。無効な組み合わせのプロパティが含まれています。

応答

有効な組み合わせのプロパティを含むエンドポイント URI connectionFactory を指定してください。

WCFCH0110E

プロパティ '{0}' に、無効な値 '{1}' が指定されています。

説明

エンドポイント URI の connectionFactory パラメーターが間違っています。プロパティに有効な値が含まれていません。

応答

有効なプロパティ値を含むエンドポイント URI connectionFactory を指定してください。

WCFCH0111E

バイディング・モード・プロパティでは値 '{0}' はサポートされていません。XA 操作はサポートされていません。

説明

エンドポイント URI の connectionFactory パラメーターが間違っています。このバイディング・モードはサポートされていません。

応答

バイディング・モードの有効な値を含むエンドポイント URI connectionFactory を指定してください。

WCFCH0112E

エンドポイント URI '{0}' のフォーマットが間違っています。

説明

エンドポイント URI は、文書で説明されているフォーマットに従う必要があります。

応答

エンドポイント URI を検討して、それに有効な値が含まれていることを確認してください。

WCFCH0201E-0300E: ファクトリー/リスナー・メッセージ

以下の情報は、WCFCH0201E-0300E ファクトリー/リスナー・メッセージについて理解するために使用します。

WCFCH0201E

チャンネル形状 '{0}' はサポートされていません。

説明

ユーザー・アプリケーションまたは WCF サービス・コントラクトが、サポートされていないチャンネル形状を要求しました。

応答

チャンネルによってサポートされているチャンネル形状を特定して、使用してください。

WCFCH0202E

'{0}' MessageEncodingBindingElements が指定されました。

説明

アプリケーションによって使用されている WCF バインディング構成には、複数のメッセージ・エンコーダーが含まれています。

応答

バインディング構成には MessageEncodingBindingElement を 1 つだけ指定してください。

WCFCH0203E

サービス・リスナーのエンドポイント URI アドレスは、指定されたとおり正確に使用する必要があります。

説明

エンドポイント URI アドレスのバインディング情報では、'listenUriMode' パラメーターには値 'Explicit' を指定する必要があります。

応答

パラメーター値を 'Explicit' に変更してください。

WCFCH0204E

TLS は管理対象クライアント接続 [エンドポイント URI: '{0}'] ではサポートされていません。

説明

エンドポイント URI は、非管理対象クライアント接続のためにのみサポートされている TLS 接続タイプを指定しています。

応答

チャンネルのバインディング・プロパティーを、非管理クライアント接続モードを指定するように変更してください。

関連概念

[WCF カスタム・チャンネルの形状](#)

WCFCH0301E-0400E: チャンネル・メッセージ

以下の情報は、WCFCH0301E-0400E チャンネル・メッセージについて理解するために使用します。

WCFCH0301E

URI スキーム '{0}' はサポートされていません。

説明

要求されたエンドポイントには、チャンネルでサポートされていない URI スキームが含まれています。

応答

チャンネルに有効なスキームを指定してください。

WCFCH0302E

受信されたメッセージ '{0}' は、JMS バイト・メッセージまたは JMS テキスト・メッセージではありませんでした。

説明

メッセージが受信されましたが、正しいタイプではありません。これは、JMS バイト・メッセージか JMS テキスト・メッセージのいずれかである必要があります。

応答

メッセージの発信元と内容を確認して、メッセージが正しくない原因を判別してください。

WCFCH0303E

'ReplyTo' 宛先が欠落しています。

説明

元の要求に 'ReplyTo' 宛先が含まれていないため、応答を送信できません。

応答

宛先値が欠落している原因を調査してください。

WCFCH0304E

キュー・マネージャー '{0}' への接続の試行がエンドポイント '{1}' で失敗しました

説明

指定されたアドレスでキュー・マネージャーに接続できませんでした。

応答

詳しくは、リンクされている例外を調べてください。

WCFCH0305E

デフォルトのキュー・マネージャーへの接続の試行がエンドポイント '{0}' で失敗しました

説明

指定されたアドレスでキュー・マネージャーに接続できませんでした。

応答

詳しくは、リンクされている例外を調べてください。

WCFCH0306E

エンドポイント '{0}' からデータを受信しようとしたときにエラーが発生しました。

説明

操作を完了できませんでした。

応答

詳しくは、リンクされている例外を調べてください。

WCFCH0307E

エンドポイント '{0}' にデータを送信しようとしたときにエラーが発生しました

説明

操作を完了できませんでした。

応答

詳しくは、リンクされている例外を調べてください。

WCFCH0308E

エンドポイント '{0}' のチャンネルを閉じようとしたときにエラーが発生しました

説明

操作を完了できませんでした。

応答

詳しくは、リンクされている例外を調べてください。

WCFCH0309E

エンドポイント '{0}' のチャンネルを開こうとしたときにエラーが発生しました

説明

操作を完了できませんでした。

応答

エンドポイントがダウンしたか、使用不可であるか、到達不能である可能性があります詳細については、リンクされている例外を検討してください。

WCFCH0310E

タイムアウト '{0}' が、エンドポイント '{0}' からデータを受信しようとしたときに超過しました

説明

許容時間内に操作が完了しませんでした。

応答

システムの状況および構成を確認して、必要に応じてタイムアウトの値を増やしてください。

WCFCH0311E

タイムアウト '{0}' が、エンドポイント '{0}' にデータを送信しようとしたときに超過しました

説明

許容時間内に操作が完了しませんでした。

応答

システムの状況および構成を確認して、必要に応じてタイムアウトの値を増やしてください。

WCFCH0312E

タイムアウト '{0}' が、エンドポイント '{0}' のチャンネルを閉じようとしたときに超過しました

説明

許容時間内に操作が完了しませんでした。

応答

システムの状況および構成を確認して、必要に応じてタイムアウトの値を増やしてください。

WCFCH0313E

タイムアウト '{0}' が、エンドポイント '{0}' のチャンネルを開こうとしたときに超過しました

説明

許容時間内に操作が完了しませんでした。

応答

エンドポイントがダウンしたか、使用不可であるか、到達不能である可能性があります。システム状況と構成を検討して、必要であればタイムアウトを増やしてください。

WCFCH0401E-0500E: バインディング・メッセージ

以下の情報は、WCFCH0401E-0500E バインディング・メッセージについて理解するために使用します。

WCFCH0401E

コンテキストなし

説明

内部エラーが発生しました。

応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。IBM Support Portal for IBM MQ (https://www.ibm.com/support/entry/portal/Overview/Software/WebSphere/WebSphere_MQ (英語) を参照)、または IBM Support Assistant (https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) のいずれかを使用して、解決策が既に示されているかどうかを確認してください。一致するものが見つからない場合、IBM サポート・センターに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

WCFCH0402E

チャンネル・タイプ '{0}' はサポートされていません。

説明

ユーザー・アプリケーションまたは WCF サービス・コントラクトが、サポートされていないチャンネル形状を要求しました。

応答

チャンネルによってサポートされているチャンネル形状を特定して、使用してください。

WCFCH0403E

エクスポートがありません。

説明

内部エラーが発生しました。

応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。IBM Support Portal for IBM MQ (https://www.ibm.com/support/entry/portal/Overview/Software/WebSphere/WebSphere_MQ (英語) を参照)、または IBM Support Assistant (https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) のいずれかを使用して、解決策が既に示されているかどうかを確認してください。一致するものが見つからない場合、IBM サポート・センターに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

WCFCH0404E

WS-Addressing バージョン '{0}' はサポートされていません。

説明

指定されたアドレッシング・バージョンはサポートされていません。

応答

サポートされているアドレッシング・バージョンを指定してください。

WCFCH0405E

インポーターがありません。

説明

内部エラーが発生しました。

応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。IBM Support Portal for IBM MQ (https://www.ibm.com/support/entry/portal/Overview/Software/WebSphere/WebSphere_MQ (英語) を参照)、または IBM Support Assistant (https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) のいずれかを使用して、解決策が既に示されているかどうかを確認してください。一致するものが見つからない場合、IBM サポート・センターに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

WCFCH0406E

エンドポイント 'Binding' 値が欠落しています。

説明

内部エラーが発生しました。

応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。IBM Support Portal for IBM MQ (https://www.ibm.com/support/entry/portal/Overview/Software/WebSphere/WebSphere_MQ (英語) を参照)、または IBM Support Assistant (https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) のいずれかを使用して、解決策が既に示されているかどうかを確認してください。一致するものが見つからない場合、IBM サポート・センターに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

関連概念

[WCF カスタム・チャンネルの形状](#)

WCFCH0501E-0600E: バインディング・プロパティ・メッセージ

以下の情報は、WCFCH0501E-0600E バインディング・プロパティ・メッセージについて理解するために使用します。

WCFCH0501E

バインディング・プロパティ '{0}' に無効な値 '{1}' が指定されています。

説明

バインディング・プロパティに無効な値が指定されています。

応答

プロパティに有効な値を指定してください。

WCFCH0601E-0700E: 非同期操作メッセージ

以下の情報は、WCFCH0601E-0700E 非同期操作メッセージについて理解するために使用します。

WCFCH0601E

非同期結果パラメーター '{0}' のオブジェクトは、この呼び出しでは無効です。

説明

無効な非同期結果オブジェクトが指定されました。

応答

パラメーターに有効な値を指定してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

IBM 本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権(特許出願中のものを含む)を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒 103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号
日本アイ・ビー・エム株式会社
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
U.S.A.

For license inquiries regarding double-byte (DBCS) information, contact the IBM Intellectual Property Department in your country or send inquiries, in writing, to:

Intellectual Property Licensing
Legal and Intellectual Property Law
〒 103-8510
19-21, Nihonbashi-Hakozakicho, Chuo-ku
Tokyo 103-8510, Japan

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 INTERNATIONAL BUSINESS MACHINES CORPORATION は、法律上の瑕疵担保責任、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。"" 国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム(本プログラムを含む)との間での情報交換、および(ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号
日本アイ・ビー・エム株式会社
Software Interoperability Coordinator, Department 49XA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っていません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

プログラミング・インターフェース情報 (提供されている場合) は、このプログラムで使用するアプリケーション・ソフトウェアの作成を支援することを目的としています。

本書には、プログラムを作成するユーザーが IBM MQ のサービスを使用できるようにするためのプログラミング・インターフェースに関する情報が記載されています。

ただし、この情報には、診断、修正、および調整情報が含まれている場合があります。診断、修正、調整情報は、お客様のアプリケーション・ソフトウェアのデバッグ支援のために提供されています。

重要: この診断、修正、およびチューニング情報は、変更される可能性があるため、プログラミング・インターフェースとして使用しないでください。

商標

IBM、IBM ロゴ、ibm.com® は、世界の多くの国で登録された IBM Corporation の商標です。現時点での IBM の商標リストについては、"Copyright and trademark information" www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標です。

この製品には、Eclipse Project (<https://www.eclipse.org/>) により開発されたソフトウェアが含まれています。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。



部品番号:

(1P) P/N: